

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td><td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td><td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>フリーズする脳</td><td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>「科学」の定義①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>「科学」の定義②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代の若者のマナー①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>現代の若者のマナー②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>親孝行な男の子</td><td>読解、内容理解、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言語と文化①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>言語と文化②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ローソクの進化①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ローソクの進化②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>「割り勘」は当然?①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>「割り勘」は当然?②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間違った箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A○, A 科: C○, M 科: B2○, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1○, DP7△, DP8△, D 科: DP1○, S 科: DP1○, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1○, DP8○, W 科: DP1○, DP7○, N 科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>統計と数字①</td><td>読解、内容理解、内容をまとめ (話す)</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>統計と数字②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>背理法①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>背理法②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>「待つ」こと①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>「待つ」こと②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ついでに何をする?①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ついでに何をする?②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ウイルス発見!①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ウイルス発見!②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>大学で学ぶこと①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>大学で学ぶこと②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>何のために「学ぶ」のか</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間違った箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 日本語の文体</td><td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>レポート・論文の文体</td><td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>記号の使い方</td><td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>段落①</td><td>段落構成について学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>段落②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>6</td><td>経過説明①</td><td>経過説明の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>経過説明②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>8</td><td>分類</td><td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>定義</td><td>定義の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>分類・定義</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>11</td><td>引用</td><td>引用の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>要約①</td><td>要約の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>要約②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>14</td><td>資料の利用</td><td>資料の利用方法を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅡ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科:Ⅲ○,Ⅳ○,R 科:A○,A 科:C○,M 科:B2○,E 科:F○,C 科:Ⅲ○,Ⅵ○,L 科:DP1○,DP7△,DP8△,D 科:DP1○,S 科:DP1○,P 科:DP2△,DP4△,J 科:DP1○,DP8○,W 科:DP1○,DP7○,N 科:DP1○,DP8△N:DP1○,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。																																																																		
科目学習の効果（資格）	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 前期の復習</td><td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td><td>前期で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>レポートの言葉と表現</td><td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>レポートの構成</td><td>レポートの構成を学ぶ</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>テーマ決め・資料収集</td><td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td><td>資料を集める</td></tr> <tr> <td>5</td><td>資料を整理する</td><td>集めた資料を整理する</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>アウトライン</td><td>レポートのアウトラインを作成する</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>序論①</td><td>序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>序論②</td><td>序論を書く</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>本論①</td><td>本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>本論②</td><td>本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>本論③</td><td>本論を書く</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>結論①</td><td>結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>結論②</td><td>結論を書く</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>まとめ①</td><td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td><td>授業内で使ったプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ②</td><td>作成したレポートを元に発表を行う</td><td>発表のF Bを元に復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使ったプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使ったプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使ったプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使ったプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使ったプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使ったプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使ったプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使ったプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使ったプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（60%）																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。
----	---

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 涙</td><td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>統計と数字①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>統計と数字②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>背理法①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>背理法②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>「待つ」こと①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>「待つ」こと②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ついでに何をする?①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ついでに何をする?②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ウイルス発見!①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ウイルス発見!②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>大学で学ぶこと①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>大学で学ぶこと②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>何のために「学ぶ」のか</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III o, IV o, R 科 : A o, A 科 : C o, M 科 : B2 o, E 科 : B o, C 科 : III o, VI o, L 科 : DP1 Δ, DP2 o, D 科 : DP1 o, S 科 : DP1 o, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 o, DP7 o, W 科 : DP1 o, DP7 o, N 科 : DP1 o, DP8 ΔN : DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
	2	映画 1 : テーマ「大学生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	3	映画 1 : テーマ「大学生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	4	映画 1 : テーマ「大学生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
	8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
	13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
	14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
	15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
------	--

(基準)	
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	11 号館 11 階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III o, IV o, R 科 : A o, A 科 : C o, M 科 : B2 o, E 科 : B o, C 科 : III o, VI o, L 科 : DP1 Δ, DP2 o, D 科 : DP1 o, S 科 : DP1 o, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 o, DP7 o, W 科 : DP1 o, DP7 o, N 科 : DP1 o, DP8 ΔN : DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
	2	映画 1 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	3	映画 1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	4	映画 1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	5	映画 2 : テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	6	映画 2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	7	映画 2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
	8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	9	映画 3 : テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	10	映画 3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	11	映画 3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
	13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
	14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
	15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP7 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 * オンライン授業に変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮して判断する。		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ
	13	発表準備 1	発表資料の作成
	14	発表準備 2	発表資料の修正
	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り
事前・事後学習課題	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する 授業で使用した語彙を復習し、覚える 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する 授業で使用した語彙を復習し、覚える 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する 授業で使用した語彙を復習し、覚える 発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する 発表テーマを決めておく 発表資料の作成 (残り) 発表練習 (文体に気を付ける) 質疑応答の仕方について復習する		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
出版社名			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になった場合は、毎回の課題提出により評価する。		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。 以下、ZOOM の ID です。 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500 SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com		

	H. 323 で参加 162. 255. 37. 11 (米国西部) 162. 255. 36. 11 (米国東部) 115. 114. 131. 7 (インドのムンバイ) 115. 114. 115. 7 (インド)
--	---

科目名	日本語総合 F II	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP7 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 * 再度オンライン授業になった場合は ZOOM で授業する。 Zoom ミーティングに参加する https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td><td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 1-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 2-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 2-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 3-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 3-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 4-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 4-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 5-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 5-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表資料の作り方</td><td>発表資料の作り方について学ぶ</td><td>発表テーマを決めておく</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 1</td><td>発表資料の作成</td><td>発表資料の作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 2</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習 (文体に気を付ける)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>質疑応答の仕方について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になった場合、毎回の課題提出により評価する。 Zoom ミーティング https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500 SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com																																																																		
学生への	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		

メッセージ	これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の 研究室等	非常勤講師講師室（7号館2階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用</td><td>様々なコミュニケーションの形式の復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Eメールの書き方 1</td><td>Eメールの基本</td><td>Eメールで使われる形式、表現等の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Eメールの書き方 2</td><td>レポート提出のメール</td><td>レポート提出に必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Eメールの書き方 3</td><td>依頼メール 1</td><td>依頼メールに必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Eメールの書き方 4</td><td>依頼メール 2</td><td>依頼メールの書き方の復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Eメールの書き方 5</td><td>問い合わせ／質問メール</td><td>問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>話し方 1</td><td>話題の変え方</td><td>話題を変える時に必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>話し方 2</td><td>話の終わらせ方</td><td>話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>話し方 3</td><td>話の広げ方</td><td>話の広げ方で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>自己 PR 1</td><td>自己 PR とは何か</td><td>自己 PR で必要な項目を復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>自己 PR 2</td><td>自己 PR 例の検討、修正 1</td><td>自己 PR で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>自己 PR 3</td><td>自己 PR 例の検討、修正 2</td><td>自己 PR で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>自己 PR 4</td><td>自分の自己 PR を書く 1</td><td>自己 PR で必要な形式、書き方の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>自己 PR 5</td><td>自分の自己 PR を書く 2</td><td>自己 PR の書き方の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>今学期で学んだことを振り返る。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習	2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習	3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習	4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習	5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習	6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習	7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習	8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習	9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習	10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習	11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習	12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習	13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習	14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習																																																																
2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習																																																																
3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習																																																																
4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習																																																																
6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習																																																																
8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習																																																																
11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習																																																																
14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習																																																																
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。																																																																
関連科目	専門日本語 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み、確認問題等 (70%)、課題等の提出物 (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	授業で確認した語彙、表現の復習
	2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
	3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
	4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
	5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
	6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
	7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
	8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおける Eメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
	9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
	10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
	11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
	12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
	13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
	14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (40%)、課題の提出物 (30%)、活動 (30%) 等授業時の参加度により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
-----------	------------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。
----	---

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	茶園 直人
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	日本語でディスカッションを行うことができるようになることを目指します。 具体的には、自分の意見を明確に表明できるようになること、相手の意見を受信し、検討できるようになることを目的とします。 また、議論を通して、問題発見解決能力の向上を目指し、最終的にはアカデミックな議論や就職活動など様々な場面に対応できるようになることを目標とします。 授業の概要は以下の通りです。 ・まとまった発話を聞いて、そこから話者の抱える問題を発見する。 ・発見した問題についての議論を行い、解決策を提示する。 ・自分		
到達目標	まとまった話を聞いて、概要、問題点を把握することができる。 問題に対する解決策（自分の意見）を明確かつ論理的に説明できる。 自分の意見を発信するだけでなく、他者の意見を受信、検討することができる。		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、話者が抱える問題とその解決策についてディスカッションを行う。 学生はディスカッションへの積極的参加が求められる。また、毎回の授業にはディスカッションの振り返りシートを作成してもらう。 教員は適宜フィードバックを行う。		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介
	2	トピック 1	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	3	トピック 2	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	4	トピック 3	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	5	トピック 4	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	6	トピック 5	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	7	トピック 6	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	8	トピック 7	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	9	トピック 8	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	10	トピック 9	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	11	トピック 10	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。
	12	発表準備 1	スクリプトの作成
	13	口頭発表・ディスカッション	スクリプトの修正 発表資料の作成
	14	口頭発表・ディスカッション	発表資料の修正
	15	授業の振り返り	振り返り 授業内で扱ったテーマで印象深かったことをテーマにディスカッションを行
			事前・事後学習課題
			自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)
			授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
			授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
			授業で話した内容の問題点、解決策をシートに整理し、提出する。
			発表テーマを決めておく。 スクリプトの作成 (残り)
			発表者: ディスカッションを通して、自分の抱えている問題をどのように解決するかを再考し、シートにとめて提出する。
			発表者: ディスカッションを通して、自分の抱えている問題をどのように解決するかを再考し、シートにとめて提出する。
			自分の発表の反省

			う。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	試験は発表形式とし、適宜フィードバックを行なう。 授業時間外の相談はメールにて行うが、必要に応じて別途指示する。			

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意しておくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td><td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 1-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 2-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 2-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 3-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 3-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 4-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 4-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 5-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 5-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表資料の作り方</td><td>発表資料の作り方について学ぶ</td><td>発表テーマを決めておく</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 1</td><td>発表資料の作成</td><td>発表資料の作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 2</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習 (文体に気を付ける)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>質疑応答の仕方について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。																																																																		

科目名	日本語読解R	科目名 (英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td><td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td><td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>フリーズする脳</td><td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>「科学」の定義①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>「科学」の定義②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代の若者のマナー①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>現代の若者のマナー②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>親孝行な男の子</td><td>読解、内容理解、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言語と文化①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>言語と文化②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ローソクの進化①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ローソクの進化②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>「割り勘」は当然?①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>「割り勘」は当然?②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間違った箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本語表現作文R	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。 ・授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 日本語の文体</td><td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>レポート・論文の文体</td><td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>記号の使い方</td><td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>段落①</td><td>段落構成について学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>段落②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>6</td><td>経過説明①</td><td>経過説明の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>経過説明②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>8</td><td>分類</td><td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>定義</td><td>定義の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>分類・定義</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>11</td><td>引用</td><td>引用の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>要約①</td><td>要約の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>要約②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>14</td><td>資料の利用</td><td>資料の利用方法を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅡ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 涙</td><td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>統計と数字①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>統計と数字②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>背理法①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>背理法②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>「待つ」こと①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>「待つ」こと②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ついでに何をする？①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ついでに何をする？②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ウイルス発見！①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ウイルス発見！②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>大学で学ぶこと①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>大学で学ぶこと②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>何のために「学ぶ」のか</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何をする？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何をする？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III o, IV o, R 科 : A o, A 科 : C o, M 科 : B2 o, E 科 : B o, C 科 : III o, VI o, L 科 : DP1Δ, DP2 o, D 科 : DP1 o, S 科 : DP1 o, P 科 : DP2Δ, DP4Δ, J 科 : DP1 o, W 科 : DP1 o, N 科 : DP1 o, DP8ΔN : DP1 o, DP8Δ		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
	2	映画 1 : テーマ「大学生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	3	映画 1 : テーマ「大学生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	4	映画 1 : テーマ「大学生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
	8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
	13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
	14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
	15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
------	--

(基準)	
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	11 号館 11 階 (門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III o, IV o, R 科 : A o, A 科 : C o, M 科 : B2 o, E 科 : B o, C 科 : III o, VI o, L 科 : DP1Δ, DP2 o, D 科 : DP1 o, S 科 : DP1 o, P 科 : DP2Δ, DP4Δ, J 科 : DP1 o, W 科 : DP1 o, N 科 : DP1 o, DP8ΔN : DP1 o, DP8Δ		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
	2	映画 1 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	3	映画 1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	4	映画 1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	5	映画 2 : テーマ「教育」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	6	映画 2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	7	映画 2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
	8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	9	映画 3 : テーマ「言葉」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
	10	映画 3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
	11	映画 3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
	12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
	13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
	14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
	15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *再度オンライン授業になった場合は ZOOM で授業する。 Zoom ミーティングに参加する https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td><td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 1-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 2-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 2-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 3-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 3-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 4-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 4-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 5-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 5-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表資料の作り方</td><td>発表資料の作り方について学ぶ</td><td>発表テーマを決めておく</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 1</td><td>発表資料の作成</td><td>発表資料の作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 2</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習 (文体に気を付ける)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>質疑応答の仕方について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になった場合、毎回の課題提出により評価する。 Zoom ミーティング https://kyoto-u-edu.zoom.us/j/87890485750?pwd=SWpPdFZ2S3hQeS9EQm15Y0EyVXJhQT09 ミーティング ID: 878 9048 5750 パスコード: 179500 SIP で参加 87890485750@zoomcrc.com																																																																		
学生への	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。																																																																		

メッセージ	これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の 研究室等	非常勤講師講師室（7号館2階）
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語 R	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1◎, DP7△, DP8△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用</td><td>様々なコミュニケーションの形式の復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Eメールの書き方 1</td><td>Eメールの基本</td><td>Eメールで使われる形式、表現等の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Eメールの書き方 2</td><td>レポート提出のメール</td><td>レポート提出に必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Eメールの書き方 3</td><td>依頼メール 1</td><td>依頼メールに必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Eメールの書き方 4</td><td>依頼メール 2</td><td>依頼メールの書き方の復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Eメールの書き方 5</td><td>問い合わせ／質問メール</td><td>問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>話し方 1</td><td>話題の変え方</td><td>話題を変える時に必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>話し方 2</td><td>話の終わらせ方</td><td>話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>話し方 3</td><td>話の広げ方</td><td>話の広げ方で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>自己 PR 1</td><td>自己 PR とは何か</td><td>自己 PR で必要な項目を復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>自己 PR 2</td><td>自己 PR 例の検討、修正 1</td><td>自己 PR で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>自己 PR 3</td><td>自己 PR 例の検討、修正 2</td><td>自己 PR で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>自己 PR 4</td><td>自分の自己 PR を書く 1</td><td>自己 PR で必要な形式、書き方の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>自己 PR 5</td><td>自分の自己 PR を書く 2</td><td>自己 PR の書き方の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>今学期で学んだことを振り返る。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習	2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習	3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習	4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習	5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習	6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習	7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習	8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習	9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習	10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習	11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習	12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習	13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習	14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習																																																																
2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習																																																																
3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習																																																																
4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習																																																																
6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習																																																																
8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習																																																																
11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習																																																																
14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習																																																																
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。																																																																
関連科目	専門日本語 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み、確認問題等 (70%)、課題等の提出物 (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意しておくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td><td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 1-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 2-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 2-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 3-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 3-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 4-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 4-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 5-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 5-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表資料の作り方</td><td>発表資料の作り方について学ぶ</td><td>発表テーマを決めておく</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 1</td><td>発表資料の作成</td><td>発表資料の作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 2</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習 (文体に気を付ける)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>質疑応答の仕方について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。																																																																		

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いな
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
授業方法と留意点	○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。授業の進め方についてはオンライン (Zoom の使用) と課題提出 (Moodle の利用) で行います。オンラインの場合は実際の時間割にある授業時間にリアルタイムオンラインで行います。
科目学習の効果 (資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
	2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	3	教師と子ども	教師－生徒の関係性」という視点から、学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題(体罰等)が発生する背景や要因について考え、これら問題が発生した際の危機管理や学校対応等について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	5	いじめについて	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにし、いじめが発生した際の危機管理や対応等について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	6	不登校について	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて考える。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	9	国の教育政策：海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：それぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
	10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。また、連携をする際、何か不測の事態が起こった場合の危機管理や子どもたちの安全等についても考える。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
	11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行うとともに、学校安全の観点から連携の事例を検討し、よりよい連携のあり方について検討する。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
	12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事前課題：ジェンダー問題を扱った資料(読み物)を読み、その内容についてまとめてくる。
	14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える	事前課題：最終レポート・試験(予定)の準備

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕
	2		
	3		

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	新潮社
評価方法 (基準)	毎時間の課題・ミニレポート 100% (内容、提出状況、剽窃等を確認することで評価する) 課題・ミニレポートは提出期限を厳守すること。期限後の提出は認めない。 なお、オンライン上で毎回出欠も取ります。			
学生への メッセージ	毎時間の事前課題・ミニレポートにしっかりと取り組み、授業を受けてください。詳細については第一回目の授業(オンライン)でお伝えします。 Moodleのアナウンスメント機能や第一回目の部分を確認の上、参加してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室) ※メールで連絡してください。アドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp です。			
備考	事前・事後学習総時間はおおよそ2時間程度とする。特に事前学習にテキスト(教科書)を使用するので指定している教科書を購入しておくこと。			

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第 1 部を読んでくる。
	2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第 2 部を読んでくる。
	3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 1 部を読んでくる。
	4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 1 部を読んでくる。
	5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第 1 部を読んでくる。
	6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 3 部を読んでくる。
	7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第 3 部を読んでくる。
	8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第 3 部を読んでくる。
	9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 3 部を読んでくる。
	10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第 3 部を読んでくる。
	11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第 4 部を読んでくる。
	12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 4 部を読んでくる。
	13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第 4 部を読んでくる。
	14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 4 部を読んでくる。
	15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第 4 部を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館 3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。			

科目名	英語科教育法 I	科目名 (英文)	English Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かせるようにする。また、中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括のしかたについて理解する。さらに、中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の指導および領域統合型の言語活動に関する基本的な知識と技能を身に付けるとともに、様々な教材や ICT の活用方法を学び、生徒の特性や習熟度に応じた指導について
到達目標	中学校及び高等学校における英語の学習指導に関する知識と授業指導および学習評価の基礎を身につけた上で、授業観察、授業体験、模擬授業などの学習形態を通して、実際の授業の組み立て方や学習指導案の作成方法を学ぶ。また、言語能力の測定や評価の方法を理解する。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。
科目学習の効果 (資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第二言語習得と英語教育	第二言語習得とは 英語教授法の種類	第7章、第8章
	2	語彙指導	語彙とは 語彙学習活動と評価	第19章
	3	リーディング指導	リーディングとは リーディング活動と評価	第12章
	4	リーディング指導	多読とは 多読活動と評価、	第12章
	5	ライティング指導	ライティングとは ライティング活動と評価	第13章
	6	リスニング指導	リスニングとは リスニング活動と評価	第10章
	7	スピーキング指導	スピーキングとは スピーキング活動と評価	第11章
	8	模擬授業と分析 (1)	単独領域模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
	9	領域統合型指導	領域統合型活動と評価	第10～13章、第19章、第20章
	10	学習者要因	学習者要因とは 種類とその影響	第4章
	11	測定と評価	測定と評価の種類と方法	第15章
	12	ICT を用いた活動	ICT を用いた活動例の紹介、実践	第16章
	13	模擬授業と分析 (2)	領域統合型模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
	14	模擬授業と分析 (3)	領域統合型模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
	15	総括	求められる英語教師像 教師の役割	第5章

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Sunshine English Course 1, 2, 3		開隆堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館書店
	2	英語4技能評価の理論と実践	望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉利恵〔編著〕	大修館書店
	3	英語リーディングの科学ー読めたつものの謎を解く	卯城祐司〔編著〕	研究社

評価方法 (基準)	①小テスト・レポート (50%) ②模擬授業 (学習指導案作成・実技・実技分析) (50%)
-----------	---

学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！
-----------	--

★教材共有、連絡用などに使いますので、Teams への参加をお願いします。	
---------------------------------------	--

担当者の研究室等	前期：(7号館耐震工事のため) 11号館 11階 後期：7号館 5階(松田研究室)
----------	--

備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。
----	---------------------------

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	外国語としての英語を学習する過程をデザインする立場に身をおき、教材や機器を効果的に用いて学習者に合ったさまざまな学習指導案を作成したり、実際に実技を行ったりしながら教授法を学ぶ。自己の実技を録画したものをを用いて改善点を見出し、改訂版の授業を行う。小中高といった校種や教科の壁を越えて連携ができるよう、他者の学習指導案や授業について建設的なディスカッションを行い、多様な授業を創る方法を理解する。なお、学習指導案の個別指導は課外にも行う。
到達目標	・中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」（「聞く」「読む」「話す（やりとり）」「話す（発表）」及び「書く」）の指導および各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付け、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。 ・教材や ICT の活用方法を知るとともに、英語による授業展開や ALT 等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 ・学年ごとのカリキュラムを考え、
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・2021年度は、第8・9回以外にも ICT を履修生自身が扱う練習を行う。模擬授業は「オンライン授業を企画・実施」とする。模擬授業の回には教員役も生徒役もオンラインに接続し、互いに見えぬのか、対面模擬授業との差を体験し、改善点を考える。 ・第7回（10月26日）より対面
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「5つの領域」と領域統合型の言語活動の指導 英語の発音指導	基本母音と子音・機材の利用について	発音記号の復習（読み方・聞き分け・調音の仕組み）
	2	小学校における外国語活動と英語・文字に関する指導	小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（1）
	3	中学校の英語の検定教科書と高校入試	検定教科書と入試問題の分析	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（2）
	4	教材研究と学習指導案の作成（1） 英語の音声的な特徴に関する指導	中学校の検定教科書を用いた音声指導案の作成	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（3）
	5	学習者間のやりとりを増やす学習活動デザイン：英語でのインタラクション	リスニング力の向上の方法に関して学ぶ 中学校で学ぶ語彙・文法を用いた対話例の作成	公立高校の入試問題を解く（1）
	6	模擬授業と分析（1） 音声言語を中心とする学習活動	指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法	公立高校の入試問題を解く（2）
	7	高校の英語の検定教科書と大学入試	ライティングの指導法・方法論に関して 高等学校の検定教科書を分析する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（1）
	8	教材研究と学習指導案作成（2） ICT等の活用	指導案作成	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（2）
	9	ICT活用と教授言語：学習言語のみによる授業展開と、日本語併用の場合の比較	板書と ICT の演習	センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる
	10	模擬授業と分析（2） 教員1人でICT機器を使う場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（1）
	11	生徒の特性や習熟度に応じた指導と評価	指導案の展開バリエーションを増やす	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（2）
	12	教材研究と学習指導案作成（3） ALT等とのチーム・ティーチング	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
	13	演劇を応用した言語活動	易しい英語の脚本を用いたスキット指導を学ぶ ドラマ手法を会話練習に応用する	授業の練習
	14	模擬授業と分析（3）教員2人の場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
	15	これからの英語教育がめざすもの	討論と発表	復習
関連科目	教職科目全般 英語科目全般			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 [ISBN 978-4-469-24621-6]	望月 昭彦 編著	大修館書店
	2	The History of the English Language [ISBN 978-0-19-423397-2]	Brigit Viney	Oxford UP
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、 (1) 模擬授業 (レッスンプラン作成・授業時間中に行う実技・レポート) (2) レポート 上記項目の両方の評価がいずれも 100 点満点中の 60 点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。 ・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3 年次のうちに英検準 1 級の取得をめざしましょう。 ・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。 ・担当者は、大阪府内の小学校での英語活動の授業を数年間、ALT や担任の先生方と共に担当するとともに、寝屋			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 (齋藤研究室)			
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名（英文）	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校や高等学校の英語教員をめざすうえで、押さえておくべき英語科教育の基礎について理論的側面と実践的側面から学ぶ。特に ①リーディングとライティングの指導、 ②文字と文法に関する指導、 ③語彙・表現に関する指導 に焦点をあてて、学習指導要領の「3つの資質・能力」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力等」）を踏まえた目標の設定方法と指導計画の立て方、学習到達目標に基づいた授業の組み立て方と学習指導案の作成方法、観点別学習状況の評価方法や評価規準の設定方法、などを修得し、それら
到達目標	英語科教育に関する基礎的内容を押さえ、リーディングとライティングの指導法、文字と文法の指導法、語彙・表現の指導法を修得する。受講生は授業観察や授業体験を通じて実際の授業の展開を理解し、さらに自分で作成した学習指導案に基づいた模擬授業を行うことによって実践的な力を養う。
授業方法と留意点	・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。 留意点： ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。 ・ブローカーではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足り
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	学習者と英語教員 音声指導（1）＋指導案作成	カリキュラムとシラバス 調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を聞き分ける
	2	学習指導要領と英語教授法 音声指導（2）＋指導案作成	カリキュラムとシラバス 英語の音と日本語の音のちがい	音の出し方を他人に説明する練習をする
	3	第2言語習得と英語教育 音声指導（3）＋模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
	4	リーディング指導：リーディング指導の目標	読むことの指導	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
	5	リーディング指導：指導方法と評価方法	読むことの指導と評価	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
	6	ライティング指導：ライティング指導の目標 文字の指導	書くことの指導	日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる
	7	ライティング指導：指導方法と評価方法	書くことの指導と評価	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
	8	教材研究と指導案作成の基礎	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
	9	指導案作成と模擬授業（1）：リーディング指導	授業づくり 使えるものは何でも使ってみよう：学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
	10	指導案作成と模擬授業（2）：ライティング指導	授業の狙いと機器の価値：実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
	11	文字の指導	文字の指導方法 ディスレクシアの理解と教育現場での対応	復習 調査
	12	文法の指導	文法の指導方法	復習 調査
	13	語彙・表現の指導	語彙・表現の指導方法 自分で企画した授業をクラスで分析する	復習 調査
	14	指導案作成と模擬授業	文字・文法の指導、語彙・表現の指導を含めた授業づくり	復習
	15	英語教育の展望	社会が要請する外国語教育について、報道記事を元に考え、討論する 今学期の自分の変化を語る・今後の目標	これまでの自分の学習を振り返る

			と到達のための手がかりを探す																	
関連科目	・教職科目全般 ・英語科目全般																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 ISBN:9784469246216</td><td>望月 昭彦 編著</td><td>大修館書店</td></tr><tr><td>2</td><td>The History of the English Language [ISBN 978-0-19-423397-2]</td><td>Brigit Viney</td><td>Oxford UP</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 ISBN:9784469246216	望月 昭彦 編著	大修館書店	2	The History of the English Language [ISBN 978-0-19-423397-2]	Brigit Viney	Oxford UP	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 ISBN:9784469246216	望月 昭彦 編著	大修館書店																	
2	The History of the English Language [ISBN 978-0-19-423397-2]	Brigit Viney	Oxford UP																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、 (1) 模擬授業 (LESSンプラン作成・15回の授業時間中に行う実技・レポート) (2) 筆記試験 上記項目の両方の評価がいずれも100点満点の60点以上で合格とする。																			
学生への メッセージ	・この科目を十分理解し、授業立案・実技などを行うためには、辞書をひきながら英語を読み解き、正確に理解し、文法的に正確な例文を書く能力が必要です。 ・今の大学生が高校生だったころよりも、日本の中高の教育が目指す英語教育の目標が引き上げられています。3年次のうちに英検準1級の取得をめざしましょう。 ・英語の文法、語彙、スペル、発音等、中高生にとってお手本になれるよう、基礎から復習をしてください。 ・大好きな科目、大好きな学校 で働きたい、と思うなら、責任を持って教えられる人になるため、貪欲に知識を増やし																			
担当者の 研究室等	7号館4階(齋藤研究室) ただし前期は11号館に一時移動予定																			
備考	・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	英語科教育法Ⅳ	科目名（英文）	English Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	現在の英語教育界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、英語教授法や授業の運営スキル等を身につけることが、この授業の目標である。主に、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導というテーマに焦点をおいて、これらのことを理解し、授業指導に生かすことができるようになることを目指す。
到達目標	本授業は3つのことを行う。第1に、教科書を講読しながら、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導に関する理論を学び、知識を身につける。第2に、これらの知識を基に創意あふれる授業を計画し、その学習指導案が書けるようになる。第3に、模擬授業を行い、自分のパフォーマンスを客観的に見返し、またクラスメートからのコメントを参考にし、自分の教授のスキルの弱点を克服することを学ぶ。学習指導案の個人指導は課外時間に行う。充実した教育実習を行うことができるように万全の準備をする。
授業方法と留意点	・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 英語科教育法の目的	序章
	2	英語教育の基礎理論	英語教育と英語教育学	第1章
	3	英語教育の基礎理論	英語の国際化と日本の英語教育	第2章
	4	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第3章
	5	英語教育の実践編	リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第10章
	6	英語教育の実践編	リスニング：教科書を使った模擬授業	第10章
	7	英語教育の実践編	スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第11章
	8	英語教育の実践編	スピーキング：教科書を使った模擬授業	第11章
	9	英語教育の実践編	ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第13章
	10	英語教育の実践編	ライティングの指導：教科書を使った模擬授業	第13章
	11	英語教育の実践編	文法の指導：教材研究及び学習指導案作成	第18章
	12	英語教育の実践編	文法の指導：教科書を使った模擬授業	第18章
	13	英語教育の実践編	語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成	第19章
	14	英語教育の実践編	語彙・表現：教科書を使った模擬授業	第19章
	15	英語教育の実践編及びまとめ	異文化理解の指導及びまとめ	第2章、第9章

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Sunshine English Course 1, 2, 3		開隆堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語多読・多聴指導マニュアル	高瀬敦子	大修館書店
	2	シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学	門田修平	コスモビア
	3	英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から	白井知彦	大修館書店

評価方法（基準）	①小テスト・レポート（50%） ②模擬授業（学習指導案作成・実技・実技分析）（50%）
学生へのメッセージ	英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目となりますので情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらい入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばす努力をしてください。一緒に頑張りましょう！ ★教材共有、連絡用などに使いますので、Teams への参加をお願いします。
担当者の研究室等	前期：（耐震工事のため）11号館11階（10月中旬まで） 後期：7号館5階（松田研究室）
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	中国語科教育法 I	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語および中国語教授法についての基礎知識を身につけ、その概要がわかるようにする。発音や文法の指導のなかでつまづきやすい問題を重点的に理解を深め、それを伝えるためにはどうすればよいのかを考える。
到達目標	中国語教育の歴史と現状および中国語教育に必要な中国語の概要(音声・文法・表記上の特徴)が理解できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。ただし、文法項目ごとに授業方法に関するプレゼンテーションを課すなど演習形式も取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語教員免許の必須科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	発音 1・「是」・副詞	中国語の発音指導のポイントとその指導法。	事後にこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	2	発音 2・指示代名詞・「口馬」疑問文と反復疑問文	日本人にとって習得が難しい声調。疑問文における英語、日本語、中国語の対比。	事前に 1 時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	3	形容詞述語文とその否定や疑問	英語 be 動詞を例にとった中国語「是」の教え方と注意点。	事前に 1 時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	4	「的」	日本語「の」と中国語「的」を対比させた教え方とその問題点。	事前に 1 時間をかけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	5	前置詞「在」・「是～的」構文・疑問詞疑問文	疑問詞疑問文と「口馬」疑問文の違い、中国語の前置詞フレーズの文中位置を英語の前置詞フレーズと比較しながら教える。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	6	数詞・疑問数詞・文末助詞「口尼」	日本語と中国語の間で数詞を比較する。「几」と「多少」の使い分け。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	7	量詞・「二」と「兩」・動詞「有」と「在」	「二」と「兩」の使い分け。「ある」を表す「有」と「在」の意味と文型の違い。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	8	二種類の「怎麼」・「為什麼」「怎麼」「那麼」	How の「怎麼」と Why の「為什麼」の使い分けと見分ける方法について。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	9	進行文・「ねばならない」助動詞群	助動詞の使い方を英語助動詞と対比させることで理解を促す。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	10	連動文・使役を表す「叫」と「讓」・兼語文	使役文が兼語文からの派生であることを理解し、教授法に取り入れる。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	11	「不」と「没」・二重目的語・様態補語	中国語の授与動詞や二重目的語文型を英語の give 文と対比させながら理解する。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	12	「できる」助動詞群・「したい」助動詞群・了	可能表現にまつわる助動詞文と可能補語文の違いと使い分け。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	13	アスペクト「着」「過」	時制とアスペクトの違いとその中国語での文法形式について。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	14	「了 1」と「了 2」・2 つの「着」「快～了」	「了 1」と「了 2」の使い分け。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。
	15	「把」構文・結果補語・受け身	「把」構文を使う目的とその条件。	事前に 1 時間かけて教科書の該当部分を予習しておく。事後にはこの授業で学んだことを関連項目とともに 1 時間かけて復習する。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高校版 語法ルール 66	相原茂 / 玄宜青	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業参加 60%、レポート 40%
-----------	-------------------

学生への メッセージ	比較的少人数の授業です。一緒に勉強していきましょう。
担当者の 研究室等	7号館3階 中西研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	事前・事後学習の総時間が60時間以上必要です。

科目名	中国語科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「中国語科教育法Ⅰ」で学ぶ中国語教育の実状と指導のあり方をふまえつつ、ここでは授業を「計画」「実践」「反省」という体験を経ることによって、「何を」「どのように」教えるかを理解する。具体的には： 1. 日本語を母語とする中国語学習者にとって何が必要で何が必要でないかを学ぶ。 2. 学習者の状態を常に目と耳を使って観察することを学ぶ。 3. 学習者の状態によっては教える「内容」と「方法」を随時調整せねばならないことを学ぶ。			
到達目標	教える能力としては、教育実習の場面で学習歴、クラスサイズ、教材などさまざまな状況に対応しながら学習者の知的好奇心を刺激できるような授業ができるようになる。 教科内容については、中国語の文法や語彙を系統的に整理する能力を高めて、学習者の状況に合わせた教材やテストを用意できる能力を身につけることができる。			
授業方法と留意点	オンライン形式で授業を行う。教育実習時に不可欠な「学習指導案」作成を中心に据えながら、これに実践と自己分析を盛り込む。オンラインながら、実習に十分な時間を当てる。			
科目学習の効果 (資格)	中国語教員免許状 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	発音とピンイン指導	中国語の発音やピンインの指導では、日本語の発音やローマ字から逸脱する事項に重点を置き、これを学習者に十分理解させる。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	2	学習指導案作成Ⅰ (発音篇)	入門期の学習者がつまづきやすい二音節語の声調パタンの学習を想定し、音声素材を活用した授業を企画する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	3	発音の指導と評価実習	他の受講生を学習者と見立てながら、前回に作成した指導案に沿って授業を実践する。模範の提示、評価、アドバイスは適切だろうか。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	4	講読・作文の指導	文の意味を理解し、文を自在に生成するために文法を理解させねばならない。日本語などとの比較を通して、効果的に「読み」「書き」を教える。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	5	学習指導案作成Ⅱ (講読・作文篇)	動詞「是」の学習を想定する。英語のbe 動詞との比較やパターン練習をうまく構成して一回の授業でこの動詞を理解させる指導案を作ってみる。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	6	講読・作文の指導実習	指導案に沿って授業をしてみる。パターン練習では学習者をうまくオペレートできるだろうか？質問に的確に答えられるだろうか？	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	7	リスニング指導と関連機器	テープ・MD・CD・PC・DVDなどメディアの特性に加えてLLやCALLの概念をよく理解し、これらを授業にうまく利用する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	8	学習指導案作成Ⅲ (リスニング篇)	ディクテーションやサイトトランスレーション・シャドウイングなど「リスニング」に関わる訓練法を取り入れた指導案を作成する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	9	ディクテーションとシャドウイング	LL 教室を使用する。すでに作成してある指導案に沿いながら、音声や映像メディアの送出や学習者のモニタリングを実習する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	10	テストの目的とその方法	テストとは既習事項の達成度を測り、その結果を学習者と教師双方の指針とするものである。テスト問題作成の方法とその結果の扱いを学ぶ。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	11	テストを作ってみる	授業2～3回分の既習事項を確認するためのショートテストをWordで作ってみる。レイアウトにも気を配りながら過不足なく適切な問題を作る。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	12	学習者へのフィードバックと成績管理	(1) 服務の宣誓 (2) 信用失墜行為の禁止 (3) 兼職の禁止 等について	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	13	マルチメディアを利用する (1)	CD や DVD あるいは Web で入手可能な音声・映像素材を教材用に編集する技術を学ぶとともに著作権の概念を理解する。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	14	マルチメディアを利用する (2)	e-ラーニング及びさまざまな Web サービスを利用した授業を考える。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。次の授業までに学習指導案の作成または模擬授業のリハーサルを1時間かけて行う。
	15	マルチメディアを利用する (3)	CALL 教室で模擬授業をする。	この授業で学んだことを1時間かけて復習する。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%			
学生への メッセージ	「教えられる者」の視点に立つ、つまり生徒を観察する余裕が持てること。大切なことなのですがこれがなかなか難しいのです。この問題を授業の中で皆さんとじっくり考えたいと思います。			
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)			
備考	教材としてプリントを配布します。 事前・事後学習の総時間が60時間以上必要です。 授業時間外に質問がある場合は、「連絡手段」の方法で問い合わせること。質問に対してはメールなどの方法で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語科教育法Ⅲ	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語教育の歴史と現状、中国語の学習内容など、中国語および中国語教育の基礎知識を学ぶ。また中国語教科書によって、発音・文法・語彙がどのように教えられているのかを理解する。
到達目標	日本における中国語教育の歴史や現状、学習すべき内容を説明することができる。
授業方法と留意点	受講者は教科書の該当部分をあらかじめしっかりと予習し、授業では教員が補助資料などを示しながら、内容について討論する。
科目学習の効果 (資格)	中国語教員免許の必須科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入：中国語とは？ (教科書 第 1 章)	中国語の基本情況について学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	2	日本の中国語教育① (第 2 章)	日本における中国語教育の歴史を学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	3	日本の中国語教育② (第 3 章)	日本における中国語教育の現状を学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	4	中国の外国人向け中国語教育 (第 4 章)	中国・台湾における外国人向け中国語教育の現状を学習する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	5	漢字と発音表記 (第 5 章)	漢字や発音表記法について学習し、中国語辞典についても検討する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	6	発音の学習① (第 6 章)	発音の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	7	発音の学習②	中国語教科書によって、発音の教授法を検討する。	事前に中国語教科書の該当部分を検討し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	8	文法の学習① (第 7 章)	文法の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	9	文法の学習② (第 7 章)	文法の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	10	文法の学習③	中国語教科書によって、文法の教授法を検討する。	事前に中国語教科書の該当部分を検討し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	11	語彙の学習① (第 8 章)	語彙の学習内容について理解する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	12	語彙の学習②	中国語教科書によって、語彙の教授法を検討する。	事前に中国語教科書の該当部分を検討し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	13	基本技能の習得と評価 (第 9 章)	学習目標と評価について検討する。	事前に教科書の該当部分をしっかりと予習し、事後にこの回の学習内容を復習する。
	14	授業計画と評価	授業計画と評価について検討し、学習指導案を作成する。	事前に中国語教科書をもとに学習指導案を準備し、事後に授業をふまえて指導案を修正する。
	15	まとめ	学習指導案にしたがってプレゼンを実施し、課題や問題点を検討する。	事前にプレゼンを準備し、事後に課題をまとめる。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語の教え方・学び方 中国語科教育法概説	興水優	日本大学文理学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業・課題への取り組み (50%)、レポート (50%) によって総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	事前・事後にあわせて 60 時間程度の学習を要する。 課題に対する評価は提出後に書面または口頭でフィードバックする。
----	---

科目名	中国語科教育法Ⅳ	科目名 (英文)	Chinese Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中国語の教員になるためには、中国語学、中国文学、中国語コミュニケーション、異文化理解の4つの分野を学ばなければならない。この授業は中国語科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学んだことを基礎に、異文化理解を同時に目指す中国語教育に関する論文を読み、解説する。中国語教科教育法の知識の向上と教育法に関する研究能力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	異文化理解を目指す中国語教育のためのポイントを学ぶ。																																																																		
授業方法と留意点	毎回、中国語の論文を訳読する。高度な内容の論文を読むので、必ず予習が必要である。また授業の最後には、授業の成果を踏まえて教案を書き、更にそれに基づく模擬授業もしてもらう。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語教科教育法の知識の向上と中国語の読解力の向上に欠かせない講義である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>中国語教材における文化知識導入の研究</td><td>現状と問題</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>中国語教材における文化知識導入の研究</td><td>文化知識導入の理論と原則</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>中国語教材における文化知識導入の研究</td><td>教材分析 1</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>中国語教材における文化知識導入の研究</td><td>教材分析 2</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>中国語教材における文化知識導入の研究</td><td>教材分析 3</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>中国語教材における文化知識導入の研究</td><td>教材分析 4</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>語彙を中心に①</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>語彙を中心に②</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>文構文を中心に①</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>文構文を中心に②</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>文章構成を中心に</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>話題を中心に①</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析</td><td>話題を中心に②</td><td>教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>まとめ 1</td><td>これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。</td><td>教案を練る。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ 2</td><td>前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめを行う。</td><td>レポートを書く。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	中国語教材における文化知識導入の研究	現状と問題	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	2	中国語教材における文化知識導入の研究	文化知識導入の理論と原則	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	3	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 1	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	4	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 2	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	5	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 3	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	6	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 4	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	7	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	8	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	9	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	10	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	11	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文章構成を中心に	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	12	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	13	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。	14	まとめ 1	これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。	教案を練る。	15	まとめ 2	前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめを行う。	レポートを書く。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	中国語教材における文化知識導入の研究	現状と問題	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
2	中国語教材における文化知識導入の研究	文化知識導入の理論と原則	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
3	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 1	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
4	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 2	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
5	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 3	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
6	中国語教材における文化知識導入の研究	教材分析 4	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
7	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
8	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	語彙を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
9	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
10	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文構文を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
11	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	文章構成を中心に	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
12	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に①	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
13	新聞記事中心の生教材の中の文化知識についての分析	話題を中心に②	教科書の該当部分を予習しておくこと。小レポートを書くこと。																																																																
14	まとめ 1	これまでの学習成果を踏まえ、中国語授業の教案を書き、それを検討する。	教案を練る。																																																																
15	まとめ 2	前回作成した教案をもとに、中国語の模擬授業を行う。その検討と反省を通して、授業全体のまとめを行う。	レポートを書く。																																																																
関連科目	中国語教科教育法Ⅲ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>配布</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	配布																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>配布</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	配布																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小レポート (60%)、レポート (40%)																																																																		
学生へのメッセージ	しっかり勉強すれば必ず力が付きます。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階(兪研究室)																																																																		
備考	事前・事後学習総時間は、毎回 4 時間程度とする。																																																																		

科目名	道德教育の研究	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道德」（以下、道德科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道德教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道德科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道德科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道德教育や道德科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道德科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭 1 種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道德の理論及び指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 道德科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道德教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める 4 つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道德教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P. 8～17 を精読しておく。
	2	日本の道德教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道德教育の歴史を概観する。 ・道德教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道德教育の歴史や信念対立について整理しておく。
	3	よい道德教育とは何か	よい道德教育について、生徒の道德性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P. 12～25 を精読しておく。 （事後）道德の授業や道德教育の方法と生徒の道德性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
	4	道德の授業の多様な指導方法の特徴	道德の授業のねらいに基づく 8 類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 26～35 及びテキスト 2. の P. 26～29 を精読しておく。 （事後）道德の授業のねらいに基づく 8 類型について整理しておく。
	5	道德の授業の発問の構成法	「特別の教科 道德」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 36～48 及びテキスト 2. の P. 30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
	6	道德の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道德」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 49～58 及びテキスト 2. の P. 34～37 を精読しておく。 （事後）道德の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
	7	道德の授業の評価	「特別の教科 道德」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 59～68 及びテキスト 2. の P. 38～41 を精読しておく。 （事後）道德の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
	8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 71～85 及びテキスト 2. の P. 42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
	9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道德的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 86～95 及びテキスト 2. の P. 46～49 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
	10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 96～106 及びテキスト 2. の P. 50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
	11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道德の授業やテーマ発問を取り入れた道德の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 107～130 及びテキスト 2. の P. 54～57 を精読しておく。 （事後）カリキュラム・マネジメントに基づく道德の授業やテーマ発問を取り入れた道德の授業について整理しておく。
	12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道德の授業や探究型学習を取り入れた道德の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 131～152 及びテキスト 2. の P. 58～61 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習を取り入れた道德の授業や探究型学習を取り入れた道德の授業について整理しておく。
	13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第 9 回で選択し教材分析した教材を用いた道德の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P. 62～65 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
	14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P. 66～69 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

				をしておく。																
	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>道徳科 初めての授業づくり</td><td>吉田誠・木原一彰 編著</td><td>大学教育出版</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編</td><td>文部科学省</td><td>教育出版</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版																	
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版																	
3																				
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編</td><td>文部科学省</td><td>廣済堂あかつき</td></tr><tr><td>2</td><td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集</td><td>『道徳教育』編集部</td><td>明治図書出版</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき																	
2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版																	
3																				
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容（30%）や、作成した学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(谷口研究室) ※現在は耐震工事中のため、11 号館 11 階です。																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。																			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 学級担任が担当する場合が多い総合的な学習（探究）の時間の理論と指導法では、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成
到達目標	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 総合的な学習（探究）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重
授業方法と留意点	新型コロナウイルス感染拡大に対応した授業の実施形態として、「講義科目はオンライン授業」と決定されたため、授業は原則として、時間割通りの曜日・時限に、Teams を使用して動画配信型（リアルタイム方式）で行っていたが、授業方針の変更に伴い 10 月 11 日、18 日は準備のためにオンデマンド方式で、10 月 25 日から対面方式で実施する。 第 15 回の授業の後半に、授業時間内テストを行う（定期試験期間中の考査は行わない）。 「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や、自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動および総合的な学習（探究）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習（探究）の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第 1 章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって（ソロワーク）	教科外活動としての位置づけ、特別活動の 3 つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第 2 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習するとともに課題を作成する（2 時間）。
	3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入学して（ソロワーク）	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第 3 章第 1 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する（2 時間）。
	4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出（ソロワーク）	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第 3 章第 1 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	5	生徒会活動・児童会活動、学校行事ワーク④学校行事の思い出（ソロワーク）	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第 3 章第 2・3 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する（2 時間）。
	6	体験活動・体験的な学びの意義ワーク⑤「14 歳の頃・17 歳の頃」（ソロワーク）	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	7	特別活動の歴史ワーク⑥ワークショップ入門（ソロワーク、グループ討議、発表）	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちが	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	8	特別活動と学級経営ワーク⑦メディアリテラシー（グループ討議、交流）	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	9	特別活動と生徒指導ワーク⑧いじめへの対応（1）（グループ討議、交流）	生徒指導との関連、積極的な生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨生徒指導・問題行動への対応（即興劇、グループ討議、交流）	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第 4 章第 1・2・5 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	11	特別活動と総合的な学習（探究）の時間の共通点と相違点ワーク⑩不登校への対応（グループ討議、交流）	特別活動と総合的な学習（探究）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	12	総合的な学習（探究）の時間の目標・内容・原理ワーク⑪進路指導・キャリア教育（即興劇、グループ討議、交流）	総合的な学習（探究）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第 1・2・3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	13	総合的な学習（探究）の時間の学習活動と学習指導ワーク⑫ジェンダーフリー（グループ討議、交流）	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第 2・7 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	14	総合的な学習（探究）の時間の指導計画・評価・校内体制ワーク⑬いじめへの対応（2）（グループ討議、交流）	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価	総合的な学習の時間のテキスト第 5・6・8 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	15	補足とまとめ／授業時間内	補足を行うとともに全学習事項について	特別活動のテキスト第 4 章第 2・3・4 節、総合的な学

		テスト	て 再 度 振 り 返 り 整 理 す る 。 授業時間の後半にテストを行う。	習の時間のテキスト第9章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をすることにも課題を作成する（2時間）。																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>高等学校学習指導要領解説 特別活動編</td><td>文部科学省</td><td>東京書籍</td></tr><tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編</td><td>文部科学省</td><td>学校図書</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍																	
2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書																	
3																				
評価方法 （基準）	授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終回授業内テスト（30%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力することによって尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考	授業外総学習時間は60時間とする。																			

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一・朝日 素明・大野 順子・林 茂樹・吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員 5 名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1 グループは 10 名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く）の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・2 回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。	教育実習ノートの点検と再確認
	2	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	（事前）配布資料の熟読 （事後）小レポートの提出
	3	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	（事前）配布資料の熟読 （事後）小レポートの提出
	4	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方で伝統的な価値観を強制している部分があるのではないか。 そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点をを用い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	（事前）第 1 回目の授業で配布する資料を読み、A 4 サイズの用紙 1～2 枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
	5	学校の中のマイノリティ：外国にルーツをもつ子どもたち	1990 年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	（事前）第一回目の授業で配布する資料を読み、A 4 サイズの用紙 1～2 程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
	6	学校の危機管理①：学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
	7	学校の危機管理②：災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	（事前）災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
	8	教員の体罰はなぜなくなるのか？	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	（事前）配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
	9	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか？	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背景にある問題について考察し、働き方改	（事前））配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。

			革の方途を考える。																	
	10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。 中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
	12	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力のもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる																
	13	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力のもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる																
	14	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する																
	15	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生へのメッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。																			
担当者の研究室等	7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(谷口)																			
備考	事前・事後総学習時間は、60時間程度である。																			

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 1			
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。			
授業方法と留意点	【スケジュール】 授業のスケジュールはおおよそ下記の通りです。 【連絡方法】 授業についての連絡や OPP シートの提出は、Teams を使います。 ※シラバス下部にある Teams コードを使って登録しておいてください。 【授業方法】 Moodle を使ったリアルタイム授業を行います。 ※シラバス下部にある自己登録キーを使って登録しておいてください。 具体的には、 1. 本時の学修内容を確認する 2. 前回の感想・疑問等を交流する 3. 本時の学修内容について自学する 4			
科目学習の効果 (資格)	(1) 高等学校教諭 1 種免許状 (2) 中学校教諭 1 種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
	2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
	3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
	4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
	5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
	6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
	7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
	8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 20～22 及び P. 94～95 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 23～25 及び P. 77 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 26～27 及び 81～82 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 28～29 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	12	現代の教育理論②： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。

	14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習 について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 147～151 を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。																
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の 教育について考える。	(事前) テキスト P. 169～178 を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」につい て自分の考えをまとめる。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>哲学する教育原理</td><td>伊藤潔志 編著</td><td>教育情報出版</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領</td><td>文部科学省</td><td>東洋館出版</td></tr><tr><td>3</td><td>哲学する学校経営</td><td>伊藤潔志 編著</td><td>教育情報出版</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房																	
2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版																	
3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版																	
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパー（OPP シート）の内容（30％）や学期末試験の結果（70％）等をもとに総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でチャットを使用した対話を多く予定しています。受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階（谷口研究室）																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。																			

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
	2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
	3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
	4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
	5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
	6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
	7	文獻・映像に基づく教師像の 探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
	8	文獻・映像に基づく教師像の 探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文獻・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読み レポート提出
	9	文獻・映像に基づく教師像の 探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」 レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読み レポート提出
	10	文獻・映像に基づく教師像の 探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する 配布資料
	11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
	12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の 役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
	13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務 (チーム学校運営への対応を 含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する 配布資料
	14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
	15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%
-----------	---

学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
-----------	--

担当者の	7号館3階 朝日研究室
------	-------------

研究室等	
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10 単位のうち 2 単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	発達と教育と心理学と 1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第 0 章 1, 配付資料による本時の予習と復習
	2	発達と教育と心理学と 2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第 8 章 1, 配付資料による本時の予習と復習
	3	こどもの発達 1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 9 章, 配付資料による本時の予習と復習
	4	こどもの発達 2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 10 章・第 11 章, 配付資料による本時の予習と復習
	5	こどもの発達 3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 10 章・第 11 章・第 12 章, 配付資料による本時の予習と復習
	6	学習を支える認知機能 1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第 7 章 1, 配付資料による本時の予習と復習
	7	学習を支える認知機能 2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第 11 章, 配付資料による本時の予習と復習
	8	学習を支える認知機能 3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第 4 章・第 5 章, 配付資料による本時の予習と復習
	9	こどもの学び 1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第 1 章, 配付資料による本時の予習と復習
	10	こどもの学び 2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第 1 章・第 6 章, 配付資料による本時の予習と復習
	11	学習を支える動機づけ 1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習
	12	学習を支える動機づけ 2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習
	13	学習を支える動機づけ 3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習
	14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第 0 章 2・第 10 章, 配付資料による本時の予習と復習
	15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....A T I, 学習方略	テキスト第 0 章 3・第 6 章・第 7 章 2, 配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト 30%, 期末試験 70%
-----------	--------------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 (吉田研究室)
----------	------------------

備考	Teams コードと科目名 火曜 5 限: e9cb86b 21 前-教職-010-教育心理学 (火 5) -吉田 佐治子 木曜 1 限: ghkw1pp 21 前-教職-018-教育心理学 (木 1) -吉田 佐治子 木曜 5 限: h135mtc 21 前-教職-023-教育心理学 (木 5) -吉田 佐治子 金曜 5 限: lgnr3zw 21 前-00-034-教育心理学 (金 5) -吉田 佐治子 Moodle コース名と登録キー 火曜 5 限: 2021 教育心理学 (火 5) あるいは 21 教心 (火 5) 2021EPTUE5

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。 障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待、性的マイノリティ等による特別な教育ニーズのある児童・生徒が、安心安全のうちに、楽しく学び、達成感を持ちながら学校生活を送り、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。 メディア言説に囚われた「障害」理解が一面的なものであることを可視化させ、「障害」の概念について再構成することと併せて、特別支援教育の理念・制度・方法・教育課程の
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。 ⑤個別的教育支
授業方法と留意点	コロナ感染拡大防止のため、第2回から授業方法の変更を行う。原則として時間割通りの曜日・時限で行われる Teams を使用したオンライン授業（リアルタイム方式）を受講すること。 第15回授業の後半にオンラインを利用したテストを行う。 大学のHPやポータル、Teamsでの連絡を見逃すことのないように留意すること。 授業形態 (1) 新型コロナ感染拡大防止のため、授業はオンライン（動画配信・リアルタイム方式）で行う。ICTツールはTeamsを使用する。状況の変化があれば、対面授業に戻ることもある。
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要	わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。障害とは何か。自立と共生を求める当事者。インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育とは何か	教科書の序章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
	2	新しい障害観と特別支援教育への転換	ICIDH から ICF へ。医学モデルから社会モデルへ。特殊教育から特別支援教育へ。法律の整備と社会システムの整備	教科書の第1・2章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
	3	障害者権利条約と合理的配慮	国連障害者権利条約の批准に向けた国内法の整備。障害者差別解消法に基づく差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務。インクルーシブ教育システムの構築	講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
	4	戦前・戦後の特殊教育の成立と展開	障害のある子どもの学校の誕生。重い障害のある子どもの学校教育からの排除。盲・ろう学校の義務制度化と特殊学級の設置拡大	教科書の第5・6章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
	5	養護学校義務制度化からすべての学校における特別支援教育への転換まで	養護学校（知的・肢体不自由・病弱）の義務制度化。障害種別と程度に応じた教育の場の分離。障害種別と程度に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。発達障害も特別支援教育の対象に。通級制度の創設。	教科書の第7章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
	6	障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題	就学前からの地域支援。共生社会に向けた教育権の保障。孤立・排除・いじめのない人間関係づくり。ともに生きともに学ぶ学級集団づくり。介助員制度の活用。周りの保護者や地域の理解。保護者との連携と家族支援	教科書の第3章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
	7	障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題	就学先の決定は保護者・本人の意向尊重が原則。差別的取り扱い禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮。人権保障としての就労移行支援・就労継続支援、日常生活支援・社会参加支援	講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
	8	通常学級での特別支援教育の実践	個別支援とアセスメント。個別指導の最適化。授業のユニバーサルデザイン化。通級制度の活用。高等学校での特別支援教育	教科書の第4章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
	9	発達障害・知的障害の理解と支援	知的障害の定義と分類、障害の特性と身体・心理的特性、学習上の課題と対応。発達障害の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応。	講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
	10	肢体不自由・病弱、重度重複障害の理解と支援	肢体不自由・病弱の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応。重度重複障害の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応。障害の多様性についての理解	講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
	11	視覚障害・聴覚障害の理解と支援	視覚障害・聴覚障害の定義と分類、身体・心理的特性、学習上の課題と対応	講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する（2時間）。
	12	個別の指導計画と個別の教育支援計画、外国の特別支援	話し合い、方向を決めるツールとしての指導計画、つなぐツールとしての教育支	教科書第8・9章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題

		教育	援計画。個別の指導計画の作成の仕方。個別の指導計画の授業への生かし方。諸外国における SNE (スペシャル・ニーズ・エデュケーション)	を作成・提出する (2 時間)。																
	13	校内支援体制の構築と SC・SSW 等との連携・協働、特別支援教育の今後の課題	教員間の連携。他職種との連携。福祉・医療等関係機関との連携。見えてきた特別支援教育の課題。よりインクルーシブな教育を展望して	教科書の第 11 章、講義資料を事前に読んでおく (2 時間)。授業後、教科書、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2 時間)。																
	14	ニューカマー、社会的養護、LGBT など性的マイノリティの子供の理解と対応	ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBT など性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくりと授業づくり	講義資料を事前に読んでおく (2 時間)。授業後、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2 時間)。																
	15	被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ	非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携、授業全体のまとめ	講義資料を事前に読んでおく (2 時間)。授業後、講義資料を復習し、課題を作成・提出する (2 時間)。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>特別支援教育 多様なニーズへの挑戦</td><td>柘植雅義</td><td>中央公論新社 (中公新書)</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社 (中公新書)	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社 (中公新書)																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>特別支援教育資料 (令和元年度版)</td><td>文部科学省</td><td>Web</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特別支援教育資料 (令和元年度版)	文部科学省	Web	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	特別支援教育資料 (令和元年度版)	文部科学省	Web																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート (30%)、オンライン・テスト (30%) を総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	オンラインでの授業という制約下ではあるが、本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1 人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階林研究室																			
備考	授業外総学習時間を 60 時間とする。																			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程 (カリキュラム) を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	本授業は、授業全体を通して、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を熟読し、さらに、それぞれが取得する免許教科の学習指導要領を入手し、熟読しておいてください。
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。
	2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。
	15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー (OECD) について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成する。

関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程 (第4版)	田中耕治他	有斐閣アルマ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ (Vol. 1～Vol. 12)	(株) ぎょうせい	(株) ぎょうせい
	2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版
	3			

評価方法 (基準)	事前課題・レポートの内容 (40%) と最終試験 (60%) により総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	指定している「教科書」を活用し、毎時間、事前事後学習をしっかりと行ってください。レポート等の提出物に関しては期日までに提出すること。期日以降の提出は原則認めません。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階(大野順子研究室) 連絡先: j-oono@arc.setsunan.ac.jp
----------	--

備考	2009年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
----	---

科目名	道徳教育論	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果（資格）	中学校教諭 1 種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める 4 つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）テキスト 2. の P. 8～17 を精読しておく。
	2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
	3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）テキスト 1. の P. 12～25 を精読しておく。 （事後）道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
	4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく 8 類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 26～35 及びテキスト 2. の P. 26～29 を精読しておく。 （事後）道徳の授業のねらいに基づく 8 類型について整理しておく。
	5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 36～48 及びテキスト 2. の P. 30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
	6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 49～58 及びテキスト 2. の P. 34～37 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
	7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 59～68 及びテキスト 2. の P. 38～41 を精読しておく。 （事後）道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
	8	各授業類型のねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 71～85 及びテキスト 2. の P. 42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
	9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 86～95 及びテキスト 2. の P. 46～49 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
	10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	（事前）テキスト 1. の P. 96～106 及びテキスト 2. の P. 50～53 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
	11	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、 テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 107～130 及びテキスト 2. の P. 54～57 を精読しておく。 （事後）カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
	12	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	（事前）テキスト 1. の P. 131～152 及びテキスト 2. の P. 58～61 を精読しておく。 （事後）問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
	13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第 9 回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	（事前）テキスト 2. の P. 62～65 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
	14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	（事前）テキスト 2. の P. 66～69 を精読しておく。 （事後）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備

				をしておく。																
	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	（事前）グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 （事後）「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>道徳科 初めての授業づくり</td><td>吉田誠・木原一彰 編著</td><td>大学教育出版</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編</td><td>文部科学省</td><td>教育出版</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版																	
2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版																	
3																				
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編</td><td>文部科学省</td><td>廣済堂あかつき</td></tr><tr><td>2</td><td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集</td><td>『道徳教育』編集部</td><td>明治図書出版</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき																	
2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版																	
3																				
評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容（30%）や、作成した学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(谷口研究室) ※現在は耐震工事中のため、11 号館 11 階です。																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。																			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名（英文）	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え
到達目標	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要
授業方法と留意点	新型コロナウイルス感染拡大に対応した授業の実施形態として、「講義科目はオンライン授業」と決定されたため、授業は原則として、時間割通りの曜日・時に、Teams を使用して動画配信型（リアルタイム方式）で行ってきたが、緊急事態宣言解除により第 7 回授業から対面授業に切り替える。 第 15 回の授業の後半に、授業時間内テストを行う（定期試験期間中の考査は行わない）。 「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や、自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ・表現することが求められる総合的な学習の
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第 1 章、講義資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の 3 つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ワーク①「キャラ」をめぐって（ソロワーク）	特別活動テキスト第 2 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習するとともに課題を作成する（2 時間）。
	3	学級活動・ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ワーク②大学に入学して（ソロワーク）	特別活動テキスト第 3 章第 1 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	4	学級活動・ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ワーク③学級活動の思い出（ソロワーク）	特別活動テキスト第 3 章第 1 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	5	生徒会活動・児童会活動、学校行事	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ワーク④学校行事の思い出（ソロワーク）	特別活動テキスト第 3 章第 2・3 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	6	体験活動・体験的な学びの意義	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 ワーク⑤「14 歳の頃・17 歳の頃」（ソロワーク）	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい ワーク⑥ワークショップ入門（ソロワーク、グループ討議、発表）	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 ワーク⑦メディアリテラシー（グループ討議、交流）	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	9	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 ワーク⑧いじめへの対応（1）（グループ討議、交流）	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 ワーク⑨生徒指導・問題行動への対応（即興劇、グループ討議、交流）	特別活動テキスト第 4 章第 1・2・5 節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	11	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習（探求）の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 ワーク⑩不登校への対応（グループ討議、交流）	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。
	12	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 ワーク⑪進路指導・キャリア教育（即興	総合的な学習の時間のテキスト第 1・2・3 章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2 時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2 時間）。

			劇、グループ討議、交流)																	
	13	総合的な学習（探求）の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び ワーク⑫ジェンダーフリー（グループ討議、交流）	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2時間）。																
	14	総合的な学習（探求）の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 ワーク⑬いじめへの対応（2）（グループ討議、交流）	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2時間）。																
	15	補足とまとめ／授業時間内テスト	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 授業時間の後半にテストを行う。	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（2時間）。																
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したものと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>高等学校学習指導要領解説 特別活動編</td><td>文部科学省</td><td>東京書籍</td></tr><tr><td>2</td><td>高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編</td><td>文部科学省</td><td>学校図書</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍																	
2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編	文部科学省	学校図書																	
3																				
評価方法（基準）	授業への参加状況及び課題（40%）、中間レポート（30%）、最終回授業内テスト（30%）を総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の研究室等	寝屋川7号館3F 林研究室																			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。																			

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、①テキストにもとづいた教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成についての理解、基礎的な授業技術と方略等に関する講義、②授業にあたって留意すべき事項についての授業ミニ講座、③教材の開発及び授業の進め方に関する活動（個人ワーク及びグループディスカッション）で構成する（オンライン授業では、グループでのマイクロ・ティーチングの活動はできないので、3 年次以降の授業で取り扱うこととした）。 授業担当者は、高校現場で 34 年間にわたり、
到達目標	教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、 (1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。 (2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。
授業方法と留意点	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第 2 回から授業方法の変更を行う。原則として時間割通りの曜日・時限で行われる Teams を使用したオンライン授業（リアルタイム方式）を受講すること。 第 15 回の授業の後半で、オンラインを利用したテストを行う。 大学の HP やポータル・Teams での連絡を見逃すことのないように留意すること。 当初予定していたグループでの「マイクロ・ティーチング」の活動（教材作成及び授業実施のグループワーク）はオンラインではできないので、3 年時以降の授業で取り扱うこととした
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、教職科目「教育方法論」について	授業のオリエンテーション 講義：今、なぜ教育方法の学なのか・教育方法学の論点と課題 ミニ講座：①授業びらき・授業じまい 課題：印象に残る授業	教科書序章・第 3 章、講義資料をよく読んでおく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間）。
	2	学習とは何か（学習論）	講義：学習をめぐる 3 つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態 ミニ講座：②褒美と罰 発展：学ぶとはどういうことか 課題：指導方略	教科書第 5 章、講義資料をよく読んでおく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間）。
	3	子どもたちは何を学ぶのか（教育目標・内容論）	講義：教育目標に関する基本的な考え方、教育目標と内容 ミニ講座：③発問 発展：授業研究 課題：発問と予想される子どもの応答	教科書第 4 章、講義資料をよく読んでおく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間）。
	4	欧米における授業の歴史（教授論の歴史①）	講義：近代以前の教育、近代教育思想と教授法の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開 ミニ講座：④指示・説明・共有 発展：学級の規模と形態 課題：授業形態と学級規模	教科書第 1 章、講義資料をよく読んでおく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間）。
	5	日本における授業の歴史（教授論の歴史②）	講義：古代から近世の教育、近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、授業改造の試み ミニ講座：⑤発問の工夫と仕方 発展：学級崩壊 課題：学級崩壊の経験	教科書第 2 章、講義資料をよく読んでおく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間）。
	6	学力をどう高めるか（学力論）	講義：学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める ミニ講座：⑥指名・助言・発言の受け方、教師の話し方 発展：戦後学力論争史 課題：全国学力・学習状況調査	教科書第 6 章、講義資料をよく読んでおく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間）。模擬授業の準備を行う（2 時間）
	7	授業をどうデザインするか（設計・デザイン論）	講義：授業のデザイン、教科内容と子どもの学び、対話的・協同的な学び合い、学びのための指導・支援 ミニ講座：⑦板書・机間指導・ノート指導 発展：授業の設計とデザインの違い 課題：学びからの逃走	教科書第 7 章、講義資料をよく読んでおく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間）。模擬授業の準備を行う（2 時間）
	8	8 教育の道具・素材・環境（教材論）	講義：教材づくりの発想、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間 ミニ講座：⑧観察・実験・フィールドワーク 発展：教材研究・教材開発・授業の構想 課題：体験型の授業と座学型の授業	教科書第 8 章、講義資料をよく読んでおく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間）。模擬授業の準備を行う（2 時間）。
	9	何をどう評価するか（評価論）	講義：指導要録における教育評価観の変遷、目標に準拠した評価の意義と展開、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、教育評価論	教科書第 9 章、講義資料をよく読んでおく（2 時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1 時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2 時間）

			としての「実践記録」 ミニ講座：⑨グループ学習・ペア学習・話し合い 発展：現在の学習評価 課題：内申書とテスト																	
	10	誰がカリキュラムを編成するのか（カリキュラム論）	講義：教育課程の編成にあたって、教育課程の構造と類型 ミニ講座：⑩ノート指導、レポート指導、プレゼンテーション指導 発展：総合的な学習の時間の授業づくり 課題：探求学習の指導	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）																
	11	授業・学習へのICTの活用（教育の情報化論1）	講義：教育の情報化（その1）、教育の情報化の今日的意義、教育情報化の加速、ICTを活用した学びの実践、学校のICT環境整備、学習環境を支えるICT環境 ミニ講座：⑪授業中の私語 発展：コロナと学校の授業 課題：大学のオンライン授業	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）																
	12	情報教育と校務の情報化（教育の情報化論2）	講義：教育の情報化（その2）、情報教育、校務の情報化の推進、教育情報セキュリティの確保、教師に求められるICT活用指導力等の向上 ミニ講座：⑫学びの空間 活動：グループディスカッション① 課題：教師のファシリテーションスキル	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）																
	13	インクルーシブな授業をつくる（インクルーシブ教育論）	講義：インクルーシブ教育とインクルーシブ教育システム、ICIDHからICFへの転換と特殊教育から特別支援教育への転換、特別支援教育の理念と合理的配慮の考え方、授業における合理的配慮 ミニ講座：⑬ワークショップ型の授業 活動：グループディスカッション② 課題：PBL（問題解決型学習）問題点	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する。模擬授業の振り返りを行う（2時間）。																
	14	ユニバーサルデザイン化した授業をつくる（ユニバーサルデザイン論）	講義：バリアフリーとユニバーサルデザイン、教育のユニバーサルデザイン化、基礎的環境整備と合理的配慮の関係、教室環境のユニバーサルデザイン、授業のユニバーサルデザインと指導の三段構え ミニ講座：⑭授業研究の方向性 発展：新しい学び 課題：学び合いの変化	講義資料をよく読んでおく（2時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業をの振り返りを行う（2時間）。																
	15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって／テスト	講義：すぐれた教師になるために、2つの教師モデル、教師としての成長に向けて、結論 ミニ講座：教師をめざすオンラインテスト	教科書第11章、講義資料をよく読んでおく（2時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の振り返りを行う（2時間）																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>新しい時代の教育方法 改訂版</td><td>田中耕治他</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	授業への参加状況【課題等】（40%）、レポート（30%）、テスト（30%）により総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	オンラインでの授業という制約下ではあるが、「授業に参加するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の研究室等	11号館11階（林研究室）																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	生徒指導論（進路指導を含む）	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すという素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	対面授業で、プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に進めます。また時折、レポートを課します。 Teams のチャネルを通してテキストや資料を配布します。また、レポート課題提示・提出受付は Moodle を通して行います。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
	2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
	3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
	4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
	5	生徒理解の進め方（1）	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
	6	生徒理解の進め方（2）	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
	7	学級経営の進め方（1）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
	8	学級経営の進め方（2）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
	9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
	10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
	11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
	12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
	13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
	14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
	15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
	3			

評価方法（基準）	定期試験 50%、レポート 50%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。定期試験はオンライン Web 試験に変更する場合があります。その場合は試験時間割公開に先立ち指示します。
----------	---

学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 朝日研究室
----------	----------------

備考	必ず自分が履修登録をした曜日時限の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしてください。自分が履修登録した曜日時限以外の Teams チームおよび Moodle コースにメンバー登録をしたものは成績評価対象外です（全欠席扱いとし、単位認定しません）。 また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。
----	---

科目名	教育相談（カウンセリングの基礎を含む）	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年度	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー（DP）			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的意義を解説し																																																																		
到達目標	教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と“問題”への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4 単位のうち 2 単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>教育相談とは何か</td><td>教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド</td><td>テキスト第 1 講、配付資料を用いた予習・復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>カウンセリングの基礎</td><td>カウンセリングの基本的な考え方、カウンセリングの技法</td><td>テキスト第 2 講・第 3 講、配付資料を用いた予習・復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>グループ発表の準備</td><td>グループワーク（アイスブレイク含む）</td><td>検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>4</td><td>学校教育相談の全体像</td><td>校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法</td><td>テキスト第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>5</td><td>学校におけるカウンセリング活動 1</td><td>カウンセリング活動のいろいろ(1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動</td><td>テキスト第 2 講、第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>6</td><td>学校におけるカウンセリング活動 2</td><td>カウンセリング活動のいろいろ(2)..... 開発的カウンセリング活動</td><td>テキスト第 2 講・第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>7</td><td>パーソナリティ理解</td><td>パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの</td><td>テキスト第 11 講・第 12 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>8</td><td>“問題”の理解と対応 1</td><td>“問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程</td><td>テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>9</td><td>“問題”の理解と対応 2</td><td>ストレス、欲求不満、葛藤</td><td>テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>10</td><td>心の発達と“問題”</td><td>青年期の発達（認知、自己意識、道徳性、仲間関係等）</td><td>テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備</td></tr> <tr> <td>11</td><td>相談援助活動の実際 1</td><td>不登校.....その理解と対応（グループ発表）</td><td>テキスト第 4 講、配付資料を用いた予習・復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>相談援助活動の実際 2</td><td>いじめ.....その理解と対応（グループ発表）</td><td>テキスト第 4 講、配付資料を用いた予習・復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>相談援助活動の実際 3</td><td>授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応（グループ発表）</td><td>テキスト第 5 講、配付資料を用いた予習・復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>相談援助活動の実際 4</td><td>反社会的行動.....その理解と対応（グループ発表）</td><td>テキスト第 7 講、配付資料を用いた予習・復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>これからの教育相談</td><td>新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携</td><td>テキスト第 15 講、配付資料を用いた予習・復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	教育相談とは何か	教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第 1 講、配付資料を用いた予習・復習	2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方、カウンセリングの技法	テキスト第 2 講・第 3 講、配付資料を用いた予習・復習	3	グループ発表の準備	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備	4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備	5	学校におけるカウンセリング活動 1	カウンセリング活動のいろいろ(1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第 2 講、第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備	6	学校におけるカウンセリング活動 2	カウンセリング活動のいろいろ(2)..... 開発的カウンセリング活動	テキスト第 2 講・第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備	7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備	8	“問題”の理解と対応 1	“問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備	9	“問題”の理解と対応 2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備	10	心の発達と“問題”	青年期の発達（認知、自己意識、道徳性、仲間関係等）	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備	11	相談援助活動の実際 1	不登校.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 4 講、配付資料を用いた予習・復習	12	相談援助活動の実際 2	いじめ.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 4 講、配付資料を用いた予習・復習	13	相談援助活動の実際 3	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 5 講、配付資料を用いた予習・復習	14	相談援助活動の実際 4	反社会的行動.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 7 講、配付資料を用いた予習・復習	15	これからの教育相談	新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携	テキスト第 15 講、配付資料を用いた予習・復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	教育相談とは何か	教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第 1 講、配付資料を用いた予習・復習																																																																
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方、カウンセリングの技法	テキスト第 2 講・第 3 講、配付資料を用いた予習・復習																																																																
3	グループ発表の準備	グループワーク（アイスブレイク含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備																																																																
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備																																																																
5	学校におけるカウンセリング活動 1	カウンセリング活動のいろいろ(1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第 2 講、第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備																																																																
6	学校におけるカウンセリング活動 2	カウンセリング活動のいろいろ(2)..... 開発的カウンセリング活動	テキスト第 2 講・第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備																																																																
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備																																																																
8	“問題”の理解と対応 1	“問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備																																																																
9	“問題”の理解と対応 2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備																																																																
10	心の発達と“問題”	青年期の発達（認知、自己意識、道徳性、仲間関係等）	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備																																																																
11	相談援助活動の実際 1	不登校.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 4 講、配付資料を用いた予習・復習																																																																
12	相談援助活動の実際 2	いじめ.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 4 講、配付資料を用いた予習・復習																																																																
13	相談援助活動の実際 3	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 5 講、配付資料を用いた予習・復習																																																																
14	相談援助活動の実際 4	反社会的行動.....その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 7 講、配付資料を用いた予習・復習																																																																
15	これからの教育相談	新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携	テキスト第 15 講、配付資料を用いた予習・復習																																																																
関連科目	教職課程の科目全般																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>よくわかる！教職エクササイズ 3 教育相談</td><td>森田健宏・吉田佐治子（編著）</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	よくわかる！教職エクササイズ 3 教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	よくわかる！教職エクササイズ 3 教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	グループ発表 50%、期末試験 50%																																																																		
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（吉田研究室）																																																																		
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。																																																																		

	Teams コードと科目名 火曜 2 限：dm62fep 21 後-教職-010-教育相談（火 2）-吉田 佐治子 木曜 1 限：x0o8r2g 21 後-教職-015-教育相談（木 1）-吉田 佐治子 木曜 4 限：4cvqalv 21 後-教職-020-教育相談（木 4）-吉田 佐治子 Moodle コース名と登録キー 火曜 2 限：2
--	---

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support ActivitiesⅠ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービslラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																																																																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																																																																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」をはじめて履修する学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>事前指導 1</td><td>活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>2</td><td>事前指導 2</td><td>マナー講座・小中学校の教育現場について</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>3</td><td>事前指導 3</td><td>「守秘義務」の意味とその内容について</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>4</td><td>活動準備</td><td>受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>5</td><td>活動 1～25</td><td>受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）</td><td>各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成</td></tr> <tr> <td>6</td><td>最終報告会</td><td>活動報告会</td><td>報告のための準備</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備																																																																
2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備																																																																
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成																																																																
6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階（朝日研究室）、7号館3階（大野研究室）、7号館4階（谷口研究室）、7号館3階（林研究室）、7号館3階（吉田研究室）																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。																																																																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービslラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																																																																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																																																																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」をはじめて履修する学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>事前指導 1</td><td>活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>2</td><td>事前指導 2</td><td>マナー講座・小中学校の教育現場について</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>3</td><td>事前指導 3</td><td>「守秘義務」の意味とその内容について</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>4</td><td>活動準備</td><td>受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>5</td><td>活動 1～25</td><td>受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）</td><td>各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成</td></tr> <tr> <td>6</td><td>最終報告会</td><td>活動報告会</td><td>報告のための準備</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備																																																																
2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備																																																																
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成																																																																
6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階（朝日研究室）、7号館3階（大野研究室）、7号館4階（谷口研究室）、7号館3階（林研究室）、7号館3階（吉田研究室）																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。																																																																		

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実践についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義 (体験報告を含む)、演習 (文献購読、発表、討議を含む)、実習 (指導案作成、模擬授業を含む) を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5 単位あるいは 3 単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」1 単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習 (教育実習に係る事前及び事後指導)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
	2	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
	3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
	4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
	5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
	6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
	7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
	8	指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
	9	指導案の作成 (2)	学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について	授業時に指示する
	10	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	11	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	12	模擬授業 (3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	13	模擬授業 (4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
	14	教育実習の実際 (1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
	15	教育実習の実際 (2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目	教職課程で学んだ全科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。
-----------	---

担当者の研究室等	吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室 (7 号館 3 階) 谷口研究室 (7 号館 4 階)
----------	---

備考	教育実習体験発表会 (10 月末土曜日)、教育実習総括講義 (11 月末土曜日) には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度となる。
----	--

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:B △C 科: II ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1 件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	3	犯罪はなぜ起こるのか？ どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？ どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト 1 を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういう状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最新の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーや DV は、個人問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)
	11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでの ID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約 1 時間)

			罪を取り上げる。																	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青バト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえと思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトなどを通じて行う。																			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:B △C 科: II ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式
科目学習の効果 (資格)	マーケティングの発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	6	マーケティングの S T P アプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、S T P アプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	8	マーケティングの歴史的探究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的探究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1 時間)
	15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間 1 時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化ー三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷ー	武居 奈緒子	千倉書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
	2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房
	3			

評価方法	期末レポート (100%)
------	---------------

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 武居教授室
備考	

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名 (英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ○ R 科: A ○ A 科: A ○ M 科: A1 ○ E 科: B △ C 科: II ○ L 科: DP2 ○ D 科: DP1 ○ S 科: DP1 ○ J 科: DP1 ○ W 科: DP1 ○, DP7 ○		
科目ナンバリング	V 科: R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	・ 日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。			
到達目標	・ たたとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデート DV の被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりが無い。			
授業方法と留意点	・ 近年、わが国でも犯罪被害に遭った			
科目学習の効果（資格）	この講義を通じて学生には、 「・「被害者」概念について説明できる ・ 犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる ・ 犯罪被害者の支援制度について理解できる」 ようになることが期待される。			
	・ 新型コロナ変異株の流行により、第 1 回目の授業から当面のあいだ、本授業は Microsoft 社の teams を用いたオンデマンド動画配信方式で行う ↓ ※【講義形式変更告知】職域ワクチン接種が終了したのちの 2021 年 10 月 28 日（木）～			
	・ 2021 年 10 月 28 日（木）から対面にて講義を行う。			
	・ 成績評価は従来通り、teams 上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。			
	・ 課題は対面講義が終了した後に、teams 上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動			
	・ 万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。			
	・ 公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	・ 授業の進め方と文献紹介 ・ 「加害者」の法的責任 ・ 「加害者」と「犯罪者」 ・ 「被害者」の意義 ・ 「犯罪被害者」の意義	・ 教科書の入手 事前：教科書第 1 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2 時間）
	2	少年犯罪の被害者	・ 少年法と被害者救済	事前：教科書第 6 章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2 時間）
	3	性犯罪の被害者	・ 性犯罪被害特有の問題点	事前：教科書第 6 章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
	4	ドメスティックバイオレンス（DV）の被害者	・ DV被害の特殊性	事前：教科書第 6 章「DV」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
	5	ストーカー犯罪の被害者	・ ストーカーへの対抗手段	事前：教科書第 6 章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
	6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	・ インターネット犯罪被害の特殊性	事前：教科書第 6 章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
	7	児童虐待の被害者救済	・ 児童虐待の意義	事前：教科書第 6 章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
	8	触法精神障害者からの被害	・ 精神障害者の加害行為と対処法	事前：教科書第 6 章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）
	9	犯罪被害救済総論①	・ 被害届と告訴・告発の効果 ・ 加害者との示談交渉 ・ マスコミ対策 ・ 検察審査会 ・ 検察審査員 ・ 審査申立手続 ・ 検察審査会と被害者 ・ 起訴議決制度	事前：教科書第 2 章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2 時間）
	10	犯罪被害救済総論②	・ 被害者による裁判傍聴と参加 ・ 被害者による記録の閲覧と謄写 ・ 被害者における心情陳述 ・ 被害者等特定事項の非公開 ・ 遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判	事前：教科書第 3 章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2 時間）
	11	犯罪被害救済総論③	・ 損害賠償命令制度	事前：教科書第 4 章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2 時間）

				事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	12	犯罪被害救済総論④	・被害回復給付金制度	事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）																
	13	犯罪被害救済総論⑤	・犯罪被害者等給付金支給制度	事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間）																
	14	犯罪被害救済総論⑥	・加害者情報へのアクセス ・法テラス	事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）																
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック</td><td>第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会</td><td>東京法令出版</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>開講時に指示する。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	・形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100％）。 ・2021年10月28日（木）から対面にて講義を行う。 ・成績評価は従来通り、teams 上のリンクから回収した同一の課題に対する答案の総得点で評価する。 ・課題は対面講義が終了した後に、teams 上の該当回のチャンネルに上げる。同時に復習に資する動画ファイルも配信する。 ・受講者は teams 上のレジュメをダウンロードし、各自ブリ																			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野教授室																			
備考	講義の理解を試すミニツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。																			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科: A◎A 科: A◎M 科: A1○E 科: B △C 科: II ◎L 科: DP2◎D 科: DP1◎S 科: DP1◎J 科: DP1◎W 科: DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて講義を進める。具体的なイメージをつかむために、関連する映画作品を鑑賞することも予定している。 【シラバス更新にともなうお知らせ】 (2021. 04. 16) ・講義は、①Teams を通じたりアルタイム配信 (後日視聴も可能)、②Moodle を通じたレジュメ・課題等の配信、という 2 つの手段を適宜組み合わせさせていただきます。 ・授業形態の変更にもともなう計画調整によって、授業の進行スケジュールにも変更が生じます。あらかじめご了承ください。
科目学習の効果 (資格)	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。)	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
	2	第Ⅰ部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (1)	〔事前学習〕配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	3	第Ⅰ部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (2)	〔事前学習〕配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	4	第Ⅰ部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (1)	〔事前学習〕テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	5	第Ⅰ部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (2)	〔事前学習〕テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	6	第Ⅰ部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (1)	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	7	第Ⅰ部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (2)	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	8	第Ⅰ部 相互信頼から相互不信へ	第4章 「小春日和」の時代	〔事前学習〕テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	9	第Ⅱ部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化 (1)	〔事前学習〕テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	10	第Ⅱ部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化 (2)	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	11	第Ⅱ部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権 (1)	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	12	第Ⅱ部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権 (2) 第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (1)	〔事前学習〕テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	13	第Ⅱ部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (2)	〔事前学習〕テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	14	第Ⅱ部 対立激化への展開	第8章 文在寅政権の転換	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)

	15	映画作品に見る現代韓国	韓国現代史と現代韓国社会	〔事前学習〕 提示する資料を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕 提示した資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																
関連科目																				
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―</td><td>木村幹・田中悟・金容民〔編著〕</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>韓国現代史</td><td>木村幹</td><td>中公新書</td></tr><tr><td>2</td><td>日韓歴史認識問題とは何か</td><td>木村幹</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	韓国現代史	木村幹	中公新書	2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	韓国現代史	木村幹	中公新書																	
2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房																	
3																				
評価方法 （基準）	提出レポートに基づく評価を行なう。（100％） 詳細については授業内で指示する。 【シラバス更新にともなうお知らせ】（2021.04.16） ・基本的に変更はありません。定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100％）を実施します。 （課題の提示および提出は、Moodle を通じて行ないます。）																			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。																			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 田中研究室 ※ただし 2021 年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。																			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 なお、2019 年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。																			

科目名	AI ビジネス創造実習	科目名 (英文)	Practicum in Business Creation by Using AI
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	近年、情報処理基盤の社会浸透、人工知能 (AI) や IoT 等の最先端技術のオープン化に伴い、既存のビジネスモデルが大きく変化するとされています。本講義では、学生の自由な発想のもと、一人ひとりが独自の AI を作ることで、AI とは何か、AI にできること、AI では難しいことを理解します。そして、作成した AI を持ち寄り、新しいビジネスプランを考えるグループワークを通して、事業創造に必要な企画・構想力を身に着けます。																																																																		
到達目標	(1) AI の基本原理を理解し、AI を活用した既存サービスに関する知識を深めること (2) AI の作り方を知り、独自の AI を作れること (3) AI を活用したビジネスプランを発売し、グループディスカッションにより洗練させた上でプレゼンテーションでできること																																																																		
授業方法と留意点	情報処理室を使用した対面授業です。 授業資料 (PDF) は、各回の授業日までに Web Folder の「AI ビジネス創造実習」クラスにアップロードします。 毎回の授業でテーマに関する演習課題を課します。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組みましょう。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方、AI の構築環境の準備</td><td>シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>AI の基本原理と最新動向 (1)</td><td>AI の歴史、AI の仕組み、最新動向</td><td>配布資料の指定頁の予復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>AI の基本原理と最新動向 (2)</td><td>最新動向の調査、アイデア出し</td><td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td></tr> <tr> <td>4</td><td>AI を作るための準備 (1)</td><td>データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け</td><td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td></tr> <tr> <td>5</td><td>AI を作るための準備 (2)</td><td>データの整備</td><td>データの整備、授業内容の見直し</td></tr> <tr> <td>6</td><td>AI の作り方</td><td>CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法</td><td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td></tr> <tr> <td>7</td><td>AI の使い方</td><td>画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法</td><td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td></tr> <tr> <td>8</td><td>AI の評価方法</td><td>画像認識 AI モデルの評価、再学習</td><td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td></tr> <tr> <td>9</td><td>AI によるビジネスプランの考案</td><td>作成した AI の相互評価、グループ分け</td><td>学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し</td></tr> <tr> <td>10</td><td>AI によるビジネスプランの考案 (2)</td><td>グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方</td><td>グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案</td></tr> <tr> <td>11</td><td>AI によるビジネスプランの考案 (3)</td><td>ビジネスプランと AI の作成</td><td>ビジネスプランの文書作成、AI の作成</td></tr> <tr> <td>12</td><td>AI によるビジネスプランの考案 (4)</td><td>ビジネスプランの推敲、AI の作成</td><td>ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化</td></tr> <tr> <td>13</td><td>AI によるビジネスプランの考案 (5)</td><td>ビジネスプランの推敲、AI の評価</td><td>ビジネスプランの文書修正、AI の評価</td></tr> <tr> <td>14</td><td>プレゼンテーション</td><td>グループによる発表、相互評価</td><td>授業内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括</td><td>これまでのまとめ</td><td>授業内容の振り返り</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習	2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習	3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し	6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	9	AI によるビジネスプランの考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し	10	AI によるビジネスプランの考案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案	11	AI によるビジネスプランの考案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成	12	AI によるビジネスプランの考案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化	13	AI によるビジネスプランの考案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価	14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り	15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習																																																																
2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習																																																																
3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し																																																																
6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
9	AI によるビジネスプランの考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し																																																																
10	AI によるビジネスプランの考案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案																																																																
11	AI によるビジネスプランの考案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成																																																																
12	AI によるビジネスプランの考案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化																																																																
13	AI によるビジネスプランの考案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価																																																																
14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り																																																																
15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り																																																																
関連科目	情報リテラシーやプログラミングに関連する科目を履修済みであることが望ましいでしょう。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>人工知能が変える仕事の未来</td><td>野村 直之</td><td>日本経済新聞</td></tr> <tr> <td>2</td><td>人工知能は人間を超えるか</td><td>松尾 豊</td><td>角川</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞	2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞																																																																
2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	成績は、演習課題の回答内容に基づき評価します。期限内に提出できなかった場合は、大幅に減点します。																																																																		
学生へのメッセージ	Society 5.0 時代は、高度な情報システムやデータ処理技術を「作る人」よりも、上手に「使う人」が重宝されるでしょう。だれもが、わずかな専門知識と大いなる熱意があれば、驚くようなプロダクトやソリューションを創造することができる世の中になっています。この授業をととして、そのことを大いに実感してほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 8 階 塚田研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	Social Welfare
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II 科: R 科: A 科: M 科: A1 科: E 科: B 科: C 科: II 科: L 科: DP2 科: DP1 科: S 科: DP1 科: J 科: DP1 科: W 科: DP1 科, DP7 科		
科目ナンバリング	V 科: R 科: A 科: M 科: E 科: C 科: TT01461a1~TT01465a1, L 科: LT01366a1~LT01370a1, D 科: S 科: IT01371a1~IT01375a1, P 科: YT01423a2~YT01427a2, J 科: JT01374a~JT01378a1, W 科: WT01352a1~WT01356a1, N 科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとへのくらしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個人の生き方など、多角的な視点から考えていきます。 本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけでなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。 SDGs-1, 3, 5, 10, 11, 17																																																																		
到達目標	①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること ②日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること ③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること																																																																		
授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます</td><td>事後学修: 配布資料を熟読すること (2 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>社会福祉の歴史①</td><td>諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます</td><td>事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>社会福祉の歴史②</td><td>日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます</td><td>事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>社会福祉の実施主体</td><td>社会福祉の実施主体について理解を深めます</td><td>事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>社会保障の概観</td><td>社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます</td><td>事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>高齢者福祉</td><td>高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからについて考えます</td><td>事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>認知症の人を社会で支える</td><td>認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかなう基本的な知識を踏まえて考えます</td><td>事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>障害者福祉</td><td>障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからについて考えます</td><td>事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>子ども家庭福祉</td><td>子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからについて考えます</td><td>事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>地域福祉①</td><td>地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します</td><td>事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>地域福祉②</td><td>地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます</td><td>事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>地域福祉③</td><td>地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます</td><td>事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>地域福祉④</td><td>地域が抱える課題とその解決法を模索するワークについて、共有を行います</td><td>事前学習: 地域が抱える課題とその解決法を模索するワークに取り組みます (4 時間) 事後学習: 提出した成果物の内容について振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>社会福祉と大学生の役割</td><td>社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます</td><td>事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義のふりかえり</td><td>講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知</td><td>事後学習: 講義の内容について振り返りを行うこと (4 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修: 配布資料を熟読すること (2 時間)	2	社会福祉の歴史①	諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	3	社会福祉の歴史②	日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	4	社会福祉の実施主体	社会福祉の実施主体について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	5	社会保障の概観	社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	7	認知症の人を社会で支える	認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかなう基本的な知識を踏まえて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	8	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	9	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	10	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	11	地域福祉②	地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	12	地域福祉③	地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	13	地域福祉④	地域が抱える課題とその解決法を模索するワークについて、共有を行います	事前学習: 地域が抱える課題とその解決法を模索するワークに取り組みます (4 時間) 事後学習: 提出した成果物の内容について振り返りを行うこと (2 時間)	14	社会福祉と大学生の役割	社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	15	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知	事後学習: 講義の内容について振り返りを行うこと (4 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修: 配布資料を熟読すること (2 時間)																																																																
2	社会福祉の歴史①	諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
3	社会福祉の歴史②	日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
4	社会福祉の実施主体	社会福祉の実施主体について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
5	社会保障の概観	社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
7	認知症の人を社会で支える	認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかなう基本的な知識を踏まえて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
8	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
9	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
10	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
11	地域福祉②	地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
12	地域福祉③	地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
13	地域福祉④	地域が抱える課題とその解決法を模索するワークについて、共有を行います	事前学習: 地域が抱える課題とその解決法を模索するワークに取り組みます (4 時間) 事後学習: 提出した成果物の内容について振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
14	社会福祉と大学生の役割	社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学習: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
15	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知	事後学習: 講義の内容について振り返りを行うこと (4 時間)																																																																

			識、技能、態度についてあらためて考え ます	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のレポート 50%、最終レポート 50%			
学生への メッセージ	社会福祉に関するさまざまな知識、視点を踏まえて、みなさん自身に考えていただく機会になればと考えています。			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階（上野山研究室）			
備考				

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 浩
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:B △C 科: II ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	本授業で提供する「金融知力 (リテラシー)」とは、経済・金融に関する知識や情報を正しく理解し、自らが主体的に判断できる能力のことであり、社会人として経済的に自立し、より良い暮らしを送っていくうえで欠かせない生活スキルです。 講師が、証券業界に長く勤務した経験を生かして、経済・金融の動向、金融商品の基本的な仕組みや特性、リスクマネジメント、金融資産の形成・運用方法について、実例となる日常のニュースを理解しながら、すでに学んでいる知識と融合させて具体的かつ現実にはした「金融知力 (リテラシー)」の習得を目指し
到達目標	経済・金融の仕組みやさまざまな金融商品の性格・特性を理解し、ライフステージのさまざまな局面での金融資産形成における的確な判断や行動に結びつく「金融知力 (リテラシー)」を習得することで、将来の自らの資産形成に的確な判断ができる一助になる事を目標にします。 また証券系の研究機関として蓄積した企業評価、市場分析の手法を学び、投資のみならず、就職活動における企業選択にも役立てることを目標とします。
授業方法と留意点	・日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。 ・教材・課題提供型遠隔授業を、行います。 ・教科書と配布レジュメをよく読んで復習を行い、理解を進めていくこと。 ・レポート課題等の提出物は要提出、提出期限を厳守してください。 ・毎回レジュメを配布し・時事問題についても解説します
科目学習の効果 (資格)	日々、刻々と変わるマーケットを理解できる可能性があります。 企業経営者の考え方が理解できる可能性があります。 中長期の経済トレンドを自ら予測し活動できる可能性があります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	金融知力リテラシー習得の必要性	科学技術のイノベーションとグローバル化の急速な進展、結果として、様々な市場の変化により、学生諸君を取り巻く環境の変化を紹介し、自らのライフプランの中で「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性を解説します。	少子高齢化問題・財政赤字に関する報道内容の整理確認
	2	金融・経済の仕組み①	資産形成の前提となる経済の基礎的条件 (ファンダメンタルズ) の知識を 2 回にわたって解説します。	経済用語等を理解し、経済記事を読みこなす様習慣を持つ
	3	金融・経済の仕組み②	金利や金融政策など経済と金融のかかわり、世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	金融政策全般の再確認
	4	ライフプランニング①	ライフプランとは生涯生活設計といった意味で、自分と家族の生活プラン、暮らし方を表します。ライフデザインを描き、ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる
	5	ライフプランニング② キャッシュフロー表の作成	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	自分の大学卒業までの学費、大学生の間の生活費について、自身で計算する
	6	貯蓄型商品	預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	金融機関の業態の理解に努める
	7	リスクとリターンとは	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、その利益は将来回収されるものであり、現時点では必ずしも確定していません。そのためにいろいろな可能性、逆にいえば不確実性があるということになります。「リスク」とはこの不確実性のことをいいます。リスクとリターンの関係、リスクマネジメントについて解説します。	自身の人生設計、今後就職される会社にもリスクリターンの考え方は通じる。派生的に考えてみる
	8	アセットクラス※の基礎知識／株式 (1) (E S G 投資への展開含む)	上場、株式投資の魅力とリスク、取引の仕組みなどについて解説します。 ※アセットクラス: 資産クラス、資産の種類のこと	媒体での E S G 投資に関する記事を確認 株式の模擬売買を経験する
	9	アセットクラスの基礎知識／株式 (2)	マーケット・企業分析株価は、会社の業績のほか、景気、為替相場、金利、需給関係、政治、国際情勢、天候等さまざまな要因によって日々、変動しています。企業の株価や経営効率を判断する投資指標、株価水準の割安・割高を判断する分析手法等について解説し、実際の株式投資や企業分析に役立つ手法を解説します。	企業の開示資料への理解を深める
	10	アセットクラスの基礎知識／債券 (1) (SDG's 含む)	債券とは、国をはじめ、地方公共団体、政府関係機関、事業会社などが広く一般の投資者から、まとまった資金を調達することを目的として発行される証書で	財務省の H P で 2 0 年度予算の概要を確認

			す。債券の種類・特徴とリスク、”格付け”について学びます。																	
	11	アセットクラスの基礎知識／債券（２）－金利と債券	前回は引き続き、債券投資の理解を深めます。債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してください。	債券の発行市場・流通市場への理解を深める																
	12	アセットクラスの基礎知識／投資信託	投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	銀行・証券の投資信託販売手法に批判存在。整理確認																
	13	アセットクラスの基礎知識／外貨建て商品・証券化商品・外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品	外貨建て商品・証券化商品・外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品の解説します。	日々の為替の推移、変動要因をチェック																
	14	ファイナンシャルプランニング、セーフティネット	これまで学んでいた「金融知力（リテラシー）」を総括して解説します。あわせて、金融資産の形成に欠かせないコストや優遇税制制度、預金保険制度などについて解説します。	自身の今後の人生での最優先課題、夢を今一度考えてみる																
	15	講義総括・レポート課題の解説	レポート課題の解説と参考資料も提示します	レポート期限は厳守ください																
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>金融経済と資産運用の基礎</td><td>日興リサーチセンター</td><td>星雲社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法（基準）	授業の参加姿勢 20％ 理解度等を総合的に評価します。 ・レポート：80％（レポート内容・実施時期は今後確定しますが、講義終了後のレポートを重視します）																			
学生へのメッセージ	実務経験をベースとし、マーケットメカニズムを、お伝えできればと考えています。 半年の授業に是非お付き合いください。 授業計画は変更される場合があります																			
担当者の研究室等	11 号館 1 階（教務課）																			
備考	質問等は、下記メールで受け付けますが、一定の期間を要する場合があります yayoidai8603@gmail.com この講義は、SMBC 日興証券グループによる「寄附講座」です。																			

科目名	暗号資産とデリバティブ	科目名 (英文)	Cryptocurrency and Derivatives
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会生活様式の激変から、ICT 活用による距離と時間を短縮する社会システムが構築されつつある。その状況下において、通貨流通システムも新たな手法への導入が進んでいる。本講座は工学と経済学の融合科目として、暗号資産（仮想通貨）の汎用性の仕組みと課題、および金融ビジネスで普及が進むデリバティブ取引の基本的仕組みについて学ぶ。 【留意点】投機を目的とした仮想通貨の投機手法を学ぶ授業ではありません。 【担当教員実務経歴】 ・金融機関での経営企画、金融商品研究業務 ・ベンチャー投資財団での投資業務担
到達目標	時代の変遷に則した新たな金融手法、および決済手段の仕組みを学び、金融に係る様々なリスクの知識を得て、自ら将来の資産形成に向けた金融資産の多様性を理解する。また近い将来発行が予測されている「デジタル通貨」の活用とリスク対応についての理解度を高める。
授業方法と留意点	オンライン授業を実施します。 毎回の授業に係る資料等は Teams の「日付」のチャンネル内のファイルに、授業回の前週金曜日に格納しておきますので、各自、印刷準備の上、授業に参加して下さい。 毎回、授業内容に関するアンケート（設問）を提示します。当日の 24 時までに提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	これから社会人および消費生活者として必要な暗号資産の活用理解、およびデリバティブ金融商品のリスク、構造を理解した上での活用方法について会得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講座ガイダンス 決済手段とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 電子マネーの概念と暗号資産（仮想通貨）との比較	＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	2	暗号技術の概要	暗号資産の種類と暗号技術 アンケート設問による授業内容の再確認。	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	3	ビットコイン	ビットコイン型仮想通貨とは？ アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	4	ブロックチェーン	ブロックチェーンとブルーフ・オブ・ワーク 法概念 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	5	暗号資産をめぐる課題	議論体系と法律との関係 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	6	暗号資産の事件簿	暗号資産と国際破綻 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	7	デリバティブを知る	リスクヘッジと金融工学の世界。 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	8	デリバティブ理論とは	デリバティブ理論の基本的な考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	9	投資とキャッシュフロー	キャッシュフロー現在価値の考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	10	株式のキャッシュフロー	株式のキャッシュフローモデルの考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	11	オプション取引	オプションとランダムウォークの基本的 考え方 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	12	ブラック＝ショールズモデル	投資手法の機械的考え方であるブラッ ク＝ショールズモデルの仕組み アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	13	リスク管理	デリバティブリスクへの対応とは？ アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	14	投資戦略	イールドカーブの作り方 アンケート設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等 を活用した用語等の習得（30 分）。

			認	<事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
	15	総論	暗号資産、デリバティブ取引の将来性と課題整理。	<事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	①毎回のアンケート設問に対する回答内容。なお回答は正解／不正解を問うものではありません。自身の考えを述べるとともにその結論に至った理由も記載すること（評価割合：50%） ②期末レポート（評価割合：50%）			
学生への メッセージ	今後、身近な決済手段として利用が促進されるものであるからこそ、構造およびリスクについてしっかりと理解してもらいたい。 なお、投機（ギャンブル）目的で学ぼうと考えている方は、受講を止めて下さい。			
担当者の 研究室等	11号館 7階 林研究室			
備考	投機（ギャンブル）目的で学ぼうと考えている方は、受講を止めて下さい。			

科目名	学びのデザイン論	科目名 (英文)	Designing Learning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子, 梅原 聡
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	体験型学習やサービスマーケティング、PBL ではもちろんのこと、授業内でのグループワークやペアワークなど、他者と共に学ぶ機会は今後ますます増えていく。本授業は、他者と関わりながら学ぶ方法を体系的に学ぶことを目的とする。その際、他者の学びを助ける環境の作り手となる視点や、ピア・サポートの視点を取り入れる。 本授業を通して、他者との関わりに苦手意識を持つ学生や、グループワーク等の経験が少ない学生が、他者やグループワークを自分なりにバックアップできるようになることを目指す。																																														
到達目標	1. 学びの現場での「私」の姿を捉え、再形成を試みることができる 2. 他者、及びグループとの関係の中における学びの深め方に気づくことができる 3. 体験型学習での学びの深め方に気づくことができる 4. 大学での学び、及び体験型学習での学びへの関心が高まる																																														
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。演習は、テーマに応じて個人ワーク／ペアワーク／グループワークを用い、適宜ディスカッションやプレゼンテーションの時間を設ける。各テーマのねらいは、以下の通りである。 【私】：学ぶ「私」の姿を捉える 【私とあなた】：他者との関わりの中で学習を深める方法を知る 【私とあなたたち】：グループの中で学習を深める方法を知る 【私たちと社会】：体験型学習の中で学習を深める方法を知る 【再び、私】：学ぶ「私」の姿を探す 受講生の細かな心情変化や、興味関心を大切																																														
科目学習の効果（資格）	・主に「他の学生等との関わりの中で学ぶ姿勢」の認識・再形成を通じて、他の科目(体験型学習やPBL等)で得られる学びの獲得・さらなる深化が期待できる。 ・他者と支え合いながら共に学ぶ視点や力の獲得を通じて、グループ(学習共同体)への関わりの中で得られる学びの獲得・さらなる深化が期待できる。 ・グループワーク等を用いる学習手法への動機付けを通じて、他の科目履修(体験型学習やPBL等)への積極的な履修意欲・態度の形成が期待できる。																																														
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>【私】1：オリエンテーション／「私」と学び</td><td>「私」と学びの関係を、これまでの経験から振り返る</td><td>〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>【私】2：学ぶ場面の「私」と他の場面での「私」</td><td>場面に応じて異なる顔を持つ「私」を捉える</td><td>〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>【私とあなた】1：自己表現／コミュニケーション</td><td>自分の自己表現やコミュニケーションの特徴に気づく</td><td>〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>【私とあなた】2：他者を正しく捉えるファシリテーション(1)</td><td>ファシリテーション技法の活用を通じて他者に対するバイアスを排除する方法に触れる</td><td>〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>【私とあなた】3：他者を正しく捉えるファシリテーション(2)</td><td>ファシリテーション技法の活用を通じて他者の気づきを引き出す方法に触れる</td><td>〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>【私とあなたたち】1：心理的安全性の場作り</td><td>誰もが安心して発言・行動できる環境デザインの手法に触れる</td><td>〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>【私とあなたたち】2：他者の助けとなるピア・サポート</td><td>他者と深め合う・活かし合う関係性づくりやアクションに触れる</td><td>〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>【私とあなたたち】3：他者と学習を深めるワークショップ(1)</td><td>チーム内での合意形成・対立解消を促すコミュニケーション技法に触れる</td><td>〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>【私とあなたたち】4：他者と学習を深めるワークショップ(2)</td><td>チーム内での創造的発想・深化を促すコミュニケーション技法に触れる</td><td>〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>【私たちと社会】1：プロジェクトマネジメント</td><td>体験型学習・探求学習での学習法／プロジェクトデザインに触れる</td><td>〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケー</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	【私】1：オリエンテーション／「私」と学び	「私」と学びの関係を、これまでの経験から振り返る	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)	2	【私】2：学ぶ場面の「私」と他の場面での「私」	場面に応じて異なる顔を持つ「私」を捉える	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)	3	【私とあなた】1：自己表現／コミュニケーション	自分の自己表現やコミュニケーションの特徴に気づく	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)	4	【私とあなた】2：他者を正しく捉えるファシリテーション(1)	ファシリテーション技法の活用を通じて他者に対するバイアスを排除する方法に触れる	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)	5	【私とあなた】3：他者を正しく捉えるファシリテーション(2)	ファシリテーション技法の活用を通じて他者の気づきを引き出す方法に触れる	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)	6	【私とあなたたち】1：心理的安全性の場作り	誰もが安心して発言・行動できる環境デザインの手法に触れる	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)	7	【私とあなたたち】2：他者の助けとなるピア・サポート	他者と深め合う・活かし合う関係性づくりやアクションに触れる	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)	8	【私とあなたたち】3：他者と学習を深めるワークショップ(1)	チーム内での合意形成・対立解消を促すコミュニケーション技法に触れる	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)	9	【私とあなたたち】4：他者と学習を深めるワークショップ(2)	チーム内での創造的発想・深化を促すコミュニケーション技法に触れる	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)	10	【私たちと社会】1：プロジェクトマネジメント	体験型学習・探求学習での学習法／プロジェクトデザインに触れる	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケー
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																												
1	【私】1：オリエンテーション／「私」と学び	「私」と学びの関係を、これまでの経験から振り返る	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)																																												
2	【私】2：学ぶ場面の「私」と他の場面での「私」	場面に応じて異なる顔を持つ「私」を捉える	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)																																												
3	【私とあなた】1：自己表現／コミュニケーション	自分の自己表現やコミュニケーションの特徴に気づく	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)																																												
4	【私とあなた】2：他者を正しく捉えるファシリテーション(1)	ファシリテーション技法の活用を通じて他者に対するバイアスを排除する方法に触れる	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)																																												
5	【私とあなた】3：他者を正しく捉えるファシリテーション(2)	ファシリテーション技法の活用を通じて他者の気づきを引き出す方法に触れる	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)																																												
6	【私とあなたたち】1：心理的安全性の場作り	誰もが安心して発言・行動できる環境デザインの手法に触れる	〈事前学習課題〉 ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)																																												
7	【私とあなたたち】2：他者の助けとなるピア・サポート	他者と深め合う・活かし合う関係性づくりやアクションに触れる	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)																																												
8	【私とあなたたち】3：他者と学習を深めるワークショップ(1)	チーム内での合意形成・対立解消を促すコミュニケーション技法に触れる	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)																																												
9	【私とあなたたち】4：他者と学習を深めるワークショップ(2)	チーム内での創造的発想・深化を促すコミュニケーション技法に触れる	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) 〈事後学習課題〉 ・小課題に取り組むこと(2時間)																																												
10	【私たちと社会】1：プロジェクトマネジメント	体験型学習・探求学習での学習法／プロジェクトデザインに触れる	〈事前学習課題〉 ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケー																																												

				ションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
	11	【私たちと社会】2:プロジェクトラーニング(1):チームビルディング	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、協働意欲が高まる過程を体感する	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
	12	【私たちと社会】3:プロジェクトラーニング(2):発散	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、アイデアの発散過程を体感する	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
	13	【私たちと社会】4:プロジェクトラーニング(3):収束	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、アイデアの収束過程を体感する	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
	14	【私たちと社会】5:プロジェクトラーニング(4):成果まとめ	地域課題解決プロジェクト演習を通じて、協働成果をまとめる過程を体感する	<事前学習課題> ・授業内容の下調べ、及び学生同士でコミュニケーションしておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
	15	【再び、私】:まとめ/「私」と学び	授業での経験から「私」と学びの関係を探る	<事前学習課題> ・次回授業内容について過去経験を顧みる中で私意を整理しておくこと(2時間) <事後学習課題> ・小課題に取り組むこと(2時間)																
関連科目	これまで学んできたこと、これから学ぶこと、すべて																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来</td><td>上田 信行, 中原 淳</td><td>三省堂</td></tr><tr><td>2</td><td>問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション</td><td>安斎勇樹, 塩瀬隆之</td><td>学芸出版社</td></tr><tr><td>3</td><td>対話型ファシリテーションの手ほどき</td><td>中田豊一</td><td>ムラのミライ</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来	上田 信行, 中原 淳	三省堂	2	問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション	安斎勇樹, 塩瀬隆之	学芸出版社	3	対話型ファシリテーションの手ほどき	中田豊一	ムラのミライ
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1	プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来	上田 信行, 中原 淳	三省堂																
	2	問いのデザイン:創造的対話のファシリテーション	安斎勇樹, 塩瀬隆之	学芸出版社																
	3	対話型ファシリテーションの手ほどき	中田豊一	ムラのミライ																
評価方法(基準)	授業で提示する小課題 60%, レポート課題 40%																			
学生へのメッセージ	本学では、様々な体験型学習が用意されています。本科目では、そうした科目を受講するための基本的な姿勢を身に付けていただきたいと思います。特に他の学生を支えながら、共に学び進んでいく、そのような姿をイメージしています。“人見知り”だと思っている方、グループワークがどこか苦手だと思っている方にこそ、ぜひ受講していただきたいと思います。他の学生との関わりやグループワーク等への不安を取り除き、楽しみながら取り組めるように進めていくので、気軽に受講して下さい。																			
担当者の研究室等	吉田:7号館3階																			
備考	教科書は特に指定しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。 詳しい授業方法・評価方法等については、第1回の授業時に説明する。 授業の進行に伴い、シラバスの組み替えや変更を行う場合がある。																			

科目名	SDGs で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 石田 裕子, 郭 進, 加嶋 章博, 小林 健治, 手代木 功基, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。																																																																		
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。																																																																		
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。 毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来とSDGs</td><td>科目全体のガイダンス (担当: 後藤和子)</td><td>事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>2</td><td>巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全</td><td>将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 1・3・6] (担当: 石田裕子)</td><td>事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動</td><td>水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・1・7] (担当: 石田裕子)</td><td>事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>淀川流域の洪水対策</td><td>淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・1・6] (担当: 鳥谷部壤)</td><td>事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>些細なことでも豊かになる淀川流域の生活</td><td>なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 1・5] (担当: 小林健治)</td><td>事前: 教科書[第 5 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>淀川水系にみる文化と観光の経済学</td><td>文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・1・2] (担当: 後藤和子)</td><td>事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>地域資源としての淀川の記憶</td><td>淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 1・1] (担当: 加嶋章博)</td><td>事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>淀川流域の名所化と文化遺産</td><td>淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 1・1] (担当: 赤澤春彦)</td><td>事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>所得格差と教育問題</td><td>淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・1・1] (担当: 八木紀一郎)</td><td>事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>都市農業の歴史的遺産と公益的機能</td><td>淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)</td><td>事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>人口移動や通勤流動でみる地域経済</td><td>淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)</td><td>事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>産業連関分析</td><td>淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)</td><td>事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>住民が主役の広報戦略</td><td>淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 1・7] (担当: 増田知也)</td><td>事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>滋賀県朽木地域の森林利用の変遷</td><td>淀川源流の森はどのように変化してきたのか? [関連 SDG 1・5] (担当: 手代木功基)</td><td>事前: 教科書[第 3 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>プラスチックごみの発生源抑制対策</td><td>大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・1・2] (担当: 鳥谷部壤)</td><td>事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来とSDGs	科目全体のガイダンス (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 1・3・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・1・7] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・1・6] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 1・5] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第 5 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・1・2] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 1・1] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 1・1] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	9	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・1・1] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	10	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	11	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	12	産業連関分析	淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	13	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 1・7] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	14	滋賀県朽木地域の森林利用の変遷	淀川源流の森はどのように変化してきたのか? [関連 SDG 1・5] (担当: 手代木功基)	事前: 教科書[第 3 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認	15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・1・2] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来とSDGs	科目全体のガイダンス (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 1・3・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・1・7] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・1・6] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 1・5] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第 5 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・1・2] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 1・1] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 1・1] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
9	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・1・1] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
10	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
11	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
12	産業連関分析	淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
13	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力を発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 1・7] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
14	滋賀県朽木地域の森林利用の変遷	淀川源流の森はどのように変化してきたのか? [関連 SDG 1・5] (担当: 手代木功基)	事前: 教科書[第 3 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認																																																																
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・1・2] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む																																																																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>(仮題) SDGs で読み解く淀川流域—近畿の水源地から地球の未来を考えよう</td><td>後藤和子・鳥谷部壤編著</td><td>昭和堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(仮題) SDGs で読み解く淀川流域—近畿の水源地から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤編著	昭和堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	(仮題) SDGs で読み解く淀川流域—近畿の水源地から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤編著	昭和堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	第 2 回目～15 回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点) と、期末のレポート (30 点) の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、																																																																		

	いずれか1つを選択し、A4 2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生への メッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいる SDGs について、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となっても、この経験はきっと役に立つはず。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の 研究室等	1号館7階 後藤研究室
備考	SDGs の 17 の目標とその内容は次の通り。SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG3（すべての人に健康と福祉を）、SDG4（質の高い教育をみんなに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG6（安全な水とトイレを世界中に）、SDG7（エネルギーをみんなに そしてクリーンに）、SDG8（働きがいも経済成長も）、SDG9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任 つかう責任）、SDG13

科目名	脳の情報処理	科目名 (英文)	Computing in Brain
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科:B △C 科: II ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	人間の知的活動の中核である脳における諸機能の理解を通して、認識、思考、判断、注意などの人間の諸活動に関わる基礎知識を獲得し、専門分野に活かす。			
到達目標	脳における情報処理の基礎事項の理解とそれらを自身の生活に活かすこと。			
授業方法と留意点	当面はリモート形式で実施しますが、状況により変更の可能性はあります。 初回の授業で、Teams の会議にて授業の受講方法についてアナウンスしますので、受講希望者は必ず参加してください。 毎回、関連映像を視聴し、講義内でミニッツペーパーおよび質問作成して提出する。復習のための課題レポートの提出を必要とする。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	脳について学習する上で知っておくべき用語や概念を説明する	課題レポートを仕上げる
	2	脳の構造	大脳は頭部にある様々な器官と連携してはたらいっている。それぞれの器官の構造と役割を概説する	課題レポートを仕上げる
	3	学習： シナプスと可塑性	脳による認識・記憶・学習の基本となる神経細胞のシナプスにおける信号伝達の変化(可塑性)について概説する	課題レポートを仕上げる
	4	視覚	感覚情報の大部分を占める視覚の情報処理について概説する	課題レポートを仕上げる
	5	錯視・錯覚	認識戦略におけるわれわれの積極的な推測による副作用である錯視や錯覚から、人間の認識手法を知る	課題レポートを仕上げる
	6	男女の脳	生理学的な脳の男女の差から男女の心理行動の違いについて考える	課題レポートを仕上げる
	7	注意と選択	認識をはじめとする脳の情報処理は、意識の注がれるところに集中的に作用する。その現象を説明する	課題レポートを仕上げる
	8	聴覚と言語	コミュニケーションや情緒の表現に使用される音楽や音声の取扱いの違いや意味の取扱いが、いかになされるかを概説する	課題レポートを仕上げる
	9	感覚の連合	複数の感覚からひとつの概念が形成されることを情報の流れを通じて説明する	課題レポートを仕上げる
	10	運動	大脳のさまざまな部位での情報処理と小脳および周辺器官の連携による、運動の生成および運動の学習について概説する	課題レポートを仕上げる
	11	思考と推論	高度に発達した人間の特徴のひとつである思考と推論について概説する	課題レポートを仕上げる
	12	構造と認知	ゲシュタルト心理等の構造の知覚および認知について概説する	課題レポートを仕上げる
	13	記憶	大脳と辺縁系による記憶の定着と再現のしくみについて概説する	課題レポートを仕上げる
	14	人間関係	人間の社会性における自他の区別や共通性、自我や感情について脳の機能を中心に考える	課題レポートを仕上げる
	15	総括	まとめ	期末試験に向けて復習する
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	MIND HACKS	Tom Stafford, Matt Webb	オライリー・ジャパン
	2			
	3			
評価方法（基準）	ミニッツペーパー等の平素の活動を含めた授業態度と課題レポート 60%、試験 40% を総合して判断する。			
学生へのメッセージ	誰もが有しており、最も身近な未知の高度情報処理機構である脳について、さまざまな角度から見ていきましょう。			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 寺内研究室			
備考	本人確認のため、メールで連絡する場合には大学のアドレスから送信してください。			

科目名	使えるデータサイエンス	科目名 (英文)	Useful Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 譲
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。 ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。 本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り
到達目標	この講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている (3) インタベンションや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる
授業方法と留意点	本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多岐にわたる教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。授業時間以外にも利用できるオンラインコンテンツ（履修者のみがアクセス可能）を使って、データサイエンスの利用シーンやビジネスに繋がる知識も学ぶ。 また、本科目では【履修学生を 50 人に限定】し、有償の e-Learning 教材を提供する。
科目学習の効果 (資格)	社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、Society 5.0 時代のデータの価値について C 科 伊藤教授、S 科 牧野准教授、久保准教授	e-Learning 教材:「第 1 回 データサイエンスとは」
	2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S 科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 2 回 社会で起きている変化」
	3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S 科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 9 回 データを読む (1)」
	4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 CEI 寺内准教授	e-Learning 教材:「第 11 回 データを説明する」
	5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S 科 橋本講師	e-Learning 教材:「第 10 回 データを読む (2)」
	6	オープンデータの収集と活用	RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W 科 植杉教授	e-Learning 教材:「第 3 回 社会で活用されているデータ」
	7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W 科 朝田准教授	e-Learning 教材:「第 12 回 データを扱う」
	8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S 科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 6 回 データ活用とは」
	9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S 科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 4 回 データ・AI の活用領域」
	10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S 科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 13 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (1)」
	11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S 科 牧野准教授	e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」
	12	社会の動きを見るデータ	経済社会データベース (学術データ) の便利な使い方	e-Learning 教材:「第 14 回 データ・AI を扱う上での留意事項 (2)」
	13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E 科 片田准教授	e-Learning 教材:「第 7 回 データ・AI 利活用の現場」
	14	普段の SNS 利用から法則を見つける	ノート PC によるフィールドワークノートづくり S 科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 8 回 データ・AI 利活用の最新動向」
	15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) C 科 伊藤教授、CEI 石井教授、S 科 牧野准教授、S 科 久保准教授	e-Learning 教材:「第 15 回 データを守る上での留意事項とまとめ」

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AI・データサイエンス ～リテラシーレベル～ e-learning 教材 (受講者のみ利用可能)	三谷慶一郎	

	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業での課題 50%、e-Learning 教材 40%、事前事後の学修進展度（アンケート） 5%、学修ノート 5%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。			
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。			
担当者の 研究室等	1 号館 3 階 伊藤教授室、11 号館 7 階 久保准教授室、牧野准教授室、11 号館 10 階 寺内准教授室、11 号館 8 階 橋本講師室、1 号館 7 階 植杉教授室、朝田准教授室、1 号館 4 階 片田准教授室、7 号館 5 階 石井教授室			
備考				

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・久保 廣正・白鳥 武・田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科: A◎A 科: A◎M 科: A1○E 科: B △C 科: II ◎L 科: DP2◎D 科: DP1◎S 科: DP1◎J 科: DP1◎W 科: DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科: R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDG s（持続可能な開発目標）とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDG s の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、経済学、環境工学、建築			
到達目標	(1)世界の目標 SDGs(2030 年までの世界の目標)について知り、説明と討議をすることができる。 (2)現代世界の課題について知り、SDGs との関係を説明することができる。 (3)課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4)自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。			
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使するので、極めて密度の高い授業となります。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、主としてグループワークにより課題に取り組みます。授業最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料はフラットファイルを用いて管理してもらいます。 学生は対面授業かオンライン授業を選択して			
科目学習の効果（資格）	社会課題を議論するための教養として SDGs（2030 年までの世界の目標）を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP 1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後：CHAP 1 を復習して、復習シートを作成する
	2	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 SDGs カードゲーム 振り返りシート	事前：CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
	3	SDGs とは何か	理解度確認テスト CHAP3 リレープレゼン、対話 リレープレゼン、対話 振り返りシート	事前：CHAP 3 を学び、ABD サマリを作成する
	4	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化とは」 https://www.youtube.com/watch?v=URSj7PA_ZwY ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 地球温暖化の現状と予測」 https://www.youtube.com/watch?v=JyFOa_Fo3Nk
	5	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 14, 15 を学び、ADB サマリを作成する 事前 2：下記動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 ・環境省「気候変動への挑戦 セクション 1 温暖化の影響へ適応するために」 https://www.youtube.com/watch?v=vQ2scQfpmkw
	6	地球共生デザインを考えるⅠ：少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 16、10（特に 10.2, 10.3）、5（特に 5.1, 5.2）、6（特に 6.3, 6.6）、11（11.1, 11.2）を学び、ADB サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.youtube.com/watch?v=kDz6h8ZhhnQ
	7	地球共生デザインを考えるⅡ：少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1：目標 16、10（特に 10.2, 10.3）、4（特に 4.5, 4.7）、6（特に 6.3, 6.6）、11（11.1, 11.2）を学び、ADB サマリを作成する 事前 2：以下の動画、資料等から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、図にまとめてみる。 https://www.ff-ainu.or.jp/web/learn/culture/history/files/syougakusei.pdf
	8	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1：目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
	9	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1：CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2：日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
	10	中間成果発表	理解度確認テスト プレゼンテーション 対話 振り返りシート	事前 1：ポスターの準備 事後：第 1 回レポート
	11	食糧安全保障 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示	事前 1：目標 2（2.4, 2.c）を学び、ABD サマリを作成する 事前 2：食料安全保障とバイオ燃料の関連性を理解する。（※日本語字幕を選択する。）

			振り返りシート	The State of Food Security and Nutrition in the World 2020 : https://www.youtube.com/watch?v=64KLUGzGxEQ&ab_channel=FoodandAgricultureOrganizationoftheUnitedNations Introduction t
	12	食糧安全保障 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1 : 目標 : 2 (2.4, 2.c) を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : フードロスとその日本の現状について理解する。 (※日本語字幕を選択する。) REDUCE THE FOOD LOSS : https://www.youtube.com/watch?v=60rb07dGHNQ&ab_channel=Cauz.jp, London's rubbish problem : https://www.youtube.com/watch?v=ccR2zK6yn8o&ab_channel=BBCLondon
	13	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1 : 目標 : 8, 9, 12, 17 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : ESG 投資とは何かを理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=IZJSFYtfCFE https://www.youtube.com/watch?v=9oIVX_sd76c
	14	SDGs と ESG 投資 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : CHAP5 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : SDGs 達成のために ESG 投資が果たす役割について理解する。 https://www.youtube.com/watch?v=VnCeFZYVPY8&t=436s https://www.youtube.com/watch?v=f71tA61EpUc
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前 : SDGs1-17 の復習
関連科目				
摂南大学で開講されている科目のすべて				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「SDGs の考え方と取り組みが、これ一冊で しっかりわかる教科書」(1680 円＋税)	バウンド	技術評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	・理解度確認クイズ (個人 : 10%) ・事前・事後学習課題・ABD サマリ (個人 : 15%) ・取組み姿勢 (チーム : 20%) ・成果発表・プレゼンテーション 2 回 (チーム : 20%) ・振り返りシート (個人 : 10%)、・レポート 2 回 (個人 : 20%)、・授業資料管理 (個人 : 5%) ※以上の合計で 60%以上の学生を合格とする。また、出席率 80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。			
学生への メッセージ	この授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	大塚教授 (薬学部 11 号館 5F)、久保副学長 (7 号館 8F)、伊藤教授 (1 号館 3F)、喜多教授 (農学部 1 8 号館 2F)、白鳥准教授 (1 2 号館 7 階)、佐藤准教授 (1 号館 3F)、田中講師 (1 号館 7F)、横山講師 (総合体育館 1F)			
備考	この科目はアクティブラーニング入学式〜キックオフセミナー〜大学教養入門〜大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。			

科目名	まちづくり入門	科目名 (英文)	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動が続いている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。																																																																		
到達目標	(1) まちづくりの課題を多面的に理解できる (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている																																																																		
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多様な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる気持ちを含養する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>大学がまちづくりに関わる意義</td><td>オリエンテーション 教務部長 C 科 伊藤教授</td><td>事前: シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後: 学修ポイントに合った計画の提出</td></tr> <tr> <td>2</td><td>国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)</td><td>社会変化とまちづくり 大手前大学 坂倉孝雄 准教授 (前 経済産業省)</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)</td><td>都市計画とまちづくり C 科 熊谷教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)</td><td>交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方プロジェクト推進室 部長 大浅田 寛 氏 他</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>5</td><td>国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)</td><td>都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 (元堺市副市長、元大阪市都市計画局長)</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>民間団体が関わるまちづくり (1)</td><td>産業とまちづくり W 科 野長瀬教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>7</td><td>民間団体が関わるまちづくり (2)</td><td>商業とまちづくり S 科 久保准教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>民間団体が関わるまちづくり (3)</td><td>空き家とまちづくり R 科 稲地准教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>9</td><td>民間団体が関わるまちづくり (4)</td><td>観光とまちづくり W 科 野村教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)</td><td>まちづくりの担い手としての市民 J 科 増田講師</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>11</td><td>市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)</td><td>福祉とまちづくり CEI 上野山講師</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)</td><td>文化資源とまちづくり L 科 古矢講師</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)</td><td>歴史・文化とまちづくり A 科 加嶋教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)</td><td>防災とまちづくり A 科 池内教授</td><td>授業担当者から指示する</td></tr> <tr> <td>15</td><td>大学生がまちづくりで担う役割</td><td>グループ発表、討論会 教務部長 C 科 伊藤教授</td><td>事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	大学がまちづくりに関わる意義	オリエンテーション 教務部長 C 科 伊藤教授	事前: シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後: 学修ポイントに合った計画の提出	2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	社会変化とまちづくり 大手前大学 坂倉孝雄 准教授 (前 経済産業省)	授業担当者から指示する	3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	都市計画とまちづくり C 科 熊谷教授	授業担当者から指示する	4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方プロジェクト推進室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する	5	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 (元堺市副市長、元大阪市都市計画局長)	授業担当者から指示する	6	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり W 科 野長瀬教授	授業担当者から指示する	7	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり S 科 久保准教授	授業担当者から指示する	8	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり R 科 稲地准教授	授業担当者から指示する	9	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり W 科 野村教授	授業担当者から指示する	10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 J 科 増田講師	授業担当者から指示する	11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり CEI 上野山講師	授業担当者から指示する	12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	文化資源とまちづくり L 科 古矢講師	授業担当者から指示する	13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり A 科 加嶋教授	授業担当者から指示する	14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり A 科 池内教授	授業担当者から指示する	15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表、討論会 教務部長 C 科 伊藤教授	事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	大学がまちづくりに関わる意義	オリエンテーション 教務部長 C 科 伊藤教授	事前: シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後: 学修ポイントに合った計画の提出																																																																
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	社会変化とまちづくり 大手前大学 坂倉孝雄 准教授 (前 経済産業省)	授業担当者から指示する																																																																
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	都市計画とまちづくり C 科 熊谷教授	授業担当者から指示する																																																																
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方プロジェクト推進室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する																																																																
5	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	都心とまちづくり 大阪市立大学大学院都市経営研究科 佐藤 道彦 教授 (元堺市副市長、元大阪市都市計画局長)	授業担当者から指示する																																																																
6	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり W 科 野長瀬教授	授業担当者から指示する																																																																
7	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり S 科 久保准教授	授業担当者から指示する																																																																
8	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり R 科 稲地准教授	授業担当者から指示する																																																																
9	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり W 科 野村教授	授業担当者から指示する																																																																
10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 J 科 増田講師	授業担当者から指示する																																																																
11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり CEI 上野山講師	授業担当者から指示する																																																																
12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	文化資源とまちづくり L 科 古矢講師	授業担当者から指示する																																																																
13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり A 科 加嶋教授	授業担当者から指示する																																																																
14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり A 科 池内教授	授業担当者から指示する																																																																
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表、討論会 教務部長 C 科 伊藤教授	事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	各回の事後レポート																																																																		
学生へのメッセージ	ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。																																																																		
担当者の研究室等	1 号館 3 階 伊藤教授室、1 号館 4 階 熊谷教授室、11 号館 7 階 久保准教授室																																																																		
備考																																																																			

科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科: A◎A 科: A◎M 科: A1○E 科: B △C 科: II ◎L 科: DP2◎D 科: DP1◎S 科: DP1◎J 科: DP1◎W 科: DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科: R 科: A 科: M 科: E 科: C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科: S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2 回生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。 なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 学科の学習・教育目標との対応：工学部 [A], 理工学部 [II]																																																																		
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。 なお、講義は対面講義と Teams によるリアルタイム講義の同時進行で行う。 各自の事情や希望に合わせて受講形式を選択すること（受講形式固定する必要はない）。 対面講義で受講する場合は初回の教室で、Teams で受講する場合は 9pwmqp6 からクラスに入り、講義日のチャネルから受講すること。 また、対面とウェブのそれぞれの人数の状況を確認してからチーム分けを実施する。																																																																		
科目学習の効果（資格）	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か を理解する</td><td>事前学習：本科目のシラバスを精読し、自身が学びたいことをまとめること（2 時間） 事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>グループ分けを自己紹介</td><td>・グループ分け ・自己紹介ワーク</td><td>事前学習：自己紹介の内容を考えること（2 時間） 事後学習：チームにどのように貢献できるかを考える。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>チームビルディングの理論を学ぶ</td><td>・チームビルディングの理論を学ぶ</td><td>事後学習：講義資料を熟読すること（2 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>チームビルディング体験①</td><td>・コンセンサスゲーム ・チームの 10 箇条</td><td>事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（2 時間） 事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返ること（2 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>チームビルディング体験②</td><td>チームで推理クロスに挑む</td><td>事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（2 時間） 事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返ること（2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>チームにおけるリーダーとフォロワーの役割</td><td>・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける</td><td>事前学習：今で出会ったリーダーについて思い出し、レポートを作成すること（2 時間） 事後学習：講義資料を熟読し、自身のリーダーシップの発揮の仕方について考えること（2 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>話し合う技術①</td><td>・GD に関する知識を学ぶ</td><td>事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる（3 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>話し合う技術②</td><td>・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ</td><td>事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる（3 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>組織で学習するためのチームづくり</td><td>・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ</td><td>事前学習：チームにどのように貢献できるかを考えること（2 時間） 事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>情報の読み取りと活用</td><td>・チームで改善計画を考える</td><td>事後学習：講義資料を熟読すること（2 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>1 チームで課題解決に挑む</td><td>・チームでニッポンの課題の解決策を考える</td><td>事前学習：チームにどのように貢献できるかを考えること（2 時間） 事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>チームで企画する</td><td>・チームで学生提案の PBL プロジェクトを企画する</td><td>事前学習：摂南大学 PBL プロジェクトについて調べること（2 時間） 事後学習：チームでワークに取り組むこと（5 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>チームでワークに取り組む①</td><td>・チームで地域創生のワークに取り組む</td><td>事後学習：チームで発表をする準備をすること（3 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>チームでワークに取り組む②</td><td>・チームで地域創生のワークに取り組む</td><td>事後学習：チームで発表をする準備をすること（3 時間） 事後学習：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること（2 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義のまとめと振り返り</td><td>講義のおさらいと振り返りを行う</td><td>事前学習：提出物などの出し忘れがないか確認する。（1 時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（2 時間）、期末レポートを作成すること（4 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か を理解する	事前学習：本科目のシラバスを精読し、自身が学びたいことをまとめること（2 時間） 事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2 時間）	2	グループ分けを自己紹介	・グループ分け ・自己紹介ワーク	事前学習：自己紹介の内容を考えること（2 時間） 事後学習：チームにどのように貢献できるかを考える。（2 時間）	3	チームビルディングの理論を学ぶ	・チームビルディングの理論を学ぶ	事後学習：講義資料を熟読すること（2 時間）	4	チームビルディング体験①	・コンセンサスゲーム ・チームの 10 箇条	事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（2 時間） 事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返ること（2 時間）	5	チームビルディング体験②	チームで推理クロスに挑む	事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（2 時間） 事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返ること（2 時間）	6	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	事前学習：今で出会ったリーダーについて思い出し、レポートを作成すること（2 時間） 事後学習：講義資料を熟読し、自身のリーダーシップの発揮の仕方について考えること（2 時間）	7	話し合う技術①	・GD に関する知識を学ぶ	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる（3 時間）	8	話し合う技術②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる（3 時間）	9	組織で学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	事前学習：チームにどのように貢献できるかを考えること（2 時間） 事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2 時間）	10	情報の読み取りと活用	・チームで改善計画を考える	事後学習：講義資料を熟読すること（2 時間）	11	1 チームで課題解決に挑む	・チームでニッポンの課題の解決策を考える	事前学習：チームにどのように貢献できるかを考えること（2 時間） 事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2 時間）	12	チームで企画する	・チームで学生提案の PBL プロジェクトを企画する	事前学習：摂南大学 PBL プロジェクトについて調べること（2 時間） 事後学習：チームでワークに取り組むこと（5 時間）	13	チームでワークに取り組む①	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学習：チームで発表をする準備をすること（3 時間）	14	チームでワークに取り組む②	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学習：チームで発表をする準備をすること（3 時間） 事後学習：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること（2 時間）	15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	事前学習：提出物などの出し忘れがないか確認する。（1 時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（2 時間）、期末レポートを作成すること（4 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か を理解する	事前学習：本科目のシラバスを精読し、自身が学びたいことをまとめること（2 時間） 事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2 時間）																																																																
2	グループ分けを自己紹介	・グループ分け ・自己紹介ワーク	事前学習：自己紹介の内容を考えること（2 時間） 事後学習：チームにどのように貢献できるかを考える。（2 時間）																																																																
3	チームビルディングの理論を学ぶ	・チームビルディングの理論を学ぶ	事後学習：講義資料を熟読すること（2 時間）																																																																
4	チームビルディング体験①	・コンセンサスゲーム ・チームの 10 箇条	事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（2 時間） 事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返ること（2 時間）																																																																
5	チームビルディング体験②	チームで推理クロスに挑む	事前学習：自身のチームへの貢献の仕方について考えること（2 時間） 事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返ること（2 時間）																																																																
6	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	事前学習：今で出会ったリーダーについて思い出し、レポートを作成すること（2 時間） 事後学習：講義資料を熟読し、自身のリーダーシップの発揮の仕方について考えること（2 時間）																																																																
7	話し合う技術①	・GD に関する知識を学ぶ	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる（3 時間）																																																																
8	話し合う技術②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる（3 時間）																																																																
9	組織で学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	事前学習：チームにどのように貢献できるかを考えること（2 時間） 事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2 時間）																																																																
10	情報の読み取りと活用	・チームで改善計画を考える	事後学習：講義資料を熟読すること（2 時間）																																																																
11	1 チームで課題解決に挑む	・チームでニッポンの課題の解決策を考える	事前学習：チームにどのように貢献できるかを考えること（2 時間） 事後学習：講義で配付された資料を見直すこと（2 時間）																																																																
12	チームで企画する	・チームで学生提案の PBL プロジェクトを企画する	事前学習：摂南大学 PBL プロジェクトについて調べること（2 時間） 事後学習：チームでワークに取り組むこと（5 時間）																																																																
13	チームでワークに取り組む①	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学習：チームで発表をする準備をすること（3 時間）																																																																
14	チームでワークに取り組む②	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学習：チームで発表をする準備をすること（3 時間） 事後学習：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること（2 時間）																																																																
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	事前学習：提出物などの出し忘れがないか確認する。（1 時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（2 時間）、期末レポートを作成すること（4 時間）																																																																
関連科目	・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。			
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター（水野研究室）			
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科: A◎A 科: A◎M 科: A1◎E 科: B △C 科: II ◎L 科: DP2◎D 科: DP1◎S 科: DP1◎J 科: DP1◎W 科: DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科: R 科: A 科: M 科: E 科: C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科: S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。 容認することが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・2019 年度までの入学生で「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」を取得希望者にとっては、「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1 時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3 時間)
	2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修: 私たちの周りにある伝統や習慣について考えること (2 時間) ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること (2 時間)
	3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち 6 名に関して調査	・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2 時間) ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること (2 時間)
	4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション	・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2 時間) ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること (2 時間)
	5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2 時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2 時間)
	6	性役割の形成	・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デート DV ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違	・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2 時間) ・事後学修: 中間発表用レポート作成 (2 時間)
	7	中間発表	・興味のあるテーマに関して、個人発表を行う。	・事前学修: 中間発表準備 (2 時間) ・事後学修: 中間発表レポート手直し (2 時間)
	8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M 字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化	・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2 時間) ・事後学修: M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2 時間)
	9	男女共同参画社会とワークライフバランス	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること (2 時間) ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること (2 時間)
	10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2 時間) ・事後学修: アサーティブに話す練習をすること (2 時間)
	11	アサーティブネス理論②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2 時間) ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成すること (2 時間)
	12	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解する	・事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2 時間) ・事後学修: 一つの課題を発見し、その解決策の提案についてまとめ、レポートを作成すること (2 時間)
	13	ダイバーシティマネジメント	・企業比較から政策提言へ	・事前学修: 企業が必ず取り入れているダイバーシ

		ト①		ティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間）																
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）																
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）																
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>共に学ぶ女性学</td><td>石井三恵</td><td>泉文堂</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>ジェンダーで学ぶ社会学</td><td>伊藤公男</td><td>世界思想社</td></tr><tr><td>2</td><td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td><td>木村 涼子 他</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr><tr><td>3</td><td>性と法律</td><td>角田 由紀子</td><td>岩波新書</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社																	
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房																	
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書																	
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	グローバル・シチズンシップ論（入門）	科目名（英文）	Global Citizenship (Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。当該副専攻課程を履修する最初の学期に履修することが望ましい。 受講者は、グローバル・シチズンシップ (GC) およびグローバル・シチズンシップ教育 (GCED) の基礎的な概念を理解し、これらの概念が必要とされるに至ったグローバルな歴史的背景と、現在まで続く課題について、基礎的な知識を獲得する。また獲得した知識と理解について、日本語および簡単な英語でアウトプットできるようになることを目指す。 この授業は、GC と GCED に＜ついて＞の授業である			
到達目標	「グローバル・シチズンシップ」および「グローバル・シチズンシップ教育」が現在の国際社会においてどのように定義づけられているか、なぜそうした概念や教育活動が必要とされるようになったのかを説明できる。 - 背景にある国境を越えた社会課題について、具体例をいくつか挙げながら説明できる。 - 事前に準備をすれば、上記の説明を日本語だけでなく、平易な英語を用いて行うことができる。			
授業方法と留意点	- いわゆる「実習」ではなく、知識と理解を身につけることを主目標とする授業であるが、アクティビティ・ラーニングは GCED の根幹である。教員からの一方の情報伝達は最小限に留め、受講する学生が自ら資料を読み、考え、他の学生および教員と対話しながら知識をつけ、理解を深めてゆく。学生には、自律的な予習と復習、情報検索やファクトチェック、ディスカッションと質疑への積極的な参加が求められる。 - 教員によるファシリテーション、学生の質疑やディスカッションなどは原則として日本語で行うが、GC 副専攻の海外実習や EMI (Eng			
科目学習の効果（資格）	TOEIC、TOEFL、IELTS、英検、国連英検等			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション（1）	オリエンテーション、受講上の注意、スケジュール確認ほか	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	2	イントロダクション（2）	チーム・ビルディング	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	3	イントロダクション（3）	「グローバル・シチズンシップ」の概念について、テキスト概観	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	4	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利（1）	市民性 (citizenship)、主権者教育 (citizenship education)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	5	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利（2）	人権 (human rights)、世界人権宣言 (Universal Declaration of Human Rights, 1948)、SDGs、政治弾圧 (repression)、難民 (refugees, asylum seekers)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	6	グローバル・シチズンシップと人権、政治的権利（3）	政治的権利 (political rights)、参政権 (suffrage, voting rights)、反植民地主義運動 (anti-colonial movements)、アイデンティティ政治 (identity politics)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	7	グローバル・シチズンシップと経済的権利（1）	経済的権利 (economic rights)、労働問題 (labor issues)、公正かつ平等な賃金 (fair and equal wages)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	8	グローバル・シチズンシップと経済的権利（2）	児童労働 (child labor)、人身売買 (human trafficking)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	9	グローバル・シチズンシップと経済的権利（3）	企業利益 (corporate interests)、オフショアリング (offshoring)、アウトソーシング (outsourcing)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	10	グローバル・シチズンシップと文化（1）	グローバル化 (globalization)、均質化 (homogenization)、文化的権利 (cultural rights)、多様性 (diversity)、ハイブリディティ (hybridity)、摩擦 (conflict)、ナショナリズム (nationalism)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	11	グローバル・シチズンシップと文化（2）	日本における外国人労働者 (foreign workers)、技能実習生 (technical intern trainees)、難民 (refugees)、留学生 (international students)、日本語教育、多文化共生 (multicultural symbiosis)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	12	グローバル・シチズンシップと文化（3）	多様性 (diversity)、多文化主義 (multiculturalism)、普遍的な人権 (universal human rights)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	13	グローバル・シチズンシップと環境問題 ゲスト・レクチャー（1）	問題解決への事例（1）西アフリカ半乾燥地での砂漠化とその対処法 関連するキーワード：砂漠化 (desertification)、土地荒廃 (land degradation)、貧困削減 (poverty alleviation)、異常気象／極端気象 (extreme weather)、水不足 (water scarcity)	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。
	14	グローバル・シチズンシップと環境問題 ゲスト・レクチャー（2）	問題解決への事例（2）東アフリカ山間地域における人々の暮らしの向上と生態系保全の両立 関連するキーワード：森林破壊 (deforestation)、土地荒廃 (land degradation)、貧困削減 (poverty	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。

			alleviation)、生物多様性 (biodiversity)																	
	15	総括	授業全体の振り返りワーク	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックを行う。																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】</td><td>Julie Knutson</td><td>Nomad Press</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	平常評価 80%（小テスト、平常の提出物、グループワークや質疑への貢献を総合的に評価する） プレゼンテーション課題 20%（作成過程を含む）																			
学生へのメッセージ	グローバル・シチズンシップ副専攻、今年度より本格始動します。価値ある学びの場を一緒につくりましょう。																			
担当者の研究室等	2号館2階グローバル教育センター																			
備考	指定された教材の読解、閲覧、予習・復習課題を行い、情報検索、ファクトチェックにかかる時間、自発的な英語のトレーニングや、グローバル教育センター主催の学習イベントに参加する時間等も全て合算し、週平均で4時間程度、総計で60時間程度の授業外学修時間を確保すること																			

科目名	グローバル・シチズンシップ論（応用）	科目名（英文）	Global Citizenship（Advanced）
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー（DP）			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, P 科：YT01423a2～YT01427a2, J 科：JT01374a～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1, N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	グローバル・シチズンシップ副専攻課程修了のための必修科目である。グローバル・シチズンシップ論（入門）履修後に履修することが望ましい。 本科目はグローバル・シチズンシップ論（入門）で学んだ知識や概念等をもとに、日本国内における社会課題（多文化共生、外国人労働者、SDG s など）に焦点を当て、グローバルとローカルのつながりについて学ぶものである。授業自体がグローバル・シチズンシップ教育の一環であり、受講者自身が授業を通じ体験的に学び、実践者として行動していく姿勢が求められる。																																																																		
到達目標	・日本国内における社会課題について、歴史的背景、現状等が理解できる ・さまざまな分野での実践者の経験から、実践上の留意点を理解できる ・身近にある社会課題について分析し、課題解決の方策の提案ができる																																																																		
授業方法と留意点	・いわゆる一方的な講義ではなく、学んだことをもとにグループでディスカッションしたり、関心のある課題について調査、発表するなど、主体的に取り組む形式が多い。 ・取り扱う課題により、外部講師を招聘し、実践に関する講義やワークショップ等も実施する。 ・本科目は2021年度後期90分授業x2・3コマの集中講義で実施される予定である。詳細なスケジュールは決定次第、ポータルサイト等で連絡をする。 初回授業以降は担当教員からの連絡を常に受け取れるようにしておく必要がある。 ・その他、履修にあたって不明																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>2</td><td>グローバルとローカルのつながり（1）消費社会</td><td>エシカル消費について</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>3</td><td>グローバルとローカルのつながり（2）消費社会</td><td>ゲスト・レクチャー、ワークショップ</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>4</td><td>グローバルとローカルのつながり（3）消費社会</td><td>まとめ、発表</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>5</td><td>グローバルとローカルのつながり（4）日本における多文化共生</td><td>日本における多文化共生の歴史、課題等</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>6</td><td>グローバルとローカルのつながり（5）日本における多文化共生</td><td>ゲストレクチャー、ワークショップ 日本における多文化共生 多文化共生マネージャーの取り組み</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>7</td><td>グローバルとローカルのつながり（6）日本における多文化共生</td><td>外国にルーツを持つ子どもの課題と支援</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>8</td><td>グローバルとローカルのつながり（7）日本における多文化共生</td><td>災害時の外国人支援</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>9</td><td>グローバルとローカルのつながり（8）日本における多文化共生</td><td>多様性教育</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>10</td><td>グローバルとローカルのつながり（9）日本における多文化共生</td><td>まとめ、発表</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>11</td><td>グローバルとローカルのつながり（10）SDG s</td><td>SDG s と身近な生活のつながり</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>12</td><td>グローバルとローカルのつながり（11）SDG s</td><td>ゲストスピーカー、ワークショップ</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>13</td><td>グローバルとローカルのつながり（12）SDG s</td><td>まとめ、発表</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>14</td><td>プレゼンテーション（1）</td><td>1回～13回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> <tr> <td>15</td><td>プレゼンテーション（2）</td><td>1回～13回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする</td><td>指定された教材の読解、課題を行う</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ	指定された教材の読解、課題を行う	2	グローバルとローカルのつながり（1）消費社会	エシカル消費について	指定された教材の読解、課題を行う	3	グローバルとローカルのつながり（2）消費社会	ゲスト・レクチャー、ワークショップ	指定された教材の読解、課題を行う	4	グローバルとローカルのつながり（3）消費社会	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う	5	グローバルとローカルのつながり（4）日本における多文化共生	日本における多文化共生の歴史、課題等	指定された教材の読解、課題を行う	6	グローバルとローカルのつながり（5）日本における多文化共生	ゲストレクチャー、ワークショップ 日本における多文化共生 多文化共生マネージャーの取り組み	指定された教材の読解、課題を行う	7	グローバルとローカルのつながり（6）日本における多文化共生	外国にルーツを持つ子どもの課題と支援	指定された教材の読解、課題を行う	8	グローバルとローカルのつながり（7）日本における多文化共生	災害時の外国人支援	指定された教材の読解、課題を行う	9	グローバルとローカルのつながり（8）日本における多文化共生	多様性教育	指定された教材の読解、課題を行う	10	グローバルとローカルのつながり（9）日本における多文化共生	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う	11	グローバルとローカルのつながり（10）SDG s	SDG s と身近な生活のつながり	指定された教材の読解、課題を行う	12	グローバルとローカルのつながり（11）SDG s	ゲストスピーカー、ワークショップ	指定された教材の読解、課題を行う	13	グローバルとローカルのつながり（12）SDG s	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う	14	プレゼンテーション（1）	1回～13回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする	指定された教材の読解、課題を行う	15	プレゼンテーション（2）	1回～13回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする	指定された教材の読解、課題を行う
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業概要、受講方法、注意点の確認 日本におけるグローバルシチズンシップ	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
2	グローバルとローカルのつながり（1）消費社会	エシカル消費について	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
3	グローバルとローカルのつながり（2）消費社会	ゲスト・レクチャー、ワークショップ	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
4	グローバルとローカルのつながり（3）消費社会	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
5	グローバルとローカルのつながり（4）日本における多文化共生	日本における多文化共生の歴史、課題等	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
6	グローバルとローカルのつながり（5）日本における多文化共生	ゲストレクチャー、ワークショップ 日本における多文化共生 多文化共生マネージャーの取り組み	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
7	グローバルとローカルのつながり（6）日本における多文化共生	外国にルーツを持つ子どもの課題と支援	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
8	グローバルとローカルのつながり（7）日本における多文化共生	災害時の外国人支援	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
9	グローバルとローカルのつながり（8）日本における多文化共生	多様性教育	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
10	グローバルとローカルのつながり（9）日本における多文化共生	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
11	グローバルとローカルのつながり（10）SDG s	SDG s と身近な生活のつながり	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
12	グローバルとローカルのつながり（11）SDG s	ゲストスピーカー、ワークショップ	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
13	グローバルとローカルのつながり（12）SDG s	まとめ、発表	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
14	プレゼンテーション（1）	1回～13回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
15	プレゼンテーション（2）	1回～13回の授業をもとに、自分たちのできることを考え、プレゼンテーションをする	指定された教材の読解、課題を行う																																																																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ海外実習、摂南大学 PBL プロジェクトなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名																																																												
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常評価 60% (平常の提出物、課題への取り組み等総合的に評価) プレゼンテーション課題 40% (作成過程を含む)			
学生への メッセージ	身近な場所で自ら行動が起こせるきっかけになればと思っています。受講生同士の関わりからも多くのことも学んでもらいたいと思いますので、積極的に参加してください。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名 (英文)	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1~TT01465a1, L 科: LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1~IT01375a1, P 科: YT01423a2~YT01427a2, J 科: JT01374a~JT01378a1, W 科: WT01352a1~WT01356a1, N 科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have le
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire pr
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
	2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
	3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
	4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
	5	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of equality
	6	War and peace Invited speaker (date might change)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of historical events related to war
	7	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	8	Midterm exam: group presentations	Group presentations	
	9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	10	Economic justice	Lecture, pair work, group work Online or offline video communication with students abroad (date might change)	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
	11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues
	12	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global environmental issues
	13	Cultural rights	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local culture
	14	Cultural rights	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of foreign cultures
	15	Final exam - group presentations	Group presentations	

関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Midterm group presentation: 20% Final group presentation: 20%			
学生への メッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other. We will be working with three groups of students in the United States to learn together on topics related to global citizenship. Please be prepared to work ha			
担当者の 研究室等	2号館2階グローバル教育センター（旧：国際交流センター）			
備考				

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 譲・久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TKY1458a1, L 科 : LKY1360a1, D 科・S 科 : IKY1367a1, P 科 : YTO1423a2～YTO1427a2, J 科 : JKY1369a1, W 科 : WKY1348a1, N 科 : NKY1349a1, AC 科・AB 科・AF 科・AE 科 : OHU0401a2		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABD による読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDG s と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方向的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果（資格）	学生は対面授業かオンライン授業を選 大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。 学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	事前学習：「おとなの教養」第二章を読む(1.5 時間以上)
	2	教養入門：「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習：「おとなの教養」第三章を読む(1.5 時間以上)
	3	教養入門：第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習：「おとなの教養」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
	4	教養入門：第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習：「おとなの教養」第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
	5	教養入門：第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上)
	6	教養入門：中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習：第 1 回レポート 事前学習：SDG s とは何か、指定した資料を調べる (3 時間以上)
	7	世界を知る教養：国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習：SDG s とは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5 時間以上)
	8	世界を知る教養：国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習：UNAI とは何かを調べる (1.5 時間以上)
	9	世界を知る教養：国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習：第 2 回レポート 事前学習：「アドラー心理学」第一章を読み事前学習シートを作成する(2 時間以上)
	10	自分を知る教養：岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習：「アドラー心理学」第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
	11	自分を知る教養：岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習：「アドラー心理学」第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
	12	自分を知る教養：第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習：「アドラー心理学」第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5 時間以上)
	13	自分を知る教養：第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上)
	14	自分を知る教養：中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習：第 3 回レポート (2 時間以上)
	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」	事後学習：第 4 回レポート

		事後アンケート	(2 時間以上)																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>おとなの教養</td><td>池上彰</td><td>NHK 出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td>アドラー心理学入門</td><td>岸見一郎</td><td>KK ベストセラーズ</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版																
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	・取り組み姿勢 (チーム : 20%) ・中間発表・まとめ (チーム : 20%) ・レポート 4 回 (個人 : 20%) ・振り返りシート (個人 : 15%) ・理解度確認クイズ (個人 : 15%) ・事前学習シート (個人 : 5%) ・授業資料の管理 (個人 : 5%) 以上の評価点の合計で 60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率 80%以上の学生を合格者の対象とする。																		
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部、学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																		
担当者の 研究室等	伊藤譲 (1 号館 3F), 久保貞也 (11 号館 7F), 石井三恵 (7 号館 5F), 大塚正人 (薬学部 1 号館 5F), 寺内睦博 (11 号館 10F), 佐井英子 (11 号館 6F), 瀬川智広 (スポ振)																		
備考	この科目は、入学式〜キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。																		

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 譲
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TKY1459a1, L 科 : LKY1361a1, D 科・S 科 : IKY1368a1, P 科 : YTO1423a2～YTO1427a2, J 科 : JKY1370a1, W 科 : WKY1349a1, N 科 : NTO1350a1～NTO1354a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2) ABD による読書法の基礎 (要約、プレゼンテーション、対話) を身に付けている。 (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。 (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6) テーマにそった対話 (感想、質疑応答) を行うことができる。 (7) 自主学習の習慣を身に付けている。
授業方法と留意点	授業の 7 回目まではオンラインで実施する。7 回目の時点で 8 回目以降を対面授業とするか判断する。授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説 (教科書、ABD とは) 協働学習 (p. 18-47: 要約、プレゼン、対話)、振り返りシート	『未来の年表』p. 48-79 を読み、事前学習シート (① 不明な用語を調べる、② 重要箇所を抜き出す) を作成する。(2 時間程度)
	2	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説 (振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書 p. 80-108 を読み、事前学習シートを作成する。
	3	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説 (事前学習シート)、確認試験 協働学習 (要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書 p. 109-146 を読み、事前学習シートを作成する。
	4	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説 (事前学習シート)、確認試験 協働学習 (要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	教科書第二部を読み、事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う (2 時間程度)
	5	教養としての社会の課題を知る: 中間発表 1 回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	『コロナ後の世界』第一章を読み、事前学習シート (要約) を作成する。 第 1 回レポート
	6	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み、事前学習シートを作成する。
	7	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	QFT (質問づくり) 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み、事前学習シートを作成する。
	8	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み、事前学習シートを作成する。
	9	教養としての社会の課題を知る:「コロナ後の世界」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う (2 時間程度)
	10	教養としての社会の課題を知る: 中間発表 2 回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート	「星の王子様」1～10 章を読み、事前学習シート (要約、感想) を作成する (2 時間程度) 第 2 回レポート
	11	教養としての社会の課題を知る:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書 11～20 章を読み、事前学習シートを作成する
	12	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書 21～27 章を読み、事前学習シートを作成する
	13	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習 (要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	教科書あとがきを読み、事前学習シートを作成する
	14	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習 (要約、プレゼン、対話)	ポスター・プレゼンの準備を行う (2 時間程度)

			QFT（中間発表のテーマ出し） 振り返りシート																	
	15	教養としての文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>未来の年表</td><td>河合雅司</td><td>講談社現代新書</td></tr><tr><td>2</td><td>星の王子様</td><td>サン＝テグジュペリ</td><td>新潮文庫</td></tr><tr><td>3</td><td>コロナ後の世界</td><td>大野和基（編）</td><td>文春新書</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書	2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書																	
2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	コロナ後の世界	大野和基（編）	文春新書																	
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 （基準）	・取り組み姿勢／ルーブリック（チーム：15%）、・ファイリング（個人：5%） ・ポスター発表（チーム：20%） ・レポート 3回（個人：30%）、・振り返りシート（個人：10%） ・理解度確認クイズ（個人：10%） ・事前学習シート（個人：10%） 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？																			
担当者の 研究室等	伊藤謙（1号館3F）、寺内睦博（11号館10F）、石井三恵（7号館5F）、上野山裕士（7号館3F）、水野武（7号館3F）、友枝恭子（5号館1F）、瀧（スボ振）																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎, R 科: A ◎, A 科: A ◎, M 科: A1 ○, E 科: B △, C 科: II ◎, L 科: DP2 ◎, D 科: DP1 ◎, S 科: DP1 ◎, P 科: DP8 △, J 科: DP1 ◎, W 科: DP1 ◎, N 科: DP1 ◎N: DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。																																																																		
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。																																																																		
授業方法と留意点	※リモート形式への移行により、教材・課題提供型にて実施します。 授業は基本的に数的能力をメインに学習します。授業は基本的に実践形式で、様々な問題を解いていきます。Input 量が多いので、予習・復習が大切です。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション・実力テスト</td><td>講座の目的・意義の確認、実力テスト</td><td>シラバスを熟読しておくこと(目安: 30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安: 30 分)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>数的思考①</td><td>方程式の活用</td><td>方程式を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>数的思考②</td><td>割合の活用①</td><td>割合を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>数的思考③</td><td>割合の活用②</td><td>割合を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>数的思考④</td><td>割合の活用③</td><td>割合を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>中テスト①・数的思考⑤</td><td>中テスト①・分数の活用</td><td>2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>数的思考⑥</td><td>速度の考え方①</td><td>速度算を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>数的思考⑦</td><td>速度の考え方②</td><td>速度算を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>数的思考⑧</td><td>場合の数と確率</td><td>場合の数・確率を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>数的思考⑨</td><td>集合の概念</td><td>集合を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>中テスト②・資料解釈</td><td>中テスト②・表の読み取り</td><td>6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論理推論①</td><td>順序推理</td><td>推論を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論理推論②</td><td>内訳・表・位置</td><td>推論を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>論理推論③</td><td>その他論理推論</td><td>推論を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>今までの問題の復習</td><td>全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2.5 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安: 30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安: 30 分)	2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)	3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)	4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)	5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)	6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2 時間)	7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)	8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)	9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)	10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)	11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2 時間)	12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)	13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)	14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2.5 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安: 30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安: 30 分)																																																																
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)																																																																
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)																																																																
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)																																																																
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)																																																																
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2 時間)																																																																
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)																																																																
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)																																																																
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)																																																																
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)																																																																
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2 時間)																																																																
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)																																																																
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)																																																																
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安: 30 分)・smartSPI の実施(目安: 30 分)																																																																
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安: 2.5 時間)																																																																
関連科目	コミュニケーション能力開発																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリジナル教材を使用</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	オリジナル教材を使用			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	オリジナル教材を使用																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (35%)、SmartSPI (15%)																																																																		
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター																																																																		
備考																																																																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものですので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。																																																																		
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。																																																																		
授業方法と留意点	11 月 4 日以降は対面形式で実施します。基本的に数的能力をメインに学習します。毎回オリジナル教材を用いて様々な問題を解いていきます。取り扱いテーマが広いので、予習・復習が大切です。 ※授業は対面で進行しますが Teams を連絡用に使い、Moodle で小テストやレポート提出を行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション・実力テスト</td><td>講座の目的意義の確認・実力テスト</td><td>シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>数的思考①</td><td>方程式の活用</td><td>方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>数的思考②</td><td>割合の活用① (割合の基礎と濃度算)</td><td>学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>数的思考③</td><td>割合の活用② (損益算の基礎と料金の割引)</td><td>学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>数的思考④</td><td>割合の活用③ (損益算の応用と代金の精算)</td><td>学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>数的思考⑤</td><td>分数の活用 (分割払いと仕事算)</td><td>学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>数的思考⑥</td><td>速度算の基本</td><td>学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>復習と中間テスト</td><td>今までの問題の復習と中間テスト</td><td>1～7 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>数的思考⑦</td><td>速度算の応用</td><td>学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>論理思考①</td><td>場合の数と確率</td><td>学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>論理思考②</td><td>集合の概念</td><td>学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論理思考③</td><td>表の読み取り</td><td>学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論理思考④</td><td>論理推論①</td><td>学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>論理思考⑤</td><td>論理推論②</td><td>学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>復習と期末テスト</td><td>今までの問題の復習と期末テスト</td><td>全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30 分)	2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	3	数的思考②	割合の活用① (割合の基礎と濃度算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	4	数的思考③	割合の活用② (損益算の基礎と料金の割引)	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	5	数的思考④	割合の活用③ (損益算の応用と代金の精算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	6	数的思考⑤	分数の活用 (分割払いと仕事算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	7	数的思考⑥	速度算の基本	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	8	復習と中間テスト	今までの問題の復習と中間テスト	1～7 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)	9	数的思考⑦	速度算の応用	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	10	論理思考①	場合の数と確率	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	11	論理思考②	集合の概念	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	12	論理思考③	表の読み取り	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	13	論理思考④	論理推論①	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	14	論理思考⑤	論理推論②	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	15	復習と期末テスト	今までの問題の復習と期末テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30 分)																																																																
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
3	数的思考②	割合の活用① (割合の基礎と濃度算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
4	数的思考③	割合の活用② (損益算の基礎と料金の割引)	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
5	数的思考④	割合の活用③ (損益算の応用と代金の精算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
6	数的思考⑤	分数の活用 (分割払いと仕事算)	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
7	数的思考⑥	速度算の基本	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
8	復習と中間テスト	今までの問題の復習と中間テスト	1～7 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)																																																																
9	数的思考⑦	速度算の応用	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
10	論理思考①	場合の数と確率	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
11	論理思考②	集合の概念	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
12	論理思考③	表の読み取り	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
13	論理思考④	論理推論①	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
14	論理思考⑤	論理推論②	学習内容を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
15	復習と期末テスト	今までの問題の復習と期末テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5 時間)																																																																
関連科目	コミュニケーション能力開発、数的能力開発																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>その他 SPI や玉手箱関連の問題集</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト 30%、中間テスト 20%、期末テスト 35%、SmartSPI 15% その他授業態度などで加減します。																																																																		
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学が楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していただく。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター																																																																		
備考																																																																			

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の成果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
	2	『The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>』	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
学生へのメッセージ	英語学習に近道はありませんので、コツコツと学習していきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 永富研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	2	英語の基本文型と基本語彙について 現在形	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	3	代名詞	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	4	前置詞	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	5	過去形	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	6	可算名詞・不可算名詞	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	7	進行形・Wh 疑問文	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	8	前半のフィードバック 動名詞・不定詞	フィードバックとコメント 例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	9	未来形	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	10	比較級・最上級	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	11	助動詞	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	12	現在完了形	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	13	関係詞	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	14	100SS 筆記テスト 現在完了形	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	15	総括 受動態	例文・サンプル会話・類例の応用演習 これまでの学習内容を総括する	総復習（1 時間）

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3	English Missions!	Robert Hickling, Misato Usukura	金星堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の成果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み (課題、提出物等を含む) により評価する。
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	二
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7⑨, DP8①		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	13	英作文（筆記）テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習（1 時間）

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
学生へのメッセージ	・英文タイピングを 1 年前期にいっぱい練習することで、他の科目での勉強やレポート作成などが早く楽になります ・学習したことを、なるべくすぐ使い、忘れかけた頃に復習すると、効果的に定着します。
担当者の研究室等	7 号館 4 階 齋藤研究室 ただし前期は 11 号館に一時的に移動予定
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP7⑨, DP8①		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の成果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	13	英作文（筆記）テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習（1 時間）

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test < 改訂版 >	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。
担当者の研究室等	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7⑨, DP8①		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3	TOEIC TEST GRAMMAR 5 分間 TOEIC テストサブリメント 文法・語法	小池直己	南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 5 階 後藤研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	ボキャブラリー&グラマー a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。授業は基本的に Teams を使ったリアルタイム授業で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test < 改訂版 >	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み (課題、提出物等を含む) により評価する。
学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7⑨, DP8①		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の成果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階高橋研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の成果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	13	英作文（筆記）テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習（1 時間）

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
学生へのメッセージ	文法規則や単語は簡単に覚えらるるものではありません。意図的に覚えるには同じ単語に 8～15 回、偶発的に覚えるには 20～25 回出会わなければ習得できないと言われています。ですので、授業以外にも大量のインプットをすることが不可欠です。多読や映画・ドラマ鑑賞などで単語（英語全般）との出会いを増やしてください。
担当者の研究室等	7 号館耐震工事のため 11 号館 11 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ヌ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み (課題、提出物等を含む) により評価する。
学生へのメッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 a	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ローマン レンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1001c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の成果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	13	英作文（筆記）テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）。
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習（1 時間）。

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Interchange Intro (5th Edition)	Jack C. Richards	Cambridge
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	Attendance 40%, Class Assignments 60%
学生へのメッセージ	英語を好きになることから始めてみましょう。 Please join the Teams and Moodle. I will share our Zoom class link in Teams!
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後またはスチューデントタワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	英作文（筆記）テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部（編）	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test < 改訂版 >	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	13	英作文（筆記）テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習（1 時間）

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部（編）	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test < 改訂版 >	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階藤原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ																																																																		
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	【重要】初回授業を Teams で行いますので、事前に Teams コードを入力し、授業に登録しておいて下さい。授業は基本的に、リアルタイムで実施します。詳細は初回授業で説明します。 『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>数量詞の用法と語彙について</td><td>例文・サンプル会話・類例の応用演習</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>時間を表す前置詞の用法と語彙について</td><td>例文・サンプル会話・類例の応用演習</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>空間を表す前置詞の用法と語彙について</td><td>例文・サンプル会話・類例の応用演習</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>手段を表す前置詞の用法と語彙について</td><td>例文・サンプル会話・類例の応用演習</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>分詞・不定詞の用法と語彙について</td><td>例文・サンプル会話・類例の応用演習</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>比較の構文と語彙について</td><td>例文・サンプル会話・類例の応用演習</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>完了形の用法と語彙について</td><td>例文・サンプル会話・類例の応用演習</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>受動態の構文と語彙について</td><td>例文・サンプル会話・類例の応用演習</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>知覚・使役動詞の構文と語彙について</td><td>例文・サンプル会話・類例の応用演習</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>関係詞の用法と語彙について</td><td>例文・サンプル会話・類例の応用演習</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>仮定法の構文と語彙について</td><td>例文・サンプル会話・類例の応用演習</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>英作文 (筆記) テスト</td><td>テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>語彙力テストの実施</td><td>テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス</td><td>例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括</td><td>これまでの学習内容を総括する</td><td>総復習 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)																																																																
15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)																																																																
関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暗唱英文 100</td><td>摂南大学外国語学部(編)</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版></td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2</td><td>David E. Bramley</td><td>松柏社</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)		2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂	3	Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2	David E. Bramley	松柏社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)																																																																	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂																																																																
3	Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2	David E. Bramley	松柏社																																																																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、(2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み(課題、提出物等を含む)により評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 後藤研究室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	二
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の成果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	英語の基本文型と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	肯定文と否定文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	疑問文のタイプと基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	疑問詞の文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	存在文 (there 構文) と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	非人称の it 文法的機能と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	have と get の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	受動態の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	時制とアスペクト、基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	助動詞の用法と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	代名詞の構文と基本語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
学生へのメッセージ	英語学習に近道はありませんので、コツコツと学習していきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 永富研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の成果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部 (編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test < 改訂版 >	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1)「100SS テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み (課題、提出物等を含む) により評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 3 階鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の成果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	13	英作文（筆記）テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習（1 時間）

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	英語の基本文型と基本語彙について 現在形	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	代名詞	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	前置詞	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	過去形	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	可算名詞・不可算名詞	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	進行形・Wh 疑問文	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	前半のフィードバック 動名詞・不定詞	フィードバックとコメント 例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	未来形	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	比較級・最上級	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	助動詞	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	現在完了形	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	関係詞	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	100SS 筆記テスト 現在完了形	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括 受動態	例文・サンプル会話・類例の応用演習 これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング 1a
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3	English Missions!	Robert Hickling, Misato Usukura	金星堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 4 階西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の成果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	13	英作文（筆記）テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習（1 時間）
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習（1 時間）

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部(編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み（課題、提出物等を含む）により評価する。
学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 天野研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&グラマー b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	【重要】初回授業は Teams のビデオ会議からリアルタイムで行う。本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング Ib
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部 (編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test < 改訂版 >	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み (課題、提出物等を含む) により評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	文法と語彙は英語力の重要な土台の一部です。各項目を確実に定着させながら進めていきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。 授業では「100SS テスト」および『THE 1500 CORE VOCABULARY FOR THE TOEIC TEST (Revised Edition)』にもとづく課題およびテストのために Moodle を使用するが、それらのコース登録等
----	--

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ヌ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」を行い、さらに学期の終盤には指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	英作文 (筆記) テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部 (編)	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test < 改訂版 >	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1)「100SS 筆記テスト」に合格することが単位取得の評価を受けるために必要。そのうえで、 (2)科目成績の 30%を「TOEIC 基本語彙テスト」、70%を授業中の取り組み (課題、提出物等を含む) により評価する。
学生へのメッセージ	こんな状況ではありますが、出来る限り英語のインプットとアウトプットを増やして 4 技能を高めましょう。
担当者の研究室等	7 号館 3 階 吉村研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	ボキャブラリー&文法 b	科目名 (英文)	Vocabulary and Grammar b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ローマン レンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7⑨, DP8①		
科目ナンバリング	LDL1002c0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定された範囲の例文に関連する文法事項を取り上げる。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および 4 技能（読む・書く・聞く・話すこと）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例として様々な話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学習する。それらについては平常の小テスト・提出物等の他、英作文テストによって最終的な習熟度を測る。一方、英語の語彙については、オ
到達目標	英文法の体系的な理解と、英語の語彙の習得を軸としながら、英語を聞く、読む、話す、書くという 4 つの領域を統合した言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の文法事項を学習し、定着を図るために和文英訳を反復練習する。また応用力をつけるために、授業時に小テスト等を行う。学期の終盤に『暗唱英文 100』に基づいた「100SS 筆記テスト」、指定単語集に基づいた「TOEIC 基本語彙テスト」を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の成果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて説明する。	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	2	数量詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	3	時間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	4	空間を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	5	手段を表す前置詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	6	分詞・不定詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	7	比較の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	8	完了形の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	9	受動態の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	10	知覚・使役動詞の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	11	関係詞の用法と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	12	仮定法の構文と語彙について	例文・サンプル会話・類例の応用演習	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	13	英作文（筆記）テスト	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	14	語彙力テストの実施	テストの実施、終了後には同テストのポイント解説と今後の学習のアドバイス	例文・サンプル会話・類例の暗記と暗唱練習、単語集の指示範囲より単語と例文の学習 (1 時間)
	15	総括	これまでの学習内容を総括する	総復習 (1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング b、スピーキング&ライティング 1b
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Interchange Intro (5th Edition)	Jack C. Richards	Cambridge
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	Attendance 40%, Class Assignments 60%
----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	英語を好きになることから始めてみましょう。 Please join the Teams and Moodle. I will share our Zoom class link in Teams!
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90% ※授業がオンラインで行われる場合、評価方法は変更される場合があります。 Grading may change if classes are conducted online.
学生へのメッセージ	オンライン授業には Zoom を使用します。Zoom の URL、パスワード、ID は 1 週目の摂南 WebFolder にありますのでご確認ください。If you have any problems with Zoom or anything else, please send me an email to the address above. 良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部
	3		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class.
担当者の研究室等	11 号館 11 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表・レポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	矢野 郁
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	スピーキング課題 30% ライティング課題 30% 宿題、提出物等 40%
----------	---

学生へのメッセージ	In addition to the syllabus content explained above, you will practice writing, listening, and speaking about your daily life and asking follow up questions.
-----------	---

担当者の研究室等	You are required to attempt all assessment tasks regardless of class attendance. Any student w
----------	--

備考	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
----	---------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・タイアース
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	質問はいつでも授業中にしてください。 みんなの為になります。 積極的に話す練習をしましょう。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）木曜午前中
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アンナ インゲル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法、スピーキング&ライティング Ib
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	In this class, you will have many chances to speak and write in English. If you prepare before class, you will be a better speaker. If you prepare and work hard, your speaking and writing skills will improve!
担当者の研究室等	3 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション、コメントするための表現</td><td>本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>コメントすることの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>関連質問をするための表現</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>関連質問をすることの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>詳細に説明するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>詳細に説明するための実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>学習事項の確認と振り返り活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>確認（繰り返し）を要求するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>確認（繰り返し）を要求することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>説明を求めるための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>説明を求めることの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>会話の開始と終結のための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>会話の開始と終結することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学習内容の確認と総合的活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ／夏休みについて語る</td><td>プレゼンテーション演習</td><td>総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）																																																																
関連科目	ボキャブラリー&文法、スピーキング&ライティング Ib																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暗唱英文 100</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>Setsunan Speaking and Writing Ia</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部		2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部																																																																	
2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	作文 24% 課題 36% 復習テスト、スピーチ 30% 参加点 10%																																																																		
学生へのメッセージ	授業には Google Meet というツールを使います。 グーグルクロームからグーグルにログインします。右上にあるアカウントマークの横の 9 個の丸印を押すと、「meet」というマークが出ます。そこから授業時間になったらこの会議 ID でログインしてください。 アプリもあります。 https://meet.google.com/vek-snmu-pnm Please complete the online homework units as we complete the correspond																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に対応する。																																																																		

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法、スピーキング&ライティング Ib
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	In addition to the syllabus content explained above, you will practice writing and speaking about your daily life and asking follow up questions. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法、スピーキング&ライティング Ib
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Welcome to Speaking and Writing Ia. We will focus on building speaking and writing skills plus confidence! Please read the text materials before the lesson and be ready to participate. Please don't be afraid to speak and most importantly relax and have fun
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法、スピーキング&ライティング Ib
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。 Be prepared to speak a lot in this class. Preview work before class and make sure to do all homework assignments. Ask me if you have any trouble and questions. See you in class.
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ヌ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法、スピーキング&ライティング Ib
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
学生へのメッセージ	Be prepared to speak a lot in this class. Preview work before class and make sure to do all homework assignments. Ask me if you have any trouble and questions. See you in class.
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチューデントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティング I a	科目名 (英文)	Speaking and Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェーン バーミンガム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1003b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J[A1.1-A1.2]を目標とし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、コメントするための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	コメントすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	関連質問をするための表現	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	関連質問をすることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	詳細に説明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	詳細に説明するための実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	確認（繰り返し）を要求するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	確認（繰り返し）を要求することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	説明を求めるための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	説明を求めることの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	会話の開始と終結のための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	会話の開始と終結することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめ／夏休みについて語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法、スピーキング&ライティング Ib
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ia	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%
----------	--

学生へのメッセージ	This course will help you with useful English phrases and improve your pronunciation and communication skills.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。			
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。			
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること			
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア＆グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめ／次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）
関連科目	ボキャブラリー＆グラマー a、スピーキング＆ライティング Ia			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部	
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	対面成績評価: Talk Time: 20%, journal: 24%, interaction activities: 36%, review: 10%, participation: 10%. オンライン成績評価: Writing activities and homework: 45%, speaking tests: 25%, class work and participation: 30%.			
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。			
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチューデントアワーにて対応する。			

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。 ※初回授業に改めて説明をします。																																																																		
到達目標	CEFR-J [A1. 3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。 ※初回授業に改めて説明をします。																																																																		
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。 ※初回授業に改めて説明をします。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現</td><td>本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日常のルーティンを説明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>意見を表明するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>意見を表明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>相手の意見に賛成・反対するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>相手の意見に賛成・反対することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>学習事項の確認と振り返り活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>説明を一般化するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>説明を一般化することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>提案するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>提案することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>推測にかかわる表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>推測する表現の実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学習内容の確認と総合的活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ／次年度の抱負について語る</td><td>プレゼンテーション演習</td><td>総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	15	まとめ／次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
15	まとめ／次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習（1 時間）																																																																
関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暗唱英文 100</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>Setsunan Speaking and Writing Ib</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部		2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部																																																																	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90% ※初回授業に改めて説明をします。																																																																		
学生へのメッセージ	I'm looking forward to having class with you. Be prepared to speak a lot in this class. N.B.: Absence is not an excuse for incomplete homework tasks.																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	【重要】初回授業の 2 日前までに必ず Teams に入っておくようにしてください。当日の指示などを掲載連絡します。																																																																		

	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ハ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	矢野 郁
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。																																																																		
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現</td><td>本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日常のルーティンを説明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>意見を表明するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>意見を表明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>相手の意見に賛成・反対するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>相手の意見に賛成・反対することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>学習事項の確認と振り返り活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>説明を一般化するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>説明を一般化することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>提案するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>提案することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>推測にかかわる表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>推測する表現の実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学習内容の確認と総合的活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ/次年度の抱負について語る</td><td>プレゼンテーション演習</td><td>総復習 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)																																																																
関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暗唱英文 100</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>Setsunan Speaking and Writing Ib</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部		2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部																																																																	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	スピーキング課題 30% ライティング課題 30% 宿題、提出物等 40%																																																																		
学生へのメッセージ	This course focuses on improving your speaking and writing skills. The more you speak and write, the more you will improve. We will practice writing, listening, and speaking about your daily life and asking follow-up questions. Any student who is abse																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・タイアース
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。																																																																		
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現</td><td>本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日常のルーティンを説明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>意見を表明するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>意見を表明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>相手の意見に賛成・反対するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>相手の意見に賛成・反対することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>学習事項の確認と振り返り活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>説明を一般化するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>説明を一般化することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>提案するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>提案することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>推測にかかわる表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>推測する表現の実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学習内容の確認と総合的活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ/次年度の抱負について語る</td><td>プレゼンテーション演習</td><td>総復習 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)																																																																
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暗唱英文 100</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>Setsunan Speaking and Writing Ib</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部		2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部																																																																	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%																																																																		
学生へのメッセージ	後期は moodle を使いません。 web folder かメール添付にて（前期と同じアドレスです。ガイダンスプリントにて再掲します）課題は提出してください。クラス全体にお知らせをしたいときは teams にて掲載します。 オンライン授業は前期と同じコードで Google Meet の meet.google.com/vek-snmu-pnm です。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はメールにて。																																																																		

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ホ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アンナ インゲル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。																																																																		
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現</td><td>本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日常のルーティンを説明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>意見を表明するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>意見を表明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>相手の意見に賛成・反対するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>相手の意見に賛成・反対することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>学習事項の確認と振り返り活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>説明を一般化するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>説明を一般化することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>提案するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>提案することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>推測にかかわる表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>推測する表現の実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学習内容の確認と総合的活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ/次年度の抱負について語る</td><td>プレゼンテーション演習</td><td>総復習 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)																																																																
関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暗唱英文 100</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>Setsunan Speaking and Writing Ib</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部		2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部																																																																	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%																																																																		
学生へのメッセージ	In this class, you will have many chances to speak and write in English. If you prepare before class, you will be a better speaker. If you prepare and work hard, your speaking and writing skills will improve!																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降行う。その他の質問等はメールにて対応する。																																																																		

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	へ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の発言など積極参加点 10% 宿題、提出物等 90% 授業欠席が 4 回を超えると採点対象になりません。
-----------	---

学生へのメッセージ	Please complete the online homework units as we complete the corresponding units in class. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or
-----------	---

担当者の研究室等	木曜日午前中は 10 号館 2F 非常勤講師室にて待機している。
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ト
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。																																																																		
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現</td><td>本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日常のルーティンを説明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>意見を表明するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>意見を表明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>相手の意見に賛成・反対するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>相手の意見に賛成・反対することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>学習事項の確認と振り返り活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>説明を一般化するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>説明を一般化することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>提案するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>提案することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>推測にかかわる表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>推測する表現の実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学習内容の確認と総合的活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ/次年度の抱負について語る</td><td>プレゼンテーション演習</td><td>総復習 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)																																																																
関連科目	ボキャブラリー&グラマー、スピーキング&ライティング Ia																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暗唱英文 100</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>Setsunan Speaking and Writing Ib</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部		2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部																																																																	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90% If lessons must be conducted online, you must complete EVERY weekly assignment to be considered for a passing grade.																																																																		
学生へのメッセージ	In addition to the syllabus content written above, you will practice writing and speaking about your daily life and asking follow up questions. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表 やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	チ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。																																																																		
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50 words 以上の英文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50 words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現</td><td>本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日常のルーティンを説明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>意見を表明するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>意見を表明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>相手の意見に賛成・反対するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>相手の意見に賛成・反対することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>学習事項の確認と振り返り活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>説明を一般化するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>説明を一般化することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>提案するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>提案することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>推測にかかわる表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>推測する表現の実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学習内容の確認と総合的活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ/次年度の抱負について語る</td><td>プレゼンテーション演習</td><td>総復習 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)																																																																
関連科目	ボキャブラリー&グラマー、スピーキング&ライティング Ia																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暗唱英文 100</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>Setsunan Speaking and Writing Ib</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部		2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部																																																																	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%																																																																		
学生へのメッセージ	Welcome back for Speaking & Writing Ib. Now it's time to build upon the skills you learned last semester. Once again, always come to class prepared and ready to participate in all activities to get the most out of this course.																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	リ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。																																																																		
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現</td><td>本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日常のルーティンを説明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>意見を表明するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>意見を表明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>相手の意見に賛成・反対するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>相手の意見に賛成・反対することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>学習事項の確認と振り返り活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>説明を一般化するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>説明を一般化することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>提案するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>提案することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>推測にかかわる表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>推測する表現の実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学習内容の確認と総合的活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ/次年度の抱負について語る</td><td>プレゼンテーション演習</td><td>総復習 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)																																																																
関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暗唱英文 100</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>Setsunan Speaking and Writing Ib</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部		2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部																																																																	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%																																																																		
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。 Be prepared to speak a lot in this class. Preview work before class and make sure to do all homework assignments. Ask me if you have any trouble and questions. See you in class.																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ヌ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)
	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)

関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 100%
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	Be prepared to speak a lot in this class. Preview work before class and make sure to do all homework assignments. Ask me if you have any trouble and questions. See you in class.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティング I b	科目名 (英文)	Speaking and Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェン パーソン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1004b0		

授業概要・目的	共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文、および関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。																																																																		
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができ、趣味や好き嫌いについて、複数の文を用いて表現できるようになる。絵や写真等を見て、与えられた時間内に 50words 以上の英文が書けるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	『暗唱英文 100』の例文、および関連する例文を暗唱するために、反復練習をする。毎回の授業で、受講者が「十分な声量で、明瞭な発音によって例文を暗唱しているか」を担当教員がチェックする「100SS 発音テスト」を行う。また、50words 程度の英文ライティングを行い、担当教員から添削を受ける。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現</td><td>本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日常のルーティンを説明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>意見を表明するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>意見を表明することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>相手の意見に賛成・反対するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>相手の意見に賛成・反対することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>学習事項の確認と振り返り活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>説明を一般化するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>説明を一般化することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>提案するための表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>提案することの実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>推測にかかわる表現</td><td>例文のインプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>推測する表現の実践練習</td><td>例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学習内容の確認と総合的活動</td><td>ペア&グループワーク演習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ/次年度の抱負について語る</td><td>プレゼンテーション演習</td><td>総復習 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)	15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、日常のルーティンを説明するための表現	本科目の目標・テーマや授業内容などについて。例文のインプット演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
2	日常のルーティンを説明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
3	意見を表明するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
4	意見を表明することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
5	相手の意見に賛成・反対するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
6	相手の意見に賛成・反対することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
7	学習事項の確認と振り返り活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
8	説明を一般化するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
9	説明を一般化することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
10	提案するための表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
11	提案することの実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
12	推測にかかわる表現	例文のインプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
13	推測する表現の実践練習	例文のアウトプットのためのペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
14	学習内容の確認と総合的活動	ペア&グループワーク演習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1 時間)																																																																
15	まとめ/次年度の抱負について語る	プレゼンテーション演習	総復習 (1 時間)																																																																
関連科目	ボキャブラリー&グラマー a、スピーキング&ライティング Ia																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暗唱英文 100</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>Setsunan Speaking and Writing Ib</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部		2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部																																																																	
2	Setsunan Speaking and Writing Ib	摂南大学外国語学部																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	暗唱英文 100 発音テスト 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 90%																																																																		
学生へのメッセージ	This course will help you with useful English phrases and improve your pronunciation and communication skills.																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	対面授業・遠隔授業について 評価、授業内容などについて	テキスト 2 冊とも購入のこと
	2	Unit 1 Canada : Natural Beauty Abounds	① 多読 ② 精読 ③ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 9-14 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 9-14 の復習 (1 時間)
	3	Unit 2 Thailand : Where Culture and Fragrance Harmonize	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 15-20 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 15-20 の復習 (1 時間)
	4	Unit 3 Germany : Leaders in Protecting Our Environment	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 21-26 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 21-26 の復習 (1 時間)
	5	Unit 4 Turkey : Finish Up Your Coffee	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 27-32 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 27-32 の復習 (1 時間)
	6	Unit 5 Russia : Home to the Coldest Place Inhabited by Humans	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 33-38 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 33-38 の復習 (1 時間)
	7	Unit 6 Israel : A Land of Tradition and Technology	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 39-44 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 39-44 の復習 (1 時間)
	8	Unit 7 South Africa : The Country with 11 Different Names	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 45-50 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 45-50 の復習 (1 時間)
	9	Unit 8 The United States : A Nation on the Road	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 51-56 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 51-56 の復習 (1 時間)
	10	Unit 9 France : A Place of Little Waste	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 57-62 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 57-62 の復習 (1 時間)
	11	Unit 10 Bangladesh : Where Chaos and Peace Coexist	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 63-68 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 63-68 の復習 (1 時間)
	12	Unit 11 New Zealand : Where Native Culture Thrives	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 69-74 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 69-74 の復習 (1 時間)
	13	Unit 12 South Korea : The crossroads of Food, Culture, and Tradition	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 75-80 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 75-80 の復習 (1 時間)

	<table><tr><td>14</td><td>Unit 13 Niger : Friendly Faces in a Dry Land</td><td>① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読</td><td>(事前学習課題) 多読：本を図書館から借りておくこと 精読：pp. 81-86 (2 時間) (事後学習課題) 精読：pp. 81-86 の復習 (1 時間)</td></tr><tr><td>15</td><td>Unit 14 Brazil : A Paradise for Soccer and Dance Lovers</td><td>① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読</td><td>(事前学習課題) 多読：本を図書館から借りておくこと 精読：pp. 87-92 (2 時間)</td></tr></table>	14	Unit 13 Niger : Friendly Faces in a Dry Land	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読：本を図書館から借りておくこと 精読：pp. 81-86 (2 時間) (事後学習課題) 精読：pp. 81-86 の復習 (1 時間)	15	Unit 14 Brazil : A Paradise for Soccer and Dance Lovers	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読：本を図書館から借りておくこと 精読：pp. 87-92 (2 時間)										
14	Unit 13 Niger : Friendly Faces in a Dry Land	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読：本を図書館から借りておくこと 精読：pp. 81-86 (2 時間) (事後学習課題) 精読：pp. 81-86 の復習 (1 時間)																
15	Unit 14 Brazil : A Paradise for Soccer and Dance Lovers	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読：本を図書館から借りておくこと 精読：pp. 87-92 (2 時間)																
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a																		
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>Guess What?!</td><td>Natsuki Matsui 他</td><td>南雲堂</td></tr><tr><td>2</td><td>Timed Reading for Fluency 1</td><td>Paul Nation & Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Guess What?!	Natsuki Matsui 他	南雲堂	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Guess What?!	Natsuki Matsui 他	南雲堂																
2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																
3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10％ (2) 多読活動 10％ (3) 精読活動 80％(発表などの授業中の活動、Quiz、課題、単語テストなどを含む)																		
学生への メッセージ	Guess What?!と各ユニットで問いかけながら、世界各国で売れている物について学びます。 グローバル化が急速に進んでいる現在。 英語力アップだけでなく、世界の国々の文化や歴史などについても知識を深めましょう。																		
担当者の 研究室等	非常勤講師室(前期3号館2階/後期7号館2階)																		
備考	① 授業時間外での質問等は、メールにて受け付けます。(第1回目の授業で提示します) ② 授業中の課題等のフィードバックは、Google Classroomで行います。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス リーディング	授業の進め方、評価方法について説明する。 リーディング教材	多読学習 テキストの予習 教科書・辞書を持参
	2	Chapter 1 Sleep Is Important	速読活動 英文精読と文法「when の使い方」	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	3	Chapter 2 Is Salt Bad for Us?	速読活動 英文精読と文法「時制」 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	4	Chapter 3 Water Is Wonderful	速読活動 英文精読と文法「why の使い方」 小テスト	多読学習 予習・復習 小テストの準備
	5	Chapter 4 Hot Springs: A Miracle of Nature	速読活動 英文精読と文法「動名詞」 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	6	Chapter 5 Healthy Lessons from the Blue Zones	速読活動 英文精読と文法「前置詞」 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	7	Chapter 6 Unhealthy Habits	速読活動 英文精読と文法「不定詞」 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	8	Chapter 7 Let's Dance!	速読活動 英文精読と文法「比較級」 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	9	Chapter 8 The Story of Sugar	速読活動 英文精読と文法「受動態」 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	10	Chapter 9 Companion Animals	速読活動 英文精読と文法「使役動詞など」 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	11	Chapter 10 Music And Medicine	速読活動 英文精読と文法「接続詞」 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	12	Chapter 11 Please Listen to Me!	速読活動 英文精読と文法「関係代名詞・関係副詞」 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	13	Chapter 12 Let's Eat Together!	速読活動 英文精読と文法「間接疑問文」 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	14	Chapter 13 Being Alone vs. Being Lonely	速読活動 英文精読と文法「It の特別用法」 小テスト	多読学習 予習・復習 まとめのテスト準備
	15	前期学習範囲の復習とテスト	前期学習範囲のテスト	多読学習 前期学習範囲の復習と確認

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Healthy Habits for a Better Life	Joan McConnell/山内圭	成美堂
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10 % (2) 多読活動 10 % (3) 精読活動 80 % (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)
-----------	--

学生への メッセージ	テキストは前期使用です。しっかり予習をして授業に臨んでください。授業は予習が終わっているものとして毎週 1 chapter 進めていきます。精読、速読、多読をすることでリーディング能力の向上を目指してください。
担当者の 研究室等	3 号館 2 階〔前期〕 7 号館 2 階（後期） 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後、教室または非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ホヘ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 Chapter 1 文法解説 (注意点) など	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	2	1 5つの基本文型	文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	3	2 動詞 3 進行形・未来形・助動詞	文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	4	5 前置詞・接続詞 I	文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	5	6 形容詞・副詞と比較級	文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	6	7 命令文・感嘆文	文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	7	8 不定詞	文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	8	中間テスト 8 不定詞	前半の学習内容の確認 文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	中間テストに向けての勉強 文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	9	9 動名詞と分詞	文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	10	10 各種疑問文・It の特別用法	文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	11	11 受動態	文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	12	12 完了形	文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	13	13 接続詞 II (自製の一致を含む)	文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	14	14 仮定法	文法の注意点説明 exercises の解答 長文読解	文法例文に目を通す exercise の予習、長文の下読み
	15	復習 (期末) テスト 総括 (まとめ)	後半の既習内容確認	復習 (期末) テストの事前勉強

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Elementary English --Reading & Writing	佐藤哲三・伊藤真紀	南雲堂
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	多読 10% 速読 10% 授業への参加度（小テスト、質問に対しての発言、中間・期末テスト、課題提出など） 80%
学生への メッセージ	・精読の教科書では、文法例文の左ページは各自授業前に目を通しておくこと。基本の exercise と英文読解を中心に進める。 ・4 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 ・指定された箇所を必ず予習しておくこと。余裕ができ授業中での理解度も高まります。紙の辞書や電子辞書を頻繁に引く癖を付けましょう。 ・Teams はリアルタイムで行います。 ・コロナの感染状況によってはシラバスの予定が多少変わることもある。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading) (毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。) 精読活動 (辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。) を毎回行う。多読活動は、登校時に図書館で1～2週間分の本を借りて、自宅で読み、読書記録をその都度つける。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 1 A Piece of History in Your Closet	授業内容についての説明 読解・問題 (pp. 7～12)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	2	Unit 2 Birth Order among Siblings	読解・問題 (pp. 13～18)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	3	Unit 3 The Origin of Basketball	読解・問題 (pp. 19～24)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	4	Unit 4 Table Manners	読解・問題 (pp. 25～30)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	5	Unit 5 Music Beats	読解・問題 (pp. 31～36)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	6	Unit 6 Amazing Koalas	読解・問題 (pp. 37～42)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	7	Unit 7 Coffee and Healthy Life	読解・問題 (pp. 43～48)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	8	Unit 8 Pyramids of Egypt	読解・問題 (pp. 49～54)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	9	Unit 9 Days of Showing Your Love	読解・問題 (pp. 55～60)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	10	Unit 10 Unique Careers	読解・問題 (pp. 61～66)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	11	Unit 11 The Story of Medusa	読解・問題 (pp. 67～72)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	12	Unit 12 Genetic Modification	読解・問題 (pp. 73～78)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	13	Unit 13 Earth Day	読解・問題 (pp. 79～84)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	14	Unit 14 Technology and Life	読解・問題 (pp. 85～90)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	15	General Review	Unit 1～Unit 14 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかりと復習しておくこと。 (2～3 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Success 2	佐藤明彦、Valerie Tidwell	成美堂
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む) 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	メインの教科書を使って、楽しみながら知識を得られるような約300語のパスセージを読解することを、毎回の授業の中心とする。それらのパスセージを読みながら、それに付随する練習問題を解答し、語彙力・文法力も身につけてゆく。それぞれの章に掲載されている Reading Tips も学習し、以後のあらゆる英文読解に役立てるようにする。 それに加えて、指定の多読・速読用の教科書を使って、できるだけ効率よく正確に読解する力も養成する。 英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを
-----------	---

担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師控室
----------	------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題に要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
----	---

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	リス
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、学習方法などの説明	授業内容の復習 多読活動 (1 時間)
	2	Unit1 Our Garden : be 動詞	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	3	Unit2 Do you trust your GPS?	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	4	Unit3 The History of the Village : 一般動詞	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	5	Unit4 Waiting for a Plane	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	6	Unit5 Where are my socks? : 代名詞	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	7	Unit6 Are you all right?	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	8	中間のまとめ	1)速読活動 2)精読活動 : Unit1~6 の総復習	精読活動用テキストの復習 多読活動 (1 時間)
	9	Unit7 Checking in at a Hotel : 数詞	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	10	Unit8 Tour Schedule	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	11	Unit9 House for Sale : 前置詞・接続詞	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	12	Unit10 The City	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	13	Unit11 Our Company : 助動詞・完了形	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	14	Unit12 At the Hospital	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	15	期末のまとめ	1)速読活動 2)精読活動 : Unit7~12 の総復習	精読活動用テキストの復習 多読活動 (1 時間)

関連科目	リーディング I b
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
	2	English Here and There	Terry O'brien, Kei Mihara, Tadashi Enya, Hiroshi Kimura	南雲堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	精読活動 (課題、提出物、宿題) 80% 速読活動 10% 多読活動 10%
学生へのメッセージ	1) 精読活動のための予習・復習は欠かさず行って下さい。 2) 多読活動の時間を充分に取って下さい。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 森研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます (11 号館 11 階)。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	1) 事前・事後学習総時間はおおよそ 15 時間を目安とする。ただし、受講生によって必要な学習時間に差があるので、各自適切に調整する必要がある。 2) フィードバックは基本的に授業内で行う。 3) 質疑については、授業の前後の時間またはオフィスアワーで対応する。

科目名	リーディング I a	科目名 (英文)	Reading Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェン パーソン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1005c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation Students will familiarise themselves with the textbook. We will set up e-reader and students will choose their first book.	Students should study the content of the day's lesson
	2	Read This Intro Unit 1 Education Chapter 1 Late Start E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Read This Chapter 1 continued E-Reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Read This Chapter 2 First Write... It helps E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Read This Chapter 2 continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Read This Chapter 3 Student Government E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Read This Chapter 3 continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Read This Unit one Wrap Up- Quiz, vocabulary, discussion E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Read This Unit 2 Sociology Chapter 4 A strange place to live e-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Read This Chapter 4 continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Read This Chapter 5 King Peggy E-Reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Chapter 5 continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Chapter 6 Quidditch; The world of Harry Potter comes to Life E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Chapter 6 continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Unit 2 Wrap up Quiz, vocabulary, discussion E-reader - wrap up	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	READ THIS! (Intro)	Daphne Mackey
			出版社名
			CAMBRIDGE ISBN

				978-1-107-63071-0																
	2																			
	3																			
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																			
学生への メッセージ	I'm looking forward to meeting you and exploring English through reading together! Please relax and ask questions at anytime! It's a good idea to bring a dictionary to class too.																			
担当者の 研究室等																				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	対面授業・遠隔授業について 評価、授業内容などについて	テキスト 1 冊を購入のこと
	2	Chapter 1 Global Perspectives	① 多読 ② 精読 ③ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 10-17 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 10-17 の復習 (1 時間)
	3	Chapter 2 Climate Change	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 18-23 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 18-23 の復習 (1 時間)
	4	Chapter 3 Water	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 24-29 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 24-29 の復習 (1 時間)
	5	Chapter 4 Clean Energy	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 30-37 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 30-37 の復習 (1 時間)
	6	Chapter 5 Poverty	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 38-43 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 38-43 の復習 (1 時間)
	7	Chapter 6 Hunger	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 44-49 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 44-49 の復習 (1 時間)
	8	Chapter 7 Children	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 50-57 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 50-57 の復習 (1 時間)
	9	Chapter 8 Gender	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 58-63 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 58-63 の復習 (1 時間)
	10	Chapter 9 Refugees	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 64-69 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 64-69 の復習 (1 時間)
	11	Chapter 10 Insects	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 70-77 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 70-77 の復習 (1 時間)
	12	Chapter 11 Vegetarianism	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 78-83 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 78-83 の復習 (1 時間)
	13	Chapter 12 Plastic Waste	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読: 本を図書館から借りておくこと 精読: pp. 84-89 (2 時間) (事後学習課題) 精読: pp. 84-89 の復習 (1 時間)

		14	Chapter 13 Shopping	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読：本を図書館から借りておくこと 精読：pp. 90-97 (2時間) (事後学習課題) 精読：pp. 90-97 の復習 (1時間)																
		15	Chapter 14 Partnership	① 多読 ② 精読 ③ 単語テスト/Quiz ④ 速読	(事前学習課題) 多読：本を図書館から借りておくこと 精読：pp. 98-103 (2時間)																
関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a																				
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>Living as Global Citizens</td><td>K a z u y a Oseki 他</td><td>南雲堂</td></tr><tr><td>2</td><td>Timed Reading for Fluency 1</td><td>Paul Nation & Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Living as Global Citizens	K a z u y a Oseki 他	南雲堂	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																	
	1	Living as Global Citizens	K a z u y a Oseki 他	南雲堂																	
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																	
	3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																	
	1																				
	2																				
	3																				
評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 80% (発表などの授業中の活動、Quiz、課題、単語テストなどを含む)																				
学生への メッセージ	日常生活でよく見聞きする SDGs ということば。 「地球市民」として SDGs についての理解を深めましょう。 また英語力アップだけではなく、その知識を実践してみましょう。																				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																				
備考	① 授業時間外での質問等は、教室にて受け付けます。 ② 授業中の課題等のフィードバックは、翌週の授業中に行います。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。																				

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス Unit 1: The most livable cities in the world	授業の進め方、評価方法について説明する。 精読・練習問題	多読学習 予習
	2	Unit 2: Which is the happiest country in the world?	速読活動 Unit 1 の単語リストアップ 精読・練習問題・単語のリストアップ	多読学習 Unit 1 を最後までと Unit2 の予習 小テスト準備
	3	Unit 3: Zero waste	速読活動 精読・練習問題・単語のリストアップ 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	4	Unit 4: How do fashion choices affect the environment?	速読活動 精読・練習問題・単語のリストアップ 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	5	Unit 5: Bottled water	速読活動 精読・練習問題・単語のリストアップ 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	6	Unit 6: A life coach can help you to reach your goals	速読活動 精読・練習問題・単語のリストアップ 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	7	Unit 7: How to boost your wellbeing	速読活動 精読・練習問題・単語のリストアップ 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	8	Unit 8: Pets can help people to recover from long-term illness	速読活動 精読・練習問題・単語のリストアップ 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	9	Unit 9: Being lonely can be bad for your health	速読活動 精読・練習問題・単語のリストアップ 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	10	Unit 10: Who needs a robot?	速読活動 精読・練習問題・単語のリストアップ 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	11	Unit 11: Solar power	速読活動 精読・練習問題・単語のリストアップ 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	12	Unit 12: Do you suffer from hay fever?	速読活動 精読・練習問題・単語のリストアップ 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	13	Unit 13: Overtourism	速読活動 精読・練習問題・単語のリストアップ 小テスト	多読学習 予習・復習 小テスト準備
	14	unit 14: Issues facing Japan	速読活動 精読・練習問題・単語のリストアップ 小テスト	多読学習 予習・復習 まとめのテスト準備
	15	後期学習範囲の復習とテスト	後期学習範囲のテスト	多読学習 後期学習範囲の復習と確認

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&グラマー a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Steps to Academic English	Clive Langham	朝日出版社
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10 % (2) 多読活動 10 % (3) 精読活動 80 % (提出物、課題、小テスト、まとめの確認テストなどを含む)
-----------	--

学生への メッセージ	授業は予習が終わっているものとして毎週 1 unit 進めていき、次の時間に単語テストを実施します。。精読、速読、多読をすることでリーディング能力の向上を目指してください。
担当者の 研究室等	3 号館 2 階(前期) 7 号館 2 階（後期） 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後、教室または非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ホヘ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。各自が読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解するようにしてください。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。 毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。 ・遠隔授業では常に Teams を使うが、課題提出や解答の掲載などは Moodle を使用。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 簡単な小テスト 1 Wedding Ceremonies in the World	授業の進め方の説明 精読テキスト Chapter 1 を始める	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	2	1 Wedding Ceremonies in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	3	2 Runerals in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	4	3 Coming-of-Age Ceremonies in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	5	4 Toilets in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	6	5 Alcoholic Beverages in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	7	6 Unusual Foods in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	8	中間テスト (予定)	前半の既習内容の確認	中間テストのための事前勉強
	9	8 Greek and Japanese Mythologies	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	10	9 Children's Recreation in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	11	10 Sports of the World: the Olympics	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	12	11 A Strange Custom: Geophagy	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	13	12 Religions Vary in the World	本文の解釈と exercise	精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	14	まとめ (復習) テスト 13 Is "Right" always Right?	後半の既習内容の確認テスト 本文の解釈と exercise	復習 (期末) テストのための事前勉強 精読用教科書の下読みと単語調べ, exercise の予習 多読活動 (1~2 時間)
	15	まとめテストの解答・解説 13 Is "Right" always Right?	テストの答え合わせ 本文の解釈と exercise	テストの解答後授業

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Cross-Cultural Awareness—英語で学ぶ異文化の不思議	石井隆之監修・岩田雅彦・山口修・他 2 名	開文社
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読 10% 多読 10% 授業への参加、貢献（中間及び復習（期末）テストなども含む） 80% ・4 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。			
学生への メッセージ	精読は、多読や速読と違って、辞書をしっかりと引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。 自分で電子辞書や紙の辞書をできるだけ多く引いてください。 Teams での授業は、各自が予習を済ませてあることを前提に進めていきます。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/ 後期 7 号館 2 階）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ			

そ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。 前期に引き続き、多読活動も授業時間外に、図書館の本などを利用して自分で行う。後期は、6 万語 (75 冊以上) 読むことを目標にする。 速読の練習も、前期に引き続き、指定の教科書を使用して、授業ごとに行う。自分で 200 語のテキストを読むのにかかった時間を記録し、内容の理解度も
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)は、毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。さらに、時間の許す限り、図書館の本を利用して、自分の興味のあるさまざまなジャンルの本を楽しみながら読むようにする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 1 The Pencil	授業内容についての説明 読解・問題 (pp. 10～15)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	2	Unit 2 Running Marathons	読解・問題 (pp. 16～21)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	3	Unit 3 Superstition	読解・問題 (pp. 22～27)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	4	Unit 4 The Printing Press	読解・問題 (pp. 28～33)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	5	Unit 5 How Safe Is Air Travel?	読解・問題 (pp. 34～39)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	6	Unit 6 Jazz Music	読解・問題 (pp. 40～45)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	7	Unit 7 Inflation	読解・問題 (pp. 46～51)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	8	Unit 8 The Word "Hello"	読解・問題 (pp. 52～57)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	9	Unit 9 Trans Fats	読解・問題 (pp. 58～63)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	10	Unit 10 Braille	読解・問題 (pp. 64～69)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	11	Unit 11 Nightmares	読解・問題 (pp. 70～75)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	12	Unit 12 The Power of Positive Thinking	読解・問題 (pp. 76～81)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	13	Unit 13 The Andes Mountain Range	読解・問題 (pp. 82～87)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	14	Unit 14 Freedom Riders	読解・問題 (pp. 88～93)	授業範囲の予習と復習 (1～2 時間)
	15	General Review	Unit 1～Unit 14 までの総まとめ	授業ノート・テキストをしっかりと復習しておくこと。(1 時間)

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Success with Reading Book 2	池田・清水・Fillingham 他	成美堂
	2	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	(1) 速読活動 10% (2) 多読活動 10% (3) 精読活動 (提出物、課題、まとめの確認テストなどを含む) 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	前期に履修したリーディング Ia の学習をさらに深め、リーディングスキルをうまく使ってメインの教科書の各章のリーディングパッセージを読解する練習を行う。 前期に引き続き、指定された多読・速読練習のための教科書も使用し、効率よく正確に読解する力を養成する。 英語の上達には大量のインプットが欠かせません。普段から様々な素材を用いてインプットを増やすように心がけてください。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室
----------	------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	リス
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、学習方法などの説明	授業内容の復習 多読活動 (1 時間)
	2	Part I 1. Conclusion / Reasons A. Right-hand traffic or left-hand traffic	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	3	Part I 2. Social Trend A. The increase of depression	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	4	Part I 3. Result / Cause A. Casino law was passed.	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	5	Part I (1~3) の B	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	6	Part II 4. Several Explanations A. What was the cause of Napoleon's death?	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	7	Part II 5. Comparison A. College and university	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	8	中間のまとめと理解度確認テスト	1)速読活動 2)精読活動: 1~5 の総復習と理解度確認テストの実施	理解度確認テストの準備 多読活動 (1 時間)
	9	Part II 6. For and Against A. A married couple having different surnames	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	10	Part II 7. Classification A. Lies	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	11	Part II (4~5) の B	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	12	Part II (6~7) の B	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	13	Part III 8. History A. Bill Gates	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	14	Part III 9. Process A. How to make tempura	1)速読活動 2)精読活動	精読活動用テキストの予習・復習 多読活動 (1 時間)
	15	期末のまとめと理解度確認テスト	1)速読活動 2)精読活動: Unit6~9 の総復習と理解度確認テストの実施	理解度確認テストの準備 多読活動 (1 時間)

関連科目	リーディング I b
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 1	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Skills for Better Reading <Basic>	Yumiko Ishitani	南雲堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	精読活動 (課題、小テスト、中間・期末 2 回の理解度確認テスト) 80% 速読活動 10%
-----------	---

	多読活動 10%
学生への メッセージ	1) 精読活動のための予習・復習は欠かさず行って下さい。 2) 多読活動の時間を充分に取って下さい。 3) 毎回の授業は Zoom で行う。Zoom の URL は Teams 上で掲示する。また、授業に関する重要な情報や課題提出は基本的に Teams で行う。定期的に Teams を確認すること。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 森研究室 (10 月中旬までは 11 号館 11 階)
備考	1) 事前・事後学習総時間はおおよそ 15 時間を目安とする。ただし、受講生によって必要な学習時間に差があるので、各自適切に調整する必要がある。 2) テストや課題トに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。 3) 質疑については、授業の前後の時間またはオフィスアワーで対応する。

科目名	リーディング I b	科目名 (英文)	Reading Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェーン バーミンガム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1006c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。
到達目標	CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。毎回の授業で、10 分程度の多読活動も行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Read This Unit 3 Science Chapter 7 Rescue in Chile E-reader	Introduction to the second semester. New students will familiarise themselves with the textbook. We will set up e-reader and students will choose their first book of the semester	Students should study the content of the day's lesson
	2	Read This Chapter 7 Rescue in Chile E-Reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	3	Read This Chapter 8 Sleeping Beauty. E-Reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	4	Read This Chapter 8 continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	5	Read This Chapter 9 Memory Palace E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	6	Read This Chapter 9 continued. E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	7	Read This Unit 3 Wrap Up - Quiz, Vocabulary, Discussion E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	8	Unit 4 Marketing Chapter 10 Memory Palace E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	9	Read This Chapter 10 continued e-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	10	Read This Chapter 11 Guerilla Marketing E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	11	Read This Chapter 11 continued E-Reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	12	Unit 4 Wrap Up - Quiz, vocabulary, discussion E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	13	Unit 5 TV and Film Studies Chapter 13 Mean Judges E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	14	Chapter 13 Continued E-reader	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Unit 5 Wrap up - Quiz, vocabulary, discussion E-reader - wrap up	Individual task, pair work, and group work	Students should study the content of the day's lesson

関連科目	スキルズトレーニング a、スピーキング&ライティング Ia、ボキャブラリー&文法 a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	READ THIS! (Intro)	Daphne Mackey	CAMBRIDGE ISBN 978-1-107-63071-0
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	I'm looking forward to meeting you and exploring English through reading together! Please relax and ask questions at anytime! It's a good idea to bring a dictionary to class too.			
担当者の 研究室等				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	スキルズトレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の発音練習を行い、「100SS テスト」を実施する。 ・4 技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	ICT	ICT 教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT 教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	第 1 ～ 第 5 文型	第 1 ～ 第 5 文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	関係詞	関係代名詞 (e.g. which, that) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめテストと復習	4 技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3	5 分間 ポイントで解く語法・語彙問題 - A Shorter Course in Usage and Vocabulary	小中 秀彦	南雲堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業時のテスト、発言、討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20% ※100SS テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。テストの内容は各クラスにおいて授業時に指示される。
----------	---

学生へのメッセージ	語学力の基礎となる内容ですので、しっかり学習していきましょう。
-----------	---------------------------------

担当者の 研究室等	7号館5階 鈴木研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズトレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。 ・teamsを使ったオンライン授業を行う
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	4	ICT	ICT 教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT 教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業時のテスト、発言、討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20% ※100SS テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。テストの内容は各クラスにおいて授業時に指示される。
----------	---

学生へのメッセージ	英語学習には日ごろからの自主的な学習が必要不可欠です。努力を惜しまず、頑張ってください。
-----------	--

担当者の 研究室等	藤原研究室（7号館4階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズトレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ホヘ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	4	ICT	ICT 教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT 教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業時のテスト、発言、討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20% ※100SS テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。テストの内容は各クラスにおいて授業時に指示される。
----------	---

学生へのメッセージ	英語力を身につけるには、コツコツと努力することです。小さな上達を喜びながら、前にしっかり進んでいきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 永富研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	スキルズトレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の発音練習を行い、「100SS テスト」を実施する。 ・4 技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	ICT	ICT 教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT 教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	第 1 ～ 第 5 文型	第 1 ～ 第 5 文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	関係詞	関係代名詞 (e.g. which, that) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめテストと復習	4 技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3	Bottom Up Listening for the TOEIC Test	湯舟 英一/Bill Benfield	成美堂

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業時のテスト、発言、討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20% ※100SS テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。テストの内容は各クラスにおいて授業時に指示される。
----------	---

学生へのメッセージ	英語学習には日ごろからの自主的な学習が必要不可欠です。努力を惜しまず、頑張ってください。
-----------	--

担当者の	後藤研究室（7 号館 5 階）
------	-----------------

研究室等	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズトレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	リス
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	4	ICT	ICT 教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT 教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20% ※100SS テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。テストの内容は各クラスにおいて授業時に提示される。
----------	--

学生へのメッセージ	
担当者の	

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズトレーニング a	科目名 (英文)	Skills Training a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1007c0		

授業概要・目的	(このクラスは、以下の科目の再履修生対象) 英語専攻の1年次の学生を対象とした、辞書の使用法、発音・発話(音読・ディクテーション等)方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能テストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	4	ICT	ICT 教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT 教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱 (1時間)
	15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習 (1時間)

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100 (前年度履修時に購入したもの)	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】 <前年度履修時に購入した版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	・正確な英文タイピング ・内容と目的に適した単語・表現の選択 ・タイムマネジメント
-----------	---

	この3点を、英語の読・書・聞・話のスキルのさまざまな学び方を体験しながら達成しましょう。
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室 ただし前期は11号館に一時移動予定
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズトレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	イロ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。																																																																		
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。																																																																		
授業方法と留意点	【重要】初回授業を Teams で行いますので、事前に Teams コードを入力し、授業に登録しておいて下さい。授業は基本的に、リアルタイムで実施します。詳細は初回授業で説明します。 ・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の発音練習を行い、「100SS テスト」を実施する。 ・4 技能オンラインテストを行い、結果を振り返ること今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>本科目の目標・テーマや授業内容などについて</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>基礎的学習スキルの確認</td><td>スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT 教材の使い方などの復習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>比較級</td><td>比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>最上級</td><td>最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>知覚動詞</td><td>知覚動詞 (e.g. see, hear) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>使役動詞</td><td>使役動詞 (e.g. have, get) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>不定詞</td><td>不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>関係副詞</td><td>関係副詞 (e.g. when, where) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>仮定法過去</td><td>仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>仮定法過去完了</td><td>仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>時間を表す前置詞</td><td>時間を表す前置詞 (e.g. until, for) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>空間を表す前置詞</td><td>空間を表す前置詞 (e.g. in, on) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>手段を表す前置詞</td><td>手段を表す前置詞 (e.g. with, by) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>分詞構文</td><td>分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習</td><td>指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめテストと復習</td><td>4 技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析</td><td>総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT 教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	5	知覚動詞	知覚動詞 (e.g. see, hear) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	6	使役動詞	使役動詞 (e.g. have, get) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	8	関係副詞	関係副詞 (e.g. when, where) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞 (e.g. until, for) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞 (e.g. in, on) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞 (e.g. with, by) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）	15	まとめテストと復習	4 技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT 教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
5	知覚動詞	知覚動詞 (e.g. see, hear) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
6	使役動詞	使役動詞 (e.g. have, get) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
8	関係副詞	関係副詞 (e.g. when, where) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞 (e.g. until, for) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞 (e.g. in, on) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞 (e.g. with, by) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）																																																																
15	まとめテストと復習	4 技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1 時間）																																																																
関連科目	ボキャブラリー&文法 b、スピーキング&ライティング Ib																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>暗唱英文 100</td><td>摂南大学外国語学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版></td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td>STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING</td><td>塚田 幸光</td><td>金星堂</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部		2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂	3	STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING	塚田 幸光	金星堂																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部																																																																	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂																																																																
3	STRIKE UP THE TOEIC TEST LISTENING	塚田 幸光	金星堂																																																																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法	授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		

(基準)	100SS テスト 20% ※100SS テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。テストの内容は各クラスにおいて授業時に指示される。
学生への メッセージ	英語学習には日ごろからの自主的な学習が必要不可欠です。努力を惜しまず、頑張ってください。
担当者の 研究室等	後藤研究室（7号館5階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズトレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ハニ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の発音練習を行い、「100SS テスト」を実施する。 ・4 技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT 教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	知覚動詞	知覚動詞 (e.g. see, hear) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	使役動詞	使役動詞 (e.g. have, get) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	関係副詞	関係副詞 (e.g. when, where) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞 (e.g. until, for) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞 (e.g. in, on) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞 (e.g. with, by) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめテストと復習	4 技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法 b、スピーキング&ライティング Ib
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業時のテスト、発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20% ※100SS テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。テストの内容は各クラスにおいて授業時に指示される。
学生への	対面授業態勢においても、オンライン授業態勢と同様に Teams ほか様々なオンラインのツールを駆使します。環境整備、スキルアップをしていき

メッセージ	ましよう。
担当者の 研究室等	7号館3階鳥居研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズトレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	ホヘ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることによって今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1時間）

関連科目	ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業時のテスト、発言、討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20% ※100SS テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。テストの内容は各クラスにおいて授業時に指示される。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の 研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズトレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	トチ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることによって今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT 教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	5	知覚動詞	知覚動詞 (e.g. see, hear) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	6	使役動詞	使役動詞 (e.g. have, get) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	8	関係副詞	関係副詞 (e.g. when, where) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞 (e.g. until, for) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞 (e.g. in, on) を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞 (e.g. with, by) を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1 時間）
	15	まとめテストと復習	4 技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1 時間）

関連科目	ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test <改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3	語彙力を高める TOEIC Listening and Reading Test 総合対策	石井隆之／松本恵美子／松村優子／山口修／岩田雅彦／Joe Ciunci	英宝社

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20%
----------	---

	※100SS テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。テストの内容は各クラスにおいて授業時に指示される。
学生への メッセージ	英語学習には日ごろからの自主的な学習が必要不可欠です。努力を惜しまず、頑張ってください。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階鈴木研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スキルズトレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	リス
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることで今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	2	辞書と発音記号	英和・和英・英英辞書の使用法の基礎を学ぶ、英語の発音記号について学ぶ	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	3	音読とディクテーション	英語の発音練習、音読・ディクテーションの方法を学ぶ	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	4	ICT	ICT 教材を用いた英語学習方法を学ぶ、ICT 教材を用いた読解練習、及び作文練習	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	5	第1～第5文型	第1～第5文型を含む英文の音読練習やディクテーション	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	6	5w1h	5w1h 疑問文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	7	there 構文	there 構文を含む英文の音読練習やディクテーション	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	8	時制	現在・過去時制を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	9	態	能動態・受動態を含む英文の音読練習やディクテーション	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	10	進行相	進行相を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	11	完了相	完了相を含む英文の音読練習やディクテーション	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	12	関係詞	関係代名詞(e.g. which, that)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	13	few/little	few/little を含む英文の音読練習やディクテーション、	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	14	many/much	many/much を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT 教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の予習と復習（1時間）
	15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1時間）

関連科目	ボキャブラリー&文法 a、スピーキング&ライティング Ia
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test<改訂版>	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20% ※100SS テストが合格基準に満たない場合は、原則として単位を認定しない。テストの内容は各クラスにおいて授業時に指示される。
----------	--

学生へのメッセージ	英語力を身につけるには、コツコツと努力することです。小さな上達を喜びながら、前にしっかり進んでいきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 永富研究室
----------	-------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	スキルズトレーニング b	科目名 (英文)	Skills Training b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1008c0		

授業概要・目的	英語専攻の1年次の学生を対象とし、辞書の使用法、発音・発話（音読・ディクテーション等）方法、ICTを用いた英語学習法など、英語力を効率的・効果的に習得するための英語学習法を身につける。
到達目標	大学での高度な英語学習に対応していくための基盤となる英語力を育成することを目的とする。
授業方法と留意点	・共通教材『暗唱英文 100』のうち、指定範囲の例文暗唱を行い、「100SS 暗唱テスト」を実施する。 ・学期末に4技能オンラインテストを行い、結果を振り返ることによって今後の自己学習計画を定める。 ・必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	本科目の目標・テーマや授業内容などについて	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	2	基礎的学習スキルの確認	スキルズトレーニング a で学んだ辞書の用法、発音記号、発音練習、ICT教材の使い方などの復習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	3	比較級	比較級を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	4	最上級	最上級を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	5	知覚動詞	知覚動詞(e.g. see, hear)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	6	使役動詞	使役動詞(e.g. have, get)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	7	不定詞	不定詞を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	8	関係副詞	関係副詞(e.g. when, where)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	9	仮定法過去	仮定法過去を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	10	仮定法過去完了	仮定法過去完了を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	11	時間を表す前置詞	時間を表す前置詞(e.g. until, for)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	12	空間を表す前置詞	空間を表す前置詞(e.g. in, on)を含む英文の音読練習やディクテーション、『暗唱英文 100』暗唱テスト	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	13	手段を表す前置詞	手段を表す前置詞(e.g. with, by)を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	14	分詞構文	分詞構文を含む英文の音読練習やディクテーション、ICT教材を用いた読解・作文練習	指定範囲の例文の暗記と暗唱（1時間）
	15	まとめテストと復習	4技能オンラインテストおよびテスト結果に基づく自己分析	総復習（1時間）

関連科目	ボキャブラリー&グラマー b、スピーキング&ライティング Ib
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等 80% 100SS テスト 20%
----------	---

学生へのメッセージ	プリントを配布します。Handouts will be provided.
-----------	---------------------------------------

担当者の	Herke 研究室
------	-----------

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現（アイコンタクトやジェスチャーなど）を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。（1 時間）
	2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。（1 時間）
	5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。（1 時間）
	7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。（1 時間）
	9	. 登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。（1 時間）
	11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。（1 時間）
	13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。（1 時間）
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。（1 時間）

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet. [ISBN:978853006868]	William Shakespeare / adapted by Derek Sellen	Black Cat
	2			
	3			

評価方法（基準）	ドラマ上演：40% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等：60%
----------	---

学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。 ・劇は役を演じるだけでなく、照明・音響・衣装といった裏方や時代考証、広報、経済、政治などたくさんのおもしろい要素につながっています。多層的に読めるようになると、デジタルゲームやテレビドラマの観方も変わります。 ・今学期の教材は、400年前に書かれたお芝居が世界中の言語に翻訳され、今でもいろんなメディアで商業的にヒットしているモンスター作品です。その秘密を、ちょっと覗いてみよう！
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
----------	---------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現（アイコンタクトやジェスチャーなど）を幅広く学ぶ。学期末には（可能であれば）全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の進め方を確認するとともに、シェイクスピアの生涯に関する英語表現を予習する。(1 時間)
	2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	9	. 登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、ドラマ活動を行う。	これまでの授業で学んだ内容や英語表現について総復習する。(1 時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	ドラマ上演（Zoom の中で演じます）：60% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等：40%
学生へのメッセージ	・ドラマの理解と制作を通して、英語での表現力を磨きましょう。 ・辞書を毎回使えるようにすること。 ・Come to class in time.
担当者の研究室等	7 号館 4 階 齋藤研究室 ただし前期のみ 11 号館に一時移動予定
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現（アイコンタクトやジェスチャーなど）を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の進め方を確認するとともに、シェイクスピアの生涯に関する英語表現を予習する。(1 時間)
	2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	9	. 登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	これまでの授業で学んだ内容や英語表現について総復習する。(1 時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	ドラマ上演：20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等：80%
----------	---

学生へのメッセージ	ドラマを通して、英語での表現力を磨きましょう。 辞書を毎回用意すること。 In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. If you come to class mo
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
----------	---------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現（アイコンタクトやジェスチャーなど）を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。(1 時間)
	2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	9	. 登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習としてスキットを自分たちでやってみる。また、総括テストを行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	毎週の課題 50 点 テストその他積極参加点 50 点
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	授業は google meet というツールでします。 グーグルクロームからログインします。右上に 9 個の丸印を押すと、「meet」というマークが出ます。そこからこの ID でログインしてください。 アプリもあります。 https://meet.google.com/ovq-wpwh-car 新しいガイドンスプリントを Web Folder に入れているので見てください。
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。
----	--

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現（アイコンタクトやジェスチャーなど）を幅広く学ぶ。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。(1 時間)
	2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	9	. 登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	小テスト、発言・討論、宿題、レポート、提出物等：100%
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	Please try to come to every class. Missing classes will result in a low grade and possible failure of this class as it hinders other students' preparations for their performances. If you need help with anything, please contact me.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
----------	---------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アンナ インゲル
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現（アイコンタクトやジェスチャーなど）を幅広く学ぶ。学期末には全クラス合同でドラマ作品の上演会を行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。(1 時間)
	2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『Romeo and Juliet』	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『Romeo and Juliet. [ISBN:978853006868]』	William Shakespeare / adapted by Derek Sellen	Black Cat
	2			
	3			

評価方法（基準）	ドラマ上演：40% 授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等：60%
学生へのメッセージ	Drama is a fun and effective way to learn English. You will improve your pronunciation in this class while learning about a famous Shakespeare play. This class will also help you increase your confidence in speaking English.
担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ドラマ	科目名 (英文)	Drama
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	矢野 郁
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1009c0		

授業概要・目的	クラスメイトと協同して、英語でドラマ作品を上演する。
到達目標	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。
授業方法と留意点	受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学習をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現（アイコンタクトやジェスチャーなど）を幅広く学ぶ。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	英語表現を勉強する。(1 時間)
	2	シェイクスピアの生涯について	シェイクスピアの生涯について、理解を深める。	シェイクスピアの生涯に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	3	モンタギュー家とキャピュレット家について	モンタギュー家とキャピュレット家について、理解を深める。	モンタギュー家とキャピュレット家に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	4	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	5	バルコニー・シーンについて	バルコニー・シーンについて、理解を深める。	バルコニー・シーンに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	6	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	7	ティボルトとマキューシオについて	ティボルトとマキューシオについて、理解を深める。	ティボルトとマキューシオに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	8	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	9	登場人物の不運について	登場人物の不運について、理解を深める。	登場人物の不運に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	10	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	11	ジュリエットの死について	ジュリエットの死について、理解を深める。	ジュリエットの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	12	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	13	ロミオの死について	ロミオの死について、理解を深める。	ロミオの死に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	14	英語表現・身体的表現を学ぶ	英語表現・身体的表現について、理解を深める。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、合同クラスにてドラマ活動を行う。	英語表現・身体的表現を勉強する。(1 時間)

関連科目	プレゼンテーションなど
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Romeo and Juliet	William Shakespeare	Black Cat
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	ドラマ上演：30% クイズ：15% 授業中の発言・討論、宿題、提出物・リハーサル等：55%
----------	---

学生へのメッセージ	Please try to come to every class. Missing classes will result in a low grade and possible failure of this class as it hinders other students' preparations for their performances. If you need help with anything, please contact me.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
----------	---------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	①
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アンナ インゲル
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J [A1. 1-3] を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	アイコンタクトについて予習（1 時間）
	2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	6	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	12	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センゲージ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	In this class, I will help you improve your presentation skills. You will learn how to use gestures and movement naturally. We will also study how your body posture and various visual aids can strengthen your presentation.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	②
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松吉 翔也
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。 ※初回授業に改めて説明をします。
到達目標	CEFR-J[AI.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。 ※初回授業に改めて説明をします。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。 ※初回授業に改めて説明をします。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	アイコンタクトについて予習（1 時間）
	2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	6	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	12	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センゲージ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション 50% 授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等 50% ※初回授業に改めて説明をします。
----------	--

学生へのメッセージ	【重要】初回授業の 2 日前までに必ず Teams の入っておいてください。当日の指示などを掲載連絡をします。 You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage whole
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	③
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	アイコンタクトについて予習（1 時間）
	2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	6	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	12	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）

関連科目	ドラマ			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センゲージ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Be prepared to share your ideas and opinions with everyone.
担当者の研究室等	7 号館 3 階 フーバー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降行う。その他の質問等はメールにて対応する。

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	④
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の進め方を確認するとともに、アイコンタクトについて予習する。(1 時間)
	2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	6	プレゼンテーション (1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	12	プレゼンテーション (2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容や表現方法について総復習する。(1 時間)

関連科目	ドラマなど
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	Cengage
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	Giving a good presentation takes more than words. Voice, gesture, posture, movement, and visual aids can contribute to making a good presentation. I'm looking forward to helping you improve your presentation skills. In order to pass this course, you mu
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	⑤
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の進め方を確認するとともに、アイコンタクトについて予習する。(1 時間)
	2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	6	プレゼンテーション (1)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	12	プレゼンテーション (2)	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。(1 時間)
	15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容や表現方法について総復習する。(1 時間)

関連科目	ドラマなど
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	Cengage
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等 80%
----------	---

学生へのメッセージ	Giving a good presentation takes more than words. Voice, gesture, posture, movement, and visual aids can contribute to making a good presentation. I'm looking forward to helping you improve your presentation skills. In order to pass this course, you mu
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	⑥
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	矢野 郁
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	CEFR-J[A1.1-3]を目標とし、前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	アイコンタクトについて予習（1 時間）
	2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	5	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	6	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	10	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	11	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	12	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	15	インタラクティブ・プレゼンテーション	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）

関連科目	ドラマ
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センゲージ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	ファイナルプレゼンテーション 20% 課題、提出物等 80%
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Be prepared to share your ideas and opinions with everyone.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降行う。その他の質問等はメールにて対応する。
----	---

科目名	プレゼンテーション	科目名 (英文)	Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	⑦
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1010c0		

授業概要・目的	ハンドアウトなどの資料や ICT を用いて、英語でプレゼンテーションを行うためのスキルを修得する。プレゼンテーションを円滑に進めるスキル（身振り、姿勢、話し方など）や発表構成（導入・展開・結論）を修得する。
到達目標	前もって発表原稿を準備すれば、自分に関連する情報（自己紹介、趣味、関心事、学校、家族・友達に関すること）を簡単な語句や基本構文を用いて発表できるようになる。
授業方法と留意点	ハンドアウトや ICT を使って、1 人 5 分程度以上の英語プレゼンテーションを行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プレゼン中の姿勢について	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	アイコンタクトについて予習（1 時間）
	2	アイコンタクト	アイコンタクトについて、理解を深める。	アイコンタクトに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	3	ジェスチャー	ジェスチャーについて、理解を深める。	ジェスチャーに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	4	ステージ上の立ち位置について	立ち位置について、理解を深める。	立ち位置に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	5	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	6	プレゼンの計画とパワーポイントのスキル	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのスキルに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	7	発声練習について	発声練習について、理解を深める。	発声練習に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	8	発声について	発声について、理解を深める。	発声に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	9	イントネーション	イントネーションについて、理解を深める。	イントネーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	10	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーションを実施する。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	11	言葉遣い、言い回しについて	ことば遣い、言い回しについて、理解を深める。	ことば遣い、言い回しに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	12	プレゼンの計画とパワーポイントのデザイン	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインについて、理解を深める。	プレゼンの計画とパワーポイントのデザインに関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	13	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画について、理解を深める。	インタラクティブ・プレゼンテーションの計画に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	14	質疑応答について	質疑応答について、理解を深める。	質疑応答に関する表現方法を勉強する。（1 時間）
	15	プレゼンテーション(3)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	プレゼンテーションに関する表現方法を勉強する。（1 時間）

関連科目	ドラマ			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Successful Presentations: An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センゲージ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	プレゼンテーション 23% 授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等 77%
学生へのメッセージ	You will be able to present in a small class, in a comfortable atmosphere, and enjoy improving your speaking skills with some valuable hints on making your presentation exciting. Those who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons
担当者の研究室等	非常勤講師室（10 号館 2F）に木曜日午前中待機している。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	トピックスタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	2	Unit exercises - Crime	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	3	Unit exercises - Mobile phones	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	4	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	5	Unit exercises - Junk food	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	6	Unit exercises - Celebrity marriage	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	7	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	8	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	9	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	10	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	11	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	12	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)
	15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)

関連科目	トピックスタディーズII など
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピックスタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinion forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learning how to back-up opinions and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)

		according to the textbook parameters.		
	15	In-class review test and feedback session	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	Students should review vocabulary for the unit. (1 hour)
関連科目	トピックスタディーズⅡなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	In-class Review Test 30% Participation 70%			
学生への メッセージ	We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.			
担当者の 研究室等	3号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピックスタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	The goals of this course are to: 1. Encourage students to communicate on important local and global topics and issues 2. Provide students the opportunity to learn new vocabulary and grammar that will enable them to increase their ability to communicate
到達目標	There will be opportunities to develop and use the four basic skills of speaking, listening, reading, and some writing throughout the course. Students are encouraged to use their knowledge of English inside and outside of the classroom. Vocabulary and gra
授業方法と留意点	Students should check the weekly schedule in order to remain aware of the expectations of each lessons' contents, upcoming quizzes, and assigned homework.
科目学習の効果 (資格)	Four skills are used in this course (speaking, listening, reading, and writing). Speaking and listening are given priority in the classroom, while listening/viewing, reading, and some brief writing will be included within homework assignments.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	A discussion of course expectations, grading, and assessments	Preview/ review (2 時間)
	2	Unit 1A: The birth rate	Vocabulary, listening, and discussion	Preview/ review Extensive Listening 1 (2 時間)
	3	Unit 1B: The birth rate	Vocabulary review and discussion	Preview/ review (2 時間)
	4	Unit 2A: Immigration	Vocabulary, listening, and discussion	Preview/ review Extensive Listening 2 (2 時間)
	5	Unit 2B: Immigration	Vocabulary review and discussion	Preview/ review Study for quiz (2 時間)
	6	Quiz 1	Quiz 1 is taken	Preview/ review Presentation Worksheet / slides (2 時間)
	7	Presentation 1	Presentation 1 is performed	Preview/ review Extensive Listening 3 (2 時間)
	8	Unit 3A: Travel and culture	Vocabulary, listening, and discussion	Preview/ review (2 時間)
	9	Unit 3B: Travel and culture	Vocabulary review and discussion	Preview/ review Extensive Listening 4 (2 時間)
	10	Unit 4A: Communication and technology	Vocabulary, listening, and discussion	Preview/ review (2 時間)
	11	Unit 4B: Communication and technology	Vocabulary review and discussion	Preview/ review Extensive Listening 5 (2 時間)
	12	Unit 5A: Health and safety	Vocabulary, listening, and discussion	Preview/ review (2 時間)
	13	Unit 5B: Health and safety	Vocabulary review and discussion	Preview/ review Study for quiz (2 時間)
	14	Quiz 2	Quiz 2 is taken	Preview/ review Presentation Worksheet / slides (2 時間)
	15	Presentation 2	Presentation 2 is performed	A final review of the course is optional. (2 時間)

関連科目	リーディング II a, b 等
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Topic Studies Ia materials are provided by the instructor.		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Unit tests (2) 20% Presentations (2) 20% Extensive Listening (5) 30% Active classroom participation (15) 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	Students will develop their communication skills in four areas (speaking, listening, writing, and reading) by attending class regularly, arriving prepared, and participating actively in the lessons. Speaking and listening is generally done in class, while
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	Homework includes four types: 1. Preparation for discussions in the next lesson
----	--

	2. Preparation for Unit Quizzes 3. Writing and practicing a presentation 4. Extensive Listening *The total time spent on homework outside of the classroom will total app
--	--

科目名	トピックスタディーズ I a	科目名 (英文)	Topic Studies Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1011c0		

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics both national and international for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on subjects such as the importance of English, The Internet, Travel, Aliens, Music, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果 (資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction, class overview. Self introduction	Introduction exercises	Students should prepare the next lesson (1 hour)
	2	Ch 1: The Beauty of the Seasons	Seasonal changes	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	3	Ch 2: History of the Hamburger	U.S. Fast Food	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	4	Ch 3: Importance of English	Why English is Important	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	5	Ch 4: How the Internet Evolved	Evolution of the Internet	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	6	Ch 5: Liquid Candy	Sodas	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	7	Ch 6: Travel in Japan	Japanese Travel	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	8	Ch 7: The Secret of Happiness	Becoming Happy	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	9	Ch 8: Shopping on the Internet	Net Shopping	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	10	Ch 9: Do Aliens & UFOs Exist?	UFO Stories	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	11	Ch 9: Aliens & UFOs	Scenes from the movie Paul	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	12	Ch 10: Happiest Country in the World	Denmark	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	13	Ch 11: Secondhand Smoke	Dangers of Smoking	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	14	Ch 11: Secondhand Smoke	Tabacco Vending Machines	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	15	End of Semester Test.	End of Semester Test.	Study for test. (1 hour)

関連科目	トピックスタディーズII など
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Life Topics	Takashi Shimaoka & Jonathan Berman	Nan'un-do ISBN978-4-523-17689-3
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(Dictionary)		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	80% of Grade on unit assignments (Moodle) 20% of Grade on end-of-semester test
-----------	---

学生へのメッセージ	To get a good grade, active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important.
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピックスタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	This course introduces a variety of topics both national and international for students to learn about and discuss. Students will think about and give their opinion on subjects such as the importance of English, The Internet, Travel, Aliens, Music, etc.
到達目標	The purpose of the course is to promote English fluency by having students think about and give their opinions in English.
授業方法と留意点	Students will do pair work, small group work, practice conversations and do listening exercises.
科目学習の効果 (資格)	The objective of the course is for students improve their fluency by considering topics and discussing their opinions about them with others in class.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction, class overview. Summer Holiday	Summer Holiday report	Students should preview the vocabulary and grammar for the next lesson (1 hour)
	2	Ch 13: What Colors Tell About You	Color & Personality	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	3	Ch 14: Free Music	Music Downloading	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	4	Ch 15: Ghosts	Haunted Places	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	5	A Scary Story	A Scary Story writing exercise	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	6	Ch 16: Fast Food & Health	Fast Food & Obesity	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	7	Ch 17: Artificial Insemination	Pregnancy & Science	Students should review the vocabulary and grammar for units 13~17 (1 hour)
	8	Midterm Test	Midterm Test writing	Students should review the vocabulary and grammar for the next lesson (1 hour)
	9	Ch 18: Dangers of Credit Cards	Plastic Money	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	10	Ch 19: Young Men: No Girls, No Money	Herbivore Men	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	11	Ch 20: Old Media New Media	Differences	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	12	Media Old vs. New	Media topic essay writing	Students should review the vocabulary and grammar for the lesson (1 hour)
	13	Ch 21: Women in College	Getting Higher Grades than Men?	Students should review the vocabulary and grammar for the unit (1 hour)
	14	Ch 22: Gene Therapy	Creating Better Humans	Students should review the vocabulary and grammar for units 18~22 (1 hour)
	15	End of Semester Test.	End of Semester Test.	Study for test. (1 hour)

関連科目	トピックスタディーズII など
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Life Topics	Takashi Shimaoka & Jonathan Berman	Nan'un-do ISBN978-4-523-17689-3
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書(Dictionary)		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	100% Grading will be based on weekly assignments to be found on Moodle, including a midterm and end of semester test. Final grade points will be deducted for incomplete assignments or tests.
-----------	--

学生へのメッセージ	To get a good grade, active participation, a positive attitude towards learning and regular attendance is important.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピックスタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	This course is designed to help students express their opinions individually and collectively in a group context. The focus will be on current topics and using critical thinking for self expression.
到達目標	The goal of this course is for students to improve their opinion forming and expressing abilities. This includes speaking English with more confidence and learning how to back-up opinions and beliefs with more passion.
授業方法と留意点	The course will be divided into coverage of specific units as outlined in the textbook "Solutions". Since there are many topics to choose from, students and teacher will choose the topics as a group and decide the best ones for detailed coverage in class.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to learn to express their own opinions through critical thinking.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introductions about the class and course.	Student and teacher self and group introductions.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	2	Lesson 1 'Should the university academic year begin in September?'	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	3	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	4	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	5	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	6	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	7	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	8	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	9	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	10	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	11	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	12	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	13	Further subjects of each class will be decided by teacher and students according to the textbook parameters.	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)
	14	Further subjects of each class will be decided by teacher and students	Unit coverage including background reading of topic and discussion exercises.	Students should preview vocabulary for the unit. (1 hour)

		according to the textbook parameters.		
	15	In-class review test and feedback session	Students will select several topics and write about the advantages or disadvantages of each while supporting their opinions.	Students should review vocabulary for the unit. (1 hour)
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	In-class Review Test 30% Participation 70%			
学生への メッセージ	We will learn to express our ideas about interesting topics such as cyber money, drinking and driving, etc. and learn strategies in forming original opinions.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピックスタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	This is a topic-based course, focusing on the development of critical thinking skills. Through problem-solving activities, students will be encouraged to form and exchange their own opinions.
到達目標	Participation in this course will lead to an improvement in analytical and debating skills.
授業方法と留意点	Students will analyse and debate a wide range of important social issues, taken from areas such as crime, sport, food, smoking, bullying, driving and so on.
科目学習の効果 (資格)	An improvement in analytical and debating skills.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	2	Unit exercises - Smoking	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	3	Unit exercises - Sport	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	4	Unit exercises - Driving	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	5	Unit exercises - Bullying	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	6	Unit exercises - Japan's LGBTs	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	7	Unit exercises - Sexism and gender roles	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	8	Unit exercises - Sleeping	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	9	Unit exercises - Japan's population crisis	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	10	Unit exercises - Parasite singles	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	11	Unit exercises - J-pop	Individual, pair and group work exercises.	Students should read up on the unit for the next class. (1 hour)
	12	Unit exercises - Cosmetic surgery and physical appearance	Individual, pair and group work exercises.	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	13	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should rehearse their presentations and prepare for the follow up debate. (1 hour)
	14	Presentations and follow up debates.	self/peer/teacher evaluation	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)
	15	Course review.	Feedback session	Students should reflect on the course for the course review and feedback session. (1 hour)

関連科目	トピックスタディーズ II など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Provoke a Response! Critical Thinking though Data Analysis	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara	NAN' UN-DO
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピックスタディーズ I b	科目名 (英文)	Topic Studies Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャープ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1012c0		

授業概要・目的	The goals of this course are to: 1. Encourage students to communicate on important local and global topics and issues 2. Provide students the opportunity to learn new vocabulary and grammar that will enable them to increase their ability to communicate
到達目標	There will be opportunities to develop and use the four basic skills of speaking, listening, reading, and writing throughout the course. Students are encouraged to use their knowledge of English inside and outside of the classroom. Vocabulary and grammar
授業方法と留意点	Students should check the weekly schedule in order to remain aware of the expectations of each lessons' contents, upcoming quizzes, and assigned homework.
科目学習の効果 (資格)	The four main skills are used in this course. Speaking and listening are given priority in the classroom, while listening/viewing, brief reading, and some brief writing will be included within homework assignments.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	A discussion of course expectations, grading, and assessments	Preview contents of the course (2 hrs)
	2	Unit 1A: Pop culture	Vocabulary, listening, speaking	Extensive Listening Homework 1 (2 hrs)
	3	Unit 1B: Pop culture	Vocabulary review and discussion	Presentation 1 Worksheet: topic choice (2 hrs)
	4	Unit 2A: The music that moves us	Vocabulary, listening, speaking	Extensive Listening Homework 2 (2 hrs)
	5	Unit 2B: The music that moves us	Vocabulary review and discussion	Study for Quiz 1 (2 hrs)
	6	Quiz 1	Quiz 1 is taken	Presentation 1: complete presentation (2 hrs)
	7	Presentation 1	Presentation 1 is performed	Extensive Listening Homework 3 (2 hrs)
	8	Unit 3A: Design	Vocabulary, listening, speaking	Preview / review contents (2 hrs)
	9	Unit 3B: Design	Vocabulary review and discussion	Extensive Listening Homework 4 (2 hrs)
	10	Unit 4A: Fashion	Vocabulary, listening, speaking	Presentation 2 Worksheet: topic choice (2 hrs)
	11	Unit 4B: Fashion	Vocabulary review and discussion	Extensive Listening Homework 5 (2 hrs)
	12	Unit 5A: The future	Vocabulary, listening, speaking	Preview / review contents (2 hrs)
	13	Unit 5B: The future	Vocabulary review and discussion	Study for Speaking Quiz 2 (2 hrs)
	14	Quiz 2	Quiz 2 is taken	Presentation 2: complete presentation (2 hrs)
	15	Presentation 2	Presentation 2 is performed	Optional course reflection (2 hrs)

関連科目	リーディング II a, b 等
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(Materials are provided by the instructor.)		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Tests (2 x 20%) 40% Short Presentations (2 x 10%) 20% Extensive Listening Homework (5 x 5%) 25% Active participation 15%
学生へのメッセージ	Students will develop their communication skills in four areas (speaking, listening, writing, and reading) by attending class regularly, arriving prepared, and participating actively in the lessons. Speaking and listening is generally done in class, while
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	Homework includes four types: 1. Previewing and reviewing lesson contents 2. Preparation for tests 3. Writing and practicing a presentation 4. Extensive listening reports

科目名	Integrated Skills Training	科目名 (英文)	Integrated Skills Training
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年度	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2013c0		

授業概要・目的	1 年時で学習した英語のスタディスキルをさらに向上させる。ICT 等を用いて、リスニング能力向上に主眼を置きながら、4 技能をバランスよく伸ばす。
到達目標	CEFR-J[A2] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
授業方法と留意点	ICT 教材を用いて、海外生活を行うための実践的なリスニング能力を養う。授業時間外にも、ICT を用いた所定の e-learning 課題が課される。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1: The Perfect Person	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	授業中に指示（1 時間）
	2	Unit 2: Worldwide Bookstores	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	3	Unit 3: Loser Those Pounds	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	4	Unit 4: Living Well on Credit	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	5	Unit 5: The Breakup	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	6	Unit 6: The Road to Mexico	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	7	Unit 7: Who's to Blame?	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	8	Unit 8: Looking at Art	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	9	Unit 9: What to Watch	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	10	Unit 10: Two Tickets to the Concert	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	11	Unit 11: A Big Decision	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	12	Unit 12: Making the Right Choice	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	13	Unit 13: Caught on the Web	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	14	Unit 14: Job Fair	単語・リスニング・表現・文法・リーディング・ライティング	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	15	これまでの学習内容の振り返り	これまでの学習内容の振り返り	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）

関連科目	Practical English Conversation, Academic Reading, Academic Writing
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Connection Book 2	角山 照彦, Andrey Dubinsky, David Edward Keane	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	ICT 教材課題 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
----------	--

学生へのメッセージ	留学後にどれだけ英語力を伸ばせるかは、日本での学習準備にかかっています。一日一日を大切に、頑張ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 天野研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	Integrated Skills Training	科目名 (英文)	Integrated Skills Training
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2013c0		

授業概要・目的	1 年時で学習した英語のスタディスキルをさらに向上させる。ICT 等を用いて、リスニング能力向上に主眼を置きながら、4 技能をバランスよく伸ばす。
到達目標	CEFR-J[A2]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。
授業方法と留意点	ICT 教材を用いて、海外生活を行うための実践的なリスニング能力を養う。授業時間外にも、ICT を用いた所定の e-learning 課題が課される。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1	人やものが存在するという行き先や目的を述べる	授業中に指示（1 時間）
	2	Unit 2	いつ～するのと言ういつ開始するか言う	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	3	Unit 2	いつ完了するか言う頻度を言う	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	4	Unit 3	習慣・事実・未来進行・状態・継続	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	5	Unit 3	過去・完了経験	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	6	Unit 4	他人の行動を見聞きする	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	7	Unit 4	他人の行動を強制・依頼・許可する	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	8	Unit 5	説明される名詞が動詞の「目的語」説明される名詞が「所有者」	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	9	Unit 5	説明される部分が「義務・用途」	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	10	Unit 6	確実に起きること・もう起きたこと起きるかどうかわからないこと	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	11	Unit 6	起こりそうもないこと願望	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	12	Unit 7	意見・感想を述べる時制の一致	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	13	Unit 7	意見・感想の尋ね方予想との違い	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	14	Unit 8	好き嫌いの表し方可能の表し方	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）
	15	Unit 8	移動の方向やりもらいと貸し借り	単語学習。テキストの予習と復習。また、指定されたマルチメディア教材を学習する。（1 時間）

関連科目	Practical English Conversation, Academic Reading, Academic Writing
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Useful Hints and Examples on Basic English Writing	鈴木卓	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	ICT 教材課題 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
----------	--

学生へのメッセージ	留学後にどれだけ英語力を伸ばせるかは、日本での学習準備にかかっています。一日一日を大切に、頑張ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 5 階 後藤研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	オバ・ケイブレット
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2014b0		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2] レベルを目標とする。
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の成果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	3	下準備/手荷物確認/空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	4	ロールプレイ: 空港にて/機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	5	ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	7	自己紹介/これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	8	ロールプレイ: ホームステイ先にて/学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	9	教室にて/英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	10	モチベーション作り: 目標を達成するには/英語学習のストラテジー	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	11	良い質問の仕方/教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	12	ロールプレイ: 教室外の様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to working with you all in order to level up your English abilities through group work and discussion. Hopefully by the end of this course you will feel ready to take on anything in the real world!
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2014b0		

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2] レベルを目標とする。
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	3	下準備／手荷物確認／空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	4	ロールプレイ: 空港にて／機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	5	ホームステイ先にて／学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	7	自己紹介／これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	8	ロールプレイ: ホームステイ先にて／学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	9	教室にて／英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	10	モチベーション作り: 目標を達成するには／英語学習のストラテジー	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	11	良い質問の仕方／教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	12	ロールプレイ: 教室外の様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford	Perceptia Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today. ZOOM ID: 972 9304 0988 PASS CODE: 412345
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Academic Reading	科目名 (英文)	Academic Reading
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2015c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
到達目標	リーディングスキルを用いて比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットすることを目指す多読活動の両方を行う。
授業方法と留意点	比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットする多読活動の両方を行う。「TOEIC 基本語彙テスト」およびリングボルトによる単語学習課題「Academic Reading 用課題 no. 1-1500」を課す。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Orientation	Students should study the content of the day's lesson.
	2	トピック：期末試験	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	3	トピック：留学	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	4	トピック：映画製作	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	5	トピック：期待の若手アスリート	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	6	トピック：人体の驚異	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	7	トピック：自由時間	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	8	レビュー 1	Individual tasks and pair work.	Review the contents of Units 1-6.
	9	トピック：音楽の世界	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	10	トピック：進路	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	11	トピック：食文化	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	12	トピック：宣伝の秘訣	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	13	トピック：食と環境	Individual tasks and pair work.	Review for the vocabulary test. Students should study the content of the day's lesson.
	14	トピック：未来に向けて	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	15	レビュー 2	Individual tasks.	Review the contents of Units 7-12.

関連科目	Academic Writing, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Active Skills for Reading 2	Neil J. Anderson	Cengage
	2	Timed Reading for Fluency 2	P aul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読活動 10%、多読活動 20%、授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
-----------	--

学生へのメッセージ	多読が成績の 20%を占めますので、易しめの本をたくさん「楽しみながら」読み続けることを心がけてください。
-----------	---

★教材共有、連絡用などに使いますので、Teams への参加をお願いします。	
---------------------------------------	--

担当者の研究室等	前期：7 号館耐震工事のため) 11 号館 11 階 後期：7 号館 5 階 松田研究室
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	Academic Reading	科目名 (英文)	Academic Reading
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2015c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を採し、理解できるようになる。
到達目標	リーディングスキルを用いて比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットすることを目指す多読活動の両方を行う。
授業方法と留意点	比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットする多読活動の両方を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Orientation	Students should study the content of the day's lesson.
	2	トピック: 期末試験	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	3	トピック: 留学	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	4	トピック: 映画製作	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	5	トピック: 期待の若手アスリート	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	6	トピック: 人体の驚異	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	7	トピック: 自由時間	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	8	レビュー 1	Individual tasks and pair work.	Review the contents of Units 1-6.
	9	トピック: 音楽の世界	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	10	トピック: 進路	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	11	トピック: 食文化	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	12	トピック: 宣伝の秘訣	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	13	トピック: 食と環境	Individual tasks and pair work.	Review for the vocabulary test. Students should study the content of the day's lesson.
	14	トピック: 未来に向けて	Individual tasks and pair work.	Students should study the content of the day's lesson.
	15	レビュー 2	Individual tasks.	Review the contents of Units 7-12.

関連科目	Academic Writing, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Active Skills for Reading 2	Neil J. Anderson	Cengage
	2	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読活動 10%、多読活動 20%、授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
-----------	--

学生へのメッセージ	留学の前に読む力を養っておくことはとても大切です。
-----------	---------------------------

担当者の研究室等	7 号館 3 階 天野研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	Academic Writing	科目名 (英文)	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2016c0		

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要な書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	・海外留学において必要となるライティングスキル（書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方）を養う。 ・エッセイやレポートの書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明、ブレインストーミング	Process writing, paragraph format, paragraph structure	Review / Preview
	2	パラグラフの定義と構成 トピックセンテンスを書き始める	Creating topic sentences	Review / Preview
	3	トピックセンテンスを発展させる	Improving topic sentences	Review / Preview
	4	サポーティングセンテンスを書き始める パラグラフ執筆演習:描写のパラグラフを書き始める	Creating supporting sentences	Review / Preview
	5	サポーティングセンテンスを発展させる パラグラフ執筆演習:描写のパラグラフを発展させる	Improving supporting sentences	Review / Preview
	6	パラグラフ執筆演習:描写のパラグラフを完成させる	Creating detail sentences	Review / Preview
	7	パラグラフ執筆演習:時系列・手順のパラグラフを書き始める	Improving detail sentences	Review / Preview
	8	結びのセンテンスを学習する パラグラフ執筆演習:時系列・手順のパラグラフを完成させる	Creating concluding sentences	Review / Test preparation
	9	中間チェック:パラグラフライティングテストと振り返り演習	In-class paragraph test	Review / Preview
	10	エッセイ執筆演習:アウトラインをつくる 全体の内容のまとまりを確認する	Unity	Review / Preview
	11	エッセイ執筆演習:比較対照のエッセイを下書きする 内容の一貫性を確認する	Coherence	Review / Preview
	12	エッセイ執筆演習:比較対照のエッセイを完成させる 文法的結束性を確認する	Cohesion	Review / Preview
	13	エッセイ執筆演習:論述のエッセイを下書きする 編集のスキルを学ぶ	Editing techniques	Review / Preview
	14	エッセイ執筆演習:論述のエッセイを完成させる 様式・エッセイライティングの要素を復習	Style Review Elements of essay writing	Review / Test preparation
	15	まとめ:エッセイライティングテストと振り返り演習	In-class Essay Test	

関連科目	Academic Reading, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing Together-From Sentence to Paragraph	Mark D. Stafford	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 30% 授業内ライティングテスト 40% その他の授業内外課題および提出物 30%
学生への メッセージ	1 Unit ずつ進む予定なので、結構なスピードになると思います。欠席するとついて行けなくなりますので、毎回出席し、与えられた課題をタイムリーにこなしていくことが成功の鍵です。
担当者の 研究室等	7号館4階 西川研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Academic Writing	科目名 (英文)	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2016c0		

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要な書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	・海外留学において必要となるライティングスキル（書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方）を養う。 ・エッセイやレポートの書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明、ブレインストーミング	Process writing, paragraph format, paragraph structure	Review / Preview
	2	パラグラフの定義と構成 トピックセンテンスを書き始める	Creating topic sentences	Review / Preview
	3	トピックセンテンスを発展させる	Improving topic sentences	Review / Preview
	4	サポーティングセンテンスを書き始める パラグラフ執筆演習:描写のパラグラフを書き始める	Creating supporting sentences	Review / Preview
	5	サポーティングセンテンスを発展させる パラグラフ執筆演習:描写のパラグラフを発展させる	Improving supporting sentences	Review / Preview
	6	パラグラフ執筆演習:描写のパラグラフを完成させる	Creating detail sentences	Review / Preview
	7	パラグラフ執筆演習:時系列・手順のパラグラフを書き始める	Improving detail sentences	Review / Preview
	8	結びのセンテンスを学習する パラグラフ執筆演習:時系列・手順のパラグラフを完成させる	Creating concluding sentences	Review / Test preparation
	9	中間チェック:パラグラフライティングテストと振り返り演習	In-class paragraph test	Review / Preview
	10	エッセイ執筆演習:アウトラインをつくる 全体の内容のまとまりを確認する	Unity	Review / Preview
	11	エッセイ執筆演習:比較対照のエッセイを下書きする 内容の一貫性を確認する	Coherence	Review / Preview
	12	エッセイ執筆演習:比較対照のエッセイを完成させる 文法的結束性を確認する	Cohesion	Review / Preview
	13	エッセイ執筆演習:論述のエッセイを下書きする 編集のスキルを学ぶ	Editing techniques	Review / Preview
	14	エッセイ執筆演習:論述のエッセイを完成させる 様式・エッセイライティングの要素を復習	Style Review Elements of essay writing	Review / Test preparation
	15	まとめ:エッセイライティングテストと振り返り演習	In-class Essay Test	

関連科目	Academic Reading, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing Together-From Sentence to Paragraph	Mark D. Stafford	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内ライティングテスト 30% その他の授業内外課題および提出物 70%
学生への メッセージ	ICTを活用して、受講生の皆さんの英作文を、皆さんでレビューしながら、完成度の高いエッセイに仕上げていきましょう。辞書を引きながら、英語で表現する楽しみが経験できるので、毎日英語で日記をつける習慣を始めてみませんか。
担当者の 研究室等	1 1 号館 1 1 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Global Issues	科目名 (英文)	Global Issues
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2017c0		

授業概要・目的	国際社会についての情報を英語で入手できるようになる。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、入手した情報の要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	リスニングを中心としたタスクをこなしながら、国際社会での出来事や教養を学んでいく。耳から入る英語の情報を漠然と聞き流すのではなく、集中して聞くタスクをこなしていくことで、グローバル化していく社会で起こる様々な出来事を整理して理解できるようにする。また日ごろから、日本語によるニュースや時事問題に習熟しておくことが必要になる。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方など。Global Issues に関わるトピックについての英語講義を聞きながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>Global Issues に関わるトピックの英文記事をリサーチする (1 時間)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>年代記 (1) ナポレオンについて</td><td>ナポレオンについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。</td><td>ナポレオンに関する英語表現を勉強する (1 時間)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>年代記 (2) ボンペイについて</td><td>ボンペイについてあつかった英英語講義を聞き、理解を深める。</td><td>ボンペイに関する英語表現を勉強する (1 時間)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>インターネットについて</td><td>インターネットについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。</td><td>インターネットに関する英語表現を勉強する (1 時間)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>言語習得について</td><td>言語習得についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。</td><td>言語習得に関する英語表現を勉強する (1 時間)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>振り返り、およびまとめテスト (1)</td><td>これまでの振り返り学習を行う。またまとめテストを行う。</td><td>これまでの学習内容を振り返り、各ジャンルの英語表現を学ぶ (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>津波について</td><td>津波についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。</td><td>津波に関する英語表現を勉強する (1 時間)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>言語使用について (フォーマル・インフォーマルの違い)</td><td>言語使用についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。</td><td>言語使用に関する英語表現を勉強する (1 時間)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>類似性と差異について</td><td>類似性と差異についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。</td><td>類似性と差異に関する英語表現を勉強する (1 時間)。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>振り返り、およびまとめテスト (2)</td><td>これまでの振り返り学習を行う。またまとめテストを行う。</td><td>これまでの学習内容を振り返り、各ジャンルの英語表現を学ぶ (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>リンカーンとケネディについて</td><td>リンカーンとケネディについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。</td><td>リンカーンとケネディに関する英語表現を勉強する (1 時間)。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>絶滅動物について</td><td>絶滅動物についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。</td><td>絶滅動物に関する英語表現を勉強する (1 時間)。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>アメリカ独立戦争について</td><td>アメリカ独立戦争についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。</td><td>アメリカ独立戦争に関する英語表現を勉強する (1 時間)。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>振り返り、およびまとめテスト (3)</td><td>これまでの振り返り学習を行う。またまとめテストを行う。</td><td>これまでの学習内容を振り返り、各ジャンルの英語表現を学ぶ (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括する</td><td>これまでの内容の総括を行う。</td><td>授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること (2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方など。Global Issues に関わるトピックについての英語講義を聞きながら、自らの意見を英語で述べてみる。	Global Issues に関わるトピックの英文記事をリサーチする (1 時間)。	2	年代記 (1) ナポレオンについて	ナポレオンについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	ナポレオンに関する英語表現を勉強する (1 時間)。	3	年代記 (2) ボンペイについて	ボンペイについてあつかった英英語講義を聞き、理解を深める。	ボンペイに関する英語表現を勉強する (1 時間)。	4	インターネットについて	インターネットについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	インターネットに関する英語表現を勉強する (1 時間)。	5	言語習得について	言語習得についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	言語習得に関する英語表現を勉強する (1 時間)。	6	振り返り、およびまとめテスト (1)	これまでの振り返り学習を行う。またまとめテストを行う。	これまでの学習内容を振り返り、各ジャンルの英語表現を学ぶ (2 時間)。	7	津波について	津波についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	津波に関する英語表現を勉強する (1 時間)。	8	言語使用について (フォーマル・インフォーマルの違い)	言語使用についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	言語使用に関する英語表現を勉強する (1 時間)。	9	類似性と差異について	類似性と差異についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	類似性と差異に関する英語表現を勉強する (1 時間)。	10	振り返り、およびまとめテスト (2)	これまでの振り返り学習を行う。またまとめテストを行う。	これまでの学習内容を振り返り、各ジャンルの英語表現を学ぶ (2 時間)。	11	リンカーンとケネディについて	リンカーンとケネディについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	リンカーンとケネディに関する英語表現を勉強する (1 時間)。	12	絶滅動物について	絶滅動物についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	絶滅動物に関する英語表現を勉強する (1 時間)。	13	アメリカ独立戦争について	アメリカ独立戦争についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	アメリカ独立戦争に関する英語表現を勉強する (1 時間)。	14	振り返り、およびまとめテスト (3)	これまでの振り返り学習を行う。またまとめテストを行う。	これまでの学習内容を振り返り、各ジャンルの英語表現を学ぶ (2 時間)。	15	総括する	これまでの内容の総括を行う。	授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること (2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方など。Global Issues に関わるトピックについての英語講義を聞きながら、自らの意見を英語で述べてみる。	Global Issues に関わるトピックの英文記事をリサーチする (1 時間)。																																																																
2	年代記 (1) ナポレオンについて	ナポレオンについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	ナポレオンに関する英語表現を勉強する (1 時間)。																																																																
3	年代記 (2) ボンペイについて	ボンペイについてあつかった英英語講義を聞き、理解を深める。	ボンペイに関する英語表現を勉強する (1 時間)。																																																																
4	インターネットについて	インターネットについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	インターネットに関する英語表現を勉強する (1 時間)。																																																																
5	言語習得について	言語習得についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	言語習得に関する英語表現を勉強する (1 時間)。																																																																
6	振り返り、およびまとめテスト (1)	これまでの振り返り学習を行う。またまとめテストを行う。	これまでの学習内容を振り返り、各ジャンルの英語表現を学ぶ (2 時間)。																																																																
7	津波について	津波についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	津波に関する英語表現を勉強する (1 時間)。																																																																
8	言語使用について (フォーマル・インフォーマルの違い)	言語使用についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	言語使用に関する英語表現を勉強する (1 時間)。																																																																
9	類似性と差異について	類似性と差異についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	類似性と差異に関する英語表現を勉強する (1 時間)。																																																																
10	振り返り、およびまとめテスト (2)	これまでの振り返り学習を行う。またまとめテストを行う。	これまでの学習内容を振り返り、各ジャンルの英語表現を学ぶ (2 時間)。																																																																
11	リンカーンとケネディについて	リンカーンとケネディについてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	リンカーンとケネディに関する英語表現を勉強する (1 時間)。																																																																
12	絶滅動物について	絶滅動物についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	絶滅動物に関する英語表現を勉強する (1 時間)。																																																																
13	アメリカ独立戦争について	アメリカ独立戦争についてあつかった英語講義を聞き、理解を深める。	アメリカ独立戦争に関する英語表現を勉強する (1 時間)。																																																																
14	振り返り、およびまとめテスト (3)	これまでの振り返り学習を行う。またまとめテストを行う。	これまでの学習内容を振り返り、各ジャンルの英語表現を学ぶ (2 時間)。																																																																
15	総括する	これまでの内容の総括を行う。	授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること (2 時間)																																																																
関連科目	Academic Reading, Academic Writing																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Dynamic Listening Comprehension</td><td>Patricia A. Dunkel and Phyllis L. Lim</td><td>Cengage</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Dynamic Listening Comprehension	Patricia A. Dunkel and Phyllis L. Lim	Cengage	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Dynamic Listening Comprehension	Patricia A. Dunkel and Phyllis L. Lim	Cengage																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	まとめテスト 30% 提出物等 70%																																																																		
学生へのメッセージ	As our English improves to a certain level, we can start to use English to communicate serious issues, and this course provides the opportunity to do so. We will be using English to discuss global issues, so that we will become prepared to exchange ideas																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	English for TOEFL	科目名 (英文)	English for TOEFL
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2018c0		

授業概要・目的	TOEFL 受験に必要なボキャブラリー増強と、リスニング、リーディングのスキル向上をはかる。まず TOEFL の概要をつかみ、TOEFL に対応する幅広いトピックにふれると同時に、英語による正確な聞き取り・読み取り能力を身に付ける。
到達目標	TOEFL の問題形式や傾向を理解し、アカデミックな知識・関心を広げ、4 技能をバランスよく伸ばすことを目標にする。
授業方法と留意点	TOEFL の対策授業を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEFL, TOEIC, 英検のスコア・アップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション Listening, Structure, Reading	授業内容と説明 導入 Understanding agreement and disagreement Verb tenses Understanding gist	Module 1 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1 時間)
	2	Listening, Structure, Reading	Understanding agreement and disagreement Verb tenses Understanding gist	Module 1 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1 時間)
	3	Listening, Structure, Reading	Understanding gist Verb tenses Understand purposes	Module 1 Lessons 2, 4, 6 予習・復習 (1 時間)
	4	Listening, Structure, Reading 理解度 Test 1	Understanding gist Verb tenses Understand purposes	Module 1 Lessons 2, 4, 6 予習・復習 (1 時間)
	5	Listening, Structure, Reading	Understanding negatives Articles Understanding specific information	Module 2 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1 時間)
	6	Listening, Structure, Reading	Understanding negatives Articles Understanding specific information	Module 2 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1 時間)
	7	Listening, Structure, Reading	Understanding specific information Comparatives and superlatives Understanding pronoun reference	Module 2 Lessons 2, 4, 6 予習・復習 (1 時間)
	8	Listening, Structure, Reading 理解度 Test 2	Understanding specific information Comparatives and superlatives Understanding pronoun reference	Module 2 Lessons 2, 4, 6 予習・復習 (1 時間)
	9	Listening, Structure, Reading	Understanding idiomatic expressions Participles Understanding unfamiliar words	Module 3 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1 時間)
	10	Listening, Structure, Reading	Understanding idiomatic expressions Participles Understanding unfamiliar words	Module 3 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1 時間)
	11	Listening, Structure, Reading	Understanding implication Prepositions Understanding implication	Module 3 Lessons 2, 4, 6 予習・復習 (1 時間)
	12	Listening, Structure, Reading 理解度 Test 3	Understanding implication Prepositions Understanding implication	Module 3 Lessons 2, 4, 6 予習・復習 (1 時間)
	13	Listening, Structure, Reading	Understanding wishes and the conditional Plurals Understanding attitude	Module 4 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1 時間)
	14	Listening, Structure, Reading	Integrating listening skills Present modals Integrating reading skills	Module 4 Lessons 1, 3, 5 予習・復習 (1 時間)
	15	総復習 理解度 Test 4	全体を復習し、理解度をはかる	Modules 1-4 の総復習 (1 時間)

関連科目	Academic Reading, Academic Writing, Integrated Skills Training, Practical English Conversation
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	All-Round Practice for the TOEFL Test	菊地恵太&Jeffrey Durand	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEFL-ITP (模擬テスト) 30% 課題・提出物等 70%
学生への メッセージ	TOEFL の得点を上げるには、さまざまなアカデミック英語に慣れる必要があります。最初はわからなくてもあきらめず、少しずつ慣れていきましょう。
担当者の 研究室等	10号館10階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English for Global Communication a	科目名 (英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3019b0		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	5	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 (プレゼンテーション) 15%, Class attitude 30% (enthusiasm, willingness to participate, willingness to take leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Quizzes 20%, Portfolio writing assignments 25%,
-----------	--

学生へのメッセージ	Do your best to make a positive atmosphere in class by supporting one another
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 5 階 Taura 研究室 (Online from my home) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	English for Global Communication a	科目名 (英文)	English for Global Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7㊟, DP8㊟		
科目ナンバリング	LDL3019b0		

授業概要・目的	留学で身につけた英語力を発展させ、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、主張したい点を順序良く提示しながら、自分に関連する事項・専門分野に関して、英語で流暢に紹介や説明ができるようになる。また、自分の経験したことについて、どのような感情を持ち、どのように反応したかということに触れながら詳細に説明できる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックなテーマについての講義を読解・聴解する Comprehensive English a、テーマに沿った作文を行う English Writing Workshop a と連動し、この授業では同じテーマに沿った発展的・応用的なディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	2	Psychology "Happiness"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	3	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	4	Linguistics "CPH"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	5	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	6	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	7	Public Health "Sleep"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	8	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	9	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	10	Business "Negotiating"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	11	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	12	Art History "Modern Art"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	13	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	14	Engineering "Robots"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習 (1 時間)

関連科目	Comprehensive English a, English Writing Workshop a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Unit Discussions 90 % (6 x 15%) Free Discussions 10%
-----------	---

学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 Herke's office 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	English for Global Communication b	科目名 (英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3020b0		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようにする。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業はすべて英語で行われる。学内外で行われる各種英語コンテストへの出場を前提とした発話訓練を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	5	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	Flex Week	進度調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習

関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Class attitude 15% (enthusiasm, willingness to participate, taking leadership in discussion, on time attendance, preparation before and reviewing after the classes), Notebook 15% Quizzes 20%, Mini-discussions 25%, Staying in the English Zone 10%, Final
-----------	--

学生へのメッセージ	We will follow the same format as in 1st term. Please try to join the online class from your home, as this makes the class easier to conduct with masks off. But if you need to be masked and on campus, just do your best to find a quiet space. Let's focus o
-----------	---

担当者の研究室等	From home online
----------	------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	English for Global Communication b	科目名 (英文)	English for Global Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3020b0		

授業概要・目的	English for Global Communication(a)に引き続き、英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、社会生活上の問題に直面した時にそれを説明することができるようになる。その結果、正しい処置やサービス等を実現できるようになる。また、関心のある社会状況について、自分の意見を言うことができる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックなテーマについての講義を読解・聴解する Comprehensive English b、テーマに沿った作文を行う English Writing Workshop b と連動し、この授業では同じテーマに沿った発展的・応用的なディスカッションを行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	2	Media Studies "Interactive Games"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	3	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	4	Biology "Genetically Modified Food"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	5	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	6	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	7	Business "Design Thinking"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	8	Flex Week	進捗調整とプレゼンテーション	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	9	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	10	History "Shackleton"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	11	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	12	Philosophy "Ethics"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	13	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	14	Information Technology "Big Data"	テーマに基づいたディスカッションとプレゼンテーションの作成	講義とディスカッション映像を繰り返し視聴＋Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	15	Flex Week	まとめのプレゼンテーション	総復習 (1 時間)

関連科目	Comprehensive English b, English Writing Workshop b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Unit Discussions 90 % (6 x 15%) Free Discussions 10%
-----------	---

学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 Herke's office
----------	-------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Comprehensive English a	科目名 (英文)	Comprehensive English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3021b0		

授業概要・目的	海外留学経験を活かして高度な英語 4 技能を身につける英語プロフェッショナルコースの英語カリキュラムにおいて、3 年次の英語学習を統括する位置づけにある科目である。アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2] レベルの英語 4 技能を身につける。英語によるアカデミックな講義の読解、聴解ができ、内容について自分の意見を述べながら討議ができる。インターネットや図書から、関連する情報を自ら入手し、要約し、報告し、応用できる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication a および English Writing Workshop a と連動した授業となる。この授業で理解した内容について English for Global Communication a で討議し、English Writing Workshop a で自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	心理学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 1 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	心理学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 1 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 2 の映像視聴
	3	言語学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 2 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	言語学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 2 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 3 の映像視聴
	5	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 1-2 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	6	公衆衛生の講義: 読解と聴解	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 3 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	公衆衛生の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 3 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Unit 3 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	9	ビジネスの講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 4 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	ビジネスの講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 4 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 5 の映像視聴
	11	芸術史の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 5 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	芸術史の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 5 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 6 の映像視聴
	13	工学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 6 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	工学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 6 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Units 1-6 総復習
	15	まとめテストと進捗調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストの実施を予定	総復習 オンラインテストの振り返り 今後の学習計画作成

関連科目	English for Global Communication a, English Writing Workshop a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
------	----------------------------

(基準)	Benchmark Test 20% 多読 10%
学生への メッセージ	初日からすぐ授業に入りますので、テキストを買って持参してください。
担当者の 研究室等	7号館4階 高橋研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Comprehensive English a	科目名 (英文)	Comprehensive English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3021b0		

授業概要・目的	海外留学経験を活かして高度な英語 4 技能を身につける英語プロフェッショナルコースの英語カリキュラムにおいて、3 年次の英語学習を統括する位置づけにある科目である。アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2] レベルの英語 4 技能を身につける。英語によるアカデミックな講義の読解、聴解ができ、内容について自分の意見を述べながら討議ができる。インターネットや図書から、関連する情報を自ら入手し、要約し、報告し、応用できる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication a および English Writing Workshop a と連動した授業となる。この授業で理解した内容について English for Global Communication a で討議し、English Writing Workshop a で自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	心理学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 1 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	心理学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 1 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 2 の映像視聴
	3	言語学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 2 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	言語学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 2 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 3 の映像視聴
	5	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 1-2 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	6	公衆衛生の講義: 読解と聴解	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 3 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	公衆衛生の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 3 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	8	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Unit 3 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	9	ビジネスの講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 4 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	ビジネスの講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 4 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 5 の映像視聴
	11	芸術史の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 5 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	芸術史の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 5 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 6 の映像視聴
	13	工学の講義: 読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 6 テキストの予習+Unit 1 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	工学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 6 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Units 1-6 総復習
	15	まとめテストと進捗調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストの実施を予定	総復習 オンラインテストの振り返り 今後の学習計画作成

関連科目	English for Global Communication a, English Writing Workshop a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
------	----------------------------

(基準)	Benchmark Test 20% 多読 10%
学生への メッセージ	★教材共有、連絡用などに使いますので、Teams への参加をお願いします。
担当者の 研究室等	前期：(7 号館耐震工事のため) 11 号館 11 階 後期：7 号館 5 階 松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時や Zoom で対応する。

科目名	Comprehensive English b	科目名 (英文)	Comprehensive English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3022b0		

授業概要・目的	海外留学経験を活かして高度な英語 4 技能を身につける英語プロフェッショナルコースの英語カリキュラムにおいて、3 年次の英語学習を統括する位置づけにある科目である。アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2] レベルの英語 4 技能を身につける。英語によるアカデミックな講義の読解、聴解ができ、内容について自分の意見を述べながら討議ができる。インターネットや図書から、関連する情報を自ら入手し、要約し、報告し、応用できる。現代の問題など一般的関心の高いトピックを扱った文章を読み、相違点や共通点を比較しながら読むことができるようになる。また、自分の専門分野の論文や資料を読んで理解することができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication b および English Writing Workshop b と連動した授業となる。この授業で理解した内容について English for Global Communication b で討議し、English Writing Workshop b で自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	メディア研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 7 テキストの予習+Unit 7 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	2	メディア研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 7 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 8 の映像視聴 (1 時間)
	3	生物学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 8 テキストの予習+Unit 8 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	4	生物学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 8 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 9 の映像視聴 (1 時間)
	5	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 7-8 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など (1 時間)
	6	ビジネス研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 9 テキストの予習+Unit 9 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	7	ビジネス研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 9 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 10 の映像視聴 (1 時間)
	8	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 9 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など (1 時間)
	9	歴史学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 10 テキストの予習+Unit 10 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	10	歴史学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 10 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 11 の映像視聴 (1 時間)
	11	哲学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 11 テキストの予習+Unit 11 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	12	哲学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 11 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 12 の映像視聴 (1 時間)
	13	情報技術の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 12 テキストの予習+Unit 12 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習 (1 時間)
	14	情報技術の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 12 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 7-12 の総復習 (1 時間)
	15	まとめテストと進捗調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストを予定	総復習 オンラインテストの振り返り 今後の学習計画作成 (1 時間)

関連科目	English for Global Communication b, English Writing Workshop b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70% Benchmark test 20% 多読 10%
学生への メッセージ	初回の授業から教科書を使います。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	Comprehensive English b	科目名 (英文)	Comprehensive English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3022b0		

授業概要・目的	海外留学経験を活かして高度な英語 4 技能を身につける英語プロフェッショナルコースの英語カリキュラムにおいて、3 年次の英語学習を統括する位置づけにある科目である。アカデミックな内容を含む多様な分野の英文の読解と聴解の演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2] レベルの英語 4 技能を身につける。英語によるアカデミックな講義の読解、聴解ができ、内容について自分の意見を述べながら討議ができる。インターネットや図書から、関連する情報を自ら入手し、要約し、報告し、応用できる。現代の問題など一般的関心の高いトピックを扱った文章を読み、相違点や共通点を比較しながら読むことができるようになる。また、自分の専門分野の論文や資料を読んで理解することができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。English for Global Communication b および English Writing Workshop b と連動した授業となる。この授業で理解した内容について English for Global Communication b で討議し、English Writing Workshop b で自分の意見などを盛り込んで作文を行う。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	メディア研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 7 テキストの予習+Unit 7 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	2	メディア研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 7 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 8 の映像視聴
	3	生物学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 8 テキストの予習+Unit 8 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	4	生物学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 8 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 9 の映像視聴
	5	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 7-8 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	6	ビジネス研究の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 9 テキストの予習+Unit 9 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	7	ビジネス研究の講義:応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 9 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 10 の映像視聴
	8	まとめテストと進捗調整、討論による復習	進捗調整	Units 9 の復習 Unit Test Proficiency Assessment など
	9	歴史学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 10 テキストの予習+Unit 10 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	10	歴史学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 10 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 11 の映像視聴
	11	哲学の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 11 テキストの予習+Unit 11 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	12	哲学の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 11 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 12 の映像視聴
	13	情報技術の講義:読解および聴解演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 12 テキストの予習+Unit 12 の映像視聴+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習
	14	情報技術の講義: 応用演習	事前に予習した講義映像を視聴しノートテイキング演習+教員による解説+問題演習+質疑応答	Unit 12 辞書を使ってスクリプトを読解+疑問点をウェブ検索等で調査+Common Vocabulary リストの予習・復習+Unit 7-12 の総復習
	15	まとめテストと進捗調整、討論による復習	まとめ+オンラインテストを予定	総復習 オンラインテストの振り返り 今後の学習計画作成

関連科目	English for Global Communication b, English Writing Workshop b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題(オンラインテスト) 20% 多読 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%
学生への メッセージ	教養ある英語の使い手になるために、日ごろから情報のアンテナを張ってインプットを増やし、アウトプットのスキルも磨きましょう。
担当者の 研究室等	7 前期：(7 号館耐震工事のため) 11 号館 11 階 (10 月中旬まで) 後期：7 号館 5 階 松田研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop a	科目名 (英文)	English Writing Workshop a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3023b0		

授業概要・目的	読解した英文の内容について、基本的な文法構造を用いて要約したり、自分の意見を含めたレポートやエッセイを書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、複数のパラグラフでエッセイを書くことができるようになる。また、英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に慣れる。
授業方法と留意点	- Comprehensive English a, English for Global Communication a と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 - 書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 - 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1.1 Psychology Happiness	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 1.2 Psychology Happiness	Unit 1 Writing Task p. 11	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 2.1 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 2.2 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Unit 2 Writing Task p. 21	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Unit 3 Writing Task p. 31	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 4.1 Business 'Negotiating'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 4.2 Business 'Negotiating'	Unit 4 Unit Writing Task p. 41	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 5.1 Art History 'Modern Art'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 5.2 Art History 'Modern Art'	Unit 5 Writing Task p. 51	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 6.1 Engineering 'Robots'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 6.2 Engineering 'Robots'	Unit 6 Writing Task p. 61	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目	Comprehensive English a, English for Global Communication a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	共通課題 (エッセイ課題) 20%
------	-------------------

(基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館3階 Herke's office 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop a	科目名 (英文)	English Writing Workshop a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3023b0		

授業概要・目的	読解した英文の内容について、基本的な文法構造を用いて要約したり、自分の意見を含めたレポートやエッセイを書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B1-2]を目標とし、複数のパラグラフでエッセイを書くことができるようになる。また、英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に慣れる。
授業方法と留意点	- Comprehensive English a, English for Global Communication a と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 - 書式は、Setsunan Academic Essay Guidelines に従う。 - 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 1.1 Psychology Happiness	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 1.2 Psychology Happiness	Unit 1 Writing Task p. 11	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 2.1 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 2.2 Linguistics 'Critical Hypothesis' Period	Unit 2 Writing Task p. 21	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 3.1 Public Health 'Sleep'	Unit 3 Writing Task p. 31	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 4.1 Business 'Negotiating'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 4.2 Business 'Negotiating'	Unit 4 Unit Writing Task p. 41	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 5.1 Art History 'Modern Art'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 5.2 Art History 'Modern Art'	Unit 5 Writing Task p. 51	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 6.1 Engineering 'Robots'	Academic Writing Guidelines	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 6.2 Engineering 'Robots'	Unit 6 Writing Task p. 61	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目	Comprehensive English a, English for Global Communication a
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	共通課題(エッセイ課題) 20%
------	------------------

(基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	Improve your academic writing by writing, re-writing , and learning from your mistakes.
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 Taura 研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop b	科目名 (英文)	English Writing Workshop b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3024b0		

授業概要・目的	与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、読解した様々なトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示すことができるようになる。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成ができる。
授業方法と留意点	- Comprehensive English b, English for Global Communication b と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 - 書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 - 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7.1 Media Studies 'Interactive Games'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 70	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 7.2 Media Studies 'Interactive Games'	Unit 7 Writing Task p. 71	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 8.1 Biology 'Genetically Modified Food'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 80	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 8.2 Biology 'Genetically Modified Food'	Unit 8 Writing Task p. 81	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 9.1 Business 'Design Thinking'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 90	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 9.2 Business 'Design Thinking'	Unit 3 Writing Task p. 91	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 10.1 History 'Shackleton'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 100	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 10.2 History 'Shackleton'	Unit 10 Writing Task p. 101	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 11.1 Philosophy 'Ethics'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 110	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 11.2 Philosophy 'Ethics'	Unit 11 Writing Task p. 111	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 12.1 Information Technology 'Big Data'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 120	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 12.2 Information Technology 'Big Data'	Unit 6 Writing Task p. 121	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目	Comprehensive English b, English for Global Communication b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	共通課題 (エッセイ課題) 20%
------	-------------------

(基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	Herke 研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Writing Workshop b	科目名 (英文)	English Writing Workshop b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3024b0		

授業概要・目的	与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書く演習を行う。
到達目標	CEFR-J [B2-1]を目標とし、読解した様々なトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示すことができるようになる。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成ができる。
授業方法と留意点	- Comprehensive English b, English for Global Communication b と連動する。これらの授業で読解、議論しているテーマでレポートやエッセイを書く。 - 書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 - 必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 7.1 Media Studies 'Interactive Games'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 70	Review unit language structures & watch the lecture.
	2	Unit 7.2 Media Studies 'Interactive Games'	Unit 7 Writing Task p. 71	Review unit language structures & watch the lecture.
	3	Unit 8.1 Biology 'Genetically Modified Food'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 80	Review unit language structures & watch the lecture.
	4	Unit 8.2 Biology 'Genetically Modified Food'	Unit 8 Writing Task p. 81	Review unit language structures & watch the lecture.
	5	Review, consolidation.	Review, consolidation.	Review unit language structures & watch the lecture.
	6	Unit 9.1 Business 'Design Thinking'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 90	Review unit language structures & watch the lecture.
	7	Unit 9.2 Business 'Design Thinking'	Unit 3 Writing Task p. 91	Review unit language structures & watch the lecture.
	8	Assessment	Midterm Test	Review unit language structures & watch the lecture.
	9	Unit 10.1 History 'Shackleton'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 100	Review unit language structures & watch the lecture.
	10	Unit 10.2 History 'Shackleton'	Unit 10 Writing Task p. 101	Review unit language structures & watch the lecture.
	11	Unit 11.1 Philosophy 'Ethics'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 110	Review unit language structures & watch the lecture.
	12	Unit 11.2 Philosophy 'Ethics'	Unit 11 Writing Task p. 111	Review unit language structures & watch the lecture.
	13	Unit 12.1 Information Technology 'Big Data'	Academic Writing Conventions & Guidelines Review your notes p. 120	Review unit language structures & watch the lecture.
	14	Unit 12.2 Information Technology 'Big Data'	Unit 6 Writing Task p. 121	Review unit language structures & watch the lecture.
	15	Assessment	Final Presentation	Review unit language structures & watch the lecture.

関連科目	Comprehensive English b, English for Global Communication b
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics Level 1 (4th Edition) Student Book with Essential Online Resource	Helen Solorzano and Laurie Frazier	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	共通課題 (エッセイ課題) 20% one 1,000-word persuasive essay
------	---

(基準)	Speed writing 10%, Attitude 30% (focused, on time, using 100% English, enthusiasm, keeping up with your extensive reading), Note-taking 20%, Final presentation on your essay 20%
学生へのメッセージ	We will follow the same format as in 1st term. Please try to join the online class from your home, as this makes the class easier to conduct with masks off. But if you need to be masked and on campus, just do your best to find a quiet space. Let's focus o
担当者の研究室等	Online from home
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	English Lecture I a	科目名 (英文)	English Lecture I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3025b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人間関係論 (Human Relations) 序論、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践します。	ノートを復習します。(4 時間)
	2	「個性」「価値観」「態度」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4 時間)
	3	「知覚」「自尊感情」「自信」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4 時間)
	4	「感情知性」 (Emotional Intelligence) とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4 時間)
	5	目標設定と時間管理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4 時間)
	6	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。(4 時間)
	7	ストレスを特定する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4 時間)
	8	ストレスの原因と低減の方法	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4 時間)
	9	職場におけるコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4 時間)
	10	コミュニケーションの様々なスタイル	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4 時間)
	11	言葉によらないコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4 時間)
	12	レポート作成演習: トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。(4 時間)
	13	レポート作成演習: 初稿を改訂する (アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。(4 時間)
	14	レポート作成演習: 第二稿を改訂する (文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。(4 時間)
	15	復習テストと質疑応答	テストを復習します。	ノートを復習します。(4 時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		
	2			

	3			
評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%			
学生への メ ッ セ ー ジ	The aim of this course is to provide the opportunity to participate in an American-style lecture class. The content of the lectures and the skills you will learn in this class will be useful for job hunting, study abroad, and business. Be prepared to cha			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にテストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	English Lecture I a	科目名 (英文)	English Lecture I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3025b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題は Setsunan Academic Essay Guideline(SAEG)に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	人間関係論(Human Relations)序論、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践します。	ノートを復習します。(4時間)
	2	「個性」「価値観」「態度」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	3	「知覚」「自尊感情」「自信」とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	4	「感情知性」(Emotional Intelligence)とは何か	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	5	目標設定と時間管理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	6	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。(4時間)
	7	ストレスを特定する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	8	ストレスの原因と低減の方法	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	9	職場におけるコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	10	コミュニケーションの様々なスタイル	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	11	言葉によらないコミュニケーション	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。ノートを復習します。(4時間)
	12	レポート作成演習:トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)
	13	レポート作成演習:初稿を改訂する(アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)
	14	レポート作成演習:第二稿を改訂する(文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。(4時間)
	15	復習テストと質疑応答	テストと復習します。	ノートを復習します。(4時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		
	2			

	3			
評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%			
学生への メ ッ セ ー ジ	Be ready to participate in active discussion in this course.			
担当者の 研究室等	11 号館 11 階			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	English Lecture I b	科目名 (英文)	English Lecture I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	A
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3026b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット運動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践する。	ノートを復習する。 (4 時間)
	2	職場における倫理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	3	倫理的な意思決定を行う	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	4	モチベーション理論	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	5	モチベーションを上げるには	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	6	復習テストと質疑応答	テストと復習する。	ノートを復習する。 (4 時間)
	7	職場におけるグループ分け	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	8	意思決定の過程を理解する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。
	9	職場における争議を処理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	10	リーダーシップと管理業務	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	11	キャリアを管理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	12	レポート作成演習：トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	13	レポート作成演習：初稿を改訂する (アイデアの流れと構成を中心に)	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	14	レポート作成演習：第二稿を改訂する (文章表現の確認)	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	15	復習テストと質疑応答	テストと復習をする。	ノートを復習する。 (4 時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		
	2			

	3			
評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%			
学生への メッセージ	Be ready to participate in active discussion in this course.			
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 フーパー研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	English Lecture I b	科目名 (英文)	English Lecture I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	B
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3026b0		

授業概要・目的	英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになる。CEFR-J[B1-1]の総合力を目標とする。各回の講義テーマはビジネス系のものを選定し、TOEIC スコアの向上も目指す。
到達目標	授業は原則として全て英語で行われる。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与しながら話す・書く活動、インプット・アウトプット運動型の訓練を行う。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文（レポート）課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 ・講義内容を学びながら、各自で TOEIC での高得点も目指すこと。 このコースでは、非同期性の授業でムードルトとチームズを使います。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入、ノートの取り方について	ノートを取るスキルを学び実践する。	ノートを復習する。 (4 時間)
	2	職場における倫理	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	3	倫理的な意思決定を行う	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	4	モチベーション理論	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	5	モチベーションを上げるには	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	6	復習テストと質疑応答	テストと復習する。	ノートを復習する。 (4 時間)
	7	職場におけるグループ分け	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	8	意思決定の過程を理解する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。
	9	職場における争議を処理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	10	リーダーシップと管理業務	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	11	キャリアを管理する	講義ノートを書き留める。グループディスカッションをする。	テキストを読む。 ノートを復習する。 (4 時間)
	12	レポート作成演習：トピックの選定と計画	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	13	レポート作成演習：初稿を改訂する（アイデアの流れと構成を中心に）	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	14	レポート作成演習：第二稿を改訂する（文章表現の確認）	レポートを書く。	レポートを書く。 (4 時間)
	15	復習テストと質疑応答	テストと復習をする。	ノートを復習する。 (4 時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Human Relations, (Open Textbook Library, ダウンロード版)	Laura Dias	https://open.umn.edu/opentextbooks/BookDetail.aspx?bookId=132
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Setsunan Academic Essay Guideline (摂南大学外国語学部編)		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート 20% TOEIC スコアによる評価 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%			
学生への メッセージ	The aim of this course is to provide the opportunity to participate in a North American style lecture class. The content of the lectures and the skills you will learn in this class will be useful for job hunting, study abroad, and business. Be prepared t			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にテストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時にスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	English Lecture II a	科目名 (英文)	English Lecture II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3027b0		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。講義テーマは国際語としての英語である。
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。
授業方法と留意点	・授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・必ず辞書を持参すること。 ・作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation, What is a global language?	Review (4 時間)
	2	Why a global language? Why English?	Why do we need a global language? What are the dangers of a global language?	Preview/ review (4 時間)
	3	The historical context [1]	English varieties of the Inner Circle	Preview/ review (4 時間)
	4	The historical context [2]	English varieties of the Outer Circle	Preview/ review (4 時間)
	5	The historical context [3]	English varieties of the Expanding Circle	Preview/ review (4 時間)
	6	English in Japanese society	English in Japan	Preview/ review (4 時間)
	7	The cultural foundation	Political developments and access to knowledge	Preview/ review (4 時間)
	8	The cultural legacy [1]	International relations and the media	Preview/ review (4 時間)
	9	The cultural legacy [2]	International travel, international safety	Preview/ review (4 時間)
	10	Review week	Review and summary of what has been covered so far	Preview/ review (4 時間)
	11	In-class test and feedback	In-class test and feedback	Preview/ review (4 時間)
	12	The future of global English [1]	Contrasting attitudes	Preview/ review (4 時間)
	13	The future of global English [2]	The linguistic character of new Englishes	Preview/ review (4 時間)
	14	The future of global English [3]	The future of English as a world language	Preview/ review (4 時間)
	15	Summary and feedback	Summary of the course, feedback	Preview/ review (4 時間)

関連科目	Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English as a Global Language (Canto classics edition)	David Crystal	Cambridge University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Englishes: A Resource Book for Students (3rd edition)	Jennifer Jenkins	Routledge
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Participation 40% In-class test 30% Writing check 10% Final essay 20%
-----------	--

学生へのメッセージ	Let's learn and think about the reality of English as an international language.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	授業内容については、進度等により調整する場合があります。毎回の授業のための教科書の読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスケジュールアワーにて対応する。
----	---

科目名	English Lecture II b	科目名 (英文)	English Lecture II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3028b0		

授業概要・目的	幅広い内容の講義を英語で理解し、自らの意見を英語で述べたり、クラスメイトと英語でディスカッションできるようになる。 This is a content-based academic English course on an Australian movies and the cultural themes discovered while watching the episodes. Australian English will also be examined and an attempt made
到達目標	あるトピックに関して自分の意見を交えながら、グループやクラスの前で発表したり、討論する。 The course will focus on listening and speaking and listening skills and building up the vocabulary necessary to understand Australian culture.
授業方法と留意点	- 授業はすべて英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 - 必ず辞書を持参すること。 - 作文 (レポート) 課題は Setsunan Academic Essay Guideline (SAEG) に従った書式で作成すること。 The topics will be introduced in visual form in the drama series, with background readings given for study at
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Overview	Information about grading and requirements. This is an important class to attend if you wish to take this course. (4 時間)
	2	Notetaking, reading, and strategies for discussion. Final essay guidelines and topics.	The way to study to improve your Academic English skills.	Listening and speaking techniques. Essay writing (4 時間)
	3	Episode 1	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	4	Episode 1	Listening skills	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	5	Episode 1	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	6	Episode 2	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	7	Episode 2	Listening skills	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	8	Episode 2	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	9	Episode 3	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	10	Episode 3	Listening skills	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	11	Episode 3	Discussion on the cultural issues in Australia.	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	12	Episode 4	Background mini-lecture, watching the clip, review of the content	Academic readings on culture & Writing assignments (4 時間)
	13	Episode 4	Listening skills	Final Essay (4 時間)
	14	Episode 4	Australia and her neighbour, New Zealand	Final Essay due for assessment (4 時間)
	15	Final review	Evaluations	Verbal Presentations on final essay topics (4 時間)

関連科目	Comprehensive English, English for Global Communication, English Writing Workshop
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Australia and New Zealand	Christine Lindop	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Class attitude 30% (Prepared, Enthusiastic, On time, Willing to learn, using English 100%), Quizzes (Readings from the text & Lecture quizzes) 20%, Notebook Portfolio 20% (short weekly writing assignments), Final essay 20% , Final Presentation based on
学生への メッセージ	Notebook & textbook required. Please prepare this. Think about the positives this term of once again being online - staying safe, protecting yourselves, family and friends, benefitting from a mask-free environment if you take the class from home and Engli
担当者の 研究室等	Online from home
備考	

科目名	Debate & Presentation a	科目名 (英文)	Debate and Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3029b0		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起こりやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。ITC を用いながら英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行う事が求められる。必ず辞書を用意する事。 ・教科書は2冊使います。必ず両方購入すること。 ・遅刻は3回で1回欠席扱いとなります。4回欠席で単位取得資格を失います。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 導入 UNIT12 No place like home 1	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・めざしたい発表を考える	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	2	単語テスト1 プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 仕上げ UNIT12 No place like home 2	プレゼンテーション 発展 リスニング リピーティング 語彙 ・インタビュー	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	3	単語テスト2 プレゼンテーション 自己 (他人) 紹介 発表 UNIT 10 Adult Children 1	プレゼンテーション 発表 題材を元にして意見を述べる ・その場にはいない人物を描写する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (2時間)
	4	単語テスト3 プレゼンテーション 英語 と自分 導入 UNIT 10 Adult Children 2	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング ・問題点を述べる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	5	テスト1回目 UNIT14 High Tech Toys 1	内容チェックテスト1 リスニング リピーティング 語彙	テスト勉強 語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	6	単語テスト4 プレゼンテーション 英語 と自分 仕上げ UNIT14 High Tech Toys 2	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる ・解決案を提案する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	7	コミュニティの中のルール 単語テスト5 プレゼンテーション 英語 と自分 発表 UNIT4 Rules1	プレゼンテーション 発表 リスニング リピーティング 語彙 ・規則を説明する ・日本の習慣を説明する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (2時間)
	8	コミュニティの中のルール 単語テスト6 プレゼンテーション マイ ヒストリー 導入 グループ分け UNIT4 Rules2	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・グループ対抗でプレゼン	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	9	要約をする 単語テスト7 プレゼンテーション 調 査 UNIT3 I don't care 1	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる ・会話文を要約する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	10	要約をする テスト2回目 UNIT3 I don't care 2	内容チェックテスト2 プレゼンテーション 発展 リスニング リピーティング 語彙 ・書かれた文章を要約する	テスト勉強 語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	11	意見を掘り下げる 単語テスト8 プレゼンテーション マイ ヒストリー 発表1 UNIT1 Cosmetic Surgery	プレゼンテーション 発表 リスニング リピーティング 語彙 ・根拠を述べる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	12	意見を掘り下げる 単語テスト9 プレゼンテーション マイ ヒストリー 発表2 UNIT19 One-sided love	プレゼンテーション 発表 題材を元にして意見を述べる ・具体例を挙げる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	13	質問をする 単語テスト10 プレゼンテーション 夏休 み 導入 UNIT17 The compromise 1	プレゼンテーション 導入 リスニング リピーティング 語彙 ・予定を尋ねる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)
	14	質問をする 単語テスト11	プレゼンテーション 発展 題材を元にして意見を述べる	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (2時間)

		プレゼンテーション夏休み 仕上げ UNIT17 The compromise 2	・尋ねた内容を元に、さらに質問をして 展開する	
	15	テスト3回目 プレゼンテーション 夏休 み 発表	内容チェックテスト3 プレゼンテーション 発表 ・チーム対抗でディベート等	テスト勉強 語彙の復習 プレゼン原稿暗記 (2時間)
関連科目	プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	One-minute Presentation in English	松岡 昇/傍島一夫	松柏社
	2	Impact Issues 3	Richard R Day	Longman
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション 26% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 74%			
学生への メッセージ	Google Meet というツールで授業を行います。 グーグルクロームからグーグルにログインします。←右上にあるアカウントマークの横の9個の丸印を押すと、「meet」というマークが出ます。 そこから授業時間になったらこの ID でログインしてください。アプリもあります。 https://meet.google.com/bpr-kxxr-oza 新しいガイダンスプリントを Web Folder に入れていますので参照してください。			
担当者の 研究室等				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	Debate & Presentation b	科目名 (英文)	Debate and Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3030b0		

授業概要・目的	テーマに基づいたプレゼンテーション、およびディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	英語によるプレゼンテーションやディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に着ける。意見の不一致が起りやすい状況設定で、自分の意見を根拠を挙げながら相手に分かりやすく主張できるようになる。CEFR-J[B1-2]レベルの表現力を目標とする。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。ITC を用いながら英語プレゼンテーションをして、それをもとに英語でディベートを行う事が求められる。必ず辞書を用意する事。 上記の 2 タイプの発表に加えて、自分がひとに伝えたい大切な内容を語る Bibliobattle を英語で行う。毎週のさまざまな練習が、5 分間ライブ感たっぷりの、目の前の聴衆にメッセージを伝える素地をつくる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション: What makes a good/better presentation?	これまでの発表経験をふりかえり、これからめざしたい発表を考える オンラインでの授業開始 教材・連絡・提出等は Teams, Webfolder, Zoom を使用	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1 時間)
	2	描写 (1) CNN の実際のニュースリポーターの話し方を分析してみる	時系列にそって出来事を伝える オリンピック直前の東京の様子をリポートするアメリカ CNN のニュースの話し方、息継ぎ、その効果などを観察し分析する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1 時間)
	3	描写 (2) CNN のニュースリポーターの話し方をコピーしてみる	重要な情報が際立つように伝える CNN のニュースを 1 つ完コピしてみる。自分との違いは何か、考える	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (1 時間)
	4	アドバイス 自分の経験を、下級生に伝える (オンライン英会話プログラムの効果的な使い方・失敗を防ぐには 等)	経験の中から、アドバイスをするための構成を考える。失敗例を話してから成功する方法を伝えるのか、よい方法とまずい方法の比較をするのか、等。	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1 時間)
	5	比較を用いたディベート (1) 対面 vs オンライン	それぞれの利点と弱点を探す。それらをどう並べれば、何を主張しやすいのか、考える	テスト勉強 語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1 時間)
	6	比較を持ちいたディベート (2) 対面 vs オンライン	話す自分が信じていることを、合理的な因果関係を示しながら伝える。	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1 時間)
	7	オリジナルのスピーチを作成する (1): Main idea and outline	作り方を説明する 11 月 4 日より、教室での対面授業再開。ただし授業の教材・連絡等には引き続き Teams, Webfolder, を使い、プレゼンの録画には Zoom を利用する	語彙の復習 音読 プレゼン原稿暗記 (1 時間)
	8	オリジナルのスピーチを作成する (2): Effective opening	ディスカッション	語彙の復習 音読 プレゼン原稿作成 (1 時間)
	9	オリジナルのスピーチを作成する (3): how to deliver examples to support the main idea	ディスカッション	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1 時間)
	10	スピーチ発表と相互フィードバック	発表	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1 時間)
	11	相手の意見を引き出す質問 (1)	Yes/No の質問で話を方向づける	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1 時間)
	12	相手の意見を引き出す質問 (2)	5W1H の質問で話を展開する	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1 時間)
	13	異なる立場で考える (1)	片思いする人 vs 追われて困惑する人	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1 時間)
	14	異なる立場で考える (2)	消費者と製造者にとっての商品価格	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1 時間)
	15	最終プレゼンテーション	(課題は前の週に発表)	語彙の復習 音読 ディベート原稿作成 (1 時間)

関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	資料配布	
	2		
	3		
参考書			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション 30% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 70%			
学生への メッセージ	外国語での会話が楽しい、という時期を過ぎ、しっかりした内容を伝えるためにはオリジナリティと同時にやっぱり語彙と文法が必要、ということに、気づいている頃ではありませんか？この授業は、「ああ、もっと自由に言葉を使いこなして言いたい！」というフラストレーションがときどきたまるけれど、話の展開のバリエーションをたくさん模索できる時間になるでしょう。過去には協定校からの留学生が通して参加してくれたり、海外の先生がオンラインでゲスト参加してくださったりして、マルチリンガルな環境、そして視点の多い授業になりました。			
担当者の 研究室等	7号館4階 齋藤研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。			

科目名	Oral Communication a	科目名 (英文)	Oral Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3031b0		

授業概要・目的	英語プロフェッショナルコースの4年次生を対象とする。ディスカッション、プレゼンテーション演習を通じて、英語オーラル・コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B2-1]以上のレベルを目標とする。アカデミックな話題、知的、抽象的な話題について理解し、自分の意見を述べ、ディスカッションをし、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。与えられた話題についての予習を前提としたディスカッション、および個人またはグループによるプレゼンテーション演習によって授業を進める。十分な準備をして毎回の授業に臨み、積極的に発言をすること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Natural lists	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	2	Adding more information	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	3	Order and priority	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	4	Habits and routines	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	5	Advice	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	6	Future - probability and speculation	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	7	Conditional imagination	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	8	Instructions and process	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	9	Creative instructions	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	10	Relative location	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	11	Giving directions	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	12	Daily diaries	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	13	Simple stories	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	14	Description	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)
	15	Conversation and reported speech	Textbook, self-expression discussion,	Announced weekly in class (4 時間)

関連科目	English for Global Communication a, b
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	プレゼンテーション 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	"Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be."
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Oral Communication b	科目名 (英文)	Oral Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3032b0		

授業概要・目的	英語プロフェッショナルコースの4年次生を対象とする。ディスカッション、プレゼンテーション演習を通じて、英語オーラル・コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。
到達目標	CEFR-J [B2-1]以上のレベルを目標とする。アカデミックな話題、知的、抽象的な話題について理解し、自分の意見を述べ、ディスカッションをし、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	授業は原則として全て英語で行われる。与えられた話題についての予習を前提としたディスカッション、および個人またはグループによるプレゼンテーション演習によって授業を進める。十分な準備をして毎回の授業に臨み、積極的に発言をすること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Making Comparisons	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	2	Creating inventions	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	3	Opinions 1 - What is best	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	4	Opinions 2 - Good or bad	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	5	Opinions 3 - True or false	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	6	Explanations	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	7	Tall tales & exaggeration	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	8	Advertising	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	9	Interpreting the news	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	10	Evaluation & review	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	11	All kinds of research	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	12	Rethinking history	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	13	Envisioning the future	Textbook, research, discussion, self-expression	Announced weekly in class (4 時間)
	14	Review	Discussion	Announced weekly in class (4 時間)
	15	Review and evaluation	Discussion, presentation	Announced weekly in class (4 時間)

関連科目	English for Global Communication a, b
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Online Presentation 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	"Boys, be ambitious! Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be."
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	Advanced English a	科目名 (英文)	Advanced English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3033b0		

授業概要・目的	様々なトピックに関するリスニングやリーディングを行い、その内容、構造、表現について話し合い、プレゼンテーションや作文をする総合演習授業となる。
到達目標	3 年次までに培った英語力をさらに伸ばし、CEFR-J [B2-2] レベルの 4 技能の習得を目指す。
授業方法と留意点	・授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・コミュニケーション重視の授業となるため、授業への積極的な参加を求める。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Overview of the schedule and what will be covered in the course	Review (4 時間)
	2	Unit 1 Communication studies: Slang and language change	Vocabulary input / discussion	Preview/ review Extensive Listening 1 (4 時間)
	3	Unit 1 Communication studies: Slang and language change	Listening / discussion	Preview/ review (4 時間)
	4	Unit 2 Child psychology: The genius within	Vocabulary input / discussion	Preview/ review Extensive Listening 2 (4 時間)
	5	Unit 2 Child psychology: The genius within	Listening / discussion	Preview/ review Presentation Topic choice (4 時間)
	6	Unit 3 Sociology: Online communities	Vocabulary input / discussion	Preview/ review Extensive Listening 3 (4 時間)
	7	Unit 3 Sociology: Online communities	Listening / discussion	Preview/ review Study for quiz (4 時間)
	8	Quiz 1	Brief review and quiz	Preview/ review Presentation Worksheet / slides (4 時間)
	9	Presentation 1	Sharing slides and speaking	Preview/ review Extensive Listening 4 (4 時間)
	10	Unit 4 Business: Core business skills	Vocabulary input / discussion	Preview/ review (4 時間)
	11	Unit 4 Business: Core business skills	Listening / discussion	Preview/ review Extensive Listening 5 (4 時間)
	12	Unit 5 Cognitive psychology: Memory	Vocabulary input / discussion Listening / discussion	Preview/ review (4 時間)
	13	Unit 6 Anthropology/ Biology: The science of love	Vocabulary input / discussion Listening / discussion	Preview/ review Study for quiz (4 時間)
	14	Quiz 2	Brief review and quiz	Preview/ review Presentation Worksheet / slides (4 時間)
	15	Presentation 2	Sharing slides and speaking	Course review (4 時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics 3	David Beglarand Neil Murray	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Unit quizzes (2) 20% Presentations (2) 20% Extensive Listening (5) 30% Active classroom participation (15) 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	トピックに合わせたアクティビティを中心とした授業になります。英語でさらに色々なトピックについて考え、発信できるようになりましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	授業内容については進度等により調整する場合がある。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表の準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
----	---

	テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールにて対応する。
--	--

科目名	Advanced English b	科目名 (英文)	Advanced English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャープ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3034b0		

授業概要・目的	様々なトピックに関するリスニングやリーディングを行い、その内容、構造、表現について話し合い、プレゼンテーションや作文をする総合演習授業となる。
到達目標	3 年次までに培った英語力をさらに伸ばし、CEFR-J [B2-2] レベルの 4 技能の習得を目指す。
授業方法と留意点	・授業は原則として全て英語で行われる。アカデミックレベルの内容の英文をインプットして、それを論理的にアウトプットする訓練を行う。 ・コミュニケーション重視の授業となるため、授業への積極的な参加を求める。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Overview of the schedule and what will be covered in the course	End of class report Preview textbook units (2 hrs)
	2	Unit 8 Political science: Big brother and the surveillance society	Activities, vocabulary, unit lecture	Extensive Listening Homework 1 (2 hrs)
	3	Unit 8 Political science: Big brother and the surveillance society	Activities, vocabulary, unit lecture	Presentation Preparation: topic choice and planning (2 hrs)
	4	Unit 9 Linguistics: Animal communication	Activities, vocabulary, unit lecture	Extensive Listening Homework 2 (2 hrs)
	5	Unit 9 Linguistics: Animal communication	Activities, vocabulary, unit lecture	Prepare for Quiz 1 (2 hrs)
	6	Quiz 1	Quiz 1	Complete presentation worksheet (2 hrs)
	7	Presentation 1	Presentation 1	Extensive Listening Homework 3 (2 hrs)
	8	Unit 10: Economics: The evolution of money	Activities, vocabulary, unit lecture	Preview / review contents (2 hrs)
	9	Unit 10: Economics: The evolution of money	Activities, vocabulary, unit lecture	Presentation Preparation: topic choice and planning (2 hrs)
	10	Unit 11: Biology: The fountain of youth	Activities, vocabulary, unit lecture	Extensive Listening Homework 4 (2 hrs)
	11	Unit 11: Biology: The fountain of youth	Activities, vocabulary, unit lecture	Preview / review contents (2 hrs)
	12	Unit 12: Sociology: Marriage	Activities, vocabulary, unit lecture	Extensive Listening Homework 5 (2 hrs)
	13	Unit 12: Sociology: Marriage	Activities, vocabulary, unit lecture	Prepare for Quiz 2 (2 hrs)
	14	Quiz 2	Quiz 2	Complete presentation worksheet (2 hrs)
	15	Presentation 2	Presentation 2	Optional course reflection (1 hr)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Contemporary Topics 3	David Beglarand Neil Murray	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Tests (2 x 20%) 40% Short Presentations (2 x 10%) 20% Extensive Listening Homework (5 x 5%) 25% Active participation 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	トピックに合わせたアクティビティを中心とした授業になります。英語でさらに色々なトピックについて考え、発信できるようになりましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	Homework includes four types: 1. Previewing and reviewing lesson contents 2. Preparation for tests 3. Writing and practicing a presentation 4. Extensive listening reports
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa	摂南大学外国語学部	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	I'm looking forward to seeing you every week in class! Be prepared to speak lots of English in each and every class. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a class
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa (大学オリジナルテキスト)	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Students who consistently approach the classroom activities and homework with focus and enthusiasm will be able to speak and write English much better. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for in
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ローマン レンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & WritingⅡa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Students who consistently approach the classroom activities and homework with focus and enthusiasm will be able to speak and write English much better. Please join the Teams and Moodle. I will share our Zoom class link in Teams!
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & WritingⅡa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Plan for your future and study English today.
担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & WritingⅡa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	Plan for your future and study English today.
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アンナ インゲル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	In this class, you can improve your English speaking and reading abilities through fun, relevant activities. I will do my best to help you achieve your English goals.
担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & WritingⅡa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	Looking forward to seeing you in class every week! Also, please be prepared to have a lot of speaking practices in this course.
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	け
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディング IIa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	I'm looking forward to seeing you every week in class! Be prepared to speak lots of English in each and every class. In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 ハーキー研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。
----	--

科目名	スピーキング&ライティングⅡ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西尾 優里
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2035b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。
授業方法と留意点	1 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。 毎回、授業の最初に単語テストを行った後、教科書の演習を進めていく。 演習では、指名により解答を発表してもらうので、事前に練習問題を解いておき、知らない単語は調べておくことが必要となる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	人について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	ニュースを議論するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	ニュースを議論する実践演習	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	家族の生活について語ること	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	高校生活について小グループでのディスカッション	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	7	映像を見ていろいろと質問をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	言われたことを確認する方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	言われたことをより詳細に聞く方法	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	ストレスへの対処法について議論すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	生まれ育った地域について説明すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	意見を表明するための基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	意見を表明するための実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡa, English for Specific Purposes a, メディアイングリッシュ a
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Keynote 1 (ISBN-13: 978-1-305-96503-4)	David Bohlke	National Geographic
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIa	English Department	Setsunan
	2			
	3			

評価方法 (基準)	・宿題—Online Wordbook : 20% ・レポート課題提出—Submission of Report (Worksheet) for Speaking session : 20% ・中間理解度確認—Quiz I・II : 30% ・期末試験—Final Test : 30%
-----------	--

学生へのメッセージ	I'm looking forward to seeing you every week in class! This class ask your positive reaction for speaking and writing of all subjects. Do not hesitate to make a mistake and move forward to the next stage! In order to pass this course, you must attempt
-----------	---

担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師室 →オンライン授業期間は基本的にキャンパスの立ち入りが制限されます。非常勤講師室も立ち入ることが困難になる可能性があります。代わりに、メールやMicrosoft Teams/ LINE など、困った時には、すぐに知らせてください。
----------	---

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ
----	---

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは適宜行う。 その他の質問等は、email、または授業中や出勤時に、非常勤講師室で対応する。 ＊初回授業には必ず参加してください。特段の理由がない限り、初回授業に参加していない学生の受講は認めません。 この授業では、オンライン授業期間中でも、対面授業と同じく、9:20～10:50 に授業を行い、リアルタイム型の
--	--

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb (大学オリジナル教材)	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	We will return to the classroom for face to face classes from November 8th.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85% If lessons must be conducted online, you must complete EVERY weekly assignment to be considered for a passing grade.
学生へのメッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays', particularly in Australia, should you have any.
担当者の研究室等	7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ローマン レンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. If you miss a Talk Time session, please contact me to arrange a substitute session.
担当者の研究室等	7 号館 2 階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	Plan for your future and study English today. Please use the same ZOOM login from Semester 1: Topic: Monday 1 Speaking & Writing 11b Time: This is a recurring meeting Meet anytime Join Zoom Meeting https://testkindai.zoom.us/j/92926480516?
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ
----	---

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	Plan for your future and study English today.
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アンナ インゲル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	In this class, you can improve your English speaking and reading abilities through fun, relevant activities. I will do my best to help you achieve your English goals.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Online session for orientation.	Review weekly materials and complete assignments
	2	レストランのレビューについて語る	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	3	映画や音楽について語る	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	4	理想的な仕事について語る	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	5	相手の理解をチェックする	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	6	不平、不満の表明	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	7	助言や提案をする	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	8	学習内容の確認と振り返り活動	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	9	義務の表明	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	12	説得することと主張すること	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	13	可能性について述べること	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	Weekly assignments and individual feed backs.	Review weekly materials and complete assignments
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	Final speaking group presentation	Final speaking group presentation

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等
学生へのメッセージ	I look forward to meeting you, discussing the issues, and reading your ideas.
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	け
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	横内 美和
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。 オンライン授業の間は、Teams を使ったリアルタイムの映像配信型の授業になります。Teams でもできれば、ペアワーク、グループワークは行っていきたいですが、接続環境によってできない場合は、テキスト演習、解説などが中心となります。 11/1 以降は対面授業となります。ジャーナルの提出も対面で行います。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト、発言・討論、宿題、提出物等 85%
-----------	--

学生へのメッセージ	I'm looking forward to seeing you in class every week. Be sure to come to class every week prepared to speak lots of English. Remember, "practice makes perfect"!
-----------	---

担当者の研究室等	In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an exc
----------	--

備考	7 号館 3 階 Herke's office
----	-------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西尾 優里
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1年次に習得した『暗唱英文100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。 毎回、授業の最初に単語テストを行った後、教科書の演習を進めていく。 演習では、指名により解答を発表してもらうので、事前に練習問題を解いておき、知らない単語は調べておくことが必要となる。 *初回授業には必ず出席すること。 初回授業に出席していない学生の受講は、特別な場合を除き、基本的に許可しない。 *下記の
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動 →11/8の授業から対面授業へ変更。	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	14	個人的な問題について助言や提案すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Keynote 1 (ISBN-13: 978-1-305-96503-4) Part 6～	David Bohlke	Natl Geographic
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing IIb	English Department	Setsunan
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 100% *詳細については、初回授業に説明します。
-----------	---

学生へのメッセージ	I'm looking forward to seeing you every week in class! This class ask your positive reaction for speaking and writing of all subjects. Do not hesitate to make a mistake and move forward to the next stage!
-----------	--

	In order to pass this course, you must attempt
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	本授業では Teams 等のオンラインツールを利用することを検討しています。 後期初回授業参加時には、上記記載の「Teams コード」および「Moodle コース名および登録キー」にて、Microsoft Teams, Moodle を準備しておいてください。 なお、授業開始時刻の 15-10 分前より自由に入室を開始できるよう、Teams のページを開いておきます。 (Teams のクラスコードや教員との連絡方法は再度、初回授業時に説明・確認します。初回授業に上手く参加できなかった場合は、上記記載の教員メールへ

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。			
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。			
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。			
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）
	2	比喩表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）
	3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 2 回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）
	4	比喩表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）
	5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 4 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）
	6	比喩表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）
	7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 6 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）
	8	比喩表現について（4）比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）
	9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 8 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）
	10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）
	11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 10 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）
	12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）
	13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 12 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）
	14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）
	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）
関連科目	リーディング Ia, Ib			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814336550
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			
	3			
評価方法（基準）	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80% Grading: extensive reading 10%, speed reading 10%, mid-term test 30%, final test 30%, class work 20%.			
学生への	宿題をアップロードしたり、先生からの書類や指示をダウンロードしたりするには、Setsunan Web Folder をご利用ください。			

メッセージ	ご不明な点がございましたら、下記のメールアドレスまでお問い合わせください。 Please use Setsunan Web Folder to upload homework and download any documents or instructions from the teacher. You can contact me at the email add
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・ディアス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。			
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。			
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。			
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2時間）
	2	比喩表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
	3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
	4	比喩表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
	5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
	6	比喩表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2時間）
	7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
	8	比喩表現について（4）比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2時間）
	9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
	10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
	11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
	12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
	13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2時間）
	14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2時間）
関連科目	リーディング Ia, Ib			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	VOA 健康と環境レポート 4	安浪誠祐/Richard Lavin	松柏社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			
	3			
評価方法（基準）	速読・多読活動 各 10% 授業中の小テスト・まとめのテスト・発表・予習、宿題、提出物。授業態度等 80% 詳しくは第1回目の授業で説明します。			
学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を読んで、英語読解力を伸ばしてください。			

担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>文学的表現とは？日常的な表現との違いについて</td><td>授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>比喩表現について（1）直喩</td><td>直喩に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>比喩表現について（2）暗喩</td><td>暗喩に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>比喩表現について（3）換喩</td><td>換喩に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>比喩表現について（4）比喩複合</td><td>比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>擬人法について</td><td>比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>倒置法について</td><td>倒置法に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>反復法について</td><td>反復法に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括およびまとめの確認テストを行う</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）	2	比喩表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	4	比喩表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	6	比喩表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	8	比喩表現について（4）比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）																																																																
2	比喩表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第2回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
4	比喩表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第4回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
6	比喩表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第6回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
8	比喩表現について（4）比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第8回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第10回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第12回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
関連科目	リーディング Ia, Ib																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Timed Reading for Fluency 2</td><td>Paul Nation & Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Reading Advantage 3</td><td>Casey Malarcher</td><td>Cengage Learning</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																																																																
2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Graded Readers シリーズ</td><td></td><td>Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	The grading consists of three parts; - speed reading activity 10% - extensive reading activity 10% - activities using your textbook 80%																																																																		
学生への	I very much look forward to meeting you all and helping you improve your English reading skills.																																																																		

メッセージ	
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	利バー ケイブレット
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>文学的表現とは？日常的な表現との違いについて</td><td>授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>比喩表現について（1）直喩</td><td>直喩に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第 2 回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>比喩表現について（2）暗喩</td><td>暗喩に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第 4 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>比喩表現について（3）換喩</td><td>換喩に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第 6 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>比喩表現について（4）比喩複合</td><td>比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第 8 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>擬人法について</td><td>比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第 10 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>倒置法について</td><td>倒置法に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第 12 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>反復法について</td><td>反復法に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括およびまとめの確認テストを行う</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）	2	比喩表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 2 回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	4	比喩表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 4 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	6	比喩表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 6 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	8	比喩表現について（4）比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 8 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 10 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 12 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）																																																																
2	比喩表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 2 回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
4	比喩表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 4 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
6	比喩表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 6 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
8	比喩表現について（4）比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 8 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 10 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 12 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
関連科目	リーディング Ia, Ib																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Timed Reading for Fluency 2</td><td>Paul Nation & Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Reading Advantage 2</td><td>Casey Malarcher</td><td>Cengage Learning ISBN: 9789814336543</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814336543	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																																																																
2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814336543																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Graded Readers シリーズ</td><td></td><td>Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	多読 10% 速読 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生への	I'm looking forward to meeting you all and working together to improve your reading skill.																																																																		

メッセージ	Reading in English is so useful to get access to a wealth of information throughout the globe. Hopefully by the end of this course you will feel more confident in
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	くけ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>文学的表現とは？日常的な表現との違いについて</td><td>授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>比喩表現について（1）直喩</td><td>直喩に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第 2 回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>比喩表現について（2）暗喩</td><td>暗喩に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第 4 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>比喩表現について（3）換喩</td><td>換喩に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第 6 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>比喩表現について（4）比喩複合</td><td>比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第 8 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>擬人法について</td><td>比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第 10 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>倒置法について</td><td>倒置法に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第 12 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>反復法について</td><td>反復法に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括およびまとめの確認テストを行う</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）	2	比喩表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 2 回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	4	比喩表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 4 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	6	比喩表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 6 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	8	比喩表現について（4）比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 8 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 10 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 12 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）	14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	文学的表現とは？日常的な表現との違いについて	授業の進め方など。文学的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	授業の内容を確認する。 比喩表現（直喩）について予習する。（2 時間）																																																																
2	比喩表現について（1）直喩	直喩に関する英文を読み、理解を深める。	直喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
3	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 2 回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
4	比喩表現について（2）暗喩	暗喩に関する英文を読み、理解を深める。	暗喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
5	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 4 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
6	比喩表現について（3）換喩	換喩に関する英文を読み、理解を深める。	換喩に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
7	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 6 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
8	比喩表現について（4）比喩複合	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	比喩複合に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
9	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 8 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
10	擬人法について	比喩複合に関する英文を読み、理解を深める。	擬人法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
11	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 10 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
12	倒置法について	倒置法に関する英文を読み、理解を深める。	倒置法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
13	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 12 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。（2 時間）																																																																
14	反復法について	反復法に関する英文を読み、理解を深める。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	反復法に関する英語表現を勉強する。（2 時間）																																																																
関連科目	リーディング Ia, Ib																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Timed Reading for Fluency 2</td><td>Paul Nation & Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Portraits of Japan</td><td>Paul Stapleton/Atsuko Uemura</td><td>センゲージラーニング</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	2	Portraits of Japan	Paul Stapleton/Atsuko Uemura	センゲージラーニング	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																																																																
2	Portraits of Japan	Paul Stapleton/Atsuko Uemura	センゲージラーニング																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 各 10% 授業中の小テスト・まとめのテスト・発表・予習、宿題、提出物。授業態度等 80% 詳しくは第 1 回目の授業で説明します。																																																																		
学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を読んで、英語読解力を伸ばしてください。																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 2 階(前期) 7 号館 2 階(後期) 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ																																																																		

	そ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	リーディングⅡ a	科目名 (英文)	Reading IIA
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2037c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの文学作品を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また同時に、文学作品を取り扱った多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの文学作品を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction.	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2 (2 hours)
	2	Speed reading Exercises 3&4 Unit 1 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Check Teams and Moodle. Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2 (2 hours)
	3	Speed reading Exercises 5&6 Unit 2 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Check Teams and Moodle. Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
	4	Speed reading Exercises 7&8 Unit 3 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Check Teams and Moodle. Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
	5	Speed reading Exercises 9&10 Unit 4 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Check Teams and Moodle. Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
	6	Speed reading Exercises 11&12 Review Unit 5 From Reading Advantage 2. Check on Extensive reading and Lingua porta progress.	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Check Teams and Moodle. Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
	7	Speed reading Exercises 13&14 Unit 6 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Check Teams and Moodle. Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
	8	Speed reading Exercises 15&16 Unit 7 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Check Teams and Moodle. Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
	9	Speed reading Exercises 17&18 Unit 8 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Check Teams and Moodle. Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
	10	Speed reading Exercises 19&20 Unit 9 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Check Teams and Moodle. Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)
	11	Unit 10 from Reading	Vocabulary, everyday phrase and idiom	Check Teams and Moodle.

		Advantage 2	practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)																
	12	Review Unit 6-10 from Reading Advantage 2. Check on Extensive Reading progress.	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Check Teams and Moodle. Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)																
	13	Current Topic	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Check Teams and Moodle. Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)																
	14	Review of Intensive Reading. Chapters 1-10 Reading Advantage 2.	Riview of vocabulary, everyday phrase and idioms and intensive reading for comprehension.	Check Teams and Moodle. Ensure all tasks are complete and records handed in.																
	15	Final Review and check on progress and completion of tasks. Reading of Selected Current Topic.	Intensive reading for comprehension	Check Teams and Moodle. Extensive Reading of Graded Readers Lingua porta E-learning Exercises TOEIC Vocabulary Review of vocabulary, everyday phrase and idioms from Reading Advantage 2. (2 hours)																
関連科目	リーディング Ia, Ib																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>Timed Reading for Fluency 2</td><td>Paul Nation & Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr><tr><td>2</td><td>Reading Advantage 2</td><td>Casey Malarcher</td><td>Cengage Learning ISBN: 9789814352710</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814352710	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																	
2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814352710																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>Graded Readers シリーズ</td><td></td><td>Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Extensive Reading 10% Speed Reading10% Other reading activities 80%																			
学生への メッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。																			
担当者の 研究室等	非常勤講師室																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	韻について (1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	7	韻について (2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	9	韻について (3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(1 時間)

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814336550
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Face-to-face grading: extensive reading 10%, speed reading 10%, mid-term test 30%, final test 30%, class work 20%. Online grading: extensive reading 10%, speed reading 10%, textbook readings 50%, writing 30%. NOTE: If we are able to return to face-to-
-----------	---

学生への メッセージ	All homework is to be uploaded to the Setsunan Webfolder. Please check the Week 1 folder there to find information about the class this semester.
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡb	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。																																																																		
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>同語反復について</td><td>同語反復に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>同語反復に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>省略について</td><td>省略に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>省略に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>頭韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>韻について (1) 頭韻</td><td>頭韻に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>韻について (2) 脚韻</td><td>脚韻に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>脚韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>韻について (3) 押韻</td><td>押韻に関する英文を読み、理解を深める。</td><td>押韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>パロディについて</td><td>パロディに関する英文を読み、理解を深める。</td><td>パロディに関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>レトリックについて</td><td>レトリックに関する英文を読み、理解を深める。</td><td>レトリックに関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る</td><td>第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括およびまとめの確認テストを行う</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	韻について (1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	7	韻について (2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	9	韻について (3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(1 時間)	12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(1 時間)	14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	韻について (1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
7	韻について (2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
9	韻について (3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(1 時間)																																																																
関連科目	リーディング Ia, Ib																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Timed Reading for Fluency 2</td><td>Paul Nation & Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr> <tr> <td>2</td><td>VOA 健康と環境レポート 4</td><td>安浪誠祐/Richard Lavin</td><td>松柏社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning	2	VOA 健康と環境レポート 4	安浪誠祐/Richard Lavin	松柏社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning																																																																
2	VOA 健康と環境レポート 4	安浪誠祐/Richard Lavin	松柏社																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Graded Readers シリーズ</td><td></td><td>Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読 10% 多読 10% 授業中の小テスト・まとめのテスト・発表・予習・宿題・提出物・授業態度 80%																																																																		
学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を読んで、英語読解力を伸ばしてください。																																																																		

担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡb	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	コンデン ロバート
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	韻について (1) 頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	7	韻について (2) 脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	9	韻について (3) 押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(1 時間)

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 3	Casey Malarcher	Cengage Learning
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			
	3			

評価方法 (基準)	The grading consists of three parts; - speed reading activity 10% - extensive reading activity 10% - activities using your textbook 80%
学生への	I hope you didn't forget your English over the break. Let's continue improving your English reading skills.

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡb	科目名（英文）	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	オバ・ケイブレット
ディプロマポリシー（DP）	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 1 回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 3 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	韻について（1）頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 5 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	7	韻について（2）脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 7 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	9	韻について（3）押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 9 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 11 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第 13 回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(1 時間)

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning ISBN: 9789814336543
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Graded Readers シリーズ		Penguin Readers, Oxford Bookworms Library, Macmillan Readers, Cambridge English Readers など
	2			
	3			

評価方法（基準）	速読 10% 多読 10% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生への	Let's keep working on improving our reading skills together.

メッセージ	If you have any questions, please contact me any time! Please check Moodle - "Announcements" for Zoom link
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅡb	科目名（英文）	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	くけ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー（DP）	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	同語反復について	同語反復に関する英文を読み、理解を深める。	同語反復に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	2	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第1回の授業で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	3	省略について	省略に関する英文を読み、理解を深める。	省略に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	4	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第3回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	頭韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	韻について（1）頭韻	頭韻に関する英文を読み、理解を深める。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第5回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	7	韻について（2）脚韻	脚韻に関する英文を読み、理解を深める。	脚韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	8	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第7回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	9	韻について（3）押韻	押韻に関する英文を読み、理解を深める。	押韻に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	10	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第9回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	11	パロディについて	パロディに関する英文を読み、理解を深める。	パロディに関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	12	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第11回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	13	レトリックについて	レトリックに関する英文を読み、理解を深める。	レトリックに関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	14	英文の速読および精読活動を通じて、スキルの定着を図る	第13回で読み解いた英文の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	15	総括およびまとめの確認テストを行う	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの学習内容について総復習し、まとめの確認テストの準備と振り返りを行う。(1 時間)

関連科目	リーディング Ia, Ib
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation & Casey Malarcher	Seed Learning
	2	Portraits of Japan	Paul Stapleton/Atsuko Uemura	センゲージラーニング
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	速読 10% 多読 10% 授業中の小テスト・まとめのテスト・発表・予習・宿題・提出物・授業態度 80%
----------	--

学生へのメッセージ	英語の上達に近道はありません。この授業でたくさん英語を読んで、英語読解力を伸ばしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	3 号館 2 階（前期） 7 号館 2 階（後期） 非常勤講師室
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ
----	--

	そ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	英文を速読するためのリーディングスキルを修得し、数多くの英語による文章を読解することで教養を身につける。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。また多読活動を行い、文学的表現（隠喩・暗喩など）などにも慣れ親しむことを目標とする。さらには、難解な英文でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)を行い、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動では、数多くの英文を読解する。授業はペアワークを中心とした active learning 形式で行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Self enrolled on the moodle. Introduce yourself and your reading interests. Zoom	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	2	Speed reading Unit 11 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	3	Speed reading Unit 12 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	4	Speed reading Unit 13 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	5	Speed reading Exercises Unit 14 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	6	Speed reading Exercises Unit 15 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	7	Speed reading Exercises Review Unit 11-15 From Reading Advantage 2. Check on Extensive reading progress.	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	8	Speed reading Exercises Unit 16 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	9	Speed reading Exercises Unit 17 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	10	Speed reading Exercises Unit 18 from Reading Advantage 2	Speed Reading. Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.
	11	Speed reading	Vocabulary, everyday phrase and idiom	Before class, check the moodle and Teams.

		Unit 19 from Reading Advantage 2	practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	After Class complete the work on the Moodle.																
	12	Unit 20 from Reading Advantage 2	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and idioms.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.																
	13	Seasonal Activities	Vocabulary, everyday phrase and idiom practice Intensive reading for comprehension and reinforcement of vocabulary, everyday phrase and	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.																
	14	Review Unit 16-20 from Reading Advantage 2. Check on Extensive reading and Lingua porta progress.	Review of vocabulary, everyday phrase and idioms and intensive reading for comprehension.	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.																
	15	Final Review and check on progress and completion of tasks.	Intensive reading for comprehension	Before class, check the moodle and Teams. After Class complete the work on the Moodle.																
関連科目	リーディング Ia, Ib																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>Timed Reading for Fluency</td><td>Paul Nation/ Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr><tr><td>2</td><td>Reading Advantage 2</td><td>Casey Malarcher</td><td>Cengage Learning</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Timed Reading for Fluency	Paul Nation/ Casey Malarcher	Seed Learning	2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1	Timed Reading for Fluency	Paul Nation/ Casey Malarcher	Seed Learning																
	2	Reading Advantage 2	Casey Malarcher	Cengage Learning																
	3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
評価方法 (基準)	Extensive Reading 10% Speed Reading 10% Weekly Activities 80%																			
学生への メッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。																			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ時 15 間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																			

科目名	メディアイングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	梶山 寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	欧米のメディアが英語で発信する政治、社会、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。映像（および音声）によるニュースをメインに、文字による記事等も含めバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	Teams を使ったリアルタイム・双方向のオンライン授業。英語による最新の映像ニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）
	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習（2 時間）

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CBS NewsBreak 5	熊井信弘 Stephen Timson	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	期末の課題 20% 授業中の態度、小テスト、発言、討論、宿題・提出物等 80%
----------	--

学生へのメッセージ	受講マナーを守ること。授業への積極的な参加を期待しています。 日頃から様々な事柄に興味を持ち、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 テキストの内容に関する web 動画の視聴など、予習、復習もしっかり行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室（前期：3 号館 2 階）
----------	---------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	メディアイングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。それぞれのニュースに対する自分自身の意見を持ち、それを授業で発表し、クラスメートと共有することができるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新の世界のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション／環境と経済に関する記事（テキストより）	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）
	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習（1 時間）

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	NHK NEWSLINE 4	山崎達朗、Stella M. Yamazaki	金星堂
	2	15 Selected Units of English through the News Media 2021 Edition	高橋優身、伊藤典子、Richard Powell	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	毎回の課題による学習の成果（提出物の内容） 100%
学生へのメッセージ	社会の出来事をしっかりと理解し、それについて意見を持ち、英語で発信できる能力をもつことはこれからの社会で重要なスキルとなります。楽しみながら頑張しましょう。
担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	メディアイングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を拾取選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション／環境と経済に関する記事（テキストより）</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境と経済に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国際スポーツの記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国際スポーツの記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>気候に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>気候に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>日本国内のツーリズムに関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>日本国内のツーリズムに関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>日本国内の交通機関に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>日本国内の交通機関に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>災害救助のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>災害救助のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>高速鉄道のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>高速鉄道のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ニュース英語表現の総復習</td><td>講義とグループワーク</td><td>総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション／環境と経済に関する記事（テキストより）	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション／環境と経済に関する記事（テキストより）	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
2	環境と経済に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
3	国際スポーツの記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
4	国際スポーツの記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
5	気候に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
6	気候に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
7	日本国内のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
9	日本国内の交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
11	災害救助のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
12	災害救助のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
13	高速鉄道のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
14	高速鉄道のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	総復習（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>リスニングで学ぶ現代の社会事情 Socail issues in a Contemporary World</td><td>杉森直樹、杉森幹彦</td><td>SEIBIDO</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	リスニングで学ぶ現代の社会事情 Socail issues in a Contemporary World	杉森直樹、杉森幹彦	SEIBIDO	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	リスニングで学ぶ現代の社会事情 Socail issues in a Contemporary World	杉森直樹、杉森幹彦	SEIBIDO																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	weekly assignments（毎回授業内容にかかわる課題を提出していただきます。）50% 定期試験に代わる、まとめの復習課題 50%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	メディアイングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・グリアース
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)</td><td>環境と経済に関する講義とグループワーク</td><td>環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境と経済に関する記事</td><td>学生による環境と経済に関する発表</td><td>環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国際スポーツの記事</td><td>国際スポーツに関する講義とグループワーク</td><td>国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国際スポーツの記事</td><td>学生による国際スポーツに関する発表</td><td>国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>気候に関する記事</td><td>気候に関する講義とグループワーク</td><td>気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>気候に関する記事</td><td>学生による気候に関する発表</td><td>気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>日本国内のツーリズムに関する記事</td><td>日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク</td><td>ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>日本国内のツーリズムに関する記事</td><td>学生による日本国内のツーリズムに関する発表</td><td>ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>日本国内の交通機関に関する記事</td><td>日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク</td><td>交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>日本国内の交通機関に関する記事</td><td>学生による日本国内の交通機関に関する発表</td><td>交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>災害救助のニュース</td><td>災害救助に関する講義とグループワーク</td><td>災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>災害救助のニュース</td><td>学生による災害救助に関する発表</td><td>災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>高速鉄道のニュース</td><td>高速鉄道に関する講義とグループワーク</td><td>高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>高速鉄道のニュース</td><td>学生による高速鉄道に関する発表</td><td>高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ニュース英語表現の総復習</td><td>ニュース英語表現に関する講義とグループワーク</td><td>ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による日本国内のツーリズムに関する発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
7	日本国内のツーリズムに関する記事	日本国内のツーリズムに関する講義とグループワーク	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
8	日本国内のツーリズムに関する記事	学生による日本国内のツーリズムに関する発表	ツーリズムに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Prints/ Material provided by teacher</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Prints/ Material provided by teacher			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Prints/ Material provided by teacher																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	作文課題 20% プレゼンテーション、授業中の小テスト・発言、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	メディアイングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	くけ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)</td><td>環境と経済に関する講義とグループワーク</td><td>環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境と経済に関する記事</td><td>学生による環境と経済に関する発表</td><td>環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国際スポーツの記事</td><td>国際スポーツに関する講義とグループワーク</td><td>国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国際スポーツの記事</td><td>学生による国際スポーツに関する発表</td><td>国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>気候に関する記事</td><td>気候に関する講義とグループワーク</td><td>気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>気候に関する記事</td><td>学生による気候に関する発表</td><td>気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>日本国内の観光に関する記事</td><td>日本国内の観光に関する講義とグループワーク</td><td>観光に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>日本国内の観光に関する記事</td><td>学生による日本国内の観光に関する発表</td><td>観光に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>日本国内の交通機関に関する記事</td><td>日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク</td><td>交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>日本国内の交通機関に関する記事</td><td>学生による日本国内の交通機関に関する発表</td><td>交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>災害救助のニュース</td><td>災害救助に関する講義とグループワーク</td><td>災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>災害救助のニュース</td><td>学生による災害救助に関する発表</td><td>災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>高速鉄道のニュース</td><td>高速鉄道に関する講義とグループワーク</td><td>高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>高速鉄道のニュース</td><td>学生による高速鉄道に関する発表</td><td>高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ニュース英語表現の総復習</td><td>ニュース英語表現に関する講義とグループワーク</td><td>ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	7	日本国内の観光に関する記事	日本国内の観光に関する講義とグループワーク	観光に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	8	日本国内の観光に関する記事	学生による日本国内の観光に関する発表	観光に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
7	日本国内の観光に関する記事	日本国内の観光に関する講義とグループワーク	観光に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
8	日本国内の観光に関する記事	学生による日本国内の観光に関する発表	観光に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Social Outlook</td><td>Akiko Miyama 他</td><td>三修社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Social Outlook	Akiko Miyama 他	三修社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Social Outlook	Akiko Miyama 他	三修社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかり行いましょう。 ZOOM ID: 997 3002 5654 PASS CODE: 127348																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	メディアイングリッシュ a	科目名 (英文)	Media English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2039c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)</td><td>環境と経済に関する講義とグループワーク</td><td>環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境と経済に関する記事</td><td>学生による環境と経済に関する発表</td><td>環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国際スポーツの記事</td><td>国際スポーツに関する講義とグループワーク</td><td>国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国際スポーツの記事</td><td>学生による国際スポーツに関する発表</td><td>国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>気候に関する記事</td><td>気候に関する講義とグループワーク</td><td>気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>気候に関する記事</td><td>学生による気候に関する発表</td><td>気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>日本国内の観光に関する記事</td><td>日本国内の観光に関する講義とグループワーク</td><td>観光に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>日本国内の観光に関する記事</td><td>学生による日本国内の観光に関する発表</td><td>観光に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>日本国内の交通機関に関する記事</td><td>日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク</td><td>交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>日本国内の交通機関に関する記事</td><td>学生による日本国内の交通機関に関する発表</td><td>交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>災害救助のニュース</td><td>災害救助に関する講義とグループワーク</td><td>災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>災害救助のニュース</td><td>学生による災害救助に関する発表</td><td>災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>高速鉄道のニュース</td><td>高速鉄道に関する講義とグループワーク</td><td>高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>高速鉄道のニュース</td><td>学生による高速鉄道に関する発表</td><td>高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ニュース英語表現の総復習</td><td>ニュース英語表現に関する講義とグループワーク</td><td>ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	7	日本国内の観光に関する記事	日本国内の観光に関する講義とグループワーク	観光に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	8	日本国内の観光に関する記事	学生による日本国内の観光に関する発表	観光に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション／環境と経済に関する記事(テキストより)	環境と経済に関する講義とグループワーク	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
2	環境と経済に関する記事	学生による環境と経済に関する発表	環境と経済に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
3	国際スポーツの記事	国際スポーツに関する講義とグループワーク	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
4	国際スポーツの記事	学生による国際スポーツに関する発表	国際スポーツに関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
5	気候に関する記事	気候に関する講義とグループワーク	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
6	気候に関する記事	学生による気候に関する発表	気候に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
7	日本国内の観光に関する記事	日本国内の観光に関する講義とグループワーク	観光に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
8	日本国内の観光に関する記事	学生による日本国内の観光に関する発表	観光に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
9	日本国内の交通機関に関する記事	日本国内の交通機関に関する講義とグループワーク	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
10	日本国内の交通機関に関する記事	学生による日本国内の交通機関に関する発表	交通機関に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
11	災害救助のニュース	災害救助に関する講義とグループワーク	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
12	災害救助のニュース	学生による災害救助に関する発表	災害救助に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
13	高速鉄道のニュース	高速鉄道に関する講義とグループワーク	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
14	高速鉄道のニュース	学生による高速鉄道に関する発表	高速鉄道に関する語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
15	ニュース英語表現の総復習	ニュース英語表現に関する講義とグループワーク	ニュース英語表現に関する総復習（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Enjoying Different Cultures</td><td>Arnold Arao 他</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Enjoying Different Cultures	Arnold Arao 他	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Enjoying Different Cultures	Arnold Arao 他	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎授業、確認テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。 5. 辞書を持参すること。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）																																																																		
備考	① 授業時間外の質問等は、メールにて受け付けます。 ② 授業中の課題等のフィードバックは、Google Classroom で行います。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。																																																																		

科目名	メディアイングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	梶山 寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	欧米のメディアが英語で発信する政治、社会、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。映像（および音声）によるニュースをメインに、文字による記事等も含めバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション／核兵器に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>核兵器に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>伝説的アスリートについての記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>伝説的アスリートについての記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>現代のアスリートについての記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代のアスリートについての記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>海外のツーリズムに関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>海外のツーリズムに関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際政治のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際政治のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>気候変動のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>気候変動のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>環境と交通機関に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>環境と交通機関に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ニュース英語表現の総復習</td><td>講義とグループワーク</td><td>ニュース英語表現の総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>CBS NewsBreak 5</td><td>熊井信弘 Stephen Timson</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	CBS NewsBreak 5	熊井信弘 Stephen Timson	成美堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	CBS NewsBreak 5	熊井信弘 Stephen Timson	成美堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	学期末の課題 20% 授業中の態度、小テスト、発言、討論、課題・提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	受講マナーを守ること。授業への積極的な参加を期待しています。 日頃から様々な事柄に興味を持ち、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 テキストの内容に関する web 動画の視聴など、予習、復習もしっかり行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メール（あるいはチャット）で対応する。																																																																		

科目名	メディアイングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	いう
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。それぞれのニュースに対する自分自身の意見を持ち、それを授業で発表し、クラスメートと共有することができるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新の世界のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習 (1 時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	NHK NEWSLINE 4	山崎達朗、Stella M. Yamazaki	金星堂
	2	15 Selected Units of English through the News Media 2021 Edition	高橋優身、伊藤典子、Richard Powell	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	第 5 回授業以降は、対面授業における授業への参加度と、毎回の課題への取り組み状況进行评估する。(100%)
学生へのメッセージ	社会の出来事をしっかりと理解し、それについて意見を持ち、英語で発信できる能力をもつことはこれからの社会で重要なスキルとなります。楽しみながら頑張しましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	メディアイングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	えお
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声および映像によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備 (1 時間)
	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習 (1 時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CNN 10 Student News Vol. 9	Fuyuhiko Sekido 他	ASAHI PRESS
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の態度、小テスト、発言、討論、宿題・提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	メディアイングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	かき
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション／核兵器に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>核兵器に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>伝説的アスリートについての記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>伝説的アスリートについての記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>現代のアスリートについての記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代のアスリートについての記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>海外のツーリズムに関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>海外のツーリズムに関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際政治のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際政治のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>気候変動のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>気候変動のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>環境と交通機関に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>環境と交通機関に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ニュース英語表現の総復習</td><td>講義とグループワーク</td><td>ニュース英語表現の総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Prints/ Material provided by teacher</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Prints/ Material provided by teacher			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Prints/ Material provided by teacher																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の態度、小テスト、発言、討論、宿題・提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	メディアイングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	くけ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション／核兵器に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>核兵器に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>伝説的アスリートについての記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>伝説的アスリートについての記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>現代のアスリートについての記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代のアスリートについての記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>海外のツーリズムに関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>海外のツーリズムに関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際政治のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際政治のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>気候変動のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>気候変動のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>環境と交通機関に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>環境と交通機関に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ニュース英語表現の総復習</td><td>講義とグループワーク</td><td>ニュース英語表現の総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Changing Times, Changing Worlds</td><td>Joan McConnell / 山内 圭</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Changing Times, Changing Worlds	Joan McConnell / 山内 圭	成美堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Changing Times, Changing Worlds	Joan McConnell / 山内 圭	成美堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の発言・討論、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ZOOM ID:997 3002 5654 PASSCODE:127348																																																																		

科目名	メディアイングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	里井 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション／核兵器に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>核兵器に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>伝説的アスリートについての記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>伝説的アスリートについての記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>現代のアスリートについての記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代のアスリートについての記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>海外のツーリズムに関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>海外のツーリズムに関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際政治のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際政治のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>気候変動のニュース</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>気候変動のニュース</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>環境と交通機関に関する記事</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>環境と交通機関に関する記事</td><td>学生による発表</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ニュース英語表現の総復習</td><td>講義とグループワーク</td><td>ニュース英語表現の総復習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）	15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション／核兵器に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
2	核兵器に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
3	伝説的アスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
4	伝説的アスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
5	現代のアスリートについての記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
6	現代のアスリートについての記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
7	海外のツーリズムに関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
8	海外のツーリズムに関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
9	国際政治のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
10	国際政治のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
11	気候変動のニュース	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
12	気候変動のニュース	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
13	環境と交通機関に関する記事	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
14	環境と交通機関に関する記事	学生による発表	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（1 時間）																																																																
15	ニュース英語表現の総復習	講義とグループワーク	ニュース英語表現の総復習（1 時間）																																																																
関連科目	リーディング IIa, IIb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Trend Watching 2</td><td>Jonathan Lynch 他</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Trend Watching 2	Jonathan Lynch 他	成美堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Trend Watching 2	Jonathan Lynch 他	成美堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	1. マナーを守ることと、授業への積極的参加を求めます。 2. 毎授業、確認テストを行います。 3. 日頃から様々な事柄に興味を持って、新聞、ニュースなどを視聴して、情報と知識を身につけましょう。 4. 予習、復習をしっかりと行いましょう。 5. 辞書を持参すること。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	① 授業時間外での質問等は、教室にて受け付けます。 ② 授業中の課題等のフィードバックは、翌週の授業中に行います。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。																																																																		

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 10% In-class quizzes 10% Homework assignments 10% Class participation and attitude, ability 50% 作文課題 20% Assignments, practice and study will be flexible, according to
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit1: Introducing Yourself	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、Unit1 の導入	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	Unit1: Introducing Yourself	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーションのやり方を理解する。	Unit 1 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	3	Unit1: Introducing Yourself	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 各自、英語によるプレゼンテーションの内容を決定する。	今回の Unit 1 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	4	Unit2: Introducing Companies	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション①	Unit2 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	5	Unit2: Introducing Companies	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション②	今回の Unit 2 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	6	Unit3: Explaining Your Role	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション③	Unit3 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	7	Unit3: Explaining Your Role	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション④	今回の Unit3 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	8	Unit4: Introducing Products	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑤	Unit4 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	9	Unit4: Introducing Products	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑥	今回の Unit4 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	10	Unit5: Checking Information	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑦	Unit5 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	11	Unit5: Checking Information	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑧	今回の Unit5 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	12	Unit6: Giving Your Opinion	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑨	Unit6 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	13	Unit6: Giving Your Opinion Unit7: Making Requests	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。Unit7 の導入	今回の Unit6 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	14	Unit7: Making Requests	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter 7 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	15	まとめのテスト Unit1～7 のまとめ	Unit1～7 までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと (1 時間)
関連科目	ESP (English for Specific Purposes) b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Go Global	Garry Pearson 他	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出課題 30% 授業への取り組みの評価 20% プレゼンテーション 20% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	みなさんと相談をしながら楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出するなど、できることはきちんとやっ てください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に充実した時間を過ごしましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応 する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。 授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。 ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。 毎回小テストをしますので、f 復習を忘れずにしてください。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEICや英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)
	2	Transportation 交通案内	交通案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	交通案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	3	A t a Check-in Counter ホテルでのチェックイン	ホテルでのチェックインに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテルでのチェックインに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	4	Facilities and Services ホテル内の施設やサービス案内	ホテル内の施設やサービス案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテル内の施設やサービス案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	5	Giving Directions 街歩きのための道案内	街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	街歩きのための道案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	6	Recommending a Trip 観光スポットを薦める	観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	観光スポットを薦めることに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	7	Dining in Japan1&2 日本食の紹介	日本食の紹介に必要な英語の語彙や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本食の紹介に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	8	Arranging a Tour 国内旅行の手配	国内旅行の手配に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	国内旅行の手配に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	9	Staying at a Ryokan 旅館	旅館に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	旅館での滞在に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	10	Culture Experience in Japan1 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	11	Culture Experience in Japan2 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	12	Japanese Souvenirs ショッピング	ショッピングに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ショッピングに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	13	Dealing with Health Problems and Emergencies けがや病気の対応	けがや病気の対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	けがや病気の対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	14	Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure クレームやアクシデントの対応	クレームやアクシデントの対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	クレームやアクシデントの対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	15	まとめのテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)

関連科目	ESP(English for Specific Purposes)b など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Hospitality on the Scene	上杉恵美 他
	2		
			出版社名
			金星堂

	<table><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				3			
3								
参考書								
	番号	書籍名	著者名	出版社名				
	1							
	2							
	3							
評価方法 (基準)	70% of Grade on unit assignments (Moodle) 30% of Grade on Final Project (Power Point)							
学生への メッセージ	さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ&おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。							
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）							
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に研究室にて対応する。							

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から国際教養に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。 日本と世界をアートと時事の二つの視点から見つめ、情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語を学習します。また、日本から英語、英語から日本語の、音声通訳および文字による翻訳のための演習も行います。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際教養」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。 国内だけでなく、世界の出来事に関心を向け、それらについて自分の見解を述べるために必要な基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、離したり、書いたりできるようになることも目標とします。
授業方法と留意点	・発表やディスカッションも織り交ぜながら授業を進めていきます。 ・国際キャリアコースの英語専攻の学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 世界のニュースを英語で 時事問題を描く戯曲とは	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	2	社会と子ども	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	3	難民状態になる、ということ	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	4	戦争と報道	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	5	世界と日本の難民事情比較	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	6	入国管理と受け入れ制度	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	7	難民問題を描く映画・劇・ドラマ (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	8	難民問題を描く映画・劇・ドラマ (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	9	受け入れ側の視点 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	10	受け入れ側の視点 (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	11	歴史上の著名人の難民体験 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	12	歴史上の著名人の難民体験 (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	13	多文化が共に生きる (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	14	多文化が共に生きる (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	15	まとめ	これまで学んできた授業内容について 総復習する。	授業内容のふりかえり (1 時間)

関連科目	リーディング II a, b など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『戯曲で学ぶ対話力 : based on Promised Land by Peter Griffith』 詳細は授業初回にお知らせします。 予定価格 1500 円。	塩沢泰子ほか	文教大学出版事業部
	2	↑購入については授業で説明します		
	3	そのほか教材フォルダにて配布		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業にて紹介		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	視点を移すと、見えるものが変わってきます。自分が当たり前と思っていたことも、その背景を知らない人にとっては理解できないことかもしれません。自分とちがった文化圏で暮らしてきた人たちにわかるように、英語で伝えるには、どうしたらいいでしょう？少しでもわかり合うことができれば、相手は将来、あなたの大切な友人となるかもしれません。試行錯誤していきましょう。 ・教科書は後期に使います。(購入も後期)
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 齋藤研究室 ただし前期は 11 号館に一時移動予定
----------	------------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応
----	--

	する。
--	-----

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェリア クネグアイチ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「外国語専門職」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から外国語専門職に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。 授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。 ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)
	2	Do you like to watch kabuki?	歌舞伎案内や推奨に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)
	3	The Sapporo Snow Festival	雪まつり案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	雪まつりなどイベントに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	4	Hiraizumi as the Buddhist Pure Land	歴史や仏教の教えなどの案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	歴史や仏教の教えなど内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	5	Yokohama Port	街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	街歩きのための道案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	6	Mt. Fuji	観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	観光スポットを薦めることに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	7	Omi Province and its Military History	日本の地域歴史案内に必要な英語の語彙や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本の地域歴史案内の紹介に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	8	The Deer in Nara	奈良案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	奈良案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	9	Kyoto Station	京都案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	京都案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	10	Let's Explore Osaka	大阪案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	大阪案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	11	Port City Kobe	神戸案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	神戸案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	12	Sand Dunes in Tottori	鳥取案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	鳥取案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	13	The Atomic Bomb Dome	広島案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	広島案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	14	Dazaifuku/The Shimazu and Satsuma Culture	歴史案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	歴史案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	15	まとめテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)

関連科目	リーディング II a, b など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hospitality English	Miyuki Kido 他	SANSHUSHA
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	作文 20% 宿題、提出物等 80% フィードバック致します。			
学生への メッセージ	I look forward to working with you all in learning and improving our skills of using English in real life situations you might find yourself in while working in various industries in or out of Japan.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 質問等についてメールにて願います。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「メディアビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からメディアビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。 授業概要としては、次の2分野の教材に交互に取り組みます。一つは「映画」というメディアを通じての学習、もう一つは「メディアツール」を通じてのビジネス英語活用を学習します。																																																																		
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「メディアビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。 ・日常英語の延長線上にあるビジネス英語も学習し、高いコミュニケーション能力を身につけましょう。 ・ネイティブスピーカーのナチュラルスピードの英語を聞くことに慣れましょう。 ・口語表現と書き言葉の違いに注目して、両方の解釈が取れるようにしましょう。																																																																		
授業方法と留意点	1. パソコン、タブレット、スマートフォンは無料辞書 Weblio をダウンロードしておいてください。 2. 原則として欠席が4回に達すると単位取得できません。遅刻は3回で1回の欠席と勘定します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEICや英検など																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション Unit 1 Email Mania Night at the Museum</td><td>授業の進め方と評価方法等の説明 Addicted to email 映画前半</td><td>Unit 1 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 1 Email Mania Night at the Museum</td><td>単語テスト 1 Volume explosion 映画 1</td><td>Unit 1 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit2 Email Spam Night at the Museum</td><td>単語テスト 2 Irritated by spam 映画 2</td><td>Unit 2 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit2 Email Spam Night at the Museum</td><td>単語テスト 3 Fighting spam 映画 3</td><td>テスト勉強 Unit 2 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>テスト Unit 3 Email Fraud Night at the Museum</td><td>第一回チェックテスト Scam spam 映画 4</td><td>Unit 3 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 3 Email Fraud Night at the Museum</td><td>単語テスト 4 Getting personal information 映画 5</td><td>Unit 3 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit4 Email Lingo Night at the Museum</td><td>単語テスト 5 LOL and more 映画調整日</td><td>Unit 4 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Unit4 Email Lingo Night at the Museum</td><td>単語テスト 6 Getting your point across 映画後半</td><td>テスト勉強 Unit 4 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit5 Email Breakups Night at the Museum</td><td>単語テスト 7 Ending it with a click of the mouse 映画 6</td><td>Unit 5 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>テスト Unit5 Email Breakups Night at the Museum</td><td>第二回チェックテスト Virtual goodbyes 映画 7</td><td>Unit 5 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit6 Mobile Email Night at the Museum</td><td>単語テスト 8 Email on the go 映画 8</td><td>Unit 6 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit6 Mobile Email Night at the Museum</td><td>単語テスト 9 Youth Shun Email 映画 9</td><td>テスト勉強 Unit 6 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit7 Email Efficiencies Night at the Museum</td><td>単語テスト 10 Faster communication 映画 10</td><td>Unit 7 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit7 Email Efficiencies Night at the Museum</td><td>単語テスト 11 Businessman prefer Email 映画調整日</td><td>Unit 7 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>テスト Night at the Museum</td><td>第三回チェックテスト review</td><td>語彙暗記 テスト勉強 (2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション Unit 1 Email Mania Night at the Museum	授業の進め方と評価方法等の説明 Addicted to email 映画前半	Unit 1 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	2	Unit 1 Email Mania Night at the Museum	単語テスト 1 Volume explosion 映画 1	Unit 1 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	3	Unit2 Email Spam Night at the Museum	単語テスト 2 Irritated by spam 映画 2	Unit 2 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	4	Unit2 Email Spam Night at the Museum	単語テスト 3 Fighting spam 映画 3	テスト勉強 Unit 2 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	5	テスト Unit 3 Email Fraud Night at the Museum	第一回チェックテスト Scam spam 映画 4	Unit 3 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	6	Unit 3 Email Fraud Night at the Museum	単語テスト 4 Getting personal information 映画 5	Unit 3 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	7	Unit4 Email Lingo Night at the Museum	単語テスト 5 LOL and more 映画調整日	Unit 4 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	8	Unit4 Email Lingo Night at the Museum	単語テスト 6 Getting your point across 映画後半	テスト勉強 Unit 4 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	9	Unit5 Email Breakups Night at the Museum	単語テスト 7 Ending it with a click of the mouse 映画 6	Unit 5 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	10	テスト Unit5 Email Breakups Night at the Museum	第二回チェックテスト Virtual goodbyes 映画 7	Unit 5 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	11	Unit6 Mobile Email Night at the Museum	単語テスト 8 Email on the go 映画 8	Unit 6 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	12	Unit6 Mobile Email Night at the Museum	単語テスト 9 Youth Shun Email 映画 9	テスト勉強 Unit 6 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	13	Unit7 Email Efficiencies Night at the Museum	単語テスト 10 Faster communication 映画 10	Unit 7 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	14	Unit7 Email Efficiencies Night at the Museum	単語テスト 11 Businessman prefer Email 映画調整日	Unit 7 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)	15	テスト Night at the Museum	第三回チェックテスト review	語彙暗記 テスト勉強 (2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション Unit 1 Email Mania Night at the Museum	授業の進め方と評価方法等の説明 Addicted to email 映画前半	Unit 1 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
2	Unit 1 Email Mania Night at the Museum	単語テスト 1 Volume explosion 映画 1	Unit 1 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
3	Unit2 Email Spam Night at the Museum	単語テスト 2 Irritated by spam 映画 2	Unit 2 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
4	Unit2 Email Spam Night at the Museum	単語テスト 3 Fighting spam 映画 3	テスト勉強 Unit 2 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
5	テスト Unit 3 Email Fraud Night at the Museum	第一回チェックテスト Scam spam 映画 4	Unit 3 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
6	Unit 3 Email Fraud Night at the Museum	単語テスト 4 Getting personal information 映画 5	Unit 3 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
7	Unit4 Email Lingo Night at the Museum	単語テスト 5 LOL and more 映画調整日	Unit 4 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
8	Unit4 Email Lingo Night at the Museum	単語テスト 6 Getting your point across 映画後半	テスト勉強 Unit 4 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
9	Unit5 Email Breakups Night at the Museum	単語テスト 7 Ending it with a click of the mouse 映画 6	Unit 5 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
10	テスト Unit5 Email Breakups Night at the Museum	第二回チェックテスト Virtual goodbyes 映画 7	Unit 5 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
11	Unit6 Mobile Email Night at the Museum	単語テスト 8 Email on the go 映画 8	Unit 6 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
12	Unit6 Mobile Email Night at the Museum	単語テスト 9 Youth Shun Email 映画 9	テスト勉強 Unit 6 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
13	Unit7 Email Efficiencies Night at the Museum	単語テスト 10 Faster communication 映画 10	Unit 7 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
14	Unit7 Email Efficiencies Night at the Museum	単語テスト 11 Businessman prefer Email 映画調整日	Unit 7 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)																																																																
15	テスト Night at the Museum	第三回チェックテスト review	語彙暗記 テスト勉強 (2 時間)																																																																
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)b																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>English for the Digital World</td><td>Mprma Reveler ほか</td><td>三修社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Night at the Museum ナイトミュージアム</td><td>Robert B Grant 他</td><td>松柏社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for the Digital World	Mprma Reveler ほか	三修社	2	Night at the Museum ナイトミュージアム	Robert B Grant 他	松柏社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English for the Digital World	Mprma Reveler ほか	三修社																																																																
2	Night at the Museum ナイトミュージアム	Robert B Grant 他	松柏社																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2																																																							
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			

	3			
評価方法 (基準)	課題 50% テスト、積極参加点 50% ※欠席 4 回未満、総合点 60 点以上を持って単位取得対象とする。			
学生への メッセージ	＜授業は Google Meet というツールで行います。＞ グーグルクロームからログインします。右上に 9 個の丸印を押すと、「meet」というマークが出ます。そこから授業時間になったらこの ID でログインしてください。アプリもあります。 https://meet.google.com/ecb-ghjr-cwc 新しいガイダンスプリントを Web Folder にあげておきましたので参照してください。			
担当者の 研究室等				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平野 惟
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。 授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。 ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。 毎回小テストをしますので、復習を忘れずにしてください。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEICや英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する (1時間)
	2	Transportation 交通案内	交通案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	交通案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	3	A t a Check-in Counter ホテルでのチェックイン	ホテルでのチェックインに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテルでのチェックインに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	4	Facilities and Services ホテル内の施設やサービス案内	ホテル内の施設やサービス案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテル内の施設やサービス案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	5	Giving Directions 街歩きのための道案内	街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	街歩きのための道案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	6	Recommending a Trip 観光スポットを薦める	観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	観光スポットを薦めるのに必要な英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	7	Dining in Japan1&2 日本食の紹介	日本食の紹介に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本食の紹介に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	8	Arranging a Tour 国内旅行の手配	国内旅行の手配に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	国内旅行の手配に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	9	Staying at a Ryokan 旅館	旅館での滞在に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	旅館での滞に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	10	Culture Experience in Japan1 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	11	Culture Experience in Japan2 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	12	Japanese Souvenirs ショッピング	ショッピングに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ショッピングに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	13	Dealing with Health Problems and Emergencies けがや病気の対応	けがや病気の対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	けがや病気の対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	14	Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure クレームやアクシデントの対応	クレームやアクシデントの対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	クレームやアクシデントの対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	15	まとめのテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)

関連科目	ESP(English for Specific Purposes)b など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Hospitality on the Scene	上杉恵美 他
	2		
			出版社名
			金星堂

	<table><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				3			
3								
参考書								
	番号	書籍名	著者名	出版社名				
	1							
	2							
	3							
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業参加、小テスト、まとめのテスト 80%							
学生への メッセージ	さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ&おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。							
担当者の 研究室等	質問等は非常勤講師室（主に木曜昼休みから3限終わり頃まで在室）にて対応する。							
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。							

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Exam 20%, In-class quizzes, Homework assignments, Class participation, attitude, ability, 作文課題 80% Assignments, practice, study are flexible, due to whether lessons are 'online' or 'face-to-face' classes. Please consult the teacher.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	矢野 涼子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit8: Asking Permission	授業の進め方や評価方法の説明、 リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	Unit8 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
2	Unit8: Asking Permission	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動①	今回の Unit8 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
3	Unit9: Making Invitations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動②	Unit9 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
4	Unit9: Making Invitations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動③	今回の Unit9 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
5	Unit10: Making Appointments	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポートの書き方を理解する	Unit10 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
6	Unit10: Making Appointments	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成①	今回の Unit10 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
7	Unit11: Canceling and Rescheduling	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成②	Unit11 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
8	Unit11: Canceling and Rescheduling	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成③	今回の Unit11 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
9	Unit12: Describing Locations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成④	Unit12 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
10	Unit12: Describing Locations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、 単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑤	今回の Unit12 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
11	Unit13: Looking after a Visitor	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑥	Unit13 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
12	Unit13: Looking after a Visitor Unit14: Making a Phone Call	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit13 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
13	Unit14: Making a Phone Call Unit15: Taking Messages	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit14 の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
14	Unit15: Taking Messages	読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit15 の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
15	まとめのテスト 振り返り	Unit8～15 までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと (1 時間)

関連科目	ESP (English for Specific Purposes) a		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Go Global	Garry Pearson 他
	2		成美堂

	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出物 30% 授業への取り組みの評価 20 % 報告レポート 20% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	みなさんと相談をしながら楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出するなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に充実した時間を過ごしましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェリア クネグアイチ
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「外国語専門職」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から外国語専門職に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。 授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習： 基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習： 簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ： 空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光、乗り物、トラブル、観光地で役に立つ英語の表現を
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。 ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)
	2	Do you like to watch Kabuki?	歌舞伎案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)
	3	The Sapporo Snow Festival	雪まつり案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	雪まつり案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	4	Hiraizumi as the Buddhist Pure Land	歴史や仏教の教えに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	歴史や仏教の教えに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	5	Yokohama Port	街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	街歩きのための道案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	6	Mt. Fuji	観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	観光スポットを薦めることに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	7	Omi Province and its Military History	日本の地域歴史案内に必要な英語の語彙や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本の地域歴史案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	8	The Deer in Nara	奈良案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	奈良案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	9	Kyoto Station	京都案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	京都案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	10	Let's Explore Osaka	大阪案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	大阪案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	11	Port City Kobe	神戸案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	神戸案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	12	Sand Dunes in Tottori	鳥取案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	鳥取案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	13	The Atomic Bomb Dome	広島案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	広島案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	14	Dazaifuku/The Shimazu and Satsuma Culture	歴史案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	歴史案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	15	まとめテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)

関連科目	リーディング II a, b など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Hospitality English	Miyuki Kido 他	SANSHUSHA
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%			
学生への メッセージ	I look forward to working with you all in learning and improving our skills of using English in real life situations you might find yourself in while working in various industries in or out of Japan.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際教養」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から国際教養に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。 日本と世界をアートと時事の二つの視点から見つめ、情報をわかりやすく説明したり、表現したりする英語を学習します。また、日本から英語、英語から日本語の、音声通訳および文字による翻訳のための演習も行います。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際教養」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。 国内だけでなく、世界の出来事に関心を向け、それらについて自分の見解を述べるために必要な基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、離したり、書いたりできるようになることも目標とします。
授業方法と留意点	・発表やディスカッションも織り交ぜながら授業を進めていきます。 ・国際キャリアコースの英語専攻の学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 世界のニュースを英語で 時事問題を描く映画・文学とは	読解・ディスカッション オンライン授業 教材・提出・連絡等については Teams で まず連絡を行う。授業外時間の質疑は公 にして良いものは Teams、個別にしたい ものは Chat かメールを用いる。	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	2	世界と日本をつなぐニュース (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	3	世界と日本をつなぐニュース (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	4	プレゼンテーション	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	5	国境を超える話題 (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	6	国境を超える話題 (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	7	技術と社会 (1) : Online 英 作文評価サイトの仕組み	11 月 4 日より、対面再開 ただし、教材・連絡・提出に際して今 まで通り Teams, WebFolder, Zoom の利用 を続行 発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	8	技術と社会 (2) : SNS	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	9		読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	10	科学と倫理 (1)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	11	科学と倫理 (2)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	12	日本発の製品・文化を世界に (1)	読解・ディスカッション	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	13	日本発の製品・文化を世界に (2)	発表	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	14	発表 (1)	発表と相互に質問	報道記事を読む・聴く 復習 (1 時間)
	15	発表 (2)	発表と相互に質問	ふりかえり (1 時間)

関連科目	リーディング II a, b など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教材フォルダ・Teams 等で配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Write and Improve [オンライン英作文サイト]		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 40% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 60%
-----------	--

学生へのメッセージ	・前年度の受講生は、この授業でのリサーチを元に英語で日本文化を紹介する動画を作成し、他の大学との合同オンライン発表会に出品しました。 2021 年度も同様の機会があれば、みんなで制作して出品参加しましょう。(費用はかかりません) ・視点を移すと、見えるものが変わってきます。自分が当たり前と思っていたことも、その背景を知らない人にとっては理解できないことかもしれません。自分とちがった文化圏で暮らしてきた人たちにわかるように、英語で伝えるには、どうしたらいいでしょう？少しでもわかり合うことができれば、相手は将来
-----------	--

担当者の 研究室等	7 号館 4 階 齋藤研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際貢献」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点から国際貢献に関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	世界の様々な国で起きている、自然、動物と人間との関わりストーリーを通して、環境問題、グローバリズムについて考え映像を見ることによってリスニングスキルを身につけると共に、ストーリーのイメージを掴みます。また、写真とともに地図や図表も使用し、内容を多角的に読み取ることができるようになる。「国際貢献」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	リスニングやリーディングを基本としながら、ライティングも交えながら演習形式で授業を進めていきます。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction. Getting reacquainted. Course overview.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	2	Where would you take a foreign visitor?	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	3	Culture and street food.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	4	School Lunches.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	5	School Lunches part 2.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	6	International Aid.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	7	JICA.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	8	Environmental Issues.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	9	The trouble with trash.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	10	The problem with plastic	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	11	Art as a means of creating awareness and promoting change.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	12	Presentations in student lead discussions.	Students will make presentations and lead group discussions.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	13	Presentations in student	Students will make presentations and	Before class check the Moodle and Teams for

		lead discussions.	lead group discussions.	instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle)
	14	Presentations in student lead discussions.	Students will make presentations and lead group discussions.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	15	Review. Feedback. Resolving Issues. Looking to the future.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
関連科目	リーディング II a, b など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Materials will be provided.		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度 (課題の出来具合や積極的な姿勢) 20% Weekly tasks, 60% Presentation 20%			
学生へのメッセージ	Please make sure you check Teams and the Moodle before each class. To get the most out of this course, please be prepared to give your opinion, and listen with respect to other peoples ideals.			
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、レポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。質問等については出講時に非常勤講師室にて対応する。授業の進度は、上記の表を目安としますが、開講後のクラスの状況を見て、必要があれば調整します。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「メディアビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からメディアビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。 授業概要としては、次の2分野の教材に交互に取り組みます。一つは「映画」というメディアを通じての学習、もう一つは「メディアツール」を通じてのビジネス英語活用を学習します。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「メディアビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。 ・日常英語の延長線上にあるビジネス英語も学習し、高いコミュニケーション能力を身につけましょう。 ・ネイティブスピーカーのナチュラルスピードの英語を聞くことに慣れましょう。 ・口語表現と書き言葉の違いに注目して、両方の解釈が取れるようにしましょう。
授業方法と留意点	1. 辞書を毎回持参すること。パソコン、アイパッドによるオンライン辞書使用は認めますが、スマートフォンを辞書として活用することは認めません。 2. 原則として欠席が4回に達すると単位取得できません。遅刻は3回で1回の欠席と勘定します。 3 毎回の課題を確実に提出してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 8 Social Networking Sites About a Boy	授業の進め方と評価方法等の説明 The Facebook Phenomenon 映画 1	Unit 8 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	2	Unit 8 Social Networking Sites About a Boy	Social Networking Trouble 映画 2	Unit 8 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	3	Unit 9 Blogging About a Boy	Telling the World 映画 3	Unit 9 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	4	テスト Unit 9 Blogging About a Boy	第一回チェックテスト Popular Japan	テスト勉強 Unit 9 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	5	Unit 10 Information Superhighway About a Boy	Knowledge Haven 映画 4	Unit 10 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	6	Unit 10 Information Superhighway Charade	Sharing What You Know 映画 5	Unit 10 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	7	Unit 11 Online Gambling About a Boy	Clicking, Chances and Control 映画 6	Unit 11 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	8	テスト Unit 11 Online Gambling Charade	Online Casinos and Japan	テスト勉強 Unit 11 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	9	Unit12 Citizen Journalism About a Boy	On-the-Scene Reporting 映画 7	Unit 12 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	10	Unit12 Citizen Journalism About a Boy	第二回チェックテスト OHMYNEWS in Japan 映画 8	Unit 12 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	11	Unit13 Online Shopping About a Boy	E-Commerce Boom 映画 9	Unit 13 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	12	テスト Unit13 Online Shopping Charade	On line Shopong and Social Networks 映画 10	テスト勉強 Unit 13 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	13	Unit14 Advertising About a Boy	Cyberspace Sales 映画復習	Unit 14 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	14	Unit14 Advertising About a Boy	Japan connected to Advertising 映画復習	Unit 14 の語彙暗記 読み直し スクリプト確認 (2 時間)
	15	テスト 復習	第三回チェックテスト review	語彙暗記 テスト勉強 (2 時間)

関連科目	ESP(English for Specific Purposes)a など			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English for the Digital World	Mprma Reveler ほか	三修社
	2	About a Boy	神谷久美子 他	松柏社
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	テスト52点、毎回の提出課題及び参加点48点 *欠席4回未満、獲得点60%以上で単位取得が可能です。			
学生への メッセージ	映画の教科書は早めに入手しておいてください。 読みのテキストは前期と同じです。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（10号館2F）に木曜日午前中待機している。			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	平野 惟
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」を選択した学生を対象とした英語の授業です。 授業概要： テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。 授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、ショッピング、観光
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。 ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	・リスニングやリーディングを基本としながらも、ロールプレイなども取り入れて学習していきます。 ・テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方と評価についての説明 (対面)	教科書を購入し、一読しておく。 次の授業で扱うチャプター1でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	2	Unit1: Where are you from?	リスニング リーディング ロールプレイ (Microsoft Teams)	次の授業で扱うチャプター2でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	3	Unit2: This is my first time studying abroad.	リスニング リーディング ロールプレイ (Microsoft Teams)	次の授業で扱うチャプター3でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	4	Unit3: May I have your name, please?	リスニング リーディング ロールプレイ (Microsoft Teams)	次の授業で扱うチャプター4でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	5	Unit4: We will be arriving in New York in 15 minutes.	リスニング リーディング ロールプレイ (Microsoft Teams)	次の授業で扱うチャプター5でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	6	Unit5: To the station, please.	リスニング リーディング ロールプレイ (Microsoft Teams)	次の授業で扱うチャプター6でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	7	Unit6: Your attention, please.	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター7でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	8	Unit7: What's today's special?	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター8でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	9	Unit8: I'll go there again.	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター9でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	10	Unit9: Can I try these shoes on?	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業であつかうチャプター10でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	11	Unit10: welcome to Barrod's Department Store.	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター11でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	12	Unit11: Have a nice stay.	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター12でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	13	Unit12: We look forward to serving you.	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	次の授業で扱うチャプター13でわからない語句・表現を調べておく (1時間)
	14	Unit13: May I take pictures there?	リスニング リーディング ロールプレイ (対面・Microsoft Teams 併用)	チャプター1～13の復習をする (1時間)

	15	まとめ（復習）のテスト 総括	これまで学んできた授業内容について 復習テストをする。 (Microsoft Teams)	これまで学んできた授業内容について総復習する。 (1時間)
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)a など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Listen Up! For Better Active Communication ―20 の場面で学ぶ実践リスニング―	Kyoko Arai 他	鶴見書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加 30% 小テスト、作文課題 40% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	本クラスでは前期で学んだ旅行の諸場面に関する背景知識を前提に、会話リスニングに重きを置きながら学びを深めていきます。発音やアクセントによる微妙なニュアンスの違いを聞き分け、場面に応じてとっさに適切な受け答えができるようになることを目指して頑張ってください。			
担当者の 研究室等	質問等は非常勤講師室（主に木曜昼休みから3限終わり頃まで在室）にて対応する。			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	トピックスタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・タイアース
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	To listen to and learn about Western classical music from the baroque, classical and romantic periods. To practice reading comprehension and creative writing in English.
到達目標	Students will have listened to and learned about pieces of music from the baroque, classical and romantic periods of Western classical music. Students will have practiced reading and writing English skills.
授業方法と留意点	Reading comprehension and creative writing as a response to classical music.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to Western classical music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	2	Music Theory 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	3	Music Theory 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	4	Baroque Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	5	Baroque Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	6	Baroque Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	7	Classical Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	8	Classical Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	9	Classical Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	10	Romantic Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	11	Romantic Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	12	Romantic Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	13	Romantic Music 4	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	14	Romantic Music 5	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)
	15	Romantic Music 6	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (1 hour)

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints provided by teacher		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Participation 40%, Classwork 60%
学生への	Please bring a dictionary.

メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピックスタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	ナショナルジオグラフィックと TED Talks からさまざまなトピックについて、最新のコンテンツを「聞き」内容を理解し(Listening)、その内容を要約し、自分の意見を加えて「話す」こと (Speaking)、またトピックに関するエッセイを「読み」内容を理解し(Reading)、自分の意見を英語でまとめながら書き(Writing)、4 技能を高めることを目的とする。
到達目標	さまざまなトピックに関連する映像を視聴し、写真を見ながら、斬新なアイデアに触れ、自らも発信する表現方法を身に付ける。
授業方法と留意点	ICT を活用し、音声・映像を活用した演習を通して 4 技能の力を高めます。無料でアクセスできるコンテンツも紹介しながら、さまざまな英語学習方法を試します。Online 教材も備えたテキストですので、積極的に Activity に取り組んで下さい。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業オリエンテーション	授業運営について 成績・評価方法などの説明 テキストの構成説明 My World English Online の説明	事前学習：シラバスの内容を読んでくこと (1 時間) 事後学習：Unit1 の予習を行うこと。新出単語は辞書で確認してくこと (1 時間)
	2	Unit 1 Food for Life	A: Contrast General and Current Actions (Vocabulary & Grammar 演習) B: Describe Regional Foods: (Listening & Communication 演習)	事前学習:Unit1A/B の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	3	Unit 1 Food for Life	C: Describe Favorite Dishes (Conversation ペアワーク) D: Discuss Diet Trends (Reading 演習)	事前学習:Unit1C/D の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	4	Unit 1 Food for Life Video Journal	E: Give Details to Support Your Ideas (パラグラフ Writing 演習) Video Journal (ペアワーク)	事前学習：Unit1E の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	5	Unit 2 Express Yourself	A: Talk about Yourself Actions (Vocabulary & Grammar 演習) B: Make Small Talk with New People(Listening & Communication 演習)	事前学習：Unit2 A/B 内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	6	Unit 2 Express Yourself	C: Start a Conversation (Conversation ペアワーク) D: Discuss Endangered Languages (Reading 演習)	事前学習:Unit2 C/D の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	7	Unit 2 Express Yourself Video Journal	E: Endangered Languages (パラグラフ Writing 演習) Video Journal (ペアワーク)	事前学習：Unit2 E の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	8	Unit 3 Cities	A: Make Prediction about Your City(Vocabulary & Grammar 演習) B: Explain What makes a good neighborhood (Listening & Communication 演習)	事前学習:Unit3 A/B の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	9	Unit 3 Cities	C: Discuss the Pros and Cons of City Life (Conversation ペアワーク) D: Streets for People (Reading 演習)	事前学習：Unit 3 C/D の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	10	Unit 3 Cities Video Journal	E: Explain What Makes a Good City (パラグラフ Writing 演習) Video Journal (ペアワーク)	事前学習：Unit 3 E の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	11	Unit 4 The Body	A: Discuss Ways to Stay Healthy (Vocabulary & Grammar 演習) B: Talk about Healthy Lifestyles (Listening & Communication 演習)	事前学習：Unit 4 A/B の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	12	Unit 4 The Body	C: Suggest Helpful Natural Remedies (Conversation ペアワーク) D: Attitude Is Everything(Reading 演習)	事前学習：Unit 4 C/D の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	13	Unit 4 The Body Video Journal	E: Explain an Idea Using Details (パラグラフ Writing 演習) Video Journal (ペアワーク)	事前学習：Unit 4 E の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	14	TED Talks に関するディスカッション	TED Talks を視聴し、ディスカッションを行う	事前学習：指定する TED Talks を前もって視聴すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	15	Review Test	既習内容の到達度確認問題	事前学習：これまでの既習内容を総復習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)

関連科目	トピックスタディーズⅡ b		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	World English 2 Third Edition (ISBN:978-0-357-13021-6)	Kristen L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase
			出版社名
			National Geographic Learning

		2			
		3			
参考書					
	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	Review Test 30% 提出課題、クラスでの貢献度や発表 50% My World English Online 進捗度 20%				
学生への メッセージ	ICT を積極的に活用したさまざまな英語学習法を授業内で紹介して行きます。無料でアクセスできるコンテンツも紹介して行きますので、是非試してみてください。自分にあった学習法が見つければ、自然と英語学習時間が増え、自信につながります。				
担当者の 研究室等	1 1 号館 1 1 階				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。				

科目名	トピックスタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アーサー ロソクソン
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Introduction, overview.	Preview vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Review vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9. (2 hours)
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13. (2 hours)
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17. (2 hours)
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21. (2 hours)
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz. (2 hours)
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29. (2 hours)
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33. (2 hours)
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37. (2 hours)
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41. (2 hours)
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45. (2 hours)
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	14	Special Topic.	To be announced.	Review vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz. (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピックスタディーズⅡ a	科目名 (英文)	Topic Studies IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2043c0		

授業概要・目的	本授業の目的は次の3つである。 (1) 4技能 (Listening・Speaking・Reading・Writing) の向上 (2) 英語によるディスカッション能力の向上 (3) 異文化理解
到達目標	(1) 4技能をバランス良く向上させる。CEFR-J[A2-2]～[B1-1]が到達レベル目標。 (2) 与えられた英語の問いについて、自分で考えを整理しそれを英語で表現できる。 (3) 他国の文化を知りその論理と背景を理解することで、日本の文化を相対化し客観的に把握することができる。
授業方法と留意点	(1) 教科書に沿って、以下の3つに主に取り組む。 ①Reading ②Conversation ③Presentation (2) 各Unitに対する予習 (関連知識の事前学習、本文の大意把握、単語の把握) をしてくることが求められる。 (3) 辞書を必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	(1) 4技能の向上。 (2) TOEIC、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方、成績評価、学習方法の説明	授業の復習 (1 時間)
	2	Unit1 Canada: Natural Beauty Abounds	①Reading ②Reading Exercises	授業の予習・復習 (2 時間)
	3	Unit1 Canada: Natural Beauty Abounds	①Conversation ②Column ③Group Presentation	授業の予習・復習 (2 時間)
	4	Unit2 Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize	①Reading ②Reading Exercises	授業の予習・復習 (2 時間)
	5	Unit2 Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize	①Conversation ②Column ③Group Presentation	授業の予習・復習 (2 時間)
	6	Unit3 Germany: Leaders in Protecting Our Environment	①Reading ②Reading Exercises	授業の予習・復習 (2 時間)
	7	Unit3 Germany: Leaders in Protecting Our Environment	①Conversation ②Column ③Group Presentation	授業の予習・復習 (2 時間)
	8	中間のまとめ	Unit1-3	授業の予習・復習 (2 時間)
	9	Unit4 Turkey: Finish Up Your Coffee	①Reading ②Reading Exercises	授業の予習・復習 (2 時間)
	10	Unit4 Turkey: Finish Up Your Coffee	①Conversation ②Column ③Group Presentation	授業の予習・復習 (2 時間)
	11	Unit5 Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans	①Reading ②Reading Exercises	授業の予習・復習 (2 時間)
	12	Unit5 Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans	①Conversation ②Column ③Group Presentation	授業の予習・復習 (2 時間)
	13	Unit6 Israel: A Land of Tradition and Technology	①Reading ②Reading Exercises	授業の予習・復習 (2 時間)
	14	Unit6 Israel: A Land of Tradition and Technology	①Conversation ②Column ③Group Presentation	授業の予習・復習 (2 時間)
	15	期末のまとめ	Unit4-6	授業の予習・復習 (2 時間)

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Guess What? -Intercultural Surprises-	Natsuki Matsui, Yasuhiro Iida, Naoko Kaneda, Ken Wing Poon, Hitoshi Yokoyama	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	課題, 提出物 70%
------	-------------

(基準)	プレゼンテーション 30%
学生への メッセージ	1) 予習・復習は欠かさず行って下さい。 2) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少変更する可能性があります。
担当者の 研究室等	7号館 5階 森研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます(11号館 11階)。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	1) 事前・事後学習総時間はおおよそ 30 時間を目安とする。ただし、受講生によって必要な学習時間に差があるので、各自適切に調整する必要がある。 2) フィードバックは基本的に翌週以降の授業内で行う。 3) 質疑については、授業の前後の時間またはオフィスアワーで対応する。

科目名	トピックスタディーズⅡb	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・タイアース
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	To listen to and learn about Western classical music from the baroque, classical and romantic periods. To practice reading comprehension and creative writing in English. Students will listen to a different selection of music from the music listened to in
到達目標	Students will have listened to and learned about pieces of music from the baroque, classical and romantic periods of Western classical music. Students will have practiced reading and writing English skills.
授業方法と留意点	Reading comprehension and creative writing as a response to classical music.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to Western classical music	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	2	Music Theory 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	3	Music Theory 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	4	Baroque Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	5	Baroque Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	6	Baroque Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	7	Classical Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	8	Classical Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	9	Classical Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	10	Romantic Music 1	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	11	Romantic Music 2	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	12	Romantic Music 3	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	13	Romantic Music 4	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	14	Romantic Music 5	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)
	15	Romantic Music 6	Reading comprehension. Listening to music. Creative writing about the music.	Listening to related music. Finishing classroom writing task (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズⅡb など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Prints provided by teacher		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Participation 40%, Classwork 60%
学生への	Please bring a dictionary.

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	トピックスタディーズⅡb	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	ナショナルジオグラフィックと TED Talks からさまざまなトピックについて、最新のコンテンツを「聞き」内容を理解し(Listening)、その内容を要約し、自分の意見を加えて「話す」こと (Speaking)、またトピックに関するエッセイを「読み」内容を理解し(Reading)、自分の意見を英語でまとめながら書き (Writing)、4 技能を高めることを目的とする。
到達目標	さまざまなトピックに関連する映像を視聴し、写真を見ながら、斬新なアイデアに触れ、自らも発信する表現方法を身に付ける。
授業方法と留意点	ICT を活用し、音声・映像を活用した演習を通して 4 技能の力を高めます。無料でアクセスできるコンテンツも紹介しながら、さまざまな英語学習方法を試します。Online 教材も備えたテキストですので、積極的に Activity に取り組んで下さい。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
授業計画	1	授業オリエンテーション	授業運営について 成績・評価方法などの説明 テキストの構成説明 My World English Online の説明 (リアルタイムオンライン授業)	事前学習：シラバスの内容を読んでくること (1 時間) 事後学習：Unit5 の予習を行うこと。新出単語は辞書で確認してくること (1 時間)
	2	Unit 5 Challenges	A: Talk about Facing Challenges (Vocabulary & Grammar 演習) B: Describe Past Accomplishments (Listening & Communication 演習) (リアルタイムオンライン授業)	事前学習:Unit5 A/B の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	3	Unit 5 Challenges	C: Use Too and Enough to Talk about Abilities(Conversation ペアワーク) D: Making a Difference (Reading 演習) (リアルタイムオンライン授業)	事前学習:Unit5 C/D の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	4	Unit 5 Challenges Video Journal	E: Describe a Personal Challenge (パラグラフ Writing 演習) Video Journal (ペアワーク) (リアルタイムオンライン授業)	事前学習：Unit5 E の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間) Challenge
	5	Unit 6 Transitions	A: Talk about Different Stages in Your Life(Vocabulary & Grammar 演習) B: Talk about the Best Age to Do Something(Listening & Communication 演習) (リアルタイムオンライン授業)	事前学習：Unit 6 A/B 内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	6	Unit 6 Transitions	C: Ask Questions to Get More Information(Conversation ペアワーク) D: Innovation in Africa(Reading 演習) (リアルタイムオンライン授業)	事前学習：Unit 6 C/D の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	7	Unit 6 Transitions Video Journal	E: Describe an Important Transition in Your Life (パラグラフ Writing 演習) Video Journal (ペアワーク) (リアルタイムオンライン授業)	事前学習：Unit 6 E の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	8	Unit 7 Things that Matter	A: Discuss Spending Habits (Vocabulary & Grammar 演習) B: Talk about Needs and Wants (Listening & Communication 演習) (対面授業)	事前学習：Unit 7 A/B の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	9	Unit 7 Things that Matter	C: Discuss What Makes People's Lives Better (Conversation ペアワーク) D: A Zero-Waste Lifestyle (Reading 演習) (対面授業)	事前学習：Unit 7 C/D の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	10	Unit 7 Things that Matter Video Journal	E: Set Priorities (パラグラフ Writing 演習) Video Journal (ペアワーク) (対面授業)	事前学習：Unit 7 E の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	11	Unit 8 Conservation	A: Talk about Consequences (Vocabulary & Grammar 演習) B: Discuss Ways to Solve Future Problems (Listening & Communication 演習) (対面授業)	事前学習：Unit 8 A/B の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	12	Unit 8 Conservation	C: Describe a Situation D: Making a Difference (Reading 演習) (対面授業)	事前学習：Unit 8 C/D の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	13	Unit 8 Conservation Video Journal	E: Explain a Conservation Issue (パラグラフ Writing 演習) Video Journal (ペアワーク) (対面授業)	事前学習：Unit 8 E の内容を予習すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)
	14	TED Talks に関するディスカッション	TED Talks を視聴し、ディスカッションを行う (対面授業)	事前学習：指定する TED Talks を前もって視聴すること(1 時間) 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。(1 時間)

	15	Review Test	既習内容の到達度確認問題（対面授業）	事前学習：これまでの既習内容を総復習すること（1時間） 事後学習：My World English Online の課題に取り組む。（1時間）
関連科目	トピックスタディーズⅡa			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	World English 2 Third Edition (ISBN:978-0-357-13021-6)	Kristen L. Johannsen and Rebecca Tarver Chase	National Geographic Learning
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	Review Test 30% 提出課題、クラスでの貢献度や発表 50% My World English Online 進捗度 20%			
学生への メッセージ	ICT を積極的に活用したさまざまな英語学習法を授業内で紹介して行きます。無料でアクセスできるコンテンツも紹介して行きますので、是非試してみてください。自分にあった学習法がみつければ、自然と英語学習時間が増え、自信につながります。			
担当者の 研究室等	7号館4階 柏原研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	トピックスタディーズⅡb	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アサヒ ロソグス
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	This is a course in cross cultural studies and how our identity is expressed through different cultural behaviors. Students will learn about and discuss different behavior which form people's identity.
到達目標	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.
授業方法と留意点	As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities such as pair work, small group work, as well as to try to use English as much as possible.
科目学習の効果 (資格)	Students will learn to express themselves in English concerning a variety of topics which make up people's identity.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Introduction, overview.	Preview vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	2	Unit 1 Identity.	How characteristics, feelings, or beliefs that distinguish you from others form your personal identity.	Review vocabulary for pages 2-5. (2 hours)
	3	Unit 2 Values.	Values which help us decide right and wrong, and guide us through difficult choices.	Preview vocabulary for pages 6-9. (2 hours)
	4	Unit 3 Culture Shock.	The stress people experience when they move to another culture.	Preview vocabulary for pages 10-13. (2 hours)
	5	Unit 4 Culture in Language.	Language reflects the culture of the people who speak it.	Preview vocabulary for pages 14-17. (2 hours)
	6	Unit 5 Body Language and Customs.	Body language and non-verbal communication as a reflection of culture.	Preview vocabulary for pages 18-21. (2 hours)
	7	Unit 6 Individualism.	The value of individualism and why it's important for some people. Vocabulary quiz units 1-6.	Preview vocabulary for pages 22-25. Study for vocabulary quiz. (2 hours)
	8	Unit 7 Politeness.	The way people treat each other in order to show courtesy and respect.	Preview vocabulary for pages 26-29. (2 hours)
	9	Unit 8 Communication Styles.	The different ways in which people express themselves.	Preview vocabulary for pages 30-33. (2 hours)
	10	Unit 9 Gender and Culture.	Gender roles and communication styles for men and women in different cultures.	Preview vocabulary for pages 34-37. (2 hours)
	11	Unit 10 Diversity.	The different cultures that exist both within a country or region, and between cultures.	Preview vocabulary for pages 39-41. (2 hours)
	12	Unit 11 Social Change.	Change that makes society and the world a better place.	Preview vocabulary for pages 42-45. (2 hours)
	13	Unit 12 Global Community.	The relationships between people of different cultures and how these relationship form a global community.	Preview vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	14	Special Topic.	To be announced.	Review vocabulary for pages 46-49. (2 hours)
	15	Final test. Vocabulary quiz units 7-12	Term test. Vocabulary quiz units 7-12.	Study for final test and vocabulary quiz. (2 hours)

関連科目	トピック スタディーズⅡa など
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Active participation, attitude and attendance 40%. Vocabulary tests 25%. Final test 35%.
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率として積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. Please bring your textbook and a dictionary to each class. If you forget your text one day, please
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	トピックスタディーズⅡb	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2044c0		

授業概要・目的	本授業の目的は次の3点である。 (1) 4技能 (Listening・Speaking・Reading・Writing) の向上 (2) 英語によるディスカッション能力の向上 (3) クリティカル・シンキング (批判的思考) とはどのようなものなのかを実践を通して理解すること。
到達目標	(1) 4技能をバランス良く向上させる。CEFR-J[A2-2]～[B1-1]が到達レベル目標。 (2) 与えられた英語の問いについて、自分の考えを整理して英語で表現できる。 (3) クリティカル・シンキング (批判的思考) の特徴を説明でき、基本的なスキルを身につける。
授業方法と留意点	(1) 教科書に沿って、以下の4つに主に取り組む。 ①Reading ②Pair Work ③Group Discussion ④Activity (2) 各Unitに対する予習 (文章の大意把握、単語の把握) をしてくることが求められる。 (3) 辞書を必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	(1) 4技能の向上。 (2) TOEIC、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の進め方、成績評価、学習方法の説明	授業の復習 (1 時間)
	2	Unit1 Critical Thinking	Reading Pair Work Group Discussion Activity	授業の予習・復習 (2 時間)
	3	Unit1 Critical Thinking	Reading Pair Work Group Discussion Activity	授業の予習・復習 (2 時間)
	4	Unit1 Critical Thinking	Reading Pair Work Group Discussion Activity	授業の予習・復習 (2 時間)
	5	Unit2 Logic and Organizing	Reading Pair Work Group Discussion Activity	授業の予習・復習 (2 時間)
	6	Unit2 Logic and Organizing	Reading Pair Work Group Discussion Activity	授業の予習・復習 (2 時間)
	7	Unit2 Logic and Organizing	Reading Pair Work Group Discussion Activity	授業の予習・復習 (2 時間)
	8	中間のまとめと理解度確認テスト	Unit1-2	理解度確認テストの準備 (3 時間)
	9	Unit3 Strategies	Reading Pair Work Group Discussion Activity	授業の予習・復習 (2 時間)
	10	Unit3 Strategies	Reading Pair Work Group Discussion Activity	授業の予習・復習 (2 時間)
	11	Unit3 Strategies	Reading Pair Work Group Discussion Activity	授業の予習・復習 (2 時間)
	12	Unit4 Culture	Reading Pair Work Group Discussion Activity	授業の予習・復習 (2 時間)
	13	Unit4 Culture	Reading Pair Work Group Discussion Activity	授業の予習・復習 (2 時間)
	14	Unit4 Culture	Reading Pair Work Group Discussion Activity	授業の予習・復習 (2 時間)
	15	期末のまとめと理解度確認テスト	Unit3-4	理解度確認テストの準備 (3 時間)
関連科目	トピック スタディーズⅡb など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Speaking of Critical Thinking	Peter Vincent, Naoko Nakazato	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間・期末2回の理解度確認テスト 60% 課題 40%			
学生への メッセージ	1) 予習・復習・宿題は欠かさず行うこと。 2) 毎回の授業はZoomで行う。ZoomのURLはTeams上で掲示する。また、授業に関する重要な情報や課題提出は基本的にTeamsで行う。定期的にTenasを確認すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 森研究室 (10月中旬までは11号館11階)			
備考	1) 事前・事後学習総時間はおおよそ30時間を目安とする。ただし、受講生によって必要な学習時間に差があるので、各自適切に調整する必要がある。 2) テストや課題トに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。 3) 質疑については、授業の前後の時間またはオフィスアワーで対応する。			

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジェン パーソン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2. 2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker. If you have any questions, come see me anytime.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アーサー ロングス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. The teacher will provide all material and there is NO TEXTBOOK.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
学生へのメッセージ	Welcome to Speaking and Writing 3a! We will be doing a lot of writing and speaking practices in this class, and through group work, we will learn together. Students are encouraged to speak in English and work as hard as the teacher. Let's have fun and
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2. 2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate 2	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
学生へのメッセージ	英語の発音は読む回数に比例して上達していきます。自分の音読した英語を聞くことはリスニングの強化にもなるので、毎日英語を最低 1 度は読む習慣をつけて下さい。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2. 2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate.	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	weekly assignments (毎回授業内容に関わる課題の提出) 50% review assignment (定期試験の代わりとなるまとめの復習課題) 50%
学生へのメッセージ	英語の発音は読む回数に比例して上達していきます。自分の音読した英語を聞くことはリスニングの強化にもなるので、毎日英語を最低 1 度は読む習慣をつけて下さい。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate.	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
学生へのメッセージ	You'll have a lot of opportunities to improve your speaking and writing skills in this course. Be read to share your ideas!
担当者の研究室等	11 号館 11 階 フーバー研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	利バー ケイブレット
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2. 2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業態度、宿題、発話活動等 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
学生へのメッセージ	I'm looking forward to working together to level up English speaking and writing skills, and seeing your presentations. Be prepared to produce as much English as you can in this class - lots of speaking and writing. Don't worry about being perfect, just
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅢ a	科目名 (英文)	Speaking and Writing III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3045b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85 % 共通課題 (プレゼンテーション) 15 %
-----------	---

学生へのメッセージ	You will need a notebook and writing materials. If you have any questions, come see me anytime.
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	あ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェン パーソン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85 % 共通課題 (プレゼンテーション) 15 %
-----------	---

学生へのメッセージ	You will need to bring the textbook to every class along with a notebook, writing materials, and a highlighting marker. If you have any questions, come see me anytime.
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	い
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アサー リンクス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85 % 共通課題 (プレゼンテーション) 15 %
-----------	---

学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず必要な物・教科書、辞書です。出席率そして積極的な授業参加発言、態度等を重要視する。 Attitude, participation and attendance are considered important in this class for getting a good grade. There is NO TEXTBOOK for this class. All the materials for this class will be provided by the teacher.
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	う
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	カーティス チュウ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85 % 共通課題 (プレゼンテーション) 15 %
-----------	---

学生へのメッセージ	Welcome to Speaking and Writing 3b. We will be doing a lot of writing and speaking practices in this class, and through group work, we will learn together. Let's have fun and learn together :) *This course will be face to face. Students are expect
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ
----	---

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	え
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	リチャード・グアイアス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	Online session for orientation	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	8	これまで学んだスキルについて復習する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	9	統一性 (Unity) について理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	10	一貫性について理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	11	結束性について理解する	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	Weekly assignments, material review, individual feed back.	Review weekly materials and complete writing and speaking assignments.
	14	英語のプレゼンテーション (発表会 1/2)	Online oral presentations (1/2)	Online oral presentations
	15	英語のプレゼンテーション (発表会 2/2)	Online oral presentations (2/2)	Online oral presentations

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85% 共通課題 (プレゼンテーション) 15%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	お
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85 % 共通課題 (プレゼンテーション) 15 %
-----------	---

学生へのメッセージ	ライティングやプレゼンテーションでは、自分が相手に何を伝えたいのかを考えるとところから始まります。相手に伝えたいと思う内容を自分の中で育てていけるよう、興味のあることについて複数のメディアや書籍から情報を収集したり、色々な人の話を聞いたり、そして時には体験から学ぶ姿勢を大切にしてください。授業では相手に言いたいことが効果的に伝えられるよう、文章の論理的な構成など、その方法について学んでいきます。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	か
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	統一性 (Unity) について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	一貫性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	結束性について理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	受講時間内の課題提出 8 5 % 共通課題 (プレゼンテーション) 1 5 %
-----------	--

学生へのメッセージ	You will have many opportunities to improve your speaking and writing skills in this course. Be ready to share your ideas.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 フーバー研究室
----------	------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢb	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	き
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	利バー ケイブレット
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	人や物について書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	人や物について書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	出来事の時間の順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	論理的順序に従って書く・話すスキルについて理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	論理的順序に従って書く・話すスキルを身に付けるための実践演習	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	これまで学んだスキルについて復習する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	統一性 (Unity) について理解する Outline and Introduction	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	一貫性について理解する Body paragraphs	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	結束性について理解する Conclusion	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習・復習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のアカデミック・プレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のアカデミック・プレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing to Communicate	Cynthia A. Boardman	Pearson Education Inc.
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85 % 共通課題 (プレゼンテーション) 15 %
-----------	---

学生へのメッセージ	We will be building on the skills learnt in the first semester and working together to improve and expand them. I am looking forward to working together with you all and seeing your presentations at the end! Please check Moodle - "Announcements" for Zo
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	スピーキング&ライティングⅢ b	科目名 (英文)	Speaking and Writing III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	く
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3046b0		

授業概要・目的	アカデミック・スピーキングとアカデミック・ライティングの基本的な技法について学び、実践的なトレーニングを行う。スピーキングと、手書きまたはタイピングによるライティングをバランス良くトレーニングする。
到達目標	CEFR-J[A2.2] レベルを想定し、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につける。身の回りのことや仕事などについて、理由を伴いつつ自分の意見を英語で話したり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	1 年次・2 年次に、実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法に十分に習熟していることが前提となる。同じ学習技法を基礎としながら、単文にとどまらず複数の文を用いたトレーニングにステップアップする。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランス良くトレーニングする。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の予習 (1 時間)
	2	英語のパラグラフの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	3	トピック・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	4	トピック・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	5	サポーティング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	6	サポーティング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	7	コンクルーディング・センテンスを理解する	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	8	コンクルーディング・センテンスを作ってみる	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	9	パラグラフ・ライティングのプロセス	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	10	パラグラフのフォーマット	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された範囲の教科書の復習・予習、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	11	英語のプレゼンテーションの組織	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	12	英語のプレゼンテーションのためのアウトライン作成	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	13	英語のプレゼンテーションに向けた準備	ペアワーク、グループワーク、ライティング	指定された課題の遂行、学習した英語表現の復習 (1 時間)
	14	英語のプレゼンテーション (発表会)	発表	発表の振り返り (1 時間)
	15	英語のプレゼンテーション (発表会) の振り返り	ペアワーク、グループワーク、ライティング	授業全体の振り返り (1 時間)

関連科目	スピーキング&ライティング IIa, IIb
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (授業態度、宿題、発話活動等) 85 % 共通課題 (プレゼンテーション) 15 %
-----------	---

学生へのメッセージ	If you have any questions, come see me anytime. There is no textbook for this class. Setsunan added the textbook by mistake after I deleted it. If you have the textbook, please return it to the school bookstore for a refund.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。																																																																		
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 (速読と多読、読解技術など)</td><td>授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>テキスト全体に目を通しておく (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境への取り組み</td><td>環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>海外の受験事情</td><td>海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>経済的格差</td><td>経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>美術品と窃盗</td><td>美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>機内事情</td><td>機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ゲームの功罪</td><td>ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ (テストなど)</td><td>中間のまとめを実施し、理解を深める。</td><td>これまでの復習を行う。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ショーの歴史と現状</td><td>ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>世代間交流</td><td>世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>海外の飲酒問題</td><td>海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>社会の可視化を目指して</td><td>社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>国の象徴とその実情</td><td>国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>差別の撲滅に向けて</td><td>差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括 (まとめ)</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>総括 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)	2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)	3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)	9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)																																																																
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)																																																																
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢb など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>What in the World (ちよつと世界を見てみよう)</td><td>Jim Knudsen</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills</td><td>Donald J. Sobol</td><td>英宝社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	What in the World (ちよつと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂	2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	What in the World (ちよつと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂																																																																
2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	授業や課題について質問がある学生は、学籍番号、名前、クラス名、受講曜日を必ず記入し下記のアドレスに連絡して下さい。 chikako.toda@edu.setsunan.ac.jp 授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)
	9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)

関連科目	リーディングⅢb など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 課題提出 40%、課題評価 40%で行う。
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階、後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。																																																																		
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 (速読と多読、読解技術など)</td><td>授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>テキスト全体に目を通しておく (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境への取り組み</td><td>環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>海外の受験事情</td><td>海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>経済的格差</td><td>経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>美術品と窃盗</td><td>美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>機内事情</td><td>機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ゲームの功罪</td><td>ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ (テストなど)</td><td>中間のまとめを実施し、理解を深める。</td><td>これまでの復習を行う。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ショーの歴史と現状</td><td>ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>世代間交流</td><td>世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>海外の飲酒問題</td><td>海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>社会の可視化を目指して</td><td>社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>国の象徴とその実情</td><td>国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>差別の撲滅に向けて</td><td>差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括 (まとめ)</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)	2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)	3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)	9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)																																																																
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)																																																																
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢb など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>What in the World (ちょっと世界を見てみよう)</td><td>Jim Knudsen</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 課題レポート 80%																																																																		
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように、英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディングⅢ a	科目名 (英文)	Reading III a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3047c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために、読解能力は欠かせない。																																																																		
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を育成することを目的とする。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 (速読と多読、読解技術など)</td><td>授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>テキスト全体に目を通しておく (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境への取り組み</td><td>環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>海外の受験事情</td><td>海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>経済的格差</td><td>経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>美術品と窃盗</td><td>美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>機内事情</td><td>機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ゲームの功罪</td><td>ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ (テストなど)</td><td>中間のまとめを実施し、理解を深める。</td><td>これまでの復習を行う。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ショーの歴史と現状</td><td>ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>世代間交流</td><td>世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>海外の飲酒問題</td><td>海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>社会の可視化を目指して</td><td>社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>国の象徴とその実情</td><td>国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>差別の撲滅に向けて</td><td>差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括 (まとめ)</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>総括 (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)	2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)	3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)	9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)																																																																
2	環境への取り組み	環境への取り組みについて扱った英文を読み、理解を深める。	環境への取り組みに関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
3	海外の受験事情	海外の受験事情について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の受験事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
4	経済的格差	経済的格差について扱った英文を読み、理解を深める。	経済的格差に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	美術品と窃盗	美術品と窃盗について扱った英文を読み、理解を深める。	美術品と窃盗に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
6	機内事情	機内事情について扱った英文を読み、理解を深める。	機内事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
7	ゲームの功罪	ゲームの功罪について扱った英文を読み、理解を深める。	ゲームの功罪に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)																																																																
9	ショーの歴史と現状	ショーの歴史と現状について扱った英文を読み、理解を深める。	ショーの歴史と現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
10	世代間交流	世代間交流について扱った英文を読み、理解を深める。	世代間交流に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
11	海外の飲酒問題	海外の飲酒問題について扱った英文を読み、理解を深める。	海外の飲酒問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
12	社会の可視化を目指して	社会の可視化について扱った英文を読み、理解を深める。	社会の可視化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
13	国の象徴とその実情	国の象徴とその実情について扱った英文を読み、理解を深める。	国の象徴とその実情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
14	差別の撲滅に向けて	差別の撲滅について扱った英文を読み、理解を深める。	差別の撲滅に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総括 (1 時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢb など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>What in the World (ちょっと世界を見てみよう)</td><td>Jim Knudsen</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills</td><td>Donald J. Sobol</td><td>英宝社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂	2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂																																																																
2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP7㊟, DP8㊟		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。 *授業で使用する教科書、ノートは毎回必ず持参すること。教科書未購入
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)
	9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	リーディングⅢa など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
	2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。																																																																		
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。今学期は1-6週をオンライン授業、7週以降は対面授業へ変更する。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入(速読と多読、読解技術など)</td><td>授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>テキスト全体に目を通しておく(1時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>美容の最新事情</td><td>美容について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>宇宙開発</td><td>宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>海外における教育の現状</td><td>海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>地球規模の環境問題</td><td>地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ネット中毒と治療</td><td>ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>問題解決を担う天才の育成</td><td>問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ(テストなど)</td><td>中間のまとめを実施し、理解を深める。</td><td>これまでの復習を行う。(1時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言葉の変化と語彙の増加</td><td>言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>機械化とその弊害</td><td>機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>旅の意義</td><td>旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>現代の親としての役割</td><td>現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>児童を取り巻く問題</td><td>児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>世界の囚人事情</td><td>世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括(まとめ)</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入(速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく(1時間)	2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)	3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)	4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)	5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)	6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)	7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)	8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)	9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)	10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)	11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)	12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)	13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)	14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)	15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入(速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく(1時間)																																																																
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
8	中間のまとめ(テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1時間)																																																																
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1時間)																																																																
15	総括(まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢa など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>What in the World (ちょっと世界を見てみよう)</td><td>Jim Knudsen</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	速読・多読活動 20% 教員評価 80% (小テスト 30%、まとめテスト 50%) で全体の評価を行う。																																																																		
学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師控室 (前期 3 号館 2 階、後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松井 信義
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。																																																																		
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し(目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 (速読と多読、読解技術など)</td><td>授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。</td><td>テキスト全体に目を通しておく (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>美容の最新事情</td><td>美容について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>美容に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>宇宙開発</td><td>宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>海外における教育の現状</td><td>海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>地球規模の環境問題</td><td>地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ネット中毒と治療</td><td>ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>問題解決を担う天才の育成</td><td>問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ (テストなど)</td><td>中間のまとめを実施し、理解を深める。</td><td>これまでの復習を行う。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言葉の変化と語彙の増加</td><td>言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>機械化とその弊害</td><td>機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>旅の意義</td><td>旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>現代の親としての役割</td><td>現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>児童を取り巻く問題</td><td>児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>世界の囚人事情</td><td>世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。</td><td>世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括 (まとめ)</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)	2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)	9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)																																																																
2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)																																																																
9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢa など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>What in the World (ちょっと世界を見てみよう)</td><td>Jim Knudsen</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 課題レポート 80% (授業内で、課題・小テスト・後期末試験を実施)																																																																		
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) にあるように、英語学習に王道 (easy way) などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に学習を続けることです。予習、復習を含め英語に触れる絶対量を増やせば、英語の力は必ず上達します。頑張りましょう! Keep your chin up!																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	リーディングⅢ b	科目名 (英文)	Reading III b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3048c0		

授業概要・目的	大量の情報から必要なものを正確に選び取り、また会話に必要な語彙や多様な表現を習得するために不可欠な読解力を養成することを目的とする。
到達目標	この授業では、リーディング II a, b より語彙数も多く、文章の構造もやや複雑な英文を読み、ある程度長いまとまりをもつ英文を読みこなす力を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	英文の読解速度の向上を念頭に置いた速読訓練(Timed-Reading)が中心となる。毎回の授業で、読解時間を測って速読し (目標 100WPM)、大量の英文をインプットする。精読活動では、辞書を用いながら丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する。多読活動が行われることがある。速読や多読を通じてパラグラフリーディングなどの読解技術を学ぶ。また、単語学習課題を実施する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 (速読と多読、読解技術など)	授業の進め方など。時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	美容の最新事情	美容について扱った英文を読み、理解を深める。	美容に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	宇宙開発	宇宙開発について扱った英文を読み、理解を深める。	宇宙開発に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	4	海外における教育の現状	海外における教育の現状について扱った英文を読み、理解を深める。	海外における教育の現状に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	地球規模の環境問題	地球規模の環境問題について扱った英文を読み、理解を深める。	地球規模の環境問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	6	ネット中毒と治療	ネット中毒と治療について扱った英文を読み、理解を深める。	ネット中毒と治療に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	問題解決を担う天才の育成	問題解決を担う天才の育成について扱った英文を読み、理解を深める。	問題解決を担う天才の育成に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	8	中間のまとめ (テストなど)	中間のまとめを実施し、理解を深める。	これまでの復習を行う。(1 時間)
	9	言葉の変化と語彙の増加	言葉の変化と語彙の増加について扱った英文を読み、理解を深める。	言葉の変化と語彙の増加に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	10	機械化とその弊害	機械化とその弊害について扱った英文を読み、理解を深める。	機械化とその弊害に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	旅の意義	旅の意義について扱った英文を読み、理解を深める。	旅の意義に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	12	現代の親としての役割	現代の親としての役割について扱った英文を読み、理解を深める。	現代の親としての役割に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	児童を取り巻く問題	児童を取り巻く問題について扱った英文を読み、理解を深める。	児童を取り巻く問題に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	14	世界の囚人事情	世界の囚人事情について扱った英文を読み、理解を深める。	世界の囚人事情に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括 (まとめ)	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	リーディングⅢa など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	What in the World (ちょっと世界を見てみよう)	Jim Knudsen	南雲堂
	2	Solve the Mystery 2 and Improve Your English Skills	Donald J. Sobol	英宝社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	速読・多読活動 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	この授業では、英語に親しむスタイルで、単語や文法面での新発見を探していくと同時に、身近な話題についてじっくりと英語で読んでいきます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	---

科目名	カレントイングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェリア クネグイッチ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。																																																																		
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検 等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方など。</td><td>時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>最新技術に関する話題 (1)</td><td>AI やロボットといった最新の技術について扱った英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>最新技術に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>最新技術に関する話題 (2)</td><td>第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>福祉に関する話題 (1)</td><td>世界各国の福祉の現状を扱った英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>福祉に関する話題 (2)</td><td>第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>経済に関する話題 (1)</td><td>世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>経済に関する話題 (2)</td><td>第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>健康に関する話題 (1)</td><td>健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>健康に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>健康に関する話題 (2)</td><td>第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>歴史に関する話題 (1)</td><td>歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>歴史に関する話題 (2)</td><td>第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>科学に関する話題 (1)</td><td>最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。</td><td>科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>科学に関する話題 (2)</td><td>第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>政治に関する話題</td><td>各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)	2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術について扱った英字新聞を読み、理解を深める。	最新技術に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	3	最新技術に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	4	福祉に関する話題 (1)	世界各国の福祉の現状を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	福祉に関する話題 (2)	第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	9	健康に関する話題 (2)	第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	11	歴史に関する話題 (2)	第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	13	科学に関する話題 (2)	第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)																																																																
2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術について扱った英字新聞を読み、理解を深める。	最新技術に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
3	最新技術に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
4	福祉に関する話題 (1)	世界各国の福祉の現状を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	福祉に関する話題 (2)	第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
7	経済に関する話題 (2)	第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
9	健康に関する話題 (2)	第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
11	歴史に関する話題 (2)	第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
13	科学に関する話題 (2)	第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)																																																																
関連科目	リーディングⅢなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Meet the World: English through Newspapers 2020</td><td>若 有 保彦</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Meet the World: English through Newspapers 2020	若 有 保彦	成美堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Meet the World: English through Newspapers 2020	若 有 保彦	成美堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>辞書</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	辞書			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	辞書																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	作文 20% 宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応																																																																		

	する。
--	-----

科目名	カレントイングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)
	2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術について扱った英字新聞を読み、理解を深める。	AI といった技術に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	最新技術に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	4	福祉に関する話題 (1)	世界各国の福祉の現状を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	福祉に関する話題 (2)	第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	9	健康に関する話題 (2)	第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	歴史に関する話題 (2)	第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	科学に関する話題 (2)	第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	リーディングⅢなど
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2020	若 有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	今、世界では何が起こっているのか、それはみなさんにどう関わってくるのか。英語を学ぶだけではなく、この授業を、世の中の様々なことに目を向け、深く考える契機としてもらえればと思います。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

	する。
--	-----

科目名	カレントイングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 10% In-class quizzes 10% Homework assignments 10% Class participation and attitude, ability 50% 作文課題 20% Assignments, practice and study will be flexible, according to
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	カレントイングリッシュ a	科目名 (英文)	Current English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3049c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	送信される英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)
	2	最新技術に関する話題 (1)	AI やロボットといった最新の技術について扱った英字新聞を読み、理解を深める。	AI といった技術に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	最新技術に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	4	福祉に関する話題 (1)	世界各国の福祉の現状を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	ベーシックインカムなど福祉に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	福祉に関する話題 (2)	第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	8	健康に関する話題 (1)	健康に関する内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	健康に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	9	健康に関する話題 (2)	第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	10	歴史に関する話題 (1)	歴史を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	歴史に関する話題 (2)	第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	12	科学に関する話題 (1)	最新科学を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	科学に関する話題 (2)	第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	14	政治に関する話題	各国の政治関連の記事を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	リーディングⅢなど
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2020	若 有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	世界で今何が起きているのか。英語の学習のみならず、様々な時事問題を扱いながら、知識を得たり、自分の考えを深めたりすることは、みなさんの生活をより「良い」ものにすることでしょう。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

	する。
--	-----

科目名	カレントイングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	あい
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェリア クネグイッチ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。環境や科学技術といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。																																																																		
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方など。</td><td>時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>文化に関する話題 (1)</td><td>日本文化の海外への広まりについて扱った英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>日本文化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>文化に関する話題 (2)</td><td>第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>歴史に関する話題 (1)</td><td>歴史的な話題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>歴史に関する話題 (2)</td><td>第 4 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>経済に関する話題 (1)</td><td>世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>経済に関する話題 (2)</td><td>第 6 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>政治に関する話題 (1)</td><td>外国と日本の政治的なかかわりに関する英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>政治に関する話題 (2)</td><td>第 8 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>言語に関する話題 (1)</td><td>言語的トピックを扱った英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>言語に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>言語に関する話題 (2)</td><td>第 10 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>保健に関する話題 (1)</td><td>世界の保健問題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>保健に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>保健に関する話題 (2)</td><td>第 12 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。</td><td>作文の課題を完成させる。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>科学に関する話題</td><td>科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。</td><td>科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括</td><td>これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。</td><td>これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)	2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについて扱った英字新聞を読み、理解を深める。	日本文化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	3	文化に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	4	歴史に関する話題 (1)	歴史的な話題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	5	歴史に関する話題 (2)	第 4 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	8	政治に関する話題 (1)	外国と日本の政治的なかかわりに関する英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	9	政治に関する話題 (2)	第 8 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	10	言語に関する話題 (1)	言語的トピックを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	11	言語に関する話題 (2)	第 10 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	12	保健に関する話題 (1)	世界の保健問題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	保健に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	13	保健に関する話題 (2)	第 12 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)	14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)																																																																
2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについて扱った英字新聞を読み、理解を深める。	日本文化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
3	文化に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
4	歴史に関する話題 (1)	歴史的な話題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
5	歴史に関する話題 (2)	第 4 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
7	経済に関する話題 (2)	第 6 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
8	政治に関する話題 (1)	外国と日本の政治的なかかわりに関する英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
9	政治に関する話題 (2)	第 8 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
10	言語に関する話題 (1)	言語的トピックを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
11	言語に関する話題 (2)	第 10 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
12	保健に関する話題 (1)	世界の保健問題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	保健に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
13	保健に関する話題 (2)	第 12 回で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)																																																																
14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)																																																																
15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)																																																																
関連科目	メディアイングリッシュ a, b																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Meet the World: English through Newspapers 2020</td><td>若 有 保彦</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Meet the World: English through Newspapers 2020	若 有 保彦	成美堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Meet the World: English through Newspapers 2020	若 有 保彦	成美堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%																																																																		
学生へのメッセージ	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. Students who engage wholeheartedly in classroom activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve the most.																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	カレントイングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	うえ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)
	2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについて扱った英字新聞を読み、理解を深める。	日本文化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	文化に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	4	歴史に関する話題 (1)	歴史的な話題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	歴史に関する話題 (2)	第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	8	政治に関する話題 (1)	外国と日本の政治的なかかわりに関する英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	9	政治に関する話題 (2)	第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	10	言語に関する話題 (1)	言語的トピックを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	言語に関する話題 (2)	第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	12	保健に関する話題 (1)	世界の保健問題を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	保健に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	保健に関する話題 (2)	第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	メディアイングリッシュ a, b
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2020	若 有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	今、世界では何が起こっているのか、それはみなさんにどう関わってくるのか。英語を学ぶだけではなく、この授業を、世の中の様々なことに目を向け、深く考える契機としてもらえればと思います。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	カレントイングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	おか
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Exam 20%, In-class quizzes, Homework assignments, Class participation, attitude, ability, 作文課題 80% Assignments, practice, study are flexible, due to whether lessons are 'online' or 'face-to-face' classes. Please consult the teacher.
-----------	--

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	カレントイングリッシュ b	科目名 (英文)	Current English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	きく
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3050c0		

授業概要・目的	現代の出来事や考え方を扱った、ある程度長くてまとまりのある教材を用い、精読や速読を行う。政治や科学といった分野を含めて、メディアやウェブをにぎわす最新のトピックを学習しながら読む、聞くだけでなく、自分の意見を英語で発信できる力を身につける。
到達目標	1. 現代社会に必要な教養を身につける。 2. ひとつのトピックをさまざまな視点から考えられるようになる。 3. 英字新聞の要点を的確に把握できるようになる。 4. 最新のトピックについて、英語で意見を述べたり、書いたりできるようになる。
授業方法と留意点	英字新聞やインターネット記事を英語で読解し、現在世界で起こっている出来事について理解を深める。新聞英語の特徴に慣れ、まとまりのある英語の記事の要点を的確に理解し、自らの意見を英語で述べたり、書いたりする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方など。	時事的なトピックについて書かれた英語を読みながら、自らの意見を英語で述べてみる。(1 時間)
	2	文化に関する話題 (1)	日本文化の海外への広まりについて扱った英字新聞を読み、理解を深める。	日本文化に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	3	文化に関する話題 (2)	第 2 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	4	歴史に関する話題 (1)	歴史的な話題を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	歴史に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	5	歴史に関する話題 (2)	第 4 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	6	経済に関する話題 (1)	世界に見られる格差などを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	経済に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	7	経済に関する話題 (2)	第 6 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	8	政治に関する話題 (1)	外国と日本の政治的なかかわりに関する英字新聞を読み、理解を深める。	政治に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	9	政治に関する話題 (2)	第 8 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	10	言語に関する話題 (1)	言語的トピックを扱った英字新聞を読み、理解を深める。	言語に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	11	言語に関する話題 (2)	第 10 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	12	保健に関する話題 (1)	世界の保健問題を扱った英字新聞をよみ、理解を深める。	保健に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	13	保健に関する話題 (2)	第 12 回の授業で読み解いた英字新聞の内容について、自らの意見を英語でまとめ、発表する。	作文の課題を完成させる。(1 時間)
	14	科学に関する話題	科学的内容を扱った英字新聞を読み、理解を深める。	科学に関する英語表現を勉強する。(1 時間)
	15	総括	これまで扱ったトピックについて総括し、英語の復習を行いながら、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	これまでの授業で扱った内容について総復習する。(1 時間)

関連科目	メディアイングリッシュ a, b
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Meet the World: English through Newspapers 2020	若 有 保彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	世界で何が起こっているのか。英語の学習のみならず、様々な時事問題を扱いながら、知識を得たり、自分の考えを深めたりすることは、みなさんの生活をより「良い」ものにすることでしょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	ビジネスイングリッシュ a	科目名 (英文)	Business English a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP7oDP8◎		
科目ナンバリング	LDL3051c0		

授業概要・目的	国際キャリアコース（英語専攻）4年次の学生を対象とする科目である。グローバルにビジネスを展開している企業の内外において必要とされる英語の総合的なスキルを習得することを目的とする。以下のような内容について主に演習形式で学習する。①対面および電話でのビジネス英会話を場面・状況別に具体例とともに学び、実践的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。②E メールやビジネスレターについて、目的・状況別にその典型的なフォーム・書き方を学び、英語表現力を養成することができる。
到達目標	ビジネスに関する英語を聞いたり読んだりして、その情報や考えなどを理解することができるようになること、そしてビジネスに関する話題について目的や場面、状況等に応じて、CEFR-J [B1.1]レベルの英語を話し、書くことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	※第2回目以降の授業は、すべてオンライン（Teams, リアルタイム）で行います。 ・授業は演習形式で行うが、必要に応じてグループワークなども織り交ぜていく。 ・授業で学んだ内容について毎回（翌週に）小テストを行う。 ・指示に応じてレポートを Word 文書で作成し、提出する（7月）。提出後の授業でフィードバックを行う。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・授業期間中の事前・事後学習に必要とされる総時間数は30時間である。
科目学習の効果（資格）	TOEIC 等の語学検定試験のスコア向上が期待できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 挨拶と名刺交換	・授業内容・方法について説明する。 ・初対面のあいさつおよび名刺の交換の場面を想定し、例となる英語表現を聞き、ロールプレイ方式で実践的に練習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	2	電話のやりとり	電話を使って用件のやりとりをする状況を想定し、例となる英語表現を聞き、ロールプレイ方式で実践的に練習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	3	伝言を受ける、依頼する	伝言を受けたり依頼したりする場面を想定し、例となる英語表現を聞き、ロールプレイ方式で実践的に練習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	4	丁寧な依頼をする	丁寧な依頼をする場面や状況を想定し、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書くことで総合的に学習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	5	不明点を問い合わせる	ビジネスに関して何かを問い合わせる場面を想定し、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書くことで総合的に学習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	6	アポ（予約）をとる	会う約束（アポ）をとる状況を想定し、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書くことで総合的に学習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	7	要求をする	ビジネスに関して何かを要求する場面を想定し、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書くことで総合的に学習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	8	お詫びをする	お詫びをする場面や状況を想定し、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書くことで総合的に学習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	9	不在を知らせる	不在を知らせる場面を想定し、電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書くことで総合的に学習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	10	連絡事項の内容や理解を確認する	連絡事項の内容や理解を確認する場面を想定し、対面・電話、Eメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書くことで総合的に学習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	11	電子メールの添付書類について説明する	添付書類について説明する状況を想定し、Eメールを書くことを中心に、その英語表現について学習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	12	求人について問い合わせる	求人とその問い合わせをする状況を想定し、Eメールを書くことを中心に、その英語表現について学習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	13	提案をする レポートの提出	提案をする場面や状況を想定し、対面・電話、Eメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書くことで総合的に学習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	14	お別れをする	お別れの場面において、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書くことで総合的に学習する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。

	15	総括 レポートのフィードバック	- これまでの授業内容を総括する。 - レポートの解答（模範）例を示しながら、内容や書き方について総評する。	これまでに学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（4時間）。
関連科目	リーディング IIIa, IIIb など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Shorter Course in English for Business Communication	新田亜紀子	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	小テスト 70% レポート 30% ※ただし、原則としてオンライン授業への出席率が80%以上であることを条件とします。			
学生への メッセージ	1年次からの英語科目で学んだ語彙・文法・発音なども復習しながら、英語の総合力を高めてほしいと思います。			
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	- 授業時間内に質疑応答時間を設けるので積極的に活用してほしい。 - レポートのフィードバックは、第15回の授業内で行う。			

科目名	ビジネス イングリッシュ b	科目名 (英文)	Business English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP7oDP8©		
科目ナンバリング	LDL3052c0		

授業概要・目的	国際キャリアコース（英語専攻）4年次の学生を対象とする科目である。グローバルにビジネスを展開している企業の業務において想定される取引先との商談および交渉のスキルを習得することを目的とする。以下のような内容について主に演習形式で学習する。①意見交換、条件提示、譲歩・妥結、合意・契約など様々な場面・状況の英語表現について実践的な英語コミュニケーション能力を身につけることができる。②特定の場面や状況を設定したロールプレイ方式の演習や、実例に基づいた英文契約書を読み、自ら書いてみる練習なども取り入れて、聞く、読む
到達目標	ビジネスにおける商談や交渉において想定される英語表現を学び、目的や場面、状況等に応じて英語で話すことができ、書くことができるようになること、そして英語を聞く、読む、話す、書くという4つの領域を統合したCEFR-J [B1.1]レベルの言語活動を行うことができるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	・授業は演習形式で行うが、必要に応じてグループワークなども織り交ぜていく。 ・授業で学んだ内容について毎回（翌週に）小テストを行う。 ・レポートをWord文書で作成し第13回の授業時に提出する。そして第15回の授業でフィードバックを行う。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・授業期間中の事前・事後学習に必要とされる総時間数は60時間である。

科目学習の効果（資格）	TOEIC等の語学検定試験のスコア向上が期待できる。
-------------	----------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネス英語と交渉術について	・授業の内容・方法について説明する。 ・ビジネス英語と交渉術について概観する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	2	アポ（予約）とセールス（売り込み）	アポや売り込みなどセッティングの状況で想定される英語表現について、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習を行う。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	3	自己紹介・会社紹介	自己紹介や会社紹介などの状況で想定される英語表現について、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習を行う。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	4	製品説明と交渉	製品説明など交渉開始時の状況で想定される英語表現について、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習を行う。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	5	希望、要望、提案を述べる	希望・要望・提案などを述べる場面で想定される英語表現について、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習を行う。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	6	製品について質問、確認をする	製品について質問や確認をする場面で想定される英語表現について、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習を行う。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	7	聞きにくいことを聞く、即答を避けたいことについて答える	聞きにくい内容や即答を避けたい場合などの英語表現について、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習を行う。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	8	賛成する、反対する	賛成・反対といった意見を表明する場面での英語表現について、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習を行う。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	9	妥協案や代替案を示す	妥協案や代替案の提示など意見を調整する場面での英語表現について、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習を行う。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	10	譲歩を求める、問題点を指摘する	譲歩を求めたり、問題点を明らかにする場面での英語表現について、対面・電話とEメールの英語表現を比較しながら、聞く・話す・書く総合演習を行う。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	11	価格と支払い条件を交渉する	価格や支払条件などの交渉の場面を想定し、英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習を行う。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	12	製品の数量、品質、保証について交渉する	製品の数量・品質・保証などの交渉の場面を想定し、英語表現の実例を聞き、ロールプレイ演習を行う。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	13	英文契約書（1） レポートの提出	英文契約書のサンプルを読み、その特徴について演習形式で学ぶ。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。
	14	英文契約書（2）	英文契約書の書き方について、演習形式で学ぶ。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2時間）。

	15	総括 レポートのフィードバック	・これまで学習した内容を総括する。 ・レポートの解答（模範）例を示しながら、内容や書き方について総評する。	・事前にテキストの該当箇所の重要な語句や構文について、辞書や文法書で調べておく（2 時間）。 ・事後に授業で学んだ内容について要点を整理するとともに、重要な表現を暗記・暗唱する（2 時間）。																
関連科目																				
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>『ネゴシエーションの英語表現』（日経文庫 1163）</td><td>デイビッド・セイン／マーク・スプーン</td><td>日本経済新聞出版社（830 円＋税）</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『ネゴシエーションの英語表現』（日経文庫 1163）	デイビッド・セイン／マーク・スプーン	日本経済新聞出版社（830 円＋税）	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	『ネゴシエーションの英語表現』（日経文庫 1163）	デイビッド・セイン／マーク・スプーン	日本経済新聞出版社（830 円＋税）																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>辞書</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	辞書			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	辞書																			
2																				
3																				
評価方法 （基準）	課題やレポートなどの提出物 100% ※ただし、原則として授業の出席率が 80%以上であることを条件とします。																			
学生への メッセージ	1 年次からの英語科目で学んだ発音・語彙・文法なども復習しながら、英語の総合力を高めてほしいと思います。																			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 中島研究室																			
備考	・授業時間内に質疑応答時間を設けるので積極的に活用してほしい。 ・レポートのフィードバックは、第 15 回の授業内で行う。																			

科目名	中国語を聞く I a	科目名 (英文)	Chinese Listening I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1053e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は講義形式で進めるが、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	子音 (4), 子音 (5)	発音編 4	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	会話 1	第 1 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	会話 2	第 2 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	会話 3	第 3 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	会話 4	第 4 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	会話 5	第 5 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	会話 6	第 6 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	連動文	第 7 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	了 1, 了 2	第 8 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	結果補語, 介詞 6	第 9 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	会話 10	第 10 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	会話 11	第 11 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	会話 12	第 12 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。課題やレポートに対するフィードバックはできるだけ詳細な講評を加えたい教室で行う。
----	---

科目名	中国語を聞く I a	科目名 (英文)	Chinese Listening I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7㊟, DP8㊟		
科目ナンバリング	LDL1053e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は講義形式で進めるが、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクも積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級または 4 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	子音 (4), 子音 (5)	発音編 4	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	会話 1	第 1 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	会話 2	第 2 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	会話 3	第 3 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	第 1 課～第 3 課まとめ	第 1 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	会話 4	第 4 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	会話 5	第 5 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	会話 6	第 6 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	連動文	第 7 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	了 1, 了 2	第 8 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	結果補語, 介詞 6	第 9 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	第 7 課～第 9 課まとめ	第 3 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	会話 10	第 10 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	会話 11	第 11 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	会話 12	第 12 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 50% 単元テスト : 50%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	--

担当者の研究室等	兪研究室 (7 号館 3 階) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	--

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を聞く I b	科目名 (英文)	Chinese Listening I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1054e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は講義形式で進めるが、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクも積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	疑問代名詞「為什麼」、接続詞「因為」、「所以」、可能補語	第 13 課 3	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	使役文、被動文、複合方向補語	第 14 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	検定 4 級準備 (1) リスニング	第 15 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (2) 長文読解	第 16 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (3) 長文読解	第 17 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	第 15 課～17 課到達度確認	復習＋第 15 課～17 単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 日文中訳	第 18 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 日文中訳	第 19 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 日文中訳	第 20 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 教材音読	第 21 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	長文読解と既習事項確認 (2) 日文中訳	第 22 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (3) 語彙と発音	第 23 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	第 21 課～23 課到達度確認	復習＋第 21 課～第 23 課単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 中文日訳	第 24 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	長文読解と既習事項確認 (5) 教材音読	第 25 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	兪研究室 (7 号館 3 階)
備考	質問したい事項がある場合、担当教員の研究室で問い合わせること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を聞く I b	科目名 (英文)	Chinese Listening I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1054e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 Ia』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は演習形式で行い、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクを積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	疑問代名詞「為什麼」、接続詞「因為」、「所以」、可能補語	第 13 課 3	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	使役文、被動文、複合方向補語	第 14 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	検定 4 級準備 (1) リスニング	第 15 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (2) 長文読解	第 16 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (3) 長文読解	第 17 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	第 15 課～17 課到達度確認	復習＋第 15 課～17 単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 日文中訳	第 18 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 日文中訳	第 19 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 日文中訳	第 20 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 教材音読	第 21 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	長文読解と既習事項確認 (2) 日文中訳	第 22 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (3) 語彙と発音	第 23 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	第 21 課～23 課到達度確認	復習＋第 21 課～第 23 課単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 中文日訳	第 24 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	長文読解と既習事項確認 (5) 教材音読	第 25 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	リレーの授業なので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都、中西、倉) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を読む I a	科目名 (英文)	Chinese Reading I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1055e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は講義形式で進めるが、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクも積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	複母音 (3), 鼻母音 (4), 子音 (3)	発音編 3	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	自己紹介, 疑問詞疑問文	第 1 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	副詞語順, 全否定, 部分否定, 疑問視疑問文	第 2 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	二重目的語, 副詞 4	第 3 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	第 1 課～第 3 課会話文から出題	復習 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	所有, 存在, 疑問代名詞 2	第 4 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	疑問代名詞 3, 介詞 1	第 5 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	指示代名詞 2	第 6 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	介詞 3, 量詞 3	第 7 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	7 課小テスト, 介詞 4, 動量詞	第 8 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	8 課小テスト, 状態補語, 介詞 5	第 9 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	第 7 課～第 9 課会話文から出題	復習 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	能願動詞 1	第 10 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	比較文, 能願動詞 4	第 11 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	疑問代名詞 5, 副詞 12	第 12 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を読むⅠb	科目名（英文）	Chinese Reading I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1056e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話すⅠb」「中国語を読むⅠb」「中国語を聞くⅠb」「中国語を書くⅠb」のひとつで、『摂南大学中国語Ⅰb』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は講義形式で進めるが、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクも積極的に取り入れる。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	助動詞「打算」「準備」、前置詞「為了」「除了」	第 13 課 2	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	存現文、兼語文	第 14 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	第 13、14 課文法と語彙の到達度確認	第 13 課～14 単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (1) 日文中訳	第 15 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (2) リスニング	第 16 課 1+第 15 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	検定 4 級準備 (3) リスニング	第 17 課 1+第 16 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 文法	第 18 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 文法	第 19 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 文法	第 20 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 日文中訳	第 21 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	長文読解と既習事項確認 (2) 語彙と発音	第 22 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	第 22 課到達度確認	復習+第 22 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	長文読解と既習事項確認 (3) 中文日訳	第 23 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 教材音読	第 24 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	長文読解と既習事項確認 (5) 日文中訳	第 25 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話すⅠb」「中国語を聞くⅠb」「中国語を書くⅠb」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語Ⅰb	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	小都研究室（7 号館 3 階）
備考	テストや課題は実施後に間違いの多かったところを復習し、口頭または書面でフィードバックを行います。

科目名	中国語を書く I a	科目名 (英文)	Chinese Writing I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1057e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は講義形式で進めるが、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクも積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	四声、単母音、子音(1)、複母音(1)	発音編 1	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	形容詞述語文、副詞 1、変調	第 1 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	1 課小テスト、是構文、副詞 2、構造助詞 1	第 2 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	2 課小テスト、動目構造、動詞重畳	第 3 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	数詞、量詞 1	第 4 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	4 課小テスト、数詞 3、曜日	第 5 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	5 課小テスト、方位詞、不定代名詞、量詞 2	第 6 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	第 4 課～第 6 課会話文から出題	復習 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	選択疑問文、副詞 7	第 7 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	了 1 了 2、副詞 8	第 8 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	副詞 9、把字句	第 9 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	動態助詞「過」副詞 10	第 10 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	10 課小テスト、能願動詞 2、動量詞 3	第 11 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	11 課小テスト、方向補語	第 12 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	第 10 課～第 12 課会話文から出題	復習 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。事前・事後に各 60 分の学修を要する。4 月 22 日まで Teams コードを使って、Teams チームに加入しなければならない。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都、中西、兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を書く I b	科目名 (英文)	Chinese Writing I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1058e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は講義形式で進めるが、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクも積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	会話	第 13 課 4	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	会話	第 14 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	検定 4 級準備 (1) 長文読解	第 15 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (2) 文法	第 16 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (3) 文法	第 17 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	検定 4 級準備 (4) リスニング	第 18 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (5) リスニング	第 19 課 1+第 18 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (6) リスニング	第 20 課 1+第 19 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	第 18 課～20 課到達度確認	復習+第 18 課～20 単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 中文日訳	第 21 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	長文読解と既習事項確認 (2) 教材音読	第 22 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (3) 日文中訳	第 23 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	長文読解と既習事項確認 (4) 語彙と発音	第 24 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (5) 語彙と発音	第 25 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	長文読解と既習事項確認 (5) 中文日訳	第 25 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を話す Ib」「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都、中西、兪) を通じて問い合わせることできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	---

科目名	中国語を話す I a	科目名 (英文)	Chinese Speaking I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1059e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得することができる。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業は講義形式で進めるが、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクも積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	複母音 (2), 鼻母音 (1)	発音編 2	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	文末助詞, 主述述語文	第 1 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第 2 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	文末助詞 2, 副詞 3	第 3 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	数詞 2, 副詞 5	第 4 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	時間詞, 名詞述語文	第 5 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	動詞「在」, 副詞 6	第 6 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	会話 7	第 7 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	会話 8	第 8 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	会話 9	第 9 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	動量詞 2, 副詞 11	第 10 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第 11 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	進行文, 接続詞 1	第 12 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を話す I a	科目名 (英文)	Chinese Speaking I a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7㊟, DP8㊟		
科目ナンバリング	LDL1059e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、後期の学期中に受験する中国語検定試験での合格を目指す。
到達目標	前期終了時に、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙の 80% を修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割近く正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	遠隔授業 この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。事前・事後に各 60 分の学修を要する。授業は講義形式で進めるが、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクも積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級および 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	複母音 (2), 鼻母音 (1)	発音編 2	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	文末助詞, 主述述語文	第 1 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	指示代名詞, 反復疑問文, 構造助詞 2	第 2 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	文末助詞 2, 副詞 3	第 3 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	数詞 2, 副詞 5	第 4 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	時間詞, 名詞述語文	第 5 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	動詞「在」, 副詞 6	第 6 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	第 4 課～第 6 課まとめ	第 2 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	会話 7	第 7 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	会話 8	第 8 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	会話 9	第 9 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	動量詞 2, 副詞 11	第 10 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	疑問代名詞 4, 能願動詞 3	第 11 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	進行文, 接続詞 1	第 12 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	第 10 課～第 12 課まとめ	第 4 回単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」 「ビジネス中国語 a」「映像中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語を話す I b	科目名 (英文)	Chinese Speaking I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1060e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。																																																																		
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。																																																																		
授業方法と留意点	遠隔授業 この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は講義形式で進めるが、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクも積極的に取り入れる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>是～の構文</td><td>第 13 課 1</td><td>この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>動態助詞「着」、気象現象</td><td>第 14 課 1+第 13 課小テスト</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 13, 14 課文法と語彙の復習</td><td>第 13 課～14 復習課</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>検定 4 級準備 (1) 文法</td><td>第 15 課 3</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>検定 4 級準備 (2) 日文中訳</td><td>第 16 課 4</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>検定 4 級準備 (3) 日文中訳</td><td>第 17 課 4</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>検定 4 級準備 (4) 長文読解</td><td>第 18 課 2</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>検定 4 級準備 (5) 長文読解</td><td>第 19 課 2</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>検定 4 級準備 (6) 長文読解</td><td>第 20 課 2</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音</td><td>第 21 課 1</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 21 課到達度確認</td><td>復習+第 21 課小テスト</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳</td><td>第 22 課 4</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読</td><td>第 23 課 3</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳</td><td>第 24 課 2</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第 24 課～25 課到達度確認</td><td>復習+第 24 課～第 25 課単元テスト</td><td>教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	是～の構文	第 13 課 1	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1+第 13 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	11	第 21 課到達度確認	復習+第 21 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。	15	第 24 課～25 課到達度確認	復習+第 24 課～第 25 課単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	是～の構文	第 13 課 1	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1+第 13 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
11	第 21 課到達度確認	復習+第 21 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
15	第 24 課～25 課到達度確認	復習+第 24 課～第 25 課単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。																																																																
関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>中国語 I b</td><td>摂南大学外国語学部</td><td>摂南大学外国語学部</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%																																																																		
学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 倉) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		

科目名	中国語を話す I b	科目名 (英文)	Chinese Speaking I b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1060e0		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの技能を総合的にバランスよく習得する。4 年間にわたって続く中国語学習の基礎を身につけるとともに、この学期中に受験する中国語検定試験 4 級での合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末までに、中国語検定試験 4 級に出題される文法・語彙をすべて修得する。また同試験リスニング部分でも 6 割以上を確実に正解できるだけのリスニング能力を身につけることができる。また中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達する。
授業方法と留意点	この科目は中国語専攻での必修科目「中国語を話す Ia」「中国語を読む Ia」「中国語を聞く Ia」「中国語を書く Ia」のひとつで、『摂南大学中国語 I a』を使用して、週 4 回の授業をリレー式に連携して進める。したがって、授業はこの 4 科目をすべて履修していることを前提に進行することに注意。授業は講義形式で進めるが、「教師と学生」「学生どうし」で会話するタスクも積極的に取り入れる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	是～的構文	第 13 課 1	この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	2	動態助詞「着」、気象現象	第 14 課 1 + 第 13 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	3	第 13, 14 課文法と語彙の復習	第 13 課～14 復習課	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	4	検定 4 級準備 (1) 文法	第 15 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	5	検定 4 級準備 (2) 日文中訳	第 16 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	6	検定 4 級準備 (3) 日文中訳	第 17 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	7	検定 4 級準備 (4) 長文読解	第 18 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	8	検定 4 級準備 (5) 長文読解	第 19 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	9	検定 4 級準備 (6) 長文読解	第 20 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	10	長文読解と既習事項確認 (1) 語彙と発音	第 21 課 1	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	11	第 21 課到達度確認	復習 + 第 21 課小テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	12	長文読解と既習事項確認 (2) 中文日訳	第 22 課 4	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	13	長文読解と既習事項確認 (3) 教材音読	第 23 課 3	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	14	長文読解と既習事項確認 (4) 日文中訳	第 24 課 2	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。
	15	第 24 課～25 課到達度確認	復習 + 第 24 課～第 25 課単元テスト	教科書の該当部分を 1 時間かけて予習する。また、この授業で学んだ内容を 1 時間かけて復習する。

関連科目	「中国語を読む Ib」「中国語を聞く Ib」「中国語を書く Ib」 「ビジネス中国語 b」「映像中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	上記のような日程で講義が進むので、欠席すると次回の受講に困難をきたす。欠席はしないように。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	ビジネス中国語 a	科目名 (英文)	Business Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1061e0		

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。基本的な語彙や文法を習得したあとはビジネス関連の内容も授業で取り上げる。
到達目標	中国語の音声を正確に判別し、既習の語彙やフレーズについて正しく発音したり漢字やピンインでディクテーションできることを目指す。中国語検定4級リスニング試験の形式やレベルの問題にも取り組み、同級合格レベルに到達できる。
授業方法と留意点	1. 演習形式で授業を行いながら、他の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、課題の発表を通して既習項目を定着させ応用能力を高める。 2. 授業で学んだ内容について Moodle でテストを行うほか、手書き原稿を Teams など ICT ツールに提出することを求め、またその評価をフィードバックする。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語聞き取り能力が向上し、前期終了時には中国語検定試験準4級の受験が可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	中国語知識	中国語を学ぶにあたっての基礎知識としての地理・民族・人口など中国に関する基本情報。	中国語を学ぶのに必要な中国に関する高等学校程度の知識を確認する。授業で学んだ内容を1時間かけて復習する。
	2	第1課	四声と基本的な母音、子音 四択練習問題四声と基本的な母音、子音 四択練習問題	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	3	第2課	鼻母音と発音しにくい子音。 四択練習問題。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	4	第3課	声調パタンの反復練習。 練習問題。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	5	第4課	「是」構文 名前の言い方に関する置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	6	第5課	数量に関する表現と「有」構文に関する置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	7	第6課	動詞述語文と職業に関する表現の置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	8	単元テスト1 (第1課～第6課) 第7課	第1課～第6課で学習した事項の確認。 形容詞述語文と比較表現を使った置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	9	第8課	前置詞と方位詞を使った表現の置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	10	第9課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	11	第10課	「了」と結果補語を使った置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	12	第11課	動作の進行、完了の表現に関する置き換え練習。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	13	第12課	「就」「才」を使った文および「在」のいくつかの用法。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	14	第13課	程度補語の使い方。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	15	単元テスト2 (第7課～第13課) まとめ	第1課～第6課で学習した事項の確認。 『中国語 I a』で学習したことまとめ。	事前に『中国語 I a』の該当部分を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。

関連科目	必修中国語科目 (週4コマ) を必ず履修していること。
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I a	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	筆記による単元テスト：50% Moodle で実施する小テスト：50%
学生への メッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりと持って授業に臨んでほしい。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階(中西研究室) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	ビジネス中国語 b	科目名 (英文)	Business Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1062e0		

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、描画アプリなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。ビジネス関連の話題も積極的に取り入れる。
到達目標	11 月下旬の中国語検定 4 級試験受験までに、そのリスニング試験問題で 6 割以上の正答率を達成できるようになる。12 月以降は 4 級試験の長文読解問題レベルの文章を教材とする。これにより正しくディクテーションしたりシャドーイングすることができる。
授業方法と留意点	1. Forms によるオンライン形式で授業を行う。他の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、課題の発表を通して既習項目を定着させ応用能力を高める。 2. 授業で学んだ内容について Moodle でテストを行うほか、手書き原稿を Teams など ICT ツールに提出することを求め、またその評価をフィードバックする。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語聞き取り能力が向上し、11 月に実施される中国語検定試験 4 級に合格することを可能とする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 11 課	11.1<助動詞 2, 動量詞 3> 11.2<疑問代名詞 4, 助動詞 3> 11.3<比較文, 助動詞 4> 11.4 会話 11	この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	2	第 12 課	12.1<方向補語> 12.2<進行文, 接続詞 1> 12.3<疑問代名詞 5, 副詞 12> 12.4 会話 12	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	3	復習	第 10 課～第 12 課会話文から出題	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	4	第 13 課	1. 是～的構文> 2. 助動詞「打算」「准?」、前置詞「?了」「除了」> 3. 疑問代名詞「?什?」、接続詞「因?」、 「所以」、可能補語> 4. 会話	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	5	第 14 課	1. 動態助詞「着」、気象現象> 2. 存現文, 兼語文> 3. 使役文, 被動文, 複合方向補語> 4. 会話	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	6	復習	第 13 課～第 14 課会話文から出題	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	7	第 15 課	漫画は好きですか? 検定 4 級準備 (1)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	8	第 16 課	何年習っているの? 検定 4 級準備 (2)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	9	第 17 課	どこで働いているの? 検定 4 級準備 (3)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	10	第 18 課	お母さんのお仕事は? 検定 4 級準備 (4)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	11	第 19 課	車で行く? 検定 4 級準備 (5)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	12	第 20 課	電話くれた? 検定 4 級準備 (6)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	13	第 21 課	ペットの名前は? 長文読解と既習事項確認 (1)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	14	第 22 課	お友達の名前は? 長文読解と既習事項確認 (2)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。
	15	第 23 課	妹さんおいくつ? 長文読解と既習事項確認 (3)	事前に配布する授業資料を1時間かけて予習しておく。この授業で学んだことは事後に1時間かけて復習する。

関連科目	必修中国語科目「中国語を読むb」「中国語を話すb」「中国語を聞くb」「中国語を書くb」を必ず履修していること。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語 I b	摂南大学外国語学部	摂南大学外国語学部
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト：70% 単元テスト：30% ただし必要に応じてレポートの提出を求めこれを評価に含めることもある。			
学生への メッセージ	必修科目なので、目的意識をしっかり持って授業に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室)			
備考	教科書は中国語必修科目用のものと共通。 授業時間外に質問がある場合は、「連絡手段」の方法で問い合わせること。質問に対してはメールなどの方法で必ずフィードバックを行う。			

科目名	映像中国語 a	科目名 (英文)	Film Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1063e0		

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	中国語の音声を正確に判別し、既習の語彙やフレーズについて正しく発音したり漢字やピンインでディクテーションできるようになる。中国語検定4級リスニング試験の形式やレベルの問題にも取り組み、同級合格レベルに到達できる。
授業方法と留意点	遠隔授業 毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果 (資格)	中国語聞き取り能力が向上し、前期終了時には中国語検定試験准4級の受験が可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	中国語知識	中国語を学ぶにあたっての基礎知識としての地理・民族・人口など中国に関する基本情報。 中国語の特徴及び学習方法。	習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。
	2	第1課	発音 四声、単母音、複母音、鼻母音 発音練習と聞く練習。	習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。
	3	第2課	発音 母音の復習、子音。 発音練習と聞く練習。	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	4	第3課	「是」構文、「叫」と年齢の表現 読む、会話と聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	5	第4課①	「在」、動詞述語文 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	6	第4課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	7	第5課①	形容詞述語文、疑問文 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	8	第5課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	9	単元テスト1 (第3.課～第5課) 第6課①	第1課～第6課で学習した事項の確認。 「有」構文、日付、時刻表現 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	10	第6課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	11	第7課①	反復疑問文、選択疑問文 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	12	第7課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	13	第8課①	動詞述語文、副詞「都」「也」 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	14	第8課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	15	単元テスト2 (第6課～第8課) まとめ	第6課～第8.課で学習した事項の確認。 まとめ	
関連科目	必修中国語科目 (週4コマ) を必ず履修していること。			
教科書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ここから 中国語	依藤 醇 工藤真理子	白帝社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度と課題：50% テスト：50%			
学生への メッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりとって授業に臨んでほしい。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西，兪，小都）を通じて問い合わせることできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	映像中国語 b	科目名 (英文)	Film Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL1064e0		

授業概要・目的	映像と音声を通じて、中国語を聞き取る能力を重点的に養成することを目的とする。授業ではパソコンやネットワーク、タッチパネルディスプレイなどを利用して、発音のチェックや他の学生との情報共有、シャドーイングなどの活動を行う。この課程は1年次の必修中国語各科目の内容と連動するもので、それらで学んだ事項を定着させることができる。
到達目標	中国語の音声を正確に判別し、既習の語彙やフレーズについて正しく発音したり漢字やピンインでディクテーションできるようになる。中国語検定4級リスニング試験の形式やレベルの問題にも取り組み、同級合格レベルに到達できる。
授業方法と留意点	遠隔授業。課題を提出すること。テストを受けること。 1. 必修の中国語各科目で学んだ発音・語彙・文法を復習し、演習形式の授業によりこれらをしっかりと理解できるようにする。 2. さらにそれらを聞き取り理解できるようさまざまな訓練を行う。とくに1年次では発音の基礎と基本語彙の練習・運用に重点を置き、確実に聞き取れるように訓練する。学期中は事前および事後に合計60時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	中国語聞き取り能力が向上し、11月末には中国語検定試験4級の受験が可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第9課①	副詞「在」「再」、時間の量 読む練習	習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。
	2	第9課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	3	第10課①	介詞「在」「離」 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	4	第10課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	5	第11課①	助動詞「会」、比較表現 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	6	第11課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	7	第12課①	介詞「給」、「怎?」の使い方 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	8	第12課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	9	単元テスト 1 (第9課～第12課) 第13課①	第9課～第12課で学習した事項の確認。 助動詞「想」、「動詞+?」の使い方 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	10	第13課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	11	第14課①	買物するに関する表現 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	12	第14課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	13	第15課①	自己紹介に関する表現 読む練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	14	第15課②	文法、会話、聞く練習	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	15	単元テスト 2 (第13課～第15課) まとめ	第13課～第15課で学習した事項の確認。 まとめ	前回まで習った部分を覚えているかどうか1時間をかけて確認する。 授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
関連科目	必修中国語科目 (週4コマ) を必ず履修していること。			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ここから 中国語	依藤 醇 工藤真理子	白帝社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度と課題 40% テスト : 60%			
学生への メッセージ	選択科目なので、目的意識をしっかりとって授業に臨んでほしい。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 7 号館 2 階			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西，兪，小都）を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語を聞く II a	科目名 (英文)	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2065e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解するとともに、簡単な受け答えができるように訓練を行い、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで 6 割以上を正解することできるリスニング能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。教材は長文のディクテーションに加えて、一問一答、空欄補充、語順整序、日文中訳など検定試験形式の問題形式から成り、これらに「聞く」要素を結びつけながら授業を進める。また定期的に検定 3 級試験リスニング試験の過去問題に反転授業の形式で取り組む。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 回 (第 1 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	2	第 2 回 (第 1 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	3	中国語検定試験リスニング問題 (1)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	4	第 3 回 (第 2 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	5	第 4 回 (第 2 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	6	中国語検定試験リスニング問題 (2)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	7	第 5 回 (第 3 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	8	第 6 回 (第 3 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	9	中国語検定試験リスニング問題 (3)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	10	第 7 回 (第 4 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	11	第 8 回 (第 4 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	12	中国語検定試験リスニング問題 (4)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	13	第 11 回 (第 6 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	14	第 12 回 (第 6 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	15	中国語検定試験リスニング問題 (5)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。

関連科目	「中国語を読む IIa」「中国語を書く IIa」「中国語を話す IIa」 「メディア中国語 Ia」「観光中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト：30% 単元テスト：70%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。授業時間外に質問がある場合は、担当教員の授業曜日に研究室で問
----	---

	い合わせる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
--	---

科目名	中国語を聞く II a	科目名 (英文)	Chinese Listening II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藥 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2065e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解するとともに、簡単な受け答えができるように訓練を行い、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 6 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで 6 割以上を正解するリスニング能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。教材は長文のディクテーションに加えて、一問一答、空欄補充、語順整序、日文中訳など検定試験形式の問題形式から成り、これらに「聞く」要素を結びつけながら授業を進める。また定期的に検定 3 級試験リスニング試験の過去問題に反転授業の形式で取り組む。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 回 (第 1 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	2	第 2 回 (第 1 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	3	中国語検定試験リスニング問題 (1)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	4	第 3 回 (第 2 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	5	第 4 回 (第 2 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	6	中国語検定試験リスニング問題 (2)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	7	第 5 回 (第 3 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	8	第 6 回 (第 3 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	9	中国語検定試験リスニング問題 (3)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	10	第 7 回 (第 4 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	11	第 8 回 (第 4 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	12	中国語検定試験リスニング問題 (4)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	13	第 11 回 (第 6 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	14	第 12 回 (第 6 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	15	中国語検定試験リスニング問題 (5)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。

関連科目	「中国語を読む IIa」「中国語を書く IIa」「中国語を話す IIa」 「メディア中国語 Ia」「観光中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。授業時間外に質問がある場合は、担当教員の授業曜日に研究室で問
----	---

	い合わせる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
--	---

科目名	中国語を聞く II b	科目名 (英文)	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藥 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2066e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解するとともに、簡単な受け答えができるように訓練を行い、中国語検定試験 3 級または 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで 7 割以上を正解するリスニング能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。教材は長文のディクテーションに加えて、一問一答、空欄補充、語順整序、日文中訳など検定試験形式の問題形式から成り、これらに「聞く」要素を結びつけながら授業を進める。また定期的に検定 3 級試験リスニング試験の過去問題に反転授業の形式で取り組む。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級または 2 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 回 (第 7 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	2	第 2 回 (第 7 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	3	中国語検定試験リスニング問題 (6)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	4	第 3 回 (第 8 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	5	第 4 回 (第 8 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	6	中国語検定試験リスニング問題 (7)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	7	第 5 回 (第 9 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	8	第 6 回 (第 9 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。 本日 (11/08 (月)) から対面授業に切り替える。
	9	中国語検定試験リスニング問題 (8)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	10	第 7 回 (第 11 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	11	第 8 回 (第 11 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	12	中国語検定試験リスニング問題 (9)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	13	第 11 回 (第 12 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	14	第 12 回 (第 12 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	15	中国語検定試験リスニング問題 (10)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。

関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を書く IIb」「中国語を話す IIb」 「メディア中国語 b」「観光中国語 b」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。 11 月 4 日 (木) からの対面授業再開体制の実施に伴って、本授業の第 8 回目 (11/08 (月)) から対面授業に切り替える。
担当者の	非常勤講師室 (7 号館 2 階)

研究室等	
備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。授業時間外に質問がある場合は、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせること。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を聞く II b	科目名 (英文)	Chinese Listening II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2066e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して聞く力を発展させる。中国語を聞いて正確に内容を理解するとともに、簡単な受け答えができるように訓練を行い、中国語検定試験 3 級または 2 級の合格を目指す。
到達目標	検定試験が行われる 11 月末をめどに、中国語検定試験 3 級に出題される文法・語彙を修得し、この検定試験のリスニングで 7 割以上を正解するリスニング能力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。教材は長文のディクテーションに加えて、一問一答、空欄補充、語順整序、日文中訳など検定試験形式の問題形式から成り、これらに「聞く」要素を結びつけながら授業を進める。また定期的に検定 3 級試験リスニング試験の過去問題に反転授業の形式で取り組む。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級または 2 級を受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 1 回 (第 7 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	2	第 2 回 (第 7 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	3	中国語検定試験リスニング問題 (6)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	4	第 3 回 (第 8 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	5	第 4 回 (第 8 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	6	中国語検定試験リスニング問題 (7)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	7	第 5 回 (第 9 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	8	第 6 回 (第 9 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	9	中国語検定試験リスニング問題 (8)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	10	第 7 回 (第 11 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	11	第 8 回 (第 11 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	12	中国語検定試験リスニング問題 (9)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	13	第 11 回 (第 12 話 前半)	ディクテーション、空欄補充、語順整序、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	14	第 12 回 (第 12 話 後半)	ディクテーション、長文聴解、日文中訳、一問一答、声調、ピンイン綴り	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。
	15	中国語検定試験リスニング問題 (10)	家庭または授業の冒頭で Forms の検定リスニング問題を解き、そのあと学生ごとに分担してその解法について発表を行う。	事前と事後にそれぞれ 1 時間の家庭学習を行う。

関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を書く IIb」「中国語を話す IIb」 「メディア中国語 b」「観光中国語 b」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加度と小テスト : 30% 単元テスト : 70%
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	ディクテーションや授業後の復習は習慣化し、かかさず行ってください。
-----------	-----------------------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後に間違いの多かったところを復習する。授業時間外に質問がある場合は、担当教員の授業曜日に研究室で問
----	---

	い合わせる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
--	---

科目名	中国語を読むⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Reading II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2067e0		

授業概要・目的	1 年生の中国語科目で学習した内容を定着させるとともに、それを応用して読む力を発展させる。基本構文や語彙を習得するとともに、中国語を読んで正確に内容を理解できるように訓練し、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	中国語検定試験 3 級レベルの文法・語彙を習得して、これらを使いこなせるようにし、この検定試験の筆記で 6 割以上を正解することのできる読解力を身につけることができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行い、本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級レベルの中国語の読解力を習得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業方法のガイダンス、1 年生の文法の復習	1 年生の文法を復習する。
	2	第 1 課 過“洋節”	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	3	第 1 課 過“洋節”	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	4	第 2 課 直率	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	5	第 2 課 直率	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	6	第 3 課 軍訓	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	7	第 3 課 軍訓	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	8	まとめとテスト	文法・語彙の復習、第 1 回単元テスト	第 1～3 課の内容を復習し、単元テストにそなえる。
	9	第 4 課 餐厅	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	10	第 4 課 餐厅	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	11	第 5 課 媽媽和儿子	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	12	第 5 課 媽媽和儿子	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	13	第 6 課 陪床	本文の日本語訳と解説、朗読	事前に本文を日本語訳する。事後に本文を復習し、新出単語を覚える。
	14	第 6 課 陪床	重要表現の解説と練習問題	事前に例文を日本語訳し、練習問題を解いておく。事後に例文と練習を復習し、基本構文を覚える。
	15	まとめとテスト	文法・語彙の復習、第 2 回単元テスト	第 4～6 課の内容を復習し、単元テストにそなえる。

関連科目	「中国語を聞く IIa」「中国語を書く IIa」「中国語を話す IIa」「メディア中国語 a」「観光中国語 a」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生のための現代中国 12 話・4	黄漢青・杉野元子	白帝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み：60% 単元テスト：40%
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	本文、文法の例文、練習問題はすべて事前に予習してください。事前・事後に各 1 時間の学習を要します。
-----------	--

担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行う。
----	---

科目名	中国語を読むⅡ b	科目名 (英文)	Chinese Reading II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2068e0		

授業概要・目的	様々な場面で使える会話を学習し、読解力を身につけて、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。																																																																		
到達目標	中国語を読めるような人、またそれを生かせるような人になることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で授業を行い、本文の日本語訳に、文法・語彙表現の解説を加える。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級レベルの中国語の読解力を習得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>前期の復習</td><td>前期に学習した文法・語彙を復習する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 7 課 ビザ</td><td>解説 朗読 小テスト 5 点</td><td>本文の解説 朗読練習 朗読テスト</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 7 課 ビザ</td><td>練習問題 暗記テスト 5 点</td><td>練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 8 課 待遇</td><td>解説 朗読 小テスト 5 点</td><td>本文の解説 朗読練習 朗読テスト</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 8 課 待遇</td><td>練習問題 暗記テスト 5 点</td><td>練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 9 課 北京的天空</td><td>解説 朗読 小テスト 5 点</td><td>本文の解説 朗読練習 朗読テスト</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 9 課 北京的天空</td><td>練習問題 暗記テスト 5 点</td><td>練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト</td></tr> <tr> <td>8</td><td>まとめとテスト</td><td>第 1 回単元テスト</td><td>第 7～9 課の内容を復習し、単元テストにそなえる。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 10 課 男朋友</td><td>解説 朗読 小テスト 5 点</td><td>本文の解説 朗読練習 朗読テスト</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 10 課 男朋友</td><td>練習問題 暗記テスト 5 点</td><td>練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 11 課 没想到</td><td>解説 朗読 小テスト 5 点</td><td>本文の解説 朗読練習 朗読テスト</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 11 課 没想到</td><td>練習問題 暗記テスト 5 点</td><td>練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 12 課 貝多芬和样板戲</td><td>解説 朗読 小テスト 5 点</td><td>本文の解説 朗読練習 朗読テスト</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 12 課 貝多芬和样板戲</td><td>練習問題 暗記テスト 5 点</td><td>練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめとテスト</td><td>第 2 回単元テスト</td><td>第 10～12 課の内容を復習し、単元テストにそなえる。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	前期の復習	前期に学習した文法・語彙を復習する。	2	第 7 課 ビザ	解説 朗読 小テスト 5 点	本文の解説 朗読練習 朗読テスト	3	第 7 課 ビザ	練習問題 暗記テスト 5 点	練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト	4	第 8 課 待遇	解説 朗読 小テスト 5 点	本文の解説 朗読練習 朗読テスト	5	第 8 課 待遇	練習問題 暗記テスト 5 点	練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト	6	第 9 課 北京的天空	解説 朗読 小テスト 5 点	本文の解説 朗読練習 朗読テスト	7	第 9 課 北京的天空	練習問題 暗記テスト 5 点	練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト	8	まとめとテスト	第 1 回単元テスト	第 7～9 課の内容を復習し、単元テストにそなえる。	9	第 10 課 男朋友	解説 朗読 小テスト 5 点	本文の解説 朗読練習 朗読テスト	10	第 10 課 男朋友	練習問題 暗記テスト 5 点	練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト	11	第 11 課 没想到	解説 朗読 小テスト 5 点	本文の解説 朗読練習 朗読テスト	12	第 11 課 没想到	練習問題 暗記テスト 5 点	練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト	13	第 12 課 貝多芬和样板戲	解説 朗読 小テスト 5 点	本文の解説 朗読練習 朗読テスト	14	第 12 課 貝多芬和样板戲	練習問題 暗記テスト 5 点	練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト	15	まとめとテスト	第 2 回単元テスト	第 10～12 課の内容を復習し、単元テストにそなえる。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	前期の復習	前期に学習した文法・語彙を復習する。																																																																
2	第 7 課 ビザ	解説 朗読 小テスト 5 点	本文の解説 朗読練習 朗読テスト																																																																
3	第 7 課 ビザ	練習問題 暗記テスト 5 点	練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト																																																																
4	第 8 課 待遇	解説 朗読 小テスト 5 点	本文の解説 朗読練習 朗読テスト																																																																
5	第 8 課 待遇	練習問題 暗記テスト 5 点	練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト																																																																
6	第 9 課 北京的天空	解説 朗読 小テスト 5 点	本文の解説 朗読練習 朗読テスト																																																																
7	第 9 課 北京的天空	練習問題 暗記テスト 5 点	練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト																																																																
8	まとめとテスト	第 1 回単元テスト	第 7～9 課の内容を復習し、単元テストにそなえる。																																																																
9	第 10 課 男朋友	解説 朗読 小テスト 5 点	本文の解説 朗読練習 朗読テスト																																																																
10	第 10 課 男朋友	練習問題 暗記テスト 5 点	練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト																																																																
11	第 11 課 没想到	解説 朗読 小テスト 5 点	本文の解説 朗読練習 朗読テスト																																																																
12	第 11 課 没想到	練習問題 暗記テスト 5 点	練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト																																																																
13	第 12 課 貝多芬和样板戲	解説 朗読 小テスト 5 点	本文の解説 朗読練習 朗読テスト																																																																
14	第 12 課 貝多芬和样板戲	練習問題 暗記テスト 5 点	練習問題の答え合わせ 本文の暗記テスト																																																																
15	まとめとテスト	第 2 回単元テスト	第 10～12 課の内容を復習し、単元テストにそなえる。																																																																
関連科目	「中国語を聞く IIb」「中国語を書く IIb」「中国語を話す IIb」「メディア中国語 b」「観光中国語 b」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>大学生のための現代中国 12 話・4</td><td>黄漢青・杉野元子</td><td>白帝社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生のための現代中国 12 話・4	黄漢青・杉野元子	白帝社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生のための現代中国 12 話・4	黄漢青・杉野元子	白帝社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>中日辞典</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>日中辞典</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中日辞典			2	日中辞典			3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	中日辞典																																																																		
2	日中辞典																																																																		
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み：70% 単元テスト：30%																																																																		
学生へのメッセージ	練習問題などをしっかり取り組むことです。単元テストは返却時、あるいは実施後の授業等で間違いの多かったところを復習し、必ずフィードバックを行います。本文、文法の例文、練習問題はすべて事前に予習してください。事前・事後に各 1 時間の学習を要します。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	中国語を書くⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Writing II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2069e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した基礎を復習しながら、中級文法で、語順体系をもとに約35課300例文を習得する。中国語を書くⅡの勉強によって、中国語の学習効率を向上させ、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語で表現する時に、どの構文・文型・語彙を使えばよいのかを判断できるスキルを習得することができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。中国語をマスターするのに、発音、構文と語彙の力を同時にレベルアップすることが重要である。音読する練習も欠かせない。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	教科書のコンセプトの紹介	一、文の構造と語順 ①単文の語順習得ポイント ②複文の語順習得ポイント 二、日本語から中国語への変換するトレーニングについて 三、前期の目標	p6～p36を読んでおくこと。
	2	中級の基本文型を覚える①	(1)「述語+目的語」のバリエーション ・1～3 離合詞	p38～43の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp196を学習すること。
	3	中級の基本文型を覚える②	(2) 述語のバリエーション① ・4～5 様態補語 ・6～7 程度補語	p44～51の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp197を学習すること。
	4	中級の基本文型を覚える③	述語のバリエーション② ・8～9 可能補語 ・10 形容詞の重ね型	p52～57の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp198を学習すること。
	5	*復習と単元テスト1 中級の基本文型を覚える④	・単元テスト1 (3)「述語+目的語」のバリエーション 11 存在文 ・12 現象文 ・13「是・・・的」構文	第1回～4回までの例文を復習すること。 p58～63の録音を聞いて例文を覚えること。
	6	中級の基本文型を覚える⑤	(4) 動詞の修飾 ・14 受け身文 ・15～16「把」構文	p64～69の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp199を学習すること。
	7	中級の基本文型を覚える⑥	動詞の修飾 ・17～18「把」構文 ・19「～地」の連用修飾表現	p70～75の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp200を学習すること。
	8	補語のバリエーションを覚える①	(5) 述語のバリエーション① ・20～22 結果補語	p78～83の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp201を学習すること。
	9	補語のバリエーションを覚える②	述語のバリエーション② ・23～25 方向補語の派生用法	p84～89の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp202を学習すること。
	10	*復習と単元テスト2 補語のバリエーションを覚える③	・単元テスト2 述語のバリエーション③ ・26～27 方向補語の派生用法	第5回～9回までの例文を復習すること。 p90～93の録音を聞いて例文を覚えること。
	11	補語のバリエーションを覚える④	(6)「述語+目的語」のバリエーション① ・28～29 方向補語の派生用法	p94～97の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp203を学習すること。
	12	補語のバリエーションを覚える⑤	「述語+目的語」のバリエーション② ・30～31 方向補語の派生用法	p98～101の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp204を学習すること。
	13	補語のバリエーションを覚える⑥	「述語+目的語」のバリエーション③ ・32～33 方向補語の派生用法	p102～105の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp205を学習すること。
	14	補語のバリエーションを覚える⑦	「述語+目的語」のバリエーション④ ・34～35 方向補語の派生用法	p106～109の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp206を学習すること。
	15	*復習と単元テスト3	・単元テスト3 ・p207～p216 のフリーズトレーニングの学習	第10回～14回までの例文を復習すること。トレーニングのp207～p216を復習すること。

関連科目	「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を話すⅡa」
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂新版 口を鍛える中国語作文 中級編	平山邦彦	コスモビア
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂新版 口を鍛える中国語作文 初級編	平山邦彦	コスモビア
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題提出 50%、単元テスト 50%
学生へのメッセージ	学んだ文法事項と語彙を復習しつつ、さらなる確実な一歩を踏み出せるように努力しよう。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。
担当者の	7号館3階(兪研究室)

研究室等	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員にメールで問い合わせること。 試験や課題に対して次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を書くⅡb	科目名(英文)	Chinese Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー(DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2070e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した基礎を復習しながら、後期も、中級文法で、語順体系をもとに約40課300例文を習得する。中国語を書くⅡの勉強によって、中国語の学習効率を向上させ、中国語検定試験3級の合格を目指す。
到達目標	中国語で表現する時に、どの構文・文型・語彙を使えばよいのかを判断できるスキルを習得することができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。中国語をマスターするのに、発音、構文と語彙の力を同時にレベルアップすることが重要である。音読する練習も欠かせない。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験3級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	補語のバリエーションを覚える	・後期の目標 (7) 複文表現① ・36～38「就」の呼応表現	p112～117の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp217を学習すること。
	2	副詞を用いた文を覚える①	(7) 複文表現② ・39「就」の呼応表現 ・40「也」の呼応表現 ・41「都」「也」の呼応表現	p118～123の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp218を学習すること。
	3	副詞を用いた文を覚える②	複文表現③ ・42～44「都」「也」の呼応表現	p124～129の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp219を学習すること。
	4	副詞を用いた文を覚える③	複文表現④ ・45「都」「也」の呼応表現 ・46「才」の呼応表現 ・47「就」の表現	p130～135の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp220を学習すること。
	5	*復習と単元テスト1 副詞を用いた文を覚える⑤	・単元テスト1 複文表現⑤ ・48「也」の表現 ・49「就」と「才」の表現	第1回～4回までの例文を復習すること。 p136～139の録音を聞いて例文を覚えること。
	6	中国語特有の慣用表現①	(8) 慣用表現① ・50～52「除了・・・」「先・・・再・・・」「一边・・・」	p142～147の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp221を学習すること。
	7	中国語特有の慣用表現②	慣用表現② ・53～55「或者・・・」「一会・・・」「不然・・・」	p148～153の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp222を学習すること。
	8	中国語特有の慣用表現③	慣用表現③ ・56～58「有・・・」「与其・・・」「越・・・」	p154～159の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp223を学習すること。
	9	中国語特有の慣用表現④	慣用表現④ ・59～61「只能・・・」「不但・・・」「雖然・・・」	p160～165の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp224を学習すること。
	10	*復習と単元テスト2 中国語特有の慣用表現⑤	・単元テスト2 慣用表現⑤ ・62～64「不是・・・」「又・・・」「因為・・・」	第5回～9回までの例文を復習すること。 p166～171の録音を聞いて例文を覚えること。
	11	中国語特有の慣用表現⑥	慣用表現⑥ ・65～67「対・・・來說・・・」「・・・是・・・, 但・・・」「好像・・・」	p172～177の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp225を学習すること。
	12	中国語特有の慣用表現⑦	慣用表現⑦ ・68～70「有点・・・」「非・・・不可」「非得・・・」	p178～183の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp226を学習すること。
	13	中国語特有の慣用表現⑧	慣用表現⑧ ・71～73「難怪・・・」「一則・・・」「難道・・・」	p184～189の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp227を学習すること。
	14	中国語特有の慣用表現⑨	慣用表現⑨ ・74～75「要・・・」「寧可・・・也・・・」	p190～193の録音を聞いて例文を覚えること。トレーニングのp228を学習すること。
	15	*復習と単元テスト3	・単元テスト3 ・p229～p233のフレーズトレーニングの学習	第10回～14回までの例文を復習すること。トレーニングのp229～p233を復習すること。

関連科目	「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を話すⅡa」
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂新版 口を鍛える中国語作文 中級編	平山邦彦	コスモビア
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂新版 口を鍛える中国語作文 上級編	平山邦彦	コスモビア
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト50%、単元テスト50%
学生への	学んだ文法事項と語彙を復習しつつ、さらなる確実な一歩を踏み出せるように努力しよう。

メッセージ	事前・事後に各 60 分の学習を要する。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 (兪研究室)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に研究室で問い合わせる事。 試験や課題に対して次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語を話すⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2071e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができ、中国語検定試験 3 級の合格を目指すレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。 毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 はじめての授業①	・前置詞「從」 ・文型「...是...的」 ・表現「看上去」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p9?p10) を解答してくる。第 1 課の会話 (前半) を覚えること。
	2	はじめての授業②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p11 - p13) を解答してくる。第 1 課の会話 (後半) を覚えること。
	3	第二課 銀行での換金①	・「把」を用いる構文 ・表現「先」 ・前置詞「給」 ・「一下」の意味と用法 ・会話文を読む練習	練習問題 (p17?p18) を解答してくる。第 2 課の会話 (前半) を覚えること。
	4	銀行での換金②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p19 - p21) を解答してくる。第 2 課の会話 (後半) を覚えること。
	5	復習課	・第 1 ～ 2 課の復習 ・単元テスト 1	第 1 ～ 2 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	6	第三課 道を尋ねる①	・文型「如果...的話」 ・文型「一...就...」 ・助動詞「應該」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p25?p26) を解答してくる。第 3 課の会話 (前半) を覚えること。
	7	道を尋ねる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p27 - p29) を解答してくる。第 3 課の会話 (後半) を覚えること。
	8	第四課 美容院でカットする①	・文型「越來越...」 ・助動詞「可以」 ・動詞「覺得」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p33?p34) を解答してくる。第 4 課の会話 (前半) を覚えること。
	9	美容院でカットする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p35 - p37) を解答してくる。第 4 課の会話 (後半) を覚えること。
	10	復習課	・第 3 ～ 4 課の復習 ・単元テスト 2	第 3 ～ 4 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	11	第五課 万里長城で記念写真を撮る①	・表現「聽說」 ・表現「為了」 ・表現「而」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p41?p42) を解答してくる。第 5 課の会話 (前半) を覚えること。
	12	万里長城で記念写真を撮る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p43 - p45) を解答してくる。第 5 課の会話 (後半) を覚えること。
	13	第六課 病院へ行く①	・表現「好像」 ・助動詞「会」 ・動詞「告訴」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p49?p50) を解答してくる。第 6 課の会話 (前半) を覚えること。
	14	病院へ行く②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p51 - p53) を解答してくる。第 6 課の会話 (後半) を覚えること。
	15	復習課	・第 5 ～ 6 課の復習 ・単元テスト 3	第 5 ～ 6 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。

関連科目	「中国語を読むⅡa」「中国語を聞くⅡa」「中国語を書くⅡa」「メディア中国語 a」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷葵	駿河台出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中・中日辞典		
	2			

	3			
評価方法 (基準)	出席・課題：50% テスト：50%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語を話すⅡ a	科目名 (英文)	Chinese Speaking II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2071e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができ、中国語検定試験 3 級の合格を目指すレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	遠隔授業 毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 はじめての授業①	・前置詞「從」 ・文型「…是…的」 ・表現「看上去」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p9?p10) を解答してくる。第 1 課の会話 (前半) を覚えること。
	2	はじめての授業②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p11 - p13) を解答してくる。第 1 課の会話 (後半) を覚えること。
	3	第二課 銀行での換金①	・「把」を用いる構文 ・表現「先」 ・前置詞「給」 ・「一下」の意味と用法 ・会話文を読む練習	練習問題 (p17?p18) を解答してくる。第 2 課の会話 (前半) を覚えること。
	4	銀行での換金②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p19 - p21) を解答してくる。第 2 課の会話 (後半) を覚えること。
	5	復習課	・第 1 ～ 2 課の復習 ・単元テスト 1	第 1 ～ 2 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	6	第三課 道を尋ねる①	・文型「如果…」 ・文型「一…就…」 ・助動詞「應該」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p25?p26) を解答してくる。第 3 課の会話 (前半) を覚えること。
	7	道を尋ねる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p27 - p29) を解答してくる。第 3 課の会話 (後半) を覚えること。
	8	第四課 美容院でカットする①	・文型「越來越…」 ・助動詞「可以」 ・動詞「覺得」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p33?p34) を解答してくる。第 4 課の会話 (前半) を覚えること。
	9	美容院でカットする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p35 - p37) を解答してくる。第 4 課の会話 (後半) を覚えること。
	10	復習課	・第 3 ～ 4 課の復習 ・単元テスト 2	第 3 ～ 4 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	11	第五課 万里長城で記念写真を撮る①	・表現「聽說」 ・表現「為了」 ・表現「而」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p41?p42) を解答してくる。第 5 課の会話 (前半) を覚えること。
	12	万里長城で記念写真を撮る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p43 - p45) を解答してくる。第 5 課の会話 (後半) を覚えること。
	13	第六課 病院へ行く①	・表現「好像」 ・助動詞「会」 ・動詞「告訴」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p49?p50) を解答してくる。第 6 課の会話 (前半) を覚えること。
	14	病院へ行く②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p51 - p53) を解答してくる。第 6 課の会話 (後半) を覚えること。
	15	復習	・第 5 ～ 6 課の復習 ・単元テスト 3	第 5 ～ 6 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷葵	駿河台出版社
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	出席・課題：50% テスト：50%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。			

科目名	中国語を話すⅡ b	科目名 (英文)	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2072e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができ、中国語検定試験 3 級の合格を目指すレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	遠隔授業。(CALL 3 教室) 読む、書く、文法応用練習などで、文法を習得する。 「中国語を話すⅡ b」L クラスの担当者は段飛虹先生。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第七課 自由市場で果物を買う①	・文型「又・・・又・・・」 ・表現「・・・点」 ・助動詞「能」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p57?p58) を解答してくること。第 7 課の会話 (前半) を覚えること。
	2	自由市場で果物を買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p59?p61) を解答してくること。第 7 課の会話 (後半) を覚えること。
	3	第八課 先生のお宅を訪問する①	・禁止表現「別」 ・文型「没什?好・・・的」 ・文型「・・・多少・・・多少」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p65?p66) を解答してくること。第 8 課の会話 (前半) を覚えること。
	4	先生のお宅を訪問する②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p67?p69) を解答してくること。第 8 課の会話 (後半) を覚えること。
	5	復習課	・第 7～8 課の復習	第 7～8 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	6	第九課 中国人と友達になる①	・文型「一点也・・・」 ・文型「一辺・・・一辺・・・」 ・文型「A 跟 (和) B 一樣・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p73?p74) を解答してくること。第 9 課の話 (前半) を覚えること。
	7	中国人と友達になる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p75?p77) を解答してくること。第 9 の会話 (後半) を覚えること。
	8	第十課 専門店でチャイナドレスを買う①	・終助詞「?」 ・結果補語「・・・好」 ・方向補語「・・・出来」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p81?p82) を解答してくること。第 10 課の会話 (前半) を覚えること。
	9	専門店でチャイナドレスを買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p83?p85) を解答してくること。第 10 課の会話 (後半) を覚えること。
	10	復習課	・第 9～10 課の復習	第 9～10 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	11	第十一課 送別会で挨拶をする①	・表現「・・・地」 ・表現「作為・・・」 ・使役表現「使」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p89?p90) を解答してくること。第 11 課の会話 (前半) を覚えること。
	12	送別会で挨拶をする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p9?- p93) を解答してくること。第 11 課の会話 (後半) を覚えること。
	13	第十二課 空港で見送る①	・文末助詞「??」 ・副詞「還」 ・文型「不光・・・還・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p97?p98) を解答してくること。第 12 課の会話 (前半) を覚えること。
	14	空港で見送る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p99?p101) を解答してくること。第 12 課の会話 (後半) を覚えること。
	15	復習課	・第 11～12 課の復習	第 11～12 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。

関連科目	「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」「メディア中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷葵	駿河台出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中・中日辞典		
	2			

	3			
評価方法 (基準)	課題提出：50% テスト：50%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。			

科目名	中国語を話すⅡ b	科目名 (英文)	Chinese Speaking II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2072e0		

授業概要・目的	一年生の中国語科目で学習した内容を復習しつつ、日頃の会話でよく見られるワンランク上の表現を習得する。話す訓練を中心に、他の読む・聴く・書くという総合的な学習をバランスよく行う。中国語を話すⅡの勉強によって、中国語を話す楽しさ、授業を受けた達成感を味わいながら、中国語検定試験 3 級の合格を目指す。
到達目標	中国語を使って日常会話ができ、中国語検定試験 3 級の合格を目指すレベルに到達することができる。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行う。毎回出席し、課題を提出すること。テストを受けること。 読む、書く、暗唱するなどの練習で、フレーズを習得していく。 「中国語を話すⅡ b」Kクラスの担当者は段飛虹である。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 3 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第七課 自由市場で果物を買う①	・文型「又・・・又・・・」 ・表現「・・・点」 ・助動詞「能」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p57～p58) を解答してくる。第 7 課の会話 (前半) を覚えること。
	2	自由市場で果物を買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p59～p61) を解答してくる。第 7 課の会話 (後半) を覚えること。
	3	第八課 先生のお宅を訪問する①	・禁止表現「別」 ・文型「没什?好・・・的」 ・文型「・・・多少・・・多少」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p65～p66) を解答してくる。第 8 課の会話 (前半) を覚えること。
	4	先生のお宅を訪問する②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p67 - p69) を解答してくる。第 8 課の会話 (後半) を覚えること。
	5	復習課	・第 7～8 課の復習	第 7～8 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	6	第九課 中国人と友達になる①	・文型「一点也・・・」 ・文型「一边・・・一边・・・」 ・文型「A 跟 (和) B 一樣・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p73～p74) を解答してくる。第 9 課の会話 (前半) を覚えること。
	7	中国人と友達になる②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p75 - p77) を解答してくる。第 9 の会話 (後半) を覚えること。
	8	第十課 専門店でチャイナドレスを買う①	・終助詞「?」 ・結果補語「・・・好」 ・方向補語「・・・出来」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p81～p82) を解答してくる。第 10 課の会話 (前半) を覚えること。
	9	専門店でチャイナドレスを買う②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p83 - p85) を解答してくる。第 10 課の会話 (後半) を覚えること。
	10	復習課	・第 9～10 課の復習	第 9～10 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。
	11	第十一課 送別会で挨拶をする①	・表現「・・・地」 ・表現「作為・・・」 ・使役表現「使」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p89～p90) を解答してくる。第 11 課の会話 (前半) を覚えること。
	12	送別会で挨拶をする②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p91 - p93) を解答してくる。第 11 課の会話 (後半) を覚えること。
	13	第十二課 空港で見送る①	・文末助詞「?」 ・副詞「還」 ・文型「不光・・・還・・・」 ・会話文を読む練習	練習問題 (p97～p98) を解答してくる。第 12 課の会話 (前半) を覚えること。
	14	空港で見送る②	・練習問題 ・会話を覚える ・応用会話	練習問題 (p99 - p101) を解答してくる。第 12 課の会話 (後半) を覚えること。
	15	復習課	・第 11～12 課の復習	第 11～12 課の復習をすること。 CD を聞いて書き取りをすること。

関連科目	「中国語を読むⅡb」「中国語を聞くⅡb」「中国語を書くⅡb」「メディア中国語 b」
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	体験的に学ぶ中国語	山田留里子、賀南、劉萍、角屋敷 葵	駿河台出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中・中日辞典		
	2			

	3			
評価方法 (基準)	課題：50%、テスト：50%			
学生への メッセージ	中国語の学習は就職活動にプラスとなり、仕事に役立つことが多くなってきている。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7 号館 2 階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（小都，中西，兪）を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。			

科目名	メディア中国語 a	科目名 (英文)	Media Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2073e0		

授業概要・目的	様々なトピックを通じ、現代中国の現況を理解することに努めます。
到達目標	中国語を読み、聞き、書くことで総合力を養成することができる。検定 3 級レベルから 2 級レベルに焦点を合わせた授業によりこれらの級を取得することができる。
授業方法と留意点	演習形式の授業である。既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。事前・事後に各 60 分の学修を要する。 対面授業 状況によりオンラインによる双方向授業を実施。
科目学習の 効果 (資格)	中国語検定 3 級合格

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	入学 1	基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	2	入学 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	3	入学 まとめ 祝日手当 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	4	祝日手当 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	5	祝日手当 まとめ お母さん 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	6	お母さん 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	7	まとめ 先払い 1	単元テスト 第 1～6 回 まとめ 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	8	先払い 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	9	先払い まとめ 贈り物 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	10	贈り物 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	11	贈り物 まとめ 地方出身者 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	12	地方出身者 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	13	地方出身者 まとめ 三種の神器 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	14	三種の神器 2	会話練習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
	15	まとめ	単元テスト 第 7～14 回まとめ	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分

関連科目	「中国語を読む IIa」「中国語を聞く IIa」「中国語を話す IIa」「中国語を書く IIa」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生のための現代中国 12 話 III	杉野元子・黄漢青	白帝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	チェックテスト、単元テストおよび授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 (教科書を購入しない者には単位が認定できない) 授業への参加度とチェックテスト: 40% 単元テスト: 60%
学生への メッセージ	語学の習得には地道な努力が必要です。最後まであきらめず、頑張りぬきましょう。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	メディア中国語 b	科目名 (英文)	Media Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2074e0		

授業概要・目的	前期と同じく、様々なトピックを通じ、中国の現況に迫ります。																																																																		
到達目標	中国語の総合力を養うことで、検定 3 級から 2 級合格する力をつけることができる。																																																																		
授業方法と留意点	演習形式の授業である。既習事項を確認しながら授業をすすめる。辞書も必須である。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語検定 3 級～2 級合格																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>宅配員 1</td><td>基礎知識の演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>2</td><td>宅配員 2</td><td>文章読解 ・ 基礎演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>3</td><td>宅配員 まとめ 結婚相手を探す 1</td><td>チェックテスト 基礎知識の復習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>4</td><td>結婚相手を探す 2</td><td>文章読解・基礎演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>5</td><td>結婚相手を探す 復習 会食 1</td><td>チェックテスト 基礎知識の復習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>6</td><td>会食 2</td><td>文章読解 基礎演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>7</td><td>復習 証人 1</td><td>単元テスト 第 1～6 回 復習 基礎知識の復習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>8</td><td>証人 2</td><td>文章読解 基礎演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>9</td><td>証人 復習 家を借りる 1</td><td>チェックテスト 基礎知識の復習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>10</td><td>家を借りる 2</td><td>文章読解 基礎演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>11</td><td>家を借りる 復習 新聞購読 1</td><td>チェックテスト 文章読解 基礎演習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>12</td><td>新聞購読 2</td><td>文章読解</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>13</td><td>新聞購読 復習 新聞購読 3</td><td>チェックテスト 文章読解</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>14</td><td>新聞購読 4</td><td>文章読解</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> <tr> <td>15</td><td>復習</td><td>単元テスト 第 7～14 回 復習</td><td>授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	宅配員 1	基礎知識の演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	2	宅配員 2	文章読解 ・ 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	3	宅配員 まとめ 結婚相手を探す 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	4	結婚相手を探す 2	文章読解・基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	5	結婚相手を探す 復習 会食 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	6	会食 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	7	復習 証人 1	単元テスト 第 1～6 回 復習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	8	証人 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	9	証人 復習 家を借りる 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	10	家を借りる 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	11	家を借りる 復習 新聞購読 1	チェックテスト 文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	12	新聞購読 2	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	13	新聞購読 復習 新聞購読 3	チェックテスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	14	新聞購読 4	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分	15	復習	単元テスト 第 7～14 回 復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	宅配員 1	基礎知識の演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
2	宅配員 2	文章読解 ・ 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
3	宅配員 まとめ 結婚相手を探す 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
4	結婚相手を探す 2	文章読解・基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
5	結婚相手を探す 復習 会食 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
6	会食 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
7	復習 証人 1	単元テスト 第 1～6 回 復習 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
8	証人 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
9	証人 復習 家を借りる 1	チェックテスト 基礎知識の復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
10	家を借りる 2	文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
11	家を借りる 復習 新聞購読 1	チェックテスト 文章読解 基礎演習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
12	新聞購読 2	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
13	新聞購読 復習 新聞購読 3	チェックテスト 文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
14	新聞購読 4	文章読解	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
15	復習	単元テスト 第 7～14 回 復習	授業で学んだ単語や構文は次の授業の時までに一覧に整理しておくこと。30 分																																																																
関連科目	「中国語を読む IIb」「中国語を聞く IIb」「中国語を話す IIb」「中国語を書く IIb」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>大学生のための現代中国 1 2 話 III</td><td>杉野元子・黄漢青</td><td>白帝社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生のための現代中国 1 2 話 III	杉野元子・黄漢青	白帝社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生のための現代中国 1 2 話 III	杉野元子・黄漢青	白帝社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	チェックテストおよび単元テスト、授業に取り組む姿勢をもとに評価する。 授業への参加度と会話発表、平常評価 : 40% 単元テスト : 60%																																																																		
学生へのメッセージ	教科書は前期購入したものを引き続き使用します。ご注意ください。 前期に引き続き、地道に着実にレベルアップしていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	講師控室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都, 中西, 兪) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		

科目名	観光中国語 a	科目名 (英文)	Tourism Chinese a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2075e0		

授業概要・目的	近年、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、自分の世界はもっと広がる。本講義は、中国一番の大都市上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを																																																																		
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付けることができる。																																																																		
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課</td><td>LOVE！上海 1 の復習課</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 1 課 虹橋空港にて</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 2 課 地下鉄に乗って</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 3 課 上海の交通は便利です</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 4 課 2 週間上海にいます</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 5 課 豫園でショッピング</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>復習 1、総合練習、小テスト</td><td>第 5 課までの内容を復習する</td><td>第 5 課までの内容を復習、次のの内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 6 課 道を尋ねる</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 7 課 オールドジャズバンド</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 8 課 ジャズバーで飲みながら</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 9 課 上海人の友達の家で</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 10 課 朝食後は何をする？</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 11 課 市場にて</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>復習 2、総合練習、小テスト</td><td>第 6 課から第 11 課までの内容を復習する</td><td>第 6 課から第 11 課までの内容を復習、発表の内容を準備する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>発表会</td><td>発表の内容をチェックする</td><td>発表の内容を暗唱する (2 時間)。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE！上海 1 の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	2	第 1 課 虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	3	第 2 課 地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	4	第 3 課 上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	5	第 4 課 2 週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	6	第 5 課 豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	7	復習 1、総合練習、小テスト	第 5 課までの内容を復習する	第 5 課までの内容を復習、次のの内容を予習する (2 時間)。	8	第 6 課 道を尋ねる	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	9	第 7 課 オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	10	第 8 課 ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	11	第 9 課 上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	12	第 10 課 朝食後は何をする？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	13	第 11 課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	14	復習 2、総合練習、小テスト	第 6 課から第 11 課までの内容を復習する	第 6 課から第 11 課までの内容を復習、発表の内容を準備する (2 時間)。	15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2 時間)。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、復習課	LOVE！上海 1 の復習課	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
2	第 1 課 虹橋空港にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
3	第 2 課 地下鉄に乗って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
4	第 3 課 上海の交通は便利です	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
5	第 4 課 2 週間上海にいます	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
6	第 5 課 豫園でショッピング	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
7	復習 1、総合練習、小テスト	第 5 課までの内容を復習する	第 5 課までの内容を復習、次のの内容を予習する (2 時間)。																																																																
8	第 6 課 道を尋ねる	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
9	第 7 課 オールドジャズバンド	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
10	第 8 課 ジャズバーで飲みながら	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
11	第 9 課 上海人の友達の家で	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
12	第 10 課 朝食後は何をする？	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
13	第 11 課 市場にて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
14	復習 2、総合練習、小テスト	第 6 課から第 11 課までの内容を復習する	第 6 課から第 11 課までの内容を復習、発表の内容を準備する (2 時間)。																																																																
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2 時間)。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>LOVE！上海 2 初級～中級編</td><td>楊凱榮・張麗群</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	LOVE！上海 2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	LOVE！上海 2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	テスト、課題、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：30% テスト：70%																																																																		
学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはず。4 月 23 日まで Teams コードを使って、授業のチームに加入しなかなければならない。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	事前・事後に各 60 分の学修を要する。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (中西、兪、小都) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		

科目名	観光中国語 b	科目名 (英文)	Tourism Chinese b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2076e0		

授業概要・目的	近年、中国人観光客の増加により、日本観光市場が新しい段階を迎えようとしている。東京だけではなく、関西でも中国人観光客が増え、空港や商店などで中国語を話す声があちこちから聞こえて来る。乗務員や空港スタッフ、旅行案内、ホテルや商店の店員など、いま日本は中国語の話せる人材を大いに必要としている。観光やビジネスで中国語が話せたら、自分の世界はもっと広がる。本講義は、中国一番の大都市―上海をスポットとして、空港、地下鉄に乗る、ショッピング、道を尋ねるなどでよく使われている最新の観光中国語会話を学んでいくことを																																																																		
到達目標	観光中国語の会話能力を身に付けることができる。																																																																		
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。授業時に、積極的にペア練習と発表を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国人の観光客を案内する能力を身に付ける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第 12 課 上海人も好きです</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 13 課 日本料理を食べてみたい</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 14 課 お寺に興味はありますか</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 15 課 日本料理を食べて</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>復習 3、小テスト</td><td>第 12 課から第 15 課までの内容を復習する</td><td>テストを準備、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 16 課 散歩から帰って</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 17 課 列車のチケット</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 18 課 周庄は遠いですか</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 19 課 帰国前のひととき</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>復習 4、小テスト</td><td>第 16 課から第 19 課までの内容を復習する</td><td>テストを準備、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 20 課 留学したいですか</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 21 課 何時に出発しますか</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 22 課 また来てください</td><td>単語、本文、文法、練習</td><td>授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>復習 5、小テスト、作文を書く</td><td>第 20 課から第 22 課までの内容を復習する</td><td>テストと発表の内容を準備する (2 時間)。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>発表会</td><td>発表の内容をチェックする</td><td>発表の内容を暗唱する (2 時間)。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第 12 課 上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	2	第 13 課 日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	3	第 14 課 お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	4	第 15 課 日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	5	復習 3、小テスト	第 12 課から第 15 課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する (2 時間)。	6	第 16 課 散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	7	第 17 課 列車のチケット	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	8	第 18 課 周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	9	第 19 課 帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	10	復習 4、小テスト	第 16 課から第 19 課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する (2 時間)。	11	第 20 課 留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	12	第 21 課 何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	13	第 22 課 また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。	14	復習 5、小テスト、作文を書く	第 20 課から第 22 課までの内容を復習する	テストと発表の内容を準備する (2 時間)。	15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2 時間)。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業内容、履修方法、評価方法の紹介、第 12 課 上海人も好きです	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
2	第 13 課 日本料理を食べてみたい	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
3	第 14 課 お寺に興味はありますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
4	第 15 課 日本料理を食べて	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
5	復習 3、小テスト	第 12 課から第 15 課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
6	第 16 課 散歩から帰って	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
7	第 17 課 列車のチケット	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
8	第 18 課 周庄は遠いですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
9	第 19 課 帰国前のひととき	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
10	復習 4、小テスト	第 16 課から第 19 課までの内容を復習する	テストを準備、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
11	第 20 課 留学したいですか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
12	第 21 課 何時に出発しますか	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
13	第 22 課 また来てください	単語、本文、文法、練習	授業内容を復習、次の内容を予習する (2 時間)。																																																																
14	復習 5、小テスト、作文を書く	第 20 課から第 22 課までの内容を復習する	テストと発表の内容を準備する (2 時間)。																																																																
15	発表会	発表の内容をチェックする	発表の内容を暗唱する (2 時間)。																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>LOVE! 上海 2 初級～中級編</td><td>楊凱榮・張麗群</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	LOVE! 上海 2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	LOVE! 上海 2 初級～中級編	楊凱榮・張麗群	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢((課題)などを総合して評価する。 授業への参加度と発表: 40% 単元テスト: 60%																																																																		
学生へのメッセージ	最近中国からの観光客が増えています、この授業で身に付ける観光中国語がいつかどこかで役に立つはずです。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (中西、兪、小都) を通じて問い合わせることできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		

科目名	貿易中国語 a	科目名 (英文)	Chinese for International Trade a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3077e0		

授業概要・目的	本授業はビジネス現場、実用性のある表現と中国の習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を習得する。																																																																		
到達目標	ビジネス中国語の文法への理解およびビジネス文書の読解力を養うことができる。 ビジネス中国語の用語、文法を学習するとともに、ビジネス中国語のコミュニケーション能力を高めることができる。 中国語検定 2 級に必要な語彙力、外国語でのコミュニケーション力を高めることができる。																																																																		
授業方法と留意点	各テーマを中心に、理解度を把握するとともに、タイムリーな内容を加えて講義形式で授業を進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 2 級や通訳案内士試験の受験。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業の進め方、成績の評価、第 1 課 オフィスを訪ねる</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 2 課 レストランに食事に行く</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 3 課 銀行にて</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 4 課 商談をする</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 5 課 宴会のセッティングをする</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 6 課 有給休暇をとる</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 7 課 フライトを待つ</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>復習、中間テスト</td><td>第 1 課から第 7 課までの内容を復習する</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 8 課 アフターサービス</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 9 課 コンテナ輸送</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 10 課 待遇</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 11 課 病院にて</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 12 課 国際入札</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 13 課 財務</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ、発表会</td><td>第 8 課から第 13 課までの内容を復習する、発表の内容をチェックする</td><td>発表の内容を準備する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業の進め方、成績の評価、第 1 課 オフィスを訪ねる	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	2	第 2 課 レストランに食事に行く	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	3	第 3 課 銀行にて	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	4	第 4 課 商談をする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	5	第 5 課 宴会のセッティングをする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	6	第 6 課 有給休暇をとる	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	7	第 7 課 フライトを待つ	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	8	復習、中間テスト	第 1 課から第 7 課までの内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する	9	第 8 課 アフターサービス	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	10	第 9 課 コンテナ輸送	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	11	第 10 課 待遇	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	12	第 11 課 病院にて	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	13	第 12 課 国際入札	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	14	第 13 課 財務	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する	15	まとめ、発表会	第 8 課から第 13 課までの内容を復習する、発表の内容をチェックする	発表の内容を準備する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業の進め方、成績の評価、第 1 課 オフィスを訪ねる	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
2	第 2 課 レストランに食事に行く	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
3	第 3 課 銀行にて	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
4	第 4 課 商談をする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
5	第 5 課 宴会のセッティングをする	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
6	第 6 課 有給休暇をとる	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
7	第 7 課 フライトを待つ	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
8	復習、中間テスト	第 1 課から第 7 課までの内容を復習する	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
9	第 8 課 アフターサービス	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
10	第 9 課 コンテナ輸送	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
11	第 10 課 待遇	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
12	第 11 課 病院にて	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
13	第 12 課 国際入札	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
14	第 13 課 財務	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する																																																																
15	まとめ、発表会	第 8 課から第 13 課までの内容を復習する、発表の内容をチェックする	発表の内容を準備する																																																																
関連科目	3 年次の専門科目の中の各中国語科目 (必修と選択)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>やさしいビジネス中国語</td><td>三瀧正道・金子伸一</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしいビジネス中国語	三瀧正道・金子伸一	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	やさしいビジネス中国語	三瀧正道・金子伸一	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>DVD で学ぶライブビジネス中国語</td><td>LiveABC</td><td>東方書店</td></tr> <tr> <td>2</td><td>みんなの接客中国語</td><td>広瀬直子・顧蘭亭</td><td>アルク</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	DVD で学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店	2	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	DVD で学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店																																																																
2	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テストと課題：60%																																																																		
学生へのメッセージ	フレーズをたくさん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。 4 月 22 日まで Teams コードを使って、授業チームに加入しなければならない。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の昼休み時間に非常勤講師室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		

科目名	貿易中国語 b	科目名 (英文)	Chinese for International Trade b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3078e0		

授業概要・目的	本授業はビジネス現場、実用性のある表現と中国の習慣や文化を勉強し、将来ビジネス現場で役立つ知識を習得する。																																																																		
到達目標	ビジネス中国語の文法への理解およびビジネス文章の読解力を養うことができる。 ビジネス中国語の用語、文法を学習するとともに、ビジネス中国語のコミュニケーション能力を高めることができる。 中国語検定 2 級に必要な語彙力、コミュニケーション力を高めることができる。																																																																		
授業方法と留意点	各テーマを中心に、理解度を把握するとともに、タイムリーな内容を加えて講義形式で授業を進める。 単語やフレーズの習得を重視する。新しい言葉を辞書で調べておくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 2 級や通訳案内士試験の受験。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業の進め方、成績の評価 第 1 課 三大産業の区分</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 2 課 銀行サービスのご案内</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 3 課 不動産産業</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 4 課 会社概要</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 5 課 パソコンの新製品</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 6 課 取締役会の議事録</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 7 課 生産部門</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>復習、中間テスト 第 8 課 ソーシャルサイト</td><td>第 1 課から第 7 課までの内容を復習する、単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 9 課 物流業界</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 10 課 投資方法の紹介</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 11 課 経営管理の課題</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 12 課 環境/再生利用</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 13 課 労働契約の締結</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 14 課 アフターサービスの方針</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第 15 課 経理と財務まとめ</td><td>単語、作文練習、ペア会話練習 第 8 課から第 15 課までの内容を復習する</td><td>授業の内容を復習する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業の進め方、成績の評価 第 1 課 三大産業の区分	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	2	第 2 課 銀行サービスのご案内	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	3	第 3 課 不動産産業	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	4	第 4 課 会社概要	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	5	第 5 課 パソコンの新製品	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	6	第 6 課 取締役会の議事録	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	7	第 7 課 生産部門	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	8	復習、中間テスト 第 8 課 ソーシャルサイト	第 1 課から第 7 課までの内容を復習する、単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	9	第 9 課 物流業界	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	10	第 10 課 投資方法の紹介	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	11	第 11 課 経営管理の課題	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	12	第 12 課 環境/再生利用	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	13	第 13 課 労働契約の締結	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	14	第 14 課 アフターサービスの方針	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	15	第 15 課 経理と財務まとめ	単語、作文練習、ペア会話練習 第 8 課から第 15 課までの内容を復習する	授業の内容を復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業の進め方、成績の評価 第 1 課 三大産業の区分	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
2	第 2 課 銀行サービスのご案内	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
3	第 3 課 不動産産業	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
4	第 4 課 会社概要	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
5	第 5 課 パソコンの新製品	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
6	第 6 課 取締役会の議事録	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
7	第 7 課 生産部門	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
8	復習、中間テスト 第 8 課 ソーシャルサイト	第 1 課から第 7 課までの内容を復習する、単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
9	第 9 課 物流業界	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
10	第 10 課 投資方法の紹介	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
11	第 11 課 経営管理の課題	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
12	第 12 課 環境/再生利用	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
13	第 13 課 労働契約の締結	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
14	第 14 課 アフターサービスの方針	単語、作文練習、ペア会話練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
15	第 15 課 経理と財務まとめ	単語、作文練習、ペア会話練習 第 8 課から第 15 課までの内容を復習する	授業の内容を復習する。																																																																
関連科目	3 年次の専門科目の中の各中国語科目 (必修と選択)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>商経学部生のための読む中国語</td><td>大羽りん・趙青</td><td>白水社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	商経学部生のための読む中国語	大羽りん・趙青	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	商経学部生のための読む中国語	大羽りん・趙青	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>DVD で学ぶライブビジネス中国語</td><td>LiveABC</td><td>東方書店</td></tr> <tr> <td>2</td><td>みんなの接客中国語</td><td>広瀬直子・顧蘭亭</td><td>アルク</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	DVD で学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店	2	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	DVD で学ぶライブビジネス中国語	LiveABC	東方書店																																																																
2	みんなの接客中国語	広瀬直子・顧蘭亭	アルク																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト、発表、授業に取り組む姿勢などを総合して評価する。 授業への参加度と発表：40% テスト：60%																																																																		
学生へのメッセージ	フレーズをたくさん覚えてコミュニケーション力を伸ばしましょう。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の昼休み時間に非常勤講師室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		

科目名	中国語プレゼンテーション a	科目名 (英文)	Chinese Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3079d0		

授業概要・目的	日本と中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習である。教科書の学習を通して、日本文化・中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、資料作成力を高める。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。語彙力やテキストの内容理解を高め、話すトレーニングを行う。流暢に話せるのを目指す。話す速度が上がると、実力が付いてきて、楽しさも増す。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。課題提出後、添削指導を行う。繰り返し学習活動が特に求められる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ディズニーランドの人気の理由	1、今後授業計画。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	2	コンビニが増えるのは必ずしも健全ではない	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	3	犬を飼うとはどういうことか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	4	運動会の教訓	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	5	引越しとふるさと	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	6	何が「本当の善意」か	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。プレゼン会の準備をする。
	7	プレゼン会 1	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。 CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	8	パラダイム転換	1、今後授業計画。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	9	適切な経済状態	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	10	超二流をめざせ	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	11	他人を信じられますか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	12	正しく歩くには何が必要か	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	13	便利さを失いたくありませんか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	14	身近なハイテク	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	15	プレゼン会 2	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語筋トレ 100 読練習法	木本一彰	東方書店
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題提出 60%、プレゼン会 40%の割合で成績を評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組み姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 3 階 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	課題に対して添削指導、または次回授業で必ずフィードバックを行う。 読み上げ音声の課題提出を求めることがある。
----	---

科目名	中国語プレゼンテーション a	科目名 (英文)	Chinese Presentation a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3079d0		

授業概要・目的	日本と中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習である。教科書の学習を通して、日本文化・中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、資料作成力を高める。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。語彙力やテキストの内容理解を高め、話すトレーニングを行う。流暢に話せるのを目指す。話す速度が上がると、実力が付いてきて、楽しさも増す。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。課題提出後、添削指導を行う。繰り返し学習活動が特に求められる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ディズニーランドの人気の理由	1、今後授業計画。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	2	コンビニが増えるのは必ずしも健全ではない	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	3	犬を飼うとはどういうことか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	4	運動会の教訓	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	5	引越しとふるさと	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	6	何が「本当の善意」か	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。プレゼン会の準備をする。
	7	プレゼン会 1	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。 CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	8	パラダイム転換	1、今後授業計画。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	9	適切な経済状態	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	10	超二流をめざせ	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	11	他人を信じられますか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	12	正しく歩くには何が必要か	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	13	便利さを失いたくありませんか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	14	身近なハイテク	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	15	プレゼン会 2	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語筋トレ 100 読練習法	木本一彰	東方書店
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題提出 60%、プレゼン会 40%の割合で成績を評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組み姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	課題に対して添削指導、または次回授業で必ずフィードバックを行う。 読み上げ音声の課題提出を求めることがある。
----	---

科目名	中国語プレゼンテーション b	科目名 (英文)	Chinese Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	K
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3080d0		

授業概要・目的	日本と中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習である。教科書の学習を通して、日本文化・中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、資料作成力を高める。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でのスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。流暢に話せるのを旨とする。話す速度が上がると、実力が付いてきて、楽しさも増す。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。 繰り返し学習活動が特に求められる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	出世のゴール	1、今後授業計画。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	2	不使用の自由はないのか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	3	スポーツと経済の関係	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	4	友達の定義	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	5	変わらない理由	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	6	最後の仕事	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。 プレゼン会の準備をする。
	7	プレゼン会 1	1、プレゼンテーション。2、筆記試験 1。	プレゼン会の準備をする。 CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	8	日本の技術力をどう利用するか	1、今後授業計画と課題選定。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	9	一杯やる付き合いの効能	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。 共同プレゼン会の準備をする。
	10	共同プレゼン会	1、共同プレゼンテーション。	共同プレゼン会の準備をする。 CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	11	若い友人の結婚	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	12	宝塚「ブスの 25 か条」	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	13	やる気をもって自ら困難を克服しよう	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	14	自己肯定	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。 プレゼン会の準備をする。
	15	プレゼン会 2	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語筋トレ 100 読練習法	木本一彰	東方書店
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題発表 60%、プレゼン会 40% の割合で成績を評価する。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組み姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)
----------	-------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に問い合わせること。
----	-----------------------------------

課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語プレゼンテーション b	科目名 (英文)	Chinese Presentation b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	L
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3080d0		

授業概要・目的	日本と中国に関する身近な話題を取り扱い、自分の意見を分かり易く説明したりする基本的な中国語力を身につけるための実技演習である。教科書の学習を通して、日本文化・中国文化の知識を深め、中級レベルの中国語文法・語彙力を身につけ、発表力、資料作成力を高める。
到達目標	自分の考えや伝えたいことを中国語で、明確に、分かり易く表現でき、人前でのスピーチ、プレゼンテーションができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。流暢に話せるのを旨とする。話す速度が上がると、実力が付いてきて、楽しさも増す。 与えられた課題にしっかり取り組むこと。 繰り返し学習活動が特に求められる。
科目学習の効果 (資格)	中国人とのコミュニケーションに必要な会話力をつけることが可能である。自らの表現能力を高めることも可能である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	出世のゴール	1、今後授業計画。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	2	不使用の自由はないのか	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	3	スポーツと経済の関係	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	4	友達の定義	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	5	変わらない理由	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	6	最後の仕事	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。 プレゼン会の準備をする。
	7	プレゼン会 1	1、プレゼンテーション。2、筆記試験 1。	プレゼン会の準備をする。 CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	8	日本の技術力をどう利用するか	1、今後授業計画と課題選定。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	9	一杯やる付き合いの効能	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。 共同プレゼン会の準備をする。
	10	共同プレゼン会	1、共同プレゼンテーション。	共同プレゼン会の準備をする。 CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	11	若い友人の結婚	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	12	宝塚「ブスの 25 か条」	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	13	やる気をもって自ら困難を克服しよう	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。与えられた課題に取り組む。
	14	自己肯定	1、課題発表。2、流暢にテキストを読むトレーニング。3、日本語を見て中国語で話す練習。	CD を聞いて練習する。 プレゼン会の準備をする。
	15	プレゼン会 2	1、プレゼンテーション。	プレゼン会の準備をする。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中国語筋トレ 100 読練習法	木本一彰	東方書店
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題発表 60%、プレゼン会 40% の割合で成績を評価する。
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	中国語で自分の考えを表現できるようになることを最大の目的とするので、毎回の授業への出席、その授業への取り組み姿勢を重要視する。事前・事後に各 60 分の学修を要する。
-----------	---

担当者の研究室等	兪研究室 (7 号館 3 階)
----------	-----------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に問い合わせること。
----	-----------------------------------

課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	中国語コミュニケーション a	科目名 (英文)	Chinese Communication a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3081d0		

授業概要・目的	この授業は生の中国語を体感することにより、中国語表現能力を身に付けることが目的である。過去習った中国語の基礎をかためながら、音読、聴き取り、繰り返しなどの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力、ことに発信型の中国語能力の強化を目指す。
到達目標	中国語で日常的コミュニケーションができるようになる。
授業方法と留意点	遠隔授業 毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果 (資格)	基礎会話力を更に一步向上させることで、コミュニケーション能力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	2	第一課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	3	第二課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、 文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	4	第二課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	5	文法復習 会話発表 *単元テスト①	第 1 課から第 2 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	6	第三課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	7	第三課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	8	第四課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	9	第四課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	10	文法復習 会話発表 *単元テスト②	第 3 課から第 4 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。
	11	第五課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	12	第五課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	13	第六課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	14	第六課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。
	15	おさらい *単元テスト③	第 5 課から第 6 課までの内容を復習する。 会話発表	発表内容を暗唱すること。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	温故知新！中国語	虞 萍	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席・課題：50% テスト：50%
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	目標を持って、積極的に授業に参加してもらいたい。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都、中西、倉) を通じて問い合わせることでもある。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語コミュニケーション b	科目名 (英文)	Chinese Communication b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3082d0		

授業概要・目的	この授業は生の中国語を体感することにより、中国語表現能力を身に付けることが目的である。過去習った中国語の基礎をかためながら、音読、聴き取り、繰り返しなどの口頭練習を重ね、やや高度なコミュニケーションの手段としての中国語能力、ことに発信型の中国語能力の強化を目指す。																																																																		
到達目標	中国語で日常的コミュニケーションができるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	遠隔授業。毎回出席し、課題を提出すること。テストを受けること。 授業には積極的な態度で臨むこと。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	基礎会話力を更に一步向上させることで、コミュニケーション能力を養う。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第七課 (1)</td><td>本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。</td><td>練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第七課 (2)</td><td>文法、聞く、会話練習。</td><td>練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第八課 (1)</td><td>本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、 文法練習。</td><td>練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第八課 (2)</td><td>文法、聞く、会話練習。</td><td>練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>文法復習 会話発表 *単元テスト①</td><td>第 7 課から第 8 課までの内容を復習する。 会話発表</td><td>授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第九課 (1)</td><td>本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。</td><td>練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第九課 (2)</td><td>文法、聞く、会話練習。</td><td>練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第十課 (1)</td><td>本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。</td><td>練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第十課 (2)</td><td>文法、聞く、会話練習。</td><td>練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>文法復習 会話発表 *単元テスト②</td><td>第 9 課から第 10 課までの内容を復習する。 会話発表</td><td>授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第十一課 (1)</td><td>本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。</td><td>練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第十一課 (2)</td><td>文法、聞く、会話練習。</td><td>練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第十二課 (1)</td><td>本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。</td><td>練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第十二課 (2)</td><td>文法、聞く、会話練習。</td><td>練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>おさらい *単元テスト③</td><td>第 11 課から第 12 課までの内容を復習する。 会話発表</td><td>発表内容を暗唱すること。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第七課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。	2	第七課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。	3	第八課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、 文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。	4	第八課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。	5	文法復習 会話発表 *単元テスト①	第 7 課から第 8 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。	6	第九課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。	7	第九課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。	8	第十課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。	9	第十課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。	10	文法復習 会話発表 *単元テスト②	第 9 課から第 10 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。	11	第十一課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。	12	第十一課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。	13	第十二課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。	14	第十二課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。	15	おさらい *単元テスト③	第 11 課から第 12 課までの内容を復習する。 会話発表	発表内容を暗唱すること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第七課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。																																																																
2	第七課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。																																																																
3	第八課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明、 文法練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。																																																																
4	第八課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。																																																																
5	文法復習 会話発表 *単元テスト①	第 7 課から第 8 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。																																																																
6	第九課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。																																																																
7	第九課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。																																																																
8	第十課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。																																																																
9	第十課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。																																																																
10	文法復習 会話発表 *単元テスト②	第 9 課から第 10 課までの内容を復習する。 会話発表	授業内容の予習復習をすること。																																																																
11	第十一課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。																																																																
12	第十一課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。																																																																
13	第十二課 (1)	本文の発音、翻訳、文法・文型の説明。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。																																																																
14	第十二課 (2)	文法、聞く、会話練習。	練習問題を解答してくる。 授業内容の予習復習をすること。																																																																
15	おさらい *単元テスト③	第 11 課から第 12 課までの内容を復習する。 会話発表	発表内容を暗唱すること。																																																																
関連科目	特になし。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>温故知新！中国語</td><td>虞 萍</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	温故知新！中国語	虞 萍	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	温故知新！中国語	虞 萍	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題・会話 40% テスト：60%																																																																		
学生へのメッセージ	目標を持って、積極的に授業に参加してもらいたい。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (小都、中西、兪) を通じて問い合わせることもできる。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		

科目名	スペイン語入門A	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1083e0		

授業概要・目的	・「スペイン語入門A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。そのため必ず「入門A」「同B」「同C」を併せて受講すること。 ・アルファベットと発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。 ・初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。 ・6月頃にボキャブラリ・コンテストを実施する予定。
到達目標	・スペイン語の文法事項のうち、名詞の性・数を極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる。 ・動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。
授業方法と留意点	・Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。 ・「入門A」「入門B」「入門C」のすべてを併せて履修すること。教科書の各課ごとに、文法解説をまとめた「学習ガイド」を配布するので、それに基づいて復習し、練習問題を通じて理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級に相当する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1 課 発音とアクセント	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置、数詞 0～10	教科書第 1 課を見直し、正しく発音できるようにする。『単語帳』 pp. 2-5 の語彙を覚える。(1 時間)
	2	2 課 名詞の性数	名詞の性数、冠詞の性数一致、基数詞 0～10	教科書 2 課を見直し、名詞を軸とする冠詞の性数一致を正しくできるようにする。『単語帳』 pp. 6-9 の語彙を覚える。(1 時間)
	3	3 課 動詞 ser の直説法現在活用	形容詞の性数一致、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、肯定文・否定文、疑問文	教科書 3 課を見直し、動詞 ser の活用を暗記する。形容詞の語尾を名詞の性数に一致させることを身につける。1 課～3 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
	4	1 課～3 課のテストと復習	発音、アクセント、性数一致、規則活用	テストの見直し、『単語帳』 pp. 10-14 の語彙を覚える。(1 時間)
	5	4 課 規則動詞の直説法現在と疑問詞	直説法現在の規則変化動詞、目的語と前置詞 a、前置詞 a, de+定冠詞 el、疑問語疑問文、接続詞	教科書 4 課を見直し、現在時制での動詞の意味と規則変化を復習する。および『単語帳』 pp. 15-18 の語彙を覚える。(1 時間)
	6	5 課 動詞 estar と haber (hay)	estar と hay の使い分け、疑問詞を用いる疑問文の作り方	教科書 5 課を見直し、estar と hay の使い方を復習する。『単語帳』 pp. 19-23 の語彙を覚える。(1 時間)
	7	5 課 ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の比較と修得、基数詞 11～100、序数詞、時刻・曜日・日付の表現	教科書 5 課を見直し、つなぎの動詞の不規則活用を暗記する。『単語帳』 pp. 23-27 の語彙を覚える。(1 時間)
	8	6 課 1 人称単数不規則動詞と指示詞、所有詞	1 人称単数不規則動詞の活用、指示詞、所有詞 (前置形)	教科書 6 課を見直し、動詞の意味と不規則活用を暗記する。4 課～6 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
	9	4 課～6 課のテストと復習	動詞 ser, estar, hay の用法、不規則動詞、指示詞、所有詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 28-33 の語彙を覚える。(1 時間)
	10	7 課 語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞	poder, querer, pedir 等、語幹母音変化動詞の活用、直接目的格と間接目的格の人称代名詞の用法、所有詞 (後置形)	教科書 7 課を見直し不規則動詞の意味と活用を覚え、目的格人称代名詞の用法を理解する。『単語帳』 pp. 34-39 の語彙を覚える。(1 時間)
	11	8 課 その他の不規則動詞、副詞	tener, venir, ir 等の不規則動詞の活用、副詞 (句)、理由・目的・結果を表す表現	教科書 8 課を見直し、不規則動詞の意味と活用を覚える。『単語帳』 pp. 40-44 の語彙を覚える。(1 時間)
	12	9 課 gustar 型動詞、前置詞	前置詞の意味と用法、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞の用法	教科書 9 課を見直し、gustar 型動詞の意味と用法を復習する。7～9 課を総復習し、テストに備える。(1 時間)
	13	7 課～9 課のテストと復習 ボキャブラリー・コンテスト実施	不規則変化動詞 (直説法現在のみの)、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 46-49 の語彙を覚える。(1 時間)
	14	総復習と難解な事項の質疑応答	ser, estar, hay の用法、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の復習	前期の文法項目の総復習と『単語帳』を用いて語彙力の再確認を行い、臨時試験に備える。(1 時間)
	15	臨時試験 臨時試験の解説	臨時試験の実施、返却、解説。学期を通じて理解度の確認と要点の復習	試験範囲 (教科書 pp. 7-43) までの総復習 (1 時間)

関連科目	スペイン語入門 B スペイン語入門 C スペイン語応用 I スペイン語オラル I
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	・スペイン語入門 A、B、C は総合的に評価するため、3 科目で同じ成績がつく。 ・課題 40%、臨時試験 (期末の試験と小テスト) 40%、単語テスト・ボキャブラリコンテスト 20%
-----------	---

学生への メッセージ	・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、怖れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。
担当者の 研究室等	
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 ・授業内で行うテストはすべて、返却後、解答を提示し解説を行う。15 週目（A, B, C の延べ 44 回目）に臨時試験を行い、最終回（45 回目）の授業時間内に解答を示し解説する。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語入門A	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1083e0		

授業概要・目的	・「スペイン語入門A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。そのため必ず「入門A」「同B」「同C」を併せて受講すること。 ・アルファベットと発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。 ・初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。 ・6月頃にボキャブラリ・コンテストを実施する予定。
到達目標	・スペイン語の文法事項のうち、名詞の性・数を極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる。 ・動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。
授業方法と留意点	・Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う。 ・「入門A」「入門B」「入門C」のすべてを併せて履修すること。教科書の各課ごとに、文法解説をまとめた「学習ガイド」を配布するので、それに基づいて復習し、練習問題を通じて理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級に相当する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1 課 発音とアクセント	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置、数詞 0～10	教科書第 1 課を見直し、正しく発音できるようにする。『単語帳』 pp. 2-5 の語彙を覚える。(1 時間)
	2	2 課 名詞の性数	名詞の性数、冠詞の性数一致、基数詞 0～10	教科書 2 課を見直し、名詞を軸とする冠詞の性数一致を正しくできるようにする。『単語帳』 pp. 6-9 の語彙を覚える。(1 時間)
	3	3 課 動詞 ser の直説法現在活用	形容詞の性数一致、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、肯定文・否定文、疑問文	教科書 3 課を見直し、動詞 ser の活用を暗記する。形容詞の語尾を名詞の性数に一致させることを身につける。1 課～3 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
	4	1 課～3 課のテストと復習	発音、アクセント、性数一致、規則活用	テストの見直し、『単語帳』 pp. 10-14 の語彙を覚える。(1 時間)
	5	4 課 規則動詞の直説法現在と疑問詞	直説法現在の規則変化動詞、目的語と前置詞 a、前置詞 a, de+定冠詞 el、疑問語疑問文、接続詞	教科書 4 課を見直し、現在時制での動詞の意味と規則変化を復習する。および『単語帳』 pp. 15-18 の語彙を覚える。(1 時間)
	6	5 課 動詞 estar と haber (hay)	estar と hay の使い分け、疑問詞を用いる疑問文の作り方	教科書 5 課を見直し、estar と hay の使い方を復習する。『単語帳』 pp. 19-23 の語彙を覚える。(1 時間)
	7	5 課 ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の比較と修得、基数詞 11～100、序数詞、時刻・曜日・日付の表現	教科書 5 課を見直し、つなぎの動詞の不規則活用を暗記する。『単語帳』 pp. 23-27 の語彙を覚える。(1 時間)
	8	6 課 1 人称単数不規則動詞と指示詞、所有詞	1 人称単数不規則動詞の活用、指示詞、所有詞 (前置形)	教科書 6 課を見直し、動詞の意味と不規則活用を暗記する。4 課～6 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
	9	4 課～6 課のテストと復習	動詞 ser, estar, hay の用法、不規則動詞、指示詞、所有詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 28-33 の語彙を覚える。(1 時間)
	10	7 課 語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞	poder, querer, pedir 等、語幹母音変化動詞の活用、直接目的格と間接目的格の人称代名詞の用法、所有詞 (後置形)	教科書 7 課を見直し不規則動詞の意味と活用を覚え、目的格人称代名詞の用法を理解する。『単語帳』 pp. 34-39 の語彙を覚える。(1 時間)
	11	8 課 その他の不規則動詞、副詞	tener, venir, ir 等の不規則動詞の活用、副詞 (句)、理由・目的・結果を表す表現	教科書 8 課を見直し、不規則動詞の意味と活用を覚える。『単語帳』 pp. 40-44 の語彙を覚える。(1 時間)
	12	9 課 gustar 型動詞、前置詞	前置詞の意味と用法、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞の用法	教科書 9 課を見直し、gustar 型動詞の意味と用法を復習する。7～9 課を総復習し、テストに備える。(1 時間)
	13	7 課～9 課のテストと復習 ボキャブラリー・コンテスト実施	不規則変化動詞 (直説法現在のみの)、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 46-49 の語彙を覚える。(1 時間)
	14	総復習と難解な事項の質疑応答	ser, estar, hay の用法、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の復習	前期の文法項目の総復習と『単語帳』を用いて語彙力の再確認を行い、臨時試験に備える。(1 時間)
	15	臨時試験 臨時試験の解説	臨時試験の実施、返却、解説。学期を通じて理解度の確認と要点の復習	試験範囲 (教科書 pp. 7-43) までの総復習 (1 時間)

関連科目	スペイン語入門 B スペイン語入門 C スペイン語応用 I スペイン語オラル I
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	・スペイン語入門 A、B、C は総合的に評価するため、3 科目で同じ成績がつく。 ・課題 40%、臨時試験 (期末の試験と小テスト) 40%、単語テスト・ボキャブラリ コンテスト 20%。
-----------	---

学生への メッセージ	・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、怖れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（3号館2階）
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行うテストはすべて、返却後、解答を提示し解説を行う。15週目（A, B, Cの延べ44回目）に臨時試験を行い、最終回（45回目）の授業時間内に解答を示し解説する。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語入門B	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1084e0		

授業概要・目的	・「スペイン語入門A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。そのため必ず「入門A」「同B」「同C」を併せて受講すること。 ・アルファベットと発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。 ・初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。 ・6月頃にボキャブラリ・コンテストを実施する予定。
到達目標	・スペイン語の文法事項のうち、名詞の性・数を極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる。 ・動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。
授業方法と留意点	・Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う。 ・「入門A」「入門B」「入門C」のすべてを併せて履修すること。教科書の各課ごとに、文法解説をまとめた「学習ガイド」を配布するので、それに基づいて復習し、練習問題を通じて理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級に相当する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1 課 発音とアクセント	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置、数詞 0～10	教科書第 1 課を見直し、正しく発音できるようにする。『単語帳』 pp. 2-5 の語彙を覚える。(1 時間)
	2	2 課 名詞の性数	名詞の性数、冠詞の性数一致、基数詞 0～10	教科書 2 課を見直し、名詞を軸とする冠詞の性数一致を正しくできるようにする。『単語帳』 pp. 6-9 の語彙を覚える。(1 時間)
	3	3 課 動詞 ser の直説法現在活用	形容詞の性数一致、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、肯定文・否定文、疑問文	教科書 3 課を見直し、動詞 ser の活用を暗記する。形容詞の語尾を名詞の性数に一致させることを身につける。1 課～3 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
	4	1 課～3 課のテストと復習	発音、アクセント、性数一致、規則活用	テストの見直し、『単語帳』 pp. 10-14 の語彙を覚える。(1 時間)
	5	4 課 規則動詞の直説法現在と疑問詞	直説法現在の規則変化動詞、目的語と前置詞 a、前置詞 a, de+定冠詞 el、疑問語疑問文、接続詞	教科書 4 課を見直し、現在時制での動詞の意味と規則変化を復習する。および『単語帳』 pp. 15-18 の語彙を覚える。(1 時間)
	6	5 課 動詞 estar と haber (hay)	estar と hay の使い分け、疑問詞を用いる疑問文の作り方	教科書 5 課を見直し、estar と hay の使い方を復習する。『単語帳』 pp. 19-23 の語彙を覚える。(1 時間)
	7	5 課 ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の比較と修得、基数詞 11～100、序数詞、時刻・曜日・日付の表現	教科書 5 課を見直し、つなぎの動詞の不規則活用を暗記する。『単語帳』 pp. 23-27 の語彙を覚える。(1 時間)
	8	6 課 1 人称単数不規則動詞と指示詞、所有詞	1 人称単数不規則動詞の活用、指示詞、所有詞 (前置形)	教科書 6 課を見直し、動詞の意味と不規則活用を暗記する。4 課～6 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
	9	4 課～6 課のテストと復習	動詞 ser, estar, hay の用法、不規則動詞、指示詞、所有詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 28-33 の語彙を覚える。(1 時間)
	10	7 課 語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞	poder, querer, pedir 等、語幹母音変化動詞の活用、直接目的格と間接目的格の人称代名詞の用法、所有詞 (後置形)	教科書 7 課を見直し不規則動詞の意味と活用を覚え、目的格人称代名詞の用法を理解する。『単語帳』 pp. 34-39 の語彙を覚える。(1 時間)
	11	8 課 その他の不規則動詞、副詞	tener, venir, ir 等の不規則動詞の活用、副詞 (句)、理由・目的・結果を表す表現	教科書 8 課を見直し、不規則動詞の意味と活用を覚える。『単語帳』 pp. 40-44 の語彙を覚える。(1 時間)
	12	9 課 gustar 型動詞、前置詞	前置詞の意味と用法、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞の用法	教科書 9 課を見直し、gustar 型動詞の意味と用法を復習する。7～9 課を総復習し、テストに備える。(1 時間)
	13	7 課～9 課のテストと復習 ボキャブラリー・コンテスト実施	不規則変化動詞 (直説法現在のみの)、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 46-49 の語彙を覚える。(1 時間)
	14	総復習と難解な事項の質疑応答	ser, estar, hay の用法、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の復習	前期の文法項目の総復習と『単語帳』を用いて語彙力の再確認を行い、臨時試験に備える。(1 時間)
	15	臨時試験 臨時試験の解説	臨時試験の実施、返却、解説。学期を通じて理解度の確認と要点の復習	試験範囲 (教科書 pp. 7-43) までの総復習 (1 時間)

関連科目	スペイン語入門 A スペイン語入門 C スペイン語応用 I スペイン語オラル I
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	・スペイン語入門 A、B、C は総合的に評価するため、3 科目で同じ成績がつく。 ・課題 4 0 %、臨時試験 (期末の試験と小テスト) 4 0 %、単語テスト・ボキャブラリコンテスト 2 0 %
-----------	---

学生への メッセージ	・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、怖れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。
担当者の 研究室等	1 1 号館 1 1 階 藤井研究室
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 ・授業内で行うテストはすべて、返却後、解答を提示し解説を行う。15 週目（A, B, C の延べ 44 回目）に臨時試験を行い、最終回（45 回目）の授業時間内に解答を示し解説する。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語入門B	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1084e0		

授業概要・目的	・「スペイン語入門A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。そのため必ず「入門A」「同B」「同C」を併せて受講すること。 ・アルファベットと発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。 ・初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。 ・6月頃にボキャブラリ・コンテストを実施する予定。
到達目標	・スペイン語の文法事項のうち、名詞の性・数を極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる。 ・動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。
授業方法と留意点	・Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う。 ・「入門A」「入門B」「入門C」のすべてを併せて履修すること。教科書の各課ごとに、文法解説をまとめた「学習ガイド」を配布するので、それに基づいて復習し、練習問題を通じて理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級に相当する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1 課 発音とアクセント	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置、数詞 0～10	教科書第 1 課を見直し、正しく発音できるようにする。『単語帳』 pp. 2-5 の語彙を覚える。(1 時間)
	2	2 課 名詞の性数	名詞の性数、冠詞の性数一致、基数詞 0～10	教科書 2 課を見直し、名詞を軸とする冠詞の性数一致を正しくできるようにする。『単語帳』 pp. 6-9 の語彙を覚える。(1 時間)
	3	3 課 動詞 ser の直説法現在活用	形容詞の性数一致、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、肯定文・否定文、疑問文	教科書 3 課を見直し、動詞 ser の活用を暗記する。形容詞の語尾を名詞の性数に一致させることを身につける。1 課～3 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
	4	1 課～3 課のテストと復習	発音、アクセント、性数一致、規則活用の動詞を用いる文の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 10-14 の語彙を覚える。(1 時間)
	5	4 課 規則動詞の直説法現在と疑問詞	直説法現在の規則変化動詞、目的語と前置詞 a、前置詞 a, de+定冠詞 el、疑問語疑問文、接続詞	教科書 4 課を見直し、現在時制での動詞の意味と規則変化を復習する。および『単語帳』 pp. 15-18 の語彙を覚える。(1 時間)
	6	5 課 動詞 estar と haber (hay)	estar と hay の使い分け、疑問詞を用いる疑問文の作り方	教科書 5 課を見直し、estar と hay の使い方を復習する。『単語帳』 pp. 19-23 の語彙を覚える。(1 時間)
	7	5 課 ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の比較と修得、基数詞 11～100、序数詞、時刻・曜日・日付の表現	教科書 5 課を見直し、つなぎの動詞の不規則活用を暗記する。『単語帳』 pp. 23-27 の語彙を覚える。(1 時間)
	8	6 課 1 人称単数不規則動詞と指示詞、所有詞	1 人称単数不規則動詞の活用、指示詞、所有詞 (前置形)	教科書 6 課を見直し、動詞の意味と不規則活用を暗記する。4 課～6 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
	9	4 課～6 課のテストと復習	動詞 ser, estar, hay の用法、不規則動詞、指示詞、所有詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 28-33 の語彙を覚える。(1 時間)
	10	7 課 語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞	poder, querer, pedir 等、語幹母音変化動詞の活用、直接目的格と間接目的格の人称代名詞の用法、所有詞 (後置形)	教科書 7 課を見直し不規則動詞の意味と活用を覚え、目的格人称代名詞の用法を理解する。『単語帳』 pp. 34-39 の語彙を覚える。(1 時間)
	11	8 課 その他の不規則動詞、副詞	tener, venir, ir 等の不規則動詞の活用、副詞 (句)、理由・目的・結果を表す表現	教科書 8 課を見直し、不規則動詞の意味と活用を覚える。『単語帳』 pp. 40-44 の語彙を覚える。(1 時間)
	12	9 課 gustar 型動詞、前置詞	前置詞の意味と用法、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞の用法	教科書 9 課を見直し、gustar 型動詞の意味と用法を復習する。7～9 課を総復習し、テストに備える。(1 時間)
	13	7 課～9 課のテストと復習 ボキャブラリー・コンテスト実施	不規則変化動詞 (直説法現在のみの)、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 46-49 の語彙を覚える。(1 時間)
	14	総復習と難解な事項の質疑応答	ser, estar, hay の用法、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の復習	前期の文法項目の総復習と『単語帳』を用いて語彙力の再確認を行い、臨時試験に備える。(1 時間)
	15	臨時試験 臨時試験の解説	臨時試験の実施、返却、解説。学期を通じて理解度の確認と要点の復習	試験範囲 (教科書 pp. 7-43) までの総復習 (1 時間)

関連科目	スペイン語入門 A スペイン語入門 C スペイン語応用 I スペイン語オラル I
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	・スペイン語入門 A、B、C は総合的に評価するため、3 科目で同じ成績がつく。 ・課題 40%、臨時試験 (期末の試験と小テスト) 40%、単語テスト・ボキャブラリコンテスト 20%
-----------	---

学生への メッセージ	・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、怖れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。
担当者の 研究室等	
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 ・授業内で行うテストはすべて、返却後、解答を提示し解説を行う。15 週目（A, B, C の延べ 44 回目）に臨時試験を行い、最終回（45 回目）の授業時間内に解答を示し解説する。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語入門C	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1085e0		

授業概要・目的	・「スペイン語入門A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。そのため必ず「入門A」「同B」「同C」を併せて受講すること。 ・アルファベットと発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。 ・6月頃にボキャブラリ・コンテストを実施する予定。
到達目標	・スペイン語の文法事項のうち、名詞の性・数を極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる。 ・動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。
授業方法と留意点	・Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う。 ・「入門A」「入門B」「入門C」のすべてを併せて履修すること。教科書の各課ごとに、文法解説をまとめた「学習ガイド」を配布するので、それに基づいて復習し、練習問題を通じて理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定 6 級に相当する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1 課 発音とアクセント	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置、数詞 0～10	教科書第 1 課を見直し、正しく発音できるようにする。『単語帳』 pp. 2-5 の語彙を覚える。(1 時間)
	2	2 課 名詞の性数	名詞の性数、冠詞の性数一致、基数詞 0～10	教科書 2 課を見直し、名詞を軸とする冠詞の性数一致を正しくできるようにする。『単語帳』 pp. 6-9 の語彙を覚える。(1 時間)
	3	3 課 動詞 ser の直説法現在活用	形容詞の性数一致、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、肯定文・否定文、疑問文	教科書 3 課を見直し、動詞 ser の活用を暗記する。形容詞の語尾を名詞の性数に一致させることを身につける。1 課～3 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
	4	1 課～3 課のテストと復習	発音、アクセント、性数一致、規則活用	テストの見直し、『単語帳』 pp. 10-14 の語彙を覚える。(1 時間)
	5	4 課 規則動詞の直説法現在と疑問詞	直説法現在の規則変化動詞、目的語と前置詞 a、前置詞 a、de+定冠詞 el、疑問語疑問文、接続詞	教科書 4 課を見直し、現在時制での動詞の意味と規則変化を復習する。および『単語帳』 pp. 15-18 の語彙を覚える。(1 時間)
	6	5 課 動詞 estar と haber (hay)	estar と hay の使い分け、疑問詞を用いる疑問文の作り方	教科書 5 課を見直し、estar と hay の使い方を復習する。『単語帳』 pp. 19-23 の語彙を覚える。(1 時間)
	7	5 課 ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の比較と修得、基数詞 11～100、序数詞、時刻・曜日・日付の表現	教科書 5 課を見直し、つなぎの動詞の不規則活用を暗記する。『単語帳』 pp. 23-27 の語彙を覚える。(1 時間)
	8	6 課 1 人称単数不規則動詞と指示詞、所有詞	1 人称単数不規則動詞の活用、指示詞、所有詞 (前置形)	教科書 6 課を見直し、動詞の意味と不規則活用を暗記する。4 課～6 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
	9	4 課～6 課のテストと復習	動詞 ser, estar, hay の用法、不規則動詞、指示詞、所有詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 28-33 の語彙を覚える。(1 時間)
	10	7 課 語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞	poder, querer, pedir 等、語幹母音変化動詞の活用、直接目的格と間接目的格の人称代名詞の用法、所有詞 (後置形)	教科書 7 課を見直し不規則動詞の意味と活用を覚え、目的格人称代名詞の用法を理解する。『単語帳』 pp. 34-39 の語彙を覚える。(1 時間)
	11	8 課 その他の不規則動詞、副詞	tener, venir, ir 等の不規則動詞の活用、副詞 (句)、理由・目的・結果を表す表現	教科書 8 課を見直し、不規則動詞の意味と活用を覚える。『単語帳』 pp. 40-44 の語彙を覚える。(1 時間)
	12	9 課 gustar 型動詞、前置詞	前置詞の意味と用法、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞の用法	教科書 9 課を見直し、gustar 型動詞の意味と用法を復習する。7～9 課を総復習し、テストに備える。(1 時間)
	13	7 課～9 課のテストと復習	不規則変化動詞 (直説法現在のみの)、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 46-49 の語彙を覚える。(1 時間)
	14	難解な事項の復習と臨時試験	ser, estar, hay の用法、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の復習	前期の文法項目の総復習と『単語帳』を用いて語彙力の再確認を行い、臨時試験に備える。(1 時間)
	15	臨時試験の解説	臨時試験の返却と解説、学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲 (教科書 pp. 7-43) までの総復習 (1 時間)

関連科目	スペイン語入門 A スペイン語入門 B スペイン語応用 I スペイン語オラル I
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	・スペイン語入門 A、B、C は総合的に評価するため、3 科目で同じ成績がつく。 ・課題 40%、臨時試験 (期末の試験と小テスト) 40%、単語テスト・ボキャブラリコンテスト 20%
-----------	---

学生への メッセージ	・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまづき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、怖れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。
担当者の 研究室等	安達研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 ・授業内で行うテストはすべて、返却時に答えの確認を行う。臨時試験は 14 回目の授業で行い、その返却と見直しは 15 回目の授業で行う。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語入門C	科目名 (英文)	Introduction to Spanish Grammar C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1085e0		

授業概要・目的	・「スペイン語入門A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。そのため必ず「入門A」「同B」「同C」を併せて受講すること。 ・アルファベットと発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。 ・初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。 ・6月頃にボキャブラリ・コンテストを実施する予定。
到達目標	・スペイン語の文法事項のうち、名詞の性・数を見極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる。 ・動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解したうえで適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。
授業方法と留意点	・「入門A」「入門B」「入門C」のすべてを併せて履修すること。教科書の各課ごとに、文法解説をまとめた「学習ガイド」を配布するので、それに基づいて復習し、練習問題を通じて理解を図る。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。 ・スペイン語検定6級に相当する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1 課 発音とアクセント	アルファベット、母音と子音の発音、音節とアクセントの位置、数詞 0～10	教科書第1課を見直し、正しく発音できるようにする。『単語帳』 pp. 2-5 の語彙を覚える。(1 時間)
	2	2 課 名詞の性数	名詞の性数、冠詞の性数一致、基数詞 0～10	教科書2課を見直し、名詞を軸とする冠詞の性数一致を正しくできるようにする。『単語帳』 pp. 6-9 の語彙を覚える。(1 時間)
	3	3 課 動詞 ser の直説法現在活用	形容詞の性数一致、主格人称代名詞、動詞 ser の直説法現在、肯定文・否定文、疑問文	教科書3課を見直し、動詞 ser の活用を暗記する。形容詞の語尾を名詞の性数に一致させることを身につける。1課～3課を総復習しテストに備える。(1 時間)
	4	1 課～3 課のテストと復習	発音、アクセント、性数一致、規則活用の動詞を用いる文の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 10-14 の語彙を覚える。(1 時間)
	5	4 課 規則動詞の直説法現在と疑問詞	直説法現在の規則変化動詞、目的語と前置詞 a、前置詞 a, de + 定冠詞 el、疑問語疑問文、接続詞	教科書4課を見直し、現在時制での動詞の意味と規則変化を復習する。および『単語帳』 pp. 15-18 の語彙を覚える。(1 時間)
	6	5 課 動詞 estar と haber (hay)	estar と hay の使い分け、疑問詞を用いる疑問文の作り方	教科書5課を見直し、estar と hay の使い方を復習する。『単語帳』 pp. 19-23 の語彙を覚える。(1 時間)
	7	5 課 ser, estar, hay の使い分け	ser, estar, hay の比較と修得、基数詞 11～100、序数詞、時刻・曜日・日付の表現	教科書5課を見直し、つなぎの動詞の不規則活用を暗記する。『単語帳』 pp. 23-27 の語彙を覚える。(1 時間)
	8	6 課 1 人称単数不規則動詞と指示詞、所有詞	1 人称単数不規則動詞の活用、指示詞、所有詞 (前置形)	教科書6課を見直し、動詞の意味と不規則活用を暗記する。4 課～6 課を総復習しテストに備える。(1 時間)
	9	4 課～6 課のテストと復習	動詞 ser, estar, hay の用法、不規則動詞、指示詞、所有詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 28-33 の語彙を覚える。(1 時間)
	10	7 課 語幹母音変化動詞、目的格人称代名詞	poder, querer, pedir 等、語幹母音変化動詞の活用、直接目的格と間接目的格の人称代名詞の用法、所有詞 (後置形)	教科書7課を見直し不規則動詞の意味と活用を覚え、目的格人称代名詞の用法を理解する。『単語帳』 pp. 34-39 の語彙を覚える。(1 時間)
	11	8 課 その他の不規則動詞、副詞	tener, venir, ir 等の不規則動詞の活用、副詞 (句)、理由・目的・結果を表す表現	教科書8課を見直し、不規則動詞の意味と活用を覚える。『単語帳』 pp. 40-44 の語彙を覚える。(1 時間)
	12	9 課 gustar 型動詞、前置詞	前置詞の意味と用法、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞の用法	教科書9課を見直し、gustar 型動詞の意味と用法を復習する。7～9 課を総復習し、テストに備える。(1 時間)
	13	7 課～9 課のテストと復習 ボキャブラリー・コンテスト実施	不規則変化動詞 (直説法現在のみの)、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の理解度確認と復習	テストの見直し、『単語帳』 pp. 46-49 の語彙を覚える。(1 時間)
	14	総復習と難解な事項の質疑応答	ser, estar, hay の用法、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の復習	前期の文法項目の総復習と『単語帳』を用いて語彙力の再確認を行い、臨時試験に備える。(1 時間)
	15	臨時試験 臨時試験の解説	臨時試験の実施、返却、解説。学期を通じて理解度の確認と要点の復習	試験範囲 (教科書 pp. 7-43) までの総復習 (1 時間)

関連科目	スペイン語入門 A スペイン語入門 B スペイン語応用 I スペイン語オラル I
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	・スペイン語入門 A、B、C は総合的に評価するため、3 科目で同じ成績がつく。 ・臨時試験 (期末の試験と小テスト) 70% + 単語テストおよびボキャブラリコンテスト 30%
学生への	・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得して

メッセージ	いきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事です。自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語ですから、怖れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けることです。
担当者の研究室等	非常勤講師室（3号館2階）
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 ・授業内で行うテストはすべて、返却後、解答を提示し解説を行う。15週目（A, B, Cの延べ44回目）に臨時試験を行い、最終回（45回目）の授業時間内に解答を示し解説する。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語基礎A	科目名 (英文)	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 初美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1086e0		

授業概要・目的	・「スペイン語基礎A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。必ず「基礎A、B、C」を併せて受講すること。 ・「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法の多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 ・初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。
到達目標	・スペイン語の文法事項のうち、過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに言える。 ・過去時制と未来時制の用法を正確に理解し、適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。 ・過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。 接続法の4つの時制を除く、スペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学習の基盤身につける。
授業方法と留意点	・7週目までTeams上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。8週目から対面授業とする。 ・「基礎A」「基礎B」「基礎C」のすべてを併せて履修すること。 ・小テスト(3-4回実施)を必ず受験すること。 ・毎回教科書の予定範囲を予習をしたうえで授業に臨み、疑問点をまとめておくこと。 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。
科目学習の効果(資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞、ser, estar, hay, gustar 型動詞	既習の動詞の活用と文法事項を復習し、理解度を深めておく。『単語帳』pp. 2-9の語彙を覚える。
	2	10 課 再帰動詞	再帰動詞の用法と活用、2種類の無人称文、基数詞 101-1 億	教科書 10 課を見直し、再帰動詞の用法に慣れ、1億までの数字を使いこなせるようにしておく。『単語帳』pp. 10-14の語彙を覚える。
	3	11 課 命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数の相手 tu に対する肯定命令文、不定詞の用法、現在分詞の形と用法	教科書 11 課を見直し、命令文、不定詞や現在分詞を含む文を。および『単語帳』pp. 15-20の語彙を覚える。
	4	12 課 過去分詞、直説法現在完了	過去分詞の語尾変化、直説法現在完了の用法と活用、不定語と否定語	教科書 12 課を見直し、直説法現在完了の時制を理解する。『単語帳』pp. 21-23の語彙を覚える。10～12 課を総復習しテストに備える。
	5	10 課～12 課の確認テストと復習	再帰動詞の運用、直説法現在完了の用法と活用、命令法を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 24-27の語彙を覚える。
	6	13 課 比較表現、感嘆文	比較級、最上級、絶対最上級の用法と表現、疑問詞を用いた感嘆文	教科書 13 課を見直し、比較表現と感嘆文を使えるようにしておく。
	7	14 課 規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(規則活用)、従属節を導く接続詞、縮小辞	教科書 14 課を見直し、線過去と点過去の使い分けができるようにする。および『単語帳』pp. 28-32の語彙を覚える。
	8	15 課 不規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(不規則活用)、受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞	教科書 15 課を見直し、不規則動詞の直説法点過去の活用を暗記し、13～15 課を総復習しテストに備える『単語帳』pp. 33-36の語彙を覚える。
	9	13 課～15 課の確認テストと復習	比較表現と直説法点過去の活用と意味を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 37-39の語彙を覚える。
	10	16 課 直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去、過去完了、関係代名詞・関係形容詞・関係副詞	教科書 16 課を見直し、線過去の活用を暗記し、関係詞を使った文を作れるようにする。および『単語帳』pp. 45-46の語彙を覚える。
	11	14 課～16 課の復習	直説法点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文	教科書 14～16 課を見直し、与えられた多くの文章を読み理解する。
	12	17 課 直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了、関係詞の独立用法	教科書 17 課を見直し、未来・未来完了の活用を復習し、16 課～18 課で学んだ時制を整理し、テストに備える。『単語帳』pp. 47-49の語彙を覚える。
	13	18 課 直説法過去未来、直説法過去未来完了 16 課～18 課の確認テスト	過去未来の活用と用法、過去未来完了の用法、間接話法	教科書 18 課を見直し、過去未来・過去未来完了を復習し、テストを見直す。これまでのすべての試験問題をやり直す。
	14	後期学習範囲全体に関する復習と難解な事項の質疑応答	理解不足・苦手な項目に関する質問と解説。	後期学習範囲10～18課を総復習しテストに備える。
	15	臨時試験 臨時試験の返却と解説	臨時試験の実施、返却、解説。 学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲(教科書 pp. 56-99)までの総復習およびテストの見直し

関連科目	スペイン語基礎B スペイン語基礎C スペイン語応用II スペイン語オラルII
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	・スペイン語基礎ABCを総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 ・課題 40%、臨時試験(小テストと期末の試験) 40%、単語テスト 20%
----------	--

学生への メッセージ	・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事なので、自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語です。恐れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けてください。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室（3号館2階）
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間を目安とする。 ・授業内で行うテストはすべて、返却後、解答を提示し解説を行う。15週目（A, B, Cの延べ44回目）に臨時試験を行い、最終回（45回目）の授業時間内に解答を示し解説する。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語基礎A	科目名 (英文)	Basic Spanish A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1086e0		

授業概要・目的	・「スペイン語基礎A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。必ず「基礎A、B、C」を併せて受講すること。 ・「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法の多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 ・初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。
到達目標	・スペイン語の文法事項のうち、過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに言える。 ・過去時制と未来時制の用法を正確に理解し、適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。 ・過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。 接続法の4つの時制を除く、スペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学習の基盤身につける。
授業方法と留意点	・7週目までTeams上で時間通りにリアルタイム授業を行う。8週目から対面授業とする。 ・「基礎A」「基礎B」「基礎C」のすべてを併せて履修すること。 ・小テスト(3-4回実施)を必ず受験すること。 ・毎回教科書の予定範囲を予習したうえで授業に臨み、疑問点をまとめておくこと。 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。
科目学習の効果(資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞、ser, estar, hay, gustar 型動詞	既習の動詞の活用と文法事項を復習し、理解度を深めておく。『単語帳』pp. 2-9の語彙を覚える。
	2	10 課 再帰動詞	再帰動詞の用法と活用、2種類の無人称文、基数詞 101-1 億	教科書 10 課を見直し、再帰動詞の用法に慣れ、1億までの数字を使いこなせるようにしておく。『単語帳』pp. 10-14の語彙を覚える。
	3	11 課 命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数の相手 tu に対する肯定命令文、不定詞の用法、現在分詞の形と用法	教科書 11 課を見直し、命令文、不定詞や現在分詞を含む文を。および『単語帳』pp. 15-20の語彙を覚える。
	4	12 課 過去分詞、直説法現在完了	過去分詞の語尾変化、直説法現在完了の用法と活用、不定語と否定語	教科書 12 課を見直し、直説法現在完了の時制を理解する。『単語帳』pp. 21-23の語彙を覚える。10～12 課を総復習しテストに備える。
	5	10 課～12 課の確認テストと復習	再帰動詞の運用、直説法現在完了の用法と活用、命令法を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 24-27の語彙を覚える。
	6	13 課 比較表現、感嘆文	比較級、最上級、絶対最上級の用法と表現、疑問詞を用いた感嘆文	教科書 13 課を見直し、比較表現と感嘆文を使えるようにしておく。
	7	14 課 規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(規則活用)、従属節を導く接続詞、縮小辞	教科書 14 課を見直し、線過去と点過去の使い分けができるようにする。および『単語帳』pp. 28-32の語彙を覚える。
	8	15 課 不規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(不規則活用)、受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞	教科書 15 課を見直し、不規則動詞の直説法点過去の活用を暗記し、13～15 課を総復習しテストに備える『単語帳』pp. 33-36の語彙を覚える。
	9	13 課～15 課の確認テストと復習	比較表現と直説法点過去の活用と意味を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 37-39の語彙を覚える。
	10	16 課 直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去、過去完了、関係代名詞・関係形容詞・関係副詞	教科書 16 課を見直し、線過去の活用を暗記し、関係詞を使った文を作れるようにする。および『単語帳』pp. 45-46の語彙を覚える。
	11	14 課～16 課の復習	直説法点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文	教科書 14～16 課を見直し、与えられた多くの文章を読み理解する。
	12	17 課 直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了、関係詞の独立用法	教科書 17 課を見直し、未来・未来完了の活用を復習し、16 課～18 課で学んだ時制を整理し、テストに備える。『単語帳』pp. 47-49の語彙を覚える。
	13	18 課 直説法過去未来、直説法過去未来完了 16 課～18 課の確認テスト	過去未来の活用と用法、過去未来完了の用法、間接話法	教科書 18 課を見直し、過去未来・過去未来完了を復習し、テストを見直す。これまでのすべての試験問題をやり直す。
	14	後期学習範囲全体に関する復習と難解な事項の質疑応答	理解不足・苦手な項目に関する質問と解説。	後期学習範囲10～18課を総復習しテストに備える。
	15	臨時試験 臨時試験の返却と解説	臨時試験の実施、返却、解説。 学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲(教科書 pp. 56-99)までの総復習およびテストの見直し

関連科目	スペイン語基礎B スペイン語基礎C スペイン語応用II スペイン語オラルII
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	・スペイン語基礎ABCを総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 ・課題 40%、臨時試験(小テストと期末の試験) 40%、単語テスト 20%
----------	--

学生への メッセージ	・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事なので、自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語です。恐れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けてください。
担当者の 研究室等	北條研究室
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間を目安とする。 ・授業内で行うテストはすべて、返却後、解答を提示し解説を行う。15 週目（A, B, C の延べ 44 回目）に臨時試験を行い、最終回（45 回目）の授業時間内に解答を示し解説する。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語基礎B	科目名 (英文)	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	三浦 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1087e0		

授業概要・目的	・「スペイン語基礎A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。必ず「基礎A、B、C」を併せて受講すること。 ・「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法の多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 ・初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。
到達目標	・スペイン語の文法事項のうち、過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに言える。 ・過去時制と未来時制の用法を正確に理解し、適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。 ・過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。 接続法の4つの時制を除く、スペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学習の基盤身につける。
授業方法と留意点	・7週目までTeams上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。8週目から対面授業とする。 ・「基礎A」「基礎B」「基礎C」のすべてを併せて履修すること。 ・小テスト(3-4回実施)を必ず受験すること。 ・毎回教科書の予定範囲を予習をした上で授業に臨み、疑問点をまとめておくこと。 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。
科目学習の効果(資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞、ser, estar, hay, gustar 型動詞	既習の動詞の活用と文法事項を復習し、理解度を深めておく。『単語帳』pp. 2-9の語彙を覚える。
	2	10 課 再帰動詞	再帰動詞の用法と活用、2種類の無人称文、基数詞 101-1 億	教科書 10 課を見直し、再帰動詞の用法に慣れ、1億までの数字を使いこなせるようにしておく。『単語帳』pp. 10-14の語彙を覚える。
	3	11 課 命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数の相手 tu に対する肯定命令文、不定詞の用法、現在分詞の形と用法	教科書 11 課を見直し、命令文、不定詞や現在分詞を含む文を。および『単語帳』pp. 15-20の語彙を覚える。
	4	12 課 過去分詞、直説法現在完了	過去分詞の語尾変化、直説法現在完了の用法と活用、不定語と否定語	教科書 12 課を見直し、直説法現在完了の時制を理解する。『単語帳』pp. 21-23の語彙を覚える。10～12 課を総復習しテストに備える。
	5	10 課～12 課の確認テストと復習	再帰動詞の運用、直説法現在完了の用法と活用、命令法を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 24-27の語彙を覚える。
	6	13 課 比較表現、感嘆文	比較級、最上級、絶対最上級の用法と表現、疑問詞を用いた感嘆文	教科書 13 課を見直し、比較表現と感嘆文を使えるようにしておく。
	7	14 課 規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(規則活用)、従属節を導入接続詞、縮小辞	教科書 14 課を見直し、線過去と点過去の使い分けができるようにする。および『単語帳』pp. 28-32の語彙を覚える。
	8	15 課 不規則動詞の直説法点過去	直説法点過去(不規則活用)、受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞	教科書 15 課を見直し、不規則動詞の直説法点過去の活用を暗記し、13～15 課を総復習しテストに備える『単語帳』pp. 33-36の語彙を覚える。
	9	13 課～15 課の確認テストと復習	比較表現と直説法点過去の活用と意味を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 37-39の語彙を覚える。
	10	16 課 直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去、過去完了、関係代名詞・関係形容詞・関係副詞	教科書 16 課を見直し、線過去の活用を暗記し、関係詞を使った文を作れるようにする。および『単語帳』pp. 45-46の語彙を覚える。
	11	14 課～16 課の復習	直説法点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文	教科書 14～16 課を見直し、与えられた多くの文章を読み理解する。
	12	17 課 直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了、関係詞の独立用法	教科書 17 課を見直し、未来・未来完了の活用を復習し、16 課～18 課で学んだ時制を整理し、テストに備える。『単語帳』pp. 47-49の語彙を覚える。
	13	18 課 直説法過去未来、直説法過去未来完了 16 課～18 課の確認テスト	過去未来の活用と用法、過去未来完了の用法、間接話法	教科書 18 課を見直し、過去未来・過去未来完了を復習し、テストを見直す。これまでのすべての試験問題をやり直す。
	14	後期学習範囲全体に関する復習と難解な事項の質疑応答	理解不足・苦手な項目に関する質問と解説。	後期学習範囲10～18課を総復習しテストに備える。
	15	臨時試験 臨時試験の返却と解説	臨時試験の実施、返却、解説。 学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲(教科書 pp. 56-99)までの総復習およびテストの見直し

関連科目	スペイン語基礎A スペイン語基礎C スペイン語応用II スペイン語オラルII
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法(基準)	・スペイン語基礎ABCを総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 ・課題 40%、臨時試験(小テストと期末の試験) 40%、単語テスト 20%
----------	--

学生への メッセージ	・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事なので、自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語です。恐れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けてください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約15時間を目安とする。 ・授業内で行うテストはすべて、返却後、解答を提示し解説を行う。15週目（A, B, Cの延べ44回目）に臨時試験を行い、最終回（45回目）の授業時間内に解答を示し解説する。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語基礎B	科目名 (英文)	Basic Spanish B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1087e0		

授業概要・目的	・「スペイン語基礎A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。必ず「基礎A、B、C」を併せて受講すること。 ・「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法の多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 ・初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。
到達目標	・スペイン語の文法事項のうち、過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに言える。 ・過去時制と未来時制の用法を正確に理解し、適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。 ・過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。 接続法の4つの時制を除く、スペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学習の基盤身につける。
授業方法と留意点	・7週目までTeams上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。8週目から対面授業とする。 ・「基礎A」「基礎B」「基礎C」のすべてを併せて履修すること。 ・小テスト（3-4回実施）の日程・時間帯を厳守すること。 ・予習をしたうえで授業に臨むこと。予習復習での疑問点をまとめておくこと。 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。
科目学習の効果（資格）	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞、ser, estar, hay, gustar 型動詞	既習の動詞の活用と文法事項を復習し、理解度を深めておく。『単語帳』pp. 2-9の語彙を覚える。
	2	10 課 再帰動詞	再帰動詞の用法と活用、2種類の無人称文、基数詞 101-1 億	教科書 10 課を見直し、再帰動詞の用法に慣れ、1億までの数字を使いこなせるようにしておく。『単語帳』pp. 10-14の語彙を覚える。
	3	11 課 命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数の相手 tu に対する肯定命令文、不定詞の用法、現在分詞の形と用法	教科書 11 課を見直し、命令文、不定詞や現在分詞を含む文を。および『単語帳』pp. 15-20の語彙を覚える。
	4	12 課 過去分詞、直説法現在完了	過去分詞の語尾変化、直説法現在完了の用法と活用、不定語と否定語	教科書 12 課を見直し、直説法現在完了の時制を理解する。『単語帳』pp. 21-23の語彙を覚える。10～12 課を総復習しテストに備える。
	5	10 課～12 課の確認テストと復習	再帰動詞の運用、直説法現在完了の用法と活用、命令法を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 24-27の語彙を覚える。
	6	13 課 比較表現、感嘆文	比較級、最上級、絶対最上級の用法と表現、疑問詞を用いた感嘆文	教科書 13 課を見直し、比較表現と感嘆文を使えるようにしておく。
	7	14 課 規則動詞の直説法点過去	直説法点過去（規則活用）、従属節を導く接続詞、縮小辞	教科書 14 課を見直し、線過去と点過去の使い分けができるようにする。および『単語帳』pp. 28-32の語彙を覚える。
	8	15 課 不規則動詞の直説法点過去	直説法点過去（不規則活用）、受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞	教科書 15 課を見直し、不規則動詞の直説法点過去の活用を暗記し、13～15 課を総復習しテストに備える『単語帳』pp. 33-36の語彙を覚える。
	9	13 課～15 課の確認テストと復習	比較表現と直説法点過去の活用と意味を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 37-39の語彙を覚える。
	10	16 課 直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去、過去完了、関係代名詞・関係形容詞・関係副詞	教科書 16 課を見直し、線過去の活用を暗記し、関係詞を使った文を作れるようにする。および『単語帳』pp. 45-46の語彙を覚える。
	11	14 課～16 課の復習	直説法点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文	教科書 14～16 課を見直し、与えられた多くの文章を読み理解する。
	12	17 課 直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了、関係詞の独立用法	教科書 17 課を見直し、未来・未来完了の活用を復習し、16 課～18 課で学んだ時制を整理し、テストに備える。『単語帳』pp. 47-49の語彙を覚える。
	13	18 課 直説法過去未来、直説法過去未来完了 16 課～18 課の確認テスト	過去未来の活用と用法、過去未来完了の用法、間接話法	教科書 18 課を見直し、過去未来・過去未来完了を復習し、テストを見直す。これまでのすべての試験問題をやり直す。
	14	後期学習範囲全体に関する復習と難解な事項の質疑応答	理解不足・苦手な項目に関する質問と解説。	後期学習範囲10～18課を総復習しテストに備える。
	15	臨時試験 臨時試験の返却と解説	臨時試験の実施、返却、解説。 学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲（教科書 pp. 56-99）までの総復習およびテストの見直し

関連科目	スペイン語基礎A スペイン語基礎C スペイン語応用II スペイン語オラルII
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法（基準）	・スペイン語基礎ABCを総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 課題 40%、臨時試験（小テストと期末の試験）40%、単語テスト 20%
----------	--

学生への メッセージ	・最初から間違えずにできる人はいません。何度もつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事なので、自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語です。恐れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けてください。
担当者の 研究室等	藤井研究室
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間を目安とする。 ・授業内で行うテストはすべて、返却後、解答を提示し解説を行う。15 週目（A, B, C の延べ 44 回目）に臨時試験を行い、最終回（45 回目）の授業時間内に解答を示し解説する。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語基礎C	科目名 (英文)	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1088e0		

授業概要・目的	「スペイン語基礎A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。必ず「基礎A、B、C」を併せて受講すること。 「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法の多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 - 初修言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。
到達目標	- スペイン語の文法事項のうち、過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに言える。 - 過去時制と未来時制の用法を正確に理解し、適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。 - 過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。 接続法の4つの時制を除く、スペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学習の基盤身につける。
授業方法と留意点	「基礎A」「基礎B」「基礎C」のすべてを併せて履修すること。 - 小テスト (3-4 回実施) を必ず受験すること。 - 毎回教科書の予定範囲を予習をしたうえで授業に臨み、疑問点をもとめておくこと。
科目学習の効果 (資格)	- スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 - 辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞、ser, estar, hay, gustar 型動詞	既習の動詞の活用と文法事項を復習し、理解度を深めておく。『単語帳』pp. 2-9 の語彙を覚える。
	2	10 課 再帰動詞	再帰動詞の用法と活用、2 種類の無人称文、基数詞 101-1 億	教科書 10 課を見直し、再帰動詞の用法に慣れ、1 億までの数字を使いこなせるようにしておく。『単語帳』pp. 10-14 の語彙を覚える。
	3	11 課 命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数の相手 tu に対する肯定命令文、不定詞の用法、現在分詞の形と用法	教科書 11 課を見直し、命令文、不定詞や現在分詞を含む文を。および『単語帳』pp. 15-20 の語彙を覚える。
	4	12 課 過去分詞、直説法現在完了	過去分詞の語尾変化、直説法現在完了の用法と活用、不定語と否定語	教科書 12 課を見直し、直説法現在完了の時制を理解する。『単語帳』pp. 21-23 の語彙を覚える。10-12 課を総復習しテストに備える。
	5	10 課～12 課の確認テストと復習	再帰動詞の運用、直説法現在完了の用法と活用、命令法を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 24-27 の語彙を覚える。
	6	13 課 比較表現、感嘆文	比較級、最上級、絶対最上級の用法と表現、疑問詞を用いた感嘆文	教科書 13 課を見直し、比較表現と感嘆文を使えるようにしておく。
	7	14 課 規則動詞の直説法点過去	直説法点過去 (規則活用)、従属節を導く接続詞、縮小辞	教科書 14 課を見直し、線過去と点過去の使い分けができるようにする。および『単語帳』pp. 28-32 の語彙を覚える。 以降、対面授業
	8	15 課 不規則動詞の直説法点過去	直説法点過去 (不規則活用)、受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞	教科書 15 課を見直し、不規則動詞の直説法点過去の活用を暗記し、13-15 課を総復習しテストに備える『単語帳』pp. 33-36 の語彙を覚える。
	9	13 課～15 課の確認テストと復習	比較表現と直説法点過去の活用と意味を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 37-39 の語彙を覚える。
	10	16 課 直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去、過去完了、関係代名詞・関係形容詞・関係副詞	教科書 16 課を見直し、線過去の活用を暗記し、関係詞を使った文を作れるようにする。および『単語帳』pp. 45-46 の語彙を覚える。
	11	14 課～16 課の復習	直説法点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文	教科書 14-16 課を見直し、与えられた多くの文章を読み理解する。
	12	17 課 直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了、関係詞の独立用法	教科書 17 課を見直し、未来・未来完了の活用を復習し、16 課～18 課で学んだ時制を整理し、テストに備える。『単語帳』pp. 47-49 の語彙を覚える。
	13	18 課 直説法過去未来、直説法過去未来完了 16 課～18 課の確認テスト	過去未来の活用と用法、過去未来完了の用法、間接話法	教科書 18 課を見直し、過去未来・過去未来完了を復習し、テストを見直す。これまでのすべての試験問題をやり直す。
	14	後期学習範囲全体に関する復習と難解な事項の質疑応答	理解不足・苦手な項目に関する質問と解説。	後期学習範囲10～18課を総復習しテストに備える。
	15	臨時試験 臨時試験の返却と解説	臨時試験の実施、返却、解説。 学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲 (教科書 pp. 56-99) までの総復習およびテストの見直し

関連科目	スペイン語基礎 A スペイン語基礎 B スペイン語応用 II スペイン語オラル II
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	- スペイン語基礎ABCを総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 - 課題 40%+臨時試験 (小テストと期末試験) 40% + 単語テスト 20%
学生への	最初から間違えずにできる人はいません。何度でもつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得して

メッセージ	いきましょう。 ・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事なので、自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語です。恐れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けてください。
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間を目安とする。 ・授業内で行うテストはすべて、返却後、解答を提示し解説を行う。15 週目（A, B, C の延べ 44 回目）に臨時試験を行い、最終回（45 回目）の授業時間内に解答を示し解説する。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・プリント等の配布は一度しか配布しない。欠席や遅刻による不利益を被ることのないよう、学習の当事者としての意識をもって取り組むこと。

科目名	スペイン語基礎C	科目名 (英文)	Basic Spanish C
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1088e0		

授業概要・目的	・「スペイン語基礎A」「同B」「同C」は同じ教科書を使い、リレー形式でスペイン語の文法を学ぶ。必ず「基礎A、B、C」を併せて受講すること。 ・「スペイン語入門」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法の多様な時制で運用できるようになることを目的とする。 ・初習言語のマスターには語彙力の増強も不可欠であるため、毎週単語テストを課す。
到達目標	・スペイン語の文法事項のうち、過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに言える。 ・過去時制と未来時制の用法を正確に理解し、適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる。 ・過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。 接続法の4つの時制を除く、スペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学習の基盤身につける。
授業方法と留意点	Teams 上で時間制通りにリアルタイム授業を行う。7週目から対面授業とする。 ・「基礎A」「基礎B」「基礎C」のすべてを併せて履修すること。 ・小テスト (3-4 回実施) を必ず受験すること。 ・毎回教科書の予定範囲を予習をしたうえで授業に臨み、疑問点をまとめておくこと。 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。
科目学習の効果 (資格)	・スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を修得し、基本的な運用能力が身につく。 ・辞書の使用を含めて外国語の学習方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞、ser, estar, hay, gustar 型動詞	既習の動詞の活用と文法事項を復習し、理解度を深めておく。『単語帳』pp. 2-9 の語彙を覚える。
	2	10 課 再帰動詞	再帰動詞の用法と活用、2 種類の無人称文、基数詞 101-1 億	教科書 10 課を見直し、再帰動詞の用法に慣れ、1 億までの数字を使いこなせるようにしておく。『単語帳』pp. 10-14 の語彙を覚える。
	3	11 課 命令法、不定詞、現在分詞	親しい単数の相手 tu に対する肯定命令文、不定詞の用法、現在分詞の形と用法	教科書 11 課を見直し、命令文、不定詞や現在分詞を含む文を。および『単語帳』pp. 15-20 の語彙を覚える。
	4	12 課 過去分詞、直説法現在完了	過去分詞の語尾変化、直説法現在完了の用法と活用、不定語と否定語	教科書 12 課を見直し、直説法現在完了の時制を理解する。『単語帳』pp. 21-23 の語彙を覚える。10～12 課を総復習しテストに備える。
	5	10 課～12 課の確認テストと復習	再帰動詞の運用、直説法現在完了の用法と活用、命令法を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 24-27 の語彙を覚える。
	6	13 課 比較表現、感嘆文	比較級、最上級、絶対最上級の用法と表現、疑問詞を用いた感嘆文	教科書 13 課を見直し、比較表現と感嘆文を使えるようにしておく。
	7	14 課 規則動詞の直説法点過去	直説法点過去 (規則活用)、従属節を導く接続詞、縮小辞	教科書 14 課を見直し、線過去と点過去の使い分けができるようにする。および『単語帳』pp. 28-32 の語彙を覚える。
	8	15 課 不規則動詞の直説法点過去	直説法点過去 (不規則活用)、受動文、知覚・使役・放任・命令・許可の動詞	教科書 15 課を見直し、不規則動詞の直説法点過去の活用を暗記し、13～15 課を総復習しテストに備える『単語帳』pp. 33-36 の語彙を覚える。
	9	13 課～15 課の確認テストと復習	比較表現と直説法点過去の活用と意味を中心に問う。	テストの見直し、『単語帳』pp. 37-39 の語彙を覚える。
	10	16 課 直説法線過去、過去完了、関係詞	直説法線過去、過去完了、関係代名詞・関係形容詞・関係副詞	教科書 16 課を見直し、線過去の活用を暗記し、関係詞を使った文を作れるようにする。および『単語帳』pp. 45-46 の語彙を覚える。
	11	14 課～16 課の復習	直説法点過去と線過去の使い分け、関係詞を含む文	教科書 14～16 課を見直し、与えられた多くの文章を読み理解する。
	12	17 課 直説法未来、未来完了	直説法未来、未来完了、関係詞の独立用法	教科書 17 課を見直し、未来・未来完了の活用を復習し、16 課～18 課で学んだ時制を整理し、テストに備える。『単語帳』pp. 47-49 の語彙を覚える。
	13	18 課 直説法過去未来、直説法過去未来完了 16 課～18 課の確認テスト	過去未来の活用と用法、過去未来完了の用法、間接話法	教科書 18 課を見直し、過去未来・過去未来完了を復習し、テストを見直す。これまでのすべての試験問題をやり直す。
	14	後期学習範囲全体に関する復習と臨時試験	理解不足・苦手な項目に関する質問と解説のあと、臨時試験を行う。	後期学習範囲10～18課を総復習しテストに備える。
	15	臨時試験の返却と解説	学期を通じた理解度の確認と要点の復習	試験範囲 (教科書 pp. 56-99) までの総復習およびテストの見直し

関連科目	スペイン語基礎 A スペイン語基礎 B スペイン語応用 II スペイン語オラル II
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	・スペイン語基礎ABCを総合的に評価し、それぞれ同じ成績がつく。 ・課題 40%、臨時試験 (小テストと期末の試験) 40%、単語テスト 20%
学生へのメッセージ	・最初から間違えずにできる人はいません。何度でもつまずき失敗から学ぶ姿勢が大切です。単語ひとつ、活用ひとつを大切に地道に修得していきましょう。

	・予習、復習、自習（教科書や授業以外での取り組み）が大事なので、自分の学習ペースを身につけるように心掛けてください。 ・「覚える」ということに中高生の時以上に時間と労力を費やしてください。 スペイン語は日本語話者にとって発音と聞き取りが容易な言語です。恐れず能動的に学ぶ姿勢を持ち続けてください。
担当者の 研究室等	安達研究室
備考	・事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間を目安とする。

科目名	スペイン語オラル I	科目名 (英文)	Spanish Conversation I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1089e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言すること。疑問点があれば何なりと質問し、理解できるまで説明を求めること。必要に応じて小テストを実施する。以下に示す授業計画は目安であり、履修生の理解度によって進度を調整することがある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unidad 1: Hola, como te llamas?	授業の進め方についての説明 あいさつ表現 アルファベットと文字の発音 単語の発音練習 20 までの数字。人名。	スペイン語のアルファベットや発音について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
	2	Unidad 1: Hola, como te llamas?	アクセント 教室で使うことば 級友とあいさつを交わす。	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	3	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	名詞の性と数 不定冠詞と定冠詞	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	4	Unidad 2: Soy japones, de Tokio	ものを特定する 家の中にあるもの	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	5	Unidad 3: Mi universidad	動詞 ser と主語代名詞 形容詞の性と数 疑問文、肯定文、否定文	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	6	Unidad 3: Mi universidad	国名や国籍や職業を表わす。 人を描写する	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	7	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	直説法現在規則動詞 日常の生活を表わす。	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	8	Unidad 4: Estudio en la Universidad de Salamanca	曜日、職場、頻度表現 理解度確認中間テスト	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。 これまでに学習した事項や表現の復習
	9	Unidad 5: La familia	動詞 estar と hay 指示詞、場所を表す副詞	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	10	Unidad 5: La familia	Muy と mucho 存在を表わす 位置表現 町を描写する	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	11	Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona	動詞 tener 所有詞前置形 感嘆文	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	12	Unidad 6: En vacaciones voy a ir a Barcelona	状態を表わす 日付や年齢を表わす 家族 月の名前 20～100 までの数字	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	13	Repaso	これまでの総復習と目標達成度確認	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	14	Repaso	これまでの総復習と目標達成度確認	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	15	Examen oral final 期末テスト	臨時試験と総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用 I
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Muy Bien! 1	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における・課題 (50%) 期末試験 (50%) から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen oral final (50%)			
学生への メッセージ	スペイン語は日本語話者にとって聞き取りも発話もとても簡単な言語です。教員とも同級生とも積極的に対話してください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (3 号館 2 階)			
備考	授業の前に 1 時間、後に 1 時間の学習時間を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後、時間中に開設を行う。			

科目名	スペイン語オラルⅠ	科目名 (英文)	Spanish Conversation I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1089e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。
授業方法と留意点	Teams によるオンライン授業を時間割通りにリアルタイムで行う。 授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言する事。疑問点があれば何なりと質問し、理解できるまで説明を求めること。必要に応じて小テストを実施する。以下に示す授業計画は目安であり、履修生の理解度によって進度を調整することがある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unidad 1 Como te llamas? すでに知っているスペイン語のことば En el aula. 教室で	授業の進め方についての説明 あいさつ表現 アルファベットと文字の発音 単語の発音練習	スペイン語のアルファベットや発音について、入門の教科書でその説明部分を読んでおく。
	2	Unidad 1 Como te llamas すでに知っているスペイン語のことば En el aula. 教室で	アクセント 教室で使うことば 級友とあいさつを交わす 20 までの数字。人名。	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	3	Unidad 2 Soy japones de Tokio. 見て、犬がりるよ！	名詞の性と数 不定冠詞と定冠詞	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	4	Unidad 2 Soy japones de Tokio. 見て、犬がりるよ！	ものを特定する 家の中にあるもの	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	5	Unidad 3 Mi Universidad. 彼女は誰？	動詞 ser と主語代名詞 形容詞の性と数 疑問文、肯定文、否定文	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	6	Unidad 3 Mi Universidad. 彼女は誰？	国名や国籍や職業を表わす。 人を描写する	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	7	Unidad 4 Estudio en la Universidad de Salamanca 学生さんですか？	直説法現在規則動詞 日常生活を表わす。	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	8	Unidad 4 Estudio en la Universidad de Salamanca. 学生さんですか？ 理解度確認中間テスト	曜日、職場、頻度表現 理解度確認中間テスト	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。 これまでに学習した事項や表現の復習
	9	Unidad 5 La Familia 君の町には何があるの？	動詞 estar と hay 指示詞、場所を表す副詞	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	10	Unidad 5 La Familia 君の町には何があるの？	Muy と mucho 存在を表わす 位置表現 町を描写する	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	11	Unidad 6 En vacaciones voy a Barcelona. なんで素敵なんでしょう！	動詞 tener 所有詞前置形 感嘆文	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	12	Unidad 6 En vacaciones voy a Barcelona. なんで素敵なんでしょう！	状態を表わす 日付や年齢を表わす 家族 月の名前 20～100 までの数字	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	13	Unidad 7 Repaso これまでの総復習と目標達成度確認	これまでの総復習と目標達成度確認	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	14	Unidad 7 Repaso. これまでの総復習と目標達成度確認	これまでの総復習と目標達成度確認	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
	15	Repaso これまでの総復習と目標達成度確認 Examen oral final	臨時試験と解説	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語入門、スペイン語応用Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Muy bien! 1	Juan Carlos Moyano L. Carlos Garcia Ruiz-Castillo. Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社

		2			
		3			
参考書					
		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業での応答・発言および課題 50%、期末の口頭試験 50%				
	La evaluacion sera del 50% de tareas y participacion y 50% de examen final oral.				
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを恐れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。				
	La participacion constante y dinamica en clase es la prioridad para evaluar a cada alumno. Para que la clase sea mas interesante y agradable se espera que los alumnos asistan a clase ya preparados				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（3号館2階）				
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の解説は次の週および最終回に行う。				

科目名	スペイン語オラルⅡ	科目名 (英文)	Spanish Conversation II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1090e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。 語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。 2 グループに分けていずれもネイティブ教員が少人数指導を行う。 オラルⅠで使用した教科書を継続使用する。復習を交えながら2～3回で1課というペースで進めるが、受講生の理解度に応じ、授業計画の進捗より前後することもある。 各課は導入、文法、練習、最終課題、自己評価からなっている。教員からの補足説明をもとに、スペイン語圏への関心を高めよう。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定5級 秋の暗唱大会に向けた詩の朗読練習

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	スペイン語オラルⅠで学習したことへの復習	既修の語彙と表現を用いた復習	スペイン語オラルⅠでの学習事項を総復習しておく。
2	Unidad 7 Me gusta mucho la musica pop. Y a ti? 私は猫が好きです。	動詞 gustar を用いた表現 好きや興味を表わす 好きみの一致や違いを表す	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
3	Unidad 7 Me gusta mucho la musica pop. Y a ti? 私は猫が好きです。	レストランで食事する 食べ物 興味や娯楽	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
4	Unidad 8 De compras. 私は8 じに起きます	再帰横文 習慣を表わす 時間を表わす	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
5	Unidad 8 De compras. 私は8 じに起きます	日常生活を表わす動詞 一日の時間帯 動物	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
6	Unidad 9 A comer! どんなのがいいですか?	直接目的語 直接目的代名詞 買い物する 衣装や品物を描写する	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
7	Unidad 9 A comer! どんなのがいいですか?	衣装 色と材質 店舗や品物の語彙 100 より大きな数字	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
8	理解度確認中間テスト 詩の朗読練習	これまでの要点復習 詩の朗読	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
9	Unidad 10 Los mexicanos se levantan pronto. 辞書貸してくれる?	間接目的語 間接目的代名詞 依頼する 申し出る 依頼の理由を言う	これまでに学習した事項や表現の復習 事前に配布された詩に目を通しておく。
10	Unidad 10 Los mexicanos se levantan pronto. 辞書貸してくれる?	了承する 断る 身の回りのもの	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
11	Unidad 11 Estoy muy contenta. カッコよくしないとね	不定詞を伴う動詞 動詞 Conocer y saber 比較級 義務、可能性、知識を表わす 近い未来を表わす	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
12	Unidad 11 Estoy muy contenta. カッコよくしないとね	学んでできるようになったことを表わす 天候を表わす 四季、旅行に関する語	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
13	Unidad 12 De viaje. 休暇はどこへ行ったの?	直説法点過去 完結した出来事を表わす	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
14	Unidad 12 De viaje. 休暇はどこへ行ったの?	連続して起こった出来事を表わす 過去の時を表わす表現	学習する部分3ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとおよい。
15	Repaso y examen oral final. まとめ これまでの総復習と目標達成度確認 期末テスト	期末試験と総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用Ⅱ
------	------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Muy bien! 1	Juan Carlos Moyano Lopez. Carlos Garcia Ruz Castillo. Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業における取り組み姿勢・応答、課題（50%）、期末試験（50%） La evaluacion sera de un 50% por tareas y participacion y 50% por examen final oral.			
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は予習を欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。秋の暗唱大会へ参加するために詩の暗唱と朗詠を行う。 La participacion constante y dinamica en clase es la prioridad para evaluar a cada alumno. Para que la clase sea mas interesante y agradable se espera que los alumnos asis			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 臨時試験の後、解説を行う。			

科目名	スペイン語オラルⅡ	科目名 (英文)	Spanish Conversation II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1090e0		

授業概要・目的	スペイン語は、大西洋の両岸に位置する広域かつ多様な一大文化圏の公用語であり、かつ米国における話者が飛躍的に増加していることでも知られている。「スペイン語入門」で学んだばかりの文法の知識を活かしながら、時には「入門」より先回りすることもあるが、それは日常的によく使う表現をまずは身につけるためである。スペイン語を聞きとり、自分から積極的に話しかけることを楽しく感じてもらいたい。
到達目標	スペイン語独特のリズムに慣れ、基本的な動詞を適切に活用させて簡単な応答ができるようになることをめざす。 語彙力を着実に高めることが重要である。
授業方法と留意点	教科書に基づき毎週、学習範囲と課題を指示するので、課題を電子媒体で期日までに提出する。課題提出後、和訳等の解説および練習問題の模範解答を掲示する。課題に対する教員からのフィードバックも確認し、各自よく復習しておくこと。 Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級 秋の暗唱大会に向けた詩の朗読練習

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スペイン語オラルⅠで学習したことの復習	既修の語彙と表現を用いた復習	スペイン語オラルⅠでの学習事項を総復習しておく。
	2	Unidad 7 Me gusta mucho la musica pop. Y a ti?	動詞 gustar を用いた表現 好きや興味を表わす 好きみの一致や違いを表す	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
	3	Unidad 7 Me gusta mucho la musica pop. Y a ti?	レストランで食事する 食べ物 興味や娯楽	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
	4	Unidad 8 De compras	再帰横文 習慣を表わす 時間を表わす	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
	5	Unidad 8 De compras	日常の活動を表わす動詞 一日の時間帯 動物	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
	6	Unidad 9 A comer!	直接目的語 直接目的代名詞 買い物する 衣装や品物を描写する	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
	7	Unidad 9 A comer!	衣装 色と材質 店舗や品物の語彙 100 より大きな数字	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
	8	理解度確認中間テスト 詩の朗読練習	これまでの要点復習 詩の朗読	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
	9	Unidad 10 Los mexicanos se levantan pronto	間接目的語 間接目的代名詞 依頼する 申し出る 依頼の理由を言う	これまでに学習した事項や表現の復習 事前に配布された詩に目を通しておく。
	10	Unidad 10 Los mexicanos se levantan pronto	了承する 断る 身の回りのもの	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
	11	Unidad 11 Estoy muy contenta	不定詞を伴う動詞 動詞 Conocer y saber 比較級 義務、可能性、知識を表わす 近い未来を表わす	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
	12	Unidad 11 Estoy muy contenta	学んでできるようになったことを表わす 天候を表わす 四季、旅行に関する語	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
	13	Unidad 12 De viaje	直説法点過去 完結した出来事を表わす	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
	14	Unidad 12 De viaje	連続して起こった出来事を表わす 過去の時を表わす表現	学習する部分 3 ページに目を通し、初出の単語の意味を調べて授業に臨み、学習したことを声に出して反復練習する。表現を暗記するとなおよい。
	15	Repaso y examen oral final これまでの総復習と目標達成度確認 期末テスト	期末試験と総復習	これまでに学習した事項や表現の復習

関連科目	スペイン語基礎、スペイン語応用Ⅱ
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Muy Bien! 1	Juan Carlos Moyano Lopez, Carlos Garcia Ruiz-Castillo, Yoshimi Hiroyasu	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における・課題 (50%) 期末試験 (50%) から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen oral final (50%)			
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業は欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的にコミュニケーションに取り組むこと。秋の暗唱大会へ参加するために詩の暗唱と朗詠を行う。 La participacion constante y dinamica en clase es la prioridad para evaluar a cada alumno. Para que la clase sea mas interesante y agradable se espera que los alumnos asistan			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。			

科目名	スペイン語応用 I	科目名 (英文)	Applied Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1091e0		

授業概要・目的	初修外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけなくてはならない。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し活かしながら、スペイン語文の読解と練習問題に取り組むことで理解を深めることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題とスペイン語で書かれた文章を通して、文法の基礎を理解しながら読解の力をつける。 できるだけ多くの文章を読むことで、語彙、表現、文構造の理解を高める。随時配布されるスペイン語圏の歴史・文化についての読み物からスペイン語の読解に親しむ。
授業方法と留意点	・ Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う。 ・ 「入門 A」「入門 B」「入門 C」で配布されある「学習ガイド」を「応用 I」の予習・復習にも活用すること。 ・ 毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。
科目学習の効果 (資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。読解力がつき、要点を把握できるようになる。 スペイン語検定 6 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 第 1 課 アルファベットと発音	アルファベット、母音と子音の発音、音節の分け方とアクセントの位置、挨拶表現	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	2	第 1 課 発音のルール 第 2 課 名詞の性・数	挨拶表現の応用練習、発音練習、名詞の性・数	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	3	第 2 課 名詞の性・数	名詞の性・数、それに合わせた冠詞の使い方、主格人称代名詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	4	第 3 課 動詞 ser	動詞 ser の直説法現在、形容詞の語尾変化、疑問文と否定文	予習と復習 (Lectura 3) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	5	第 4 課 動詞 estar	動詞 estar の直説法現在、hay＋名詞、ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞、不定語と否定語、Lectura 3 の確認	予習と復習 (Lectura 4) 新出語彙を覚える 発音練習
	6	第 1～4 課の学習内容に関する確認テストと復習	発音、アクセントの位置、名詞の性・数をもとにした冠詞・形容詞の性・数一致、ser/estar/hay の使い分けの理解度確認と復習、Lectura 4 の確認	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	7	第 5 課 -ar 動詞の直説法現在	直説法現在の規則変化動詞 (-ar 動詞)、疑問詞、基数詞 0-100	予習と復習 (Lectura 5) 新出語彙を覚える 発音練習
	8	第 6 課 -er, -ir 動詞の直説法現在	Lectura 5 の確認、-er, -ir 動詞の直説法現在規則活用、所有形容詞	予習と復習 (Lectura 6) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	9	第 7 課 gustar 型動詞	Lectura 6 の確認、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の用法、前置詞格人称代名詞	予習と復習 (Lectura 7) 新出語彙を覚える 発音練習
	10	第 5～7 課の学習内容に関する確認テストと復習	Lectura 7 の確認、直説法現在の規則変化動詞、gustar 型動詞、目的格人称代名詞の理解度確認と復習	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	11	第 8 課 語幹母音変化動詞	語幹母音変化動詞 (直説法現在)	予習と復習 (Lectura 8) 新出語彙を覚える 発音練習
	12	第 9 課 1 人称単数形不規則動詞	Lectura 8 の確認、1 人称単数形のみが不規則な動詞 (直説法現在) および tener, venir, ir など使用頻度の高いその他の不規則動詞、hacer の用法	予習と復習 (Lectura 9) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	13	第 9 課までの学習内容に関する確認テスト、総復習	Lectura 9 の確認、第 7 課までの学習内容を踏まえ、語幹母音変化動詞、その他の不規則変化動詞の理解度確認と復習	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	14	難解な事項の質疑応答 前期学習内容全般の理解度確認テスト	ser/estar/hay の使い分け、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の用法の重点的復習、理解度確認テストの実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 臨時試験に備える
	15	理解度確認テストの解説	理解度確認テストの返却と解答解説、前期に学習した内容の包括的解説、質疑応答	復習 新出語彙を覚える 発音練習

関連科目	スペイン語入門 A、B、C、スペイン語オラル I
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版—ベーシック・スペイン語—	青砥清一ほか	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	3			
評価方法 (基準)	課題 40%、臨時試験（小テストと期末の試験）40%、授業時間内の応答・予復習 20%			
学生への メッセージ	初修外国語に早く親しむには毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 わからないことがあれば、いつでも質問してもらいたい。理解度の低い項目については補足教材を配布する。			
担当者の 研究室等	北條研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	・事前・事後学習に要する総学習時間は約 15 時間。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・「応用 I」での学習項目が「入門 A、B、C」に先行することがあるが、「応用 I」の教科書の文法説明を参照しつつ予習し、授業での解説に傾聴していれば、問題ない。			

科目名	スペイン語応用 I	科目名 (英文)	Applied Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1091e0		

授業概要・目的	初修外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけなくてはならない。この授業では、「スペイン語入門 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し活かしながら、スペイン語文の読解と練習問題に取り組むことで理解を深めることを目指す。
到達目標	「スペイン語入門 A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題とスペイン語で書かれた文章を通して、文法の基礎を理解しながら読解の力をつける。 できるだけ多くの文章を読むことで、語彙、表現、文構造の理解を高める。随時配布されるスペイン語圏の歴史・文化についての読み物からスペイン語の読解に親しむ。
授業方法と留意点	・Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う。 ・「入門 A B C」で配布される「学習ガイド」を「応用 I」の予習・復習にも活用すること。 ・毎回予習したうえで授業に臨み、予習段階での疑問点をまとめておくこと。
科目学習の効果 (資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。読解力がつき、要点を把握できるようになる。 スペイン語検定 6 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 第 1 課 アルファベットと発音	アルファベット、母音と子音の発音、音節の分け方とアクセントの位置、挨拶表現	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	2	第 1 課 発音のルール 第 2 課 名詞の性・数	挨拶表現の応用練習、発音練習、名詞の性・数	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	3	第 2 課 名詞の性・数	名詞の性・数、それに合わせた冠詞の使い方、主格人称代名詞	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	4	第 3 課 動詞 ser	動詞 ser の直説法現在、形容詞の語尾変化、疑問文と否定文	予習と復習 (Lectura 3) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	5	第 4 課 動詞 estar	動詞 estar の直説法現在、hay＋名詞、ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞、不定語と否定語、Lectura 3 の確認	予習と復習 (Lectura 4) 新出語彙を覚える 発音練習
	6	第 1～4 課の学習内容に関する確認テストと復習	発音、アクセントの位置、名詞の性・数をもとにした冠詞・形容詞の性・数一致、ser/estar/hay の使い分けの理解度確認と復習、Lectura 4 の確認	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	7	第 5 課 -ar 動詞の直説法現在	直説法現在の規則変化動詞 (-ar 動詞)、疑問詞、基数詞 0-100	予習と復習 (Lectura 5) 新出語彙を覚える 発音練習
	8	第 6 課 -er, -ir 動詞の直説法現在	Lectura 5 の確認、-er, -ir 動詞の直説法現在規則活用、所有形容詞	予習と復習 (Lectura 6) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	9	第 7 課 gustar 型動詞	Lectura 6 の確認、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の用法、前置詞格人称代名詞	予習と復習 (Lectura 7) 新出語彙を覚える 発音練習
	10	第 5～7 課の学習内容に関する確認テストと復習	Lectura 7 の確認、直説法現在の規則変化動詞、gustar 型動詞、目的格人称代名詞の理解度確認と復習	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	11	第 8 課 語幹母音変化動詞	語幹母音変化動詞 (直説法現在)	予習と復習 (Lectura 8) 新出語彙を覚える 発音練習
	12	第 9 課 1 人称単数形不規則動詞	Lectura 8 の確認、1 人称単数形のみが不規則な動詞 (直説法現在) および tener, venir, ir など使用頻度の高いその他の不規則動詞、hacer の用法	予習と復習 (Lectura 9) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	13	第 9 課までの学習内容に関する確認テスト、総復習	Lectura 9 の確認、第 7 課までの学習内容を踏まえ、語幹母音変化動詞、その他の不規則変化動詞の理解度確認と復習	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	14	難解な事項の質疑応答 前期学習内容全般の理解度確認テスト	ser/estar/hay の使い分け、目的格人称代名詞、gustar 型動詞の用法の重点的復習、理解度確認テストの実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 臨時試験に備える
	15	理解度確認テストの解説	理解度確認テストの返却と解答解説、前期に学習した内容の包括的解説、質疑応答	復習 新出語彙を覚える 発音練習

関連科目	スペイン語入門 A、B、C、スペイン語オラル I
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版—ベーシック・スペイン語—	青砥清一ほか	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	3			
評価方法 (基準)	課題 40%、臨時試験（小テストと期末の試験）40%、授業時間内の応答・予復習 20%			
学生への メッセージ	初修外国語に早く親しむには毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 わからないことがあれば、いつでも質問してもらいたい。理解度の低い項目については補足教材を配布する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（3号館2階）			
備考	・事前・事後学習に要する総学習時間は約15時間。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・「応用Ⅰ」での学習項目が「入門A、B、C」に先行することもあるが、「応用Ⅰ」の教科書の文法説明を参照しつつ予習し、授業での解説に傾聴していれば、問題ない。			

科目名	スペイン語応用Ⅱ	科目名（英文）	Applied Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1092e0		

授業概要・目的	初修外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけなくてはならない。この授業では、「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し活かしながら、スペイン語文の読解と練習問題に取り組むことで理解を深めることを目指す。
到達目標	「スペイン語基礎A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題とスペイン語で書かれた文章を通して、文法の基礎を理解しながら読解の力をつける。 できるだけ多くの文章を読むことで、語彙、表現、文構造の理解を高める。随時配布されるスペイン語圏の歴史・文化についての読み物からスペイン語の読解に親しむ。
授業方法と留意点	・第6週まで、Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。第7週から対面授業とする。 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。 ・「スペイン語基礎A」「スペイン語基礎B」「スペイン語基礎C」で学んだばかりの文法事項を再確認しながら課題に取り組むことで、その定着を図る。 ・正答（することだけ）にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。疑問を持ち、考え、質問することが求められる。
科目学習の効果（資格）	文法項目の確認とアウトプットの練習。読解力がつき、要点を把握できるようになる。 スペイン語検定5級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期学習内容の復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞を中心に練習問題および文章読解	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	2	第10課 再帰動詞	再帰動詞、無人称文、感嘆文	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	3	第10課、第11課 再帰動詞、感嘆文、過去分詞	基数 101-1,000,000、序数、過去分詞	予習と復習 (Lectura 10) 新出語彙を覚える 発音練習
	4	第11課 直説法現在完了	Lectura 10 の確認、直説法現在完了、現在分詞	予習と復習 (Lectura 11) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	5	第10・11課の学習内容に関する確認テストと復習	Lectura 11 の確認、再帰動詞の用法、直説法現在完了、過去分詞・現在分詞を中心に確認テストを実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	6	第12課 直説法点過去（規則動詞）	直説法点過去（規則動詞）、不定語と否定語、比較表現	予習と復習 (Lectura 12) 新出語彙を覚える 発音練習
	7	第13課 直説法点過去（不規則動詞）	Lectura 12 の確認、直説法点過去の活用と用法を文章を読みながら理解する。	予習と復習 (Lectura 13) 新出語彙を覚える 発音練習
	8	第14課 直説法線過去	Lectura 13 の確認、再帰動詞の点過去、受身表現、直説法線過去	予習と復習 (Lectura 14) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	9	点過去と線過去の使い分け	Lectura 14 の確認、直説法点過去か線過去かを判断し使い分け、正しく活用する練習をまとまりある文章の中で学ぶ。	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	10	第12～14課の学習内容に関する確認テストと復習	直説法点過去と線過去の使い分けについての確認テストを実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	11	第15課 直説法未来、過去未来	直説法未来、過去未来の活用と用法、関係詞の説明（補足教材）	予習と復習 (Lectura 15) 新出語彙を覚える 発音練習
	12	第16課 命令文	Lectura 15 の確認、5通りの相手に対する命令文（肯定命令と否定命令）、接続法現在	予習と復習 (Lectura 16) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	13	第16課までの学習内容に関する確認テスト、総復習	Lectura 16 の確認、直説法未来、未来完了、命令文についての確認テストを実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	14	難解な事項の質疑応答 前期学習内容全般の理解度確認テスト	再帰動詞、過去分詞・現在分詞、現在完了、点過去、線過去、未来、過去未来、命令文の重点的復習、理解度確認テストの実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 臨時試験に備える
	15	理解度確認テストの解説	理解度確認テストの返却と解答解説、前期に学習した内容の包括的解説、質疑応答	復習 新出語彙を覚える 発音練習

関連科目	スペイン語基礎A、B、C、スペイン語オラルⅡ
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブラサ・マヨールⅠ 改訂ソフト版—ベーシック・スペイン語—	青砥清一ほか	朝日出版社
	2			
	3			

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	3			
評価方法 (基準)	課題 40%、臨時試験（小テストと期末の試験）40%、授業時間内の応答・予復習 20%			
学生への メッセージ	初修外国語に早く親しむには毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 わからないことがあれば、いつでも質問してもらいたい。理解度の低い項目については補足教材を配布する。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	・事前・事後学習に要する総学習時間は約15時間。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・「応用Ⅰ」での学習項目が「入門A、B、C」に先行することがあろうとも、「応用Ⅰ」と「基礎」両方の教科書の文法説明を参照しつつ予習し、授業での解説に傾聴していれば、問題ない。			

科目名	スペイン語応用Ⅱ	科目名 (英文)	Applied Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年度	1 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1092e0		

授業概要・目的	初修外国語は覚えることが多く、暗記と理解に時間をかけなくてはならない。この授業では、「スペイン語基礎 A、B、C」で学んだ文法知識を確認し活かしながら、スペイン語文の読解と練習問題に取り組むことで理解を深めることを目指す。
到達目標	「スペイン語基礎A、B、C」で学んだばかりの内容に対応する練習問題とスペイン語で書かれた文章を通して、文法の基礎を理解しながら読解の力をつける。 できるだけ多くの文章を読むことで、語彙、表現、文構造の理解を高める。随時配布されるスペイン語圏の歴史・文化についての読み物からスペイン語の読解に親しむ。
授業方法と留意点	・6 週目まで Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。7 週目から対面授業とする。 ・「スペイン語基礎A」「スペイン語基礎B」「スペイン語基礎C」で学んだばかりの文法事項を再確認しながら課題に取り組むことで、その定着を図る。 ・正答 (することだけ) にこだわらず、なぜそうなるのかをつねに意識して、原理原則の理解に努めること。疑問を持ち、考え、質問することが求められる。 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。
科目学習の効果 (資格)	文法項目の確認とアウトプットの練習。読解力がつき、要点を把握できるようになる。 スペイン語検定 5 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期学習内容の復習	直説法現在の活用、目的格人称代名詞を中心に練習問題および文章読解	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	2	第 10 課 再帰動詞	再帰動詞、無人称文、感嘆文	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	3	第 10 課、第 11 課 再帰動詞、感嘆文、過去分詞	基数 101-1,000,000、序数、過去分詞	予習と復習 (Lectura 10) 新出語彙を覚える 発音練習
	4	第 11 課 直説法現在完了	Lectura 10 の確認、直説法現在完了、現在分詞	予習と復習 (Lectura 11) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	5	第 10・11 課の学習内容に関する確認テストと復習	Lectura 11 の確認、再帰動詞の用法、直説法現在完了、過去分詞・現在分詞を中心に確認テストを実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	6	第 12 課 直説法点過去 (規則動詞)	直説法点過去 (規則動詞)、不定語と否定語、比較表現	予習と復習 (Lectura 12) 新出語彙を覚える 発音練習
	7	第 13 課 直説法点過去 (不規則動詞)	Lectura 12 の確認、直説法点過去の活用と用法を文章を読みながら理解する。	予習と復習 (Lectura 13) 新出語彙を覚える 発音練習
	8	第 14 課 直説法線過去	Lectura 13 の確認、再帰動詞の点過去、受身表現、直説法線過去	予習と復習 (Lectura 14) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	9	点過去と線過去の使い分け	Lectura 14 の確認、直説法点過去か線過去かを判断し使い分け、正しく活用する練習をまとまりある文章の中で学ぶ。	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	10	第 12~14 課の学習内容に関する確認テストと復習	直説法点過去と線過去の使い分けについての確認テストを実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	11	第 15 課 直説法未来、過去未来	直説法未来、過去未来の活用と用法、関係詞の説明 (補足教材)	予習と復習 (Lectura 15) 新出語彙を覚える 発音練習
	12	第 16 課 命令文	Lectura 15 の確認、5 通りの相手に対する命令文 (肯定命令と否定命令)、接続法現在	予習と復習 (Lectura 16) 新出語彙を覚える 発音練習 次週の確認テストに備える
	13	第 16 課までの学習内容に関する確認テスト、総復習	Lectura 16 の確認、直説法未来、未来完了、命令文についての確認テストを実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習
	14	難解な事項の質疑応答 前期学習内容全般の理解度確認テスト	再帰動詞、過去分詞・現在分詞、現在完了、点過去、線過去、未来、過去未来、命令文の重点的復習、理解度確認テストの実施	予習と復習 新出語彙を覚える 発音練習 臨時試験に備える
	15	理解度確認テストの解説	理解度確認テストの返却と解答解説、前期に学習した内容の包括的解説、質疑応答	復習 新出語彙を覚える 発音練習

関連科目	スペイン語基礎A、B、C、スペイン語オラルⅡ
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブラサ・マヨールⅠ 改訂ソフト版—ベーシック・スペイン語—	青砥清一ほか	朝日出版社
	2			
	3			

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペイン語基礎文法	和佐敦子	白水社
	2	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	3			
評価方法 (基準)	課題 40%、臨時試験（小テストと期末の試験）40%、授業時間内の応答・予復習 20%			
学生への メッセージ	初修外国語に早く親しむには毎日継続的に勉強しよう。予習・復習と自習は不可欠。 わからないことがあれば、いつでも質問してもらいたい。理解度の低い項目については補足教材を配布する。			
担当者の 研究室等	北條研究室			
備考	・事前・事後学習に要する総学習時間は約 15 時間。 ・毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 ・「応用 I」での学習項目が「入門 A、B、C」に先行することがあろうとも、「応用 I」と「基礎」両方の教科書の文法説明を参照しつつ予習し、授業での解説に傾聴していれば、問題ない。			

科目名	スペイン語総合A	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2093e0		

授業概要・目的	・1 年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1 年次に学んだ文法項目を再確認しつつ、接続法の活用と用法を修得することによって、スペイン語文法をひととおり理解する。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句などの小テストおよび中間試験を実施する。
到達目標	基礎的な文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を修得する。自習の中で疑問点を把握し、授業で確認することを習慣づける。
授業方法と留意点	オンライン授業 (Teams によるリアルタイム動画配信型) を行う。教材の配布や課題の提出には WebFolder を用いる。文法・語彙の知識定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ず両方履修すること。予習復習を前提に講義は進行する (配布物の管理をきちんと行うこと)。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度により変更し得る。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
授業計画	1	1 年次での学修内容の復習 (1) 第 1～2 課	直説法現在の活用、人称代名詞、直説法点過去・線過去、現在分詞・過去分詞、直説法現在完了	「入門」・「基礎」の教科書で第 13 課までを参照するとよい。
	2	1 年次での学修内容の復習 (2) 第 2～3 課	直説法現在完了、点過去、線過去の練習問題、直説法未来の活用と用法関係説	「入門」・「基礎」の教科書で第 10 課から 15 課を参照するとよい。
	3	接続法現在の活用と用法 第 4 課	接続法現在規則活用、不規則活用、名詞節の中の接続法 (a: 願望)	「入門」・「基礎」の教科書で第 17 課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
	4	接続法現在の活用と用法 第 4 課	接続法現在不規則活用、名詞節の中の接続法、形容詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第 17・18 課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
	5	接続法現在の活用と用法 第 4 課	接続法現在不規則活用、副詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第 17・18 課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
	6	中間試験 1	これまでの学習内容	プリント類、参考書等もこなすこと。
	7	接続法現在完了と直説法未来完了 第 5 課	接続法現在完了と直説法未来完了	プリント類、参考書等もこなすこと。
	8	第 6 課 肯定命令	肯定命令	「入門」・「基礎」の教科書で第 18 課を参照するとよい。
	9	否定命令、直説法過去未来 第 7 課	直説法過去未来の活用と用法 (現在の事実に対する仮定文ほか)	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	10	中間試験 2	第 5～7 課までの内容	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	11	接続法過去、比較表現 第 8 課	肯定・否定命令の理解度確認 接続法過去の活用と用法、比較表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	12	第 8 課 直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 第 9 課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	13	第 9 課 再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 第 10 課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 再帰動詞、受身表現、動作者不定表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	14	第 10 課	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 今期のまとめ	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	15	臨時試験 接続法の総括	接続法の各時制を直説法のそれと正しく使い分けられるか、理解度を確認する。	教科書の全範囲を読み直し、疑問点をつぶさに挙げる。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シエリト・リンド	栗林ゆき絵ほか	同学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	臨時試験（中間テスト・小テストを含む） 70%、課題 30%			
学生への メッセージ	毎回必ず予習復習をしたうえで授業に出席すること。 欠席した場合は、配布物の有無を WebFolder 上で確認すること（課題提出に必要）。 予習段階で疑問点をまとめ、授業内で確認（質問）できるようにしておくことよい。			
担当者の 研究室等	北條研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	1 年次の教科書を引き続き併用し、ドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することもある。 臨時試験を行った次の回の授業で答案を返却し解説する。			

科目名	スペイン語総合B	科目名 (英文)	Integrated Spanish Skills B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2094e0		

授業概要・目的	・1 年次の「スペイン語入門・基礎」の続編。1 年次に学んだ文法項目を再確認しつつ、接続法の活用と用法を修得することによって、スペイン語文法をひととおり理解する。 ・「総合A」と「総合B」はリレー形式で進めていくので、必ず両方を履修すること。 ・随時、語句などの小テストおよび中間試験を実施する。
到達目標	基礎的な文法事項の反復練習を行い定着を図る。命令形と接続法を中心とする文法事項を修得する。自習の中で疑問点を把握し、授業で確認することを習慣づける。
授業方法と留意点	オンライン授業 (Teams によるリアルタイム動画配信型) を行う。教材の配布や課題の提出には WebFolder を用いる。文法・語彙の知識定着を目指す。総合AとBはリレー形式で進むので、必ず両方履修すること。予習復習を前提に講義は進行する (配布物の管理をきちんと行うこと)。授業計画、予定はあくまで目安であり、習熟度により変更し得る。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1 年次での学修内容の復習 (1) 第 1～2 課	直説法現在の活用、人称代名詞、直説法点過去・線過去、現在分詞・過去分詞、直説法現在完了	「入門」・「基礎」の教科書で第 13 課までを参照するとよい。
	2	1 年次での学修内容の復習 (2) 第 2～3 課	直説法現在完了、点過去、線過去の練習問題、直説法未来の活用と用法関係説	「入門」・「基礎」の教科書で第 10 課から 15 課を参照するとよい。
	3	接続法現在の活用と用法 第 4 課	接続法現在規則活用、不規則活用、名詞節の中の接続法 (a: 願望)	「入門」・「基礎」の教科書で第 17 課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
	4	接続法現在の活用と用法 第 4 課	接続法現在不規則活用、名詞節の中の接続法、形容詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第 17・18 課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
	5	接続法現在の活用と用法 第 4 課	接続法現在不規則活用、副詞節の中の接続法	「入門」・「基礎」の教科書で第 17・18 課を参照するとよい。 プリント類、参考書等もこなすこと。
	6	中間試験 1	これまでの学習内容	プリント類、参考書等もこなすこと。
	7	接続法現在完了と直説法未来完了 第 5 課	接続法現在完了と直説法未来完了	プリント類、参考書等もこなすこと。
	8	第 6 課 肯定命令	肯定命令	「入門」・「基礎」の教科書で第 18 課を参照するとよい。
	9	否定命令、直説法過去未来 第 7 課	直説法過去未来の活用と用法 (現在の事実に対する仮定文ほか)	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	10	中間試験 2	第 5～7 課までの内容	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	11	接続法過去、比較表現 第 8 課	肯定・否定命令の理解度確認 接続法過去の活用と用法、比較表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	12	第 8 課 直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 第 9 課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	13	第 9 課 再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 第 10 課	直説法過去完了、過去未来完了、接続法過去完了、条件文 再帰動詞、受身表現、動作者不定表現	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	14	第 10 課	再帰動詞、受身表現、動作者不定表現 今期のまとめ	プリント類、参考書等もこなすこと。 「入門」・「基礎」の教科書で該当箇所を参照するとよい。
	15	臨時試験 接続法の総括	接続法の各時制を直説法のそれと正しく使い分けられるか、理解度を確認する。	教科書の全範囲を読み直し、疑問点をつぶさに挙げる。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シエリト・リンド	栗林ゆき絵ほか	同学社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	臨時試験（中間テスト・小テストを含む）70％、課題30％			
学生への メッセージ	毎回必ず予習復習をしたうえで授業に出席すること。 欠席した場合は、ほかの受講生に配布物をコピーしてもらなどして自分自身で不足を補うこと（予習に必要）。 予習段階で疑問点をまとめ、授業内で確認（質問）できるようにしておくことよい。			
担当者の 研究室等	安達研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	1 年次の教科書を引き続き併用し、その後はドリル、練習問題、読解用のテキストなどプリントを配布することもある。配布物は欠席するともらえない（その都度一度しか配布しない）ため、自分の不利益、手間につながることを肝に銘じること。 臨時試験を行った次の回の授業で答案を返却し解説する。			

科目名	スペイン語トピックス	科目名 (英文)	Topics in the Spanish Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2095e0		

授業概要・目的	スペイン語圏の歴史や文化などに関する文章の読解を通して、スペイン語の実践的な語彙や表現を習得する。また、DVD などの視覚教材を用いて、スペイン語圏の様々なテーマについての理解を深める。																																																																		
到達目標	スペイン語の読解力と語彙力を養う。スペイン語圏についての理解を深める。																																																																		
授業方法と留意点	・第 6 週まで Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。 ・授業スケジュール及び内容は一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。 ・授業で扱ったテーマを掘り下げた発表やレポートを課す予定である（テーマなどは授業内に指示する）。 ・第 7 週から、対面授業を実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方や評価基準について</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>スペインの文化、歴史 (1)</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>スペインの文化、歴史 (2)</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>スペインの文化、歴史 (3)</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>まとめ</td><td>復習 (小テストを含む)</td><td>既習事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>スペインの世界遺産 (1)</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>スペインの世界遺産 (2)</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>スペインの地理</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>まとめ</td><td>復習 (小テストを含む)</td><td>既習事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ラテンアメリカの文化、歴史</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ラテンアメリカの世界遺産 (1)</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ラテンアメリカの世界遺産 (2)</td><td>読解とテーマに関する解説など</td><td>配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>まとめ</td><td>復習 (小テストを含む)</td><td>既習事項の確認、復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表 (1)</td><td>履修生による発表 (1)</td><td>事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>発表 (2)</td><td>履修生による発表 (2)</td><td>事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。	2	スペインの文化、歴史 (1)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	3	スペインの文化、歴史 (2)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	4	スペインの文化、歴史 (3)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	5	まとめ	復習 (小テストを含む)	既習事項の確認、復習	6	スペインの世界遺産 (1)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	7	スペインの世界遺産 (2)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	8	スペインの地理	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	9	まとめ	復習 (小テストを含む)	既習事項の確認、復習	10	ラテンアメリカの文化、歴史	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	11	ラテンアメリカの世界遺産 (1)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	12	ラテンアメリカの世界遺産 (2)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習	13	まとめ	復習 (小テストを含む)	既習事項の確認、復習	14	発表 (1)	履修生による発表 (1)	事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。	15	発表 (2)	履修生による発表 (2)	事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方や評価基準について	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。																																																																
2	スペインの文化、歴史 (1)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
3	スペインの文化、歴史 (2)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
4	スペインの文化、歴史 (3)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
5	まとめ	復習 (小テストを含む)	既習事項の確認、復習																																																																
6	スペインの世界遺産 (1)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
7	スペインの世界遺産 (2)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
8	スペインの地理	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
9	まとめ	復習 (小テストを含む)	既習事項の確認、復習																																																																
10	ラテンアメリカの文化、歴史	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
11	ラテンアメリカの世界遺産 (1)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
12	ラテンアメリカの世界遺産 (2)	読解とテーマに関する解説など	配布されたプリントに目を通し、課題に取り組む。 文法事項の確認、復習																																																																
13	まとめ	復習 (小テストを含む)	既習事項の確認、復習																																																																
14	発表 (1)	履修生による発表 (1)	事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。																																																																
15	発表 (2)	履修生による発表 (2)	事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業参加度・レポート・発表など 30%、臨時試験 (小テスト) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を望む。 事前に配布したプリント必ず熟読し、授業に臨むこと。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間を目安とする。																																																																		

科目名	映画のスペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish through the Movies I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2096e0		

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。																																																																		
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	7 週目まで Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。8 週目から対面授業とする。映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行い、重要語彙や表現をチェックしながら書く場面の内容を理解する。その後、習得した語彙や表現を用いて、見た映画の要約あるいは感想をスペイン語で述べる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Actividades con películas (1-1)</td><td>イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Actividades con películas (1-2)</td><td>ヒヤリングとディクテーション (2)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Actividades con películas (1-3)</td><td>ヒヤリングとディクテーション (3)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Actividades con películas (1-4)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Actividades con películas (2-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Actividades con películas (2-2)</td><td>ヒヤリングとディクテーション (2)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Actividades con películas (2-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>学習内容の確認</td><td>語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。</td><td>第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Actividades con películas (3-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Actividades con películas (3-2)</td><td>ヒヤリングとディクテーション (2)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Actividades con películas (3-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Actividades con películas (4-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Actividades con películas (4-2)</td><td>ヒヤリングとディクテーション (1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Actividades con películas (4-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>学習内容の確認</td><td>語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。</td><td>第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション (3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。	9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション (3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。																																																																
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション (2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション (1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。																																																																
関連科目	スペイン語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業における取り組み姿勢・応答、課題 70%、小テスト 30%																																																																		
学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	辞書は必携 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 毎回授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。																																																																		

科目名	スペイン語オラルⅢ	科目名 (英文)	Spanish Conversation III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2097e0		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という 3 つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1 年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	1 年次に学習したスペイン語の基礎知識を駆使しながら、スペイン語での簡単な応答練習を繰り返す。 「Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う」
科目学習の効果 (資格)	スペイン語技能検定 5 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Nos gusta 2 の Unidad Preliminar 復習しましょう	授業の進め方について 復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	2	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 完結した出来事を表す、連続して起こったことを表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Nos gusta 2 の Unidad 1 開けたかったけど、開けられなかった	直接法点過去 規則活用。 時を表す前置詞を使った表現、伝記を書く際に用いる語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 所有詞後置形、所有詞の用法。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Nos gusta 2 の Unidad 2 曾祖母は男装して...	直接法点過去 不規則活用。 お話やエピソードを語る。 過去の出来事に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 過去の習慣を表す、過去の人物について話す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Nos gusta 2 の Unidad 3 美人で顔がよくて面白かった	直接法線過去 規則活用と不規則活用。 時を表す表現、日常の活動を表す動詞、人や物を描写する形容詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
	9	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたの、眠ってしまった	線過去と点過去。 再帰構文の相互用法。 事前の状況を説明しながらお話やエピソードを語る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	10	Nos gusta 2 の Unidad 4 とても疲れていたの、眠ってしまった	線過去と点過去。 理由、結果、時間を表す筋をつなぐ語句。 驚き、興味、残念な気持ちを表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	11	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 友達同士で、また病院で体調や感情を表す。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Nos gusta 2 の Unidad 5 どうしたの？	動詞 doler と parecer, ser+形容詞/副詞 体の部位、健康に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 発話時に起こっている出来事を表す。 断る際の理由付けをする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Nos gusta 2 の Unidad 6 何をしているの？	進行形。最上級。関係詞 que と donde。 日常の活動を表す動詞。 文化的事象の紹介に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	総復習	臨時試験と解説	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への参加状況、毎週の課題提出状況 (70%)、提出された課題の内容と質 (30%)
-----------	---

学生へのメッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
-----------	---

担当者の 研究室等	非常勤講師室（3号館2階）
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 試験の後には解説を行う。

科目名	スペイン語オラルⅣ	科目名 (英文)	Spanish Conversation Ⅳ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2098e0		

授業概要・目的	この授業で用いる教科書は、実践的会話力を養うための場面設定、言語運用能力を培うためのまとまりのある語彙と文法説明、文化社会的知識を深めるために読ませる文章という 3 つの局面から各課が構成されている。その都度、何を目的に学んでいるのか認識しながら学習を進めると効果的である。
到達目標	1 年次に習得したスペイン語の基礎をもとに、いっそう複雑な会話表現ができるだけ正確にできるようにする。
授業方法と留意点	7 週目まで Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。8 週目から対面授業とする。 スペイン語で聞き取り話すことに慣れるための授業であるため、積極的な発言と質問を行うことが大切である。課題の提出は指定された方法・期限を厳守すること (E-mail で提出し、添削を受信後必ず確認する)。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語技能検定 5 級～4 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習しましょう Nos gusta 2 の Repaso 2	復習	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	2	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	直説法現在完了の活用。 過去分詞の規則形と不規則形。 現在完了の用法。 不定語と否定語。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	3	Nos gusta 2 の Unidad 7 気球に乗ったことある？	経験を表す。 現在とつながりを持つ過去の出来事を表す。 日常の活動を表す動詞。 余暇活動と旅行に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	4	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	不定主語文。 指示をを与える。情報を求める。苦情を言う。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	5	Nos gusta 2 の Unidad 8 アサリの漁師風ってどうやって作るの？	序数。料理や食生活に関する語彙。 旅行に関する語彙。 日常生活で使われる道具、機会に関する語彙。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	6	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	直説法未来 規則活用と不規則活用。 -mente で終わる副詞。 未来の出来事を表す。現在に関わる推量を表す。依頼や忠告をする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	7	Nos gusta 2 の Unidad 9 いつか君と旅行しよう	依頼と忠告を表す表現。 日常の出来事を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	8	復習と確認	これまで習った範囲の復習テスト	復習
	9	Nos gusta 2 の Unidad 10 これから少しずつお元気で	接続法現在 規則活用。 願望を表す。何かを申し出る。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	10	Nos gusta 2 の Unidad 10 これから少しずつお元気で	日常の活動を表す動詞。 学習に関する語彙。 他の人や自分のための願望を表す表現。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	11	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	接続法現在 不規則活用。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す。 意見を述べる。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	12	Nos gusta 2 の Unidad 11 気に入ってくれて嬉しいです	日常の活動を表す動詞。 好きなこと、嫌なこと、驚いたことを表す動詞。 意見を述べる動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	13	Nos gusta 2 の Unidad 12 おひとつどうぞ、とても美味しいですよ	肯定命令。否定命令。 命令形と人称代名詞。 命令、指示、忠告をする。 依頼したり申し出たりする。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	14	Nos gusta 2 の Unidad 12 おひとつどうぞ、とても美味しいですよ	日常の活動を表す動詞。	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。
	15	総復習	臨時試験とスペイン語での発表	教科書を事前に学習し、講義後は復習する。

関連科目	スペイン語の全科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法	授業における取り組み姿勢・応答、課題 80%、臨時試験 (口頭) の成績 20%		

(基準)	
学生への メッセージ	辞書をつねに携帯すること。授業に欠かさず出席し、まちがいを懼れず積極的に臨むこと。
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	. 事前・事後学習に要する総時間数は15時間を目安とする。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペイン語文章構成 I	科目名 (英文)	Spanish Composition I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2099e0		

授業概要・目的	文の要素と構造を正しく理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。後半はそれと並行して、身近なテーマで短いスピーチ原稿を作成し、それをスペイン語に訳す。その自作スピーチの添削を受けた後、暗唱し発表する。これを後期に行うスピーチ・コンテストの試行体験と位置づける。
到達目標	基本文型を理解し、正確なスペイン語での文章表現ができる。 語彙力を高め、多様な表現を作ることができる。
授業方法と留意点	和辞典は必須です。必ず購入しておくこと。辞書は必ず授業に持参すること。 必ず与えられた練習問題を解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、スペイン語の文の構造と構文についての理解を深める。指示された作文の宿題は提出してもらいます。受講生の理解度によっては、授業計画の進捗がずれる可能性があります。 Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を実施します。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級～4 級 (4 級合格には接続法の理解が必要です。)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文の要素	主部・述部、句・節、単文・複文・重文、目的語、補語の理解と判別	文法用語の確認と品詞ごとの特徴の整理
	2	第 1 課 語順 (1)	文型と文の種類	和文西訳 (2～3 頁) をしておくこと 語彙の整理
	3	第 2 課 ser, estar, haber の使い分け	ser, estar, haber の使い分けと形容詞と副詞の正確な使い方	和文西訳 (6～7 頁) をしておくこと 語彙の整理
	4	冠詞、所有詞、指示詞、数量詞	名詞の前に置いて名詞を限定する冠詞、所有詞、指示詞、数量詞の用法	事前に配布されたプリントを読みと和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	5	第 3 課 不定語・否定語	一般動詞と不定語・否定語を用いた文	和文西訳 (10～11 頁) をしておくこと 語彙の整理
	6	一般動詞と不定詞 第 4 課 天候・気候の表現	一般動詞と不定詞を用いた現在時制の文 天候・気候を正しく表現する	事前に配布されたプリントとテキスト (14～15 頁) の和文西訳をしておくこと 語彙の整理
	7	第 5 課 gustar 型動詞	gustar, interesar, parecer, doler 等の動詞	和文西訳 (18～19 頁) をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の準備 (和文)
	8	前半のまとめ	既習項目の復習	既習事項の復習 (2～15 頁、配布プリント)
	9	第 6 課 比較の表現	比較級と最上級	和文西訳 (22～23 頁) をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の西訳
	10	第 7 課 完了・経験・継続の表現	現在完了を用いた文	和文西訳 (26～27 頁) をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の添削を受け、理解した上で完成原稿を作成する
	11	第 8 課 点過去と線過去の使い分け	過去の動作・行為を正しく表現する	和文西訳 (32～33 頁) をしておくこと 語彙の整理と動詞の活用の確認 スピーチ原稿の西訳
	12	第 9 課 再帰動詞 (1)	自動詞と他動詞の再帰動詞を用いた文	和文西訳 (36～37 頁) をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿を暗唱し、発表の練習をする
	13	第 10 課 再帰動詞 (2)	再帰動詞の相互・転意の用法	和文西訳 (40～41 頁) をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿を暗唱し、発表の練習をする
	14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努め、同時に未知の語彙を聞き取り書きとめる	事前に、スピーチ発表のための発音、イントネーション、表現力などの指導を行う
	15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習	総復習 (第 1 課～第 10 課)

関連科目	スペイン語オラルⅢ、総合スペイン語 A・B、メディアのスペイン語 I
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	表現のためのスペイン語作文	木越勉・古川亜矢	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など 40%、臨時試験 60%
学生へのメッセージ	主語と動詞、形容詞や副詞といった品詞の使い方、文型をよく理解することが大切です。これらにこだわって取り組んでください。 自作原稿をスペイン語に訳して暗唱する初めてのスピーチを体験します。
担当者の研究室等	非常勤講師控室 (3 号館 2 階)
備考	語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限に活用すること。

	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 授業内で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。
--	---

科目名	スペイン語文章構成Ⅱ	科目名（英文）	Spanish Composition II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー（DP）	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2100e0		

授業概要・目的	文の要素と構造をきちんと理解することを通して、スペイン語での文構築が正確にできる力を養う。 1 月初旬に行うスペイン語スピーチ・コンテストの原稿作成に重点をおく。日本語原稿を夏休み前までに完成させ、夏休み中にスペイン語訳に取り組み、後期初回の授業で提出する。12 月半ばまでに添削を受け、音読と暗唱の練習を行う。
到達目標	複文を含めた文章構造を理解し、スペイン語での正確かつ多様な文章表現ができる。 語彙力を高めて、自分の経験や考えを表現できる。
授業方法と留意点	必ず与えられた練習問題を解いたうえで授業に臨み、受講生の板書に対する添削と説明を聴き、スペイン語の文の構造と構文についての理解を深める。指示された作文の宿題は提出する。 理解度やスピーチ・コンテストの日程により、授業内容の順番が入れ替わることもある。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 4 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	既習項目の復習	点過去、線過去、現在完了、再帰動詞などの復習 スピーチ原稿指導	点過去、線過去、現在完了の活用と用法の確認と再帰動詞の用法の確認 スピーチ原稿の西訳の提出
	2	第 11 課 受身の se を使った文・動詞 3 人称複数形を使った表現	se と過去分詞を用いた受動文 スピーチ原稿指導	和文西訳（44～45 頁）をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	3	第 12 課 一般の se を使った表現	se と動詞 3 人称複数形を用いた文 スピーチ原稿指導	和文西訳（48～49 頁）をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	4	第 13 課 未来	未来、推量、命令の文 スピーチ原稿指導	和文西訳（52～53 頁）をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	5	第 14 課 命令表現（1）	目的格人称代名詞を伴う命令文 スピーチ原稿指導	和文西訳（56～57 頁）をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	6	第 15 課 命令表現（2）	再帰動詞の命令文 スピーチ原稿指導	和文西訳（62～63 頁）をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	7	現在分詞・過去分詞など	現在分詞、過去分詞などを用いた文 スピーチ原稿指導 対面授業	事前に配布されたプリントを読み和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	8	前半のまとめ	既習項目の復習 スピーチ原稿指導 対面授業	既習項目（44～63 頁と配布プリント）の復習 スピーチの暗誦と練習
	9	第 16 課 接続法現在（1）	名詞節での接続法現在の用法 スピーチ原稿指導 対面授業	和文西訳（70～71 頁）をしておくこと 語彙の整理 スピーチの練習
	10	第 17 課 接続法現在（2）	形容詞節と副詞節での接続法現在の用法 コンテスト直前スピーチ指導 対面授業	和文西訳（74～75 頁）をしておくこと 語彙の整理 スピーチの練習
	11	第 18 課 接続法過去（1）	名詞節での接続法過去の用法 対面授業	和文西訳 78～79 頁）をしておくこと 語彙の整理
	12	第 19 課 接続法過去（2）	形容詞節と副詞節および現在の事実 に反する条件文での接続法過去の用法 対面授業	和文西訳（82～83 頁）をしておくこと 語彙の整理
	13	第 20 課 過去未来	過去における推量と現在の事実 に反する条件文 対面授業	和文西訳（86～87 頁）をしておくこと 語彙の整理
	14	第 21 課 複合時制	多様な時制の完了形を用いた文 対面授業	和文西訳（90～91 頁）をしておくこと 語彙の整理
	15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習 対面授業	総復習（70～91 頁）

関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語トピックス、メディアのスペイン語Ⅱ
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	表現のためのスペイン語作文	木越勉・古川亜矢	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲 40%、臨時試験 60%
----------	--

学生への メッセージ	前期のスピーチ体験に続いて、後期ではより内容の深いスピーチを目指し、日本語原稿の作成からスペイン語訳、添削、朗読練習を経て暗唱・発表まで取り組みます。夏休み前に配布する実施要領に従って計画的に準備してください。自分の経験や考えをスペイン語で表現し伝える楽しみを感じられるように、自信と勇気をもってやり遂げましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	語彙力を養うために、ボキャブラリ・コンテストのための単語リストを最大限に活用すること。 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。

科目名	メディアのスペイン語 I	科目名 (英文)	Media Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2101e0		

授業概要・目的	直説法過去未来までの文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、語彙力をさらに高めることを目指す。
到達目標	・スペイン語の文法知識が深まり、直説法に限定した長文の内容を正確に読み解くことができる。 ・中級程度の語彙を修得し、最小限の辞書の使用で比較的平易な新聞記事の内容が理解できる。
授業方法と留意点	・Teams においてリアルタイムで遠隔授業を行います。 ・教科書に基づいて、文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の書き写しと和訳に取り組む。辞書を徹底的に使い、自力で訳すこと。 ・語彙力の確認のために定期的に単語テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級 (直説法終了まで)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スペイン語の文章読解のポイント	授業の概要説明と読解のための文の構造についての説明	文の構造を解析する課題の提出、『単語帳』pp. 56-61 の語彙を覚える (1 時間)
	2	第 1 課 (1)	文法 (直説法現在と再帰動詞) および語彙の確認、発音練習	教科書 1 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 56-61 の語彙を覚える (1 時間)
	3	第 1 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 1 課の和訳の再確認、2 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 56-61 の語彙を覚える (1 時間)
	4	第 2 課 (1)	文法 (gustar と不定詞)、語彙の確認、発音練習、単語テスト (pp. 56-61)	教科書 2 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 62-65 の語彙を覚える (1 時間)
	5	第 2 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 2 課の和訳の再確認、3 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 62-65 の語彙を覚える (1 時間)
	6	第 3 課 (1)	文法 (現在完了と点過去) および語彙の確認と発音練習、単語テスト (pp. 62-65)	教科書 3 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 66-71 の語彙を覚える (1 時間)
	7	第 3 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 3 課の和訳の再確認、4 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 66-71 の語彙を覚える (1 時間)
	8	第 4 課 (1)	文法 (点過去と線過去) および語彙の確認と発音練習、単語テスト (pp. 66-71)	教科書 4 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 72-77 の語彙を覚える (1 時間)
	9	第 4 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 4 課の和訳の再確認、5 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 72-77 の語彙を覚える (1 時間)
	10	第 5 課 (1)	文法 (過去時制の使い分け) および語彙の確認と発音練習、単語テスト (pp. 72-77)	教科書 5 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 78-82 の語彙を覚える (1 時間)
	11	第 5 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 5 課の和訳の再確認、6 課の文法問題、語彙の意味調べ、リスニングの穴埋めおよび『単語帳』pp. 78-82 の語彙を覚える (1 時間)
	12	第 6 課 (1)	文法 (未来と過去未来) および語彙の確認と発音練習、単語テスト (pp. 78-82)	教科書 6 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 78-82 の語彙を覚える (1 時間)
	13	第 6 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 6 課の和訳の再確認、7 課の本文写しと和訳および『単語帳』pp. 78-82 の語彙を覚える (1 時間)
	14	第 7 課 (1)	文法 (比較級) および語彙の確認と発音練習	教科書 7 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳
	15	第 7 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 6 課の和訳の再確認、文章構造の読み解き方について復習・自己点検 (1 時間)

関連科目	スペイン語オラルⅢ、スペイン語総合 A・B、スペイン語文章構成 I
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、課題の和訳の質および語彙力によって総合的に評価する。 ・課題提出状況および課題の質 (70%) ・単語テストおよびボキャブラリコンテスト (30%)
-----------	---

学生へのメッセージ	・2 年次は語学学習において基礎固めができる重要な時期です。大学に慣れて気が緩みがちになりやすいので、集中して取り組むよう意識してください。 ・授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。 ・語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります。
-----------	--

担当者の研究室等	藤井研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	--

備考	各回の事前・事後学習に要する総時間数は 15 時間を目安とする。 テストは返却時に解答の見直しを行う。臨時試験の返却と見直しは藤井研究室で行う。
----	---

ポキャブラリコンテストを実施する場合は授業進度が変更になる可能性がある。

科目名	メディアのスペイン語Ⅱ	科目名 (英文)	Media Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL2102e0		

授業概要・目的	接続法を中心に文法事項を再確認しつつ、その知識を駆使してスペイン語の長文読解の力を身につけ、同時に語彙力をさらに高めることを目指す。読解を通してスペイン語圏の知識もあわせて深める。
到達目標	・スペイン語の文法知識が深まり、接続法を含む長文の内容を正確に読み解くことができる。 ・中級程度から一部の専門的な語彙を修得し、最小限の辞書の使用で難易度の高い新聞記事の内容が理解できる。
授業方法と留意点	・7 週目まで Teams によるオンライン授業とし、8 週目から対面授業とする。 ・教科書に基づいて、文法・語彙の練習問題、リスニング、ニュース記事の書き写しと和訳に取り組む。辞書を徹底的に使い、自力で訳すこと。 ・語彙力の確認のために定期的に単語テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級～3 級 (3 級の語彙は難易度が高い)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 8 課 (1)	文法 (副詞節と関係詞節での接続法現在) と語彙の確認、発音練習	教科書 8 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳 (1 時間)
	2	第 8 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 8 課の和訳の再確認、9 課の文法問題、語彙の意味調べ (1 時間)
	3	第 9 課 (1)	文法 (名詞節・副詞節での接続法) と語彙の確認、発音練習	教科書 9 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳 (1 時間)
	4	第 9 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 9 課の和訳の再確認、10 課の文法問題、語彙の意味調べおよび 8～9 課の語彙の暗記 (1 時間)
	5	第 10 課 (1)	文法 (名詞節・副詞節での接続法) と語彙の確認と発音練習、単語テスト (8～9 課)	教科書 10 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳 (1 時間)
	6	第 10 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 10 課の和訳の再確認、11 課の文法問題、語彙の意味調べ (1 時間)
	7	第 11 課 (1)	文法 (接続法現在完了) と語彙の確認と発音練習	教科書 11 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳 (1 時間)
	8	第 11 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 11 課の和訳の再確認、12 課の文法問題、語彙の意味調べおよび 10～11 課の語彙の暗記 (1 時間)
	9	第 12 課 (1)	文法 (接続法過去・名詞節) と語彙の確認、発音練習、単語テスト (10～11 課)	教科書 12 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳 (1 時間)
	10	第 12 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 12 課の和訳の再確認、13 課の文法問題、語彙の意味調べ (1 時間)
	11	第 13 課 (1)	文法 (接続法過去・形容詞節と副詞節) と語彙の確認、発音練習	教科書 13 課の語彙の暗記、記事の本文写しと和訳 (1 時間)
	12	第 13 課 (2)	西文和訳と正誤問題	教科書 13 課の和訳の再確認と 14 課の記事の本文写しと和訳および 12～13 課の語彙の暗記 (1 時間)
	13	第 14 課	文法 (条件文) と西文和訳、単語テスト (12～13 課)	教科書 14 課の文法事項と和訳の再確認および前期に覚えた『単語帳』の Nivel 1～3 の語彙の再確認 (1 時間)
	14	語彙力診断テスト	『単語帳』の Nivel 1～3 を範囲に単語 100 問のテスト	8 課～14 課を総復習しテストに備える (1 時間)
	15	理解度確認テストおよび既習範囲の復習	既習の文法事項、語彙力、長文読解力の確認および読解の要点の解説	テストの見直し、学習事項の理解度の点検 (1 時間)

関連科目	スペイン語オラルⅣ、スペイン語文章構成Ⅱ、スペイン語トピックス、映画のスペイン語Ⅰ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニュースを聞こう！中級スペイン語 (Es noticia)	中島聡子ほか	三修社
	2	書き込み式 スペイン語単語帳 (1 年次使用のもの)	藤井嘉祥ほか	朝日出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	西和中辞典	高垣敏博ほか	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、課題の和訳の質および語彙力によって総合的に評価する。 ・課題提出状況および課題の質 (50%) ・単語テスト (10%) ・臨時試験 (中間テスト・期末テスト) (40%)
-----------	--

学生へのメッセージ	・2 年次は語学学習において基礎固めができる重要な時期です。大学に慣れて気が緩みがちになりやすいので、集中して取り組むよう意識してください。 ・授業には辞書を持参すること。既習の文法事項を見直ししながら、とにかく辞書を徹底的に使って自力で訳してください。 ・語彙の暗記も意識的に取り組んでください。根気よく継続すれば必ず内容の理解度と読むスピードは上がります
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室
----------	----------------

備考	各回の事前・事後学習に要する総時間数は 15 時間を目安とする。 テストは返却時に解答の見直しを行う。理解度確認テストの返却と見直しは藤井研究室で行う。 ボキャブラリ・コンテストを実施する場合は授業進度が変更になる可能性がある。
----	---

科目名	スペイン語オラルV	科目名 (英文)	Spanish Conversation V
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3103d0		

授業概要・目的	2 年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。 De acuerdo a las habilidades del idioma español adquiridas hasta el segundo año, el objetivo no es solo comunicarse, sino también adquirir conocimientos básicos desde diversos																																																																		
到達目標	日常会話よりも深い内容の対話ができるようになる。そのために、テーマについて予め調べ、新しい知識についてスペイン語で説明したり、質問したりすることをめざす。 Para lograr una conversación diaria en el futuro, el objetivo del curso será investigar distintos temas por adelantado y explicarlo con sus propias palabras y conocimientos e																																																																		
授業方法と留意点	教科書は用いず、教材を配布する。 Se distribuirán materiales didácticos sin usar libros de texto.																																																																		
科目学習の効果 (資格)	スペイン語技能検定 4 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Aprender un idioma</td><td>Debate y opinión a partir de una infografía.</td><td>Ejemplos de distintos acentos y palabras en español según países hispanohablantes.</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Que te sugiere esta imagen?</td><td>Describir una fotografía.</td><td>Hacer una historia a partir de una fotografía.</td></tr> <tr> <td>3</td><td>La moda</td><td>Tema de conversación y valoración de opiniones.</td><td>Buscar y comparar la moda de antes y después.</td></tr> <tr> <td>4</td><td>El turista</td><td>Describir lugares como tema de conversación sobre el turismo.</td><td>Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Libros y lecturas 1</td><td>Presentación con citas de lectura.</td><td>Elegir lecturas para exponer en clase.</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Libros y lecturas 2</td><td>Presentación con citas de lectura.</td><td>Elegir lecturas para exponer en clase.</td></tr> <tr> <td>7</td><td>La Unesco en el mundo hispano 1</td><td>Patrimonio de la humanidad.</td><td>Elegir lugares y presentar.</td></tr> <tr> <td>8</td><td>La Unesco en el mundo hispano 2</td><td>Patrimonio de la humanidad.</td><td>Elegir lugares y presentar.</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Películas y/o cortometrajes para aprender español real 1</td><td>Escuchar y practicar español real.</td><td>Elegir películas en español.</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Películas y/o cortometrajes para aprender español real 2</td><td>Escuchar y practicar español real.</td><td>Elegir películas en español.</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Biografía sobre un personaje que admires 1</td><td>Comentar por qué se admira a ese personaje muerto o vivo.</td><td>Buscar personaje y para presentar.</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Biografía sobre un personaje que admires 2</td><td>Comentar por qué se admira a ese personaje muerto o vivo.</td><td>Buscar personaje y para presentar.</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Mi trabajo ideal.</td><td>Describir en qué les gustaría trabajar usando el español.</td><td>Buscar sobre un trabajo ideal.</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Mi vida en 30 o 50 años.</td><td>Imaginarse que estarán haciendo en 30 o 50 años, qué tipo de personas serán.</td><td>Presentar opiniones.</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Presentación oral examen final</td><td>Escoger un tema original</td><td>Preparar el tema.</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Aprender un idioma	Debate y opinión a partir de una infografía.	Ejemplos de distintos acentos y palabras en español según países hispanohablantes.	2	Que te sugiere esta imagen?	Describir una fotografía.	Hacer una historia a partir de una fotografía.	3	La moda	Tema de conversación y valoración de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y después.	4	El turista	Describir lugares como tema de conversación sobre el turismo.	Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.	5	Libros y lecturas 1	Presentación con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.	6	Libros y lecturas 2	Presentación con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.	7	La Unesco en el mundo hispano 1	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.	8	La Unesco en el mundo hispano 2	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.	9	Películas y/o cortometrajes para aprender español real 1	Escuchar y practicar español real.	Elegir películas en español.	10	Películas y/o cortometrajes para aprender español real 2	Escuchar y practicar español real.	Elegir películas en español.	11	Biografía sobre un personaje que admires 1	Comentar por qué se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.	12	Biografía sobre un personaje que admires 2	Comentar por qué se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.	13	Mi trabajo ideal.	Describir en qué les gustaría trabajar usando el español.	Buscar sobre un trabajo ideal.	14	Mi vida en 30 o 50 años.	Imaginarse que estarán haciendo en 30 o 50 años, qué tipo de personas serán.	Presentar opiniones.	15	Presentación oral examen final	Escoger un tema original	Preparar el tema.
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Aprender un idioma	Debate y opinión a partir de una infografía.	Ejemplos de distintos acentos y palabras en español según países hispanohablantes.																																																																
2	Que te sugiere esta imagen?	Describir una fotografía.	Hacer una historia a partir de una fotografía.																																																																
3	La moda	Tema de conversación y valoración de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y después.																																																																
4	El turista	Describir lugares como tema de conversación sobre el turismo.	Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.																																																																
5	Libros y lecturas 1	Presentación con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.																																																																
6	Libros y lecturas 2	Presentación con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.																																																																
7	La Unesco en el mundo hispano 1	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.																																																																
8	La Unesco en el mundo hispano 2	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.																																																																
9	Películas y/o cortometrajes para aprender español real 1	Escuchar y practicar español real.	Elegir películas en español.																																																																
10	Películas y/o cortometrajes para aprender español real 2	Escuchar y practicar español real.	Elegir películas en español.																																																																
11	Biografía sobre un personaje que admires 1	Comentar por qué se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.																																																																
12	Biografía sobre un personaje que admires 2	Comentar por qué se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.																																																																
13	Mi trabajo ideal.	Describir en qué les gustaría trabajar usando el español.	Buscar sobre un trabajo ideal.																																																																
14	Mi vida en 30 o 50 años.	Imaginarse que estarán haciendo en 30 o 50 años, qué tipo de personas serán.	Presentar opiniones.																																																																
15	Presentación oral examen final	Escoger un tema original	Preparar el tema.																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における・課題 (50%) 期末試験 (50%) から総合的に評価する。 Evaluación de las tareas de la clase (50%) Examen final oral (50%)																																																																		
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。事前・事後学習に各 1 時間を要する。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (3 号館 2 階)																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。																																																																		

科目名	スペイン語オラルⅤ	科目名 (英文)	Spanish Conversation V
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3103d0		

授業概要・目的	2 年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。																																																																		
到達目標	日常会話よりも深い内容の対話ができるようになる。そのために、テーマについて予め調べ、新しい知識についてスペイン語で説明したり、質問したりすることをめざす。																																																																		
授業方法と留意点	Teams によるオンライン授業を時間割通りにリアルタイムで行う。 特定の教科書は用いず、予め配布される資料を読んで理解した上で毎回の授業に臨むこと。15 回目には各自が選んだテーマのもと、スペイン語でプレゼンを行うこととする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定 4 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Aprender un idioma</td><td>Debate y opinion a partir de una infografia.</td><td>Encontrar diferentes acentos y uso de palabras seun paises hispanohablantes.</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Que te sugiere esta imagen?</td><td>Describir una fotografia.</td><td>Hacer una historia a partir de una fotograf?a.</td></tr> <tr> <td>3</td><td>La moda</td><td>Tema de conversacion y valoraci?n de opiniones.</td><td>Buscar y comparar la moda de antes y despues.</td></tr> <tr> <td>4</td><td>El turista</td><td>Describir lugares como tema de conversacion sobre el turismo.</td><td>Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Libros y lecturas 1</td><td>Presentacion con citas de lectura.</td><td>Elegir lecturas para exponer en clase.</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Libros y lecturas 2</td><td>Presentacion con citas de lectura.</td><td>Elegir lecturas para exponer en clase.</td></tr> <tr> <td>7</td><td>La Unesco en el mundo hispano 1</td><td>Patrimonio de la humanidad.</td><td>Elegir lugares y presentar.</td></tr> <tr> <td>8</td><td>La Unesco en el mundo hispano 2</td><td>Patrimonio de la humanidad.</td><td>Elegir lugares y presentar.</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Peliculas y/o cortometrajes para aprender espanol real 1</td><td>Escuchar y practicar espanol real.</td><td>Elegir peiculas en espanol.</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Peliculas y/o cortometrajes para aprender espanol real 2</td><td>Escuchar y practicar espanol real.</td><td>Peliculas en espanol para comentar.</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Biografia sobre un personaje que admires 1</td><td>Comentar por que se admira a ese personaje muerto o vivo.</td><td>Buscar personaje y para presentar.</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Biografia sobre un personaje que admires 2</td><td>Comentar por que se admira a ese personaje muerto o vivo.</td><td>Buscar personaje y para presentar.</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Mi trabajo ideal.</td><td>Describir en que les gustaria trabajar usando el espanol.</td><td>Buscar sobre un trabajo ideal.</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Mi vida en 30 o 50 a?os.</td><td>Imaginarse que estar haciendo en 30 o 50 anos, que tipo de personas ser?.</td><td>Presentar opiniones.</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Presentacion como examen.</td><td>Presentacion de tema original.</td><td>Preparar el tema.</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Aprender un idioma	Debate y opinion a partir de una infografia.	Encontrar diferentes acentos y uso de palabras seun paises hispanohablantes.	2	Que te sugiere esta imagen?	Describir una fotografia.	Hacer una historia a partir de una fotograf?a.	3	La moda	Tema de conversacion y valoraci?n de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y despues.	4	El turista	Describir lugares como tema de conversacion sobre el turismo.	Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.	5	Libros y lecturas 1	Presentacion con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.	6	Libros y lecturas 2	Presentacion con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.	7	La Unesco en el mundo hispano 1	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.	8	La Unesco en el mundo hispano 2	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.	9	Peliculas y/o cortometrajes para aprender espanol real 1	Escuchar y practicar espanol real.	Elegir peiculas en espanol.	10	Peliculas y/o cortometrajes para aprender espanol real 2	Escuchar y practicar espanol real.	Peliculas en espanol para comentar.	11	Biografia sobre un personaje que admires 1	Comentar por que se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.	12	Biografia sobre un personaje que admires 2	Comentar por que se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.	13	Mi trabajo ideal.	Describir en que les gustaria trabajar usando el espanol.	Buscar sobre un trabajo ideal.	14	Mi vida en 30 o 50 a?os.	Imaginarse que estar haciendo en 30 o 50 anos, que tipo de personas ser?.	Presentar opiniones.	15	Presentacion como examen.	Presentacion de tema original.	Preparar el tema.
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Aprender un idioma	Debate y opinion a partir de una infografia.	Encontrar diferentes acentos y uso de palabras seun paises hispanohablantes.																																																																
2	Que te sugiere esta imagen?	Describir una fotografia.	Hacer una historia a partir de una fotograf?a.																																																																
3	La moda	Tema de conversacion y valoraci?n de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y despues.																																																																
4	El turista	Describir lugares como tema de conversacion sobre el turismo.	Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.																																																																
5	Libros y lecturas 1	Presentacion con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.																																																																
6	Libros y lecturas 2	Presentacion con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.																																																																
7	La Unesco en el mundo hispano 1	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.																																																																
8	La Unesco en el mundo hispano 2	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.																																																																
9	Peliculas y/o cortometrajes para aprender espanol real 1	Escuchar y practicar espanol real.	Elegir peiculas en espanol.																																																																
10	Peliculas y/o cortometrajes para aprender espanol real 2	Escuchar y practicar espanol real.	Peliculas en espanol para comentar.																																																																
11	Biografia sobre un personaje que admires 1	Comentar por que se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.																																																																
12	Biografia sobre un personaje que admires 2	Comentar por que se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.																																																																
13	Mi trabajo ideal.	Describir en que les gustaria trabajar usando el espanol.	Buscar sobre un trabajo ideal.																																																																
14	Mi vida en 30 o 50 a?os.	Imaginarse que estar haciendo en 30 o 50 anos, que tipo de personas ser?.	Presentar opiniones.																																																																
15	Presentacion como examen.	Presentacion de tema original.	Preparar el tema.																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業での応答・発言および課題 50%、期末の口頭試験 50% Evaluacion de las tareas de clases sera de 50 por ciento y 50 por ciento el examen oral final.																																																																		
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。事前・事後学修に各 1 時間を要する。 La dinamica de la participacion constante sera considerada para evaluacion. 授業への積極的な参加と発言を高く評価する。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (3 号館 2 階)																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。																																																																		

科目名	スペイン語オラルVI	科目名 (英文)	Spanish Conversation VI
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アラセリ コラール
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3104d0		

授業概要・目的	スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	2 年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。
授業方法と留意点	Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。 積極的な授業参加、発言を期待する。教科書は用いず、教材を配布する。 扱うテーマは学生の興味関心に応じて変更することもあり得る。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかにこなせること。 スペイン語検定 3 級 (とりわけ留学帰国者)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Aprender un idioma	Debate y opinion a partir de una infograia.	
	2	Que te sugiere esta imagen?	Describir una fotografia.	Hacer una historia a partir de una fotografia.
	3	La moda	Tema de conversacion y valoracion de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y despues.
	4	El turista	Describir lugares como tema de conversacion sobre el turismo.	Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.
	5	Libros y lecturas 1	Presentacion con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.
	6	Libros y lecturas 2	Presentacion con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.
	7	La Unesco en el mundo hispano 1	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.
	8	La Unesco en el mundo hispanohablante 2	Patrimonio de la humanidad.	Elegir lugares y presentar.
	9	Películas y/o cortometrajes para aprender español real 1	Escuchar y practicar español real.	Elegir películas en español.
	10	Películas y/o cortometrajes para aprender español real 2	Escuchar y practicar español real.	Películas en español para comentar.
	11	Biografía sobre un personaje que admires 1	Comentar por que se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.
	12	Biografía sobre un personaje que admires 2	Comentar por que se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.
	13	Mi trabajo ideal.	Describir en que les gustaria trabajar usando el español.	Buscar sobre un trabajo ideal.
	14	Mi vida en 30 o 50 anos.	Imaginarse que estarn haciendo en 30 o 50 anos, que tipo de personas seran.	Presentar opiniones.
	15	Presentacion como examen.	Presentacion de tema original.	Preparar el tema.

関連科目	スペイン語の全科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業における取り組み姿勢・応答、課題 (50%)、期末試験 (50%) La evaluacion sera de un 50% por tareas y participacion y 50% por examen final oral.
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。 La dinamica de la participacion constante sera considerada para evaluacion. 授業への背局的参加と発言を高く評価する。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前・事後学修に要する総時間数は約 15 時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペイン語オラルVI	科目名 (英文)	Spanish Conversation VI
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	モンセラート ロイデ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3104d0		

授業概要・目的	スペイン語圏以外で用いられているスペイン語について知り、外国語としてのスペイン語教育の現状、世界におけるスペイン語の現状と展望について理解を深める。接続法の理解と正確な運用をも目標とする。
到達目標	2 年次までに習得したスペイン語力を基礎として、意思疎通はもちろんのこと、多様な視点から基本的知識を養い、議論ができる会話能力を身につけることをめざす。
授業方法と留意点	教科書は用いず、毎回予め教材を配布する。それをよく読み、新しい語彙の意味を調べる予習を行って授業に臨むこと。授業への積極的な参加が求められる。学期の最後には口頭での試験に備えること。 Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えること。 スペイン語検定 3 級 (とりわけ留学帰国者)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Aprender un idioma	Debate y opinion a partir de una infografia.	
	2	?Que te sugiere esta imagen?	Describir una fotografia.	Hacer una historia a partir de una fotograf?a.
	3	La moda	Tema de conversacion y valoracion de opiniones.	Buscar y comparar la moda de antes y despues.
	4	El turista	Describir lugares como tema de conversacion sobre el turismo.	Buscar y comparar sobre el turismo en la actualidad.
	5	Libros y lecturas 1	Presentacion con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.
	6	Libros y lecturas 2	Presentacion con citas de lectura.	Elegir lecturas para exponer en clase.
	7	La Unesco en el mundo hispano 1	Patrimonio de la humanidad	Elegir lugares y presentar.
	8	La Unesco en el mundo hispano 2	Patrimonio de la humanidad	Elegir lugares y presentar.
	9	Películas y/o cortometrajes para aprender español real 1	Escuchar y practicar español real.	Elegir películas en español.
	10	Películas y/o cortometrajes para aprender español real 2	Escuchar y practicar español real.	Elegir películas en español.
	11	Biografía sobre un personaje que admires 1	Comentar por que se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.
	12	Biografía sobre un personaje que admires 2	Comentar por que se admira a ese personaje muerto o vivo.	Buscar personaje y para presentar.
	13	Mi trabajo ideal.	Describir en que les gustaria trabajar usando el español.	Buscar sobre un trabajo ideal.
	14	Mi vida en 30 o 50 anos.	Imaginarse que estaran haciendo en 30 o 50 anos, que tipo de personas seran.	Presentar opiniones.
	15	Presentacion oral como examen.	Presentacion de tema original.	Preparar el tema.

関連科目	スペイン語通訳Ⅱ、スペイン語文章構成Ⅳほかスペイン語の全科目
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題への取り組み姿勢、スペイン語の課題の質および語彙力によって総合的に評価する。 授業における・課題 (50%) 期末試験 (50%) から総合的に評価する。 Tareas y participacion (50%) Examen final oral (50%)
学生へのメッセージ	資料を必ず読みこなし、基本的語彙を調べた上で授業に臨むこと。 La dinamica de la participacion constante sera considerada para evaluacion. 授業への積極的な参加と発言が高く評価される。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前・事後学修に要する総時間数は約 15 時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。

科目名	スペイン語文章構成Ⅲ	科目名 (英文)	Spanish Composition III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	磯野 吉美
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3105e0		

授業概要・目的	既習のすべての時制と文法事項を用いて、テーマごとにまとめた文章のスペイン語作文の練習を行う。文法的な正確さと文と文のつながりを意識して、話を展開する表現技法を高めることを目指す。
到達目標	文法的に正確な作文ができ、話を展開させる文章表現ができる。 語彙力を日常的なものから専門的なものへと高め、多様なテーマで文章表現ができる。
授業方法と留意点	文法事項と語彙を復習しながら、和文西訳の練習を行う。複数の段落からなる文章をスペイン語訳した上で、授業では一文ごとの確認だけでなく、話を展開するための文と文のつながりを考える。直訳ではなくスペイン語に訳しやすい工夫も考える。 Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級～3 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要についての説明 既習文法事項 (接続法現在の用法) の復習 スピーチ原稿の指導 プリント配布	接続法現在の活用 (規則形・不規則形) を確認しておくこと スピーチ原稿 (和文、西文) の提出
	2	食生活	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	3	天候・気象	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	4	歴史上の出来事	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	5	大学生活	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	6	環境問題	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	7	医療と健康	和文西訳	和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	8	前半のまとめと学習事項の確認	既習事項の復習	既習事項の復習
	9	日本の伝統文化	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	10	政治と経済	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	11	趣味・娯楽・日常生活	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	12	交通・旅行・通信	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿を暗誦し、発表の練習をする
	13	人生・人間関係・災害	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿を暗誦し、発表の練習をする
	14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努め、同時に未知の語彙を聞き取り書きとめる	スピーチ原稿を暗誦し、発表の練習をする
	15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅥ、スペイン語通訳Ⅱ、メディアのスペイン語Ⅲ
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	和文西訳問題 (配布プリント) の予習、提出物、スピーチ原稿作成など : 40% 臨時試験 : 60%
学生への	外国語での表現力を身につけるには、基本的な文型、新出の語彙と構文を貪欲に覚えて、表現の引き出しを増やしていくことが一番の近道です。

メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師控室（3号館2階）
備考	授業スケジュールやテーマは一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペイン語文章構成Ⅲ	科目名 (英文)	Spanish Composition III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3105e0		

授業概要・目的	既習のすべての時制と文法事項を用いて、テーマごとにまとめた文章のスペイン語作文の練習を行う。文法的な正確さと文と文のつながりを意識して、話を展開する表現技法を高めることを目指す。
到達目標	文法的に正確な作文ができ、話を展開させる文章表現ができる。 語彙力を日常的なものから専門的なものへと高め、多様なテーマで文章表現ができる。
授業方法と留意点	文法事項と語彙を復習しながら、和文西訳の練習を行う。複数の段落からなる文章をスペイン語訳した上で、授業では一文ごとの確認だけでなく、話を展開するための文と文のつながりを考える。直訳ではなくスペイン語に訳しやすい工夫も考える。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 4 級～3 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要についての説明 既習文法事項 (接続法現在の用法) の復習 スピーチ原稿の指導 プリント配布	接続法現在の活用 (規則形・不規則形) を確認しておくこと スピーチ原稿 (和文、西文) の提出
	2	食生活	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	3	天候・気象	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	4	歴史上の出来事	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	5	大学生活	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	6	環境問題	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	7	医療と健康	和文西訳	和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	8	前半のまとめと学習事項の確認	既習事項の復習	既習事項の復習
	9	日本の伝統文化	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	10	政治と経済	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	11	趣味・娯楽・日常生活	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	12	交通・旅行・通信	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿を暗誦し、発表の練習をする
	13	人生・人間関係・災害	和文西訳	配布プリントの和文西訳をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿を暗誦し、発表の練習をする
	14	スピーチの発表	同級生のスピーチを理解しようと努め、同時に未知の語彙を聞き取り書きとめる	スピーチ原稿を暗誦し、発表の練習をする
	15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習	総復習

関連科目	スペイン語オラルⅥ、スペイン語通訳Ⅱ、メディアのスペイン語Ⅲ
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	和文西訳問題 (配布プリント) の予習・スピーチ原稿作成など: 40% 中間テスト&理解度確認テスト: 60%
-----------	--

学生へのメッセージ	外国語での表現力を身につけるには、基本的な文型、新出の語彙と構文を貪欲に覚えて、表現の引き出しを増やしていくことが一番の近道です。
-----------	---

担当者の 研究室等	非常勤講師室（3号館2階）
備考	授業スケジュールやテーマは一応の目安であり、状況により変更が生じ得る。 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	スペイン語文章構成Ⅳ	科目名（英文）	Spanish Composition IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 安紀子
ディプロマポリシー（DP）	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3106e0		

授業概要・目的	既習のすべての時制と文法事項を用いて、テーマごとにまとめた文章のスペイン語作文の練習を行う。文法的な正確さと文と文のつながりを意識して、話を展開する表現技法を高めることを目指す。 スピーチコンテスト（全員参加）に向けて原稿の作成、添削、暗唱を行う。授業内でスペイン語原稿の手直しもするが、自分の原稿だけでなく、他者の文章のチェック、修正も行う。この取り組みへの積極的な参加が求められる。
到達目標	文法的に正確な作文ができ、話を展開させる文章表現ができる。 語彙力を日常的なものから専門的なものへと高め、多様なテーマで文章表現ができる。 スペイン語原稿の相互チェックの活動を通じて互いの成長のために他者と協働できる。
授業方法と留意点	文法事項と語彙を復習しながら、和文西訳の練習を行う。予習として複数の段落からなる文章をスペイン語訳した上で、授業では一文ごとの確認だけでなく、話を展開するための文と文のつながりを考える。直訳ではなくスペイン語に訳しやすい工夫も考える。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 4 級～3 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要についての説明 文の構造の復習 スピーチ原稿指導	スピーチコンテストのスペイン語原稿の作成と提出
	2	プリント①：都市（1）	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳（プリント①）をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	3	プリント②：都市（2）	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳（プリント②）をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	4	プリント③：著名人（1）	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳（プリント③）をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	5	プリント④：著名人（2）	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳（プリント④）をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	6	プリント⑤：文化（1）	和文西訳 スピーチ原稿指導	和文西訳（プリント⑤）をしておくこと 語彙の整理 スピーチ原稿の推敲
	7	プリント⑥：文化（2）	和文西訳 スピーチ原稿指導 対面授業	和文西訳（プリント⑥） 語彙の整理 スピーチの練習
	8	前半のまとめと学習事項の確認	既習事項の復習 スピーチ原稿指導 対面授業	既習内容の復習（プリント①～⑥） スピーチの練習
	9	プリント⑦：社会問題（1）	和文西訳 スピーチ原稿指導 対面授業	和文西訳（プリント⑦）をしておくこと 語彙の整理 スピーチの練習
	10	プリント⑧：社会問題（2）	和文西訳 コンテスト直前スピーチ原稿指導 対面授業	和文西訳（プリント⑧）をしておくこと 語彙の整理 スピーチの練習
	11	プリント⑨：社会問題（3）	和文西訳 対面授業	和文西訳（プリント⑨）をしておくこと 語彙の整理
	12	プリント⑩：世界遺産（1）	和文西訳 対面授業	和文西訳（プリント⑩）をしておくこと 語彙の整理
	13	プリント⑪：世界遺産（2）	和文西訳 対面授業	和文西訳（プリント⑪）をしておくこと 語彙の整理
	14	プリント⑫：世界遺産（3）	和文西訳 対面授業	和文西訳（プリント⑫）をしておくこと 語彙の整理
	15	これまでの学習内容の確認	既習項目の復習 対面授業	既習内容の復習（プリント⑦～⑫）

関連科目	スペイン語オラルⅥ、スペイン語通訳Ⅱ、メディアのスペイン語Ⅲ
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	練習問題の予習・提出物・スピーチの作成過程など授業参加意欲 40%、臨時試験 60%
----------	--

学生へのメッセージ	スピーチ原稿作成に関しては、実施要領に従って計画的に準備してください。 外国語での表現力を身につけるには、基本的な文型、新出の語彙と構文を貪欲に覚えて、表現の引き出しを増やしていくことが一番の近道です。 教材やスピーチ原稿作成にあたって出てきた語彙・構文を何度も復習して自分のものにしてください。
-----------	--

担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	授業スケジュールは一応の目安であり、状況により変更が生じうる。 事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。

科目名	スペイン語通訳Ⅰ	科目名（英文）	Spanish for Interpreters and Tour GuidesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	３年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー（DP）	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3107e0		

授業概要・目的	日本の習慣・文化・歴史・地理などをスペイン語で説明できることを目指す。 外国語に上達するには「外国語で考えろ」とよく言われる。確かにその通りだが、では「外国語で考えるにはどうすればよいか」について種明かしている本も人もあまりいないと思う。バイリンガル、マルチリンガルではない環境で、その術を身につける方法（取り立てて言うほど新しい方法ではない）もこの授業で実践していく。
到達目標	自分の身の回りのことをスペイン語で説明できるようになることを目指す。我々日本人にとっては当たり前すぎて、日本人同士では説明する必要のないようなことも、異文化圏の人からは説明を求められることが多い。日常生活の中で質問に出くわす事柄をスペイン語で臨機応変に説明できるようになる。
授業方法と留意点	スムーズにスペイン語が出てくることを目指すため、日本語をスペイン語にスイッチする練習を中心に行う。 ほぼ毎回、和 → 西の単語帳を作る課題を出す。語彙レベルは基本的なものとし、短時間での提出を求める。 授業では基本的な構文を使った和文西訳を中心とする。教材はプリントで配布する。和西辞典と西和辞典を必ず授業に持ってくる。 日本料理について説明する架空会話を、課題として与えられた料理や食材について自分で作り、スペイン語に訳したものを教材とする。
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定３級、通訳案内士（ガイド）資格取得の一助となる。 オリンピック・パラリンピック（2021）、万博（2025）などで、日本を訪れる外国からの観光客やビジネスマンと接する機会もますます増える。 そうした際にこの授業で得たことを活かすことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション:授業の進め方	「通訳案内士」（ガイド）試験とは？	通訳案内士の国家試験について調べ、単語を覚える努力をする。
	2	エアーガイド（例題） メニューを説明する（１）	料理の種類を説明する	単語課題（１）
	3	エアーガイド（例題） メニューを説明する（２）	食材の説明	単語課題（２）
	4	エアーガイド（例題） メニューを説明する（３）	レシピの説明	単語課題（３）
	5	エアーガイド（例題） メニューを説明する（４）	お箸の持ち方、使い方 種類の食べ方など	単語課題（４）
	6	エアーガイド教材（１）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（５）
	7	エアーガイド教材（２）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（６）
	8	到達度確認テスト（１）	これまで学習した単語や表現についての確認テスト	単語課題（７）
	9	エアーガイド教材（３）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（８）
	10	エアーガイド教材（４）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（９）
	11	エアーガイド教材（５）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（10）
	12	エアーガイド教材（６）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（１１）
	13	エアーガイド教材（７）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（１２）
	14	）エアーガイド教材（８）	割り当てられた料理について、架空のシチュエーション会話	単語課題（１３）
	15	到達度確認テスト（２）	これまでに学習したことの確認	既習事項の見直し

関連科目	スペイン語の語学系科目（オラル、文章構成など）全般および日本の歴史・文化に関する科目
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	単語課題（基本語彙を和 → 西）の期間内提出 ４０％ 西訳作文課題の期間内提出 ３０％ 到達度確認テスト ３０％
----------	--

学生へのメッセージ	オリンピック、万博など大きなイベントだけでなく、来日外国人観光客は急増しています。接触機会が増えると、日本のことを意外と説明できないことに気づくでしょう。ごく当たり前のことでもどう説明するか、日頃から考え、必要な語彙を補っておきましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室（３号館２階）
----------	---------------

備考	事前・事後学習に要する総時間は約 15 時間。 授業の始めに、単語課題についてのフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題や次週の授業で発表させ講評を行う。 なお、受講生の人数によってはエアーガイドの内容や方式を変更することもある。
----	---

科目名	スペイン語通訳Ⅱ	科目名（英文）	Spanish for Interpreters and Tour Guides II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3108e0		

授業概要・目的	日本の地理、歴史、文化、風習に関する基礎知識を深め、スペイン語で説明・紹介するために必要な語彙力と表現力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	日本の風習や文化についてスペイン語で説明できることを目指す。 おもに京阪神の名所についてガイドできる知識とスペイン語力を身につける。 世界無形文化遺産である「和食」、日本人の生活習慣等、異文化圏の人に対して客観的にスペイン語で説明できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	課題の提出は締め切りを守ること。 毎回、単語課題を課す。教材はプリントで配布する。最初は寺社仏閣を架空案内する会話を例題として出すが、残りの回は学生に寺社仏閣を割当て、それについて調べたうえで架空会話を考え、スペイン語に訳したものを教材とする。 西和辞典と和西辞典を必ず用意すること。 なお、受講生の数によってはエアーガイドの内容などを変更することもある。																																																																		
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 3 級、通訳案内士（ガイド）資格取得の一助となる。 オリンピック・パラリンピック（2021）、万博（2025）などで、日本を訪れる外国からの観光客やビジネスマンと接する機会もますます増える。 そうした際にこの授業で得たことを活かすことができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>前期の内容の復習</td><td>もう一度、単語テスト</td><td>前期の見直し</td></tr> <tr><td>2</td><td>エアーガイド例題（1）</td><td>関西の寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（1）</td></tr> <tr><td>3</td><td>エアーガイド例題（2）</td><td>関西の寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（2）</td></tr> <tr><td>4</td><td>エアーガイド例題（3）</td><td>関西の寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（3）</td></tr> <tr><td>5</td><td>エアーガイド例題（4）</td><td>関西の寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（4）</td></tr> <tr><td>6</td><td>エアーガイド教材（1）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（5）</td></tr> <tr><td>7</td><td>エアーガイド教材（2）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（6） この回以降、対面授業とする</td></tr> <tr><td>8</td><td>到達度確認テスト（1）</td><td>これまでの単語課題、エアーガイドの例題、教材で学んだことの復習</td><td>単語課題（7）</td></tr> <tr><td>9</td><td>エアーガイド教材（3）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（8）</td></tr> <tr><td>10</td><td>エアーガイド教材（4）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（9）</td></tr> <tr><td>11</td><td>エアーガイド教材（5）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（10）</td></tr> <tr><td>12</td><td>エアーガイド教材（6）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（11）</td></tr> <tr><td>13</td><td>エアーガイド教材（7）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（12）</td></tr> <tr><td>14</td><td>エアーガイド教材（8）</td><td>学生が選んだ寺社仏閣を案内</td><td>単語課題（13）</td></tr> <tr><td>15</td><td>到達度確認テスト（2）</td><td>主に学習した単語力の確認</td><td>これまでの学習のまとめ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	前期の見直し	2	エアーガイド例題（1）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（1）	3	エアーガイド例題（2）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（2）	4	エアーガイド例題（3）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（3）	5	エアーガイド例題（4）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（4）	6	エアーガイド教材（1）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（5）	7	エアーガイド教材（2）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（6） この回以降、対面授業とする	8	到達度確認テスト（1）	これまでの単語課題、エアーガイドの例題、教材で学んだことの復習	単語課題（7）	9	エアーガイド教材（3）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（8）	10	エアーガイド教材（4）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（9）	11	エアーガイド教材（5）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（10）	12	エアーガイド教材（6）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（11）	13	エアーガイド教材（7）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（12）	14	エアーガイド教材（8）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（13）	15	到達度確認テスト（2）	主に学習した単語力の確認	これまでの学習のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の内容の復習	もう一度、単語テスト	前期の見直し																																																																
2	エアーガイド例題（1）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（1）																																																																
3	エアーガイド例題（2）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（2）																																																																
4	エアーガイド例題（3）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（3）																																																																
5	エアーガイド例題（4）	関西の寺社仏閣を案内	単語課題（4）																																																																
6	エアーガイド教材（1）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（5）																																																																
7	エアーガイド教材（2）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（6） この回以降、対面授業とする																																																																
8	到達度確認テスト（1）	これまでの単語課題、エアーガイドの例題、教材で学んだことの復習	単語課題（7）																																																																
9	エアーガイド教材（3）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（8）																																																																
10	エアーガイド教材（4）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（9）																																																																
11	エアーガイド教材（5）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（10）																																																																
12	エアーガイド教材（6）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（11）																																																																
13	エアーガイド教材（7）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（12）																																																																
14	エアーガイド教材（8）	学生が選んだ寺社仏閣を案内	単語課題（13）																																																																
15	到達度確認テスト（2）	主に学習した単語力の確認	これまでの学習のまとめ																																																																
関連科目	スペイン語の語学系科目（オラル、文章構成など）全般および日本の歴史・文化に関する科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>プリント</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	単語課題（30%）、作文課題（30%）、到達度確認テスト（40%）を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	目標は高く掲げ、それに向かって地道に学習を積み重ねましょう。 配布物が多いので、それらをこの科目のための固有のファイルに綴じて活用してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	事前・事後学修に要する総時間は約 15 時間。 授業の始めに、前回の学習内容に関するコメントや質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は次週の授業で発表、講評を行う。 臨時試験の答案と解答例は北條研究室において返却する。																																																																		

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名 (英文)	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	Q
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ディアス イバン
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3109e0		

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。																																																																		
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	「Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う」 映画作品（字幕付き）を指示された方法で部分的に視聴し、映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行う時間を設け、その内容についての質問・応答を行う。重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、作品の要約あるいは感想をスペイン語でレポートとして提出する（word 文書で）。																																																																		
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 4 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Actividades con películas (1-1)</td><td>イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Actividades con películas (1-2)</td><td>ヒヤリングとディクテーション(2)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Actividades con películas (1-3)</td><td>ヒヤリングとディクテーション(3)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Actividades con películas (1-4)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Actividades con películas (2-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Actividades con películas (2-2)</td><td>ヒヤリングとディクテーション(2)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Actividades con películas (2-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>学習内容の確認</td><td>語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。</td><td>第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Actividades con películas (3-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Actividades con películas (3-2)</td><td>ヒヤリングとディクテーション(2)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Actividades con películas (3-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Actividades con películas (4-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Actividades con películas (4-2)</td><td>ヒヤリングとディクテーション(1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Actividades con películas (4-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>学習内容の確認</td><td>語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。</td><td>第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション(3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。	9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション(3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。																																																																
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。																																																																
関連科目	スペイン語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業での活動と発表（60%）、提出物（40%）																																																																		
学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（3 号館 2 階）																																																																		
備考	辞書は必携 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																																																																		

	授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。
--	--------------------------

科目名	映画のスペイン語Ⅱ	科目名 (英文)	Spanish through the Movies II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	R
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3109e0		

授業概要・目的	映画・ドラマを利用して、スペイン語のヒアリング力を高める。																																																																		
到達目標	ヒアリング力を高めつつ、スペイン語の基本語彙や表現を使いこなせるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う。 映画作品（字幕付き）を指示された方法で部分で気に視聴し、映画のいくつかの場面を見ながらディクテーションを行う時間を設け、その内容についての質問に対する応答を行う。重要語彙や表現をチェックしながら各場面の内容を理解する。その後、習った語彙や表現を用いて、作品の要約あるいは感想をスペイン語でレポートとして提出する。																																																																		
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 4 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Actividades con películas (1-1)</td><td>イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Actividades con películas (1-2)</td><td>ヒヤリングとディクテーション(2)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Actividades con películas (1-3)</td><td>ヒヤリングとディクテーション(3)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Actividades con películas (1-4)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Actividades con películas (2-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Actividades con películas (2-2)</td><td>ヒヤリングとディクテーション(2)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Actividades con películas (2-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>学習内容の確認</td><td>語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。</td><td>第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Actividades con películas (3-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Actividades con películas (3-2)</td><td>ヒヤリングとディクテーション(2)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Actividades con películas (3-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Actividades con películas (4-1)</td><td>作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Actividades con películas (4-2)</td><td>ヒヤリングとディクテーション(1)</td><td>授業後に新出単語および表現を覚えること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Actividades con películas (4-3)</td><td>各場面の内容と語彙・表現の確認</td><td>映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>学習内容の確認</td><td>語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。</td><td>第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション(3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。	9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。	14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。	15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Actividades con películas (1-1)	イントロダクション 作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
2	Actividades con películas (1-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
3	Actividades con películas (1-3)	ヒヤリングとディクテーション(3)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
4	Actividades con películas (1-4)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
5	Actividades con películas (2-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
6	Actividades con películas (2-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
7	Actividades con películas (2-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
8	学習内容の確認	語彙・表現の確認テスト 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 7 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。																																																																
9	Actividades con películas (3-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
10	Actividades con películas (3-2)	ヒヤリングとディクテーション(2)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
11	Actividades con películas (3-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
12	Actividades con películas (4-1)	作品の概要説明、ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
13	Actividades con películas (4-2)	ヒヤリングとディクテーション(1)	授業後に新出単語および表現を覚えること。																																																																
14	Actividades con películas (4-3)	各場面の内容と語彙・表現の確認	映画の各場面についてスペイン語で簡単に説明したりコメントできるように、語彙や表現を整理し、メモしておくこと。																																																																
15	学習内容の確認	語彙・表現の臨時試験 授業で見た映画に関してスペイン語で要約およびコメントを書く。	第 15 回までに習った語彙・表現を覚え、それらを用いて作文ができるように、各自文法事項も見直しておくこと。																																																																
関連科目	スペイン語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業での活動と発表（60%）、提出物（40%）																																																																		
学生へのメッセージ	語彙や表現の意味を覚えるだけでなく、どのような文脈で使えるのか辞書等で例文をチェックする習慣をつけましょう。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（3 号館 2 階）																																																																		
備考	辞書は必携 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																																																																		

	授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。
--	--------------------------

科目名	メディアのスペイン語Ⅲ	科目名 (英文)	Media Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3110e0		

授業概要・目的	今までに学習したスペイン語の文法知識を十分に駆使して、一般書、新聞、雑誌、ウェブページなどのメディアで用いられるスペイン語の文章をできるだけ多く読み、様々なメディア・文体のスペイン語に慣れる。主に言語学的内容（言語と社会、言語の歴史など）を扱う。様々な文体の存在を知り、国内外の文化的・歴史的・社会的なことがらを知る。																																																																		
到達目標	スペイン語の文法知識の更なる習得および様々な文体の文章の読解力向上を目指す。逐語的・機械的な翻訳ではなく、日本語らしい文章で表現できるようになること。																																																																		
授業方法と留意点	スペイン語で書かれた新聞記事、雑誌記事、ウェブ記事をプリントもしくはPDFやWordファイルにして配布する。また、関連記事やそれに限らない国内外でのニュースなどにも目頃から目を配っておくこと。レポートを課すことがある。授業計画はあくまで目安であり、集団の関心や習熟度を見て、テーマやペースを変える場合がある。毎度、課題等は提出期限を守ること。8 週目から対面授業とする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定 4 級、3 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方 メディアの多様性</td><td>授業の内容を理解しておくこと</td></tr> <tr> <td>2</td><td>言語に関するスペイン語の文章（1）</td><td>文化記事の訳読 1</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>言語に関するスペイン語の文章（2）</td><td>文化記事の訳読 2</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>言語に関するスペイン語の文章（3）</td><td>社会記事の訳読 1</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>言語に関するスペイン語の文章（4）</td><td>社会記事の訳読 2</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>中間テスト</td><td>既習事項の再確認</td><td>到達度の確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>スペインに関するスペイン語の文章（1）</td><td>文化記事の訳読 1</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>スペインに関するスペイン語の文章（2）</td><td>文化記事の訳読 2</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>スペインに関するスペイン語の文章（3）</td><td>文化記事の訳読 3</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>復習 ボキャブラリーコンテスト</td><td>ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ヨーロッパに関するスペイン語の文章（1）</td><td>記事の訳読</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ヨーロッパに関するスペイン語の文章（2）</td><td>記事の訳読</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>世界の社会問題に関するスペイン語の文章（1）</td><td>社会記事の訳読 1</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>世界の社会問題に関するスペイン語の文章（2）</td><td>社会記事の訳読 2</td><td>自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>臨時試験と解説</td><td>既習事項の再確認</td><td>さらなる復習を</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方 メディアの多様性	授業の内容を理解しておくこと	2	言語に関するスペイン語の文章（1）	文化記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	3	言語に関するスペイン語の文章（2）	文化記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	4	言語に関するスペイン語の文章（3）	社会記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	5	言語に関するスペイン語の文章（4）	社会記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	6	中間テスト	既習事項の再確認	到達度の確認	7	スペインに関するスペイン語の文章（1）	文化記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	8	スペインに関するスペイン語の文章（2）	文化記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	9	スペインに関するスペイン語の文章（3）	文化記事の訳読 3	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	10	復習 ボキャブラリーコンテスト	ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	11	ヨーロッパに関するスペイン語の文章（1）	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	12	ヨーロッパに関するスペイン語の文章（2）	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	13	世界の社会問題に関するスペイン語の文章（1）	社会記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	14	世界の社会問題に関するスペイン語の文章（2）	社会記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。	15	臨時試験と解説	既習事項の再確認	さらなる復習を
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方 メディアの多様性	授業の内容を理解しておくこと																																																																
2	言語に関するスペイン語の文章（1）	文化記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
3	言語に関するスペイン語の文章（2）	文化記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
4	言語に関するスペイン語の文章（3）	社会記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
5	言語に関するスペイン語の文章（4）	社会記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
6	中間テスト	既習事項の再確認	到達度の確認																																																																
7	スペインに関するスペイン語の文章（1）	文化記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
8	スペインに関するスペイン語の文章（2）	文化記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
9	スペインに関するスペイン語の文章（3）	文化記事の訳読 3	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
10	復習 ボキャブラリーコンテスト	ここまでの復習と意見発表など 単語、語句、表現	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
11	ヨーロッパに関するスペイン語の文章（1）	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
12	ヨーロッパに関するスペイン語の文章（2）	記事の訳読	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
13	世界の社会問題に関するスペイン語の文章（1）	社会記事の訳読 1	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
14	世界の社会問題に関するスペイン語の文章（2）	社会記事の訳読 2	自分で訳文を作り、あとで訂正できるようにすること。																																																																
15	臨時試験と解説	既習事項の再確認	さらなる復習を																																																																
関連科目	スペイン語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	課題の取り組み 70 % と授業での取り組み 30 %																																																																		
学生へのメッセージ	文法事項もきちんと学習し直し、スペイン語のスキルアップにつなげよう。 日本語にも注意を向けること。 日ごろから書籍を読み、言語を問わず読解力をつけること。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室																																																																		
備考	とにかく文章を読むこと。 事前・事後学修に各 1 時間を要す。																																																																		

科目名	スペイン語プレゼンテーションⅠ	科目名（英文）	Presentation in Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3111d0		

授業概要・目的	3 年次までに習得したスペイン語の基礎文法を素地として、比較文化の多様な観点からテーマを選定し、その意図や背景を解説し、役立つ表現や語彙・キーワードを教授します。それらをもとにスペイン語でスピーチを行う心構えで、毎回短いプレゼンテーションを発表することで、言語とテーマが何であっても聞き手にとって明瞭でわかりやすく論理的なコミュニケーションが行えるように導きます。プレゼンの内容を予め作文することの繰り返しによって、スペイン語で正しく文章表現ができる力を補います。プレゼン後に提出する作文は添削します。
到達目標	スペイン語で意思疎通を抵抗なく図れるようになるとともに、スペイン語圏はもちろん、異文化についての関心を深め、日本の歴史や文化についてもスペイン語で説明できるようになる。正確なスペイン語表現を行うための基礎となる書く力を養う。
授業方法と留意点	Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う。 予め、プレゼンテーションのテーマ、慣用表現、語彙について解説資料を提示します。履修者はその次の週までに個別・具体的内容のプレゼンテーションの原稿準備を行います。互いの発表に対する質問や意見交換を重んじます。テーマは履修者の積極的な提案に応じて変更することもあります。
科目学習の効果（資格）	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかに行えるようになる。 スペイン語検定 3 級（とりわけ留学帰国者）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方 自己紹介に必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	2	自己紹介	発表 誕生日を迎えるにあたって将来の目標を語るための表現と語彙の解説	発表の準備
	3	将来の目標	発表 死生観と「死者の日」についての解説	発表の準備
	4	「死者の日」	発表 「お盆」との比較	発表の準備
	5	「お盆」と「死者の日」の比較	発表 日本文化の独自性 (例: 世界初の小説『源氏物語』) の紹介	発表の準備 過去時制の復習
	6	私が誇りに思う日本文化	発表 中国文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習
	7	私が魅かれる中国文化	発表 スペイン語圏文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習
	8	この目で見てみたいスペイン語圏文化	発表 米国文化の一端について知る	発表の準備 過去時制の復習
	9	私が影響を受けた米国文化	発表 料理についての慣用表現・語彙の解説	発表の準備 命令文の復習
	10	得意料理の作り方	発表 旅行についての慣用表現・語彙の解説	発表の準備 過去未来の復習
	11	旅行するとしたら	発表 買物の場面で必要な表現と語彙（気候、色、衣類、食べ物、飲み物等）	発表の準備
	12	買物の場で	発表	発表の準備
	13	買物の場で	発表	発表の準備
	14	訪日観光客を案内して	発表 固有の社寺を説明するための語彙	発表の準備
	15	訪日観光客を案内して	発表 料理文化についての語彙	発表の成果を振り返る

関連科目	スペイン語通訳ガイド（留学期間中に 3 年生で受講できなかった者は 4 年生の前・後期に受講することを推奨）
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業での活動と発表（60%）、課題提出（40%）
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	扱うテーマには履修者の提案も取り入れます。
-----------	-----------------------

担当者の研究室等	非常勤講師室（3 号館 2 階）
----------	------------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 受講生は毎回テーマに沿った発表を準備し、時間内に講評を受ける。 毎回の授業の始めに、前回の次学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。
----	---

科目名	スペイン語プレゼンテーションⅡ	科目名 (英文)	Presentation in Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オラシオ ゴメス
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3112d0		

授業概要・目的	スペイン語とその文化がいかに様々な異言語・異文化の影響を取り込んできたかを理解できるよう、テーマを選定します。その意図や背景を解説し、役立つ表現や語彙・キーワードを教授します。それらをもとにスペイン語でスピーチを行う心構えで、毎回短いプレゼンテーションを発表することで、言語とテーマが何であっても聞き手にとって明瞭でわかりやすく論理的なコミュニケーションが行えるようになるために、ここではスペイン語を用いて導きます。プレゼンの内容を予め作文することの繰り返しによって、スペイン語で正しく文章表現ができる力を補い
到達目標	スペイン語とその文化が内蔵する異文化要素を理解し、それについての説明ができるようになる。正確なスペイン語表現を行うための基礎となる書く力を養う。
授業方法と留意点	7週目まで Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行います。8週目から対面授業とする。 予め、プレゼンテーションのテーマ、慣用表現、語彙について解説します。履修者はその次の週までに個別・具体的内容のプレゼンテーションの準備を行います。互いの発表に対する質問や意見交換を重んじます。テーマは履修者の積極的な提案に応じて変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語での詩の暗誦やスピーチを滑らかにできるようになる。 スペイン語検定 3 級 (とりわけ留学帰国者)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	日本語の中に定着したスペイン語	授業の進め方の再確認 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	2	スペイン語・文化が日本に与えた影響	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	3	スペイン語・文化がギリシア語・文化から受け継いだもの	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	4	ラテン語・文化から受け継いだもの	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	5	アラビア語・文化から受け継いだもの	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	6	スペイン語圏の歴史 (1)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	7	スペイン語圏の歴史 (2)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	8	スペイン語圏の歴史 (3)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	9	スペイン語圏の政治 (1)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	10	スペイン語圏の政治 (2)	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	11	スペイン語圏の経済	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	12	スペイン語圏の貿易	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	13	通訳としての仕事	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	14	通訳としての実践	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の準備
	15	各自最良の発表を行う	発表 次回のプレゼンテーションに必要な表現と語彙の解説	発表の成果を振り返る

関連科目	スペイン語通訳ガイド (留学期間中に 3 年生で受講できなかった者は 4 年生の前・後期に受講することを推奨)
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業における取り組み姿勢・発表内容 80%、課題 20%
学生への メッセージ	扱うテーマには履修者の提案も取り入れます。
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 授業の始めに、前回の発表・学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。 授業で課した課題や宿題は、次週の授業で講評する。

科目名	インドネシア語入門 a (1)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian a(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1113e0		

授業概要・目的	本講義は、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の文法を学び、各課の内容に沿ったかたちで、インドネシア語から日本語、日本語からインドネシア語の基礎的な翻訳課題に取り組むことで、インドネシア語の基礎的な運用能力を修得することを目的とする。																																																																		
到達目標	インドネシア語の文法を覚え、基礎的な運用能力を修得する。																																																																		
授業方法と留意点	本講義は、「インドネシア語入門 a (2)」と同じテキストおよび辞書 (下記の指定辞書) を用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。ただし、課題の提出方法などが異なる場合があるので、それぞれ確認すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第 1 課</td><td>ガイダンス インドネシア語の綴りと発音 1</td><td>各自インドネシアについて調べておくこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 2 課</td><td>インドネシア語の綴りと発音 2</td><td>教科書の第 2 課に目を通しておくこと。 インドネシア語の綴りと発音 2 の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 3 課</td><td>名詞の文法説明、講読</td><td>教科書の第 3 課に目を通しておくこと。 名詞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 4 課</td><td>形容詞の文法説明、講読</td><td>教科書の第 4 課に目を通しておくこと。 形容詞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 5 課</td><td>動詞の文法説明、講読</td><td>教科書の第 5 課に目を通しておくこと。 動詞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 6 課</td><td>数詞の説明、講読</td><td>教科書の第 6 課に目を通しておくこと。 数詞の説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 7 課</td><td>時の表現の説明、講読</td><td>教科書の第 7 課に目を通しておくこと。 時の表現の説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 8 課</td><td>その他の品詞 1 の説明、講読</td><td>教科書の第 8 課に目を通しておくこと。 その他の品詞 1 の説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 9 課</td><td>その他の品詞 1 の説明、講読</td><td>教科書の第 9 課に目を通しておくこと。 その他の品詞 2 の説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 10 課</td><td>語順 1 の文法説明、講読</td><td>教科書の第 10 課に目を通しておくこと。 語順 1 の文法説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 11 課</td><td>語順 2 の文法説明、講読</td><td>教科書の第 11 課に目を通しておくこと。 語順 2 の文法説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 12 課</td><td>接辞の説明</td><td>教科書の第 12 課に目を通しておくこと。 接辞の説明の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 13 課</td><td>接頭辞 ber- の文法説明、講読</td><td>教科書の第 13 課に目を通しておくこと。 接頭辞 ber- の文法説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 14 課</td><td>接尾辞 -an、人称接辞の文法説明、講読</td><td>教科書の第 14 課に目を通しておくこと。 接尾辞 -an、人称接辞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>第 1 課から第 14 課の復習</td><td>第 14 課までの復習をしておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 1 課	ガイダンス インドネシア語の綴りと発音 1	各自インドネシアについて調べておくこと。	2	第 2 課	インドネシア語の綴りと発音 2	教科書の第 2 課に目を通しておくこと。 インドネシア語の綴りと発音 2 の再確認をしておくこと。	3	第 3 課	名詞の文法説明、講読	教科書の第 3 課に目を通しておくこと。 名詞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。	4	第 4 課	形容詞の文法説明、講読	教科書の第 4 課に目を通しておくこと。 形容詞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。	5	第 5 課	動詞の文法説明、講読	教科書の第 5 課に目を通しておくこと。 動詞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。	6	第 6 課	数詞の説明、講読	教科書の第 6 課に目を通しておくこと。 数詞の説明、講読の再確認をしておくこと。	7	第 7 課	時の表現の説明、講読	教科書の第 7 課に目を通しておくこと。 時の表現の説明、講読の再確認をしておくこと。	8	第 8 課	その他の品詞 1 の説明、講読	教科書の第 8 課に目を通しておくこと。 その他の品詞 1 の説明、講読の再確認をしておくこと。	9	第 9 課	その他の品詞 1 の説明、講読	教科書の第 9 課に目を通しておくこと。 その他の品詞 2 の説明、講読の再確認をしておくこと。	10	第 10 課	語順 1 の文法説明、講読	教科書の第 10 課に目を通しておくこと。 語順 1 の文法説明、講読の再確認をしておくこと。	11	第 11 課	語順 2 の文法説明、講読	教科書の第 11 課に目を通しておくこと。 語順 2 の文法説明、講読の再確認をしておくこと。	12	第 12 課	接辞の説明	教科書の第 12 課に目を通しておくこと。 接辞の説明の再確認をしておくこと。	13	第 13 課	接頭辞 ber- の文法説明、講読	教科書の第 13 課に目を通しておくこと。 接頭辞 ber- の文法説明、講読の再確認をしておくこと。	14	第 14 課	接尾辞 -an、人称接辞の文法説明、講読	教科書の第 14 課に目を通しておくこと。 接尾辞 -an、人称接辞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。	15	総復習	第 1 課から第 14 課の復習	第 14 課までの復習をしておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 1 課	ガイダンス インドネシア語の綴りと発音 1	各自インドネシアについて調べておくこと。																																																																
2	第 2 課	インドネシア語の綴りと発音 2	教科書の第 2 課に目を通しておくこと。 インドネシア語の綴りと発音 2 の再確認をしておくこと。																																																																
3	第 3 課	名詞の文法説明、講読	教科書の第 3 課に目を通しておくこと。 名詞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。																																																																
4	第 4 課	形容詞の文法説明、講読	教科書の第 4 課に目を通しておくこと。 形容詞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。																																																																
5	第 5 課	動詞の文法説明、講読	教科書の第 5 課に目を通しておくこと。 動詞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。																																																																
6	第 6 課	数詞の説明、講読	教科書の第 6 課に目を通しておくこと。 数詞の説明、講読の再確認をしておくこと。																																																																
7	第 7 課	時の表現の説明、講読	教科書の第 7 課に目を通しておくこと。 時の表現の説明、講読の再確認をしておくこと。																																																																
8	第 8 課	その他の品詞 1 の説明、講読	教科書の第 8 課に目を通しておくこと。 その他の品詞 1 の説明、講読の再確認をしておくこと。																																																																
9	第 9 課	その他の品詞 1 の説明、講読	教科書の第 9 課に目を通しておくこと。 その他の品詞 2 の説明、講読の再確認をしておくこと。																																																																
10	第 10 課	語順 1 の文法説明、講読	教科書の第 10 課に目を通しておくこと。 語順 1 の文法説明、講読の再確認をしておくこと。																																																																
11	第 11 課	語順 2 の文法説明、講読	教科書の第 11 課に目を通しておくこと。 語順 2 の文法説明、講読の再確認をしておくこと。																																																																
12	第 12 課	接辞の説明	教科書の第 12 課に目を通しておくこと。 接辞の説明の再確認をしておくこと。																																																																
13	第 13 課	接頭辞 ber- の文法説明、講読	教科書の第 13 課に目を通しておくこと。 接頭辞 ber- の文法説明、講読の再確認をしておくこと。																																																																
14	第 14 課	接尾辞 -an、人称接辞の文法説明、講読	教科書の第 14 課に目を通しておくこと。 接尾辞 -an、人称接辞の文法説明、講読の再確認をしておくこと。																																																																
15	総復習	第 1 課から第 14 課の復習	第 14 課までの復習をしておくこと。																																																																
関連科目	専攻言語インドネシア語の科目すべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>インドネシア語入門 (2,000 円程度)</td><td>浦野崇央、山口真佐夫</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>『プログレッシブ インドネシア語辞典』(4,900 円 + 税)</td><td>舟田京子・高殿良博・左藤正範 (編著)</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	インドネシア語入門 (2,000 円程度)	浦野崇央、山口真佐夫		2	『プログレッシブ インドネシア語辞典』(4,900 円 + 税)	舟田京子・高殿良博・左藤正範 (編著)	小学館	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	インドネシア語入門 (2,000 円程度)	浦野崇央、山口真佐夫																																																																	
2	『プログレッシブ インドネシア語辞典』(4,900 円 + 税)	舟田京子・高殿良博・左藤正範 (編著)	小学館																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	定期試験 (「インドネシア語入門」統一試験) 60%、中間テスト 20%、課題提出 20% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	しっかり出席して、インドネシア語の基礎を習得してください。																																																																		
担当者の研究室等	金子研究室 (7 号館 5 階) なお、7 号館の耐震補強工事のため、2021 年 4 月から 9 月末までは、11 号館 11 階スカイラウンジに仮の研究室がある。																																																																		
備考	復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、60 時間以上行うこと。																																																																		

科目名	インドネシア語入門 a (2)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian a(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1114e0		

授業概要・目的	人口 2 億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	基本的なインドネシア語運用能力を高めることができる。 授業では、特に「書く」能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターする。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 a (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、定期試験期間中の試験は行わず、授業最終回に復習を兼ねての最終試験を実施する。同試験は「インドネシア語入門 a(1)」と合同とする。 授業時には辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>第 1 課</td><td>インドネシア語の綴りと発音①</td><td>学んだことの再確認 (第 1 課)</td></tr> <tr><td>2</td><td>第 2 課</td><td>インドネシア語の綴りと発音②</td><td>学んだことの再確認 (第 2 課)</td></tr> <tr><td>3</td><td>第 3 課</td><td>名詞を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 3 課)</td></tr> <tr><td>4</td><td>第 4 課</td><td>形容詞を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 4 課)</td></tr> <tr><td>5</td><td>第 5 課</td><td>動詞を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 5 課)</td></tr> <tr><td>6</td><td>第 6 課</td><td>数詞を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 6 課)</td></tr> <tr><td>7</td><td>第 7 課</td><td>時の表現についての文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 7 課)</td></tr> <tr><td>8</td><td>第 8 課</td><td>その他の品詞を使った文の作文①</td><td>学んだことの再確認 (第 8 課)</td></tr> <tr><td>9</td><td>第 9 課</td><td>その他の品詞を使った文の作文②</td><td>学んだことの再確認 (第 9 課)</td></tr> <tr><td>10</td><td>第 10 課</td><td>語順①</td><td>学んだことの再確認 (第 10 課)</td></tr> <tr><td>11</td><td>第 11 課</td><td>語順②</td><td>学んだことの再確認 (第 11 課)</td></tr> <tr><td>12</td><td>中間テスト 復習</td><td>中間テスト これまでに学んだことの復習</td><td>これまでに学んだことの復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>第 13 課</td><td>接頭辞 ber- を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 13 課)</td></tr> <tr><td>14</td><td>第 14 課</td><td>接尾辞 -an、人称接辞を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 14 課)</td></tr> <tr><td>15</td><td>復習</td><td>これまでに学んだことの再確認 最終試験</td><td>学んだことの再確認</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 1 課	インドネシア語の綴りと発音①	学んだことの再確認 (第 1 課)	2	第 2 課	インドネシア語の綴りと発音②	学んだことの再確認 (第 2 課)	3	第 3 課	名詞を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 3 課)	4	第 4 課	形容詞を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 4 課)	5	第 5 課	動詞を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 5 課)	6	第 6 課	数詞を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 6 課)	7	第 7 課	時の表現についての文の作文	学んだことの再確認 (第 7 課)	8	第 8 課	その他の品詞を使った文の作文①	学んだことの再確認 (第 8 課)	9	第 9 課	その他の品詞を使った文の作文②	学んだことの再確認 (第 9 課)	10	第 10 課	語順①	学んだことの再確認 (第 10 課)	11	第 11 課	語順②	学んだことの再確認 (第 11 課)	12	中間テスト 復習	中間テスト これまでに学んだことの復習	これまでに学んだことの復習	13	第 13 課	接頭辞 ber- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 13 課)	14	第 14 課	接尾辞 -an、人称接辞を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 14 課)	15	復習	これまでに学んだことの再確認 最終試験	学んだことの再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 1 課	インドネシア語の綴りと発音①	学んだことの再確認 (第 1 課)																																																																
2	第 2 課	インドネシア語の綴りと発音②	学んだことの再確認 (第 2 課)																																																																
3	第 3 課	名詞を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 3 課)																																																																
4	第 4 課	形容詞を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 4 課)																																																																
5	第 5 課	動詞を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 5 課)																																																																
6	第 6 課	数詞を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 6 課)																																																																
7	第 7 課	時の表現についての文の作文	学んだことの再確認 (第 7 課)																																																																
8	第 8 課	その他の品詞を使った文の作文①	学んだことの再確認 (第 8 課)																																																																
9	第 9 課	その他の品詞を使った文の作文②	学んだことの再確認 (第 9 課)																																																																
10	第 10 課	語順①	学んだことの再確認 (第 10 課)																																																																
11	第 11 課	語順②	学んだことの再確認 (第 11 課)																																																																
12	中間テスト 復習	中間テスト これまでに学んだことの復習	これまでに学んだことの復習																																																																
13	第 13 課	接頭辞 ber- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 13 課)																																																																
14	第 14 課	接尾辞 -an、人称接辞を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 14 課)																																																																
15	復習	これまでに学んだことの再確認 最終試験	学んだことの再確認																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に、「インドネシア語入門 a(1)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>インドネシア語入門 (第 4 版)</td><td>浦野崇央・山口真佐夫編</td><td>摂南大学外国語学部</td></tr> <tr> <td>2</td><td>プログレッシブ インドネシア語辞典</td><td>舟田京子・高殿良博・左藤正範編</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	インドネシア語入門 (第 4 版)	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	インドネシア語入門 (第 4 版)	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	「インドネシア語入門」統一試験 80%、「中間テスト」10%、「積極的な授業参加」の度合い 10% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢がとても大切です。																																																																		
担当者の研究室等	浦野研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	毎回の予習は基本的に必要ないが、少なくとも毎週 1 時間程度以上の復習は欠かさず行うこと。																																																																		

科目名	インドネシア語入門 b (1)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1115e0		

授業概要・目的	本講義は、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の文法を学び、各課の内容に沿ったかたちで、インドネシア語から日本語、日本語からインドネシア語の基礎的な翻訳課題に取り組むことで、インドネシア語の基礎的な運用能力を修得することを目的とする。																																																																		
到達目標	インドネシア語の文法を覚え、基礎的な運用能力を修得する。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 b (2)」と同じテキストおよび辞書（下記の指定辞書）を用い、リレー方式で行っていく。なお、定期試験についても「インドネシア語入門」統一試験を実施する。ただし、課題の提出方法などが異なる場合があるので、それぞれ確認すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画		<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>第 15 課</td><td>綴りの規則の説明、講読</td><td>教科書の第 15 課に目を通しておくこと。 綴りの規則の説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr><tr><td>2</td><td>第 16 課</td><td>接頭辞 se-、共接辞 se- -nya, ke- -an、 接尾辞 -nya の文法説明、講読</td><td>教科書の第 16 課に目を通しておくこと。 接頭辞 se-、共接辞 se- -nya, ke- -an、接尾辞 -nya の文法説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr><tr><td>3</td><td>第 17 課</td><td>接頭辞 me- の文法説明、講読</td><td>教科書の第 17 課に目を通しておくこと。 接頭辞 me- の文法説明、講読の再確認をしておく こと。</td></tr><tr><td>4</td><td>第 18 課</td><td>接頭辞 di-の文法説明、講読</td><td>教科書の第 18 課に目を通しておくこと。 接頭辞 di-の文法説明、講読の再確認をしておくこ と。</td></tr><tr><td>5</td><td>第 19 課</td><td>接頭辞 ter- の文法説明、講読</td><td>教科書の第 19 課に目を通しておくこと。 接頭辞 ter- の文法説明、講読の再確認をしておく こと。</td></tr><tr><td>6</td><td>第 20 課</td><td>共接辞 ber- -an, per- -an の文法説明、 講読</td><td>教科書の第 20 課に目を通しておくこと。 共接辞 ber- -an, per- -an の文法説明、講読の再 確認をしておくこと。</td></tr><tr><td>7</td><td>第 21 課</td><td>接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an の文法説 明、講読</td><td>教科書の第 21 課に目を通しておくこと。 接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an の文法説明、講読の 再確認をしておくこと。</td></tr><tr><td>8</td><td>第 15 課から第 21 課の復習</td><td>第 15 課から第 21 課を復習し、定着を図 る</td><td>第 21 課までの復習をしておくこと。</td></tr><tr><td>9</td><td>第 22 課</td><td>接尾辞 -i, -kan の文法説明、講読</td><td>教科書の第 22 課に目を通しておくこと。 接尾辞 -i, -kan の文法説明、講読の再確認をして おくこと。</td></tr><tr><td>10</td><td>第 23 課</td><td>接頭辞 member- の文法的説明、講読</td><td>教科書の第 23 課に目を通しておくこと。 接頭辞 member-の文法説明、講読の再確認をしてお くこと。</td></tr><tr><td>11</td><td>第 24 課</td><td>能動文と受動文の文法説明、講読</td><td>教科書の第 24 課に目を通しておくこと。 能動文と受動文の文法説明、講読の再確認をしてお くこと。</td></tr><tr><td>12</td><td>暗唱コンテストの練習</td><td></td><td>「Sumpah Pemuda」を暗唱する</td></tr><tr><td>13</td><td>第 25 課</td><td>重複の文法説明、講読</td><td>教科書の第 25 課に目を通しておくこと。 重複の文法説明、講読の再確認をしておくこと。</td></tr><tr><td>14</td><td>第 26 課</td><td>接辞の例外的変化、不規則変化の文法説 明、講読</td><td>教科書の第 26 課に目を通しておくこと。 接辞の例外的変化、不規則変化の文法説明、講読の 再確認をしておくこと。</td></tr><tr><td>15</td><td>第 27 課</td><td>接辞のまとめおよびその他の接辞</td><td>第 15 課から第 27 課に目を通しておくとともに、1 年間の振り返りとして教科書全体を再度確認する こと。</td></tr></table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 15 課	綴りの規則の説明、講読	教科書の第 15 課に目を通しておくこと。 綴りの規則の説明、講読の再確認をしておくこと。	2	第 16 課	接頭辞 se-、共接辞 se- -nya, ke- -an、 接尾辞 -nya の文法説明、講読	教科書の第 16 課に目を通しておくこと。 接頭辞 se-、共接辞 se- -nya, ke- -an、接尾辞 -nya の文法説明、講読の再確認をしておくこと。	3	第 17 課	接頭辞 me- の文法説明、講読	教科書の第 17 課に目を通しておくこと。 接頭辞 me- の文法説明、講読の再確認をしておく こと。	4	第 18 課	接頭辞 di-の文法説明、講読	教科書の第 18 課に目を通しておくこと。 接頭辞 di-の文法説明、講読の再確認をしておくこ と。	5	第 19 課	接頭辞 ter- の文法説明、講読	教科書の第 19 課に目を通しておくこと。 接頭辞 ter- の文法説明、講読の再確認をしておく こと。	6	第 20 課	共接辞 ber- -an, per- -an の文法説明、 講読	教科書の第 20 課に目を通しておくこと。 共接辞 ber- -an, per- -an の文法説明、講読の再 確認をしておくこと。	7	第 21 課	接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an の文法説 明、講読	教科書の第 21 課に目を通しておくこと。 接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an の文法説明、講読の 再確認をしておくこと。	8	第 15 課から第 21 課の復習	第 15 課から第 21 課を復習し、定着を図 る	第 21 課までの復習をしておくこと。	9	第 22 課	接尾辞 -i, -kan の文法説明、講読	教科書の第 22 課に目を通しておくこと。 接尾辞 -i, -kan の文法説明、講読の再確認をして おくこと。	10	第 23 課	接頭辞 member- の文法的説明、講読	教科書の第 23 課に目を通しておくこと。 接頭辞 member-の文法説明、講読の再確認をしてお くこと。	11	第 24 課	能動文と受動文の文法説明、講読	教科書の第 24 課に目を通しておくこと。 能動文と受動文の文法説明、講読の再確認をしてお くこと。	12	暗唱コンテストの練習		「Sumpah Pemuda」を暗唱する	13	第 25 課	重複の文法説明、講読	教科書の第 25 課に目を通しておくこと。 重複の文法説明、講読の再確認をしておくこと。	14	第 26 課	接辞の例外的変化、不規則変化の文法説 明、講読	教科書の第 26 課に目を通しておくこと。 接辞の例外的変化、不規則変化の文法説明、講読の 再確認をしておくこと。	15	第 27 課	接辞のまとめおよびその他の接辞	第 15 課から第 27 課に目を通しておくとともに、1 年間の振り返りとして教科書全体を再度確認する こと。	
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																															
	1	第 15 課	綴りの規則の説明、講読	教科書の第 15 課に目を通しておくこと。 綴りの規則の説明、講読の再確認をしておくこと。																																																															
	2	第 16 課	接頭辞 se-、共接辞 se- -nya, ke- -an、 接尾辞 -nya の文法説明、講読	教科書の第 16 課に目を通しておくこと。 接頭辞 se-、共接辞 se- -nya, ke- -an、接尾辞 -nya の文法説明、講読の再確認をしておくこと。																																																															
	3	第 17 課	接頭辞 me- の文法説明、講読	教科書の第 17 課に目を通しておくこと。 接頭辞 me- の文法説明、講読の再確認をしておく こと。																																																															
	4	第 18 課	接頭辞 di-の文法説明、講読	教科書の第 18 課に目を通しておくこと。 接頭辞 di-の文法説明、講読の再確認をしておくこ と。																																																															
	5	第 19 課	接頭辞 ter- の文法説明、講読	教科書の第 19 課に目を通しておくこと。 接頭辞 ter- の文法説明、講読の再確認をしておく こと。																																																															
	6	第 20 課	共接辞 ber- -an, per- -an の文法説明、 講読	教科書の第 20 課に目を通しておくこと。 共接辞 ber- -an, per- -an の文法説明、講読の再 確認をしておくこと。																																																															
	7	第 21 課	接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an の文法説 明、講読	教科書の第 21 課に目を通しておくこと。 接頭辞 pe-、共接辞 pe- -an の文法説明、講読の 再確認をしておくこと。																																																															
	8	第 15 課から第 21 課の復習	第 15 課から第 21 課を復習し、定着を図 る	第 21 課までの復習をしておくこと。																																																															
	9	第 22 課	接尾辞 -i, -kan の文法説明、講読	教科書の第 22 課に目を通しておくこと。 接尾辞 -i, -kan の文法説明、講読の再確認をして おくこと。																																																															
	10	第 23 課	接頭辞 member- の文法的説明、講読	教科書の第 23 課に目を通しておくこと。 接頭辞 member-の文法説明、講読の再確認をしてお くこと。																																																															
	11	第 24 課	能動文と受動文の文法説明、講読	教科書の第 24 課に目を通しておくこと。 能動文と受動文の文法説明、講読の再確認をしてお くこと。																																																															
	12	暗唱コンテストの練習		「Sumpah Pemuda」を暗唱する																																																															
	13	第 25 課	重複の文法説明、講読	教科書の第 25 課に目を通しておくこと。 重複の文法説明、講読の再確認をしておくこと。																																																															
	14	第 26 課	接辞の例外的変化、不規則変化の文法説 明、講読	教科書の第 26 課に目を通しておくこと。 接辞の例外的変化、不規則変化の文法説明、講読の 再確認をしておくこと。																																																															
15	第 27 課	接辞のまとめおよびその他の接辞	第 15 課から第 27 課に目を通しておくとともに、1 年間の振り返りとして教科書全体を再度確認する こと。																																																																
関連科目	専攻言語インドネシア語の科目すべて																																																																		
教科書		<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>インドネシア語入門（前期に購入済み）</td><td>浦野崇央、山口真佐夫</td><td></td></tr><tr><td>2</td><td>『プログレッシブ インドネシア語辞典』（前期に購 入済み）</td><td>舟田京子・高殿良博・左藤正範（編 著）</td><td>小学館</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	インドネシア語入門（前期に購入済み）	浦野崇央、山口真佐夫		2	『プログレッシブ インドネシア語辞典』（前期に購 入済み）	舟田京子・高殿良博・左藤正範（編 著）	小学館	3																																																				
	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																															
	1	インドネシア語入門（前期に購入済み）	浦野崇央、山口真佐夫																																																																
	2	『プログレッシブ インドネシア語辞典』（前期に購 入済み）	舟田京子・高殿良博・左藤正範（編 著）	小学館																																																															
3																																																																			
参考書		<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																				
	番号	書籍名	著者名	出版社名																																																															
	1																																																																		
	2																																																																		
3																																																																			
評価方法（基準）	定期試験（「インドネシア語入門」統一試験）60%、中間テスト 20%、積極的な授業参加度の度合い 20% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	1 年次の基本となる授業なので、しっかり出席して基礎を習得してください。																																																																		
担当者の研究室等	金子研究室（7 号館 5 階）																																																																		
備考	復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、60 時間以上行うこと。																																																																		

科目名	インドネシア語入門 b (2)	科目名 (英文)	Introduction to Indonesian b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1116e0		

授業概要・目的	人口 2 億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基本的な運用能力の向上を目指す。																																																																		
到達目標	前期開講の「インドネシア語入門 a (2)」に引き続き、本授業では特に「書く」能力を高めることを目標とし、インドネシア語で表現する方法の基礎をマスターすることができる。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「インドネシア語入門 b (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行なっていく。なお、「インドネシア語入門」統一試験を実施する。詳細は授業内で説明する。授業時は辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第 15 課</td><td>綴りの規則に基づいた文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 15 課)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 16 課</td><td>接頭辞 se-, 共接辞 se- -nya, ke- -an、接尾辞 -nya を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 16 課)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 17 課</td><td>接頭辞 me- を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 17 課)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 18 課</td><td>接頭辞 di- を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 18 課)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 19 課</td><td>接頭辞 ter- を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 19 課)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 20 課</td><td>共接辞 ber- -an, per- -an を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 20 課)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 21 課</td><td>接頭辞 pe-, 共接辞 pe- -an を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 21 課)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間テスト 復習</td><td>中間テスト これまでに学んだことの復習</td><td>これまでに学んだことの復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 22 課</td><td>接尾辞 -i, -kan を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 22 課)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 23 課</td><td>接頭辞 memper- を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 23 課)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>復習</td><td>「インドネシア語暗唱コンテスト」での暗唱実践</td><td>これまでに学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 24 課</td><td>能動文と受動文</td><td>学んだことの再確認 (第 24 課)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 25 課</td><td>重複の文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 25 課)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 26 課</td><td>接辞の例外的変化、不規則変化を使った文の作文</td><td>学んだことの再確認 (第 26 課)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第 27 課 総復習 (講読・作文実践練習)</td><td>接辞のまとめおよびその他の接辞 これまでに学んだ構文の講読・作文練習</td><td>学んだことの再確認 (第 27 課) およびこれまでに学んだことの復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 15 課	綴りの規則に基づいた文の作文	学んだことの再確認 (第 15 課)	2	第 16 課	接頭辞 se-, 共接辞 se- -nya, ke- -an、接尾辞 -nya を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 16 課)	3	第 17 課	接頭辞 me- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 17 課)	4	第 18 課	接頭辞 di- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 18 課)	5	第 19 課	接頭辞 ter- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 19 課)	6	第 20 課	共接辞 ber- -an, per- -an を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 20 課)	7	第 21 課	接頭辞 pe-, 共接辞 pe- -an を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 21 課)	8	中間テスト 復習	中間テスト これまでに学んだことの復習	これまでに学んだことの復習	9	第 22 課	接尾辞 -i, -kan を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 22 課)	10	第 23 課	接頭辞 memper- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 23 課)	11	復習	「インドネシア語暗唱コンテスト」での暗唱実践	これまでに学んだことの再確認	12	第 24 課	能動文と受動文	学んだことの再確認 (第 24 課)	13	第 25 課	重複の文の作文	学んだことの再確認 (第 25 課)	14	第 26 課	接辞の例外的変化、不規則変化を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 26 課)	15	第 27 課 総復習 (講読・作文実践練習)	接辞のまとめおよびその他の接辞 これまでに学んだ構文の講読・作文練習	学んだことの再確認 (第 27 課) およびこれまでに学んだことの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 15 課	綴りの規則に基づいた文の作文	学んだことの再確認 (第 15 課)																																																																
2	第 16 課	接頭辞 se-, 共接辞 se- -nya, ke- -an、接尾辞 -nya を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 16 課)																																																																
3	第 17 課	接頭辞 me- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 17 課)																																																																
4	第 18 課	接頭辞 di- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 18 課)																																																																
5	第 19 課	接頭辞 ter- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 19 課)																																																																
6	第 20 課	共接辞 ber- -an, per- -an を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 20 課)																																																																
7	第 21 課	接頭辞 pe-, 共接辞 pe- -an を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 21 課)																																																																
8	中間テスト 復習	中間テスト これまでに学んだことの復習	これまでに学んだことの復習																																																																
9	第 22 課	接尾辞 -i, -kan を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 22 課)																																																																
10	第 23 課	接頭辞 memper- を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 23 課)																																																																
11	復習	「インドネシア語暗唱コンテスト」での暗唱実践	これまでに学んだことの再確認																																																																
12	第 24 課	能動文と受動文	学んだことの再確認 (第 24 課)																																																																
13	第 25 課	重複の文の作文	学んだことの再確認 (第 25 課)																																																																
14	第 26 課	接辞の例外的変化、不規則変化を使った文の作文	学んだことの再確認 (第 26 課)																																																																
15	第 27 課 総復習 (講読・作文実践練習)	接辞のまとめおよびその他の接辞 これまでに学んだ構文の講読・作文練習	学んだことの再確認 (第 27 課) およびこれまでに学んだことの復習																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に、「インドネシア語入門 b (1)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>インドネシア語入門第 4 版</td><td>浦野崇央・山口真佐夫編</td><td>摂南大学外国語学部</td></tr> <tr> <td>2</td><td>プログレッシブ インドネシア語辞典</td><td>舟田京子・高殿良博・左藤正範編</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	インドネシア語入門第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	インドネシア語入門第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	「インドネシア語入門」統一試験 80%、中間テスト 10%、「積極的な授業参加」の度合い 10% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	インドネシア語はとても学びやすい言語です。是非、楽しんで学んでいきましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来てください。積極的な姿勢がとても大切です。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (浦野研究室)																																																																		
備考	毎週の予習は基本的に必要ないが、毎週少なくとも 1 時間程度以上の復習は欠かせないこと。																																																																		

科目名	インドネシア語コミュニケーション I a	科目名 (英文)	Indonesian Communication Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1117e0		

授業概要・目的	インドネシア語の発音と基本文法を学習して、日常会話を話す事が出来るようになることを目指す。																																																																		
到達目標	挨拶、自己紹介を始め、学んだ文法を使って様々な会話文を作成できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	会話文を学習。基本会話を聞く・文法確認・会話練習。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	挨拶、自己紹介、依頼、許可表現などを基本的な日常会話ができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>アルファベット文字と発音</td><td>母音と子音の発音</td><td>二重母音と子音の発音を確認して練習する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>挨拶</td><td>日常に使われる挨拶</td><td>日常の挨拶練習。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>お礼とお詫び</td><td>お礼とお詫びの表現。</td><td>お礼と謝る場合の表現を練習する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>自己紹介</td><td>人の名前・人称代名詞・職業の単語を学習し、その文を発言する練習。</td><td>授業内容を復習すること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>自己紹介</td><td>疑問詞“誰”・家族に関する単語を学習・家族についての自己紹介。</td><td>前回の授業の内容を使って会話の練習をする。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>基本文・肯定文・否定文・疑問文</td><td>名詞・名詞の否定詞。動詞・形容詞とその単語の否定詞を学習し、聞き取り会話練習。</td><td>周りにあるものの名前を覚える。日常生活に使用されている動詞又は目に身近な形容詞を覚える。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>2 週目～6 週目の復習。</td><td>小テスト</td><td>授業内容について復習。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>呼びかけ</td><td>様々な人の呼びかけ方</td><td>授業内容を復習する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>聞き直し</td><td>時間の言い方</td><td>授業内容を復習すること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>依頼</td><td>tolong～ (～してください) を使って人に何かを頼んでみましょう。</td><td>授業内容を復習すること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 6 ～ 10 までの復習</td><td>小テスト。聞き取りテスト及び筆記テストを行う。</td><td>前回の授業で学んだ単語を文書を作成。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>許可表現</td><td>boleh を使って相手に許可を求めてみましょう。</td><td>授業内容を復習すること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>確認</td><td>bukan を使って「～ですね」と確認しましょう。</td><td>授業内容の復習。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>願望表現</td><td>～が欲しい、～したいの表現</td><td>全部の授業内容の復習。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第 11 ～ 14 までの復習</td><td>これまでの復習 小テスト。聞き取り会話及び筆記テスト。 テスト。</td><td>学習した語彙・会話文テスト。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	アルファベット文字と発音	母音と子音の発音	二重母音と子音の発音を確認して練習する。	2	挨拶	日常に使われる挨拶	日常の挨拶練習。	3	お礼とお詫び	お礼とお詫びの表現。	お礼と謝る場合の表現を練習する。	4	自己紹介	人の名前・人称代名詞・職業の単語を学習し、その文を発言する練習。	授業内容を復習すること。	5	自己紹介	疑問詞“誰”・家族に関する単語を学習・家族についての自己紹介。	前回の授業の内容を使って会話の練習をする。	6	基本文・肯定文・否定文・疑問文	名詞・名詞の否定詞。動詞・形容詞とその単語の否定詞を学習し、聞き取り会話練習。	周りにあるものの名前を覚える。日常生活に使用されている動詞又は目に身近な形容詞を覚える。	7	2 週目～6 週目の復習。	小テスト	授業内容について復習。	8	呼びかけ	様々な人の呼びかけ方	授業内容を復習する。	9	聞き直し	時間の言い方	授業内容を復習すること。	10	依頼	tolong～ (～してください) を使って人に何かを頼んでみましょう。	授業内容を復習すること。	11	第 6 ～ 10 までの復習	小テスト。聞き取りテスト及び筆記テストを行う。	前回の授業で学んだ単語を文書を作成。	12	許可表現	boleh を使って相手に許可を求めてみましょう。	授業内容を復習すること。	13	確認	bukan を使って「～ですね」と確認しましょう。	授業内容の復習。	14	願望表現	～が欲しい、～したいの表現	全部の授業内容の復習。	15	第 11 ～ 14 までの復習	これまでの復習 小テスト。聞き取り会話及び筆記テスト。 テスト。	学習した語彙・会話文テスト。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	アルファベット文字と発音	母音と子音の発音	二重母音と子音の発音を確認して練習する。																																																																
2	挨拶	日常に使われる挨拶	日常の挨拶練習。																																																																
3	お礼とお詫び	お礼とお詫びの表現。	お礼と謝る場合の表現を練習する。																																																																
4	自己紹介	人の名前・人称代名詞・職業の単語を学習し、その文を発言する練習。	授業内容を復習すること。																																																																
5	自己紹介	疑問詞“誰”・家族に関する単語を学習・家族についての自己紹介。	前回の授業の内容を使って会話の練習をする。																																																																
6	基本文・肯定文・否定文・疑問文	名詞・名詞の否定詞。動詞・形容詞とその単語の否定詞を学習し、聞き取り会話練習。	周りにあるものの名前を覚える。日常生活に使用されている動詞又は目に身近な形容詞を覚える。																																																																
7	2 週目～6 週目の復習。	小テスト	授業内容について復習。																																																																
8	呼びかけ	様々な人の呼びかけ方	授業内容を復習する。																																																																
9	聞き直し	時間の言い方	授業内容を復習すること。																																																																
10	依頼	tolong～ (～してください) を使って人に何かを頼んでみましょう。	授業内容を復習すること。																																																																
11	第 6 ～ 10 までの復習	小テスト。聞き取りテスト及び筆記テストを行う。	前回の授業で学んだ単語を文書を作成。																																																																
12	許可表現	boleh を使って相手に許可を求めてみましょう。	授業内容を復習すること。																																																																
13	確認	bukan を使って「～ですね」と確認しましょう。	授業内容の復習。																																																																
14	願望表現	～が欲しい、～したいの表現	全部の授業内容の復習。																																																																
15	第 11 ～ 14 までの復習	これまでの復習 小テスト。聞き取り会話及び筆記テスト。 テスト。	学習した語彙・会話文テスト。																																																																
関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>今すぐ話せるインドネシア語</td><td>ファリーダイドリスノ・好光智子</td><td>株式会社ナガセ◎東進ブックス</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダイドリスノ・好光智子	株式会社ナガセ◎東進ブックス	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダイドリスノ・好光智子	株式会社ナガセ◎東進ブックス																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	クラス参加及びクラス活動会話学習の取り込む 50% 小テスト 50%																																																																		
学生へのメッセージ	授業で学んだ語彙を覚える為には、毎日インドネシア語の挨拶から学習した会話文を使用する。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に 7 号館 2 階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間とする。																																																																		

科目名	インドネシア語コミュニケーション I b	科目名 (英文)	Indonesian Communication Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1118e0		

授業概要・目的	前期に引きつづきインドネシアへ行くことを想定して、現地の日常生活の中の場面での会話に使われる表現に関連する単語を学習する。																																																																		
到達目標	インドネシア語の日常会話について、現地の生活習慣やマナーなどを理解できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	会話を聞く・話す・覚える。毎回会話を練習して。復習確認テストを行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシアの生活習慣を含めて日常コミュニケーションが能力を付ける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>前期の復習。</td><td>これまでに学んだことを思い出すために会話練習を行う。</td><td>前期の授業内容の事前に復習する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>機内にて</td><td>インドネシアへ向かう飛行機に乗ってすぐの、乗客と乗務員の会話です。聞き取り会話練習すること。</td><td>授業内容に関連する単語を覚える。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>入国</td><td>入国管理窓口での会話。聞き取り会話を練習する。</td><td>授業内容に関連する単語を覚える。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>タクシーに乗る</td><td>運転手との会話。聞き取り会話を練習すること。</td><td>授業内容に関連する単語を覚える。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ホテルにて</td><td>ホテル従業員との会話。聞き取り会話を練習すること。</td><td>授業内容に関連する単語を覚える。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 1 回目～5 回目までの復習</td><td>日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。</td><td>ペーパーテストを行う。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>観光案内所にて。</td><td>観光案内所の職員との会話。聞き取り会話を練習すること。</td><td>授業内容に関連する単語を覚える。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>鉄道に乗る</td><td>窓口の人との会話。聞き取り会話練習。</td><td>授業内容に関連する単語を覚える。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>レストランにて</td><td>ウェイターとの会話。聞き取り会話練習。</td><td>授業内容に関連する単語を覚える。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>買い物</td><td>店員さんとの会話。聞き取り会話練習。</td><td>授業内容に関連する単語を覚える。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 7 回目～10 回目の復習</td><td>日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。</td><td>ペーパーテストを行う。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>道を探す。</td><td>自分の行きたい場所までの道を探し、右や左といった単語や方向をマスターしましょう。聞き取り会話練習。</td><td>授業内容に関連する単語を覚える。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>薬局にて。</td><td>薬局の店員さんとの会話。聞き取り会話練習。</td><td>授業内容に関連する単語を覚える。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>電話をかける</td><td>インドネシアの友達に電話をかける。聞き取り会話練習。</td><td>授業内容に関連する単語を覚える。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第 12 回目～14 回目の復習</td><td>日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。</td><td>到達度の確認課題を行う。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の復習。	これまでに学んだことを思い出すために会話練習を行う。	前期の授業内容の事前に復習する。	2	機内にて	インドネシアへ向かう飛行機に乗ってすぐの、乗客と乗務員の会話です。聞き取り会話練習すること。	授業内容に関連する単語を覚える。	3	入国	入国管理窓口での会話。聞き取り会話を練習する。	授業内容に関連する単語を覚える。	4	タクシーに乗る	運転手との会話。聞き取り会話を練習すること。	授業内容に関連する単語を覚える。	5	ホテルにて	ホテル従業員との会話。聞き取り会話を練習すること。	授業内容に関連する単語を覚える。	6	第 1 回目～5 回目までの復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	ペーパーテストを行う。	7	観光案内所にて。	観光案内所の職員との会話。聞き取り会話を練習すること。	授業内容に関連する単語を覚える。	8	鉄道に乗る	窓口の人との会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。	9	レストランにて	ウェイターとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。	10	買い物	店員さんとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。	11	第 7 回目～10 回目の復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	ペーパーテストを行う。	12	道を探す。	自分の行きたい場所までの道を探し、右や左といった単語や方向をマスターしましょう。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。	13	薬局にて。	薬局の店員さんとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。	14	電話をかける	インドネシアの友達に電話をかける。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。	15	第 12 回目～14 回目の復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	到達度の確認課題を行う。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習。	これまでに学んだことを思い出すために会話練習を行う。	前期の授業内容の事前に復習する。																																																																
2	機内にて	インドネシアへ向かう飛行機に乗ってすぐの、乗客と乗務員の会話です。聞き取り会話練習すること。	授業内容に関連する単語を覚える。																																																																
3	入国	入国管理窓口での会話。聞き取り会話を練習する。	授業内容に関連する単語を覚える。																																																																
4	タクシーに乗る	運転手との会話。聞き取り会話を練習すること。	授業内容に関連する単語を覚える。																																																																
5	ホテルにて	ホテル従業員との会話。聞き取り会話を練習すること。	授業内容に関連する単語を覚える。																																																																
6	第 1 回目～5 回目までの復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	ペーパーテストを行う。																																																																
7	観光案内所にて。	観光案内所の職員との会話。聞き取り会話を練習すること。	授業内容に関連する単語を覚える。																																																																
8	鉄道に乗る	窓口の人との会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。																																																																
9	レストランにて	ウェイターとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。																																																																
10	買い物	店員さんとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。																																																																
11	第 7 回目～10 回目の復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	ペーパーテストを行う。																																																																
12	道を探す。	自分の行きたい場所までの道を探し、右や左といった単語や方向をマスターしましょう。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。																																																																
13	薬局にて。	薬局の店員さんとの会話。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。																																																																
14	電話をかける	インドネシアの友達に電話をかける。聞き取り会話練習。	授業内容に関連する単語を覚える。																																																																
15	第 12 回目～14 回目の復習	日本語⇄インドネシア語翻訳や様々な場面の会話文を作成。	到達度の確認課題を行う。																																																																
関連科目	専攻言語インドネシア語の科目のすべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>今すぐ話せるインドネシア語</td><td>ファリーダイドリスノ・好光智子</td><td>株式会社ナガセ◎東進ブックス</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダイドリスノ・好光智子	株式会社ナガセ◎東進ブックス	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	今すぐ話せるインドネシア語	ファリーダイドリスノ・好光智子	株式会社ナガセ◎東進ブックス																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	クラス活動参加(会話練習の取り込む) 50% 聞き取り会話及び筆記テスト 50%																																																																		
学生へのメッセージ	会話文だけではなく、インドネシアの文化や生活習慣などを理解し、コミュニケーション能力を上達する。出来る限りクラスメートと先生との会話をインドネシア語でしましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)																																																																		
備考	授業時間外での質問や要望は、7 号館 2 階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間とする。																																																																		

科目名	インドネシア語ボキャブラリー a	科目名 (英文)	Indonesian Vocabulary a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1119e0		

授業概要・目的	インドネシア語を学ぶにあたって、単語力の強化はたいへんに重要である。本授業では、インドネシア語の単語力を増強し、より豊かな表現ができることを目指す。																																																																		
到達目標	日常生活に必要な語彙を習得することができる。																																																																		
授業方法と留意点	本授業では、毎回、小テストを行う。日々の学習が効果を生むので、しっかりと取り組んでほしい。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>プロローグ インドネシア語の特徴</td><td>授業の進め方や受講にあたっての留意点の説明を行う。 また、インドネシア語の特徴を学習する。</td><td>復習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること</td></tr> <tr> <td>2</td><td>挨拶表現</td><td>簡単な挨拶表現を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>人間</td><td>人間 (個人) をめぐる単語を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>人間関係</td><td>人間関係をめぐる単語を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>飲食物、味覚、色彩</td><td>基本的な飲食物、調味料、味覚、色彩をめぐる単語を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>基本動詞</td><td>接辞を使わない基本動詞の単語を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>形容詞</td><td>基本的な形容詞の単語を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>前置詞および場所</td><td>前置詞および場所を表す単語を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>数詞および助数詞</td><td>数字の 100 万までの表現および助数詞の使い方を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>時の表現</td><td>年・月・曜日・時の表し方を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>助動詞および副詞</td><td>助動詞や副詞の使い方を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>地域および国</td><td>地域や国の名称を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>社会・生活</td><td>社会・生活にかかわる単語を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>その他の単語</td><td>その他、あらゆる分野の基本単語を習得する。</td><td>覚えた単語の再確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>臨時試験および総復習</td><td>臨時試験を実施し、学習項目の再確認を行う。</td><td>臨時試験で間違えた個所の再確認</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	プロローグ インドネシア語の特徴	授業の進め方や受講にあたっての留意点の説明を行う。 また、インドネシア語の特徴を学習する。	復習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること	2	挨拶表現	簡単な挨拶表現を習得する。	覚えた単語の再確認	3	人間	人間 (個人) をめぐる単語を習得する。	覚えた単語の再確認	4	人間関係	人間関係をめぐる単語を習得する。	覚えた単語の再確認	5	飲食物、味覚、色彩	基本的な飲食物、調味料、味覚、色彩をめぐる単語を習得する。	覚えた単語の再確認	6	基本動詞	接辞を使わない基本動詞の単語を習得する。	覚えた単語の再確認	7	形容詞	基本的な形容詞の単語を習得する。	覚えた単語の再確認	8	前置詞および場所	前置詞および場所を表す単語を習得する。	覚えた単語の再確認	9	数詞および助数詞	数字の 100 万までの表現および助数詞の使い方を習得する。	覚えた単語の再確認	10	時の表現	年・月・曜日・時の表し方を習得する。	覚えた単語の再確認	11	助動詞および副詞	助動詞や副詞の使い方を習得する。	覚えた単語の再確認	12	地域および国	地域や国の名称を習得する。	覚えた単語の再確認	13	社会・生活	社会・生活にかかわる単語を習得する。	覚えた単語の再確認	14	その他の単語	その他、あらゆる分野の基本単語を習得する。	覚えた単語の再確認	15	臨時試験および総復習	臨時試験を実施し、学習項目の再確認を行う。	臨時試験で間違えた個所の再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	プロローグ インドネシア語の特徴	授業の進め方や受講にあたっての留意点の説明を行う。 また、インドネシア語の特徴を学習する。	復習には十分に時間をかけ、学習効果を上げるように努めること																																																																
2	挨拶表現	簡単な挨拶表現を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
3	人間	人間 (個人) をめぐる単語を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
4	人間関係	人間関係をめぐる単語を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
5	飲食物、味覚、色彩	基本的な飲食物、調味料、味覚、色彩をめぐる単語を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
6	基本動詞	接辞を使わない基本動詞の単語を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
7	形容詞	基本的な形容詞の単語を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
8	前置詞および場所	前置詞および場所を表す単語を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
9	数詞および助数詞	数字の 100 万までの表現および助数詞の使い方を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
10	時の表現	年・月・曜日・時の表し方を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
11	助動詞および副詞	助動詞や副詞の使い方を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
12	地域および国	地域や国の名称を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
13	社会・生活	社会・生活にかかわる単語を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
14	その他の単語	その他、あらゆる分野の基本単語を習得する。	覚えた単語の再確認																																																																
15	臨時試験および総復習	臨時試験を実施し、学習項目の再確認を行う。	臨時試験で間違えた個所の再確認																																																																
関連科目	専攻言語インドネシア語の科目すべて (特に、「インドネシア語入門 a(1) (2)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>インドネシア語単語集 (2000 単語) <第 2 版></td><td>浦野崇央・山口真佐夫編</td><td>摂南大学外国語学部</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	インドネシア語単語集 (2000 単語) <第 2 版>	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	インドネシア語単語集 (2000 単語) <第 2 版>	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>プログレッシブ インドネシア語辞典</td><td>舟田京子・高殿良博・左藤正範編</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎週の小テスト 30%、「積極的な授業参加」の度合い 30%、臨時試験 40%を総合的に判断して評価する。詳細は第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	初めて学ぶインドネシア語運用能力の向上にあたっては、単語力の増強が欠かせません。日頃から単語の暗記を心がけましょう。																																																																		
担当者の研究室等	浦野研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	事前・事後学習の総時間数は、15 時間程度を目安とする。 教科書『インドネシア語単語集』は、第 1 回目の授業で配布します。																																																																		

科目名	インドネシア語ボキャブラリーb	科目名 (英文)	Indonesian Vocabulary b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1120e0		

授業概要・目的	インドネシア語を習得するうえで、語彙力を高めることはきわめて重要である。 この授業では、やや高度なインドネシア語の単語と表現を学び、インドネシア語の語彙数を増やし、豊かな表現力と理解力を身に付けることを目的とする。あわせて、インドネシア語の文章や映像を通して生きた表現を学び、人々の暮らしに対する理解を深める。
到達目標	インドネシア語のやや高度な単語と表現を習得することができる。
授業方法と留意点	計3回の確認テストを行う。 課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語のやや高度な単語と表現が習得できる。 インドネシア語技能検定試験のための準備を進めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要と講義の進め方を説明する。 既習事項について復習する。	前期「ボキャブラリーa」の復習をしておくこと。
	2	既習事項の確認	既習事項について復習する。	前期「ボキャブラリーa」の復習をしておくこと。
	3	語彙 1	人間・家族・仲間に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	4	語彙 2	人間・家族・仲間に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	5	復習 1	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	前回の復習
	6	語彙 3	社会・生活に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	7	語彙 4	社会・生活に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	8	語彙 5	政治・経済に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	9	語彙 6	芸術・文化に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	10	復習 2	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。
	11	語彙 7	自然に関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	12	語彙 8	住まい・道具・メディアに関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	13	語彙 9	住まい・道具・メディアに関する単語を習得する。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。
	14	復習 3	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。
	15	総合復習	単語習得状況の確認とフォローアップを行う。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。

関連科目	インドネシア語、マレー語に関する科目すべて。
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『プログレッシブ インドネシア語辞典』(インドネシア語入門 a、b 等と共通)	舟田京子・高殿良博・左藤正範(編著)	小学館
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	・計3回の確認テスト(60%) ・期末テスト(40%) *詳細は、第1回目の授業で伝える。
-----------	---

学生へのメッセージ	インドネシア語は、文法構造が他言語と比べてシンプルです。インドネシア語上達のためには、ボキャブラリーを増やすことが重要です。この講義で学ぶ内容の他、動画配信されているニュース番組や、新聞・雑誌のウェブサイトなども日常的にアクセスして、インドネシア語のボキャブラリーを増やす努力を続けてください。
-----------	---

担当者の研究室等	金子研究室 (7号館5階) なお、7号館の耐震補強工事のため、2021年4月から9月末までは、11号館11階スカイラウンジに仮の研究室がある。
----------	--

備考	毎回の復習は時間をかけてしっかりと行い、学習内容を確実に習得し、語彙を着実に増やしていけるように努めてください。 事前・事後学習の総時間数は、15時間とする。
----	--

科目名	インドネシア語表現法	科目名 (英文)	Indonesian Expression
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1121e0		

授業概要・目的	この授業では、インドネシア語の基本的な表現および単語を学び、基本的な表現力と理解力を身に付けることを目的とする。あわせて、文章や映像を通してインドネシア語の生きた表現を学び、人々の暮らしに対する理解を深める。																																																																		
到達目標	インドネシア語の基本的な表現および単語を習得することができる。																																																																		
授業方法と留意点	計3回の確認テストを行う。 課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語の基本的な表現と単語が習得できる。 インドネシア語翻訳通訳に役に立つ。インドネシアの社会における様々なジャンルを学習し、知識を習得することが出来る。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義概要と講義の進め方を説明する。</td><td>インドネシアとインドネシア語について、基本的な情報を調べておくこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>表現1: インドネシア語の挨拶</td><td>インドネシアの生活習慣の基本に表す表現・</td><td>インドネシアの社会の情報を調べておくこと。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>表現2: 生活人の呼び方。</td><td>インドネシアにおける日常生活に関する表現を学ぶ。</td><td>既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>表現3: 誘う</td><td>インドネシアにおける日常生活に関する表現を学ぶ。</td><td>既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>復習1</td><td>既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。</td><td>既習事項を復習すること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>表現4: 感情を表す表現①嬉しい・喜ぶ表現。</td><td>嬉しい・喜びに関する表現を学ぶ。</td><td>既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>表現5: 悲しい・痛いを表す表現</td><td>悲しい・痛いに関する表現を学ぶ。</td><td>既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>表現6: 怒りを表す表現</td><td>怒りに関する表現を学ぶ。</td><td>既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>表現7: 驚き・悩みを表す表現</td><td>驚き・悩みに関する表現を学ぶ。</td><td>既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>復習2</td><td>感情を表す表現を確認するためのテストを行う。</td><td>既習事項を復習すること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>表現8: 禁止の表現</td><td>様々な禁止の表現を学ぶ。</td><td>既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>表現9: 命令・依頼表現</td><td>命令・依頼の表現を学ぶ。</td><td>既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>表現10: 愛情表現</td><td>愛情に関する表現を学ぶ。</td><td>既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>復習3</td><td>既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。</td><td>既習事項を復習すること。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総合復習</td><td>習得状況の確認とフォローアップを行う。</td><td>既習事項を復習すること。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義概要と講義の進め方を説明する。	インドネシアとインドネシア語について、基本的な情報を調べておくこと。	2	表現1: インドネシア語の挨拶	インドネシアの生活習慣の基本に表す表現・	インドネシアの社会の情報を調べておくこと。	3	表現2: 生活人の呼び方。	インドネシアにおける日常生活に関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	4	表現3: 誘う	インドネシアにおける日常生活に関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	5	復習1	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。	6	表現4: 感情を表す表現①嬉しい・喜ぶ表現。	嬉しい・喜びに関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	7	表現5: 悲しい・痛いを表す表現	悲しい・痛いに関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	8	表現6: 怒りを表す表現	怒りに関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	9	表現7: 驚き・悩みを表す表現	驚き・悩みに関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	10	復習2	感情を表す表現を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。	11	表現8: 禁止の表現	様々な禁止の表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	12	表現9: 命令・依頼表現	命令・依頼の表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	13	表現10: 愛情表現	愛情に関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。	14	復習3	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。	15	総合復習	習得状況の確認とフォローアップを行う。	既習事項を復習すること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義概要と講義の進め方を説明する。	インドネシアとインドネシア語について、基本的な情報を調べておくこと。																																																																
2	表現1: インドネシア語の挨拶	インドネシアの生活習慣の基本に表す表現・	インドネシアの社会の情報を調べておくこと。																																																																
3	表現2: 生活人の呼び方。	インドネシアにおける日常生活に関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。																																																																
4	表現3: 誘う	インドネシアにおける日常生活に関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。																																																																
5	復習1	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。																																																																
6	表現4: 感情を表す表現①嬉しい・喜ぶ表現。	嬉しい・喜びに関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。																																																																
7	表現5: 悲しい・痛いを表す表現	悲しい・痛いに関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。																																																																
8	表現6: 怒りを表す表現	怒りに関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。																																																																
9	表現7: 驚き・悩みを表す表現	驚き・悩みに関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。																																																																
10	復習2	感情を表す表現を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。																																																																
11	表現8: 禁止の表現	様々な禁止の表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。																																																																
12	表現9: 命令・依頼表現	命令・依頼の表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。																																																																
13	表現10: 愛情表現	愛情に関する表現を学ぶ。	既習事項の確認と練習問題に取り組むこと。																																																																
14	復習3	既習事項を復習。 達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項を復習すること。																																																																
15	総合復習	習得状況の確認とフォローアップを行う。	既習事項を復習すること。																																																																
関連科目	インドネシア、マレーシア、東南アジアに関する科目すべて。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>インドネシア語会話「決まり文句」600</td><td>高取 茂</td><td>株式会社語研</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	インドネシア語会話「決まり文句」600	高取 茂	株式会社語研	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	インドネシア語会話「決まり文句」600	高取 茂	株式会社語研																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	計3回の確認テストを行う。 課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。 詳細は、第1回目の授業で伝える。 クラス活動 50% 復習テスト 50%																																																																		
学生へのメッセージ	日々の研鑽を怠らないようにしてください。 授業の復習以外にも、自分の関心に合わせて、インドネシア語の文章・映像・音声に積極的に触れ、辞書を使ってその内容を理解しようと心がけてください。 自分で調べる作業を経ることで、新しい表現や単語が印象に残りやすくなり、そのぶんスムーズに学習を展開できるはずです。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期3号館2階/後期7号館2階)																																																																		
備考	毎回の復習は時間をかけてしっかりと行い、学習内容を確実に習得し、語彙を着実に増やしていけるように努めてください。 事前・事後学習の総時間数は、15時間とする。 授業時間外での質問には非常勤講師室で応じますが、事前に連絡すること。																																																																		

科目名	初級検定インドネシア語	科目名 (英文)	Practice for Elementary Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL1122e0		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験 E 級の過去問題に取り組み、E 級レベルの語彙や文法を学習する。				
到達目標	インドネシア語技能検定試験 E 級レベルの語彙や文法事項の知識を得ることができる。				
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に、特に語彙と文法に重点をおき、授業を進める。また、適宜小テストを行う。辞書は必ず携帯すること。				
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	練習問題(1) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
		2	練習問題(1) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
		3	練習問題(1) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
		4	練習問題(2) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
		5	練習問題(2) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
		6	練習問題(2) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
		7	練習問題(3) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
		8	練習問題(3) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
		9	練習問題(3) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
		10	練習問題(4) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
		11	練習問題(4) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
		12	練習問題(4) ③	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
		13	練習問題(5) ①	過去問を解く	過去問で間違えた個所の再確認
		14	練習問題(5) ②	内容の把握、語彙、文法についての補足説明	新出単語の復習には十分時間をかけ、学習効果を上げるように努めること
		15	最終確認テスト	これまでに学んだことの再確認	これまでに学んだことを再確認すること
関連科目	インドネシア語科目のすべて				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範編	小学館
		2			
		3			
評価方法（基準）	小テスト 50%、最終確認テスト 30%、インドネシア語技能検定試験の結果 20%				
学生へのメッセージ	検定試験 E 級合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。				
担当者の研究室等	7 号館 4 階（浦野研究室）				
備考	授業内容を確実に理解するためにも、事前・事後学習を必ず行うこと。事前・事後学習の総時間数は 15 時間程度を目安とする。				

科目名	総合インドネシア語 a (1)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills a(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2123e0		

授業概要・目的	1 年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。																																																																		
到達目標	本授業では、特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 a (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で実施する。なお、定期試験については「総合インドネシア語」統一試験とし、臨時試験として実施する。授業時には辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第 1 課</td><td>授業の進め方のガイダンス 辞書の使い方の説明</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 3 課</td><td>基礎力確認演習 (作文)</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 5 課</td><td>文の種類 1 疑問文 (文法・講読・作文)</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 6 課</td><td>文の種類 2 単文 (3) 作文</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 7 課</td><td>文の種類 3 単文と複文 (3) 作文</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 9 課</td><td>新聞に親しんでみよう</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 10 課</td><td>インドネシアの教科書の講読②</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 10 課</td><td>インドネシアの教科書の講読④</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 10 課</td><td>インドネシア語の教科書の講読⑥</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 12 課</td><td>会話文の講読①</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 12 課</td><td>会話文の講読③</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 13 課</td><td>広告に親しんでみよう</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 14 課</td><td>エッセイの講読②</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 14 課</td><td>エッセイの講読④</td><td>予習 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第 14 課</td><td>エッセイの講読⑥</td><td>学んだことの再確認</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 1 課	授業の進め方のガイダンス 辞書の使い方の説明	学んだことの再確認	2	第 3 課	基礎力確認演習 (作文)	学んだことの再確認	3	第 5 課	文の種類 1 疑問文 (文法・講読・作文)	学んだことの再確認	4	第 6 課	文の種類 2 単文 (3) 作文	学んだことの再確認	5	第 7 課	文の種類 3 単文と複文 (3) 作文	学んだことの再確認	6	第 9 課	新聞に親しんでみよう	予習 学んだことの再確認	7	第 10 課	インドネシアの教科書の講読②	予習 学んだことの再確認	8	第 10 課	インドネシアの教科書の講読④	予習 学んだことの再確認	9	第 10 課	インドネシア語の教科書の講読⑥	学んだことの再確認	10	第 12 課	会話文の講読①	予習 学んだことの再確認	11	第 12 課	会話文の講読③	予習 学んだことの再確認	12	第 13 課	広告に親しんでみよう	予習 学んだことの再確認	13	第 14 課	エッセイの講読②	予習 学んだことの再確認	14	第 14 課	エッセイの講読④	予習 学んだことの再確認	15	第 14 課	エッセイの講読⑥	学んだことの再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 1 課	授業の進め方のガイダンス 辞書の使い方の説明	学んだことの再確認																																																																
2	第 3 課	基礎力確認演習 (作文)	学んだことの再確認																																																																
3	第 5 課	文の種類 1 疑問文 (文法・講読・作文)	学んだことの再確認																																																																
4	第 6 課	文の種類 2 単文 (3) 作文	学んだことの再確認																																																																
5	第 7 課	文の種類 3 単文と複文 (3) 作文	学んだことの再確認																																																																
6	第 9 課	新聞に親しんでみよう	予習 学んだことの再確認																																																																
7	第 10 課	インドネシアの教科書の講読②	予習 学んだことの再確認																																																																
8	第 10 課	インドネシアの教科書の講読④	予習 学んだことの再確認																																																																
9	第 10 課	インドネシア語の教科書の講読⑥	学んだことの再確認																																																																
10	第 12 課	会話文の講読①	予習 学んだことの再確認																																																																
11	第 12 課	会話文の講読③	予習 学んだことの再確認																																																																
12	第 13 課	広告に親しんでみよう	予習 学んだことの再確認																																																																
13	第 14 課	エッセイの講読②	予習 学んだことの再確認																																																																
14	第 14 課	エッセイの講読④	予習 学んだことの再確認																																																																
15	第 14 課	エッセイの講読⑥	学んだことの再確認																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 a (2)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>総合インドネシア語 第 4 版</td><td>浦野崇央・山口真佐夫編</td><td>摂南大学外国語学部</td></tr> <tr> <td>2</td><td>インドネシア語辞典ポケット版</td><td>末永晃</td><td>大学書林</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>最新インドネシア語小辞典</td><td>佐々木重次編</td><td>Grup Sanggar</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	「総合インドネシア語」統一試験 (臨時試験) 80%、 授業中の演習や発表に対する取り組み 20% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	より高度なインドネシア語運用能力を身につけるために、一生懸命取り組みましょう。 日ごろから日本語のさまざまな文章表現にも留意するようにしましょう。																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	事前・事後学習課題欄を参考にして、毎週少なくとも 2 時間程度以上の復習をおこなうこと。 指示する予習もおこなうこと。																																																																		

科目名	総合インドネシア語 a (2)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills a(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2124e0		

授業概要・目的	1 年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) の総合的な運用能力の一層の向上を目指す。																																																																		
到達目標	本授業では、特に「読む」「書く」の能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 a (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、最終試験については「総合インドネシア語」統一試験とする。授業時には辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>第 2 課</td><td>基礎力確認演習 (講読)</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>2</td><td>第 4 課</td><td>基礎力確認演習 (能動文と受動文)</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>3</td><td>第 6 課</td><td>文の種類 2 単文 (文法・講読)</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>4</td><td>第 7 課</td><td>文の種類 3 重文と複文 (文法・講読)</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>5</td><td>第 8 課</td><td>基礎力確認演習 (総合①②)</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>6</td><td>第 10 課</td><td>インドネシアの教科書の講読①</td><td>予習 (第 10 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>7</td><td>第 10 課</td><td>インドネシアの教科書の講読③</td><td>予習 (第 10 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>8</td><td>第 10 課</td><td>インドネシアの教科書の講読⑤</td><td>予習 (第 10 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>9</td><td>第 11 課</td><td>雑誌に親しんでみよう</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>10</td><td>第 12 課</td><td>会話文の講読②</td><td>予習 (第 12 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>11</td><td>第 12 課</td><td>会話文の講読④</td><td>予習 (第 12 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>12</td><td>第 14 課</td><td>エッセイの講読①</td><td>予習 (第 14 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>13</td><td>第 14 課</td><td>エッセイの講読③</td><td>予習 (第 14 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>14</td><td>第 14 課</td><td>エッセイの講読⑤</td><td>予習 (第 14 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr><td>15</td><td>総復習</td><td>学んだことの総復習 最終試験</td><td>これまでに学んだことの復習・再確認</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 2 課	基礎力確認演習 (講読)	学んだことの再確認	2	第 4 課	基礎力確認演習 (能動文と受動文)	学んだことの再確認	3	第 6 課	文の種類 2 単文 (文法・講読)	学んだことの再確認	4	第 7 課	文の種類 3 重文と複文 (文法・講読)	学んだことの再確認	5	第 8 課	基礎力確認演習 (総合①②)	学んだことの再確認	6	第 10 課	インドネシアの教科書の講読①	予習 (第 10 課) 学んだことの再確認	7	第 10 課	インドネシアの教科書の講読③	予習 (第 10 課) 学んだことの再確認	8	第 10 課	インドネシアの教科書の講読⑤	予習 (第 10 課) 学んだことの再確認	9	第 11 課	雑誌に親しんでみよう	学んだことの再確認	10	第 12 課	会話文の講読②	予習 (第 12 課) 学んだことの再確認	11	第 12 課	会話文の講読④	予習 (第 12 課) 学んだことの再確認	12	第 14 課	エッセイの講読①	予習 (第 14 課) 学んだことの再確認	13	第 14 課	エッセイの講読③	予習 (第 14 課) 学んだことの再確認	14	第 14 課	エッセイの講読⑤	予習 (第 14 課) 学んだことの再確認	15	総復習	学んだことの総復習 最終試験	これまでに学んだことの復習・再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 2 課	基礎力確認演習 (講読)	学んだことの再確認																																																																
2	第 4 課	基礎力確認演習 (能動文と受動文)	学んだことの再確認																																																																
3	第 6 課	文の種類 2 単文 (文法・講読)	学んだことの再確認																																																																
4	第 7 課	文の種類 3 重文と複文 (文法・講読)	学んだことの再確認																																																																
5	第 8 課	基礎力確認演習 (総合①②)	学んだことの再確認																																																																
6	第 10 課	インドネシアの教科書の講読①	予習 (第 10 課) 学んだことの再確認																																																																
7	第 10 課	インドネシアの教科書の講読③	予習 (第 10 課) 学んだことの再確認																																																																
8	第 10 課	インドネシアの教科書の講読⑤	予習 (第 10 課) 学んだことの再確認																																																																
9	第 11 課	雑誌に親しんでみよう	学んだことの再確認																																																																
10	第 12 課	会話文の講読②	予習 (第 12 課) 学んだことの再確認																																																																
11	第 12 課	会話文の講読④	予習 (第 12 課) 学んだことの再確認																																																																
12	第 14 課	エッセイの講読①	予習 (第 14 課) 学んだことの再確認																																																																
13	第 14 課	エッセイの講読③	予習 (第 14 課) 学んだことの再確認																																																																
14	第 14 課	エッセイの講読⑤	予習 (第 14 課) 学んだことの再確認																																																																
15	総復習	学んだことの総復習 最終試験	これまでに学んだことの復習・再確認																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 a (1)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>総合インドネシア語 第 4 版</td><td>浦野崇央・山口真佐夫編</td><td>摂南大学外国語学部</td></tr> <tr><td>2</td><td>インドネシア語辞典</td><td>末永晃</td><td>大学書林</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	インドネシア語辞典	末永晃	大学書林	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	インドネシア語辞典	末永晃	大学書林																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>最新インドネシア語小辞典</td><td>佐々木重次編</td><td>Grup Sanggar</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	「総合インドネシア語」統一試験 80%、「積極的な授業参加」の度合い 20% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命取り組みましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来て下さい。積極的な姿勢が大切です。																																																																		
担当者の研究室等	浦野研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	事前・事後学習課題欄を参考にして、毎週少なくとも 1 時間程度以上の復習は欠かさず、指示がある時は予習もこなすこと。																																																																		

科目名	総合インドネシア語 b (1)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills b(1)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2125e0		

授業概要・目的	1 年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) 運用能力の一層の向上を目指す。
到達目標	前期開講の「総合インドネシア語 a (1)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 b (2)」と同じテキストを用い、リレー方式で実施する。なお、試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携帯すること。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 15 課	手紙を書いてみよう② 手紙の書き方	学んだことの再確認
	2	第 15 課	手紙を書いてみよう 作文	学んだことの再確認
	3	第 16 課	ことわざの表現③④	予習 学んだことの再確認
	4	第 15 課	手紙を書いてみよう 作文	予習 学んだことの再確認
	5	第 18 課	文学作品の購読①	学んだことの再確認
	6	第 18 課	文学作品の購読③	予習 学んだことの再確認
	7	第 18 課	文学作品の購読⑤	予習 学んだことの再確認
	8	第 18 課	文学作品の購読⑦	予習 学んだことの再確認
	9	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari①	予習 学んだことの再確認
	10	第 15 課	手紙を書いてみよう 作文原稿チェック	学んだことの再確認
	11	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari④	予習 学んだことの再確認
	12	第 19 課	スピーチをしてみよう②	学んだことの再確認
	13	第 21 課	テレビを観てみよう	学んだことの再確認
	14	第 23 課	新聞記事の購読①	学んだことの再確認
	15	第 23 課	新聞記事の購読④	予習 学んだことの再確認

関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 b (2)」)
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部
	2	インドネシア語辞典ポケット版	末永晃	大学書林
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar
	2			
	3			

評価方法 (基準)	「総合インドネシア語」統一試験 80 % 授業中の演習や発表に対する取り組み 20 % 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。
-----------	--

学生へのメッセージ	より高度なインドネシア語運用能力を身につけるために、一生懸命取り組みましょう。 日頃からインドネシア語や日本語のさまざまな文章・文体表現に触れるようにしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	「事前・事後学習課題」欄を参考にして、毎週少なくとも 2 時間程度以上の復習を欠かさないこと。 指示に従って予習もおこなうこと。
----	---

科目名	総合インドネシア語 b (2)	科目名 (英文)	Integrated Indonesian Skills b(2)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2126e0		

授業概要・目的	1 年次に学んだ基礎を踏まえ、インドネシア語 (Bahasa Indonesia) 運用能力の一層の向上を目指す。																																																																		
到達目標	前期開講の「総合インドネシア語 a (2)」に引き続き、本授業では特に「読む」「書く」能力を高めることを目的とし、インドネシア語で表現する能力のレベルアップを行う。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は、「総合インドネシア語 b (1)」と同じテキストを用い、リレー方式で行っていく。なお、試験についても「総合インドネシア語」統一試験を実施する。授業時には辞書を必ず携帯すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第 15 課</td><td>手紙を書いてみよう①</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 16 課</td><td>ことわざの表現①②</td><td>予習 (第 16 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 16 課</td><td>ことわざの表現⑤⑥</td><td>予習 (第 16 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 17 課</td><td>映画を観てみよう</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 18 課</td><td>文学作品の講読②</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 18 課</td><td>文学作品の講読④</td><td>予習 (第 18 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 18 課</td><td>文学作品の講読⑥</td><td>予習 (第 18 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 18 課</td><td>文学作品の講読⑧</td><td>予習 (第 18 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 20 課</td><td>bahasa baku と bahasa sehari-hari②</td><td>予習 (第 20 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 20 課</td><td>bahasa baku と bahasa sehari-hari③</td><td>予習 (第 20 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 19 課</td><td>スピーチをしてみよう①</td><td>予習 (第 20 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 19 課</td><td>スピーチをしてみよう③</td><td>予習 (第 19 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 22 課</td><td>略語と借用語</td><td>学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 23 課</td><td>新聞記事の購読②</td><td>予習 (第 23 課) 学んだことの再確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第 23 課</td><td>新聞記事の購読③</td><td>予習 (第 23 課) 学んだことの再確認</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第 15 課	手紙を書いてみよう①	学んだことの再確認	2	第 16 課	ことわざの表現①②	予習 (第 16 課) 学んだことの再確認	3	第 16 課	ことわざの表現⑤⑥	予習 (第 16 課) 学んだことの再確認	4	第 17 課	映画を観てみよう	学んだことの再確認	5	第 18 課	文学作品の講読②	学んだことの再確認	6	第 18 課	文学作品の講読④	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認	7	第 18 課	文学作品の講読⑥	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認	8	第 18 課	文学作品の講読⑧	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認	9	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari②	予習 (第 20 課) 学んだことの再確認	10	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari③	予習 (第 20 課) 学んだことの再確認	11	第 19 課	スピーチをしてみよう①	予習 (第 20 課) 学んだことの再確認	12	第 19 課	スピーチをしてみよう③	予習 (第 19 課) 学んだことの再確認	13	第 22 課	略語と借用語	学んだことの再確認	14	第 23 課	新聞記事の購読②	予習 (第 23 課) 学んだことの再確認	15	第 23 課	新聞記事の購読③	予習 (第 23 課) 学んだことの再確認
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第 15 課	手紙を書いてみよう①	学んだことの再確認																																																																
2	第 16 課	ことわざの表現①②	予習 (第 16 課) 学んだことの再確認																																																																
3	第 16 課	ことわざの表現⑤⑥	予習 (第 16 課) 学んだことの再確認																																																																
4	第 17 課	映画を観てみよう	学んだことの再確認																																																																
5	第 18 課	文学作品の講読②	学んだことの再確認																																																																
6	第 18 課	文学作品の講読④	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認																																																																
7	第 18 課	文学作品の講読⑥	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認																																																																
8	第 18 課	文学作品の講読⑧	予習 (第 18 課) 学んだことの再確認																																																																
9	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari②	予習 (第 20 課) 学んだことの再確認																																																																
10	第 20 課	bahasa baku と bahasa sehari-hari③	予習 (第 20 課) 学んだことの再確認																																																																
11	第 19 課	スピーチをしてみよう①	予習 (第 20 課) 学んだことの再確認																																																																
12	第 19 課	スピーチをしてみよう③	予習 (第 19 課) 学んだことの再確認																																																																
13	第 22 課	略語と借用語	学んだことの再確認																																																																
14	第 23 課	新聞記事の購読②	予習 (第 23 課) 学んだことの再確認																																																																
15	第 23 課	新聞記事の購読③	予習 (第 23 課) 学んだことの再確認																																																																
関連科目	インドネシア語科目すべて (特に「総合インドネシア語 b (1)」)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>総合インドネシア語 第 4 版</td><td>浦野崇央・山口真佐夫編</td><td>摂南大学外国語学部</td></tr> <tr> <td>2</td><td>インドネシア語辞典</td><td>末永晃</td><td>大学書林</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部	2	インドネシア語辞典	末永晃	大学書林	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	総合インドネシア語 第 4 版	浦野崇央・山口真佐夫編	摂南大学外国語学部																																																																
2	インドネシア語辞典	末永晃	大学書林																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>最新インドネシア語小辞典</td><td>佐々木重次編</td><td>Grup Sanggar</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	最新インドネシア語小辞典	佐々木重次編	Grup Sanggar																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	試験 (「総合インドネシア語」統一試験) 80%、「積極的な授業参加」の度合い 20% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	インドネシア語をモノにするために一生懸命に取り組みましょう。 質問があれば、いつでも研究室に来て下さい。積極的な姿勢が大切です。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (浦野研究室)																																																																		
備考	「事前・事後学習課題」欄を参考に、毎週少なくとも 1 時間程度以上の復習は欠かさず、指示のある時は予習をこなすこと。																																																																		

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡ a	科目名 (英文)	Indonesian Communication II a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2127e0		

授業概要・目的	1 年間のインドネシア語学習を通じて、単語力や文法の理解が深まったかと思われます。 インドネシアに旅でも長期滞在でコミュニケーション出来る。インドネシアでの様々な状況の会話文を学んで、コミュニケーションを取る練習。
到達目標	相手の発言に対して自分が応えることも重要であるが、まずは過去 1 年間で得た単語力と文法理解力をもとに、自分が言いたいことや伝えたいことを即座に比較的短い文で発言できることを目標とする。
授業方法と留意点	会話がテーマです。 毎回のテーマに応じて、どのような内容を伝えなければならないのか、もしくはどのような状況であるのかを事前にいくつか想像しておくこと。 積極的な発言と態度で臨んでください。リスニング、聞き取り会話練習。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	プロローグ	授業の進め方と、受講にあたっての留意点に関する説明を行なう。	授業の進め方に対する質問や要望を事前に考えておくこと。
	2	インドネシアに上陸する (1)	下宿を探す	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	3	インドネシアに上陸する (2)	家具を買う	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	4	インドネシアに上陸する (3)	乗り物をレンタルする。	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	5	小テストおよび第 2 回から第 4 回までの復習	第 2 回から第 4 回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
	6	インドネシアでの日常生活 ①	大学で出会い	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	7	インドネシアでの日常生活 ②	博物館に訪問	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	8	インドネシアでの日常生活 ③	映画を見る	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	9	インドネシアでの日常生活 ④	手工芸品を見る	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	10	小テストおよび第 6 回から第 9 回までの復習	第 6 回から第 9 回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
	11	様々な出来事①	講義に遅刻する	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	12	様々な出来事②	運転免許証をうっかりお気を忘れる	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	13	様々な出来事③	郊外で休暇を過ごす	重要な表現や応用表現を覚えましょう。
	14	小テスト第 11 回から 13 回までの復習	第 11 回から第 13 回までに学習した項目をもとに、あるシチュエーションを想定した会話を課す。	授業内容の復習
	15	反省会	学生一人一人感想を語る	全授業内容の復習。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	インドネシア語スピーキング	ホラス由美子	三修社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	クラス参加及び活動 (聴き取り会話学習) 50% 授業内中間及び期末筆記テスト 50%
学生へのメッセージ	間違いを恐れずに、学んだ単語を自発的に使ってみましょう。 日々の地道な学習と努力は「気づき」と大きな成果を必ずもたらします。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に 7 号館 2 階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅡ b	科目名 (英文)	Indonesian Communication II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2128e0		

授業概要・目的	この授業は、様々なインドネシアの生活習慣・文化などについて読解を通じて議論を行います。専門用語やインドネシアの社会の知識を高めるとする。																																																																		
到達目標	インドネシア語の読む能力を高め、自分から積極的に議論することができる。																																																																		
授業方法と留意点	各テーマの配布する資料を読んで、質問を答え、各テーマに議論する。授業に使う資料は教員が配布する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	各テーマの専門用語や社会・文化の知識高める。インドネシア語技能検定試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>プロローグ</td><td>授業内容とつづめるかたについて説明。</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>インドネシア多民族国家</td><td>インドネシアの歴史・民族</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>インドネシアの教育</td><td>インドネシアの学校生活の情報</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>インドネシアの伝統文化①</td><td>世界遺産</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>インドネシアの伝統文化②</td><td>無形文化財：パティク</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>小テスト第2回目～5回目の内容について。</td><td>筆記試験</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>インドネシアの楽器・音楽</td><td>民族楽器～現在の音楽</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>インドネシアの祭り</td><td>伝統的な祭り</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>インドネシアのスポーツ</td><td>国民に人気のスポーツ・競技など。</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>インドネシアの社会・経済</td><td>インドネシアと日本の関係</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>小テスト第6回目～10回目の内容について。</td><td>筆記試験</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>インドネシア人コミュニティー①</td><td>国際結婚</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>インドネシア人コミュニティー②</td><td>技能実習生</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>インドネシアコミュニティー③</td><td>介護福祉士・看護師</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>小テスト第12回目～14回目の内容について。</td><td>筆記試験</td><td>各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	プロローグ	授業内容とつづめるかたについて説明。		2	インドネシア多民族国家	インドネシアの歴史・民族	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	3	インドネシアの教育	インドネシアの学校生活の情報	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	4	インドネシアの伝統文化①	世界遺産	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	5	インドネシアの伝統文化②	無形文化財：パティク	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	6	小テスト第2回目～5回目の内容について。	筆記試験	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	7	インドネシアの楽器・音楽	民族楽器～現在の音楽	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	8	インドネシアの祭り	伝統的な祭り	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	9	インドネシアのスポーツ	国民に人気のスポーツ・競技など。	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	10	インドネシアの社会・経済	インドネシアと日本の関係	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	11	小テスト第6回目～10回目の内容について。	筆記試験	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	12	インドネシア人コミュニティー①	国際結婚	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	13	インドネシア人コミュニティー②	技能実習生	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	14	インドネシアコミュニティー③	介護福祉士・看護師	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。	15	小テスト第12回目～14回目の内容について。	筆記試験	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	プロローグ	授業内容とつづめるかたについて説明。																																																																	
2	インドネシア多民族国家	インドネシアの歴史・民族	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
3	インドネシアの教育	インドネシアの学校生活の情報	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
4	インドネシアの伝統文化①	世界遺産	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
5	インドネシアの伝統文化②	無形文化財：パティク	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
6	小テスト第2回目～5回目の内容について。	筆記試験	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
7	インドネシアの楽器・音楽	民族楽器～現在の音楽	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
8	インドネシアの祭り	伝統的な祭り	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
9	インドネシアのスポーツ	国民に人気のスポーツ・競技など。	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
10	インドネシアの社会・経済	インドネシアと日本の関係	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
11	小テスト第6回目～10回目の内容について。	筆記試験	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
12	インドネシア人コミュニティー①	国際結婚	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
13	インドネシア人コミュニティー②	技能実習生	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
14	インドネシアコミュニティー③	介護福祉士・看護師	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
15	小テスト第12回目～14回目の内容について。	筆記試験	各テーマに書かれた文法や専門用語を復習。																																																																
関連科目	専攻言語インドネシア語科目すべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	クラス参加及び活動 50% 3 回行う筆記テスト 50%																																																																		
学生へのメッセージ	毎回各テーマの内容理解を確認するため、議論を行います。積極的にやってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に 7 号館 2 階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。																																																																		

科目名	旅行インドネシア語	科目名 (英文)	Indonesian for Travel
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2129e0		

授業概要・目的	インドネシア語の力を活かし個人で観光旅行に行くことを想定した授業です。変化の激しいインドネシアのいまを反映しながらも、短期的確なフレーズを主として実践的なインドネシア語の会話表現と多様な用語とともに、インドネシアを旅する際の基礎知識を学びます。インドネシア語での日常生活にも役立ちます。
到達目標	個人でインドネシアへ観光旅行に行っても困らないインドネシア語の運用能力と現地社会に関する知識を修得することができる。
授業方法と留意点	・本講義で用いるテキストは都度配付します。 ・現代的な旅行記事を読み、旅行動画を観ていくため、本講義で用いる辞書は、舟田京子・高殿良博・左藤正範（編著）、『プログレッシブ インドネシア語辞典』（小学館）とします。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験（C、D、E 級）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、1 年次で学んだことの確認。	1 年次で学んだ文法事項を確認しておくこと。 授業で学んだことを復習しておくこと。
	2	旅の手配をする	インドネシアの旅の基本情報となる表現や単語、特に、インドネシアの航空便（国内線）予約、宿泊予約、鉄道予約など、旅行手配に必要な表現や単語を学ぶ。	1 年次で学んだ会話表現を確認しておくこと。 旅行にも用いる会話表現の復習をしておくこと。
	3	インドネシアに入学する	入国ビザについて、携帯の現地 SIM カードを買う、両替する、買い物をするなど、現地で過ごすために必要な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	4	移動する（1）	空港鉄道、バス、タクシーなどの公共交通の利用など、特にジャカルタを中心とした「移動」に注目して必要な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	5	移動する（2）	タクシー、オジェック、バジャイ、トランスジャカルタ、MRT などの都市内の移動や、都市間の移動に注目した表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	6	観光する（1）	都市の観光について、オプション・ツアーの予約や、文化遺産など、現地の観光に必要な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	7	観光する（2）	インドネシアの世界遺産や無形文化遺産を中心に伝統文化や身体表現を表す表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	8	7 回までのまとめ	中間テストおよび解説	1 回から 7 回に学んだことを復習すること。
	9	ご飯を食べる・必要なものを買う	レストラン（パダン料理やフードコート）や屋台（ワルン）などでの食事や、買い物に必要な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	10	トラブルの際の表現（1）	道や場所を尋ねたり、探したりする際に必要な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	11	トラブルの際の表現（2）	病院や薬局に行く際に必要な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	12	インドネシア人と「旅」	インドネシア人の「旅」をめぐる様々な表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	13	お土産物を買う	「モノ」に関するさまざまな表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	14	帰国する	帰国に必要な表現や単語に加え、その他の旅行に関連するさまざまな表現や単語を学ぶ。	配布資料を事前学習すること。 新しく学んだ表現や単語を身に付けること。
	15	総復習	理解度確認テストおよび解説	これまで学んだ表現や単語を復習すること。

関連科目	インドネシア語・マレー語関係科目、東南アジア関係の講義科目。
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『プログレッシブ インドネシア語辞典』（4,900 円＋税）	舟田京子・高殿良博・左藤正範（編著）	小学館
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題の提出度合 20%、中間テスト 40%、理解度確認テスト 40% 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。
----------	--

学生へのメッセージ	「旅行」を想定したさまざまな表現を身につけて、ぜひインドネシアのさまざまな地域を楽しく安全に巡ってください！
-----------	--

担当者の	金子研究室（7 号館 5 階）
------	-----------------

研究室等	なお、7号館の耐震補強工事のため、2021年4月から9月末までは、11号館11階スカイラウンジに仮の研究室がある。
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、60時間以上行うこと。

科目名	基礎マレー語 a	科目名 (英文)	Basic Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2130e0		

授業概要・目的	本講義はマレーシアなどで話されるマレー語 (Bahasa Melayu) の基礎的な運用能力の習得を目指す。インドネシア語との相違に適宜言及しつつ、実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。読む・書く・聞く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。
到達目標	マレー語の運用能力の基礎を得ることができる。
授業方法と留意点	確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。授業の進め方の詳細は初回授業画指示する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明する。マレー語がどのような国で話され、どのような歴史的背景をもつ言語であるのかを概説する。	練習問題に取り組むこと。
	2	あいさつ、呼びかけ	マレー語の挨拶について学習する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	3	単語、綴り、発音 1	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	4	単語、綴り、発音 2	語彙と発音に注目しながら、マレー語の特徴を概説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	5	表現	マレー語独特の言い回しについて解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	6	文法 1	マレー語の名詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	7	文法 2	マレー語の形容詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	8	復習 1	既習事項 (表現、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の確認
	9	文法 3	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	10	文法 4	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	11	文法 5	マレー語の動詞について解説する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	12	演習 1	既習事項をふまえてマレー語で自己紹介文を作成する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	13	演習 2	マレーシアの小学生程度を読者に想定した簡単なマレー語文を講読する。	該当箇所の予習と、既習事項の練習問題
	14	復習 2	既習事項 (発音、文法、表現、語彙) について復習する。	既習事項の確認
	15	総合復習	とともに、理解力を問うための確認テストを行う。確認テストに対する講評と、既習事項についてのフォローアップを行う。	確認テストのための復習に取り組むこと。

関連科目	基礎マレー語 b			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林
	2	基礎マレー語	上田達	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末課題 (50%)、確認課題 (20%)、提出物等の授業への取り組み (30%) から評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。
学生へのメッセージ	わからないことがあれば、いつでも質問に来てください。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (上田研究室) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	拙著の教科書は第一回目の授業時に頒布する。辞書は一回目の授業から使用するので購入しておくこと。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。

科目名	基礎マレー語 b	科目名 (英文)	Basic Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2131e0		

授業概要・目的	本講義はマレーシアなどで話されるマレー語 (Bahasa Melayu) の基礎的な運用能力の習得を目指す。実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学習の礎を築くことを目指す。読む・書く・聞く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。																																																																		
到達目標	マレー語の基礎的な運用能力を獲得することができる。																																																																		
授業方法と留意点	確認テストの他にも課題を出すので、予習と復習をしっかりと行うこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義概要および講義の進め方について説明するとともに、前期習得した事項について問題を課し、学習状況を把握する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>文法 1</td><td>マレー語の kata bantu について解説する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>文法 2</td><td>マレー語の前置詞について解説する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>文法 3</td><td>マレー語の前置詞と kata arah について解説する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>文法 4</td><td>マレー語の接続詞について解説する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>文法 5</td><td>マレー語の接続詞について解説する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>表現 1</td><td>簡単な地図をもとに、位置関係などを説明する文章を作成する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>復習 1</td><td>既習事項 (文法、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。</td><td>既習事項の復習に努めること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>表現 2</td><td>グラフや表を説明する文章を作成する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>演習 1</td><td>マレーシアの小学生向けの小説を読む。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>演習 2</td><td>マレーシアで実施されている中学生向けのマレー語試験に挑戦する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>基礎講読 1</td><td>新聞の投書など短い文章を講読する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>基礎講読 2</td><td>新聞の投書など短い文章を講読する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>復習 2</td><td>既習事項 (文法、表現) について復習する。</td><td>既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総合復習</td><td>理解力を問うための確認テストを行う。確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。</td><td>既習事項の復習に努めること。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明するとともに、前期習得した事項について問題を課し、学習状況を把握する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	2	文法 1	マレー語の kata bantu について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	3	文法 2	マレー語の前置詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	4	文法 3	マレー語の前置詞と kata arah について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	5	文法 4	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	6	文法 5	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	7	表現 1	簡単な地図をもとに、位置関係などを説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	8	復習 1	既習事項 (文法、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に努めること。	9	表現 2	グラフや表を説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	10	演習 1	マレーシアの小学生向けの小説を読む。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	11	演習 2	マレーシアで実施されている中学生向けのマレー語試験に挑戦する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	12	基礎講読 1	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	13	基礎講読 2	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	14	復習 2	既習事項 (文法、表現) について復習する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。	15	総合復習	理解力を問うための確認テストを行う。確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。	既習事項の復習に努めること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義概要および講義の進め方について説明するとともに、前期習得した事項について問題を課し、学習状況を把握する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
2	文法 1	マレー語の kata bantu について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
3	文法 2	マレー語の前置詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
4	文法 3	マレー語の前置詞と kata arah について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
5	文法 4	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
6	文法 5	マレー語の接続詞について解説する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
7	表現 1	簡単な地図をもとに、位置関係などを説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
8	復習 1	既習事項 (文法、語彙) について復習するとともに、理解力を問うための確認テストを行う。	既習事項の復習に努めること。																																																																
9	表現 2	グラフや表を説明する文章を作成する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
10	演習 1	マレーシアの小学生向けの小説を読む。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
11	演習 2	マレーシアで実施されている中学生向けのマレー語試験に挑戦する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
12	基礎講読 1	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
13	基礎講読 2	新聞の投書など短い文章を講読する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
14	復習 2	既習事項 (文法、表現) について復習する。	既習事項の確認と練習問題にとりくむこと。																																																																
15	総合復習	理解力を問うための確認テストを行う。確認テストについての講評と既習事項のフォローアップを行う。	既習事項の復習に努めること。																																																																
関連科目	基礎マレー語 a																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>マレーシア語辞典ポケット版</td><td>小野沢純、本田智津絵</td><td>大学書林</td></tr> <tr> <td>2</td><td>基礎マレー語</td><td>上田達</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林	2	基礎マレー語	上田達		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	マレーシア語辞典ポケット版	小野沢純、本田智津絵	大学書林																																																																
2	基礎マレー語	上田達																																																																	
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	期末課題 (30%)、確認課題 (30%)、提出物等の授業への取り組み (40%) から評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。																																																																		
学生へのメッセージ	わからないことがあれば、質問してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (上田研究室)																																																																		
備考	拙著の教科書は前期開講の「基礎マレー語」を継続して使用する。 最終課題は授業期間終了後、採点のうえ返却する。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。																																																																		

科目名	中級検定インドネシア語	科目名 (英文)	Practice for Intermediate Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2132e0		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験 (D 級) 受検を想定した授業です。過去の試験問題を元に、出題カテゴリのそれぞれ (①語彙、②文法、③作文、④リスニング) について実践的に学びます。		
到達目標	インドネシア語技能検定試験 (D 級) 合格レベルのインドネシア語能力を修得することができる。		
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験 (D 級) の過去問題を中心に授業を進めます。その他にも、D 級合格レベルの新聞記事等の読解、短いニュースのディクテーションなども行います。適宜小テストも行う予定です。辞書は必ず携行してください。なお、辞書は、「旅行インドネシア語」などとも共通で、舟田京子・高殿良博・左藤正範 (編著)『プログレッシブ インドネシア語辞典』(小学館) を用います。		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	練習問題 (1)	過去問を解く
	2	練習問題 (1) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明
	3	練習問題 (1) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明
	4	練習問題 (2)	過去問を解く
	5	練習問題 (2) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明
	6	練習問題 (2) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明
	7	練習問題 (3)	過去問を解く
	8	練習問題 (3) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明
	9	練習問題 (3) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明
	10	練習問題 (4)	過去問を解く
	11	練習問題 (4) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明
	12	練習問題 (4) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明
	13	練習問題 (5)	過去問を解く
	14	練習問題 (5) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明
	15	練習問題 (5) の続き	内容の把握、語彙、文法についての補足説明
関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	プログレッシブ インドネシア語辞典	舟田京子・高殿良博・左藤正範 (編著)
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への積極的参加度合 30%、小テスト 50%、インドネシア語技能検定試験の結果 20%		
学生へのメッセージ	検定試験合格を目指して、授業には積極的に参加しましょう。		
担当者の研究室等	金子研究室 (7 号館 5 階)		
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い、60 時間以上行うこと。なお、適宜行う小テスト終了後には解説を行う。		

科目名	実践インドネシア・マレー語 a	科目名 (英文)	Practical Indonesian-Malay a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3133e0		

授業概要・目的	この授業はインドネシア語、マレー語の中級以上の能力を養うことを目的とする。色々な分野のインドネシア語、マレー語の文献を読む。																																																																		
到達目標	様々なインドネシア語、マレー語の文献を読む能力を習得することができる。																																																																		
授業方法と留意点	この授業は多読、速読を目指している。指示に従って予習を行うこと。また新聞を読む場合はインターネットで、専門書を読む場合には図書館で、下調べをする必要もある。授業で用いるプリントは教員が用意する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業の進め方、基本的な知識の説明</td><td>新聞、専門書を読むために必要な辞書の説明、予備知識の必要性を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>新聞記事の講読についての説明</td><td>インドネシア語、マレー語を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>新聞記事の講読 1</td><td>インドネシア語、マレー語の新聞を読む。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>新聞記事の講読 2</td><td>インドネシア語、マレー語の新聞を読む。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>新聞記事の講読 3</td><td>インドネシア語、マレー語の新聞を読む。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>学術雑誌の講読についての説明</td><td>インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>学術雑誌の講読 1</td><td>インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読む。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>学術雑誌の講読 2</td><td>インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読む。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>学術雑誌の講読 3</td><td>インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読む。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>専門書の講読</td><td>インドネシア語、マレー語の専門書の講読を読むための基礎知識を説明する。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>専門書の講読 1</td><td>インドネシア語、マレー語の専門書を読む。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>専門書の講読 2</td><td>インドネシア語、マレー語の専門書を読む。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>専門書の講読 3</td><td>インドネシア語、マレー語の専門書を読む。</td><td>授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。 次回の提出物の準備。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>専門書の講読 4</td><td>インドネシア語、マレー語の専門書を読む。 授業で得た知識を再確認しておくこと。 の提出</td><td>他の受講生の提出物を読んでおく。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>翻訳</td><td>各自が行った翻訳を受講生同士で批評する。</td><td>各自が行った翻訳を他の受講生に説明する準備。 授業で得た知識を再確認しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業の進め方、基本的な知識の説明	新聞、専門書を読むために必要な辞書の説明、予備知識の必要性を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。	2	新聞記事の講読についての説明	インドネシア語、マレー語を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	3	新聞記事の講読 1	インドネシア語、マレー語の新聞を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	4	新聞記事の講読 2	インドネシア語、マレー語の新聞を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	5	新聞記事の講読 3	インドネシア語、マレー語の新聞を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	6	学術雑誌の講読についての説明	インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。	7	学術雑誌の講読 1	インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	8	学術雑誌の講読 2	インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	9	学術雑誌の講読 3	インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	10	専門書の講読	インドネシア語、マレー語の専門書の講読を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。	11	専門書の講読 1	インドネシア語、マレー語の専門書を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	12	専門書の講読 2	インドネシア語、マレー語の専門書を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。	13	専門書の講読 3	インドネシア語、マレー語の専門書を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。 次回の提出物の準備。	14	専門書の講読 4	インドネシア語、マレー語の専門書を読む。 授業で得た知識を再確認しておくこと。 の提出	他の受講生の提出物を読んでおく。	15	翻訳	各自が行った翻訳を受講生同士で批評する。	各自が行った翻訳を他の受講生に説明する準備。 授業で得た知識を再確認しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業の進め方、基本的な知識の説明	新聞、専門書を読むために必要な辞書の説明、予備知識の必要性を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。																																																																
2	新聞記事の講読についての説明	インドネシア語、マレー語を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
3	新聞記事の講読 1	インドネシア語、マレー語の新聞を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
4	新聞記事の講読 2	インドネシア語、マレー語の新聞を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
5	新聞記事の講読 3	インドネシア語、マレー語の新聞を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
6	学術雑誌の講読についての説明	インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。																																																																
7	学術雑誌の講読 1	インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
8	学術雑誌の講読 2	インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
9	学術雑誌の講読 3	インドネシア語、マレー語の学術雑誌を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
10	専門書の講読	インドネシア語、マレー語の専門書の講読を読むための基礎知識を説明する。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習を行う。																																																																
11	専門書の講読 1	インドネシア語、マレー語の専門書を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
12	専門書の講読 2	インドネシア語、マレー語の専門書を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。																																																																
13	専門書の講読 3	インドネシア語、マレー語の専門書を読む。	授業で得た知識を再確認しておくこと。次週の予習・下調べを行う。 次回の提出物の準備。																																																																
14	専門書の講読 4	インドネシア語、マレー語の専門書を読む。 授業で得た知識を再確認しておくこと。 の提出	他の受講生の提出物を読んでおく。																																																																
15	翻訳	各自が行った翻訳を受講生同士で批評する。	各自が行った翻訳を他の受講生に説明する準備。 授業で得た知識を再確認しておくこと。																																																																
関連科目	インドネシア語の科目すべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業での発表 70%、各自が選んで行った翻訳 (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	文献を読む際にどのように下調べを行い、どのような辞書を選び、最終的に内容を理解するプロセスを学んで下さい。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	実践インドネシア・マレー語 b	科目名 (英文)	Practical Indonesian-Malay b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3134e0		

授業概要・目的	この授業では、特定分野のインドネシア語に触れながら、「インドネシア語で話す・インドネシア語で書く・日本語へ翻訳する」ための、より実践的なインドネシア語運用能力・理解能力の向上を養うことを目的とする。
到達目標	特定分野のインドネシア語を読み書きする能力の向上。 日本語母語話者へ向けた翻訳能力の向上。
授業方法と留意点	毎回、課題を課すので、授業に出席する前に予習や資料の収集などの準備をおこなうこと。 授業中には提示した課題の社会的背景についても説明する。また必要に応じて時事問題についても説明する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定 実践的なインドネシア語能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の進め方、課題の作成方法・発表方法、評価等について説明する。	事前学習は必要だが、事後学習として課題に取り組むこと。
	2	新聞記事 1	温暖化現象について書かれたインドネシア語の記事と日本語の記事を講読する。新聞記事の文体に慣れる。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	3	新聞記事 2	第 2 回に提示した記事からインドネシア語と日本語の専門用語、略語を学ぶ。正確に読む。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	4	新聞記事 3	第 2 回に提示したインドネシア語の記事を日本語へ翻訳する。	既習事項の確認と発表の準備、演習課題への取り組み
	5	論説記事 1	インドネシア語の長文論説記事を講読する。表現方法、語彙を学ぶ。大意を把握する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	6	論説記事 2	第 5 回の続き。インドネシア語の長文論説記事を講読する。表現方法、語彙を学ぶ。大意を把握する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	7	中間試験	第 5 回とは異なる論説記事を提示する。大意を把握する能力の試験。	テストのために既習事項を確認
	8	学術文 1	ゴミ処理問題について書かれた日本語の学術文とインドネシア語の学術文を講読する。学術文の文体に慣れる。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	9	学術文 2	第 8 回に提示した学術文からインドネシア語と日本語の専門用語、略語を学ぶ。正確に読む。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	10	学術文 3	第 8 回に提示したインドネシア語学術文を文の前後関係、注釈を正確に把握しながら、日本語へ翻訳する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み。発表の準備。
	11	エッセイ 1	テーマを設定して、インドネシア語で的確な文章を書く。	文章の推敲
	12	エッセイ 2	テーマを設定して、インドネシア語で的確な文章を書く。	文章の推敲と完成。発表の準備。
	13	テレビニュース	インドネシアの比較的短いテレビニュースを数本観る。報道の内容を把握する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み
	14	短編ドキュメンタリー 1	インドネシアの短編ドキュメンタリーを観て、日本語字幕をつける演習。	既習事項の確認。
	15	・短編ドキュメンタリー 2 ・まとめ	・第 14 回の続きと発表。 ・これまでの学習をふりかえる。	既習事項の確認と発表のための動画作成。

関連科目	インドネシア語科目とマレー語科目の全て。
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	第 7 回の中間試験 (50%)、課題への取り組み (25%)、発表への取り組み (25%) から総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	インドネシア語の運用能力を高めると同時に、的確に理解して的確に人へ伝えることも楽しく学びましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	3 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	事前・事後学習の総時間数は、最低 15 時間以上とする。
----	------------------------------

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅢ a	科目名 (英文)	Indonesian Communication IIIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3135d0		

授業概要・目的	この授業ではインドネシア⇄日本社会における話題や出来事について議論する。																																																																		
到達目標	1. インドネシア語である程度の発表ができるようになること。 2. インドネシア語である程度の小レポートが書けるようになること。 3. プレゼンテーションインドネシア語にも役に立つ。																																																																		
授業方法と留意点	この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な予習と準備をしておくこと。復習も欠かさないこと。インドネシアの新聞や雑誌、メディア、SNS 等から受講者がニュースや記事を取りあげて概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定。 実践的なインドネシア語能力の習得。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方や成績評価法、プレゼンテーションなど、留意点の説明を行なう。シラバスについて説明する。</td><td>・質問事項などを事前に考えておくこと。 ・予習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日本のニュースを読む。</td><td>会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>3</td><td>インドネシアのニュースを読む。</td><td>会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>4</td><td>日本の文化について一つテーマにする。</td><td>会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>5</td><td>日本の文化について一つテーマにする。</td><td>会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>6</td><td>インドネシアの社会に起こる出来事を映像見る</td><td>感想又は意見交換する。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第2回 ～ 6 回までのテーマを選んで感想文を作成。</td><td>感想文作成する作業。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第2回～6 回までの各テーマの発表。</td><td>発表又は意見交換する。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>9</td><td>インドネシア 日本の音楽について。</td><td>動画を見る音楽を聴く。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>10</td><td>インドネシア 日本の音楽について。</td><td>感想文を発表する。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>11</td><td>日本の観光について。</td><td>新聞記事をもとにディスカッションをおこなう練習。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>12</td><td>インドネシアの観光について</td><td>配信される記事の前後関係を正確に把握する。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>13</td><td>日本 インドネシア観光について。</td><td>感想文あるいは意見交換する。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>14</td><td>インドネシアの映画を観る</td><td>話や映画のテーマについて確認。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> <tr> <td>15</td><td>感想文の発表。</td><td>発表 又は意見交換。</td><td>準備と予習、復習の徹底</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価法、プレゼンテーションなど、留意点の説明を行なう。シラバスについて説明する。	・質問事項などを事前に考えておくこと。 ・予習	2	日本のニュースを読む。	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底	3	インドネシアのニュースを読む。	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底	4	日本の文化について一つテーマにする。	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底	5	日本の文化について一つテーマにする。	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底	6	インドネシアの社会に起こる出来事を映像見る	感想又は意見交換する。	準備と予習、復習の徹底	7	第2回 ～ 6 回までのテーマを選んで感想文を作成。	感想文作成する作業。	準備と予習、復習の徹底	8	第2回～6 回までの各テーマの発表。	発表又は意見交換する。	準備と予習、復習の徹底	9	インドネシア 日本の音楽について。	動画を見る音楽を聴く。	準備と予習、復習の徹底	10	インドネシア 日本の音楽について。	感想文を発表する。	準備と予習、復習の徹底	11	日本の観光について。	新聞記事をもとにディスカッションをおこなう練習。	準備と予習、復習の徹底	12	インドネシアの観光について	配信される記事の前後関係を正確に把握する。	準備と予習、復習の徹底	13	日本 インドネシア観光について。	感想文あるいは意見交換する。	準備と予習、復習の徹底	14	インドネシアの映画を観る	話や映画のテーマについて確認。	準備と予習、復習の徹底	15	感想文の発表。	発表 又は意見交換。	準備と予習、復習の徹底
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価法、プレゼンテーションなど、留意点の説明を行なう。シラバスについて説明する。	・質問事項などを事前に考えておくこと。 ・予習																																																																
2	日本のニュースを読む。	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底																																																																
3	インドネシアのニュースを読む。	会話で交わされる独特の単語を使って表現する。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底																																																																
4	日本の文化について一つテーマにする。	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底																																																																
5	日本の文化について一つテーマにする。	会話で交わされる独特の単語をつかって、受講者たちで会話をおこなう。様々な専門用語を確認すること。	準備と予習、復習の徹底																																																																
6	インドネシアの社会に起こる出来事を映像見る	感想又は意見交換する。	準備と予習、復習の徹底																																																																
7	第2回 ～ 6 回までのテーマを選んで感想文を作成。	感想文作成する作業。	準備と予習、復習の徹底																																																																
8	第2回～6 回までの各テーマの発表。	発表又は意見交換する。	準備と予習、復習の徹底																																																																
9	インドネシア 日本の音楽について。	動画を見る音楽を聴く。	準備と予習、復習の徹底																																																																
10	インドネシア 日本の音楽について。	感想文を発表する。	準備と予習、復習の徹底																																																																
11	日本の観光について。	新聞記事をもとにディスカッションをおこなう練習。	準備と予習、復習の徹底																																																																
12	インドネシアの観光について	配信される記事の前後関係を正確に把握する。	準備と予習、復習の徹底																																																																
13	日本 インドネシア観光について。	感想文あるいは意見交換する。	準備と予習、復習の徹底																																																																
14	インドネシアの映画を観る	話や映画のテーマについて確認。	準備と予習、復習の徹底																																																																
15	感想文の発表。	発表 又は意見交換。	準備と予習、復習の徹底																																																																
関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新聞記事</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新聞記事			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新聞記事																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	1. 準備・予習・復習からなるホームワーク (50%) 2. 授業での発表とレポート (50%) 詳細は、第1 回目の授業で伝える。																																																																		
学生へのメッセージ	1. 予習ならびに準備として、インドネシア語の記事をより理解するために自ら参考文献を調べて読んでおくこと。 2. 必ず復習をおこなうこと。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	授業時間外での質問や要望は、7 号館 2 階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。																																																																		

科目名	インドネシア語コミュニケーションⅢb	科目名 (英文)	Indonesian Communication IIIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3136d0		

授業概要・目的	1. 受講者は毎回インドネシア語で概要と意見を発表し、ディスカッションをおこなう。 2. インドネシア語の詞を読んで、文学的な表現や感情的な表現を理解することが出来る。 3. 高度なインドネシア語運用能力を身につけることを目指す。 前期に引きつづきインドネシア語で詩・スピーチ・司会・パーソナリティなど原稿の作成から発表までふさわしい表現出来るようになる。
到達目標	人の前にスピーチや朗読・演劇することが出来るようになる。
授業方法と留意点	この授業では正確な作業を行う必要がある。そのため、授業に出席する前に十分な準備と予習をしておくこと。復習も欠かさないこと。扱う単語もやや難しいので、何度も繰り返し聞いてみましょう。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語検定C級 実践的なインドネシア語能力の習得。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1. プロローグ	1. 授業の進め方や受講にあたっての留意点、準備・予習・復習の仕方、資料の探し方、発表の手順・発表資料の作成などについて説明を行なう。 2. シャドーイング	授業内容の復習
	2	インドネシア語の詩 ①	1. 読む、内容を理解する 2. 暗記・感情表現	授業内容の復習
	3	インドネシア語の詩 ②	1. 読む、内容を理解する 2. 暗記・感情表現	授業内容の復習
	4	インドネシアのラジオ①	1. 聞く・内容理解する。 2. 原稿の作成。	授業内容の復習
	5	インドネシアのラジオ ②	1. 原稿の作成。 2. 発表する。	授業内容の復習
	6	インドネシア語のスピーチ ①	スピーチ内容と原稿の作成	授業内容の復習
	7	インドネシア語のスピーチ ②	原稿の作成と発表。	授業内容の復習
	8	広告を作る①	1. 企画：テーマ 2. 原稿の作成	授業内容の復習
	9	広告を作る②	各原稿の発表・議論	授業内容の復習
	10	発表会	第2回目～9回目の中から受講者一人一人関心がある内容について詳しく発表する。	授業内容の復習
	11	ナレーションの朗読①	脚本の作成と読解の演習。	授業内容の復習
	12	ナレーションの朗読②	脚本の読解の発表。	授業内容の復習
	13	演劇①	演劇の脚本の作成と読解の演習	授業内容の復習
	14	演劇②	演劇の脚本の作成と読解の演習	授業内容の復習
	15	演劇 ③発表	演劇の発表	授業内容の復習

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	1. クラス活動原稿作成など 50% 2. 発表 50% 第1回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	前期の『インドネシア語コミュニケーションⅢa』でインドネシア語運用能力が高まったかと思います。 この授業ではいっそうの高みを目指しましょう。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	授業時間外での質問や要望は、毎週水曜に7号館2階非常勤講師室にて受け付ける。 事前・事後学習の総時間数は、15時間以上とする。

科目名	時事インドネシア・マレー語	科目名 (英文)	Media Indonesian-Malay
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3137e0		

授業概要・目的	新聞に掲載されたマレー語で書かれた時事問題に関する文に触れて、マレー語の実践的な運用能力の向上を目指す。あわせて、マレーシア・ブルネイ・シンガポールといった国々における政治・経済・社会・文化・芸能などのニュースに触れることを通じて、当該地域の社会情勢についての知識を得る。
到達目標	マレー語能力の向上。マレー語が話される国々に関する理解の深化。
授業方法と留意点	マレー語で書かれた新聞記事等の講読と、記事が書かれた背景について解説を行う。映像資料を用いて理解の一助とする。適宜課題を出すので、受講者には積極的な姿勢が望まれる。授業の進め方の詳細は初回授業時に指示する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	マレー語圏の国々について既習事項の確認を行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	2	表現	新聞の見出しや記事で使われる表現について学習する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	3	政治①	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	4	政治②	マレーシアの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	5	政治③	ブルネイとシンガポールの政治に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける政治情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	6	確認テスト	既習の文法的な事柄と政治情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
	7	経済①	マレーシアの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシア経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	8	経済②	ブルネイとシンガポールの経済に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける経済情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	9	社会①	マレーシアの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているマレーシアの社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	10	社会②	ブルネイとシンガポールの社会問題に関する新聞記事を講読するとともに、記事の背景となっているブルネイとシンガポールにおける社会情勢について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	11	確認テスト	既習の文法的な事柄と経済・社会情勢に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	確認テストのための事前準備
	12	文化①	マレーシアにおけるマレー語やマレー文化について書かれた新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	13	文化②	ブルネイやシンガポールにおけるマレー語やマレー文化に関わる新聞記事を講読するとともに、記事の背景について解説する。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	14	確認テスト	既習の文法的な事柄とマレー語が話されている地域の文化に関して小括するとともに、達成度を確認するためのテストを行う。	既習事項の確認と練習問題への取り組み
	15	総合演習	確認テストについて講評を行うとともに、受講者それぞれが新聞記事を選んできて内容について報告する。	興味・関心を持った領域についての新聞記事を探して講読する。内容に関する文法的な理解と社会的な背景についての理解を深めて、発表の準備を行う。

関連科目	基礎マレー語		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Kamus Dewan		Dewan Bahasa dan Pustaka
	2			
	3			
評価方法 (基準)	期末課題 (50%)、確認課題 (20%)、提出物等の授業への取り組み (30%) から総合的に評価する。詳細は一回目の授業時に指示する。			
学生への メッセージ	日本や他国の時事問題にも関心を持つようにしてください。			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階(上田研究室) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	提出物は原則として翌週に返却する。事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。			

科目名	ビジネスインドネシア語	科目名 (英文)	Indonesian for Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3138e0		

授業概要・目的	インドネシア語の力を活かしてインドネシアで働くことを想定した授業です。この授業では、ビジネス会話表現や経済用語だけでなく、ビジネス・パートナーとして共に働くことになるインドネシア人の社会・文化習慣や、社会関係のありようを理解することにも重点を置きます。
到達目標	インドネシア語で働く際に有益なインドネシア語の語彙力や書き言葉、フレーズを修得するとともに、インドネシア人のビジネス慣習や、社会制度、そして社会的・文化的な習慣を理解する。
授業方法と留意点	フォーマルなインドネシア語を中心に学びます。 テキストは各回のテーマに応じた PDF ファイルを配布する。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 (B、C 級)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義内容についてのオリエンテーション	授業の内容や授業の仕方について	授業の内容確認。
	2	ビジネス会話①電話	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。
	3	ビジネス会話②初対面・紹介	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。
	4	ビジネス会話③出迎え	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。
	5	ビジネス会話④工場見学	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。テキストの音声を聞きながら反復練習する。
	6	ビジネス会話⑤商談	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。テキストの音声を聞きながら反復練習する。
	7	ビジネス会話⑥会食	ビジネスの様々なシーンの会話表現を学ぶ	配布資料を事前学習する。 事後にノートを見直す。テキストの音声を聞きながら反復練習する。
	8	1 回～7 回まとめ (小テスト)	復習・中間テスト	1 回から 7 回までに学んだことを再確認。
	9	ビジネスメール①	ビジネスメールの基本書式を学習する。	配布資料を事前学習する。
	10	ビジネスメール②依頼	各種依頼文を学習する。	配布資料を事前学習する。
	11	ビジネスメール③照会・回答	照会文書ならびに回答文書をや共通的表現を学習する。	配布資料を事前学習する。
	12	ビジネスメール④お礼・お詫び	お礼・お詫びを述べる際の定式的表現を学習する。	配布資料を事前学習する。
	13	ビジネスメール⑤承諾書・断り	承諾・断りに関する定式的表現を学習する。	配布資料を事前学習する。
	14	ビジネスメール⑥案内・通知	案内・通知に関わる定式的表現を学習する。	配布資料を事前学習する。
	15	ビジネスメール⑦催促・抗議	催促・抗議の定式的表現を学習する。	配布資料を事前学習する。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネスに役立つインドネシア語	小笠原健二・V. R クマラニングラム	IBC パブリッシング
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業の準備・授業中の活動 50% 復習テスト 50%
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	インドネシアで働くことを想定した授業なので、やや高度な文語的表現、公式行事における表現、行政制度や金融経済等の専門用語を学んでいきます。さらにビジネス関連のリスニング能力向上のために、BBC Indonesia のポッドキャストなど経済ニュースをインドネシア語で定期的に聴くことを勧めます。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室
----------	--------

備考	事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。
----	---------------------------

科目名	上級検定インドネシア語	科目名 (英文)	Practice for Advanced Test for Indonesian Proficiency
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL3139e0		

授業概要・目的	インドネシア語技能検定試験 (C 級) 受験を想定した授業です。過去 3 年間の試験問題と、多様な新聞記事などを用い、出題カテゴリのそれぞれ (①読解、②語彙、③文法、④作文、⑤リスニング) について実践的に学びます。
到達目標	インドネシア語技能検定試験 (C 級) 合格レベルの、インドネシア語運用能力を修得することができます。
授業方法と留意点	本授業では、これまでに行われてきたインドネシア語技能検定試験の過去問題を中心に授業を進めます。その他、C 級合格レベルの、多様な分野に関する新聞記事の読解や、ニュース動画を通じた学習、およびリスニング練習などを行います。 なお、辞書は、舟田京子・高殿良博・左藤正範 (編著)『プログレッシブ インドネシア語辞典』(小学館) を用います。 C 級合格に向けて 1,000 語の単語リストを配布しますので、出来るだけ早い段階からそれぞれの語の意味や用例を調べ、繰り返し覚えてください。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定試験 (C 級)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	インドネシア語技能検定の概要および、C 級合格に求められる言語レベル、そして C 級合格に向けた学習方法の説明を行う。	配布した 1,000 語の単語リストの学習に取り組む。
	2	練習問題 (1) 前半部分	練習問題 (1) の①読解および②語彙に取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,000 語の単語リストの学習に取り組む。 ①読解および②語彙における新出語彙、インドネシア語の重複文について復習する。
	3	練習問題 (1) 後半部分	練習問題 (1) の③文法、④作文、⑤リスニングに取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,000 語の単語リストの学習に取り組む。 ③文法、④作文、⑤リスニングにおける新出語彙、受動態／能動態の変化、直接話法／間接話法の変化などを復習する。
	4	練習問題 (2) 前半部分	練習問題 (2) の①読解および②語彙に取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,000 語の単語リストの学習に取り組む。 ①読解および②語彙における新出語彙、インドネシア語の条件文について復習する。
	5	練習問題 (2) 後半部分	練習問題 (2) の③文法、④作文、⑤リスニングに取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,000 語の単語リストの学習に取り組む。 ③文法、④作文、⑤リスニングにおける新出語彙、接頭辞 ter-, pe-, se- などの多様な使われ方などを復習する。
	6	読解／リスニング練習 (1)	C 級相当の新聞記事を教材として、短時間で読解する能力の向上に取り組む。 短いニュースを元にリスニングを行う。	配布した 1,000 語の単語リストの学習に取り組む。 新出語彙とともに、インドネシア語の文語的な各種表現について復習する。
	7	読解／リスニング練習 (2)	C 級相当の新聞記事を教材として、短時間で読解する能力の向上に取り組む。 短いニュースを元にリスニングを行う。	配布した 1,000 語の単語リストの学習に取り組む。 新出語彙とともに、インドネシア語の文語的な表現について復習する。
	8	読解／リスニング練習 (3)	C 級相当の新聞記事を教材として、短時間で読解する能力の向上に取り組む。 単語リストの単語について、小テストを行う。	配布した 1,000 語の単語リストの学習に取り組む。 新出語彙とともに、インドネシア語の文語的な表現について復習する。
	9	練習問題 (3) 前半部分	練習問題 (3) の①読解および②語彙に取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,000 語の単語リストの定着に取り組む。 ①読解および②語彙における新出語彙、インドネシア語の慣用表現、ことわざなどについて復習する。
	10	練習問題 (3) 後半部分	練習問題 (3) の③文法、④作文、⑤リスニングに取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,000 語の単語リストの定着に取り組む。 ③文法、④作文、⑤リスニングにおける新出語彙を復習する。
	11	練習問題 (4) 前半部分	練習問題 (4) の①読解および②語彙に取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,000 語の単語リストの定着に取り組む。 ①読解および②語彙における新出語彙を復習する。
	12	練習問題 (4) 後半部分	練習問題 (4) の③文法、④作文、⑤リスニングに取り組んだのち、内容の解説を行う。	配布した 1,000 語の単語リストの定着に取り組む。 ③文法、④作文、⑤リスニングにおける新出語彙を復習する。
	13	読解／リスニング練習 (4)	C 級相当の新聞記事を教材として、短時間で読解する能力の向上に取り組む。 短いニュースを元にリスニングを行う。	配布した 1,000 語の単語リストの学習に取り組む。 新出語彙とともに、インドネシア語の文語的な表現について復習する。
	14	読解／リスニング練習 (5)	C 級相当の新聞記事を教材として、短時間で読解する能力の向上に取り組む。 短いニュースを元にリスニングを行う。	自分が関心を持っているテーマのインドネシア語記事を探して読んでみる。
	15	まとめ	学習内容の振り返りを行い、B 級などさらに高度なインドネシア語技能検定に関する概説を行う。 授業内で期末テストも行う。	文法、語彙、表現方法など、これまでの総復習をする。

関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	『プログレッシブ インドネシア語辞典』(4,900 円 + 税)	舟田京子・高殿良博・左藤正範 (編著)
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		

	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト 30%、期末テスト 70%			
学生への メッセージ	インドネシア語技能検定 C 級合格に向けて、一緒に頑張りましょう！			
担当者の 研究室等	金子研究室（7 号館 5 階） なお、7 号館の耐震補強工事のため、2021 年 4 月から 9 月末までは、11 号館 11 階スカイラウンジに仮の研究室がある。			
備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い 15 時間以上行うこと。			

科目名	プレゼンテーションインドネシア・マレー語	科目名 (英文)	Indonesian Presentation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3140d0		

授業概要・目的	フォーマル／インフォーマルなさまざまな局面でのマレー語を使った適切な表現を理解するとともに、マレー語で意志を伝達する訓練を行う。少なくとも三回の発表の機会を設けて、フォーマルなマレー語原稿の作成と発表のための口頭表現を実践的に学ぶ。学習の成果を計るため、マレー語プレゼンテーションコンテストへの参加を必須とする。																																																																		
到達目標	状況に適したマレー語を使って自分の考えを表現できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	＊「マレー語プレゼンテーションコンテスト」への参加を必須とする。 ＊資料の収集やマレー語を使った課題を出すので、これらに自主的に取り組むこと。 ＊授業では資料の読解や文章作成の指導をおこなうとともに、提示した資料がどのような社会的背景を有するかも併せて解説する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセスの仕方、課題の作成方法などについて解説する。</td><td>指示された方法で資料にアクセスする。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>紹介 1</td><td>組織や事項について書かれたマレー語による紹介文の書式、表現法、語彙について学ぶ。</td><td>既習事項の確認と演習課題への取り組み</td></tr> <tr> <td>3</td><td>紹介 2</td><td>受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた紹介文を探し、講読する。</td><td>既習事項の確認と演習課題への取り組み</td></tr> <tr> <td>4</td><td>紹介 3</td><td>主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらマレー語による紹介文を作成する。</td><td>紹介文の完成</td></tr> <tr> <td>5</td><td>演習 1</td><td>紹介文を発表する。</td><td>既習事項を確認する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>文書 1</td><td>マレー語で書かれた書類の書式、表現法、語彙について学ぶ。</td><td>既習事項の確認と演習課題への取り組み</td></tr> <tr> <td>7</td><td>文書 2</td><td>受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた書類の内容を理解する。</td><td>既習事項の確認と演習課題への取り組み</td></tr> <tr> <td>8</td><td>文書 3</td><td>既習事項に基づき、受講者で状況を設定して書類を作成する。</td><td>文章の完成と推敲</td></tr> <tr> <td>9</td><td>演習 2</td><td>作成した文書を発表する。</td><td>既習事項を確認する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>広告 1</td><td>マレー語の広告表現について学ぶ。</td><td>既習事項の確認と演習課題への取り組み</td></tr> <tr> <td>11</td><td>広告 2</td><td>マレー語で広告を作成する。</td><td>広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論説 1</td><td>新聞の論説記事を読み、表現や語彙を解説する。</td><td>既習事項の確認と演習課題への取り組み</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論説 2</td><td>主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。</td><td>既習事項の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>演習 3</td><td>主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。</td><td>文章の完成、プレゼンテーションの準備</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総合演習</td><td>これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。</td><td>既習事項の確認と発表のための資料作成</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセスの仕方、課題の作成方法などについて解説する。	指示された方法で資料にアクセスする。	2	紹介 1	組織や事項について書かれたマレー語による紹介文の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み	3	紹介 2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた紹介文を探し、講読する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み	4	紹介 3	主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらマレー語による紹介文を作成する。	紹介文の完成	5	演習 1	紹介文を発表する。	既習事項を確認する	6	文書 1	マレー語で書かれた書類の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み	7	文書 2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた書類の内容を理解する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み	8	文書 3	既習事項に基づき、受講者で状況を設定して書類を作成する。	文章の完成と推敲	9	演習 2	作成した文書を発表する。	既習事項を確認する	10	広告 1	マレー語の広告表現について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み	11	広告 2	マレー語で広告を作成する。	広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲	12	論説 1	新聞の論説記事を読み、表現や語彙を解説する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み	13	論説 2	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	既習事項の復習	14	演習 3	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	文章の完成、プレゼンテーションの準備	15	総合演習	これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。	既習事項の確認と発表のための資料作成
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業の進め方の概要を指示する。資料へのアクセスの仕方、課題の作成方法などについて解説する。	指示された方法で資料にアクセスする。																																																																
2	紹介 1	組織や事項について書かれたマレー語による紹介文の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み																																																																
3	紹介 2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた紹介文を探し、講読する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み																																																																
4	紹介 3	主題を設定して、学んだ書式や語彙を使いながらマレー語による紹介文を作成する。	紹介文の完成																																																																
5	演習 1	紹介文を発表する。	既習事項を確認する																																																																
6	文書 1	マレー語で書かれた書類の書式、表現法、語彙について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み																																																																
7	文書 2	受講者の関心にもとづいて選択したマレー語で書かれた書類の内容を理解する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み																																																																
8	文書 3	既習事項に基づき、受講者で状況を設定して書類を作成する。	文章の完成と推敲																																																																
9	演習 2	作成した文書を発表する。	既習事項を確認する																																																																
10	広告 1	マレー語の広告表現について学ぶ。	既習事項の確認と演習課題への取り組み																																																																
11	広告 2	マレー語で広告を作成する。	広告についての既習事項の確認と広告の作成と推敲																																																																
12	論説 1	新聞の論説記事を読み、表現や語彙を解説する。	既習事項の確認と演習課題への取り組み																																																																
13	論説 2	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	既習事項の復習																																																																
14	演習 3	主題を個別に設定したうえで、意見を表明するための文章を作成する。	文章の完成、プレゼンテーションの準備																																																																
15	総合演習	これまでの既習事項を確認するとともに、完成させたプレゼンテーションを発表する。	既習事項の確認と発表のための資料作成																																																																
関連科目	インドネシア・マレー語関係の授業																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>マレーシア語学習辞典</td><td>川上雄作</td><td>アジアのことばと辞書の会</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	マレーシア語学習辞典	川上雄作	アジアのことばと辞書の会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	マレーシア語学習辞典	川上雄作	アジアのことばと辞書の会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	「マレー語プレゼンテーションコンテスト」を含めて三回実施する演習課題 (70%)、その他課題の提出状況等授業への取り組み (30%) から総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	マレー語を使った表現を楽しみましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室																																																																		
備考	受講者の人数と関心を見て、課題の作成方法や提出方法等を決定します。初回の授業時に指示するので、必ず出席すること。 参考書は本学図書館にも所蔵しているので、課題に取り組む際には大いに参考にすること。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。																																																																		

科目名	スペシャリストインドネシア・マレー語	科目名 (英文)	Indonesian-Malay for Specific Purposes
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上田 達, エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3141e0		

授業概要・目的	これまで学習してきたインドネシア語、マレー語の運用能力をさらに高める。上級レベルの講読、論文の執筆、聞きとり及び内容に対する討論、プレゼンテーションを行う。																																																																		
到達目標	インドネシア語、マレー語について高度な運用能力を獲得することができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業に積極的に参加することが望まれる。授業の進め方の詳細は初回授業時に指示する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語、マレー語運用能力の向上。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業内容、授業の進め方、授業全体の構成等について説明する。(上田・エニ担当)</td><td>シラバスを読んでおくこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>講読 1</td><td>社会に出来事についてメディアの記事を使用して授業行う (エニ担当)</td><td>予習をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>講読 2</td><td>インドネシア語で書かれた文学作品を読む (エニ担当)</td><td>予習をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>講読 3</td><td>メディア・新聞の記事の内容を使用して講読を行う。(エニ担当)</td><td>予習を行った上、講読した文献の内容をまとめておくこと。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>論文の執筆 1</td><td>受講生が興味持つトピックについて論文を精読の執筆を行うための基礎知識を学習する。(エニ担当)</td><td>学習した知識をもとに、予習をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>論文の執筆 2</td><td>論文の執筆を行う。(エニ担当)</td><td>予習をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>講読、論文の内容をまとめる。</td><td>論文を完成させる。(エニ担当)</td><td>まとめ終わった内容をもとにプレゼンテーションの準備を完了しておく。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>プレゼンテーション</td><td>5 週目～7 週目までのまとめとして発表する。(エニ担当)</td><td>プレゼンテーションの練習をしておくことと発表する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>文献講読 1</td><td>マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)</td><td>指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>文献講読 2</td><td>マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)</td><td>指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>文献講読 3</td><td>マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)</td><td>指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>資料読解 1</td><td>受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)</td><td>指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>資料読解 2</td><td>受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)</td><td>指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>資料読解 3</td><td>受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)</td><td>指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>プレゼンテーション</td><td>受講者が選択した論文の内容について要約を行う。(上田担当)</td><td>図書館やウェブから課題文献を選択して、配付資料等の発表準備を十分に行うこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、授業全体の構成等について説明する。(上田・エニ担当)	シラバスを読んでおくこと。	2	講読 1	社会に出来事についてメディアの記事を使用して授業行う (エニ担当)	予習をしておくこと。	3	講読 2	インドネシア語で書かれた文学作品を読む (エニ担当)	予習をしておくこと。	4	講読 3	メディア・新聞の記事の内容を使用して講読を行う。(エニ担当)	予習を行った上、講読した文献の内容をまとめておくこと。	5	論文の執筆 1	受講生が興味持つトピックについて論文を精読の執筆を行うための基礎知識を学習する。(エニ担当)	学習した知識をもとに、予習をしておくこと。	6	論文の執筆 2	論文の執筆を行う。(エニ担当)	予習をしておくこと。	7	講読、論文の内容をまとめる。	論文を完成させる。(エニ担当)	まとめ終わった内容をもとにプレゼンテーションの準備を完了しておく。	8	プレゼンテーション	5 週目～7 週目までのまとめとして発表する。(エニ担当)	プレゼンテーションの練習をしておくことと発表する。	9	文献講読 1	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。	10	文献講読 2	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。	11	文献講読 3	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。	12	資料読解 1	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。	13	資料読解 2	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。	14	資料読解 3	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。	15	プレゼンテーション	受講者が選択した論文の内容について要約を行う。(上田担当)	図書館やウェブから課題文献を選択して、配付資料等の発表準備を十分に行うこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、授業全体の構成等について説明する。(上田・エニ担当)	シラバスを読んでおくこと。																																																																
2	講読 1	社会に出来事についてメディアの記事を使用して授業行う (エニ担当)	予習をしておくこと。																																																																
3	講読 2	インドネシア語で書かれた文学作品を読む (エニ担当)	予習をしておくこと。																																																																
4	講読 3	メディア・新聞の記事の内容を使用して講読を行う。(エニ担当)	予習を行った上、講読した文献の内容をまとめておくこと。																																																																
5	論文の執筆 1	受講生が興味持つトピックについて論文を精読の執筆を行うための基礎知識を学習する。(エニ担当)	学習した知識をもとに、予習をしておくこと。																																																																
6	論文の執筆 2	論文の執筆を行う。(エニ担当)	予習をしておくこと。																																																																
7	講読、論文の内容をまとめる。	論文を完成させる。(エニ担当)	まとめ終わった内容をもとにプレゼンテーションの準備を完了しておく。																																																																
8	プレゼンテーション	5 週目～7 週目までのまとめとして発表する。(エニ担当)	プレゼンテーションの練習をしておくことと発表する。																																																																
9	文献講読 1	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。																																																																
10	文献講読 2	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。																																																																
11	文献講読 3	マレー語で書かれた文学作品を精読する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。																																																																
12	資料読解 1	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。																																																																
13	資料読解 2	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。																																																																
14	資料読解 3	受講者の関心に基づいて選んだトピックについて、マレー語で書かれた研究論文を読解する。(上田担当)	指定した文献の該当箇所を読み、わからない単語や表現などについて調べておくこと。																																																																
15	プレゼンテーション	受講者が選択した論文の内容について要約を行う。(上田担当)	図書館やウェブから課題文献を選択して、配付資料等の発表準備を十分に行うこと。																																																																
関連科目	インドネシア語・マレー語の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じてプリントを用意する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じてプリントを用意する。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	必要に応じてプリントを用意する。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>適宜指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜指示する。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	適宜指示する。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	前半 (エニ担当) と後半 (上田担当) のそれぞれについて、提出物や課題等の取り組み (30%) と、最終課題 (70%) から総合的に判断する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階) 7 号館 5 階 (上田研究室)																																																																		
備考	提出物は原則として翌週に返却する。最終回の課題は授業期間終了後に評価を記して返却する。 事前・事後学習の総時間数は、15 時間以上とする。																																																																		

科目名	インドネシア・マレー語学研究	科目名 (英文)	Indonesian-Malay Linguistic Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達, 金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL3142e0		

授業概要・目的	インドネシア語やマレー語で書かれた文献に触れることで、インドネシア語、マレー語についての専門的な知識を習得をするだけでなく、当該言語が話されている社会に関する知識を得ることを目的とする。
到達目標	インドネシア語とマレー語の実践的な運用能力を獲得する。
授業方法と留意点	本授業は、教員側から講義するだけでなく、受講生もテーマに合わせて作業を行う。テーマに応じてディスカッション、グループワーク等を行う。プリント/PDF ファイルを配布するが、テーマに応じて、図書館等での文献調査が必要。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語とマレー語に関する理解や、インドネシアやマレーシアの社会についての理解が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法の説明 (上田・金子担当)	これまで学んできたインドネシア語、マレー語の再確認 次回の予習
	2	マレー語の歴史 1	マレーシア社会におけるマレー語の歴史について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	3	マレー語の歴史 2	マレーシア社会におけるマレー語の歴史について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	4	マレーシアの歴史 1	マレーシアの歴史について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	5	マレーシアの歴史 2	マレーシアの歴史について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	6	マレーシアの文化 1	マレーシアのマレー人の衣服について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	7	マレーシアの文化 2	マレーシアのマレー人の食文化について書かれたマレー語文献を読む (上田担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	8	マレーシアの文化 3	マレーシアのポピュラーカルチャーについて書かれたマレー語文献を読むとともに、到達度を確認する課題に取り組む (上田担当)	総合復習
	9	時事インドネシア語を学ぶ 1	「政治」・「司法」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	10	時事インドネシア語を学ぶ 2	「経済」・「都市問題」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	11	時事インドネシア語を学ぶ 3	「先端テクノロジー」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	12	時事インドネシア語を学ぶ 4	「医療・健康」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	13	時事インドネシア語を学ぶ 5	「ファッション」・「ライフスタイル」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	14	時事インドネシア語を学ぶ 6	「環境問題」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶ。(金子担当)	今回の復習 次回のテキストの予習
	15	時事インドネシア語を学ぶ 7	「宗教」・「国際関係」の記事から、実践的で高度なインドネシア語を学ぶとともに、到達度を確認する課題に取り組む。(金子担当)	今回の復習 課題の準備

関連科目	主言語インドネシア・マレー語の科目すべて
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	第 8 回の講義と第 15 回の講義の際に実施する到達度の確認課題 (60%) と平常点 (40%) から評価する
学生へのメッセージ	インドネシア語とマレー語にたくさん触れて、運用能力を高めましょう。
担当者の研究室等	7 号館 5 階

備考	予習・復習は「授業計画」の「事前・事後学習課題」に従い15時間以上行うこと。
----	--

科目名	英語圏概論	科目名 (英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1143c0		

授業概要・目的	本授業では、世界に広がる英語と関連する文化について概観し、学ぶことが目的である。																																																																		
到達目標	英語が世界各地でどのような特徴をもち、どのように使われているかについて、各地の文化と合わせて理解を深める。																																																																		
授業方法と留意点	テーマに応じて、視聴覚教材も用いながら授業を進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	・教員養成 ・異文化理解 ・教養																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業計画などの説明、世界の英語とは</td><td>授業計画と概要の確認 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>イギリス英語とその方言</td><td>イギリスでの英語の発展、イギリスの英語と文化</td><td>イギリス英語とその方言の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ケルト語地域の英語</td><td>ウェールズ、スコットランド、アイルランドなどの英語と文化</td><td>ケルト語地域の英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>アメリカ英語とカナダ英語</td><td>北米への英語の広まりとアメリカ、カナダの英語と文化</td><td>アメリカ英語とカナダ英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>オーストラリア英語とニュージーランド英語</td><td>オセアニアへの英語の広まりとオーストラリア、ニュージーランドの英語と文化</td><td>オーストラリア英語とニュージーランド英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>英語を第一言語とする、その他の地域</td><td>ジブラルタル、セントヘレナ島などについて</td><td>英語を第一言語とする、その他の地域の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>インドとその周辺地域の英語</td><td>インドへの英語の広まり、インドの英語と文化</td><td>インドとその周辺地域の英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>東南アジアの英語</td><td>東南アジアへの英語の広まり、シンガポール、マレーシア、フィリピンの英語と文化</td><td>東南アジアの英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>中間テストと解説</td><td>8 週目までの内容に関するテストと解説</td><td>中間テストの予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>アフリカの英語</td><td>アフリカへの英語の広まり、西アフリカ、東アフリカ、南部アフリカの英語の違いについて</td><td>アフリカの英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>カリブ地域の英語</td><td>カリブ地域への英語の広まり、ジャマイカの英語と文化、期末プレゼンテーションの説明</td><td>カリブ地域の英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ヨーロッパの英語</td><td>イギリスを除くヨーロッパにおける英語の使用</td><td>ヨーロッパの英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>中東における英語</td><td>中東における英語の使用</td><td>中東における英語の予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>東アジアの英語、まとめ</td><td>東アジアにおける英語の使用、まとめ</td><td>東アジアの英語とまとめの予習・復習 (4 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>期末プロジェクト報告</td><td>報告とフィードバック</td><td>期末プロジェクトの準備と、授業内容の総復習 (4 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業計画などの説明、世界の英語とは	授業計画と概要の確認 (4 時間)	2	イギリス英語とその方言	イギリスでの英語の発展、イギリスの英語と文化	イギリス英語とその方言の予習・復習 (4 時間)	3	ケルト語地域の英語	ウェールズ、スコットランド、アイルランドなどの英語と文化	ケルト語地域の英語の予習・復習 (4 時間)	4	アメリカ英語とカナダ英語	北米への英語の広まりとアメリカ、カナダの英語と文化	アメリカ英語とカナダ英語の予習・復習 (4 時間)	5	オーストラリア英語とニュージーランド英語	オセアニアへの英語の広まりとオーストラリア、ニュージーランドの英語と文化	オーストラリア英語とニュージーランド英語の予習・復習 (4 時間)	6	英語を第一言語とする、その他の地域	ジブラルタル、セントヘレナ島などについて	英語を第一言語とする、その他の地域の予習・復習 (4 時間)	7	インドとその周辺地域の英語	インドへの英語の広まり、インドの英語と文化	インドとその周辺地域の英語の予習・復習 (4 時間)	8	東南アジアの英語	東南アジアへの英語の広まり、シンガポール、マレーシア、フィリピンの英語と文化	東南アジアの英語の予習・復習 (4 時間)	9	中間テストと解説	8 週目までの内容に関するテストと解説	中間テストの予習・復習 (4 時間)	10	アフリカの英語	アフリカへの英語の広まり、西アフリカ、東アフリカ、南部アフリカの英語の違いについて	アフリカの英語の予習・復習 (4 時間)	11	カリブ地域の英語	カリブ地域への英語の広まり、ジャマイカの英語と文化、期末プレゼンテーションの説明	カリブ地域の英語の予習・復習 (4 時間)	12	ヨーロッパの英語	イギリスを除くヨーロッパにおける英語の使用	ヨーロッパの英語の予習・復習 (4 時間)	13	中東における英語	中東における英語の使用	中東における英語の予習・復習 (4 時間)	14	東アジアの英語、まとめ	東アジアにおける英語の使用、まとめ	東アジアの英語とまとめの予習・復習 (4 時間)	15	期末プロジェクト報告	報告とフィードバック	期末プロジェクトの準備と、授業内容の総復習 (4 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業計画などの説明、世界の英語とは	授業計画と概要の確認 (4 時間)																																																																
2	イギリス英語とその方言	イギリスでの英語の発展、イギリスの英語と文化	イギリス英語とその方言の予習・復習 (4 時間)																																																																
3	ケルト語地域の英語	ウェールズ、スコットランド、アイルランドなどの英語と文化	ケルト語地域の英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
4	アメリカ英語とカナダ英語	北米への英語の広まりとアメリカ、カナダの英語と文化	アメリカ英語とカナダ英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
5	オーストラリア英語とニュージーランド英語	オセアニアへの英語の広まりとオーストラリア、ニュージーランドの英語と文化	オーストラリア英語とニュージーランド英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
6	英語を第一言語とする、その他の地域	ジブラルタル、セントヘレナ島などについて	英語を第一言語とする、その他の地域の予習・復習 (4 時間)																																																																
7	インドとその周辺地域の英語	インドへの英語の広まり、インドの英語と文化	インドとその周辺地域の英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
8	東南アジアの英語	東南アジアへの英語の広まり、シンガポール、マレーシア、フィリピンの英語と文化	東南アジアの英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
9	中間テストと解説	8 週目までの内容に関するテストと解説	中間テストの予習・復習 (4 時間)																																																																
10	アフリカの英語	アフリカへの英語の広まり、西アフリカ、東アフリカ、南部アフリカの英語の違いについて	アフリカの英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
11	カリブ地域の英語	カリブ地域への英語の広まり、ジャマイカの英語と文化、期末プレゼンテーションの説明	カリブ地域の英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
12	ヨーロッパの英語	イギリスを除くヨーロッパにおける英語の使用	ヨーロッパの英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
13	中東における英語	中東における英語の使用	中東における英語の予習・復習 (4 時間)																																																																
14	東アジアの英語、まとめ	東アジアにおける英語の使用、まとめ	東アジアの英語とまとめの予習・復習 (4 時間)																																																																
15	期末プロジェクト報告	報告とフィードバック	期末プロジェクトの準備と、授業内容の総復習 (4 時間)																																																																
関連科目	エアスタディーズなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>World Englishes 世界の英語への招待</td><td>田中春美・田中幸子 編</td><td>昭和堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	World Englishes 世界の英語への招待	田中春美・田中幸子 編	昭和堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	World Englishes 世界の英語への招待	田中春美・田中幸子 編	昭和堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加 30% 中間テスト 40% 期末プロジェクト 30%																																																																		
学生へのメッセージ	英語は世界の様々な地域で使われています。世界に広がる英語の現状と特徴を学んでみましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	授業内容については、進度等により調整する場合があります。毎回の授業のための教科書の読み込み、担当者からの課題、発表の準備などに要する事前・事後学習総時間は 60 時間程度とする。テストやプレゼンテーションに関するフィードバックは随時、授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	英語圏概論	科目名 (英文)	Introduction to Cultures of the English-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1143c0		

授業概要・目的	This is an introduction to the people and the culture of the United States. By learning about the culture of the United States, it will become easier to understand and communicate with Americans.
到達目標	1. You will be able to listen to and understand lectures in English. 2. You will improve your note taking skills. 3. You will get experience with poster presentations.
授業方法と留意点	You will listen to lectures in English and take notes. There will also be opportunities for discussions and presentations.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to the United States	Go over syllabus; Lecture and discussion on the geography of the United States	Prepare materials for note taking (2 hours)
	2	American Values and the American Dream	Lecture and discussion on American values	Quiz - American Values and the American Dream (2 hours)
	3	Religion in America	Lecture and discussion on religion in America	Quiz - Religion in America (2 hours)
	4	The Frontier Spirit	Lecture and discussion on the expansion of the United States	Quiz - The Frontier Spirit (2 hours)
	5	Business and Consumerism	Lecture and discussion on American business practices	Quiz - Business and Consumerism (2 hours)
	6	Poster Presentation Preparation	Create posters for next week's presentations	Review the lecture notes for week 2-5 (2 hours)
	7	Poster Presentation 1	Give poster presentations to your classmates	Review the lecture notes for week 2-5 (2 hours)
	8	Test 1	Take a test on the contents of weeks 2-5	Review the lecture notes for week 2-5 (2 hours)
	9	Government and Politics	Lecture and discussion on America's political system	Quiz - Government and Politics (2 hours)
	10	Ethnic and Racial Diversity	Lecture and discussion on America's multiethnic society	Quiz - Ethnic and Racial Diversity (2 hours)
	11	Education in America	Lecture and discussion on America's education system	Quiz - Education in America (2 hours)
	12	The American Family	Lecture and discussion on the family structure and home customs in America	Quiz - The American Family (2 hours)
	13	Poster Presentation Preparation	Create posters for next week's presentations	Review the lecture notes for week 9-12 (2 hours)
	14	Poster Presentation 2	Give poster presentations to your classmates	Review the lecture notes for week 9-12 (2 hours)
	15	Group Presentations	Take a test on the contents of weeks 9-12	Review the lecture notes for week 9-12 (2 hours)

関連科目	エアスタディーズなど
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Test 1	20%
	Test 2	20%
	Poster Presentation 1	10%
	Poster Presentation 2	10%
	Short Writing	8%
	Reading Quizzes	16%
	Lecture Quizzes	16%

学生へのメッセージ	Lectures will be in English, so it may be challenging for you, but don't worry. Time will be given during the lectures for you to check unfamiliar words in your dictionary, so please bring a dictionary to class. Also, please be prepared to take notes.
-----------	---

担当者の研究室等	11 号館 11 階 フーバー研究室
----------	--------------------

備考	毎回の授業の事前・事後学習総時間は 60 時間程度とする。テスト等に関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	中国語圏概論	科目名 (英文)	Introduction to Cultures of the Chinese-Speaking World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	史 耕雲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1144a0		

授業概要・目的	さまざまな映像を通じ、中国の衣食住を紹介し、異文化の多様性と共通性を学ぶことを目的とする。				
到達目標	中国文化に関する基礎知識を身につけ、グローバル社会の一員としてコミュニケーション力を高めることができる。				
授業方法と留意点	授業は演習形式で行う。毎回のテーマについて感想や意見を討論する。 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習を要する。				
科目学習の効果（資格）	柔軟性を持って語学を学べ、価値観を広げる。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	豆知識	授業内容と評価基準についての説明	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		2	衣①	服装の歴史	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		3	衣②	服装にまつわる話	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		4	食①	食文化	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		5	食②	酒と茶の文化	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		6	住①	中国の建物	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		7	住②	中国人にとって家とは	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		8	行①	古代の交通	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		9	行②	現代社会の交通	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		10	呼び名と姓名	呼び名と日常交際	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		11	娯楽と健康	琴棋書画と養生	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		12	家庭と婚姻	家庭の構造と婚姻の歴史	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		13	宗教と迷信	崇拝とタブー	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		14	言語と文化	言葉から見る中華文化	資料を読むこと 事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。
		15	中国語と日本	コミュニケーションから生まれた日中友好	レポートにまとめる
関連科目	1 年次必修の中国語各課目・中国関連の講義科目。				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	プリント配布		
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
評価方法（基準）	毎回の提出物 70%、レポート 30%				
学生へのメッセージ	事前と事後にそれぞれ 60 分の学習すること。				
担当者の	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）				

研究室等	
備考	連絡事項や質問のある場合は、メールにてお問い合わせください。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	スペイン語圏概論	科目名 (英文)	Introduction to Spanish-speaking Area Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1145a0		

授業概要・目的	スペイン語圏に関する基礎知識をもち、関心を高めることを目的とする。ただし、ラテンアメリカに関しては1年後期のエリア・スタディーズで学習するので、この授業ではスペインを対象とする。
到達目標	スペインの各地域について、地理、歴史、文化に関する基本的知識を身につける。 座学、すなわち講義を聞きおもに話し（口述）の内容を要約しながら書き留める作業になれること。 基礎的なスペイン語で、スペインの文化事象（固有名詞を含む）を正確に言い表せるようになること。
授業方法と留意点	オンライン授業（Teamsによるリアルタイム動画配信型）を行う。課題・資料配布、課題等提出にWebfolderを用いる。 大学のPortal などその都度よく指示や連絡を確認し応答するようにしてください。課題提出は期限を必ず守ること（提出期限を過ぎたものは不提出となります）。講読のテキストを用いるが、全文を訳読していくのではなく、一部を講義および課題の材料として用います。授業計画はあくまで目安であり集団のレベル、規模や進捗等を見極めながら、随時変更、修正する。試験は期末の他、中間的に適宜1度以上実施する。
科目学習の効果（資格）	集中して話を聞くこと、話の内容を要約すること、それを書き出してまとめること。 座学の訓練。スペイン語基礎。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション スペイン語圏とは	この授業の進め方 スペイン語とスペイン語圏	スペイン語の特徴 スペイン語圏の広がり
	2	スペインの地理（1）	スペインの地理、歴史	地図
	3	スペイン、ふるくて新しい国	スペインの地理・歴史	地図
	4	スペイン、ふるくて新しい国	スペインは一つの国か？ 自治州について	スペインの地域区分 17の自治州
	5	スペインの言語と習慣	スペインは一つの国か？ 言語、自治州について	スペインの言語
	6	スペインの言語と習慣	スペインは一つの国か？ 言語、自治州について	スペインの言語
	7	試験 スペインの食	これまでの学習内容について スペインの食文化	第1～6回までの内容 食文化
	8	スペインの食	スペインの食文化	食文化
	9	スペインの祭り	祭儀、文化遺産	文化遺産
	10	スペインの祭り	祭儀、文化遺産	文化遺産
	11	スペインの文化（スポーツ、音楽ほか）	スペインの大衆文化・娯楽	大衆文化
	12	スペインの文化（スポーツ、音楽ほか）	スペインの大衆文化・娯楽	大衆文化
	13	スペインの芸術、文学	19世紀まで	芸術
	14	スペインの芸術、文学 試験	20世紀以降 第7～14回までの内容	芸術 第7～14回までの内容
	15	総括	これまでの総まとめ テスト解説	配布プリント・ノートの整理

関連科目	「エリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）」「同（ヨーロッパ）」 「スペイン語トピックス」「メディアのスペイン語」など。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スペインを知るために	西川喬ほか	第三書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	試験 60%＋日ごろの取り組み（課題、授業中の質問や発表など） 40%
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	日ごろから本や新聞記事を読み、ニュースを見聞きし、日本と世界の出来事、歴史を知ろうと努めること。 予習（読解）を必ずノートを作ったうえでやってから授業に臨むこと。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階（安達研究室） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	--

備考	大学での講義のノートの取り方、まとめ方を学ぶ。事前・事後学修に各1時間を要する。 興味や関心は、知識や情報から芽生えるものです。予備知識（世界史等）が必要なものとにかく読書する習慣をつけよう。 プリントなどは一度しか配布しない。欠席により不利益を被らないよう意識的に努めること。 試験の答えは実施後次の授業内で返却し解説する。
----	--

科目名	インドネシア・マレー語圏概論	科目名 (英文)	A Survey of the Indonesian-Malay World
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳、上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1146a0		

授業概要・目的	インドネシア・マレー語圏の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得する。インドネシアとマレーシアが話題の中心になるが、これらの国と結びつきの深いシンガポール、ブルネイ、東ティモールといった国々についても適宜言及する。あわせて他の東南アジア諸国についても基礎的な情報を紹介する。				
到達目標	インドネシア語とマレー語が話されている地域に関する基礎的な知識を得ること、インドネシア・マレー語圏の人々の生活を、われわれの日常と地続きのものとして理解すること、の二点を到達目標とする。				
授業方法と留意点	1. 前半は金子が行い、後半は上田が行う。 2. 授業の進め方の詳細は初回の授業時に指示する。 3. 授業内に質疑応答の時間も設ける。 4. 前半（金子担当）は映像資料やプリントなどを使用した講義が中心であるが、適宜、グループディスカッションのほか、小レポート等の課題を出す。 5. 後半（上田担当）は映像資料やプリントなどを用いて講義を行う。適宜、学習事項に関連した課題を出す。				
科目学習の効果（資格）					
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明（上田、金子担当）	関連する文献を紹介するので読むこと。
		2	インドネシア 1：基礎知識	インドネシアの基礎知識を知る（クイズ形式&いくつかの現物資料による紹介あり）。参考文献等の紹介。（金子担当）	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。
		3	インドネシア 2：近現代史を知ろう	近・現代を中心に歴史を概観することで、現代インドネシアの理解の核とする。近・現代における日本とインドネシアの関係も学ぶ。（金子担当）	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。
		4	インドネシア 3：消費生活とライフスタイルの変化を知ろう	「消費者」としてのインドネシア人に注目しながらライフスタイルの変化を示す。一般消費財メーカーや飲食業界など多様な日系企業の進出といくつかの導入エピソードから、インドネシアの消費生活とライフスタイルの変化を知る。労働・国内移民・巡礼・観光など、現代インドネシア人の多様な移動・移住を扱う。（金子担当）	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。
		5	インドネシア 4：民族集団・伝統文化・世界遺産	インドネシアにおける主要な民族集団とその伝統文化を概観していく。世界遺産のボロブドゥル寺院などの紹介あり。（金子担当）	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。
		6	インドネシア 5：民族誌映画でまなぶ文化的価値観の違い	民族誌映画「Ana Boto」を観て、自分たちの文化や価値観の違いを考える。（金子担当）	ノートを読み、まとめておくこと。 配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。
		7	インドネシア 6：宗教	インドネシアにおける宗教・信仰の実践を学び、社会のありようや人生観の違いについて学ぶ。（金子担当）	各回のノートを読み、まとめておくこと。 各回の配布資料を読むこと。 紹介した文献を読むこと。 7回までの授業で学んだ内容を整理しておくこと。
		8	前半まとめ	授業前半の総括をおこなう。「到達度の確認課題」を課し、評価する。（金子担当）	授業で学んだ内容をノートに整理しておくこと。
		9	マレーシア 1（多民族社会）	マレーシアに住む多様な民族集団について概説する。多民族社会という概念を説明する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
		10	マレーシア 2（マレー人社会）	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。マレー人の生活について映像資料を用いて説明する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
		11	マレーシア 3（華人社会）	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。中国系住民の生活について映像資料を用いて説明する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
		12	マレーシア 4（インド系の人々、少数民族の人々の社会）	マレーシアに住む多様な民族集団について説明する。インド系住民やオランダ系、サバヤサラワクの人びとの生活について映像資料を用いて説明する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
		13	ブルネイ	ブルネイという国やブルネイに住む人びとについて概説する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
		14	シンガポール	シンガポールという国やシンガポールに住む人びとについて概説する。（上田担当）	配布する資料や掲出するウェブサイトをよく読んでおくこと。
		15	まとめ	授業の総括と到達度の確認をはかる課題を実施する。終了後は講評と授業の振り返りをおこなう。（上田担当）	ノートやプリントを使って、授業で学んだ内容を整理しておくこと。
関連科目	インドネシア・マレー語関係科目および東南アジア関係の講義科目				
教科書					

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジアを知る事典		平凡社
	2	インドネシアの基礎知識	加納啓良	めこん
	3	東南アジア文化事典	信田敏宏	丸善
評価方法 (基準)	前半（金子担当）と後半（上田担当）のそれぞれについて次のような観点から評価したものを総合する。 前半：提出物や課題等の取り組み（30%）と、最終課題（70%）から総合的に判断する。 後半：提出物や課題等の取り組み（30%）と、最終課題（70%）から総合的に判断する。			
学生への メッセージ	スポーツ・文芸・映像・音楽・動物・交通・ファッション・グルメなど自分の関心分野にあわせて、日常でもインドネシア、マレーシア、ブルネイ、シンガポールのニュースや情報を積極的に探してください。			
担当者の 研究室等	7号館5階金子研究室、7号館5階上田研究室 なお、7号館の耐震補強工事のため、2021年4月から9月末までは、11号館11階スカイラウンジに仮の研究室がある。			
備考	提出物は評価を付した上で、原則として翌週に返却する。 事前・事後学習の総時間数は、15時間とする。			

科目名	エリアスタディーズ（日本）	科目名（英文）	Area Studies（Japan）
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1147a0		

授業概要・目的	本講義では日本の文化について理解を深めることを目的とします。取り上げるテーマは宮崎駿監督の映画『もののけ姫』と「和食」です。『もののけ姫』にえがかれる「日本」を題材に日本文化の相対化を行います。また、身近な「食」から、日本の生活史、また現代日本の問題についても考えます。本講義を通して日本の文化に対する理解を深め世界の国々と比較するさいに役立ててください。
到達目標	日本の歴史や文化の特質を理解し、他の国々との違いを比較しながら、自らの言葉で解説できる能力を習得できます。
授業方法と留意点	オンラインで行います。 Moodle を使用します。登録キーで参加してください。
科目学習の効果（資格）	異文化コミュニケーションの場では自分の国の文化を披露することがあるでしょう。そのさい、日本の文化の特徴について伝えることができます。また、他の国の文化に触れるときにも深く理解することができるよう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の目的や進め方について説明します。歴史学とはどのような学問か解説します。	もののけ姫について web や書籍で調べておく
	2	日本の周縁社会 ～『もののけ姫』とエミシの世界～	単一民族国家ではない「日本」の領域と周縁について考えます。	蝦夷について調べておく
	3	日本中世の村と町 ～『もののけ姫』の中の「日本」～	中世における村と町の成立と実態について解説します。	講義で説明した町と村の特質についてまとめておく
	4	製鉄と身分社会 ～『もののけ姫』におけるタタラ場の世界～	製鉄を通して、日本中世の生業、身分について考えます。	タタラ製鉄について web や書籍で調べておく
	5	日本における自然界と神の世界 ～『もののけ姫』におけるシシガミの世界～	日本の地理的環境や日本人の信仰について考えます。	web を用いて日本の神社で祀られる獣神の事例をまとめる
	6	『もののけ姫』の語る「日本」1	『もののけ姫』を通して見える「日本」について受講者がそれぞれ考え、議論します。	もののけ姫を題材に日本についての考えを整理しておく
	7	『もののけ姫』の語る「日本」2	『もののけ姫』と日本文化について総括します。	他の受講生の意見を踏まえて自分の考えを整理する
	8	和食の源流	和食に対するイメージや考えをみなで考え、整理します。和食の歴史のうち、神饌と直会など古代日本の食について考えます。	自分が住む地域の氏神、祭礼について調べておく
	9	日本における食肉文化	日本における食肉の歴史と、日本人に与えた影響について考えます。	授業で紹介した食肉に関する法令を整理しておく
	10	米・小麦と日本	日本人の主食である米と稲作文化、また小麦の栽培と粉物文化の成立について考えます。	食が体に与えた影響について授業で解説したことをもとに整理する
	11	和食の展開 ～精進料理と本膳料理～	中世以降の精進料理、本膳料理が和食の成立に与えた影響について考えます。	精進料理、本膳料理についてしっかり復習しておく
	12	麹と和食	麹菌と調味料の歴史について考えます。	漫画『もやしもん』を読んでおく
	13	和食の広がり ～2つの「かいせきりょうり」～	和食が社会に展開する過程について解説します。	日本における喫茶文化と江戸時代の町人文化について調べておく
	14	世界に広がる和食	現代における和食の実態や問題点について考えます。	和食の世界遺産登録について調べておく
	15	確認テストと授業のまとめ	講義の総括を行います	今までのノートをまとめておく

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題 1 (25%)、課題 2 (25%)、課題 3 (50%) 詳しくは初回に説明します。			
学生への メッセージ	本講義で日本の文化や歴史がすべてわかるわけではありません。講義を通じて興味を持ったことがありましたら、Web や図書などで積極的に調べるとよいでしょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 (赤澤研究室)			
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。 授業で課した課題については、整理して講義で紹介、講評する。			

科目名	エリアスタディーズ（東アジア）	科目名（英文）	Area Studies (East Asia)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子・田中 悟
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1148a0		

授業概要・目的	中国と韓国の社会と文化の概要を学び、東アジア地域への理解を深める。																																																																		
到達目標	中国と韓国を中心とした東アジアの歴史・文化の概要を理解することができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義中心で行う。 第 1～9 回は中国、第 11～15 回は韓国を対象とし、レジュメ・資料を配布し、映像資料も用います。 【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.08.30) ・講義は、①Teams を通じたリアルタイム配信、②Moodle を通じたレジュメ・課題等の配信、という 2 つの手段を適宜組み合わせで行ないます。																																																																		
科目学習の効果（資格）	日本を含む東アジア地域に対する理解が深まる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入：中国とは？（小都）</td><td>中国の民族・人口、地理・食、言語について、地図を使って学ぶ。</td><td>配布資料の復習（事後）（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>華北（小都）</td><td>北京を取り上げて、華北地域の社会と文化を学ぶ。また中国政治の特徴について考える。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>華東（小都）</td><td>上海を取り上げて、華東地域の社会と文化を学ぶ。また中国社会の特徴について考える。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>華中（小都）</td><td>中原の歴史や中華思想について学び、漢民族社会の特徴について考える。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>西南・西北（小都）</td><td>中国の少数民族地域の社会と文化について学び、その特徴について考える。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>華南（小都）</td><td>広州を取り上げて、華南地域の社会と文化を学ぶ。また香港・マカオの社会と文化を学び、一国二制度について考える。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>台湾（小都）</td><td>台湾の社会と文化を学び、中国・台湾と日本の関係を考える。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>華僑・華人（小都）</td><td>世界と日本の華僑・華人について学ぶ。</td><td>配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>授業の中間まとめと確認テスト（小都）</td><td>これまでの内容のまとめと確認テスト</td><td>これまでの内容を復習して、確認テストに備える（事前）（4 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>韓国新聞についての基礎知識（田中）</td><td>韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介し、実際にアクセスしてみる。</td><td>関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事後）（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（1）（田中）</td><td>記事の輪読と解説：現代社会の諸相（1）</td><td>関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（2）（田中）</td><td>記事の輪読と解説：現代社会の諸相（2）</td><td>関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（3）（田中）</td><td>記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（1）</td><td>関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（4）（田中）</td><td>記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（2）</td><td>関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>韓国社会を読み解くための補助線（田中）</td><td>映像作品の鑑賞と解説</td><td>関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入：中国とは？（小都）	中国の民族・人口、地理・食、言語について、地図を使って学ぶ。	配布資料の復習（事後）（1 時間）	2	華北（小都）	北京を取り上げて、華北地域の社会と文化を学ぶ。また中国政治の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	3	華東（小都）	上海を取り上げて、華東地域の社会と文化を学ぶ。また中国社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	4	華中（小都）	中原の歴史や中華思想について学び、漢民族社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	5	西南・西北（小都）	中国の少数民族地域の社会と文化について学び、その特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	6	華南（小都）	広州を取り上げて、華南地域の社会と文化を学ぶ。また香港・マカオの社会と文化を学び、一国二制度について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	7	台湾（小都）	台湾の社会と文化を学び、中国・台湾と日本の関係を考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	8	華僑・華人（小都）	世界と日本の華僑・華人について学ぶ。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）	9	授業の中間まとめと確認テスト（小都）	これまでの内容のまとめと確認テスト	これまでの内容を復習して、確認テストに備える（事前）（4 時間）	10	韓国新聞についての基礎知識（田中）	韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介し、実際にアクセスしてみる。	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事後）（1 時間）	11	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（1）（田中）	記事の輪読と解説：現代社会の諸相（1）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）	12	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（2）（田中）	記事の輪読と解説：現代社会の諸相（2）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）	13	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（3）（田中）	記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（1）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）	14	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（4）（田中）	記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（2）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）	15	韓国社会を読み解くための補助線（田中）	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入：中国とは？（小都）	中国の民族・人口、地理・食、言語について、地図を使って学ぶ。	配布資料の復習（事後）（1 時間）																																																																
2	華北（小都）	北京を取り上げて、華北地域の社会と文化を学ぶ。また中国政治の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
3	華東（小都）	上海を取り上げて、華東地域の社会と文化を学ぶ。また中国社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
4	華中（小都）	中原の歴史や中華思想について学び、漢民族社会の特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
5	西南・西北（小都）	中国の少数民族地域の社会と文化について学び、その特徴について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
6	華南（小都）	広州を取り上げて、華南地域の社会と文化を学ぶ。また香港・マカオの社会と文化を学び、一国二制度について考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
7	台湾（小都）	台湾の社会と文化を学び、中国・台湾と日本の関係を考える。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
8	華僑・華人（小都）	世界と日本の華僑・華人について学ぶ。	配布資料の予習・復習（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
9	授業の中間まとめと確認テスト（小都）	これまでの内容のまとめと確認テスト	これまでの内容を復習して、確認テストに備える（事前）（4 時間）																																																																
10	韓国新聞についての基礎知識（田中）	韓国マスメディアの日本語版サイトを紹介し、実際にアクセスしてみる。	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事後）（1 時間）																																																																
11	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（1）（田中）	記事の輪読と解説：現代社会の諸相（1）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
12	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（2）（田中）	記事の輪読と解説：現代社会の諸相（2）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
13	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（3）（田中）	記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（1）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
14	韓国の新聞記事に基づいて読み解く韓国社会（4）（田中）	記事の輪読と解説：「今」を生きる若者（2）	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
15	韓国社会を読み解くための補助線（田中）	映像作品の鑑賞と解説	関連諸サイトにアクセスし、内容に目を通しておく。（事前および事後）（各 1 時間）																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	第 1～9 回（60%）、第 10～15 回（40%）を合算して評価します。 第 1～9 回については、授業内で実施する課題および確認テストによって評価します。 第 10～15 回については、授業内で指示する課題への取り組み（提出状況および内容）に基づいて評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	東アジアに関する基礎的な知識を身につけ、自分が暮らす世界への理解を広げてください。																																																																		
担当者の研究室等	小都研究室（7 号館 3 階）・田中研究室（7 号館 4 階） ※ただし 2021 年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。																																																																		
備考	授業の進行スケジュールについては、出席者の状況に応じて調整する可能性があります。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックします。																																																																		

科目名	エリアスタディーズ（東南アジア）	科目名（英文）	Area Studies (Southeast Asia)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達、山本 文子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1149a0		

授業概要・目的	東南アジアを大陸部と島嶼部に大別して、それぞれの地域における各国の文化、社会、歴史、経済、政治についての基礎的な知識を習得し、そのうえで各地域における人びとの生活の多様性と共通性について考える。大陸部を山本、島嶼部を上田が担当する。																																																																		
到達目標	* 東南アジアについての基礎的な知識を習得する。 * 東南アジアに関する報道に対して、地理的・歴史的な背景を踏まえたうえでの深い考察ができるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	* 講義形式で行う。授業の理解を助けるために映像資料を使用する。 * 受講者にはペーパーで毎回コメントや質問を求める。重要なものについては、次回授業冒頭で取り上げて解説する。 * 話をただ聞きながらではなく、自分で考えながらノートをとること。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義の目的、内容、進め方について説明する。（上田・山本）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>東南アジア（大陸部）の国々</td><td>自然環境、民族、宗教（山本）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>東南アジア（大陸部）の宗教</td><td>仏教の広がりとその受容・発展（山本）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>東南アジア（大陸部）の歴史</td><td>植民地支配と独立（山本）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>東南アジア（大陸部）の国々——ベトナム</td><td>ベトナム 日本とのつながり（山本）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>東南アジア（大陸部）の国々——タイ</td><td>タイ 観光、多民族（山本）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>東南アジア（大陸部）の国々——ミャンマー</td><td>ミャンマー 宗教、多民族（山本）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>東南アジア（大陸部）のまとめ</td><td>前半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。（山本）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>東南アジア（島嶼部）の国々</td><td>自然環境、民族、宗教（上田）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>東南アジア（島嶼部）の宗教</td><td>イスラームとキリスト教の広がり（上田）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>東南アジア（島嶼部）の歴史</td><td>植民地支配と独立（上田）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>東南アジア（島嶼部）の国々——マレーシア</td><td>マレーシア 宗教、多民族（上田）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>東南アジア（島嶼部）の国々——インドネシア</td><td>インドネシア 宗教、多民族（上田）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>東南アジア（島嶼部）の国々——東ティモール</td><td>東ティモール（上田）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>東南アジア（島嶼部）のまとめ</td><td>後半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。（上田）</td><td>紹介する資料を参照すること。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。（上田・山本）	紹介する資料を参照すること。	2	東南アジア（大陸部）の国々	自然環境、民族、宗教（山本）	紹介する資料を参照すること。	3	東南アジア（大陸部）の宗教	仏教の広がりとその受容・発展（山本）	紹介する資料を参照すること。	4	東南アジア（大陸部）の歴史	植民地支配と独立（山本）	紹介する資料を参照すること。	5	東南アジア（大陸部）の国々——ベトナム	ベトナム 日本とのつながり（山本）	紹介する資料を参照すること。	6	東南アジア（大陸部）の国々——タイ	タイ 観光、多民族（山本）	紹介する資料を参照すること。	7	東南アジア（大陸部）の国々——ミャンマー	ミャンマー 宗教、多民族（山本）	紹介する資料を参照すること。	8	東南アジア（大陸部）のまとめ	前半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。（山本）	紹介する資料を参照すること。	9	東南アジア（島嶼部）の国々	自然環境、民族、宗教（上田）	紹介する資料を参照すること。	10	東南アジア（島嶼部）の宗教	イスラームとキリスト教の広がり（上田）	紹介する資料を参照すること。	11	東南アジア（島嶼部）の歴史	植民地支配と独立（上田）	紹介する資料を参照すること。	12	東南アジア（島嶼部）の国々——マレーシア	マレーシア 宗教、多民族（上田）	紹介する資料を参照すること。	13	東南アジア（島嶼部）の国々——インドネシア	インドネシア 宗教、多民族（上田）	紹介する資料を参照すること。	14	東南アジア（島嶼部）の国々——東ティモール	東ティモール（上田）	紹介する資料を参照すること。	15	東南アジア（島嶼部）のまとめ	後半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。（上田）	紹介する資料を参照すること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義の目的、内容、進め方について説明する。（上田・山本）	紹介する資料を参照すること。																																																																
2	東南アジア（大陸部）の国々	自然環境、民族、宗教（山本）	紹介する資料を参照すること。																																																																
3	東南アジア（大陸部）の宗教	仏教の広がりとその受容・発展（山本）	紹介する資料を参照すること。																																																																
4	東南アジア（大陸部）の歴史	植民地支配と独立（山本）	紹介する資料を参照すること。																																																																
5	東南アジア（大陸部）の国々——ベトナム	ベトナム 日本とのつながり（山本）	紹介する資料を参照すること。																																																																
6	東南アジア（大陸部）の国々——タイ	タイ 観光、多民族（山本）	紹介する資料を参照すること。																																																																
7	東南アジア（大陸部）の国々——ミャンマー	ミャンマー 宗教、多民族（山本）	紹介する資料を参照すること。																																																																
8	東南アジア（大陸部）のまとめ	前半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。（山本）	紹介する資料を参照すること。																																																																
9	東南アジア（島嶼部）の国々	自然環境、民族、宗教（上田）	紹介する資料を参照すること。																																																																
10	東南アジア（島嶼部）の宗教	イスラームとキリスト教の広がり（上田）	紹介する資料を参照すること。																																																																
11	東南アジア（島嶼部）の歴史	植民地支配と独立（上田）	紹介する資料を参照すること。																																																																
12	東南アジア（島嶼部）の国々——マレーシア	マレーシア 宗教、多民族（上田）	紹介する資料を参照すること。																																																																
13	東南アジア（島嶼部）の国々——インドネシア	インドネシア 宗教、多民族（上田）	紹介する資料を参照すること。																																																																
14	東南アジア（島嶼部）の国々——東ティモール	東ティモール（上田）	紹介する資料を参照すること。																																																																
15	東南アジア（島嶼部）のまとめ	後半部の学習到達度を確認する課題に取り組む。（上田）	紹介する資料を参照すること。																																																																
関連科目	東南アジアに関連するすべての講義科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>東南アジアを知る事典</td><td></td><td>平凡社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>入門 東南アジア近現代史</td><td>岩崎育夫</td><td>講談社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	東南アジアを知る事典		平凡社	2	入門 東南アジア近現代史	岩崎育夫	講談社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	東南アジアを知る事典		平凡社																																																																
2	入門 東南アジア近現代史	岩崎育夫	講談社																																																																
3																																																																			
評価方法（基準）	前半と後半のそれぞれについて、次の観点から評価する。 * 平常点 40% （授業への参加・貢献度を、コメント・感想などから総合的に判断する） * 到達度の確認を問う課題 60% （授業期間中に行う）																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室 7 号館 2 階（非常勤講師室）																																																																		
備考	* 受講者数等によって、評価方法を変更することがある。初回授業時に指示するので必ず出席すること。 * 質問は原則として授業中に受け付ける。 * 事前事後学習時間は、60 時間以上とする。																																																																		

科目名	エリアスタディーズ（ヨーロッパ）	科目名（英文）	Area Studies (Europe)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1150a0		

授業概要・目的	現代のヨーロッパを理解するために、3つの地域（フランス、イギリス、ドイツ）に焦点をあて、多角的な観点からそれぞれの地域が抱える特徴的な問題を考察する。フランスにおいては、フランス革命から始まる共和政について理解し、ナショナリズムと政教分離（ライシテ）の問題から、国家における多様性と共存のあり方について検討する。イギリスについては、産業革命による社会の近代化、そしてヴィクトリア時代の文化の形成を踏まえたうえで、ジェンダーについて検討する。そして、ドイツについては、ナチス・ドイツをめぐる問題から、人種や戦争、				
到達目標	フランス、イギリス、ドイツの歴史やそれぞれの地域が抱える諸問題を理解するとともに、そうしたことが現代社会にどのような影響を与えているかを説明することができる。				
授業方法と留意点	講義中心で行う。 パワーポイントによる授業を行い、それに関する資料を配布する。また、適宜、その他参考となる資料も配布する。				
科目学習の効果（資格）	フランス、イギリス、ドイツの歴史と地域の特徴をめぐる学習を通じて、現代のヨーロッパ世界を深部から理解できるようになる。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	現代のヨーロッパ	・現代のヨーロッパ ・フランス、イギリス、ドイツの特徴	事前に、現代ヨーロッパを地図で確認するとともに、フランス、イギリス、ドイツのイメージについて書きだす。授業後は、それぞれの地域の特徴について整理する。
		2	イギリスの近代	・産業革命 ・19世紀のイギリス	産業革命について調べてくる。
		3	ヴィクトリア時代のイギリスと女性	イギリスにおける女性君主	事前に、イギリス人女性について思い浮かぶ人を調べ、授業後はそれに関して考察する。
		4	イギリスの現代	・女性の社会進出 ・イギリスの文化や政治	現在のイギリスについて、イメージすることを考えてくる。
		5	フランスの近代	・フランス革命の理念と文化	フランス革命について調べ、その前と後で何が変わったのかについて考える。事前に、ここ10年くらいのフランスの大きな事件について調べる。授業後は、ここまでのフランスに関する歴史と諸問題について整理する。
		6	フランスのナショナリズム	フランス人らしさ	授業前にフランス人らしさについてイメージを書きだし、授業後はフランスのナショナリズムについて考える。
		7	フランスの政教分離	フランス人とカトリック	カトリックについて調べてくる。授業後は、現在のフランスの宗教について調べる
		8	フランスの現代	政治と移民	フランスの抱える現在の問題について調べる。
		9	フランスに関するまとめ	これまで講義した内容をまとめ、グループディスカッションを行う。	事前にこれまでの内容をまとめる。事後、ディスカッションをもとに意見をまとめる。
		10	ナチス・ドイツとは。	・ナチス・ドイツの全体像	事前に、ヒトラーについて調べ、20世紀前半のドイツの年表を作る。
		11	ナチス・ドイツの政策（1）	・プロパガンダ ＊発表を予定	事前に、ナチス・ドイツが行った政策について調べる。授業後は、その影響力について考察する。
		12	ナチス・ドイツの政策（2）	・優生思想 ＊発表を予定	事前に、優生思想という言葉を調べる。授業後は、そこから生まれた諸問題について確認する。
		13	ナチ政権下ドイツの人々	・ナチスの政策について人々とした反応について学ぶ ＊発表を予定	当時のドイツの人々の状況を調べる。
		14	ドイツの現代	・戦後ドイツの歴史 ・ドイツの戦後の記憶 ＊発表を予定	事前に、戦後のドイツについて年表を作り、戦後から現代にいたるまでの重要な出来事を確認する。
		15	現代ヨーロッパの諸問題	・これまでの授業をまとめ、現代ヨーロッパの諸問題について考察する。	事前に、授業で扱った内容全体を復習する。授業後は、現代のヨーロッパないし日本が抱える問題とも比較する。
関連科目	ヨーロッパ史学				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	大学で学ぶ西洋史〔近現代〕	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
		2			
		3			
評価方法（基準）	不定期に授業中に課す課題（発表）や、授業の区切りごとに課す小レポート（50%）、期末レポート（50%）				
学生へのメッセージ	ヨーロッパのフランス、イギリス、ドイツについて見ていきます。それぞれ特徴的なこともあれば、共通することもあり、こうした地域の持つ問題の多くは、現代の日本社会ともかかわってきます。日々の世界のニュースにも関心を持ち、授業に取り組んでください。 授業の後半においては、グループワークと発表を予定している。				
担当者の研究室等					
備考	事前、事後学習に要する総時間は約60時間である。				

	フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。 初回の授業は Teams の会議室を通してオンラインのリアルタイムで行う。
--	---

科目名	エリアスタディーズ（アフリカ）	科目名（英文）	Area Studies (Africa)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	早川 真悠
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1151a0		

授業概要・目的	アフリカについてまったく何も知らないという人はいないと思います。みなさんはそれぞれに、アフリカにかんして何らかのイメージや知識をもっています。それでは、みなさんがアフリカにかんして持っているイメージや知識とは、どのようなもののでしょうか。それらはどこでどのように得られたのでしょうか。 本授業では、アフリカのさまざまなトピック（政治、経済、文化、現代的問題）について、じっさいに現地で人びとがどんな暮らしをしているのか、どんな問題に直面しているのか、具体的に学んでいきます。一般にわたしたちのよく知っている
到達目標	- 自分が知っているアフリカのイメージや知識について理解できる。 - アフリカの人びとのじっさいの生活や現地の実態について理解できる。 - 以上を踏まえたうえで、「アフリカとは何なのか」について考え、自分なりの答えを出せる。 「アフリカから世界を見ると、どのような問題が見えてくるのか」考え、自分なりの答えを出せる。
授業方法と留意点	- 授業テーマに関連する、課題論文を講読しながら授業をすすめます。課題論文を必ず読んで授業に臨んでください。 - 課題論文は、Web 上で閲覧可能なものを授業中に紹介します。 - 受講者に発表などの課題を課することがあります。 - 授業前・授業後に、学習課題を課します。 - 履修者の人数、関心、理解度などに応じて、シラバスの内容を一部修正する場合があります。
科目学習の効果（資格）	・異文化理解に役立つ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	今後の授業内容の概要 履修者の興味関心の確認 講師の紹介	【事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	2	アフリカのイメージ（1）	身の周りにおけるアフリカの情報（ニュース、文化、モノなど）を紹介しながら、アフリカに対するイメージ、自分との距離などを考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	3	アフリカのイメージ（2）	身の周りにおけるアフリカの情報（ニュース、文化、モノなど）を紹介しながら、アフリカに対するイメージ、自分との距離などを考える。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	4	「文化」（1）	アフリカの民族と伝統について	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	5	「文化」（2）	アフリカの民族と伝統について	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	6	「政治」（1）	アフリカの紛争・難民について	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	7	「政治」（2）	アフリカの紛争・難民について	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	8	「自然」（1）	アフリカにおける自然保護と地域住民について	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	9	「自然」（2）	アフリカにおける自然保護と地域住民について	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	10	「経済」（1）	アフリカにおける交換とお金の使い方について	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	11	「経済」（2）	アフリカにおける交換とお金の使い方について	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	12	「開発と経済発展」（1）	アフリカの開発と豊かさについて	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	13	「開発と経済発展」（2）	アフリカの開発と豊かさについて	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	14	総合ディスカッション	これまでの講義をふまえて受講者でディスカッションをおこなう。	【事前・事後】授業中に指示する課題に取り組むこと
	15	まとめと学習の到達度を測る試験	これまでの講義のふりかえりとまとめをしたうえで、筆記試験を実施する	

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アフリカ社会を学ぶ人のために	松田素二 編	世界思想社
	2	文化人類学を学ぶ人のために	米山俊直・谷泰編	世界思想社
	3	アフリカで学ぶ文化人類学	石田慎一郎・橋本栄莉ほか編	昭和堂
評価方法 (基準)	①平常点（授業でのディスカッションやグループワークへの積極的な参加、提出物、事前・事後学習の成果など。）・・・50% ②学習の到達度を測る試験（授業最終回に実施）の得点・・・50%			
学生への メッセージ	授業前後に参考文献に目を通し、講義内容の理解を深めるようにしてください			

担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	参考文献は上記のほか、適宜授業中に紹介します。 授業時間外に質問等をする場合は、授業時間の前後に7号館2階（非常勤講師室）に来てください。 提出物（課題など）は返却します。散逸しないように保管してください。 事前事後の総学習時間の目安は60時間。

科目名	エリアスタディーズ（北アメリカ）	科目名（英文）	Area Studies（North America）
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1152a0		

授業概要・目的	アメリカ合衆国とカナダが位置する北アメリカ地域の歴史、政治経済、社会文化について多角的、学際的に学ぶ授業です。外国語学部のディプロマ・ポリシーのうち、主として「国際社会の多様性を理解するとともに、世界と日本の関係について人文・社会学的研究を行うための専門知識を身につけている」の部分の基礎をつくる科目であり、教職課程における「異文化理解」区分の選択科目でもあります。 人種問題、移民問題、銃規制問題、同性婚問題、医療問題など、日本語によるニュース報道も多く比較的身近なアメリカ合衆国の時事問題を取りあげ、
到達目標	（１）アメリカ合衆国とカナダの歴史、政治経済、社会文化の特徴について、具体例を挙げて対比しながら説明することができる。 （２）北アメリカ地域の事例を通じて、多様な文化背景と価値観を持つ人々の共生について批判的に思考し、日本社会における多文化共生についても当事者意識を持ち、事実に基づいた意見を交換できるようにする。
授業方法と留意点	・毎回の授業に出席するにあたって、受講生はあらかじめ教員から指示された記事や図表の読解、動画視聴等を行い、不明の点は自ら適切な情報源を検索して調べておく必要があります。授業時間においては、予習内容についての疑問点や感想を学生によるグループワーク、ペアワークで交換し、積極的に対話することが求められます。教員から受講生への一方向の講義は最小限とし、受講生との質疑応答によって授業を進行します。学期中可能な時には、北米地域の出身者や滞在経験者をゲストスピーカーとして招き、受講生との質疑を行います。適宜、内容確認の
科目学習の効果（資格）	海外での研修や留学に際して、また国内での異文化交流に際して必要となる一般常識、国際感覚。高度な英語力を身につけるための基盤となる英語圏についての基礎知識。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容・方法説明	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
	2	アメリカの歴史 1 建国期	あれほど乱射事件が起きているのにアメリカで銃規制が難しいのはなんで？：植民地時代、独立戦争までさかのぼって考える。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
	3	アメリカの歴史 2 領土拡張と奴隷制	アメリカで銃規制が難しいのはなぜか？その 2：領土拡張、奴隷制、南北戦争	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
	4	アメリカの歴史 3 南北戦争の原因と結果	アメリカの人種問題の原点：民主主義の拡大と領土拡張、奴隷制、南北戦争	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
	5	アメリカの地理 1 北部・南部	「アメリカ南部」とは？アメリカの南のほう？	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
	6	アメリカの地理 2 中西部	ニュースでよく見る「アメリカ中西部のラストベルト」とは？	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
	7	アメリカの歴史 4 第二次世界大戦	今のアメリカ人は「昔、日本に原爆落としたのは悪かった」と思っているのか？：日米における戦争と原爆の記憶	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
	8	アメリカの民族 1 ヨーロッパ系	WASP？ユダヤ系？イタリア系？みんな「白人」じゃないの？	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
	9	アメリカの民族 2 アジア系	日本人も差別される？アジア系はみんな成功している？「モデルマイノリティ」とは？	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（２時間程度）
	10	アメリカの民族 3 ラティノ／ヒスパニック	中南米系、「ラテンクス」といった呼ばれ方もする移民グループ。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
	11	アメリカの宗教	個人の自由を大切にしているはずのアメリカで、妊娠中絶や同性愛がなぜそれほど大きな政治問題なのか	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
	12	アメリカとカナダ	カナダはアメリカと同じような国か？実は、けっこう違います。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（２時間程度）
	13	日米関係	日米安保破棄という可能性を真面目に考えてみましょう。→「日米における原爆投下の歴史記憶」にテーマ変更の可能性あり。	電子配布される資料を入手して目を通し、指定の予習・復習課題を次回授業までに済ませる。（３時間程度）
	14	まとめ 1 アメリカの進歩と分断	「進歩」と「分断」のキーワードでこれまで学んだ内容を整理してみよう。	ここまでの全ての資料やノートにあらためて目を通し、まとめ課題に取り組み始める。（５時間程度）
	15	まとめ 2	まとめ課題についての質疑応答を通じ、全体を振り返ります。	もしも質疑の時間が足りなければアポイントをとって研究室へ

関連科目	日米比較文化、日米文化交流史
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材および参考資料を電子配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	シンプルな英語で話すアメリカ史	ジェームス・バーダマン	ジャパンタイムズ
	2			

	3			
評価方法 (基準)	平常点 70% (平常の小レポートや小テスト、グループワーク成果物等の提出物、質疑への参加による評価の合計) まとめ課題 30% (平常の小レポートや小テスト、グループワーク課題を見直し、ファクトチェックをして整理したものを学期末に提出)			
学生への メッセージ	アメリカ合衆国やカナダは実に面白い国です。外国語学部に来たのにその面白さを知らずに過ごしてしまう学生を一人でも減らしたいと思っています。決して「楽」な授業にはしませんが、アメリカ、北米地域のことを知りたい学生には「楽しい」授業にしたいです。一緒にがんばりましょう。			
担当者の 研究室等	7号館 3階鳥居研究室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。予習、復習、宿題、レポート等に関する質問やフィードバックはスチューデントアワーまたはアポイントにより研究室にて対応する。アポイントは電子メール torii@ilc.setsunan.ac.jp まで。			

科目名	エリアスタディーズ（ラテンアメリカ）	科目名（英文）	Area Studies (Latin America)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1153a0		

授業概要・目的	ラテンアメリカは古来、先住民の文化的伝統を有しながらも、15 世紀末以降ヨーロッパ諸国による征服と植民地支配を 3 世紀間以上にわたって経験した地域です。その間に文化的混淆と都市部では生活の欧化が進行しました。その後 19 世紀初頭にアジアやアフリカ諸国に比べて 150 年ほど早く植民地支配からの独立を遂げますが、欧米による政治経済的介入を受け続けることになりました。この地域がたどった歴史的独自性を知るだけではなく、隣接する北米のアングロアメリカとの歴史的関係と今後の共存のゆくえや日本とのより深い関係構築について展望で
到達目標	ラテンアメリカとは、北米大陸から南米大陸にかけて、カリブ海地域を含めた 33 の独立国と 13 の非独立領土から構成される広大な地域の総称です。この地域を多角的な視野から学際的かつ総合的に学ぶことは、異文化理解を深めるための一助となります。
授業方法と留意点	・7 週目まで Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。8 週目から対面授業とする。 ・授業前に WebFolder 上でレジュメを配布する。 ・履修生は毎週、リアクションペーパーに授業の中で最も興味を持った部分についての理解の概要や疑問点を書いて WebFolder に提出する。教員は次の授業で質問に対する解説を行う。これにより、双方向のフィードバックを可能にする。 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。
科目学習の効果（資格）	日本ではあまり知られていないラテンアメリカという地域の持つ固有の文化に親しむことで、グローバル社会の中で複眼的思考のできる観点を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ラテンアメリカの地理（1）	地域名称の由来 域内諸国の名称と位置の学習	地域を構成する 33 ヶ国・13 非独立領を地図上で確認する
	2	ラテンアメリカの地理（2）	地域の歴史的概要 産業と特産品	基礎統計資料一覧を読み解く ラテンアメリカ原産作物と資源について調べる
	3	ラテンアメリカの地理（3）	世界文化遺産を通して見る多民族・多文化社会	ラテンアメリカの世界遺産について調べる
	4	ラテンアメリカの歴史（1）	先住民古代文明	マヤ、アステカ、インカ文明のいずれかについて調べる
	5	ラテンアメリカの歴史（2）	征服と植民地支配	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	6	ラテンアメリカの歴史（3）	独立とその後の近代化と従属化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	7	ラテンアメリカの歴史（4）	20 世紀の革命と民主化過程	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	8	ラテンアメリカの文化（1）	美術・音楽	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	9	ラテンアメリカの文化（2）	文学・映画	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	10	ラテンアメリカの文化（3）	食文化	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	11	ラテンアメリカの社会	階層社会の構造、民族文化と国民社会	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	12	ラテンアメリカの政治経済	政治体制の変遷 ラテンアメリカ経済の歴史的変容、現状と課題、地域統合	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	13	現代世界の中のラテンアメリカ	国際政治・経済の中のラテンアメリカの位置づけ ラテンアメリカ域内の地域統合と対米関係	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。提示された理解度確認のための課題を指定された期限までに提出する。
	14	ラテンアメリカと日本の関係	移住と日系社会、政治・外交関係におけるラテンアメリカと日本	前回の配布資料を読み直し、講義後は知識を整理し、疑問点を探る。
	15	総括	総括の後、アメリカ合衆国への移民および「ラティノス」がもたらす影響 理解度確認のための課題についてのフィードバック	広く西半球（米州）の相互関係に対して目を向ける。

関連科目	スペイン語圏概論
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ラテンアメリカー地球規模課題の実践	畑恵子・浦部宏之編	新評論
	2	ラテン・アメリカ社会科学ハンドブック	ラテン・アメリカ政経学会編	新評論
	3	ラテンアメリカはどこへ行く	後藤政子・山崎圭一	ミネルヴァ書房

評価方法（基準）	リアクション・ペーパー 70%＋理解度確認の課題 30%
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	日本から遠く離れた地域ですが、不思議な魅力にあふれる混沌とした世界です。そこへと分け入ることで、自分自身のこれまでのものの見方を相対化するきっかけとなるでしょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室
----------	----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。 理解度確認のための課題に関するフィードバックは 15 回目のなかで実施する。
----	--

科目名	エリアスタディーズ（オセアニア）	科目名（英文）	Area Studies (Oceania)
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマナダ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1154a0		

授業概要・目的	オセアニア地域の中でも、特にオーストラリアとニュージーランドについて、その歴史、文化、生活習慣、教育事情、先住民族、多文化主義、移民政策など様々な観点から理解を深めることを目的とする Classes conducted 100% in English. The content covers Oceania and the two largest countries in the area, Australia and New Zealand focusing on the history, cultur
到達目標	・オセアニアという地域の特徴を把握できる ・オーストラリア、ニュージーランドについて幅広い知識を得る
授業方法と留意点	This class is live on Zoom. The format is a mini-lecture on the topic, note-taking during class, quiz on the content, readings from the textbook, and pair discussion. Students need to prepare for a final pair or group powerpoint presentation on various P
科目学習の効果（資格）	A great introduction to many countries in Oceania

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Introduction to the course, Online platforms (Line, Moodle, Zoom), Texts	Self-intro video - About yourself and your experience/ knowledge of Oceania?
	2	Overview of Oceania	HW share with partner, lecture, quiz	Comment, notetaking, textbook reading
	3	History of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	4	Geography of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	5	Lifestyle of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	6	Lifestyle (2) of Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	7	Australia & New Zealand English	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	8	Education in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	9	Education (2) in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	10	Indigenous peoples in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	11	Minority Policies in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	12	Multiculturalism and Immigration in Australia & New Zealand	HW share with partner, lecture, quiz	Comment & notetaking, textbook reading Preparing for your final presentation
	13	Final explanation and practice for your presentation & final report	HW share of comment with partner,	notetaking, sending your powerpoint file, preparing your script in English (in your own words, not a copy paste from the Internet) Practicing for your final presentation
	14	Pair/Group Presentations	Final presentations, evaluations, and questions	Comment & notetaking
	15	Pair/Group Presentations	Final presentations, evaluations, and questions	Comment & notetaking

関連科目	英語圏概論など
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Australia and Oceania	Mel Friedman	Scholastic
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	Weekly note-taking in a notebook (after class comment & in-class note-taking on the content) 30%, Final pair or group powerpoint presentation 30%, Quizzes (Reading & Lecture) 20%, Attitude 20% (100% English, enthusiastic, on time, focused).
学生へのメッセージ	Please try to take this class from home online. If you have to be on campus, find a quiet room. Notebook & textbook required. Please prepare these. Think about the positives this term of once again being online - staying safe, protecting yourselves, fami
担当者の研究室等	Online from home (use LINE to contact me)
備考	講義、学生発表、リーディング、レポートは全部100%英語で行うので一生懸命英語で頑張る学生に大歓迎です。

科目名	音声学	科目名 (英文)	Phonetics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1155a0		

授業概要・目的	言語の音声・音韻体系に基づく調音音声学について、英語を中心に日本語や他の言語とも比較しながら、次のような内容について演習も交えて理解を深めていく。①母音や子音の発音記号とその音声の特徴、②音連続における連結・脱落・同化現象および強勢やイントネーション、③語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性、④音韻の歴史的変遷、⑤言語の変種(方言)などについて具体例とともに学び、それらの知識を得ることができる。
到達目標	言語の音声の特徴について、英語を軸にしながらも、必要に応じて日本語や他の言語とも比較しながら学んでいく。言語の音声の仕組み、文法と音声の関連性、音韻の歴史的変遷、言語の変種(方言)などについて理解できるようになる。
授業方法と留意点	※第2回目以降の授業は、すべてオンライン (Teams, リアルタイム) で行います。 ・授業は講義と演習を織り交ぜて行う。 ・課題レポートを Word 文書で2回作成し提出する。(提出した翌々週の授業でフィードバックを行う予定) ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・授業期間中の事前・事後学習に必要とされる総時間数は60時間である。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等の語学検定試験 (特にリスニング) のスコア向上が期待できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション (調音) 音声学について	(調音) 音声学とは何かについて、英語と日本語の例を比較しながら、その概要を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	2	母音について (1) —英語の単母音を中心に	英語の単母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	3	母音について (2) —英語の二重母音を中心に	英語の二重母音について、日本語やその他の言語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	4	母音からみた英語の変種 (方言) について	母音からみた英国・北米・オセアニア・アジアなどの英語の変種について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	5	子音について (1) —英語の閉鎖音や摩擦音を中心に	英語の閉鎖音や摩擦音などの子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	6	子音について (2) —英語の鼻音や破擦音を中心に	英語の鼻音や破擦音などの子音について、日本語と比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	7	子音と半母音 (接近音) について レポートの提出	子音と半母音 (接近音) について、日英語を比較しながら、その特徴を理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	8	音 (音韻) の単位について—分節音と異音、音節とモーラなど	分節音と異音、音節とモーラなどの概念について、音韻構造の観点から理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	9	音韻論と形態論の接点について レポートのフィードバック	・音韻論と形態論のインターフェイスの観点から、日英語の現象について考察する。 ・レポートの解答 (模範) 例を示しながら、内容や書き方について総評する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	10	音の変化について—連結・脱落・同化など	音連続における連結・脱落・同化などの現象について、具体例とともに理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	11	強勢 (アクセント) について	英語の強勢 (アクセント) の特徴について、体系的に理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	12	文法と音声の関連性について	英語の語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	13	リズムとイントネーションについて レポートの提出	英語のリズムやイントネーションについて、体系的に理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	14	音韻の歴史的変遷について	中英語から現代英語へ至る音韻の歴史的変遷について理解する。	・授業時に示された課題の下調べをしておくこと (2時間)。 ・授業内容の要点を整理し、重要な音声現象や用語についてさらに調べてみる (2時間)。
	15	総括	・これまでの学習内容を総括する。	これまでの授業で学んだ内容の要点を整理し、重要

		レポートのフィードバック	・レポートの解答（模範）例を示しながら、内容や書き方について総評する。	な音声現象や用語についてさらに調べてみること（4時間）。
関連科目	他の語学科目など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材を利用する		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	レポートなどの提出物 100% ※ただし、原則としてオンライン授業への出席率が80%以上であることを条件とします。			
学生への メッセージ	音声学は学問（人文科学）の1つなので（語学の発音練習ではないので）難易度は少し高めになります。よって、知的好奇心を持っている人に向いている科目といえるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・レポートに関するフィードバックは、提出した翌々週の授業内で行う予定である。			

科目名	英語学概論	科目名 (英文)	Introduction to English Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1156a0		

授業概要・目的	母語英語の歴史や諸特徴、世界で使われる様々な英語 (World Englishes)、英語と文化・社会、英語の会話構造、英文法・構文の理論、英語の音声特徴など、英語に係る様々な研究分野について、グループ学習・演習やディスカッションを織り交ぜながら、その考え方や研究の着眼点などについて、基本的な知識と方法を身に付ける。
到達目標	・国際共通語としての英語の多様性について理解を深める ・英語学研究の様々な分野について、基本的な考え方や方法について理解する ・英語の文法、音声を含め、コミュニケーションにおける英語使用の様々な側面について、基本的な知識、考え方が身に付く
授業方法と留意点	授業の中では、グループ学習や演習等も積極的に取り入れていきますので、授業への積極的な参加がとても重要です。 teams を使ったオンライン授業を実施します。
科目学習の効果 (資格)	教職課程 (英語) の必修科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、英語学は何を研究するか?	レクチャー、グループ学習、演習	教科書 pp. 1-13 (復習) 教科書 pp. 15-30 (予習) (2 時間)
	2	世界で使われる英語	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 31-61 (予習) (2 時間)
	3	母語英語の歴史と特徴	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 63-79 (予習) (2 時間)
	4	英語と社会的属性について考える	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 81-97 (予習) (2 時間)
	5	発話行為論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 99-109 (予習) (2 時間)
	6	ボライトネス理論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 107-117 (予習) (2 時間)
	7	中間まとめ	確認小テスト	授業内容の復習 (1 時間 30 分)
	8	英語会話の構造	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 119-134 (予習) (2 時間)
	9	英語文化について考える	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 135-153 (予習) (2 時間)
	10	英語における非言語コミュニケーション	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 155-162 (予習) (2 時間)
	11	生成文法と認知言語学	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 162-165 (予習) (2 時間)
	12	メタファー理論	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 171-182 (予習) (2 時間)
	13	日英語文法比較	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 182-188 (予習) (2 時間)
	14	構文と事態把握	レクチャー、グループ学習、演習	授業内容の復習 教科書 pp. 189-204 (予習) (2 時間)
	15	英語音声学と音韻論	レクチャー、グループ学習、演習	総復習 (3 時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベーシック新しい英語学概論	平賀正子	ひつじ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末テスト: 40% リアクション・ペーパー: 30% 授業への参加: 30%
学生へのメッセージ	英語学は英語という言葉の研究する学問ですが、英語学の中には、実に様々な研究分野や方法論があります。英語学の世界を知ってもらふ機会になれば幸いです。
担当者の研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	リアクション・ペーパー等に関するフィードバックは、その都度授業内で行います。

科目名	言語学	科目名 (英文)	Linguistics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1157a0		

授業概要・目的	この授業の目的は「言語」とは何かを理解し、また「言語」に対する知識を深めることにある。より深く言語を理解し、言語の多様性と共通性を理解することは、外国語学習のためにも必要な知識である。
到達目標	「言語学」という学問分野を理解し、外国語学習に役立てることができる。
授業方法と留意点	受講者数によって授業方式が変わる可能性があります。対面、オンラインのいずれの授業形式にもなりうることを留意しておいてください。また対面式で授業が実施される場合も課題の提示、提出はウェブ経由で行います。
科目学習の効果 (資格)	言語の多様なしくみを深く知ることができる。音声学と合わせて 3・4 年次のゼミや教職関連や大学院進学にも役立つ。また、現在学んでいる主言語、共通言語に対する学習効果の向上も期待できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 子供の文法	本授業の目的、授業の進め方等について説明する。	充分時間をかけ、事前にシラバスを読んでくること。(2時間)
	2	子供の文法	子供がどのように母語を身に着けるのを学習する。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	3	文法規則	文法にみられる共通の規則について学ぶ。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	4	なまりと方言	なぜ言語に方言やなまりが存在するのか、そして自分たちが学んでいる言語はどのような位置づけにあるのかを理解する。	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語について系統を確認しておくこと。(2時間)
	5	バイリンガリズム	バイリンガルについて学ぶ。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	6	世界の言語	世界にどういった言語があるのかを学ぶ。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	7	サイン言語	手話について学ぶ。	授業内容について充分復習すること。次週までに各自が学んでいる言語の発音について確認しておくこと。(2時間)
	8	中間まとめ	第 2 回から第 7 回の内容について復習する。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	9	危機言語	絶滅が危惧される言語の状況について学ぶ。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	10	言語変化	時代とともに言語がどう変化したのかを学ぶ。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	11	言語変異	第 4 回で学んだ内容についてより深く学ぶ。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	12	感情を映す鏡としての言語	感情が言葉にどう反映されるのかを学ぶ。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。次週までに各自が学んでいる言語の語形変化について確認しておくこと。(2時間)
	13	政治的に正しい言葉	政治的に正しい、所謂 PC について学ぶ。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	14	応用言語学	応用言語学について学ぶ。	授業内容について充分復習すること。次週の内容について予習をすること。(2時間)
	15	総復習	総復習を行う。	これまでに学んだことの総復習をしておくこと。(2時間)

関連科目	音声学・各言語科目等。
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	クリスタルのことばの世界 The Wonderful World of Language	David Crystal	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各授業の成果物で評価する。(100%)
-----------	---------------------

学生へのメッセージ	この授業は、外国語学部で外国語を学ぶための基礎知識を身につけるための授業です。そして、「言語学」という学問分野についての入門もできます。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室
----------	----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。成果物については授業内でフィードバックする。
----	--

科目名	日本語史概説	科目名 (英文)	History of Japanese Language
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL1158a0		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語史概説」では日本語の諸問題について歴史的に学ぶ。 日本語の歴史を知ることが、現在の日本語を考察することにつながる。日本語は、文献が残されている時代からでも、発音も文字も文法も、ずいぶんと変化している。どう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察する。																																																																		
到達目標	日本語の文字、読み、言葉遣い、発音の特徴について、歴史的背景をもとに正確に説明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	板書および配布するプリントに沿って講義する。授業終了時に、ペーパー（コメントや課題）を提出する。 ペーパーについては次回にフィードバックする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	日本語の歴史の理解を通して、言葉に対する関心、理解が深まる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>はじめに</td><td>授業の進め方、概説 日本の時代区分</td><td>日本史の流れを復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>3つの文字体系の背景1</td><td>漢字の受容について学ぶ</td><td>万葉仮名について調べる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>3つの文字体系の背景2</td><td>ひらがなの成立について学ぶ</td><td>ひらがなの用法について整理する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>3つの文字体系の背景3</td><td>カタカナの成立について学ぶ</td><td>カタカナの用法について整理する</td></tr> <tr> <td>5</td><td>3つの文字体系の背景4 縦書きと横書き</td><td>様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景</td><td>3つの文字体系の用法についてまとめる</td></tr> <tr> <td>6</td><td>《確認小テスト》 読みの背景1</td><td>様々な音読みについて学ぶ</td><td>音読みについて整理する</td></tr> <tr> <td>7</td><td>読みの背景2</td><td>様々な訓読みについて学ぶ</td><td>訓読みについて整理する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>方言の背景1</td><td>標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立</td><td>標準語という概念について調べる</td></tr> <tr> <td>9</td><td>方言の背景2</td><td>方言の分布・文法について学ぶ</td><td>様々な方言の分布について調べる</td></tr> <tr> <td>10</td><td>方言の背景3</td><td>方言の拡大と現代語について学ぶ</td><td>様々な方言や流行語の広がりについて調べる</td></tr> <tr> <td>11</td><td>方言の背景4</td><td>様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ</td><td>様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>《確認小テスト》 発音の変化の背景1</td><td>古代の発音について学ぶ</td><td>古代の発音を整理する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発音の変化の背景2</td><td>発音と表記の乖離について学ぶ</td><td>発音と表記について調べる</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発音の変化の背景3</td><td>外来語の日本語化について学ぶ</td><td>日本語の発音について復習する</td></tr> <tr> <td>15</td><td>《最終確認テスト》 まとめ</td><td>これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う</td><td>事前：これまでの復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	日本史の流れを復習する	2	3つの文字体系の背景1	漢字の受容について学ぶ	万葉仮名について調べる	3	3つの文字体系の背景2	ひらがなの成立について学ぶ	ひらがなの用法について整理する	4	3つの文字体系の背景3	カタカナの成立について学ぶ	カタカナの用法について整理する	5	3つの文字体系の背景4 縦書きと横書き	様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景	3つの文字体系の用法についてまとめる	6	《確認小テスト》 読みの背景1	様々な音読みについて学ぶ	音読みについて整理する	7	読みの背景2	様々な訓読みについて学ぶ	訓読みについて整理する	8	方言の背景1	標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立	標準語という概念について調べる	9	方言の背景2	方言の分布・文法について学ぶ	様々な方言の分布について調べる	10	方言の背景3	方言の拡大と現代語について学ぶ	様々な方言や流行語の広がりについて調べる	11	方言の背景4	様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ	様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する	12	《確認小テスト》 発音の変化の背景1	古代の発音について学ぶ	古代の発音を整理する	13	発音の変化の背景2	発音と表記の乖離について学ぶ	発音と表記について調べる	14	発音の変化の背景3	外来語の日本語化について学ぶ	日本語の発音について復習する	15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	事前：これまでの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	授業の進め方、概説 日本の時代区分	日本史の流れを復習する																																																																
2	3つの文字体系の背景1	漢字の受容について学ぶ	万葉仮名について調べる																																																																
3	3つの文字体系の背景2	ひらがなの成立について学ぶ	ひらがなの用法について整理する																																																																
4	3つの文字体系の背景3	カタカナの成立について学ぶ	カタカナの用法について整理する																																																																
5	3つの文字体系の背景4 縦書きと横書き	様々な文体について学ぶ 縦書き横書き混用の背景	3つの文字体系の用法についてまとめる																																																																
6	《確認小テスト》 読みの背景1	様々な音読みについて学ぶ	音読みについて整理する																																																																
7	読みの背景2	様々な訓読みについて学ぶ	訓読みについて整理する																																																																
8	方言の背景1	標準語と方言の関係について学ぶ 標準語の成立	標準語という概念について調べる																																																																
9	方言の背景2	方言の分布・文法について学ぶ	様々な方言の分布について調べる																																																																
10	方言の背景3	方言の拡大と現代語について学ぶ	様々な方言や流行語の広がりについて調べる																																																																
11	方言の背景4	様々な言葉遣いと方言の関係について学ぶ	様々な言葉遣いの特徴と背景について考察する																																																																
12	《確認小テスト》 発音の変化の背景1	古代の発音について学ぶ	古代の発音を整理する																																																																
13	発音の変化の背景2	発音と表記の乖離について学ぶ	発音と表記について調べる																																																																
14	発音の変化の背景3	外来語の日本語化について学ぶ	日本語の発音について復習する																																																																
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの復習の解説と「最終確認テスト」を行う	事前：これまでの復習																																																																
関連科目	日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論、ことばに関する授業すべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	最終確認テスト（60％）、確認小テスト（10％）、毎回のペーパー（30％）。 最終週の《最終確認テスト》の受験を必須とする。 ※オンライン授業の場合 最終確認テスト（50％）、確認小テスト（10％）、毎回のペーパー（40％）。																																																																		
学生へのメッセージ	日本語の歴史を知ること、現代の日本語の新たな一面が見えてくるはずです。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階（橋本研究室）																																																																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は、約60時間。 コメントペーパー、小テストについては次の回にフィードバックします。																																																																		

科目名	英語意味論・語用論	科目名 (英文)	English Semantics and Pragmatics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年度	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2159a0		

授業概要・目的	「文法構造」「形式 (音声・文字)」「意味」という言語がもつ3つの側面のうち、「意味」は頭ではわかっているつもりでもそれを記述するとなるとなかなか難しい領域である。しかし、意味が変化したり他の言語表現と関連しあったりする現象にはいくつかの規則性がある。また、具体的な場面でなされる発話が伝達する意味まで観察すると、「意味」に関する理解を深めるためのアプローチがいくつかあることがわかる。言語使用によるコミュニケーションが成立するためには、その基礎となっている語彙や表現がどのような意味を持ち、それが実際の場面での
到達目標	1. 同意語、上位語・下位語といった語彙どうしの意味的関係を理解できるようになる。 2. 意味とコンテキストの関係を理解できるようになる。 3. 意味変化のメカニズムを理解できるようになる。 4. 場面に応じた言葉の使われ方や会話の成立について理解できるようになる。
授業方法と留意点	この講義では、英語に焦点を当てながら、ことばの意味、場面との関係、意味の変化などについて学ぶ。英語が表す「意味」の側面を扱う意味論と、言語が実際の場面でのように使われ、どのような意味を伝えるのかといった「言語使用」を扱う語用論について見ていく。主に講義形式となるが、授業時に課題やアンケート等により理解度を測ったり、興味のある点について簡単な論述を課したりする。
科目学習の効果 (資格)	教員の免許状取得のための選択科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の内容・進め方に関する説明。英語学のいくつかの分野を振り返りながら、日常に見られるさまざまな意味にかかわる現象を紹介し、意味への興味を喚起する。	英語学の諸分野について復習をしておく。(2時間)
	2	英語の意味論と語用論	英語学における意味の扱いと位置づけを明らかにする。意味論と語用論がそれぞれ何を問題としているか、さらに両者が互いにどう関連しあうかを考え、本科目で扱う内容の全体像をつかむ。	「意味」の意味について調べておく。(2時間)
	3	意味と指示物	意味と指示物の関係を考えながら、誤用、比喩、うそ、皮肉といった言葉の違いにかかわるメカニズムを考える。	うそと誤用はどのように違うのか、考えておく。(2時間)
	4	意味と辞書	辞書に意味がどのように掲載されるかを考えながら、意味記述の難しさを考えていく。	多義語の get の意味分類がどのようになっているのか、辞書で調べておく。(2時間)
	5	語の意味的関係①	多義性、類義性、同音性、反義性などの意味に関わる性質について学ぶ。	英語の多義語、反意語の例を調べておく。(2時間)
	6	語の意味的関係②	語彙の持つ関係性を考察しながら、意味の構成性や語彙の意味関係の多様性を考えていく。その過程で、意味をどのように形式化できるのか、またはできないのかについても考える。	「ゲシュタルト理論」について調べておく。(2時間)
	7	文法と意味	文法は意味と構造を結びつける記号体系の根幹をなす領域であるが、なかでも「構文」と呼ばれる現象から文法と意味の関係を具体的事例をもとに考える	文法と意味の「レベル」とはどういう概念であるか調べておく。(2時間)
	8	意味の変化①	意味の向上、意味の下落といった意味変化の規則性を考え、その要因を社会的、言語的に探っていく。	意味の向上の例が日本語にないか調査しておく。(2時間)
	9	意味の変化②	英語の多義性にかかわるメカニズムを考察する。	意味変化にはどのような規則性があるか調べておく。(2時間)
	10	意味の習得	ことばの習得、主に意味にかかわる習得について考え、カテゴリー化、プロトタイプについて学ぶ。	幼児の言語習得がどのように進んでいくのかを調べておく。(2時間)
	11	意味の普遍性と相対性	色名や親族関係の用語などの例を見ながら、多言語間の単語の指示物の相違を考えて、意味が相対的であることを考える。	色名が他言語ではどのようにあらわされるのかを調べておく。(2時間)
	12	意味とコンテキスト	意味の成立が文脈や使用場面に依存していることを考える。また話の情報構造について考察し、旧情報、新情報といった談話を成立させる情報の価値について考察する。	話といった具体的なテキストを使って、新情報、旧情報がどのようにあらわされているのか、考えてみる。(2時間)
	13	会話の成立	P.H. グライスの「強調の原理」という考え方を学び、「会話の格率」(量 (Quantity)、質 (Quality)、関係 (Relation)、様態 (Manner)) という点から会話の成立要件となる理論を学ぶ。	意味のある会話を成り立たせるにはどのようなことが必要かを考える。(2時間)
	14	発話行為	具体的な事例を使用して、発話が状況や対人関係に及ぼす影響を語用論的に分析していく。	語や表現がコンテキストの中で具体的に使用されるとまったく別の意味を表す事例を考えておく。(2時間)
	15	まとめテスト	授業時間内に実施する。	この授業をとおして学んだ内容に関するテスト。
関連科目	スピーキング・リスニング・オーラルコミュニケーション・イングリッシュ・プレゼンテーション			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英語の意味	池上嘉彦(編)	大修館書店

	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各回の課題等への取り組み (40%) まとめテスト (60%)			
学生への メッセージ	普段から使っている言葉の意味がどうやって生まれてくるのかを考えてみましょう。			
担当者の 研究室等	船本研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	配布資料の読み込みなど、事前・事後学習にかける総時間数を 60 時間程度とします。 授業時に行う課題等に関するフィードバックは、その都度授業内で行います。			

科目名	日本語音韻論	科目名 (英文)	Japanese Phonology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2160a0		

授業概要・目的	全部で四科目開設している日本語学関係の授業では日本語の体系を考える。 「日本語音韻論」では日本語の音韻について学ぶ。 音韻というのは、日本語の「音」に関すること。発音やアクセントなどについて、具体的に考える。 外国語を学ぶ上でも重要な、日本語の音について正しく理解する。																																																																		
到達目標	日本語の発音やアクセントの特徴について、正確な知識をもとに説明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	板書と配布するプリントに基づいて講義する。講義後、ペーパー（コメントや課題）を提出する。 ペーパーについては次回にフィードバックする。 授業中には、はっきりと声に出して発音をすること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	日本語に対する理解を深める。日本語を相対的に観察し、外国語と比較する視点が身につく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる</td><td>外国語の音と日本語の音の違いを考える</td></tr> <tr> <td>2</td><td>言語体系の諸単位 調音器官</td><td>言語の要素について 調音器官について知る</td><td>調音器官について調べる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>母音</td><td>母音をどのように発音しているか考える</td><td>日本語、外国語の母音について調べる</td></tr> <tr> <td>4</td><td>子音 1</td><td>子音をどのように発音しているか考える</td><td>授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する</td></tr> <tr> <td>5</td><td>子音 2</td><td>子音をどのように発音しているか考える</td><td>授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>清音・濁音</td><td>清音・濁音をどのように発音しているか考える</td><td>濁音の調音について、徹底的に復習する</td></tr> <tr> <td>7</td><td>前半のまとめ 《確認小テスト》</td><td>ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題</td><td>ここまでの学習を振り返る</td></tr> <tr> <td>8</td><td>撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題</td><td>撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる</td><td>撥音・促音・調音について調べる</td></tr> <tr> <td>9</td><td>拍、音節 五十音図</td><td>日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する</td><td>拍の一覧表をまとめる</td></tr> <tr> <td>10</td><td>日本語のリズム</td><td>日本語が持つリズムの特徴について考える</td><td>日本語と外国語のリズムの違いを考える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>アクセント 1</td><td>高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較</td><td>アクセントの東西の違いをまとめる</td></tr> <tr> <td>12</td><td>アクセント 2</td><td>アクセントの高低配分</td><td>アクセントの法則を整理し、調べる</td></tr> <tr> <td>13</td><td>アクセント 3</td><td>活用語のアクセント イントネーションとアクセント</td><td>アクセント以外の発音方法について調べる</td></tr> <tr> <td>14</td><td>音の交替</td><td>母音交替・連濁</td><td>母音交替、連濁の例を調べる</td></tr> <tr> <td>15</td><td>《最終確認テスト》 まとめ</td><td>これまでの総括をし、復習テストを行う</td><td>これまでの復習をする</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	外国語の音と日本語の音の違いを考える	2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	調音器官について調べる	3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語、外国語の母音について調べる	4	子音 1	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する	5	子音 2	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する	6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	濁音の調音について、徹底的に復習する	7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	ここまでの学習を振り返る	8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	撥音・促音・調音について調べる	9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	拍の一覧表をまとめる	10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	日本語と外国語のリズムの違いを考える	11	アクセント 1	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	アクセントの東西の違いをまとめる	12	アクセント 2	アクセントの高低配分	アクセントの法則を整理し、調べる	13	アクセント 3	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセント以外の発音方法について調べる	14	音の交替	母音交替・連濁	母音交替、連濁の例を調べる	15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの総括をし、復習テストを行う	これまでの復習をする
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方 日本語の「音」について、考えてみる	外国語の音と日本語の音の違いを考える																																																																
2	言語体系の諸単位 調音器官	言語の要素について 調音器官について知る	調音器官について調べる																																																																
3	母音	母音をどのように発音しているか考える	日本語、外国語の母音について調べる																																																																
4	子音 1	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する																																																																
5	子音 2	子音をどのように発音しているか考える	授業で取り上げた子音について、徹底的に復習する																																																																
6	清音・濁音	清音・濁音をどのように発音しているか考える	濁音の調音について、徹底的に復習する																																																																
7	前半のまとめ 《確認小テスト》	ここまでのまとめ 子音の発音の復習問題	ここまでの学習を振り返る																																																																
8	撥音・促音・長音 日本語の発音の諸問題	撥音・促音・長音について 日本語の発音の諸問題を取り上げる	撥音・促音・調音について調べる																																																																
9	拍、音節 五十音図	日本語の拍と音節について考える 日本語の拍の一覧表を作成する	拍の一覧表をまとめる																																																																
10	日本語のリズム	日本語が持つリズムの特徴について考える	日本語と外国語のリズムの違いを考える																																																																
11	アクセント 1	高低アクセントと強弱アクセント アクセントの東西比較	アクセントの東西の違いをまとめる																																																																
12	アクセント 2	アクセントの高低配分	アクセントの法則を整理し、調べる																																																																
13	アクセント 3	活用語のアクセント イントネーションとアクセント	アクセント以外の発音方法について調べる																																																																
14	音の交替	母音交替・連濁	母音交替、連濁の例を調べる																																																																
15	《最終確認テスト》 まとめ	これまでの総括をし、復習テストを行う	これまでの復習をする																																																																
関連科目	音声学 日本語史概論、日本語語彙論、日本語文法論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	最終確認テスト（60%）、確認小テスト（10%）、講義時のペーパー（30%）。 単位認定には最終確認テストの受験を必須とする。 （遠隔授業となった場合は、最終確認課題（50%）、確認小課題（10%）、講義時のペーパー（40%）とします。）																																																																		
学生へのメッセージ	日頃何気なく発している日本語は、どのようにして発音されているのか。実際に発音しながら、発音やアクセントについて考えてみましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階（橋本研究室） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	毎回のコメント・課題については次回にフィードバックする 事前・事後学習に要する総時間数は、約 60 時間。																																																																		

科目名	英語構造論	科目名 (英文)	English Syntax
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2161a0		

授業概要・目的	なぜこの表現を使うのか、他の表現ではいけないのか、他にどんな表現が使えるのか (どのような違いがあるのか) 等、英語 (の構造) についての素朴な疑問を大事にしながら、英語の構造を主にコミュニケーション (情報や伝達機能) の視点から考察する。
到達目標	英語の基礎知識や教養に加え、英語 (構造) に関わる諸問題について理解を深めたい。特に、コミュニケーションとの関わりの中で英語の構造を理解できるようになる。同時に日本語との比較を行うことで、英語の構造について深い考察ができるようになる。
授業方法と留意点	・基本的にはプリントを配布し、講義形式で進めるが、ペアワークやグループでの討議の時間も設ける。 ・本講義は受講生として言語 (とりわけ構造や意味) に興味がある学生を想定している。「英語学概論 (英語学Ⅰ)」や「英語意味論・語用論 (英語学Ⅱ)」を履修済みであることが望ましい。
科目学習の効果 (資格)	・言語の構造・意味の理解 ・3 年次以降のゼミや大学院進学 ・教員の免許状取得のための選択科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明	授業の計画・内容の確認と、機能 (言語学) 的アプローチの予習 (2 時間)
	2	機能 (言語学) 的アプローチ	機能 (言語学) 的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。	機能 (言語学) 的アプローチの復習と、言い換え表現の予習 (2 時間)
	3	言い換え表現 (本当に言い換え可能か?)	言い換え表現について理解を深め、グループで議論を行う。	言い換え表現の復習と、トピック (とコメント)・主題 (と題述) の予習 (2 時間)
	4	トピック (とコメント)・主題 (と題述)	トピック (とコメント)・主題 (と題述) について理解を深め、グループで議論を行う。	トピック (とコメント)・主題 (と題述) の復習と、旧情報と新情報 (there 構文など) の予習 (2 時間)
	5	旧情報と新情報 (there 構文など)	旧情報と新情報 (there 構文など) について理解を深め、グループで議論を行う。	旧情報と新情報 (there 構文など) の復習と、焦点と強調 (倒置表現など) の予習 (2 時間)
	6	焦点と強調 (倒置表現など)	焦点と強調 (倒置表現など) について理解を深め、グループで議論を行う。	焦点と強調 (倒置表現など) の復習と、照応と代用 (代名詞など) の予習 (2 時間)
	7	照応と代用 (代名詞など)	照応と代用 (代名詞など) について理解を深め、グループで議論を行う。	照応と代用 (代名詞など) の復習と、中間のまとめ (テスト) の準備 (2 時間)
	8	中間のまとめ (テストなど)	これまでの授業内容の総括を行い、理解をより一層深める。	これまでの授業内容の復習と、認知 (言語学) 的アプローチの予習 (2 時間)
	9	認知 (言語学) 的アプローチ	認知 (言語学) 的アプローチについて理解を深め、グループで議論を行う。	認知 (言語学) 的アプローチの復習と、類像性 (恣意性の有無) の予習 (2 時間)
	10	類像性 (恣意性の有無)	類像性 (恣意性の有無) について理解を深め、グループで議論を行う。	類像性 (恣意性の有無) の復習と、類義語 (英語) の予習 (2 時間)
	11	類義語① (英語)	類義語 (英語) について理解を深め、グループで議論を行う。	類義語 (英語) の復習と、類義語 (日本語との比較) の予習 (2 時間)
	12	類義語② (日本語との比較)	類義語 (日本語との比較) について理解を深め、グループで議論を行う。	類義語 (日本語との比較) の復習と、文法化と意味変化 (英語) の予習 (2 時間)
	13	文法化と意味変化① (英語)	文法化と意味変化 (英語) について理解を深め、グループで議論を行う。	文法化と意味変化 (英語) の復習と、文法化と意味変化 (日本語との比較) の予習 (2 時間)
	14	文法化と意味変化② (日本語との比較)	文法化と意味変化 (日本語との比較) について理解を深め、グループで議論を行う。	文法化と意味変化 (日本語との比較) の復習と、総まとめ (確認テスト) の準備 (2 時間)
	15	まとめ (確認テスト)	これまでの授業で扱ったトピックについて総括し、まとめの確認テストにて、理解度を測る。	総まとめ (確認テスト) の準備と、授業後の振り返り (2 時間)

関連科目	英語学概論 (英語学Ⅰ)、英語意味論・語用論 (英語学Ⅱ)
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(プリントを配布する)		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ディスコース—談話の織りなす世界	橋内 武	くろしお出版
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中の討論や課題、提出物、確認テスト (100%)
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	講義テーマの性質上、難解に思えるものを扱いますが、言語の構造について深く考えていきましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、議論や小テストの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	日本語語彙論	科目名 (英文)	Japanese Lexicology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3162a0		

授業概要・目的	日本語教育者を志す人から、日本語に関心がある人まで、幅広い履修者を対象に「日本語の語彙」に関する学修を進める。中間・期末テストを通じて語彙を意識した文章を書くトレーニングを行い、日本語文章表現についての知識や技術を養う。 単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、「語彙」を学ぶことの意義や歴史について考察する授業を心がける。ことばを無自覚に使うのではなく、ことばとは（そもそも）どういうものかを問いかける意識を大事にしたい。																																																																		
到達目標	①日本語の語彙に関する知識を身につける ②日本語の語彙を意識した文章を書くことができる ③就職活動や検定試験に臨むための基礎を身につける																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に進める。授業の性質上、練習問題とその解説を毎回実施する。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進めたい。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>2</td><td>新語・流行語・死語</td><td>新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>集団語</td><td>集団語（職業語、専門用語など）の問題から「語彙」を考える</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>性差</td><td>ジェンダー（男のことばと女のことば）の問題から「語彙」を考える</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>方言（地域語）</td><td>地域による語彙の違いについて学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>標準語</td><td>標準語の内実や歴史について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>差別語</td><td>差別につながる語彙について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>語種の変遷</td><td>語種とその変遷について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>語種の使われ方</td><td>語種とその使われ方について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>語彙体系</td><td>語彙の体系について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>意味関係</td><td>語彙の意味関係について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>語構成</td><td>語構成について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>辞書・語彙調査</td><td>辞書・語彙調査について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>課題（レポート）</td><td>教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括・レポート提出</td><td>授業内容全体を総括し、レポートを提出する</td><td>レポートの印刷・提出</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認	2	新語・流行語・死語	新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認	3	集団語	集団語（職業語、専門用語など）の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認	4	性差	ジェンダー（男のことばと女のことば）の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認	5	方言（地域語）	地域による語彙の違いについて学修する	配布プリントの確認	6	標準語	標準語の内実や歴史について学修する	配布プリントの確認	7	差別語	差別につながる語彙について学修する	配布プリントの確認	8	語種の変遷	語種とその変遷について学修する	配布プリントの確認	9	語種の使われ方	語種とその使われ方について学修する	配布プリントの確認	10	語彙体系	語彙の体系について学修する	配布プリントの確認	11	意味関係	語彙の意味関係について学修する	配布プリントの確認	12	語構成	語構成について学修する	配布プリントの確認	13	辞書・語彙調査	辞書・語彙調査について学修する	配布プリントの確認	14	課題（レポート）	教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する	配布プリントの確認	15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認																																																																
2	新語・流行語・死語	新語・流行語・死語など、身近な「ことば」の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認																																																																
3	集団語	集団語（職業語、専門用語など）の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認																																																																
4	性差	ジェンダー（男のことばと女のことば）の問題から「語彙」を考える	配布プリントの確認																																																																
5	方言（地域語）	地域による語彙の違いについて学修する	配布プリントの確認																																																																
6	標準語	標準語の内実や歴史について学修する	配布プリントの確認																																																																
7	差別語	差別につながる語彙について学修する	配布プリントの確認																																																																
8	語種の変遷	語種とその変遷について学修する	配布プリントの確認																																																																
9	語種の使われ方	語種とその使われ方について学修する	配布プリントの確認																																																																
10	語彙体系	語彙の体系について学修する	配布プリントの確認																																																																
11	意味関係	語彙の意味関係について学修する	配布プリントの確認																																																																
12	語構成	語構成について学修する	配布プリントの確認																																																																
13	辞書・語彙調査	辞書・語彙調査について学修する	配布プリントの確認																																																																
14	課題（レポート）	教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する	配布プリントの確認																																																																
15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出																																																																
関連科目	日本語学および日本語教育に関連する科目（「日本語文法論」など）																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点（コメントシートの内容、積極性） 60% レポート 40%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館4階（古矢研究室） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は60時間。 課題等については授業内でフィードバックを行う。																																																																		

科目名	中国語文字論	科目名 (英文)	Chinese Writing System
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3163a0		

授業概要・目的	中国語は地域的な広がり、及び歴史的な広がりにおいてきわめて多様な言語である。その多様性をつなぐのが漢字であるが、漢字は基本的には表意文字であるため、文字に含まれるそれぞれの部品の意味を知ること、文字全体の意味を解釈できる。本講義では『常用漢字コアイメージ辞典』に述べられている意味のイメージに関する記述を参考にしながら、上古（周代）漢語の音韻体系と甲骨文字や金文を手がかりに、形と意味の関係を探り、古代人のものの見方や発想法について考える。
到達目標	日常使用する漢字について、それを構成する部品が何の象形なのか、どのような意味を担っているのか、それらを組み合わせることでは何を表現しているのかを説明できるようになる。また、未知の漢字に接した時もその意味や読みを推測できるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を行う。一回の授業で4～5の漢字家族をとりあげ、その本来の意味や漢字の構成を考えていく。CALL 教室の機能を利用することで、各学生の手の作業状況を全員で共有しながら演習の要素も取り入れて授業を進める。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験 4 級。漢字能力検定 2 級。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス。 人体・姿勢	この授業の目的及び目標を概説する。 人・女・子・鬼・兄...	この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	2	身体部位 1	頭・毛・目・耳・口...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	3	身体部位 2	手・足...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	4	動物 1	牛・馬・羊...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	5	動物 2	犬・鹿・豚...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	6	単元テスト 1 動物 3	第 1 回～第 5 回の理解度を確認する。 鳥・虫・蛇...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	7	天体・気象	日・月・水...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	8	鉱物	土・火・金...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	9	人工物	高・示...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	10	単元テスト 2 器具 1	第 6 回～第 10 回の理解度を確認する。 方・網・工...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	11	器具 2	玉・父・車...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	12	器具 3	刀・辛・戈...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	13	動作	又・口・之...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	14	状態	束・阜・変...	教材フォルダの講義資料のうち該当部分を印刷し、事前に 1 時間をかけて予習する。この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。
	15	単元テスト 3 形状	第 10 回～第 14 回の理解度を確認する。 字・王・弗...	この授業で学習した内容は 1 時間をかけて復習する。

関連科目	中国語の科目（専門科目または基礎科目）を履修しておくことが望ましい。
------	------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	常用漢字コアイメージ辞典	加納喜光	中央公論社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	小テスト及び単元テスト 80% 授業参加度や提出物 20%
学生への	講義の内容をノートする必要は言うまでもないが、試験では複数の語から 1 つの共通性を帰納する能力を評価する。語の音と意味がいかに密接に

メッセージ	結びついているかを授業を通して理解してほしい。
担当者の 研究室等	7号館3階(中西研究室) 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	教材として、プリントを授業中に配布する。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	日本語文法論	科目名 (英文)	Japanese Grammar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3164a0		

授業概要・目的	日本語教育者を志す人から、日本語に関心がある人まで、幅広い履修者を対象に「日本語の文法」に関する学修を進める。 単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、「文法」を学ぶことの意義や歴史について考察しながら、日本語を「楽しむ」ような授業を心がけたい。																																																																		
到達目標	①日本語の文法に関する知識を身につける ②日本語の文法を意識した文章を書く ③就職活動や検定試験に臨むための基礎を身につける																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に進める。授業の性質上、練習問題とその解説を毎回実施する。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進めたい。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>2</td><td>文の成分</td><td>文の成分について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>3</td><td>形態論</td><td>形態論・統語論について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>品詞 (動詞・形容詞)</td><td>品詞、とくに動詞・形容詞について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>5</td><td>品詞 (名詞・助詞)</td><td>品詞、とくに名詞・助詞について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>語形成</td><td>語形成について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>7</td><td>格・文型</td><td>格と文型について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ヴォイス</td><td>態を表す文法について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>9</td><td>アスペクト・テンス</td><td>時間を表す文法について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>モダリティ (ムード)</td><td>態度・認識を表す文法について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>肯定</td><td>肯定文・否定文について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>とりたて</td><td>とりたてについて学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>複文</td><td>複文について学修する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>課題 (レポート)</td><td>教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する</td><td>配布プリントの確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括・レポート提出</td><td>授業内容全体を総括し、レポートを提出する</td><td>レポートの印刷・提出</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認	2	文の成分	文の成分について学修する	配布プリントの確認	3	形態論	形態論・統語論について学修する	配布プリントの確認	4	品詞 (動詞・形容詞)	品詞、とくに動詞・形容詞について学修する	配布プリントの確認	5	品詞 (名詞・助詞)	品詞、とくに名詞・助詞について学修する	配布プリントの確認	6	語形成	語形成について学修する	配布プリントの確認	7	格・文型	格と文型について学修する	配布プリントの確認	8	ヴォイス	態を表す文法について学修する	配布プリントの確認	9	アスペクト・テンス	時間を表す文法について学修する	配布プリントの確認	10	モダリティ (ムード)	態度・認識を表す文法について学修する	配布プリントの確認	11	肯定	肯定文・否定文について学修する	配布プリントの確認	12	とりたて	とりたてについて学修する	配布プリントの確認	13	複文	複文について学修する	配布プリントの確認	14	課題 (レポート)	教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する	配布プリントの確認	15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認																																																																
2	文の成分	文の成分について学修する	配布プリントの確認																																																																
3	形態論	形態論・統語論について学修する	配布プリントの確認																																																																
4	品詞 (動詞・形容詞)	品詞、とくに動詞・形容詞について学修する	配布プリントの確認																																																																
5	品詞 (名詞・助詞)	品詞、とくに名詞・助詞について学修する	配布プリントの確認																																																																
6	語形成	語形成について学修する	配布プリントの確認																																																																
7	格・文型	格と文型について学修する	配布プリントの確認																																																																
8	ヴォイス	態を表す文法について学修する	配布プリントの確認																																																																
9	アスペクト・テンス	時間を表す文法について学修する	配布プリントの確認																																																																
10	モダリティ (ムード)	態度・認識を表す文法について学修する	配布プリントの確認																																																																
11	肯定	肯定文・否定文について学修する	配布プリントの確認																																																																
12	とりたて	とりたてについて学修する	配布プリントの確認																																																																
13	複文	複文について学修する	配布プリントの確認																																																																
14	課題 (レポート)	教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する	配布プリントの確認																																																																
15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出																																																																
関連科目	日本語学および日本語教育に関連する科目 (「日本語彙論」など)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	平常点 (コメントシートの内容、積極性) 60% レポート 40%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (古矢研究室)																																																																		
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 60 時間。 コメントシートのフィードバックは授業内に行う。																																																																		

科目名	中国語語彙論	科目名 (英文)	Chinese Lexicology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3165a0		

授業概要・目的	中国語学習において、混同しやすい日中同形語を使い分けることが非常に大切なことである。本講義は、日中常用同形語、つまり中級レベルでよく使われ、誤用が生じやすく、質問が多いものを取り上げて、中国語の語彙力（分析力、理解力、運用力）を高める。
到達目標	日中常用同形語の相違をはっきりさせ、日中混同と誤用を避けられるようになる。そして中国語検定試験 2 級合格を目指すレベルに到達する。
授業方法と留意点	授業は、日中同形語について 3 つずつ口述解説とドリルを中心に演習形式で行う。 中国語専攻以外の学生が、中国語検定試験 3 級の資格を持っている者なら、支障なく受講できる。 事前・事後に各 60 分の学習を要する。
科目学習の効果 (資格)	中国語の能力の向上、中国語検定試験の合格などに役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「安定、安心、一定」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 4-11。
	2	「意思、援助、円満」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 22-37
	3	「温和、顔色、活動」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 44-63
	4	「感覚、確実、議論」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 67-79
	5	「気味、工夫、結束」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 82-103
	6	「検討、経験、結構」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 106-117 与えられた課題でレポート 1 を作成すること。
	7	「告訴、構造、差別」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 126-157 レポート 1 を提出すること。
	8	「事情、柔軟、趣味」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 158-175
	9	「新鮮、損害、単純」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 180-209
	10	「情緒、注目、注意」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 230-247
	11	「通過、適当、到底」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 256-281
	12	「得意、把握、表現」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 284-341
	13	「評判、批評、披露」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 342-249
	14	「貧乏、不平、勉強」	混同しやすい日中の使い方の違い及びそれに関係する一部の類義語を解説。ドリルで攻略。	テキスト p. 352-367 与えられた課題でレポート 2 を作成すること。
	15	学期学習のまとめ	総合練習問題で復習をする。	レポート 2 を提出すること。

関連科目	3 年次の専門科目の中の各中国語科目（必修と選択）
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中常用同形語用法作文辞典	曹 櫻	日本僑報社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中同形異義語辞典	王永全・小玉新次郎・許晶福	東方書店
	2			
	3			

評価方法 (基準)	宿題提出 50%、レポート提出 50%。
学生へのメッセージ	授業中は集中して授業内容の理解に努めましょう。
担当者の	7 号館 3 階(兪研究室)

研究室等	
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日の休み時間などに研究室を訪ねること。 試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	日本史学	科目名 (英文)	Japanese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2166a0		

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	講義のレジュメと解説動画を配信します。 連絡、資料と動画の配布、期末レポートの提出はすべて Teams で行います。詳しくは Teams にアクセスしてください。
科目学習の効果 (資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許を取得する際の科目でもあります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	日本史の時代区分について書籍やwebで復習しておく。
	2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	律令国家について書籍やwebで復習しておく。
	3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	摂関政治と院政について書籍やwebで復習しておく。
	4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	武士の誕生について書籍やwebで復習しておく。
	5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	鎌倉幕府について書籍やwebで復習しておく。
	6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	室町時代の政治や文化について書籍やwebで復習しておく。
	7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	戦国時代にや戦国大名について書籍やwebで復習しておく。
	8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	神祇や仏教について書籍やwebで復習しておく。
	9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	江戸幕府について書籍やwebで復習しておく。
	10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	江戸時代の百姓について書籍やwebで復習しておく。
	11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	明治維新について書籍やwebで復習しておく。
	12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	大正デモクラシーについて書籍やwebで復習しておく。
	13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	日清戦争・日露戦争・第一次大戦・第二次大戦について書籍やwebで復習しておく。
	14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	太平洋戦争について書籍やwebで復習しておく。
	15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末レポート (100%)
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。
担当者の研究室等	赤澤研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。

科目名	中国史学	科目名 (英文)	Chinese History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2167a0		

授業概要・目的	中国は古くから中華の中心として東アジア世界に影響を与え、20 世紀以降は帝国の崩壊、両大戦、社会主義化などによってその社会は大きく変動した。本講義の目的は、中国の歴史を学ぶことによって、現在の中国に対する理解をも深めることである。国際的視野をもって、日本と中国の関係を考えるきっかけとなることを目指す。
到達目標	中国史の流れを理解し、歴史的視野によって日本と中国、日本と東アジアの関係を説明することができる。
授業方法と留意点	配布資料による講義形式で実施し、スライドや関連する映像資料も用いる。
科目学習の効果 (資格)	中国史に関する知識を通して、現在の中国や日中関係についての理解も深める。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の進めかた・評価方法などのガイダンスを行った後、中国についての基本事項を学ぶ。	配布資料の復習
	2	中国史のみかた	人口、地理、環境などのマクロな変化から中国の歴史を考える。	配布資料の予習・復習
	3	中華思想	中華思想とその広がりについて考える。	配布資料の予習・復習
	4	中華と世界①	隋唐時代の歴史と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	5	中華と世界②	宋元時代の歴史と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	6	中華と世界③	明清時代の歴史と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	7	中華秩序の変容	清末時代の歴史と社会について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	8	民国の成立	中華民国時代の中国について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	9	社会主義建設	中国における社会主義建設について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	10	改革開放から社会主義市場経済へ	改革開放以後の中国について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	11	日中関係	近現代の日中関係について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	12	香港・マカオ	近現代の香港・マカオについて学ぶ。	配布資料の予習・復習
	13	台湾	近現代の台湾について学ぶ。	配布資料の予習・復習
	14	少数民族地域	少数民族地域の歴史と社会を学ぶ。	配布資料の予習・復習
	15	授業のまとめと確認テスト、解説	講義内容の総括と確認テストを行った後、解説を加える。	これまでの内容を復習して、確認テストに備える

関連科目	「エリアスタディーズ (東アジア)」などの中国関連科目
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業で指示する課題 (50%) と確認テスト (50%) によって評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	中国史に関する理解を深め、アジアにおける日本の位置を考えるきっかけをつかんでください。
-----------	---

担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階)
----------	------------------

備考	課題や確認テストは返却時、または実施後の授業、あるいは後日、ICT ツールを通してフィードバックを行います。事前・事後にあわせて 60 時間程度の学習を要します。
----	---

科目名	ヨーロッパ史学	科目名 (英文)	European History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3168a0		

授業概要・目的	本授業では、ヨーロッパの歴史の重要な局面に注目し、それぞれの時代の特徴を捉え、当時の政治・社会・文化を理解し、どのように現代社会が形成されたのかについて検討する。都市・宗派・啓蒙思想・革命といったヨーロッパの歴史を理解する上での重要な要素を深堀しながら、歴史考察の基礎となる知識の習得を目指す。このようにヨーロッパを題材に、対立や共存を長期的な視点でとらえ、世界の歴史を読み解くことで、現代社会の多様性を理解し、グローバルな視点で多角的に物事を見る力を養う。
到達目標	ヨーロッパの歴史の全体像を理解し、各時代や各地域の特徴を説明できるようになる。また、多角的な立場から現代社会の諸問題を考察できるようになる。
授業方法と留意点	Teams を通して、パワーポイントをもちいた授業を実施する。Teams に資料をアップする。
科目学習の効果 (資格)	ヨーロッパを中心とする世界の歴史への知見を深め、歴史的思考を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ヨーロッパの歴史の全体像	ヨーロッパの時代区分と地域について学び、「歴史とは何か」を考える	(事前) ヨーロッパの時代区分 (古代・中世・近世・近代・現代) について調べてくる。(事後) ヨーロッパの地域や時代区分を整理する
	2	中世ヨーロッパ (1)	地域形成と身分について	(事前) 中世ヨーロッパについてイメージすることを書きだす。(事後) 中世ヨーロッパの身分における役割を整理する
	3	中世ヨーロッパ (2)	英仏の戦い	(事前) イギリス、フランスのイメージを書きだす。(事後) 英仏の関係性とそれぞれの王朝について整理する。
	4	中世ヨーロッパ (3)	百年戦争とジャンヌ・ダルク	(事前) 百年戦争について調べてくる。(事後) 百年戦争について整理する。
	5	近世ヨーロッパと宗派対立 (1)	・近世ヨーロッパの特徴 ・宗教改革	(事前) ルターについて調べてくる。(事後) カトリックとプロテスタントについて整理する
	6	近世ヨーロッパと宗派対立 (2)	宗派対立の事例 (ネーデルラントとフランス)	(事前) カルヴァン派について調べてくる。(事後) ヨーロッパの宗派について整理する。
	7	近世イギリス (1)	テューダ朝の成立	(事前) ヘンリ 8 世について調べてくる。(事後) テューダ朝の特徴を整理する。
	8	近世イギリス (2)	国教会成立	(事前) イギリスの王室について調べてくる。(事後) イギリスの宗教について整理する。
	9	近世イギリス (3)	メアリ 1 世とエリザベス 1 世	(事前) メアリ 1 世、エリザベス 1 世について調べてくる。(事後) 中間テストのためにこれまで学んだことを整理する。
	10	啓蒙思想	啓蒙思想と中間テスト	(事前) 中間テスト対策をする。(事後) テストでわからなかった部分を確認する。
	11	啓蒙専制君主	中間テストの解説と君主による啓蒙改革について	(事前) マリア・テレジアとヨーゼフ 2 世について調べてくる。(事後) 中間テストを各自振り返る。
	12	近世フランス (1)	フランス貴族とルイ 14 世	(事前) ルイ 14 世について調べてくる。(事後) フランス貴族や宮廷について整理する。
	13	近世フランス (2)	フランス革命とマリ・アントワネット	(事前) フランス革命の年表を作る。(事後) フランス革命の要因についてまとめる。
	14	近世フランス (3)	フランス革命とその影響	(事前) ナポレオンについて調べてくる。(事後) フランスの共和政についてまとめる。
	15	総括	授業全体のまとめ	(事前) 授業プリントを見直し、わからなかったことなどを書きだす。(事後) 授業全体を振り返る。

関連科目	社会文化史、エリアスタディーズ (ヨーロッパ)
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]	服部良久ほか	ミネルヴァ書房
	2	大学で学ぶ西洋史 [近現代]	小山哲ほか	ミネルヴァ書房
	3			

評価方法 (基準)	授業中の課題 (20%)、中間レポート (20%)、期末レポート (60%) の総合点で評価する。(オンライン授業に伴い、試験をレポートに変更する)
-----------	--

学生へのメッセージ	高校の世界史とは違い、大学で学ぶ歴史学とは、過去の重要な事件の年号や偉人の名前を暗記する学問ではありません。過去の出来事を通して、その背景や理由を、実証的そして、批判的に考察し、現代社会や未来についての思考力を養うためのものです。積極的に関連文献を読み、講義内容を深めるよう心掛けてください。
-----------	--

担当者の研究室等	11 号館 11 階加来研究室
----------	-----------------

備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。 フィードバックは、適宜、授業のなかで実施する。
----	---

科目名	日米文化交流史	科目名 (英文)	History of Japan-US Intercultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3169a0		

授業概要・目的	アメリカと日本は太平洋を隔てた隣国であり、100 年以上の交流の歴史があります。前半は、主にアメリカという国の歴史や文化を形成する思想について学びます。後半は、日本とアメリカのさまざまな文化交流のあり方について学び、異文化コミュニケーションの課題について考えます。学生に卒業後、授業で学んだことを日米交流の実践にも役立てていただくため、基本的知識を試験で問い、同時に論述問題も試験で出題します。試験問題等については授業でしっかりと指し示しますのでご安心ください。授業では日米のあらゆる時代や、文化を取り扱い				
到達目標	1．日米文化交流の歴史を学び、異文化コミュニケーションの諸問題を学び理解することができる。 2．アメリカという国の歴史・社会・文化を理解し、多文化社会の実態を説明できる。 3．文化の多様性や異なる文化背景を持つ人々とそれぞれの背景に気を配りながらコミュニケーションを取ることができる。				
授業方法と留意点	映像・写真資料、PowerPoint スライド、配布資料を使用します。				
科目学習の効果（資格）					
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	イントロダクション	日米文化交流を学ぶ意義について考える	授業内容（概要）を確認する。（2 時間）
		2	米国の成立と、その神話	アメリカの国の成り立ちと、それにまつわる神話を学び、アメリカ合衆国のイメージを批判的に考察する	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2 時間）
		3	宗教と思想、政治	アメリカ文化における宗教と思想の役割、そして宗教と政治の関連を学ぶ	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2 時間）
		4	フロンティア、暴力、表象、そしてその越境と近代：1	アメリカ文化におけるフロンティアの意義について学ぶ。そしてそれにまつわる、文化表象や、暴力の越境と近代について考察する。特にアメリカの文脈について学ぶ。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2 時間）
		5	フロンティア、暴力、表象、そしてその越境と近代：2	アメリカ文化におけるフロンティアの意義にまつわる、文化表象や、暴力の越境と近代について考察する。特に江戸末期を扱う	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2 時間）
		6	フロンティア、暴力、表象、そしてその越境と近代：3	アメリカ文化におけるフロンティアの意義にまつわる、文化表象や、暴力の越境と近代について考察する。特に明治初期を扱う	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2 時間）
		7	中間テスト	これまでの授業で習った内容におけるキーワードについて答える問題と、論述問題による中間テストを行う。	これまでの授業内容を復習し、要点を整理する。（2 時間）
		8	日本の近代と、政治、宗教	明治以降の日本の近代化と政治と宗教のつながりを、米国の宗教文化と比較しながら考える	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2 時間）
		9	大正、昭和初期の文化とアメリカ：1	アメリカの消費文化が非常に影響力が強かった大正、昭和初期の日本の都市文化と、アメリカとの関係を考える	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2 時間）
		10	大正、昭和初期の文化とアメリカ：2	大正、昭和初期の日本の都市文化と、アメリカ、労働問題や、プロレタリア文化の発達について学ぶ	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2 時間）
		11	日米関係と戦争史	太平洋戦争の記憶や、歴史叙述と日米関係について考える	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2 時間）
		12	コンタクトゾーンとしての占領期	敗戦後の占領期における文化を通じた日米の交流や、軋轢などを学ぶ。	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2 時間）
		13	音楽を通じた日米交流	明治から 1960 年代における日米の音楽を通じた交流を考え、その中で人種、ジェンダー、階級概念がどのように変化、もしくは、変化しなかったかを考える	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2 時間）
		14	音楽を通じた日米交流	1970 年代から現在における日米の音楽を通じた交流を考え、その中で人種、ジェンダー、階級概念がどのように変化、もしくは、変化しなかったかを考える	授業内容について文献等で調べながら理解を深める。（2 時間）
		15	最終テスト	これまでの授業で習った内容におけるキーワードについて答える問題と、論述問題による最終テストを行う。	これまでの授業内容を総復習し、要点を整理する。（2 時間）
関連科目	「日米比較文化」など				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (授業への参加度、レスポンスペーパー、宿題) 40% 中間テスト・最終テスト 60%			
学生への メッセージ	日本とアメリカを比較しながら、異なる文化的背景を持つ人々と交流する意義を学んでください。			
担当者の 研究室等	7号館5階 永富研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約60時間を目安とします。 中間テストに関するフィードバックは第7回目、最終テストに関するフィードバックは第15回目の授業で行います。 授業の進度は上記の表を目安としますが、開講後の様子を見て必要であれば調整します。			

科目名	東南アジア史学	科目名 (英文)	Southeast Asian History
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3170a0		

授業概要・目的	本講義では、大陸部から島嶼部に及ぶ広大な東南アジア地域の歴史を、古代から現代に至るまで通時的に概観する。			
到達目標	複雑に展開してきた東南アジアの歴史を知ることにより、現在の東南アジア社会、東南アジアと日本との関係、東南アジアを中心とした世界情勢について理解するための基本的な視座を獲得する。			
授業方法と留意点	プリントを配布する。映像資料を適宜用いる。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明	関連する文献を紹介するので読むこと。
	2	東南アジアの基礎知識	東南アジアの地理的特徴、東南アジア諸国の政治・経済・文化的特徴	関連する文献を紹介するので読むこと。
	3	先史時代と初期の国家形成	交易国家の形成	関連する文献を紹介するので読むこと。
	4	諸王朝の盛衰 1	大陸部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。
	5	諸王朝の盛衰 2	島嶼部における諸王朝の盛衰	関連する文献を紹介するので読むこと。
	6	ヨーロッパ勢力の到来 1	新しい交易の時代 1	関連する文献を紹介するので読むこと。
	7	ヨーロッパ勢力の到来 2	新しい交易の時代 2	関連する文献を紹介するので読むこと。
	8	植民地支配の進行 1	オランダ植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。
	9	植民地支配の進行 2	イギリス植民地支配の拡大	関連する文献を紹介するので読むこと。
	10	植民地支配の進行 3	反植民地主義運動の展開	関連する文献を紹介するので読むこと。
	11	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 1	独立と国家統合	関連する文献を紹介するので読むこと。
	12	ナショナリズムの台頭と脱植民地化 2	国民国家の誕生	関連する文献を紹介するので読むこと。
	13	東南アジアの現在 1	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。
	14	東南アジアの現在 2	東南アジアの政治・経済・社会の現在と課題	関連する文献を紹介するので読むこと。
	15	まとめ +テスト	授業全体のまとめとテスト	関連する文献を紹介するので読むこと。
関連科目	エリアスタディーズ（東南アジア）など、東南アジアの社会・文化・歴史に関係するすべての科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	東南アジア史Ⅰ 大陸部		山川出版社
	2	東南アジア史Ⅱ 島嶼部		山川出版社
	3			
評価方法（基準）	到達度の確認を問う課題（40%）と授業中に行う小レポート（60%）から評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	7号館5階 上田研究室			
備考	受講者多数の場合は、評価方法などを一部変更することがある。 事前・事後学習の総時間数は、60時間以上とする。			

科目名	社会文化史	科目名 (英文)	History of Society and Cultures
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3171a0		

授業概要・目的	「ヨーロッパの十字路」、「ヨーロッパが見える国」などといわれるベルギーは、現在でも EU の本部が置かれるなど、ヨーロッパの中心の一つとして過言ではない。また、中世にはベルギーのフランドル地方はヨーロッパの交易の中枢であり、ヨーロッパでもっとも繁栄した場所の一つであった。近世にはハプスブルク家の支配下となり、宗教改革期には大きな反乱を経験した。そして、ベルギーとして独立した後は言語問題が生じ、オランダ語やフランス語の言語圏などが生まれ複雑な連邦体制がとられている。それぞれの時代でヨーロッパの特徴的な出来事
到達目標	現在に至るまでのベルギー社会の特徴を理解するとともに、政治、地方自治、文化、芸術などさまざまな視点からヨーロッパの歴史を解釈する仕方を身につける。さらに、現在の私たちにとって一見当たり前とされている事柄が長い歴史のなかで形成されてきたことをベルギーの事例から具体的に理解する。
授業方法と留意点	パワーポイントを用い、写真や図、当時の史料を紹介しながら、授業をすすめる。適宜、資料を配布する。
科目学習の効果 (資格)	歴史学の基礎知識を習得できるとともに、過去を通して現在の社会を考える手法を身につけることができる。これは、現在の国際社会をより深く理解することにもつながる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ベルギーという国について	国のなりたちと地理	・ベルギーの位置を地図上で確認する。周りにどんな国があるかも確認する。 ・ベルギーのイメージを書きだす。
	2	中世の都市 (1)	・フランドル地方の特徴 ・中世都市の特徴	・フランドル地方について調べる。
	3	中世の都市 (2)	都市社会とベギン修道会	・ヨーロッパ中世都市の特徴についてまとめる。
	4	君主による統合政策 (1)	・ブルゴーニュ公の支配 ・宮廷文化と都市の文化	・百年戦争とブルゴーニュ公について調べる。
	5	君主による統合政策 (2)	ハプスブルク家の支配	・ハプスブルク家について調べる。
	6	カール 5 世の支配 (1)	・ネーデルラント統一	・カール 5 世について調べる。 ・ネーデルラントの領邦について確認する。
	7	カール 5 世の支配 (2)	ネーデルラント総督とヨーロッパの平和	・フランス王フランソワ 1 世について調べる。 ・イタリア戦争について確認する。
	8	ネーデルラントの分離 (1)	・宗派対立と異端審問 ・反乱	・プロテスタントとカトリックの違いを調べる。
	9	ネーデルラントの分離 (2)	・南ネーデルラントの復興 ・再カトリック化 ・小テスト	・対抗宗教改革について調べてくる。 ・これまでの授業をまとめる。
	10	中近世の芸術	・ファン・アイク、ブリュゲル、ルーベンスなどの作品から歴史を考察	・ファン・アイク兄弟、ブリュゲル、ルーベンスについて調べてくる。
	11	オーストリア・ハプスブルク家の支配	・君主の政策 ・啓蒙改革とその反応	・「啓蒙」という言葉を調べる。 ・マリア・テレジアとヨーゼフ 2 世の政策を整理する。
	12	ベルギーの独立	・ベルギーの独立 ・地域による経済格差 ・公用語による諸問題	・ベルギー独立時の政治体制について調べてくる。 ・2つの言語について理解する。
	13	大戦と言語問題の動向	・大戦期のベルギーとその前後の言語問題	・ベルギーの言語圏について確認する。
	14	言語問題と連邦制	・言語圏の対立 ・連邦制	・授業で与えられたテーマについて調べてくる。
	15	現代のベルギー	・授業の総括 ・ベルギーの抱える諸問題	・ベルギーの年表を作り、授業内容を整理する。 ・歴史を通じたベルギーの特徴を考察する。

関連科目	ヨーロッパ史学
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ベルギーを知るための 52 章	小川秀樹	明石書店
	2	スイス・ベネルクス史	森田安一	山川出版社
	3			

評価方法 (基準)	授業のなかで実施する課題 (20%)、小テスト 1 回 (20%)、期末試験 (60%) を総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	大学で研究する歴史は、広い視点とともに、深く実証的に学ぶことが求められます。この授業では、ベルギーを題材に詳細な事例や歴史史料、図像などをもとに、社会を深く、時に批判的に考察していきます。文献を積極的に読み、ヨーロッパに関する映画やニュースなどにも関心をもって授業に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等	
----------	--

備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。 初回の授業は Teams の会議室を通してリアルタイムで行います。
----	--

科目名	風土と地理	科目名 (英文)	Climate and Geography
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1172a0		

授業概要・目的	この授業では地理学という学問分野の基礎知識について学びます。地理学は、空間・地域・環境といった視点から、この世界の成り立ちを理解し説明しようとする学問です。様々な学問分野の間の境界領域に位置し、研究対象も方法も多岐にわたっているという特徴を持ちます。本講義では、こうした地理学の基本的な考え方を身につけることを目的とします。
到達目標	人文地理学の基本となる考え方について説明できること。また、特定の問題について地理学的な視点から捉えることができること。
授業方法と留意点	主に、①地理学がカバーする諸領域、②現代社会を理解するうえで重要と考えられる理論・学説、③地理学の歴史と現代的諸課題について講義します。さらに、学生の皆さんには、理解度を問うための小課題（理解度チェック）とレポートに取り組んでもらいます。
科目学習の効果（資格）	皆さん自身が興味を持つ事象や問題について、空間・地域・環境といった視点から捉える能力を養うことができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	地理学とはどのような学問か？	この授業の概要を理解し、地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	2	地図の発達史：古代から現代まで	古代から現代にいたる地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	3	人口動態を捉える	人口転換や人口移動のメカニズムについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	4	環境問題と社会	人びとの暮らしと環境問題との関係について具体的な事例を踏まえつつ考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	5	文化の地域的多様性と進化	文化の多様性および動態の説明方法について事例を踏まえつつ考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	6	都市空間の構造と格差	居住者とその格差の視点から見た都市の構造とその変化について捉える方法について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	7	産業からみた都市の変遷	産業構造変化に伴い、都市モデルがどのように変遷してきたかを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	8	イノベーションと都市	現代の都市間競争について、イノベーションとその空間的諸条件という視点から学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	9	人口減少と都市の縮退	人口減少、経済停滞期における都市が抱える諸問題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	10	ジェンダーと行動・居住の制約	地域における行動・居住の制約という視点からジェンダーを考える視点を学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	11	疫病の空間的拡散	疫病の空間的拡散パターンに関する研究を学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	12	農と食をめぐる諸問題	世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	13	観光に関する地理学的研究	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	14	旅を再考する	人類社会における旅の歴史を振り返ることにより、COVID-19 以後の観光について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
	15	地理学の課題	これまでの地理学の歩みと、今後の地理学の課題について検討します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学：その主題と課題	杉浦章介ほか	慶應義塾大学出版会
	2	現代人文地理学	佐藤廉也・宮澤仁編	放送大学教育振興会
	3			

評価方法（基準）	レポート 70%、小テストおよびコメント 30%
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	大学の地理学は高校の地理とは異なっています。個々の研究者は気の向くままに興味関心について掘り下げてゆき、気づけば異分野との相互乗り入れをしています。ですから、扱うテーマがかなり幅広く感じると思います。高校までに地理を履修したことがある人もない人も、大学生としてあらたな気持ちで受講してください。また、授業で学んだことを、自分が関心を持っていることについて深めることに活かしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	提出物へのコメントや質問への回答などのフィードバックは、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合にはオフィスアワーに教員の研究室、またはメールにて行う。
----	---

科目名	日本文学	科目名 (英文)	Japanese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1173a0		

授業概要・目的	日本の近現代（明治時代から現代まで）の文学作品を講読し、日本文学の基本的な教養を身につけることを目的とする。単に作品を鑑賞するだけでなく、一つのテーマに基づいて体系的に文学の流れを辿り、読解・批評する力を養うことを大事にしたい。 本年度は、「私小説（わたくし・しょうせつ）」をテーマとする。近代に「私」を語ることを主眼とした小説群が誕生して以降、「私小説」は現代に至るまで日本文学の主要なジャンルとして成立し続けている。多様な「私小説」の諸相を辿りながら、文学のなかの「日本（人）」の特徴を明らかにで																																																																		
到達目標	①文学作品を読解する力を身につける ②日本文学の特徴や歴史について理解する ③文学作品を通じて自身の所属する「日本」を捉えなおす観点を養う																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に行う。適宜、映画化作品を鑑賞することもある。教材はプリントで配布する。 毎回、読む作品についての感想や疑問を、コメントシートに自由に記載してもらう。次回授業時に、コメントシートの内容を印刷して共有し、教員からフィードバックを行う。教員が一方向的に話すのではなく、履修者との対話的な授業を心がけたい。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進める。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>2</td><td>リアリズムの形成</td><td>日本の近代においてリアリズムがどのように成立したかを学修する 坪内逍遙「小説神髓」、二葉亭四迷「浮雲」、森鷗外「舞姫」、島崎藤村「破戒」などの作品を解説する</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>3</td><td>私小説の起源（1）</td><td>田山花袋「蒲団」を読む</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>4</td><td>私小説の起源（2）</td><td>近松秋江「別れたる妻に送る手紙」を読む</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>5</td><td>私小説の起源（3）</td><td>葛西善蔵「子をつれて」を読む</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>6</td><td>私小説の流行（1）</td><td>徳田秋声「徴」を読む</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>7</td><td>私小説の流行（2）</td><td>志賀直哉「城之崎にて」を読む</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>8</td><td>私小説の流行（3）</td><td>広津和夫「諸崎行」、宇野浩二「蔵の中」を読む</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>9</td><td>私小説批判（1）</td><td>横光利一「春は馬車に乗って」を読む</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>10</td><td>私小説批判（2）</td><td>川端康成「伊豆の踊子」を読む</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>11</td><td>私小説批判（3）</td><td>梶井基次郎「檸檬」を読む</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>12</td><td>戦後の私小説（1）</td><td>三島由紀夫「仮面の告白」を読む</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>13</td><td>戦後の私小説（2）</td><td>安岡章太郎「陰気な愉しみ」など（第三の新人）を読む</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>14</td><td>課題（レポート）</td><td>授業で扱った作品を1つ選び、教員の指示したテーマでレポートを作成する</td><td>配布プリントの確認 興味を持った作品を読む</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括・レポート提出</td><td>授業内容全体を総括し、レポートを提出する</td><td>レポートの印刷・提出</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	2	リアリズムの形成	日本の近代においてリアリズムがどのように成立したかを学修する 坪内逍遙「小説神髓」、二葉亭四迷「浮雲」、森鷗外「舞姫」、島崎藤村「破戒」などの作品を解説する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	3	私小説の起源（1）	田山花袋「蒲団」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	4	私小説の起源（2）	近松秋江「別れたる妻に送る手紙」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	5	私小説の起源（3）	葛西善蔵「子をつれて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	6	私小説の流行（1）	徳田秋声「徴」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	7	私小説の流行（2）	志賀直哉「城之崎にて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	8	私小説の流行（3）	広津和夫「諸崎行」、宇野浩二「蔵の中」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	9	私小説批判（1）	横光利一「春は馬車に乗って」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	10	私小説批判（2）	川端康成「伊豆の踊子」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	11	私小説批判（3）	梶井基次郎「檸檬」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	12	戦後の私小説（1）	三島由紀夫「仮面の告白」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	13	戦後の私小説（2）	安岡章太郎「陰気な愉しみ」など（第三の新人）を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	14	課題（レポート）	授業で扱った作品を1つ選び、教員の指示したテーマでレポートを作成する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む	15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
2	リアリズムの形成	日本の近代においてリアリズムがどのように成立したかを学修する 坪内逍遙「小説神髓」、二葉亭四迷「浮雲」、森鷗外「舞姫」、島崎藤村「破戒」などの作品を解説する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
3	私小説の起源（1）	田山花袋「蒲団」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
4	私小説の起源（2）	近松秋江「別れたる妻に送る手紙」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
5	私小説の起源（3）	葛西善蔵「子をつれて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
6	私小説の流行（1）	徳田秋声「徴」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
7	私小説の流行（2）	志賀直哉「城之崎にて」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
8	私小説の流行（3）	広津和夫「諸崎行」、宇野浩二「蔵の中」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
9	私小説批判（1）	横光利一「春は馬車に乗って」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
10	私小説批判（2）	川端康成「伊豆の踊子」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
11	私小説批判（3）	梶井基次郎「檸檬」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
12	戦後の私小説（1）	三島由紀夫「仮面の告白」を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
13	戦後の私小説（2）	安岡章太郎「陰気な愉しみ」など（第三の新人）を読む	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
14	課題（レポート）	授業で扱った作品を1つ選び、教員の指示したテーマでレポートを作成する	配布プリントの確認 興味を持った作品を読む																																																																
15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出																																																																
関連科目	日本文学・文化に関する科目（「翻訳文化論」など）																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	平常点（コメントシートの内容、積極性） 60% レポート 40%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の	7号館4階（古矢研究室）																																																																		

研究室等	
備考	事前事後の総学習時間の目安は 60 時間。 次回授業時に、コメントシートの内容を印刷して共有し、教員からフィードバックを行う。

科目名	異文化接触論	科目名 (英文)	Cultural Interactions
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2174a0		

授業概要・目的	この授業の目的は、多文化共生社会の実現に寄与できる異文化認知力と異文化適応力を養うために、異文化接触の理論を手掛かりに日常的な自分と身近な他者の接触の仕方を分析し、その技能を外国文化の理解にも応用する知識と態度を身につけることである。IT 技術の発達や人や企業活動の国境を越えた広がりによって、かつてないほど多様な文化的背景をもつ人々と接触し、理解し合わなくてはならない場面が増えている。この授業は、異文化接触の理論と世界の異文化対立の事例を学び、身近な他者や異文化との接触仕方をグループワークによって考え、また
到達目標	- 世界の異文化接触の事例を理解する上で重要な理論を説明できる。 - 異文化認識の癖を知るためにグループワークに参加し、積極的に発言できる。 - 自己のアイデンティティについての身近な他者（クラスメイト）との議論に参加し、他者との文化的差異を発見し、その原因を説明できる。 - 外国認識についての身近な他者（クラスメイト）との議論に参加し、他者との文化的差異を発見し、その原因を理論を踏まえて説明できる。
授業方法と留意点	- Teams においてリアルタイムで授業を行います。授業後録画を配信します。 - 講義とグループワークを交えて行う。文化の捉え方や歴史的な異文化接触の事例は資料を配布し講義形式で行う。あわせて自己とクラスメイトの文化認識を比較する個人ワークを 3 回行い、ワークからの発見を中間レポートとして提出する。 - 講義形式の回はリアクションペーパーの課題を課す。 - 学期末には中間レポートからの発見と授業で紹介する異文化接触の理論と事例を総合し、「異文化との豊かな交流のための提言」というテーマで学期末レポートを作成・提
科目学習の効果（資格）	自文化と異文化の違いを知り、違いを積極的に理解する思考をもって、より多くの文化的背景の異なる人々との交流を広げる。異文化摩擦やカルチャーショックの仕組みを理解することで、留学の際に直面するカルチャーショックを乗り越える力を得る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションおよび文化を見る癖について	授業の概要、講師の異文化体験	日常生活における自分の文化の癖を探してリストアップする。
	2	パンデミックが暴いた差別意識	新型コロナ禍によって起こった国内外の差別の構造を考察する。	配布資料を読んで、自己の日常行動の癖と異文化への視線との関係を考える。
	3	身近な異文化を発見するグループワーク	異文化的存在の他者との接触の際の自分の行動と思考を分析する。	グループワークからの発見をもとに異文化体験の感想をまとめる。
	4	文化の捉え方	「見える文化」と「見えない文化」の文化の重層性の理論を通して、他者をめぐる言説、文化のカテゴリー化の概念を知る。	レジュメと配布資料を見直して文化の重層性の理論を理解する。
	5	異文化への視線	西洋と非西洋の接触の歴史から異文化に対する視線と言説の創造の歴史を知る。	グループワークの下準備として、異文化接触時に想定される自分の行動や他者認識をリストアップする。
	6	自分の文化の構成要素を分析するグループワーク	自己のサブカルチャー構成をリストアップし、他者との比較・分析から、自己を形成する文化的要素を認識する。	グループワークからの発見をもとに、文化のカテゴリー化の概念を用いて、中間レポートを作成する。
	7	価値観の衝突：西洋とイスラーム	西洋とイスラームの文化摩擦の歴史を、言説、文化のカテゴリー化の概念を手がかりに読み解く。	中間レポートの講評をもとにレポート作成の技法を確認する。および欧米とイスラームの対立が表れている新聞・インターネットの記事を探しておく。
	8	アフリカにおける文化対立の悲劇（1）	ルワンダ内戦の事例から、植民地支配における文化のカテゴリー化の影響力を学ぶ。	配布資料を参考にルワンダ内戦の経緯について調べる。
	9	アフリカにおける文化対立の悲劇（2）	映像資料を通じてルワンダにおける為政者による「他者の創造」と人種・民族の政治的操作の事例を学ぶ。	ルワンダ内戦に関する映画を観て、文化のカテゴリー化と他者の創造が分かる場面をリストアップする。
	10	自己と他者の外国認識の違いを分析するグループワーク	外国に対する認識の違いをクラスメイトと比較し、知識量と外国認識の相関性を考察する。	グループワークからの発見をもとに、中間レポートを作成する。
	11	異文化摩擦と接触仮説	多文化共生のための接触仮説の詳細を知り、日本における日系ブラジル人の事例から確認する。	中間レポートの講評をもとにレポート作成の技法を再確認する。および接触仮説に関する配布資料を読んでおく。
	12	北米の文化対立と多文化主義	米国の文化的分断とカナダの多文化主義の事例を接触仮説に即して読み解く	米国とカナダの多文化政策に関する配布資料を読んでおく。
	13	多文化共生の条件を考えるグループワーク	多文化状況を描いた映像をもとに、文化の溝が縮まる条件と広がる条件を考察する。	グループワークからの発見をもとに、中間レポートを作成する。
	14	留学と異文化接触	留学を事例に、個人レベルでの異文化接触とカルチャーショックの諸段階について学ぶ。	中間レポートの講評をもとにレポート作成の技法を再確認する。および期末レポートの作成と発表準備
	15	レポート講評とふりかえり	レポート作成の技法の確認および講義内容の補足的説明	期末レポートの提出および講評をもとにレポートの見直し

関連科目	日米比較文化、芸術文化論、異文化ビジネス論、異文化コミュニケーション論、国際社会論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂版 異文化トレーニング ボードレス社会を生きる	八代京子ほか	三修社
	2	イスラム化するヨーロッパ	三井美奈	新潮社

	3	紛争・対立・暴力—世界の地域から考える	西崎文子・武内進一 編著	岩波書店
評価方法 (基準)	授業参加度（リアクションペーパーの内容、個人ワークへの取り組み） 20% 中間レポート 40% 期末レポート 40%			
学生への メッセージ	他者や異文化とのかかわりを客観的に考えられるようになって、より多くの他者・異文化との関係を広げてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 1 1 階 仮設研究室			
備考	事前・事後学習に要する総時間数は 60 時間を目安とする。 受講生の関心や予備知識によって授業内容を一部変更する可能性がある。 課題に対するフィードバックとして、中間レポートは提出の翌週の授業で講評を行い、学期末レポートの講評と返却は 15 回目の授業で行う。			

科目名	日米比較文化	科目名 (英文)	Comparative Cultures: America and Japan
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2175a0		

授業概要・目的	19 世紀から現代までのアメリカ人の日本人観、日本人のアメリカ人観の変遷と、その背景にある国際政治、国際政治との関わりを、主に映画と音楽から事例をとって年代順にみていく授業です。両国の人々が互いに抱いてきたイメージと、その歴史的な変遷に注目し、背景にある国際政治、国内政治との関わりを考えます。日米間に限らず、現代世界の人種問題、民族問題について、またメディアを通じた異文化理解について、当事者意識を持って考えてもらいます。 外国語学部のディプロマ・ポリシーのうち、主として「国際社会の多様性を理解するとと
到達目標	・日本とアメリカ合衆国における人種問題、民族問題の歴史と現状についての基礎知識、基礎的理解を身につける。 ・日米間に限らず現代世界一般の人種問題、民族問題について、またメディアと異文化理解の関係についての基礎知識を持ち、多様な文化背景を持った人々との共生のありかたについて当事者意識を備えた意見を述べられるようになる。 ・就職活動や卒業研究レポート作成に向けて活用できる日本語能力、作文能力を身につける。 ・テーマに基づいて読解、作文、質疑を繰り返す学習技法を習得する。 ・ICT を生かす
授業方法と留意点	・第2回授業よりオンライン授業となります。パソコンと通信環境を整えましょう。 ・この授業では教材配布、課題提出、質疑応答、あらゆる場面で Moodle と Teams を活用します。最新のスケジュールや指示は常に Moodle と Teams をチェックしましょう。Moodle 上に上がっているスケジュールと方法に従って文字資料、視聴覚資料や資料解説の動画を閲覧して予習をし、Teams で質疑応答や議論に参加し、そこで得られた理解をもとに小論文課題を作成し、その小論文課題を Moodle から提出する、というのが一連の流れです
科目学習の効果 (資格)	海外での研修や留学に際して、また国内での異文化交流に際して必要となる国際感覚。高度な英語力を身に着けるための基盤となる国際教養。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	受講の方法を確認	受講に関する重要な説明と指示を初回授業でまとめて行います。	配付した資料の予習を開始。(2 時間程度)
	2	相撲と minstrel show — 近代国民国家と「国民文化」	ベリー提督の日本来航時(1853-54)に描かれた絵図などを読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計 3 時間程度)
	3	「黄禍」としての日本人／日系人 その 1 1910 年代の日米関係	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915)を読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計 3 時間程度)
	4	「黄禍」としての日本人／日系人 その 2 Cheat (1915) の主要場面を分析する	最初にして唯一の「日本人ハリウッドスター」早川雪洲の主演映画 Cheat (1915)を読み解く	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計 3 時間程度)
	5	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その 1 1920 年代～30 年代の日米関係	1928 年～1930 年代の日本製「ジャズ」音楽を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計 3 時間程度)
	6	日本人から見た「先進文明国」としてのアメリカ その 2 1930 年代の反米知識人	池崎忠孝『世界を脅威するアメリカニズム』(1937) など検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計 3 時間程度)
	7	「人種戦争」としての第二次世界大戦その 1 アメリカのプロパガンダ	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計 3 時間程度)
	8	「人種戦争」としての第二次世界大戦その 2 日本のプロパガンダ	日米両国の人種プロパガンダイメージ・セレクションを検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計 3 時間程度)
	9	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その 1 1950 年代の日米関係	映画『サヨナラ』(1957) を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計 3 時間程度)
	10	東西冷戦とアメリカの人種リベラリズム その 2 『サヨナラ』(1957) と人種・ジェンダー	映画『サヨナラ』(1957) を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計 3 時間程度)
	11	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版 その 1 アメリカのカウンターカルチャー	ウッドストック (1969) と 1970 年代の日本のロック／フォークフェス等を例に考える。	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計 3 時間程度)
	12	近代西洋文明批判としての対抗文化運動とその日本版 その 2 日本のカウンターカルチャー	ウッドストック (1969) と 1970 年代の日本のロック／フォークフェス等を例に考える。	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計 3 時間程度)
	13	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽 その 1 ジャズと	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。

		ブルース		(合計3時間程度)
	14	現代日本社会における人種差別告発と、戦後日本の「黒人」音楽 その2 ファンクとヒップホップ	戦後日本の「黒人音楽」の歴史的・現代的意義を検証	授業内の板書と使用した資料の読み返しを行い、翌週のための配布プリントより予習指示された箇所を、重要と思われる箇所にマークをしながら読む。(合計3時間程度)
	15	まとめ	期末レポートに向けて、学習内容を総括する。	自分がレポートに使う可能性のある全ての配布資料および教科書に目を通し、持参。(2時間程度) 授業後、期末レポートを作成する。(5時間程度)
関連科目	エリアスタディーズ (北アメリカ)、日米文化交流史ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材、動画等を電子配布		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「ヘイト」の時代のアメリカ史 人種・民族・国籍を考える	兼子歩／貴堂嘉之 編	彩流社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全6回の小論文課題 60% (10% x 6回) 質疑応答・ディスカッションへの貢献・小テスト等 40%			
学生への メッセージ	最初から全部分からなくてもかまいません。まずは「よく分からないが何だか面白い!」と感じるところを探しましょう。今の自分にとって難しく感じるものを、敢えて背伸びをして読み、また書くことを楽しめるようになって下さい。			
担当者の 研究室等	7号館3階 鳥居研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。レポート、その他課題に関する質問等はスチューデントアワーまたは電子メールによるアポイントメントにて対応する。メールは torii@ilc.setsunan.ac.jp まで。			

科目名	中国文学	科目名 (英文)	Chinese Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	馮 艶
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2176a0		

授業概要・目的	中国文学では、最高峰とされているのは唐詩や宋詩である。唐宋詩は普遍的な存在としていかに当時の人々の生活や文化を昇華させていたのかいをこの授業を通して示したい。その標本の一つとして茶や茶を飲用する生活を描写する茶詩を細かく考察する。																																																																		
到達目標	中国文学の扉から入り、茶詩に絵描かれてきた中国茶文化の源流や内容、特徴を把握してもらう。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式を中心にしながら、討論も取り入れながら授業を進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>最古の茶樹</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>道教の茶</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>一回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>茶の流行と仏教</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>茶経と陸羽①</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>茶経と陸羽②</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>二回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>初めての「昇仙」茶詩</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>進化する「昇仙」茶詩</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>僧侶詩人たちの茶詩</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>三回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>茶を日常化した白居易の茶詩①</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>茶を日常化した白居易の茶詩②</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>写実的な宋の茶詩</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>蘇軾の茶①</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>蘇軾の茶②</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>最後の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>中国茶文化の今</td><td>音声ファイル、資料を学習する</td><td>課題の再提出回 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	音声ファイル、資料を学習する	講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	2	最古の茶樹	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	3	道教の茶	音声ファイル、資料を学習する	一回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	4	茶の流行と仏教	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	5	茶経と陸羽①	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	6	茶経と陸羽②	音声ファイル、資料を学習する	二回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	7	初めての「昇仙」茶詩	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	8	進化する「昇仙」茶詩	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	9	僧侶詩人たちの茶詩	音声ファイル、資料を学習する	三回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	10	茶を日常化した白居易の茶詩①	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	11	茶を日常化した白居易の茶詩②	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	12	写実的な宋の茶詩	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	13	蘇軾の茶①	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	14	蘇軾の茶②	音声ファイル、資料を学習する	最後の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)	15	中国茶文化の今	音声ファイル、資料を学習する	課題の再提出回 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	音声ファイル、資料を学習する	講義内容およびフィードバックを整理して次の授業に備える (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
2	最古の茶樹	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
3	道教の茶	音声ファイル、資料を学習する	一回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
4	茶の流行と仏教	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
5	茶経と陸羽①	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
6	茶経と陸羽②	音声ファイル、資料を学習する	二回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
7	初めての「昇仙」茶詩	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
8	進化する「昇仙」茶詩	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
9	僧侶詩人たちの茶詩	音声ファイル、資料を学習する	三回目の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
10	茶を日常化した白居易の茶詩①	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
11	茶を日常化した白居易の茶詩②	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
12	写実的な宋の茶詩	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
13	蘇軾の茶①	音声ファイル、資料を学習する	要点整理 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
14	蘇軾の茶②	音声ファイル、資料を学習する	最後の課題 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
15	中国茶文化の今	音声ファイル、資料を学習する	課題の再提出回 (事前・事後にそれぞれ 1 時間)																																																																
関連科目	特になし。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	教材の視聴 (出席) 五割、課題五割																																																																		
学生へのメッセージ	激動する現代中国の背景にある中国現代文化の状況を知りたい学生の参加を歓迎します。中国語を受講していない学生の受講も歓迎します。授業時間外の質問はメールで受け付け、他の学生も関心がある内容の場合もあるので、最も早い授業の冒頭などで返答する。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。																																																																		

科目名	芸能文化論	科目名 (英文)	Studies in Performing Arts
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2177a0		

授業概要・目的	【いかにメディアミックスは眼差しを変えるのか】 西洋における「祝祭と美術」の関係を考察する。中世最大の祝祭であるフィレンツェ聖史劇に注目し、衣装・小道具・演出の特徴を確認する。次に、その見物客がどのように舞台を見て感じていたのかを推察する。それと同時に、聖史劇を見る眼差しと交差した可能性がある、当時の絵画を見る眼差しも検討する。ルネサンス期フィレンツェに暮らした市井の人びとは、かならずしも「知的エリート」だったわけではなく「高貴な趣味」を持っていたわけでもない。その彼らが祝祭や美術に触れた際の感情を																																																														
到達目標	【以下の3点を自分の言葉で説明できるようになる】 1. 祝祭が呼び覚ます振れ幅の大きな感情 2. 祝祭が揺り動かす時間と空間の結び目 3. 祝祭が更新する人びとの生																																																														
授業方法と留意点	【講義をふまえて質問を考える】 1. 講義を受ける。 2. 講義後の制限時間内にMoodle経由で質問を入力する。 3. 講義前に配布のQ&Aシートを確認し、講義でフィードバックを受ける。 4. 校外実習を進める。																																																														
科目学習の効果 (資格)	西洋文化の精神性の理解 [学芸員資格]																																																														
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>授業概要の説明とルネサンスについて解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>認識</td><td>系譜学と慣習について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>実践</td><td>系譜学と眼差しについて解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>歴史</td><td>中世と聖史劇について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>舞台</td><td>山と布について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>装置</td><td>雲と鉄について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>素材</td><td>翼と羽根について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>扮装</td><td>女性と男性について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>視角</td><td>浮力と重力について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>屋根</td><td>天球と天体について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>燃焼</td><td>聖霊と火花について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>生</td><td>人形と人間について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>美術展鑑賞</td><td>指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。</td><td>事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する (90分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120分)。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>美術展鑑賞</td><td>指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。</td><td>事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業概要の説明とルネサンスについて解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	2	認識	系譜学と慣習について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	3	実践	系譜学と眼差しについて解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	4	歴史	中世と聖史劇について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	5	舞台	山と布について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	6	装置	雲と鉄について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	7	素材	翼と羽根について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	8	扮装	女性と男性について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	9	視角	浮力と重力について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	10	屋根	天球と天体について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	11	燃焼	聖霊と火花について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	12	生	人形と人間について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する (90分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120分)。	14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																												
1	導入	授業概要の説明とルネサンスについて解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
2	認識	系譜学と慣習について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
3	実践	系譜学と眼差しについて解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
4	歴史	中世と聖史劇について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
5	舞台	山と布について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
6	装置	雲と鉄について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
7	素材	翼と羽根について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
8	扮装	女性と男性について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
9	視角	浮力と重力について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
10	屋根	天球と天体について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
11	燃焼	聖霊と火花について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
12	生	人形と人間について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する (90分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120分)。																																																												
14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマ																																																												

			ト上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	や特徴について確認する（90分）。 事後：実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する（120分）。																
	15	総括	実習課題の振り返りと授業を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への回答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90分）。 事後：自分の眼差しを形成してきた経験を書き出し、現在のメディアミックスが作り出しつつある今後の眼差しについて、仮説をまとめてみる（240分?）。																
関連科目	暮らしの中の文化／芸術論																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>ルネサンスの聖史劇</td><td>杉山博昭</td><td>中央公論新社</td></tr><tr><td>2</td><td>ヨーロッパのキリスト教美術（上）（下）</td><td>エミール・マール</td><td>岩波文庫</td></tr><tr><td>3</td><td>ルネサンス絵画の社会史</td><td>マイケル・バクサンドール</td><td>平凡社</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ルネサンスの聖史劇	杉山博昭	中央公論新社	2	ヨーロッパのキリスト教美術（上）（下）	エミール・マール	岩波文庫	3	ルネサンス絵画の社会史	マイケル・バクサンドール	平凡社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ルネサンスの聖史劇	杉山博昭	中央公論新社																	
2	ヨーロッパのキリスト教美術（上）（下）	エミール・マール	岩波文庫																	
3	ルネサンス絵画の社会史	マイケル・バクサンドール	平凡社																	
評価方法 （基準）	【質問内容によって評価される】 1. 毎回の質問内容 [80%] 2. ワークシートの内容 [20%] 3. いずれも、基準は「好奇心」と「論理性」の多寡である。																			
学生への メッセージ	【より良い質問をめざす】 1. より良い質問をするために、講義に集中できるコンディションを整える。 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず進める。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 杉山研究室																			
備考	【自分の質問に自分で回答する】 1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。 2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの質問に回答を試みる。																			

科目名	英米文学	科目名 (英文)	English and American Literature
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3178a0		

授業概要・目的	この授業では古典から最新まで英語圏の文学作品を幅広く紹介します。作品が生まれた背景や経緯（地域性）はもちろん、国・地域・時代を超えて読まれるのに必要な普遍性についても考察していきます。また、作品には読ませるための仕掛けが施されています。実際に作品を読むことで、どのような技巧がテーマを深めるのに用いられているのか探っていきます（これには作品の翻訳を使用し、グループワークの手法を取り入れます）。授業での取り組みをさらに深めるため、学期末にはレポートを作成します。授業で扱った作品を最後まで読み、作品の地域性・普																																																																		
到達目標	・イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の文学・歴史・文化への理解を深める。 ・英語圏文学の特徴を学ぶとともに、翻訳で読むときの注意点を理解している。 ・文学作品を読んで「なに」が「どのように」描かれているのか説明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業中に原文を読むことがある。必ず辞書を持参すること。 授業では資料を配布するので、配布資料を自己管理し、前回分を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教員の免許状取得のための選択科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方、学期末レポートについて説明する。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>英米の古典文学（1）：ナサニエル・ホーソーンとアメリカ</td><td>ナサニエル・ホーソーンの文学について紹介する。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>英米の古典文学（2）：エドガー・アラン・ポーとアメリカ</td><td>エドガー・アラン・ポーの作品について紹介する。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>英米の古典文学（3）：ウィリアム・シェイクスピアとイギリス・アメリカ・日本</td><td>シェイクスピアの作品について紹介する。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>翻訳を／で読むⅠ：なぜ物語はそうに始まるのか</td><td>文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>文学賞と英語圏文学（1）：ブッカー賞の歴史と受賞作</td><td>ブッカー賞について紹介する。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>文学賞と英語圏文学（2）：ピュリッツァー賞の歴史と受賞作</td><td>ピュリッツァー賞について紹介する</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>文学賞と英語圏文学（3）：ノーベル賞の歴史と受賞作</td><td>ノーベル賞について紹介する。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>文学賞と英語圏文学（4）：トニ・モリスンとサルマン・ラシュディ</td><td>ノーベル賞を受賞した作家のうち、モリスンとラシュディの紹介をする。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>翻訳を／で読むⅡ：これは英語でどうなっているの？</td><td>文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>文学のスタイルとジャンル（1）：英米文学と冒険ファンタジー</td><td>英米文学を代表する冒険ファンタジー小説の紹介をする。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>文学のスタイルとジャンル（2）：イギリス文学とモンスター</td><td>怪物が登場するイギリス文学の紹介をする。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>文学のスタイルとジャンル（3）：アメリカ文学と探偵ミステリー</td><td>私立探偵が登場するアメリカ文学の紹介をする。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>翻訳を／で読むⅢ：反復・象徴・引用・地理</td><td>文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。</td><td>予習と復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>これまでの学習内容の振り返り</td><td>これまでの授業内容の振り返り、学期末レポートに向けた説明</td><td>これまでの授業内容の復習（2時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、学期末レポートについて説明する。	予習と復習（2時間）	2	英米の古典文学（1）：ナサニエル・ホーソーンとアメリカ	ナサニエル・ホーソーンの文学について紹介する。	予習と復習（2時間）	3	英米の古典文学（2）：エドガー・アラン・ポーとアメリカ	エドガー・アラン・ポーの作品について紹介する。	予習と復習（2時間）	4	英米の古典文学（3）：ウィリアム・シェイクスピアとイギリス・アメリカ・日本	シェイクスピアの作品について紹介する。	予習と復習（2時間）	5	翻訳を／で読むⅠ：なぜ物語はそうに始まるのか	文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。	予習と復習（2時間）	6	文学賞と英語圏文学（1）：ブッカー賞の歴史と受賞作	ブッカー賞について紹介する。	予習と復習（2時間）	7	文学賞と英語圏文学（2）：ピュリッツァー賞の歴史と受賞作	ピュリッツァー賞について紹介する	予習と復習（2時間）	8	文学賞と英語圏文学（3）：ノーベル賞の歴史と受賞作	ノーベル賞について紹介する。	予習と復習（2時間）	9	文学賞と英語圏文学（4）：トニ・モリスンとサルマン・ラシュディ	ノーベル賞を受賞した作家のうち、モリスンとラシュディの紹介をする。	予習と復習（2時間）	10	翻訳を／で読むⅡ：これは英語でどうなっているの？	文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。	予習と復習（2時間）	11	文学のスタイルとジャンル（1）：英米文学と冒険ファンタジー	英米文学を代表する冒険ファンタジー小説の紹介をする。	予習と復習（2時間）	12	文学のスタイルとジャンル（2）：イギリス文学とモンスター	怪物が登場するイギリス文学の紹介をする。	予習と復習（2時間）	13	文学のスタイルとジャンル（3）：アメリカ文学と探偵ミステリー	私立探偵が登場するアメリカ文学の紹介をする。	予習と復習（2時間）	14	翻訳を／で読むⅢ：反復・象徴・引用・地理	文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。	予習と復習（2時間）	15	これまでの学習内容の振り返り	これまでの授業内容の振り返り、学期末レポートに向けた説明	これまでの授業内容の復習（2時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、学期末レポートについて説明する。	予習と復習（2時間）																																																																
2	英米の古典文学（1）：ナサニエル・ホーソーンとアメリカ	ナサニエル・ホーソーンの文学について紹介する。	予習と復習（2時間）																																																																
3	英米の古典文学（2）：エドガー・アラン・ポーとアメリカ	エドガー・アラン・ポーの作品について紹介する。	予習と復習（2時間）																																																																
4	英米の古典文学（3）：ウィリアム・シェイクスピアとイギリス・アメリカ・日本	シェイクスピアの作品について紹介する。	予習と復習（2時間）																																																																
5	翻訳を／で読むⅠ：なぜ物語はそうに始まるのか	文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。	予習と復習（2時間）																																																																
6	文学賞と英語圏文学（1）：ブッカー賞の歴史と受賞作	ブッカー賞について紹介する。	予習と復習（2時間）																																																																
7	文学賞と英語圏文学（2）：ピュリッツァー賞の歴史と受賞作	ピュリッツァー賞について紹介する	予習と復習（2時間）																																																																
8	文学賞と英語圏文学（3）：ノーベル賞の歴史と受賞作	ノーベル賞について紹介する。	予習と復習（2時間）																																																																
9	文学賞と英語圏文学（4）：トニ・モリスンとサルマン・ラシュディ	ノーベル賞を受賞した作家のうち、モリスンとラシュディの紹介をする。	予習と復習（2時間）																																																																
10	翻訳を／で読むⅡ：これは英語でどうなっているの？	文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。	予習と復習（2時間）																																																																
11	文学のスタイルとジャンル（1）：英米文学と冒険ファンタジー	英米文学を代表する冒険ファンタジー小説の紹介をする。	予習と復習（2時間）																																																																
12	文学のスタイルとジャンル（2）：イギリス文学とモンスター	怪物が登場するイギリス文学の紹介をする。	予習と復習（2時間）																																																																
13	文学のスタイルとジャンル（3）：アメリカ文学と探偵ミステリー	私立探偵が登場するアメリカ文学の紹介をする。	予習と復習（2時間）																																																																
14	翻訳を／で読むⅢ：反復・象徴・引用・地理	文学作品を翻訳で読むときの注意について説明する。	予習と復習（2時間）																																																																
15	これまでの学習内容の振り返り	これまでの授業内容の振り返り、学期末レポートに向けた説明	これまでの授業内容の復習（2時間）																																																																
関連科目	リーディングⅡなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業中に適宜プリントを配布する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に適宜プリントを配布する。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	授業中に適宜プリントを配布する。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>大学教授のように小説を読む方法（増補新版）</td><td>トーマス・C・フォスター</td><td>白水社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学教授のように小説を読む方法（増補新版）	トーマス・C・フォスター	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学教授のように小説を読む方法（増補新版）	トーマス・C・フォスター	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	授業での取り組み（60%）、レポート等の課題（40%）																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	天野研究室（7号館3階）																																																																		
備考	配布資料の読み込みなどにかかる事前事後学習の総時間を60時間程度とする。																																																																		

	レポート等に関するフィードバックは、レポートを受理した後に行う。
--	----------------------------------

科目名	神話論	科目名 (英文)	Mythology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3179a0		

授業概要・目的	太古のときより人類が生みだしてきた神話というジャンルを入りに、現代社会・文化の諸問題について考える方法を身につける。 神話は古代のものという見方は誤りである。神話は文化・文明の精髓（エッセンス）である。その証拠に、小説・映画・アニメといった大衆文化から、生活習慣、さらには政治のなかにも、神話モチーフは存在している。 神話とは何か、なぜ神話が生き続けるのか、日本と世界各地の神話にどのような違いがあるのかなど、さまざまな角度から神話に光をあて、マクロな視点から考察を深める。																																																																		
到達目標	・神話というジャンルについて、複数のテーマから説明できる。 ・現代文化にどのようなかたちで神話が生きているかについて説明できる。 ・日本や世界の文化と思想の流れについて、基礎的な知識を身につけ、その全体像を把握できる。																																																																		
授業方法と留意点	講義が中心となる。 毎回テーマに沿って講義し、最後にコメントペーパーを提出する。 ペーパーに対するフィードバックは次の授業内で行う。 また、4 回を学生によるプレゼンテーションに当てる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	広い教養の獲得と思考力・記述力の深化。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>なぜ神話を学ぶのか</td><td>講義内容全体への導入。 神話とは何か、なぜ神話を学ぶのか、入門的に解説する。</td><td>神話とはどのようなものを指すのか調べる</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第1部「世界の神話と構造」 世界の創成 人類の誕生 1</td><td>われわれの存在理由を語る、この世界と人間の誕生について考察する。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>人間の誕生 2 文明の誕生</td><td>人が自然とどのように向き合ってきたのか、文明と自然という観点から考察する。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>4</td><td>英雄神話</td><td>世界中の神話で描かれる「英雄」に注目し、人は英雄に何を求めるのか考える。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>5</td><td>オイディプス神話とは何か</td><td>ギリシア神話のなかからオイディプスを取りあげ、その内容と意義について考察する。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>6</td><td>シンデレラの謎</td><td>世界中にひろがるシンデレラをめぐる伝承を取りあげ、そこに潜む人類史的な謎をめぐって考察する。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第1部プレゼンテーション</td><td>各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。</td><td>プレゼンテーション・レポートの準備</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第1部プレゼンテーション</td><td>各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。</td><td>プレゼンテーション・レポートの準備</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第2部「日本の神話と社会」 ヤマタノオロチとスサノオ</td><td>神話と地域の伝承について考える</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>10</td><td>神と鬼</td><td>昔話・伝承・祭などに見られる鬼と神の関係について考える</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>11</td><td>浦島太郎と異界</td><td>浦島太郎伝説をもとに、神婚と異界について考える。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>12</td><td>一寸法師と下剋上</td><td>一寸法師の物語をもとに、成り上がりについて、また変身について考える。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>13</td><td>縁起 由来を語ること</td><td>ものごとの発生、由来を語ることと、その意義について考える。</td><td>授業で取り上げた神話の類例を調べる</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第2部プレゼンテーション</td><td>各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。</td><td>プレゼンテーション・レポートの準備</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第2部プレゼンテーション</td><td>各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。</td><td>プレゼンテーション・レポートの準備</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	なぜ神話を学ぶのか	講義内容全体への導入。 神話とは何か、なぜ神話を学ぶのか、入門的に解説する。	神話とはどのようなものを指すのか調べる	2	第1部「世界の神話と構造」 世界の創成 人類の誕生 1	われわれの存在理由を語る、この世界と人間の誕生について考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	3	人間の誕生 2 文明の誕生	人が自然とどのように向き合ってきたのか、文明と自然という観点から考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	4	英雄神話	世界中の神話で描かれる「英雄」に注目し、人は英雄に何を求めるのか考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	5	オイディプス神話とは何か	ギリシア神話のなかからオイディプスを取りあげ、その内容と意義について考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	6	シンデレラの謎	世界中にひろがるシンデレラをめぐる伝承を取りあげ、そこに潜む人類史的な謎をめぐって考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	7	第1部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備	8	第1部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備	9	第2部「日本の神話と社会」 ヤマタノオロチとスサノオ	神話と地域の伝承について考える	授業で取り上げた神話の類例を調べる	10	神と鬼	昔話・伝承・祭などに見られる鬼と神の関係について考える	授業で取り上げた神話の類例を調べる	11	浦島太郎と異界	浦島太郎伝説をもとに、神婚と異界について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	12	一寸法師と下剋上	一寸法師の物語をもとに、成り上がりについて、また変身について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	13	縁起 由来を語ること	ものごとの発生、由来を語ることと、その意義について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる	14	第2部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備	15	第2部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	なぜ神話を学ぶのか	講義内容全体への導入。 神話とは何か、なぜ神話を学ぶのか、入門的に解説する。	神話とはどのようなものを指すのか調べる																																																																
2	第1部「世界の神話と構造」 世界の創成 人類の誕生 1	われわれの存在理由を語る、この世界と人間の誕生について考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
3	人間の誕生 2 文明の誕生	人が自然とどのように向き合ってきたのか、文明と自然という観点から考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
4	英雄神話	世界中の神話で描かれる「英雄」に注目し、人は英雄に何を求めるのか考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
5	オイディプス神話とは何か	ギリシア神話のなかからオイディプスを取りあげ、その内容と意義について考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
6	シンデレラの謎	世界中にひろがるシンデレラをめぐる伝承を取りあげ、そこに潜む人類史的な謎をめぐって考察する。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
7	第1部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備																																																																
8	第1部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備																																																																
9	第2部「日本の神話と社会」 ヤマタノオロチとスサノオ	神話と地域の伝承について考える	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
10	神と鬼	昔話・伝承・祭などに見られる鬼と神の関係について考える	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
11	浦島太郎と異界	浦島太郎伝説をもとに、神婚と異界について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
12	一寸法師と下剋上	一寸法師の物語をもとに、成り上がりについて、また変身について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
13	縁起 由来を語ること	ものごとの発生、由来を語ることと、その意義について考える。	授業で取り上げた神話の類例を調べる																																																																
14	第2部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備																																																																
15	第2部プレゼンテーション	各自の調査結果を発表し、全体で質疑応答を行う。	プレゼンテーション・レポートの準備																																																																
関連科目	文化科目全般																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	レポートまたはプレゼンテーション (計2回) 60%、授業参加度 (コメントペーパー等) 40%で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館4階 (橋本研究室)																																																																		
備考	事前事後の学習時間の目安は計60時間。																																																																		

	コメントペーパーについては次回、プレゼンテーションについてはその場でフィードバックする。
--	--

科目名	現代社会論	科目名 (英文)	Modern Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2180a0		

授業概要・目的	昨今、私たちの日常において、「3密」や「ステイホーム」、さらには「ブラック企業」や「婚活」、「インスタ映え」、「パワハラ」といった新しい概念をもった言葉が頻繁に使われ、それをめぐる言説が展開されている。これらの言葉や言説はまさに、現代社会を象徴しているものであるといえよう。本講義においては、こういった言葉や言説をめぐる現象について、さまざまなレンズを使って見直してみることを通じて、私たちの住むこの社会の構造がいかなるものであるのかを明らかにする。なお、本講義では特に、社会と人との関わり合いの観点に焦点を絞る。
到達目標	本講義を通じて、現代社会の姿を明らかとできると同時に、自身のふるまい方あるいは立ち位置を再確認することが可能となろう。
授業方法と留意点	本授業は、一方的な講義形式に終わらせることなく、出来るかぎり、学生諸君の生の声を取り入れていきたい。 なお、本授業においては、遅刻は厳禁であるので、その点を留意されたい。
科目学習の効果 (資格)	現代の社会現象を改めて見直すことを通じて、社会人としての基礎教養の獲得につながるであろう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「現代社会論」の目指すこと	「現代社会」の概念を把握し、今後へのステップとする。	新聞から「現代社会」を象徴していると思われる事柄を抜き出してみましょう。
	2	社会のなかの「人」	「人」をテーマに、現代社会を捉えることの意義を考える。	現代社会のキーワードを考えてみましょう。
	3	人間関係の社会学	現代社会における人間関係を客観的なまなざしをもって捉えなおす。	自身のアイデンティティは何なのかを考えてみましょう。
	4	血液型性格判断からみえるもの	血液型性格判断を通じて、先入観の作られ方を探る。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	5	占いからみえるもの	現代社会における各種占いの存在意義を探る。	いろいろな「占い」の結果で使われている表現を抜き出してみましょう。
	6	人口減少社会の構造	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の構造について考察する。	「少子化」を説明できるようにしましょう。
	7	人口減少社会の問題点	日本における少子化現象を題材に、人口減少社会の問題点について考察する。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	8	各国の人口問題 (人口減少社会と人口過剰社会の仕組み)	各国の人口問題を把握するとともに、各国が取り組んでいる施策について検討する。	日本以外の国の人口構造を把握しましょう。
	9	セックスとジェンダー	男と女をめぐる固定観念について考える。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	10	男と女の関係性	男と女を題材に、人が人を区別し、ひいてはそれが差別にいたることについての意味と構造を考える。	男の立場および女の立場でメリット・デメリットを考えてみましょう。
	11	ハラスメントの構造	男と女、男と男、女と女の場面をめぐるセクシュアル/アカデミック/アルコール・ハラスメントにみられる権力構造についての考察を行なう。	配布プリントをよく読んでおきましょう。
	12	個人と集団	自殺や犯罪という行為を事例に取り上げ、個人主義と集団主義について考える。	「社会規範」の意味について考えてみましょう。
	13	家族の役割	現代社会における家族の意味と役割について考える。	自身の家族間での位置づけについて客観的に捉え直してみましょう。
	14	「モノ」に翻弄される人びと	現代におけるコミュニケーション・ツール (たとえば、電話、携帯メール、インターネット、Facebook、LINE 等) の意味と役割を考える。	自身のコミュニケーション・ツールの使い方を見つめ直してみましょう。
	15	まとめ	「人」・「モノ」・「コト」のかかわり合いの意味について考え、「現代社会」の意味づけおよびそれにあたって必要とされる眼差しについて総括する。 (最終レポート試験)	これまでに何を学んだのかをまとめてみましょう。

関連科目	時事問題 I・II
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回の課題および最終レポート試験により評価する。 詳細は、第 1 回目の授業で伝える。
学生へのメッセージ	本講義を通じて、わたしが期待することは、受講生諸君に先入観や固定観念といったものを打ち崩してもらうことです。そのためには、積極的に発言をし、議論を交わしていく必要があります。ともに切磋琢磨していきましょう。
担当者の研究室等	浦野研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	本授業は、現代社会の事象を題材に進めていく。よって、突発的な事件や事故が発生した際は、シラバスの授業計画に伴わず、題材として取り上

	げることがあることを留意されたい。特にコロナ禍においては、社会変容を引き起こすような事例が多く浮上するため、各回のテーマが変更される可能性が高い点を了承いただきたい。 また、受講者数（50名以下の場合）によっては学生諸君にプレゼンテーションをしてもらいながら授業を進めることとしたい。 毎授業時にリアクションペーパーにコメントを記入してもらい、翌週の授業でフィードバックを行う
--	---

科目名	国際社会論	科目名 (英文)	International Sociology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2181a0		

授業概要・目的	国際社会を構成する基本的な単位であるにもかかわらず、「国家」は必ずしも身近に感じられるものではない。本講義は、「そのような国家とはどのような集団であり、なぜ存在し、どのような活動をおこなってきたのか」また「国家はこれからどこに向かおうとしているのか」といった問いに対して答えようとするテキストを通じて、現代の国際社会について理解を深めることを目的とする。
到達目標	国家の統治と私たちの社会生活との関係についての分析的な考察に触れ、現代社会に対する理解を深めることができる。
授業方法と留意点	原則として講義形式を取り、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。 【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.08.30) ・講義は、①Teams を通じたリアルタイム配信 (後日視聴も可能)、②Moodle を通じたレジュメ・課題等の配信、という 2 つの手段を適宜組み合わせで行ないます。 【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.11.17) ・11 月 8 日 (月) より、対面講義への参加が可能
科目学習の効果 (資格)	現代社会における「国家」をめぐる諸問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 「国家」について考えるための枠組み	はじめに 第 1 章 国家とは何か	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
	2	国家についての各論考察 (1)	第 2 章 国家と暴力	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	3	国家についての各論考察 (2)	第 3 章 国家と官僚制	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	4	国家についての各論考察 (3)	第 4 章 国家と戦争	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	5	国家についての各論考察 (4)	第 5 章 国家と正当性	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	6	国家についての各論考察 (5)	第 6 章 国家と社会	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	7	国家についての各論考察 (6)	第 7 章 国家と統計 (学)	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	8	国家についての各論考察 (7)	第 8 章 国家とナショナリズム	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	9	国家についての各論考察 (8)	第 9 章 国家と資本主義経済	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	10	国家についての各論考察 (9)	第 10 章 国家と民主主義	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	11	国家についての各論考察 (10)	第 11 章 国家と社会福祉	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	12	国家とグローバル化 (1)	第 12 章 国家のグローバル化	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	13	国家とグローバル化 (2)	第 13 章 脱植民地化と「崩壊国家」	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	14	国家とグローバル化 (3)	第 14 章 グローバル化のなかの国家	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	15	まとめと補遺	第 15 章 国家の現在、国家の将来 おわりに	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分)

				〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国家の社会学	佐藤成基	青弓社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	■定期試験 100% 【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.08.30) ・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価(100%)を実施します。 (課題の提示および提出は、Moodleを通じて行ないます。)			
学生への メッセージ	教科書は、毎回の授業だけでなく、定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。 【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.08.30) ・教科書は、授業内で提示する課題への取り組みの際にも必要です。必ず購入の上で受講してください。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室 ※ただし2021年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。			

科目名	哲学と倫理	科目名 (英文)	Philosophy and Ethics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3182a0		

授業概要・目的	哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つてあるのか。本講義では哲学的に問うことの本質を明らかにしながら、いくつかの哲学的・倫理学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。「人間の心と動物の心」、「悪」、「人生と時間」といったテーマを中心に論じる。
到達目標	哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。 授業で取り上げる個々の哲学・倫理学的テーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。
授業方法と留意点	授業は講義形式で行うが、受講者同士のディスカッションの時間も組み込む予定。また、必要に応じて資料を配付する。
科目学習の効果 (資格)	哲学的に考えることとはどういうことであるかを理解し、これを実践することは、学問的に必要であるばかりではなく、人生の様々な局面においても求められるものである。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義へのイントロダクション	哲学とは何かについて解説をする。 古代ギリシアにおける哲学 近代哲学における精神と物質の二元論 現代哲学の諸課題	哲学に対する自分なりのイメージをまとめておく。
	2	知識について (1)	どうやって私たちは何かを知るのだろうか。 経験論と合理論	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	3	知識について (2)	科学と哲学との対立と対話	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	4	知識について (3)	言葉が意味を持つとはどういうことか。 どうしてコミュニケーションが可能になるのか。 言葉の意味と音としての言葉	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	5	心の問題 (1)	心の中というものはあるのだろうか。 現象学と行動主義	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	6	心の問題 (2)	他人の心を知ることはできるのだろうか。 独我論と共同主観性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	7	心の問題 (3)	心と身体の関係はどうなっているのだろうか。 身心問題の難しさ。 観念論と実在論を越えた身体のある方	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	8	自由と因果性 (1)	私たちの行為は自由に基づいているのか、それとも、何らかの法則に決定されているのか。 カントの倫理思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	9	自由と因果性 (2)	実存哲学の自由に対する捉え方 因果性と関係性	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	10	悪について	正しいことと悪いこととの区別はどのような根拠があるのか。 悪とは何か。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	11	生と死 (1)	生きることの意味。死ぬこととはどういうことか	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	12	生と死 (2)	ハイデガーの死に関する思想 仏教の死に関する思想	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	13	神について	神は存在するのか。 魂の不死の問題	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	14	世界について	我々の生きる世界とはいかなるものか。 人間の世界における位置。	授業で解説をした立場についてディスカッションをした上で、それぞれまとめておく。
	15	まとめ	講義を通じて明らかになった哲学的な考え方の特徴を改めてまとめてみる。	授業全体をまとめておくこと。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	<子ども>のための哲学	永井均	講談社現代新書
	2	ダンゴムシに心はあるのか	森山徹	PHP サイエンス・ワールド新書
	3	哲学ってどんなこと?	ネーゲル	昭和堂

評価方法 (基準)	授業内でのレポート・平常点 (40%) と授業後のレポート課題 (60%)
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	大学までは、哲学的なものの考え方を訓練する機会がなかなかなかったと思いますが、これからの困難な時代を生き抜くためには、自分でものを考えることが一番大事です。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	---

備考	授業は Teams のリアルタイムで行う。時間内での課題は moodle などを利用する。 適宜参考資料を紹介する。 事前事後学習に 60 時間必要。 レポートは Moodle を通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。
----	---

科目名	現代学術論	科目名 (英文)	Contemporary Scientific Thought
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3183a0		

授業概要・目的	現代のさまざまな文化（サブカルチャー）を取り上げて、それがメインカルチャーであるいわゆる「学術」（専門的な学問と芸術）に対してどのようなインパクトを与え、それがどのような仕方現代におけるメインカルチャー自体の変貌へとつながっているのかを明らかにする。
到達目標	サブカルチャーの意義と限界を見極めることで、文化に対する柔軟な批評精神を獲得するとともに、現代日本の文化の発展を俯瞰する歴史的な目を養う。
授業方法と留意点	教科書を用いないノートでの講義が中心となるが、適宜学生による発表の機会を設ける。
科目学習の効果（資格）	資格試験のベースとなる、教養・語彙力・文章読解力・思考力の養成。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	文化とは何か 文明と文化、文化と教養、文化と未開、高級文化と大衆文化 日本における西洋近代の受容における文明と文化	講義内容の再確認と疑問点の整理
	2	サブカルチャーについて (1)	芸術と遊び (ホイジンガ、カイヨワ) 限界芸術論 (鶴見俊輔) 民俗学と民芸運動 (柳田國男、柳宗悦)	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	3	サブカルチャーについて (2)	大衆文化と労働者の文化 文化産業と消費文化 グローバル化とクリエイティブ産業 日本におけるサブカルチャーの勃興	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	4	カワイイ革命とオタクの台頭	伝統文化としての「かわいらしさ」 キャラクターイメージの氾濫 「おたく」から「オタク」へ 二次元文化とオタクイメージの氾濫	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	5	映画について (1)	写真と映画の誕生と発展 複製文化の時代 (ベンヤミン)	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	6	映画について (2)	産業としての映画 ハリウッド映画の支配 日本映画の黄金期と凋落	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	7	マンガ・アニメについて (1)	漫画の歴史 日本のマンガの誕生と発展	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	8	マンガ・アニメについて (2)	日本のマンガの現在 マンガの「表現」とマンガの「見方」	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	9	マンガ・アニメについて (3)	ディズニーとアニメ 日本のアニメーションの誕生と発展	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	10	マンガ・アニメについて (4)	日本のアニメーションの現在	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	11	メディアとサブカルチャー (1)	テレビと広告 芸能界とテレビ	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	12	メディアとサブカルチャー (2)	ネットワーク社会と政治 テレビ・新聞とインターネット ポスト・トゥルースとフェイクニュース	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	13	オカルトとスピリチュアル	錬金術とオカルト 疑似科学の蔓延 カルト宗教の問題	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	14	巡礼と観光	江戸時代の巡礼 疑似イベントとしての観光 観光産業と世界遺産	・ キーワードについての事前リサーチ ・ 講義内容の再確認と疑問点の整理
	15	授業のまとめ		ノートの総整理と講義内容の要点整理

関連科目	文化科目全般。
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	動物化するポストモダン	東浩紀	講談社現代新書
	2	若い読者のためのサブカルチャー論講義録	宇野常寛	朝日新聞出版
	3	限界芸術論	鶴見俊輔	ちくま学芸文庫

評価方法（基準）	授業内小レポート、発表（35%）、レポート課題（65%） 受講者の人数によっては、発表を中間テストに換える場合がある。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階（有馬研究室） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	--

備考	授業は Teams のリアルタイムで行う。授業中の課題は moodle などを使用する。
----	--

	事前・事後学習は、総時間 60 時間を目安とする。 レポートは Moodle を通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。
--	--

科目名	現代中国論	科目名 (英文)	Contemporary China
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 紀
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3184a0		

授業概要・目的	今日地球レベルで国際化、情報化、開放化が進んでいる。この流れの中で世界最大の発展途上国の中国も凄まじい発展を遂げながら、さまざまな問題を抱えている。いまの中国のもつ魅力と問題点を歴史的、総合的な視点から明らかにしていくことが本授業の目標である。具体的には現代中国社会に関して、政治、経済、教育、文化、人口問題などを中心に議論をしながら、中国の全体像を正しく捉えてその社会の理解を深めたい。
到達目標	現代中国についての自分なりの見方を獲得できる。
授業方法と留意点	授業にはプリントを使用し、現代中国に関わる幾つかのトピックについて講義を行う。単方向の授業となりがちなので、毎回授業後半には授業の振り返りとしてレポートを課すので、質問などがある際はレポートに付け加える形で書いてほしい。
科目学習の効果 (資格)	常識力の向上。就職、面接試験に有効。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ユニットⅠ 現代中国の概況	国土、自然、地域区分、人口	次回用のプリント・地図等配布。学習課題：人口分布の不均衡、地域差
	2	ユニットⅠ 現代中国の概況	民族、宗教、行政	学習課題：多民族、与野党、地方自治
	3	ユニットⅠ 現代中国の概況	インバウンドにみる日本と中国の関係	学習課題：インバウンドが日本にもたらすものを考察してみる。
	4	ユニットⅠ 現代中国の概況	中国経済の今	学習課題：世界経済における中国の立ち位置を考察してくる。
	5	復習	1 チェックテスト	学習課題：現代中国についての基本知識を復習しておく。
	6	ユニットⅠ 現代中国の概況	中国の電気自動車の現況と日本の関係を考える	学習課題：脱炭素化時代に不可欠な電気自動車について調べる
	7	ユニットⅠ 現代中国の概況	少数民族について考える	学習課題：中国の少数民族についてその現況と問題点を考察する。
	8	ユニットⅠ 現代中国の概況	習近平の功績について	学習課題：習近平の生涯とその政治的功績について考える
	9	ユニットⅡ 中国近現代史	中国の現代史について (1)	学習課題：中華人民共和国の成立過程を考察する。
	10	復習	チェックテスト	学習課題：中国の近現代史についてまとめる
	11	ユニットⅡ 中国近現代史	中国の現代史について (2)	学習課題：建国以降の中国の歩みを知る。レポート題目提出。
	12	ユニットⅢ 中国の現代文化	中国の現代文化について	学習課題：中国が発信する文化について学ぶ
	13	ユニットⅢ 中国の政治	ポスト習近平を狙う政治家にういて	学習問題：習近平の次の世代の政治家について調べる
	14	ユニットⅢ 中国とアメリカ	世界 2 大大国の関係	学習課題：アメリカと中国の関係を調べる
	15	復習 中華人民共和国建国以降現在まで	☆ 単元テスト 第 3 回	学習課題：中国近現代の歩みをまとめてみる。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験は実施しない。 授業期間中随時行う復習チェックテスト、レポート (授業最後の時間を利用)、授業に臨む積極性等により総合的に評価する。 評価基準 チェックテスト 60% レポート、課題 平常評価 40%
-----------	---

学生へのメッセージ	授業中の私語は他の受講生の迷惑となるので慎んでほしい。随時レポート、チェックテストを課し、知識の定着を図るので、授業後も復習を心がけること。事前・事後に各 60 分の学修を要する。レポートは提出前に自分用にも記録をとることを勧める。 チェックテストの平均点が六割に満たない者、出席率が三分の二を越えないものは、如何なる理由があれ、単位は認定できません。履修の際はこの点をふまえて慎重に履修するようにしてください。 新聞を読むことを勧める。特に現代中国にかかわる記事には注目すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師控室
----------	-----------------

備考	授業外で連絡の必要場合は水曜昼休みに講師控室までお越しください。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。
----	---

科目名	ミュージアムへの招待	科目名 (英文)	Introduction to Museum Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL1185a0		

授業概要・目的	【そもそも博物館とはなにか】 全国で5,700館を数える「博物館」だが、じつは歴史系博物館以外にも、美術館・文学館・記念館・民芸館・動物園・水族館といった施設が含まれる。この授業では、そのなかでもとくに注目すべき成功を収めている「ベネッセハウス」ならびに「ベネッセアートサイト直島」を取り上げ、なぜこの施設・場所・展示が世界的に高い評価を受けているのかを考察する。さらに、同地で展示されている現代美術の具体的な作品を確認し、モダンアートはどこがおもしろく、いかに多くの人びとに影響を及ぼし続けるのかを検討																																										
到達目標	【以下の3点を自分の言葉で説明できるようになる】 1. 博物館はどこから来たのか。 2. 博物館はなにをするのか。 3. 博物館はどこへ行くのか。																																										
授業方法と留意点	【講義をふまえてクイズに答える】 1. 講義を受ける。 2. 講義後の制限時間内に、提示されたクイズへの応答をMoodle経由で入力する。 3. 講義前に配布のフィードバックシートを確認し、講義で解説を聞く。 4. 校外実習を進める。																																										
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格の取得 (必修科目)																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>授業の概要と資格取得の条件・諸注意について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジュメ掲載情報を検索して確認する (60分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>拠点</td><td>ベネッセアートサイト直島の起源と展開を解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>地域</td><td>ベネッセアートサイト直島と瀬戸内国際芸術祭について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>素材</td><td>ヤニス・クネリス作品の由来と魅力について確認する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>緊張</td><td>李禹煥作品の由来と魅力について確認する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>光線</td><td>ジェームズ・タレル作品の由来と魅力について確認する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>空間</td><td>安藤忠雄建築の由来と魅力について確認する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>普遍</td><td>ウォルター・デ・マリア作品の由来と魅力について確認する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>写真</td><td>須田悦弘作品の由来と魅力について確認する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業の概要と資格取得の条件・諸注意について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジュメ掲載情報を検索して確認する (60分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	2	拠点	ベネッセアートサイト直島の起源と展開を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	3	地域	ベネッセアートサイト直島と瀬戸内国際芸術祭について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	4	素材	ヤニス・クネリス作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	5	緊張	李禹煥作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	6	光線	ジェームズ・タレル作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	7	空間	安藤忠雄建築の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	8	普遍	ウォルター・デ・マリア作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。	9	写真	須田悦弘作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																								
1	導入	授業の概要と資格取得の条件・諸注意について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジュメ掲載情報を検索して確認する (60分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。																																								
2	拠点	ベネッセアートサイト直島の起源と展開を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。																																								
3	地域	ベネッセアートサイト直島と瀬戸内国際芸術祭について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。																																								
4	素材	ヤニス・クネリス作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。																																								
5	緊張	李禹煥作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。																																								
6	光線	ジェームズ・タレル作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。																																								
7	空間	安藤忠雄建築の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。																																								
8	普遍	ウォルター・デ・マリア作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。																																								
9	写真	須田悦弘作品の由来と魅力について確認する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載情報を検索して確認する (90分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90分)。																																								

																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					</
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

科目名	ミュージアムコレクション論	科目名 (英文)	Studies on Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2186a0		

授業概要・目的	【博物館資料の価値とはなにかを学ぶ】 博物館資料の種類・特質・収集・整理・保管について「理論」を学ぶ。博物館になくてはならない博物館資料は、美術・歴史・民俗・考古などさまざまな領域に属し、さらに絵画・彫刻・工芸・映像など豊富なジャンルにわたる。その分類法をふまえて、まずは具体的な作品の魅力や鑑賞法に触れ、個々の資料が持つかけがえのない価値とはなにかを考える。その考察をとおり、個々人が抱く作品への興味や関心を大きく育み、博物館資料を仕事として扱う際の基本的知識を裏打ちする。																																																										
到達目標	【以下の3点を自分の言葉で説明できるようになる】 1. 博物館資料が有するふたつの資料価値 2. 博物館資料の構造的特性と資料価値の関係 3. 上述のふたつの資料価値が衝突する際の対応策																																																										
授業方法と留意点	【講義をふまえて質問を考える】 1. 講義を受ける。 2. 講義後の制限時間内にMoodle経由で質問を入力する。 3. 講義前に配布のQ&Aシートを確認し、講義でフィードバックを受ける。 4. 校外実習に参加する。																																																										
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格の取得 (必修科目)																																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>はじめに</td><td>授業の概要と博物館資料の定義について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードし、レジュメ掲載作品を検索して確認する (60分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>絵画資料#1</td><td>絵画資料のうち、フレスコ画の歴史、特性と価値を解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>絵画資料#2</td><td>絵画資料のうち、テンペラ画の歴史、特性と価値を解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>絵画資料#3</td><td>絵画資料のうち、油彩画の歴史、特性と価値を解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>絵画資料#4</td><td>絵画資料のうち、水彩画の歴史、特性と価値を解説する。</td><td>実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>絵画資料#5</td><td>絵画資料のうち、現代美術、ミクストメディアの歴史、特性と価値を解説する。</td><td>実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>彫刻資料#1</td><td>彫刻資料のうち、木像と銅像の特性と価値を解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>彫刻資料#2</td><td>彫刻資料のうち、現代美術とインスタレーションの特性と価値を解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>自然史資料</td><td>自然史資料である、生体資料などの特性と価値を解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>資料収集</td><td>博物館資料の収集をめぐる意義と問題点を解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>資料活用</td><td>博物館資料の活用をめぐる意義と問題点を解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>博物館見学</td><td>〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。</td><td>見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する (60分) 事後:実地の経験をふまえてワークシートを完成させる (120分)。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>博物館見学</td><td>〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。</td><td>見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	はじめに	授業の概要と博物館資料の定義について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、レジュメ掲載作品を検索して確認する (60分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	2	絵画資料#1	絵画資料のうち、フレスコ画の歴史、特性と価値を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	3	絵画資料#2	絵画資料のうち、テンペラ画の歴史、特性と価値を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	4	絵画資料#3	絵画資料のうち、油彩画の歴史、特性と価値を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	5	絵画資料#4	絵画資料のうち、水彩画の歴史、特性と価値を解説する。	実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	6	絵画資料#5	絵画資料のうち、現代美術、ミクストメディアの歴史、特性と価値を解説する。	実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	7	彫刻資料#1	彫刻資料のうち、木像と銅像の特性と価値を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	8	彫刻資料#2	彫刻資料のうち、現代美術とインスタレーションの特性と価値を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	9	自然史資料	自然史資料である、生体資料などの特性と価値を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	10	資料収集	博物館資料の収集をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	11	資料活用	博物館資料の活用をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	12	博物館見学	〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する (60分) 事後:実地の経験をふまえてワークシートを完成させる (120分)。	13	博物館見学	〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																								
1	はじめに	授業の概要と博物館資料の定義について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、レジュメ掲載作品を検索して確認する (60分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																								
2	絵画資料#1	絵画資料のうち、フレスコ画の歴史、特性と価値を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																								
3	絵画資料#2	絵画資料のうち、テンペラ画の歴史、特性と価値を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																								
4	絵画資料#3	絵画資料のうち、油彩画の歴史、特性と価値を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																								
5	絵画資料#4	絵画資料のうち、水彩画の歴史、特性と価値を解説する。	実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																								
6	絵画資料#5	絵画資料のうち、現代美術、ミクストメディアの歴史、特性と価値を解説する。	実習は2コマを充当する。別の曜日に2コマ連続で実施する。 事前:絵画資料の特性をもういちど復習しておく (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																								
7	彫刻資料#1	彫刻資料のうち、木像と銅像の特性と価値を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																								
8	彫刻資料#2	彫刻資料のうち、現代美術とインスタレーションの特性と価値を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																								
9	自然史資料	自然史資料である、生体資料などの特性と価値を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																								
10	資料収集	博物館資料の収集をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																								
11	資料活用	博物館資料の活用をめぐる意義と問題点を解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																								
12	博物館見学	〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する (60分) 事後:実地の経験をふまえてワークシートを完成させる (120分)。																																																								
13	博物館見学	〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は3コマ分に相当する。 事前:見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾																																																								

			を確認する。	向や展示の方針を確認する（60 分） 事後：実地の経験をふまえてワークシートを完成させる（120 分）。																
	14	博物館見学	〔校外実習〕実際の展示を見学し、資料価値がどのように展開されているのかを確認する。	見学は 3 コマ分に相当する。 事前：見学する博物館のサイトを確認し、作品の傾向や展示の方針を確認する（60 分） 事後：実地の経験をふまえてワークシートを完成させる（120 分）。																
	15	おわりに	実習課題の振り返りと授業内容を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードし、前回質問への応答内容を確認し、レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：博物館資料の価値が衝突する事例を複数考える。その事例に該当する作品を探し、鑑賞しに行く（240 分?）。																
関連科目	「他の学芸員課程の科目」／芸術論／芸能文化論／暮らしの中の文化																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 （基準）	【質問内容によって評価される】 1. 毎回の質問内容 [80%] 2. ワークシートの内容 [20%] 3. いずれも、基準は「好奇心」と「論理性」の多寡である。																			
学生への メッセージ	【より良い質問をめざす】 1. 資格取得の要件であるため、当然、出席は大切にする。 2. さらに、より良い質問をするために、講義に集中できるコンディションを整える。 3. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。																			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 杉山研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																			
備考	【自分の質問に自分で応答する】 1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。 2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの質問に応答を試みる。																			

科目名	博物館資料保存論	科目名 (英文)	Preservation of Museum Collections
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2187a0		

授業概要・目的	博物館にとって資料はなくてはならないものです。資料がなければ博物館は成り立たないと言っても過言ではありません。したがって資料の収集、管理、保存は学芸員にとって最も重要な仕事の1つとなります。また、一口に「資料」といっても例えば考古、歴史、民俗など様々な種類があります。本授業では学芸員の職務の経験を活かし、講義だけでなく、実際の技術も身に付けることを目的とする。
到達目標	資料の種類、取り扱い方、整理・管理・保存・修復の方法などの基礎的な知識と技能を習得できる。
授業方法と留意点	リアルタイムオンライン授業と実習。 遅刻・欠席は厳禁。 詳しくは Teams を確認すること。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格の取得 (必修科目)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	資料とは何か、資料保存とは何か	講義の進め方、自己紹介、博物館に関する話などをします。 資料の定義、種類について解説し、資料保存の基本的な考えについて講義します。	資料の分類と内容について復習する
	2	考古資料の保存 (1)	埋蔵文化財、考古資料の保存方法について講義します。	文化財保護法について復習する
	3	考古資料の保存 (2)	遺物の接合実習をします。	考古の接合の事例を書籍や web で調べる
	4	考古資料の保存 (3)	遺物の接合の続きと実測をします。	実測図を完成させ、次週までに提出する。
	5	民俗資料の保存	民俗資料の保存の方法について講義します。	さまざまな民俗資料について博物館の HP から調査する
	6	石造物の保存 (1)	石造物の保存方法について講義し、実測とスケッチをします。	実測図、スケッチの続きを行う。
	7	石造物の保存 (2)	石造物の実測、スケッチの続きをします。	実測図、スケッチを完成させ、次週までに提出する。
	8	歴史資料の保存 (1)	歴史資料の整理方法、保存方法について講義します。	授業で課した語句、地名について辞書で調べる
	9	歴史資料の保存 (2)	古文書修復の実習をします。	裏打ちの方法について復習する
	10	歴史資料の保存 (3)	和本の装丁の実習をします。	和本の装丁をもう一度やってみる。
	11	燻蒸と I P M	虫損から資料を守る燻蒸と I P M (総合的有害生物管理) という 2 つの方法を比較検討します。	燻蒸と虫干しについて復習する
	12	資料保存の現実	博物館見学	3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。
	13	資料保存の現実	博物館見学	3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。
	14	資料保存の現実	博物館見学	3 コマ分です。 日程は講義中に決めます。
	15	まとめ (確認テスト)	授業のまとめと筆記試験を行います (持ち込み不可)	今までのノートをまとめておく。

関連科目	他の学芸員課程の講義。日本史学、美術の歩み、風土と地理、芸能文化論、文化人類学、西洋史学、暮らしの中の文化。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題および実技テスト (40%)、確認テスト (60%)
-----------	------------------------------

学生へのメッセージ	学芸員を目指す方にとって必須の科目です。単に知識を得るだけでなく、私の経験をもとに資料保存の現実について一緒に考えたり、また保存に関わる基礎的な技能を身につけましょう。積極的な姿勢を望みます。
-----------	--

担当者の研究室等	赤澤研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	--

備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。 課外学習の日程は天候などの要件によって変更する場合がある。 授業中に課した課題は成績をつけた上で講評して受講者に返す。
----	--

科目名	ディスプレイ論	科目名 (英文)	Museum Display Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細田 慈人
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2188a0		

授業概要・目的	博物館施設における展示とは何か。展示の意義と役割について理解し、効果的な展示手法に関する理論の裏付けと実践に活用できる技術を身につけることをめざす。博物館施設の展示に関する基礎的知識の習得と実践的作業の演習。
到達目標	博物館施設における展示とは何かを説明することができる。また、具体的な展示物に即した効果的な展示を自ら考え、実施することが出来る。博物館施設の展示に関する基礎的な知識と技術の習得。
授業方法と留意点	博物館施設における展示の概要を講義形式で学び、具体的な展示の形態や手法については、実践的な演習を通して理解できるようにする。展示は単なる知識ではなく、実際の作業そのものである。その作業には、作業全体に関わる展示計画の策定が必要であるが、その策定の基礎となるのは、展示対象物や展示補助具等についての正しい知識とそれらを適切に取り扱う技術である。展示を実際に企画することで、実際に展示を担当する際に必要な技能や知識を養う。また、展示の企画立案を最終目標とするので博物館を見学し、レポートを作成する。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格認定のため必修の科目。

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
授業計画	1	全体ガイダンス	授業のねらいと受講上の諸注意について理解する。	事前: 博物館施設の活動について調べておくこと (1 時間)。 事後: 授業を振り返り、授業のねらいと受講上の諸注意についてまとめておくこと (1 時間)。
	2	博物館施設の役割	博物館施設の役割について理解する。	事前: 博物館施設の役割について調べておくこと (1.5 時間)。 事後: 授業を振り返り、博物館施設の役割についてまとめておくこと (2 時間)。
	3	学芸員の役割	学芸員の役割について理解する。	事前: 学芸員の役割について調べておくこと (1.5 時間)。 事後: 授業を振り返り、学芸員の役割についてまとめておくこと (2 時間)。
	4	展示の意義	展示の意義について理解する。	事前: 展示の意義について調べておくこと (1.5 時間)。 事後: 授業を振り返り、展示の意義についてまとめておくこと (2 時間)。
	5	展示の形態と手法	展示における形態と手法について理解する。	事前: 博物館施設における展示の形態と手法について調べておくこと (1.5 時間)。 事後: 授業を振り返り、展示の形態と手法についてまとめておくこと (2 時間)。
	6	展示資料の取り扱い	展示資料の取り扱いについて理解する。	事前: 博物館施設における展示資料の取り扱いについて調べておくこと (1.5 時間)。 事後: 授業を振り返り、展示資料の取り扱いについてまとめておくこと (2 時間)。
	7	展示のための設備と補助具	展示作業に必要な設備と補助具について理解する。	事前: 博物館施設における展示のための設備と補助具について調べておくこと (1.5 時間)。 事後: 授業を振り返り、展示のための設備と補助具についてまとめておくこと (2 時間)。
	8	前半のまとめ	前半の授業内容について理解度を確認する。	事前: 博物館施設における展示の全体について確認しておくこと (5 時間)。 事後: 授業を振り返り、展示の重要事項についてまとめておくこと (3 時間)。
	9	実地見学	博物館を訪問し、展示の実例を把握するとともに器具・施設の実例の使用例を理解する。	事前: 博物館施設における企画展について調べておくこと (1.5 時間)。 事後: 授業を振り返り、企画展の計画についてまとめておくこと (2 時間)。
	10	実地見学	博物館を訪問し、展示の実例を把握するとともに器具・施設の実例の使用例を理解する。	事前: 博物館施設における企画展について調べておくこと (1.5 時間)。 事後: 授業を振り返り、企画展の計画についてまとめておくこと (2 時間)。
	11	展示企画の立案と展示作業	実際に展示を企画・立案し、展示の構成、展示品とその陳列に必要な展示具の適切な選定について理解し、展示案を考える。	事前: 事前に自身の展示案について考えておく。(1.5 時間)。 事後: 企画した展示案に必要な器具や展示資料についての理解を深めておく (2 時間)。
	12	調書等の作成	資料借用の際に使用する調書等の作成について理解する。	事前: 調書作成時における留意事項を想起しておくこと (1.5 時間)。 事後: 展示企画時と調書作成時の違いについて反芻しておくこと (1.5 時間)。
	13	借用・返却と梱包	展示資料の借用と返却の実務、また借用・返却に必要な不可欠な梱包について理解する。	事前: 企画展における展示物の借用と返却の実務について調べておくこと (1.5 時間)。 事後: 授業を振り返り、展示物の借用と返却の実務についてまとめておくこと (2 時間)。
	14	展示企画実習	展示に至るまでの立案・資料借用・陳列の三工程について、実例をもとに展示企画を実行する上での留意点を理解する。	事前: 展示の立案もしくは展示作業についての手順を確認しておくこと (1.5 時間)。 事後: 授業を振り返り、展示の基準についてまとめておくこと (2 時間)。
	15	展示企画の評価と後半のまとめ	展示もしくは展示案の評価と後半の授業内容について理解度を確認する。	事前: 企画展の全体について確認しておくこと (5 時間)。 事後: 授業を振り返り、展示の重要事項についてまとめておくこと (3 時間)。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>展示論—博物館の展示をつくる—</td><td>日本展示学会</td><td>雄山閣</td></tr><tr><td>2</td><td>博物館展示論</td><td>黒沢浩</td><td>講談社</td></tr><tr><td>3</td><td>博物館展示・教育論（博物館シリーズ3）</td><td>小原巖</td><td>樹村房</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	展示論—博物館の展示をつくる—	日本展示学会	雄山閣	2	博物館展示論	黒沢浩	講談社	3	博物館展示・教育論（博物館シリーズ3）	小原巖	樹村房
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	展示論—博物館の展示をつくる—	日本展示学会	雄山閣																	
2	博物館展示論	黒沢浩	講談社																	
3	博物館展示・教育論（博物館シリーズ3）	小原巖	樹村房																	
評価方法 （基準）	第8回において課す前半授業理解度の確認レポート（30%）、第9回・第10回において課す博物館展示見学レポート（30%=15%×2回）、第11回において課す展示企画書（40%）によって評価する。 博物館実務を学ぶための必須となる授業であるため、博物館展示見学レポート及び展示企画書を提出しなかった場合、不合格または評価不能とする。																			
学生への メッセージ	第1回の資料配信において、受講心得と成績評価について資料を配布するので必ず確認すること。 各種博物館施設に足を運び、実際の展示に接するとともに、展示の形態や手法について理解に努めること。 また、教材配信を主として行う。																			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																			
備考	質問・相談等は当該授業の前後に対応する。 見学レポートについては博物館施設・相当施設・類似施設のいずれか2館を見学したうえでレポートを作成すること。また、第8回目に前半の授業の理解度確認のため、レポートを課す。第11回目資料配信時に作成を指示する展示企画案は、第14回資料配信後に評価する。																			

科目名	生涯学習論	科目名 (英文)	Lifelong Learning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 孝成
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2189a0		

授業概要・目的	高齢社会の現代日本では、生涯にわたる学習の必要性が指摘され続けています。ここでは「生涯学習」の基本的な理論とその実践例を紹介し、これからの「生涯学習」のあり方を考えていきます。特に担当教官の専門とする歴史学習を取り上げ、市民への文化の提供の方法やその効果、問題点を挙げていき、学芸員や各自治体の生涯学習担当としての知識と意識を身につけることを目的とします。また、各個人が「学ぶ」ことの意味を考えていくことも併せて講義します。																																																																		
到達目標	生涯学習に関する基礎的な知識と意識を身につけることができます。また、受講生自身も生涯学習の心構えを持ち、常に疑問を持つことを意識づけれます。																																																																		
授業方法と留意点	毎回、プリントデータをアップロードし、オンラインでプリントに沿って講義形式で進めます。毎回、授業終了後に質問などを受け付けます。遠隔授業となりましたので、Microsoft Teams を使用します。プリントが手元ないと理解できませんので、必ず前日までに入手しておいてください。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格などの必要単位となっていますが、自治体など市民に接する職業に就いた場合に対応の心構えの助けになるでしょう。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>生涯学習論とはなにか</td><td>本講義のねらいとその位置づけなど、講義を受けるための姿勢についてお話しします。</td><td>事前は必要ありませんが、事後に各自の「趣味」についてじっくり考えて下さい。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>社会教育と生涯学習の歴史 ①</td><td>現在の生涯学習の前提となる、社会教育の歴史と、生涯学習論の登場についてお話しします。</td><td>事前は必要ありませんが、事後に関連する歴史の見直しを。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>社会教育と生涯学習の歴史 ②</td><td>社会教育の歴史と、生涯学習論の登場について現状に繋げてお話しします。</td><td>事前に前回の授業の見直し (1 時間)、事後に近代日本歴史の復習。(3 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>日本の生涯学習と方法、内容</td><td>日本の生涯学習とその形態、内容と問題点の現状についてお話しします。</td><td>事前に身の周りの「生涯学習」を考え (2 時間)、事後、近隣自治体などで実状を見ること。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>生涯学習と行政の仕組み</td><td>生涯学習における社会教育行政の役割とあり方についてお話しします。</td><td>事前に近隣自治体の生涯学習を確認し (2 時間)、事後、授業内容を踏まえて新聞やネットで行政の対応の確認。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>生涯各期の学習課題</td><td>人の各年代による学習・教育の特徴と課題についてお話しします。</td><td>事前に家族の生涯学習を顧みて (1 時間)、事後、自身やご両親、周囲の人の生涯学習状況を改めて考える。(3 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>生涯学習と社会教育施設・公民館と図書館</td><td>社会教育施設の実態、特に公民館と図書館について概要をお話しします。</td><td>事前に周辺の社会教育施設を確認し (2 時間)、事後、その運営や実態をみる。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>なんのために学ぶのか</td><td>緒方洪庵と適塾を通じて「学ぶこと」の意味を考えます。(この講義は見学の日程の直前に行われます)</td><td>事前学習は必要ありませんが、直後に適塾の見学を予定していますので、事後の復習を。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>生涯学習と社会教育施設・博物館</td><td>博物館の役割と組織、問題点とその実態についてお話しします。</td><td>事前にこれまで訪れた博物館のことを思い出し (1 時間)、事後に近隣の博物館の見学。(3 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>生涯学習と文化財事業</td><td>生涯学習における歴史学習の実状と問題点、位置づけについてお話しします。</td><td>事前に新聞の文化財報道などを読んでおき (2 時間)、事後には周辺の自治体主催事業について再確認。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>人と「歴史」の関係</td><td>身近な「歴史」に関わることの効果とその特徴についてお話しします。</td><td>事前に自身の歴史を振り返り (2 時間)、事後、周囲の歴史についてもう一度考え直す。(2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>それぞれの「生涯学習」①</td><td>「学ぶ」ことの意味や「知」との向き合い方をお話しします。</td><td>事前に自身の趣味についてもう一度考え (1 時間)、事後、各自の趣味に沿った活動を行う。(3 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>それぞれの「生涯学習」②</td><td>混乱する時代に「学ぶ」ことがいかに大切で重要なことかをお話しします。</td><td>事前にこれまでの人生での「学び」を振り返り (1 時間)、事後に自分に沿った「学び」を考えていく。(3 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>反・反知性主義</td><td>ネットを中心に蔓延する「反知性主義」がいかに生涯学習にとってマイナスになるのかをお話しします。</td><td>事前に各自がネットで行う SNS について振り返り (1 時間)、事後、社会にある意見について見直す。(3 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>これからの生涯学習と地域</td><td>講義内容を振り返りながら、生涯学習のあり方とその支えについてお話しし、受講生各自にとっての生涯学習を考えます。</td><td>事前に、これまでの授業内容を大枠で復習し (2 時間)、事後は試験に向けて課題を行う。(2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	生涯学習論とはなにか	本講義のねらいとその位置づけなど、講義を受けるための姿勢についてお話しします。	事前は必要ありませんが、事後に各自の「趣味」についてじっくり考えて下さい。(4 時間)	2	社会教育と生涯学習の歴史 ①	現在の生涯学習の前提となる、社会教育の歴史と、生涯学習論の登場についてお話しします。	事前は必要ありませんが、事後に関連する歴史の見直しを。(4 時間)	3	社会教育と生涯学習の歴史 ②	社会教育の歴史と、生涯学習論の登場について現状に繋げてお話しします。	事前に前回の授業の見直し (1 時間)、事後に近代日本歴史の復習。(3 時間)	4	日本の生涯学習と方法、内容	日本の生涯学習とその形態、内容と問題点の現状についてお話しします。	事前に身の周りの「生涯学習」を考え (2 時間)、事後、近隣自治体などで実状を見ること。(2 時間)	5	生涯学習と行政の仕組み	生涯学習における社会教育行政の役割とあり方についてお話しします。	事前に近隣自治体の生涯学習を確認し (2 時間)、事後、授業内容を踏まえて新聞やネットで行政の対応の確認。(2 時間)	6	生涯各期の学習課題	人の各年代による学習・教育の特徴と課題についてお話しします。	事前に家族の生涯学習を顧みて (1 時間)、事後、自身やご両親、周囲の人の生涯学習状況を改めて考える。(3 時間)	7	生涯学習と社会教育施設・公民館と図書館	社会教育施設の実態、特に公民館と図書館について概要をお話しします。	事前に周辺の社会教育施設を確認し (2 時間)、事後、その運営や実態をみる。(2 時間)	8	なんのために学ぶのか	緒方洪庵と適塾を通じて「学ぶこと」の意味を考えます。(この講義は見学の日程の直前に行われます)	事前学習は必要ありませんが、直後に適塾の見学を予定していますので、事後の復習を。(4 時間)	9	生涯学習と社会教育施設・博物館	博物館の役割と組織、問題点とその実態についてお話しします。	事前にこれまで訪れた博物館のことを思い出し (1 時間)、事後に近隣の博物館の見学。(3 時間)	10	生涯学習と文化財事業	生涯学習における歴史学習の実状と問題点、位置づけについてお話しします。	事前に新聞の文化財報道などを読んでおき (2 時間)、事後には周辺の自治体主催事業について再確認。(2 時間)	11	人と「歴史」の関係	身近な「歴史」に関わることの効果とその特徴についてお話しします。	事前に自身の歴史を振り返り (2 時間)、事後、周囲の歴史についてもう一度考え直す。(2 時間)	12	それぞれの「生涯学習」①	「学ぶ」ことの意味や「知」との向き合い方をお話しします。	事前に自身の趣味についてもう一度考え (1 時間)、事後、各自の趣味に沿った活動を行う。(3 時間)	13	それぞれの「生涯学習」②	混乱する時代に「学ぶ」ことがいかに大切で重要なことかをお話しします。	事前にこれまでの人生での「学び」を振り返り (1 時間)、事後に自分に沿った「学び」を考えていく。(3 時間)	14	反・反知性主義	ネットを中心に蔓延する「反知性主義」がいかに生涯学習にとってマイナスになるのかをお話しします。	事前に各自がネットで行う SNS について振り返り (1 時間)、事後、社会にある意見について見直す。(3 時間)	15	これからの生涯学習と地域	講義内容を振り返りながら、生涯学習のあり方とその支えについてお話しし、受講生各自にとっての生涯学習を考えます。	事前に、これまでの授業内容を大枠で復習し (2 時間)、事後は試験に向けて課題を行う。(2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	生涯学習論とはなにか	本講義のねらいとその位置づけなど、講義を受けるための姿勢についてお話しします。	事前は必要ありませんが、事後に各自の「趣味」についてじっくり考えて下さい。(4 時間)																																																																
2	社会教育と生涯学習の歴史 ①	現在の生涯学習の前提となる、社会教育の歴史と、生涯学習論の登場についてお話しします。	事前は必要ありませんが、事後に関連する歴史の見直しを。(4 時間)																																																																
3	社会教育と生涯学習の歴史 ②	社会教育の歴史と、生涯学習論の登場について現状に繋げてお話しします。	事前に前回の授業の見直し (1 時間)、事後に近代日本歴史の復習。(3 時間)																																																																
4	日本の生涯学習と方法、内容	日本の生涯学習とその形態、内容と問題点の現状についてお話しします。	事前に身の周りの「生涯学習」を考え (2 時間)、事後、近隣自治体などで実状を見ること。(2 時間)																																																																
5	生涯学習と行政の仕組み	生涯学習における社会教育行政の役割とあり方についてお話しします。	事前に近隣自治体の生涯学習を確認し (2 時間)、事後、授業内容を踏まえて新聞やネットで行政の対応の確認。(2 時間)																																																																
6	生涯各期の学習課題	人の各年代による学習・教育の特徴と課題についてお話しします。	事前に家族の生涯学習を顧みて (1 時間)、事後、自身やご両親、周囲の人の生涯学習状況を改めて考える。(3 時間)																																																																
7	生涯学習と社会教育施設・公民館と図書館	社会教育施設の実態、特に公民館と図書館について概要をお話しします。	事前に周辺の社会教育施設を確認し (2 時間)、事後、その運営や実態をみる。(2 時間)																																																																
8	なんのために学ぶのか	緒方洪庵と適塾を通じて「学ぶこと」の意味を考えます。(この講義は見学の日程の直前に行われます)	事前学習は必要ありませんが、直後に適塾の見学を予定していますので、事後の復習を。(4 時間)																																																																
9	生涯学習と社会教育施設・博物館	博物館の役割と組織、問題点とその実態についてお話しします。	事前にこれまで訪れた博物館のことを思い出し (1 時間)、事後に近隣の博物館の見学。(3 時間)																																																																
10	生涯学習と文化財事業	生涯学習における歴史学習の実状と問題点、位置づけについてお話しします。	事前に新聞の文化財報道などを読んでおき (2 時間)、事後には周辺の自治体主催事業について再確認。(2 時間)																																																																
11	人と「歴史」の関係	身近な「歴史」に関わることの効果とその特徴についてお話しします。	事前に自身の歴史を振り返り (2 時間)、事後、周囲の歴史についてもう一度考え直す。(2 時間)																																																																
12	それぞれの「生涯学習」①	「学ぶ」ことの意味や「知」との向き合い方をお話しします。	事前に自身の趣味についてもう一度考え (1 時間)、事後、各自の趣味に沿った活動を行う。(3 時間)																																																																
13	それぞれの「生涯学習」②	混乱する時代に「学ぶ」ことがいかに大切で重要なことかをお話しします。	事前にこれまでの人生での「学び」を振り返り (1 時間)、事後に自分に沿った「学び」を考えていく。(3 時間)																																																																
14	反・反知性主義	ネットを中心に蔓延する「反知性主義」がいかに生涯学習にとってマイナスになるのかをお話しします。	事前に各自がネットで行う SNS について振り返り (1 時間)、事後、社会にある意見について見直す。(3 時間)																																																																
15	これからの生涯学習と地域	講義内容を振り返りながら、生涯学習のあり方とその支えについてお話しし、受講生各自にとっての生涯学習を考えます。	事前に、これまでの授業内容を大枠で復習し (2 時間)、事後は試験に向けて課題を行う。(2 時間)																																																																
関連科目	教育系科目群																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>生涯学習概論</td><td>佐藤晴雄</td><td>学陽書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td>司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論</td><td>大堀哲監修</td><td>樹村房</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ことば・ロジック・デザイン</td><td>妻木宣嗣</td><td>清文堂</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	生涯学習概論	佐藤晴雄	学陽書房	2	司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論	大堀哲監修	樹村房	3	ことば・ロジック・デザイン	妻木宣嗣	清文堂																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	生涯学習概論	佐藤晴雄	学陽書房																																																																
2	司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論	大堀哲監修	樹村房																																																																
3	ことば・ロジック・デザイン	妻木宣嗣	清文堂																																																																
評価方法 (基準)	定期試験 (100%)。授業方法にて記した質問などが翌週の回答で採用された場合は 1 点の平常点を付与します。もし、遠隔授業となる場合は期末のレポートにより評価します。レポートの概要については授業中に度々、通知し、レポートの記述テーマなどは授業中及び授業の最終日にお伝えする予定です。																																																																		
学生へのメッセージ	「生涯学習論」ですが、これは学習を与えるだけの意味ではなく、相互に「学習」していくことも意味します。すべての人が生涯、なにを「学習」するのか、「学習」の意味は何か、を少しでも考えて知っていただくことを願います。また、試験は論述が中心となります。担当者にもわかるよ																																																																		

	うに論述してください。相手になにかを伝えるという訓練にもなります。
担当者の 研究室等	3号館2階非常勤講師室
備考	事前事後学習の総時間の目安は60時間です。これには授業中に推奨する各自の映画鑑賞や音楽鑑賞、読書、課題の新書書評の時間も含まれます。質問などは原則授業時間前後です。非常勤講師室か教室で受け付けます。

科目名	ミュージアムマネジメント論	科目名 (英文)	Museum Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2190a0		

授業概要・目的	博物館経営に関する行財政制度を踏まえながら、さまざまな博物館の形態や多岐にわたる活動について講義する。今後の方向性を考えるとともに、学芸員に必要な博物館経営に関する基礎的知識の習得をめざす。
到達目標	博物館の現状と課題を認識しながら、博物館はどうあるべきかを考え、理想の博物館を実現するためには、どのようなミュージアムマネジメント（博物館経営）が必要であるのかを具体的に理解できる。
授業方法と留意点	リアルタイムオンライン授業。 遅刻・欠席は厳禁。 詳しくは Teams を確認すること。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格の取得（必修科目）。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ミュージアムマネジメントとは	博物館には、効果的なマネジメントが要求される現状にあることを解説する。	配布資料や参考書で復習する。
	2	行財政制度と博物館	博物館に関係する法律や財務に関する制度について解説する。	配布資料や参考書で復習する。
	3	博物館をめぐる行政改革	指定管理者制度、PFI 法、独立行政法人制度など、博物館に関する近年の行政改革について解説し、その問題点を考える。	PFI 法、指定管理者制度について、本や WEB で調べておく。
	4	博物館の財務	博物館の基本的な歳入と歳出などを解説し、財務状況や入館料をめぐる問題点を考える。	博物館の予算的な問題について調べる。
	5	博物館の立地と環境	博物館にふさわしい立地条件や自然及び社会的環境について具体的に解説する。	実際の博物館の立地・環境を調べる。
	6	博物館の施設と設備	博物館にどのような施設と設備が必要であるかを解説し、館種による相違点を比較する。	配布資料や参考書で復習する。
	7	博物館の組織と職員	一般的な博物館の組織と職員、学芸員の具体的な業務内容を説明する。	配布資料や参考書で復習する。
	8	博物館事業のあり方	博物館の理念と目的を説明し、その達成のためにどのような事業計画が必要かを検討する。	博物館が実施している事業の具体例を調べておく。
	9	博物館の評価	博物館を評価するにはどのような基準・方法があるかを解説し、評価により得られる効果を検討する。	行ったことのある博物館の評価をしてみる。
	10	博物館の危機管理	博物館で想定されるさまざまな危機について解説し、その対策を具体的に検討する。	博物館にかかわる危機にはどのようなものがあるか考えておく。
	11	博物館の広報活動	非営利組織のマーケティングリサーチと、博物館における広報活動の具体的な方法を解説する。	博物館のポスターやチラシなどを見ておく。
	12	ミュージアムサービス	ミュージアムショップ、レストランなどに代表されるサービスの現状を説明し、今後の方向性を考える。	本や WEB で博物館のサービスの具体例を調べる。
	13	市民参画をめざす博物館	友の会、ボランティアなどの支援組織や、市民参画を促す博物館事業について解説する。	WEB やリーフレットなどで、博物館の友の会などについて調べる。
	14	博物館のネットワーク	いろいろな博物館のネットワークについて解説する。	WEB で、日本博物館協会、日本動物園水族館協会などの HP を見る。
	15	対話と連携の博物館	博物館が目指す対話と連携を具体的に検討することで、これからの博物館の経営について考える。	配布資料や参考書で復習する。

関連科目	ほかの学芸員科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	小レポートおよび授業中に行うプレゼン（40%）、確認テスト（60%）
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	必ず毎回出席すること。また、本講義を受講する間、多くの博物館に訪れることを望みます。
-----------	--

担当者の	7 号館 4 階（赤澤研究室）
------	-----------------

研究室等	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。 課題・プレゼンについては講義中にフィードバックする。

科目名	博物館情報・メディア論	科目名 (英文)	Museum Media Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中川 馨
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2191a0		

授業概要・目的	現代社会では様々なかたちで映像メディアと接しているが、写真の歴史と表現を学ぶことにより、映像メディア登場以後の社会環境の変化について考察する。また写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのか、現代の膨大な映像メディアによる情報との向き合い方についても考える。																																																																		
到達目標	映像メディアと社会の関係を理解する。 映像メディアによる情報との向き合い方を身につける。																																																																		
授業方法と留意点	講義中はスライドを使用する。内容は必要に応じてノートに書きとどめてもらいたい。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ものを見る行為について</td><td>映像情報との関わりについて 博物館と映像メディアについて</td><td>視覚について本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>2</td><td>映像イメージの発見</td><td>光の像の投影について カメラオプスキュラの誕生</td><td>カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>カメラオプスキュラの活用</td><td>カメラオプスキュラによる近世絵画表現の変化について</td><td>カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>4</td><td>写真のはじまり</td><td>写真技術の誕生について</td><td>初期の写真技術について本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>5</td><td>肖像写真の時代</td><td>肖像写真の役割と社会への影響について</td><td>歴史上の人物の肖像写真について本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>6</td><td>都市の記録</td><td>都市の写真表現について</td><td>19 世紀の写真表現について本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>7</td><td>初期の写真表現</td><td>写真黎明期の芸術写真表現について</td><td>19 世紀の写真について本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>8</td><td>写真と絵画の交わり</td><td>写真と西洋絵画における写真表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて</td><td>近代絵画について本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>9</td><td>近代写真の確立</td><td>ストレートフォトグラフィを中心に近代の写真表現について</td><td>ストレートフォトグラフィについて本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ヨーロッパの近代写真表現</td><td>様々な前衛芸術運動と結びついて広がるヨーロッパの近代写真表現について</td><td>前衛芸術運動と写真の結びつきについて本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>11</td><td>時代の記録</td><td>報道写真について 報道写真の社会的な影響について</td><td>報道写真について本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>12</td><td>現代写真表現のはじまり</td><td>現代写真表現について 1960 年代のアメリカの動向について</td><td>現代写真表現について本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>13</td><td>現代写真表現 2</td><td>アメリカのニューカラー、ニュートボグラフィックといった 1970 年代の現代写真表現の方向性について</td><td>現代写真表現について本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ポストモダンにおける写真表現</td><td>ポストモダン (1980 年代以降) の写真表現について</td><td>ポストモダンの写真表現について本やWEBで調べる</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>日本の現代写真表現を考察しながら 21 世紀の写真メディアの在り方を考える。</td><td>写真について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ものを見る行為について	映像情報との関わりについて 博物館と映像メディアについて	視覚について本やWEBで調べる	2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオプスキュラの誕生	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる	3	カメラオプスキュラの活用	カメラオプスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる	4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やWEBで調べる	5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やWEBで調べる	6	都市の記録	都市の写真表現について	19 世紀の写真表現について本やWEBで調べる	7	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19 世紀の写真について本やWEBで調べる	8	写真と絵画の交わり	写真と西洋絵画における写真表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やWEBで調べる	9	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代の写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やWEBで調べる	10	ヨーロッパの近代写真表現	様々な前衛芸術運動と結びついて広がるヨーロッパの近代写真表現について	前衛芸術運動と写真の結びつきについて本やWEBで調べる	11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響について	報道写真について本やWEBで調べる	12	現代写真表現のはじまり	現代写真表現について 1960 年代のアメリカの動向について	現代写真表現について本やWEBで調べる	13	現代写真表現 2	アメリカのニューカラー、ニュートボグラフィックといった 1970 年代の現代写真表現の方向性について	現代写真表現について本やWEBで調べる	14	ポストモダンにおける写真表現	ポストモダン (1980 年代以降) の写真表現について	ポストモダンの写真表現について本やWEBで調べる	15	まとめ	日本の現代写真表現を考察しながら 21 世紀の写真メディアの在り方を考える。	写真について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ものを見る行為について	映像情報との関わりについて 博物館と映像メディアについて	視覚について本やWEBで調べる																																																																
2	映像イメージの発見	光の像の投影について カメラオプスキュラの誕生	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる																																																																
3	カメラオプスキュラの活用	カメラオプスキュラによる近世絵画表現の変化について	カメラオプスキュラについて本やWEBで調べる																																																																
4	写真のはじまり	写真技術の誕生について	初期の写真技術について本やWEBで調べる																																																																
5	肖像写真の時代	肖像写真の役割と社会への影響について	歴史上の人物の肖像写真について本やWEBで調べる																																																																
6	都市の記録	都市の写真表現について	19 世紀の写真表現について本やWEBで調べる																																																																
7	初期の写真表現	写真黎明期の芸術写真表現について	19 世紀の写真について本やWEBで調べる																																																																
8	写真と絵画の交わり	写真と西洋絵画における写真表現の関係 映像による視覚がどのように表現の変化をもたらしたかについて	近代絵画について本やWEBで調べる																																																																
9	近代写真の確立	ストレートフォトグラフィを中心に近代の写真表現について	ストレートフォトグラフィについて本やWEBで調べる																																																																
10	ヨーロッパの近代写真表現	様々な前衛芸術運動と結びついて広がるヨーロッパの近代写真表現について	前衛芸術運動と写真の結びつきについて本やWEBで調べる																																																																
11	時代の記録	報道写真について 報道写真の社会的な影響について	報道写真について本やWEBで調べる																																																																
12	現代写真表現のはじまり	現代写真表現について 1960 年代のアメリカの動向について	現代写真表現について本やWEBで調べる																																																																
13	現代写真表現 2	アメリカのニューカラー、ニュートボグラフィックといった 1970 年代の現代写真表現の方向性について	現代写真表現について本やWEBで調べる																																																																
14	ポストモダンにおける写真表現	ポストモダン (1980 年代以降) の写真表現について	ポストモダンの写真表現について本やWEBで調べる																																																																
15	まとめ	日本の現代写真表現を考察しながら 21 世紀の写真メディアの在り方を考える。	写真について復習する																																																																
関連科目	博物館科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	リモート授業での 2 回のレポート、対面授業の出席点、最後に提出するレポート (必ず提出が必要) から総合的に採点する。																																																																		
学生へのメッセージ	事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。 質問や提出物に対して口頭または文書でフィードバックを行う。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室) 水曜 12 時～15 時																																																																		
備考	11 月 10 日の 8 回目の授業から対面授業に移行																																																																		

科目名	博物館教育論	科目名 (英文)	Museum as Learning Resources
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松永 和浩
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2192a0		

授業概要・目的	この授業では博物館において実施される教育活動について、様々な具体例を通じて体系的に学びます。それにより社会における博物館の意義・役割についての理解を深め、学芸員として、あるいは博物館と社会をつなぐサイエンス・インタープリターとして活動するために必要な知識を身につけることを目的としています。
到達目標	①学芸員として必要な博物館教育に関する基礎的知識を身に付ける。 ②博物館教育のプログラムの実践例について具体的に学ぶ。 ③実在の展示施設を素材として教育プログラムを企画する。 上記の学びを通して、博物館における教育の役割や社会的責務について具体的に説明できるようになる。
授業方法と留意点	まず、現代社会において博物館に期待される教育について概説します。次に、博物館で実際に行われている教育プログラムの具体例を紹介します（受講生による体験レポートによる紹介もあり）。最後に、実在の展示施設を見学し、サイエンス・インタープリターの立場でその施設を素材にした教育プログラムを企画して発表し、相互に議論を深めます。様々な博物館が取り組んでいる教育プログラムについて、受講者は見学・参加・情報収集に努めてください。
科目学習の効果（資格）	学芸員資格認定のための必修科目となります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションー博物館から何を学んだか？ー	これまでの博物館に対する認識・イメージを振り返り、現代の博物館に期待される役割について考えるきっかけとします。	これまで博物館を訪れた経験や抱いていたイメージを整理しておいてください。
	2	博物館の使命	設置主体や社会から期待される博物館の使命について説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	3	常設展の意義と活用	博物館の基本となる常設展の意義とその活用方法について実例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	4	特別展・企画展	博物館が開催する特別展・企画展の目的・運営・役割について実例に基づき説明します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	5	博物館と社会教育	博物館が開催するイベントにどのようなものがあるか実例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れるようにしてください。ワークシートなどを見つけたら集めるようにしておいてください。
	6	社会教育の実例報告	受講生が参加した社会教育プログラムの内容について紹介します。	博物館で開催される社会教育プログラムに参加して、その内容をレポートにまとめておいてください。
	7	大学博物館の教育	学生を抱える大学博物館ならではの教育活動について実例に基づき紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	8	学芸員養成	大学・博物館が担う学芸員養成の概要と実例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	9	サイエンス・インタープリターの役割	博物館と社会のつなぎ役として近年注目されているサイエンス・インタープリターの活動について、ゲストスピーカーを招いて紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	10	社会教育の実践例	担当者が所属する大阪大学適塾記念センターが取り組む社会教育の実例について紹介します。	日頃からさまざまな博物館施設を訪れることや、博物館で開催されるイベントの情報収集に努めてください。
	11	外部施設見学①	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
	12	外部施設見学②	担当者が携わる適塾を見学し、現状と課題を探ります。	適塾の現状と課題と、これまで学習した各教育プログラムの特徴を整理してください。
	13	教育プログラムの企画①	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
	14	教育プログラムの企画②	適塾を素材とした教育プログラムを各自で企画します。	教育プログラムの企画のために、これまでの学習内容を復習してください。
	15	プレゼンと質疑応答	各自が企画した教育プログラムについて発表し、意見を交換します。	発表用の資料を作成してください。発表に対して出された意見を参考に、自身の企画を練り直してください。

関連科目	学芸員資格に必要な各科目。
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	プレゼン・質疑 80%、提出物 20%
学生への メッセージ	各博物館は近年、様々な教育プログラムに熱心に取り組んでいます。しかもそのプログラムには、マニュアルも正解もない場合がほとんどで、学芸員をはじめとする博物館スタッフ、サイエンス・インタープリターやボランティアの方々の創意工夫と努力によって支えられています。受講者は教育プログラムについて積極的に参加・見学・情報収集し、現状を知るようにしてください。そして将来的には、何らかの形で博物館を支える一員となってもらえたら幸いです。
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
備考	外部施設見学は大阪市内で、12月中の土日いずれか1日、180分間(2コマ分)の予定で行います。 事前事後学習の総時間の目安は約60時間。 授業中に課す課題については、受講生も含めた質疑応答を行う。

科目名	博物館実習	科目名 (英文)	Museum Management Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	赤澤 春彦、杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3193a0		

授業概要・目的	博物館は展示物（歴史・美術・文学ほか）、設置母体（公立・民間）、目的（教育が主・研究が主・保存が主など）により、さまざまな種類のものがある。学芸員の仕事も館の性格により、多様で一概には規定できない。この授業では博物館・美術館の実際を知り、学芸員の仕事を理解するために、博物館を実地見学に出かける。また学内においては、博物館についての知識を深め、学芸員の作業の一部を体験する。本授業では学芸員の職務の経験を活かし、講義だけでなく、実際の技術も身に付けることを目的とする。
到達目標	博物館における作業の内容と意味を理解する。博物館において学芸員の仕事の一部を体験し理解する。
授業方法と留意点	本授業は(1)大学が課する実習、(2)実習館が課する館内実習の2種に分かれ、(1)はさらに①学内での前期の講義と作業、②学外での見学の2種に分かれる。(下記15回)また(2)の館内実習は、おおむね夏休みあるいは後期に行われる。いずれが欠けても単位取得は不可である。なお見学・実習には交通費や実費が必要である。
科目学習の効果 (資格)	学芸員資格

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	年間スケジュールの確認 博物館実習の取り組み方実習館の配属	事前：出身地にある博物館を見ておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	2	拓本 1	拓本の道具を作り、小さなもので練習する	事前：拓本について調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	3	拓本 2	近隣の神社や野外の石碑で拓本をとる練習をする。	事前：拓本の道具を作っておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	4	博物館の見学	見学及びレクチャー	事前：見学する館について調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	5	美術品の扱い方 1	掛け軸、陶磁器の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前：掛け軸陶磁器の扱い方を調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	6	美術品の扱い方 2	絵巻物、額縁の扱い方、箱の納入の仕方を、実物を用いて学ぶ。	事前：絵巻物などの扱い方を調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	7	美術館の見学	見学及びレクチャー	事前：見学館について調べておく (90 分) 事後：レポートをまとめる (90 分)
	8	美術品の調査・整理	美術品の計測、撮影、資料カードの作成を実物を用いて行なう。	事前：美術品の計測について調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	9	歴史資料の調査・整理	調査の方法、資料カードの様々な様式、資料の整理法を学ぶ。	事前：歴史資料について調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	10	写真撮影の方法	美術写真・建築写真・記録写真の方法を、実例を見ながら学ぶ。	事前：建築写真について調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	11	博物館の見学	見学及びレクチャー	事前：見学館について調べておく (90 分) 事後：レポートをまとめる (90 分)
	12	博物館の教育・普及活動	各自でワークショップ、イベントの実例を収集し発表。パンフレット、ホームページの効果についても考える。	事前：博物館の活動についてWEBで調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	13	展覧会の企画 1	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前：展覧会のテーマについて調べておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	14	展覧会の企画 2	各自が具体的にテーマと場所を決めて展覧会を企画する。	事前：指摘された点を改善して企画書を作っておく (90 分) 事後：ノートを整理し、不明な点を調べる (90 分)
	15	プレゼンテーションと講評 博物館・館内実習の指導	各自が企画した展覧会について発表し、講評を行なう。博物館ノートの配布と書き方の指導・諸注意	事前：レジメを作り発表の練習をしておく (90 分) 事後：指摘された点を改善してレポートを作る (90 分)

関連科目	学芸員資格の必修科目およびその他の関連科目
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート・発表 30% 実習博物館による評価 50% 受講への参加態度 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	各地の博物館に赴いて行なう実習は5～14日間程度です。期間中は実習に集中し、摂南大学の学生として恥ずかしくない行動をとってください。
-----------	--

担当者の研究室等	赤澤・・・7号館4階（赤澤研究室） 杉山・・・7号館5階（杉山研究室） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	--

備考	実習で課した課題は、その場もしくは次回の実習で講評する。 博物館実習ノートをもとに成果発表会を行う。
----	---

科目名	日本語教授法Ⅰ	科目名（英文）	Japanese Teaching Methodology I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL1194a0		

授業概要・目的	「日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の中で、本授業では、外国語教授法、教科書・教材論、コースデザイン、日本語の文字・語彙・文法とその指導方法など、外国語としての日本語教育について広く概観する。																																																																		
到達目標	教科書の前半内容に関する知識を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、講義の他にディスカッション、動画視聴、課題、発表も含まれる。																																																																		
科目学習の効果（資格）	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。「日本語教授法Ⅱ・Ⅲ」の先行科目。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項</td><td>教科書第1章第1節 熟読</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日本語教育と外国語教育</td><td>日本語教育と国語教育、日本語教育と英語教育</td><td>教科書第1章第2節 熟読</td></tr> <tr> <td>3</td><td>日本語教育の歴史</td><td>時代区分別の日本語教育史</td><td>教科書第2章第1節 熟読</td></tr> <tr> <td>4</td><td>外国語教授法（1）</td><td>外国語教授法の理論と実践</td><td>動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成</td></tr> <tr> <td>5</td><td>外国語教授法（2）</td><td>外国語教授法の理論と実践</td><td>動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成</td></tr> <tr> <td>6</td><td>外国語教授法（3）</td><td>外国語教授法の理論と実践</td><td>教授法理論のレポート作成、教科書第2章第2節</td></tr> <tr> <td>7</td><td>コースデザイン</td><td>コースデザイン、シラバスデザイン、ニーズアナリシス、評価</td><td>教科書及びその他資料による課題</td></tr> <tr> <td>8</td><td>日本語教育の目標</td><td>レベル別目標、日本語能力試験の目標</td><td>教科書及びその他資料の課題</td></tr> <tr> <td>9</td><td>教材・教具（1）</td><td>日本語教育の教科書</td><td>課題（初級日本語教材の分析）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>教材・教具（2）</td><td>日本語教育の教材・教具</td><td>課題（教材分析）、教科書第3章第1節 熟読</td></tr> <tr> <td>11</td><td>日本語学の基礎知識：文法</td><td>日本語教育のための日本語文法とその指導方法</td><td>教科書第3章第2節 熟読</td></tr> <tr> <td>12</td><td>日本語学の基礎知識：語彙</td><td>日本語の語彙の特徴、語彙の指導方法</td><td>教科書第3章第3節 熟読</td></tr> <tr> <td>13</td><td>日本語学の基礎知識：文字</td><td>文字の種類と指導方法</td><td>教科書第3章第4節 熟読</td></tr> <tr> <td>14</td><td>外国人学習者の日本語</td><td>外国人学習者との接触場面における学習者の日本語観察</td><td>教科書及びその他資料の課題</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習・確認テスト</td><td>教科書の内容についての理解度確認</td><td>総復習、テストのフィードバック</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	教科書第1章第1節 熟読	2	日本語教育と外国語教育	日本語教育と国語教育、日本語教育と英語教育	教科書第1章第2節 熟読	3	日本語教育の歴史	時代区分別の日本語教育史	教科書第2章第1節 熟読	4	外国語教授法（1）	外国語教授法の理論と実践	動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成	5	外国語教授法（2）	外国語教授法の理論と実践	動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成	6	外国語教授法（3）	外国語教授法の理論と実践	教授法理論のレポート作成、教科書第2章第2節	7	コースデザイン	コースデザイン、シラバスデザイン、ニーズアナリシス、評価	教科書及びその他資料による課題	8	日本語教育の目標	レベル別目標、日本語能力試験の目標	教科書及びその他資料の課題	9	教材・教具（1）	日本語教育の教科書	課題（初級日本語教材の分析）	10	教材・教具（2）	日本語教育の教材・教具	課題（教材分析）、教科書第3章第1節 熟読	11	日本語学の基礎知識：文法	日本語教育のための日本語文法とその指導方法	教科書第3章第2節 熟読	12	日本語学の基礎知識：語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の指導方法	教科書第3章第3節 熟読	13	日本語学の基礎知識：文字	文字の種類と指導方法	教科書第3章第4節 熟読	14	外国人学習者の日本語	外国人学習者との接触場面における学習者の日本語観察	教科書及びその他資料の課題	15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度確認	総復習、テストのフィードバック
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	教科書第1章第1節 熟読																																																																
2	日本語教育と外国語教育	日本語教育と国語教育、日本語教育と英語教育	教科書第1章第2節 熟読																																																																
3	日本語教育の歴史	時代区分別の日本語教育史	教科書第2章第1節 熟読																																																																
4	外国語教授法（1）	外国語教授法の理論と実践	動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成																																																																
5	外国語教授法（2）	外国語教授法の理論と実践	動画を視聴し、授業観察、教授法理論のレポート作成																																																																
6	外国語教授法（3）	外国語教授法の理論と実践	教授法理論のレポート作成、教科書第2章第2節																																																																
7	コースデザイン	コースデザイン、シラバスデザイン、ニーズアナリシス、評価	教科書及びその他資料による課題																																																																
8	日本語教育の目標	レベル別目標、日本語能力試験の目標	教科書及びその他資料の課題																																																																
9	教材・教具（1）	日本語教育の教科書	課題（初級日本語教材の分析）																																																																
10	教材・教具（2）	日本語教育の教材・教具	課題（教材分析）、教科書第3章第1節 熟読																																																																
11	日本語学の基礎知識：文法	日本語教育のための日本語文法とその指導方法	教科書第3章第2節 熟読																																																																
12	日本語学の基礎知識：語彙	日本語の語彙の特徴、語彙の指導方法	教科書第3章第3節 熟読																																																																
13	日本語学の基礎知識：文字	文字の種類と指導方法	教科書第3章第4節 熟読																																																																
14	外国人学習者の日本語	外国人学習者との接触場面における学習者の日本語観察	教科書及びその他資料の課題																																																																
15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度確認	総復習、テストのフィードバック																																																																
関連科目	日本語教授法Ⅱ・Ⅲ、日本語学全般、日本語教育実習、その他の「日本語教員養成課程（副専攻相当）」配当の選択科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>日本語教育法概論</td><td>東海大学留学生教育センター編</td><td>東海大学出版会</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	確認テスト（40%）、課題及びレポート（50%）、授業への貢献度（10%）により総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	外国人を対象に外国語として日本語を教える面白さを皆で共有したいと思います。海外及び国内の日本語教育機関において、多様な外国人学習者を対象にした日本語教育及び日本語教員養成の経験を活かし、理論と実践について具体的に解説します。																																																																		
担当者の研究室等	11 号館 11 階																																																																		
備考	事前・事後学習は毎回 1.5 時間。 授業の最後にテストについてフィードバックする。																																																																		

科目名	日本語教授法Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Teaching Methodology II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新谷 知佳
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2195a0		

授業概要・目的	初級レベルの文法項目を通覧し、多くの例文を文法的に分析することを目的とする。また、第二言語習得についても概観する。基礎知識を増やしつつ、主体的に思考・分析できるような講義・活動を行う。																																																																		
到達目標	文法と第二言語習得に関する知識、分析方法を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	授業は講義、グループディスカッションおよび発表を中心に進める。事前に課すワークシートがある場合は必ず取り組んでから授業に参加すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 文型について</td><td>授業の進め方を説明する。日本語教育への関心について話す。 日本語の文型について知る。</td><td>《予習》シラバスを読んでおく。自分の日本語教育への関心について他の人に話せるように考えておく。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>動詞</td><td>日本語教育における動詞の分類、活用について知る。</td><td>《予習》[ワークシート1]学校文法との違いを確認し、「て形」、「た形」といった動詞の活用について確認する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>形容詞・名詞</td><td>日本語教育における形容詞や名詞について知る。</td><td>《予習》[ワークシート2]学校文法との違いや「い形容詞」「な形容詞」の活用などについて確認する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>指示文</td><td>「こ・そ・あ」の使い分けや現場指示、文脈指示について知る。</td><td>《予習》[ワークシート3]「これ・それ・あれ」「こ・そこ・あそこ」などの使い分けについて確認する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第二言語習得①</td><td>誤用分析、中間言語分析、母語の影響について知る。</td><td>《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第二言語習得②</td><td>習得順序、インプット仮説、アウトプット仮説について知る。</td><td>《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第二言語習得③</td><td>習得における個人差要因（年齢、動機付け、学習者ストラテジー）について知る。 効果的な外国語学習について考える。</td><td>《予習》資料を読んでおく。自身の外国語学習を振り返り、効果的な外国語学習を考えておく。 《復習》配布プリントを確認する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>格助詞</td><td>主に場所を表す格助詞の使い分けについて知る。</td><td>《予習》[ワークシート4] 「で」や「に」の使い分けについて確認する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>存在文</td><td>「います」「あります」の使い分けについて知る。</td><td>《予習》[ワークシート5]「いる」「ある」はどのような主語と使われるかなど、違いを確認する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>授受表現</td><td>日本語の授受表現の特徴について知る。</td><td>《予習》[ワークシート6]「あげる」「もらう」「くれる」の使い分けについて確認する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>自動詞・他動詞</td><td>日本語の自動詞と他動詞の違いについて知る。</td><td>《予習》[ワークシート7]自動詞、他動詞にどのようなものがあるか調べてみる。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>受身文</td><td>日本語の受身文の分類について知る。</td><td>《予習》[ワークシート8]「直接受身」「間接受身」などがどのように違うのか確認する。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>敬語</td><td>日本語の敬語の体系について知る。</td><td>《予習》[ワークシート9]尊敬語・謙譲語・丁寧語について確認する。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表①</td><td>グループで課題に取り組み発表する</td><td>《予習》これまでに学習した内容を復習しておく。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>発表②</td><td>グループで課題に取り組み発表する</td><td>《予習》これまでに学習した内容を復習しておく。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 文型について	授業の進め方を説明する。日本語教育への関心について話す。 日本語の文型について知る。	《予習》シラバスを読んでおく。自分の日本語教育への関心について他の人に話せるように考えておく。	2	動詞	日本語教育における動詞の分類、活用について知る。	《予習》[ワークシート1]学校文法との違いを確認し、「て形」、「た形」といった動詞の活用について確認する。	3	形容詞・名詞	日本語教育における形容詞や名詞について知る。	《予習》[ワークシート2]学校文法との違いや「い形容詞」「な形容詞」の活用などについて確認する。	4	指示文	「こ・そ・あ」の使い分けや現場指示、文脈指示について知る。	《予習》[ワークシート3]「これ・それ・あれ」「こ・そこ・あそこ」などの使い分けについて確認する。	5	第二言語習得①	誤用分析、中間言語分析、母語の影響について知る。	《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。	6	第二言語習得②	習得順序、インプット仮説、アウトプット仮説について知る。	《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。	7	第二言語習得③	習得における個人差要因（年齢、動機付け、学習者ストラテジー）について知る。 効果的な外国語学習について考える。	《予習》資料を読んでおく。自身の外国語学習を振り返り、効果的な外国語学習を考えておく。 《復習》配布プリントを確認する。	8	格助詞	主に場所を表す格助詞の使い分けについて知る。	《予習》[ワークシート4] 「で」や「に」の使い分けについて確認する。	9	存在文	「います」「あります」の使い分けについて知る。	《予習》[ワークシート5]「いる」「ある」はどのような主語と使われるかなど、違いを確認する。	10	授受表現	日本語の授受表現の特徴について知る。	《予習》[ワークシート6]「あげる」「もらう」「くれる」の使い分けについて確認する。	11	自動詞・他動詞	日本語の自動詞と他動詞の違いについて知る。	《予習》[ワークシート7]自動詞、他動詞にどのようなものがあるか調べてみる。	12	受身文	日本語の受身文の分類について知る。	《予習》[ワークシート8]「直接受身」「間接受身」などがどのように違うのか確認する。	13	敬語	日本語の敬語の体系について知る。	《予習》[ワークシート9]尊敬語・謙譲語・丁寧語について確認する。	14	発表①	グループで課題に取り組み発表する	《予習》これまでに学習した内容を復習しておく。	15	発表②	グループで課題に取り組み発表する	《予習》これまでに学習した内容を復習しておく。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 文型について	授業の進め方を説明する。日本語教育への関心について話す。 日本語の文型について知る。	《予習》シラバスを読んでおく。自分の日本語教育への関心について他の人に話せるように考えておく。																																																																
2	動詞	日本語教育における動詞の分類、活用について知る。	《予習》[ワークシート1]学校文法との違いを確認し、「て形」、「た形」といった動詞の活用について確認する。																																																																
3	形容詞・名詞	日本語教育における形容詞や名詞について知る。	《予習》[ワークシート2]学校文法との違いや「い形容詞」「な形容詞」の活用などについて確認する。																																																																
4	指示文	「こ・そ・あ」の使い分けや現場指示、文脈指示について知る。	《予習》[ワークシート3]「これ・それ・あれ」「こ・そこ・あそこ」などの使い分けについて確認する。																																																																
5	第二言語習得①	誤用分析、中間言語分析、母語の影響について知る。	《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。																																																																
6	第二言語習得②	習得順序、インプット仮説、アウトプット仮説について知る。	《予習》第二言語習得についての資料を読んでおく。 《復習》配布プリントを確認する。																																																																
7	第二言語習得③	習得における個人差要因（年齢、動機付け、学習者ストラテジー）について知る。 効果的な外国語学習について考える。	《予習》資料を読んでおく。自身の外国語学習を振り返り、効果的な外国語学習を考えておく。 《復習》配布プリントを確認する。																																																																
8	格助詞	主に場所を表す格助詞の使い分けについて知る。	《予習》[ワークシート4] 「で」や「に」の使い分けについて確認する。																																																																
9	存在文	「います」「あります」の使い分けについて知る。	《予習》[ワークシート5]「いる」「ある」はどのような主語と使われるかなど、違いを確認する。																																																																
10	授受表現	日本語の授受表現の特徴について知る。	《予習》[ワークシート6]「あげる」「もらう」「くれる」の使い分けについて確認する。																																																																
11	自動詞・他動詞	日本語の自動詞と他動詞の違いについて知る。	《予習》[ワークシート7]自動詞、他動詞にどのようなものがあるか調べてみる。																																																																
12	受身文	日本語の受身文の分類について知る。	《予習》[ワークシート8]「直接受身」「間接受身」などがどのように違うのか確認する。																																																																
13	敬語	日本語の敬語の体系について知る。	《予習》[ワークシート9]尊敬語・謙譲語・丁寧語について確認する。																																																																
14	発表①	グループで課題に取り組み発表する	《予習》これまでに学習した内容を復習しておく。																																																																
15	発表②	グループで課題に取り組み発表する	《予習》これまでに学習した内容を復習しておく。																																																																
関連科目	日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅲ、日本語学、日本語教育実習等																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	ワークシート 30%、発表 30%、期末レポート 40%により総合的に評価する																																																																		
学生へのメッセージ	普段、何気なく使っている日本語について分析的に考えてみましょう。学習者にとって何が難しいのかということも考えながら、新たな視点で捉えることで、多くの発見があるはずです。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）																																																																		
備考	（１）教科書は授業中にプリントを配布する。参考文献も適宜紹介する。 （２）質問・相談は Teams のチャットにて対応する。 （３）発表ごとに、学生同士または教師からのフィードバックを行う。 （４）事前・事後学習は総時間 60 時間を目安とする。																																																																		

科目名	日本語教授法Ⅲ	科目名（英文）	Japanese Teaching Methodology III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	宮崎 玲子
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2△		
科目ナンバリング	LDL2196a0		

授業概要・目的	本授業は、以下の2点の受講生の日本語教育上の課題について、自ら具体的な対策を考案できるようになることを目的としています。 1つ目は、日本語学習において必要とされる4つの技能（読む、聞く、話す、書く）それぞれについて、どのような学習が効果的かということについて適切に説明できないという課題です。 2点目は、日本語学習者が実際に体験するであろう様々な状況についての対応が不的確だったり、不正確だったりするという課題です。 このような課題を解決するためには、日本語教育に関する知識が必要不可欠です。																																																																		
到達目標	本授業の目標は以下のようにまとめることができます。 1：日本語学習における各技能に関する学習がどのように起こるかを学術用語を用いながら説明できる。 2：日本語学習における各技能に関する学習について、与えられた学習者の状況に対する具体的な対処を提案できる。 3：日本語の学習者が遭遇するであろう異文化的、情意的問題について適切に分析し、対処を提案できる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、講義の他にディスカッション、課題、動画視聴などを含みます。 授業前に必ず指定された箇所の教科書の内容を読んでくること。 また、授業後には課題をこなして授業で学んだことを確認してください。																																																																		
科目学習の効果（資格）	「日本語教員養成課程」必修科目の一つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項</td><td>【事前課題】第3章第4節を読む。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日本語の音声</td><td>日本語の音声の特徴について知り、効果的な指導方法を考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第1節を読む。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>読むことに焦点を当てた指導の理論と実践（1）</td><td>「読む」技術について考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>読むことに焦点を当てた指導の理論と実践（2）</td><td>読解の指導について考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第2節を読む。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践（1）</td><td>「聞く」技術について考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践（2）</td><td>聴解の指導について考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第3節を読む。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>話すことに焦点を当てた指導の理論と実践（1）</td><td>「話す」技術について考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>話すことに焦点を当てた指導の理論と実践（2）</td><td>会話やスピーキングの指導について考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第4節を読む。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>書くことに焦点を当てた指導の理論と実践（1）</td><td>「書く」技術について考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>書くことに焦点を当てた指導の理論と実践（2）</td><td>作文の指導について考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第5節を読む。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>日本事情に焦点を当てた指導の理論と実践</td><td>日本事情の指導について考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第5章第1節を読む。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>学習者の異文化体験</td><td>異文化体験について考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第5章第2節を読む。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>留学生が経験する現実の接触場面</td><td>日本語学習者が体験する接触場面について考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第5章第3節を読む。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>日本語学習者の情意要因</td><td>日本語学習者の情意要因について考える</td><td>【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習・確認テスト</td><td>教科書の内容についての理解度の確認</td><td>総復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	【事前課題】第3章第4節を読む。	2	日本語の音声	日本語の音声の特徴について知り、効果的な指導方法を考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第1節を読む。	3	読むことに焦点を当てた指導の理論と実践（1）	「読む」技術について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。	4	読むことに焦点を当てた指導の理論と実践（2）	読解の指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第2節を読む。	5	聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践（1）	「聞く」技術について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。	6	聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践（2）	聴解の指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第3節を読む。	7	話すことに焦点を当てた指導の理論と実践（1）	「話す」技術について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。	8	話すことに焦点を当てた指導の理論と実践（2）	会話やスピーキングの指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第4節を読む。	9	書くことに焦点を当てた指導の理論と実践（1）	「書く」技術について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。	10	書くことに焦点を当てた指導の理論と実践（2）	作文の指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第5節を読む。	11	日本事情に焦点を当てた指導の理論と実践	日本事情の指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第5章第1節を読む。	12	学習者の異文化体験	異文化体験について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第5章第2節を読む。	13	留学生が経験する現実の接触場面	日本語学習者が体験する接触場面について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第5章第3節を読む。	14	日本語学習者の情意要因	日本語学習者の情意要因について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。	15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度の確認	総復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	【事前課題】第3章第4節を読む。																																																																
2	日本語の音声	日本語の音声の特徴について知り、効果的な指導方法を考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第1節を読む。																																																																
3	読むことに焦点を当てた指導の理論と実践（1）	「読む」技術について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。																																																																
4	読むことに焦点を当てた指導の理論と実践（2）	読解の指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第2節を読む。																																																																
5	聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践（1）	「聞く」技術について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。																																																																
6	聞くことに焦点を当てた指導の理論と実践（2）	聴解の指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第3節を読む。																																																																
7	話すことに焦点を当てた指導の理論と実践（1）	「話す」技術について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。																																																																
8	話すことに焦点を当てた指導の理論と実践（2）	会話やスピーキングの指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第4節を読む。																																																																
9	書くことに焦点を当てた指導の理論と実践（1）	「書く」技術について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。																																																																
10	書くことに焦点を当てた指導の理論と実践（2）	作文の指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第4章第5節を読む。																																																																
11	日本事情に焦点を当てた指導の理論と実践	日本事情の指導について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第5章第1節を読む。																																																																
12	学習者の異文化体験	異文化体験について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第5章第2節を読む。																																																																
13	留学生が経験する現実の接触場面	日本語学習者が体験する接触場面について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。 【事前課題】第5章第3節を読む。																																																																
14	日本語学習者の情意要因	日本語学習者の情意要因について考える	【事後課題】学習内容を復習し、課題に取り組む。																																																																
15	総復習・確認テスト	教科書の内容についての理解度の確認	総復習																																																																
関連科目	日本語教授法Ⅰ、日本語教授法Ⅱ、日本語学、日本語教育実習、その他の選択科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>日本語教育法概論</td><td>東海大学留学生教育センター編</td><td>東海大学出版会</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	日本語教育法概論	東海大学留学生教育センター編	東海大学出版会																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	確認テスト（30%）、小テストおよび課題（60%）、授業への貢献度（10%）により総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	・前期に学んだ日本語教育や日本語に関する知識をもとに、自分自身の外国語学習経験も振り返りながら、日本語学習者への具体的指導にまで踏み込んだ形で活動を行います。 ・授業中は素朴でもかまわないので質問、疑問等を大歓迎します。教授経験を踏まえてお答えできるところはお答えしますし、そうでないところは一緒に考えていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	・前期「日本語教授法Ⅰ」との関係、授業進度、もしくは受講生の学習状況により、各時限の目標を変更したり、予定を早めたり遅らせたり省略																																																																		

	したりする可能性があります。変更の際は別途授業内でお知らせします。 ・事前、事後学習に毎回 1 時間程度が必要です。
--	---

科目名	異文化ビジネス論	科目名 (英文)	Cross-Cultural Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2198a0		

授業概要・目的	本授業は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目である。(※英語プロフェッショナルコースの学生も履修できる) 世界の国や地域のビジネスや産業の特徴について、文化・宗教、歴史・社会的背景、地理的条件などの観点から考察していく。特に私たちの日常生活に密接な業界に注目し、SDG s の視点も交えて具体的な事例とともに理解を深めていきたい。
到達目標	文化・宗教、歴史・社会的背景、地理的条件などの要因がその国や地域のビジネスや産業に及ぼす影響について、ローカルとグローバル、SDG s の観点からも考察し、理解できるようになる。
授業方法と留意点	※第2回目以降の授業は、すべてオンライン (Teams, リアルタイム) で行います。 ・本科目の内容は、高校時代に学んだ「地理」や「世界史」の知識が基礎になっているので、それらを復習しながら学んでほしい。 ・授業は講義と演習 (グループワークやプレゼンなど) を織り交ぜて行う。 ・レポートのフィードバックは提出した2週間後、プレゼンのフィードバックはその場で行う。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・授業期間中の事前・事後学習に必要とされる総時間数は60時間である。
科目学習の効果 (資格)	業界・企業研究に活かすことができる。

授業計画	回数			
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業の内容や進め方などの説明を聞いて理解する。 ・映像・資料からビジネスの現場を知る。	・授業の内容や進め方について再確認し、計画を立てる (1時間)。 ・今回の授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	2	コーヒーと茶、カフェチェーンのビジネスの動向	コーヒーと茶、カフェチェーンのビジネスの動向について、スターバックス、コメダ珈琲店、ネスレなどの事例とともに考察する。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	3	宗教や食文化からみた食品業界の動向	宗教や食文化からみた食品業界の動向について、日清食品、大塚製薬[食品]、マクドナルドなどの事例とともに考察する。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	4	・レポートの書き方について ・プレゼンテーションのスキルについて ・レポートとプレゼンテーションの選択	・レポートの書き方について実例とともに学ぶ。 ・プレゼンテーションのスキルについて実例とともに学ぶ。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (3時間)。
	5	アパレル業界 (ファストファッション) の動向	アパレル業界 (ファストファッション) の動向について、ユニクロ、ZARA、H&Mなどの事例とともに考察する。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	6	生活雑貨・家具業界の動向	生活雑貨・家具業界の動向について、無印良品、ニトリ、IKEAなどの事例とともに考察する。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	7	化粧品業界の動向	化粧品業界の動向について、資生堂、花王、P&Gなどの事例とともに考察する。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	8	流通・小売業界の動向 レポートの提出	流通・小売業界の動向について、コンビニ、ドラッグストア、EC (ネット通販) などの事例とともに考察する。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	9	レポートのフィードバック (講評)	提出したレポートについて解答 (模範) 例を示しながら内容や書き方について講評する。	・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2時間)。 ・自分のレポートについて講評に基づいて振り返り、改善すべき点などを確認する (2時間)。
	10	グループによるプレゼンテーション (1)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2時間)。 ・今回の授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2時間)。
	11	グループによるプレゼンテーション (2)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2時間)。 ・今回の授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2時間)。
	12	グループによるプレゼンテーション (3)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2時間)。 ・今回の授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2時間)。
	13	グループによるプレゼンテーション (4)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2時間)。 ・今回の授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2時間)。
	14	グループによるプレゼンテーション (5)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2時間)。 ・今回の授業で扱ったテーマについて、さらに文献

				等で詳しく調べてみる（2時間）。
	15	総括（まとめ）	- これまでの授業の内容を総括し、要点を整理する。 - プレゼンテーションの内容やスキルについて総評する。	- これまでの授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（2時間）。 - 自分たちのプレゼンテーションについて講評に基づいて振り返り、改善すべき点などを確認する（2時間）。
関連科目	他の「国際ビジネス」プログラムの科目など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて資料等を提示する		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて授業内で紹介する		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	レポート等の提出物 40% プレゼン(研究発表) 60% ※ただし、原則としてオンライン授業への出席率が80%以上であることを条件とします。			
学生への メッセージ	将来、国際ビジネスの分野で活躍したい人は、ぜひ学んでみてください。			
担当者の 研究室等	7号館4階 中島研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	- 授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 - 授業期間中の事前・事後学習に必要とされる総時間数は60時間である。			

科目名	ビジネス心理学	科目名 (英文)	Business Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2199a0		

授業概要・目的	ビジネスやマーケティングに関連する心理について解説していきます。 この科目は「国際ビジネス」プログラム対応科目である。 現代社会におけるビジネスにおける心理と行動を解説していく。 ビジネスにおける消費者の心理と行動について科学的に理解することを目的とする。 SDGs-8, 9, 12
到達目標	マーケティングの基礎概念および購買行動についての考察を通して、多面的に消費心理を捉える能力を養うことを目標とする。ビジネスに役立つ心理理論を学ぶことを目標とする。 マーケティングの中の購買行動や消費者心理についての知識を得ることができる。 ビジネスに役立つ実践能力を身に着けることができる。
授業方法と留意点	教材・課題提供型授業 で行います。 4/22(木)のみ teams でオンライン・ガイダンス(LIVE)を行います。 その後は、毎回、moodle で 担当者が作成した動画を見てから 小テストを受験し、授業課題を提出してください。 小テスト、授業課題は、開講時間内に受験、提出すること。 教材(動画)配信型ですが、開講時間内に小テストと授業課題を終了させてください。
科目学習の効果 (資格)	ビジネスにおける消費者の心理と行動を理解することができる。ビジネスに役立つ心理的手法を学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ビジネス心理の位置づけ	授業内容、授業方法について説明します。 ビジネス心理とは？ 授業課題の提出方法と授業内テストの 解答方法の説明	事前学習課題：心理学とはどんな学問か？調べておくこと(1時間) 事後学習課題：消費者心理とはどんな心理学だったかまとめておくこと(2時間)
	2	オンライン授業ガイダンス ビジネス心理と心理学	オンライン授業の受け方、課題の提出の 仕方 消費行動とは何か？購買行動と消費行動	事前学習課題：ビジネスと心理について考えてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：消費行動と生産行動の具体例についてまとめておくこと(2時間)
	3	ビジネス心理におけるブランド選択	商品選択と消費者心理	事前学習課題：自分が好きなブランドとその理由についてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：ブランド戦略について具体例を挙げてまとめておくこと(2時間)
	4	消費者の価値意識	ライフスタイルと商品選択	事前学習課題：自分が生活の中で何にお金をかけているかをまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：ライフスタイルと消費行動との関係についてまとめておくこと(2時間)
	5	消費行動における個人内過程	消費者の非計画購買過程	事前学習課題：自分の消費行動において、何が重要視されているかをまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：非計画購買の種類とその内容についてまとめておくこと(2時間)
	6	消費者の価格判断	心的ものさしと商品の価格づけ	事前学習課題：最近、自分が買った高いものについて具体例をあげ、その購買理由についても書いておくこと(1時間) 事後学習課題：心的モノサシとは何か？自分の例も含めてまとめておくこと(2時間)
	7	消費者間相互作用と購買意思決定	クチコミによるマーケティング戦略	事前学習課題：自分の周りで起こっているクチコミについてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：クチコミの効果とその影響過程についてまとめておくこと(2時間)
	8	インターネットを利用した消費者間コミュニケーション	インターネットの利用により消費行動は変わるのか？	事前学習課題：インターネットの発展について、1990年代から調べておくこと(1時間) 事後学習課題：ネットによるビジネスの変化についてまとめておくこと(2時間)
	9	比較広告と消費行動	比較広告の効果と課題	事前学習課題：自分が好きな広告とその理由についてまとめておくこと(1時間) 事後学習課題：比較広告の具体例を見つけ、分析すること(2時間)
	10	広告媒体の種類と広告の効果	広告の内容分析とその効果	事前学習課題：日本のテレビCMの歴史について調べる(1時間) 事後学習課題：広告の中のタレントの特徴についてまとめておくこと(2時間)
	11	テレビ広告における内容分析とその効果	テレビ広告における内容分析と購買効果	事前学習課題：テレビ広告における企業CMについて調べておくこと(1時間) 事後学習課題：人気のあるテレビ広告について調べ、その特徴をまとめておくこと(2時間)
	12	悪質商法と消費者	悪質商法の手口と対策	事前学習課題：近年、流行っている悪質商法について調べておくこと(1時間) 事後学習課題：悪質商法への対策をまとめておくこと(2時間)
	13	企業リスク・コミュニケーションと消費者	リスクを伝える工夫とリスク・マネジメント	事前学習課題：企業に起こりうるリスクについて、具体例を考えておく(1時間) 事後学習課題：リスクマネジメントの方法について具体例を含めてまとめておくこと(2時間)

	14	サービスと消費者心理	接客サービスの効果と接客での問題点	事前学習課題：接客サービスにおいて重要なことを箇条書きにしておくこと(1時間) 事後学習課題：接客サービスの効果と問題点についてまとめること(2時間)
	15	ビジネス心理と消費行動の今後	消費者はこれからどのような商品、サービスを選んでいくのか？	事前学習課題：今後求められるサービスについて、プランを練ってこること(1時間) 事後学習課題：ビジネスにおける消費者心理の役割について総復習を行うこと(2時間)
関連科目	「グローバルマーケティング論」と関連する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費者心理学	山田一成・池内裕美	勁草書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動の社会心理学	竹村和久	北大路書房
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト 40%、授業課題 40%、教科書課題 20%の合計			
学生への メッセージ	皆さんの身の回りのビジネスの中にもたくさんの心理的要素が隠されています。なぜあの商品を買ったのでしょうか？なぜ、そのサービスを選んだのでしょうか？値段だけでしょうか？消費者の心の動きについて、ビジネスの具体例を交えながら、解説していきます。			
担当者の 研究室等	11号館7階(牧野(幸)准教授室)			
備考	授業開講時間に動画が公開されます。授業時間内に動画を見て、その後小テストを受け、授業課題を出してください。 毎週の小テストには受験期間があります。授業課題には締切があります。 必ず厳守してください。 締切以降の受験、提出はいつさい認めません。 事前学習には毎回1時間以上、事後学習には毎回1時間以上をかけること。 授業内で課された課題については、直後、あるいは、次週以降の授業で解説してフィードバックを行う。			

科目名	グローバル経済論	科目名 (英文)	Global Economy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2200a0		

授業概要・目的	この科目は国際ビジネスプログラム及び国際貢献プログラム対象科目である。 経済のグローバル化は、日本経済および地域経済に様々な影響をもたらしている。円高が進むもとで、日本の輸出製造業の大企業が海外へと生産拠点を展開して多国籍化をすすめ、経済の空洞化が危惧されている。高度な技術力で日本のものづくりを支え、地域経済の担い手となってきた中小企業は、大企業の多国籍化のもとで、再編と淘汰を余儀なくされている。国際競争力の強化を求める日本企業は、賃金コストの圧縮のため、非正規雇用の拡大を進めたが、労働者の収入の低下を																																																																		
到達目標	経済グローバル化と日本経済の関わりについて、歴史的・具体的に分析する方法について学ぶ。																																																																		
授業方法と留意点	教科書にしたがった講義形式で行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>講義ガイダンス</td><td>講義概要、教科書紹介</td><td>—</td></tr> <tr> <td>2</td><td>日本の大企業のグローバル化と中小企業</td><td>教科書 第1章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム</td><td>教科書 第2章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制</td><td>教科書 第3章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>アメリカ企業・政府によるグローバル化</td><td>教科書 第4章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>日本の流通の再編と寡占化</td><td>教科書 第5章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>地球環境問題</td><td>教科書 第7章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>グローバル化のもとでの日本の労働者の状態</td><td>教科書 第8章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>日本における外国人労働者</td><td>教科書 第9章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>労使関係の日本—スウェーデン比較</td><td>教科書 第13章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料</td><td>教科書 第10章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>地域間格差の拡大と日本財政</td><td>教科書 第11章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>グローバル化と税制改革</td><td>教科書 第12章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>現代資本主義の特徴と日本社会</td><td>教科書 序章</td><td>事前・教科書予習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—	2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習	3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習	4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習	5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習	6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習	7	地球環境問題	教科書 第7章	事前・教科書予習	8	グローバル化のもとでの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習	9	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習	10	労使関係の日本—スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習	11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習	12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習	13	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習	14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習	15	まとめ		
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—																																																																
2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習																																																																
3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習																																																																
4	アメリカ IT 企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習																																																																
5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習																																																																
6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習																																																																
7	地球環境問題	教科書 第7章	事前・教科書予習																																																																
8	グローバル化のもとでの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習																																																																
9	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習																																																																
10	労使関係の日本—スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習																																																																
11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習																																																																
12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習																																																																
13	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習																																																																
14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習																																																																
15	まとめ																																																																		
関連科目	国際ビジネスプログラム科目、国際貢献プログラム科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>資本主義の現在—資本蓄積の変容とその社会的影響</td><td>豊福裕二編</td><td>文理閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	資本主義の現在—資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	資本主義の現在—資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	期末レポート (100%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	普段から新聞やテレビなどで、現実の経済の動きについて関心を持ってください。積極的に質問をしてください。																																																																		
担当者の研究室等	1 号館 7 階 野口准教授室 (経済学部)																																																																		
備考	事前・事後学習にかかる総時間数は 60 時間です。																																																																		

科目名	地域と国際ビジネス	科目名 (英文)	Regional and International Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2201a0		

授業概要・目的	この授業は、6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目です。経済のグローバル化が進み、国境を越えた企業活動が活発になっている。この授業では、海外直接投資と企業の立地戦略の視点に立って、国境を越えて活動する企業（多国籍企業、グローバル企業）と地域の関係を、①国や地域の投資環境の分析、②企業の立地戦略、③途上国市場における社会課題解決型ビジネス（BOP ビジネス）の3つの側面から学ぶことを目的とする。この3点についてグループワークとプレゼンテーションを行う。			
到達目標	- 投資環境、企業の立地戦略、BOP ビジネスに関して理論と事例を説明できる。 - 投資環境や企業の立地選択の指標を用いて分析できる。 - グループワークに意欲的に参加し、グループとしての結論を導くことができる。 - グループ討論の結果を分かりやすく発表できる。			
授業方法と留意点	6週目まで Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う。7週目から対面授業とする。 - 統計データベース等を使った作業を行うため、パソコンを使用する。通信環境の良い場所で受講することが望ましい。 - 理論と事例の解説はレジュメを配布して講義形式で行う。またテーマに沿ってグループワークとプレゼンテーションを行う。 - 講義の回には内容に関して考えたことをリアクションペーパーとして提出する。 - 学期末には、投資環境、企業の立地戦略、BOP ビジネスのいずれかを選んで、学期末レポートを作成・提出する。			
科目学習の効果（資格）	- 企業のグローバル戦略の着眼点を知ることができる。 - 経済や経営に関心のある履修者にとっては文化演習や卒業研究の手がかりとなる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	企業活動の世界への広がり	授業の概要説明および国際ビジネスの視座の解説	レジュメを読み直して、授業の目的と方法および国際ビジネスの視座をよく確認する。
	2	海外直接投資	国境を越えた企業活動を量的に把握するための海外直接投資を知る。	紹介する資料を読んで海外直接投資の役割の理解を深める。
	3	海外直接投資データベースの使い方	海外直接投資の統計データを用いて国の国際投資状況を調べる。	UNCTAD Stat の使い方を覚え、いくつかの国について調べて図表化する。
	4	Doing Business 指標による投資環境の分析	Doing Business 指標をもとに直接投資に適した国・地域を発見し、その理由を考察する。	Doing Business の各指標の意味を調べ、グループワークのための下調べをしておく。
	5	グループワーク (1) : 投資環境分析	海外直接投資と Doing Business 指標をもとに直接投資に適した国・地域を発見し、その理由を考察し、発表する。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。
	6	プレゼンテーション (1)	前週の討論内容の発表と講評	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。
	7	国際分業、バリューチェーン、立地優位性	国際分業とバリューチェーンの概念を踏まえて、国の立地優位性と企業の立地戦略を学ぶ。	紹介する資料を読んで立地優位性の理解を深めておく。
	8	企業の立地選択の事例	インドの IT 産業から企業の立地戦略を考察する。	紹介する資料を読んで企業の立地戦略の理解を深めておく。
	9	グループワーク (2) : 企業の立地戦略	仮想の日本企業を考案し、国の立地優位性と国際分業を踏まえて、海外進出の計画を考える。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。
	10	プレゼンテーション (2)	前週の討論内容の発表と講評	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。
	11	途上国における BOP ビジネス	貧困層を対象とする BOP ビジネスとは何かを学ぶ。	紹介する資料を読んで BOP ビジネスの概要について理解を深めておく。
	12	BOP ビジネスの事例	日系企業を中心とした BOP ビジネスの事例を紹介する。	グループワークに備えて情報収集をしておく。また期末レポートの作成に着手する。
	13	グループワーク (3) : BOP ビジネス	困りごとを解決するビジネスを立案する。	討論内容を整理し、発表の準備をしておく。
	14	プレゼンテーション (3)	前週の討論内容の発表と講評（期末レポートの提出）	発表へのフィードバックをもとにスライドを修正し、提出する。また、期末レポートを完成させる。
	15	まとめと期末レポートの講評	講義の要点の整理と期末レポートへのフィードバックを行う。	期末レポートを提出し、フィードバックを確認する。
関連科目	異文化ビジネス、グローバル企業論、グローバル経済論 その他の国際ビジネスプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての国際経営	中川功一ほか	有斐閣
	2	新興市場ビジネス入門	今井雅和	中央経済社
	3	BOP ビジネス入門	菅原秀幸ほか	中央経済社
評価方法（基準）	・期末レポート（40%）、グループワークへの取り組みとプレゼンテーションの内容（40%）、リアクションペーパー（20%）で評価する。			
学生へのメッセージ	普段の生活では世界の動きに注目することは少ないかもしれませんが、グローバル化の時代を生きる私たちの生活は世界の変動の影響を強く受けています。履修者のみなさんが世界に目を向け、その変化に関心を持ち、自分たちの生活とのかかわりのなかで世界における企業の活動を考えてられるようになることを願っています。			
担当者の	7号館5階 藤井研究室			

研究室等	
備考	参考書の読み込み、プレゼンテーションの準備、レポート作成などにかかる事前・事後学習の総時間数は約60時間を目安とする。 課題に対するフィードバックは授業内で行う。

科目名	グローバルマーケティング論	科目名 (英文)	Global Marketing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3202a0		

授業概要・目的	この科目は、国際ビジネスプログラムおよびメディアビジネスプログラムの対象科目である。マーケティング初心者対象ということで、まずマーケティングの基本的概念を説明した後に、グローバルマーケティングについて説明する。			
到達目標	グローバルマーケティングについて理解を深める。			
授業方法と留意点	講義形式			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	グローバルマーケティングの全体像を示します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングに関連する内容を読みましよう。
	2	マーケティング志向	マーケティングの原点であるマーケティング志向について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティング志向に関連する内容を読みましよう。
	3	マーケティングの4P	製品、販売、流通、価格の基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティングの4Pに関連する内容を読みましよう。
	4	マーケティングのSTP	セグメンテーションやターゲティングについて説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティングのSTPに関連する内容を読みましよう。
	5	競争戦略	企業の競争関係について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、競争戦略に関連する内容を読みましよう。
	6	マーケティングとグローバル化	グローバルな市場創造について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、マーケティングとグローバル化に関連する内容を読みましよう。
	7	グローバル・マーケティングリサーチ	マーケティングリサーチのプロセスについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングリサーチに関連する内容を読みましよう。
	8	グローバル市場参入戦略	市場参入戦略について、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル市場参入戦略に関連する内容を読みましよう。
	9	グローバル製品戦略	グローバルな製品の基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル製品戦略に関連する内容を読みましよう。
	10	グローバル価格戦略	グローバルな価格の基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル価格戦略に関連する内容を読みましよう。
	11	グローバル広告戦略	グローバルな販売促進の基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル広告戦略に関連する内容を読みましよう。
	12	グローバル・ロジスティクス戦略	グローバルなロジスティクスの基本的な知識について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・ロジスティクスに関連する内容を読みましよう。
	13	グローバルマーケティングの組織	グローバルな組織構築について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティング組織に関連する内容を読みましよう。
	14	グローバルマーケティングの調整と統制	グローバルに展開する時の調整と統制について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティングの調整と統制に関連する内容を読みましよう。
	15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。文献や新聞で、グローバル・マーケティング全般に関連する内容を読みましよう。
関連科目	国際ビジネスプログラム科目、メディアビジネスプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	グローバル・マーケティング戦略	三浦俊彦、丸谷雄一郎、犬飼知徳	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	期末レポート（100%）			
学生へのメッセージ				

担当者の 研究室等	1 1 号館 8 階 武居教授室
備考	事前・事後学習にかかる総時間数は、60 時間です。

科目名	グローバル企業研究	科目名 (英文)	Studies on Multinational Corporations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3203a0		

授業概要・目的	本授業は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムに対応する科目である。授業内容は2年次の「異文化ビジネス論」の延長線上にあるようなイメージで、各業界における海外と日本のグローバル企業の事業展開を比較しながら考察する。また、SDG s の観点や最近の動向も交えて、具体的な事例とともに理解を深めていきたい。
到達目標	グローバル企業の事業内容や動向について事例とともに考察し、その戦略やSDG s との関連などについて理解できるようになる。
授業方法と留意点	※第2回目以降の授業は、すべてオンライン (Teams, リアルタイム) で行います。 ・2年次前期の科目「異文化ビジネス論」の内容を復習しながら学んでいくことが望ましい。 ・授業は講義と演習 (グループワークやプレゼンなど) を織り交ぜて行う。 ・レポートのフィードバックは提出した2週間後、プレゼンのフィードバックはその場で行う。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・授業期間中の事前・事後学習に必要とされる総時間数は60時間である。
科目学習の効果 (資格)	業界・企業研究に活かすことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業の内容や進め方などの説明を聞いて理解する。 ・映像・資料からビジネスの現場を知る。	・授業の内容や進め方について再確認し、計画を立てる (1時間)。 ・今回の授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	2	食品・飲料関連企業の動向とSDG s の取り組み	食品・飲料関連企業の動向について、SDG s の取り組みも交えて、サントリー、スターバックス、ネスレなどの事例とともに考察する。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	3	食品・飲料関連の BtoB 企業とその事業展開	食品・飲料関連の BtoB 企業とその事業展開について、SDG s の取り組みも交えて、東洋製罐、DIC、不二製油グループなどの事例とともに考察する。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	4	・レポートの書き方について ・プレゼンテーションのスキルについて ・レポートとプレゼンテーションの選択	・レポートの書き方について事例とともに学ぶ。 ・プレゼンテーションのスキルについて事例とともに学ぶ。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (3時間)。
	5	アパレル (ファストファッション) 関連企業の事業展開	アパレル (ファストファッション) 関連企業の事業展開について、SDG s の取り組みも交えて、ユニクロ、ZARA、H&M などの事例とともに考察する。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	6	生活雑貨・家具関連企業の事業展開	生活雑貨・家具関連企業の事業展開について、無印良品、ニトリ、IKEA などの事例とともに考察する。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	7	化粧品関連企業の事業展開 流通・小売業界の動向	・化粧品関連企業の事業展開について、資生堂、P&G、ロレアルなどの事例とともに考察する。 ・流通・小売業界の動向について、コンビニ、ドラッグストア、EC (ネット通販) などの事例とともに考察する。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	8	物流関連企業の事業展開 自動車関連企業の動向 レポートの提出	・物流関連企業の事業展開について、陸運・海運・空運すべての観点から、最近の動向とともに考察する。 ・自動車関連企業について、半導体・電池・タイヤなど様々な部品にも目を向け、最近の動向とともに考察する。	・予習として、授業テーマについてウェブサイトや参考書などで下調べをする (1時間)。 ・授業で扱った内容について、新聞・ビジネス雑誌の記事や文献などで詳しく調べてみる (3時間)。
	9	レポートのフィードバック (講評)	提出したレポートについて解答 (模範) 例を示しながら内容や書き方について講評する。	・授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2時間)。 ・自分のレポートについて講評に基づいて振り返り、改善すべき点などを確認する (2時間)。
	10	グループによるプレゼンテーション (1)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2時間)。 ・今回の授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2時間)。
	11	グループによるプレゼンテーション (2)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2時間)。 ・今回の授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2時間)。
	12	グループによるプレゼンテーション (3)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2時間)。 ・今回の授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2時間)。
	13	グループによるプレゼンテーション (4)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2時間)。 ・今回の授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2時間)。
	14	グループによるプレゼンテーション (5)	担当グループによるプレゼンテーションを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	・グループごとにプレゼンの準備を進めていく (2時間)。 ・今回の授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる (2時間)。

		ーション（５）	ンを行うとともに、フロアや教員との質疑応答により考察を深めていく。	時間)。 ・今回の授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（２時間）。																
	15	総括（まとめ）	・これまでの授業の内容を総括し、要点を整理する。 ・プレゼンテーションの内容やスキルについて総評する。	・これまでの授業で扱ったテーマについて、さらに文献等で詳しく調べてみる（２時間）。 ・自分たちのプレゼンテーションについて講評に基づいて振り返り、改善すべき点などを確認する（２時間）。																
関連科目	他の「国際ビジネス」プログラムの科目など。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>会社四季報 業界地図 2021 年度版</td><td>東洋経済新報社[編]</td><td>東洋経済新報社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	会社四季報 業界地図 2021 年度版	東洋経済新報社[編]	東洋経済新報社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	会社四季報 業界地図 2021 年度版	東洋経済新報社[編]	東洋経済新報社																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>必要に応じて授業内で紹介する</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて授業内で紹介する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	必要に応じて授業内で紹介する																			
2																				
3																				
評価方法（基準）	レポート等の提出物 40% プレゼン(研究発表) 60% ※ただし、原則としてオンライン授業への出席率が80%以上であることを条件とします。																			
学生へのメッセージ	将来、国際ビジネスの分野で活躍したい人は、ぜひ学んでみてください。																			
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																			
備考	・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・授業期間中の事前・事後学習に必要とされる総時間数は 60 時間である。																			

科目名	ビジネスコミュニケーション論	科目名 (英文)	Business Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2o		
科目ナンバリング	LDL3204a0		

授業概要・目的	この科目は国際ビジネスプログラム対応科目である。 2年次に習得した「異文化ビジネス論」や「ビジネス心理学」などの知識を活かしながら、国際ビジネスの現場におけるコミュニケーションの特徴や注意点について考察する。また、必要に応じて、日本語と外国語の場合を比較・対象しながら、接客から交渉に至るまで様々なビジネスの現場・場面を想定して、客観的な観点から学んでいく。				
到達目標	国際化に対応したビジネス実務の基礎知識の習得と、それぞれの場面に必要な日本文化・日本語に基づいた外国語能力の向上を目標とする。				
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、積極的に学ぶ姿勢が必要であり、第二に即戦力として学習内容を実践する意識を持つことを求める。				
科目学習の効果（資格）	グローバル化した日本企業などのビジネス組織で行われている基本的なビジネス実務全般を理解し、国内外との対応に必要なコミュニケーション能力の必要性を理解し、その向上を図る。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	オリエンテーション	・変化するビジネス組織 ・国際ビジネスの基本ーあいさつ ・イニシャルテスト	・事前学修：シラバスを熟読すること（1時間） ・事後学修：講義からグローバル社会に関してレポートを作成すること（3時間）
		2	パーティ文化	・名刺交換・席順 ・座席と服装、国の特徴 ・招待を受けた事例	・事前学修：公式なパーティとは何か、調べること（1時間） ・事後学修：「パーティ文化」をノートにまとめること（3時間）
		3	設営と慶弔含む贈答	・QUIZ①（第1回から第2回まで） ・日本文化における慶弔と贈答 ・主催者側としての設営	・事前学修：「慶弔」について調べること（1時間） ・事後学修：「設営」手順を作成すること（3時間）
		4	会議等の設営	・会議の種類 ・会議に必要とされる書類 ・社内会議と社外会議	・事前学修：Minutes（議事録）例を翻訳すること（2時間） ・事後学修：社内会議の案内文を作成すること（2時間）
		5	ビジネス対応ー敬語	・常識としての敬語と礼儀正しい英語表現 ・QUIZ②（敬語表現）	・事前学修：「敬語」プリントをすること（2時間） ・事後学修：敬語表現を復習すること（2時間）
		6	ビジネス対応ー応対	・Expressions at Reception ・ロールプレイ	・事前学修：Expressions at Reception 1, 2 & 3 のロールプレイを練習すること（2時間） ・事後学修：日本語、外国語での応対を練習すること（2時間）
		7	ビジネス対応ー電話	・Expression at Business Call ・ロールプレイ	・事前学修：・Expression at Business Call 1, 2 & 3 のロールプレイを練習すること（2時間） ・事後学修：日本語、外国語での応対を練習すること（2時間）
		8	中間テスト	・中間テスト（正答率60%で合格）	・事前学修：第3回から7回までの復習をすること（2時間） ・事後学修：中間テストの解答を確認し、復習すること（2時間）
		9	海外出張	・Y T T方式の理解 ・外国語による日程表の作成	・事前学修：San Franciscoに1週間の出張と考え、往復運賃、宿泊費等を調べてくること（2時間） ・事後学修：外国語による日程表を作成すること（2時間）
		10	ビジネス文書 基礎編	・文書の基本理解と作成 ・数字の扱い方、英語の略語 ・ファイリング	・事前学修：「時候のあいさつとビジネス用語プリント」をすること（2時間） ・事後学修：社内文書と社会文書、英文レターを清書すること（2時間）
		11	ビジネス文書 応用編①	・社内文書と社会文書作成 ・英文ビジネスレターとメモ	・事前学修：提示された条件で、文書を作成すること（2時間） ・事後学修：授業中に指示のあった社内文書と社会文書、英文レターを清書すること（2時間）
		12	ビジネス文書 応用編②	・日本語と外国語による社交文書作成	・事前学修：ビジネス文書のルールを再確認すること（2時間） ・事後学修：授業中に指示のあった社内文書と社会文書、英文レターを清書すること（2時間）
		13	総合演習①	・QUIZ③（第10回から第12回まで） ・ロールプレイを含む課題演習①	・事前学修：ビジネス文書を書けるよう、練習すること（2時間） ・事後学修：課題演習①を再度確認すること（2時間）
		14	総合演習②	・ロールプレイを含む課題演習②	・事前学修：課題演習①を再度確認すること（2時間） ・事後学修：課題演習②を再度確認すること（2時間）
		15	授業のまとめ	・コミュニケーションのあり方	・事前学修：課題演習②を再度確認すること（2時間） ・事後学修：第1回から第15回までの授業内容の理解を図ること（2時間）
関連科目					
教科書					

	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>ENGLISH FOR BUSINESS COMMUNICATION</td><td>新田亜紀子</td><td>南雲堂</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ENGLISH FOR BUSINESS COMMUNICATION	新田亜紀子	南雲堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	ENGLISH FOR BUSINESS COMMUNICATION	新田亜紀子	南雲堂														
2																	
3																	
参考書	<table><tr><th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr><tr><td>1</td><td>ビジネス実務ワーク</td><td>石井三恵他</td><td>泉文堂</td></tr><tr><td>2</td><td>働く女性の英語術</td><td>光藤京子</td><td>The Japan Times</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジネス実務ワーク	石井三恵他	泉文堂	2	働く女性の英語術	光藤京子	The Japan Times	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	ビジネス実務ワーク	石井三恵他	泉文堂														
2	働く女性の英語術	光藤京子	The Japan Times														
3																	
評価方法 (基準)	ロールプレイならびにプレゼンテーション（20%）、小テスト/QUIZ/中間テスト（50%）、レポート（30%）を総合的に評価する。																
学生への メッセージ	グローバル化と言われ久しい日本の企業等のビジネス組織において、外国人労働者が積極的に採用・雇用される現実も見えてきました。社内を英語で統一する日本企業も出現しており、対応可能な人材として外国語が使えるだけでなく、ビジネスの担い手としての常識がますます求められています。働く意識を高め、ビジネスの現場で必要とされる態度とコミュニケーションをしっかりと学び、自信を深め、一歩先を歩いてほしいと願っています。																
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																
備考	テキストは初回から使用するので、準備しておくことが好ましい。 必要に応じて資料を配布する。																

科目名	国際協力論	科目名 (英文)	International Cooperation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2205a0		

授業概要・目的	国際協力は、開発途上国に対する援助供与という観点で捉えられがちだが、開発途上国、開発援助国を問わず、互いが抱える問題にパートナーとして協力していくことが国際協力の本来のあり方である。本講座では国際協力や国際援助の歴史、意義、効果と限界、南北問題、日本外交と対外援助、日本のODAやNGOの現状と課題について、開発援助国と開発途上国との間で起こった事実を踏まえて学ぶ。 この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。 SDGs- 1, 2, 4, 17																																																																		
到達目標	国際協力の必要性・重要性、開発途上国の実情・現状や課題について理解を深め、国際協力のありかたについて自らの考えを持つ。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																																																																		
科目学習の効果（資格）	将来的に、国際分野に進むために学んでおかなければならない国際協力の基礎																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクションと授業内容概要</td><td>国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか</td><td>――</td></tr> <tr> <td>2</td><td>国際協力とは何か</td><td>国際協力の意味</td><td>国際協力がなぜ必要なのかを考える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>日本の国際協力</td><td>日本が行ってきた国際協力について</td><td>国際協力の意味とな何だったのか、これからどうなるのかを考える</td></tr> <tr> <td>4</td><td>非政府組織（NGO）</td><td>NGO の得意な分野と苦手な分野</td><td>民間でできる国際協力はあるのかを探る</td></tr> <tr> <td>5</td><td>草の根組織・地方自治体</td><td>普通の人々が出来る国際協力</td><td>様々な民間団体が補助金を利用していることを調べる</td></tr> <tr> <td>6</td><td>国際連合</td><td>様々な組織とその役割</td><td>国際機関の活動について調べる</td></tr> <tr> <td>7</td><td>国際協力を受ける国々（1）</td><td>開発途上国（アジア）について（過去・現在・将来）</td><td>世界でアジア地域の問題とは何かを考える</td></tr> <tr> <td>8</td><td>国際協力を受ける国々（2）</td><td>開発途上国（アフリカ）について（過去・現在・将来）</td><td>世界でアフリカ地域の問題とは何かを考える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際協力を受ける国々（3）</td><td>開発途上国（アジア・アフリカ以外の国）について（過去・現在・将来）</td><td>アジア・アフリカ以外での問題は、何かを考える</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際協力の仕組み</td><td>国際協力の仕組みを解明する</td><td>誰が・誰に・何を・どうするのか理解する</td></tr> <tr> <td>11</td><td>人・物・金</td><td>国際協力にまつわるキーワード</td><td>先進国にあって、開発途上国にないものを考察する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>国際協力の課題</td><td>主要援助国が抱える国際協力問題について</td><td>いつの時代にも貧困が根本にあることを理解する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>開発教育</td><td>開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く</td><td>貧困を解く鍵は「教育」であることを理解する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>国際協力の課題</td><td>今後、国際協力はどのようにあるべきかを考える</td><td>人類が将来的に生き合わせる必要はないこととは何かを考える</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括的確認（必ず出席すること）</td><td>これまでに学んできたことについて総合的判断を行う</td><td>世界中の人々が平等に平和に過ごすための条件を考える</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクションと授業内容概要	国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか	――	2	国際協力とは何か	国際協力の意味	国際協力がなぜ必要なのかを考える	3	日本の国際協力	日本が行ってきた国際協力について	国際協力の意味とな何だったのか、これからどうなるのかを考える	4	非政府組織（NGO）	NGO の得意な分野と苦手な分野	民間でできる国際協力はあるのかを探る	5	草の根組織・地方自治体	普通の人々が出来る国際協力	様々な民間団体が補助金を利用していることを調べる	6	国際連合	様々な組織とその役割	国際機関の活動について調べる	7	国際協力を受ける国々（1）	開発途上国（アジア）について（過去・現在・将来）	世界でアジア地域の問題とは何かを考える	8	国際協力を受ける国々（2）	開発途上国（アフリカ）について（過去・現在・将来）	世界でアフリカ地域の問題とは何かを考える	9	国際協力を受ける国々（3）	開発途上国（アジア・アフリカ以外の国）について（過去・現在・将来）	アジア・アフリカ以外での問題は、何かを考える	10	国際協力の仕組み	国際協力の仕組みを解明する	誰が・誰に・何を・どうするのか理解する	11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	先進国にあって、開発途上国にないものを考察する	12	国際協力の課題	主要援助国が抱える国際協力問題について	いつの時代にも貧困が根本にあることを理解する	13	開発教育	開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く	貧困を解く鍵は「教育」であることを理解する	14	国際協力の課題	今後、国際協力はどのようにあるべきかを考える	人類が将来的に生き合わせる必要はないこととは何かを考える	15	総括的確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	世界中の人々が平等に平和に過ごすための条件を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクションと授業内容概要	国際協力論ではどんなことを、どのように学ぶのか	――																																																																
2	国際協力とは何か	国際協力の意味	国際協力がなぜ必要なのかを考える																																																																
3	日本の国際協力	日本が行ってきた国際協力について	国際協力の意味とな何だったのか、これからどうなるのかを考える																																																																
4	非政府組織（NGO）	NGO の得意な分野と苦手な分野	民間でできる国際協力はあるのかを探る																																																																
5	草の根組織・地方自治体	普通の人々が出来る国際協力	様々な民間団体が補助金を利用していることを調べる																																																																
6	国際連合	様々な組織とその役割	国際機関の活動について調べる																																																																
7	国際協力を受ける国々（1）	開発途上国（アジア）について（過去・現在・将来）	世界でアジア地域の問題とは何かを考える																																																																
8	国際協力を受ける国々（2）	開発途上国（アフリカ）について（過去・現在・将来）	世界でアフリカ地域の問題とは何かを考える																																																																
9	国際協力を受ける国々（3）	開発途上国（アジア・アフリカ以外の国）について（過去・現在・将来）	アジア・アフリカ以外での問題は、何かを考える																																																																
10	国際協力の仕組み	国際協力の仕組みを解明する	誰が・誰に・何を・どうするのか理解する																																																																
11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	先進国にあって、開発途上国にないものを考察する																																																																
12	国際協力の課題	主要援助国が抱える国際協力問題について	いつの時代にも貧困が根本にあることを理解する																																																																
13	開発教育	開発教育とはなにか、どうして必要なのかを紐解く	貧困を解く鍵は「教育」であることを理解する																																																																
14	国際協力の課題	今後、国際協力はどのようにあるべきかを考える	人類が将来的に生き合わせる必要はないこととは何かを考える																																																																
15	総括的確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	世界中の人々が平等に平和に過ごすための条件を考える																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3 週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。																																																																		
学生へのメッセージ	国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座的として役割を果たします。この講義を受けて国際協力に興味を持った摂南大学の現役学生が青年海外協力隊員として、世界の国際協力現場の最前線で活躍しています。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階(浅野研究室) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	この授業の担当教員は、国際協力機構（JICA）の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて 10 年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学生を 33 名、JICA ボランティア（青年海外協力隊）に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。																																																																		

科目名	国際関係論	科目名 (英文)	International Relations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2206a0		

授業概要・目的	この科目は、パッケージプログラム（国際貢献および国際教養）の対応科目である。 本講義は、国際政治経済学の基礎的な概念や議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における経済（市場主義）と政治（国民国家）との間の相互作用に注目するものである。																																																														
到達目標	国際政治経済学の基礎的な概念や議論に親しむことで、それらの観点から「現代社会の国際関係」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を政治や経済の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。																																																														
授業方法と留意点	原則として講義形式を取り、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回 1 章完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。 【シラバス更新にともなうお知らせ】 (2021.04.16) ・講義は、①Teams を通じたリアルタイム配信（後日視聴も可能）、②Moodle を通じたレジュメ・課題等の配信、という 2 つの手段を適宜組み合わせせて行ないます。																																																														
科目学習の効果（資格）	現代社会をめぐる社会的科学的な議論についての基礎的な理解力																																																														
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>序章 「経済」の論理と「政治」の論理</td><td>テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと</td></tr> <tr> <td>2</td><td>国際政治経済学の理論的枠組み</td><td>第 1 章 国際政治経済の見方</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>国際経済体制の歴史（1）</td><td>第 2 章 力の構造と国際経済体制 ブレトンウッズ体制の成立までの経緯を概観する。</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国際経済体制の歴史（2）</td><td>第 3 章 冷戦とブレトンウッズ体制 冷戦期におけるブレトンウッズ体制の変容について概観する。</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>国際政治経済体制の動態（1）</td><td>第 4 章 安全保障と経済 「経済安全保障」とは何か。</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>国際政治経済体制の動態（2）</td><td>第 5 章 保護貿易をめぐる政治と経済 保護貿易と自由貿易との関係について考えていく。</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>国際政治経済体制の動態（3）</td><td>第 6 章 金融グローバル化の構図 金融のグローバル化は、ブレトンウッズ体制崩壊後の世界に何をもたらしたか。市場と国家との関係に注目しつつ考えていく。</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>国際政治経済体制の動態（4）</td><td>第 7 章 科学技術と現代国際関係 テクノロジーの発展と政治・経済との関係について考える。</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>国際政治経済体制の動態（5）</td><td>第 8 章 移民をめぐる政治と経済 グローバル化するヒトの移動は、国家に何をもたらすのか。</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際政治経済体制の動態（6）</td><td>第 9 章 経済発展と人権・民主化 経済発展と政治体制との関係について、人権保障や民主化・人間の安全保障といった観点から考える。</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>国際政治経済体制の動態（7）</td><td>第 10 章 地球環境をめぐる政治経済 国際政治の争点としての地球環境問題は、何故に困難な問題であるのか。</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>国際政治経済秩序の模索（1）</td><td>第 11 章 グローバルレベルの国際秩序の模索 通貨金融秩序・貿易秩序をめぐる新しい国際政治経済秩序の模索について論じる。</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>国際政治経済秩序の模索（2）</td><td>第 12 章 リージョナルレベルの国際秩序の模索 地域統合・地域協力のための枠組みについて、具体的なケースを通じて概観する。</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>国際政治経済秩序の模索（3）</td><td>第 13 章 ナショナルレベルからの国際秩序の模索 貿易問題を通して、国際秩序をめぐる国</td><td>〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキス</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	序章 「経済」の論理と「政治」の論理	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと	2	国際政治経済学の理論的枠組み	第 1 章 国際政治経済の見方	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）	3	国際経済体制の歴史（1）	第 2 章 力の構造と国際経済体制 ブレトンウッズ体制の成立までの経緯を概観する。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）	4	国際経済体制の歴史（2）	第 3 章 冷戦とブレトンウッズ体制 冷戦期におけるブレトンウッズ体制の変容について概観する。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）	5	国際政治経済体制の動態（1）	第 4 章 安全保障と経済 「経済安全保障」とは何か。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）	6	国際政治経済体制の動態（2）	第 5 章 保護貿易をめぐる政治と経済 保護貿易と自由貿易との関係について考えていく。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）	7	国際政治経済体制の動態（3）	第 6 章 金融グローバル化の構図 金融のグローバル化は、ブレトンウッズ体制崩壊後の世界に何をもたらしたか。市場と国家との関係に注目しつつ考えていく。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）	8	国際政治経済体制の動態（4）	第 7 章 科学技術と現代国際関係 テクノロジーの発展と政治・経済との関係について考える。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）	9	国際政治経済体制の動態（5）	第 8 章 移民をめぐる政治と経済 グローバル化するヒトの移動は、国家に何をもたらすのか。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）	10	国際政治経済体制の動態（6）	第 9 章 経済発展と人権・民主化 経済発展と政治体制との関係について、人権保障や民主化・人間の安全保障といった観点から考える。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）	11	国際政治経済体制の動態（7）	第 10 章 地球環境をめぐる政治経済 国際政治の争点としての地球環境問題は、何故に困難な問題であるのか。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）	12	国際政治経済秩序の模索（1）	第 11 章 グローバルレベルの国際秩序の模索 通貨金融秩序・貿易秩序をめぐる新しい国際政治経済秩序の模索について論じる。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）	13	国際政治経済秩序の模索（2）	第 12 章 リージョナルレベルの国際秩序の模索 地域統合・地域協力のための枠組みについて、具体的なケースを通じて概観する。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）	14	国際政治経済秩序の模索（3）	第 13 章 ナショナルレベルからの国際秩序の模索 貿易問題を通して、国際秩序をめぐる国	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキス
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																												
1	オリエンテーション	序章 「経済」の論理と「政治」の論理	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと																																																												
2	国際政治経済学の理論的枠組み	第 1 章 国際政治経済の見方	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																																																												
3	国際経済体制の歴史（1）	第 2 章 力の構造と国際経済体制 ブレトンウッズ体制の成立までの経緯を概観する。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																																																												
4	国際経済体制の歴史（2）	第 3 章 冷戦とブレトンウッズ体制 冷戦期におけるブレトンウッズ体制の変容について概観する。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																																																												
5	国際政治経済体制の動態（1）	第 4 章 安全保障と経済 「経済安全保障」とは何か。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																																																												
6	国際政治経済体制の動態（2）	第 5 章 保護貿易をめぐる政治と経済 保護貿易と自由貿易との関係について考えていく。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																																																												
7	国際政治経済体制の動態（3）	第 6 章 金融グローバル化の構図 金融のグローバル化は、ブレトンウッズ体制崩壊後の世界に何をもたらしたか。市場と国家との関係に注目しつつ考えていく。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																																																												
8	国際政治経済体制の動態（4）	第 7 章 科学技術と現代国際関係 テクノロジーの発展と政治・経済との関係について考える。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																																																												
9	国際政治経済体制の動態（5）	第 8 章 移民をめぐる政治と経済 グローバル化するヒトの移動は、国家に何をもたらすのか。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																																																												
10	国際政治経済体制の動態（6）	第 9 章 経済発展と人権・民主化 経済発展と政治体制との関係について、人権保障や民主化・人間の安全保障といった観点から考える。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																																																												
11	国際政治経済体制の動態（7）	第 10 章 地球環境をめぐる政治経済 国際政治の争点としての地球環境問題は、何故に困難な問題であるのか。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																																																												
12	国際政治経済秩序の模索（1）	第 11 章 グローバルレベルの国際秩序の模索 通貨金融秩序・貿易秩序をめぐる新しい国際政治経済秩序の模索について論じる。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																																																												
13	国際政治経済秩序の模索（2）	第 12 章 リージョナルレベルの国際秩序の模索 地域統合・地域協力のための枠組みについて、具体的なケースを通じて概観する。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）																																																												
14	国際政治経済秩序の模索（3）	第 13 章 ナショナルレベルからの国際秩序の模索 貿易問題を通して、国際秩序をめぐる国	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキス																																																												

			家の役割について考える。	トを読み返しておくこと（目安時間：60分）																
	15	まとめと補遺	終章 国際政治経済学の未来像 「グローバル」と、それに対する「ローカル」「ナショナル」「反グローバル」との関係について、私たちは今度どのように考え、何を目指すべきか。	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）																
関連科目	パッケージプログラム（国際貢献および国際教養）の各科目																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>国際政治経済学・入門 第3版</td><td>野林健ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際政治経済学・入門 第3版	野林健ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	国際政治経済学・入門 第3版	野林健ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 （基準）	■定期試験 100% 【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.04.16) ・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施します。 （課題の提示および提出は、Moodle を通じて行ないます。）																			
学生への メッセージ	教科書は、毎回の授業だけでなく、定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。 【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.04.16) ・定期試験は実施しませんが、課題への取り組みに際して教科書は必携です。必ず購入してください。																			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室 ※ただし2021年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。																			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性があります。 なお、本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととします。 この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献および国際教養）の対応科目ですが、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能です。																			

科目名	ボランティア論	科目名 (英文)	Volunteerism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2207a0		

授業概要・目的	本講義ではボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国内ボランティア、NGO、NPO、JICA ボランティア、民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国内外の社会常識と知識を深める。 この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。 SDGs 1, 2, 4, 17																																																																		
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	日本の立場を国際的な視野から見る。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクションと授業内容概要</td><td>授業の目的や方針を確認し、全体の流れ（起承転結）を知る</td><td>ボランティア・社会奉仕・社会貢献についての概略</td></tr> <tr> <td>2</td><td>(起-1) ボランティアの基礎①</td><td>ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ</td><td>答えのない世界とは何かを考える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>(起-2) ボランティアの基礎②</td><td>貧困・災害とは何かを学ぶ</td><td>どこでなにが起きるかわからないということを理解する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>(起-3) 社会貢献</td><td>社会貢献やCSRとは何かを知る</td><td>個人・団体・企業など様々な取り組みを考える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>(承-1) 企業の社会的貢献</td><td>企業の社会的貢献の現状を知る</td><td>慈善なのか、企業倫理なのかを考える</td></tr> <tr> <td>6</td><td>(承-2) 国際協力の現状把握</td><td>どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る</td><td>偽善とは何なのかを考える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア</td><td>国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る</td><td>目的別のボランティアを考える</td></tr> <tr> <td>8</td><td>(転-2) 国際ボランティア (青年海外協力隊)</td><td>国際ボランティア (青年海外協力隊) になるにはどうしたら良いのかを知る</td><td>チャレンジとは、何かを知る</td></tr> <tr> <td>9</td><td>(転-3) 国際ボランティア (国連ボランティア)</td><td>国際ボランティア (国連ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る</td><td>ステップアップする方法を考える①</td></tr> <tr> <td>10</td><td>(転-4) 国際ボランティア (NGO ボランティア)</td><td>国際ボランティア (NGO ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る</td><td>ステップアップする方法を考える②</td></tr> <tr> <td>11</td><td>(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって</td><td>国際ボランティアとしての自覚と次のステップ</td><td>自覚と義務とのギャップを巻く</td></tr> <tr> <td>12</td><td>(結-2) 自分に何ができるのか</td><td>ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする</td><td>他人事でボランティアをしない方法はあるのかを考える</td></tr> <tr> <td>13</td><td>(結-3) 更なる発展に向けて</td><td>ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない</td><td>ボランティアを受ける側の事情を考察する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>今後の課題</td><td>ボランティア活動の諸問題と克服について知る</td><td>ボランティア活動10ヶ条を考える</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括的確認 (必ず出席すること)</td><td>これまでに学んできたことについて総合的判断を行う</td><td>ボランティア活動を人生に生かす方法を考える</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ（起承転結）を知る	ボランティア・社会奉仕・社会貢献についての概略	2	(起-1) ボランティアの基礎①	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	答えのない世界とは何かを考える	3	(起-2) ボランティアの基礎②	貧困・災害とは何かを学ぶ	どこでなにが起きるかわからないということを理解する	4	(起-3) 社会貢献	社会貢献やCSRとは何かを知る	個人・団体・企業など様々な取り組みを考える	5	(承-1) 企業の社会的貢献	企業の社会的貢献の現状を知る	慈善なのか、企業倫理なのかを考える	6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	偽善とは何なのかを考える	7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	目的別のボランティアを考える	8	(転-2) 国際ボランティア (青年海外協力隊)	国際ボランティア (青年海外協力隊) になるにはどうしたら良いのかを知る	チャレンジとは、何かを知る	9	(転-3) 国際ボランティア (国連ボランティア)	国際ボランティア (国連ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える①	10	(転-4) 国際ボランティア (NGO ボランティア)	国際ボランティア (NGO ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える②	11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次のステップ	自覚と義務とのギャップを巻く	12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	他人事でボランティアをしない方法はあるのかを考える	13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	ボランティアを受ける側の事情を考察する	14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	ボランティア活動10ヶ条を考える	15	総括的確認 (必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	ボランティア活動を人生に生かす方法を考える
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ（起承転結）を知る	ボランティア・社会奉仕・社会貢献についての概略																																																																
2	(起-1) ボランティアの基礎①	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	答えのない世界とは何かを考える																																																																
3	(起-2) ボランティアの基礎②	貧困・災害とは何かを学ぶ	どこでなにが起きるかわからないということを理解する																																																																
4	(起-3) 社会貢献	社会貢献やCSRとは何かを知る	個人・団体・企業など様々な取り組みを考える																																																																
5	(承-1) 企業の社会的貢献	企業の社会的貢献の現状を知る	慈善なのか、企業倫理なのかを考える																																																																
6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	偽善とは何なのかを考える																																																																
7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	目的別のボランティアを考える																																																																
8	(転-2) 国際ボランティア (青年海外協力隊)	国際ボランティア (青年海外協力隊) になるにはどうしたら良いのかを知る	チャレンジとは、何かを知る																																																																
9	(転-3) 国際ボランティア (国連ボランティア)	国際ボランティア (国連ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える①																																																																
10	(転-4) 国際ボランティア (NGO ボランティア)	国際ボランティア (NGO ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える②																																																																
11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次のステップ	自覚と義務とのギャップを巻く																																																																
12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができる事を明確にする	他人事でボランティアをしない方法はあるのかを考える																																																																
13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	ボランティアを受ける側の事情を考察する																																																																
14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	ボランティア活動10ヶ条を考える																																																																
15	総括的確認 (必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	ボランティア活動を人生に生かす方法を考える																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3 週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (浅野研究室)																																																																		
備考	この授業の担当教員は、国際協力機構 (JICA) の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて 10 年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学生を 33 名、JICA ボランティア (青年海外協力隊) に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。 事前・事後学習は合計 60 時間を目安とする。																																																																		

科目名	国際平和論	科目名 (英文)	International Peace Studies
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3208a0		

授業概要・目的	この科目は、パッケージプログラム（国際貢献）の対応科目である。 本講義は、「国際平和」をめぐる現代世界の諸問題について、基本的には国際政治学の立場からアプローチし、問題の包括的な理解を通じて、その現実的な解決策を模索していくことを目指すものである。
到達目標	「国際平和」をめぐる取り上げられる様々な問題や議論に触れ、現代社会に対する理解を深める。
授業方法と留意点	原則として講義形式をとり、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 教科書の章立てに沿って各回 1 章完結方式で進めていく予定であるが、進行状況等によって多少の調整がありうる。 【シラバス更新にともなうお知らせ】 (2021. 08. 30) ・講義は、①Teams を通じたリアルタイム配信（後日視聴も可能）、②Moodle を通じたレジュメ・課題等の配信、という 2 つの手段を適宜組み合わせせて行ないます。 【シラバス更新にともなうお知らせ】 (2021. 11. 17) ・11 月 10 日（水）より、対面講義への参加
科目学習の効果（資格）	現代社会における「国際平和」をめぐる諸問題についての基礎的な理解を深めることが期待される。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義内容およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
	2	現代社会の前身—国際社会の誕生	第 1 章 国際社会の誕生とナショナリズム	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	3	国際社会の分析視角（1）	第 2 章 覇権と国際政治	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	4	国際社会の分析視角（2）	第 3 章 理想と国際政治	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	5	国際社会の分析視角（3）	第 4 章 規範と国際政治	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	6	国際社会の分析視角（4）	第 5 章 構造と国際政治	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	7	冷戦の終結とは何だったのか	第 6 章 ソヴィエト崩壊と歴史の終わり	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	8	現代の紛争（1）	第 7 章 紛争と宗教・文化	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	9	現代の紛争（2）	第 8 章 紛争と民族・領土	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	10	現代の紛争（3）	第 9 章 紛争と資源	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	11	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築（1）	第 10 章 軍事介入と国際連合	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	12	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築（2）	第 11 章 軍事介入の論理	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	13	破綻国家への介入と紛争後の秩序構築（3）	第 12 章 平和構築と権力分有	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	14	人間の安全保障とは何か	第 13 章 人間の安全保障	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	15	まとめと補遺—地球社会の課題	第 14 章 G-ゼロ世界と地球社会の課題	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）

				トを読み返しておくこと（目安時間：60分）
関連科目	パッケージプログラム（国際貢献）の各科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際平和論	福富満久	岩波書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	■定期試験 100% 【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.08.30) ・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施します。 （課題の提示および提出は、Moodleを通じて行ないます。）			
学生への メッセージ	教科書は、毎回の授業だけでなく、定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。 【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.08.30) ・教科書は、授業内で提示する課題への取り組みの際にも必要です。必ず購入の上で受講してください。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室 ※ただし2021年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性があります。 なお、本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととします。 この科目は外国語学部パッケージプログラム（国際貢献）の対応科目ですが、他のプログラムや英語プロフェッショナルコースの学生も受講可能です。			

科目名	国際機構論	科目名 (英文)	International Organizations
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3209a0		

授業概要・目的	国連機関は一体どんな働きをしているのだろうか。この講義は、国際機関の基礎的知識を学ぶことを目的としている。 この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。 SDGs- 1, 2, 4, 17																																																																		
到達目標	国際機構との関わりにおいて、過去の歴史から見た国際関係と現在について原理・概念がもつ重要性や課題を理解する。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																																																																		
科目学習の効果（資格）	国際機関で働くために知っておくべき基礎的な教養																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクションと授業内容概要</td><td>国際機構論ではどんなことを、どのように学ぶのか</td><td>――</td></tr> <tr> <td>2</td><td>国際機構とは何か</td><td>国際機構の働きについて</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>3</td><td>日本と国際機構との関係</td><td>日本が行ってきた国際機構との協力関係について</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>4</td><td>国際機関で働くには</td><td>国際機関でグローバルに生きる方法</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>5</td><td>国際援助</td><td>国際機構が行う国際援助について</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>6</td><td>国際法</td><td>国際機関と国際法との関係</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>7</td><td>地域紛争</td><td>国際機関と地域紛争や危機管理との関係について</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>8</td><td>核の不拡散と輸出管理</td><td>大量破壊兵器と国際機関との関係について</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>9</td><td>テロリズム</td><td>9・11 事件以降のテロリズム対策について</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国際難民</td><td>国際的に拡大する難民問題と国際機構との関係について</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>11</td><td>人・物・金</td><td>国際協力にまつわるキーワード</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>12</td><td>貧困問題</td><td>開発途上国が持つ大きな問題が、貧困でありこの問題に国際機構がどう対応するかについて</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>13</td><td>持続可能な発展</td><td>「持続可能な発展」とは何か、どうして必要なかを紐解く</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>14</td><td>国際機構の課題</td><td>今後、国際機構はどうあるべきかを考える</td><td>前回の復習と、次回への展開</td></tr> <tr> <td>15</td><td>記述式総括確認（必ず出席すること）</td><td>これまでに学んできたことについて記述式の総合的判断を行う</td><td>――</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクションと授業内容概要	国際機構論ではどんなことを、どのように学ぶのか	――	2	国際機構とは何か	国際機構の働きについて	前回の復習と、次回への展開	3	日本と国際機構との関係	日本が行ってきた国際機構との協力関係について	前回の復習と、次回への展開	4	国際機関で働くには	国際機関でグローバルに生きる方法	前回の復習と、次回への展開	5	国際援助	国際機構が行う国際援助について	前回の復習と、次回への展開	6	国際法	国際機関と国際法との関係	前回の復習と、次回への展開	7	地域紛争	国際機関と地域紛争や危機管理との関係について	前回の復習と、次回への展開	8	核の不拡散と輸出管理	大量破壊兵器と国際機関との関係について	前回の復習と、次回への展開	9	テロリズム	9・11 事件以降のテロリズム対策について	前回の復習と、次回への展開	10	国際難民	国際的に拡大する難民問題と国際機構との関係について	前回の復習と、次回への展開	11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	前回の復習と、次回への展開	12	貧困問題	開発途上国が持つ大きな問題が、貧困でありこの問題に国際機構がどう対応するかについて	前回の復習と、次回への展開	13	持続可能な発展	「持続可能な発展」とは何か、どうして必要なかを紐解く	前回の復習と、次回への展開	14	国際機構の課題	今後、国際機構はどうあるべきかを考える	前回の復習と、次回への展開	15	記述式総括確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて記述式の総合的判断を行う	――
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクションと授業内容概要	国際機構論ではどんなことを、どのように学ぶのか	――																																																																
2	国際機構とは何か	国際機構の働きについて	前回の復習と、次回への展開																																																																
3	日本と国際機構との関係	日本が行ってきた国際機構との協力関係について	前回の復習と、次回への展開																																																																
4	国際機関で働くには	国際機関でグローバルに生きる方法	前回の復習と、次回への展開																																																																
5	国際援助	国際機構が行う国際援助について	前回の復習と、次回への展開																																																																
6	国際法	国際機関と国際法との関係	前回の復習と、次回への展開																																																																
7	地域紛争	国際機関と地域紛争や危機管理との関係について	前回の復習と、次回への展開																																																																
8	核の不拡散と輸出管理	大量破壊兵器と国際機関との関係について	前回の復習と、次回への展開																																																																
9	テロリズム	9・11 事件以降のテロリズム対策について	前回の復習と、次回への展開																																																																
10	国際難民	国際的に拡大する難民問題と国際機構との関係について	前回の復習と、次回への展開																																																																
11	人・物・金	国際協力にまつわるキーワード	前回の復習と、次回への展開																																																																
12	貧困問題	開発途上国が持つ大きな問題が、貧困でありこの問題に国際機構がどう対応するかについて	前回の復習と、次回への展開																																																																
13	持続可能な発展	「持続可能な発展」とは何か、どうして必要なかを紐解く	前回の復習と、次回への展開																																																																
14	国際機構の課題	今後、国際機構はどうあるべきかを考える	前回の復習と、次回への展開																																																																
15	記述式総括確認（必ず出席すること）	これまでに学んできたことについて記述式の総合的判断を行う	――																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	記述式小テストや記述式小レポートを合わせて(100%)評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	国際協力機関・国際ボランティア・青年海外協力隊など、将来この方面に進みたい学生には入門講座的として役割を果たします。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階（浅野研究室） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	この授業の担当教員は、国際協力機構（JICA）の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて 10 年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学生を 33 名、JICA ボランティア（青年海外協力隊）に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。 事前・事後学習は合計 60 時間を目安とする。																																																																		

科目名	社会開発論	科目名 (英文)	Social Development
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3210a0		

授業概要・目的	この科目は、国際貢献プログラム対応科目となっています。 経済のグローバル化が進み、途上国への企業進出も盛んになる現代においては、それぞれの国や地域社会に対する理解力や思考力が重要です。特に、グローバルに展開される国際協力の場においては、開発援助の持つ理念やインパクト（メリット・デメリット）を理解することが必要になります。 本講義では、近年の経済成長により注目されているアフリカ・アジア諸国に関する基礎知識を学ぶとともに、開発の現代性や必要性、外部者の役割について検討していきます。また、社会開発の																																																																		
到達目標	1. 開発援助の対象であるアジア・アフリカ地域の歴史と現状を理解し、ステレオタイプ的な見方を変える 2. 開発に関わる諸概念・方法論の変遷と現状を理解し、社会開発の位置づけを説明することができる。 3. 社会開発の可能性と限界、対象社会に与える影響、対象社会の主体的な営み、を認識した上で、私たちに何ができるのか、どのように関わっていくべきなのかについて主体的・論理的に考えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題(小テスト等)に対しては解説を行う。また、遠隔授業で実施する場合には Moodle を授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>アフリカを知る 1</td><td>開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>アフリカを知る 2</td><td>開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>アフリカを知る 3</td><td>開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>アジアを知る 1</td><td>開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>アジアを知る 2</td><td>開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>開発政策と地域社会</td><td>国家や先住民といったキーワードをもとに開発政策と地域社会への影響を検討</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>開発と文化・価値・エンパワメント</td><td>文化やエンパワメントといった観点から開発を考える</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>社会開発の現状と課題 1: 教育</td><td>教育に関わる社会開発の現状と課題を知る</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>社会開発の現状と課題 2: 農村開発</td><td>農村開発に関わる社会開発の現状と課題を知る</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>社会開発の現状と課題 3: 環境問題</td><td>環境問題に関わる社会開発の現状と課題を知る</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>社会開発と社会調査: 対象社会を理解するための視点と方法 1</td><td>社会調査の方法論について理解する</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>社会開発と社会調査: 対象社会を理解するための視点と方法 2</td><td>社会調査の方法論について理解する</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>開発における外部者の役割</td><td>地域の人びとと関わり合う難しさを知るとともに、外部者の役割を考える</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括</td><td>全体のまとめ</td><td>アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	2	アフリカを知る 1	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	3	アフリカを知る 2	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	4	アフリカを知る 3	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	5	アジアを知る 1	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	6	アジアを知る 2	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	7	開発政策と地域社会	国家や先住民といったキーワードをもとに開発政策と地域社会への影響を検討	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	8	開発と文化・価値・エンパワメント	文化やエンパワメントといった観点から開発を考える	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	9	社会開発の現状と課題 1: 教育	教育に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	10	社会開発の現状と課題 2: 農村開発	農村開発に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	11	社会開発の現状と課題 3: 環境問題	環境問題に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	12	社会開発と社会調査: 対象社会を理解するための視点と方法 1	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	13	社会開発と社会調査: 対象社会を理解するための視点と方法 2	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	14	開発における外部者の役割	地域の人びとと関わり合う難しさを知るとともに、外部者の役割を考える	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）	15	総括	全体のまとめ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
2	アフリカを知る 1	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
3	アフリカを知る 2	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
4	アフリカを知る 3	開発援助の対象であるアフリカ地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
5	アジアを知る 1	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
6	アジアを知る 2	開発援助の対象であるアジア地域の歴史と現状を学ぶ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
7	開発政策と地域社会	国家や先住民といったキーワードをもとに開発政策と地域社会への影響を検討	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
8	開発と文化・価値・エンパワメント	文化やエンパワメントといった観点から開発を考える	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
9	社会開発の現状と課題 1: 教育	教育に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
10	社会開発の現状と課題 2: 農村開発	農村開発に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
11	社会開発の現状と課題 3: 環境問題	環境問題に関わる社会開発の現状と課題を知る	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
12	社会開発と社会調査: 対象社会を理解するための視点と方法 1	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
13	社会開発と社会調査: 対象社会を理解するための視点と方法 2	社会調査の方法論について理解する	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
14	開発における外部者の役割	地域の人びとと関わり合う難しさを知るとともに、外部者の役割を考える	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
15	総括	全体のまとめ	アジア・アフリカのニュースに関心をもち、それに対する自分の意見を考える。授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める（1時間以上）																																																																
関連科目	国際貢献プログラム関連科目（国際協力論、国際関係論、国際平和論、国際機構論等）																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書																																																																			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等）（60％）とレポート（40％）で評価します。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館5階（手代木研究室） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。			

科目名	ことばと意味	科目名 (英文)	Languages and Meanings
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2211a0		

授業概要・目的	この科目は、「外国語専門職」プログラムに対応する科目です。 ことばが持つ意味というのは、突き詰めていけば非常に難しく、その分興味深いテーマです。ことばの意味について知るということは、私たちがどのようにことばで伝達を行っているかについて知ることでもあります。そして、何気なく使っている日本語や英語に対する考え方がさらに広がり深まることでしょう。 本授業は、ことばの「意味」について、体系的かつ総合的に学習し、ことばが持つ意味の複雑さや素晴らしさ、それらを理解して使っている人の賢さや優しさを改めて考																																																																		
到達目標	言語学の様々な理論、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会学的アプローチ、認知言語学、などを通して、ことばが持つ「意味」とは、どのようなものか、人はそれをどのように理解するのかについて学ぶことを目標とします。																																																																		
授業方法と留意点	毎回様々な言葉の意味のテーマを取り上げながら、講義を聞き、理解し、その内容を基に学生同士で議論しながら、自ら能動的に参加しながら授業を進めていきます。 配布資料と辞書は忘れないで持参してください。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教職課程科目																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の進め方</td><td>「ことば」について予習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>「ことば」とは</td><td>音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など</td><td>言語学4分野について復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>音と意味</td><td>オノマトペ、自然的意味と恣意的意味</td><td>音が持つ意味について復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>文字と意味</td><td>表意文字と表音文字、テキストメッセージとボイスメッセージ、漢字とひらかな</td><td>文字と意味の関係について復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>形態素と意味</td><td>接尾語と接頭語</td><td>形態素の役割を復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>語と意味</td><td>単語について 外延的意味と内包的意味</td><td>単語が持つ意味について復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>文法と意味</td><td>時制・相</td><td>文法がどのように文の意味に関係しているかを復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>文脈と意味</td><td>「どうも」「すみません」、<i>"OK"</i>、<i>"Chao"</i></td><td>文脈が発話の意味とどのように関係しているかを復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>役割語</td><td>役割を明示することば</td><td>役割語の機能について復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>結合語</td><td>日本語と英語の結合語</td><td>身近な結合語について復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>メタファー</td><td>メタファーの解釈</td><td>身近なメタファーについて復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>メトニミー</td><td>メトニミーの解釈</td><td>身近なメトニミーについて復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>アイロニー</td><td>アイロニーの解釈</td><td>身近なアイロニーについて復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>含意</td><td>含意の解釈、ポライトネス</td><td>身近な含意について復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめのテスト</td><td>授業の復習</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方	「ことば」について予習	2	「ことば」とは	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など	言語学4分野について復習	3	音と意味	オノマトペ、自然的意味と恣意的意味	音が持つ意味について復習	4	文字と意味	表意文字と表音文字、テキストメッセージとボイスメッセージ、漢字とひらかな	文字と意味の関係について復習	5	形態素と意味	接尾語と接頭語	形態素の役割を復習	6	語と意味	単語について 外延的意味と内包的意味	単語が持つ意味について復習	7	文法と意味	時制・相	文法がどのように文の意味に関係しているかを復習	8	文脈と意味	「どうも」「すみません」、 <i>"OK"</i> 、 <i>"Chao"</i>	文脈が発話の意味とどのように関係しているかを復習	9	役割語	役割を明示することば	役割語の機能について復習	10	結合語	日本語と英語の結合語	身近な結合語について復習	11	メタファー	メタファーの解釈	身近なメタファーについて復習	12	メトニミー	メトニミーの解釈	身近なメトニミーについて復習	13	アイロニー	アイロニーの解釈	身近なアイロニーについて復習	14	含意	含意の解釈、ポライトネス	身近な含意について復習	15	まとめのテスト	授業の復習	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方	「ことば」について予習																																																																
2	「ことば」とは	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、など	言語学4分野について復習																																																																
3	音と意味	オノマトペ、自然的意味と恣意的意味	音が持つ意味について復習																																																																
4	文字と意味	表意文字と表音文字、テキストメッセージとボイスメッセージ、漢字とひらかな	文字と意味の関係について復習																																																																
5	形態素と意味	接尾語と接頭語	形態素の役割を復習																																																																
6	語と意味	単語について 外延的意味と内包的意味	単語が持つ意味について復習																																																																
7	文法と意味	時制・相	文法がどのように文の意味に関係しているかを復習																																																																
8	文脈と意味	「どうも」「すみません」、 <i>"OK"</i> 、 <i>"Chao"</i>	文脈が発話の意味とどのように関係しているかを復習																																																																
9	役割語	役割を明示することば	役割語の機能について復習																																																																
10	結合語	日本語と英語の結合語	身近な結合語について復習																																																																
11	メタファー	メタファーの解釈	身近なメタファーについて復習																																																																
12	メトニミー	メトニミーの解釈	身近なメトニミーについて復習																																																																
13	アイロニー	アイロニーの解釈	身近なアイロニーについて復習																																																																
14	含意	含意の解釈、ポライトネス	身近な含意について復習																																																																
15	まとめのテスト	授業の復習																																																																	
関連科目	その他の外国語専門職プログラム科目など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業態度 30%、小テスト 30%、まとめのテスト 40%																																																																		
学生へのメッセージ	普段何気なく使っていることばが持っている意味について、興味を持って授業に参加してほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	事前事後学習：60時間 小テストは次の授業時間に返却し、ポイントなどの説明を行う。 授業時間以外で質問などがある場合は、研究室にて対応する。																																																																		

科目名	異文化コミュニケーション論	科目名 (英文)	Cross-Cultural Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2212a0		

授業概要・目的	・この科目は、「外国語専門職プログラム」および「国際教養プログラム」対応科目です。 ・人間の使う言葉・行動・価値の置き方には、文化の違いが反映されています。この授業では、自文化を知り、他文化を尊重し、価値観を尊重しながら、異なる文化を持つ人々とどのようにつきあっていくかを考えること、文化の多様性を受け入れること、価値観の違いを乗り越えて意志疎通を図ることの意義や実践法を学びます。
到達目標	・異文化コミュニケーションに関する専門用語を理解し、基礎的な知識を得る。 ・異文化経験の具体的な事例について、観察・分析し、考察することができる。 ・自分の意見を表現できる。
授業方法と留意点	・講義 プリント資料の内容は熟読する。 ・タスク 異文化コミュニケーションについて考えるタスク・活動を行う。授業外の課題として行うものもある。ペアワーク、グループワーク、発表も含まれる。 (授業の進行状況により、授業テーマの順番や内容が多少変更することがあります)
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の概要・進め方・評価について・学習にあたっての留意事項	プリント資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) (1.5H)
	2	異文化コミュニケーションとは (1)	講義、タスク	プリント資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) (1.5H)
	3	異文化コミュニケーションとは (1)	講義、タスク	プリント資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) (1.5H)
	4	異文化適応	講義、タスク	授業で出された課題 (1.5H)
	5	異文化摩擦・異文化コミュニケーションの障壁	講義、タスク	授業で出された課題 (1.5H)
	6	異文化に対する認識	講義、タスク	レポート作成 (1.5H)
	7	比較する	講義、タスク	レポート作成 (1.5H)
	8	言語コミュニケーション (1)	講義、タスク	プリント資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で出された課題 (1.5H)
	9	言語コミュニケーション (2)	講義、タスク	プリント資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で出された課題 (1.5H)
	10	非言語コミュニケーション	講義、タスク	プリント資料 熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で資料出された課題 (1.5H)
	11	外国語の学習	ゲストスピーカー (予定)、グループディスカッション	プリント熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で出された課題 (1.5H)
	12	異文化コミュニケーションスキル・トレーニング	講義、タスク	プリント熟読 (用語の意味確認、内容理解) 授業で出された課題 (1.5H)
	13	多文化共生社会と日本語教育	講義、タスク	総復習 (ノート、資料熟読) (2H)
	14	多文化共生社会と日本語教育	講義、タスク	総復習 (ノート、資料熟読) (2H)
	15	総復習・確認テスト	総復習・テスト	授業の振り返り (1H)

関連科目	外国語専門職プログラム・国際教養プログラム科目
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント、資料を配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	異文化コミュニケーションの AtoZ -理論と実践の両面からわかる-	小坂貴志	研究社
	2	多文化共生のための異文化コミュニケーション	原澤伊都夫	明石書店
	3	その他は授業で指示する		

評価方法 (基準)	課題及びレポート (30%)・授業への参加度(10%)・テスト (60%)により総合的に評価する。
学生への メッセージ	外国語を学習している皆さんにとって、「異文化コミュニケーション」について学ぶことは非常に大切なことです。 授業を通して多くの「気づき」が生じると思います。 授業中は、ペアワーク、グループワーク、全体でのディスカッションをすることが多いので、積極的に授業に参加してください。
担当者の 研究室等	11 号館 11 階
備考	テスト終了後に、テスト内容についてのフィードバックを行う。

科目名	翻訳文化論	科目名 (英文)	Translation and Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2213a0		

授業概要・目的	文化は、その文化の言語を学べば理解できるものではない。文化の内容や背景をしっかりと捉え、それを理解し翻訳することの意義を考える必要がある。 ここで言う「翻訳」とは、単にある言語から別の言語に変換することではなく、「日本」を新しく問い直す観点を見出すことである。海外の文化人による日本文化論や、海外（とくに西洋）を体験した日本人による文化論などを幅広く読むことで、履修者各自が自身の所属する「日本」を捉えなおすきっかけになるよう、ともに考察していきたい。 なお本授業は、国際キャリアコースの6つ																																																																		
到達目標	①文化論を読解する力を身につける ②文化を理解・翻訳することの意義を問う ③自身の所属する「日本」を捉えなおす観点を養う																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心に行う。ドキュメンタリーなどの映像資料を鑑賞する。教材はプリントで配布する。 毎回、授業内容についての感想や疑問を、コメントシートに自由に記載してもらう。次回授業時に、コメントシートの内容を印刷して共有し、教員からフィードバックを行う。教員が一方向的に話すのではなく、履修者との対話的な授業を心がけたい。 授業計画は、履修者の関心や理解度に応じて、柔軟に変更しながら進める。人数にもよるが、簡単なフィールドワークを行う予定である。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>本講義の概要、目標、評価方法について説明する</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>2</td><td>「翻訳文化」をめぐる問題（1）</td><td>ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロを題材に、「日本」を「外」から論じる視点の意義を考察する</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>3</td><td>「翻訳文化」をめぐる問題（2）</td><td>日本を舞台にした映画をいくつか紹介し、オリエンタリズム（ポストコロニアリズム）の問題について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>4</td><td>「外」から見た「日本」（1）</td><td>明治以降の日本文化論の系譜を概説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>5</td><td>「外」から見た「日本」（2）</td><td>ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>6</td><td>「外」から見た「日本」（3）</td><td>ブルーノ・タウトについて解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>7</td><td>「外」から見た「日本」（4）</td><td>ルース・ベネディクトについて解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>8</td><td>「外」から見た「日本」（5）</td><td>リービ秀雄について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>9</td><td>「外」を見た「日本（人）」（1）</td><td>岩倉使節団を中心に、近代日本成立期の西欧体験について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>10</td><td>「外」を見た「日本（人）」（2）</td><td>森鷗外について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>11</td><td>「外」を見た「日本（人）」（3）</td><td>夏目漱石について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>12</td><td>「外」を見た「日本（人）」（4）</td><td>大正・昭和初期の西欧体験について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>13</td><td>「外」を見た「日本（人）」（5）</td><td>近代日本の西欧体験の「終わり」について解説する。</td><td>配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む</td></tr> <tr> <td>14</td><td>課題（レポート）</td><td>教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する</td><td>配布プリントの確認 レポートを作成する</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括・レポート提出</td><td>授業内容全体を総括し、レポートを提出する</td><td>レポートの印刷・提出</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	2	「翻訳文化」をめぐる問題（1）	ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロを題材に、「日本」を「外」から論じる視点の意義を考察する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	3	「翻訳文化」をめぐる問題（2）	日本を舞台にした映画をいくつか紹介し、オリエンタリズム（ポストコロニアリズム）の問題について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	4	「外」から見た「日本」（1）	明治以降の日本文化論の系譜を概説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	5	「外」から見た「日本」（2）	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	6	「外」から見た「日本」（3）	ブルーノ・タウトについて解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	7	「外」から見た「日本」（4）	ルース・ベネディクトについて解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	8	「外」から見た「日本」（5）	リービ秀雄について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	9	「外」を見た「日本（人）」（1）	岩倉使節団を中心に、近代日本成立期の西欧体験について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	10	「外」を見た「日本（人）」（2）	森鷗外について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	11	「外」を見た「日本（人）」（3）	夏目漱石について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	12	「外」を見た「日本（人）」（4）	大正・昭和初期の西欧体験について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	13	「外」を見た「日本（人）」（5）	近代日本の西欧体験の「終わり」について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む	14	課題（レポート）	教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する	配布プリントの確認 レポートを作成する	15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	本講義の概要、目標、評価方法について説明する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
2	「翻訳文化」をめぐる問題（1）	ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロを題材に、「日本」を「外」から論じる視点の意義を考察する	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
3	「翻訳文化」をめぐる問題（2）	日本を舞台にした映画をいくつか紹介し、オリエンタリズム（ポストコロニアリズム）の問題について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
4	「外」から見た「日本」（1）	明治以降の日本文化論の系譜を概説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
5	「外」から見た「日本」（2）	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
6	「外」から見た「日本」（3）	ブルーノ・タウトについて解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
7	「外」から見た「日本」（4）	ルース・ベネディクトについて解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
8	「外」から見た「日本」（5）	リービ秀雄について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
9	「外」を見た「日本（人）」（1）	岩倉使節団を中心に、近代日本成立期の西欧体験について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
10	「外」を見た「日本（人）」（2）	森鷗外について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
11	「外」を見た「日本（人）」（3）	夏目漱石について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
12	「外」を見た「日本（人）」（4）	大正・昭和初期の西欧体験について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
13	「外」を見た「日本（人）」（5）	近代日本の西欧体験の「終わり」について解説する。	配布プリントの確認 興味を持った文化論を読む																																																																
14	課題（レポート）	教員の指示する題目に基づき、各自でレポートを作成する	配布プリントの確認 レポートを作成する																																																																
15	総括・レポート提出	授業内容全体を総括し、レポートを提出する	レポートの印刷・提出																																																																
関連科目	日本文学・文化に関する科目（「日本文学」など）																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	平常点（コメントシートの内容、積極性） 60% レポート 40%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の	7号館4階（古矢研究室）																																																																		

研究室等	
備考	事前・事後学習は合計 60 時間を目安とする。

科目名	日本語表現論	科目名 (英文)	Japanese Phraseology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL2214a0		

授業概要・目的	※この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。 我々は日本語を用いて、何をどのように表現しているのだろうか、そして表現できるのだろうか。 この授業では、日本人が日本語を用いて、どのように表現してきたのか、そしてどのような表現が可能なのかを、様々な事例を通して考える。 それによって、言語に対する感覚を研ぎ澄まし、言葉にこだわる人間になることを目指す。 この授業は、レポートなどに必要な「正しい」日本語を書く技能を身につける授業ではありません。日本語と格闘する授業です。																																																																		
到達目標	日本語表現の特徴について、他言語とも比較しつつ、具体的に説明できる。 日本語表現を客観的にとらえ、多様な視点から考えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で進めます。 毎回、テーマに沿って講義し、最後に自分の考えをまとめたペーパーを提出します。 ペーパーに対するフィードバックは翌週に行います。 全部で3節からなります。各節の最後にまとめの回を設け、そこでレポートのフィードバックとまとめテストをします。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>日本語はどのような言語か 多様な視点から考える</td><td>授業の内容を整理する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>世界の中の日本語</td><td>日本語は特殊な言語なのか考える</td><td>日本語の特徴について調べる</td></tr> <tr> <td>3</td><td>日本語の構造</td><td>日本語の構造を考える</td><td>日本語の構造について本をもとに考える</td></tr> <tr> <td>4</td><td>1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較</td><td>複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>5</td><td>1-2. 日本語のレトリック</td><td>様々なレトリックを学ぶ</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>6</td><td>1-3. 日本語のオノマトペ</td><td>日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>7</td><td>1-4. まとめ</td><td>レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト</td><td>事前：第1節の内容を整理する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>2. 詩文の日本語 2-1. 歌詞の語感</td><td>現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>9</td><td>2-2. 和歌に見る語感</td><td>和歌を例に、日本語の表現法を知る</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>10</td><td>2-3. 俳句に見る語感</td><td>俳句を例に、日本語の表現法を知る</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>11</td><td>2-4. まとめ</td><td>レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト</td><td>事前：第2節の内容を整理する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>3. 散文の視点 3-1. 一人称と三人称</td><td>小説を例に、人称表現について考える</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>13</td><td>3-2. 現在形と過去形</td><td>小説を例に、現在と過去の表現について考える</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>14</td><td>3-3. 多様な表現方法</td><td>小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える</td><td>授業で指示する課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>15</td><td>3-4. まとめ</td><td>レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト</td><td>事前：第3節の内容を整理する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する	2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	日本語の特徴について調べる	3	日本語の構造	日本語の構造を考える	日本語の構造について本をもとに考える	4	1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	授業で指示する課題に取り組む	5	1-2. 日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	授業で指示する課題に取り組む	6	1-3. 日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	授業で指示する課題に取り組む	7	1-4. まとめ	レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト	事前：第1節の内容を整理する	8	2. 詩文の日本語 2-1. 歌詞の語感	現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む	9	2-2. 和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む	10	2-3. 俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む	11	2-4. まとめ	レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト	事前：第2節の内容を整理する	12	3. 散文の視点 3-1. 一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	授業で指示する課題に取り組む	13	3-2. 現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について考える	授業で指示する課題に取り組む	14	3-3. 多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	授業で指示する課題に取り組む	15	3-4. まとめ	レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト	事前：第3節の内容を整理する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	日本語はどのような言語か 多様な視点から考える	授業の内容を整理する																																																																
2	世界の中の日本語	日本語は特殊な言語なのか考える	日本語の特徴について調べる																																																																
3	日本語の構造	日本語の構造を考える	日本語の構造について本をもとに考える																																																																
4	1. 言葉にこだわる 1-1. 辞書の比較	複数の辞書を用いて、日常使用する言葉について考える	授業で指示する課題に取り組む																																																																
5	1-2. 日本語のレトリック	様々なレトリックを学ぶ	授業で指示する課題に取り組む																																																																
6	1-3. 日本語のオノマトペ	日本語におけるオノマトペの果たす役割を考える	授業で指示する課題に取り組む																																																																
7	1-4. まとめ	レポートのフィードバック 第1節の内容をまとめる確認テスト	事前：第1節の内容を整理する																																																																
8	2. 詩文の日本語 2-1. 歌詞の語感	現代の歌詞を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む																																																																
9	2-2. 和歌に見る語感	和歌を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む																																																																
10	2-3. 俳句に見る語感	俳句を例に、日本語の表現法を知る	授業で指示する課題に取り組む																																																																
11	2-4. まとめ	レポートのフィードバック 第2節の内容をまとめる確認テスト	事前：第2節の内容を整理する																																																																
12	3. 散文の視点 3-1. 一人称と三人称	小説を例に、人称表現について考える	授業で指示する課題に取り組む																																																																
13	3-2. 現在形と過去形	小説を例に、現在と過去の表現について考える	授業で指示する課題に取り組む																																																																
14	3-3. 多様な表現方法	小説を例に、日本語表現の可能性・多様性について考える	授業で指示する課題に取り組む																																																																
15	3-4. まとめ	レポートのフィードバック 第3節の内容をまとめる確認テスト	事前：第3節の内容を整理する																																																																
関連科目	外国語専門職プログラム対応科目 日本語史概論、日本語音韻論、日本語語彙論、日本語文法論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	レポート (3 回) (6 0 %) 3 回すべての提出を必須とする。 まとめテスト (1 5 %) 授業参加度 (コメントペーパー) (2 5 %) ※オンライン授業でも同様																																																																		
学生へのメッセージ	言葉に敏感になろう																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (橋本研究室)																																																																		
備考	コメントペーパー、レポートについては、次の回でフィードバックします。 事前事後学習時間の目安は合計 60 時間。																																																																		

科目名	語学教育工学	科目名 (英文)	Technology in Language Teaching
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3215a0		

授業概要・目的	これまでに習得してきた ICT スキルをさらに発展させ、語学教育へどのように活用できるかを考える。一般的な Office ソフトの操作方法を学び、そのメリットや問題点を理解する。また、簡単なプログラミングスキルを学習し、より効果的な授業活動や教材作成などの可能性も探る。なお、この科目は「外国語専門職プログラム」対応科目である。
到達目標	ICT 技術によって、どのようなことが可能になるか、あるいは効率化されるかを理解する。また、教育現場等で日常的に行われる書類作成、表計算、データ処理などを、自立的に行える ICT スキルを身につける。タッチタイピングを未取得の場合は、オンライン教材などを使用して習得する。
授業方法と留意点	高度な知識は不要だが、毎週、各自でコンピュータを使用した課題に取り組むため、最低限のコンピュータリテラシーは必要となる。タイピングがある程度スムーズに行えて、できればファイルやフォルダ、拡張子などの概念は理解しておいてほしい。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の詳細と評価方法の具体的な説明。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	2	デジタル教材の現状	デジタル教材の種類やその利用方法について理解する。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	3	文書作成 課題作成	教育現場で利用可能な文書作成ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	4	文書作成 課題作成	教育現場で利用可能な文書作成ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	5	文書作成 課題作成	教育現場で利用可能な文書作成ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	6	プログラミング実習 課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	7	プログラミング実習 課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	8	プログラミング実習 課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	9	表計算 課題作成	教育現場で利用可能な表計算ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	10	表計算 課題作成	教育現場で利用可能な表計算ソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	11	プログラミング実習 課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	12	プログラミング実習 課題作成	教育現場で利用可能な簡単なプログラミング言語について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	13	プレゼンテーション作成 (1) 課題作成	教育現場で利用可能なプレゼンテーションソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	14	プレゼンテーション作成 (2) 課題作成	教育現場で利用可能なプレゼンテーションソフトの利用方法について学ぶ。	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)
	15	授業の総括 プレゼンテーション	授業で学んだ内容の復習と、作成した課題の発表・評価を行う	授業内で指示された演習課題に取り組む (1 時間)

関連科目	外国語専門職プログラム対応科目など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業への積極性・貢献度 30% 課題の達成度 50% ICT スキルの習熟度 20%
学生へのメッセージ	受身の姿勢で受講するのではなく、語学教育にこのように ICT を活用してはどうか、という皆さんからの積極的な提案を期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (後藤研究室) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	外国語翻訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3216e0		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 今までにつかっていた英文法や語彙などの英語の知識があることと、その知識を使い、実際のコミュニケーションができることは異なるものである。 この授業では、翻訳とオーラルコミュニケーションを含む実務的な英語能力を養成することを目的とする。																																																																		
到達目標	翻訳や通訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、英語のコミュニケーション能力が向上する。 また、日本語らしい日本語訳の訓練、日本語から英語、英語から日本語への変換の訓練を通して、英語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションがあがる。																																																																		
授業方法と留意点	教科書は身近なトピックを扱い、英語から日本語、日本語から英語の多様な練習問題がある。予習を前提として、教科書の課題をこなしていく。 教科書以外にも翻訳、通訳に関する様々な問題に取り組む。 翻訳、通訳のための学習訓練では、積極的に授業に関わる事が重要である。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	外国語専門職に関連する資格試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Introduction</td><td>授業の進め方と評価方法の説明 翻訳訓練入門</td><td>来週の予習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 1: 家族</td><td>英語から日本語 日本語から英語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 1: 家族</td><td>日本語から英語 複数文通訳</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 2: 大学生活</td><td>英語から日本語 日本語から英語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 2: 大学生活</td><td>日本語から英語 複数文通訳</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 3: 趣味 1</td><td>英語から日本語 日本語から英語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 3: 趣味 1</td><td>日本語から英語 複数文通訳</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>進度調整とテキスト以外の教材</td><td>実践的な学習訓練</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 4: 趣味 2</td><td>英語から日本語 日本から英語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 4: 趣味 2</td><td>日本語から英語 複数文通訳</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 5: 国際交流 実践演習 1</td><td>英語から日本語 日本語から英語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 5: 国際交流 実践演習 1</td><td>日本語から英語 複数文通訳</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 6: 国際交流 実践演習 2</td><td>英語から日本語 日本語から英語</td><td>予習と復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 6: 国際交流 実践演習 2</td><td>日本語から英語 複数文通訳</td><td>復習とテスト準備</td></tr> <tr> <td>15</td><td>前期まとめ</td><td>前期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト</td><td>事前のテスト準備</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	授業の進め方と評価方法の説明 翻訳訓練入門	来週の予習	2	Unit 1: 家族	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習	3	Unit 1: 家族	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習	4	Unit 2: 大学生活	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習	5	Unit 2: 大学生活	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習	6	Unit 3: 趣味 1	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習	7	Unit 3: 趣味 1	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習	8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習	9	Unit 4: 趣味 2	英語から日本語 日本から英語	予習と復習	10	Unit 4: 趣味 2	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習	11	Unit 5: 国際交流 実践演習 1	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習	12	Unit 5: 国際交流 実践演習 1	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習	13	Unit 6: 国際交流 実践演習 2	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習	14	Unit 6: 国際交流 実践演習 2	日本語から英語 複数文通訳	復習とテスト準備	15	前期まとめ	前期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	授業の進め方と評価方法の説明 翻訳訓練入門	来週の予習																																																																
2	Unit 1: 家族	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習																																																																
3	Unit 1: 家族	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習																																																																
4	Unit 2: 大学生活	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習																																																																
5	Unit 2: 大学生活	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習																																																																
6	Unit 3: 趣味 1	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習																																																																
7	Unit 3: 趣味 1	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習																																																																
8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習																																																																
9	Unit 4: 趣味 2	英語から日本語 日本から英語	予習と復習																																																																
10	Unit 4: 趣味 2	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習																																																																
11	Unit 5: 国際交流 実践演習 1	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習																																																																
12	Unit 5: 国際交流 実践演習 1	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習																																																																
13	Unit 6: 国際交流 実践演習 2	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習																																																																
14	Unit 6: 国際交流 実践演習 2	日本語から英語 複数文通訳	復習とテスト準備																																																																
15	前期まとめ	前期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Developing Interpreting Skills for Communication</td><td>齋藤 彩子/皆川 治恵/Richard G. Potter</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Developing Interpreting Skills for Communication	齋藤 彩子/皆川 治恵/Richard G. Potter	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Developing Interpreting Skills for Communication	齋藤 彩子/皆川 治恵/Richard G. Potter	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・予習・提出等 60% まとめのテスト 40% 実務的な英語能力向上を目指す授業であるので、授業内での積極的な参加や課題提出は評価に大きく影響する。																																																																		
学生へのメッセージ	毎回の多くの課題を念頭におき、積極的かつ集中して参加してください。																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 2 階(前期) 7 号館 2 階(後期) 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のためにテキストや課題を読み、授業前にしっかり準備することが必要である。課題や予習に要する事前・事後の学習にはしっかりと時間を費やすこと。 また、課題の提出期限は厳守すること。 随時、教科書以外の教材を使うため、授業計画の変更がある。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	外国語翻訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Translation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3216e0		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 スペイン語の文章を日本語にする練習を行う。 翻訳とは、単純な語句の置き換えではなく、解釈と表現の両面で熟考を要する作業である。 まず、スペイン語の文章を文法的・論理的に正しくとらえること、次に、それを機械翻訳のような逐語的な訳ではなく日本語らしく表現することを心がける。																																																																		
到達目標	スペイン語の様々なジャンル・スタイルの文章を、正確に読み解く力を養うこと。 新聞記事やエッセイ、小説や評論など、ジャンルや書き手による文体の相違（存在）に気づくこと。 日本語とスペイン語の違いを、文法や表現法のレベルで認識すること。 日本語について考えること（文法や言い回し、日本人の言語文化）。 言語が文化そのものであるという認識をもとに、文法的にも文化的にも適当な翻訳ができるようになること。																																																																		
授業方法と留意点	チームズによるリアルタイムのオンライン授業を行う。ウェブフォルダも使用する。 予習・復習に相当の時間をかけること。 毎回、様々な文章を題材として与える。文脈や時系列、論理の筋、話の展開を意識して読むこと。 課題提出については、指定の方法・期限（時間帯）を守ることを。																																																																		
科目学習の効果（資格）	言語能力（文法および論理と表現の面）を鍛えること。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>どのように授業を行うか。 翻訳とはどういうものか。 辞書や参考書、アプリやツールについての説明。</td><td>シラバスを読む 課題に取り組む</td></tr> <tr> <td>2</td><td>読み物</td><td>教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>読み物</td><td>教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>読み物</td><td>教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>読み物</td><td>新聞記事や評論の文章を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>読み物</td><td>新聞記事や評論の文章を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>読み物</td><td>新聞記事や評論の文章を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>試験</td><td>前半の学習内容について問う。</td><td>まとめ。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>読み物</td><td>エッセイや小説の文章を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>読み物</td><td>エッセイや小説の文章を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>読み物</td><td>エッセイや小説の文章を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>読み物</td><td>日本の文学作品のスペイン語訳を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>読み物</td><td>日本の文学作品のスペイン語訳を読む。</td><td>読みと訳に取り組む。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>試験</td><td>学習内容のすべて。</td><td>試験に準備して臨む。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>読み物</td><td>試験の返却・解説。今期の総括。</td><td>まとめ。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	どのように授業を行うか。 翻訳とはどういうものか。 辞書や参考書、アプリやツールについての説明。	シラバスを読む 課題に取り組む	2	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。	3	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。	4	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。	5	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。	6	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。	7	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。	8	試験	前半の学習内容について問う。	まとめ。	9	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。	10	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。	11	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。	12	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。	13	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。	14	試験	学習内容のすべて。	試験に準備して臨む。	15	読み物	試験の返却・解説。今期の総括。	まとめ。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	どのように授業を行うか。 翻訳とはどういうものか。 辞書や参考書、アプリやツールについての説明。	シラバスを読む 課題に取り組む																																																																
2	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。																																																																
3	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。																																																																
4	読み物	教材になった文章を読む。 内容は、社会・文化について。	読みと訳に取り組む。																																																																
5	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
6	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
7	読み物	新聞記事や評論の文章を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
8	試験	前半の学習内容について問う。	まとめ。																																																																
9	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
10	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
11	読み物	エッセイや小説の文章を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
12	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
13	読み物	日本の文学作品のスペイン語訳を読む。	読みと訳に取り組む。																																																																
14	試験	学習内容のすべて。	試験に準備して臨む。																																																																
15	読み物	試験の返却・解説。今期の総括。	まとめ。																																																																
関連科目	スペイン語通訳ガイド、外国語通訳法、その他スペイン語のすべての科目。 日本語に関する科目。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	課題および授業中の発表内容 100%																																																																		
学生へのメッセージ	自分の普段の言語活動についてよく考えよう。いつでもどこでも誰に対しても同じような話し方・書き方をするだろうか。どんな時にどのような言い方を工夫するだろう。この科目はスペイン語の科目であっても、ほとんど、問題は日本語にあることに気づくだろう。 日ごろから、とにかく、文字（書かれた言語）に触れること、本を読むこと。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																																																																		
備考	事前・事後学習にかかる総時間数は 60 時間。																																																																		

科目名	外国語通訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3217e0		

授業概要・目的	この科目は外国語専門職プログラム対応科目である。 今までにつかっていた英文法や語彙などの英語の知識があることと、その知識を使い、実際のコミュニケーションができることは異なるものである。 この授業では、翻訳とオーラルコミュニケーションを含む実務的な英語能力を養成することを目的とする。																																																																		
到達目標	翻訳や通訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、英語のコミュニケーション能力が向上する。 また、日本語らしい日本語訳の訓練、日本語から英語、英語から日本語への変換の訓練を通して、英語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションがあがる。																																																																		
授業方法と留意点	教科書は身近なトピックを扱い、英語から日本語、日本語から英語の多様な練習問題がある。予習を前提として、教科書の課題をこなしていく。 教科書以外にも翻訳、通訳に関する様々な問題に取り組む。 翻訳、通訳のための学習訓練では、積極的に授業に関わる事が重要である。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	外国語専門職に関連する資格試験																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Intoroduction</td><td>授業の進め方と評価方法の説明 翻訳訓練入門</td><td>来週の予習にはしっかり時間を費やすこと</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 7: 日本の文化</td><td>英語から日本語 日本語から英語</td><td>予習と復習にはしっかり時間を費やすこと</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 7: 日本の文化</td><td>日本語から英語 複数文通訳</td><td>予習と復習にはしっかり時間を費やすこと</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 8: 海外の文化</td><td>英語から日本語 日本語から英語</td><td>予習と復習にはしっかり時間を費やす1 こと</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 8: 海外の文化</td><td>日本語から英語 複数文通訳</td><td>予習と復習にはしっかり時間を費やすこと</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 9: 社会事情 1</td><td>英語から日本語 日本語から英語</td><td>予習と復習にはしっかり時間を費やすこと</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 9: 社会事情 1</td><td>日本語から英語 複数文通訳</td><td>予習と復習にはしっかり時間を費やすこと</td></tr> <tr> <td>8</td><td>進度調整とテキスト以外の教材</td><td>実践的な学習訓練</td><td>予習と復習にはしっかり時間を費やすこと</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 10: 社会事情 2</td><td>英語から日本語 日本から英語</td><td>予習と復習にはしっかり時間を費やすこと</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 10: 社会事情 2</td><td>日本語から英語 複数文通訳</td><td>予習と復習にはしっかり時間を費やすこと</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 11: 観光</td><td>英語から日本語 日本語から英語</td><td>予習と復習にはしっかり時間を費やすこと</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 11: 観光</td><td>日本語から英語 複数文通訳</td><td>予習と復習にはしっかり時間を費やすこと</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 12: コミュニケーション</td><td>英語から日本語 日本語から英語</td><td>予習と復習にはしっかり時間を費やすこと</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 12: コミュニケーション</td><td>日本語から英語 複数文通訳</td><td>復習とテスト準備に十分な時間をとること</td></tr> <tr> <td>15</td><td>後期まとめ</td><td>後期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト</td><td>事前のテスト準備には十分な時間をとること</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Intoroduction	授業の進め方と評価方法の説明 翻訳訓練入門	来週の予習にはしっかり時間を費やすこと	2	Unit 7: 日本の文化	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと	3	Unit 7: 日本の文化	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと	4	Unit 8: 海外の文化	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やす1 こと	5	Unit 8: 海外の文化	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと	6	Unit 9: 社会事情 1	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと	7	Unit 9: 社会事情 1	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと	8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと	9	Unit 10: 社会事情 2	英語から日本語 日本から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと	10	Unit 10: 社会事情 2	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと	11	Unit 11: 観光	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと	12	Unit 11: 観光	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと	13	Unit 12: コミュニケーション	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと	14	Unit 12: コミュニケーション	日本語から英語 複数文通訳	復習とテスト準備に十分な時間をとること	15	後期まとめ	後期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備には十分な時間をとること
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Intoroduction	授業の進め方と評価方法の説明 翻訳訓練入門	来週の予習にはしっかり時間を費やすこと																																																																
2	Unit 7: 日本の文化	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと																																																																
3	Unit 7: 日本の文化	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと																																																																
4	Unit 8: 海外の文化	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やす1 こと																																																																
5	Unit 8: 海外の文化	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと																																																																
6	Unit 9: 社会事情 1	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと																																																																
7	Unit 9: 社会事情 1	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと																																																																
8	進度調整とテキスト以外の教材	実践的な学習訓練	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと																																																																
9	Unit 10: 社会事情 2	英語から日本語 日本から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと																																																																
10	Unit 10: 社会事情 2	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと																																																																
11	Unit 11: 観光	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと																																																																
12	Unit 11: 観光	日本語から英語 複数文通訳	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと																																																																
13	Unit 12: コミュニケーション	英語から日本語 日本語から英語	予習と復習にはしっかり時間を費やすこと																																																																
14	Unit 12: コミュニケーション	日本語から英語 複数文通訳	復習とテスト準備に十分な時間をとること																																																																
15	後期まとめ	後期の学習習熟度をみるためのまとめのテスト	事前のテスト準備には十分な時間をとること																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Developing Interpreting Skills for Communication</td><td>齋藤 彩子/皆川 治恵/Richard G. Potter</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Developing Interpreting Skills for Communication	齋藤 彩子/皆川 治恵/Richard G. Potter	南雲堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Developing Interpreting Skills for Communication	齋藤 彩子/皆川 治恵/Richard G. Potter	南雲堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業中の小テスト・発言・予習・提出等 60% まとめのテスト 40% 実務的な英語能力向上を目指す授業であるので、授業内での積極的な参加や課題提出は評価に大きく影響する。 詳しくは第 1 回目の授業で説明する。																																																																		
学生へのメッセージ	毎回の多くの課題を念頭におき、集中力をもって、積極的に授業に参加してください。																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 2 階(前期) 7 号館 2 階(後期) 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のためにテキストや課題を読み、授業前にしっかり準備することが必要である。課題や予習に要する事前・事後の学習にはしっかりと時間を費やすこと。 また、課題の提出期限は厳守すること。 随時、教科書以外の教材を使うため授業計画が変更されることがある。																																																																		

科目名	外国語通訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3217e0		

授業概要・目的	この科目は、外国語専門職プログラム対応科目です。日本歴史、文化、地理を中国語で紹介するのに必要な語彙、表現、文法の知識と共に翻訳の技術を学ぶ。
到達目標	翻訳に関する基礎的な訓練を行うことにより、中国語の能力を向上させることができる。 中国語能力の向上はもとより、外国語専門職につくためのモチベーションを高めることができる。
授業方法と留意点	教科書は身近なトピックと中国の時事を扱い、日本語から中国語への翻訳中心とした演習形式の授業を行う。予習を前提として、一つ一つ課題をこなして行く。 教科書以外にも翻訳に関する様々な問題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	通訳案内士 中国語検定 2 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	翻訳とはどういうものか 中国語と日本語の違い 辞書や参考書、アプリやツールについての説明	シラバスを読む 課題を取り込む
	2	日本食文化の読み物①	日本語から中国語	参考文献を読む 課題を取り込む
	3	日本食文化の読み物②	日本語から中国語	参考文献を読む 課題を取り込む
	4	日本食文化の読み物③	日本語から中国語	参考文献を読む 課題を取り込む
	5	プレゼンテーション 1	自ら食文化のテーマを探し、先ず日本語文を書き、次中国語に翻訳して発表する。	中国語で発表の準備をする。 実践的な学習訓練
	6	日本生活文化の読み物①	日本語から中国語	参考文献を読む 課題を取り込む
	7	日本生活文化の読み物②	日本語から中国語	参考文献を読む 課題を取り込む
	8	日本生活文化の読み物③	日本語から中国語	参考文献を読む 課題を取り込む
	9	プレゼンテーション 2	自ら生活文化のテーマを探し、先ず日本語文を書き、次中国語に翻訳して発表する。	中国語で発表の準備をする。 実践的な学習訓練
	10	日本年中行事の読み物①	日本語から中国語	参考文献を読む 課題を取り込む
	11	日本年中行事の読み物②	日本語から中国語	参考文献を読む 課題を取り込む
	12	日本年中行事の読み物③	日本語から中国語	参考文献を読む 課題を取り込む
	13	日本観光文化の読み物①	日本語から中国語	参考文献を読む 課題を取り込む
	14	日本観光文化の読み物②	日本語から中国語	参考文献を読む 課題を取り込む
	15	プレゼンテーション 3	自ら観光か年中行事のテーマを探し、先ず日本語文を書き、次中国語に翻訳して発表する。	中国語で発表の準備をする。 実践的な学習訓練

関連科目	中国語主言語または共通言語 2 年生対象科目を修了していること。
------	----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中辞典		
	2	中日辞典		
	3			

評価方法 (基準)	参加度と提出物：50% 発表：50%で評価する
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	事前・事後学習にかかる時間は 1 時間以上のこと。
-----------	---------------------------

担当者の研究室等	
----------	--

備考	質問に対しては授業の中で口頭または文書の形式によって必ずフィードバックを行う。
----	---

科目名	外国語通訳法	科目名（英文）	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3217e0		

授業概要・目的	国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「外国語専門職」プログラムに対応する科目であるが、「観光ホスピタリティ」プログラムを選んだ者も履修すればプログラムの対象科目となる。その他のプログラムを選んだ者も、履修し単位修得することは可能である。通訳という専門的職業とはなにかを理解するために、その歴史、種類、求められる資質や能力、そのプロセス、翻訳との比較などの観点から、通訳という異言語間コミュニケーションの本質に迫る。その後、通訳トレーニングの紹介を通じて、言語コミュニケーションの本質を考え
到達目標	通訳という職業を理論的に理解するとともに、実践的トレーニングを通じて異言語間コミュニケーションの方法論を学ぶ。
授業方法と留意点	6 週目まで Teams による双方向オンライン授業を行う。7 週目から対面授業を行う。教材・課題の配布と回収には WebFolder を用いる。講義形式と実習の両方の要素があり、どちらにも積極的に取り組み、チャレンジしてほしい。
科目学習の効果（資格）	語学力を証明できる唯一の国家資格である「通訳案内士」の資格取得をめざす動機付けとなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	通訳とはなにか	通訳の歴史	シラバスを読んでおく
	2	通訳とはなにか	通訳の種類（技術上の分類；分野別の分類）	参考文献を読む
	3	通訳とはなにか	通訳者に求められるもの	参考文献を読む
	4	通訳とはなにか	コミュニケーション・スペシャリストに必要な要素	参考文献を読む
	5	通訳のプロセス	言語学、心理学の最新理論	参考文献を読む
	6	通訳のプロセス	翻訳との比較	参考文献を読む
	7	中間試験とこれまでのまとめ	通訳という職業の本質について	通訳理論について学んだことを復習し、次回からの実践トレーニングで用いる教材を読む。
	8	通訳トレーニング	シャドウイング	参考文献を読む
	9	通訳トレーニング	スラッシュ・リーディング	参考文献を読む
	10	通訳トレーニング	サイト・トランスレーション	参考文献を読む
	11	通訳トレーニング	同時通訳と逐次通訳	参考文献を読む
	12	実践編	スペイン語による通訳実践の試み（1）	参考文献を読む
	13	実践編	スペイン語による通訳実践の試み（2）	参考文献を読む
	14	プロの通訳を迎えて（または授業担当者による通訳業の具体例紹介）	体験談を聴く	参考文献を読む
	15	臨時試験と総まとめ	国家資格「通訳案内士」についての説明	資格取得に向けて、準備を開始する

関連科目	外国語翻訳法
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	不実な美女か貞淑な醜女か	米原万里	新潮文庫
	2			
	3			

評価方法（基準）	講義内容に対する質問や提案、実習への積極的取り組み 80%、学期中の小テスト・臨時試験 20%
----------	---

学生へのメッセージ	通訳案内士や会議通訳として活躍する人物をお招きする機会をできれば設けます（時期は14回目とは限りません）。授業のなかで紹介する参考文献をどんどん読み進めてください。とくに、履修予定者は上記の参考書を開講前に読んでおいてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業内容について質問やコメントを求め、次回の授業中にそれに対する説明などのフィードバックを行う。 事前・事後学習に要する総時間数は 30 時間を目安とする。
----	--

科目名	外国語通訳法	科目名 (英文)	Methods and Techniques for Interpretation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	エニ レスタリ
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LDL3217e0		

授業概要・目的	この授業は通訳法に通じて様々な訓練を行って通訳能力をつける。																																																																		
到達目標	様々な通訳が出来るようにする。																																																																		
授業方法と留意点	資料を音読・音声・英字を通じて通訳の訓練を行う。クラス活動とても重要であります積極的に参加が必要です。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	日常会話や案内やニュースの通訳出来る。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業内容とやり方の説明。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>クイックリスポンス</td><td>日本語 (またはインドネシア語を聞いてすぐに日本語 (またはインドネシア語) にする。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>シャドーイング</td><td>インドネシア語の音声を聞きながらそれと同時にそのインドネシア語再現していく訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>リテンション</td><td>記憶を保持する訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>リプロダクション</td><td>辞書の意味「再生」「再現」が示すように聞いたインドネシア語を再現する練習。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>パラフレーシング</td><td>聞いたインドネシア語とは可能な限り違う表現を用いて同じ内容再現する訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ノートテイク&ディクテーション</td><td>リスニングにおける弱点の認識と補強。基層的な音声学の学習。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>小テスト</td><td>第2回目～7回目の授業内容の復習。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>スラッシュリーディング&スピードリーディング</td><td>インドネシア語文文字情報処理能力の強化訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>語彙増強</td><td>単語取集訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ブラックボックスリーディング</td><td>未知語への対応力強化訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>逐次通訳演習・通訳メモ①</td><td>スピーカー話した後通訳者が訳していく訓練。メモを取り出来るだけ正確に訳出来るようにする訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>逐次通訳演習・通訳メモ②</td><td>スピーカー話した後通訳者が訳していく訓練。メモを取り出来るだけ正確に訳出来るようにする訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>同時通訳演習</td><td>発言者が話しているのと同時に訳していく訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>同時通訳演習</td><td>発言者が話しているのと同時に訳していく訓練。</td><td>授業内容の確認・復習。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業内容とやり方の説明。	授業内容の確認・復習。	2	クイックリスポンス	日本語 (またはインドネシア語を聞いてすぐに日本語 (またはインドネシア語) にする。	授業内容の確認・復習。	3	シャドーイング	インドネシア語の音声を聞きながらそれと同時にそのインドネシア語再現していく訓練。	授業内容の確認・復習。	4	リテンション	記憶を保持する訓練。	授業内容の確認・復習。	5	リプロダクション	辞書の意味「再生」「再現」が示すように聞いたインドネシア語を再現する練習。	授業内容の確認・復習。	6	パラフレーシング	聞いたインドネシア語とは可能な限り違う表現を用いて同じ内容再現する訓練。	授業内容の確認・復習。	7	ノートテイク&ディクテーション	リスニングにおける弱点の認識と補強。基層的な音声学の学習。	授業内容の確認・復習。	8	小テスト	第2回目～7回目の授業内容の復習。	授業内容の確認・復習。	9	スラッシュリーディング&スピードリーディング	インドネシア語文文字情報処理能力の強化訓練。	授業内容の確認・復習。	10	語彙増強	単語取集訓練。	授業内容の確認・復習。	11	ブラックボックスリーディング	未知語への対応力強化訓練。	授業内容の確認・復習。	12	逐次通訳演習・通訳メモ①	スピーカー話した後通訳者が訳していく訓練。メモを取り出来るだけ正確に訳出来るようにする訓練。	授業内容の確認・復習。	13	逐次通訳演習・通訳メモ②	スピーカー話した後通訳者が訳していく訓練。メモを取り出来るだけ正確に訳出来るようにする訓練。	授業内容の確認・復習。	14	同時通訳演習	発言者が話しているのと同時に訳していく訓練。	授業内容の確認・復習。	15	同時通訳演習	発言者が話しているのと同時に訳していく訓練。	授業内容の確認・復習。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業内容とやり方の説明。	授業内容の確認・復習。																																																																
2	クイックリスポンス	日本語 (またはインドネシア語を聞いてすぐに日本語 (またはインドネシア語) にする。	授業内容の確認・復習。																																																																
3	シャドーイング	インドネシア語の音声を聞きながらそれと同時にそのインドネシア語再現していく訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
4	リテンション	記憶を保持する訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
5	リプロダクション	辞書の意味「再生」「再現」が示すように聞いたインドネシア語を再現する練習。	授業内容の確認・復習。																																																																
6	パラフレーシング	聞いたインドネシア語とは可能な限り違う表現を用いて同じ内容再現する訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
7	ノートテイク&ディクテーション	リスニングにおける弱点の認識と補強。基層的な音声学の学習。	授業内容の確認・復習。																																																																
8	小テスト	第2回目～7回目の授業内容の復習。	授業内容の確認・復習。																																																																
9	スラッシュリーディング&スピードリーディング	インドネシア語文文字情報処理能力の強化訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
10	語彙増強	単語取集訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
11	ブラックボックスリーディング	未知語への対応力強化訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
12	逐次通訳演習・通訳メモ①	スピーカー話した後通訳者が訳していく訓練。メモを取り出来るだけ正確に訳出来るようにする訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
13	逐次通訳演習・通訳メモ②	スピーカー話した後通訳者が訳していく訓練。メモを取り出来るだけ正確に訳出来るようにする訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
14	同時通訳演習	発言者が話しているのと同時に訳していく訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
15	同時通訳演習	発言者が話しているのと同時に訳していく訓練。	授業内容の確認・復習。																																																																
関連科目	専攻言語インドネシア語科目のすべて																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>通訳訓練技法を利用した英語教育 Interpreter training as a teaching approach for English</td><td>板谷初子</td><td>Cook 2020</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2	通訳訓練技法を利用した英語教育 Interpreter training as a teaching approach for English	板谷初子	Cook 2020	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2	通訳訓練技法を利用した英語教育 Interpreter training as a teaching approach for English	板谷初子	Cook 2020																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の授業の訓練 70% 小テスト 30%																																																																		
学生へのメッセージ	出来る限り毎日インドネシア語のニュース・歌・画像など聞いて通訳演習してください。																																																																		
担当者の研究室等	第7号館2階非常勤室																																																																		
備考	事前・事後学習は合計60時間を目安とする。																																																																		

科目名	ホスピタリティ論	科目名 (英文)	Hospitality
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2218a0		

授業概要・目的	・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、ホスピタリティを言語、文化、そして、個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく授業である。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。 ※この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の																																																																		
到達目標	・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。 ・コミュニケーション能力の向上 ・ビジネスマナーの基本を学ぶ																																																																		
授業方法と留意点	Teams を使用し、オンラインで授業を行う。 Power point と配布資料で授業を進めていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。 毎回、あらかじめ Teams にアップされている、配布資料をダウンロードしておくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。ビジネスマナーの基本も身につける																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。</td><td>ホスピタリティに関する文献を読む (4 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ホスピタリティとは</td><td>「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。</td><td>ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく (4 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>人間の感情とホスピタリティ</td><td>ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。</td><td>相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>事例研究 1「感動はこうして生まれる」</td><td>ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ホスピタリティと文化</td><td>ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。</td><td>文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>産業の変化とホスピタリティ</td><td>サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いつながりながら考える。</td><td>サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ANA におけるホスピタリティ発揮の事例</td><td>ANA の事例を通してホスピタリティを考える。</td><td>ANA のニュースを読む (4 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>事例研究 2「顧客志向のホテル」</td><td>ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ホスピタリティとチームワーク</td><td>企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。</td><td>チームワーク経験 (スポーツ、アルバイトなど) を振り返る。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>コミュニケーションの重要性</td><td>ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。</td><td>自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>事例研究 3「地域に愛されるカフェ」</td><td>地域に溶け込むカフェの秘密を探る。</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ホスピタリティマネジメント</td><td>ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。</td><td>新聞経済面を読む。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>事例研究 4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」</td><td>世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>現代社会におけるホスピタリティ</td><td>ユニバーサルサービスについて考える。</td><td>ユニバーサルサービスに関する文献を読む。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>授業全体のまとめ</td><td>15 回分の復習をする (4 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	ホスピタリティに関する文献を読む (4 時間)	2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく (4 時間)	3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。(4 時間)	4	事例研究 1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)	5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。(4 時間)	6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いつながりながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。(4 時間)	7	ANA におけるホスピタリティ発揮の事例	ANA の事例を通してホスピタリティを考える。	ANA のニュースを読む (4 時間)	8	事例研究 2「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)	9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験 (スポーツ、アルバイトなど) を振り返る。(4 時間)	10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。(4 時間)	11	事例研究 3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)	12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。(4 時間)	13	事例研究 4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。(4 時間)	14	現代社会におけるホスピタリティ	ユニバーサルサービスについて考える。	ユニバーサルサービスに関する文献を読む。(4 時間)	15	まとめ	授業全体のまとめ	15 回分の復習をする (4 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	ホスピタリティに関する文献を読む (4 時間)																																																																
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく (4 時間)																																																																
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。(4 時間)																																																																
4	事例研究 1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)																																																																
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。(4 時間)																																																																
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いつながりながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。(4 時間)																																																																
7	ANA におけるホスピタリティ発揮の事例	ANA の事例を通してホスピタリティを考える。	ANA のニュースを読む (4 時間)																																																																
8	事例研究 2「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)																																																																
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験 (スポーツ、アルバイトなど) を振り返る。(4 時間)																																																																
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。(4 時間)																																																																
11	事例研究 3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)																																																																
12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。(4 時間)																																																																
13	事例研究 4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。(4 時間)																																																																
14	現代社会におけるホスピタリティ	ユニバーサルサービスについて考える。	ユニバーサルサービスに関する文献を読む。(4 時間)																																																																
15	まとめ	授業全体のまとめ	15 回分の復習をする (4 時間)																																																																
関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目 (～2014 年度入学生) 観光ホスピタリティプログラム科目 (2015 年度～入学生) エアラインビジネス論 ホテルビジネス論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	参加態度 10% 毎回の小レポート 40% 期末レポート 50%																																																																		
学生へのメッセージ	・授業には適宜“社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。 ・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰しも最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参																																																																		

	加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。 ・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。
担当者の 研究室等	7号館4階（塩崎・沖中研究室） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	

科目名	ホスピタリティ論	科目名 (英文)	Hospitality
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2218a0		

授業概要・目的	・現代社会では多種多様な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、ショッピング等、ホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、ホスピタリティを言語、文化そして、個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチをし、ホスピタリティを生み出す為には何が求められるかについて考察し、理解を深めていく授業である。それぞれが自分なりに「ホスピタリティ」について考え表現できることを目指す。 ※この授業は観光ホスピタリティプログラム科目の																																																																		
到達目標	・ホスピタリティについて学び、自ら考え、創造できるようになることを目指す。 ・コミュニケーション能力の向上 ・ビジネスマナーの基本を学ぶ																																																																		
授業方法と留意点	Teams を使用し、オンラインで授業を行う。 Power point と配布資料で授業を進めていく。授業の最後に、小レポートを課し提出。 毎回、あらかじめ Teams にアップされている、配布資料をダウンロードしておくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	ホスピタリティがいかに重要なものかを実感し、今後のホスピタリティ産業への就職に役立つものとする。ビジネスマナーの基本も身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。</td><td>ホスピタリティに関する文献を読む (4 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ホスピタリティとは</td><td>「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。</td><td>ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく (4 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>人間の感情とホスピタリティ</td><td>ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。</td><td>相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>事例研究 1「感動はこうして生まれる」</td><td>ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ホスピタリティと文化</td><td>ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。</td><td>文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>産業の変化とホスピタリティ</td><td>サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。</td><td>サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ANA におけるホスピタリティ発揮の事例</td><td>ANA の事例を通してホスピタリティを考える</td><td>ANA のニュースを読む。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>事例研究 2「顧客志向のホテル」</td><td>ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ホスピタリティとチームワーク</td><td>企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。</td><td>チームワーク経験 (スポーツ、アルバイトなど) を振り返る。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>コミュニケーションの重要性</td><td>ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。</td><td>自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>事例研究 3「地域に愛されるカフェ」</td><td>地域に溶け込むカフェの秘密を探る。</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ホスピタリティマネジメント</td><td>ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。</td><td>新聞経済面を読む。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>事例研究 4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」</td><td>世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える</td><td>実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。(4 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>現代社会におけるホスピタリティ</td><td>ユニバーサルサービスについて考える。</td><td>ユニバーサルサービスに関する文献を読む (4 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>授業全体のまとめ</td><td>1 5 回分の復習をする (4 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	ホスピタリティに関する文献を読む (4 時間)	2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく (4 時間)	3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。(4 時間)	4	事例研究 1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)	5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。(4 時間)	6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。(4 時間)	7	ANA におけるホスピタリティ発揮の事例	ANA の事例を通してホスピタリティを考える	ANA のニュースを読む。(4 時間)	8	事例研究 2「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)	9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験 (スポーツ、アルバイトなど) を振り返る。(4 時間)	10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。(4 時間)	11	事例研究 3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)	12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。(4 時間)	13	事例研究 4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。(4 時間)	14	現代社会におけるホスピタリティ	ユニバーサルサービスについて考える。	ユニバーサルサービスに関する文献を読む (4 時間)	15	まとめ	授業全体のまとめ	1 5 回分の復習をする (4 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業履修にあたっての説明。ホスピタリティ論の概要説明。	ホスピタリティに関する文献を読む (4 時間)																																																																
2	ホスピタリティとは	「ホスピタリティ」を語源からアプローチし、ホスピタリティというイメージを膨らませながら考察していく。	ホスピタリティとサービスの違いを学生同士ディスカッションしておく (4 時間)																																																																
3	人間の感情とホスピタリティ	ホスピタリティというそのものの感覚は人間の中のどこから生まれるのかを考える。	相手の気持ちを理解するにはどうするか考えてみる。(4 時間)																																																																
4	事例研究 1「感動はこうして生まれる」	ホスピタリティを追求している外食産業の実例を見てみる。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)																																																																
5	ホスピタリティと文化	ホスピタリティの表現について文化、文明による差異を考察する。日本のホスピタリティの原点はどこにあるのか。	文化の違いを感じたことはあるか考えてみる。(4 時間)																																																																
6	産業の変化とホスピタリティ	サービス産業、ホスピタリティ産業が求められる時代背景を産業構造の変化を追いながら考える。	サービス産業にはどのようなものがあるか考えてみる。(4 時間)																																																																
7	ANA におけるホスピタリティ発揮の事例	ANA の事例を通してホスピタリティを考える	ANA のニュースを読む。(4 時間)																																																																
8	事例研究 2「顧客志向のホテル」	ホスピタリティ産業の中から顧客満足 NO.1 のホテル例を取り上げ検証する	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)																																																																
9	ホスピタリティとチームワーク	企業がホスピタリティをチームで生み出すために必要な要素は何かを考えていく。	チームワーク経験 (スポーツ、アルバイトなど) を振り返る。(4 時間)																																																																
10	コミュニケーションの重要性	ホスピタリティを相手に伝える為にはコミュニケーション能力が重要となることを理解する。	自分のコミュニケーション能力を客観的に見てみる。(4 時間)																																																																
11	事例研究 3「地域に愛されるカフェ」	地域に溶け込むカフェの秘密を探る。	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する (4 時間)																																																																
12	ホスピタリティマネジメント	ホスピタリティを生み出していくために、どのようにマネジメントすることが必要かを考える。	新聞経済面を読む。(4 時間)																																																																
13	事例研究 4「エンターテインメント企業のホスピタリティ」	世界を代表エンターテインメント企業のホスピタリティマネジメントを考える	実例を見て感じたことを自分の言葉で表現する。(4 時間)																																																																
14	現代社会におけるホスピタリティ	ユニバーサルサービスについて考える。	ユニバーサルサービスに関する文献を読む (4 時間)																																																																
15	まとめ	授業全体のまとめ	1 5 回分の復習をする (4 時間)																																																																
関連科目	エアライン・ホスピタリティプログラム科目 (～2014 年度入学生) 観光ホスピタリティプログラム科目 (2015 年度～入学生) エアラインビジネス論 ホテルビジネス論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	参加態度 10% 毎回の小レポート 40% 期末課題レポート 50%																																																																		
学生へのメッセージ	・授業には適宜“社会人になる為の心得”も盛り込んでいきます。 ・自分の考えをまとめ、コミュニケーションを取ることは難しいと思います。誰しも最初からできる人はいません。力まずに、まずは積極的に参																																																																		

	加する！という気持ちを持って参加して下さい。する！という気持ちを大切に、受講して下さい。 ・この授業を終えた頃には、周りの様々なことに「気づく」ということが身についているはずです。
担当者の 研究室等	7号館4階（塩崎・沖中研究室）
備考	

科目名	ホテルビジネス論	科目名 (英文)	Hotel Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2219a0		

授業概要・目的	本来であれば訪日外国人の増加や東京オリンピック・パラリンピック、開催が決まった大阪関西万博に向け、注目されるホテル業界であったが、今般の新型コロナウイルスの影響を大きく受けている。ホテル・宿泊業はサービス財を扱っており、また固定費比率の高い産業であるが故に大きな影響を受けているその産業特性や、歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を含めて分かりやすく説明する。 また、観光業界の一角を担う航空会社の現業部門や本社人事、総務部門を担当した実務経験者の教員が企業経営や
到達目標	ホテル業界での業務知識、日系・外資系ホテルの相違点などを学ぶことにより、ホテル業界で働くための知識や、どのような意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	Teams を利用し主にパワーポイントを使ったリアルタイム授業を行う。履修した時間割の時間に Teams のチャネルから授業に参加のこと。Teams に授業内容に沿った資料を添付しているため、履修者はダウンロードまたは印刷して各回授業に備えること。授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次の授業時に解説する。PC の不調や Web 環境でリアルタイム授業を受講できなかった場合は、各回の授業資料のチャネルにパワポ資料を添付しているため、参照のこと。小レポ
科目学習の効果 (資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立てる事ができる (特に公的資格取得には繋がるものではない)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点を説明。	特になし。
	2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	3	日本の宿泊業の歴史 (1) 第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	4	日本の宿泊業の歴史 (2) 終戦から現代まで	前回に引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	13	ホテルの組織と仕事 (1) 宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	14	ホテルの組織と仕事 (2) 料飲・宴会部門など	前回に引き続き、料飲部門、宴会部門、管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として

				整理しておくこと(2時間)。																
	15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティーに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。																
関連科目	観光ホスピタリティプログラム科目																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>新ホテル総論</td><td>財団法人日本ホテル教育センター</td><td>プラザ出版</td></tr><tr><td>2</td><td>宿を支える女将たち</td><td>岩崎信也</td><td>柴田書店</td></tr><tr><td>3</td><td>帝国ホテル物語</td><td>武内孝夫</td><td>現代書館</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版																	
2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店																	
3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館																	
評価方法 (基準)	各回授業後提出の小レポート40%。10回以上の提出がない場合は評価の対象とならない。 定期試験は実施しない。定期試験にかわる課題レポート60%として総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	新型コロナ終息後の訪日外国人の回復、今夏に延期された東京オリンピック・パラリンピック、2025年大阪関西万博に向け業績の回復が期待されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(塩崎・沖中研究室) 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。 オンライン授業となったので、Teamsの投稿欄で連絡してください。																			
備考	毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出していただきます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックいたします。																			

科目名	ホテルビジネス論	科目名 (英文)	Hotel Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2219a0		

授業概要・目的	本来であれば訪日外国人の増加や東京オリンピック・パラリンピック、開催が決まった大阪関西万博に向け、注目されるホテル業界であったが、今般の新型コロナウイルスの影響を大きく受けている。ホテル・宿泊業はサービス財を扱っており、また固定費比率の高い産業であるが故に大きな影響を受けているその産業特性や、歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、現在の様々な課題について社会的・経済的背景を含めて分かりやすく説明する。 また、観光業界の一角を担う航空会社の現業部門や本社人事、総務部門を担当した実務経験者の教員が企業経営や
到達目標	ホテル業界での業務知識、日系・外資系ホテルの相違点などを学ぶことにより、ホテル業界で働くための知識や、どのような意識を持てば良いのか等、就業意識や社会で働く力を高める事を目標とする。
授業方法と留意点	Teams を利用し主にパワーポイントを使ったリアルタイム授業を行う。履修した時間割の時間に Teams のチャネルから授業に参加のこと。Teams に授業内容に沿った資料を添付しているため、履修者はダウンロードまたは印刷して各回授業に備えること。授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次の授業時に解説する。PC の不調や Web 環境でリアルタイム授業を受講できなかった場合は、各回の授業資料のチャネルにパワポ資料を添付しているため、参照のこと。小レポ
科目学習の効果 (資格)	観光産業に深く関わるホテル事業を学習、理解することにより、将来の進路の判断材料として役立てる事ができる (特に公的資格取得には繋がるものではない)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点を説明。	特になし。
	2	世界の宿泊業の歴史	世界の宿泊業の歴史は古代ギリシャやローマの時代に遡る。そのような宿泊施設からホテルに発展し、その後様々な形に変化して現在に至るまでを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	3	日本の宿泊業の歴史 (1) 第二次世界大戦まで	日本のホテルはどのような背景で誕生し、その後発展していったのか、またその時代の社会や経済的情勢との関係を含めて、日本のホテルの歴史について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	4	日本の宿泊業の歴史 (2) 終戦から現代まで	前回に引き続き、太平洋戦争後から現在に至るまでのホテルの歴史について、東京オリンピックや大阪万博など様々な時代背景を交えて説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	5	日本のホテル業界の現況	日本のホテル業界は、時代の変化と共に様々な課題が生じており、決して楽観視できるような環境ではない。こうした状況について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	6	ホテルビジネスの特性	ホテル事業をより解り易く理解してもらうために、ホテル事業の「特性」について、様々な事例や他の事業との比較を交えながら説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	7	ホテルの経営方式	ホテルの経営についても様々な種類があり、他産業に比較し、独自の方式・形態も存在する。そうした方式・形態の特徴や問題点について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	8	チェーンビジネスの基本	ホテルは、何故チェーン化を進めるのか、またチェーンを統括する本部に必要な機能はどのようなものなのかについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	9	世界のホテルチェーン	世界の主要なホテルチェーンの展開方式や現状を解説し、外資系ホテルチェーンの日本進出を読み解く。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	10	日本のホテルチェーン	日本にも多くのホテルチェーンが存在するが、世界のホテルチェーンとは様々な面で異なる特徴を持っている。そうした特徴や今後の方向性がどのように予測されるかを説明し、主要なホテルチェーンの概要についての説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	11	日本の宿泊産業	日本の宿泊施設には、ホテル、旅館、民宿やペンションなど実に多くの宿泊施設があり、それぞれの特徴や相違点などを説明する。現在、導入されつつある民泊の現状や課題についても考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	12	ホテルの収入構成と収益構造について	ホテルの収入構成で営業施設毎の比率・指数、ホテルの費用構成、収益構造を中心に講義を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	13	ホテルの組織と仕事 (1) 宿泊部門	ホテル全体の組織の説明のあと、部門別にそれぞれの組織、具体的な業務内容について講義する。今回は宿泊部門。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	14	ホテルの組織と仕事 (2) 料飲・宴会部門など	前回に引き続き、料飲部門、宴会部門、管理部門の組織と業務内容について説明を行う。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として

				整理しておくこと(2時間)。
	15	まとめと特別講義	我が国の主要ホテルを例に貫かれたアイデンティティやホスピタリティーに対する考え方について考察する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、積極的に予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。
関連科目	観光ホスピタリティプログラム科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新ホテル総論	財団法人日本ホテル教育センター	プラザ出版
	2	宿を支える女将たち	岩崎信也	柴田書店
	3	帝国ホテル物語	武内孝夫	現代書館
評価方法 (基準)	各回授業後提出の小レポート40%。10回以上の提出がない場合は評価の対象とならない。 定期試験は実施しない。定期試験にかわる課題レポート60%として総合的に評価する。			
学生への メッセージ	新型コロナ終息後の訪日外国人の回復、今夏に延期された東京オリンピック・パラリンピック、2025年大阪関西万博に向け業績の回復が期待されるホテル業界。その事業の実態と課題について学習します。 また、仕事の内容や求められる資質について考察します。将来の進路として考えている学生諸君にも参考になる内容です。一緒に研究しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館4階(塩崎・沖中研究室) 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。 オンライン授業となったので、Teamsの投稿欄で連絡してください。			
備考	毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出していただきます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックいたします。			

科目名	エアラインビジネス論	科目名 (英文)	Airline Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2220a0		

授業概要・目的	日本の主要航空会社で空港接客部門、整備管理部門、グランドハンドリング会社や予約販売会社で長年にわたり、人事、総務、経営部門を担った実務経験者の教員が、社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割を説明する。 固定費比率が高いが故に今般の新型コロナの影響を大きく受けている航空産業であるが、その辿った歴史、現状を正確に理解し、業界が抱える課題を把握することにより、将来展望について考察する。 また、航空機を運航するための多種多様な職種の役割や協力体制について、実務経験をおとして講義することによ
到達目標	航空産業の企業活動を通し、企業の事業運営に貢献する意義を身につける。 また、企業の社会的貢献や責任、顧客満足、従業員満足について学習することを通し、将来の進路選択に際しての判断材料に資することを目標とする。 客室乗務員やグランドスタッフというイメージにはしがちな航空会社の公共交通機関としての社会的使命を正確に理解するとともに、航空機を運航するための様々な職種の存在を認識し、進路選択の幅を広げる。 将来、航空産業を目指すための知識や意識を修得する。
授業方法と留意点	11 月 5 日の第 7 回授業から対面授業で実施する。指定する教科書はないが、授業内容に沿った資料を毎回配布し、受講者自身が重要な部分をパワーポイントから読み取り、資料に記入する。また、理解を深めるための動画資料も活用する。 授業内容にかかわる質問については、授業終了時に毎回提出する出席票をかねた小レポートに質問を記入してもらい、次回の授業時に解説する。プリントの空欄になっている要点についてパワーポイントから読み取り、次回講義までに自らの知識として復習しておくことが重要。受講にあたっては、日ごろから航空業界に関
科目学習の効果 (資格)	航空産業の様々な業種を知る事により、将来の進路の判断材料に資する (特に公的資格取得には直接繋がるものではない)。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講師紹介。授業方法の説明。授業概要、到達点の説明。成績評価、履修上の注意点などの説明。	特になし。
	2	航空の歴史	戦後の航空技術の発展、空の大衆化までの変遷を説明。また、戦後の我が国の民間航空の変遷、航空行政の規制緩和とまで、民間航空の歴史について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	3	航空自由化	米国に始まる自由化が欧州やその他の地域にどのような影響を及ぼしたのか、現在の航空事情を理解するために不可欠な OPEN SKY 政策について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	4	我が国の航空自由化	4 5・4 7 体制といわれた護送船団政策がもたらした日本の航空業界の脆弱さ、最近の米国との航空自由化の意味などについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	5	格安航空の躍進	航空の自由化に伴い、現在航空業界で最も注目を集めている格安航空について、そのコスト削減戦略や実態、将来の展望までを解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	6	ハブ&スポーク (自由化の産物)	格安航空の対極にあるフルサービスキャリア、その基本となるハブ&スポークについてメリット、デメリットをわかりやすく解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	7	グローバル・アライアンス (自由化の副産物)	単独では生き残れない厳しい競争の中、アライアンスの意義は何か。成功例と失敗例を具体的に挙げてメリット・デメリットについて解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	8	運賃と費用	運賃の自由化に伴い航空会社が実施している料金政策について解説。また、航空会社が如何にしてコスト削減に取り組んでいるのかを原油のヘッジや搭載重量の軽減化など具体的事例をあげながら説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	9	顧客満足と企業の社会的責任	顧客満足 (CS) を満たすには、まず従業員満足 (ES) を満たす必要がある。CS と ES の重要性について解説。また、昨今企業の不祥事が続く中、企業の社会的責任の重要性について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	10	航空会社の仕事 営業・予約・販売	運賃設定と販売の流れ、第一印象が問われる予約案内業務、商品企画・販売方法について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	11	航空会社の仕事 旅客取扱業務	この次も選んでいただくために、顧客満足を追求するグランドスタッフの業務について説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	12	航空会社の仕事 グランドハンドリング・航空機整備	飛行機が飛び立つまでの流れ、航空機整備のしくみについて説明する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと (2 時間)。
	13	航空会社の仕事 コントロール・PILOT	運航方式、管制、飛行ルートについて説明。飛行機が飛ぶ原理についても解説。また、運航乗務員の職業意識や具体的業	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める (2 時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理して

			務・訓練について説明する。	おくこと(2時間)。																
	14	航空会社の仕事 客室乗務員、機内サービス	客室乗務員が担う業務は多岐にわたる。一見華やかに映る客室乗務員の業務の実態と、お客様に快適に過ごしていただく機内サービスの努力と工夫について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。																
	15	航空会社の仕事 航空貨物	沖縄ハブ構想をはじめ、今注目を集めている航空貨物について解説する。	関連する新聞記事・ニュース報道に関心を払い、予備知識の習得に努める(2時間)。授業で配布したプリントの要点について自らの知識として整理しておくこと(2時間)。																
関連科目	観光ホスピタリティプログラム科目																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>航空産業入門第2版</td><td>ANA 総合研究所</td><td>東洋経済新報社</td></tr><tr><td>2</td><td>エアラインオペレーション入門</td><td>ANA 総合研究所</td><td>ぎょうせい</td></tr><tr><td>3</td><td>数字で見る航空(2019)</td><td>国土交通省航空局</td><td>航空振興財団</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	航空産業入門第2版	ANA 総合研究所	東洋経済新報社	2	エアラインオペレーション入門	ANA 総合研究所	ぎょうせい	3	数字で見る航空(2019)	国土交通省航空局	航空振興財団
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	航空産業入門第2版	ANA 総合研究所	東洋経済新報社																	
2	エアラインオペレーション入門	ANA 総合研究所	ぎょうせい																	
3	数字で見る航空(2019)	国土交通省航空局	航空振興財団																	
評価方法 (基準)	各回授業後提出の小レポート 40%、10 回以上の提出がない場合は評価の対象とならない。 定期試験は実施しない。定期試験にかわる期末レポート 60%として総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	航空産業に携わる人はパイロットとCAだけと思いませんか？実際には業務は多岐にわたり、パイロットやCAたちはほんの一部です。航空産業にはどのような仕事があってどのような人が向いているのかを実務者の観点から分り易く解説します。現在新型コロナの影響を大きく受けている航空産業ですが、終息後には必ずや回復が期待される業界です。 航空業界に関心を持っている学生には興味深い講義ですし、将来の進路と考えている学生諸君には大変参考になると思います。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(塩崎・沖中研究室)																			
備考	毎回の授業で出席票をかねたレポートを提出してもらいます。そこに記載された授業内容にかかわる質問については、次回授業でフィードバックします。																			

科目名	エコツーリズム論	科目名 (英文)	Ecotourism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2221a0		

授業概要・目的	エコツーリズムとは、地域の自然や文化、歴史などの魅力を活かしながら、それらの資源の持続的な利用を前提とする観光の形であり、今後の観光を考えていく上で重要な概念です。本講義では、エコツーリズムの背景や理念を学ぶとともに、国内外の様々な事例を通じて、エコツーリズムの現状と課題、今後の展望について考えます。 本授業では、自らエコツーリズムを企画するなど、能動的に授業に取り組むことを求めます。そして、受講者が持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来るようになることを期待します。 なお、この																																																																		
到達目標	1. エコツーリズムについて理解し、説明できる 2. 持続可能な観光・地域のあり方について自ら考えることが出来る																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題に対しては解説を行う。また、Moodle 等のオンラインツールを授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	旅行業務取扱管理者等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>マストツーリズムとエコツーリズム 1</td><td>オルタナティブツーリズムの概念を理解する</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>マストツーリズムとエコツーリズム 2</td><td>オルタナティブツーリズムの概念を理解する</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>地域の自然とエコツーリズム 1</td><td>地域の自然資源と観光の関係について知る</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>地域の自然とエコツーリズム 2</td><td>地域の自然資源と観光の関係について知る</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>エコツーリズムのさまざまな展開 1</td><td>国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>エコツーリズムのさまざまな展開 2</td><td>国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>エコツーリズムのさまざまな展開 3</td><td>国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>エコツーリズムを体験する 1</td><td>国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>エコツーリズムを体験する 2</td><td>国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>エコツーリズムを体験する 3</td><td>国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える</td><td>授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>エコツーリズムを企画する 1</td><td>グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する</td><td>エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>エコツーリズムを企画する 2</td><td>グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する</td><td>エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>エコツーリズムを企画する 3</td><td>グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する</td><td>エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括・企画の発表</td><td>企画案を発表し、ディスカッションを行う</td><td>エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する (1 時間以上)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	2	マストツーリズムとエコツーリズム 1	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	3	マストツーリズムとエコツーリズム 2	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	4	地域の自然とエコツーリズム 1	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	5	地域の自然とエコツーリズム 2	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	6	エコツーリズムのさまざまな展開 1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	7	エコツーリズムのさまざまな展開 2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	8	エコツーリズムのさまざまな展開 3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	9	エコツーリズムを体験する 1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	10	エコツーリズムを体験する 2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	11	エコツーリズムを体験する 3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)	12	エコツーリズムを企画する 1	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)	13	エコツーリズムを企画する 2	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)	14	エコツーリズムを企画する 3	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)	15	総括・企画の発表	企画案を発表し、ディスカッションを行う	エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する (1 時間以上)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について把握する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
2	マストツーリズムとエコツーリズム 1	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
3	マストツーリズムとエコツーリズム 2	オルタナティブツーリズムの概念を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
4	地域の自然とエコツーリズム 1	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
5	地域の自然とエコツーリズム 2	地域の自然資源と観光の関係について知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
6	エコツーリズムのさまざまな展開 1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
7	エコツーリズムのさまざまな展開 2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
8	エコツーリズムのさまざまな展開 3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
9	エコツーリズムを体験する 1	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
10	エコツーリズムを体験する 2	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
11	エコツーリズムを体験する 3	国内外の事例から、エコツーリズムと地域の自然資源のよりよい関係について考える	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める (1 時間以上)																																																																
12	エコツーリズムを企画する 1	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)																																																																
13	エコツーリズムを企画する 2	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)																																																																
14	エコツーリズムを企画する 3	グループに別れて、実際に特定の地域でエコツーリズムを企画する	エコツーリズム企画の発表に関わる準備を行う (1 時間以上)																																																																
15	総括・企画の発表	企画案を発表し、ディスカッションを行う	エコツーリズム企画の発表について準備を行うとともに、ディスカッションをふまえて内容を修正する (1 時間以上)																																																																
関連科目	観光ホスピタリティプログラム関連科目 (ホスピタリティ論、アーバンツーリズム論等)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み (リアクションペーパーの内容、受講態度、プレゼンテーションの内容、議論やグループワークへの参加状況等) (60%) とレポート (40%) で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の	7 号館 5 階 (手代木研究室)																																																																		

研究室等	
備考	事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。

科目名	イベント企画論	科目名 (英文)	Event Planning
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3222a0		

授業概要・目的	This course will be examine tourism events in the leisure industry around the world. An overview of the history, reasons for holding the events, planning and organization of events will provide the focus of the course. ※なお、この科目は、「観光ホスピタリティ」および「			
到達目標	Students will demonstrate an understanding of the roles and significance of tourism events and experiences in past and present societies, and knowledge of the factors surrounding the process of organizing an event. Students will work collaborat			
授業方法と留意点	Students will research events in Japan for homework prior to the class. The lecture will then introduce similar events in other countries. The class will be interactive including a mini-lecture, note-taking in English, group discussion, and a conte			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction to Leisure Behaviour and the Event Industry / Note taking / Research on Japanese events	An introduction to the course, This class is very important to attend.	Find out about 1 music festival in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	2	Iconic Music Events & Planning	Pair share about your festival, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Research 1 event you would like to attend in Kansai.
	3	Event project plans	Project-based groups made Events decided. This is an important class to attend	Find out about 1 food festival in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	4	Food Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 religious festival in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	5	Religion-based Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 political event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	6	Political Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 beer or wine event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	7	Beer and Wine Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 flower event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	8	Flower Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 sporting event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	9	Sporting Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 comedy event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	10	Comedy Events & Planning	Group share about your event, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Find out about 1 christmas event in Japan & type about it in your own words in English (100 words) .
	11	Christmas Market Events & Planning	Group share about your festival, Mini-lecture, Note-taking for the Portfolio, Visuals, Content quiz	Prepare information for your powerpoint presentation to discuss with your group / text in English / video / photos
	12	Event Project group - division of work - English check	Example of 2017 powerpoint presentations shown	Portfolio summaries collected (9 events at least 100 words each event) Event Presentations (1) to send powerpoint files
	13	Event Presentations (1)	Evaluations	Event Presentations (2) to send powerpoint files
	14	Event Presentations (2)	Evaluations	Event Presentations (3) to send powerpoint files
	15	Course summary and review	Discussion and review of the key concepts covered in the course	Overall examination of the information that has been learned during the course
関連科目	「観光ホスピタリティ」や「メディアビジネス」プログラムの他の科目など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Group-based research about an event & Presentation about that event 30% In-lecture quizzes on class content 20% Portfolio of Research about events in Japan (Weekly notetaking and writing assignments for homework) 30% Class attitude - participating,			
学生への メッセージ	Enjoy finding out about events all over the world while using English in a meaningful way.			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階田浦研究室 (Online from home) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	事前・事後学習にかかる総時間は 60 時間です。			

科目名	アーバンツーリズム論	科目名 (英文)	Urban Tourism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3223a0		

授業概要・目的	都市には多くの旅行者が訪れているが、都市におけるツーリズムが学術的な研究の対象となってきたのは意外に最近である。本講義は、都市におけるツーリズムとその存立条件、都市とツーリズムとの関係性などについて幅広く検討するアーバンツーリズム論の主要なトピックについて学び、都市・地域の視点から観光を捉える見方を身に付けることを目的とする。
到達目標	※本授業は、「観光ホスピタリティ」プログラム対応科目である。 アーバンツーリズム論に関する基礎知識を習得し、具体的な対象事例・地域について分析したり、客観的なデータを提示しながら自らの考えを述べることができる。
授業方法と留意点	アーバンツーリズム論についての講義を聴き、理解度を問う小課題に取り組む。また、関連テーマについて学期末にレポートを作成・提出する。
科目学習の効果 (資格)	将来的に観光産業に関連する進路に進みたい学生や、卒業研究で観光に関するテーマを扱いたい学生にとっては、この授業が自らの関心について探求することに貢献できると考えている。もちろん、その他の受講者も幅広く歓迎する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	都市とツーリズム	授業の進め方や評価について述べる。都市およびツーリズムとその研究の概要について解説する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	2	都市研究の視点 (1)	都市地理学を中心とする都市研究の基礎的な方法・視点・課題について解説する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	3	都市研究の視点 (2)	都市地理学を中心とする都市研究の基礎的な方法・視点・課題について解説する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	4	都市研究の視点 (3)	都市地理学を中心とする都市研究の基礎的な方法・視点・課題について解説する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	5	現代社会と余暇	現代社会における余暇とその特質について解説する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	6	ツーリストとその行動	ツーリストの行動メカニズムについて検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	7	ツーリズムとホテル	観光産業を支えるホテルとその経営行動について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	8	地域振興とツーリズム	各地域における地域振興について、ツーリズムとの関係から検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	9	観光政策と GMO	さまざまな都市における観光政策と GMO についての事例を紹介する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	10	アーバンツーリズムと食	アーバンツーリズムにおいて美食がどのような役割を果たすのかについて検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	11	伝統と真正性	アーバンツーリズムにおいて「伝統」が果たす役割や位置づけについて検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	12	都市とコンテンツ・ツーリズム	都市におけるコンテンツ・ツーリズムの展開について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	13	オーバーツーリズム問題	アーバンツーリズムの展開にともなう生じる開発とそれが含む諸問題について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	14	アーバンツーリズムとイノベーション、創造性	アーバンツーリズムにおいてイノベーションと創造性が果たす役割について検討する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)
	15	コロナ以後のツーリズムを考える	COVID-19 のパンデミック以後のツーリズムの新たな方向性について紹介する。	授業の内容について、ノートや配布資料等を見直し復習する (事後学習、2 時間)

関連科目	「エコツーリズム論」「風土と地理」など
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観光学ガイドブック	大橋 昭一ほか	ナカニシヤ出版
	2			
	3			

評価方法 (基準)	学期末レポート 70%、小課題への取り組み (理解度の確認、質疑・コメント) 30%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	コメントシートやレポートへのフィードバック (提出物へのコメントや質問への回答) は、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合にはオ
----	---

	フィスアワーに教員の研究室、またはメールにて行う。
--	---------------------------

科目名	メディア文化論	科目名 (英文)	Media Culture
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2224a0		

授業概要・目的	私たちはさまざまなメディアに囲まれて生活しています。みなさんはそうしたメディアをどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。この授業ではメディアについての理解を知識として深めるだけでなく、ワークショップやグループワークを通じてさまざまなメディアに触れ、情報を編集・加工・発信することでメディアの技法を修得するとともに、これからの社会を生きていく上で求められるメディアリテラシーを身につけます。 なお、この科目はメディアビジネスプログラム科目です。																																		
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) メディアリテラシーが身についている (2) さまざまなメディアの特性について理解している (3) メディアを通じて情報を得たり、編集・加工したり、発信したりするスキル (メディア技法) を身につけている																																		
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、ワークショップや受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業の終わりに毎回リアクションペーパーを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。また、授業および事前・事後の学習で教科書に指定されている2冊の本を通読します。事前・事後学習は総時間60時間を目安とします。																																		
科目学習の効果 (資格)																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。</td><td>シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>メディアリテラシー</td><td>インターネットの登場により私たちの生活は劇的に変化してきました。Line や Facebook、twitter といった SNS は私たちの生活やコミュニケーションのあり方、ひいては人間関係にも大きな影響を及ぼしています。 私たちはこうした技術をどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。今回の授業では情報社会にあつて必須の能力であるメディアリテラシーについて学修します。</td><td>授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>まわしよみ新聞を作る (1)</td><td>インターネットの普及にともなう、新聞や活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。 今回の授業では、ワークショップで「まわしよみ新聞」を作成し、新聞に触れるとともに情報を編集・加工・発信するとはどういうことなのかを学修します。</td><td>まわしよみ新聞について調べておきましょう。 まわしよみ新聞を作るために、1週間以内の新聞を持参しましょう。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>まわしよみ新聞を作る (2)</td><td>前回の授業で作成したまわしよみ新聞を各編集グループごとに発表し、まわしよみ新聞を作ることに伴って何を行ってきたのか、そこにどのような学びがあったのかを話し合います。</td><td>授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか? (1)</td><td>森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』を読んでメディアについて学修します。</td><td>授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』をちくまプリマー新書、2014 年を読んでください。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか? (2)</td><td>森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』を読んでメディアについて学修します。</td><td>授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』をちくまプリマー新書、2014 年を読んでください。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>たったひとつの「真実」なん</td><td>森達也『たったひとつの「真実」なんて</td><td>授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。	2	メディアリテラシー	インターネットの登場により私たちの生活は劇的に変化してきました。Line や Facebook、twitter といった SNS は私たちの生活やコミュニケーションのあり方、ひいては人間関係にも大きな影響を及ぼしています。 私たちはこうした技術をどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。今回の授業では情報社会にあつて必須の能力であるメディアリテラシーについて学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。	3	まわしよみ新聞を作る (1)	インターネットの普及にともなう、新聞や活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。 今回の授業では、ワークショップで「まわしよみ新聞」を作成し、新聞に触れるとともに情報を編集・加工・発信するとはどういうことなのかを学修します。	まわしよみ新聞について調べておきましょう。 まわしよみ新聞を作るために、1週間以内の新聞を持参しましょう。	4	まわしよみ新聞を作る (2)	前回の授業で作成したまわしよみ新聞を各編集グループごとに発表し、まわしよみ新聞を作ることに伴って何を行ってきたのか、そこにどのような学びがあったのかを話し合います。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。	5	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか? (1)	森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』を読んでメディアについて学修します。	授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』をちくまプリマー新書、2014 年を読んでください。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。	6	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか? (2)	森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』を読んでメディアについて学修します。	授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』をちくまプリマー新書、2014 年を読んでください。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。	7	たったひとつの「真実」なん	森達也『たったひとつの「真実」なんて	授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法・基準についても確認します。	シラバスをしっかりと読んでから授業に出席しましょう。また授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態にしておきましょう。																																
2	メディアリテラシー	インターネットの登場により私たちの生活は劇的に変化してきました。Line や Facebook、twitter といった SNS は私たちの生活やコミュニケーションのあり方、ひいては人間関係にも大きな影響を及ぼしています。 私たちはこうした技術をどれだけ理解し使いこなせているでしょうか。今回の授業では情報社会にあつて必須の能力であるメディアリテラシーについて学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																																
3	まわしよみ新聞を作る (1)	インターネットの普及にともなう、新聞や活字文化の衰退が危惧されます。新聞の発行部数も年々減り続ける一方です。 今回の授業では、ワークショップで「まわしよみ新聞」を作成し、新聞に触れるとともに情報を編集・加工・発信するとはどういうことなのかを学修します。	まわしよみ新聞について調べておきましょう。 まわしよみ新聞を作るために、1週間以内の新聞を持参しましょう。																																
4	まわしよみ新聞を作る (2)	前回の授業で作成したまわしよみ新聞を各編集グループごとに発表し、まわしよみ新聞を作ることに伴って何を行ってきたのか、そこにどのような学びがあったのかを話し合います。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																																
5	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか? (1)	森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』を読んでメディアについて学修します。	授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』をちくまプリマー新書、2014 年を読んでください。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																																
6	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか? (2)	森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』を読んでメディアについて学修します。	授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』をちくまプリマー新書、2014 年を読んでください。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。																																
7	たったひとつの「真実」なん	森達也『たったひとつの「真実」なんて	授業中の指示に従って、森達也『たったひとつの「真																																

		でない——メディアは何を伝えているのか? (3)	ない——メディアは何を伝えているのか?』を読んでメディアについて学修します。	実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?』ちくまプリマー新書、2014 年を読んでること。 授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	8	中間のふり回り	前半の授業をふりまわります。不明な点があれば質疑応答により解決します。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
	9	映像を撮る——世界を切り取るということ (1)	誰もが手軽に写真や動画を撮影できるようになりました。今回の授業では、動画の撮影を通じて、世界を切り取るということの意味について学修します。	授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習しましょう。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査しましょう。
	10	映像を撮る——世界を切り取るということ (2)	受講生が撮影した映像を鑑賞し、映像を撮るということの意味について話します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	11	映像を編集する——切り取った世界を加工するということ	動画を撮影することが世界を切り取ることであるとするならば、その編集は切り取った世界を加工することだと言えるでしょう。 今回の授業では、映像の編集を通じて、世界を加工することの意味について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	12	映像制作論	今回の授業では、テレビ放送のドキュメンタリー番組がどのようにして作られるのかを確認しながら、映像制作の基本を学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	13	大衆文化と政治	テレビ、映画、アニメといったメディアは、これまで幾度となくプロパガンダとして政治的な宣伝に利用されてきました。 今回の授業では、映像資料を交えながら大衆文化と政治の関係について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	14	メディアと権力	権力はしばしばメディアを利用します。メディアも権力におもねることが少なくありません。メディアと権力は、たいへん結びつきやすいもののです。民主主義の社会にあって、私たちはこのことを十分に理解し、メディアと権力の両方を監視していく必要があります。 今回の授業では、メディアと権力の関係について学修します。	授業のテーマについてインターネット、図書館などで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。 授業後は授業で学修したことを整理して復習すること。
	15	まとめ、全体のふり回り	これまでの授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。成績評価の方法・基準についても再確認します。	これまでの授業で学修したことをしっかり復習して授業に参加しましょう。授業を受けたあとは改めて授業全体をふり回りながら期末試験に向けて準備をしましょう。
	関連科目			
	メディアビジネスプログラム科目 (2015 年度入学生)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	たったひとつの「真実」なんてない——メディアは何を伝えているのか?	森達也	ちくまプリマー新書
	2	Fake な日本	森達也	角川文庫
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	この授業は、授業内課題 (リフレクションシート) 30%、中間レポート 30%、期末レポート 40%で評価します。			
学生への	決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんに			

メッセージ	よく尋ねます。
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 7号館2階 非常勤講師室 メールアドレス：xmrimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)
備考	

科目名	マスコミ論	科目名 (英文)	Mass Communication
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上島 誠司
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2225a0		

授業概要・目的	初回は対面授業ができたのですが、コロナ禍の広がりですリモート授業に変わってしまいました。残念です。しかし、学びの歩みを止めてはいけません。2 回目からはパソコンの画面越しではありますが、リアルに授業を進めていきます。teams という会議システムを使い、時間割通りにやります。4 時限目が始まる 15 時の少し前になったらパソコンの前でスタンバイしてください。コロナなんかには負けず頑張りましょう。
到達目標	マスコミとは何か」という基本的な問いかけを軸に、マスコミの役割や機能、個人や社会にもたらす影響などについて理解する
授業方法と留意点	マスコミの基本的な役割を理解し、新聞記事やテレビニュース、ネット情報などを、メディアリテラシーに基づく、判断ができる能力の開発を目指す。
科目学習の効果 (資格)	一方的な講義型授業ではなく、学生との対話やグループディスカッションや作業などを重視した双方向型の授業を目指したい。毎回、課題を設定し、学生自らが考え、自説を発表したり、書いたりする学生参加型授業を実践する。
	マスコミを理解することによって、事態をうのみにするのではなく、リテラシー能力を持って、自分の考えをつくることできる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	この科目の狙いや進め方、評価方法などを説明する。	新聞やテレビニュースなどに触れる。
	2	マスコミって何だろう 1	マスコミの現状を知る マスコミとマスメディア SNS はマスコミか	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	3	マスコミって何だろう 2	新聞記事を基に 5 W1H を考える	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	4	マスコミって何だろう 3	ニュース記事を書いてみる 5 W1H を意識して書く 発信する責任 事実を考えるうえで主観と客観を意識する	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	5	振り返り	これまでの内容を振り返り、「マスコミとは何か」という自分の考えをまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。
	6	報道を考える 1	多面的報道型とオピニオン型の違いや新聞とテレビの違いを理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	7	報道を考える 2	客観報道の意味を考え、事実と真実の関係を理解する。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	8	報道を考える 3	ジャーナリストはなぜ疑り深いのか、を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	9	振り返り	これまでの内容を振り返り、マスコミに対する自分の意見をまとめる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。
	10	報道と情報 1	ネット情報を読み解く。ネット情報は玉石混交、情報の確度を考える。 四つの疑問 (①事実か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	11	報道と情報 2	誤報とやらせや「伝える」と「伝わる」を考える。 四つの疑問 (①事実か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	12	報道と情報 3	information と inteligenzen の違い 四つの疑問 (①事実か②他の見方は③隠されていることは④まだ断定できるか)	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	13	報道と情報 4	民主主義を守る報道、権力監視という役割を考える。	前回の復習 新聞やテレビニュースなどに触れる。
	14	振り返り	情報と報道の違いを意識して、論説文を書いてみる。	あらゆる媒体に触れ、自分の意見を構築してみる。
	15	全体のまとめ	学んだことを踏まえ、改めて「マスコミとは何か」という自分の考えをつくる。	自分の見解に基づき、新聞やテレビニュースなどに触れる。

関連科目	メディアビジネスプログラムの他の科目など。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法	課題・レポート (70%)、授業への取り組みなど (30%) により、総合的に評価する。		

(基準)	
学生への メッセージ	巷にあふれる情報をいかに取り入れ、正しく判断するか、を考える機会にしたいと思っています。スマホなどのネット情報だけではなく、新聞、テレビ、雑誌など幅広い媒体に興味を持つきっかけにしてください。 ※授業中は教員を含む他人に迷惑をかける行為はやめてください。たとえば、私語や携帯電話は厳禁、寝るなどというのはもってのほかです。真面目に学ぼうとする人の学習権を侵害する行為はやめてください。注意してもやめない場合はそれなりの措置をとることがあります。他人に迷惑をかけない、という最低限の大人のマナーは守ってくだ
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階） 学習支援センター
備考	事前・事後学習にかかる総時間は 6 0 時間です。 課題や発表に対してはそのつどフィードバックを行います。 全国紙などで 3 0 年間、経済部記者を中心に現場で記事を書いた。

科目名	メディアリテラシー論	科目名 (英文)	Media Literacy
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2226a0		

授業概要・目的	この科目は、「メディアビジネス」プログラム対応科目である。 現代社会においては、インターネットの発達に伴い、メディアからの情報の量も質も大きく様変わりしている。文字通り、情報の洪水の奔流の中で、嘘と真実を見分ける能力が必要とされている。また、ソーシャルメディアを通じて、自ら情報発信をする機会も格段に増えており、情報を読みとる力と発信する力の両方が必要とされているのである。 この講義では、メディアの社会的特性を理解し、適切な情報読解と発信をするために必要な知識とスキルを修得することを目標とする。
到達目標	新聞・テレビの情報が歪んでしまうメカニズムを理解する。 インターネットの情報の真偽を見抜くためのスキルを修得する。 インターネットでの発信を正しく行うための倫理とスキルを身につける。
授業方法と留意点	講義方式で行う。適宜、資料を配布・紹介する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	メディアとメディアリテラシー	メディアとは何か メディアリテラシーとは何か メディアリテラシーのレベル	メディアリテラシーという言葉の意味についてまとめる。
	2	新聞とニュースについて (1)	新聞と世論形成 新聞の中立性と「偏向」	新聞各紙のニュースの取り上げ方の違いについて調べる。
	3	新聞とニュースについて (2)	日本の新聞の経営面における問題 新聞とインターネット 新聞のデジタル化とニュースサイト	ニュースサイトのまとめと新聞記事の違いについて調べる。
	4	新聞とニュースについて (3)	事例研究。朝日新聞における「慰安婦報道」について	朝日新聞と読売・産経新聞の対立の本当の理由は何かを考える。
	5	テレビについて (1)	テレビの映像の特性 番組編集 「やらせ」の問題 「ムスタン王国」について	テレビの「やらせ」の事例について、さらに各自で調べてみる。
	6	テレビについて (2)	NHK と民放 NHK の受信料問題 テレビの番組編成・広告における問題 ニュース番組における報道の問題	NHK と民放の違いについて考えてみる。 NHK の受信料問題についての各自の考えをまとめる。
	7	テレビについて (3)	事例研究。「発掘!あるある大事典」捏造事件	テレビの捏造事件が起きる背景についてまとめる。
	8	メディアと広告	広告・CM の影響力と価値 産業としてのメディアと広告	テレビ CM が喚起するイメージについて、各自で調べてみる。
	9	メディアと〈権力〉	新聞・テレビの権力との関わり メディアの支配者としての〈資本〉	授業内容をまとめる。 権力によるメディアへの介入について他の事例を調べる。
	10	インターネット社会について	インターネット社会の過去 インターネット社会の現在 インターネット社会の今後のあり方	授業内容をまとめる。 インターネットの将来について議論する。
	11	インターネットと倫理	ネット社会とリアル社会の倫理のズレ インターネットとプライバシー 著作権の問題 匿名性の問題	ネット社会での倫理的逸脱について各自で調べる。
	12	ソーシャルメディアについて (1)	コミュニケーション空間としての SNS 電子掲示板の問題 ブログ、ホームページ ネット炎上の問題	電子掲示板やブログでの炎上の事例を調べる。
	13	ソーシャルメディアについて (2)	まとめサイト フェイスブック ツイッター ソーシャルメディアと情報の商業的利用	フェイスブック、ツイッターについて、各自の利用法について報告する。
	14	ソーシャルメディアについて (3)	まとめサイト閉鎖の問題 アメリカ大統領選挙におけるフェイク・ニュース問題	インターネットにおける嘘と本当を見抜くために何が大切について各自の考えをまとめる。
	15	まとめ	メディアリテラシーについてのまとめ	

関連科目	メディアビジネスプログラム科目
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ネット炎上の研究	田中辰雄・山口真一	勁草書房
	2	池上彰に聞くどうなってるの? ニッポンの新聞	池上彰	東京堂出版
	3	信じてはいけない : 民主主義を壊すフェイクニュ	平和博	朝日新聞出版

		ースの正体		
評価方法 (基準)	授業内のレポート・平常点 (40%) と授業後のレポート課題 (60%)			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 (有馬研究室)			
備考	事前事後学習 計 60 時間 レポートは Moodle を通じて提出してもらい、これにフィードバックをする。			

科目名	クリエイティブビジネス論	科目名 (英文)	Creative Business
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	針尾 大嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2227a0		

授業概要・目的	本講義では、IT の急速な発展と普及により、めまぐるしく変貌する現代のコンテンツ（クリエイティブ）業界の産業構造とビジネスモデルおよびコンテンツを自社のマーケティング政策に組み込み事業展開を図る他業界の取り組み事例について解説する。我が国の重要施策として掲げられているコンテンツ産業の育成とその課題、米国との比較などについても取り上げる。 授業担当者は、かつて情報通信分野の研究所に勤務し、大手通信キャリアのエンジニアらと共に次世代移動体情報通信技術・サービスの開発に携わり、主に次世代医療に必要とされる消費者
到達目標	- 代表的なコンテンツ（クリエイティブ）業界の構造とビジネスモデルを図解できる。 - 日米のコンテンツ産業政策の違いについて説明できる。 - 製造業、サービス業で取り組まれているコンテンツ開発の事例を取り上げ説明できる。
授業方法と留意点	- 授業は、教材を用いた「講義」形式で進める。 - 教材は、配布資料を使用する。 - 教材は、講義開始 1 週間前に WebFolder にアップロードしておく。 - 授業は、以下のように進める予定である。 通常：対面開講（時間配分：解説 70 分、ディスカッション・質疑 20 分） 対面実施が困難な場合：Teams 上でのオンライン開講（同上） - オンライン授業に切り替える場合 - 連絡方法：WebFolder 上で配布する利用 - その他：コミュニケーションツール「Slack」を利用予定 - レポート等については、
科目学習の効果（資格）	身近な情報サービスを例に、それらがビジネスとして成り立つ仕組みについて理解することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	主に以下について取り上げる ・コンテンツ（クリエイティブ）ビジネスとは ・本講義で取り上げるコンテンツ産業について	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	2	放送業界（1）	主に以下について取り上げる ・放送産業の構造 ・放送市場の動向 ・ビジネスモデル ・関連等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	3	放送業界（2）	主に以下について取り上げる ・レポート 1 ・「放送業界」に関する質疑	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	4	映画業界（1）	主に以下について取り上げる ・映画産業の構造 ・映画市場の動向 ・ビジネスモデル ・映画の制作プロセス ・関連法等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	5	映画業界（2）	主に以下について取り上げる ・映画業界（1）の続き	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	6	グループディスカッション（1）	主に以下について取り上げる ・グループディスカッションテーマ「映画コンテンツと文化」について解説	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	7	グループディスカッション（2）	主に以下について取り上げる ・グループディスカッション ・レポート 2	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	8	出版・音楽業界（1）	主に以下について取り上げる ・出版産業の構造 ・出版市場の動向 ・ビジネスモデル ・関連法等	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 （学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度）
	9	出版・音楽業界（2）	主に以下について取り上げる ・音楽産業の構造 ・音楽市場の動向 ・ビジネスモデル	予習：事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習：講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。

			・関連法等	る。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	10	出版・音楽業界 (3)	主に以下について取り上げる ・レポート 3 ・「出版・音楽業界」に関する質疑	予習: 事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習: 講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	11	その他業界の取り組み事例 (2)	主に以下について取り上げる ・時計産業の構造 ・時計市場の動向 ・時計の歴史 ・スマートウォッチ等	予習: 事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習: 講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	12	その他業界の取り組み事例 (2)	主に以下について取り上げる ・自動車産業の構造 ・自動車市場の動向 ・自動車の歴史 ・次世代自動車等	予習: 事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習: 講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	13	その他業界の取り組み事例 (3)	主に以下について取り上げる ・飲料食品産業の構造 ・飲料食品市場の動向 ・メーカーのコンテンツ戦略等	予習: 事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習: 講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	14	その他業界の取り組み事例 (4)	主に以下について取り上げる ・レポート 4 ・「その他業界の取り組み事例」に関する質疑	予習: 事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習: 講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
	15	期末テストと総括	主に以下について取り上げる ・第 1-14 回のまとめ ・期末テスト	予習: 事前に配布した資料の空欄箇所について調べ穴埋めしておくこと。 復習: 講義終了時に科した課題について、講義内容を踏まえてまとめておくこと。次回、指名回答させる。 (学習時間目安予習 60 分、復習 30 分程度)
関連科目	ICT 概論、メディア戦略論 (いずれも経営学部経営情報学科の開講科目)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初回講義にて指定		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	テスト (60%)、レポート (40%) で評価する。 講義中の質疑内容についても加点する場合もあり。			
学生へのメッセージ	ウイルスの感染被害状況がどの程度のものになるか全く予想がつきませんが、おそらく健康不安を抱えたままの大学生活になることでしょう。そうした不安からくる負担を少しでも解消できるようこの授業では出来る限り策を講じて進めていきたいと思っています。そのためには受講生の協力も必要です。お互いに協力しあって進めていきましょう。			
担当者の研究室等	11 号館 7 階 (針尾教授室)			
備考	講義で取り扱う業界と実施回については、受講生の関心や情勢にあわせて変更する場合があります。			

科目名	ビジュアルデザイン論	科目名 (英文)	Visual Design
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井岡 詩子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3228a0		

授業概要・目的	この科目は「メディアビジネス」プログラム対応科目です。 商品のパッケージや広告、企業や行政によるポスター、SNS 上のプロモーションなど、わたしたちの身の回りにはビジュアルデザインが溢れています。これらの視覚情報は、見る者に対して直接的かつ簡潔にメッセージを伝えると同時に、 巧妙なイメージ操作によって人々の価値観にはたらきかけもします。ビジュアルデザインとは、真実や虚構、政治や欲望のないまぜになった複雑な領域なのです。この授業では、ビジュアルデザイン（視覚情報）を読み解くための理論と、おもに近代以降の視覚文			
到達目標	ビジュアルデザインをはじめとする作画的な視覚情報を批判的に見る力を養うとともに、視覚情報を言葉で説明できるようになることを目標とします。			
授業方法と留意点	基本的には講義形式ですが積極的な参加を求めます。履修人数によっては、短い口頭発表等の機会を設けます。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画				
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の概要と進め方について、ビジュアルデザインとは何か	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	2	ビジュアルデザインの構成と読解	イメージの原則（1）	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	3	ビジュアルデザインの構成と読解	イメージの原則（2）	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	4	ビジュアルデザインの構成と読解	記号学の基礎と考え方	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	5	ビジュアルデザインの構成と読解	ロラン・バルトの広告論	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	6	ビジュアルデザインの構成と読解	ポップ・アートと広告	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。小レポートに取り組む。(220 分)
	7	写真とデザイン	写真の誕生	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	8	写真とデザイン	芸術写真と報道写真（1）	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	9	写真とデザイン	芸術写真と報道写真（2）	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。小レポートに取り組む。(220 分)
	10	情報とデザイン	インフォグラフィックスの歴史と手法（1）	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分)
	11	情報とデザイン	インフォグラフィックスの歴史と手法（2）	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。小レポートに取り組む。(220 分)
12	自己／他者とデザイン	肖像画とイメージの起源	事前：Teams から資料をダウンロードする。(30 分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90 分) 事前：Moodle から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30 分)	

				事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分)
	13	自己／他者とデザイン	女性のセルフ・ポートレート	最事前：Teams から資料をダウンロードする。(30分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分) 事前：Moodle から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。(90分)
	14	自己／他者とデザイン	人間の身体とデザイン	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。小レポートに取り組む。(220分)
	15	総括	授業内容の振り返りと補足、小レポートへのフィードバック	事前：Teams から資料をダウンロードし、内容を確認する。(30分) 事後：授業の内容を復習し、アンケートに答える。 授業内で紹介したデジタルアーカイブ等の資料にアクセスする。自身の小レポートを見直す。(200分)
関連科目	他の「メディアビジネス」プログラム対応科目など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イメージと意味の本 記号を読み解くトレーニングブック	ショーン・ホール著、前田茂訳	フィルムアート社
	2	絵には何が描かれているのか 絵本から学ぶイメージとデザインの基本原則	モリー・バング著、細谷由依子訳	フィルムアート社
	3	インフォグラフィックスの潮流 情報と図解の近代史	永原康史著	誠文堂新光社
評価方法 (基準)	毎回、授業の内容に関するアンケートを実施し、理解度を測ります。また、各テーマの最後に小レポートを課します。成績評価の内訳は、アンケート 30%、小レポート 70%です。なお、出席数が 3 分の 2 に達するものを成績評価の対象とします。 ※11 月 5 日以降の対面授業では、出席カードで出席をとります。アンケートに回答しただけでは出席になりませんので注意してください。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	アンケートや小レポートに関する相談・質問等はメールにてご連絡下さい。			

科目名	地域環境論	科目名 (英文)	Regional Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2229a0		

授業概要・目的	環境問題はしばしばグローバルな問題として着目されますが、実際に私たちに影響を与える環境に関わる「問題」は、地域単位で現出します。そのため、環境問題について考えるためには、何よりも地域を知り、地域固有の文脈に沿った解決策を考えていくことが重要なステップとなります。本講義では、国内外のさまざまな地域の環境や環境問題等について学びます。また、地域の自然環境と深く関わって発生する自然災害も扱います。これらを学ぶことで幅広い教養を身につけ、多角的な視野を獲得することを目指します。 この科目は「国際教養」プ																																																																		
到達目標	1. 環境とは何か、環境問題とは何かについて具体例をもとに説明できる幅広い知識を身につける 2. 私達が暮らしている大阪・関西の特徴や身近に起こる災害について理解する 3. 多角的な視野で国内外の多様な環境や環境問題を把握することができる																																																																		
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題に対しては解説を行う。また、Moodle 等のオンラインツールを授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>2</td><td>環境を学ぶための基礎知識 1</td><td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>3</td><td>環境を学ぶための基礎知識 2</td><td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>4</td><td>環境を学ぶための基礎知識 3</td><td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>5</td><td>環境を学ぶための基礎知識 4</td><td>環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>6</td><td>環境と自然災害 1</td><td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>7</td><td>環境と自然災害 2</td><td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>8</td><td>環境と自然災害 3</td><td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>9</td><td>環境と自然災害 4</td><td>地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>10</td><td>地球環境問題 1</td><td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>11</td><td>地球環境問題 2</td><td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>12</td><td>地球環境問題 3</td><td>地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>13</td><td>身近な地域の環境 1</td><td>身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>14</td><td>身近な地域の環境 2</td><td>身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> <tr> <td>15</td><td>身近な地域の環境 3・授業のまとめ</td><td>全体のまとめ</td><td>環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	2	環境を学ぶための基礎知識 1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	3	環境を学ぶための基礎知識 2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	4	環境を学ぶための基礎知識 3	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	5	環境を学ぶための基礎知識 4	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	6	環境と自然災害 1	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	7	環境と自然災害 2	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	8	環境と自然災害 3	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	9	環境と自然災害 4	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	10	地球環境問題 1	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	11	地球環境問題 2	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	12	地球環境問題 3	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	13	身近な地域の環境 1	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	14	身近な地域の環境 2	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む	15	身近な地域の環境 3・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業の概要、目的、授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
2	環境を学ぶための基礎知識 1	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
3	環境を学ぶための基礎知識 2	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
4	環境を学ぶための基礎知識 3	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
5	環境を学ぶための基礎知識 4	環境を学ぶ上で必要な地形・気候・植生などに関する基礎知識を学ぶ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
6	環境と自然災害 1	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
7	環境と自然災害 2	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
8	環境と自然災害 3	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
9	環境と自然災害 4	地域の環境と密接に関わって発生する災害を知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
10	地球環境問題 1	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
11	地球環境問題 2	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
12	地球環境問題 3	地球温暖化や砂漠化といった世界の環境問題について知る	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
13	身近な地域の環境 1	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
14	身近な地域の環境 2	身近な地域の環境の特徴、人びとの暮らしと自然の関わり等について理解する	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
15	身近な地域の環境 3・授業のまとめ	全体のまとめ	環境に関わる情報を収集する；授業内で紹介した参考文献等を読む																																																																
関連科目	国際教養プログラム関連科目（暮らしの中の文化、多文化共生論等）																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、受講態度、議論やグループワークへの参加状況等）（60%）とレポート（40%）で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階（手代木研究室）																																																																		
備考	事前・事後の学習は、全体で 60 時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。																																																																		

科目名	暮らしの中の文化	科目名 (英文)	Cultures in Daily Life
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL2230a0		

授業概要・目的	【いかにイメージは「当たり前」を決めるのか】 西洋における「生活と芸術」の関係を考察する。ルネサンスの芸術というと「高級」な絵画や彫刻という印象が強く、意味が「難解」で理解しづらいと考える人は多い。しかし実際には多くの表現が、市井の人びとが日々生活していく時間に寄り添い、ときには人びとを厳しくしつけ、またあるときは人びとを癒やすように作用した。芸術作品と文字資料を対比することで浮かび上がるのは、かつて遠い異国の地に暮らした人びとが成長とともに向かい合った困難の記録である。その記録は、現代を生きるわた																																																														
到達目標	【以下の3点を自分の言葉で説明できるようになる】 1. 幼少期に触れる視覚イメージはいかに本人の成長と結びつくのか 2. 親子関係を表わす視覚イメージはいかに家族のかたちを整えていくのか 3. 結婚に関わる視覚イメージはいかに社会の制度を変えていくのか																																																														
授業方法と留意点	【講義をふまえて質問を考える】 1. 講義を受ける。 2. 講義後の制限時間内にMoodle経由で質問を入力する。 3. 講義前に配布のQ&Aシートを確認し、講義でフィードバックを受ける。 4. 校外実習を進める。																																																														
科目学習の効果 (資格)	西洋文化の精神性の理解 [学芸員資格]																																																														
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>授業概要の説明と視覚イメージの定義について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>家族</td><td>「家族関係」の概念を確認し、老いた父と若い母について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>対象</td><td>「対象関係」の概念を確認し、自分と他人について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>母親</td><td>「マリア」について確認し、母親と授乳について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>乳母</td><td>「モーセの母」について確認し、乳母と捨て子について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>男児</td><td>「洗礼者ヨハネ」について確認し、男児と教育について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>女兒</td><td>「聖女たち」について確認し、女兒と教育について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>親子</td><td>「アブラハムとイサク」について確認し、親子と服従について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>結婚</td><td>「マリアとヨゼフ」について確認し、結婚と嫉妬について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>両家</td><td>「侯爵とグリゼルダ」について確認し、両家と資産について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>夫婦</td><td>「ソロモンとシバの女王」について確認し、夫婦と会話について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>老年</td><td>「スザンナと長老」について確認し、老年と貞節について解説する。</td><td>事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>美術展鑑賞</td><td>指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。</td><td>事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマと作品の特徴について確認する (60分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120分)。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>美術展鑑賞</td><td>指定された美術展を鑑賞し、ワークシ</td><td>事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業概要の説明と視覚イメージの定義について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	2	家族	「家族関係」の概念を確認し、老いた父と若い母について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	3	対象	「対象関係」の概念を確認し、自分と他人について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	4	母親	「マリア」について確認し、母親と授乳について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	5	乳母	「モーセの母」について確認し、乳母と捨て子について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	6	男児	「洗礼者ヨハネ」について確認し、男児と教育について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	7	女兒	「聖女たち」について確認し、女兒と教育について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	8	親子	「アブラハムとイサク」について確認し、親子と服従について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	9	結婚	「マリアとヨゼフ」について確認し、結婚と嫉妬について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	10	両家	「侯爵とグリゼルダ」について確認し、両家と資産について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	11	夫婦	「ソロモンとシバの女王」について確認し、夫婦と会話について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	12	老年	「スザンナと長老」について確認し、老年と貞節について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。	13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマと作品の特徴について確認する (60分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120分)。	14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシ	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																												
1	導入	授業概要の説明と視覚イメージの定義について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
2	家族	「家族関係」の概念を確認し、老いた父と若い母について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
3	対象	「対象関係」の概念を確認し、自分と他人について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
4	母親	「マリア」について確認し、母親と授乳について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
5	乳母	「モーセの母」について確認し、乳母と捨て子について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
6	男児	「洗礼者ヨハネ」について確認し、男児と教育について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
7	女兒	「聖女たち」について確認し、女兒と教育について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
8	親子	「アブラハムとイサク」について確認し、親子と服従について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
9	結婚	「マリアとヨゼフ」について確認し、結婚と嫉妬について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
10	両家	「侯爵とグリゼルダ」について確認し、両家と資産について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
11	夫婦	「ソロモンとシバの女王」について確認し、夫婦と会話について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
12	老年	「スザンナと長老」について確認し、老年と貞節について解説する。	事前:Moodleから資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90分)。 事後:自分の質問に自分で応答を試みる (90分)。																																																												
13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に回答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマと作品の特徴について確認する (60分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に回答する (120分)。																																																												
14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシ	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマ																																																												

			ト上の設問に応答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	と作品の特徴について確認する（60 分）。 事後：実地の経験をふまえつつ、関連情報も参照しながらワークシート上の設問に応答する（120 分）。																
	15	総括	実習課題の振り返りと授業を総括する。	事前：Moodle から資料をダウンロードする。前回質問への応答内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する（90 分）。 事後：自分の家族観を構成したと思われる視覚イメージを振り返りつつ、あらためて当該イメージを再鑑賞する（240 分?）																
関連科目	芸能文化論／芸術論																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>もうひとつのルネサンス</td><td>岡田温司</td><td>平凡社ライブラリー</td></tr><tr><td>2</td><td>家族論</td><td>レオン・パッティスタ・アルベルティ</td><td>講談社</td></tr><tr><td>3</td><td>ルネサンスの聖史劇</td><td>杉山博昭</td><td>中央公論新社</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	もうひとつのルネサンス	岡田温司	平凡社ライブラリー	2	家族論	レオン・パッティスタ・アルベルティ	講談社	3	ルネサンスの聖史劇	杉山博昭	中央公論新社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	もうひとつのルネサンス	岡田温司	平凡社ライブラリー																	
2	家族論	レオン・パッティスタ・アルベルティ	講談社																	
3	ルネサンスの聖史劇	杉山博昭	中央公論新社																	
評価方法 （基準）	【質問内容によって評価される】 1. 毎回の質問内容 [80%] 2. ワークシートの内容 [20%] 3. いずれも、基準は「好奇心」と「論理性」の多寡である。																			
学生への メッセージ	【より良い質問をめざす】 1. より良い質問をするために、講義に集中できるコンディションを整える。 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず進める。																			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 杉山研究室																			
備考	【自分の質問に自分で応答する】 1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。 2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの質問に応答を試みる。																			

科目名	グローバル社会と日本	科目名 (英文)	Japan and Globalization
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3231a0		

授業概要・目的	この科目は国際教養プログラム対応科目であり、グローバル社会と日本のつながりを歴史的に考えることを目的とする。具体的には 16 世紀の、鉄砲伝来とキリスト教伝来に象徴されるヨーロッパとの出会いを検討する。日本と欧米、両文化のファーストコンタクトを学ぶことは、中国やイスラーム圏も含めたさらに広い世界の認識にもつながる。先行きの見えない現在だからこそ、グローバル化の原点にさかのぼって日本と世界の出会いを理解することが意味をもつ。																																																																		
到達目標	学んだことを、結論・理由・具体例に分けて簡潔に説明できるようにする。																																																																		
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下 3 点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	世界との出会いを知ると同時に、日本についての理解も深まる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>歴史を学ぶにあたって (1)</td><td>授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す</td><td>必ず出席するよう予定を調整する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>歴史を学ぶにあたって (2)</td><td>成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>歴史を学ぶにあたって (3)</td><td>論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>それは 16 世紀に (1)</td><td>グローバル化が本格的に始まった時代</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>それは 16 世紀に (2)</td><td>日本とヨーロッパは似ていた</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>それは 16 世紀に (3)</td><td>接点は戦争と宗教</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>戦争と出会い (1)</td><td>「西洋は進んでいて東洋は遅れている」という思い込み</td><td>同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>戦争と出会い (2)</td><td>鉄砲に日本史を変えるほどの力はなかった</td><td>同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>戦争と出会い (3)</td><td>飛び道具を憎んだ西洋騎士、飛び道具を愛した日本武士</td><td>同上の課題に加えて小レポート。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>戦争と出会い (4)</td><td>鉄砲の起源は東洋</td><td>最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>宗教と出会い (1)</td><td>キリスト教伝来の交流史</td><td>最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>宗教と出会い (2)</td><td>ザビエルをアシストした日本人</td><td>最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>宗教と出会い (3)</td><td>西洋的教育機関に留学した最初の日本人</td><td>最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>宗教と出会い (4)</td><td>ザビエルを日本に運んだのは中国の船</td><td>最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>宗教と出会い (5)</td><td>布教は慈善事業やファッションとも結びついていた</td><td>最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	歴史を学ぶにあたって (1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。	2	歴史を学ぶにあたって (2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	3	歴史を学ぶにあたって (3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	4	それは 16 世紀に (1)	グローバル化が本格的に始まった時代	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	5	それは 16 世紀に (2)	日本とヨーロッパは似ていた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	6	それは 16 世紀に (3)	接点は戦争と宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	7	戦争と出会い (1)	「西洋は進んでいて東洋は遅れている」という思い込み	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	8	戦争と出会い (2)	鉄砲に日本史を変えるほどの力はなかった	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	9	戦争と出会い (3)	飛び道具を憎んだ西洋騎士、飛び道具を愛した日本武士	同上の課題に加えて小レポート。	10	戦争と出会い (4)	鉄砲の起源は東洋	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	11	宗教と出会い (1)	キリスト教伝来の交流史	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	12	宗教と出会い (2)	ザビエルをアシストした日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	13	宗教と出会い (3)	西洋的教育機関に留学した最初の日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	14	宗教と出会い (4)	ザビエルを日本に運んだのは中国の船	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	15	宗教と出会い (5)	布教は慈善事業やファッションとも結びついていた	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	歴史を学ぶにあたって (1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。																																																																
2	歴史を学ぶにあたって (2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
3	歴史を学ぶにあたって (3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
4	それは 16 世紀に (1)	グローバル化が本格的に始まった時代	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
5	それは 16 世紀に (2)	日本とヨーロッパは似ていた	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
6	それは 16 世紀に (3)	接点は戦争と宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
7	戦争と出会い (1)	「西洋は進んでいて東洋は遅れている」という思い込み	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。																																																																
8	戦争と出会い (2)	鉄砲に日本史を変えるほどの力はなかった	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。																																																																
9	戦争と出会い (3)	飛び道具を憎んだ西洋騎士、飛び道具を愛した日本武士	同上の課題に加えて小レポート。																																																																
10	戦争と出会い (4)	鉄砲の起源は東洋	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
11	宗教と出会い (1)	キリスト教伝来の交流史	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
12	宗教と出会い (2)	ザビエルをアシストした日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
13	宗教と出会い (3)	西洋的教育機関に留学した最初の日本人	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
14	宗教と出会い (4)	ザビエルを日本に運んだのは中国の船	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
15	宗教と出会い (5)	布教は慈善事業やファッションとも結びついていた	最授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
関連科目	世界の宗教																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	ポイントは以下 3 点。 第 1 に暗記は必要ない。テストも論述 1 題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第 2 に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対はない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト (40 点)、②レポート (30 点)、③レスポンスペーパー (30 点+α)。第 3 に 60 点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイ																																																																		
学生へのメッセージ	日本と世界の出会いを歴史的に読み解いていくと、「すべては表裏一体」ということに気づきます。実は、このことは授業そのものにも当てはまります。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3 つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠か																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	コミュニケーションは基本的に毎回授業のレスポンス・ペーパーで行います。緊急の場合は非常勤講師控室 (7 号館 2 階) を訪ねてください。																																																																		

科目名	共同体論	科目名 (英文)	Theory of Community
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3232a0		

授業概要・目的	この授業では様々な共同体のあり方を検討するために、ハプスブルク家の支配地域を題材とする。中世後期から第一次世界大戦までに多様な地域を支配したハプスブルク家の所領は、現在では、オーストリア、ハンガリー、スペイン、ベルギー、チェコ、スロヴァキアなどに相当し、言語、文化、法など様々な地域を内包している。このハプスブルク家の歴史を通して、中世都市内の共同体、近世の政治的共同体と宗派による共同体、近代国家における少数民族のための共同体、さらにヨーロッパ連合など多様な共同体のあり方や、共同体間の繋がり、そして共同体とそ
到達目標	共同体を、個人や地域・国家とのかかわり、さらにトランスナショナルなかかわりの中で多層的にとらえる視点を身につける。また、さまざまな共同体の仕組みを説明できる。
授業方法と留意点	Teams を通してパワーポイントを用いて授業をおこなう（オンライン）。Teams に資料を配布する。
科目学習の効果（資格）	グローバル社会のなかで共同体（コミュニティ）がもつ意味について広く学ぶことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	共同体（コミュニティ）についての考察	授業の概要説明をおこなった後、多文化主義の観点から「共同体がもつ意味」について考える。	「共同体」という言葉から連想する事柄を列挙して くる。ハプスブルクと聞いて思いつくものを確認する。
	2	ハプスブルク家の支配	・ハプスブルク家の歴史の概要	ハプスブルク家の人物について調べる。
	3	ハプスブルク家の拡大	・ハプスブルク家の支配領域の拡大 ・地域の自立性と国家的統合 ・国家間の紐帯	神聖ローマ皇帝カール 5 世について調べてくる。地図で所領を確認する。
	4	近世前半のオーストリア（宗派対立）	・ヨーロッパの宗派対立 ・オーストリアでの宗派争い	カトリックとプロテスタントの違いについて調べてくる。
	5	近世前半のネーデルラント（統一と分離）	・都市・領邦の自治とネーデルラントの統一 ・ネーデルラントの反乱と南北分離	オランダ独立戦争について調べてくる。カルヴァン派とイエズス会について調べてくる。
	6	近世前半のスペイン	・スペインにおける集権化 ・異端審問	フェリペ 2 世について調べてくる。スペインにおけるユダヤ人とイスラームについて確認する。
	7	近世後半の概要と啓蒙について	・17 世紀初めにおける所領の変化 ・近世の社団と啓蒙思想	これまでの授業のポイントを整理する。啓蒙という言葉について調べてくる。
	8	マリア・テレジア（1）	・マリア・テレジアの即位 ・マリア・テレジアの啓蒙に対する態度	オーストリア継承戦争とマリア・テレジアについて調べてくる。
	9	マリア・テレジア（2）	・マリア・テレジアの啓蒙改革 ・農村や教育への国家介入	啓蒙改革の一つの「脱宗教化」について、この時代宗教の影響が強かったと思われるものを書きだす。
	10	ヨーゼフ 2 世（1）	・ヨーゼフ 2 世の改革 ・集権化と地方自治 ・自由と保護	ヨーゼフ 2 世について調べてくる。
	11	ヨーゼフ 2 世（2）	・ヨーゼフ 2 世の改革 ・民族運動	ハンガリーの歴史について調べてくる。
	12	アウスグライヒ（1）	・フランツ・ヨーゼフの改革 ・オーストリアとハンガリー	フランツ・ヨーゼフについて調べてくる。民族の定義について考える。
	13	アウスグライヒ（2）	・多民族国家における試み	・サラエボ事件について調べてくる。
	14	ポスト・ハプスブルク	・現代社会における公用語の問題 ・国家におけるマイノリティ	・チェコとスロヴァキアの歴史について調べる。
	15	総括	・ハプスブルク家の支配のまとめと共同体について	これまでの授業を振り返り、論点をまとめる。

関連科目	社会文化史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ハプスブルク史研究入門	大津留厚ほか	昭和堂
	2	ハプスブルクの実験	大津留厚	春風社
	3			

評価方法（基準）	授業中に課す課題（20%）、期末レポート（80%）
----------	---------------------------

学生へのメッセージ	ハプスブルク家はヨーロッパにおいて広大な領域を支配しました。その領域は、バラバラの文化や政治体制があり、最終的にはそうした伝統が維持され、今では様々な国ができています。そうしたできた国では、連邦制であったり、公用語が複数あったりと、さらに国内の地域に高い自立性が認められているケースが多いです。こうした多様性があり、多層な共同体がくっついたり、離れたたりすることはどういうことなのかを、ハプスブルク家の歴史を通して考えていきます。
-----------	---

担当者の研究室等	初回の授業でお知らせする。
----------	---------------

備考	事前、事後学習に要する総時間は約 60 時間である。 フィードバックは、適宜、授業資料に組み込んで実施する。
----	---

科目名	多文化共生論	科目名 (英文)	Multiculturalism
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LDL3233a0		

授業概要・目的	人類は共同生活をおくる集団の中で進化してきたといわれる。にもかかわらず、他の人と共に生きることは必ずしも容易ではなく、しばしば苦痛をともなう。共生することはどうして難しいのだろうか。その困難を克服する道はないのだろうか。 この授業では、主に「暴力」をキーワードに、社会科学によるさまざまな知見を学びつつ、人と人とが共生することの難しさを考える。また、現代社会において残存する暴力の具体的事例について向き合い、克服に向けて努力する方途について考える力を身に付ける。 ※本授業は、「国際教養」プログラム
到達目標	社会科学における暴力の説明方法について理解し、その知識を具体的事例の解釈に応用することができる。また、既往の知見について批判的に考える力も身に付ける。
授業方法と留意点	講義を聴いて既往研究の知見を理解し、小課題を通じて応用力と批判的思考を養う。学期末に関連テーマのレポートを提出する。
科目学習の効果 (資格)	共生、暴力、道徳、理性といった概念について議論するための一つのフレームワークを習得することができる。もちろんこれは万能ではなく、欠陥もあるはずである。しかし、今後の生活の中でそれを磨き上げたり、場合によっては別のものと取り換えたりしつつ、自分なりの共生観を育んでゆくための契機を得られるだろう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	そもそも共生とは？	多文化共生についてどのようにアプローチすればよいか、この授業の基本的立場を理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	2	世界の真理を求めて：近代啓蒙主義	近代啓蒙主義の基本的なスタンスについて学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	3	文化は客観的に記述できない？：啓蒙主義批判	啓蒙主義がもたらしたとされる暴力と啓蒙主義への批判的立場について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	4	自然主義的アプローチへの紹介	人と社会を捉える方法としての自然主義的アプローチについて学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	5	ヒトの進化の歴史	ヒトの進化の歴史に関する基本的知識について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	6	暴力の諸起源 (1)	ヒトはなぜ暴力を行使するのか。その起源と考えられている諸事項について理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	7	暴力の諸起源 (2)	ヒトはなぜ暴力を行使するのか。その起源と考えられている諸事項について理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	8	暴力の諸起源 (3)	ヒトはなぜ暴力を行使するのか。その起源と考えられている諸事項について理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	9	道徳の諸起源 (1)	道徳の進化的起源についての仮説について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	10	道徳の諸起源 (2)	道徳の進化的起源についての仮説について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	11	道徳の諸起源 (3)	道徳の進化的起源についての仮説について学ぶ。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	12	人類における知能の発達	知能の発達についての研究成果について知り、暴力との関係について考える。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	13	理性の効力	理性が暴力の減少にいかに関与したかについて考える。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	14	信頼とはなにか：社会が変われば行いも変わる	信頼についての研究成果をもとに社会の慣習や諸制度の役割の重要性について理解する。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。
	15	変革はどのようにして生まれるのか	イノベーションと社会的学習に関する研究の知見を参考に、暴力を減少させる社会変革の可能性について考える。	講義内容についての資料やノートを見直し、復習する (事後学習)。

関連科目	「暮らしの中の文化」「グローバル社会と日本」「共同体論」など
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暴力の人類史 上・下	ピンカー、S.	青土社
	2	文化進化論	メスーディ、A.	NTT 出版
	3			

評価方法 (基準)	最終レポート 70%、授業への取り組み (課題、コメント・質疑) 30%
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	コメントシートやレポートへのフィードバック (提出物へのコメントや質問への回答) は、基本的に授業時間内に行う。それが困難な場合にはオ
----	---

	フィスアワーに教員の研究室、またはメールにて行う。 事前・事後学習は 60 時間を目安とする。
--	--

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド, 高橋 真理子, 森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や、考え方を身につける。研究とはどのようなものであるのかを知り、またその面白さを実感する。			
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。			
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、１クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画				
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目	1～4 年次の各ゼミ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11 号館 11 階（9 月 11 日～10 月第 1 週） 7 号館 3 階（10 月第 2 週以降）			
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。			
	【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フーバー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハキ dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qhx64c 、鳥居・齋藤・フーバー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハキ・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdyily 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フーバー・森・高橋 fz			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	このゼミでは、日常生活レベルの草の根的な視点や文化人類学的フィールドワークの手法を生かしながら、衣・食・住だけでなく、観光、アウトドア、映画、怪異、音楽、宗教、コスプレ、ゲーム、美容、あるいは仕事などを、その日常の視線を活かして考え、国内外の多様なひとの暮らしに関わる多様なテーマを学んでいきます。
到達目標	草の根的な視点からの他者理解が出来る。 学術的な研究手法および研究成果公開の基礎を習得する。
授業方法と留意点	現代社会の社会文化動態に関する学術書の購読のほか、博物館見学やかんたんなフィールドワークなどを行う。博物館見学やフィールドワークについては、所定の授業日とは異なる日程で振り替えて実施する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ゼミの流れについて概観する。あわせて「草の根の視点 (grass-roots perspective)」、「フィールドワーク (fieldwork)」、「参与観察 (participate observation)」など、本ゼミの基礎となる学術的な概念を学ぶ。文献購読に関する各回の担当を決める。	事前に、自分が関心をもつテーマについて、400 字程度でまとめておく。 事後に、授業内でまなんだ学術的な概念を活かして再度自分が関心をもつテーマについて考えてみる。
	2	博物館見学 (1)	国立民族学博物館に訪問し、常設展示を主たる対象として、担当教員が設定した課題とともに、各学生が設定したテーマにしたがって、人々の生活にかかわる物質文化を学ぶ。	事前に、物質文化に関する自分の関心をまとめる。 事後に、小レポートを作成・提出する。
	3	博物館見学 (2)	国立民族学博物館に訪問し、常設展示を主たる対象として、人々の生活にかかわる物質文化を学ぶ。	事前に、物質文化に関する自分の関心をまとめる。 事後に、小レポートを作成・提出する。
	4	物質文化に関するディスカッション	博物館見学におけるきづきや発見をそれぞれ発表し、ディスカッションする。ディスカッションの内容から発展的に学術的な概念や視座を学ぶ。	事前に、見学時のメモを整理する。 事後に、学習内容を復習する。
	5	文献購読 (1)	社会／文化に関する学術書を購読する。受講生は、担当章に関してレジュメを準備し、発表する。	事前に、文献の該当章を読んでおく。 事後に、学習内容を復習する。
	6	文献購読 (2)	社会／文化に関する学術書を購読する。受講生は、担当章に関してレジュメを準備し、発表する。	事前に、文献の該当章を読んでおく。 事後に、学習内容を復習する。
	7	文献購読 (3)	社会／文化に関する学術書を購読する。受講生は、担当章に関してレジュメを準備し、発表する。	事前に、文献の該当章を読んでおく。 事後に、学習内容を復習する。
	8	文献購読 (4)	社会／文化に関する学術書を購読する。受講生は、担当章に関してレジュメを準備し、発表する。	事前に、文献の該当章を読んでおく。 事後に、学習内容を復習する。
	9	文献購読 (5)	社会／文化に関する学術書を購読する。受講生は、担当章に関してレジュメを準備し、発表する。	事前に、文献の該当章を読んでおく。 事後に、学習内容を復習する。
	10	都市の伝統文化をフィールドワーク (1)	観光や、伝統文化の継承、文化実践などに関する複合的な視点からフィールドワークを実施するための、基礎的な手法や知識を学習する。	事前に、教科書の該当箇所を読む。 事後に、学習内容を復習する。
	11	都市の伝統文化をフィールドワーク (2)	観光や、伝統文化の継承、文化実践などに関する複合的な視点からフィールドワークを実施する。	事前に、対象とする都市についての概要を調べる。 事後に、フィールドワークで得られた知識や気づきについて整理する。
	12	都市の伝統文化をフィールドワーク (3)	観光や、伝統文化の継承、文化実践などに関する複合的な視点からフィールドワークを実施する。	事前に、フィールドワークで得られた知識や気づきに関する追加的な情報を調べる。 事後に、フィールドワークで得られたさらなる知識や気づきについて整理する。
	13	都市の伝統文化をフィールドワーク (3)	観光や、伝統文化の継承、文化実践などに関する複合的な視点からフィールドワークを実施する。	事前に、フィールドワークで得られた知事前に、フィールドワークで得られた知識や気づきに関する追加的な情報を調べる。 事後に、フィールドワークで得られたさらなる知識や気づきについて整理し、小レポートを提出する。
	14	フィールドワークに関するディスカッション	フィールドワークにおいて得られた気づきについて、具体的な事例とともにディスカッションする。 各受講生はそれぞれのテーマについて再検討する。	事前に、フィールドワークで得られた気づきや具体的な事例を整理する。 事後に、自分が関心をもつテーマについて発展的に考えてみる。
	15	振り返り学習	前期の取組で得られた内容を振り返り学習する。後期に向けて、各受講生がテーマを発表する。	事前に、テーマをまとめる。 事後に、設定したテーマに関連する文献を検索し一覧表とする。
関連科目	文化演習 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	『7袋のポテトチップス：食べるを語る、胃袋の戦後史』	湯澤規子	昌文社
	2	『フィールドワーカーズ・ハンドブック』	日本文化人類学会（編）	世界思想社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	課題提出 60%、平常点 40% 「課題」は、小レポート提出のほか、文献購読の担当などを含みます。 「平常点」は、博物館見学やフィールドワークへの主体的な参加などを含みます。			
学生への メッセージ	このゼミの学術ベースは「文化人類学」です。 先入観にとらわれず、多角的にモノやコトを捉え、あらたな発見を目指しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階金子研究室 なお、7号館の耐震補強工事のため、2021年4月から9月末までは、11号館11階スカイラウンジに仮の研究室がある。			
備考	フィールドワークをどこで行うかについては、初回に受講生を交えて検討する。			

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	ことばを使って何かを伝えたい、あるいは何かをしたいとき、我々はその目的にあった表現を使う。その目的が達せられれば、使ったことばは「機能している」と言えるだろう。本ゼミでは、この「機能」をキーワードとして、言語使用の舞台裏（我々の意識・心的状態、言語が使用される状況、および社会など）で何が起きているか／起こり得るかを考える。 3 年次は、前後期をとおして M. A. K. Halliday (ハリデー) が提唱する言語理論（選択体系機能言語学 Systemic Functional Linguistics という）
到達目標	1. 言語の機能について用例とともに具体的に説明することができる。 2. 日本語や英語における節の文法構造を機能的に分析することができる。 3. 言語に関する身近な例に関心を持ち、そこに畳み込まれたことばの意味・機能について分析的に読み取ることができる。 4. 選択体系機能言語学の主要な概念や用語について理解し、それらを用いて授業で取りあげられたトピックについて他の受講生らと議論することができる。
授業方法と留意点	授業は毎回担当者を決め、教科書に沿って担当者が決められた範囲に関する内容を発表を発表し、それをもとにクラスでディスカッションを行う。学生が主体であるため、積極的に参加することが求められる。
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (外国語), TOEIC 等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	これからこのゼミで学ぶ「言語の機能的分析」について概要を見る。また、ゼミ発表の担当を決める。	教科書の目次をよく読み、全体の構成を理解しておく。(2 時間)
	2	言語の機能的分析とは①	機能的ではない分析法との違いを明確にし、機能的分析によって明らかになることを知る。	ことばが機能するとはどういうことか自分なりに考えておく。
	3	言語の機能的分析とは②	選択体系機能言語学というアプローチの基本的な考え方について考える。	日常的にも「ことばを選んで言う」という言い方があるが、その選択とは具体的にどのようにして可能かを考えておく。
	4	言語の機能的分析とは③	文法が分析できるようになることで、いったいどのような目的が達せられるのかを考える。	自分が大学で学ぶことの目的と照らしあわせ、それにことばがどのように関係 (寄与) するか整理し、議論できるようにしておく。
	5	言語の分析単位①	節と文の違いについて考える。	国語や英語で学んだ節と文という概念を調べておく。
	6	言語の分析単位②	語と群の構造を詳細に分析し、それらはどのようにして節構造に組み込まれるのかを具体的にみる。	語とは何か、また、教科書で説明されている群は国語で学ぶ「文節」とどこが同じ／違うのかを考えておく。
	7	言語の分析単位③	節をつくりあげる要素の階層性 (構成関係) について議論する。	教科書で取りあげられている英語の単純な節を自分で分析しておく。
	8	名詞群①	"referring expression" と呼ばれる概念の基本的な性格について理解する。	「ことばで対象を指し示す」ことによって伝わる意味とは何かを考える。
	9	名詞群②	英語の「名詞群」という単位の構成要素を理解する。	単位は「まとまり」である以上、まとめあげる中核的な要素がある。それを主要部と呼ぶが、その主要部はどのようにして見つけばよいか議論できるように自分の考えをまとめておく。
	10	名詞群③	英語の名詞群の分析演習を行う。	自分が分析してみたいテキストを見つけ、用意しておく。
	11	意味の記述法	選択体系網という考え方を導入し、表そうとする意味を言語表現として形づくるまでのプロセスを概観する。	意味の選択という概念について、第 3 回の授業を見直し、もういちど自分の理解を整理しておく。
	12	ことばの経験的機能とその分析法①	ことばの経験的意味とは、というテーマについて英語や日本語の具体例を用いながら議論し、理解を深める。	ことばによって伝わる内容とは？簡単な例を使って書けるだけ書きとめ、授業での議論に備える。
	13	ことばの経験的機能とその分析法②	経験的意味をまとまりのある内容とするために必要な要素 (過程中心部、参与役割、状況役割) を区別できるようになる。	過程中心部、参与役割、状況役割という 3 つの概念を調べておく。インターネット等を調べてもよい。
	14	ことばの経験的機能とその分析法③	経験的意味に分類される意味の諸相について考え、この概念がカバーする「意味のタイプ」を整理する。	時制、態などは過程構成とどうかわかるか調べておく。
	15	まとめ	これまで学んだ内容を振り返り、全体像を見つめる。	これまでのノートや成果を見直す。

関連科目	英語学, 言語学, 英語意味論・語用論
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Analysing English Grammar: A Systemic Functional Introduction (ペーパーバック)	Lise Fontaine	Cambridge University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	ゼミ発表, 準備資料, 課題・提出物等 (60%) レポート (40%)
学生への メッセージ	ことばはあまりに身近な存在であるがゆえに, 問題意識をもつことが存外難しいものである。身の回りにあふれかえることばを少し立ち止まって深く追究する姿勢を身につけてほしい。そして, 授業では分からないことを分からないままにせず, 納得できるまでとことん調べ, 話し合うことが重要である。
担当者の 研究室等	
備考	事前事後学修時間数の目安は60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	文化・歴史・国際関係など多様な視点から「コリア」（韓国・朝鮮・海外コリアンなど）を研究し深く理解していくことを目的とする。個人研究・共同研究という二つの側面から進めていく。 1) 個人研究 卒業研究のための基礎力を養成する。先行研究のリサーチ方法、資料・データ収集の方法論、論理構成の仕方と表現方法を授業で学び、自身で設定した課題の進捗と授業での発表を通して研究力を身につける。個人研究の最終的なベクトルの方向は卒業研究（卒業論文の完成）である。 2) 共同研究 本授業のメンバー（ゼミ生）全員で一																																																																		
到達目標	1) 個人研究について ①自分で設定した研究課題について、先行研究の検討・データの収集と分析・論理の構築ができるようになる。 ②研究の中間発表（研究課題の進捗状況についてのプレゼンテーション）ができるようになる。 2) 共同研究 ①研究課題について、チームワークで作業し、討論し、考察を深めていくということができるようになる。 ②研究の方法論・チームワーク力・交渉力・プレゼン力・発信力などを総合的に成長させる。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は「個人研究」「共同研究」という 2 つの柱で成り立っている。 この二つは全く別々のものではなく、相互関連している。したがって、並行して行っていくことによって、学習力・研究力養成の相乗効果が期待できる。 また、「個人研究」「共同研究」とも、ゲストの招請や他大学との合同ゼミでの発表、フィールドワークなどの機会を盛り込みながら進める。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> 本授業は以下の 2 つの柱で成り立っている。この 2 つを並行して行う。 1) 個人研究 最終的な目標は卒業研究（卒業論文の完成）である。そのための基礎的な力を本授業で養成する。 2) 共同研究 ゼミ全体で一つの研究課題を打ち立て、チームワークで課題に取り組んでいく。 </td><td> 1) 個人研究 ①研究のための基礎知識を得るため、「文献読解→要約発表」というプロセスを反復する。 ②研究のための基礎的なスキル（先行研究のリサーチ、資料の収集と分析、論理の構成、文章作成、研究に必要な語学力など）を養成する。 2) 共同研究 4 月～5 月中旬：議論を積み重ねて研究テーマを決める。 5 月中旬～6 月下旬：研究遂行のための役割を決め、同時に基礎文献を収集などを通して、メンバー内の知識・問題意識の共有を図る。 ・6 月下旬～7 月：具体的な方法論を議論し、研究を始めてみる。 </td><td> 1) 個人研究 ①文献の読解と要約発表の準備 ②課題の復習 2) 共同研究 研究課題の進捗状況をチェックしながら、自分の役割を明確化して作業の準備をしておく。 </td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	本授業は以下の 2 つの柱で成り立っている。この 2 つを並行して行う。 1) 個人研究 最終的な目標は卒業研究（卒業論文の完成）である。そのための基礎的な力を本授業で養成する。 2) 共同研究 ゼミ全体で一つの研究課題を打ち立て、チームワークで課題に取り組んでいく。	1) 個人研究 ①研究のための基礎知識を得るため、「文献読解→要約発表」というプロセスを反復する。 ②研究のための基礎的なスキル（先行研究のリサーチ、資料の収集と分析、論理の構成、文章作成、研究に必要な語学力など）を養成する。 2) 共同研究 4 月～5 月中旬：議論を積み重ねて研究テーマを決める。 5 月中旬～6 月下旬：研究遂行のための役割を決め、同時に基礎文献を収集などを通して、メンバー内の知識・問題意識の共有を図る。 ・6 月下旬～7 月：具体的な方法論を議論し、研究を始めてみる。	1) 個人研究 ①文献の読解と要約発表の準備 ②課題の復習 2) 共同研究 研究課題の進捗状況をチェックしながら、自分の役割を明確化して作業の準備をしておく。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	本授業は以下の 2 つの柱で成り立っている。この 2 つを並行して行う。 1) 個人研究 最終的な目標は卒業研究（卒業論文の完成）である。そのための基礎的な力を本授業で養成する。 2) 共同研究 ゼミ全体で一つの研究課題を打ち立て、チームワークで課題に取り組んでいく。	1) 個人研究 ①研究のための基礎知識を得るため、「文献読解→要約発表」というプロセスを反復する。 ②研究のための基礎的なスキル（先行研究のリサーチ、資料の収集と分析、論理の構成、文章作成、研究に必要な語学力など）を養成する。 2) 共同研究 4 月～5 月中旬：議論を積み重ねて研究テーマを決める。 5 月中旬～6 月下旬：研究遂行のための役割を決め、同時に基礎文献を収集などを通して、メンバー内の知識・問題意識の共有を図る。 ・6 月下旬～7 月：具体的な方法論を議論し、研究を始めてみる。	1) 個人研究 ①文献の読解と要約発表の準備 ②課題の復習 2) 共同研究 研究課題の進捗状況をチェックしながら、自分の役割を明確化して作業の準備をしておく。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	文化演習 II、卒業研究 I、卒業研究 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>現代韓国を知るための 60 章【第 2 版】</td><td>石坂浩一・福島みのり編</td><td>明石書店</td></tr> <tr><td>2</td><td>新版 北朝鮮入門</td><td>磯崎敦仁・澤田克己</td><td>東洋経済新報社</td></tr> <tr><td>3</td><td>新版 論文の教室 レポートから卒論まで</td><td>戸田山和久</td><td>NHK 出版</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代韓国を知るための 60 章【第 2 版】	石坂浩一・福島みのり編	明石書店	2	新版 北朝鮮入門	磯崎敦仁・澤田克己	東洋経済新報社	3	新版 論文の教室 レポートから卒論まで	戸田山和久	NHK 出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	現代韓国を知るための 60 章【第 2 版】	石坂浩一・福島みのり編	明石書店																																																																
2	新版 北朝鮮入門	磯崎敦仁・澤田克己	東洋経済新報社																																																																
3	新版 論文の教室 レポートから卒論まで	戸田山和久	NHK 出版																																																																
評価方法（基準）	共同研究への参与度：50% 発表および小レポート：25% 期末レポート：25%																																																																		
学生へのメッセージ	・教員（森）は指導役を務めるが、研究を通して教員・ゼミ生がともに学び成長する姿勢を大事にしたい。 ・授業は対面とする。ただし、受講生と教員のやりとり、レジュメや資料の保存・共有などのために Teams も使用する。Teams への登録をするこ																																																																		

	と。
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 森研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	・予習復習の総学修時間数は 60 時間とする。 ・課題等のフィードバックは授業中に行う。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	このゼミでは、日常生活レベルの草の根的な視点や文化人類学的フィールドワークの手法を生かしながら、衣・食・住だけでなく、観光、アウトドア、映画、怪異、音楽、宗教、コスプレ、ゲーム、美容、あるいは仕事などを、その日常の視線を活かして考え、国内外の多様なひとの暮らしに関わる多様なテーマを学んでいきます。																																																																		
到達目標	草の根的な視点からの他者理解が出来る。 学術的な研究手法および研究成果公開の基礎を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	現代社会の社会文化動態に関する学術論文の購読、博物館の特別展見学のほか、各受講生のテーマにそった個人発表を行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>前期の内容を振り返り、後期の進め方について概説する。「文化人類学」的な研究手法について、発展的に学ぶ。</td><td>事前に、自分が関心をもつより具体的なテーマをまとめておく。 事後に、授業内でまなんだ学術的な研究手法を復習する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>論文購読（1）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>論文購読（2）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>論文購読（3）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>論文購読（4）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>論文購読（5）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>博物館見学（1）</td><td>国立民族学博物館の特別展を見学する。</td><td>事前に、特別展のテーマやそれに関連する学術的な内容について調べる。 事後に、特別展を通じて得られた知識や気づきについて整理する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>博物館見学（2）</td><td>国立民族学博物館の特別展を見学する。 特別展の内容について、全体でディスカッションをし、ディスカッションの内容に基づいて学術的な視点や分析手法について発展的に学ぶ。</td><td>事前に、特別展のテーマやそれに関連する学術的な内容について調べる。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>受講生のテーマに基づく個別発表（1）</td><td>受講生が設定した個別テーマに関して、研究の進捗状況を発表する。</td><td>事前に、個別テーマに関して研究の進捗状況レポートをまとめる。 事後に、フィードバックを元に今後の進め方を再検討する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>受講生のテーマに基づく個別発表（2）</td><td>受講生が設定した個別テーマに関して、研究の進捗状況を発表する。</td><td>事前に、個別テーマに関して研究の進捗状況レポートをまとめる。 事後に、フィードバックを元に今後の進め方を再検討する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>論文購読（6）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論文購読（7）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論文購読（8）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>論文購読（9）</td><td>社会／文化に関する学術論文を購読する。</td><td>事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>振り返り学習・卒業研究の仮テーマ発表</td><td>後期の取組で得られた内容を振り返り学習する。次年度の卒業研究に向けて、各受講生がテーマを発表する。</td><td>事前に、テーマをまとめる。 事後に、フィードバックに基づき、テーマに関する今後の取組内容を整理する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	前期の内容を振り返り、後期の進め方について概説する。「文化人類学」的な研究手法について、発展的に学ぶ。	事前に、自分が関心をもつより具体的なテーマをまとめておく。 事後に、授業内でまなんだ学術的な研究手法を復習する。	2	論文購読（1）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	3	論文購読（2）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	4	論文購読（3）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	5	論文購読（4）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	6	論文購読（5）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	7	博物館見学（1）	国立民族学博物館の特別展を見学する。	事前に、特別展のテーマやそれに関連する学術的な内容について調べる。 事後に、特別展を通じて得られた知識や気づきについて整理する。	8	博物館見学（2）	国立民族学博物館の特別展を見学する。 特別展の内容について、全体でディスカッションをし、ディスカッションの内容に基づいて学術的な視点や分析手法について発展的に学ぶ。	事前に、特別展のテーマやそれに関連する学術的な内容について調べる。 事後に、小レポートを作成・提出する。	9	受講生のテーマに基づく個別発表（1）	受講生が設定した個別テーマに関して、研究の進捗状況を発表する。	事前に、個別テーマに関して研究の進捗状況レポートをまとめる。 事後に、フィードバックを元に今後の進め方を再検討する。	10	受講生のテーマに基づく個別発表（2）	受講生が設定した個別テーマに関して、研究の進捗状況を発表する。	事前に、個別テーマに関して研究の進捗状況レポートをまとめる。 事後に、フィードバックを元に今後の進め方を再検討する。	11	論文購読（6）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	12	論文購読（7）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	13	論文購読（8）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	14	論文購読（9）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。	15	振り返り学習・卒業研究の仮テーマ発表	後期の取組で得られた内容を振り返り学習する。次年度の卒業研究に向けて、各受講生がテーマを発表する。	事前に、テーマをまとめる。 事後に、フィードバックに基づき、テーマに関する今後の取組内容を整理する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	前期の内容を振り返り、後期の進め方について概説する。「文化人類学」的な研究手法について、発展的に学ぶ。	事前に、自分が関心をもつより具体的なテーマをまとめておく。 事後に、授業内でまなんだ学術的な研究手法を復習する。																																																																
2	論文購読（1）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
3	論文購読（2）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
4	論文購読（3）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
5	論文購読（4）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
6	論文購読（5）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
7	博物館見学（1）	国立民族学博物館の特別展を見学する。	事前に、特別展のテーマやそれに関連する学術的な内容について調べる。 事後に、特別展を通じて得られた知識や気づきについて整理する。																																																																
8	博物館見学（2）	国立民族学博物館の特別展を見学する。 特別展の内容について、全体でディスカッションをし、ディスカッションの内容に基づいて学術的な視点や分析手法について発展的に学ぶ。	事前に、特別展のテーマやそれに関連する学術的な内容について調べる。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
9	受講生のテーマに基づく個別発表（1）	受講生が設定した個別テーマに関して、研究の進捗状況を発表する。	事前に、個別テーマに関して研究の進捗状況レポートをまとめる。 事後に、フィードバックを元に今後の進め方を再検討する。																																																																
10	受講生のテーマに基づく個別発表（2）	受講生が設定した個別テーマに関して、研究の進捗状況を発表する。	事前に、個別テーマに関して研究の進捗状況レポートをまとめる。 事後に、フィードバックを元に今後の進め方を再検討する。																																																																
11	論文購読（6）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
12	論文購読（7）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
13	論文購読（8）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
14	論文購読（9）	社会／文化に関する学術論文を購読する。	事前に、指定された学術論文を読む。 事後に、小レポートを作成・提出する。																																																																
15	振り返り学習・卒業研究の仮テーマ発表	後期の取組で得られた内容を振り返り学習する。次年度の卒業研究に向けて、各受講生がテーマを発表する。	事前に、テーマをまとめる。 事後に、フィードバックに基づき、テーマに関する今後の取組内容を整理する。																																																																
関連科目	文化演習Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>フィールドワーカーズ・ハンドブック</td><td>日本文化人類学会（編）</td><td>世界思想社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	フィールドワーカーズ・ハンドブック	日本文化人類学会（編）	世界思想社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	フィールドワーカーズ・ハンドブック	日本文化人類学会（編）	世界思想社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	課題提出 60%、平常点 40% 「課題」は、小レポート提出のほか、文献購読の担当などを含みます。 「平常点」は、博物館見学やフィールドワークへの主体的な参加などを含みます。																																																																		
学生へのメッセージ	このゼミの学術ベースは「文化人類学」です。 先入観にとらわれず、多角的にモノやコトを捉え、あらたな発見を目指しましょう。																																																																		

担当者の 研究室等	7号館5階金子研究室 なお、7号館の耐震補強工事のため、2021年4月から9月末までは、11号館11階スカイラウンジに仮の研究室がある。
備考	論文購読で用いる学術論文については、文化演習Ⅰの最後に設定した各受講生のテーマや各回の内容のバランスに基づいて担当教員が指定する。

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	ことばを使って何かを伝えたい、あるいは何かをしたいとき、我々はその目的にあった表現を使う。その目的が達せられれば、使ったことばは「機能している」と言えるだろう。本ゼミでは、この「機能」をキーワードとして、言語使用の舞台裏（我々の意識・心的状態、言語が使用される状況、および社会など）で何が起きているか／起こり得るかを考える。 3 年次は、前後期をとって M. A. K. Halliday（ハリデー）が提唱する言語理論（選択体系機能言語学 Systemic Functional Linguistics という）
到達目標	1. 言語の機能について用例とともに具体的に説明することができる。 2. 日本語や英語における節の文法構造を機能的に分析することができる。 3. 言語に関する身近な例に関心を持ち、そこに畳み込まれたことばの意味・機能について分析的に読み取ることができる。 4. 選択体系機能言語学の主要な概念や用語について理解し、それらを用いて授業で取りあげられたトピックについて他の受講生らと議論することができる。
授業方法と留意点	授業は毎回担当者を決め、教科書に沿って担当者が決められた範囲に関する内容を発表を発表し、それをもとにクラスでディスカッションを行う。学生が主体であるため、積極的に参加することが求められる。
科目学習の効果（資格）	教員免許（外国語）、TOEIC 等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	【重要】初回授業は Teams のビデオ会議からリアルタイムで行う 文化演習Ⅰで学んだ内容を振り返り、言語の機能的分析の基本概念を再確認する。	前期で使用した教科書、ノート、資料等を整理する。
	2	ことばの対人的機能とその分析法①	ことばが表す意味は、「伝達内容」だけではなく、相手にどう伝えたいかを示す「心的態度」もあることを具体例によって学習する。	相手によって言い方を変えるとき、自分はことばのどの部分をどのように変化させるかを自問し、授業時の議論の材料とする。
	3	ことばの対人的機能とその分析法②	叙法部を構成する主語と定性という 2 つの要素の基本的性格と機能について学ぶ。	主語と定性について調べておく。
	4	ことばの対人的機能とその分析法③	伝達内容に関する話し手の評価・態度がことばとしてどのように表されるかを節の分析をとって学ぶ。	「肯否極性」および「モダリティ」と呼ばれる概念の基本的性格を調べ、授業での議論に備える。
	5	ことばのテキスト形成的機能とその分析法①	テキストとは何かという根源的な問いについて議論し、言語学的に理解を深める。	まとまりのない文章や悪文と言われる例をさがし、それらのどこに問題があるのかを考えておく。
	6	ことばのテキスト形成的機能とその分析法②	主題が果たす文法上の機能と、テキストのまとまりに寄与する機能について学ぶ。	主語と主題の違いを、日本語の「は」と「が」がつく要素と引き比べながら考える。
	7	ことばのテキスト形成的機能とその分析法③	主題構造がテキストの展開で果たす重要な役割を、テキスト分析を実際に行うことによって理解し、自分でも分析できるようにする。	となりあう節のそれぞれの主題の関連性を分析し、自分なりの考えを授業時に発現できるようにしておく。
	8	節とテキスト分析①	節と節のつながり、そしてテキストとしてのまとまり。この 2 つの作用が生じるメカニズムを対人的機能とテキスト形成的機能の観点から考える。	第 2 回から第 7 回までに学んだ内容を振り返り、2 つの言語機能について端的に説明できるようにしておく。
	9	節とテキスト分析②	節複合によって実現される節と節の意味関係を詳細に分析する。	いわゆる重文と複文について、これまで学習した知識を見直し、ここで学ぶ節複合との関係で問題点を整理しておく。
	10	節とテキスト分析③	節の境界とは、節と節を分けるのか、それともつなぐのか、実際のテキストを分析することによって理解を深める。	分析で使いたいテキストをさがし、授業で使えるよう準備する。
	11	文法分析演習①	教科書のガイドラインに沿って英語の節の文法構造を機能的に分析する。	ガイドラインに目をとっておく。
	12	文法分析演習②	教科書のガイドラインに沿って英語の節の文法構造を機能的に分析する。	ガイドラインに目をとっておく。
	13	言語研究における機能的分析の意義①	これまで学んだ内容を振り返り、卒業研究で取り組む研究の展望を各自で考え、発表する。	これまでの学習を振り返る。
	14	言語研究における機能的分析の意義②	これまで学んだ内容を振り返り、卒業研究で取り組む研究の展望を各自で考え、発表する。	これまでの学習を振り返る。
	15	まとめ	テキスト分析をとってことばの機能を説明することの意義について、いま一度振り返り、卒業研究への足掛かりにする。	学んだ内容と自分の関心とを照らしあわせ、今後の研究テーマについて現時点で考えられることをまとめておく。

関連科目	英語学、言語学、英語意味論・語用論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Analysing English Grammar: A Systemic Functional Introduction（ペーパーバック）	Lise Fontaine	Cambridge University Press
	2			
	3			

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ゼミ発表, 準備資料, 課題・提出物等 (60%) レポート (40%)			
学生への メッセージ	ことばはあまりに身近な存在であるがゆえに, 問題意識をもつことが存外難しいものである。身の回りにあふれかえることばを少し立ち止まって深く追究する姿勢を身につけてほしい。そして, 授業では分からないことを分からないままにせず, 納得できるまでとことん調べ, 話し合うことが重要である。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	文化・歴史・国際関係など多様な視点から「コリア」（韓国・朝鮮・海外コリアンなど）を研究し深く理解していくことを目的とする。個人研究・共同研究という二つの側面から進めていく。 1) 個人研究 卒業研究のための基礎力を養成する。先行研究のリサーチ方法、資料・データ収集の方法論、論理構成の仕方と表現方法を授業で学び、自身で設定した課題の進捗と授業での発表を通して研究力を伸ばす。個人研究の最終的なベクトルの方向は卒業研究（卒業論文）である。 2) 共同研究 本授業のメンバー（ゼミ生）全員で一つの研究課																																																																		
到達目標	1) 個人研究について ①自分で設定した研究課題について、先行研究の検討・データの収集と分析・論理の構築ができるようになる。 ②研究の中間発表（研究課題の進捗状況についてのプレゼンテーション）ができるようになる。 2) 共同研究 ①研究課題について、チームワークで作業し、討論し、考察をブラッシュアップしていくことができるようになる。 ②チームワーク力・交渉力・プレゼン力・発信力などを総合的に成長させる。																																																																		
授業方法と留意点	本授業は「個人研究」「共同研究」という2つの大きな柱で成り立っている。 この二つは全く別々のものではなく、相互関連している。したがって、並行して行っていくことによって、学習力・研究力養成の相乗効果が期待できる。 また、「個人研究」「共同研究」とともにゲストの招請や他大学との合同ゼミでの発表、フィールドワークなどの機会を盛り込みながら進める。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> 本授業は以下の 2 つの柱で成り立っている。この2つを並行して行う。 1) 個人研究 最終的な目標は卒業研究（卒業論文の完成）である。そのための基礎的な力を本授業で養成する。 2) 共同研究 本授業のメンバー（ゼミ生）全体で一つの研究課題を打ち立て、チームワークで課題に取り組んでいく。 </td><td> 1) 個人研究 ①研究のための基礎知識養成のため、「文献読解→要約発表」というプロセスを反復する。 ②研究のための基礎的なスキル（先行研究のリサーチと検討、データ収集と分析、文章作成、研究に必要な語学力など）を養成する。 2) 共同研究 9月～11月：データの収集→分析→考察→データ収集の方法の再検討というサイクルを繰り返して研究を進める。中間発表を行う。 12月～2022年1月：2021年度の成果をまとめる。 </td><td> 1) 個人研究 ①文献の読解と要約発表の準備 ②課題の復習 2) 共同研究 研究課題の進捗状況をチェックしながら、自分の役割を明確化して作業の準備をしておく。 </td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	本授業は以下の 2 つの柱で成り立っている。この2つを並行して行う。 1) 個人研究 最終的な目標は卒業研究（卒業論文の完成）である。そのための基礎的な力を本授業で養成する。 2) 共同研究 本授業のメンバー（ゼミ生）全体で一つの研究課題を打ち立て、チームワークで課題に取り組んでいく。	1) 個人研究 ①研究のための基礎知識養成のため、「文献読解→要約発表」というプロセスを反復する。 ②研究のための基礎的なスキル（先行研究のリサーチと検討、データ収集と分析、文章作成、研究に必要な語学力など）を養成する。 2) 共同研究 9月～11月：データの収集→分析→考察→データ収集の方法の再検討というサイクルを繰り返して研究を進める。中間発表を行う。 12月～2022年1月：2021年度の成果をまとめる。	1) 個人研究 ①文献の読解と要約発表の準備 ②課題の復習 2) 共同研究 研究課題の進捗状況をチェックしながら、自分の役割を明確化して作業の準備をしておく。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	本授業は以下の 2 つの柱で成り立っている。この2つを並行して行う。 1) 個人研究 最終的な目標は卒業研究（卒業論文の完成）である。そのための基礎的な力を本授業で養成する。 2) 共同研究 本授業のメンバー（ゼミ生）全体で一つの研究課題を打ち立て、チームワークで課題に取り組んでいく。	1) 個人研究 ①研究のための基礎知識養成のため、「文献読解→要約発表」というプロセスを反復する。 ②研究のための基礎的なスキル（先行研究のリサーチと検討、データ収集と分析、文章作成、研究に必要な語学力など）を養成する。 2) 共同研究 9月～11月：データの収集→分析→考察→データ収集の方法の再検討というサイクルを繰り返して研究を進める。中間発表を行う。 12月～2022年1月：2021年度の成果をまとめる。	1) 個人研究 ①文献の読解と要約発表の準備 ②課題の復習 2) 共同研究 研究課題の進捗状況をチェックしながら、自分の役割を明確化して作業の準備をしておく。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	文化演習Ⅰ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ソウルを歩く：韓国文化研究はじめの一步</td><td>平田由紀江・山中千恵編著</td><td>関西学院大学出版会</td></tr> <tr> <td>2</td><td>在日二世の記憶</td><td>小熊英二・高賛侑・高秀美（編集）</td><td>集英社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>新・社会調査へのアプローチ：論理と方法</td><td>大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ソウルを歩く：韓国文化研究はじめの一步	平田由紀江・山中千恵編著	関西学院大学出版会	2	在日二世の記憶	小熊英二・高賛侑・高秀美（編集）	集英社	3	新・社会調査へのアプローチ：論理と方法	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋	ミネルヴァ書房																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ソウルを歩く：韓国文化研究はじめの一步	平田由紀江・山中千恵編著	関西学院大学出版会																																																																
2	在日二世の記憶	小熊英二・高賛侑・高秀美（編集）	集英社																																																																
3	新・社会調査へのアプローチ：論理と方法	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋	ミネルヴァ書房																																																																
評価方法（基準）	共同研究への参与度：50% 発表および小レポート：25% 期末レポート：25%																																																																		
学生へのメッセージ	教員（森）は指導役を務めるが、本授業を通して教員・ゼミ生がともに学び成長する姿勢を大事にしたい。																																																																		
担当者の	7号館5階 森研究室																																																																		

研究室等	(10月中旬までは11号館11階)
備考	・予習復習の総学修時間数は60時間とする。 ・課題等のフィードバックは基本的に授業中に行う。

科目名	英語 I	科目名 (英文)	English I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	デミエン ヒーリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1301c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduce class guidelines and scoring rubric. Pair and group work activities.	The name game. Introducing your friend to the class. Introducing the teacher. Teacher's PowerPoint.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	2	Unit 1 Nice to meet you!	Country and nationality	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	3	Unit 2 What do you do?	Talking about jobs in pairs and groups. Jobs survey.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	4	Unit 3 Do you like spicy food?	Talking about food in pairs and groups.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	5	Unit 3 Do you like spicy food?	Love to hate. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	6	Review units 1 to 3	Review of grammar and vocabulary	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	7	Mid-term test	Writing test related to chapters 1 to 3	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	8	Unit 4 How often do you do yoga?	Free time activities. Pair and group work activities.	前半の既習内容の復習 (テスト勉強) (2 時間)
	9	Unit 4 How often do you do yoga?	Adverbs of frequency. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	10	Unit 5 What are you watching?	Present Progressive. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	11	Unit 5 What are you watching?	Talking about cell phones	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	12	Unit 6 Where were you yesterday?	Simple Past of the verb to be. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	13	Unit 6 Where were you yesterday?	Talking about past vacations	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	14	Review units 4 to 6	Review of grammar and vocabulary	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	15	End of term test	Writing test related to chapter 4 to 6	前半の既習内容の復習 (テスト勉強) (2 時間)

関連科目	英語 II
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Level 1A Third Edition Multi - pack with online practice and On The Move	Ken Wilson	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 1. 25% for completing homework and in-class tasks. 2. 15% for mid-term test done at the end of chapter 3. 3. 25% for your presentations. 4. 15% for end of term writing test which will be on the content of the book topics.
-----------	--

学生へのメッセージ	外国語学習は、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な準備が欠かせません。予習をしっかりとしましょう。積極的な授業参加を期待します。英和辞書か電子辞書を持参して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱ	科目名 (英文)	English II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	デミエン ヒーリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1302c1		

授業概要・目的	比較的可平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	教科書に沿って課題を提示していくので教科書をしっかり読むことが大事です。 自分で電子辞書や紙の辞書を引いてください。 提出期限内に余裕を持って出してください。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 4 回を超える未提出、つまり欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Explaining about this term scoring rubric.</td><td>Talking about summer vacation with handout. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ、, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 7 Which one is cheaper?</td><td>Kinds of clothes and adjectives. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 7 Which one is cheaper?</td><td>Comparative and superlatives. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 8 What's she like?</td><td>Describing people physically. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 8 What's she like?</td><td>Describing people mentally.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 9 What can you do there?</td><td>Can and can't. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 9 What can you do there?</td><td>Describing things to do in different cities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Mid-term test</td><td>Review of chapter 7 to 9 grammar and vocabulary</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 10 Is there a bank near here?</td><td>Types of shops.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 10 Is there a bank near here?</td><td>Giving and getting directions.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 11 Did you have a good time?</td><td>Simple past tense.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 11 Did you have a good time?</td><td>Unusual Hotels</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 12 I'm going to go by car</td><td>Forms of transportation</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 12 I'm going to go by car</td><td>Going to.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>End of term test</td><td>Review of chapter 10 to 12 vocabulary and grammar</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Explaining about this term scoring rubric.	Talking about summer vacation with handout. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ、, exercise の予習 (2 時間)	2	Unit 7 Which one is cheaper?	Kinds of clothes and adjectives. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	3	Unit 7 Which one is cheaper?	Comparative and superlatives. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	4	Unit 8 What's she like?	Describing people physically. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	5	Unit 8 What's she like?	Describing people mentally.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	6	Unit 9 What can you do there?	Can and can't. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	7	Unit 9 What can you do there?	Describing things to do in different cities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	8	Mid-term test	Review of chapter 7 to 9 grammar and vocabulary	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	9	Unit 10 Is there a bank near here?	Types of shops.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	10	Unit 10 Is there a bank near here?	Giving and getting directions.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	11	Unit 11 Did you have a good time?	Simple past tense.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	12	Unit 11 Did you have a good time?	Unusual Hotels	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	13	Unit 12 I'm going to go by car	Forms of transportation	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	14	Unit 12 I'm going to go by car	Going to.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	15	End of term test	Review of chapter 10 to 12 vocabulary and grammar	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Explaining about this term scoring rubric.	Talking about summer vacation with handout. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ、, exercise の予習 (2 時間)																																																																
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Kinds of clothes and adjectives. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Comparative and superlatives. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
4	Unit 8 What's she like?	Describing people physically. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
5	Unit 8 What's she like?	Describing people mentally.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
6	Unit 9 What can you do there?	Can and can't. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
7	Unit 9 What can you do there?	Describing things to do in different cities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
8	Mid-term test	Review of chapter 7 to 9 grammar and vocabulary	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
9	Unit 10 Is there a bank near here?	Types of shops.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
10	Unit 10 Is there a bank near here?	Giving and getting directions.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
11	Unit 11 Did you have a good time?	Simple past tense.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
12	Unit 11 Did you have a good time?	Unusual Hotels	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
13	Unit 12 I'm going to go by car	Forms of transportation	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
14	Unit 12 I'm going to go by car	Going to.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
15	End of term test	Review of chapter 10 to 12 vocabulary and grammar	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
関連科目	英語 I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Smart Choice Level 1 Third Edition Multi - pack B with online practice and On The Move</td><td>Ken Wilson</td><td>Oxford University Press</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td><td>西谷恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice Level 1 Third Edition Multi - pack B with online practice and On The Move	Ken Wilson	Oxford University Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Smart Choice Level 1 Third Edition Multi - pack B with online practice and On The Move	Ken Wilson	Oxford University Press																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% TOEIC Bridge 10% 提出課題 60%																																																																		
学生へのメッセージ	外国語学習は、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。音声なども利用し、聞いたり声に出したり工夫をして勉強しましょう。 じっくり紙の辞書を引いて力を付けるチャンスです。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ																																																																		

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。質問などについては出講時に非常勤講師室にて対応する。＊提出課題について、全く同じ答えを共有していると思われる場合は全員 0 点とする。
--	--

科目名	英語Ⅲ	科目名 (英文)	English III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	アンナ インゲル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN2303c1		

授業概要・目的	本講座は、1 年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。異文化間のコミュニケーションは、英語コミュニケーション能力だけにあるのではない。トピックは日米比較で、身の周りにあるものを取り上げ、それらの題材を通して英語力を高めると同時に、日米の差異・共通性の理解を深める。
到達目標	英検 2 級以上、TOEIC550 点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書は必ず持つてくること。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検 2 級以上、TOEIC550 点以上は必ず取れるはずです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 Lesson 1 の導入 Physical Education	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Lesson 1 の予習 (1 時間)
	2	Lesson 1 Physical Education	Physical Education に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 1 の復習及び予習 (1 時間)
	3	Lesson 2 Sports Clubs	Sports Clubs に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 2 の復習及び予習 (1 時間)
	4	Lesson 2 Sports Clubs	Sports Clubs に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 2 の復習及び予習 (1 時間)
	5	Lesson 3 Cultural Differences	Cultural Differences に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 3 の復習及び予習 (1 時間)
	6	Lesson 4 Haircuts	Haircuts に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 4 の復習及び予習 (1 時間)
	7	Lesson 5 Music	Music に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 5 の復習及び予習 (1 時間)
	8	Lesson 6 Money	Money に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 6 の復習及び予習 (1 時間)
	9	Lesson 7 Safety	Safety に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 7 の復習及び予習 (1 時間)
	10	Lesson 8 Life Expectancy	Life Expectancy に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 8 の復習及び予習 (1 時間)
	11	Lesson 9 The Metric System	The Metric System に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 9 の復習及び予習 (1 時間)
	12	Lesson 10 Police	Police に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 10 の復習及び予習 (1 時間)
	13	Lesson 11 Seasons	Seasons に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 11 の復習及び予習 (1 時間)
	14	Lesson 12 TV Sports	TV Sports に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 12 の復習及び予習 (1 時間)
	15	Lesson 1 ~ Lesson 12 Physical Education ~ TV Sports	Lesson 1 ~ Lesson 12 の総復習 定期試験 (前期末) の準備	これまでの授業で扱った内容について総復習する (定期試験の準備) (1 時間)

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Eye on America and Japan	G. Truscott 他	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3	英和辞典・和英辞典		

評価方法 (基準)	定期試験 40 % 小テスト (Quiz) 20 % 課題レポート 20 % 授業への取り組み (投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表など) 20 % ※原則、出席率 80 %以上の学生を成績評価の対象とする。
学生へのメッセージ	In this class, you can improve your English while learning about cultural differences and similarities between Japan and the US. Please do your best to prepare for class, actively participate and speak during class, and ask questions!
担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅳ	科目名 (英文)	English IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アンナ インゲル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN2304c1		

授業概要・目的	本講座は、1 年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。異文化間のコミュニケーションは、英語コミュニケーション能力だけにあるのではない。トピックは日米比較で、身の周りにあるものを取り上げ、それらの題材を通して英語力を高めると同時に、日米の差異・共通性の理解を深める。
到達目標	英検 2 級以上、TOEIC550 点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書は必ず持ってくること。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検 2 級以上、TOEIC550 点以上は必ず取れるはずです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 Lesson 13 の導入 Business	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Lesson 13 の予習 (1 時間)
	2	Lesson 13 Business	Lesson 13 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 13 の復習及び予習 (1 時間)
	3	Lesson 14 Jobs	Lesson 14 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 14 の復習及び予習 (1 時間)
	4	Lesson 14 Jobs	Lesson 14 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 14 の復習及び予習 (1 時間)
	5	Lesson 15 NHK vs. PBS	Lesson 15 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 15 の復習及び予習 (1 時間)
	6	Lesson 16 Marriage Ceremonies	Lesson 16 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 16 の復習及び予習 (1 時間)
	7	Lesson 17 American Culture	Lesson 17 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 17 の復習及び予習 (1 時間)
	8	Lesson 18 International Marriage	Lesson 18 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 18 の復習及び予習 (1 時間)
	9	Lesson 19 Apartments	Lesson 19 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 19 の復習及び予習 (1 時間)
	10	Lesson 20 Technology	Lesson 20 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 20 の復習及び予習 (1 時間)
	11	Lesson 21 School Rules	Lesson 21 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 21 の復習及び予習 (1 時間)
	12	Lesson 22 Drinking	Lesson 22 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 22 の復習及び予習 (1 時間)
	13	Lesson 23 Entertaining	Lesson 23 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 23 の復習及び予習 (1 時間)
	14	Lesson 24 Choice	Lesson 24 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 24 の復習及び予習 (1 時間)
	15	Lesson 13 ～ Lesson 24 Business ～ Choice	Lesson 13 ～ Lesson 24 の総復習 定期試験 (後期末) の準備	これまでの授業で扱った内容について総復習する (定期試験の準備) (1 時間)

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Eye on America and Japan	G. Truscott 他	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3	英和辞典・和英辞典		

評価方法 (基準)	定期試験 40 % 小テスト (Quiz) 20 % 課題レポート 20 % 授業への取り組み (投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表など) 20 % ※原則、出席率 80 %以上の学生を成績評価の対象とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	In this class, you can improve your English while learning about cultural differences and similarities between Japan and the US. Please do your best to prepare for class, actively participate and speak during class, and ask questions!
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1320e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。																																																																		
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力を習得することができる。																																																																		
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。 学期中は事前および事後に合計 30 時間の学習時間を必要とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音 1</td><td>ピンイン、声調、単母音、複母音</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>発音 2、発音 3</td><td>子音、鼻母音</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>発音 4、付録 1、付録 2</td><td>挨拶用語、声調の変化、r 化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>発音編のまとめ 小テスト 1</td><td>発音編までの内容を復習</td><td>次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 1 課 これは何ですか？</td><td>単語、会話、文法、漢字練習シート</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 1 課 これは何ですか？</td><td>練習問題、リスニング、筆記、宿題練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 2 課 お名前は？</td><td>単語、会話、文法、漢字練習シート</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第 2 課 お名前は？</td><td>練習問題、リスニング、筆記、宿題練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>小テスト 2 第 3 課 今年いくつか？</td><td>復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 3 課 今年いくつか？</td><td>練習問題、リスニング、筆記、宿題練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 4 課 何人家族ですか？</td><td>単語、会話、文法、漢字練習シート</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 4 課 何人家族ですか？</td><td>練習問題、リスニング、筆記、宿題練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>小テスト 3 第 5 課 家はどこですか？</td><td>復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 5 課 家はどこですか？</td><td>練習問題、リスニング、筆記、宿題練習</td><td>授業の内容を復習、次の内容を予習する。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ 小テスト 4</td><td>復習、小テスト</td><td>テストの内容を準備する。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音 1	ピンイン、声調、単母音、複母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	2	発音 2、発音 3	子音、鼻母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	3	発音 4、付録 1、付録 2	挨拶用語、声調の変化、r 化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	4	発音編のまとめ 小テスト 1	発音編までの内容を復習	次の内容を予習する。	5	第 1 課 これは何ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	6	第 1 課 これは何ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	7	第 2 課 お名前は？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	8	第 2 課 お名前は？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	9	小テスト 2 第 3 課 今年いくつか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	10	第 3 課 今年いくつか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	11	第 4 課 何人家族ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	12	第 4 課 何人家族ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	13	小テスト 3 第 5 課 家はどこですか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	14	第 5 課 家はどこですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。	15	まとめ 小テスト 4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音 1	ピンイン、声調、単母音、複母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
2	発音 2、発音 3	子音、鼻母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
3	発音 4、付録 1、付録 2	挨拶用語、声調の変化、r 化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
4	発音編のまとめ 小テスト 1	発音編までの内容を復習	次の内容を予習する。																																																																
5	第 1 課 これは何ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
6	第 1 課 これは何ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
7	第 2 課 お名前は？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
8	第 2 課 お名前は？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
9	小テスト 2 第 3 課 今年いくつか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
10	第 3 課 今年いくつか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
11	第 4 課 何人家族ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
12	第 4 課 何人家族ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
13	小テスト 3 第 5 課 家はどこですか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
14	第 5 課 家はどこですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。																																																																
15	まとめ 小テスト 4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。																																																																
関連科目	中国語 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語</td><td>張 軼欧</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>中日辞典</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>日中辞典</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中日辞典			2	日中辞典			3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	中日辞典																																																																		
2	日中辞典																																																																		
3																																																																			
評価方法 (基準)	テストと課題：80% 平常点：20%																																																																		
学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に各 1 時間ずつ要します。 4 月 22 日まで Teams コードを使って、Teams チームに加入しなければならない。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員 (中西、兪、小都) を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。																																																																		

科目名	中国語Ⅰ	科目名（英文）	Chinese I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1320e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力を習得することができる。
授業方法と留意点	遠隔授業 毎回出席し、課題を提出すること。 テストを受けること。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介、発音1	ピンイン、声調、単母音、複母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	2	発音2、発音3	子音、鼻母音	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	3	発音4、付録1、付録2	挨拶用語、声調の変化、r化音、日本の都道府県、食べ物、飲み物など	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	4	発音編のまとめ 小テスト1	発音編までの内容を復習	次の内容を予習する。
	5	第1課 これは何ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	6	第1課 これは何ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	7	第2課 お名前は？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	8	第2課 お名前は？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	9	小テスト2、 第3課 今年いくつですか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	10	第3課 今年いくつですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	11	第4課 何人家族ですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	12	第4課 何人家族ですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	13	小テスト3 第5課 家はどこですか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	14	第5課 家はどこですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容を復習、次の内容を予習する。
	15	まとめ 小テスト4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。

関連科目	中国語Ⅱ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法（基準）	出席・課題：50% テスト：50%
----------	----------------------

学生へのメッセージ	教室でも家でも声を出してたくさん読みましょう。事前・事後学習に1時間ずつ要します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）
----------	-------------------------

備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、兪、小都）を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。
----	--

科目名	中国語Ⅱ	科目名 (英文)	Chinese II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	曹 櫻
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1321el		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力を習得することができる。
授業方法と留意点	遠隔授業 毎回課題を提出すること。 テストを必ず受けること。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介 第6課 何をしていますか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	2	第6課 何をしていますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	3	第7課 今日授業は分かりましたか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	4	第7課 今日授業は分かりましたか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	5	第8課 今日また先生に注意された。	復習、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	6	第8課 今日また先生に注意された。	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	7	中間テスト 第9課 あなたは泳げますか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	8	第9課 あなたは泳げますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	9	第10課 学校の北側に何がありますか？	復習、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	10	第10課 学校の北側に何がありますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	11	第11課 どこか具合が悪いですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	12	第11課 どこか具合が悪いですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	13	第12課 一週間に何日間アルバイトをしますか？	復習、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	14	第12課 一週間に何日間アルバイトをしますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	15	まとめ	復習、テスト	テストの内容を準備する。

関連科目	中国語Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法 (基準)	出席・課題 40% テスト 60%
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	文法を確認し、本文を声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に1時間ずつ要します。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
----------	---------------

備考	「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。
----	----------------------------------

科目名	中国語Ⅱ	科目名（英文）	Chinese II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	孫 輝
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1321e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの4つの力を総合的にバランスよく習得する。1年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力を習得することができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業を行い、口語練習を重視し、中国語の発音、フレーズに慣れさせてもらう。 学期中は事前及び事後に合計 30 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験準 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の内容、履修方法、評価方法の紹介 第 6 課 何をしていますか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	2	第 6 課 何をしていますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	3	第 7 課 今日授業は分かりましたか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	4	第 7 課 今日授業は分かりましたか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	5	小テスト 1 第 8 課 今日また先生に注意された。	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	6	第 8 課 今日また先生に注意された。	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	7	第 9 課 あなたは泳げますか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	8	第 9 課 あなたは泳げますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	9	小テスト 2 第 10 課 学校の北側に何がありますか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	10	第 10 課 学校の北側に何がありますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	11	第 11 課 どこか具合が悪いですか？	単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	12	第 11 課 どこか具合が悪いですか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	13	小テスト 3 第 12 課 一週間に何日間アルバイトをしますか？	復習、小テスト、単語、会話、文法、漢字練習シート	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	14	第 12 課 一週間に何日間アルバイトをしますか？	練習問題、リスニング、筆記、宿題練習	授業の内容と復習、次の内容を予習する。
	15	まとめ 小テスト 4	復習、小テスト	テストの内容を準備する。

関連科目	中国語Ⅰ
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップ バイ ステップ 歩歩高 初級中国語	張 軼欧	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2	日中辞典		
	3			

評価方法（基準）	単元テスト： 80% 平常点： 20%
学生への	教室でも家でも声を出してよく読みましょう。事前・事後の学習に各 1 時間ずつ要します。

メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師室(7号館2階)
備考	「中国語Ⅰ」を履修したうえ、「中国語Ⅱ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員(中西, 兪, 小都)を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。

科目名	中国語Ⅲ	科目名（英文）	Chinese III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藥 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1322e1		

授業概要・目的	前年度に学んだ中国語を基礎に、読む・聴く・話す・書くの四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験 4 級レベルに達することを目指す。
到達目標	中国への旅行や買い物などに困らないレベルの聞く力、話す力を身につけることができる。
授業方法と留意点	授業は演習形式行い、新出単語や文法を解説するとともに、対話文や例文を繰り返し練習することによって、中国語の活用や表現能力を習得する。
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第一課 キャンパスで (1) 対話文 1 ・文法 ・ 練習	1. 進行表現 2. 可能補語 1	会話をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	2	第一課 キャンパスで (2) 対話文 2 ・文法 ・ 練習	3. 可能補語 2 4. 「……， 好不好？」	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	3	第二課 アルバイト仲間 対話文 1 ・文法 ・ 練習	1. 状態補語 2. 可能補語と状態補語	会話をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	4	第二課 3 人で京劇を見終わって 対話文 2 ・文法 ・ 練習	3. 比較表現 1 4. 比較表現 2	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	5	☆単元テスト	第一課・第二課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	6	第三課 程君がアルバイトをしているレストランへ I (1) 対話文 1 ・文法 ・ 練習	1. 状態持続 2. 「着」を用いた存現文 3. 「(正) 在 V……」 と 「V 着」の違い	会話をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	7	第三課 程君がアルバイトをしているレストランへ I (2) 対話文 2 ・文法 ・ 練習	4. 「有点儿」 5. V 1 着 (+ 0 2) V 2 (+ 0 2) 6. 「怎?」	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	8	第四課 程君がアルバイトをしているレストランへ II (1) 対話文 1 ・文法 ・ 練習	1. 「把」構文 ① 「把」 0 + V + 方向補語 ② 「把」 0 + V + 結果補語	会話をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	9	第四課 程君がアルバイトをしているレストランへ II (2) 対話文 2 ・文法 ・ 練習	③ 「把」 0 + V V 「把」 0 + 「一下」 ④ 「把」 0 + V + 「給」 + 人 「把」 0 + V + 「到」 + 場所 「把」 0 + V + 「在」 + 場所	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	10	☆単元テスト	第三課・第四課復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	11	第五課 キャンパスで (1) 対話文 1 ・文法 ・ 練習	1. 名詞の重ね型 2. 「下来」の派生義 3. 受身文 1 4. 可能性の「会」	会話をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	12	第五課 キャンパスで (2) 対話文 2 ・文法 ・ 練習	5. 受身文 2	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	13	第一課～第五課 基本文型まとめ	1. 文法練習 2. 会話文の朗読練習	全部の動詞フレーズをノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	14	第一課～第五課 総合復習と練習	3. 総合復習と練習 4. 質問と解答	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
	15	☆単元テスト（期末テスト）	第一課～第五課 日文中訳復習と前期習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。

関連科目	「中国語 I」, 「中国語 II」, 「中国語 IV」
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	いつでも中国語 2	成田静香・藤野真子ほか	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中日辞典		
	2			
	3			

評価方法（基準）	授業への参加度と小テスト： 30% 単元テスト： 70%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	授業前の予習や授業後の復習は慣習化し、かかさず行ってください。
-----------	---------------------------------

担当者の	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
------	---------------------------------

研究室等	
備考	「中国語Ⅰ」と「中国語Ⅱ」を履修したうえ、「中国語Ⅲ」を履修するのが望ましい。 授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、兪、小都）を通じて問い合わせることもできる。 課題やテストに対する評価は次回の授業に書面または口頭でフィードバックする。

科目名	中国語Ⅳ	科目名 (英文)	Chinese IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藥 玉璽
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LCH1323e1		

授業概要・目的	前期の「中国語Ⅲ」に続き、読む・聴く・話す・書く一四つの力をさらに総合的にバランスよく学習する。中国語の運用能力の中級レベル、中国語検定試験 4 級レベルに達することを目指す。				
到達目標	中国語Ⅲで学んだ事項を定着させるとともに発展させ、比較的優しい新聞記事などを辞書を使って読める能力を身につけることができる。				
授業方法と留意点	授業は演習形式で行い、新出単語や文法を詳しく解説すると共に、対話文を繰り返し練習することによって、中国語の活用や表現能力を習得する。				
科目学習の効果（資格）	中国語検定試験 4 級受験可能。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	第六課 北京国際空港で (1) 対話文・文法・練習	1. 「不用」 + 述語フレーズ 2. 「.....的話, (就) ~」 3. 「有／没 (有)」 + 名詞 + 動詞	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		2	第六課 北京国際空港で (2) 短文・文法・練習	4. 跟.....相比 5. 听说、听.....說 6. 「值得」 + 「一」 + V 7. 打算	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		3	第七課 キャンパスで (1) 対話文・文法・練習	1. 「? 那 ?」と量詞 2. 動詞フレーズ + 「的」 3. 「起来」の派生義	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		4	第七課 キャンパスで (2) 短文・文法・練習	4. ~極了 5. 终于 6. 一边..... 一边..... 7. ?然..... 但是.....	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		5	★単元テスト	第六課・第七課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		6	第八課 中華料理店で (1) 対話文・文法・練習	1. 「怪不得」 2. 「要」 3. 「愛」 + 動詞フレーズ	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		7	第八課 中華料理店で (2) 短文・文法・練習	4. 又..... 又..... 5. 不僅..... 還..... 6. 只好 7. 向	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		8	第九課 チャイナドレス店で (1) 対話文・文法・練習	1. 主述述語文 2. 疑問詞 + 「也／都」..... 3. 「是」を用いた譲歩構文	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。 本日（11/08（月））から対面授業に切り替えた。
		9	第九課 チャイナドレス店で (2) 短文・文法・練習	4. V 成 5. 对.....來說 6. 越来越.....	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		10	★単元テスト	第八課・第九課の復習と習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		11	第十課 帰国のあいさつ (1) 対話文・文法・練習	1. 「就」 2. 「才」 3. 「就」と「才」	対話文・短文をノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		12	第十課 帰国のあいさつ (2) 短文・文法・練習	4. 戴上／穿上 5. 準備 6. 需要 7. 像.....??／那?	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		13	第六課～第十課 基本文型まとめ	1. 文法練習 2. 会話文の朗読練習	全部の動詞フレーズをノートに書き写しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		14	第六課～第十課 総合復習と練習	3. 総合復習と練習 4. 質問と解答	授業までに練習問題を解答しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
		15	★単元テスト（期末テスト）	第六課～第十課 日文中訳復習と後期習熟度確認	テスト範囲の語彙、文法項目を確認しておく（事前と事後にそれぞれ 1 時間の学習を行う）。
関連科目	「中国語Ⅲ」				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	いつでも中国語 2	成田静香・藤野真子ほか	朝日出版社
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	中日辞典		
		2			
		3			
評価方法（基準）	授業への参加度・課題提出： 50% 単元テスト： 50%				
学生へのメッセージ	授業前の予習と授業後の復習は慣習化し、かかさず行ってください。 11 月 4 日（木）からの対面授業再開体制の実施に伴って、本授業の第 8 回目（11/08（月））から対面授業に切り替えた。				

担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。不在の場合は、専任教員（中西、兪、小都）を通じて問い合わせることもできる。試験や課題に対して用紙上または次回授業で必ずフィードバックを行う。

科目名	スペイン語 I	科目名 (英文)	Spanish I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LSP1324e1		

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。				
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。広域なスペイン語圏に関心を持ち、その文化に親しむ。				
授業方法と留意点	前期ではアルファベットと発音から始め、第6課まで学習する予定。 最初は教科書とは別にプリントを配布し、それに基づいてアルファベットの読み方などを学ぶが、できるだけ早いうちに教科書を購入すること。辞書については授業が始まってから説明する。 以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがある。				
科目学習の効果（資格）	スペイン語検定6級				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	オリエンテーション	授業の進め方 スペイン語とスペイン語圏についての概要の説明。	挨拶表現を練習する。
		2	第1課：文法のポイントと基本練習	アルファベットと発音の解説。	授業後、スペイン語の発音の法則を確認し、声に出して練習する。 基数1～10を覚える。
		3	前回の復習 第1課：応用練習	アルファベットと発音の徹底。 音節分けとアクセント	単語の読みだけでなく、短い文を読む練習をし、イントネーションを身につける。
		4	前回の復習 第2課：文法のポイント	名詞の性と数	授業後、名詞の性・数の法則を確認して覚える。 会話を声に出して繰り返し練習する。
		5	前回の復習 第2課：基本練習、応用練習	冠詞（不定冠詞と定冠詞）	会話を声に出して繰り返し練習する。基数11～20を覚える。
		6	第2課までの理解度確認テスト（1） 第3課	発音、アクセント、名詞に関する確認テスト 国名形容詞、親族	会話を声に出して繰り返し練習する。 授業後、動詞 ser の活用を繰り返し覚えること
		7	理解度確認テスト（1）の確認 第3課：文法のポイント、基本練習	これまでの復習 形容詞の性と数	会話を声に出して繰り返し練習する。
		8	前回の復習 第3課：応用練習 第4課：職業、働く場所	所有格 疑問文と否定文 動詞 ser の活用と用法	授業後、動詞 tener の活用を確認する。
		9	前回の復習 第4課：文法のポイント、基本練習	規則動詞（-ar 動詞）	会話を声に出して繰り返し練習する。
		10	前回の復習 第4課：応用練習	規則動詞	辞書の使い方に慣れる
		11	理解度確認テスト（2）：第4課まで 第5課：食べ物、飲み物	これまでの復習	基本単語を覚える
		12	第5課：文法のポイント、基本練習	動詞の規則活用（-er、-ir 動詞）と用法 時刻の表現	動詞活用の練習
		13	前回の復習 第5課：応用練習 第6課：施設、建物	基本動詞の使い方 前置詞	作文練習
		14	前回の復習 第6課：文法のポイント、基本練習、応用練習	指示詞、動詞 hay、estar	会話を声に出して読んでみる。
		15	理解度確認テスト（3）	前期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験。	授業前に前期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。
関連科目	スペイン語圏概論				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	Accion！		四宮、落合他	白水社
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典		高垣ほか	小学館
	2				
	3				
評価方法（基準）	課題（50％）：課題は毎回出します。期日までにメールに添付して提出してください。その際、受け取りメールを確認してください。 臨時試験（理解度確認テスト（50％）：何週かおきにテストをします。さらに最終週にも総まとめのテストをします。				
学生への	初めて学ぶ外国語は覚えるべきことが多いですが、スペイン語は母音が日本語と同じなので発音はとても簡単です。文法をマスターし語彙を増や				

メッセージ	すことで、スペイン語で発信できるようになります。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（3号館2階）
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。 理解度確認テストに関するフィードバックはその次週、単語テストに関するフィードバックは当日、解答を示しながら解説する。

科目名	スペイン語Ⅱ	科目名 (英文)	Spanish II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	篠原 愛人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LSP1325e1		

授業概要・目的	この授業ではスペイン語の文法の基礎を学び、基本的な単語を覚え、聴く・話すことに重点をおいて授業を進めます。																																																																		
到達目標	スペイン語で日常の簡単な会話ができるようになる。 スペイン語圏の文化に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	後期では第6課から第11課まで学習する予定です。 受講にあたっては教科書、西和辞典、配布されたプリント等を持参すること。 ただし、以下の授業計画は目安であり、受講生の理解度により進度を調整することがあります。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 6 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>前期の学習内容の確認 (1)</td><td>前期で学習したことの確認 (動詞の活用を中心に)</td><td>授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと。 授業後は動詞の活用の確認。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>前期の学習内容の確認 (2)</td><td>前期で学習したことの確認</td><td>授業後、月名・曜日・日付に関する語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第7課: 月と曜日、文法のポイント</td><td>直接目的語、saber、conocer 1 人称単数形が不規則な動詞</td><td>授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>前回の復習 第7課: 基本練習と応用練習</td><td>直接目的語を使った文 不規則動詞の活用</td><td>会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>前回の復習 第8課: 身の回りの品々、色 文法のポイント、基本練習</td><td>間接目的語、語幹母音変化動詞、tener</td><td>授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>前回の復習 第8課: 応用練習</td><td>語幹母音変化動詞の活用</td><td>授業後、規則動詞の確認をすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>理解度確認テスト (1) 第9課: 情報のやり取り</td><td>7 課、8 課の内容についての確認テスト</td><td>授業後、動詞の活用を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。 この回から対面授業とする</td></tr> <tr> <td>8</td><td>理解度確認テストの復習 第9課: 文法のポイント、基本練習</td><td>語幹母音変化動詞 (o→ue ; e→i)</td><td>語幹母音変化動詞の活用をしっかり練習すること</td></tr> <tr> <td>9</td><td>前回の復習 第9課応用練習</td><td>語幹母音変化動詞</td><td>授業後、動詞の活用と用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>これまでの見直し (発展練習 1、p. 28～p. 31)</td><td>テストの見直しをして理解できていない箇所を復習 目的格代名詞</td><td>試験前に既習事項 (特に動詞の活用) を復習しておくこと。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>前々回の復習 第10課: 交通手段など、文法のポイント</td><td>その他の不規則動詞 (oir、venir、ir、decir など) の活用と用法</td><td>授業後、受身表現を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>前回の復習 第10課: 基本練習、応用練習</td><td>目的格代名詞 (間接)</td><td>授業後、形容詞・副詞の最上級を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>前回の復習 第11課: 趣味、文法のポイント</td><td>gustar、比較</td><td>授業後、不規則変化動詞の活用と用法を復習する 会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>前回の復習 第11課: 基本練習、応用練習</td><td>弱点の克服</td><td>会話文を声に出して繰り返し練習する。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>理解度確認テスト (2)</td><td>後期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験と総復習</td><td>授業前に後期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の学習内容の確認 (1)	前期で学習したことの確認 (動詞の活用を中心に)	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと。 授業後は動詞の活用の確認。	2	前期の学習内容の確認 (2)	前期で学習したことの確認	授業後、月名・曜日・日付に関する語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	3	第7課: 月と曜日、文法のポイント	直接目的語、saber、conocer 1 人称単数形が不規則な動詞	授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。	4	前回の復習 第7課: 基本練習と応用練習	直接目的語を使った文 不規則動詞の活用	会話文を声に出して繰り返し練習する。	5	前回の復習 第8課: 身の回りの品々、色 文法のポイント、基本練習	間接目的語、語幹母音変化動詞、tener	授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。	6	前回の復習 第8課: 応用練習	語幹母音変化動詞の活用	授業後、規則動詞の確認をすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	7	理解度確認テスト (1) 第9課: 情報のやり取り	7 課、8 課の内容についての確認テスト	授業後、動詞の活用を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。 この回から対面授業とする	8	理解度確認テストの復習 第9課: 文法のポイント、基本練習	語幹母音変化動詞 (o→ue ; e→i)	語幹母音変化動詞の活用をしっかり練習すること	9	前回の復習 第9課応用練習	語幹母音変化動詞	授業後、動詞の活用と用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	10	これまでの見直し (発展練習 1、p. 28～p. 31)	テストの見直しをして理解できていない箇所を復習 目的格代名詞	試験前に既習事項 (特に動詞の活用) を復習しておくこと。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	11	前々回の復習 第10課: 交通手段など、文法のポイント	その他の不規則動詞 (oir、venir、ir、decir など) の活用と用法	授業後、受身表現を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	12	前回の復習 第10課: 基本練習、応用練習	目的格代名詞 (間接)	授業後、形容詞・副詞の最上級を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。	13	前回の復習 第11課: 趣味、文法のポイント	gustar、比較	授業後、不規則変化動詞の活用と用法を復習する 会話文を声に出して繰り返し練習する。	14	前回の復習 第11課: 基本練習、応用練習	弱点の克服	会話文を声に出して繰り返し練習する。	15	理解度確認テスト (2)	後期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験と総復習	授業前に後期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の学習内容の確認 (1)	前期で学習したことの確認 (動詞の活用を中心に)	授業前に前期で学習したことを総復習しておくこと。 授業後は動詞の活用の確認。																																																																
2	前期の学習内容の確認 (2)	前期で学習したことの確認	授業後、月名・曜日・日付に関する語彙を覚えること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
3	第7課: 月と曜日、文法のポイント	直接目的語、saber、conocer 1 人称単数形が不規則な動詞	授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
4	前回の復習 第7課: 基本練習と応用練習	直接目的語を使った文 不規則動詞の活用	会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
5	前回の復習 第8課: 身の回りの品々、色 文法のポイント、基本練習	間接目的語、語幹母音変化動詞、tener	授業後、会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
6	前回の復習 第8課: 応用練習	語幹母音変化動詞の活用	授業後、規則動詞の確認をすること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
7	理解度確認テスト (1) 第9課: 情報のやり取り	7 課、8 課の内容についての確認テスト	授業後、動詞の活用を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。 この回から対面授業とする																																																																
8	理解度確認テストの復習 第9課: 文法のポイント、基本練習	語幹母音変化動詞 (o→ue ; e→i)	語幹母音変化動詞の活用をしっかり練習すること																																																																
9	前回の復習 第9課応用練習	語幹母音変化動詞	授業後、動詞の活用と用法を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
10	これまでの見直し (発展練習 1、p. 28～p. 31)	テストの見直しをして理解できていない箇所を復習 目的格代名詞	試験前に既習事項 (特に動詞の活用) を復習しておくこと。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
11	前々回の復習 第10課: 交通手段など、文法のポイント	その他の不規則動詞 (oir、venir、ir、decir など) の活用と用法	授業後、受身表現を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
12	前回の復習 第10課: 基本練習、応用練習	目的格代名詞 (間接)	授業後、形容詞・副詞の最上級を確認すること。 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
13	前回の復習 第11課: 趣味、文法のポイント	gustar、比較	授業後、不規則変化動詞の活用と用法を復習する 会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
14	前回の復習 第11課: 基本練習、応用練習	弱点の克服	会話文を声に出して繰り返し練習する。																																																																
15	理解度確認テスト (2)	後期に学習した文法および語彙・基本表現の臨時試験と総復習	授業前に後期に学習した文法や語彙・表現を総確認しておくこと。																																																																
関連科目	エリア・スタディーズ (ラテンアメリカ)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Accion !</td><td>四宮、落合他</td><td>白水社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Accion !	四宮、落合他	白水社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Accion !	四宮、落合他	白水社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典</td><td>高垣ほか</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣ほか	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回出す課題 30 % ; ときどき行なう単語テスト 20 % ; 2 度の到達度確認テスト 50 %																																																																		
学生へのメッセージ	今学期では、前期で学習したことをさらに進めて多くの表現ができるようになります。間違いを怖れず積極的に会話をしましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		

備考	事前・事後学修に各 1 時間を要する。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。
----	---

科目名	スペイン語Ⅲ	科目名 (英文)	Spanish III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LSP1326e1		

授業概要・目的	スペイン語Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト『イメージ・スペイン語』を継続使用して授業を行う。 スペイン語を学ぶことにより、広域にまたがるスペイン語圏の文化について知り、世界観を広げる。
到達目標	スペイン語を読む、書く、聴く・話すことができるようになる。
授業方法と留意点	Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行う。教材の配布や課題の提出には WebFolder を用いる。 「スペイン語Ⅱ」までの学習範囲 (第 6 課まで) を復習することから始め、テキストの第 10 課までを学習する。 以下に記す授業計画は目安であり、受講生の理解度によって進度を調整することがある。
科目学習の効果 (資格)	スペイン語検定 5 級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スペイン語Ⅰ・Ⅱの学習内容の確認と復習 (1)	スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ文法事項や表現を復習する。 自己紹介の会話。	事前にスペイン語Ⅰ・Ⅱを見直し、復習しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	2	スペイン語Ⅰ・Ⅱの学習内容の確認と復習 (2)	スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ文法事項や表現を復習する。	事前にスペイン語Ⅰ・Ⅱを見直し、復習しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	3	スペイン語Ⅰ・Ⅱの学習内容の確認と復習 (3)	スペイン語Ⅰ、Ⅱで学んだ文法事項や表現を復習する。	事前にスペイン語Ⅰ・Ⅱを見直し、復習しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	4	第 7 課	語幹母音変化動詞	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	5	第 7 課	天候表現 直接目的格人称代名詞	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	6	第 8 課	動詞 oir, venir, saber, conocer	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	7	第 8 課	間接目的格人称代名詞 動詞 dar, decir, traer	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	8	第 8 課	第 7-8 課の弱点克服	テキスト第 7-8 課で学習した文法・語彙・表現を見直し、復習しておくこと。
	9	理解度確認テスト (1) と見直し	第 7-8 課の理解度を確認する 見直しと復習	理解度確認テストに備えて総復習をしておくこと。
	10	第 9 課	再帰動詞とその用法	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	11	第 9 課	義務の表現	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	12	第 10 課	前置詞格人称代名詞 動詞 gustar	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。
	13	第 10 課	gustar 型動詞 所有形容詞後置形	テキスト第 12・13 課で学習した文法・語彙・表現を見直し、復習しておくこと。
	14	総復習	第 9-10 課の弱点克服 これまでの学習の総復習	前期で学習した内容を見直し、復習しておくこと。
	15	理解度確認テスト (2)	これまで学習した内容についての理解度を確認する 見直しと復習	理解度確認テストに備えて総復習をしておくこと。

関連科目	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Espanol en imagenes (イメージ・スペイン語)	エウヘニオ・デル・ブラド他 他	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博 他	小学館
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題提出・その内容 40%、理解度確認テスト 40%、授業における応答 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	スペイン語を通じて世界観を広げましょう。
-----------	----------------------

担当者の研究室等	北條研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
----------	--

備考	週 1 時間程度の事前・事後学習が必要。
----	----------------------

科目名	スペイン語Ⅳ	科目名 (英文)	Spanish IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LSP1327el		

授業概要・目的	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに引き続きテキスト『Espanol en imagenes (イメージ・スペイン語)』を使用して授業を進める。 後期では第11課から第16課まで学習する。 読む・聴く・話すに重点をおき、会話力をさらに高めることを目的とする。																																																																		
到達目標	語彙を増やし、多くの表現法を学ぶことで会話力をつける。 スペイン語圏に関する知識と興味をさらに深める。																																																																		
授業方法と留意点	・7週目までTeams上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。8週目から対面授業とする。 ・授業中は間違いを恐れず、スペイン語で積極的に発言するよう心がけること。 ・不安や疑問点は質問し、必ず解決を図ること。 ・必要に応じて小テストを実施する。 ・大学内でオンライン授業を受講する場合、配当されている教室での受講が可能。 以下に記す授業計画は目安であり、受講生の理解度によって進度を調整することがある。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	. スペイン語検定 5 級～4 級																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>前期の学習内容の確認(1)</td><td>前期で習った文法事項や表現を復習する (第7-8課)</td><td>予習として、第7-8課を見直しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>前期の学習内容の確認(2)</td><td>前期で習った文法事項や表現を復習する (第9-10課)</td><td>予習として、第9-10課を見直しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第11課 (1)</td><td>比較級 最上級</td><td>授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第11課 (2)</td><td>前回の復習 不定語・否定語 感嘆文</td><td>授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第12課 (1)</td><td>前回の復習 直説法点過去 (規則活用)</td><td>授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第12課 (2)</td><td>前回の復習 直説法点過去 (不規則活用)</td><td>授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 理解度確認テストに備えておくこと。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第11-12課のまとめ 理解度確認テスト (1)</td><td>比較表現と直説法点過去の復習 理解度確認テスト後の解答・解説</td><td>理解度確認テストの間違いを見直すこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>第13課 (1)</td><td>直説法線過去 点過去と線過去の使い分け(1)</td><td>授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第13課 (2)</td><td>点過去と線過去の使い分け(2)</td><td>授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第14課 (1)</td><td>過去分詞 直説法現在完了</td><td>授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第14課 (2)</td><td>前回の復習 直説法過去完了</td><td>授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 理解度確認テストに備えておくこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第13-14課のまとめ 理解度確認テスト (2)</td><td>直説法点過去、線過去、現在完了、過去完了の復習 理解度確認テスト後の解答・解説</td><td>理解度確認テストの間違いを見直すこと。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第15課</td><td>現在分詞 関係詞</td><td>授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第16課</td><td>直説法未来 直説法過去未来</td><td>これまでの学習内容を見直し、復習しておくこと。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>理解度確認テスト (3)</td><td>後期で学習した内容の理解度を確認する。 理解度確認テスト後の解答・解説</td><td>これまでの総復習をしておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の学習内容の確認(1)	前期で習った文法事項や表現を復習する (第7-8課)	予習として、第7-8課を見直しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	2	前期の学習内容の確認(2)	前期で習った文法事項や表現を復習する (第9-10課)	予習として、第9-10課を見直しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	3	第11課 (1)	比較級 最上級	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	4	第11課 (2)	前回の復習 不定語・否定語 感嘆文	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	5	第12課 (1)	前回の復習 直説法点過去 (規則活用)	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	6	第12課 (2)	前回の復習 直説法点過去 (不規則活用)	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 理解度確認テストに備えておくこと。	7	第11-12課のまとめ 理解度確認テスト (1)	比較表現と直説法点過去の復習 理解度確認テスト後の解答・解説	理解度確認テストの間違いを見直すこと。	8	第13課 (1)	直説法線過去 点過去と線過去の使い分け(1)	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	9	第13課 (2)	点過去と線過去の使い分け(2)	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	10	第14課 (1)	過去分詞 直説法現在完了	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	11	第14課 (2)	前回の復習 直説法過去完了	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 理解度確認テストに備えておくこと。	12	第13-14課のまとめ 理解度確認テスト (2)	直説法点過去、線過去、現在完了、過去完了の復習 理解度確認テスト後の解答・解説	理解度確認テストの間違いを見直すこと。	13	第15課	現在分詞 関係詞	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。	14	第16課	直説法未来 直説法過去未来	これまでの学習内容を見直し、復習しておくこと。	15	理解度確認テスト (3)	後期で学習した内容の理解度を確認する。 理解度確認テスト後の解答・解説	これまでの総復習をしておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の学習内容の確認(1)	前期で習った文法事項や表現を復習する (第7-8課)	予習として、第7-8課を見直しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
2	前期の学習内容の確認(2)	前期で習った文法事項や表現を復習する (第9-10課)	予習として、第9-10課を見直しておくこと。 授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
3	第11課 (1)	比較級 最上級	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
4	第11課 (2)	前回の復習 不定語・否定語 感嘆文	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
5	第12課 (1)	前回の復習 直説法点過去 (規則活用)	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
6	第12課 (2)	前回の復習 直説法点過去 (不規則活用)	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 理解度確認テストに備えておくこと。																																																																
7	第11-12課のまとめ 理解度確認テスト (1)	比較表現と直説法点過去の復習 理解度確認テスト後の解答・解説	理解度確認テストの間違いを見直すこと。																																																																
8	第13課 (1)	直説法線過去 点過去と線過去の使い分け(1)	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
9	第13課 (2)	点過去と線過去の使い分け(2)	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
10	第14課 (1)	過去分詞 直説法現在完了	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
11	第14課 (2)	前回の復習 直説法過去完了	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。 理解度確認テストに備えておくこと。																																																																
12	第13-14課のまとめ 理解度確認テスト (2)	直説法点過去、線過去、現在完了、過去完了の復習 理解度確認テスト後の解答・解説	理解度確認テストの間違いを見直すこと。																																																																
13	第15課	現在分詞 関係詞	授業後、学習した語句・表現を繰り返し練習し覚えること。																																																																
14	第16課	直説法未来 直説法過去未来	これまでの学習内容を見直し、復習しておくこと。																																																																
15	理解度確認テスト (3)	後期で学習した内容の理解度を確認する。 理解度確認テスト後の解答・解説	これまでの総復習をしておくこと。																																																																
関連科目	スペイン語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Espanol en imagenes (イメージ・スペイン語)</td><td>エウヘニオ・デル・ブラド 他</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Espanol en imagenes (イメージ・スペイン語)	エウヘニオ・デル・ブラド 他	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Espanol en imagenes (イメージ・スペイン語)	エウヘニオ・デル・ブラド 他	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典</td><td>高垣敏博 他</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博 他	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ポケット・プログレッシブ西和・和西辞典	高垣敏博 他	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題の提出と質 50%、小テストおよび理解度確認テスト 50%																																																																		
学生へのメッセージ	声に出して話すことで会話は上達します。間違いを怖れずに積極的に会話に参加して下さい。新しい表現が増えてきますが、会話を通して身につけましょう。																																																																		
担当者の	7号館5階 北條研究室																																																																		

研究室等	
備考	週 1 時間ほどの事前・事後学習が必要。 毎回の授業のはじめに、前回の学習内容に関する質問等を受け付けフィードバックを行う。

科目名	インドネシア語Ⅰ	科目名（英文）	Indonesian I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LIN1328e1		

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語の基礎的な会話能力の修得を目的とする。 インドネシアの日常生活のさまざまな場面において役に立つ表現を学ぶ。 インドネシア語の学習を通じてインドネシアはもちろん、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、オランダ、東ティモールにも関心を高める。
到達目標	この授業では、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指す。 インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした会話演習をおこなう。 声に出して繰り返し練習することを重視する。 授業内に質疑応答の時間も設ける。
科目学習の効果（資格）	インドネシア語技能検定試験に役立つ。 旅行に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。 インドネシア語の特徴を説明する。	授業で学んだことを復習しておくこと(1 時間)。
	2	文字と発音	アルファベットの読み方を説明したのち演習をおこなう。	インドネシア語のアルファベットを正確に読めるようにしておくこと(1 時間)。
	3	発音	基本単語の発音を説明したのち演習をおこなう。	配布された「発音」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 授業で習った基本単語を声に出して練習しておくこと(1 時間)。
	4	挨拶（１）	挨拶表現を説明したのち演習をおこなう。	配布された「挨拶（１）」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 「挨拶（１）」のプリントの会話部分を復習すること(1 時間)。
	5	挨拶（２）	感謝表現・謝罪表現を説明したのち演習をおこなう。	配布された「挨拶（２）」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 「挨拶（２）」のプリントの会話部分を復習すること(1 時間)。
	6	紹介（１）	自己紹介の表現・人称代名詞を説明したのち演習をおこなう。	配布された「紹介（１）」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 「紹介（１）」のプリントの会話部分、人称代名詞について復習すること(1 時間)。
	7	紹介（２）	自己紹介の表現・疑問詞を用いた表現を説明したのち演習をおこなう。	配布された「紹介（２）」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 「紹介（２）」のプリントの会話部分、疑問詞について復習すること(1 時間)。
	8	紹介（３）	家族や友人を紹介をする表現・疑問詞を用いた表現を説明したのち演習をおこなう。	配布された「紹介（３）」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)と。 「紹介（３）」のプリントの会話部分を復習すること(1 時間)。
	9	8 回までのまとめ	これまでに学んだことの復習をおこなう。 中間テストを実施したのち解説をおこなう。	これまでに配布された全てのプリントで学んだことを復習しておくこと(1 時間)。 中間テストで間違えたところを再確認しておくこと(1 時間)。
	10	数詞（１）	数詞の仕組みを説明する。	配布された「数詞（１）」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 数詞の仕組みを復習しておくこと(1 時間)。
	11	数詞（２）	序数詞や分数を説明したのち、演習をおこなう。	配布された「数詞（２）」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 序数詞や分数の表現を復習しておくこと(1 時間)。
	12	数詞（３）	電話番号の表現や数詞を用いた表現の演習をおこなう。	配布された「数詞（３）」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 電話番号の言い方と数詞の練習問題について復習しておくこと(1 時間)。
	13	数詞（４）	日付の表現を説明したのち、演習をおこなう。	配布された「数詞（４）」のプリントに目を通しておくこと(1 時間)。 日付の言い表し方について復習しておくこと(1 時間)。
	14	10 回から 13 回までのまとめ	数詞を使った表現の復習と演習をおこなう。	10 回から 13 回までに配布された数詞のプリントを中心に復習しておくこと(1 時間)。 不明な点を明らかにしておくこと(1 時間)。
	15	総復習	これまでに学んだことの総復習として理解度確認テストを実施する。その後、解説をおこなう。	理解度確認テストに臨むため、これまでに学んできたことを振り返っておくこと(1 時間)。 理解度確認テストで間違えたところを再度復習しておくこと(1 時間)。

関連科目	インドネシア語Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中に随時実施する課題 20%、授業中の演習と発表に対する取り組み 200%、 中間テスト 30%、理解度確認テスト 30%			
学生への メッセージ	1. できるだけ大きな声で発音するようにしましょう。 2. 普段の生活でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探してください。 3. シンガポールやマレーシア、ブルネイ、オランダ、東ティモールへ旅行する際にもインドネシア語が役立つことがあります。積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	3 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考	1 事前学習と事後学習は毎週少なくとも 2 時間以上おこなうこと。 2. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。 3. 中間試験と総復習試験終了後に教室で全問の解説をおこなう。また理解が足りないところの復習方法も説明する。			

科目名	インドネシア語Ⅱ	科目名 (英文)	Indonesian II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LIN1329e1		

授業概要・目的	本授業は、インドネシア語における基礎的な会話能力の修得を目的とする。日常生活のさまざまな場面で役に立つ表現を学ぶ。
到達目標	この授業では、前期の「インドネシア語Ⅰ」に引き続き、基本的なインドネシア語運用能力の修得を目指し、インドネシアへ旅行に出かけたり、インドネシア人と話す機会において不自由のない実力をつけることができる。 またインドネシアの人の日常的な習慣について理解を深めることもできる。 インドネシア語の学習を通じてインドネシアだけではなく、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、オランダ、東ティモールにも関心を高めることができる。
授業方法と留意点	配布するプリントを用いて基礎会話を中心とした会話演習をおこなう。 声に出して繰り返し練習することを重視する。 授業内に質疑応答の時間も設ける。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語技能検定に役立つ。 旅行に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションと復習	1. 授業のすすめ方について説明する。 2. 前期の「インドネシア語Ⅰ」で学んだことの復習をおこなう。	・前期の項目を復習してから授業に臨むこと (1 時間)。 ・学習項目の復習 (1 時間)
	2	曜日 (1)	曜日と月の言い表し方を説明したのち、演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	3	曜日 (2)	季節の表現方法を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	4	時間 (1)	時間と時刻の言い表し方を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	5	時間 (2)	時間と時間の表現を用いた会話演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	6	色 (1)	色および形容詞を使った表現を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	7	色 (2)	助数詞を用いた表現を説明する。 色と助数詞を用いた表現の会話演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	8	復習	1. これまでに学んだことの理解を確認するために中間試験をおこなう。 2. 試験後に理解が足りないところについて説明をおこなう。	中間テストに向けてこれまでに学んだことの再確認 (3 時間)
	9	ショッピング (1)	値段の尋ねる表現方法を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	10	ショッピング (2)	店での会話表現を説明したのち会話演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	11	ショッピング (3)	買い物の際に役に立つさまざまな表現を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	12	位置 (1)	位置の表現方法を説明したのち演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	13	位置 ②	道を尋ねる表現を説明したのち会話演習をおこなう。	・プリントの会話部分を練習して覚え、単語の綴りと意味を覚えること (2 時間)
	14	9 回～13 回までのまとめ	ショッピングでの会話や位置に関する表現の復習をおこなう。	・9 回～13 回までに学んできたことの再確認 (2 時間) ・いまままでに学んだ単語の綴りと意味を確認すること (2 時間)
	15	総復習	1. これまでに学んだことの理解度を確認するための総復習試験をおこなう。 2. 試験後に理解が足りないところについて説明をおこなう。	これまでに学んだことの再確認 (2 時間)

関連科目	インドネシア語Ⅰ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業中に随時実施する課題 20%、授業中の会話演習と発表に対する取り組み 20%、中間試験 30%、総復習試験 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	1. できるだけ大きな声で発音するようにしましょう。 2. 普段の生活でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探して接してください。
-----------	---

担当者の	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
------	----------------------------------

研究室等	
備考	1 基本的に事前学習は必要ないが、事後学習は毎週少なくとも2時間以上はこなうこと。 2. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。 3. 中間試験と総復習試験終了後に教室で全問の解説をおこなう。また理解が足りないところの復習方法も説明する。

科目名	インドネシア語Ⅲ	科目名 (英文)	Indonesian III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LIN1330e1		

授業概要・目的	本授業はインドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。 文法説明、講読練習、作文練習をおこなう。会話演習も随時おこなう。 インドネシア語の学習を通じてインドネシアはもちろん、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、オランダ、東ティモールにも関心を高める。
到達目標	短文を読み書きできるとともに会話能力も発揮できるよう、文法力・読解力・作文力・会話能力のバランスが取れたインドネシア語運用能力の育成をめざす。
授業方法と留意点	1. テキストはプリントを配布する。 2. 毎回、短文の読解と作文から成る演習と会話演習、発表を課す。 3. 随時、小試験をおこなう。 4. 会話演習は繰り返し練習することを重視する。 5. 授業内に質疑応答の時間も設ける。
科目学習の効果 (資格)	インドネシア語の能力向上とともに、インドネシア語技能検定試験に役立つ。 旅行にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方の説明 インドネシア、インドネシア語の説明 綴りと発音の練習	発音の復習 (1 時間)
	2	文法 1 ・会話 1	名詞文「～です」「これは～です」の文型や文法、語順を説明する。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	3	文法 2 ・会話 2	人称代名詞の復習と、名詞文や語順の復習をおこなう。 講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 練習問題の復習。 3. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	4	文法 3 ・会話 3	基語動詞の用法を説明する。 講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	5	文法 4 ・会話 4	基語動詞と前置詞の用法を説明する。 講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	6	文法 5 ・会話 5	接頭辞 ber- の語形と用法を説明する。 講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 学んだ語形の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	7	文法 6 ・会話 6	接頭辞 meN- の語形を説明する。 会話練習をおこなう。	1. 学んだ語形の徹底。 2. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 3. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	8	文法 7 ・会話 7	接頭辞 meN- の用法を説明する。 講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 学んだ語形の徹底。 2. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 3. 会話練習の復習。 4. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	9	いままでの復習 1	いままでに学んだ事項の理解度を確認するために中間試験をおこなう。 試験終了後に理解の足りない事項をとりあげて説明をする。	第 8 回までに学んだことの総復習。(2 時間)
	10	文法 8 ・会話 8	時制をあらわす助動詞の用法を説明する。 講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 会話練習の復習。 3. 練習問題の復習。
	11	文法 9 ・会話 9	日付、時刻、時間の表現を説明する。 講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	12	文法 10 ・会話 10	時制以外の助動詞の用法について説明する。 講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	13	文法 11 ・会話 11	形容詞と副詞の用法を説明する。講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語の発音・綴り・意味を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 会話練習の復習。 (合計 2 時間)
	14	いままでの復習 2	いままでに既習した事項を含むやや複	第 13 回までに学んだことの総復習。(合計 2 時間)

			雑な文を用いて講読練習、作文練習、会話練習をおこなう。	
	15	総復習	いままでに学んだ事項の理解度を確認するために総復習試験をおこなう。試験終了後に理解の足りない事項をとりあげて説明する。	第14回までに学んだことの総復習。(合計2時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中に随時実施する課題 20%、授業中の演習や発表に対する取り組み 20%、中間試験 30%、総復習試験 30%			
学生への メッセージ	1. 今後さらに発展が見込まれるインドネシアの国語であるインドネシア語能力を身につけると、必ず将来の役に立ちます。 2. 比較的学びやすいインドネシア語は、復習をすればするほど確実に身につきます。一緒にがんばりましょう。 3. 普段の生活でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探して接してください。 4. シンガポールやマレーシア、ブルネイ、東ティモール、オランダへ旅行する際にもインドネシア語が役に立つことがあります。積極的に授業に参加してください。			
担当者の 研究室等	3号館2階(非常勤講師室)			
備考	1. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。 2. 随時課す単語小試験の模範解答は授業中に提示する。 3. 中間試験と総復習試験終了後は授業中に全問の模範解答と提示し、解説もおこなう。 また理解が足りないところの復習方法も説明する。 4. 基本的に事前学習は必要ないが、事後学習には毎週少なくとも2時間以上を充てること。			

科目名	インドネシア語Ⅳ	科目名 (英文)	Indonesian IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大坪 紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LIN1331el		

授業概要・目的	本授業はインドネシア語の中級レベルの運用能力を育成する。 やや複雑な文法の説明、講読練習、作文練習をおこなう。会話練習も随時おこなう。
到達目標	・中級レベルのインドネシア語運用能力をめざす。すなわち、 1. やや複雑な文章を理解できる。 2. やや複雑な文法を使った作文ができる。 3. やや複雑な文法を使った会話が理解できる。
授業方法と留意点	1. テキストはプリントを配布する。 2. 毎回、短文の読解と作文から成る演習や課題を課す。 3. 授業内に質疑応答の時間も設ける。
科目学習の効果 (資格)	1. インドネシア語能力の向上。 2. インドネシア語技能検定試験に役立つ。 3. インドネシアはもちろん、シンガポールやマレーシアへの旅行にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	1. 授業の進め方を説明する。 2. 既習事項の確認と復習。	既習事項を復習すること。
	2	文法 1	接尾辞-an、接頭辞 pe-を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	3	文法 2	同等・比較・最上級の表現を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 接頭辞 me-の復習。 (合計 3 時間)
	4	文法 3	接頭辞 di-を学習する。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	5	文法 4	接頭辞 ter-を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 過去に学習した疑問詞を整理しておくこと。 (合計 2 時間)
	6	文法 5	疑問詞を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 練習問題の復習。 (合計 2 時間) 第 7 回の予習として今までに学んだ事項の総復習。 (合計 3 時間以上)
	7	復習 1	第 6 回までに学んだ事項の理解度を確認するために中間試験をおこなう。試験後に理解の足りない事項の説明をおこなう。	第 6 回までに学んだ事項の総復習。(合計 3 時間以上)
	8	文法 6	共接辞 ber--an, per--an を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	9	文法 7	共接辞 pe--an を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 4. 第 10 回目への予習として、過去に学んだ接続詞を整理しておくこと。 (合計 2 時間)
	10	文法 8	接続詞を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	11	文法 9	共接辞 ke--an、接尾辞-nya を学習する。 短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	12	文法 10	接尾辞-i, -kan を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	13	文法 11	接頭辞 member-を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。 (合計 2 時間)
	14	1. 文法 12 2. 復習 2	1. 重複の形態と機能を学習する。短文読解、作文練習、会話練習をおこなう。 2. 第 14 回までに学んだ事項の復習	1. 新出単語を覚える。 2. 文法の徹底。 3. 練習問題の復習。

				(合計 2 時間) 第 14 回までに学んだ事項の総復習。(合計 3 時間以上)																
	15	総復習	第 14 回までに学んだ事項の理解度を確 認するために総復習試験をおこなう。試 験終了後に理解の足りない事項を説明 する。	今までに学んだ事項の総復習と練習問題に取り組 むこと。 総復習試験をもういちど解くこと。(合計 3 時間)																
関連科目	インドネシア語、マレー語、東南アジア関係の授業すべて。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業中に随時実施する課題 20%、授業中の演習や発表に対する取り組み 20%、中間試験 30%、総復習試験 30%																			
学生への メッセージ	1. 比較的学びやすいインドネシア語は、復習をすればするほど確実に身につきます。一緒にがんばりましょう。 2. 自分の関心分野にあわせて、日常でも積極的にインドネシア関連のニュースや音楽・映画などを探して接してください。																			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）																			
備考	1. 随時課す課題の模範解答は授業中に提示する。 2. 理解が足りないところは授業中に再度説明する。 3. 中間試験と総復習試験終了後は授業中に全問の模範解答と提示して講評をおこなう。復習方法も説明する。 4. 授業時間以外での質問は非常勤講師室にて昼休みに対応する。																			

科目名	フランス語 I	科目名 (英文)	French I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中井 裕之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LFR1332e1		

授業概要・目的	本授業の目的はフランス語による基礎的コミュニケーション能力の育成にあります。挨拶、注文、道の尋ね方など、日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現をこの授業では学びます。
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。例えば、日本に旅行に来ているフランス人に偶然、街で出会ったとします。その時フランス語で声をかけてみたくはないでしょうか？あるいはフランスに旅行に行ったとします。レストランで注文する時、店でショッピングをする時、直接フランス語でやりとりがしたくはないでしょうか？この授業を取ればそれが可能となります。
授業方法と留意点	Moodle を用いた遠隔授業を行う。 教科書『話したくなるフランス語』を使用するので購入すること。基本的なフランス語の表現を学んでいく。 毎回の授業について、最低 1 時間を目安とした事前・事後学習を求める。
科目学習の効果 (資格)	仏検 (実用フランス語技能検定試験) 5 級へ向けた学力の準備をする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	フランス語会話 (基礎) の学び方の説明 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書、辞書の説明	テキスト全体に目を通し、どういったことを学習するかイメージをつかんでおく
	2	『話したくなるフランス語』導入 (pp. 2-3)	アルファベとその読み方	『話したくなるフランス語』導入部の予習復習
	3	『話したくなるフランス語』第 1 課 (pp. 4-9)	物の名前を正確に言う 数字の読み方 (1)	『話したくなるフランス語』第 1 課の予習復習、練習問題 1
	4	『話したくなるフランス語』第 1 課つづき	文法事項：男性名詞と女性名詞 名詞の複数形 つづり字と発音 (1)	『話したくなるフランス語』第 1 課の予習復習、練習問題 2
	5	『話したくなるフランス語』第 2 課 (pp. 10-15)	基本的な動詞を使い、習慣になっている行為や仕事や仕事や住んでいる場所などについて話す 国、都市の名前	『話したくなるフランス語』第 2 課の予習復習、練習問題 3
	6	『話したくなるフランス語』第 2 課つづき	文法事項：否定文 つづり字と発音 (2)	『話したくなるフランス語』第 2 課の予習復習、練習問題 4、練習問題 5
	7	『話したくなるフランス語』第 3 課 (pp. 16-21)	好き嫌いの言い方 食べ物、飲み物の名前	『話したくなるフランス語』第 3 課の予習復習、練習問題 6、練習問題 7
	8	『話したくなるフランス語』第 3 課つづき	文法事項：定冠詞、est-ce que を用いる疑問文 リエゾン・エリズィオン・アンシェヌマン 主語人称代名詞、-er 動詞の変化	『話したくなるフランス語』第 3 課の予習復習、練習問題 8
	9	『話したくなるフランス語』第 4 課 (pp. 22-27)	人の身分や特徴の表現 国籍、職業の呼び方	『話したくなるフランス語』第 4 課の予習復習、練習問題 9、練習問題 10
	10	『話したくなるフランス語』第 4 課つづき	文法事項：形容詞の男性形と女性形 ETRE の変化	『話したくなるフランス語』第 4 課の予習復習、練習問題 11、練習問題 12
	11	『話したくなるフランス語』第 5 課 (pp. 28-33)	動詞 avoir を使った表現 親族の名称	『話したくなるフランス語』第 5 課の予習復習、練習問題 13、練習問題 14
	12	『話したくなるフランス語』第 5 課つづき	文法事項：不定冠詞、部分冠詞、否定の冠詞 avoir の変化 つづり字と発音 (3)	『話したくなるフランス語』第 5 課の予習復習、練習問題 15、練習問題 16、練習問題 17
	13	『話したくなるフランス語』第 6 課 (pp. 34-39)	動詞 aller を使った表現 乗り物の言い方	『話したくなるフランス語』第 6 課の予習復習、練習問題 18
	14	『話したくなるフランス語』第 6 課つづき	文法事項：前置詞と定冠詞の縮約 指示形容詞 aller の変化	『話したくなるフランス語』第 6 課の予習復習、練習問題 19、練習問題 20
	15	まとめ	前期学習内容の確認とまとめ	前期学習内容の理解のチェックと復習

関連科目	後期のフランス語 II を合わせて履修することが望ましい
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	フランス文法総まとめ	東郷雄二 [著]	白水社
	2	フランス語 1 (' 18)	バトリック・ドゥヴォス、桑田光平 [著]	放送大学教育振興会
	3	フランス語 2 (' 18)	バトリック・ドゥヴォス、森元庸介 [著]	放送大学教育振興会

評価方法 (基準)	課題の提出により評価を行う。(100%)
学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をすることの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。
担当者の	非常勤講師室 (3 号館 2 階)

研究室等	
備考	連絡等はMoodle 上にて行う。 毎回の授業について、最低1時間を目安とした事前・事後学習を求める。

科目名	フランス語Ⅱ	科目名（英文）	French II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中井 裕之
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LFR1333e1		

授業概要・目的	この授業では、前期に引き続き、フランス語の基礎的コミュニケーション能力の習得を目指します。挨拶、注文、道の尋ね方など日常生活の様々な場面で役立つフランス語の表現を学びます。フランス語で話す喜びを感じてください。楽しい授業を目指します。																																																																		
到達目標	この授業を受講すれば、学生は初歩的なフランス語が話せるようになります。基本的なフランス語の言いまわしやを繰り返し練習することで、単に頭で理解できているばかりでなく、場面・状況に応じた表現が自然と口について出るようになります。																																																																		
授業方法と留意点	Moodle を用いた遠隔授業を行う。授業の第8回目から対面授業に切り替わる。 教科書『話したくなるフランス語』および仏和辞典を使用するので購入すること。 対面授業の教材などについては適宜連絡する。 基本的なフランス語の表現を学んでいく。 毎回の授業について、最低1時間を目安とした事前・事後学習を求める。																																																																		
科目学習の効果（資格）	仏検（実用フランス語技能検定試験）5 級に相当する学力を目指す。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>後期オリエンテーション</td><td>後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明</td><td>テキストの後期学習範囲に目を通しておく</td></tr> <tr> <td>2</td><td>動詞活用表</td><td>さまざまな動詞の活用</td><td>『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表</td></tr> <tr> <td>3</td><td>『話したくなるフランス語』第7課（pp. 40-45）</td><td>人、物をたずねる表現 フランス人の名前</td><td>『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題 21</td></tr> <tr> <td>4</td><td>『話したくなるフランス語』第7課つづき</td><td>文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音（4） CONNAITRE の変化</td><td>『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題 22、練習問題 23</td></tr> <tr> <td>5</td><td>『話したくなるフランス語』第8課（pp. 46-51）</td><td>可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現</td><td>『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題 22、練習問題 24</td></tr> <tr> <td>6</td><td>『話したくなるフランス語』第8課つづき</td><td>文法事項：pouvoir の変化 つづり字と発音（5） 条件法</td><td>『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題 25、練習問題 26</td></tr> <tr> <td>7</td><td>『話したくなるフランス語』第9課（pp. 52-57）</td><td>名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現</td><td>『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題 27</td></tr> <tr> <td>8</td><td>『話したくなるフランス語』第9課つづき</td><td>文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ</td><td>『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題 28、練習問題 29</td></tr> <tr> <td>9</td><td>『話したくなるフランス語』第10課（pp. 58-63）</td><td>未来の予定 時刻の言い方</td><td>『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題 30</td></tr> <tr> <td>10</td><td>『話したくなるフランス語』第10課つづき</td><td>文法事項：代名動詞 未来の表わし方</td><td>『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題 31</td></tr> <tr> <td>11</td><td>『話したくなるフランス語』第11課（pp. 64-69）</td><td>過去の表現 月、曜日、日付の言い方</td><td>『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題 32、練習問題 33、練習問題 34</td></tr> <tr> <td>12</td><td>『話したくなるフランス語』第11課つづき</td><td>文法事項：複合過去 半過去</td><td>『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題 35、練習問題 36</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発展的学習（1）</td><td>役に立つ表現と文法事項の補足（1） 会話練習（1）</td><td>『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発展的学習（2）</td><td>役に立つ表現と文法事項の補足（2） 会話練習（2）</td><td>『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>総まとめ</td><td>学習内容の理解のチェック</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	後期オリエンテーション	後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストの後期学習範囲に目を通しておく	2	動詞活用表	さまざまな動詞の活用	『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表	3	『話したくなるフランス語』第7課（pp. 40-45）	人、物をたずねる表現 フランス人の名前	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題 21	4	『話したくなるフランス語』第7課つづき	文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音（4） CONNAITRE の変化	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題 22、練習問題 23	5	『話したくなるフランス語』第8課（pp. 46-51）	可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題 22、練習問題 24	6	『話したくなるフランス語』第8課つづき	文法事項：pouvoir の変化 つづり字と発音（5） 条件法	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題 25、練習問題 26	7	『話したくなるフランス語』第9課（pp. 52-57）	名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題 27	8	『話したくなるフランス語』第9課つづき	文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題 28、練習問題 29	9	『話したくなるフランス語』第10課（pp. 58-63）	未来の予定 時刻の言い方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題 30	10	『話したくなるフランス語』第10課つづき	文法事項：代名動詞 未来の表わし方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題 31	11	『話したくなるフランス語』第11課（pp. 64-69）	過去の表現 月、曜日、日付の言い方	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題 32、練習問題 33、練習問題 34	12	『話したくなるフランス語』第11課つづき	文法事項：複合過去 半過去	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題 35、練習問題 36	13	発展的学習（1）	役に立つ表現と文法事項の補足（1） 会話練習（1）	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習	14	発展的学習（2）	役に立つ表現と文法事項の補足（2） 会話練習（2）	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習	15	まとめ	総まとめ	学習内容の理解のチェック
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	後期オリエンテーション	後期学習へ向けた示唆 授業の内容と進め方の説明 教科書、参考書の説明	テキストの後期学習範囲に目を通しておく																																																																
2	動詞活用表	さまざまな動詞の活用	『話したくなるフランス語』巻末動詞活用表																																																																
3	『話したくなるフランス語』第7課（pp. 40-45）	人、物をたずねる表現 フランス人の名前	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題 21																																																																
4	『話したくなるフランス語』第7課つづき	文法事項：指示代名詞、直接目的語になる人称代名詞 つづり字と発音（4） CONNAITRE の変化	『話したくなるフランス語』第7課の予習復習、練習問題 22、練習問題 23																																																																
5	『話したくなるフランス語』第8課（pp. 46-51）	可能性、許可、依頼の表現 条件法を用いた表現	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題 22、練習問題 24																																																																
6	『話したくなるフランス語』第8課つづき	文法事項：pouvoir の変化 つづり字と発音（5） 条件法	『話したくなるフランス語』第8課の予習復習、練習問題 25、練習問題 26																																																																
7	『話したくなるフランス語』第9課（pp. 52-57）	名詞を代名詞で受ける 頻度を表わす表現	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題 27																																																																
8	『話したくなるフランス語』第9課つづき	文法事項：間接目的語になる人称代名詞 人称代名詞のまとめ	『話したくなるフランス語』第9課の予習復習、練習問題 28、練習問題 29																																																																
9	『話したくなるフランス語』第10課（pp. 58-63）	未来の予定 時刻の言い方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題 30																																																																
10	『話したくなるフランス語』第10課つづき	文法事項：代名動詞 未来の表わし方	『話したくなるフランス語』第10課の予習復習、練習問題 31																																																																
11	『話したくなるフランス語』第11課（pp. 64-69）	過去の表現 月、曜日、日付の言い方	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題 32、練習問題 33、練習問題 34																																																																
12	『話したくなるフランス語』第11課つづき	文法事項：複合過去 半過去	『話したくなるフランス語』第11課の予習復習、練習問題 35、練習問題 36																																																																
13	発展的学習（1）	役に立つ表現と文法事項の補足（1） 会話練習（1）	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習																																																																
14	発展的学習（2）	役に立つ表現と文法事項の補足（2） 会話練習（2）	『話したくなるフランス語』第7課～11課の復習																																																																
15	まとめ	総まとめ	学習内容の理解のチェック																																																																
関連科目	前期のフランス語Ⅰを合わせて履修することが望ましい。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>話したくなるフランス語</td><td>岩間直文</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	話したくなるフランス語	岩間直文	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>フランス文法総まとめ問題集</td><td>東郷雄二〔著〕</td><td>白水社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>フランス語で読む八十日間世界一周</td><td>ジュール・ヴェルヌ〔著〕</td><td>IBC パブリッシング</td></tr> <tr> <td>3</td><td>フランス語で読むシャルル・ペローのおとぎ話</td><td>シャルル・ペロー〔著〕</td><td>IBC パブリッシング</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	フランス文法総まとめ問題集	東郷雄二〔著〕	白水社	2	フランス語で読む八十日間世界一周	ジュール・ヴェルヌ〔著〕	IBC パブリッシング	3	フランス語で読むシャルル・ペローのおとぎ話	シャルル・ペロー〔著〕	IBC パブリッシング																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	フランス文法総まとめ問題集	東郷雄二〔著〕	白水社																																																																
2	フランス語で読む八十日間世界一周	ジュール・ヴェルヌ〔著〕	IBC パブリッシング																																																																
3	フランス語で読むシャルル・ペローのおとぎ話	シャルル・ペロー〔著〕	IBC パブリッシング																																																																
評価方法（基準）	課題（100%） 課題の提出により評価を行う。																																																																		
学生へのメッセージ	楽しくフランス語を学習しましょう。きっと何か新しい発見があると思います。フランス語で会話をするのの楽しさを感じてください。皆さんの参加をお待ちしております。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（7号館2階）																																																																		
備考	連絡等はMoodle上にて行う。 質問等についてもMoodle上にて応じる。 事前・事後学習に各1時間を要する。 教科書『話したくなるフランス語』と仏和辞典が必要となるので入手しておくこと。 対面授業の教材などについては適宜連絡する。																																																																		

科目名	フランス語Ⅲ	科目名 (英文)	French III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤本 武司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LFR1334e1		

授業概要・目的	芸術・観光・歴史・グルメ・服飾など、フランス文化の魅力にふれながら、それらにアプローチする助けになるようなフランス語の知識を少しずつ身につけます。
到達目標	辞書の助けを借りれば、興味のある内容に関する平易なフランス語の文章が理解できる。 旅行の際に役立つような基本的な会話ができる。
授業方法と留意点	毎回テーマを変えて文書や動画でフランスの文化を紹介。それにつながる簡単なフランス語の表現も紹介。それらを用いてフランス語の基礎知識を確認・習得していきます。 特定の教科書は使用せず、テーマに応じた教材をその都度配布し、それに関する課題を提出することとします。 なお、扱うテーマのうちの半分は受講生の希望に従って決定します。
科目学習の効果 (資格)	フランス語検定 5 級～4 級レベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	フランスの諸文化についての一般的な紹介。	フランス文化について、自分に興味のあるテーマをいくつか選択する。
	2	フランスの食文化について (1)。	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	3	フランスの食文化について (2)。	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	4	フランスにおけるマンガ・アニメ、とりわけ日本のマンガ・アニメとの関係 (1)。	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	5	フランスにおけるマンガ・アニメ、とりわけ日本のマンガ・アニメとの関係 (2)。	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	6	フランスの歴史について (1)	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	7	フランスの歴史について (2)	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	8	フランスの音楽について (1)	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	9	フランスの音楽について (2)	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	10	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	11	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	12	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	13	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	14	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	15	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書 (フランス語と日本語) または映像の紹介。 関係するフランス語表現についての演習。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
関連科目				
教科書				

	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	①期末試験は実施しません。 ②評価の内訳はつぎのとおりです： （１）フランス語の知識に関する評価：毎回の授業で課す課題・・・50％ （２）フランス文化の理解に関する評価：授業で扱ったテーマの内容に関する簡単なコメントおよび各自が興味をもったフランス文化に関するレポート・・・50％																
学生への メッセージ	語学は目的ではなく手段です。まずはフランスの諸文化に興味をもていただくことを第一とします。そこで皆さんが興味をもったテーマにアプローチする手段として、必要なフランス語の知識を少しずつ伝授していきます。 したがって、受講にあたってのフランス語の知識のレベルは問いません。 なお、受講者が少ない場合は、受講者それぞれの希望に応じた内容の授業に変更することも可能です。																
担当者の 研究室等	非常勤講師室（3号館2階）																
備考	個人的な質問等は、メール等を利用していつでも対応します。 事前・事後学習に各1時間程度を想定しています。 上記の授業スケジュールは、受講者の希望や授業の進捗状況によって変更することがあります。																

科目名	フランス語Ⅳ	科目名 (英文)	French IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤本 武司
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LFR1335e1		

授業概要・目的	フランス語 III に引き続き、芸術・観光・歴史・グルメ・服飾など、フランス文化の魅力にふれながら、それらにアプローチする助けになるようなフランス語の知識を少しずつ身につけます。
到達目標	辞書の助けを借りれば、興味のある内容に関する平易なフランス語の文章が理解できる。 旅行の際に役立つような基本的な会話ができる。
授業方法と留意点	オンライン（オンデマンド型）にて実施します。 毎回テーマを変えて文書や動画でフランスの文化を紹介。それらにまつわる簡単なフランス語の表現も紹介。それらを用いてフランス語の基礎知識を確認・習得していきます。 特定の教科書は使用せず、テーマに応じた教材をその都度アップし、それに関する課題を提出することとします。 なお、扱うテーマのうちの半分は受講生の希望に従って決定します。
科目学習の効果（資格）	フランス語検定 5 級～4 級レベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	フランスの諸文化についての一般的な紹介。	フランス文化について、自分に興味のあるテーマをいくつか選択する。
	2	ココ・シャネルと服飾について（1）。	テーマに関係する文書（フランス語と日本語訳）または映像（日本語字幕あり）の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	3	ココ・シャネルと服飾について（2）。	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	4	フランスの映画について（1）。	テーマに関係する文書（フランス語と日本語訳）または映像（日本語字幕あり）の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	5	フランスの映画について（2）。	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	6	『レ・ミゼラブル』について（1）	テーマに関係する文書（フランス語と日本語訳）または映像（日本語字幕あり）の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	7	『レ・ミゼラブル』について（2）	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	8	フランスの世界遺産について（1）	テーマに関係する文書（フランス語と日本語訳）または映像（日本語字幕あり）の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	9	フランスの世界遺産について（2）	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	10	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書（フランス語と日本語訳）または映像（日本語字幕あり）の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	11	受講者の希望によるテーマ	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	12	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書（フランス語と日本語訳）または映像（日本語字幕あり）の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	13	受講者の希望によるテーマ	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。
	14	受講者の希望によるテーマ	テーマに関係する文書（フランス語と日本語訳）または映像（日本語字幕あり）の紹介。	紹介された文書・映像の視聴について、簡単なコメントの提出。
	15	受講者の希望によるテーマ	関係するフランス語表現についての解説。	授業で扱ったフランス語表現に関する練習問題。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	①期末試験は実施しません。 ②評価はすべて平常点によって行います。 （1）関係文書や映像に関するコメント（第2、4、6、8、10、12、14回）・・・50% （2）フランス語表現に関する練習問題（第3、5、7、9、11、13、15回）・・・50%
----------	--

学生へのメッセージ	語学は目的ではなく手段です。まずはフランスの諸文化に興味をもつていただくことを第一とします。そこで皆さんが興味をもったテーマにアプローチする手段として、必要なフランス語の知識を少しずつ伝授していきます。 したがって、受講にあたってのフランス語の知識のレベルは問いません（全くの初心者も可）。
-----------	--

	なお、受講者が少ない場合は、受講者それぞれの希望に応じた内容の授業に変更することも可能です。 オンライン授業の特性を活かして、受講者個々のレベルに応じた授業内容とする予定です。
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）
備考	個人的な質問等は、メール等を利用していつでも対応します。 事前・事後学習に各1時間程度を想定しています。 上記の授業スケジュールは、受講者の希望や授業の進捗状況によって変更することがあります。

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01336e1		

授業概要・目的	本授業では、初めて韓国語を学ぶ上で不可欠な文字と発音、基本的文法事項を学ぶ。授業スケジュールは目安であり、学習進度、習熟度に合わせて調整する。																																																																		
到達目標	まずは文字に慣れていき、韓国語での読み書きができるようにする。その後、基本的な文法事項を学んでいく。																																																																		
授業方法と留意点	この授業では4月22日以降はオンライン授業となる。オンライン授業の形式は、教科書に沿った動画を作成して出すので、それを視聴して課題を提出してもらう形式をとる。また授業中に中間試験代わりの難易度のある大型課題と、期末試験代わりの難易度のある大型課題を出す。これらはきちんとオンライン授業をうけていないと対応できないため、なるべくオンライン授業を休まないことが望ましい。 オンライン授業時は、必ず教科書を手元に置き、動画をきちんと視聴し、ノートを取り、理解し、最後に課題をやって提出すること。(動画をきちんと視聴)																																																																		
科目学習の効果 (資格)	韓国語の基礎的知識を習得すると共に、語学を通して韓国への理解を深めることができる																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>韓国語とは</td><td>文字の仕組み</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>母音 1</td><td>基本母音</td><td>教科書 第 1 課</td></tr> <tr><td>3</td><td>母音 2</td><td>合成母音</td><td>教科書 第 1 課</td></tr> <tr><td>4</td><td>子音 1</td><td>基本子音</td><td>教科書 第 2 課</td></tr> <tr><td>5</td><td>子音 2</td><td>子音 (濃音・激音)</td><td>教科書 第 2 課</td></tr> <tr><td>6</td><td>文字の確認</td><td>反切表の整理と文字の確認</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>パッチム</td><td>終声について</td><td>教科書 第 3 課</td></tr> <tr><td>8</td><td>発音の変化 1</td><td>発音の変化</td><td>教科書 第 4 課</td></tr> <tr><td>9</td><td>発音の変化 2</td><td>発音の変化</td><td>教科書 第 4 課</td></tr> <tr><td>10</td><td>発音の変化の確認</td><td>発音の変化の確認</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>体言文 1</td><td>体言文 (平叙文)</td><td>教科書 第 5 課</td></tr> <tr><td>12</td><td>体言文 2</td><td>体言文 (疑問文)</td><td>教科書 第 5 課</td></tr> <tr><td>13</td><td>体言文 3</td><td>体言文 (否定文)</td><td>教科書 第 6 課</td></tr> <tr><td>14</td><td>総確認</td><td>総確認</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>韓国語の実際</td><td>韓国のドラマのセリフを聞いてみる</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	韓国語とは	文字の仕組み		2	母音 1	基本母音	教科書 第 1 課	3	母音 2	合成母音	教科書 第 1 課	4	子音 1	基本子音	教科書 第 2 課	5	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書 第 2 課	6	文字の確認	反切表の整理と文字の確認		7	パッチム	終声について	教科書 第 3 課	8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 第 4 課	9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 第 4 課	10	発音の変化の確認	発音の変化の確認		11	体言文 1	体言文 (平叙文)	教科書 第 5 課	12	体言文 2	体言文 (疑問文)	教科書 第 5 課	13	体言文 3	体言文 (否定文)	教科書 第 6 課	14	総確認	総確認		15	韓国語の実際	韓国のドラマのセリフを聞いてみる	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	韓国語とは	文字の仕組み																																																																	
2	母音 1	基本母音	教科書 第 1 課																																																																
3	母音 2	合成母音	教科書 第 1 課																																																																
4	子音 1	基本子音	教科書 第 2 課																																																																
5	子音 2	子音 (濃音・激音)	教科書 第 2 課																																																																
6	文字の確認	反切表の整理と文字の確認																																																																	
7	パッチム	終声について	教科書 第 3 課																																																																
8	発音の変化 1	発音の変化	教科書 第 4 課																																																																
9	発音の変化 2	発音の変化	教科書 第 4 課																																																																
10	発音の変化の確認	発音の変化の確認																																																																	
11	体言文 1	体言文 (平叙文)	教科書 第 5 課																																																																
12	体言文 2	体言文 (疑問文)	教科書 第 5 課																																																																
13	体言文 3	体言文 (否定文)	教科書 第 6 課																																																																
14	総確認	総確認																																																																	
15	韓国語の実際	韓国のドラマのセリフを聞いてみる																																																																	
関連科目	韓国語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>おはよう韓国語 1</td><td>崔柄珠</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題提出回数、毎回の課題の完成度、中間試験代わりの大型課題、期末試験代わりの大型課題の出来などを総合的に鑑みて評価。 毎回の授業時の課題 (60%)、試験代わりの大型課題 (40%)。																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		
備考	提出された課題については、次週の授業で解答の確認、誤答のチェック、(必要に応じて) 再説明を行う。質問に対しては次週の授業がそれまでに回答する。 学期中は授業外で計 3 0 時間以上の学習を求める。																																																																		

科目名	韓国語 I	科目名 (英文)	Korean I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01336e1		

授業概要・目的	不慣れな姿のハングルを知り韓国語を学ぶことで、日本語と韓国語のもつ類似点、そして同じ漢字文化圏なので、様々な言葉や表現の共通点を発見することが出来る。隣の国、韓国を真の意味で近い国として実感し、韓国の歴史や文化に興味を深めることと、両国がより近い関係に回復できるきっかけとなつてほしいと望みます。外国語である日本語を習得する過程から得られた私の経験を踏まえ、初めて韓国語を学習する人でも楽しくやさしく学ぶことが出来るように心掛けます。
到達目標	1. 韓国語の文字であるハングルの読み、書きが出来るようになる。 2. ハングルで自分の名前を覚える。 3. 簡単な挨拶や自己紹介が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、k-pop や韓国映画、ドラマも紹介する。学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	韓国語とハングル文字について理解する。	韓国語の歴史、文字構成を説明。 授業の進め方についてのガイダンス及び、 受講生の希望を伺うなど、韓国語をめぐる受講生とのコミュニケーション。	特になし
	2	ハングル 1	基本子音 5 つ、基本母音 6 つを組み合わせる 30 文字を読み書きする。そして 30 文字でできる単語を学ぶ。	復習：テキスト p 16－19 (1 時間) 予習：p 25 (0.5 時間)
	3	ハングル 2	p 18 単語テスト (発音記号、意味) 重母音 4 つ、基本子音 5 つを学ぶ。これまで学んだ母音 10 と子音 10 を組み合わせる 100 文字を読み書きの練習 100 文字を使った韓国語の単語を学ぶ。	復習：テキスト p 20－27 (1 時間) 予習：p 28 (0.5 時間)
	4	ハングル 3	p 25 単語テスト (発音記号、意味) 二重母音 5 つ、激音子音 4 つ、濃音子音 5 つを学び、単語を勉強する。	復習：テキスト p 35 (1 時間) 予習：p 30、p 36 (0.5 時間)
	5	ハングル 4	p 35 単語テスト (発音記号、意味) 複雑な二重母音 6 つ、濃音について学ぶ。 自分の名前と家族や友達の名 3 をハングルで書いてみる	復習：テキスト p 29 (1 時間) 予習：ひらがな表の発音をハングルに置き換えるプリントを完成する (0.5 時間)
	6	子音 19、母音 15 を覚えよう 1	p 29 単語テスト (発音記号、意味) 韓国で使っている外来語を読んで意味を推測してみる。 ハングルを使ってラインをする。	復習：テキスト p 36 (1 時間) 予習：スマートフォンでハングルの打ち方を練習する (0.5 時間)
	7	子音 19、母音 15 を覚えよう 2	p 36 単語テスト (発音記号、意味) ハングルで出来たアンケート用紙を完成しながら、ラインを行う。	復習：テキスト p 30 (1 時間) 予習：スマートフォンでハングルの打ち方を練習する (0.5 時間)
	8	ハングル 5 パッチム パッチムの仕組みを勉強する。	p 30 単語テスト (発音記号、意味) 日本語では使うことの無かった発音を、細かく分析、観察、理解し徹底して練習する。	復習：テキスト p 43 (0.5 時間) 予習：p 44 (0.5 時間)
	9	ハングル 5 パッチム パッチムの仕組みを勉強する。	p 43 単語テスト (発音記号、意味) パッチムの難しい外来語を読みながら意味を調べる	復習：テキスト p 44 (0.5 時間) 予習：p 47、p 48 (0.5 時間)
	10	ハングル文字の総まとめ	p 44 単語テスト (発音記号、意味) これまで文字を勉強する際に出てきた全ての単語をまとめる。 特に難しい発音の二重母音の単語のプリントを読みながら練習する	復習：p18、p25、p29、p 30、p 35、p 36、 43、p 44 (2 時間) 予習：p 49 (0.5 時間)
	11	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	ハングル総合単語テスト 「カンナさん大成功です！」 p 49、p 50 単語を辞書で調べる	復習：p 49、p 50 単語を覚える (1 時間)
	12	韓国の映画を見て、耳から聞こえる韓国語を感じる	「カンナさん大成功です！」 音読テスト用の文書を配布	予習：音読テスト用の文書を読む練習 (1 時間)
	13	第 6 課 こんにちは。	文字を勉強する際に覚えた単語を使って、短い作文をしながら、助詞を勉強する。	復習：テキスト p 55－59 (1 時間) 予習：7 種類の助詞表を書く (0.5 時間)
	14	前期総合まとめ	基本的な挨拶と簡単な自己紹介。 こんにちは。 お名前は？ 職業は何ですか？ 日本人です。 学生です。 お会い出来て嬉しいです。 前期定期試験の準備	復習：テキスト p 16－59 前期授業の中で出てきた単語全てを整理して覚える 自己紹介の会話 音読テストの準備 (3 時間)
	15	まとめ	前期定期試験	

関連科目	韓国語基礎会話			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1－1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加状況、毎回の課題提出、小テスト 50% 音読試験 50%			
学生への メッセージ	基本的に授業に必要な連絡のやり取りは、ラインにしたいと思いますので、 ※ 4月20日、月曜日18:00まで ラインに繋がってください。 方法は、学校のポータルサイトに掲載します。期限を必ず守ってください。 もし、ラインに繋がらない、もしくは質問がある場合は下記のメールアドレスにメールしてください			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）			
備考	質問がある場合はメールしてください。 myounghee2018@gmail.com			

科目名	韓国語Ⅱ	科目名（英文）	Korean II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	北島 由紀子
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01337el		

授業概要・目的	本授業では前期に学んだ文字や読み方などを基礎として、さらに日常会話に必要な基本的な文法事項を習得していく。基本的な文法事項の習得とそれを使った作文練習などが主になる。																																																																		
到達目標	韓国語の基礎的な文法を習得しつつ、初歩的な言語能力を身につけることができる。																																																																		
授業方法と留意点	この授業はオンラインと対面の混合授業となる。前半はオンライン授業で、教科書に沿った教材動画を作成して出すので、それを視聴して課題を提出してもらう形式をとる。授業中に中間試験代わりの難易度のある大型課題等もあり、継続してきちんとオンライン授業をうけていないと対応できないため、毎回教科書を手元に置き、動画をきちんと視聴し、ノートを取り、理解し、最後に課題をやって提出することを繰り返して知識を定着させていく。後半は対面授業形式で学習し、対面授業時には小テストや後半の既習事項のまとめとして中規模程度の試験等も行う																																																																		
科目学習の効果（資格）	韓国語を通して韓国の社会や文化への理解を深める。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>前期の復習（１）</td><td>文字の復習</td><td>1、2 課</td></tr> <tr><td>2</td><td>前期の復習（２）</td><td>パッチム、発音ルールの復習</td><td>3、4 課</td></tr> <tr><td>3</td><td>前期の復習（３）</td><td>体言文の復習</td><td>5 課、6 課</td></tr> <tr><td>4</td><td>数詞</td><td>漢数詞と固有数詞</td><td>8、9 課</td></tr> <tr><td>5</td><td>助数詞、時制を表す表現</td><td>助数詞、時制を表す表現</td><td>8、9 課</td></tr> <tr><td>6</td><td>体言文と時制を表す表現の練習</td><td>体言文、数詞、助数詞、時制の表現を用いた作文</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>まとめ</td><td>前半のまとめと確認</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>用言ののです・ます形と助詞（１）</td><td>公的で固い表現ののです・ます形と助詞</td><td>7 課</td></tr> <tr><td>9</td><td>用言ののです・ます形と助詞（２）</td><td>公的で固い表現ののです・ます形と助詞</td><td>7 課</td></tr> <tr><td>10</td><td>用言ののです・ます形を使った作文</td><td>公的で固い表現ののです・ます形と助詞を使った作文練習</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>用言ののです・ます形（３）</td><td>日常使いのやわらかい表現ののです・ます形（１）（基本編）</td><td>8 課</td></tr> <tr><td>12</td><td>用言ののです・ます形（４）</td><td>日常使いのやわらかい表現ののです・ます形（２）（様々な縮約形）</td><td>9 課</td></tr> <tr><td>13</td><td>用言ののです・ます形（５）</td><td>日常使いのやわらかい表現ののです・ます形（３）（様々な縮約形）</td><td>9 課</td></tr> <tr><td>14</td><td>用言ののです・ます形を使った作文</td><td>日常使いのやわらかい表現ののです・ます形と助詞を使った作文練習</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>後半のまとめと確認</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の復習（１）	文字の復習	1、2 課	2	前期の復習（２）	パッチム、発音ルールの復習	3、4 課	3	前期の復習（３）	体言文の復習	5 課、6 課	4	数詞	漢数詞と固有数詞	8、9 課	5	助数詞、時制を表す表現	助数詞、時制を表す表現	8、9 課	6	体言文と時制を表す表現の練習	体言文、数詞、助数詞、時制の表現を用いた作文		7	まとめ	前半のまとめと確認		8	用言ののです・ます形と助詞（１）	公的で固い表現ののです・ます形と助詞	7 課	9	用言ののです・ます形と助詞（２）	公的で固い表現ののです・ます形と助詞	7 課	10	用言ののです・ます形を使った作文	公的で固い表現ののです・ます形と助詞を使った作文練習		11	用言ののです・ます形（３）	日常使いのやわらかい表現ののです・ます形（１）（基本編）	8 課	12	用言ののです・ます形（４）	日常使いのやわらかい表現ののです・ます形（２）（様々な縮約形）	9 課	13	用言ののです・ます形（５）	日常使いのやわらかい表現ののです・ます形（３）（様々な縮約形）	9 課	14	用言ののです・ます形を使った作文	日常使いのやわらかい表現ののです・ます形と助詞を使った作文練習		15	まとめ	後半のまとめと確認	
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習（１）	文字の復習	1、2 課																																																																
2	前期の復習（２）	パッチム、発音ルールの復習	3、4 課																																																																
3	前期の復習（３）	体言文の復習	5 課、6 課																																																																
4	数詞	漢数詞と固有数詞	8、9 課																																																																
5	助数詞、時制を表す表現	助数詞、時制を表す表現	8、9 課																																																																
6	体言文と時制を表す表現の練習	体言文、数詞、助数詞、時制の表現を用いた作文																																																																	
7	まとめ	前半のまとめと確認																																																																	
8	用言ののです・ます形と助詞（１）	公的で固い表現ののです・ます形と助詞	7 課																																																																
9	用言ののです・ます形と助詞（２）	公的で固い表現ののです・ます形と助詞	7 課																																																																
10	用言ののです・ます形を使った作文	公的で固い表現ののです・ます形と助詞を使った作文練習																																																																	
11	用言ののです・ます形（３）	日常使いのやわらかい表現ののです・ます形（１）（基本編）	8 課																																																																
12	用言ののです・ます形（４）	日常使いのやわらかい表現ののです・ます形（２）（様々な縮約形）	9 課																																																																
13	用言ののです・ます形（５）	日常使いのやわらかい表現ののです・ます形（３）（様々な縮約形）	9 課																																																																
14	用言ののです・ます形を使った作文	日常使いのやわらかい表現ののです・ます形と助詞を使った作文練習																																																																	
15	まとめ	後半のまとめと確認																																																																	
関連科目	韓国語初級																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>おはよう韓国語 1</td><td>崔柄珠</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	おはよう韓国語 1	崔柄珠	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	オンライン授業の毎回の課題提出回数及び完成度、中間試験代わりの大型課題の完成度、対面授業時の出席回数や小テスト、まとめの中規模程度の試験結果等を総合的に鑑みて評価。 オンライン授業時の毎回の課題（３０％）、中間試験代わりの大型課題（２０％）、対面授業時の小テスト等（１０％）、まとめの中規模程度の試験（４０％）。																																																																		
学生へのメッセージ	基本的な文法事項を習得していき、その知識を使って基本的な会話や、簡単な作文などでもできるように、頑張って学んでいきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)																																																																		
備考	オンライン授業時は、提出された課題については次回の授業で解答の確認、誤答のチェック、（必要に応じて）再説明を行う。質問については次回の授業までに回答する。学期中は授業外で計 30 時間以上の学習を求める。																																																																		

科目名	韓国語Ⅱ	科目名 (英文)	Korean II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	沈 明姫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01337el		

授業概要・目的	ハングル入門Ⅰを終了した程度の実力を持つ人を対象とします。ハングルの読み、書きが出来る能力を身につけたうえ、特に現代韓国社会で広く使われている表現や慣用句を、現代の韓流文化を交えて基本的な日常会話を導入し、即席で応用を広げ、ネイティブ講師ならではの長所を生かす実用的な韓国語の習得を心がけます。 一年間を通して基本的な韓国語を読んで、聞いて、話せるようになり、ハングル入門Ⅰ・Ⅱを履修後もさらに韓国語を続けたいという意欲を掻き立てることが出来ればと思います。
到達目標	1. 韓国語の初級文法を理解し、旅行に役立つ程度の会話が出来るようになる。
授業方法と留意点	教科書とプリントを配布して授業を行う。必要に応じてビデオ・CD も活用しながら、k-pop や韓国映画、ドラマも紹介する。 学期中は事前および事後に合計 60 時間の学習時間を必要とする。
科目学習の効果 (資格)	韓国語の勉強はもとより、韓国社会と文化への理解を深める良い機会になる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	第 6 課 こんにちは。	国の名前、言語について学び、読み書きが出来るようにする。 助詞～がについて練習。	予習：p 5 2、5 3 読む練習 (0.5 時間)
	2	第 6 課 はじめまして。	p 5 2 会話を読みながら練習。 「こんにちは」と「さようなら」を学ぶ。 名前はなんですか？ 職業はなんですか？ 何人ですか？	復習：国の名前、何人、何語を覚える。 6 章で学んだ単語を覚える (1 時間) 予習：p 5 5、単語の意味を調べる (0.5 時間)
	3	第 7 課 はじめまして。	6 章の単語テスト どの国の人ですか？ 一ではありません。 助詞 ーはについて練習。	復習：テキスト p 5 8 (1 時間) 予習：p 6 2、6 3 (0.5 時間)
	4	第 7 課 はじめまして。	初対面の人に挨拶と自己紹介する。 人を紹介する時の言い方を学ぶ。 P 6 7 自己紹介の作文を読んで読解	復習：第 7 課の単語テスト勉強 (1 時間) 予習：p 7 0 (0.5 時間)
	5	第 8 課 これは何ですか？	第 7 課の単語テスト。 これ、それ、あれの指示代名詞について学ぶ。 疑問詞を勉強する。 家族構成員について学ぶ。	復習：テキスト p 7 0-7 2 家計図を覚える (1 時間) 予習：p 7 4 単語の意味を調べる (0.5 時間)
	6	第 8 課 これは何ですか？	p 7 2 家族構成員の単語小テスト。 日常で使う頻度の高い物を用意し、これは何ですか？の会話を練習する。 所有格助詞ーのについて学ぶ。	復習：p 7 4-7 6 (0.5 時間) 予習：p 7 9 読む (0.5 時間)
	7	第 8 課 これは何ですか？	テキスト p 7 6 会話練習をもう一度する。 「私の家族」の作文を読解し、問題に答える。 テキストの内容を参考に「自分の家族」について韓国語で作文をし、提出する。 8 課ワークプリント	復習：8 課の単語を全て覚えてくる。(1 時間) 予習：テキスト p 8 2 読んでくる (0.5 時間)
	8	第 9 課 週末に何をしますか？	第 8 課の単語テスト 動詞、形容詞の終止形を勉強する。 助詞～を、～にを使って作文をする。 日常でよく使う動詞、形容詞 25 個の終止形活用について学ぶ。	復習：動詞の活用の練習プリント (1 時間) 予習：p 8 3 (0.5 時間)
	9	第 9 課 週末に何をしますか？	動詞の活用の練習プリントの小テスト p 8 2-8 5 “一と一緒に”という言い方を練習する。	復習：p 8 2-8 5 (0.5 時間) 予習：p 8 6、8 7 読む (0.5 時間)
	10	第 9 課 週末に何をしますか？	動詞、形容詞の終止形を使った作文をする。 時を表す単語を覚える。 9 課ワークプリント	復習：9 課全体 (1 時間) 予習：p 9 5 数字 (0.5 時間)
	11	第 10 課 ビエールさんの事務室は 3 階にあります。	9 課単語テスト 5 桁の数字の読み書きが出来るように練習する。 位置関係の言葉を知る。	復習：p 9 6 単語を覚える (0.5 時間) 予習：p 9 4 読む (0.5 時間)
	12	第 10 課 ビエールさんの事務室は 3 階にあります。	位置関係の言葉小テスト 5 桁の漢数字を練習する。 p 9 4-p 9 6	復習：p 9 4-9 6 (0.5 時間) 予習：p 9 7、p 9 8 読む (0.5 時間)
	13	第 10 課 ビエールさんの事務室は 3 階にあります。	前回の授業で新しく学んだ 5 桁の数字の小テスト。 位置関係の言葉を練習。 ここはどこですか？どこに何がありますか？	復習：p 9 4-9 6 (0.5 時間) 予習：p 9 7、p 9 8 読む (0.5 時間)
	14	第 10 課 ビエールさんの事務室は 3 階にあります。	5 桁の数字の練習 p 9 8-101	復習：10 課全体単語テスト勉強 (1 時間) 予習「自己紹介」200 文字作文 (1 時間)
	15	第 11 課 電話番号は何番ですか？ 後期総合まとめ	10 課全体単語テスト 助詞ーは、ーも、ーのみの使い方を練習する。	復習：7 課～11 課まで 5 桁の漢数字 200 文字の自己紹介

			200 文字の自己紹介をチェック 後期授業の内容整理し、復習をする。	(3 時間)
関連科目	韓国語基礎会話			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	美しい韓国語 1－1 初級 教科書	韓国語教育開発研究院	EKO ランゲージセンター
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業参加状況、講義時の対応、ワークプリント 50% 授業中の小テスト 50%			
学生への メッセージ	前期と引き続きラインを使用してオンライン授業を行いたいと思いますので、後期に新しく登録した学生は、私のラインに繋がってください。 ライン ID : simmh71 です。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)			
備考	メールアドレス : myounghee2018@gmail.com			

科目名	韓国語Ⅲ	科目名 (英文)	Korean III
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01338e1		

授業概要・目的	この授業では、ハングル能力検定 4 級に合格する実力を養成することを目的とします。「韓国語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ文法事項や単語の上に学習を積み重ねますので、基礎を学んでいることは必須です。 教科書は『改訂版 バランセ韓国語 中級』（金京子著、朝日出版社、2016 年）を使用します。教科書に沿って授業を進めていきます。語学としての韓国語の学習はもちろんですが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにします。																																																																		
到達目標	ハングル能力検定 4 級に合格する実力を養成する。 ①検定 4 級に必要な文法事項・単語力 ②検定 4 級に対応できる読解力と作文能力 ③検定 4 級に対応できるリスニング力 ④検定 4 級程度の発話力																																																																		
授業方法と留意点	1) 授業はオンライン授業(リアルタイム方式)になります。 2) 文法事項・語彙の復習の時間とって着実に学習を重ねてください。 3) 進度については、受講学生の理解度を鑑みながら多少調整する可能性があります。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の進め方、成績評価、学習方法</td><td>授業内容の復習 (60 分)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 1 課「卒業して留学するつもりです」</td><td>並列 逆説 意図</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 1 課「卒業して留学するつもりです」</td><td>並列 逆説 意図</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 2 課「自己紹介をします」</td><td>理由・前提動作 引用・伝聞 様態</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 2 課「自己紹介をします」</td><td>理由・前提動作 引用・伝聞 様態</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 3 課「小説家が夢ですって？」</td><td>反問・確認 ～しか (助詞) 詠嘆の終結語尾</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 3 課「小説家が夢ですって？」</td><td>反問・確認 ～しか (助詞) 詠嘆の終結語尾</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめ</td><td>第 1～3 課の内容</td><td>第 1～3 課の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 4 課「よく眠れませんでした」</td><td>不可能 根拠</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 4 課「よく眠れませんでした」</td><td>不可能 根拠</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 5 課「右の方に 50 メートル行けばいいです」</td><td>仮定 許可・展望の慣用表現 勧誘・命令</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 5 課「右の方に 50 メートル行けばいいです」</td><td>仮定 許可・展望の慣用表現 勧誘・命令</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 6 課「メールアドレスも教えてください」</td><td>連用形 ティグツ変則用言</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 6 課「メールアドレスも教えてください」</td><td>連用形 ティグツ変則用言</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>学習した文法事項等のポイント整理</td><td>担当教員がレジュメを準備する</td><td>レジュメに沿って授業を復習する (120 分)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、学習方法	授業内容の復習 (60 分)	2	第 1 課「卒業して留学するつもりです」	並列 逆説 意図	文法事項・語彙の復習 (120 分)	3	第 1 課「卒業して留学するつもりです」	並列 逆説 意図	文法事項・語彙の復習 (120 分)	4	第 2 課「自己紹介をします」	理由・前提動作 引用・伝聞 様態	文法事項・語彙の復習 (120 分)	5	第 2 課「自己紹介をします」	理由・前提動作 引用・伝聞 様態	文法事項・語彙の復習 (120 分)	6	第 3 課「小説家が夢ですって？」	反問・確認 ～しか (助詞) 詠嘆の終結語尾	文法事項・語彙の復習 (120 分)	7	第 3 課「小説家が夢ですって？」	反問・確認 ～しか (助詞) 詠嘆の終結語尾	文法事項・語彙の復習 (120 分)	8	中間のまとめ	第 1～3 課の内容	第 1～3 課の復習 (120 分)	9	第 4 課「よく眠れませんでした」	不可能 根拠	文法事項・語彙の復習 (120 分)	10	第 4 課「よく眠れませんでした」	不可能 根拠	文法事項・語彙の復習 (120 分)	11	第 5 課「右の方に 50 メートル行けばいいです」	仮定 許可・展望の慣用表現 勧誘・命令	文法事項・語彙の復習 (120 分)	12	第 5 課「右の方に 50 メートル行けばいいです」	仮定 許可・展望の慣用表現 勧誘・命令	文法事項・語彙の復習 (120 分)	13	第 6 課「メールアドレスも教えてください」	連用形 ティグツ変則用言	文法事項・語彙の復習 (120 分)	14	第 6 課「メールアドレスも教えてください」	連用形 ティグツ変則用言	文法事項・語彙の復習 (120 分)	15	学習した文法事項等のポイント整理	担当教員がレジュメを準備する	レジュメに沿って授業を復習する (120 分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、学習方法	授業内容の復習 (60 分)																																																																
2	第 1 課「卒業して留学するつもりです」	並列 逆説 意図	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
3	第 1 課「卒業して留学するつもりです」	並列 逆説 意図	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
4	第 2 課「自己紹介をします」	理由・前提動作 引用・伝聞 様態	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
5	第 2 課「自己紹介をします」	理由・前提動作 引用・伝聞 様態	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
6	第 3 課「小説家が夢ですって？」	反問・確認 ～しか (助詞) 詠嘆の終結語尾	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
7	第 3 課「小説家が夢ですって？」	反問・確認 ～しか (助詞) 詠嘆の終結語尾	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
8	中間のまとめ	第 1～3 課の内容	第 1～3 課の復習 (120 分)																																																																
9	第 4 課「よく眠れませんでした」	不可能 根拠	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
10	第 4 課「よく眠れませんでした」	不可能 根拠	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
11	第 5 課「右の方に 50 メートル行けばいいです」	仮定 許可・展望の慣用表現 勧誘・命令	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
12	第 5 課「右の方に 50 メートル行けばいいです」	仮定 許可・展望の慣用表現 勧誘・命令	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
13	第 6 課「メールアドレスも教えてください」	連用形 ティグツ変則用言	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
14	第 6 課「メールアドレスも教えてください」	連用形 ティグツ変則用言	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
15	学習した文法事項等のポイント整理	担当教員がレジュメを準備する	レジュメに沿って授業を復習する (120 分)																																																																
関連科目	「韓国語Ⅰ・Ⅱ」など韓国語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>改訂版 バランセ韓国語 中級</td><td>金京子</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	改訂版 バランセ韓国語 中級	金京子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	改訂版 バランセ韓国語 中級	金京子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版</td><td>油谷幸利ほか編</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版	油谷幸利ほか編	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典 第 2 版	油谷幸利ほか編	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	宿題の達成度 30% 課題、提出物 70%																																																																		
学生へのメッセージ	「韓国語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ文法事項や単語を復習しながら授業を受けるようにしてください。																																																																		
担当者の	7 号館 5 階 森研究室																																																																		

研究室等	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます（11 号館 11 階）。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	1) 質問は、授業の前後の時間やオフィスアワーに受け付けます。 2) フィードバックは基本的に授業内に行います。

科目名	韓国語Ⅳ	科目名 (英文)	Korean IV
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LK01339e1		

授業概要・目的	この授業では、ハングル能力検定 4 級に合格する実力を養成することを目的とします。「韓国語Ⅰ・Ⅱ」および「韓国語Ⅲ」で学んだ文法事項や単語の上に学習を積み重ねます。 教科書は『改訂版 パランセ韓国語 中級』（金京子著、朝日出版社、2016 年）を使用します。教科書に沿って授業を進めていきます。語学としての韓国語の学習はもちろんですが、教科書の内容に関連する文化的な背景もできる限り紹介するようにします。																																																																		
到達目標	到達目標 ハングル能力検定 4 級に合格する実力を養成する。 ①検定 4 級に必要な文法事項・単語力 ②検定 4 級に対応できる読解力と作文能力 ③検定 4 級に対応できるリスニング力 ④検定 4 級程度の発話力																																																																		
授業方法と留意点	1) Teams、Zoom を使用したオンライン授業 (リアルタイム方式) 毎回の授業は Zoom で行います。Zoom の URL は Teams 上で掲示します。また、授業に関する重要な情報や課題提出は基本的に Teams で行います。定期的に Teams を確認してください。 2) 文法事項・語彙の復習の時間とって着実に学習を重ねて下さい。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>授業の進め方、成績評価、学習方法</td><td>授業内容の復習 (60 分)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第 7 課「休日は何をして過ごしますか」</td><td>連体形① ～でも (助詞)</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>第 7 課「休日は何をして過ごしますか」</td><td>連体形① ～でも (助詞)</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>第 8 課「コーヒーを飲んだ後、家を出ました」</td><td>動詞の過去連体形を含む慣用表現 ～(し)に (目的) ウ変則</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 8 課「コーヒーを飲んだ後、家を出ました」</td><td>動詞の過去連体形を含む慣用表現 ～(し)に (目的) ウ変則</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>第 9 課「遊びに行ってもいいですか」</td><td>連体形② ～(し)ても</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 9 課「遊びに行ってもいいですか」</td><td>連体形② ～(し)ても</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間のまとめと理解度確認テスト</td><td>第 7～9 課の内容</td><td>第 7～9 課の復習 (180 分)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 10 課「おいしいご飯を作ってくださいね」</td><td>未来連体形のつく語尾 もの、こと、～の シオッ変則</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>第 10 課「おいしいご飯を作ってくださいね」</td><td>未来連体形のつく語尾 もの、こと、～の シオッ変則</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 11 課「私も運動をしなければなりません」</td><td>未来連体形を含む慣用表現 ～(し)てこそ、～(し)なければ</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>第 11 課「私も運動をしなければなりません」</td><td>未来連体形を含む慣用表現 ～(し)てこそ、～(し)なければ</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>第 12 課「温かいお茶でも召し上がりますか」</td><td>お～してください、～(し)てください 未来意思や推量などの補助語幹 ル変則</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 12 課「温かいお茶でも召し上がりますか」</td><td>お～してください、～(し)てください 未来意思や推量などの補助語幹 ル変則</td><td>文法事項・語彙の復習 (120 分)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>学習した文法事項等のポイント整理</td><td>担当教員がレジュメを準備する</td><td>レジュメに沿って授業を復習する (180 分)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、学習方法	授業内容の復習 (60 分)	2	第 7 課「休日は何をして過ごしますか」	連体形① ～でも (助詞)	文法事項・語彙の復習 (120 分)	3	第 7 課「休日は何をして過ごしますか」	連体形① ～でも (助詞)	文法事項・語彙の復習 (120 分)	4	第 8 課「コーヒーを飲んだ後、家を出ました」	動詞の過去連体形を含む慣用表現 ～(し)に (目的) ウ変則	文法事項・語彙の復習 (120 分)	5	第 8 課「コーヒーを飲んだ後、家を出ました」	動詞の過去連体形を含む慣用表現 ～(し)に (目的) ウ変則	文法事項・語彙の復習 (120 分)	6	第 9 課「遊びに行ってもいいですか」	連体形② ～(し)ても	文法事項・語彙の復習 (120 分)	7	第 9 課「遊びに行ってもいいですか」	連体形② ～(し)ても	文法事項・語彙の復習 (120 分)	8	中間のまとめと理解度確認テスト	第 7～9 課の内容	第 7～9 課の復習 (180 分)	9	第 10 課「おいしいご飯を作ってくださいね」	未来連体形のつく語尾 もの、こと、～の シオッ変則	文法事項・語彙の復習 (120 分)	10	第 10 課「おいしいご飯を作ってくださいね」	未来連体形のつく語尾 もの、こと、～の シオッ変則	文法事項・語彙の復習 (120 分)	11	第 11 課「私も運動をしなければなりません」	未来連体形を含む慣用表現 ～(し)てこそ、～(し)なければ	文法事項・語彙の復習 (120 分)	12	第 11 課「私も運動をしなければなりません」	未来連体形を含む慣用表現 ～(し)てこそ、～(し)なければ	文法事項・語彙の復習 (120 分)	13	第 12 課「温かいお茶でも召し上がりますか」	お～してください、～(し)てください 未来意思や推量などの補助語幹 ル変則	文法事項・語彙の復習 (120 分)	14	第 12 課「温かいお茶でも召し上がりますか」	お～してください、～(し)てください 未来意思や推量などの補助語幹 ル変則	文法事項・語彙の復習 (120 分)	15	学習した文法事項等のポイント整理	担当教員がレジュメを準備する	レジュメに沿って授業を復習する (180 分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方、成績評価、学習方法	授業内容の復習 (60 分)																																																																
2	第 7 課「休日は何をして過ごしますか」	連体形① ～でも (助詞)	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
3	第 7 課「休日は何をして過ごしますか」	連体形① ～でも (助詞)	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
4	第 8 課「コーヒーを飲んだ後、家を出ました」	動詞の過去連体形を含む慣用表現 ～(し)に (目的) ウ変則	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
5	第 8 課「コーヒーを飲んだ後、家を出ました」	動詞の過去連体形を含む慣用表現 ～(し)に (目的) ウ変則	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
6	第 9 課「遊びに行ってもいいですか」	連体形② ～(し)ても	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
7	第 9 課「遊びに行ってもいいですか」	連体形② ～(し)ても	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
8	中間のまとめと理解度確認テスト	第 7～9 課の内容	第 7～9 課の復習 (180 分)																																																																
9	第 10 課「おいしいご飯を作ってくださいね」	未来連体形のつく語尾 もの、こと、～の シオッ変則	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
10	第 10 課「おいしいご飯を作ってくださいね」	未来連体形のつく語尾 もの、こと、～の シオッ変則	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
11	第 11 課「私も運動をしなければなりません」	未来連体形を含む慣用表現 ～(し)てこそ、～(し)なければ	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
12	第 11 課「私も運動をしなければなりません」	未来連体形を含む慣用表現 ～(し)てこそ、～(し)なければ	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
13	第 12 課「温かいお茶でも召し上がりますか」	お～してください、～(し)てください 未来意思や推量などの補助語幹 ル変則	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
14	第 12 課「温かいお茶でも召し上がりますか」	お～してください、～(し)てください 未来意思や推量などの補助語幹 ル変則	文法事項・語彙の復習 (120 分)																																																																
15	学習した文法事項等のポイント整理	担当教員がレジュメを準備する	レジュメに沿って授業を復習する (180 分)																																																																
関連科目	「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」など韓国語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>改訂版 パランセ韓国語 中級</td><td>金京子</td><td>朝日出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	改訂版 パランセ韓国語 中級	金京子	朝日出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	改訂版 パランセ韓国語 中級	金京子	朝日出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ポケットプログレッシブ韓国語・日韓辞典 第 2 版</td><td>油谷幸利ほか編</td><td>小学館</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ポケットプログレッシブ韓国語・日韓辞典 第 2 版	油谷幸利ほか編	小学館	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ポケットプログレッシブ韓国語・日韓辞典 第 2 版	油谷幸利ほか編	小学館																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	提出物・小テスト 30% 中間のまとめと理解度確認テスト 30% 期末テスト 40%																																																																		
学生への	「韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」で学んだ文法事項や単語を復習しながら授業を受けるようにしてください。																																																																		

メッセージ	毎回の授業は Zoom で行います。Zoom の URL は Teams 上で掲示します。また、授業に関する重要な情報や課題提出は基本的に Teams で行います。定期的に Teams を確認してください。
担当者の研究室等	7 号館 5 階 森研究室 (10 月中旬までは 11 号館 11 階)
備考	1) 質問は、授業の前後の時間やオフィスアワーに受け付けます。 2) テストに関するフィードバックは授業で行います。

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current Issues Ⅰ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 文子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1364a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回 30 分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。 合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 時間があれば授業で検定のフィードバックを行う
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	[ガイダンス] 授業の目的と方法・進め方 今話題のニュース	・時事問題を学ぶ意義を考える。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて調べる。
	2	ニュース検定 3 級対策①	・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	ニュース検定 3 級対策②	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	ニュース検定 3 級対策③	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	ニュース検定 3 級対策④	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	ニュース検定 3 級対策⑤	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	ニュース検定 3 級対策⑥	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	中間確認テスト	・前回の確認小テスト ・中間確認テスト	・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習する。
	9	「ニュース時事能力検定」受験	・「ニュース時事能力検定」を受験する。	検定に向けて学習する。
	10	学生発表①	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	11	学生発表②	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	12	学生発表③	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	13	学生発表④	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	14	学生発表⑤	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	15	最終確認テスト	・教科書および新聞・ニュースを踏まえて、四択ないし記述式の試験を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。

関連科目	時事問題Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	2021 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編	毎日新聞社
	2		
	3		
参考書			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。			

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	米沢 竜也
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1364a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 オンデマンド型オンライン授業形式で行う。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方についての説明 話題のニュースを取り上げ、解説する	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間）
	2	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの内容復習（1時間）
	3	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの内容復習（1時間）
	4	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの内容復習（1時間）
	5	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの内容復習（1時間）
	6	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの内容復習（1時間）
	7	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの内容復習（1時間）
	8	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの内容復習（1時間）
	9	中間確認テスト 最近のニュースを知り、その背景を考える。	中間確認テストを行う 話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	これまでの復習をする（1時間） 小テストの内容復習（1時間）
	10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	「ニュース時事能力検定」受験に向けた準備学習を行う（2時間）
	11	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの内容復習（1時間）
	12	最近のニュースを知り、その背景を考える。	話題のニュースを取り上げ、解説する ニュース検定小テストと解説	新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間） 小テストの内容復習（1時間）
	13	時事問題発表資料作成（1）	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表資料作成のための情報収集をする	時事問題発表準備（2時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間）
	14	時事問題発表資料作成（2）	政治、経済、暮らしにかかわるテーマからとくに気になるものを選び、発表資料作成のための情報収集をする	時事問題発表準備（2時間） 新聞・テレビが取り上げている直近のニュースの内容把握（1時間）
	15	最終確認テスト	最終確認テストを行う	これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2020 ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度 (小テストなど) 40 % 発表資料 20 %			

	中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー（DP）	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1364a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」（ http://www.newskentei.jp/ ）を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。 受験料（3級 2,8
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法。 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	時事問題を学ぶ大切さを知る。 ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 テキスト、練習問題の復習。
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (4月27日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (5月4日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (5月11日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (5月18日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (5月25日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (6月1日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える (6月8日予定)	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	9	中間確認テスト（6月15日予定）	オンライン授業の場合、中間確認テストにかえて中間確認課題を課す。	新聞に目を通す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	10	「ニュース時事能力検定」受験（6月22日予定）	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する。
	11	プレゼンテーションに向けて（6月29日予定）	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なレジメの作成およびプレゼンテーションの実践方法を概説する。	新聞に目を通す。 プレゼンテーションの準備。
	12	プレゼンテーション（7月6日予定）	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジメを作成する。	新聞に目を通す。 プレゼンテーションの準備。
	13	プレゼンテーション（7月13日予定）	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジメを作成する。	新聞に目を通す。 プレゼンテーションの準備。
	14	プレゼンテーション（7月20日予定）	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジメを作成する。	新聞に目を通す。 プレゼンテーションの準備。
	15	プレゼンテーション（7月27日予定）	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジメを作成する。最終確認テストにかえてプレゼンテーション用のレジメの提出を「最終確認課題」とする。	新聞に目を通す。 プレゼンテーションの準備。

関連科目	時事問題Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2021年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
	2			

	<table><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				3			
3								
参考書								
	番号	書籍名	著者名	出版社名				
	1							
	2							
	3							
評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50％ 小テスト 10％ 中間・最終確認テスト 20％ ニュース時事能力検定成績 20％							
学生への メッセージ								
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）							
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。							

科目名	時事問題Ⅰ	科目名（英文）	Current IssuesⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早川 真悠
ディプロマポリシー（DP）	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1364a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅰ」では特に、「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」3級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定 3級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	9	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	10	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する	検定に向けて学習する
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト 復習	最終確認テストを行う (時事問題にかんするプレゼンテーション)	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2021年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 基礎編		毎日新聞社
	2			

	<table><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				3			
3								
参考書								
	番号	書籍名	著者名	出版社名				
	1							
	2							
	3							
評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50％ 小テスト 10％ 中間・最終確認テスト 20％ ニュース時事能力検定成績 20％							
学生への メッセージ								
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）							
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。							

科目名	時事問題Ⅱ	科目名 (英文)	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 文子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1365a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。 小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。 合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。 受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。 時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	ニュース時事能力検定 準2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	[ガイダンス] 授業の目的と方法・進め方 今話題のニュース	・時事問題を学ぶ意義を考える。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて調べる。
	2	ニュース検定準2級対策①	・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	ニュース検定準2級対策②	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	ニュース検定準2級対策③	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	ニュース検定準2級対策④	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	ニュース検定準2級対策⑤	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	ニュース検定準2級対策⑥	・前回の確認小テスト ・教科書に沿って時事問題を理解する上での基礎知識の確認、および現在の状況を解説	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	中間確認テスト	・中間確認テスト	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で解説した基礎知識の復習 ・授業で取り上げたニュースについて調べる
	9	「ニュース時事能力検定」受験	・「ニュース時事能力検定」を受験する。	・苦手分野を明確にし、ニュース検定に向けて学習する。
	10	学生発表①	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	検定に向けて学習する。
	11	学生発表②	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	12	学生発表③	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	13	学生発表④	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	14	学生発表⑤	・個別の時事問題を取り上げて学生に発表してもらい、議論を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。
	15	最終確認テスト	・教科書および新聞・ニュースを踏まえて、四択ないし記述式の試験を行う。	・新聞の一面に目を通す。 ・授業で取り上げたニュースについて自分の意見を考える。

関連科目	時事問題Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	2021 ニュース検定公式テキスト 発展編	毎日新聞社
	2		
	3		
参考書			

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。			

科目名	時事問題Ⅱ	科目名（英文）	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1365a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。 受験料 (3級 2,8
科目学習の効果 (資格)	ニュース時事能力検定 準2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法。 最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	時事問題を学ぶ大切さを知る。 ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 テキスト、練習問題の復習。
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	ニュース検定小テストとテキストの解説	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。
	8	中間確認テスト	中間確認テストをおこなう。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。 検定に向けて学習する。
	9	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受検する。	配布した宿題をやってくる。 テキスト、練習問題の復習。 検定に向けて学習する。
	10	プレゼンテーションに向けて	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーションをおこなう方法を概説する。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 レジュメ作成の準備。
	11	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、プレゼンテーションを実際におこなう。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 レジュメ作成。
	12	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、プレゼンテーションを実際におこなう。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 レジュメ作成。
	13	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、プレゼンテーションを実際におこなう。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 レジュメ作成。
	14	プレゼンテーション	これまで身に着けた基礎的な知識、情報判断能力（時事能力）に基づき、学術的なプレゼンテーション用のレジュメを作成し、プレゼンテーションを実際におこなう。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 レジュメ作成。
	15	最終確認テスト	最終確認テストをおこなう。	新聞に目を通し、関心のあるテーマを探す。 レジュメ再提出者はレジュメ再作成。
関連科目	時事問題Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	2021 年度版ニュース検定公式テキスト 発展編		毎日新聞社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50% 小テスト（オンライン授業の場合課題提出で代替する） 10% 中間・最終確認テスト（オンライン授業の場合中間課題・最終課題の提出をもって代替する） 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。			

科目名	時事問題Ⅱ	科目名（英文）	Current Issues II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早川 真悠
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2◎		
科目ナンバリング	LKY1365a1		

授業概要・目的	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会における様々な出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、外国語学部生として、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。 「時事問題Ⅱ」では特に、「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。
到達目標	時事問題について、正確に理解し、説明することができる。 時事問題について、「ニュース時事能力検定」準2級相当の知識を有する。
授業方法と留意点	主に講義形式で行う。 話題となっているニュースを取り上げ、新聞や資料を用いながら解説する。 毎回30分程度、「ニュース時事能力検定試験」の教科書を用いた小テストを行い解説する。小テストのフィードバックは授業中に行う。 また、授業内において「ニュース時事能力検定」(http://www.newskentei.jp/)を受験する。合格・不合格にかかわらず、「ニュース時事能力検定」の受験を必須とする。受験日程はシラバスとは異なることもあり得るので、留意のこと。時間があれば授業で検定のフィードバックを行う。
科目学習の効果（資格）	ニュース時事能力検定 準2級

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業の目的と方法 今話題のニュース	時事問題を学ぶ大切さを知る	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	2	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	3	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	4	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	5	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	6	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	7	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	8	中間確認テスト	中間確認テストを行う	これまでの復習をする
	9	「ニュース時事能力検定」受験	「ニュース時事能力検定」を受験する	検定に向けて学習する
	10	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	11	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	12	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	13	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	14	最近のニュースについて正確に知り、その背景を考える	話題のニュースを取り上げ解説する ニュース検定小テストと解説 時事問題にかんするプレゼンテーション	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる
	15	最終確認テスト 復習	最終確認テストを行う (時事問題にかんするプレゼンテーション)	新聞の一面に目を通す 授業で取り上げたニュースについて調べる これまでの復習をする

関連科目	時事問題Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	2021 ニュース検定公式テキスト 発展編	毎日新聞社
	2		
	3		

参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度（発言、発表など） 50% 小テスト 10% 中間・最終確認テスト 20% ニュース時事能力検定成績 20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	事前事後学習時間の目安は60時間。 各種テスト、検定については授業中にフィードバックをします。			

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之・廣崎 小夜
ディプロマポリシー（DP）	DP1Δ, DP2Δ, DP5Δ		
科目ナンバリング	LPH1351a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	本科目は「遠隔授業」として授業を行う。使用する ICT ツールは「Microsoft teams」とする。 なお、対面が可能になった場合は、対面授業を行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>・ガイダンス</td><td>・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）</td><td>事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>・体力測定①</td><td>・屋外種目</td><td>事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>・体力測定②</td><td>・屋内種目</td><td>事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>・種目の概要 ・基礎知識について</td><td>・種目の概要、基礎知識の説明</td><td>事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム</td><td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）	2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）	3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）	4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）	5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）																																																																
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）																																																																
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）																																																																
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）																																																																
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実践と理論、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実践、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実践																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	対面授業：活動点 50%、技能点 25%、態度点 25% 遠隔授業：活動点 40%、実技課題点 30%、講義課題点 30% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 1 回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1 回目の授業に必ず出席してください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）
----	-------------------------------

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之・廣崎 小夜
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5Δ		
科目ナンバリング	LPH1351a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	本科目は「遠隔授業」として授業を行う。使用する ICT ツールは「Microsoft teams」とする。 なお、対面が可能になった場合は、対面授業を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>・ガイダンス</td><td>・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td><td>事前：授業概要・目的などを学習する (30 分) 事後：本実習の理解を深める (30 分)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>・体力測定①</td><td>・屋外種目</td><td>事前：運動を行い体力測定に備える (30 分) 事後：自身の体力についての振り返り (30 分)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>・体力測定②</td><td>・屋内種目</td><td>事前：運動を行い体力測定に備える (30 分) 事後：自身の体力についての振り返り (30 分)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>・種目の概要 ・基礎知識について</td><td>・種目の概要、基礎知識の説明</td><td>事前：基礎知識を学習しておく (30 分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30 分)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム</td><td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：ルールについて学習しておく (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：全授業の総括 (30 分)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30 分) 事後：本実習の理解を深める (30 分)	2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30 分) 事後：自身の体力についての振り返り (30 分)	3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30 分) 事後：自身の体力についての振り返り (30 分)	4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30 分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30 分)	5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)	6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)	7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)	8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)	9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：全授業の総括 (30 分)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30 分) 事後：本実習の理解を深める (30 分)																																																																
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30 分) 事後：自身の体力についての振り返り (30 分)																																																																
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30 分) 事後：自身の体力についての振り返り (30 分)																																																																
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30 分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30 分)																																																																
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)																																																																
6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)																																																																
7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)																																																																
8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)																																																																
9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)																																																																
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：全授業の総括 (30 分)																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実践と理論、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	対面授業：活動点 50%、技能点 25%、態度点 25% 遠隔授業：活動点 40%、実技課題点 30%、講義課題点 30% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 1 回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1 回目の授業に必ず出席してください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		

備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）
----	-------------------------------

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之・廣崎 小夜
ディプロマポリシー（DP）	DP1Δ, DP2Δ, DP5Δ		
科目ナンバリング	LPH1352a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teams を用い、「遠隔授業（オンデマンド形式）」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。 今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
	3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
	4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	15	・ゲーム ・2 年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2 年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点 50%、技能点 25%、態度点 25% 遠隔授業：活動点 40%、実技課題点 30%、講義課題点 30% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。
----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 1 回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1 回目の授業に必ず出席してください。
-----------	--

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之・廣崎 小夜
ディプロマポリシー（DP）	DP1Δ, DP2Δ, DP5Δ		
科目ナンバリング	LPH1352a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	摂南大学の「新型コロナウイルス感染症への対応」に基づき、Microsoft Teams を用い、「遠隔授業（オンデマンド形式）」により行います。初回の授業は、ガイダンスも含めた資料を Teams に提示します。 今後、新型コロナウイルスの感染状況の変化に伴い摂南大学の授業運営方針が変更された場合は、この科目の授業形態も対面授業に変更する可能性があります。その際は、変更日や内容を事前にお知らせします。
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
	3	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
	4	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	5	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	6	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	7	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
	15	・ゲーム ・2 年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2 年次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実践と理論、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実践、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実践
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	対面授業：活動点 50%、技能点 25%、態度点 25% 遠隔授業：活動点 40%、実技課題点 30%、講義課題点 30% ※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。遠隔授業の評価は、やむを得ず遠隔授業に切り替えた場合に適応する。
----------	--

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 感染予防の観点から予定通りに開講できない種目もあり得ますので、ご了承ください。 1 回目のガイダンス時に感染症対策に関する内容もお伝えしますので、1 回目の授業に必ず出席してください。
-----------	--

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ (コースに適したもの)

科目名	健康論	科目名 (英文)	Health Care
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀬川 智広
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LPH1331a1		

授業概要・目的	人生 100 年といわれる現代社会において、豊かな人生を送るためには健康的で活気に満ちた生活を末長く送ることが大切とされている。本講義ではスポーツが心身の健康にもたらす様々な効果について学習し、生涯にわたり健康保持・増進にむけた取り組みを実践するために必要な基礎知識を身につける。 SDGs-3, 5, 10, 11, 16
到達目標	(1) 現代社会における健康問題について理解できる。 (2) 健康づくりのための基礎知識を習得し、健康保持・増進にむけた取り組みを実践することができる。 (3) 持続可能な社会の実現に関するスポーツの価値や可能性を理解できる。 (4) 身近な社会問題や健康づくりをテーマに議論することで、主体的に学び続ける態度を身につけている。
授業方法と留意点	講義、グループディスカッション、グループワーク、発表を取り入れる。 小レポート、小テストを課す。
科目学習の効果 (資格)	心身の健康保持増進に関する知識が身につく、受講者自身の健康管理ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スポーツと健康について	オリエンテーション 講義全体の概要、到達目標および成績評価について説明する 現時点での自身の健康づくりのための取り組みやスポーツへの関わりについて認識する (小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	2	現代社会の健康問題	健康の定義と現代社会が抱える健康問題について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	3	運動習慣が身体機能にもたらす効果	動物としての人間にとって体を動かすことの意義や効果について理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	4	適切な体重と食生活	適切な体重について理解する 健康に良い食生活について考える (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	5	生活習慣病	現代生活と生活習慣病の関係について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	6	飲酒・喫煙・薬物が身体に及ぼす影響	飲酒、喫煙、薬物が健康におよぼす影響について理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	7	ストレス・心の健康	ストレスが身体に及ぼす影響やストレス発生のメカニズムを理解し、心の健康について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	8	睡眠・休息	睡眠や休息が身体にもたらす影響について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	9	人類と感染症	ウイルス感染症に関する基礎知識を理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	10	安全で効果的にスポーツを楽しむための基礎知識	安全に運動をするための基礎知識を理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	11	スポーツの意義と社会的役割 (1)	オリンピック、ワールドカップなどの国際大会を題材にスポーツを通じた国際貢献や経済効果について学習する (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報に基づき事後レポートに取り組む (2 時間)
	12	スポーツの意義と社会的役割 (2)	パラリンピックやアダプテッド スポーツを題材にスポーツを通じた共生社会の実現について学習する (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報に基づき事後レポートに取り組む (2 時間)
	13	スポーツと SDGs (1)	SDGs のビデオや冊子などの資料を用いて SDGs に関する基礎知識を学習し、SDGs におけるスポーツの価値や可能性について調べる (講義・グループワーク)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：グループワークの内容をまとめる (2 時間)
	14	スポーツと SDGs (2)	SDGs におけるスポーツの価値や可能性	事前：発表の準備をする (2 時間)

			についてグループで発表する (発表)	事後：他者の発表の要点をまとめる（２時間）
	15	スポーツと健康論まとめ	授業のまとめ 今後の健康づくりの取 り組みや持続可能な社会実現に向けた 取り組みへの関わり方について考える (グループディスカッション・レポート)	事前：指定されたテーマについて予習する（２時間） 事後：生涯にわたり自身の健康づくりの取り組みを 実践する
関連科目	スポーツ科学実習、生涯スポーツ実習、スポーツ文化論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これからの健康とスポーツの化学	阿部孝・琉子友男	講談社
	2	大学生の健康・スポーツ化学	片桐文子 他	道和書院
	3			
評価方法 (基準)	対面授業 小レポート（５０％）、グループワーク・発表（２０％） 最終授業終了後のレポート課題（３０％） 遠隔授業 小レポート（７０％） 最終授業終了後のレポート課題（３０％）			
	学生への メッセージ	持続可能な社会の実現に向けてスポーツがもたらす様々な効果や期待される可能性について共に考えましょう。グループディスカッションや発表 にも積極的に参加しましょう。		
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 瀬川研究室			
備考	学習の効果を高めることを目的とし、授業の進捗状況や理解度、時事問題と関連して授業テーマの順序を変更する場合があります。			

科目名	人間の探求	科目名 (英文)	Humanities
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LHU1301a1		

授業概要・目的	人間は古来から、その時代や地域に固有な仕方では思索による探究を行ってきた。現代を生きるわれわれの生き方も、その探究活動に多大な影響を受けている。 本授業の第一部（第 1-10 回）では、人間の思索活動の歴史の諸相を「宿命」を「選択」に変化させる傾向（cf. ピーター・バーガー著『異端の時代』）という観点から振り返る。 第二部（第 11-15 回）では、特に 20 世紀の哲学者 M・ハイデガーに焦点を当て、近代以降の時代状況を「宿命」を「選択」に変化させる手段そのものが、複雑化し、新たな「宿命」となる」という観																																																						
到達目標	この授業を通して、 ① 現代人の誰もが置かれており、影響を受けざるを得ない現代の時代状況、社会構造についての考察を深めること ② また、そうすることで、現代人であるわれわれが近代化の過程で何を失って何を得たのか、今後何を取り戻し、何を維持し、何を新たに獲得すべきなのかということを、各々が再考することを目指す。																																																						
授業方法と留意点	Teams を使用して、哲学、思想、宗教と近代性に関する講義原稿と課題読書を配布します（毎回、ある程度の読書量があります）。授業ごとに Google Form を利用して、それらのテキストに関する小問題（選択問題 10-20 問）に答えてもらいます。 【※※ コロナウイルスの影響で対面授業が不可能である場合は、対面授業が行われるべき日に、Teams の動画配信機能を利用しリアルタイムで授業を行います。また、その際の動画と音声は録画し、Teams 経由でオンデマンドでも配信します。※※】																																																						
科目学習の効果（資格）																																																							
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション：時間、歴史とは何か</td><td> - 過去は未来からやってくる - 歴史の複数性 - 国家の語る歴史、民衆の語る歴史 - 学校で学ぶ「歴史」（世界史、日本史）とは何か - 郷土史、家族史、自分史 </td><td> 予習：なし 復習：なし </td></tr> <tr> <td>2</td><td>人類の 5 つの革命</td><td> - 人類革命、農業革命、都市革命、哲学革命、科学革命 - ホモ・サピエンスの「技術を使って「宿命」を「選択」に変化させる」傾向 - ピーター・バーガー『異端の時代』 </td><td> 予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること </td></tr> <tr> <td>3</td><td>マイケル・ヴィツェルの二つの神話の型</td><td> - ゴンドワナ型神話 - ローラシア型神話 </td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>4</td><td>神話の時代</td><td> - 古代ギリシア神話 『リグ・ヴェーダ』 『山海経』 - 日本の場合（『古事記』、『日本書紀』） </td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>5</td><td>「枢軸の時代」</td><td> - ヤスパースによる「枢軸の時代」の定義 - 古代ギリシア哲学 - 原始仏教 - 諸子百家の思想 - 日本の場合（律令国家と時間意識の変化） </td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ルネサンスと科学革命</td><td> - アリストテレスとガリレオ・ガリレイ - 科学は世界の見方をどのように変えたか </td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>7</td><td>デカルトと近代</td><td> 「私は考える、故に私は存在する」 「デカルト以前、デカルト以後」という考え方 </td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>8</td><td>「使用価値」と「交換価値」</td><td> - アダム・スミス - マルクス、エンゲルス - 近代以降、労働のあり方はどのように変化したか </td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>9</td><td>日本における近代化</td><td> - 日本における 1965 年以前、1965 年以後 「ニュータウン」の原理 - 農村から見た歴史 「変化しない」は「停滞」か - 内山節『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』 </td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>10</td><td>IT 技術と近代の行方</td><td> - スティーブ・ジョブズは何を目指したか - スマートフォンが可能にした空間・時間体験の変容 - 自由と SNS・選択疲れ - 選択疲れからの避難所 </td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>11</td><td>近代性の定義</td><td> 「宿命」から「選択」へ（ピーター・バーガー） - ポストモダンとは何か - ジークムント・バウマンの近代論 - 近代の継続か、ポスト近代か </td><td>2 に同じ</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ハイデガーの近代論（1）</td><td> - M・ハイデガー『芸術作品の根源』 - 内山節『自然と人間の哲学』 </td><td>2 に同じ</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション：時間、歴史とは何か	- 過去は未来からやってくる - 歴史の複数性 - 国家の語る歴史、民衆の語る歴史 - 学校で学ぶ「歴史」（世界史、日本史）とは何か - 郷土史、家族史、自分史	予習：なし 復習：なし	2	人類の 5 つの革命	- 人類革命、農業革命、都市革命、哲学革命、科学革命 - ホモ・サピエンスの「技術を使って「宿命」を「選択」に変化させる」傾向 - ピーター・バーガー『異端の時代』	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること	3	マイケル・ヴィツェルの二つの神話の型	- ゴンドワナ型神話 - ローラシア型神話	2 に同じ	4	神話の時代	- 古代ギリシア神話 『リグ・ヴェーダ』 『山海経』 - 日本の場合（『古事記』、『日本書紀』）	2 に同じ	5	「枢軸の時代」	- ヤスパースによる「枢軸の時代」の定義 - 古代ギリシア哲学 - 原始仏教 - 諸子百家の思想 - 日本の場合（律令国家と時間意識の変化）	2 に同じ	6	ルネサンスと科学革命	- アリストテレスとガリレオ・ガリレイ - 科学は世界の見方をどのように変えたか	2 に同じ	7	デカルトと近代	「私は考える、故に私は存在する」 「デカルト以前、デカルト以後」という考え方	2 に同じ	8	「使用価値」と「交換価値」	- アダム・スミス - マルクス、エンゲルス - 近代以降、労働のあり方はどのように変化したか	2 に同じ	9	日本における近代化	- 日本における 1965 年以前、1965 年以後 「ニュータウン」の原理 - 農村から見た歴史 「変化しない」は「停滞」か - 内山節『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』	2 に同じ	10	IT 技術と近代の行方	- スティーブ・ジョブズは何を目指したか - スマートフォンが可能にした空間・時間体験の変容 - 自由と SNS・選択疲れ - 選択疲れからの避難所	2 に同じ	11	近代性の定義	「宿命」から「選択」へ（ピーター・バーガー） - ポストモダンとは何か - ジークムント・バウマンの近代論 - 近代の継続か、ポスト近代か	2 に同じ	12	ハイデガーの近代論（1）	- M・ハイデガー『芸術作品の根源』 - 内山節『自然と人間の哲学』	2 に同じ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																				
1	イントロダクション：時間、歴史とは何か	- 過去は未来からやってくる - 歴史の複数性 - 国家の語る歴史、民衆の語る歴史 - 学校で学ぶ「歴史」（世界史、日本史）とは何か - 郷土史、家族史、自分史	予習：なし 復習：なし																																																				
2	人類の 5 つの革命	- 人類革命、農業革命、都市革命、哲学革命、科学革命 - ホモ・サピエンスの「技術を使って「宿命」を「選択」に変化させる」傾向 - ピーター・バーガー『異端の時代』	予習：配布資料を読むこと 復習：読書課題を読み、選択問題形式の課題を解いてインターネット経由で提出すること																																																				
3	マイケル・ヴィツェルの二つの神話の型	- ゴンドワナ型神話 - ローラシア型神話	2 に同じ																																																				
4	神話の時代	- 古代ギリシア神話 『リグ・ヴェーダ』 『山海経』 - 日本の場合（『古事記』、『日本書紀』）	2 に同じ																																																				
5	「枢軸の時代」	- ヤスパースによる「枢軸の時代」の定義 - 古代ギリシア哲学 - 原始仏教 - 諸子百家の思想 - 日本の場合（律令国家と時間意識の変化）	2 に同じ																																																				
6	ルネサンスと科学革命	- アリストテレスとガリレオ・ガリレイ - 科学は世界の見方をどのように変えたか	2 に同じ																																																				
7	デカルトと近代	「私は考える、故に私は存在する」 「デカルト以前、デカルト以後」という考え方	2 に同じ																																																				
8	「使用価値」と「交換価値」	- アダム・スミス - マルクス、エンゲルス - 近代以降、労働のあり方はどのように変化したか	2 に同じ																																																				
9	日本における近代化	- 日本における 1965 年以前、1965 年以後 「ニュータウン」の原理 - 農村から見た歴史 「変化しない」は「停滞」か - 内山節『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』	2 に同じ																																																				
10	IT 技術と近代の行方	- スティーブ・ジョブズは何を目指したか - スマートフォンが可能にした空間・時間体験の変容 - 自由と SNS・選択疲れ - 選択疲れからの避難所	2 に同じ																																																				
11	近代性の定義	「宿命」から「選択」へ（ピーター・バーガー） - ポストモダンとは何か - ジークムント・バウマンの近代論 - 近代の継続か、ポスト近代か	2 に同じ																																																				
12	ハイデガーの近代論（1）	- M・ハイデガー『芸術作品の根源』 - 内山節『自然と人間の哲学』	2 に同じ																																																				

			・人間にとって「使える」自然、「使えない」自然 ・効率性によって得られたもの ・失われた自然の「信頼性」「総合性」	
	13	ハイデガーの近代論（2）	・M・ハイデガー「物」講演 ・内山節『半市場経済』 ・コンバインに乗ると落穂を拾おうという気がなくなるのはなぜか ・「巨大なシステム」では捉えられない、「近さ」と「遠さ」 ・人間の幸福の実感と「小さなスケール」	2に同じ
	14	ハイデガーの近代論（3）	・M・ハイデガー『技術について』 ・「橋」と「水力発電所」は、同じ「技術」だがどのように違うのか ・「総かり立て体制」 ・「巨大なシステム」という新たな「宿命」	2に同じ
	15	ハイデガーの近代論（4）	・M・ハイデガー「野の道での会話」 ・「平面」の近代性、「凹凸」の反近代性 ・なぜわれわれは「プラタモリ」を見るのか	2に同じ
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	技術について	M・ハイデガー著、関口浩訳	平凡社ライブラリー
	2	日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか	内山節	講談社講談社現代新書
	3			
評価方法 （基準）	Google Form によって提出してもらう各授業回の課題×14 回分（第 2 回-第 15 回分）で評価します。 （第 1 回は授業資料、課題共にありません）			
学生への メッセージ	毎回の授業ごとに、一定量の読書課題と授業後の課題があるので、頑張ってついてきてください。 なお、各回の授業テーマは現時点での予定であり、一部変更になる可能性があることをご承知おきください（ただし、おおまかな流れは変わりません）。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。非常勤講師室等における相談可能時間についての相談や、授業に関連する相談等がある場合は、メールで問い合わせること。			

科目名	芸術論	科目名 (英文)	Fine Arts
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LHU1302a1		

授業概要・目的	【いかに芸術作品を見て語るのか】 美術史と美術批評の方法を学び、作品の「見方」と「語り方」を知る。毎回、重要な美術史家や美術批評家をひとりピックアップし、その代表的な著作と具体的な分析をふまえて、作品の「記述」と「評価」がいかに移り変わってきたのかを確認する。このプロセスをとって、有名な画家の名前や代表的な作品をただ覚えて満足してしまうレベルを超え、自分の眼で作品を見て自分の言葉で作品を語ることのむずかしさとおもしろさを体感する。																																										
到達目標	【以下の2点を自分の言葉で説明できるようになる】 1. 芸術作品を「見て語る」方法が多岐にわたることの理由 2. 芸術作品の前で自分だけの眼と言葉を持つことがむずかしい理由																																										
授業方法と留意点	【講義をふまえてクイズに答える】 1. 講義を受ける。 2. 講義後の制限時間内に、提示されたクイズの回答をMoodle経由で入力する。 3. 講義前に配布のフィードバックシートを確認し、講義で解説を聞く。 4. 校外実習を進める。																																										
科目学習の効果 (資格)	芸術作品を鑑賞する方法の理解 [学芸員資格]																																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入</td><td>授業概要の説明と歴史叙述について解説する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>伝記</td><td>「ジョルジョ・ヴァザーリ」の方法、つまり、作家の人生を基準にする見方と語り方を確認する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>考古学</td><td>「ヨハン・ヴィンケルマン」の方法、つまり、古代の精神を基準にする見方と語り方を確認する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>解剖学</td><td>「ジョヴァンニ・モレッリ」の方法、つまり、骨格のカタチを基準にする見方と語り方を確認する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>様式論</td><td>「アロイス・リーグル」の方法、つまり、カタチの進化を基準にする見方と語り方を確認する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>美術史</td><td>「ハインリヒ・ヴェルフリン」の方法、つまり、カタチの比較を基準にする見方と語り方を確認する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>イコノロジー</td><td>「エルヴィン・パノフスキー」の方法、つまり、カタチの記憶を基準にする見方と語り方を確認する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>知覚心理学</td><td>「エルンスト・ゴンブリッチ」の方法、つまり、眼差しの記憶を基準にする見方と語り方を確認する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>フォーマリズム#1</td><td>「クレメント・グリーンバーグ」の方法、つまり、カタチの新しさを基準にする見方と語り方を確認する。</td><td>事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入	授業概要の説明と歴史叙述について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。	2	伝記	「ジョルジョ・ヴァザーリ」の方法、つまり、作家の人生を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。	3	考古学	「ヨハン・ヴィンケルマン」の方法、つまり、古代の精神を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。	4	解剖学	「ジョヴァンニ・モレッリ」の方法、つまり、骨格のカタチを基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。	5	様式論	「アロイス・リーグル」の方法、つまり、カタチの進化を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。	6	美術史	「ハインリヒ・ヴェルフリン」の方法、つまり、カタチの比較を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。	7	イコノロジー	「エルヴィン・パノフスキー」の方法、つまり、カタチの記憶を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。	8	知覚心理学	「エルンスト・ゴンブリッチ」の方法、つまり、眼差しの記憶を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。	9	フォーマリズム#1	「クレメント・グリーンバーグ」の方法、つまり、カタチの新しさを基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																								
1	導入	授業概要の説明と歴史叙述について解説する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。レジュメ掲載作品を検索して確認する (60 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																																								
2	伝記	「ジョルジョ・ヴァザーリ」の方法、つまり、作家の人生を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																																								
3	考古学	「ヨハン・ヴィンケルマン」の方法、つまり、古代の精神を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																																								
4	解剖学	「ジョヴァンニ・モレッリ」の方法、つまり、骨格のカタチを基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																																								
5	様式論	「アロイス・リーグル」の方法、つまり、カタチの進化を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																																								
6	美術史	「ハインリヒ・ヴェルフリン」の方法、つまり、カタチの比較を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																																								
7	イコノロジー	「エルヴィン・パノフスキー」の方法、つまり、カタチの記憶を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																																								
8	知覚心理学	「エルンスト・ゴンブリッチ」の方法、つまり、眼差しの記憶を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																																								
9	フォーマリズム#1	「クレメント・グリーンバーグ」の方法、つまり、カタチの新しさを基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																																								

	10	フォーマリズム#2	「マイケル・フリード」の方法、つまり、カタチの価値を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																
	11	脱構築	「ロザリンド・クラウス」の方法、つまり、価値の相対化を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																
	12	フェミニズム	「グリゼルダ・ポロック」の方法、つまり、ジェンダーの非対称を基準にする見方と語り方を確認する。	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:クイズの内容を振り返り、自分の回答がどこまで適切であったかを確認し、採点してみる (90 分)。																
	13	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する (90 分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参考にしながら、ワークシート上の設問に応答する (120 分)。																
	14	美術展鑑賞	指定された美術展を鑑賞し、ワークシート上の設問に応答する。日程・場所・展示については講義のなかで指示する。	事前:対象美術展のサイトを確認する。展示テーマや特徴について確認する (90 分)。 事後:実地の経験をふまえて、関連情報も参考にしながら、ワークシート上の設問に応答する (120 分)。																
	15	総括	実習課題を振り返り、授業を総括する	事前:Moodle から資料をダウンロードする。前回答へのコメント内容を確認する。レジュメ掲載作品を検索して確認する (90 分)。 事後:芸術作品の見方と語り方の種類を再認識しつつ、それぞれの方法を自分なりに使いこなせるよう、知識を補いつつさらに美術鑑賞を続けていく (240 分)。																
関連科目	ミュージアムへの招待／ミュージアムコレクション論／芸能文化論／暮らしの中の文化																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>西洋美術史ハンドブック</td><td>(編) 高階秀爾・三浦篤</td><td>新書館</td></tr><tr><td>2</td><td>モダニズムのハード・コア 現代美術批評の地平</td><td>(編) 浅田彰・岡崎乾二郎・松浦寿夫</td><td>太田出版</td></tr><tr><td>3</td><td>美術史学の系譜</td><td>加藤哲弘</td><td>中央公論美術出版</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	西洋美術史ハンドブック	(編) 高階秀爾・三浦篤	新書館	2	モダニズムのハード・コア 現代美術批評の地平	(編) 浅田彰・岡崎乾二郎・松浦寿夫	太田出版	3	美術史学の系譜	加藤哲弘	中央公論美術出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	西洋美術史ハンドブック	(編) 高階秀爾・三浦篤	新書館																	
2	モダニズムのハード・コア 現代美術批評の地平	(編) 浅田彰・岡崎乾二郎・松浦寿夫	太田出版																	
3	美術史学の系譜	加藤哲弘	中央公論美術出版																	
評価方法 (基準)	【クイズの回答によって評価される】 1. 毎回の回答内容 [80%] 2. ワークシートの内容 [20%] 3. いずれも、基準は「好奇心」と「論理性」の多寡である。																			
学生への メッセージ	【より良い回答をめざす】 1. より良い回答をするために、講義に集中できるコンディションを整える。 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず進める。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 杉山研究室																			
備考	【自分の回答を自分で採点する】 1. 事前・事後学習は総時間 60 時間が目安となる。 2. 図書館やウェブ、その他の手段を使ってみずからの回答の採点を試みる。																			

科目名	文化人類学	科目名 (英文)	Cultural Anthropology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西垣 有
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LHU1303a1		

授業概要・目的	人類学はこれまで、世界中の人々の多様な生の理解を通して、私たち人類がこの地球上に生き、存在するというのがどのような事態なのかを探求してきた。本講義では、人類学の基礎的な概念や方法を概説し、人類学がどのような学問なのかを示した上で、そのような人類学的な見方の成立と歴史的展開をあとづける。
到達目標	・人類学がどのような学問であるかを理解できること。 ・人類学誕生以来の学説史的な展開、流れを理解できること。
授業方法と留意点	講義
科目学習の効果 (資格)	異なった視点からものごとをみることにより、私たちの思考や制度を可能にしているさまざまな前提をゆさぶり、世界の見方を新たにする。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	文化人類学とは？	人間、文化、フィールドワーク、エスノグラフィーなど人類学の基礎的な概念や方法論について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	2	人類学の誕生 (1) : 博物学から人類学へ	19 世紀におこった博物学から進化主義人類学へという変化を通して、人類学の誕生をあとづける。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	3	人類学の誕生 (2) : 進化主義人類学	前回の続き。E・タイラー、L・H・モーガン、J・フレイザーの研究を例に進化主義人類学とそれまでの博物学的研究との違いをみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	4	機能主義人類学 (1) : マリノフスキーとフィールドワーク	フランス社会学におけるデュルケム学派の成立とイギリスの機能主義人類学について、B・マリノフスキーと A・ラドクリフ=ブラウンの研究を中心に概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	5	機能主義人類学 (2) : 有機的全体としての社会	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	6	アメリカ文化人類学の誕生 (1) :	フランツ・ボアズの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	7	アメリカ文化人類学の誕生 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	8	アメリカ文化人類学の展開 (1)	ルース・ベネディクトとマーガレット・ミードの研究を紹介し、ボアズ学派を中心とするアメリカ人類学における「文化」概念の精緻化の過程をみる。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	9	アメリカ文化人類学の展開 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。分からないところは早めに質問に来るようにしてください。
	10	構造主義 (1) : モースからレヴィ=ストロースへ	マルセル・モースの『贈与論』と C・レヴィ=ストロースの構造主義について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	11	構造主義 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	12	構造主義 (3)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	13	解釈人類学 (1)	クリフォード・ギアツの研究を概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	14	解釈人類学 (2)	前回の続き。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。
	15	『文化を書く』とそれ以降	ポストモダン人類学とその後の展開について概説する。	事前学習の必要はありません。事後学習としては、一回の講義分のノートを半ページから1ページ程度に要約してみることをお勧めします。

関連科目	学芸員課程
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	100%定期試験によって評価する（オンライン授業の場合定期試験に相当する「レポート課題」をもって代替する。レポート課題の内容は授業内で説明する）。 評価の基準は、人類学がどのような学問であるかを講義で説明した流れに沿ってきちんと理解できているかどうかにおく。ネットや参考書などで、授業とは無関係に調べた知識は（特に授業内容と合致しない場合）必ずしも評価につながらない。			
学生への メッセージ	情報量が多いのでたくさんノートを取ってください。ノートは板書をただ受動的に書き写すのではなく、疑問点や興味を持ったポイントなどについてもメモを取り、あとで見返した時にわかるようなノートをつくる習慣をつけてください。わからないことがあれば積極的に質問に来てください（質問に関しては Teams のチャットをお願いします）。 各回の講義終了後あまり時間をおかずに、それまでの講義の流れを理解したうえで、各回の講義の要約をノート半ページから 1 ページ程度で作ってみることを推奨します。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考	事前事後の総学習時間の目安は 60 時間。 事前学習よりも、事後学習に力を注いでください。			

科目名	心理学	科目名 (英文)	Psychology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LHU1304a1		

授業概要・目的	心理学のうち、特に「ことばとコミュニケーション」に関わる領域を中心に扱う。 私達はことばを用いて思考し、情報伝達を行う。その過程において、私達はどのようにしてことばを理解し、あるいは産出しているのか。また、他者とのやりとりの中では、ことばそのものの意味だけではなく、その状況に対する知識や判断、相手の意図の推測なども不可欠である。 本科目ではこのような話題について議論する。また、私達がどのようにしてこのようなことばを使えるようになったのかという観点から、こどもの言語獲得、第二言語修得についても考察																																																																		
到達目標	言語心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている言語活動やコミュニケーションについて、心理学的に説明し、考えることができるようになる。さらに、専攻言語の学習に活かすことができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義中心で行う。講義で用いる資料は、事前に moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>言語とは何か 言語の機能</td><td>配付資料にもとづいた本時の復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>2</td><td>こどもの言語発達 1</td><td>ことばの獲得 発話の発達 ことばの発達を支えるもの</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>3</td><td>こどもの言語発達 2</td><td>ことばの発達の個人差 ことばと思考 新しいことばの世界へ</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>4</td><td>単語の理解 1</td><td>単語の認知 心的辞書の構造</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>5</td><td>単語の理解 2</td><td>単語の処理 単語認識と身体 心的辞書と外的語彙</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>6</td><td>文の理解 1</td><td>文の理解とは 意味表象の形成</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>7</td><td>文の理解 2</td><td>文理解の実験的研究</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>8</td><td>文章理解 1</td><td>文章理解とは 一貫性の確立 照応解決</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>9</td><td>文章理解 2</td><td>文章理解における推論 文章理解と知識</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>10</td><td>文章産出</td><td>作文の過程 作文の意義 読みやすい文章とは</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>11</td><td>会話 1</td><td>会話の成立 対人配慮</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>12</td><td>会話 2</td><td>攻撃、皮肉 誤解</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>13</td><td>比喩の理解</td><td>比喩の理解と認知過程 比喩の機能</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第二言語習得 1</td><td>生活の中の学習</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> <tr> <td>15</td><td>第二言語修得 2</td><td>学校などでの学習</td><td>配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	言語とは何か 言語の機能	配付資料にもとづいた本時の復習 期末レポートの準備	2	こどもの言語発達 1	ことばの獲得 発話の発達 ことばの発達を支えるもの	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	3	こどもの言語発達 2	ことばの発達の個人差 ことばと思考 新しいことばの世界へ	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	4	単語の理解 1	単語の認知 心的辞書の構造	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	5	単語の理解 2	単語の処理 単語認識と身体 心的辞書と外的語彙	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	6	文の理解 1	文の理解とは 意味表象の形成	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	7	文の理解 2	文理解の実験的研究	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	8	文章理解 1	文章理解とは 一貫性の確立 照応解決	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	9	文章理解 2	文章理解における推論 文章理解と知識	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	10	文章産出	作文の過程 作文の意義 読みやすい文章とは	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	11	会話 1	会話の成立 対人配慮	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	12	会話 2	攻撃、皮肉 誤解	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	13	比喩の理解	比喩の理解と認知過程 比喩の機能	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	14	第二言語習得 1	生活の中の学習	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備	15	第二言語修得 2	学校などでの学習	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	言語とは何か 言語の機能	配付資料にもとづいた本時の復習 期末レポートの準備																																																																
2	こどもの言語発達 1	ことばの獲得 発話の発達 ことばの発達を支えるもの	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
3	こどもの言語発達 2	ことばの発達の個人差 ことばと思考 新しいことばの世界へ	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
4	単語の理解 1	単語の認知 心的辞書の構造	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
5	単語の理解 2	単語の処理 単語認識と身体 心的辞書と外的語彙	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
6	文の理解 1	文の理解とは 意味表象の形成	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
7	文の理解 2	文理解の実験的研究	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
8	文章理解 1	文章理解とは 一貫性の確立 照応解決	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
9	文章理解 2	文章理解における推論 文章理解と知識	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
10	文章産出	作文の過程 作文の意義 読みやすい文章とは	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
11	会話 1	会話の成立 対人配慮	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
12	会話 2	攻撃、皮肉 誤解	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
13	比喩の理解	比喩の理解と認知過程 比喩の機能	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
14	第二言語習得 1	生活の中の学習	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
15	第二言語修得 2	学校などでの学習	配付資料にもとづいた本時の予習と復習 期末レポートの準備																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回のミニレポート 50%, 期末レポート 50%																																																																		
学生へのメッセージ	ふだん何気なく使っていることばについて、少し意識的になってみてください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階																																																																		
備考	・Teams と Moodle を併用します。授業は Teams で、資料配付や授業内レポート等は Moodle で行います。なお、授業は録画します (1 週間で削除します)。 ・Teams や Moodle の「お知らせ」をよく確認するようにしてください。 ・各授業のはじめに、前回の「授業内レポート」から抜粋して紹介します。																																																																		

	・事前事後学習時間の目安は総計 60 時間。
--	------------------------

科目名	現代社会と法	科目名 (英文)	Law in Contemporary Society
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01405a2		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「法」と「道徳＝倫理」の違いについて説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法学の諸原理について説明ができる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・新型コロナ変異株の流行により、第2回目の授業から当面のあいだ、本授業はMicrosoft社のteamsを用いたオンデマンド動画配信方式で行う。 ・課題提示や資料「配布」などはMicrosoft社teamsを通じて行う。 ・教員から的一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果 (資格)	・公務員試験や各種資格試験に必要なとされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 - 事前：教科書第1章をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：第1章を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	2	家族関係と法 (1)	・婚約とその不当破棄 ・内縁と重婚の内縁関係 ・婚姻の効果 ・婚姻費用 ・日常家事債務	・教科書の入手 - 事前：婚約と婚姻に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：婚約と婚姻に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	3	家族関係と法 (2)	・離婚 ・協議離婚と調停離婚 ・裁判離婚 ・離婚原因 ・有責配偶者の離婚請求ほか	- 事前：離婚に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：離婚に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	4	家族関係と法 (3)	・親子 ・認知と非嫡出子 ・親族間の扶養	- 事前：親族に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：親族に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	5	家族関係と法 (4)	・相続 ・遺留分 ・寄与分	- 事前：相続に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：相続に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	6	財産関係と法 (1)	・契約と意思表示 ・契約と当事者	- 事前：契約に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：契約に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	7	財産関係と法 (2)	・債務不履行と危険負担 ・契約の解除 ・瑕疵担保責任	- 事前：債務不履行に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：債務不履行に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	8	財産関係と法 (3)	・事務管理と不当利得 ・不法行為 ・使用者責任	- 事前：不法行為に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：不法行為に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	9	医療と法	・医療契約 ・医療過誤 ・専断的医療行為	- 事前：医療過誤に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：医療過誤に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	10	消費者と法	・訪問販売 ・マルチ商法 ・ローンとクレジット契約 ・製造物責任法	- 事前：消費者と法に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：消費者と法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	11	職場と法	・労働法とは何か ・労働紛争の諸類型 ・ブラック企業 ・非正規雇用の問題点	- 事前：労働法に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：労働法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	12	犯罪と法 (1)	・刑法の意義 ・罪刑法定主義とその派生原則 ・犯罪論 ・緊急行為 ・未遂と共犯	- 事前：刑法に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：刑法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	13	犯罪と法 (2)	・逮捕と勾留 ・搜索と差押 ・公訴の提起 ・少年法の特例 ・死刑をめぐる諸問題	- 事前：刑事訴訟法に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：刑事訴訟法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	14	人権と国際法	・立憲主義と憲法 ・自由権と社会権	事前：国際法に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間)

			・国際関係と紛争 ・集団的自衛権	事後：国際法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2時間）																
	15	法の適用、法源及び法の解釈	・制定法と慣習法 ・判例・学説・条理 ・概念法学と自由法学 ・文理解釈と論理解釈	事前：法の解釈に関する箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：法の解釈に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2時間）																
関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>新入生のためのリーガル・トピック 50</td><td>阿部昌樹・和田仁孝</td><td>法律文化社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）</td><td>末川 博/編著</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）</td><td>伊藤 正己＝加藤一郎/編著</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>判例法学（第5版）</td><td>西村 健一郎＝西井 正弘＝初宿 正典/編著</td><td>有斐閣</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己＝加藤一郎/編著	有斐閣	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎＝西井 正弘＝初宿 正典/編著	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣																	
2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己＝加藤一郎/編著	有斐閣																	
3	判例法学（第5版）	西村 健一郎＝西井 正弘＝初宿 正典/編著	有斐閣																	
評価方法（基準）	・ 形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。																			
学生へのメッセージ	・ 法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。																			
担当者の研究室等	11号館10階 小野教授室																			
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。																			

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01307a1		

授業概要・目的	憲法は、国の「かたち」と「はたらき」についての基本的な原理・ルールを定めたものです。これらの原理・ルールを大きく分けると、統治の仕組みに関するものと人権に関するものがあります。 この授業では、これらの重要な原理・ルールを解説し、私たちの社会における身近なトピックや問題にあてはめて考えるきっかけを提供します。また、実際に裁判で争われた事件も参照して、それについて裁判所がどのように判断したのかも検討していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の3つを習得することが期待されます。 (1) 憲法の原理やルールの基本的事項を理解すること。 (2) 具体的な事件について裁判所が下した判断を踏まえた基礎的な検討を行えるようにすること。 (3) 社会における様々なトピックに存在する憲法上の問題を発見できるようにすること。
授業方法と留意点	・レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください。 ・その他 主に講義形式で行いますが、質疑応答を通じて受講生との双方向型のコミュニケーションを図り、皆さんの理解を助けるようにします。間違いをおそれずに積極的に発言することを望んでいます。
科目学習の効果 (資格)	各種公務員試験で問われる憲法の基礎学力の習得。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・イントロダクション	授業方法の説明 憲法とはなにか (Unit 0, 1) * () 内は教科書該当箇所。	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	2	統治総論	・立憲主義、権力分立 (Unit 2) ・国民主権 (Unit 3)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	3	国会	国会の地位と役割、組織 (Unit 6, 7)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	4	内閣	内閣の地位と役割、組織 (Unit 8)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	5	裁判所	裁判所の地位と役割 (Unit 9, 10)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	6	裁判所 (2)	裁判所の組織・手続 (Unit 9)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	7	基本的人権総論	人権保障の仕組み Unit 13)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	8	基本的人権各論 (1)	思想良心の自由 (Unit 14)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	9	基本的人権各論 (2)	信教の自由と政教分離原則 (Unit 16, 17)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	10	基本的人権各論 (3)	表現の自由の意義、二重の基準 (Unit 17, 18)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	11	基本的人権各論 (4)	集会・結社の自由 (Unit 20)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	12	基本的人権各論 (5)	職業選択の自由 (Unit 21)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	13	基本的人権各論 (4) 生存権	生存権 (Unit 24)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	14	幸福追求権	自己決定権、プライバシー権 (Unit 28, 29)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
	15	平等原則	平等原則の意義と合理的な区別	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。

			(Unit 27)	時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理，要約する（2時間）。																
関連科目	行政法、民法、刑法など																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>一歩先への憲法入門</td><td>片桐直人ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	一歩先への憲法入門	片桐直人ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	一歩先への憲法入門	片桐直人ほか	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>START UP 憲法判例 50 [第2版]</td><td>上田健介・尾形健・片桐直人</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>授業中に適宜指示します。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	START UP 憲法判例 50 [第2版]	上田健介・尾形健・片桐直人	有斐閣	2	授業中に適宜指示します。			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	START UP 憲法判例 50 [第2版]	上田健介・尾形健・片桐直人	有斐閣																	
2	授業中に適宜指示します。																			
3																				
評価方法 (基準)	・ミニッツペーパー：30％ ・演習課題：40％ ・期末テスト：30％ ＊各項目の詳しい説明は授業初回に行います。																			
学生への メッセージ	法学を勉強したことない人も受講を歓迎します。 この授業は，憲法の条文，原理や解釈がなぜそうなっているのか，という点を分かりやすく説明することを心がけています。 また，社会のさまざまな事柄を憲法に基づいて考えられるような工夫に努めていきます。																			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 笛木講師室																			
備考																				

科目名	経済のしくみ	科目名 (英文)	Basic Economics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01407a2		

授業概要・目的	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。 SDGs-1, 3, 8, 9, 10																																																																		
到達目標	1) 戦後日本経済の歴史の大まかな流れについて説明できる。 2) 雇用、企業組織、財政、社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき、日々の経済ニュースを理解できるようになる。 3) 日本経済が抱える問題について、その重要性を説明することができ、それにかんする異なる立場の議論を比較することができる。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。毎回、レジュメを配布する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	日々の経済ニュースを理解できるようになることで、就職活動において企業を選択する際や、企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>経済とは</td><td>経済の基本的な仕組みについて概説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>戦後日本経済の歩み (1)</td><td>終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>戦後日本経済の歩み (2)</td><td>高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>戦後日本経済の歩み (3)</td><td>高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>戦後日本経済の歩み (4)</td><td>安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>戦後日本経済の歩み (5)</td><td>バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>雇用のしくみ</td><td>企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>企業のしくみ</td><td>所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>授業内討論 (1) 日本の雇用問題</td><td>授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う</td><td>事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>11</td><td>財政のしくみ (1)</td><td>日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>財政のしくみ (2)</td><td>日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>社会保障のしくみ</td><td>日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>授業内討論 (2) 日本の社会保障</td><td>授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う</td><td>事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>全体の総括</td><td>講義内容の復習、期末レポートの作成</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	3	戦後日本経済の歩み (1)	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	4	戦後日本経済の歩み (2)	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	5	戦後日本経済の歩み (3)	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	6	戦後日本経済の歩み (4)	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	7	戦後日本経済の歩み (5)	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	10	授業内討論 (1) 日本の雇用問題	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り	11	財政のしくみ (1)	日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	12	財政のしくみ (2)	日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	14	授業内討論 (2) 日本の社会保障	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り	15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習、期末レポートの作成
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
3	戦後日本経済の歩み (1)	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
4	戦後日本経済の歩み (2)	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
5	戦後日本経済の歩み (3)	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
6	戦後日本経済の歩み (4)	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
7	戦後日本経済の歩み (5)	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
10	授業内討論 (1) 日本の雇用問題	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り																																																																
11	財政のしくみ (1)	日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
12	財政のしくみ (2)	日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
14	授業内討論 (2) 日本の社会保障	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り																																																																
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習、期末レポートの作成																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>日本経済の常識</td><td>中原隆幸編</td><td>ナカニシヤ出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td>図解雑学 資本主義のしくみ</td><td>八木紀一郎他</td><td>ナツメ社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本経済の常識	中原隆幸編	ナカニシヤ出版	2	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	日本経済の常識	中原隆幸編	ナカニシヤ出版																																																																
2	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業時間内外の課題 (50%)、期末レポート (50%) で総合的に評価する。授業時間内外の課題および期末レポートは Moodle 上で出題する。Moodle への登録には期限を設けます。期限以降の登録は受け付けられないので注意してください。																																																																		
学生へのメッセージ	日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は、小難しく自分には関係のないことのように思えてしまいがちですが、実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには、少々難しく感じても、日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいと思います。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更があります。 事前事後学習の総時間の目安は 60 時間です。課題への解答については、課題解答期間後に正答と解説が公開されます。また各回で授業への質																																																																		

問や感想を書いてもらいますが、それに対する回答は適宜行います。それらを使って学習をさらに深めてください。
--

科目名	世界の政治	科目名 (英文)	World Politics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01305a1		

授業概要・目的	本講義は、比較政治学の基礎的な議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における政治制度の問題に注目するものである。
到達目標	比較政治学の基本的な考え方や方法論に親しむことで、それらの観点からなされる「世界の政治」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになること。 本講義を、自らが暮らす現代社会の諸問題を比較政治の視点から受講者自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることが目指される。
授業方法と留意点	原則として講義形式を取り、教科書の内容に即したレジュメを配布する。 基本的には教科書の章立てに沿って各回完結方式で進めていく予定であるが、その内容や進行状況等によって多少の調整がありうる。 【シラバス更新にともなうお知らせ】 (2021. 04. 16) ・講義は、①Teams を通じたりアルタイム配信 (後日視聴も可能)、②Moodle を通じたレジュメ・課題等の配信、という 2 つの手段を適宜組み合わせで行ないます。
科目学習の効果 (資格)	現代社会をめぐる社会科学的な議論についての基礎的な理解力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義の進め方およびテキストについて導入を行なう。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
	2	社会科学の方法 (1)	第 1 章 比較政治学とは何か	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	3	社会科学の方法 (2)	第 1 章 比較政治学とは何か 第 2 章 制度論	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	4	社会科学の方法 (3)	第 2 章 制度論	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	5	政治制度 (1)	第 3 章 選挙制度	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	6	政治制度 (2)	第 4 章 執政制度	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	7	政治制度 (3)	第 5 章 政党制度	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	8	政治制度 (4)	第 6 章 議会制度	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	9	政治制度 (5)	第 7 章 官僚制	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	10	政治制度 (6)	第 8 章 司法制度	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	11	政治制度 (7)	第 9 章 中央銀行制度	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	12	政治制度 (8)	第 10 章 中央・地方関係制度	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	13	日本の政治制度 (1)	第 3 章 選挙制度 第 4 章 執政制度 第 5 章 政党制度	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	14	日本の政治制度 (2)	第 6 章 議会制度 第 7 章 官僚制 第 8 章 司法制度	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60 分)
	15	日本の政治制度 (3) まとめと補遺	第 9 章 中央銀行制度 第 10 章 中央・地方関係制度	【事前学習】テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60 分) 【事後学習】配布レジュメを参照しながら、テキスト

	トを読み返しておくこと（目安時間：60分）																			
関連科目																				
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>比較政治制度論</td><td>建林正彦ほか</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	比較政治制度論	建林正彦ほか	有斐閣	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1	比較政治制度論	建林正彦ほか	有斐閣																
	2																			
	3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
評価方法 （基準）	■定期試験 100%																			
	【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.04.16) ・定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施します。 （課題の提示および提出は、Moodle を通じて行ないます。）																			
学生への メッセージ	教科書は、毎回の授業だけでなく、定期試験でも使用する。受講者は必ず購入すること。																			
	【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.04.16) ・定期試験は実施しませんが、課題への取り組みに際して教科書は必携です。必ず購入してください。																			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室 ※ただし2021年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。																			
備考	授業のスケジュールについては、出席者の状況に応じて調整される可能性がある。																			

科目名	組織と経営	科目名 (英文)	Organizations and Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01409a2		

授業概要・目的	[授業概要] 働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっていきます。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理 I では、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。																																																														
到達目標	[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。 ②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる。																																																														
授業方法と留意点	主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。 この授業を受講するには、経営学の基礎を理解していることが望まれます。																																																														
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、社会保険労務士																																																														
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション 【オンライン授業】</td><td>講義の進め方、本講義の内容について説明します。</td><td>シラバスを読んでください。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>戦略的人的資源管理論 【配付資料学習】</td><td>企業の戦略と人的資源管理の関係について自己学習します。</td><td>事前課題：教科書の第 3 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること</td></tr> <tr> <td>3</td><td>戦略的人的資源管理論 【オンライン授業】</td><td>企業の戦略と人的資源管理の関係についてリアルタイムで解説します。</td><td>事前課題：教科書の第 3 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること</td></tr> <tr> <td>4</td><td>組織構造 【配付資料自己学習】</td><td>組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を自己学習します。</td><td>事前課題：教科書の第 5 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること</td></tr> <tr> <td>5</td><td>組織構造 【オンライン授業】</td><td>組織・職場のデザインという観点からの人的資源管理をリアルタイムで解説します。</td><td>事前課題：教科書の第 5 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること</td></tr> <tr> <td>6</td><td>小テスト① 【オンライン授業】</td><td>リアルタイムのオンラインで小テスト①を行います。</td><td>事前課題：これまでの講義資料および教科書 1 時間程度読むこと 事後学習：小テストの内容を 1 時間程度復習すること</td></tr> <tr> <td>7</td><td>リーダーシップとマネジメントの違い 【配付資料自己学習】</td><td>リーダーシップとマネジメントの違いについて自己学習します。</td><td>事前課題：配付資料を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること</td></tr> <tr> <td>8</td><td>リーダーシップとマネジメントの違い 【対面授業】</td><td>リーダーシップとマネジメントの違いについてリアルタイムで解説します。</td><td>事前課題：配付資料および教科書代 7 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること</td></tr> <tr> <td>9</td><td>リーダーシップ 【配付資料自己学習】</td><td>リーダーシップ現象についてこれまでの知見を自己学習します。</td><td>事前課題：教科書の第 7 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること</td></tr> <tr> <td>10</td><td>リーダーシップ 【対面授業】</td><td>リーダーシップ現象についてこれまでの知見をリアルタイムで解説します。</td><td>事前課題：教科書の第 7 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること</td></tr> <tr> <td>11</td><td>雇用 【配付資料自己学習】</td><td>人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかを自己学習します。</td><td>事前課題：教科書の第 9 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること</td></tr> <tr> <td>12</td><td>雇用 【対面授業】</td><td>人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかをリアルタイムで解説します。</td><td>事前課題：教科書の第 9 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること</td></tr> <tr> <td>13</td><td>昇進・賃金 【配付資料自己学習】</td><td>評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて自己学習します。</td><td>事前課題：教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること</td></tr> <tr> <td>14</td><td>昇進・賃金</td><td>評価は、昇進・昇格や賃金にどのよう</td><td>事前課題：教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度再度</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション 【オンライン授業】	講義の進め方、本講義の内容について説明します。	シラバスを読んでください。	2	戦略的人的資源管理論 【配付資料学習】	企業の戦略と人的資源管理の関係について自己学習します。	事前課題：教科書の第 3 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること	3	戦略的人的資源管理論 【オンライン授業】	企業の戦略と人的資源管理の関係についてリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第 3 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること	4	組織構造 【配付資料自己学習】	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を自己学習します。	事前課題：教科書の第 5 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること	5	組織構造 【オンライン授業】	組織・職場のデザインという観点からの人的資源管理をリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第 5 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること	6	小テスト① 【オンライン授業】	リアルタイムのオンラインで小テスト①を行います。	事前課題：これまでの講義資料および教科書 1 時間程度読むこと 事後学習：小テストの内容を 1 時間程度復習すること	7	リーダーシップとマネジメントの違い 【配付資料自己学習】	リーダーシップとマネジメントの違いについて自己学習します。	事前課題：配付資料を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること	8	リーダーシップとマネジメントの違い 【対面授業】	リーダーシップとマネジメントの違いについてリアルタイムで解説します。	事前課題：配付資料および教科書代 7 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること	9	リーダーシップ 【配付資料自己学習】	リーダーシップ現象についてこれまでの知見を自己学習します。	事前課題：教科書の第 7 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること	10	リーダーシップ 【対面授業】	リーダーシップ現象についてこれまでの知見をリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第 7 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること	11	雇用 【配付資料自己学習】	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかを自己学習します。	事前課題：教科書の第 9 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること	12	雇用 【対面授業】	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかをリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第 9 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること	13	昇進・賃金 【配付資料自己学習】	評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて自己学習します。	事前課題：教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること	14	昇進・賃金	評価は、昇進・昇格や賃金にどのよう	事前課題：教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度再度
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																												
1	イントロダクション 【オンライン授業】	講義の進め方、本講義の内容について説明します。	シラバスを読んでください。																																																												
2	戦略的人的資源管理論 【配付資料学習】	企業の戦略と人的資源管理の関係について自己学習します。	事前課題：教科書の第 3 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること																																																												
3	戦略的人的資源管理論 【オンライン授業】	企業の戦略と人的資源管理の関係についてリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第 3 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること																																																												
4	組織構造 【配付資料自己学習】	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を自己学習します。	事前課題：教科書の第 5 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること																																																												
5	組織構造 【オンライン授業】	組織・職場のデザインという観点からの人的資源管理をリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第 5 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること																																																												
6	小テスト① 【オンライン授業】	リアルタイムのオンラインで小テスト①を行います。	事前課題：これまでの講義資料および教科書 1 時間程度読むこと 事後学習：小テストの内容を 1 時間程度復習すること																																																												
7	リーダーシップとマネジメントの違い 【配付資料自己学習】	リーダーシップとマネジメントの違いについて自己学習します。	事前課題：配付資料を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること																																																												
8	リーダーシップとマネジメントの違い 【対面授業】	リーダーシップとマネジメントの違いについてリアルタイムで解説します。	事前課題：配付資料および教科書代 7 章を 1 時間程度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること																																																												
9	リーダーシップ 【配付資料自己学習】	リーダーシップ現象についてこれまでの知見を自己学習します。	事前課題：教科書の第 7 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること																																																												
10	リーダーシップ 【対面授業】	リーダーシップ現象についてこれまでの知見をリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第 7 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること																																																												
11	雇用 【配付資料自己学習】	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかを自己学習します。	事前課題：教科書の第 9 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること																																																												
12	雇用 【対面授業】	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかをリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第 9 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること																																																												
13	昇進・賃金 【配付資料自己学習】	評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて自己学習します。	事前課題：教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を 1 時間程度予習すること																																																												
14	昇進・賃金	評価は、昇進・昇格や賃金にどのよう	事前課題：教科書の第 12, 13 章を 1 時間程度再度																																																												

		【対面授業】	に反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについてリアルタイムで解説します。	読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること																
	15	小テスト②、課題レポート提出締切日 【Google formで小テスト②を実施】	リアルタイムのオンラインで小テスト②を行います。	事前課題：これまでの講義資料および教科書1時間程度読むこと 事後学習：小テストの内容を1時間程度復習すること																
関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論、経営戦略論																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>人的資源管理</td><td>上林憲雄</td><td>中央経済社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>経験から学ぶ人的資源管理</td><td>上林憲雄他</td><td>有斐閣ブックス</td></tr><tr><td>2</td><td>入門人的資源管理</td><td>奥林康司他</td><td>中央経済社</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス	2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス																	
2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社																	
3																				
評価方法 (基準)	小テスト①30点、小テスト②30点、レポート40点、合計100点で評価します。ただし、授業態度や参加具合によって加点・減点をする場合があります。																			
学生への メッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。																			
担当者の 研究室等	11号館8階(西之坊研究室)																			
備考																				

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥川 あかり
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1310a1		

授業概要・目的	住まいには安全かつ健康で快適な環境が求められる。本講義では、気候風土や社会的・文化的背景、風俗習慣から住まいを理解し、住居の歴史の変遷や家族と住まい、住空間の構成、地域との関係など住居と住生活の全般について学習し、基本的な知識を習得する。これらを基に、様々な時代で求められたデザインを捉え、持続可能な社会の構築を目指した現代のよりよい住生活を創造する感性を身に付けることを目的とする。
到達目標	1. 日本と世界の住生活の多様性と歴史の変遷を生活文化に即して理解する 2. 住まいや居住地の環境と管理、防災の重要性について理解する 3. 住まいに関する基本的な知識を習得し、快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に付ける 4. 日本の住宅や建築を踏まえて自国の文化について世界の人々とコミュニケーションがとれる 5. 良好なコミュニティの形成につながるまちづくりに参画する重要性を理解する 6. 持続可能な社会の構築を目指して真に豊かな住生活とは何かについて主体的に考えられる
授業方法と留意点	適宜プリントを配布し、教科書やスライド、映像資料、板書による講義を基本とする
科目学習の効果 (資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ひとの住まいについて	授業の進め方や受講上の留意点などのガイダンスを行う ひとの住まいとサステナブルな住まいについて学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	2	日本の住まい(1)	住まいの歴史や住生活文化について、先史時代から奈良（竪穴住居、高床建物、平地住居）、平安貴族（寝殿造）までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	3	日本の住まい(2)	住まいの歴史や住生活文化について、中世の支配階層（主殿造、書院造）から近世（武家住宅、町家、農家）までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	4	日本の住まい(3)	近代(サラリーマン住宅、田園都市、集合住宅)の住まいの間取りや洋風化など、近代から現代の住生活文化を学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	5	気候風土と住まい	気候や風土(災害)と暮らし(住まいやライフスタイル)との関係について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	6	世界の住まい(1)	世界の住まいの歴史や住生活文化について、原始から古代までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	7	世界の住まい(2)	世界の住まいの歴史や文化、生活様式について、中世から近世までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	8	世界の住まい(3)	世界の住まいの歴史や文化、生活様式について、近代から現代までの時系列的な住まいの流れを学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	9	住まいと環境	温熱、光、音、空気、都市環境や色彩について学び、良好な住環境を実現するための手法について考えていく	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	10	住まいの管理	住まいの維持や管理として定期的なメンテナンス、管理と収納、家計や住居費について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	11	住まいの材料と構造	住まいの材料(土・石・木・コンクリート・鉄)とそれぞれの構造・工法について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	12	住まいと福祉	高齢者や子どもを含む自立支援のための住まいづくりやユニバーサルデザインについて学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	13	住まいの安全	住まいの安全と安心、住まいを取り巻く様々な住宅問題や公共的な住宅政策について学ぶ	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	14	住まいのデザイン	住まいのインテリアやエクステリアと設計について学び、AI 化が進む情報化社会での暮らしやエコについて考えていく	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。
	15	総括	住まいとデザインのまとめと現代の住生活に関する課題や理解度の確認	講義で知り得た内容について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう。

関連科目	特になし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	精選 住居学	後藤 久	実教出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説 西洋建築史	陣内 秀信 他	彰国社

	2			
	3			
評価方法 (基準)	試験：40%・課題の提出（小テストが行われる場合もある）：60% これらを合わせて総合的に評価を行う			
学生への メッセージ	建物や住宅に興味や関心をもち、街並みや空間にも目を向けてください。疑問があれば授業前後や授業中に質問してください。その他、参考文献や関連書籍は授業で適宜紹介します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	事前事後学習の総時間の目安は 60 時間。 提出物のフィードバックは授業中に行う。			

科目名	住まいとデザイン	科目名 (英文)	Design and Living Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩波 由佳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1310a1		

授業概要・目的	住まいは人間の生活と深くかかわっている。原初は身の安全をはかる場所として、心の拠り所として作られ、さらには快適に過ごせる美しい空間を求めて発達してきた。また住まいの成立には自然環境の他に社会的背景や文化、風俗習慣なども深くかかわってくる。この講義では、住宅、建築、インテリア、都市について、形態やデザイン様式の移り変わりを映像資料などを用いて多様な角度から学び、基礎的知識を習得する。そして様々な時代で求められたデザインを感じとり、現代のよりよい住宅、住生活を創造する感性を身に着けることを目的とする。
到達目標	日常生活において、住まいやインテリアの選定などの際に、授業で学んだ内容や優れたデザインを参照して快適で豊かな生活空間を創造できる感覚を身に着けることができる。 日本文化の基本である住宅や建築についての知識を教養として身に着けることで、留学などの海外生活や国内での留学生との交流の際に、正しく自国の文化を論じる能力を培うことができる。
授業方法と留意点	リアルタイムのオンライン講義形式で行う。授業中に質問を投げかけ、回答を求めることがある。授業終了後、授業内容に対する質問を提出することで出席とする。
科目学習の効果 (資格)	住まい環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	住まいの成り立ち 気候風土文化 花鳥風月 ～温暖で豊かな四季の国	日本の気候風土に適した木造住宅の特徴と発達を学び、日本人の心情や文化が住宅に反映する事例を知る。 全国の民家を概観する。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	2	日本の住まいの移り変わり (1) たてにあなを掘ると... ～洞窟を出て堅穴を	人類最古の住まいおよび日本での原始の住まいはどのようなものであったかを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	3	日本の住まいの移り変わり (2) 貴族の優雅、武士の剛健 ～寝殿造・書院造...	日本文化の基盤が形成された時期の住まいやしつらい、生活環境、美的感覚を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	4	日本の住まいの移り変わり (3) デザインの極みは何処に ～美をめぐる闘い 秀吉・利休・後水尾上皇	爛熟期の文化の中での書院造の完成と茶室の成立、数寄屋まで成熟から洗練を加えてゆく過程の美意識を学ぶ。現代の和風住宅につながる流れを学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	5	住まいの成り立ち 気候風土文化 白夜の過ごし方 ～厳寒の森の国	日本と同様に木造の文化を持つが気候の厳しいフィンランドの住宅、住生活、および快適な生活を創る北欧デザインについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	6	住まいのデザインを構成するもの 光 採光・照明 ～あたたかい光、クールな光	光の特徴や種類、扱い方を学び、効果的な照明による快適な空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	7	住まいのデザインを構成するもの 家具・ファブリックス ～くつろぐ、あつまる、ぼんやりする	家具やファブリックス、アクセサリの種類や効果的な使い方を事例を通して学ぶ	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	8	住まいの成り立ち 気候風土文化 月の砂漠 ～乾燥とオアシスの国	湿潤な日本と対照的な乾燥地帯であるエジプトの住宅、住生活および厳しい環境下での快適な生活を創る工夫と持続可能な取り組みについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	9	住まいのデザインを構成するもの 涼しさの演出 ～色彩・水・風	色彩や視覚、触覚によって感じる温度感覚の違いや効果的な使い方を学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	10	住まいの成り立ち 気候風土文化 石積みの壁 ～自然を征服、永遠のモニュメント	西洋の気候風土に応じて発達した組積造の住まいの構造や特質について学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	11	西洋の住まいの移り変わり (1) 荘厳なる様式 ～華麗なる宮廷生活へようこそ	近代以前のヨーロッパの成熟した宮殿・邸宅の建築、室内デザインについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	12	西洋の住まいの移り変わり・世界 (2) あたらしい人と生活のデザイン ～鉄、ガラス、コンクリート アーツ・アンド・クラフツ運動からアールヌーヴォー、ゼセッション、グラスゴー派、モダニズム	社会の変革により出てきた新しいデザイン運動であるイギリスのアーツアンドクラフツ運動、フランス・ベルギーのアールヌーヴォー、ヨーロッパ各地で展開したウィーンのゼセッション、マッキントッシュによるグラスゴー派、ガウディによるモダニズムについて学ぶ。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。
	13	西洋の住まいの移り変わり	民衆のための合理的デザインの追求と	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。

		り・世界(3) あたらしい人と生活のデザイン ～普遍なるものへの旅 バウハウス、そして三大巨匠の時代へ	モダニズムへ至る軌跡を学ぶ。そして三大巨匠とされるライト、ミース、コルビュジェの住宅デザインについて学ぶ。	気になった単語やフレーズを調べてみる。																
	14	現代の住まい 最先端デザインと生活スタイル ～現在に生きて暮らす	現代に展開する住宅や建築の事例を通して、現在とこれからの環境や生活空間を考える。	授業で知った事柄を身近な生活の中で発見する。 気になった単語やフレーズを調べてみる。																
	15	住宅をデザインする わたしの住みたい住まい ～とにかくイメージ、そして描いてみよう	自分にとって快適な空間を考え、表現する。	住宅、建築、インテリア雑誌などに目を通して自分の好みを考えておく。																
関連科目	特になし																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで」</td><td>コロナブックス編集部</td><td>平凡社</td></tr><tr><td>2</td><td>アパートメント 世界の夢の集合住宅</td><td>上田実・平地勲</td><td>平凡社</td></tr><tr><td>3</td><td>FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン</td><td>ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル</td><td>タッシェン・ジャパン</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで」	コロナブックス編集部	平凡社	2	アパートメント 世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社	3	FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン	ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル	タッシェン・ジャパン
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ロングセラー・デザイン 文房具から椅子まで」	コロナブックス編集部	平凡社																	
2	アパートメント 世界の夢の集合住宅	上田実・平地勲	平凡社																	
3	FURNITURE DESIGN 20世紀の家具のデザイン	ゼンバツハ&ロイトホイザー&ゲッセル	タッシェン・ジャパン																	
評価方法 (基準)	最終授業日に行うオンライン試験 80% 授業への質問、授業への取り組み姿勢 20%																			
学生への メッセージ	テレビや雑誌、インターネットなどのメディアで目にする住宅、建築に関するニュースに興味をもって見てみよう。ドラマや映画、音楽PVで使われている場所、漫画や小説に出てくる場所など空間に対しても注目する。また自宅や友人の家、カフェやショップなどで心地よさを感じたらそれはなぜかを考えてみよう。																			
担当者の 研究室等																				
備考	授業内容に対する質問には授業時休憩時間あるいは授業後オンラインで対応可能。また個別にメールでの対応も可能。課題に対するフィードバックは文書または口頭で必ず行う。事前事後の総学習時間の目安は 60 時間。																			

科目名	食品機能学	科目名 (英文)	Functional Food Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大橋 貴生
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1311a1		

授業概要・目的	食生活と健康とのかかわりを理解し、免疫系、内分泌系（体調リズム）、神経系（精神の高揚や鎮静）などの生体機能の調節に関与する機能性食品の特性についての知識を習得する。本講義では、食品の一次機能（栄養素）、二次機能（味、触感など）および三次機能（生体機能の調節などの新規機能）について学び、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を理解する。また、がんや老化に加え、肥満、高血圧、脂質異常症（高脂血症）、糖尿病などの生活習慣病を取り上げ、食生活とヒトの健康のかかわりについて習得することを
到達目標	食品に含まれる栄養・機能成分が列挙でき、それぞれ生体調節機能と、ヒトの健康との係わりについて説明できる。 食品に関わるニュースを理解できるようになり、自分なりの意見を持てるようになる。 また、得られた知識を日々の食生活に活かすことができるようになる。
授業方法と留意点	配布資料に沿って、希望する学生は対面での受講可能な動画配信型授業（ハイフレックス方式）を行う。 中間試験および総合試験（筆記）に代わるまとめ課題を課す。 1 回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明する。 受講生の理解を効果的に引き出すために、シラバス記載の順序が前後する場合がある。 毎回の講義に課題を課し、翌週に解説する。
科目学習の効果（資格）	食品成分の機能についての知識が得られ、健康と食生活とのかかわりが理解できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	食品機能学とは	食品の特性、一次機能（栄養素）、二次機能（味、食感など）および三次機能（生体機能の調節などの新規機能）について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	2	機能性食品	保健機能食品、特別用途食品および健康食品など、新しい食品の形態や制度について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	3	遺伝子組換え食品	遺伝子組換えの基礎的な概念を解説した後、実際にどのように利用されているかを、関連する法令とともに紹介する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	4	活性酸素	活性酸素と疾病、がん、および老化などとの関連について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	5	抗酸化機能食品	ポリフェノールなど抗酸化物質と、それら含む抗酸化機能性食品らについて解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	6	ミネラルとビタミンの機能性	ヒトの健康な生活に不可欠なミネラルとビタミンを含む食品について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	7	炭水化物	ヒトを含む全ての生物のエネルギー源である炭水化物（糖）について、解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	8	難消化性食品成分	難消化性炭水化物、食物繊維機能食品および乳酸菌類について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	9	中間試験	第 1 回から第 8 回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。	第 1 回から第 8 回までの内容を復習しておく。（1 時間）
	10	脂質と肥満	食品に含まれる脂質成分、および脂質と肥満との関係性について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	11	機能性脂質食品成分	肥満の解消に有効な機能性食品について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	12	高血圧と血圧降下作用がある食品成分	ヒトはなぜ高血圧になるのか、について簡単に説明した後、高血圧を解消するための食品について解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	13	糖尿病	糖尿病になるメカニズムを解説し、その後に糖尿病にならないための食生活について、解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	14	免疫機能を活性化する食品	免疫について、簡単に説明した後、免疫機能を活性化する食品成分について解説する。免疫と深く関わりがあるアレルギーについても解説する。	事前に配付資料を学習し、講義後、復習する。（1 時間）
	15	総合試験（筆記）	第 10 回から第 14 回までのまとめを行い、その習得状況を確認する。その後、内容について解説する。	第 10 回から第 14 回までの内容を復習しておく。（1 時間）

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂 食品機能学	青柳 康夫 編	建帛社
	2	わかりやすい食品機能学第 2 版	森田英利・田辺創一 編著	東京化学同人
	3	食べ物と健康 食品の科学	太田英昭 他	南江堂

評価方法 (基準)	講義毎の課題、中間試験および総合試験(筆記)に代わるまとめの課題を総合的に判断して、評価を行う。
学生への メッセージ	本講義により、日常的に頻繁に触れる食品、健康とのかかわりについての知識が得られます。 食品にまつわるニュースなどが理解でき、食品に関する蘊蓄を語れるようになり、自分の意見を持てるようになることが目標です。 1 回目の講義で、授業の進め方や成績評価の方法について説明します。履修する場合は、必ず、出席（またはオンラインによる受講）をしてください。
担当者の 研究室等	理工学部・生命科学科 1 号館 8 階 大橋講師室
備考	授業時の出席管理（出席および欠席）は、大学の規則に従って行います。 毎回必ず出席してください。 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけてください（総時間の目安は 30 時間）。

科目名	人体の構造と機能	科目名 (英文)	Human Anatomy and Physiology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宇野 恭介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1312a1		

授業概要・目的	我々は案外、自分のからだの中で行われている現象を知らない。この科目では、ヒトのからだは細胞からなること、細胞が集まり組織が、組織が集まり器官（臓器）が出来ていること、さらにヒトという個体は 10 の器官系からなることを学習する。また、その中を往来したり反応したりする分子のはたらき（機能）について取り上げ、からだの中で営まれている現象について学習する。併せて最近話題となっている関連トピックスについても解説したい。
到達目標	新聞・ニュース等にでてくるような、人体の構造や機能に関する用語を理解し、簡単に概略を説明できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。授業は対面で行う。小テストや教科書およびビデオ教材を参照に、ビジュアルを用いてイメージを膨らませながら学習できるように進める。ほとんど毎回前回の授業に関する小テストを実施するため、復習は必須となる。さらに、次回授業の予習をすると、理解度が増す。
科目学習の効果（資格）	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問う	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
	2	細胞・組織・器官・器官系	ビデオ「動物の体」。ヒトは約 60 兆個の細胞から構成されている。細胞は組織を構成し、組織は器官を造る。生物における個体と細胞の関係を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	3	細胞説・・・細胞は生物の基本単位	ビデオ「細胞説」。自然発生説から細胞説への転換。レディの実験とパスツールの実験を通して細胞の概念を理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	4	細胞膜	ビデオ高校生物「細胞膜」。細胞膜とシヤボン玉の類似点と相違点。細胞膜は脂質で構成され、様々な物質を選択的に通過することができる。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	5	原形質と原形質流動	ビデオ高校生物「細胞小器官」。細胞の内部に様々な小器官が存在することを理解する。植物の細胞質を観察し、「原形質」と「原形質流動」のイメージをつかむ。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	6	細胞小器官	ビデオ「細胞と組織」。細胞の核と細胞質の概念を理解するとともに細胞内のミトコンドリアを初めとする様々な細胞小器官の名前とその機能を覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	7	胃の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」。消化器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について授業内容をもとに復習を行うこと
	8	循環器系	循環器系について基礎知識を身につける。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	9	循環器系	ビデオ高校生物「体液」。生物の循環器系についてのしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	10	循環器系	ビデオ「人体②しなやかなポンプ心臓・血管」。ヒトの心臓の構造と機能について理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	11	肝臓の構造と機能	ビデオ「人体-壮大な化学工場・・・肝臓」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	12	生殖器系・性周期・排卵・妊娠・出産のしくみ	男性と女性のそれぞれの生殖器系の基本的な器官とそのしくみを覚える。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	13	生殖器系	ビデオ「人体①生命誕生・・・驚異の小宇宙」。生命の神秘とともに生殖器系のしくみを理解する。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	14	総括質問とプレゼンテーション	すべての授業内容に関する質問について答えるとともに、難解だった部分を詳細に解説する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。
	15	まとめと習熟度試験	すべての授業範囲について総括試験を実施する。	該当する項目について教科書をもとに復習を行うこと。

関連科目	自然科学 II
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	機能形態学	櫻田忍・櫻田司編	南江堂
	2			
	3			

評価方法（基準）	Moodle での小テストを 50%、臨時テストを 50% で評価する
----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
-----------	--

	講義担当者＜宇野恭介＞は、薬剤師免許を有し臨床及び薬事行政の一端携わった経験がある。また、国立大学及び欧州研究機関において薬学の基礎研究に従事してきた。これらの経験から基礎生物から臨床薬理学に渡る広い視野で生理学及び解剖学の教授を行う。
担当者の研究室等	枚方学舎（薬学部）1号館3階 機能形態学研究室（宇野講師室）
備考	講義前の予習（教科書を読む1時間×15回）、復習（ノートをまとめる、重要単語を暗記する1時間×15回）

科目名	自然科学の理解	科目名 (英文)	Introduction to Natural Science
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1313a1		

授業概要・目的	地球温暖化や放射性廃棄物などの社会問題は、物理、化学、生物、天文学や地球物理学等の科学分野にまたがっている。これらの問題を議論するときには、総合的な科学的知識が必要となり、そのような知識を得るためには、自然科学のすべてを概観でき、またこれにより自然界の構造的な理解を明確にできるようになる必要がある。このコースでは、自然科学に対しての知識の習得と、大局的な理解を目指す。国連の持続可能な開発目標 SDGs の 6 に対応する。
到達目標	自然科学の体系や基本的な考え方について理解し、また、自然科学のすべてを概観でき、説明できる。またこれにより自然界の構造的な理解を明確にできるようになる。科学リテラシーを確立できる。プレゼンテーションや対話の技術を身につけることができる。
授業方法と留意点	ビデオ教材を用いて講義を行う。 Moodle を使用するので、使えるようにしておくこと。
科目学習の効果 (資格)	科学リテラシーを確立できる。また、さまざまなテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。Moodle を使った講義に違和感なく取り組めるようになる。アクティブラーニングを体験して、自ら学習できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自然科学とは何か 【入門編】	自然科学の学習前に、なぜ科学を勉強していくのかを明確にする。これから自然科学を統合的に理解することの意義を知る。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	2	天空の法則と地上での運動 【物理・1】	自然界にある秩序を認識することで、科学的方法論が発達してきた過程を学ぶ。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	3	ニュートンの法則 【物理・2】	ニュートンが示した、運動とその原因としての力の関係を理解する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	4	力学的エネルギー 【物理・3】	力学的エネルギーとは何かについて学習する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	5	光の性質と相互作用及び相対性理論 【物理・4】	相対性の考え方に触れ、アインシュタインの相対性理論を理解する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	6	放射性物質と原子力 【物理・5】	原子核の中で起こる法則について学ぶ。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	7	基本的な化学の概念と化学結合 【化学・1】	化学の基本となる原子間の結合、化学結合について学ぶ。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材 (You Tube を利用) を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。
	8	有機化学と化学反応 【化学・2】	有機化学の基本的な反応の仕組みについて理解する。これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意

			する。	された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	9	物質の性質と科学的新素材【化学・3】	物質の持つ基本的な性質を学び、近年になり増え続ける科学的新素材についても学ぶ。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	10	生命の発生と進化の戦略【生物・1】	生物の種類や成り立ち、生物進化の概略について学ぶ。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	11	生命の基本となる化学物質【生物・2】	生命科学全般について概略する。特に、生命の基本となる化学物質について学ぶ。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	12	細胞と生体エネルギー【生物・3】	細胞の構成や、細胞が如何にしてエネルギーを作り出しているかなどについて学ぶ これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	13	i P S細胞と遺伝子治療【生物・4】	iPS 細胞とは何か、また、胚性幹細胞との違いや利点などについて学ぶ。また、再生医療の最先端に触れる。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	14	なぜがんになるのかその 1【生物・5】	がんとは何か、そしてがんになる過程を学び、なぜがんになるのかを知り、がんの予防法についても考察する。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
	15	なぜがんになるのかその 2【生物・6】	がんとは何か、そしてがんになる過程を学び、なぜがんになるのかを知り、がんの予防法についても考察する。 これらを ABD 読書会形式にて、受講者が自ら学び、また他の受講者に説明・共有する。	講義前に Moodle 上の配布資料を予習・復習すること。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、講義後に配信されるビデオ教材（YouTube を利用）を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。																
関連科目	食品機能学、人体の構造と機能																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>Moodle を利用し配布します。</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Moodle を利用し配布します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Moodle を利用し配布します。																			
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>やさしい基礎生物学</td><td>南雲保</td><td>羊土社</td></tr><tr><td>2</td><td>物理学入門 力と運動</td><td>武谷三男</td><td>ちくま文芸文庫</td></tr><tr><td>3</td><td>はじめて学ぶ化学</td><td>野島 高彦</td><td>化学同人</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい基礎生物学	南雲保	羊土社	2	物理学入門 力と運動	武谷三男	ちくま文芸文庫	3	はじめて学ぶ化学	野島 高彦	化学同人
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	やさしい基礎生物学	南雲保	羊土社																	
2	物理学入門 力と運動	武谷三男	ちくま文芸文庫																	
3	はじめて学ぶ化学	野島 高彦	化学同人																	
評価方法（基準）	毎回の小テスト（40%）、振り返りレポート（10%）、およびレポート、小論文、演習問題などの課題（50%）の総合点で評価する。ビデオ教材の視聴がされているかも確認し、成績評価（受講態度）に加える。 出席および遅刻・欠席の扱いは、薬学部の出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱います。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。																			
学生へのメッセージ	担当教員からのメッセージ： こんにちは！薬学部の大塚です。 自然科学は多岐にわたります。物理学、化学、生命科学等を文系の学生さんによく分かるようにバランス良く解説します。 毎回の授業の終わりに Moodle を用いて「ミニツペーパー・リアクションペーパー」を書く時間（5分間）を設け、理解の程度を把握すると同時																			

	に質問を受け、次回に回答する。また講義開始前の学生証による出席確認と、講義終了時のミニツペーパー・リアクションペーパーの提出の両方がなされたことをもって、講義出席の証拠とします。Moodle を
担当者の研究室等	枚方キャンパス 1 号館 5 階 大塚教授室 otsuka@pharm.setsunan.ac.jp
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、薬学部出席および遅刻・欠席と、原則、同じ扱います。詳細は、一回目の講義で配布する資料に従います。事前三後学習の総時間の目安は 60 時間。

科目名	ものづくり研究の世界	科目名 (英文)	Introduction to Manufacturing Technology
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岸本 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1314a1		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	- 各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。 - 教科書を準備すること。なお、適宜、追加資料を配布する。 - 講義の最後に、課題を提出する。原則、次回の講義のはじめに、採点済みの課題を返却する。 - 時間配分の目安 : 講義 (約 60 分) ⇒ 質疑応答 (15 分) ⇒ 課題 (15 分)
科目学習の効果 (資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	機械工学とは？	- 機械工学の発展の歴史を概観する。 「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	事前：テキスト第 1 章を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	2	道具を作る (1) - ヒトと道具	- 道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ - 農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	事前：テキスト第 2 章 2.1-2.3 を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	3	道具を作る (2) - 作り方	- 鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 - 刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	事前：テキスト第 2 章 2.4-2.5 を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	4	モノの材料を知る (1) - 金属材料	- 金属材料はなぜ素材たり得るか？ - 鉄鋼の製造方法	事前：テキスト第 3 章 (鉄つくりの変遷) を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	5	モノの材料を知る (2) - セラミックス・ポリマー	- セラミックス・ポリマーの構造 (金属と何が異なるか？) - 高強度・機能性材料の話	事前：テキスト第 4 章 (非金属材料) を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	6	モノの材料を知る (3) - 新素材	- 新素材と高度産業化社会 - 形状記憶、超伝導、ナノ材料	事前：テキスト第 5 章 (新素材) を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	7	ものづくり (1) - 母なる機械	- 機械部品を作る機械 (工作機械の歴史) - 機械時計、工具と運動、機械部品	事前：テキスト第 6 章 (母なる機械) を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	8	ものづくり (2) - 精密に加工する	- 精度を追求する (コンピュータと工作機械) - 精密加工、マシニングセル、ナノ加工	事前：テキスト第 7 章 (精密に加工する) を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	9	ものづくり (3) - 工場 (ファクトリー)	- 世界が学ぶ・日本が誇る製造システム - 無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	事前：テキスト第 8 章 (ファクトリー) を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	10	大きな力を得る (1) - 車輪	- 作業を補助する機械の歴史 - 車輪、滑車、てこ、歯車	事前：テキスト第 9 章 (人間の作業を補助する機械) を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	11	大きな力を得る (2) - 建設運搬機械	- 巨大な力を得るためのアクチュエータ - 油圧・水圧・空気圧機器、電動機	事前：テキスト第 10 章 (力を伝える・増幅する機械) を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	12	大きな力を得る (3) - パワーアシスト	- アクチュエータの知能化とパワーアシスト - パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	事前：テキスト第 11 章 (機械の知能化) を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	13	ミクロの機械 (1) - 精密機械	- 小さくなることで変わる使い方 - 時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	事前：テキスト第 12 章 (精密機械) を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	14	ミクロの機械 (2) - 小さく作る	- 小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ - 微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	事前：テキスト第 13 章 (小さくつくる) を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)
	15	ミクロの機械 (3) - 小さくて広大な世界	- 半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 - カプセル内視鏡、鞭毛モーター	事前：テキスト第 14 章 (小さくて広大な世界) を読んでおく (2 時間) 事後：関連事項について調べる (2 時間)

関連科目	産業技術史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	・ 毎回提出する課題（各回 10 点満点）に基づき成績評価をする。 ・ 満点は 150 点（講義 15 回分）で、これを 100 点満点に換算する。			
学生への メッセージ	機械工学が関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？ 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？ 近未来にどのような乗り物が実現されているか？ 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1 号館の 3 階・4 階・5 階〕			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。 ・ 出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 ・ 30 分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・ 遅刻は 2 回で欠席 1 回とみなす。 ※ 詳細は、初回に配布する『受講の際の注意』を熟読すること。 【フィードバック】原則、講義のはじめに、前回の課題（採点済み）を返却する。			

科目名	生物と環境	科目名 (英文)	Life and Environment
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LNA1315a1		

授業概要・目的	環境をめぐる諸問題は、ニュースでみない日はないほど私達にとって身近な話題となっています。しかし、みなさんは「環境」について本当に理解しているといえるでしょうか？環境を理解するためには、さまざまな知識や考え方が必要です。 本講義では、生物（ヒトも含む）と環境の関わりを学ぶことを通して、私達の身の回りにある環境・環境問題を正しく理解できるようになることを目指します。そして、これからの時代を生きる人類にとって避けて通れない環境問題の解決を模索していく上で必要になる考え方を身につけ、自身で情報を見わけること
到達目標	1. 生物と環境の関係について基礎知識を習得し、自ら説明することができる。 2. 環境問題や地域の環境の実態について、自分の意見を述べるができる。
授業方法と留意点	講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等を実施する時間を設ける。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題に対しては解説を行う。また、Moodle 等のオンラインツールを授業時間・授業外学習時に利用するためスマートフォンやタブレット、PC 等を各自用意すること。
科目学習の効果（資格）	環境問題への意識向上、情報リテラシーの向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、採点方法等について理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	2	地球環境史	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	3	文明と環境 1	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	4	文明と環境 2	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	5	文明と環境 3	人と環境の関わり方の歴史を知る	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	6	食からみる環境 1	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	7	食からみる環境 2	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	8	食からみる環境 3	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	9	食からみる環境 4	人と密接に関わる生物と環境について学ぶ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	10	生物と環境の多様な関係性 1	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	11	生物と環境の多様な関係性 2	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	12	生物と環境の多様な関係性 3	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	13	生物と環境の多様な関係性 4	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	14	生物と環境の多様な関係性 5	さまざまな地域を事例として、人・動植物・環境の多様な関係を理解する	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える
	15	全体の総括	授業のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。環境や生物に関連する情報を収集し、それに対する自分の意見を考える

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、小レポート、受講態度等）（50%）、期末レポート（50%）で評価します。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。			

科目名	エンプロイメントデザインⅠ	科目名（英文）	Employment DesignⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵, 水野 武, 上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1347a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ（将来社会に出て仕事をする際に必要な能力）の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目で、2021年度入学生のみ履修ができる。 また、講義は当面はTeamsを利用したリアルタイム型講義と教室受講ができるハイフレックス形式で行う。 Teams コード：51q6o2g
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義内容を振り返ること（0.5 時間）
	2	私が NO.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1 になる」ための計画を立て、実践する	・設定した課題を実践すること（2 時間）
	3	私が NO.1 プロジェクト②	・講義 3 で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること（0.5 時間）
	4	仕事で使う分析スキルについての解説	・定量、定性分析の概説、定量分析の 3 つの場面の概説	・講義内容を振り返ること（0.5 時間）
	5	私が NO. プロジェクト③最終振り返り	・講義 3 で設定した個別の課題の結果の振り返り、共有	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること ・第一回課題「NO. プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること（2 時間）
	6	数字を用いて意思決定を行う①	・損益分岐点を使った意思決定方法を学ぶ	・講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	7	数字を用いて意思決定を行う②	・機会費用と埋没費用を使った意思決定、重み付けを使った意思決定の方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること（1 時間）
	8	議論を進めるファシリテーションの基本	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること（1 時間）
	9	創造的思考の枠組みを使って議論する	・クレイジープレスト、スマッシュアップなどアイデアを拡散する方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること（1 時間）
	10	グループでリサーチプロポーザル（研究計画書）を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル（研究計画書）の作成」	・グループで課題に取り組むこと（2 時間）
	11	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	12	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	13	担当講師のキャリアについて③	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること（0.5 時間）
	14	グループで研究計画書を発表	・講義 10 で取り組んだ課題をグループごとに発表する	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること ・第二回課題「グループレポート」提出（0.5 時間）
	15	講義のまとめ（担当：教育イノベーションセンター）	・エンプロイメントデザインⅠの振り返り	・講義全体を振り返ること ・第三回課題「講義の最終レポート」を作成すること（2 時間）

関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ
------	-----------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	毎回のミニッツペーパー（15%）、グループワーク（10%）、グループレポート（10%）、個人レポート 3 回（65%）を総合的に判断する。
学生への	自身の将来の職業選択を考えるために、様々な課題を真摯な態度で聴いてほしい。

メッセージ	また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井） 7号館3階 教育イノベーションセンター（上野山） 7号館3階 教育イノベーションセンター（水野）
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイトで伝達する。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名 (英文)	Employment Design II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武、上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1348a1		

授業概要・目的	外部講師（本学卒業生を含む）をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。 なお、本講義は Teams と用いてリアルタイム Web 講義を実施する。学生は時間割通りに下記の Teams コードから暮らすに入り、該当日の講義チャネルに立てられた会議室から受講すること。 Teams コード：v2yvhvd
科目学習の効果（資格）	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション (教育イノベーションセンター)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点 (特に聴く態度) について	・事前学修：シラバスを熟読すること (1 時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
2	警察官として、生きていく。大阪府警察は、この街を、人を、そしてキミの人生を、全力で守り続ける。(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介いたします。	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
3	社会人として転職 4 回で 5 社目に勤務しながら週末に NPO も立ち上げたが、20 歳から 40 歳まで何を悩んでどう生きてきたかの事例紹介 (社会起業家)	・ゲストのキャリアの履歴とその節目で感じたことをお話いただきます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
4	SDGs で世の中を変える～未来の子どもたちのためにやるべきこと～	SDGs について、ゲスト企業の取り組みについてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
5	社会問題と対峙する仕事 -ソーシャルワーカーについて- (摂南大学 OB・ソーシャルワーカー)	①講師の学生生活から学んだことを伝える。グループワークを実施。 ②社会問題が他人事ではなく、自分事であることに気付く個人ワークやグループワーク、実際にあった事例を編集して伝える、事例検討を行います。	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
6	「ビジネス創造に必要な力」を実例から学ぶ (IT/役員)	・現役のビジネスパーソンが日々実践している「ビジネスに必要な力」を実例を通じて解説します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
7	【業務告白】フツのサラリーマンが PR の仕事の経験から感じたこと (グループ広報)	自身のキャリア・経験談など、2 社 3 職種から学んだことを中心にお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間) ・中間レポートを作成すること (1.5 時間)
8	My proud work しあわせのまちづくり？主役は地域住民！『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方？ (社会福祉協議会職員)	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
9	プログラマを目指して摂南大学に入学してから NPO 代表になるまで (摂大 OB/NPO 法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、“公共性”を武器に NPO 法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
10	お坊さんから後輩のみなさんへ (摂大 OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
11	信用金庫の仕事と期待される人財 (金融/人材開発)	仕事のやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
12	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ (摂南大学 OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通じて企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
13	ともに強いまちを創る～公務員という選択～ (摂南大学 OB/市役所職員)	・仕事を通して社会や地域に貢献ができる、自らが成長できる、公務員のやりがいについて熱くお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
14	先人 (企業家) に学ぶ仕事への心構え (商工会議所/職員)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話します。	・事後学修：講義の内容を振り返ること (0.5 時間)

	15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・事前学修：講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間) ・事後学修：最終課題を作成すること(2.5時間)																
関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	毎回の感想レポート(30%)、中間レポート1回(30%)、期末レポート1回(40%)を総合的に判断する。																			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。																			
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター(上野山) 教育イノベーションセンター(水野)																			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。																			

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA2505a3		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じる ことが期待される。 インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び海外を含む高等教育での教育ならびに経営の経験に基づいて議論を進めることもある。 SDG s 4-4 S
到達目標	就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。 なお、講義は対面による講義と Teams を用いたリアルタイム型講義を同時進行で行う。 各自の事情や希望に合わせて受講形式を選択すること (受講形式は固定しなくともよい)。 対面で受講する場合は初回の教室と同じ 1152、Teams で受講する場合は 3fz1pgv からクラスに入り、講義日のチャンネルで受講すること。
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・事前学修: インターンシップとは何かについて考えること (1 時間) ・事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること (2 時間)
	2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・事前学修: 自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (3 時間) ・事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること (1 時間)
	3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・事前学修: 興味のある会社や自治体などの組織について調べること (1 時間) ・事後学修: インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (3 時間)
	4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・事前学修: 効果的なプレゼンテーションについて考えること (1 時間) ・事後学修: 配付された資料を見直し講義を振り返ること (3 時間)
	5	課題のプレゼンテーション①	・第 4 回目の課題をプレゼンテーションする	・事前学修: 第 4 回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること (3 時間) ・事後学修: プレゼンテーションのポイントをまとめる (1 時間)
	6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・事前学修: マナーがなぜ大切なのかを考えること (2 時間) ・事後学修: 配付されたテキストを精読すること (2 時間)
	7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること (2 時間) ・事後学修: 授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること (2 時間)
	8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること (2 時間) ・事後学修: マナーの大切さを再度考えること (2 時間)
	9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・事前学修: 履歴書を書く準備をしておくこと (2 時間) ・事後学修: 講義を振り返り、履歴書を書き直すこと (2 時間)
	10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修: グループ内の自分の役割を考えること (2 時間) ・事後学修: グループで課題に取り組むこと (2 時間)
	11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・事前学修: グループでプレゼンテーションを行う準備をすること (2 時間) ・事後学修: 自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること (2 時間)
	12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・事前学修: インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる (2 時間) ・事後学修: 訪問時のマナーについておさらいをすること (2 時間)
	13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修: プレゼンテーションの準備をすること (2 時間) ・事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること (2 時間)

	14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備すること（2時間） ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること（2時間）																
	15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップⅠで学んだことをまとめること（2時間） ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること（3時間）																
関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	各課題 55%とレポート 45%（企業研究のPPTと企業研究レポート 25%、最終レポート 20%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始（予定） インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	インターンシップⅡ	科目名 (英文)	Internship II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA3506a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 なお、直前学修および実習の有無・形態に関してはインターンシップⅠで伝達する。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。 事後学修は当
科目学習の効果 (資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月19日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 *スーツ着用のこと	・事前学習: 社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(1時間)
	2	直前学修② 6月19日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
	3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
	8	事後学修① 9月18日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	9	事後学修② 9月18日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	10	事後学修③ 9月25日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	11	事後学修④ 9月25日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	12	事後学修⑤ 10月2日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習: 実習記録簿を見直してくること(1時間)
	13	事後学修⑥ 10月2日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)
	14	事後学修⑦ 10月16日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学修: 全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること *学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること
	15	事後学修⑧ 10月16日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	

関連科目	インターンシップⅠ																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
評価方法 (基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など)(40%)を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	1.「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 2.「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)																			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。																			
	なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。																			

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1507a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。																																																																		
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。																																																																		
授業方法と留意点	WebFolder を使い、「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する。 大学生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 説明文・論説文・レポートの 3 つの課題を提出する。																																																																		
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 教科書第 1 回「文章の書き方 1」</td><td>授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ</td><td>――</td></tr> <tr> <td>2</td><td>教科書第 2 回「文章の書き方 2」</td><td>わかりやすい文章の書き方を学ぶ</td><td>前回の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>教科書第 3 回「事実と意見」</td><td>事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ</td><td>前回の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>教科書第 4 回【課題 1】説明文</td><td>ある事物について、論理的に説明する文章を書く</td><td>課題を書く</td></tr> <tr> <td>5</td><td>教科書第 5「構成」</td><td>レポートなどの文章構成を学ぶ</td><td>これまでの復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>課題 1 のフィードバック これまでの復習</td><td>課題 1 の反省 ここまでの復習問題を解く</td><td>課題 1 を見直す これまでの復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>教科書第 6 回「要約」</td><td>要旨の要約の作成方法を学ぶ</td><td>これまでの復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>教科書第 7 回「文章を引用する」</td><td>文章を引用する方法を学ぶ</td><td>前回の復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>教科書第 8 回「図表を引用する」</td><td>図表を引用する方法を学ぶ</td><td>前回の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>引用の復習 教科書第 9 回「意見の述べ方」</td><td>文章と図表資料の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ</td><td>引用の復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>教科書第 10 回【課題 2】論説文</td><td>資料を引用して意見を述べる文章を書く</td><td>課題を書く</td></tr> <tr> <td>12</td><td>教科書第 11 回 「レポートの書き方 1」 レポート課題の説明</td><td>レポートの体裁について学ぶ レポート課題の告知と説明</td><td>レポートを作成の準備をする</td></tr> <tr> <td>13</td><td>教科書第 12 回 「レポートの書き方 2」 レポートの作成準備</td><td>ポート作成の注意点を学ぶ レポートの作成準備</td><td>レポートを作成する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>課題 2 のフィードバック 教科書第 13 回 「資料収集の方法」</td><td>課題 2 の反省 資料収集の方法を学ぶ</td><td>課題 2 を見直す レポートを作成する</td></tr> <tr> <td>15</td><td>レポート提出 小テストの復習テスト</td><td>レポートを提出する 小テストの復習テスト</td><td>レポート提出 小テストの復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 教科書第 1 回「文章の書き方 1」	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――	2	教科書第 2 回「文章の書き方 2」	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習	3	教科書第 3 回「事実と意見」	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習	4	教科書第 4 回【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題を書く	5	教科書第 5「構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習	6	課題 1 のフィードバック これまでの復習	課題 1 の反省 ここまでの復習問題を解く	課題 1 を見直す これまでの復習	7	教科書第 6 回「要約」	要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習	8	教科書第 7 回「文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習	9	教科書第 8 回「図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習	10	引用の復習 教科書第 9 回「意見の述べ方」	文章と図表資料の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	引用の復習	11	教科書第 10 回【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	課題を書く	12	教科書第 11 回 「レポートの書き方 1」 レポート課題の説明	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の告知と説明	レポートを作成の準備をする	13	教科書第 12 回 「レポートの書き方 2」 レポートの作成準備	ポート作成の注意点を学ぶ レポートの作成準備	レポートを作成する	14	課題 2 のフィードバック 教科書第 13 回 「資料収集の方法」	課題 2 の反省 資料収集の方法を学ぶ	課題 2 を見直す レポートを作成する	15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する 小テストの復習テスト	レポート提出 小テストの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 教科書第 1 回「文章の書き方 1」	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――																																																																
2	教科書第 2 回「文章の書き方 2」	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習																																																																
3	教科書第 3 回「事実と意見」	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
4	教科書第 4 回【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題を書く																																																																
5	教科書第 5「構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習																																																																
6	課題 1 のフィードバック これまでの復習	課題 1 の反省 ここまでの復習問題を解く	課題 1 を見直す これまでの復習																																																																
7	教科書第 6 回「要約」	要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習																																																																
8	教科書第 7 回「文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
9	教科書第 8 回「図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
10	引用の復習 教科書第 9 回「意見の述べ方」	文章と図表資料の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	引用の復習																																																																
11	教科書第 10 回【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	課題を書く																																																																
12	教科書第 11 回 「レポートの書き方 1」 レポート課題の説明	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の告知と説明	レポートを作成の準備をする																																																																
13	教科書第 12 回 「レポートの書き方 2」 レポートの作成準備	ポート作成の注意点を学ぶ レポートの作成準備	レポートを作成する																																																																
14	課題 2 のフィードバック 教科書第 13 回 「資料収集の方法」	課題 2 の反省 資料収集の方法を学ぶ	課題 2 を見直す レポートを作成する																																																																
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する 小テストの復習テスト	レポート提出 小テストの復習																																																																
関連科目	ゼミ、卒業研究など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>大学生の日本語文章表現</td><td>摂南大学日本語教育イノベーションセンター編</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学日本語教育イノベーションセンター編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学日本語教育イノベーションセンター編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	課題 2 回（20%×2）・レポート（30%）、小テスト・復習テストなどの提出物（30%）により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。																																																																		
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。																																																																		
担当者の	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）																																																																		

研究室等	
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名（英文）	Development of Japanese Language Ability II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 語彙力・表現力を養成する小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方 1	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト 1	前回の復習
	3	レポートの書き方 2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する 小テスト 2	前回の復習
	4	【課題 1】レポート 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ 小テスト 3	手紙の復習
	7	手紙を書く 課題 1 フィードバック 8 回目以後の授業の説明	手紙文の作成 課題 1 のフィードバック 小テスト 4	課題 1 を見直す
	8	ディスカッション準備	ディスカッションの前に個人の意見をまとめる 小テスト 5	ディスカッションの準備テーマの下調べ
	9	ディスカッション 1	グループ分けとディスカッションを行う 小テスト 6	ディスカッション
	10	ディスカッション 2	ディスカッションを行う 小テスト 7	ディスカッションと報告文の準備 プレゼンテーション資料の準備
	11	課題 2 ディスカッションの報告文	ディスカッションの報告文を書く	ディスカッションの反省
	12	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション資料の作成を行う	発表の準備 プレゼンテーション資料の準備
	13	プレゼンテーション 1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	14	【課題 3】報告文	グループワークの報告文を作成する	報告文の準備
	15	メールの書き方 小テストの復習テスト	メールの書き方を学ぶ 小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題（20%、20%、30%）、授業への取り組み姿勢・小テスト・復習テスト（30%）により評価する。 課題提出と課題 D 評価の再提出は単位取得の必須条件となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 質問は、メールにより対応。

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1509a3		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の 20 年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。																																																																		
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること																																																																		
授業方法と留意点	11 月 4 日以降は対面形式で実施します。指定された問題を自力で解く→講師が問題を解説→正誤確認と誤答訂正という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。また授業最後的小テストで理解度を確認します。（小テストは Moodle を使用します）毎回異なる内容に取り組むため、取り上げた問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。																																																																		
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 実力テスト</td><td>講義概要説明、実力テストの実施</td><td>実力テストの復習（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>計数問題①</td><td>割合と比</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>計数問題②</td><td>割合の応用</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>計数問題③</td><td>損益算</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>計数問題④</td><td>速度算①</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>計数問題⑤</td><td>速度算②</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>総復習①</td><td>総復習①</td><td>計数問題全範囲の復習（約 2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間テスト</td><td>中間テスト</td><td>計数問題全範囲の復習（約 2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>論理問題①</td><td>集合</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>論理問題②</td><td>場合の数</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>論理問題③</td><td>確率</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論理問題④</td><td>表の読み取り・資料解釈</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論理問題⑤</td><td>推論①</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>論理問題⑥</td><td>推論②</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総合テスト</td><td>これまでの全範囲</td><td>全範囲の復習（約 2 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（約 1 時間）	2	計数問題①	割合と比	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	3	計数問題②	割合の応用	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	4	計数問題③	損益算	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	5	計数問題④	速度算①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	6	計数問題⑤	速度算②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	7	総復習①	総復習①	計数問題全範囲の復習（約 2 時間）	8	中間テスト	中間テスト	計数問題全範囲の復習（約 2 時間）	9	論理問題①	集合	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	10	論理問題②	場合の数	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	11	論理問題③	確率	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	12	論理問題④	表の読み取り・資料解釈	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	13	論理問題⑤	推論①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	14	論理問題⑥	推論②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	15	総合テスト	これまでの全範囲	全範囲の復習（約 2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（約 1 時間）																																																																
2	計数問題①	割合と比	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
3	計数問題②	割合の応用	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
4	計数問題③	損益算	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
5	計数問題④	速度算①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
6	計数問題⑤	速度算②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
7	総復習①	総復習①	計数問題全範囲の復習（約 2 時間）																																																																
8	中間テスト	中間テスト	計数問題全範囲の復習（約 2 時間）																																																																
9	論理問題①	集合	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
10	論理問題②	場合の数	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
11	論理問題③	確率	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
12	論理問題④	表の読み取り・資料解釈	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
13	論理問題⑤	推論①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
14	論理問題⑥	推論②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
15	総合テスト	これまでの全範囲	全範囲の復習（約 2 時間）																																																																
関連科目	コミュニケーション能力開発、就職実践基礎、キャリアデザイン																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>厳選！数学的リテラシー問題集</td><td>PS 出版事業部</td><td>PS 出版事業部</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	「小テスト 40%」「中間テスト・最終テスト 50%」「SmartSPI 10%」																																																																		
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、どんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	2 号館 2 階 ラーニングセンター																																																																		
備考	所属クラスごとに Teams および Moodle の登録先が異なります。クラス確定後に所属先を連絡しますので再登録を行ってください。																																																																		

科目名	数的能力開発	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1509a3		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと。
授業方法と留意点	11 月 5 日より対面で実施します。それまでの実施方法は指定された問題を自力で解く→解答解説や解説動画による正誤確認と誤答訂正→他の問題にチャレンジ（任意）という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。問題集に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 対面授業では、「問題を解く」⇒講師が問題を解説⇒正誤確認 最後の 15 分ほどを小テストで理解度確認という流れです。 (小テストは Moodle を使用します) 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の
科目学習の効果 (資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習 30 分以上を目安とする
	2	計数問題①	割合と比	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	4	計数問題③	損益算	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	5	計数問題④	速度算①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	6	計数問題⑤	速度算②	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	7	復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習 30 分以上を目安とする
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習 30 分～1 時間程度を目安とする
	9	論理問題①	集合	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	10	論理問題②	場合の数	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	11	論理問題③	確率	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	12	論理問題④	表の読み取り	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	13	論理問題⑤	推論①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	14	論理問題⑥	推論②	全ての問題を事前に復習 30 分以上を目安とする
	15	総合テスト	これまでの全範囲	全ての問題を事前に復習 30 分～1 時間程度を目安とする

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
学生への	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。

メッセージ	毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名 (英文)	Development of Communication Skills
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠、橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LCA1510a3		

授業概要・目的	社会で必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はあまりありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。																																																																		
到達目標	高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。 SDGs4 SDGs10																																																																		
授業方法と留意点	授業は理論と実践で構成されています。コミュニケーション能力は理論を知ったうえで、アウトプットする訓練が必要です。実践については授業の性質上、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーションになることもあります。対面時は必ずマスク着用、適度な距離を保つことに留意してください。 基本はオンライン (同時双方向)、状況によっては対面になることもあります。情報は Microsoft Teams に発信しますので、必ず確認するようにしてください。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>コミュニケーションとは</td><td>コミュニケーションの本質を考える。</td><td>シラバス熟読</td></tr> <tr> <td>2</td><td>傾聴力、質問力を高める</td><td>聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ロジカルコミュニケーション</td><td>論理的に会話するための基礎を学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>コミュニケーションの技法</td><td>相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>プレゼンテーション①</td><td>プレゼンテーションの基礎について学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>プレゼンテーション② (個人プレゼン準備)</td><td>プレゼンテーションを実践する。</td><td>講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>プレゼンテーション③ (個人プレゼン完成)</td><td>プレゼンテーション発表。 ※評定あり</td><td>講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ準備すること (目安: 2 時間)。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>言語理解①</td><td>社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。</td><td>今までの範囲を復習しておくこと (目安: 30 分)。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言語理解②</td><td>社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>言語理解③</td><td>社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり</td><td>講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>グループディスカッション①</td><td>グループディスカッションの基礎について学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>グループディスカッション②</td><td>グループディスカッションの演習 (基本編) で学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。チームで実践を行う (目安: 1 時間)。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>面接技術</td><td>個人での面接技術のポイントを学ぶ ※評定あり</td><td>講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。個人で実践を行う (目安: 1 時間)。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ダイバーシティ・コミュニケーション</td><td>多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。</td><td>講義内容を復習し、実践すること (目安: 2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総合演習</td><td>これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり</td><td>全ての範囲を確認しておくこと (目安: 2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読	2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。	3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。	4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。	5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。	6	プレゼンテーション② (個人プレゼン準備)	プレゼンテーションを実践する。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。	7	プレゼンテーション③ (個人プレゼン完成)	プレゼンテーション発表。 ※評定あり	講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ準備すること (目安: 2 時間)。	8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	今までの範囲を復習しておくこと (目安: 30 分)。	9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。	10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。	11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。	12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習 (基本編) で学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。チームで実践を行う (目安: 1 時間)。	13	面接技術	個人での面接技術のポイントを学ぶ ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。個人で実践を行う (目安: 1 時間)。	14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 2 時間)	15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり	全ての範囲を確認しておくこと (目安: 2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読																																																																
2	傾聴力、質問力を高める	聴くための技術の基本的な方法と聞いた内容を深めるための質問方法について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。																																																																
3	ロジカルコミュニケーション	論理的に会話するための基礎を学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。																																																																
4	コミュニケーションの技法	相手により伝わるための非言語コミュニケーションについて学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。																																																																
5	プレゼンテーション①	プレゼンテーションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。																																																																
6	プレゼンテーション② (個人プレゼン準備)	プレゼンテーションを実践する。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。																																																																
7	プレゼンテーション③ (個人プレゼン完成)	プレゼンテーション発表。 ※評定あり	講義内容を復習し、各自プレゼンテーションの準備とシナリオ準備すること (目安: 2 時間)。																																																																
8	言語理解①	社会で必要とされる言語理解の基礎について学ぶ。	今までの範囲を復習しておくこと (目安: 30 分)。																																																																
9	言語理解②	社会で必要とされる言語理解の応用について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。																																																																
10	言語理解③	社会で必要とされる言語理解の基礎と応用の演習問題を解く。 ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること (目安: 1 時間)。																																																																
11	グループディスカッション①	グループディスカッションの基礎について学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。																																																																
12	グループディスカッション②	グループディスカッションの演習 (基本編) で学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。チームで実践を行う (目安: 1 時間)。																																																																
13	面接技術	個人での面接技術のポイントを学ぶ ※評定あり	講義内容を復習し、実践すること (目安: 30 分)。個人で実践を行う (目安: 1 時間)。																																																																
14	ダイバーシティ・コミュニケーション	多様性社会の中、望まれるコミュニケーションスキルを学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること (目安: 2 時間)																																																																
15	総合演習	これまで実施した授業の内容を踏まえ、自分を的確に且つ効果的に表現すること学び、実践する。 ※評定あり	全ての範囲を確認しておくこと (目安: 2 時間)																																																																
関連科目	キャリアデザインⅡ、教的能力開発																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	毎回の小レポート 30 点、プレゼンテーション発表 15 点、言語理解 20 点、グループディスカッション 10 点、総合演習 25 点																																																																		
学生へのメッセージ	人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかなければなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきたいと思います。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	基本は授業テーマによって対面とオンラインを切り替えながら進めます。																																																																		

	国・大阪府の要請、学校方針により変更の可能性ありますので、常にHPやTeamsをチェックするようにしてください。 現段階（4月中旬）での予定は以下の通りです。 対面回：第1回、6回、7回、12回、13回、15回 オンライン回：第2回、3回、4回、5回、8回、9回、10回、11回、14回
--	--

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2o		
科目ナンバリング	LCA1511a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	配布する資料をもとに授業を展開する。毎回、事前学修・事後学修課題の提出があるのできちんと取り組むこと。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修: ビジネスマナーとは何か、400 字でまとめる。
	2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の 8 つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 企業のエコ活動について調べる。 ・事後学修: 仕事とは何か、まとめる。
	3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCA について調べる。 ・事後学修: あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400 字以上)。
	4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修: あなたの 1 週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの予定表作成について振り返り、まとめる。
	5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0 をもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。
	6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。
	7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換 ※対面授業に切り替え	・事前学修: 来客応対プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。
	8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
	9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。
	10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。
	11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。
	12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学習: コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する (400 字以上)。
	13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 設営事例をまとめる。
	14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: 慶弔・贈答プリント②をする。
	15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: グローバル社会へ対応するためには何が必要かについて考える。 ・事後学修: 共生関係について自らの考えをまとめる。
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のワーク（事前学修、事後学修等）(50%)、期末試験レポート課題（50%）を総合的に判断する。 ただし、出席不良者（欠席6回以上）は評価できないことがある。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室（石井）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	グランド パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。 授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。 ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。 折々小テストをしますので、復習を忘れずにしてください。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEICや英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction. Getting to know your teacher, your classmates and what we will be doing in this course. Immigration	Listening, reading followed by group discussion and writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	2	Shopping. Travel by train.	Listening, reading followed by a writing exercise writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	3	Asking for help with minor problems. Finding out what there is to do in an area.	Listening, reading followed by group discussion and writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	4	Renting equipment. Describing places.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	5	Describing past activities.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	6	Getting treatment for minor injuries. Unfamiliar food	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	7	Tourist destinations.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	8	Getting help with small problems. Ordering food to take out	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	9	Asking for an understanding directions. Talking about experiences.	Listening, reading followed by group discussion and/or a writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	10	Asking for help. Checking out of an hotel.	Listening, reading followed by group discussion and/or writing. This will often include looking at a short YouTube video.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	11	Making plans to keep in	Student presentations, group	Before class check the Moodle and Teams for

		touch. Checking into a flight.	discussion and reflection reports.	instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	12	Talking about places you intend to visit	Student presentations, group discussion and reflection reports.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	13	Student presentations and discussions on selected topics.	Student presentations, group discussion and reflection reports.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	14	Student presentations and discussions on selected topics.	Student presentations, group discussion and reflection reports.	Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
	15	Review feedback and any remaining issues.		Before class check the Moodle and Teams for instructions. Instructions on homework and/or after class activities will be provided in class and/or on the Moodle
関連科目	ESP(English for Specific Purposes)b など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Passport to New Places.	Angela Buckingham	Oxford University press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加度（課題の出来具合や積極的な姿勢） 10% Weekly tasks. How well you were prepared. How well and how clearly you spoke. How well you were able to listen and understand the teacher, your classmates, and any recorded material. 75% Presentation 15 %			
学生への メッセージ	Please make sure you check Teams and the Moodle before each class. To get the most out of this course, please be prepared to give your opinion, and listen with respect to other peoples ideals.			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	授業概要： 本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「観光ホスピタリティ」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、テキストを読みながら、さまざまなアクティビティを通じて、観光業・ホスピタリティ産業に必要な英語の語彙や表現、仕事への態度を学びます。 授業目的： ・観光とホスピタリティについての調べ学習：基本的な知識を増やす。 ・基礎英会話の練習：簡単な英語が口から出てくるようにする。 ・英語を使ったアクティビティ：空港・機内・ホテル・レストラン、
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「観光ホスピタリティ」の分野における以下の項目について習得することを目指します。 ・業界についての知識の習得。 ・業界でよく用いられる英語の語彙・表現の習得。 ・業界で働くのに必要な英語のコミュニケーションの習得。 ・業界で必要とされるホスピタリティの精神の習得。
授業方法と留意点	特に観光業で必要とされる英語を中心に学習します。 テキストをしっかりと読んで、授業に出席してください。 毎回小テストをしますので、f 復習を忘れずにしてください。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによってESPのクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEICや英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	評価方法、授業の進め方、基本会話	授業の進め方などを確認するとともに、教科書の概要を把握する。(1時間)
	2	Transportation 交通案内	交通案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	交通案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	3	A t a Check-in Counter ホテルでのチェックイン	ホテルでのチェックインに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテルでのチェックインに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	4	Facilities and Services ホテル内の施設やサービス案内	ホテル内の施設やサービス案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ホテル内の施設やサービス案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	5	Giving Directions 街歩きのための道案内	街歩きのための道案内に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	街歩きのための道案内に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	6	Recommending a Trip 観光スポットを薦める	観光スポットを薦めるのに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	観光スポットを薦めることに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	7	Dining in Japan1&2 日本食の紹介	日本食の紹介に必要な英語の語彙や表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本食の紹介に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	8	Arranging a Tour 国内旅行の手配	国内旅行の手配に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	国内旅行の手配に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	9	Staying at a Ryokan 旅館	旅館に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	旅館での滞在に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	10	Culture Experience in Japan1 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	11	Culture Experience in Japan2 日本文化体験	日本文化体験に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	日本文化体験に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	12	Japanese Souvenirs ショッピング	ショッピングに必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	ショッピングに関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	13	Dealing with Health Problems and Emergencies けがや病気の対応	けがや病気の対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	けがや病気の対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	14	Dealing with Complaints and Accidents: Upon Departure クレームやアクシデントの対応	クレームやアクシデントの対応に必要な英語の表現について、ペアワークやグループワークなども利用して学習する。	クレームやアクシデントの対応に関する英語の語彙や表現について予習・復習する。(1時間)
	15	まとめのテスト	これまで学んできた授業内容について復習テストをする。	これまで学んできた授業内容について総復習する。(1時間)

関連科目	ESP(English for Specific Purposes)b など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Hospitality on the Scene	上杉恵美 他
	2		
			出版社名
			金星堂

	<table><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				3			
3								
参考書								
	番号	書籍名	著者名	出版社名				
	1							
	2							
	3							
評価方法 (基準)	Grading will be based on weekly assignments to be found on Moodle. Final grade points will be deducted for incomplete assignments or tests.							
学生への メッセージ	さまざまなアクティビティを通して、ホスピタリティ&おもてなしの精神やツーリズム業界について楽しく学びましょう。							
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室							
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。							

科目名	ESP(English for Specific Purposes) a	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) a
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	DP7o, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2041c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検 など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit1: Introducing Yourself	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、Unit1 の導入	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	Unit1: Introducing Yourself	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーションのやり方を理解する。	Unit 1 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	3	Unit1: Introducing Yourself	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 各自、英語によるプレゼンテーションの内容を決定する。	今回の Unit 1 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	4	Unit2: Introducing Companies	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション①	Unit2 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	5	Unit2: Introducing Companies	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション②	今回の Unit 2 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	6	Unit3: Explaining Your Role	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション③	Unit3 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	7	Unit3: Explaining Your Role	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション④	今回の Unit3 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	8	Unit4: Introducing Products	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑤	Unit4 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	9	Unit4: Introducing Products	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑥	今回の Unit4 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	10	Unit5: Checking Information	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑦	Unit5 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	11	Unit5: Checking Information	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑧	今回の Unit5 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	12	Unit6: Giving Your Opinion	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるプレゼンテーション⑨	Unit6 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	13	Unit6: Giving Your Opinion Unit7: Making Requests	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。Unit7 の導入	今回の Unit6 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	14	Unit7: Making Requests	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Chapter 7 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	15	まとめのテスト Unit1~7 のまとめ	Unit1~7 までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと (1 時間)
関連科目	ESP (English for Specific Purposes) b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	Go Global	Garry Pearson 他	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	(必要に応じて指示します)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業への取り組みの評価 30% プレゼンテーション 20% まとめのテスト 30%			
学生への メッセージ	みなさんと相談をしながら楽しい授業にしたいと思います。そのために、遅刻をしない、提出物を提出するなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に充実した時間を過ごしましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	DP7o, DP8c		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	本科目は、国際キャリアコースの6つのパッケージプログラムのうち、「国際ビジネス」プログラムを選択した学生を対象とした英語の授業です。よって、グローバルな視点からビジネスに関する英語の語彙や表現を習得することを目的とします。
到達目標	英語を仕事のツールととらえ、「国際ビジネス」の分野における基本的な語彙や表現を習得しながら、英文を読んだり、書いたりできるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は「グループワーク」形式で行い、特にビジネスの分野で必要とされる英語を中心に学習します。 国際キャリアコースの学生を対象とし、選択したプログラムによって ESP のクラスが異なるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit8: Asking Permission	英語による自己紹介、授業の進め方や評価方法の説明、 リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	Unit8 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	2	Unit8: Asking Permission	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動①	今回の Unit8 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	3	Unit9: Making Invitations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動②	Unit9 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	4	Unit9: Making Invitations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語によるグループ活動③	今回の Unit9 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	5	Unit10: Making Appointments	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポートの書き方を理解する	Unit10 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	6	Unit10: Making Appointments	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成①	今回の Unit10 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	7	Unit11: Canceling and Rescheduling	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成②	Unit11 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	8	Unit11: Canceling and Rescheduling	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成③	今回の Unit11 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	9	Unit12: Describing Locations	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成④	Unit12 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	10	Unit12: Describing Locations	読解を中心に文法や英語表現を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑤	今回の Unit12 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	11	Unit13: Looking after a Visitor	リスニングを中心に英語表現や語彙を解説し、単純な作文・会話活動を行う。 英語による報告レポート作成⑥	Unit13 に目を通し、分からない英単語は辞書で調べておくこと。(1 時間)
	12	Unit13: Looking after a Visitor Unit14: Making a Phone Call	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit13 のリーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	13	Unit14: Making a Phone Call Unit15: Taking Messages	リスニングや読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit14 の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	14	Unit15: Taking Messages	読解を中心に英語表現や語彙や文法を解説し、単純な作文・会話活動を行う。	今回の Unit15 の分からない英単語を辞書で調べ、リーディング文章を読み、ライティング課題を提出すること。(1 時間)
	15	まとめのテスト 振り返り	Unit8～15 までに学習した英語表現、語彙、文法について復習を行う。	まとめのテストのための復習をしておくこと (1 時間)
関連科目	ESP (English for Specific Purposes) a			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Go Global	Garry Pearson 他	成美堂

	2																		
	3																		
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td>(必要に応じて指示します)</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	(必要に応じて指示します)			2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	(必要に応じて指示します)																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	作文課題 20% 授業への取り組みの評価 30% 報告レポート 20% まとめのテスト 30%																		
学生への メッセージ	みなさんと相談をしながら楽しい授業にしたいと思っています。そのために、遅刻をしない、提出物を提出するなど、できることはきちんとやってください。難しいこと、できないことは「難しい、できない」と先生に伝えてください。一緒に充実した時間を過ごしましょう。																		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																		

科目名	メディアイングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アーサー ロングス
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2040c0		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Cool, Calm, and Heroic</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Flying into the Future</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Food Healthy for the Planet</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Explosive Demand for Cobalt</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Starting Somewhere</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Serious Solution Needed</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Self-Inflicted Wounds</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Deeply Disturbing</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Coping with Change</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Playing a Better Role</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Breaking the Connection</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>As Young as You Feel</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>まとめ 1</td><td>学生の発表</td><td>ニュース英語表現の総復習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ 2</td><td>学生の発表</td><td>ニュース英語表現の総復習（2 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	2	Cool, Calm, and Heroic	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	3	Flying into the Future	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	4	Food Healthy for the Planet	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	5	Explosive Demand for Cobalt	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	6	Starting Somewhere	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	7	Serious Solution Needed	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	8	Self-Inflicted Wounds	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	9	Deeply Disturbing	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	10	Coping with Change	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	11	Playing a Better Role	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	12	Breaking the Connection	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	13	As Young as You Feel	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	14	まとめ 1	学生の発表	ニュース英語表現の総復習（2 時間）	15	まとめ 2	学生の発表	ニュース英語表現の総復習（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
2	Cool, Calm, and Heroic	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
3	Flying into the Future	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
4	Food Healthy for the Planet	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
5	Explosive Demand for Cobalt	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
6	Starting Somewhere	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
7	Serious Solution Needed	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
8	Self-Inflicted Wounds	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
9	Deeply Disturbing	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
10	Coping with Change	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
11	Playing a Better Role	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
12	Breaking the Connection	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
13	As Young as You Feel	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
14	まとめ 1	学生の発表	ニュース英語表現の総復習（2 時間）																																																																
15	まとめ 2	学生の発表	ニュース英語表現の総復習（2 時間）																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	小テスト 15%（14・15 の発表） 提出物 85%																																																																		
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	トピックスタディーズⅡb	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2044C0		

授業概要・目的	ある程度の長さの英文テキストをしっかりと読み、内容を正確に理解することを目指す。内容理解の程度を適宜確認しながら、内容理解を妨げる原因を特定し、改善を図る。漫然と英語を読むのではなく、文法、論理展開、を意識し自分で思考する力をつける。
到達目標	論理的な文章を、全体の構造を把握しつつ読めるようになる。パラグラフの構造を理解し、書けるようになる (CEFR「読む力」B1 程度)。
授業方法と留意点	授業時には必ず電子辞書、書籍版の辞書のどちらかを持参すること。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の実施方法や評価方法など	教科書の予習
	2	Unit 1: The Concept of Beauty「美」の概念	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	3	Unit 1: The Concept of Beauty「美」の概念	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	4	Unit 2: Greek Mythology Stories of Gods and Humans ギリシア神話神々と人間の物語	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	5	Unit 2: Greek Mythology Stories of Gods and Humans ギリシア神話神々と人間の物語	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	6	Unit 3: The Bible Mainstay of Christianity 聖書キリスト教の支柱	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	7	Unit 3: The Bible Mainstay of Christianity 聖書キリスト教の支柱	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	8	Unit 4: Renaissance Transcending Cultural Movements ルネサンスジャンルを横断するムーブメント	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	9	Unit 4: Renaissance Transcending Cultural Movements ルネサンスジャンルを横断するムーブメント	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	10	Unit 5: The Structure of Fictional Literatures 物語の構造	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	11	Unit 5: The Structure of Fictional Literatures 物語の構造	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	12	Unit 6: The Theater and Actings 「演じる」という行為	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	13	Unit 6: The Theater and Actings 「演じる」という行為	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	14	Unit 7: The English Languages 英語の変遷	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する
	15	Unit 7: The English Languages 英語の変遷	長めの文章を読み、理解する	教科書を予習・復習する

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『TRANSCULTURETranscending Time, Region and Ethnicity 多元文化論エッセイ響き合う文 化たち』	Christopher Belton 著小田島恒志 編著	金星堂
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業課題 60% 期末レポート 40%
学生への メッセージ	忍耐力を持って臨んでください。
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2038c0		

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。 ★英プロ特設科目																																																																		
到達目標	リーディングスキルを用いて比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットすることを目指す多読活動の両方を行う。 比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットする多読活動の両方を行う。																																																																		
授業方法と留意点	留学を模して、教員に指名されなくても英語による自主的な発言をし、音声でのやりとり以外にレクチャー中のチャットで随時「発言」によってクラスのディスカッションを深める行為、などを推奨する。 ・授業の連絡・教材・提出等に、Teams, Webfolder, Zoom を利用する。 ・第10週より対面授業再開（ただし、オンラインでライブで行っている英語圏からのゲスト講師との team teaching の回は、こ																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 前期および夏休みの振り返り</td><td>Orientation</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Sounds from the Past</td><td>Predicting</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>3</td><td>For the Record: Album Reviews</td><td>Noticing Patterns</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>4</td><td>College Start-Ups</td><td>Making Inferences</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>5</td><td>The Right Job for Your Personality</td><td>Skimming for General Ideas</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>6</td><td>A Brief History of Chocolate</td><td>Recognizing Sequence of Events</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>7</td><td>The Truth about Chocolate</td><td>Understanding the Main Ideas</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Review Mid-term Test</td><td>Fluency Strategy</td><td>Review the contents of Units 7-9</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Ads Are Everywhere</td><td>Scanning for Proper Nouns</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Brand Engagement Gone Wrong</td><td>Making Inferences</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Engineering a Better Burger</td><td>Distinguishing between Main and Supporting Ideas</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Is Your Diet Destroying the Environment?</td><td>Understanding Cause and Effect</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Clean up Australia, Clean up the World</td><td>Scanning for Names and Numbers</td><td>Review for the vocabulary test. Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Resources for the Future</td><td>Skimming to Assess a Passage</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Wrap-up Final Check</td><td>IReview Test</td><td>Review the contents of Units 10-12</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 前期および夏休みの振り返り	Orientation	Students should study the content of the day's lesson.	2	Sounds from the Past	Predicting	Students should study the content of the day's lesson.	3	For the Record: Album Reviews	Noticing Patterns	Students should study the content of the day's lesson.	4	College Start-Ups	Making Inferences	Students should study the content of the day's lesson.	5	The Right Job for Your Personality	Skimming for General Ideas	Students should study the content of the day's lesson.	6	A Brief History of Chocolate	Recognizing Sequence of Events	Students should study the content of the day's lesson.	7	The Truth about Chocolate	Understanding the Main Ideas	Students should study the content of the day's lesson.	8	Review Mid-term Test	Fluency Strategy	Review the contents of Units 7-9	9	Ads Are Everywhere	Scanning for Proper Nouns	Students should study the content of the day's lesson.	10	Brand Engagement Gone Wrong	Making Inferences	Students should study the content of the day's lesson.	11	Engineering a Better Burger	Distinguishing between Main and Supporting Ideas	Students should study the content of the day's lesson.	12	Is Your Diet Destroying the Environment?	Understanding Cause and Effect	Students should study the content of the day's lesson.	13	Clean up Australia, Clean up the World	Scanning for Names and Numbers	Review for the vocabulary test. Students should study the content of the day's lesson.	14	Resources for the Future	Skimming to Assess a Passage	Students should study the content of the day's lesson.	15	Wrap-up Final Check	IReview Test	Review the contents of Units 10-12
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 前期および夏休みの振り返り	Orientation	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
2	Sounds from the Past	Predicting	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
3	For the Record: Album Reviews	Noticing Patterns	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
4	College Start-Ups	Making Inferences	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
5	The Right Job for Your Personality	Skimming for General Ideas	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
6	A Brief History of Chocolate	Recognizing Sequence of Events	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
7	The Truth about Chocolate	Understanding the Main Ideas	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
8	Review Mid-term Test	Fluency Strategy	Review the contents of Units 7-9																																																																
9	Ads Are Everywhere	Scanning for Proper Nouns	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
10	Brand Engagement Gone Wrong	Making Inferences	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
11	Engineering a Better Burger	Distinguishing between Main and Supporting Ideas	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
12	Is Your Diet Destroying the Environment?	Understanding Cause and Effect	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
13	Clean up Australia, Clean up the World	Scanning for Names and Numbers	Review for the vocabulary test. Students should study the content of the day's lesson.																																																																
14	Resources for the Future	Skimming to Assess a Passage	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
15	Wrap-up Final Check	IReview Test	Review the contents of Units 10-12																																																																
関連科目	Academic Writing, Integrated Skills Training																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Active Skills for Reading 2</td><td>Neil J. Anderson</td><td>Cengage</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Timed Reading for Fluency 2</td><td>Paul Nation and Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Active Skills for Reading 2	Neil J. Anderson	Cengage	2	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Active Skills for Reading 2	Neil J. Anderson	Cengage																																																																
2	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>English through Literature</td><td>斎藤兆史・中村哲子</td><td>研究社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	速読活動 10%、多読活動 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 60%																																																																		
学生へのメッセージ	たくさん読んで読解力を身に着けると、英語で話す時に使える自分の語彙や表現が増えます。こんなにシンプルな語句の組み合わせで言語が動き出すのか、とびっくりすると思います。 多読が成績の30%を占めます。易しめの本をたくさん「楽しみながら」読み続けることを心がけてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																																																																		

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。
----	--

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP7○, DP8◎		
科目ナンバリング	LDL2042c0		

授業概要・目的	この授業では、特定の目的のために使われる英語の特徴と仕組みについて2つの側面から学ぶ。ひとつは、教科書を精読しながら、提示された事例を注意深く分析することによって、ESP (English for specific purposes) の特徴を探り、そのような特徴を備えた英語が生みだされるまでのプロセスを知ることである。もうひとつは、実践編として、特定の目的を念頭において英語を、各回であつかう論点に即して、自ら作ってみる(書いてみる)ことである。本授業の目的は、この取り組みを通じてESP自体の理解を深めると
到達目標	- 英語で書かれた学術的な文章が読めるようになる。 - EPSの事例を分析し、その特徴が言えるようになる。 - ESPの特徴をそなえた英文を自ら書けるようになる。 英語の運用力としては、CEFR-J[B1-1]を到達目標とする。
授業方法と留意点	講義とワークショップ(ディスカッションやグループワーク等)を織り交ぜながら授業を進める。 必ず辞書を持参すること(電子辞書等も可)。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	概要・準備①	【重要】初回授業はTeamsのビデオ会議からリアルタイムで行う。 講義とグループワーク: ジャンルとジャンル構造	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	2	概要・準備②	講義とグループワーク: 行為としての文	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	3	概要・準備③	講義とグループワーク: ジャンル分析	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	4	Understanding the structure of research papers①	講義とグループワーク: 読解(教科書 p. 9-17)	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	5	The primary features of academic writing②	講義とグループワーク: 分析(教科書 p. 9-17)	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	6	Understanding the structure of research papers①	講義とグループワーク: 読解(教科書 p. 19-29)	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	7	Understanding the structure of research papers②	講義とグループワーク: 分析(教科書 p. 19-29)	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	8	Academic vocabulary and academic writing①	講義とグループワーク: 読解(教科書 p. 31-45)	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	9	Academic vocabulary and academic writing②	講義とグループワーク: 分析(教科書 p. 31-45)	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	10	Critical thinking and reading research paper	講義とグループワーク: 読解・分析(教科書 p. 47-55)	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	11	Critical reading: An application of critical thinking	講義とグループワーク: 読解・分析(教科書 p. 57-69)	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	12	まとめ	これまでのまとめ	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	13	Academic Writing①	実践演習(教科書 p. 73-173)	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	14	Academic writing②	実践演習(教科書 p. 73-173)	教科書の指定された範囲を精読し、疑問点等の整理(予習)および授業で学んだ内容の整理(復習)(2時間)
	15	Academic writing③	実践演習(教科書 p. 73-173)	これまでのふりかえり(2時間)

関連科目	リーディング IIa, IIb
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Writing for Academic Purposes 英文文を卒業して英語論文を書く	田田野彰、ティム・スチュワート、デビッド・タルスキー編	ひつじ書房
	2	プリント教材		
	3	教材フォルダの配布物等		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	作文課題 40% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 60%
学生への メッセージ	予習は必須です（詳しくは教室で案内します）。何の用意もなくただ出席しても十分な学修効果は得られない可能性があります。 ESP は、自分の母語に置き替えてみると、普段あまり意識せずにできている場合と専門的な訓練を受けないと難しい場合とがあることに気づくでしょう。日ごろのことば遣いを意識し、さらにあらゆる分野・トピックに関心をもち、問題意識をもって貪欲に学ぶ姿勢が求められます。
担当者の 研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	X
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面・トピックについて、自分の意図を論理的に的確に伝えられるスピーキング力・ライティング力を身につける。
授業方法と留意点	様々な場面・トピックに対応できるよう、スピーキングとライティングをバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction, Unit 1 Artificial Intelligence	Orientation, How will humans live with AI?	Review, Assignment (1 hour)
	2	Unit 1 Artificial Intelligence	How will humans live with AI?	Review, Assignment (1 hour)
	3	Unit 2 Business	The sharing economy	Review, Assignment (1 hour)
	4	Unit 3 Food Waste	Food loss and consumers	Review, Assignment (1 hour)
	5	Unit 4 Environmental Problems	Plastic waste	今 Review, Assignment (1 hour)
	6	Unit 5 The Japanese Mentality	Do they have good manners?	Review, Assignment (1 hour)
	7	Unit 6 Space Exploration	Will space benefit our future?	Review, Assignment (1 hour)
	8	Unit 7 Immigration	Foreign residents in Japan	Review, Assignment (1 hour)
	9	Unit 8 Education	Online learning	Review, Assignment (1 hour)
	10	Unit 9 Culture	Entertainment	Review, Assignment (1 hour)
	11	Unit 10 Science	The new agricultural revolution	Review, Assignment (1 hour)
	12	Unit 12 DNA	Advances in DNA Technology	Review, Assignment (1 hour)
	13	Unit 13 Relationship with Other Countries	Trade war	Review, Assignment (1 hour)
	14	Unit 15 Right to be Forgotten	Privacy and freedom of expression	Review, Assignment (1 hour)
	15	Final Projects	Presentations and feedback	Review (1 hour)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CLIL: Discuss the Changing World	Miyako Nakaya, Miyuki Yukita, Masaru Yamazaki, Chad L. Godfrey	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Participation 40% Speaking practice 10% Assignments 25% Final project 25%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。
----	--

科目名	メディアイングリッシュ b	科目名 (英文)	Media English b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	オハバ ケイブレット
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。																																																																		
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。必ず辞書を持参すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Cool, Calm, and Heroic</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Flying into the Future</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Food Healthy for the Planet</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Explosive Demand for Cobalt</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Starting Somewhere</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Serious Solution Needed</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Self-Inflicted Wounds</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Deeply Disturbing</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Coping with Change</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Playing a Better Role</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Breaking the Connection Presentation Planning - Outline</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>As Young as You Feel Presentation Planning - Final Preparations</td><td>講義とグループワーク</td><td>語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>まとめ 1 Presentations</td><td>学生の発表</td><td>ニュース英語表現の総復習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ 2 Presentations</td><td>学生の発表</td><td>ニュース英語表現の総復習（2 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	2	Cool, Calm, and Heroic	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	3	Flying into the Future	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	4	Food Healthy for the Planet	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	5	Explosive Demand for Cobalt	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	6	Starting Somewhere	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	7	Serious Solution Needed	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	8	Self-Inflicted Wounds	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	9	Deeply Disturbing	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	10	Coping with Change	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	11	Playing a Better Role	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	12	Breaking the Connection Presentation Planning - Outline	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	13	As Young as You Feel Presentation Planning - Final Preparations	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）	14	まとめ 1 Presentations	学生の発表	ニュース英語表現の総復習（2 時間）	15	まとめ 2 Presentations	学生の発表	ニュース英語表現の総復習（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
2	Cool, Calm, and Heroic	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
3	Flying into the Future	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
4	Food Healthy for the Planet	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
5	Explosive Demand for Cobalt	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
6	Starting Somewhere	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
7	Serious Solution Needed	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
8	Self-Inflicted Wounds	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
9	Deeply Disturbing	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
10	Coping with Change	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
11	Playing a Better Role	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
12	Breaking the Connection Presentation Planning - Outline	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
13	As Young as You Feel Presentation Planning - Final Preparations	講義とグループワーク	語彙と文法事項の復習、関連ニュース検索および発表準備（2 時間）																																																																
14	まとめ 1 Presentations	学生の発表	ニュース英語表現の総復習（2 時間）																																																																
15	まとめ 2 Presentations	学生の発表	ニュース英語表現の総復習（2 時間）																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『CNN：ビデオで見る世界のニュース（21）English for the Global Age with CNN, Vol. 21』</td><td>関西大学 CNN 英語研究会 編著</td><td>朝日出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『CNN：ビデオで見る世界のニュース（21）English for the Global Age with CNN, Vol. 21』	関西大学 CNN 英語研究会 編著	朝日出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	『CNN：ビデオで見る世界のニュース（21）English for the Global Age with CNN, Vol. 21』	関西大学 CNN 英語研究会 編著	朝日出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	小テスト 15%（14・15 の発表） 提出物 85%																																																																		
学生へのメッセージ	This class involves lots of discussion and presenting your work, so be please come prepared to participate well and speak lots of English. I look forward to hearing all of your ideas! Please check Moodle - "Announcements" for Zoom link																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	トピックスタディーズⅡb	科目名 (英文)	Topic Studies IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	This course introduces a range of topics from around the world?including food, festivals, music and journeys?that provoke interest, inspire discussion, and ultimately broaden one's view of our diverse, global society. Knowledge and understanding of the wo
到達目標	Students will learn about topics from around the world, improving their English skills.
授業方法と留意点	This is a listening and speaking course with a little reading designed to create a richer speaking experience. A mixture of scripted and authentic audio provides opportunities for listening practice. Students' communicative competence is developed through
科目学習の効果 (資格)	To improve reading, writing and speaking skills in English. To gain a better understanding, appreciation and enjoyment of the world we live in.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Talking about food	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises. Plan a restaurant!	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	2	Talking about festivals	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	3	Review 1 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	4	Talking about your city	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	5	Talking about jobs	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	6	Review 2 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	7	Talking about music	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	8	Talking about travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	9	Review 3 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	10	Talking about famous families	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	11	Talking about adventure travel	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	12	Review 4 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	13	Talking about happiness	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	14	Talking about endangered species	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)
	15	Review 5 and presentations	Textbook listening, reading and video clip discussion exercises.	Textbook exercise completion and /or presentation preparation. (2 hours)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Startup Level 3	Ken Beatty	Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	出席は必ずすること。3 週間ごとにスピーキングクイズを行う。授業前の準備 (単語・文法の使い方) も、評価に反映する。やる気があるかどうかをみていきます。 評価割合は「授業前準備 2 0 %、授業態度 3 0 %、スピーキングクイズやテスト 5 0 %」とします。
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	ZOOM
	ID:912 3818 3906
	PASSCODE:454946

科目名	リーディングⅡ b	科目名 (英文)	Reading IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	猪熊 慶祐
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	平易な英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-1]を目標とし、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できるようになる。また同時に、難易度の高い英文を精読する活動も行う。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し、理解できるようになる。 ★英プロ特設科目																																																																		
到達目標	リーディングスキルを用いて比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットすることを目指す多読活動の両方を行う。																																																																		
授業方法と留意点	比較的難易度の高い英文を読む精読活動と、大量の英文をインプットする多読活動の両方を行う。 Teams を用いてリアルタイムの授業を行う。接続環境等に問題が生じ出席が困難となった場合などに関しては講師に連絡後、代替の課題等をもって出席とみなすことがあるので注意しておくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, TOEFL																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 前期および夏休みの振り返り</td><td>Orientation</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Sounds from the Past</td><td>Predicting</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>3</td><td>For the Record: Album Reviews</td><td>Noticing Patterns</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>4</td><td>College Start-Ups</td><td>Making Inferences</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>5</td><td>The Right Job for Your Personality</td><td>Skimming for General Ideas</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>6</td><td>A Brief History of Chocolate</td><td>Recognizing Sequence of Events</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>7</td><td>The Truth about Chocolate</td><td>Understanding the Main Ideas</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Review Mid-term Test</td><td>Fluency Strategy</td><td>Review the contents of Units 7-9</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Ads Are Everywhere</td><td>Scanning for Proper Nouns</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Brand Engagement Gone Wrong</td><td>Making Inferences</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Engineering a Better Burger</td><td>Distinguishing between Main and Supporting Ideas</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Is Your Diet Destroying the Environment?</td><td>Understanding Cause and Effect</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Clean up Australia, Clean up the World</td><td>Scanning for Names and Numbers</td><td>Review for the vocabulary test. Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Resources for the Future</td><td>Skimming to Assess a Passage</td><td>Students should study the content of the day's lesson.</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Wrap-up Final Check</td><td>IReview Test</td><td>Review the contents of Units 10-12</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 前期および夏休みの振り返り	Orientation	Students should study the content of the day's lesson.	2	Sounds from the Past	Predicting	Students should study the content of the day's lesson.	3	For the Record: Album Reviews	Noticing Patterns	Students should study the content of the day's lesson.	4	College Start-Ups	Making Inferences	Students should study the content of the day's lesson.	5	The Right Job for Your Personality	Skimming for General Ideas	Students should study the content of the day's lesson.	6	A Brief History of Chocolate	Recognizing Sequence of Events	Students should study the content of the day's lesson.	7	The Truth about Chocolate	Understanding the Main Ideas	Students should study the content of the day's lesson.	8	Review Mid-term Test	Fluency Strategy	Review the contents of Units 7-9	9	Ads Are Everywhere	Scanning for Proper Nouns	Students should study the content of the day's lesson.	10	Brand Engagement Gone Wrong	Making Inferences	Students should study the content of the day's lesson.	11	Engineering a Better Burger	Distinguishing between Main and Supporting Ideas	Students should study the content of the day's lesson.	12	Is Your Diet Destroying the Environment?	Understanding Cause and Effect	Students should study the content of the day's lesson.	13	Clean up Australia, Clean up the World	Scanning for Names and Numbers	Review for the vocabulary test. Students should study the content of the day's lesson.	14	Resources for the Future	Skimming to Assess a Passage	Students should study the content of the day's lesson.	15	Wrap-up Final Check	IReview Test	Review the contents of Units 10-12
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 前期および夏休みの振り返り	Orientation	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
2	Sounds from the Past	Predicting	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
3	For the Record: Album Reviews	Noticing Patterns	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
4	College Start-Ups	Making Inferences	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
5	The Right Job for Your Personality	Skimming for General Ideas	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
6	A Brief History of Chocolate	Recognizing Sequence of Events	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
7	The Truth about Chocolate	Understanding the Main Ideas	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
8	Review Mid-term Test	Fluency Strategy	Review the contents of Units 7-9																																																																
9	Ads Are Everywhere	Scanning for Proper Nouns	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
10	Brand Engagement Gone Wrong	Making Inferences	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
11	Engineering a Better Burger	Distinguishing between Main and Supporting Ideas	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
12	Is Your Diet Destroying the Environment?	Understanding Cause and Effect	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
13	Clean up Australia, Clean up the World	Scanning for Names and Numbers	Review for the vocabulary test. Students should study the content of the day's lesson.																																																																
14	Resources for the Future	Skimming to Assess a Passage	Students should study the content of the day's lesson.																																																																
15	Wrap-up Final Check	IReview Test	Review the contents of Units 10-12																																																																
関連科目	Academic Writing, Integrated Skills Training																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Active Skills for Reading 2</td><td>Neil J. Anderson</td><td>Cengage</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Timed Reading for Fluency 2</td><td>Paul Nation and Casey Malarcher</td><td>Seed Learning</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Active Skills for Reading 2	Neil J. Anderson	Cengage	2	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Active Skills for Reading 2	Neil J. Anderson	Cengage																																																																
2	Timed Reading for Fluency 2	Paul Nation and Casey Malarcher	Seed Learning																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>English through Literature</td><td>斎藤兆史・中村哲子</td><td>研究社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English through Literature	斎藤兆史・中村哲子	研究社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	速読活動 10%、多読活動 30% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 60%																																																																		
学生へのメッセージ	留学前にしっかり読解力を身に付けて、留学中の授業に活かせるように頑張りましょう 多読が成績の 30%を占めますので、易しめの本をたくさん「楽しみながら」読み続けることを心がけてください。																																																																		
担当者の研究室等	非常勤講師控室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。																																																																		

科目名	ESP(English for Specific Purposes) b	科目名 (英文)	ESP (English For Specific Purposes) b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	※英語プロフェッショナルコースの2年次の学生を対象とする。 日本が世界に誇る「ものづくり」の高い技術を持つ企業の活動内容を主なトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。まずは、演習形式で、対象となる企業の伝統・経営方針・製品開発等にかかる内容を聴き取り、その記述文についてQ&Aも導入しながらチェックし、読解力も養成する。次に、そこで使用されているビジネス英語に頻出の語彙・イディオム・構文などに焦点を当て、それらを用いた英語表現を実際に書いたり話したりすることで実践的な学習
到達目標	ビジネスおよび企業に関する英語を聴いたり読んだりして、その情報や活動内容などを理解することができるようになること、そしてビジネスに関する話題について、目的や場面等に応じて英語で表現できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	・授業は演習形式で行うが、必要に応じてグループワークなども織り交ぜていく。 ・予習または復習の内容について、毎回小テストを行う。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等の語学検定試験のスコア向上が期待できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の内容や方法などについて説明する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	2	マツダ	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	3	ハウス食品	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	4	TOTO	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	5	シマノ	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	6	UCC 上島珈琲	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	7	ダイフク	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	8	サクラクレパス	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	9	ヤンマー	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	10	オタフクソース	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	11	トンボ学生服	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	12	日東電工	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	13	モロゾフ	同社の「ものづくり」の技術と活動内容をトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	14	ミュージアムとカフェ	企業が運営するミュージアムとカフェをトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを習得する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) 重要な表現・語法・用語等についてさらに調べてみる。(1時間)
	15	学習内容のまとめ (総括)	本授業で学んだ英語表現について、要点を整理しながら総括する。	授業内容の要点を整理する。(1時間) これまでに学習した内容を振り返りながら、理解度を確認する。(1時間)

関連科目	他の英語科目など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Outstanding Monozukuri Companies in Japan (知られざる日本の「ものづくり」企業の世界)	井上 治, 吉野成美, Paul Leeming, Justin Harris	松柏社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題やレポートなどの提出物 100% ※ただし、原則として授業の出席率が 80%以上であることを条件とします。			
学生への メッセージ	1 年次からの英語科目で学んだ語彙・文法・発音なども復習しながら、英語の総合力を高めてほしいと思います。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 中島研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストや提出物などに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は授業終了後またはスチューデントアワー(研究室)にて対応する。			

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	Y
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	CEFR-J[A2.2]を目標とし、「スピーキング&ライティングⅡa」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせるパラグラフを構成できるライティング力を身につける。より長く、論理的な構成を持った英文を発信できるゆおになることを目指す。
授業方法と留意点	写真や絵を見て、制限時間内にその内容を口頭または作文で表現するなどの応用トレーニングを取り入れる。口頭による発話と、手書きまたはタイピングによる作文をバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	自己紹介と概要説明	テキスト全体に目を通しておく (1 時間)
	2	レストランのレビューについて語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	3	映画や音楽について語る	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	4	理想的な仕事について語る	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	5	相手の理解をチェックする	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	6	不平、不満の表明	グループ・ディスカッション	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する」 (1 時間)
	7	助言や提案をする	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	8	学習内容の確認と振り返り活動	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	9	義務の表明	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	10	報告したり尋ねたりすることの基礎	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	11	報告したり質問したりすることの実践演習	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	12	説得することと主張すること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	13	可能性について述べること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	14	個人的な問題について助言や提案をすること	ペアワークとグループワーク	今回の語彙と文法事項を確認し、例文を暗唱する (1 時間)
	15	グループ協働パフォーマンスと振り返り活動	グループ・パフォーマンスとディスカッション	総復習を行う (1 時間)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュb
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking & Writing Iib (大学オリジナル教材)	English Department	Setsunan
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通課題 15% 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	I'm looking forward to seeing you in class every week. Be sure to come to class every week prepared to speak lots of English. Remember, "practice makes perfect"! In order to pass this course, you must attempt ALL assessment tasks. Absence is not an exc
担当者の研究室等	7 号館 3 階 Herke's office
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	Academic Writing	科目名 (英文)	Academic Writing
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したライティングスキル（パラグラフライティング）を習得する。
到達目標	CEFR-J[B1-1]を目標とし、辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどが書けるようになる。また、留学生活に必要な書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。
授業方法と留意点	・海外留学において必要となるライティングスキル（書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方）を養う。 ・エッセイやレポートの書式は、Setsunan Academic Essay Guideline に従う。 ・課題等は添削された後、合格基準に到達するまで再提出が求められる。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, TOEFL, 英検, IELTS

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明、ブレインストーミング	Process writing, paragraph format, paragraph structure	Review / Preview
	2	パラグラフの定義と構成 トピックセンテンスを書き始める	Creating topic sentences	Review / Preview
	3	トピックセンテンスを発展させる	Improving topic sentences	Review / Preview
	4	サポーティングセンテンスを書き始める パラグラフ執筆演習:描写のパラグラフを書き始める	Creating supporting sentences	Review / Preview
	5	サポーティングセンテンスを発展させる パラグラフ執筆演習:描写のパラグラフを発展させる	Improving supporting sentences	Review / Preview
	6	パラグラフ執筆演習:描写のパラグラフを完成させる	Creating detail sentences	Review / Preview
	7	パラグラフ執筆演習:時系列・手順のパラグラフを書き始める	Improving detail sentences	Review / Preview
	8	結びのセンテンスを学習する パラグラフ執筆演習:時系列・手順のパラグラフを完成させる	Creating concluding sentences	Review / Test preparation
	9	中間チェック:パラグラフライティングテストと振り返り演習	In-class paragraph test	Review / Preview
	10	エッセイ執筆演習:アウトラインをつくる 全体の内容のまとまりを確認する	Unity	Review / Preview
	11	エッセイ執筆演習:比較対照のエッセイを下書きする 内容の一貫性を確認する	Coherence	Review / Preview
	12	エッセイ執筆演習:比較対照のエッセイを完成させる 文法的結束性を確認する	Cohesion	Review / Preview
	13	エッセイ執筆演習:論述のエッセイを下書きする 編集のスキルを学ぶ	Editing techniques	Review / Preview
	14	エッセイ執筆演習:論述のエッセイを完成させる 様式・エッセイライティングの要素を復習	Style Review Elements of essay writing	Review / Test preparation
	15	まとめ:エッセイライティングテストと振り返り演習	In-class Essay Test	

関連科目	Academic Reading, Integrated Skills Training
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Academic Writing Strategies	中谷安男	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内ライティングテスト 30% その他の授業内外課題および提出物 70%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11号館11階
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。

科目名	Practical English Conversation	科目名 (英文)	Practical English Conversation
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	嶋村 貢志
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	留学先での生活に備えて、自分の関心事や専門分野、教育環境等を簡単な英語で説明できるようになる。これまでに暗唱した英文を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようになる。
到達目標	CEFR-J[A2-2] レベルを目標とする。
授業方法と留意点	暗唱した英文を応用しながら、スピーキングの実践演習を行う。会話・寸劇・スピーチを録音・録画したものなどの成果物を発表する。必ず辞書を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	出発に向けて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	2	異文化への心構え	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	3	下準備／手荷物確認／空港	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	4	ロールプレイ: 空港にて／機内にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	5	ホームステイ先にて／学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	6	プレゼントを渡す、生活環境を知る	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	7	自己紹介／これまでの海外経験について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	8	ロールプレイ: ホームステイ先にて／学生寮にて	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	9	教室にて／英語を学ぶ目的について話す	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	10	モチベーション作り: 目標を達成するには／英語学習のストラテジー	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	11	良い質問の仕方／教え方、学び方のスタイル	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	12	ロールプレイ: 教室外の様々な場面での会話	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	13	オリジナルのロールプレイを作成する	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	14	小グループでロールプレイ練習	ペアおよびグループ演習	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)
	15	合同ロールプレイ大会と学生による自己評価	グループ演習・自己評価記入	リスニング、スピーキングの個人練習 (1 時間)

関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Suitcase: Learner Strategies for Study Abroad	Lesley Riley & Nick Shackelford
	2		
	3		

参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		

評価方法 (基準)	共通課題 (成果物・成果発表) 15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の研究室等	非常勤講師室
備考	Zoom を介したライブ授業を行う。詳細はオンラインの初回の授業で指示する。Zoom の URL は授業前に Moodle にアップする。

科目名	スピーキング&ライティングⅡb	科目名 (英文)	Speaking and Writing II b
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	Z
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP7◎, DP8○		
科目ナンバリング	LDL2036b0		

授業概要・目的	1 年次に習得した『暗唱英文 100』を応用して英文を組み立て、事前準備なしでも複数の英文を使った発話ができたり、会話を継続させたりできるようにする。
到達目標	大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面・トピックについて、自分の意図を論理的に的確に伝えられるスピーキング力・ライティング力を身につける。
授業方法と留意点	様々な場面・トピックに対応できるよう、スピーキングとライティングをバランスよくトレーニングする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation	Review, Assignment (1 hour)
	2	Unit 1 初めての人に話しかけてみよう	How to talk with people you meet for the first time	Review, Assignment (1 hour)
	3	Unit 2 円滑な会話実践のためのほめ言葉	How to praise	Review, Assignment (1 hour)
	4	Unit 3 わからないときは聞き直すことが重要	How to ask someone questions	Review, Assignment (1 hour)
	5	Unit 4 う一言加えることで円満なコミュニケーションが実現	One more words	今 Review, Assignment (1 hour)
	6	Unit 5 うまくあいづちを打つ	Gesture and non-verbal communication	Review, Assignment (1 hour)
	7	Unit 6 相手に興味を示そう	Gesture and non-verbal communication	Review, Assignment (1 hour)
	8	Midterm	Exam	Review, Assignment (1 hour)
	9	Unit 7 さまざまなお礼の言い方	Appreciation	Review, Assignment (1 hour)
	10	Unit 8 上手に苦情を言ってみよう	How to complain	Review, Assignment (1 hour)
	11	Unit 9 上手な謝り方とは	How to apologize	Review, Assignment (1 hour)
	12	Unit 10 答えたくない質問へ上手に対処する方法	Apologizing	Review, Assignment (1 hour)
	13	Unit 11 丁寧な依頼の仕方	Ask someone politely	Review, Assignment (1 hour)
	14	Unit 12 and 13 誘い方・断り方	How to ask and reject	Review, Assignment (1 hour)
	15	Final Projects	Presentations and feedback	Review (1 hour)

関連科目	リーディングⅡb, English for Specific Purposes b, メディアイングリッシュ b
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Keep Talking	K. Murata, M. Otani ほ か Yukita, Masaru Yamazaki, Chad L. Godfrey	桐原書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	In-class activities 60% Assignments 20% Final project 20%
-----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 3 階 吉村研究室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。
----	--

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	デミエン ヒーリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduce class guidelines and scoring rubric. Pair and group work activities.	The name game. Introducing your friend to the class. Introducing the teacher. Teacher's PowerPoint.	下読みと単語調べ、, exercise の予習 (2 時間)
	2	Unit 1 Nice to meet you!	Country and nationality	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	3	Unit 2 What do you do?	Talking about jobs in pairs and groups. Jobs survey.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	4	Unit 3 Do you like spicy food?	Talking about food in pairs and groups.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	5	Unit 3 Do you like spicy food?	Love to hate. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	6	Review units 1 to 3	Review of grammar and vocabulary	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	7	Mid-term test	Writing test related to chapters 1 to 3	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	8	Unit 4 How often do you do yoga?	Free time activities. Pair and group work activities.	前半の既習内容の復習 (テスト勉強) (2 時間)
	9	Unit 4 How often do you do yoga?	Adverbs of frequency. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	10	Unit 5 What are you watching?	Present Progressive. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	11	Unit 5 What are you watching?	Talking about cell phones	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	12	Unit 6 Where were you yesterday?	Simple Past of the verb to be. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	13	Unit 6 Where were you yesterday?	Talking about past vacations	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	14	Review units 4 to 6	Review of grammar and vocabulary	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	15	End of term test	Writing test related to chapter 4 to 6	前半の既習内容の復習 (テスト勉強) (2 時間)

関連科目	英語 II
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Level 1A Third Edition Multi - pack with online practice and On The Move	Ken Wilson	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 1. 25% for completing homework and in-class tasks. 2. 15% for mid-term test done at the end of chapter 3. 3. 25% for your presentations. 4. 15% for end of term writing test which will be on the content of the book topics.
-----------	---

学生へのメッセージ	外国語学習は、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な準備が欠かせません。予習をしっかりとしましょう。積極的な授業参加を期待します。英和辞書か電子辞書を持参して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	下吉 真衣
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	概要説明 Biology (input 演習)	授業の進め方の説明 発表と解説	授業の復習
	2	Biology (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	3	Psychology (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	4	Psychology (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	5	Architecture (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	6	Architecture (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	7	中間テスト	Biology Psychology Architecture	授業の予習復習 中間テストの準備
	8	Literature (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	9	Literature (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	10	Engineering (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	11	Engineering (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	12	Education (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	13	Education (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	14	総復習	総合復習	授業の予習復習 課題準備
	15	まとめテスト	Literature Engineering Education	授業の予習復習 まとめテストの準備

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	READ THIS! Intro	Daphne Mackey	CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (テストも含む) 80% ※詳しくは、Web Folder にある「オンライン授業に関するガイダンス」を参照してください。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
-----------	--

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身に付けること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習 (次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習 (固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	4	趣味についての文章を通して主語+動詞への学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	7	コンサートについての文章を通して How+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記
	15	9-14 回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 課題提出 40%、課題内容 40%で評価を行う。
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階、後期 7 号館 2 階)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	勝井 典子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方など	予習：テキストにざっと目を通す 復習：自習用音声の使用に慣れる
	2	Unit 1 Cross-Cultural Understanding	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	3	Unit 2 Foods	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	4	Unit 3 Foreign Language Learning	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	5	Unit 6 Living Things	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	6	Unit 7 Art	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	7	Unit 8 Global Issues	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	8	Unit 9 Japanese Culture	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	9	Unit 10 Human Rights	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	10	Unit 11 Health & Medical Issues	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	11	Unit 12 Environmental Issues	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	12	Unit 13 Economy & Industry	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	13	Unit 14 Legal Issues	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	14	Unit 15 Science & Technology	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	15	期末試験	設問に取り込む	予習：前期の授業内容の振り返り 復習：前期のエッセイの音読

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AMBITIONS Pre-intermediate 4 技能統合型で学ぶ英語コース：準中級編	VELC 研究会教材開発グループ 静哲人 望月正道 熊澤孝昭	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 定期試験 50% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 30%
-----------	---

学生へのメッセージ	英米の TV ドラマ、映画、音楽、本、ポップカルチャーなど、エンタテインメントを入り口に、普段から生きた英語に触れるようにしてみましょう。きっと楽しく表現力を向上させることができます。
-----------	--

担当者の研究室等	3 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション:授業運営、成績・評価の説明	テキストの概要説明、Online Practice の学習方法	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること。(1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	2	Unit 1: Nice to meet you!	Warm Up Vocabulary: 語彙学習 Conversation: Pair Work 演習 Listening 演習	事前学習: Unit1 の内容を予習してくる。(1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	3	Unit 1: Nice to meet you!	Smart Talk:ペアワーク Reading:Hollywood Stars 読解演習 Speaking: Class Activity	事前学習: Unit1 の内容を予習してくる。(1 時間) 事後学習: Writing (Unit 1)p.108 課題学習 (1 時間)
	4	Unit 2: What do you do?	Warm Up Vocabulary: 語彙学習 Conversation: Pair Work 演習 Listening 演習	事前学習: Unit2 の内容を予習してくる。(1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	5	Unit 2: What do you do?	Smart Talk:ペアワーク Reading: Student News 読解演習 Speaking: Class Activity	事前学習: Unit2 の内容を予習してくる。(1 時間) 事後学習: Writing (Unit 2) p.108 課題学習 (1 時間)
	6	Unit 3: Do you like noodles?	Warm Up Vocabulary: 語彙学習 Conversation: Pair Work 演習 Listening 演習	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくる。(1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	7	Unit 3: Do you like noodles?	Smart Talk:ペアワーク Reading: Eat on the Street 読解演習 Speaking: Class Activity	事前学習: Unit3 の内容を予習してくる。(1 時間) 事後学習: Writing (Unit 3) p.109 課題学習 (1 時間)
	8	Review Unit 1 - Unit 3	Video: Volcano Adventure を活用し、 語彙学習・内容理解	事前学習: Video: Volcano Adventure を視聴してくる。(1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	9	Unit 4: How often do you exercise?	Warm Up Vocabulary: 語彙学習 Conversation: Pair Work 演習 Listening 演習	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくる。(1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	10	Unit 4: How often do you exercise?	Smart Talk:ペアワーク Reading: You want to play in the NBA? 読解演習 Speaking: Class Activity	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくる。(1 時間) 事後学習: Writing (Unit 4) p.109 課題学習 (1 時間)
	11	Unit 5: I'm listening to music.	Warm Up Vocabulary: 語彙学習 Conversation: Pair Work 演習 Listening 演習	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくる。(1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	12	Unit 5: I'm listening to music.	Smart Talk:ペアワーク Reading: When selfies are a bad idea 読解演習 Speaking: Class Activity	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくる。(1 時間) 事後学習: Writing (Unit 5) p.110 課題学習 (1 時間)
	13	Unit 6: Where were you yesterday?	Warm Up Vocabulary: 語彙学習 Conversation: Pair Work 演習 Listening 演習	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくる。(1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	14	Unit 6: Where were you yesterday?	Smart Talk:ペアワーク Reading: Almost the Real Thing! 読解演習 Speaking: Class Activity	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくる。(1 時間) 事後学習: Writing (Unit 6) p.110 課題学習 (1 時間)
	15	到達度確認	これまでの総復習	事前学習: Unit 1 から 6 の内容を復習してくる。(1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)

				時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart CHOICE 1A 4th Edition Multi-Pack:Student Book/Workbook (ISBN:978-0-19-406095-0)	Ken Wilson	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、発表・貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 80%			
学生への メッセージ	ICTを積極的に活用した授業を展開し、さまざまな英語学習方法を紹介していきます。長く継続できる学習方法を見つけて、英語に触れる時間を積極的に増やしてください。学習時間に比例して、英語力が向上していきます。			
担当者の 研究室等	11号館11階			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業概要の説明 通じる発音のコツ 複雑な内容を簡単に表現するコツ	Quiz01
	2	Unit 1 Let's get started!	※動画配信型授業（リアルタイム方式）を実施 Zoom ミーティング ID とパスワードは、Moodle に掲示 初対面の挨拶	Quiz02
	3	Unit 2 On the job	職業に関する表現	Quiz03
	4	Unit 3 My daily life	日常生活に関する表現	Quiz04
	5	Unit 4 My life story	過去の出来事に関する表現	Quiz05
	6	Unit 5 Getting around	いま起こっていることに関する表現	Quiz06
	7	Unit 6 What a good story!	※動画配信型授業（リアルタイム方式）を実施 場所・方角に関する表現	Quiz07
	8	Unit 7 Seeing the world	将来の計画に関する表現	Quiz08
	9	Unit 8 What's she like?	容貌・性格・嗜好に関する表現	Quiz09
	10	Unit 9 Out and about	比較に関する表現	Quiz10
	11	Unit 10 Chores and bores	日々の作業に関する表現	Quiz11
	12	Unit 11 What's on TV?	※動画配信型授業（リアルタイム方式）を実施 興味に関する表現	Quiz12
	13	Unit 12 All about money	おカネに関する表現	Quiz13
	14	Unit 13 What's for dinner?	食べ物に関する表現	Quiz14
	15	総復習・実力チェック	既習事項のまとめ	Final Exam (実力チェック)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Network 2 Student Book with Online Practice	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	入学おめでとう。これからの 4 年間、どんなことをやりたいですか。ひとりで外国を旅してくるのはどうでしょう。旅行会社のツアーではなく、すべて自分で計画して手配する個人旅行です。 若い旅行者の集まる安宿が、どこの国にもあります。そこに泊まって、いろいろな国の人と話をしてみましょう。今のあなたの英語力でも大丈夫。インド英語、中国英語、ヒスパニック英語... いろいろな英語に触れれば、自分のジャパニーズ イングリッシュでも臆せず使えるようになります。 海外での一人旅は、自分のことや日本のことを見つめ直す機会にもなる
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	下吉 真衣
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	概要説明 Computer Studies (input 演習)	授業の進め方の説明 発表と解説	授業の復習
	2	Computer Studies (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	3	Art and Design (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	4	Art and Design (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	5	Travel and Tourism (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	6	Travel and Tourism (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	7	中間テスト	Computer Studies Art and Design Travel and Tourism	授業の予習復習 中間テストの準備
	8	Sociology (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	9	Sociology (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	10	Psychology (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	11	Psychology (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	12	Language Studies (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	13	Language Studies (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	14	総復習	総合復習	授業の予習復習 課題準備
	15	まとめテスト	Sociology Psychology Language Studies	授業の予習復習 まとめテストの準備

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	READ THIS! Intro	Daphne Mackey	CAMBRIDGE UNIVERSITY PRESS
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge テスト 10% 平常点 20% レポート点 40% テスト 10%			
学生への メッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおお			

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
--	--

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。今学期は 1~7 週をオンライン授業、8 週以降は対面授業へ変更する。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、TOEIC の説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
	2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	15	9-14 回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power-Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge 10% 教員評価 70% (小テスト 30%、まとめテスト 40%) で全体の評価を行う。
-----------	---

学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が得意なら未来が明るくなります。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階、後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応
----	--

	する。
--	-----

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	デミエン ヒーリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的可読な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	教科書に沿って課題を提示していくので教科書をしっかり読むことが大事です。 自分で電子辞書や紙の辞書を引いてください。 提出期限内に余裕を持って出してください。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 4 回を超える未提出、つまり欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Explaining about this term scoring rubric.</td><td>Talking about summer vacation with handout. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ、, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 7 Which one is cheaper?</td><td>Kinds of clothes and adjectives. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 7 Which one is cheaper?</td><td>Comparative and superlatives. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 8 What's she like?</td><td>Describing people physically. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 8 What's she like?</td><td>Describing people mentally.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 9 What can you do there?</td><td>Can and can't. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 9 What can you do there?</td><td>Describing things to do in different cities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Mid-term test</td><td>Review of chapter 7 to 9 grammar and vocabulary</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 10 Is there a bank near here?</td><td>Types of shops.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 10 Is there a bank near here?</td><td>Giving and getting directions.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 11 Did you have a good time?</td><td>Simple past tense.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 11 Did you have a good time?</td><td>Unusual Hotels</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 12 I'm going to go by car</td><td>Forms of transportation</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 12 I'm going to go by car</td><td>Going to.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>End of term test</td><td>Review of chapter 10 to 12 vocabulary and grammar</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Explaining about this term scoring rubric.	Talking about summer vacation with handout. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ、, exercise の予習（2 時間）	2	Unit 7 Which one is cheaper?	Kinds of clothes and adjectives. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	3	Unit 7 Which one is cheaper?	Comparative and superlatives. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	4	Unit 8 What's she like?	Describing people physically. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	5	Unit 8 What's she like?	Describing people mentally.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	6	Unit 9 What can you do there?	Can and can't. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	7	Unit 9 What can you do there?	Describing things to do in different cities.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	8	Mid-term test	Review of chapter 7 to 9 grammar and vocabulary	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	9	Unit 10 Is there a bank near here?	Types of shops.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	10	Unit 10 Is there a bank near here?	Giving and getting directions.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	11	Unit 11 Did you have a good time?	Simple past tense.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	12	Unit 11 Did you have a good time?	Unusual Hotels	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	13	Unit 12 I'm going to go by car	Forms of transportation	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	14	Unit 12 I'm going to go by car	Going to.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）	15	End of term test	Review of chapter 10 to 12 vocabulary and grammar	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Explaining about this term scoring rubric.	Talking about summer vacation with handout. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ、, exercise の予習（2 時間）																																																																
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Kinds of clothes and adjectives. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Comparative and superlatives. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
4	Unit 8 What's she like?	Describing people physically. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
5	Unit 8 What's she like?	Describing people mentally.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
6	Unit 9 What can you do there?	Can and can't. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
7	Unit 9 What can you do there?	Describing things to do in different cities.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
8	Mid-term test	Review of chapter 7 to 9 grammar and vocabulary	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
9	Unit 10 Is there a bank near here?	Types of shops.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
10	Unit 10 Is there a bank near here?	Giving and getting directions.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
11	Unit 11 Did you have a good time?	Simple past tense.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
12	Unit 11 Did you have a good time?	Unusual Hotels	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
13	Unit 12 I'm going to go by car	Forms of transportation	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
14	Unit 12 I'm going to go by car	Going to.	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
15	End of term test	Review of chapter 10 to 12 vocabulary and grammar	下読みと単語調べ, exercise の予習（2 時間）																																																																
関連科目	英語 I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Smart Choice Level 1 Third Edition Multi - pack B with online practice and On The Move</td><td>Ken Wilson</td><td>Oxford University Press</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td><td>西谷恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice Level 1 Third Edition Multi - pack B with online practice and On The Move	Ken Wilson	Oxford University Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Smart Choice Level 1 Third Edition Multi - pack B with online practice and On The Move	Ken Wilson	Oxford University Press																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge 10% 課題の提出 70%																																																																		
学生へのメッセージ	外国語学習は、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。音声なども利用し、聞いたり声に出したり工夫をして勉強しましょう。 じっくり紙の辞書を引いて力を付けるチャンスです。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ																																																																		

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。 * 提出課題について、全く同じ答えを共有していると思われる場合は全員 0 点とする。
--	---

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	曾我 直隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション (Moodle で) Unit 1 Let's get started!	授業概要の説明 初対面の挨拶	Moodle に掲示
	2	Unit 2 On the job	職業に関する表現	Moodle に掲示
	3	Teams リアルタイム授業 Unit 3 My daily life	日常生活に関する表現	Moodle に掲示
	4	Unit 4 My life story	過去の出来事に関する表現	Moodle に掲示
	5	Unit 5 Getting around	いまの出来事に関する表現	Moodle に掲示
	6	Unit 6 What a good story!	場所・方角に関する表現	Moodle に掲示
	7	Teams リアルタイム授業 Unit 7 Seeing the world	将来の計画に関する表現	Moodle に掲示
	8	Unit 8 What's she like?	容顔・性格・嗜好に関する表現	Moodle に掲示
	9	Unit 9 Out and about	比較に関する表現	Moodle に掲示
	10	Unit 10 Chores and bores	日々の作業に関する表現	Moodle に掲示
	11	Teams リアルタイム授業 Unit 11 What's on TV?	興味に関する表現	Moodle に掲示
	12	Unit 12 All about money	おカネに関する表現	Moodle に掲示
	13	Unit 13 What's for dinner?	食べ物に関する表現	Moodle に掲示
	14	Teams リアルタイム授業 Unit 14 I need a vacation!	休暇に関する表現	Moodle に掲示
	15	総復習・実力チェック	既習事項のまとめ	Moodle に掲示

関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Network 2 Student Book with Online Practice	Tom Hutchinson; Kristin Sherman	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70% TOEIC Bridge 10%
学生へのメッセージ	皆さん、こんにちは。本当にコロナはしぶといですね。この授業もリモートで行うことになりましたが、オンラインならではの長所を生かせるように工夫していきます。皆さんからの意見や要望をもとに内容を修正しながら授業を進めていきたいので、細かいフィードバックを随時よろしく願いいたします。 授業は、オンデマンド (Moodle) とリアルタイム (Teams) を併用します。毎週火曜日に Moodle へアクセスし、課題を行って提出してください。毎月最終週には Teams でリアルタイム授業を行います。わからないことや困ったこと
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名（英文）	Basic English IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	勝井 典子
ディプロマポリシー（DP）	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果（資格）	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価の仕方、予習・復習の仕方など	予習：テキストにざっと目を通す 復習：自習用音声の使用に慣れる
	2	Unit 1 Cross-Cultural Understanding	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	3	Unit 2 Foods	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	4	Unit 3 Foreign Language Learning	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	5	Unit 4 Sports	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	6	Unit 6 Living Things	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	7	Unit 7 Art	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	8	Unit 8 Global Issues	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	9	Unit 9 Japanese Culture	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	10	Unit 10 Human Rights	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	11	Unit 11 Health & Medical Issues	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	12	Unit 12 Environmental Issues	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	13	Unit 13 Economy & Industry	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	14	Unit 14 Legal Issues	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写
	15	Unit 15 Science & Technology	リスニング、エッセイ読解、設問に取り組む	予習：次回範囲の下読み、単語調べ、単語学習 復習：エッセイの音読と書写

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AMBITIONS Pre-intermediate 4 技能統合型で学ぶ英語コース：準中級編	VELC 研究会教材開発グループ 静哲人 望月正道 熊澤孝昭	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	辞書		
	2			
	3			

評価方法（基準）	全学共通英語課題 20% TOEIC Bridge 10% 定期試験 40% 授業への参加、貢献（課題提出、小テスト等を含む） 30%
----------	--

学生へのメッセージ	★1 回目の授業は 9 月 14 日（火）3 限（13:20～14:50）です。Teams のカレンダーにこの日時のオンライン授業をスケジュールしていますので、そこから参加してください。 ★英米の TV ドラマ、映画、音楽、本、ポップカルチャーなど、エンタテインメントを入りに、普段から生きた英語に触れるようにしてみましょう。きっと楽しく表現力を向上させることができます。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
----------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み（予習）及び、課題、小テスト、発表、レポートの準備などに要する事前・事後学習総時間をおお
----	---

	よそ 30 時間程度とする。小テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降に行う。その他の質問等は e-mail 及び Teams のチャット機能に対応する。
--	---

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	E 6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション:授業運営、成績・評価の説明	テキストの概要説明、Online Practice の学習方法 (リアルタイムオンライン授業)	事前学習: 本科目のシラバスを読んでくること。(1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	2	Unit 1: Nice to meet you!	Warm Up Vocabulary: 語彙学習 Conversation: Pair Work 演習 Listening 演習 (リアルタイムオンライン授業)	事前学習: Unit1 の内容を予習してくる。 (1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	3	Unit 1: Nice to meet you!	Smart Talk:ペアワーク Reading:Hollywood Stars 読解演習 Speaking: Class Activity (リアルタイムオンライン授業)	事前学習: Unit1 の内容を予習してくる。 (1 時間) 事後学習: Writing (Unit 1)p.108 課題学習 (1 時間)
	4	Unit 2: What do you do?	Warm Up Vocabulary: 語彙学習 Conversation: Pair Work 演習 Listening 演習 (リアルタイムオンライン授業)	事前学習: Unit2 の内容を予習してくる。 (1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	5	Unit 2: What do you do?	Smart Talk:ペアワーク Reading: Student News 読解演習 Speaking: Class Activity (リアルタイムオンライン授業)	事前学習: Unit2 の内容を予習してくる。 (1 時間) 事後学習: Writing (Unit 2) p.108 課題学習 (1 時間)
	6	Unit 3: Do you like noodles?	Warm Up Vocabulary: 語彙学習 Conversation: Pair Work 演習 Listening 演習 (リアルタイムオンライン授業)	事前学習: Unit 3 の内容を予習してくる。 (1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	7	Unit 3: Do you like noodles?	Smart Talk:ペアワーク Reading: Eat on the Street 読解演習 Speaking: Class Activity (リアルタイムオンライン授業)	事前学習: Unit3 の内容を予習してくる。 (1 時間) 事後学習: Writing (Unit 3) p.109 課題学習 (1 時間)
	8	Review Unit 1 - Unit 3	Video: Volcano Adventure を活用し、 語彙学習・内容理解 (対面授業)	事前学習: Video: Volcano Adventure を視聴してくる。 (1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	9	Unit 4: How often do you exercise?	Warm Up Vocabulary: 語彙学習 Conversation: Pair Work 演習 Listening 演習 (対面授業)	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくる。 (1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	10	Unit 4: How often do you exercise?	Smart Talk:ペアワーク Reading: You want to play in the NBA? 読解演習 Speaking: Class Activity (対面授業)	事前学習: Unit 4 の内容を予習してくる。 (1 時間) 事後学習: Writing (Unit 4) p.109 課題学習 (1 時間)
	11	Unit 5: I'm listening to music.	Warm Up Vocabulary: 語彙学習 Conversation: Pair Work 演習 Listening 演習 (対面授業)	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくる。 (1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)
	12	Unit 5: I'm listening to music.	Smart Talk:ペアワーク Reading: When selfies are a bad idea 読解演習 Speaking: Class Activity (対面授業)	事前学習: Unit 5 の内容を予習してくる。 (1 時間) 事後学習: Writing (Unit 5) p.110 課題学習 (1 時間)
	13	Unit 6: Where were you yesterday?	Warm Up Vocabulary: 語彙学習 Conversation: Pair Work 演習 Listening 演習	事前学習: Unit 6 の内容を予習してくる。 (1 時間) 事後学習: Online Practice を用いた課題学習 (1 時間)

			(対面授業)	
	14	Unit 6 : Where were you yesterday?	Smart Talk:ペアワーク Reading: Almost the Real Thing!読解 演習 Speaking : Class Activity (対面授業)	事前学習 : Unit 6 の内容を予習してくること。(1時間) 事後学習 : Writing (Unit 6) p.110 課題学習 (1時間)
	15	到達度確認	これまでの総復習 (対面授業)	事前学習:Unit1から6の内容を復習してくること。(1時間) 事後学習 : Online Practice を用いた課題学習 (1時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart CHOICE 1A 4th Edition Multi-Pack:Student Book/Workbook (ISBN:978-0-19-406095-0)	Ken Wilson	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20% 授業への参加、発表・貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70% TOEIC Bridge のスコア 10%			
学生への メッセージ	ICTを積極的に活用した授業を展開し、さまざまな英語学習方法を紹介していきます。長く継続できる学習方法を見つけて、英語に触れる時間を積極的に増やしてください。学習時間に比例して、英語力が向上していきます。			
担当者の 研究室等	11号館11階 (9月11日～10月第1週) 7号館4階 柏原研究室 (10月第2週以降)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等はスチューデントアワーにて対応する。			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1343a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。			
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。			
授業方法と留意点	遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 オンライン授業への移行にともない、授業方法は Microsoft Teams および Web Folder を使用する。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。			
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：摂南大学の ICT 環境の確認（1 時間）
	2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題（自習あり）	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（1 時間）
	7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（50 分） 事後：事後課題の完成・提出（40 分）
	8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
関連科目	情報リテラシーⅡ			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、3 回の総合演習課題など (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist : マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	授業時間内における質問は Teams で対応します。授業時間外での質問等はメールを使用してください (即日の返信が無理な場合でもできるだけ迅速な対応をいたします)。 必修演習課題の点数はメールにて連絡を行う予定をしています。			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1343a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。				
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。				
授業方法と留意点	遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。				
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：摂南大学の ICT 環境の確認（1 時間）
		2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題（自習あり）	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
		6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（1 時間）
		7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（50 分） 事後：事後課題の完成・提出（40 分）
		8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
		13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
関連科目	情報リテラシーⅡ				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2 回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	授業時間外での質問等： 本講義は Microsoft Office を活用します。スムーズな質疑応答ができる Microsoft Teams のチャット機能にて問い合わせください。 24 時間受付ております、返信は数日以内にできるかと思います。 課題等のフィードバック： 講義の当日、あるいは次回の講義内で解説する予定です。			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1343a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。			
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。			
授業方法と留意点	遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 オンライン授業への移行にともない、授業方法は Microsoft Teams および Web Folder を使用する。 なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。			
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：摂南大学の ICT 環境の確認（1 時間）
	2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題（自習あり）	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（1 時間）
	7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（50 分） 事後：事後課題の完成・提出（40 分）
	8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
関連科目	情報リテラシーⅡ			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、3 回の総合演習課題など (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist: マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	授業時間内における質問は Teams で対応します。授業時間外での質問等はメールを使用してください (即日の返信が無理な場合でもできるだけ迅速な対応をいたします)。 必修演習課題の点数はメールにて連絡を行う予定をしています。			

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1343a1		

授業概要・目的	大学生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。				
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。				
授業方法と留意点	遠隔で受講の場合には、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。				
科目学習の効果（資格）	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約 40%を学ぶ。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 タイピングについて	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：摂南大学の ICT 環境の確認（1 時間）
		2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題（自習あり）	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
		6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（1 時間）
		7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ルーブリック評価	事前：発表準備（50 分） 事後：事後課題の完成・提出（40 分）
		8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
		13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
		15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
関連科目	情報リテラシーⅡ				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2 回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)			
備考	授業時間外での質問等： 本講義は Microsoft Office を活用します。スムーズな質疑応答ができる Microsoft Teams のチャット機能にて問い合わせください。 24 時間受付ております、返信は数日以内にできるかと思います。 課題等のフィードバック： 講義の当日、あるいは次回の講義内で解説する予定です。			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1344a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題の作成、および、社会人に必要とされる事務系 PC 作業の基本の習得。
授業方法と留意点	毎回、PC を使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席（課題提出）は必須である。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベルとする

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習（1 時間） 事後：事後課題の完成・提出（30 分）
	2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
	7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	関連科目			
	情報リテラシー I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集	富士通 FOM	FOM 出版

		(FPT1618) 【前期のテキストと同じ（再購入不要）】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ（再購入不要）】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業の実習課題（60%）、および2回の総合課題（40%）を基本として総合的に評価する。この授業は演習中心のため、課題提出が単位取得の必要条件となる。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。学内であれば情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）			
備考	授業時間外の質問は Teams のメッセージ機能またはメールでお願いします。すぐに返信ができない場合がありますが、できるだけ早くご連絡するようにします。			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1344a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PC を使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席は必須であり、遅刻も厳禁とする。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1 時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
	2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
	7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	関連科目			
	情報リテラシー I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集	富士通 FOM	FOM 出版

		(FPT1618) 【前期のテキストと同じ（再購入不要）】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ（再購入不要）】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 （基準）	授業中の実習課題（50%）、模擬試験や総合課題などの演習（50%）を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。なお、遠隔講義中は課題提出＝出席とする。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS（Microsoft Office Specialist（マイクロソフト オフィス スペシャリスト）に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、Teams のチャット機能で対応します			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	星山 幸子
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1344a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題の作成、および、社会人に必要とされる事務系 PC 作業の基本の習得。
授業方法と留意点	毎回、PC を使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。 実習を中心に行うため、授業への出席（課題提出）は必須である。
科目学習の効果（資格）	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベルとする

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習（1 時間） 事後：事後課題の完成・提出（30 分）
	2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
	7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER、LOWER、PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
関連科目				
情報リテラシー I				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft® Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集	富士通 FOM	FOM 出版

		(FPT1618) 【前期のテキストと同じ（再購入不要）】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ（再購入不要）】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業の実習課題（60%）、および2回の総合課題（40%）を基本として総合的に評価する。この授業は演習中心のため、課題提出が単位取得の必要条件となる。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。学内であれば情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）			
備考	授業時間外の質問は Teams のメッセージ機能またはメールでお願いします。すぐに返信ができない場合がありますが、できるだけ早くご連絡するようにします。			

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤木 健史
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LMA1344a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PC を使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については講義による説明を行う。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word、Excel が取得できるレベル。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1 時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30 分)
	2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
	6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
	7	【Word 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定	区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集	複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用	データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定	データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	12	【Excel 応用】 課題演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	13	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	14	応用演習	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
	15	総合演習	MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
	関連科目			
	情報リテラシー I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集	富士通 FOM	FOM 出版

		(FPT1618) 【前期のテキストと同じ（再購入不要）】		
	2	よくわかるマスター MicrosoftR Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ（再購入不要）】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業中の実習課題（50%）、模擬試験や総合課題などの演習（50%）を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席が単位取得の必要条件となる。なお、遠隔講義中は、課題提出＝出席とする。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。情報処理演習室の空き時間を使って復習することをお薦めします。 多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、Teams のチャット機能で対応します。			

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01306a1		

授業概要・目的	・法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。 ・このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、かつ、いかに争いを解決しているかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「法」と「道徳＝倫理」の違いについて説明できる ・婚約、婚姻、内縁、離婚、相続をめぐる論点について説明できる ・民法の財産法や刑事法学の諸原理について説明ができる ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・新型コロナ変異株の流行により、第2回目の授業から当面のあいだ、本授業はMicrosoft社のteamsを用いたオンデマンド動画配信方式で行う。 ・課題提示や資料「配布」などはMicrosoft社teamsを通じて行う。 ・教員から的一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
科目学習の効果 (資格)	・公務員試験や各種資格試験に必要なとされる法学の基礎的知識を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 法とは何か	・講義内容と文献の紹介 ・法と道徳の違い ・法の強制力 ・法の分類	・教科書の入手 - 事前：教科書第1章をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：第1章を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	2	家族関係と法 (1)	・婚約とその不当破棄 ・内縁と重婚の内縁関係 ・婚姻の効果 ・婚姻費用 ・日常家事債務	・教科書の入手 - 事前：婚約と婚姻に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：婚約と婚姻に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	3	家族関係と法 (2)	・離婚 ・協議離婚と調停離婚 ・裁判離婚 ・離婚原因 ・有責配偶者の離婚請求ほか	- 事前：離婚に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：離婚に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	4	家族関係と法 (3)	・親子 ・認知と非嫡出子 ・親族間の扶養	- 事前：親族に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：親族に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	5	家族関係と法 (4)	・相続 ・遺留分 ・寄与分	- 事前：相続に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：相続に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	6	財産関係と法 (1)	・契約と意思表示 ・契約と当事者	- 事前：契約に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：契約に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	7	財産関係と法 (2)	・債務不履行と危険負担 ・契約の解除 ・瑕疵担保責任	- 事前：債務不履行に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：債務不履行に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	8	財産関係と法 (3)	・事務管理と不当利得 ・不法行為 ・使用者責任	- 事前：不法行為に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：不法行為に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	9	医療と法	・医療契約 ・医療過誤 ・専断的医療行為	- 事前：医療過誤に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：医療過誤に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	10	消費者と法	・訪問販売 ・マルチ商法 ・ローンとクレジット契約 ・製造物責任法	- 事前：消費者と法に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：消費者と法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	11	職場と法	・労働法とは何か ・労働紛争の諸類型 ・ブラック企業 ・非正規雇用の問題点	- 事前：労働法に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：労働法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	12	犯罪と法 (1)	・刑法の意義 ・罪刑法定主義とその派生原則 ・犯罪論 ・緊急行為 ・未遂と共犯	- 事前：刑法に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：刑法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	13	犯罪と法 (2)	・逮捕と勾留 ・搜索と差押 ・公訴の提起 ・少年法の特例 ・死刑をめぐる諸問題	- 事前：刑事訴訟法に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間) - 事後：刑事訴訟法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと (2時間)
	14	人権と国際法	・立憲主義と憲法 ・自由権と社会権	事前：国際法に関する箇所をあらかじめ読むこと (2時間)

			・国際関係と紛争 ・集団的自衛権	事後：国際法に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2時間）																
	15	法の適用、法源及び法の解釈	・制定法と慣習法 ・判例・学説・条理 ・概念法学と自由法学 ・文理解釈と論理解釈	事前：法の解釈に関する箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：法の解釈に関する箇所を見直し、章末問題を解くこと（2時間）																
関連科目	日本国憲法、行政法、刑法、民法、国際法ほか																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>新入生のためのリーガル・トピック 50</td><td>阿部昌樹・和田仁孝</td><td>法律文化社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部昌樹・和田仁孝	法律文化社																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）</td><td>末川 博/編著</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>2</td><td>現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）</td><td>伊藤 正己＝加藤一郎/編著</td><td>有斐閣</td></tr><tr><td>3</td><td>判例法学（第5版）</td><td>西村 健一郎＝西井 正弘＝初宿 正典/編著</td><td>有斐閣</td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣	2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己＝加藤一郎/編著	有斐閣	3	判例法学（第5版）	西村 健一郎＝西井 正弘＝初宿 正典/編著	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法学入門（第6版補訂版）（有斐閣双書）	末川 博/編著	有斐閣																	
2	現代法学入門（第4版）（有斐閣双書）	伊藤 正己＝加藤一郎/編著	有斐閣																	
3	判例法学（第5版）	西村 健一郎＝西井 正弘＝初宿 正典/編著	有斐閣																	
評価方法（基準）	・ 形成的評価を行うため、Microsoft 社 teams を通じて、Microsoft forms から課題を提出し、その回答内容を評価対象とする（100%）。																			
学生へのメッセージ	・ 法律系の番組が好きな方、あるいは、公務員試験受験や法学系資格取得を念頭に置いている方は、ぜひ受講してみてください。																			
担当者の研究室等	11号館10階 小野教授室																			
備考	課題に対するコメントは次回講義または teams を通じて行う。																			

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武, 石井 三恵, 上野山 裕士, 津村 忠, 山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1345a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。 S																																																														
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。																																																														
授業方法と留意点	講義は、積極的な態度で受講すること。 講義は対面講義と Teams を用いたリアルタイム型 Web 講義の同時進行で行う。 各自の事情や希望に合わせて、対面希望の場合は初回の教室に、Web 希望の場合は Teams から受講すること。 なお、Teams コードは入学年度・学籍番号により異なる。 ・2020 年以前の入学生：石井→531 教室 / 1a8zvve ・216001→216050：水野→532 教室 / hcp8rq5 ・216051→216102：上野山→534 教室 / m1adp2b ・216103																																																														
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。																																																														
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ようこそ、摂南大学へ</td><td> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える </td><td> ・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>2</td><td>さあ始めよう！大学生活を</td><td> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける </td><td> ・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>3</td><td>摂南大学</td><td> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する </td><td> ・事後学修：摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること / 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること (0.5 時間) ・事後学修：講義で課された課題に取り組むこと (2 時間/継続) </td></tr> <tr> <td>4</td><td>自己効力感を高めよう</td><td> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション </td><td> ・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間) </td></tr> <tr> <td>5</td><td>SDGs について考えよう グループ課題の設定</td><td> ・SDGs に対する理解を深める ・ブルーワーク ・グループで工程管理を考える </td><td> ・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間) </td></tr> <tr> <td>6</td><td>社会は君を待っている</td><td> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える </td><td> ・事後学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>7</td><td>社会の仕組み①</td><td> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える </td><td> ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>8</td><td>社会の仕組み②</td><td> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション </td><td> ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>9</td><td>自分づくり①</td><td> ・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク </td><td> ・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間) </td></tr> <tr> <td>10</td><td>自分づくり②</td><td> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 </td><td> ・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>11</td><td>スケジューリング術</td><td> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる </td><td> ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>12</td><td>ビブリオバトル①</td><td> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する </td><td> ・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間) </td></tr> <tr> <td>13</td><td>グループ課題の発表会</td><td>グループ課題の発表会</td><td> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>14</td><td>グループ課題の発表会</td><td>・グループごとのプレゼンテーション</td><td> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間) </td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)	2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)	3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する	・事後学修：摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること / 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること (0.5 時間) ・事後学修：講義で課された課題に取り組むこと (2 時間/継続)	4	自己効力感を高めよう	・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)	5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・ブルーワーク ・グループで工程管理を考える	・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)	6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事後学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)	7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)	8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)	9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)	10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定	・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)	11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)	12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																												
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)																																																												
2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)																																																												
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する	・事後学修：摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること / 大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること (0.5 時間) ・事後学修：講義で課された課題に取り組むこと (2 時間/継続)																																																												
4	自己効力感を高めよう	・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事後学修：設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)																																																												
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	・SDGs に対する理解を深める ・ブルーワーク ・グループで工程管理を考える	・事前学修：SDGs とは何かについて予習をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：グループで課題に取り組むこと (2 時間)																																																												
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事後学修：社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)																																																												
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)																																																												
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)																																																												
9	自分づくり①	・自分の良いところを 20 個挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)																																																												
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定	・事後学修：大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)																																																												
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)																																																												
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)																																																												
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)																																																												
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること (1 時間) ・事後学修：他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること (0.5 時間)																																																												

	15	講義のおさらい	・講義4で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り	・事前学修:夏休み以降の大学生生活の目標を考えること(0.5時間) ・事後学修:期末レポートを作成すること(1.5時間)																
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	授業内活動(30%)、グループ課題(20%)、最終レポート(50%)で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																			
担当者の 研究室等	教育イノベーションセンター(石井)																			
備考	・毎回の講義で必要になる講義資料(レジュメ)は事前にTeamsよりダウンロードしておくこと。 ・授業後のレポートはTeamsもしくはMoodle上で実施、授業内の指示にしたがって記述すること。 ※国や大阪府の要望、学校方針などにより授業方法が変更になります。HPやTeams等を常にチェックしてください。 ※入学年度と学籍番号ごとのコードは下記の通り ・2020年以前の入学生:石井→531教室 / 1a8zvve ・216001ー216050:水野→532教室 / hcp8rq5 ・216051																			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史, 赤澤 春彦, 浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1346a1		

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つで、前半は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択をおこないます。後半は、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。
到達目標	人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。
授業方法と留意点	授業は、原則として講義形式で行う。遠隔授業になった場合は、「Microsoft Teams」を中心に同期型（リアルタイム）のオンライン授業や、非同期型の教材・課題提供型授業を行う。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。
科目学習の効果（資格）	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業の目的、進め方、評価方法などを説明する。 ・パッケージプログラムの選択申請や期末レポートについて、前もって周知する。	事前学習：シラバスを熟読し、理解する。
	2	パッケージプログラムの紹介（1）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
	3	パッケージプログラムの紹介（2）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
	4	パッケージプログラムの紹介（3）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
	5	パッケージプログラムの紹介（4）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
	6	パッケージプログラムの紹介（5）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
	7	パッケージプログラムの紹介（6）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。
	8	海外体験をキャリアにどう生かすか	海外留学経験者による体験談を通して、海外体験とキャリアをどう結びつけるかについて考える。	事前学習：本学で体験可能な海外プログラムについて調べておく。
	9	人生のイベントについて	キャリアの節目、人生のイベントについて考える。	事前学習：自分の将来について考え、ノートにまとめる。 事後学習：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。
	10	人はなぜ働くのか	報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。	事前学習：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。 事後学習：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。
	11	グループワーク	前回（第10回）の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。	事前学習：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。 事後学習：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。
	12	業種について学ぶ	・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。 ・業種・職種の概念を理解する。 ・川上～川下の概念を理解する。	事前学習：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学習：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
	13	会社と職種について学ぶ	・会社・業種・職種を理解する。 ・付加価値について考える。	事前学習：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学習：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。第14回の授業で作成する「期末レポート」の準備をする。
	14	「期末レポート」の作成 パッケージプログラムの選択申請	・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。 ・パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。	・提出した「期末レポート」の内容について振り返ってみる。 ・選択したパッケージプログラムについて確認する。
	15	総括（まとめ）	・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	(必要に応じて指示します)	
	2		

	<table><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				3			
3								
参考書								
	番号	書籍名	著者名	出版社名				
	1	(必要に応じて指示します)						
	2							
	3							
評価方法 (基準)	・ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点（60％） ・期末レポート（40％） ※ただし、原則として、出席率80％以上の学生のみを成績評価の対象とします。							
学生への メッセージ	複数の教員や先輩の話が聞けます。提出物に気をつけながら主体的に学んでください。							
担当者の 研究室等	7号館4階（古矢研究室）							
備考	・事前および事後に1時間以上の学習を必要とします。 ・ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第15回の授業にて行います。							

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊, 天野 貴史, 有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP2o		
科目ナンバリング	LCA1346a1		

授業概要・目的	本授業はキャリア形成科目の一つで、前半は、将来のキャリアプランにつながる6つの分野で構成される「パッケージプログラム」の概要を学び、その選択をおこないます。後半は、社会と仕事の関係や就職の現状を学びながら、自分の進路や職業について考えていきます。
到達目標	人間はなぜ働くのかという哲学的な問いから、社会の中でどのように生きていくかといった人生観に至るまで、多面的に今後のキャリアプランについて考えるとともに、それに基づいて「パッケージプログラム」を選択し、来年度以降の学びにつなげていくことを目標とします。
授業方法と留意点	授業は、原則として講義形式で行う。遠隔授業になった場合は、「Microsoft Teams」を中心に同期型（リアルタイム）のオンライン授業や、非同期型の教材・課題提供型授業を行う。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。
科目学習の効果（資格）	就職活動に活かせるような知識が習得できます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業の目的、進め方、評価方法などを説明する。 ・パッケージプログラムの選択申請や期末レポートについて、前もって周知する。	事前学習：シラバスを熟読し、理解する。
	2	パッケージプログラムの紹介（1）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
	3	パッケージプログラムの紹介（2）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
	4	パッケージプログラムの紹介（3）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
	5	パッケージプログラムの紹介（4）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
	6	パッケージプログラムの紹介（5）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：自分のキャリアプランと照らし合わせながら、プログラムおよび同科目の選択について考えていく。
	7	パッケージプログラムの紹介（6）	・各パッケージプログラムの構成とその授業内容（概要）について説明する。 ・ワークシートの作成	事後学習：どのパッケージプログラムを選択するかしっかり考える。
	8	海外体験をキャリアにどう生かすか	海外留学経験者による体験談を通して、海外体験とキャリアをどう結びつけるかについて考える。	事前学習：本学で体験可能な海外プログラムについて調べておく。
	9	人生のイベントについて	キャリアの節目、人生のイベントについて考える。	事前学習：自分の将来について考え、ノートにまとめる。 事後学習：キャリアの節目、人生にイベントについて自分の考えをまとめる。
	10	人はなぜ働くのか	報酬、やりがい、役割など、様々な「働く理由」を考える。	事前学習：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめる。 事後学習：「働く理由」に関して自分の考えをまとめる。
	11	グループワーク	前回（第10回）の課題を持ち寄り、グループで討議、発表する。	事前学習：働いている人にインタビューをしてレポートにまとめたものを見直す。 事後学習：インタビューした人に自分の感想とお礼を記した手紙を書く。
	12	業種について学ぶ	・視点/視座/視野の使い方と事例を知る。 ・業種・職種の概念を理解する。 ・川上～川下の概念を理解する。	事前学習：就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学習：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。
	13	会社と職種について学ぶ	・会社・業種・職種を理解する。 ・付加価値について考える。	事前学習：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。 事後学習：授業で学んだことを振り返りながら、再度就職情報サイト・就職部の資料等でどのような仕事があるか調べる。第14回の授業で作成する「期末レポート」の準備をする。
	14	「期末レポート」の作成 パッケージプログラムの選択申請	・「期末レポート」を授業中に作成し、提出する。 ・パッケージプログラムを1つ選択し、申請書を提出する。	・提出した「期末レポート」の内容について振り返ってみる。 ・選択したパッケージプログラムについて確認する。
	15	総括（まとめ）	・これまで学んできたことを総括する。 ・提出したワークシートやレポートについて講評する。	今後の大学生活で自分がやるべきことを整理してみる。

関連科目	キャリアデザイン、エンプロイメントデザインなど。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	(必要に応じて指示します)	
	2		

	<table><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				3			
3								
参考書								
	番号	書籍名	著者名	出版社名				
	1	(必要に応じて指示します)						
	2							
	3							
評価方法 (基準)	・ワークシートや課題、授業に取り組む姿勢などを中心とした平常点（60％） ・期末レポート（40％） ※ただし、原則として、出席率80％以上の学生のみを成績評価の対象とします。							
学生への メッセージ	複数の教員や先輩の話が聞けます。提出物に気をつけながら主体的に学んでください。							
担当者の 研究室等	7号館4階（古矢研究室）							
備考	・事前および事後に1時間以上の学習を必要とします。 ・ワークシートやレポートに関するフィードバックは、第15回の授業にて行います。							

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1340a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
	15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、1 5 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	人形寺 英利子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1340a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な力を養成することに重点を置く。 事実を客観的に説明する方法、引用の方法、意見を論理的に記述する方法、考えをまとめる方法などを学び、わかりやすい文章の書き方を実践的にトレーニングする。
到達目標	他者に伝えることを意識して、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を身につけた上で、文章作成を行う。 数回の課題を提出し、最後にはレポート課題を提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	復習：プリント
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	復習：教科書の「はじめに」「第 1 回」「第 2 回」、プリント
	3	メールの書き方	メールの書き方を学ぶ	配布資料 復習：メールを送る
	4	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ 課題 1 にむけて説明文を書く練習をする	復習：教科書の「第 3 回」、プリント
	5	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	復習：教科書「はじめに」「第 1 回」「第 2 回」「第 3 回」、プリント
	6	構成 要約	レポートなどの文章構成を学ぶ 要旨の要約の作成方法を学ぶ	復習：教科書「第 5 回」「第 6 回」、プリント
	7	フィードバック 構成や要約の復習	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す 教科書「第 5 回」「第 6 回」
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	復習：教科書「第 7 回」
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	復習：教科書「第 8 回」、プリント
	10	意見を述べる 構成・要約・引用の復習	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ 課題 2 に向けてこれまでの復習	復習：教科書「第 5 回」～「第 9 回」、プリント
	11	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	復習：教科書「はじめに」～「第 10 回」
	12	レポートの書き方 1・2 資料収集の方法 フィードバック	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明 文献の探索について学ぶ 課題 2 のフィードバック	復習：教科書「第 11 回」～「第 13 回」
	13	レポートの作成 フィードバック	レポートの作成 分からない点を質問する	復習：教科書、課題 2 を踏まえて、最終レポートの作成に生かす
	14	【課題 3】レポート 提出	レポートを提出する	予習復習：これまでの小テストを見直し、復習テストに備える
	15	レポートの講評 小テストの復習テスト	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。 宿題もチェックして加点します。 コピーアンドペースト (いわゆるコピペ) は禁止。
-----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) を使い分けましょう。 これからの大学生活、社会生活のためにも、自分が普段何気なく使っている言葉や自分の考えていることに向き合ってみてください。 宿題が多くて面倒かもしれませんが、取り組んだ分だけ力が付きます。
-----------	---

担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)
----------	----------------------------------

備考	総学習時間の目安は 15 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。
----	--

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1340a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。																																																																		
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。																																																																		
授業方法と留意点	WebFolder を使い、「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。 大学生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 説明文・論説文・レポートの 3 つの課題を提出する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>導入 教科書第 1 回「文章の書き方 1」</td><td>授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ</td><td>――</td></tr> <tr> <td>2</td><td>教科書第 2 回「文章の書き方 2」</td><td>わかりやすい文章の書き方を学ぶ</td><td>前回の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>教科書第 3 回「事実と意見」</td><td>事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ</td><td>前回の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>教科書第 4 回【課題 1】説明文</td><td>ある事物について、論理的に説明する文章を書く</td><td>課題を書く</td></tr> <tr> <td>5</td><td>教科書第 5「構成」</td><td>レポートなどの文章構成を学ぶ</td><td>これまでの復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>課題 1 のフィードバック これまでの復習</td><td>課題 1 の反省 ここまでの復習問題を解く</td><td>課題 1 を見直す これまでの復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>教科書第 6 回「要約」</td><td>要旨の要約の作成方法を学ぶ</td><td>これまでの復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>教科書第 7 回「文章を引用する」</td><td>文章を引用する方法を学ぶ</td><td>前回の復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>教科書第 8 回「図表を引用する」</td><td>図表を引用する方法を学ぶ</td><td>前回の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>引用の復習 教科書第 9 回「意見の述べ方」</td><td>文章と図表資料の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ</td><td>引用の復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>教科書第 10 回【課題 2】論説文</td><td>資料を引用して意見を述べる文章を書く</td><td>課題を書く</td></tr> <tr> <td>12</td><td>教科書第 11 回 「レポートの書き方 1」 レポート課題の説明</td><td>レポートの体裁について学ぶ レポート課題の告知と説明</td><td>レポートを作成の準備をする</td></tr> <tr> <td>13</td><td>教科書第 12 回 「レポートの書き方 2」 レポートの作成準備</td><td>ポート作成の注意点を学ぶ レポートの作成準備</td><td>レポートを作成する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>課題 2 のフィードバック 教科書第 13 回 「資料収集の方法」</td><td>課題 2 の反省 資料収集の方法を学ぶ</td><td>課題 2 を見直す レポートを作成する</td></tr> <tr> <td>15</td><td>レポート提出 小テストの復習テスト</td><td>レポートを提出する 小テストの復習テスト</td><td>レポート提出 小テストの復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	導入 教科書第 1 回「文章の書き方 1」	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――	2	教科書第 2 回「文章の書き方 2」	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習	3	教科書第 3 回「事実と意見」	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習	4	教科書第 4 回【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題を書く	5	教科書第 5「構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習	6	課題 1 のフィードバック これまでの復習	課題 1 の反省 ここまでの復習問題を解く	課題 1 を見直す これまでの復習	7	教科書第 6 回「要約」	要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習	8	教科書第 7 回「文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習	9	教科書第 8 回「図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習	10	引用の復習 教科書第 9 回「意見の述べ方」	文章と図表資料の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	引用の復習	11	教科書第 10 回【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	課題を書く	12	教科書第 11 回 「レポートの書き方 1」 レポート課題の説明	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の告知と説明	レポートを作成の準備をする	13	教科書第 12 回 「レポートの書き方 2」 レポートの作成準備	ポート作成の注意点を学ぶ レポートの作成準備	レポートを作成する	14	課題 2 のフィードバック 教科書第 13 回 「資料収集の方法」	課題 2 の反省 資料収集の方法を学ぶ	課題 2 を見直す レポートを作成する	15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する 小テストの復習テスト	レポート提出 小テストの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入 教科書第 1 回「文章の書き方 1」	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――																																																																
2	教科書第 2 回「文章の書き方 2」	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習																																																																
3	教科書第 3 回「事実と意見」	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
4	教科書第 4 回【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題を書く																																																																
5	教科書第 5「構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの復習																																																																
6	課題 1 のフィードバック これまでの復習	課題 1 の反省 ここまでの復習問題を解く	課題 1 を見直す これまでの復習																																																																
7	教科書第 6 回「要約」	要旨の要約の作成方法を学ぶ	これまでの復習																																																																
8	教科書第 7 回「文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
9	教科書第 8 回「図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習																																																																
10	引用の復習 教科書第 9 回「意見の述べ方」	文章と図表資料の引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	引用の復習																																																																
11	教科書第 10 回【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	課題を書く																																																																
12	教科書第 11 回 「レポートの書き方 1」 レポート課題の説明	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の告知と説明	レポートを作成の準備をする																																																																
13	教科書第 12 回 「レポートの書き方 2」 レポートの作成準備	ポート作成の注意点を学ぶ レポートの作成準備	レポートを作成する																																																																
14	課題 2 のフィードバック 教科書第 13 回 「資料収集の方法」	課題 2 の反省 資料収集の方法を学ぶ	課題 2 を見直す レポートを作成する																																																																
15	レポート提出 小テストの復習テスト	レポートを提出する 小テストの復習テスト	レポート提出 小テストの復習																																																																
関連科目	ゼミ、卒業研究など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>大学生の日本語文章表現</td><td>摂南大学日本語教育イノベーションセンター編</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学日本語教育イノベーションセンター編		2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学日本語教育イノベーションセンター編																																																																	
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)・レポート (30%)、小テスト・復習テストなどの提出物 (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。																																																																		
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。																																																																		
担当者の	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)																																																																		

研究室等	
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1341a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 レポートの書き方（1）	授業の目的、進め方の説明	――
	2	レポートの書き方（2）	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
	6	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ
	7	ディスカッション2	ディスカッションを行う	前回の復習
	8	【課題2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習
	9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	10	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
	11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	【課題3】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備
	14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習
	15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題3回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	人形寺 英利子
ディプロマポリシー (DP)	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1341a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。考えや経験のまとめ方、他人に読んでもらう文章の書き方、他人に納得してもらう話し方などについて学び、実践する。
到達目標	適切な表現を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い、発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を身につけた上で、ディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。グループワークを通して、論理的に話し合う力を養う。 後半はグループワークが主となるため、出席し、能動的に参加することが必要である。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 メールの書き方	授業の目的、進め方の説明 メールの書式・用語・マナーを学ぶ	教員にメールを送る レポートの復習プリント
	2	レポートの書き方	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	レポートの書き方の復習
	3	【課題 1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と方法を学ぶ	敬語の復習プリント
	5	ディスカッション 1（準備） 課題 1 のフィードバック	ディスカッションの資料配付・事前準備 課題 1 の復習	テーマの下調べ 課題 1 を見直す
	6	ディスカッション 2（説明）	グループ分けとガイダンス・資料配付 事前準備・練習	テーマの下調べ
	7	ディスカッション 3（実践）	グループでディスカッションを行う 各自報告文を書く	足りない資料を探す
	8	レジュメの書き方	レジュメ（配付資料）の書き方を学ぶ・練習	これまでの復習
	9	【課題 2】レジュメ作成	ディスカッションの経過をレジュメにまとめる	資料作成の準備
	10	プレゼンテーション 1（説明）	プレゼンテーションのガイダンス・準備	発表の準備
	11	プレゼンテーション 2（準備） 課題 2 のフィードバック	プレゼンテーションの準備（配付資料・読み原稿を作成し、リハーサルを行う） 課題 2 を返却する	発表の準備
	12	プレゼンテーション 3（実践）	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う・聴く	発表の見直し・質疑応答の確かめ
	13	プレゼンテーション 4（実践）	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う・聴く	発表の見直し・質疑応答の確かめ
	14	【課題 3】報告文	プレゼンテーションの内容をレポート（報告文）にまとめる	報告文の準備
	15	課題 3 の総評 小テストの復習テスト	課題 3 のフィードバック 小テストの復習テスト	小テストの復習

関連科目	ゼミ、卒業研究など
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	課題 3 回（20%、20%、30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格。 グループワークの欠席はやむを得ない場合のみ認める。 コピーアンドペースト（いわゆるコピペ）は禁止。
----------	--

学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語（話し言葉）と、レポートなどで書く日本語（書き言葉）を区別する必要があります。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、自分が何気なく使っている言葉に向き合ってください。 テレワークやオンラインを通じた会議システムも利用してみましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
----------	------------------

備考	総学習時間の目安は 15 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。 シラバスの変更は、初回の授業で通知します。
----	---

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名（英文）	Japanese Expression II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー（DP）	DP1o, DP2Δ		
科目ナンバリング	LJA1341a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会生活に必要な表現力を身に付ける。 すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	大学生活、社会人生活において求められる文章表現の基本を確認する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを行うので、話し合いや発表に各自責任を持って参加する必要がある。 3回の課題を必ず提出すること。 随時、語彙力・表現力を養成する小テストを行う。
科目学習の効果（資格）	大学生活、社会人生活に必要な、書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス レポートの書き方 1	授業の目的・進め方の説明 レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方について確認する 1	———
	2	レポートの書き方 2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方について確認する 2 小テスト 1	レポートの書き方の復習
	3	【課題 1】レポート	資料を引用して、論理的に意見を述べる文章を書く	今回の復習
	4	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ 小テスト 2	今回の復習
	5	メールの書き方	メールの書式・用語・マナーを学ぶ 小テスト 3	今回の復習
	6	課題 1 の反省 後半タームのガイダンス	課題 1 の反省をする 後半ターム（グループディスカッション・プレゼンテーション・課題 2 と 3）についての説明。準備を始める。 小テスト 4	課題 1 を見直す グループディスカッションのために自分の考えを整理する
	7	グループディスカッション 1	グループ分け グループディスカッションの方法を確認する ディスカッションを行う 小テスト 5	文章表現について復習 ディスカッションの経緯をまとめる
	8	【課題 2】報告文 1 グループディスカッション 2	報告書の書き方について学ぶ。 資料の作成方法について学ぶ。 プレゼンテーションの資料を準備する。	プレゼンテーションに必要な資料を探す。 考えを整理する。
	9	グループディスカッション 3	プレゼンテーションの資料を準備する 小テスト 6	発表資料を作成するために必要な資料を探したり、考えを整理する。
	10	課題 2 の反省	課題 2 の反省 グループでプレゼンテーションの資料を準備する。リハーサルを行う。	課題 2 を見て文章表現について復習する。 発表資料を準備し、リハーサルを行う。
	11	プレゼンテーション 1	準備した資料を基にプレゼンテーションを行う 聴衆は傾聴する	プレゼンテーション資料の作成・提出
	12	プレゼンテーション 2	準備した資料を基にプレゼンテーションを行う 1。 聴衆は傾聴する	プレゼンテーションの準備 課題 3 のためにこれまでの振り返りをする
	13	【課題 3】報告文 2	グループディスカッションとプレゼンテーションの内容を、レポートとして文章化する。	後半タームの復習をする
	14	手紙の書き方 課題 3 の講評	手紙の書き方を学ぶ 課題 3 の講評 小テスト 7	手紙の書き方の復習 敬語の復習
	15	小テストの復習テスト 授業の総括	小テストの復習	これまでの復習 小テストの復習

関連科目	キャリアデザイン・ゼミ・卒業研究など
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
評価方法 (基準)	課題 3 回 (20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト・復習テスト (30%) により評価する。 課題提出、課題 D 評価の場合の再提出が単位取得の必須条件となる。			
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語、文学表現に用いる日本語と、レポート・論文・報告書などで書く日本語は区別する必要があります。 また、日常での話し言葉と人前で話す日本語も異なります。 これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真摯に日本語と向き合ってください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)			
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回 1 時間程度はかけること。 宿題を出す場合もあります。			

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	アンナ インゲル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN2318c1		

授業概要・目的	本講座は、1 年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。異文化間のコミュニケーションは、英語コミュニケーション能力だけにあるのではない。トピックは日米比較で、身の周りにあるものを取り上げ、それらの題材を通して英語力を高めると同時に、日米の差異・共通性の理解を深める。
到達目標	英検 2 級以上、TOEIC550 点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書は必ず持ってくること。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検 2 級以上、TOEIC550 点以上は必ず取れるはずです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 Lesson 1 の導入 Physical Education	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Lesson 1 の予習 (1 時間)
	2	Lesson 1 Physical Education	Physical Education に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 1 の復習及び予習 (1 時間)
	3	Lesson 2 Sports Clubs	Sports Clubs に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 2 の復習及び予習 (1 時間)
	4	Lesson 2 Sports Clubs	Sports Clubs に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 2 の復習及び予習 (1 時間)
	5	Lesson 3 Cultural Differences	Cultural Differences に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 3 の復習及び予習 (1 時間)
	6	Lesson 4 Haircuts	Haircuts に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 4 の復習及び予習 (1 時間)
	7	Lesson 5 Music	Music に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 5 の復習及び予習 (1 時間)
	8	Lesson 6 Money	Money に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 6 の復習及び予習 (1 時間)
	9	Lesson 7 Safety	Safety に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 7 の復習及び予習 (1 時間)
	10	Lesson 8 Life Expectancy	Life Expectancy に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 8 の復習及び予習 (1 時間)
	11	Lesson 9 The Metric System	The Metric System に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 9 の復習及び予習 (1 時間)
	12	Lesson 10 Police	Police に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 10 の復習及び予習 (1 時間)
	13	Lesson 11 Seasons	Seasons に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 11 の復習及び予習 (1 時間)
	14	Lesson 12 TV Sports	TV Sports に関する内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 12 の復習及び予習 (1 時間)
	15	Lesson 1 ~ Lesson 12 Physical Education ~ TV Sports	Lesson 1 ~ Lesson 12 の総復習 定期試験 (前期末) の準備	これまでの授業で扱った内容について総復習する (定期試験の準備) (1 時間)

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Eye on America and Japan	G. Truscott 他	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100		成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3	英和辞典・和英辞典		

評価方法 (基準)	定期試験 40 % 小テスト (Quiz) 20 % 課題レポート 20 % 授業への取り組み (投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表など) 20 % ※原則、出席率 80 %以上の学生を成績評価の対象とする。
学生へのメッセージ	In this class, you can improve your English while learning about cultural differences and similarities between Japan and the US. Please do your best to prepare for class, actively participate and speak during class, and ask questions!
担当者の研究室等	3 号館 2 階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アンナ インゲル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LEN2319c1		

授業概要・目的	本講座は、1 年次で学んだ語彙、文法を基に英語力の更なる向上を目指し、総合的な運用能力を高めることを目的とする。異文化間のコミュニケーションは、英語コミュニケーション能力だけにあるのではない。トピックは日米比較で、身の周りにあるものを取り上げ、それらの題材を通して英語力を高めると同時に、日米の差異・共通性の理解を深める。
到達目標	英検 2 級以上、TOEIC550 点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は‘Active Participation in Class’ (授業への前向きな参加) が大前提である。双方向の全員参加の活発な授業を展開するので、予習が必須で辞書は必ず持ってくること。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検 2 級以上、TOEIC550 点以上は必ず取れるはずです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	シラバスの説明 Lesson 13 の導入 Business	授業目的・計画・方法の説明、受講の心構え、英語学習の方法など	Lesson 13 の予習 (1 時間)
	2	Lesson 13 Business	Lesson 13 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 13 の復習及び予習 (1 時間)
	3	Lesson 14 Jobs	Lesson 14 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 14 の復習及び予習 (1 時間)
	4	Lesson 14 Jobs	Lesson 14 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 14 の復習及び予習 (1 時間)
	5	Lesson 15 NHK vs. PBS	Lesson 15 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 15 の復習及び予習 (1 時間)
	6	Lesson 16 Marriage Ceremonies	Lesson 16 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 16 の復習及び予習 (1 時間)
	7	Lesson 17 American Culture	Lesson 17 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 17 の復習及び予習 (1 時間)
	8	Lesson 18 International Marriage	Lesson 18 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 18 の復習及び予習 (1 時間)
	9	Lesson 19 Apartments	Lesson 19 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 19 の復習及び予習 (1 時間)
	10	Lesson 20 Technology	Lesson 20 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 20 の復習及び予習 (1 時間)
	11	Lesson 21 School Rules	Lesson 21 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 21 の復習及び予習 (1 時間)
	12	Lesson 22 Drinking	Lesson 22 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 22 の復習及び予習 (1 時間)
	13	Lesson 23 Entertaining	Lesson 23 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 23 の復習及び予習 (1 時間)
	14	Lesson 24 Choice	Lesson 24 の内容把握、語彙・発音、練習問題	Lesson 24 の復習及び予習 (1 時間)
	15	Lesson 13 ～ Lesson 24 Business ～ Choice	Lesson 13 ～ Lesson 24 の総復習 定期試験 (後期末) の準備	これまでの授業で扱った内容について総復習する (定期試験の準備) (1 時間)

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Eye on America and Japan	G. Truscott 他	南雲堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	暗唱英文 100	摂南大学外国語学部	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3	英和辞典・和英辞典		

評価方法 (基準)	定期試験 40 % 小テスト (Quiz) 20 % 課題レポート 20 % 授業への取り組み (投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表など) 20 % ※原則、出席率 80 %以上の学生を成績評価の対象とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	In this class, you can improve your English while learning about cultural differences and similarities between Japan and the US. Please do your best to prepare for class, actively participate and speak during class, and ask questions!
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LKY1362a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の 20 年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。																																																																		
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること																																																																		
授業方法と留意点	11 月 4 日以降は対面形式で実施します。指定された問題を自力で解く→講師が問題を解説→正誤確認と誤答訂正という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。また授業最後的小テストで理解度を確認します。（小テストは Moodle を使用します）毎回異なる内容に取り組むため、取り上げた問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。なお、履修者数によっては、2 回目以降の授業を複数クラスに分けて行うことがあります。																																																																		
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 実力テスト</td><td>講義概要説明、実力テストの実施</td><td>実力テストの復習（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>計数問題①</td><td>割合と比</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>計数問題②</td><td>割合の応用</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>計数問題③</td><td>損益算</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>計数問題④</td><td>速度算①</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>計数問題⑤</td><td>速度算②</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>総復習①</td><td>総復習①</td><td>計数問題全範囲の復習（約 2 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>中間テスト</td><td>中間テスト</td><td>計数問題全範囲の復習（約 2 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>論理問題①</td><td>集合</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>論理問題②</td><td>場合の数</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>論理問題③</td><td>確率</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論理問題④</td><td>表の読み取り・資料解釈</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論理問題⑤</td><td>推論①</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>論理問題⑥</td><td>推論②</td><td>指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総合テスト</td><td>これまでの全範囲</td><td>全範囲の復習（約 2 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（約 1 時間）	2	計数問題①	割合と比	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	3	計数問題②	割合の応用	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	4	計数問題③	損益算	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	5	計数問題④	速度算①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	6	計数問題⑤	速度算②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	7	総復習①	総復習①	計数問題全範囲の復習（約 2 時間）	8	中間テスト	中間テスト	計数問題全範囲の復習（約 2 時間）	9	論理問題①	集合	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	10	論理問題②	場合の数	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	11	論理問題③	確率	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	12	論理問題④	表の読み取り・資料解釈	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	13	論理問題⑤	推論①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	14	論理問題⑥	推論②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）	15	総合テスト	これまでの全範囲	全範囲の復習（約 2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習（約 1 時間）																																																																
2	計数問題①	割合と比	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
3	計数問題②	割合の応用	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
4	計数問題③	損益算	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
5	計数問題④	速度算①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
6	計数問題⑤	速度算②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
7	総復習①	総復習①	計数問題全範囲の復習（約 2 時間）																																																																
8	中間テスト	中間テスト	計数問題全範囲の復習（約 2 時間）																																																																
9	論理問題①	集合	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
10	論理問題②	場合の数	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
11	論理問題③	確率	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
12	論理問題④	表の読み取り・資料解釈	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
13	論理問題⑤	推論①	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
14	論理問題⑥	推論②	指定問題以外にも積極的にテキスト問題にチャレンジすること（約 1 時間）																																																																
15	総合テスト	これまでの全範囲	全範囲の復習（約 2 時間）																																																																
関連科目	コミュニケーション能力開発、就職実践基礎、キャリアデザイン																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>厳選！数学的リテラシー問題集</td><td>PS 出版事業部</td><td>PS 出版事業部</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法（基準）	「小テスト 40%」「中間テスト・最終テスト 50%」「SmartSPI 10%」																																																																		
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、どんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありえません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	2 号館 2 階 ラーニングセンター																																																																		
備考	所属クラスごとに Teams および Moodle の登録先が異なります。クラス確定後に所属先を連絡しますので再登録を行ってください。																																																																		

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Mathematical Ability I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LKY1362a1		

授業概要・目的	数的分野（算数・数学）を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。 講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと。
授業方法と留意点	11 月 5 日より対面で実施します。それまでの実施方法は指定された問題を自力で解く→解答解説や解説動画による正誤確認と誤答訂正→他の問題にチャレンジ（任意）という流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。問題集に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。 対面授業では、「問題を解く」⇒講師が問題を解説⇒正誤確認 最後の 15 分ほどを小テストで理解度確認という流れです。 (小テストは Moodle を使用します) 毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の
科目学習の効果（資格）	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習 30 分以上を目安とする
	2	計数問題①	割合と比	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	3	計数問題②	割合の応用問題	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	4	計数問題③	損益算	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	5	計数問題④	速度算①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	6	計数問題⑤	速度算②	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	7	復習①	計数問題復習	今まで学習した問題全てを事前に復習 30 分以上を目安とする
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習 30 分～1 時間程度を目安とする
	9	論理問題①	集合	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	10	論理問題②	場合の数	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	11	論理問題③	確率	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	12	論理問題④	表の読み取り	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	13	論理問題⑤	推論①	事前学修：テキストの該当箇所を読んでおくこと 事後学修：講義で取り扱った問題の復習 いずれも 30 分以上を目安とする
	14	論理問題⑥	推論②	全ての問題を事前に復習 30 分以上を目安とする
	15	総合テスト	これまでの全範囲	全ての問題を事前に復習 30 分～1 時間程度を目安とする

関連科目	キャリアデザイン
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選！数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準）	平常点 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
学生への	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。

メッセージ	毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週 1 時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 教育イノベーションセンター
備考	Teams コードは、コピー&ペーストでの入力をオススメします。

科目名	スポーツと健康	科目名 (英文)	Sports and Health
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	瀬川 智広
ディプロマポリシー (DP)	DP1Δ, DP2Δ		
科目ナンバリング	LPH1353a1		

授業概要・目的	人生 100 年といわれる現代社会において、豊かな人生を送るためには健康的で活気に満ちた生活を末長く送ることが大切とされている。本講義ではスポーツが心身の健康にもたらす様々な効果について学習し、生涯にわたり健康保持・増進にむけた取り組みを実践するために必要な基礎知識を身につける。 SDGs-3, 5, 10, 11, 16
到達目標	(1) 現代社会における健康問題について理解できる。 (2) 健康づくりのための基礎知識を習得し、健康保持・増進にむけた取り組みを実践することができる。 (3) 持続可能な社会の実現に関するスポーツの価値や可能性を理解できる。 (4) 身近な社会問題や健康づくりをテーマに議論することで、主体的に学び続ける態度を身につけている。
授業方法と留意点	講義、グループディスカッション、グループワーク、発表を取り入れる。 小レポート、小テストを課す。
科目学習の効果 (資格)	心身の健康保持増進に関する知識が身につく、受講者自身の健康管理ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スポーツと健康について	オリエンテーション 講義全体の概要、到達目標および成績評価について説明する 現時点での自身の健康づくりのための取り組みやスポーツへの関わりについて認識する (小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	2	現代社会の健康問題	健康の定義と現代社会が抱える健康問題について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	3	運動習慣が身体機能にもたらす効果	動物としての人間にとって体を動かすことの意義や効果について理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	4	適切な体重と食生活	適切な体重について理解する 健康に良い食生活について考える (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	5	生活習慣病	現代生活と生活習慣病の関係について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	6	飲酒・喫煙・薬物が身体に及ぼす影響	飲酒、喫煙、薬物が健康におよぼす影響について理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	7	ストレス・心の健康	ストレスが身体に及ぼす影響やストレス発生のメカニズムを理解し、心の健康について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	8	睡眠・休息	睡眠や休息が身体にもたらす影響について学習する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	9	人類と感染症	ウイルス感染症に関する基礎知識を理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	10	安全で効果的にスポーツを楽しむための基礎知識	安全に運動をするための基礎知識を理解する (講義・個人ワーク・小レポート)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：授業終了時に指定された課題に取り組み、学習内容を復習する (2 時間)
	11	スポーツの意義と社会的役割 (1)	オリンピック、ワールドカップなどの国際大会を題材にスポーツを通じた国際貢献や経済効果について学習する (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報に基づき事後レポートに取り組む (2 時間)
	12	スポーツの意義と社会的役割 (2)	パラリンピックやアダプテッド スポーツを題材にスポーツを通じた共生社会の実現について学習する (講義・グループディスカッション)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：講義・グループディスカッションで得られた知識や情報に基づき事後レポートに取り組む (2 時間)
	13	スポーツと SDGs (1)	SDGs のビデオや冊子などの資料を用いて SDGs に関する基礎知識を学習し、SDGs におけるスポーツの価値や可能性について調べる (講義・グループワーク)	事前：指定されたテーマについて調べておく (2 時間) 事後：グループワークの内容をまとめる (2 時間)
	14	スポーツと SDGs (2)	SDGs におけるスポーツの価値や可能性	事前：発表の準備をする (2 時間)

			についてグループで発表する (発表)	事後：他者の発表の要点をまとめる（２時間）
	15	スポーツと健康論まとめ	授業のまとめ 今後の健康づくりの取 組みや持続可能な社会実現に向けた 取り組みへの関わり方について考える (グループディスカッション・レポー ト)	事前：指定されたテーマについて予習する（２時間） 事後：生涯にわたり自身の健康づくりの取り組みを 実践する
関連科目	スポーツ科学実習、生涯スポーツ実習、スポーツ文化論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	これからの健康とスポーツの化学	阿部孝・琉子友男	講談社
	2	大学生の健康・スポーツ化学	片桐文子 他	道和書院
	3			
評価方法 (基準)	対面授業 小レポート（５０％）、グループワーク・発表（２０％） 最終授業終了後のレポート課題（３０％） 遠隔授業 小レポート（７０％） 最終授業終了後のレポート課題（３０％）			
学生への メッセージ	持続可能な社会の実現に向けてスポーツがもたらす様々な効果や期待される可能性について共に考えましょう。グループディスカッションや発表 にも積極的に参加しましょう。			
担当者の 研究室等	総合体育館１Ｆ 瀬川研究室			
備考	学習の効果を高めることを目的とし、授業の進捗状況や理解度、時事問題と関連して授業テーマの順序を変更する場合があります。			

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01309a1		

授業概要・目的	[授業概要] 働き方が多様化した現代の企業経営において、人のマネジメントはますます重要な意義を有するようになっていきます。本講義では、「人のマネジメント」として人的資源管理の基本的な考え方を学ぶことによって、組織を活かし個人も活きるための知的・実践的スキルを身につけることを目指します。人的資源管理Ⅰでは、組織や戦略と人的資源管理の関わりなど人的資源管理の総論を中心に講義します。 なお、授業担当者の企業人事における実務経験を通じた解説および体験談を用いて説明することで、より深い学生の理解を促します。																																																														
到達目標	[到達目標] ①人的資源管理の基礎的な概念について理解できるようになる。 ②組織と人に関わる経営現象について、人のマネジメントの視点から説明できるようになる。																																																														
授業方法と留意点	主として講義形式になります。必要に応じてパワーポイントやプリントを活用し、企業における人的資源管理の実態についても紹介します。 この授業を受講するには、経営学の基礎を理解していることが望まれます。																																																														
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、社会保険労務士																																																														
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション 【オンライン授業】</td><td>講義の進め方、本講義の内容について説明します。</td><td>シラバスを読んでください。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>戦略的人的資源管理論 【配付資料学習】</td><td>企業の戦略と人的資源管理の関係について自己学習します。</td><td>事前課題：教科書の第3章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること</td></tr> <tr> <td>3</td><td>戦略的人的資源管理論 【オンライン授業】</td><td>企業の戦略と人的資源管理の関係についてリアルタイムで解説します。</td><td>事前課題：教科書の第3章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること</td></tr> <tr> <td>4</td><td>組織構造 【配付資料自己学習】</td><td>組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を自己学習します。</td><td>事前課題：教科書の第5章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること</td></tr> <tr> <td>5</td><td>組織構造 【オンライン授業】</td><td>組織・職場のデザインという観点からの人的資源管理をリアルタイムで解説します。</td><td>事前課題：教科書の第5章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること</td></tr> <tr> <td>6</td><td>小テスト① 【オンライン授業】</td><td>リアルタイムのオンラインで小テスト①を行います。</td><td>事前課題：これまでの講義資料および教科書1時間程度読むこと 事後学習：小テストの内容を1時間程度復習すること</td></tr> <tr> <td>7</td><td>リーダーシップとマネジメントの違い 【配付資料自己学習】</td><td>リーダーシップとマネジメントの違いについて自己学習します。</td><td>事前課題：配付資料を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること</td></tr> <tr> <td>8</td><td>リーダーシップとマネジメントの違い 【対面授業】</td><td>リーダーシップとマネジメントの違いについてリアルタイムで解説します。</td><td>事前課題：配付資料および教科書代7章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること</td></tr> <tr> <td>9</td><td>リーダーシップ 【配付資料自己学習】</td><td>リーダーシップ現象についてこれまでの知見を自己学習します。</td><td>事前課題：教科書の第7章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること</td></tr> <tr> <td>10</td><td>リーダーシップ 【対面授業】</td><td>リーダーシップ現象についてこれまでの知見をリアルタイムで解説します。</td><td>事前課題：教科書の第7章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること</td></tr> <tr> <td>11</td><td>雇用 【配付資料自己学習】</td><td>人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかを自己学習します。</td><td>事前課題：教科書の第9章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること</td></tr> <tr> <td>12</td><td>雇用 【対面授業】</td><td>人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかをリアルタイムで解説します。</td><td>事前課題：教科書の第9章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること</td></tr> <tr> <td>13</td><td>昇進・賃金 【配付資料自己学習】</td><td>評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて自己学習します。</td><td>事前課題：教科書の第12、13章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること</td></tr> <tr> <td>14</td><td>昇進・賃金</td><td>評価は、昇進・昇格や賃金にどのような</td><td>事前課題：教科書の第12、13章を1時間程度再度</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション 【オンライン授業】	講義の進め方、本講義の内容について説明します。	シラバスを読んでください。	2	戦略的人的資源管理論 【配付資料学習】	企業の戦略と人的資源管理の関係について自己学習します。	事前課題：教科書の第3章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること	3	戦略的人的資源管理論 【オンライン授業】	企業の戦略と人的資源管理の関係についてリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第3章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること	4	組織構造 【配付資料自己学習】	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を自己学習します。	事前課題：教科書の第5章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること	5	組織構造 【オンライン授業】	組織・職場のデザインという観点からの人的資源管理をリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第5章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること	6	小テスト① 【オンライン授業】	リアルタイムのオンラインで小テスト①を行います。	事前課題：これまでの講義資料および教科書1時間程度読むこと 事後学習：小テストの内容を1時間程度復習すること	7	リーダーシップとマネジメントの違い 【配付資料自己学習】	リーダーシップとマネジメントの違いについて自己学習します。	事前課題：配付資料を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること	8	リーダーシップとマネジメントの違い 【対面授業】	リーダーシップとマネジメントの違いについてリアルタイムで解説します。	事前課題：配付資料および教科書代7章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること	9	リーダーシップ 【配付資料自己学習】	リーダーシップ現象についてこれまでの知見を自己学習します。	事前課題：教科書の第7章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること	10	リーダーシップ 【対面授業】	リーダーシップ現象についてこれまでの知見をリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第7章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること	11	雇用 【配付資料自己学習】	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかを自己学習します。	事前課題：教科書の第9章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること	12	雇用 【対面授業】	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかをリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第9章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること	13	昇進・賃金 【配付資料自己学習】	評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて自己学習します。	事前課題：教科書の第12、13章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること	14	昇進・賃金	評価は、昇進・昇格や賃金にどのような	事前課題：教科書の第12、13章を1時間程度再度
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																												
1	イントロダクション 【オンライン授業】	講義の進め方、本講義の内容について説明します。	シラバスを読んでください。																																																												
2	戦略的人的資源管理論 【配付資料学習】	企業の戦略と人的資源管理の関係について自己学習します。	事前課題：教科書の第3章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること																																																												
3	戦略的人的資源管理論 【オンライン授業】	企業の戦略と人的資源管理の関係についてリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第3章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること																																																												
4	組織構造 【配付資料自己学習】	組織・職場のデザインという観点から人的資源管理を自己学習します。	事前課題：教科書の第5章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること																																																												
5	組織構造 【オンライン授業】	組織・職場のデザインという観点からの人的資源管理をリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第5章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること																																																												
6	小テスト① 【オンライン授業】	リアルタイムのオンラインで小テスト①を行います。	事前課題：これまでの講義資料および教科書1時間程度読むこと 事後学習：小テストの内容を1時間程度復習すること																																																												
7	リーダーシップとマネジメントの違い 【配付資料自己学習】	リーダーシップとマネジメントの違いについて自己学習します。	事前課題：配付資料を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること																																																												
8	リーダーシップとマネジメントの違い 【対面授業】	リーダーシップとマネジメントの違いについてリアルタイムで解説します。	事前課題：配付資料および教科書代7章を1時間程度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること																																																												
9	リーダーシップ 【配付資料自己学習】	リーダーシップ現象についてこれまでの知見を自己学習します。	事前課題：教科書の第7章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること																																																												
10	リーダーシップ 【対面授業】	リーダーシップ現象についてこれまでの知見をリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第7章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること																																																												
11	雇用 【配付資料自己学習】	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかを自己学習します。	事前課題：教科書の第9章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること																																																												
12	雇用 【対面授業】	人と職務のマッチングにはどのような種類があり、それぞれどのような特徴があるのかを学びます。また、グローバル化が展している昨今、企業はどのような工夫をしているのかをリアルタイムで解説します。	事前課題：教科書の第9章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を1時間程度復習すること																																																												
13	昇進・賃金 【配付資料自己学習】	評価は、昇進・昇格や賃金にどのように反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについて自己学習します。	事前課題：教科書の第12、13章を1時間程度再度読むこと 事後学習：配付資料を1時間程度予習すること																																																												
14	昇進・賃金	評価は、昇進・昇格や賃金にどのような	事前課題：教科書の第12、13章を1時間程度再度																																																												

		【対面授業】	に反映されるのでしょうか。また、それぞれにはどのような特徴や機能があるのかについてリアルタイムで解説します。	読むこと 事後学習：配付資料の穴埋め箇所を 1 時間程度復習すること																
	15	小テスト②、課題レポート提出締切日 【Google form で小テスト②を実施】	リアルタイムのオンラインで小テスト②を行います。	事前課題：これまでの講義資料および教科書 1 時間程度読むこと 事後学習：小テストの内容を 1 時間程度復習すること																
関連科目	経営学、経営管理論、経営組織論、経営戦略論																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>人的資源管理</td><td>上林憲雄</td><td>中央経済社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	人的資源管理	上林憲雄	中央経済社																	
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>経験から学ぶ人的資源管理</td><td>上林憲雄他</td><td>有斐閣ブックス</td></tr><tr><td>2</td><td>入門人的資源管理</td><td>奥林康司他</td><td>中央経済社</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス	2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	経験から学ぶ人的資源管理	上林憲雄他	有斐閣ブックス																	
2	入門人的資源管理	奥林康司他	中央経済社																	
3																				
評価方法 (基準)	小テスト①30 点、小テスト②30 点、レポート 40 点、合計 100 点で評価します。ただし、授業態度や参加具合によって加点・減点をする場合があります。																			
学生への メッセージ	人的資源管理論の対象は、「人」そのものです。そのため、講義を受けるにあたっては、日頃から組織と人間に対する関心を持ち続けることが何より大切になってきます。自分自身の感性も磨きながら、主体的に受講するようにしてください。																			
担当者の 研究室等	11 号館 8 階(西之坊研究室)																			
備考																				

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎		
科目ナンバリング	LS01308a1		

授業概要・目的	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。 SDGs-1, 3, 8, 9, 10																																																																		
到達目標	1) 戦後日本経済の歴史の大まかな流れについて説明できる。 2) 雇用、企業組織、財政、社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき、日々の経済ニュースを理解できるようになる。 3) 日本経済が抱える問題について、その重要性を説明することができ、それにかんする異なる立場の議論を比較することができる。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。毎回、レジュメを配布する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	日々の経済ニュースを理解できるようになることで、就職活動において企業を選択する際や、企業で働く際に客観的な判断ができるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>経済とは</td><td>経済の基本的な仕組みについて概説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>戦後日本経済の歩み (1)</td><td>終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>戦後日本経済の歩み (2)</td><td>高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>戦後日本経済の歩み (3)</td><td>高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>戦後日本経済の歩み (4)</td><td>安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>戦後日本経済の歩み (5)</td><td>バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>雇用のしくみ</td><td>企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>企業のしくみ</td><td>所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>授業内討論 (1) 日本の雇用問題</td><td>授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う</td><td>事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>11</td><td>財政のしくみ (1)</td><td>日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>財政のしくみ (2)</td><td>日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>社会保障のしくみ</td><td>日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する</td><td>Moodle で出題された復習課題に取り組む。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>授業内討論 (2) 日本の社会保障</td><td>授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う</td><td>事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>全体の総括</td><td>講義内容の復習、期末レポートの作成</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	3	戦後日本経済の歩み (1)	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	4	戦後日本経済の歩み (2)	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	5	戦後日本経済の歩み (3)	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	6	戦後日本経済の歩み (4)	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	7	戦後日本経済の歩み (5)	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	10	授業内討論 (1) 日本の雇用問題	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り	11	財政のしくみ (1)	日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	12	財政のしくみ (2)	日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。	14	授業内討論 (2) 日本の社会保障	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り	15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習、期末レポートの作成
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	現代経済で起こっていることを概観する一方で、この授業の進め方について紹介する。	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
2	経済とは	経済の基本的な仕組みについて概説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
3	戦後日本経済の歩み (1)	終戦から戦後復興期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
4	戦後日本経済の歩み (2)	高度経済成長期における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
5	戦後日本経済の歩み (3)	高度経済成長の終焉から安定成長期への移行について説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
6	戦後日本経済の歩み (4)	安定成長期からバブル期にかけての日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
7	戦後日本経済の歩み (5)	バブル崩壊後における日本経済の動きについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
8	雇用のしくみ	企業と労働者の関係について、日本的雇用慣行を例にとりながら解説する。また、正規雇用と非正規雇用の関係についても説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
9	企業のしくみ	所有・経営・労働の観点から企業を捉えて、その統治の仕組みについて解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
10	授業内討論 (1) 日本の雇用問題	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り																																																																
11	財政のしくみ (1)	日本の財政構造、とりわけ財政支出の現状と課題について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
12	財政のしくみ (2)	日本の財政構造、とりわけ租税と国債発行についての現状と課題を説明する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
13	社会保障のしくみ	日本における社会保障のしくみ、とりわけ公的年金制度について解説する	Moodle で出題された復習課題に取り組む。																																																																
14	授業内討論 (2) 日本の社会保障	授業で学んだ内容、および受講者が独自に調べた事項にもとづいて、受講者間でディベート形式のオンライン討論を行う	事前：討論のための準備 事後：討論内容の振り返り																																																																
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習、期末レポートの作成																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>日本経済の常識</td><td>中原隆幸編</td><td>ナカニシヤ出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td>図解雑学 資本主義のしくみ</td><td>八木紀一郎他</td><td>ナツメ社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日本経済の常識	中原隆幸編	ナカニシヤ出版	2	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	日本経済の常識	中原隆幸編	ナカニシヤ出版																																																																
2	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎他	ナツメ社																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業時間内外の課題 (50%)、期末レポート (50%) で総合的に評価する。授業時間内外の課題および期末レポートは Moodle 上で出題する。Moodle への登録には期限を設けます。期限以降の登録は受け付けられないので注意してください。																																																																		
学生へのメッセージ	日々のニュースなどで目にする「経済」に関する事柄は、小難しく自分には関係のないことのように思えてしまいがちですが、実際にはみなさんの身の回りで起こっていることと密接に結びついています。そうしたことをこの授業で感じ取ってもらえればと思います。そのためには、少々難しく感じても、日々の新聞やニュースで目にする経済的な事象に関心を持つことから始めてもらいたいと思います。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更があります。 事前事後学習の総時間の目安は 60 時間です。課題への解答については、課題解答期間後に正答と解説が公開されます。また各回で授業への質																																																																		

問や感想を書いてもらいますが、それに対する回答は適宜行います。それらを使って学習をさらに深めてください。
--

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	デミエン ヒーリー
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	LEN1316c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduce class guidelines and scoring rubric. Pair and group work activities.	The name game. Introducing your friend to the class. Introducing the teacher. Teacher's PowerPoint.	下読みと単語調べ、, exercise の予習 (2 時間)
	2	Unit 1 Nice to meet you!	Country and nationality	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	3	Unit 2 What do you do?	Talking about jobs in pairs and groups. Jobs survey.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	4	Unit 3 Do you like spicy food?	Talking about food in pairs and groups.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	5	Unit 3 Do you like spicy food?	Love to hate. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	6	Review units 1 to 3	Review of grammar and vocabulary	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	7	Mid-term test	Writing test related to chapters 1 to 3	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	8	Unit 4 How often do you do yoga?	Free time activities. Pair and group work activities.	前半の既習内容の復習 (テスト勉強) (2 時間)
	9	Unit 4 How often do you do yoga?	Adverbs of frequency. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	10	Unit 5 What are you watching?	Present Progressive. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	11	Unit 5 What are you watching?	Talking about cell phones	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	12	Unit 6 Where were you yesterday?	Simple Past of the verb to be. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	13	Unit 6 Where were you yesterday?	Talking about past vacations	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	14	Review units 4 to 6	Review of grammar and vocabulary	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
	15	End of term test	Writing test related to chapter 4 to 6	前半の既習内容の復習 (テスト勉強) (2 時間)

関連科目	英語 II
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice Level 1A Third Edition Multi - pack with online practice and On The Move	Ken Wilson	Oxford University Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 20%
	1. 25% for completing homework and in-class tasks.
	2. 15% for mid-term test done at the end of chapter 3.
	3. 25% for your presentations.
学生へのメッセージ	4. 15% for end of term writing test which will be on the content of the book topics.
	外国語学習は、辞書をしっかり引いて書き込むなどの地道な準備が欠かせません。予習をしっかりとしましょう。
	積極的な授業参加を期待します。
	英和辞書か電子辞書を持参して下さい。
担当者の研究室等	非常勤講師室 (前期 3 号館 2 階/後期 7 号館 2 階)

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	基礎英語Ⅱa	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	再
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	デミエン ヒーリー
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング	LEN1317c1		

授業概要・目的	比較的可平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	教科書に沿って課題を提示していくので教科書をしっかり読むことが大事です。 自分で電子辞書や紙の辞書を引いてください。 提出期限内に余裕を持って出してください。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 4 回を超える未提出、つまり欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Explaining about this term scoring rubric.</td><td>Talking about summer vacation with handout. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ、, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 7 Which one is cheaper?</td><td>Kinds of clothes and adjectives. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 7 Which one is cheaper?</td><td>Comparative and superlatives. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 8 What's she like?</td><td>Describing people physically. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 8 What's she like?</td><td>Describing people mentally.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 9 What can you do there?</td><td>Can and can't. Pair and group work activities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 9 What can you do there?</td><td>Describing things to do in different cities.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Mid-term test</td><td>Review of chapter 7 to 9 grammar and vocabulary</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 10 Is there a bank near here?</td><td>Types of shops.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 10 Is there a bank near here?</td><td>Giving and getting directions.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 11 Did you have a good time?</td><td>Simple past tense.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 11 Did you have a good time?</td><td>Unusual Hotels</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 12 I'm going to go by car</td><td>Forms of transportation</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 12 I'm going to go by car</td><td>Going to.</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>End of term test</td><td>Review of chapter 10 to 12 vocabulary and grammar</td><td>下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Explaining about this term scoring rubric.	Talking about summer vacation with handout. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ、, exercise の予習 (2 時間)	2	Unit 7 Which one is cheaper?	Kinds of clothes and adjectives. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	3	Unit 7 Which one is cheaper?	Comparative and superlatives. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	4	Unit 8 What's she like?	Describing people physically. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	5	Unit 8 What's she like?	Describing people mentally.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	6	Unit 9 What can you do there?	Can and can't. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	7	Unit 9 What can you do there?	Describing things to do in different cities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	8	Mid-term test	Review of chapter 7 to 9 grammar and vocabulary	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	9	Unit 10 Is there a bank near here?	Types of shops.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	10	Unit 10 Is there a bank near here?	Giving and getting directions.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	11	Unit 11 Did you have a good time?	Simple past tense.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	12	Unit 11 Did you have a good time?	Unusual Hotels	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	13	Unit 12 I'm going to go by car	Forms of transportation	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	14	Unit 12 I'm going to go by car	Going to.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)	15	End of term test	Review of chapter 10 to 12 vocabulary and grammar	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Explaining about this term scoring rubric.	Talking about summer vacation with handout. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ、, exercise の予習 (2 時間)																																																																
2	Unit 7 Which one is cheaper?	Kinds of clothes and adjectives. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
3	Unit 7 Which one is cheaper?	Comparative and superlatives. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
4	Unit 8 What's she like?	Describing people physically. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
5	Unit 8 What's she like?	Describing people mentally.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
6	Unit 9 What can you do there?	Can and can't. Pair and group work activities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
7	Unit 9 What can you do there?	Describing things to do in different cities.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
8	Mid-term test	Review of chapter 7 to 9 grammar and vocabulary	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
9	Unit 10 Is there a bank near here?	Types of shops.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
10	Unit 10 Is there a bank near here?	Giving and getting directions.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
11	Unit 11 Did you have a good time?	Simple past tense.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
12	Unit 11 Did you have a good time?	Unusual Hotels	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
13	Unit 12 I'm going to go by car	Forms of transportation	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
14	Unit 12 I'm going to go by car	Going to.	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
15	End of term test	Review of chapter 10 to 12 vocabulary and grammar	下読みと単語調べ, exercise の予習 (2 時間)																																																																
関連科目	英語 I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Smart Choice Level 1 Third Edition Multi - pack B with online practice and On The Move</td><td>Ken Wilson</td><td>Oxford University Press</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)</td><td>西谷恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice Level 1 Third Edition Multi - pack B with online practice and On The Move	Ken Wilson	Oxford University Press	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Smart Choice Level 1 Third Edition Multi - pack B with online practice and On The Move	Ken Wilson	Oxford University Press																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% TOEIC Bridge 10% 提出課題 60%																																																																		
学生へのメッセージ	外国語学習は、辞書をしっかりと引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。音声なども利用し、聞いたり声に出したり工夫をして勉強しましょう。 じっくり紙の辞書を引いて力を付けるチャンスです。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよ																																																																		

	そ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。質問などについては出講時に非常勤講師室にて対応する。＊提出課題について、全く同じ答えを共有していると思われる場合は全員 0 点とする。
--	--

科目名	日本語教育実習演習	科目名 (英文)	Japanese Teaching Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP1oDP2△DP5△		
科目ナンバリング	LDL3197a0		

授業概要・目的	外国人日本語学習者に実際に日本語を教えるために、具体的な日本語教授法について講義と実習を行います。 初級・中級・上級の各コースにおいて、目的や対象などによって指導案及び教材を作成する方法を学び、教育実習期間には本学の外国人留学生を対象に受講者全員が日本語の授業を試みます。 外部の日本語教育機関での授業見学も可能な限り実施します。
到達目標	*日本語授業を行うための教案および教材作成ができる。 *外国人留学生を対象にした教育実習で日本語の指導ができる。
授業方法と留意点	授業では、講義に加えディスカッション、テキスト・教材分析、教案・教材作成等の作業、授業観察、模擬授業など、日本語を教えるために、より実践的に授業を行います。 この科目を受講するには、必要単位数を取得しておかなければならないので、受講前に各自確認しておいてください。
科目学習の効果 (資格)	本学の日本語教師養成課程の修了証

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	外国人学習者の学習段階 (初級・中級・上級レベル) について、実習運営について	配布資料 熟読
	2	日本語教師の役割	日本語教師に求められるもの	日本語教育関連資料収集 配布資料 熟読
	3	コースデザイン	コースデザインの方法、学習者別のコースデザイン	日本語教育関連資料収集 配布資料 熟読
	4	テキスト・教材分析①	初級のテキスト・教材分析	日本語初級のテキスト・教材分析
	5	テキスト・教材分析②	中上級のテキスト・教材分析	レジュメ作成、発表準備
	6	発表	各自レジュメに沿って発表	教科書 第1部 熟読
	7	初級レベルの指導①	指導の実際、教案の書き方	教科書 第1部 熟読
	8	初級レベルの指導②	指導の実際	教科書 第2部 熟読
	9	初級レベルの指導③	指導の実際	教科書 第2部 熟読
	10	初級レベルの指導④	日本語の授業観察	教科書 第2部 熟読
	11	初級レベルの指導⑤	日本語の授業観察	課題レポート作成
	12	初級レベルの指導⑥	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成
	13	初級レベルの指導⑦	教室活動例、副教材、指導方法の考察	教材、教案作成、発表準備
	14	模擬授業	発表、フィードバック	発表準備 (教案、教材作成、授業のリハーサル)
	15	模擬授業	発表、フィードバック	発表準備 (教案、教材作成、授業のリハーサル) 課題レポート作成
	16	中級レベルの指導①	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	配布資料 熟読
	17	中級レベルの指導②	中級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	中級レベルの教材作成、発表準備
	18	上級レベルの指導①	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	配布資料 熟読
	19	上級レベルの指導②	上級レベルの教室活動例・副教材・指導方法の考察	上級レベルの教材作成、発表準備、
	20	指導方法について発表	発表、ディスカッション	配布資料 熟読
	21	日本語授業の実際 (1)	授業観察	授業観察レポート作成
	22	日本語授業の実際 (2)	授業観察	授業観察レポート作成
	23	日本語授業の実際 (3)	授業観察	授業観察レポート作成
	24	日本語授業の実際 (4)	授業観察	授業観察レポート作成
	25	実習準備 (1)	日本語教育実習実施概要と留意点	グループごとに課題
	26	実習準備 (2)	教案作成、教材作成、授業準備	グループごとに課題
	27	教育実習 (実習週)	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
	28	教育実習 (実習週)	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、指導教員による個別指導	教案作成、教材作成、授業準備、グループディスカッション、
	29	実習の振り返り 自己評価	ディスカッション、発表	実習ノート作成、発表準備
	30	作成教材発表、総括	発表	実習ノート完成
関連科目	日本語教授法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、日本語学全般、英語科教育法、その他の「日本語教員養成課程」配当の科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	みんなの日本語初級Ⅰ第2版 教え方の手引き		スリーエーネットワーク
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての日本語教育2		アスク
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業におけるタスク達成度・討論・発表(30%)、作成した教案・教材や実習ノート(60%)、実習中の取り組み(10%)から総合的に評価します。
学生への メッセージ	外国人留学生に実際に日本語を教えることは貴重な経験になります。 特に本学では、学内で教育実習ができる恵まれた環境で日本語教育について学べます。このチャンスを最大限生かして、多くのことを学んでください。(事前・事後学習 1.5 時間ずつ) 海外及び国内の日本語教育機関で、多様な外国人学習者を対象にした日本語教育及び日本語教員養成の経験を活かして、具体的な事例を挙げながら授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館 4 階(門脇研究室)
備考	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
	授業で出された課題は、次の授業でフィードバックします。提出された実習ノートはコメントをつけて返却します。

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上(80時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに対応すること。 2 教育実習事前指導(3月～4月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3 教育実習個人指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。 4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td><td>教育実習を考える会</td><td>蒼丘書林</td></tr> <tr> <td>2</td><td>学習指導要領解説</td><td>文部科学省</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び事前指導・事後指導における課題提出物、教育実習記録による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上(120時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに対応すること。 2 教育実習事前指導(3月～4月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3 教育実習個人指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。 4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 総括講義出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td><td>教育実習を考える会</td><td>蒼丘書林</td></tr> <tr> <td>2</td><td>学習指導要領解説</td><td>文部科学省</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	地域実習	科目名 (英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎, 谷口 雄一, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科: A◎A 科: A◎M 科: A1○E 科: B △C 科: II ◎L 科: DP2◎D 科: DP1◎S 科: DP1◎J 科: DP1◎W 科: DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科: R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程 1 年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は 2 年次の「摂南大学 PBL プロジェクト」、3 年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけしています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																		
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																		
授業方法と留意点	主として現地でのフィールドワークです。1 か月に 2 回程度全体で集まり、進捗状況や問題点、解決策などを共有します。従来から感染防止に注意の上で対面授業を行っています。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 チーム 10 名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 - 年間計画を作成する。 - 役割を決める。 - 地域等で活動を行う。 - 活動報告をまとめ、ふりかえる。 - スケジュール管理をする。 - 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の 1～6 の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第 1 回授業は 4 月 14 日 (水) 6 時間目です。この時に詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。 今年度、この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習にいくことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。 【前期】 開講時間はいずれも 6 時間目です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。開講日は調整の関係で変更されることがあります。 第 1 回 4 月 14 日 (水) 「ガイダンス (授業概要の説明)」 第 2 回 4 月 28 日 (水) 「寝屋川市の現状を考える (1)」 第 3 回 5 月 12 日 (水) 「寝屋川市の現状を考える (2)」 第 4 回 5 月 19 日 (水) 「寝屋川市まちあるき」 (学外) 第 5 回 5 月 26 日 (水) 「社会教育とは (1)」 第 6 回 6 月 2 日 (水) 「社会教育とは (2)」 第 7 回 6 月 9 日 (水) 「まちあるき報告会」 第 8 回 6 月 3 日～6 月 22 日までのいずれかの日「実習先挨拶」 (学外) 第 9 回 7 月 7 日 (水) 「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第 10 回～第 18 回 「実習」 (学外) (夏季休暇中の 5 日間) ※実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。状況により実習できない場合もあることをお含みおください。 【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせいたします。 第 19 回 「実習ふりかえり (1)」 第 20 回 「実習ふりかえり (2)」 第 21 回 「全体報告会」																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	提出物 (20%)、活動への参画の程度 (40%)、最終報告プレゼンテーション (20%)、最終レポート (20%)																		
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみましょう！																		
担当者の研究室等	朝田研究室 1 号館 7 階 谷口研究室 11 号館 11 階 (後期は 7 号館 4 階) 吉田研究室 11 号館 11 階 (後期は 7 号館 3 階)																		
備考																			

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎R 科:A◎A 科:A◎M 科:A1○E 科: B△C 科: II ◎L 科:DP2◎D 科:DP1◎S 科:DP1◎J 科:DP1◎W 科:DP1◎, DP7◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: VT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シティズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。 なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。																			
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC（英語の場合）の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 ※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。																			
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。																			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（ ）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬 （9 月下旬～10 月上旬） ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬 （11 月～2 月） ・現地派遣：2 週間程度 8 月中旬～9 月上中旬 （2 月中下旬～3 月下旬） ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬 （3 月～4 月下旬） 【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。 本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなくてはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。 事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。 派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまっていけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。																			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバル・シチズンシップ論（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名												
番号	書籍名	著者名	出版社名																	

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)			
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。			
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は2号館2階グローバル教育センター(旧：国際交流センター)まで			
備考				

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣, 天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP2②, DP5Δ		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	・本演習は、各パッケージプログラムにおけるこれまでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的とする。 ・設定されたテーマについての調査・分析とグループによる発表（プレゼン）を行い、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ・この科目（クラス）は、「国際ビジネス」プログラムに所属する学生が履修対象者となる。 （なお、英語プロフェッショナルコースの学生も履修できるが、事前申請が必要である）																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、研究発表（プレゼン）を通して、問題発見・解決能力や高度な情報受信能力を身につけることができる。																		
授業方法と留意点	・第1回：オリエンテーションとして、2人の教員（天野、中島）が共同で担当する。 ・第2～8回：天野担当。国際ビジネス・金融・経済をテーマにした小説を通して、働くことへの興味と関心を高める。 ・第9～15回：中島担当。配付された教材・課題に基づいてテーマを設定し、グループによる発表（プレゼン）を主な活動とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・グループごとに設定したテーマに基づいて調査や分析を行い、その研究成果をレポートやプレゼンで発表する。 ・また、メンバーによるディスカッションを通じて、そのテーマに関する理解を深めていく。 【事前・事後学習課題】 ・研究テーマに関する調査、文献・資料の収集などを行う。 ・レポートやプレゼンの準備を進めるとともに、教員からのフィードバックを踏まえて加筆修正を行う。 ・事前・事後学習の総時間数は60時間とする。																		
関連科目	海外インターンシップ、体験型特別実習B、卒業研究Ⅰ・Ⅱなど。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	天野担当分のレポート・プレゼン等の評価 50% 中島担当分のレポート・プレゼン等の評価 50%																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げですので、主体的かつ積極的に取り組んでほしいと思います。																		
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室 7号館4階 中島研究室																		
備考	レポート・プレゼン等に関するフィードバックは、実施後速やかに行う。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟, 手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目（クラス）は、「国際貢献」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。 【事前・事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。（総時間数 30h） 【シラバス更新にともなうお知らせ】（2021.08.30） ・本演習は、①Teams を通じたリアルタイム配信（後日視聴も可能）、②Moodle を通じたレジュメ・課題等の配信、という 2 つの手段を適宜組み合わせ、原則としてオンラインで行ないます。																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくはレポート（60 %）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 田中研究室、7 号館 5 階 手代木研究室 ※ただし 2021 年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史・吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、これまでのメディアビジネスプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。このプログラムを通じてこれまでに身につけてきた知識を体系化するとともに、メディアの現場を見学したり自らメディアを企画、制作する活動を通してメディアについてより深く理解することを目指す。 ※この科目（クラス）は、メディアビジネスプログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、メディア制作の作業やプレゼンテーションを通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	1. 適当なパッケージプログラム科目を取り上げ、授業内容や担当教員を紹介するムービーを制作する。グループ単位で企画、準備、取材、編集を行う。 2. 新聞社、放送局などメディアの現場や、メディア関係のミュージアムを個人またはグループ単位で見学し、その内容を報告する。なお、その際の費用は自己負担とする。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 この授業のテーマはメディアの現場を「見ること」と自らメディアを「作ること」である。教室内での調査・討議・制作・発表に加えて、学内での取材（授業や研究室）および学外に出かけての見学も予定している。学年末には、他のプログラム演習のクラスと合同で成果発表会を行う。 【事前・事後学習課題】 事前学習として発表のための調査および資料の準備を行う。（1 時間） 事後には授業で学んだことを整理してノートにまとめる。（1 時間）																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくは制作物（60 %）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（吉村研究室） 7 号館 4 階（古矢研究室）																		
備考	報告や制作物に関するフィードバックは発表時に、学期を通じた成果に関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	塩崎 裕司, 沖中 美喜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、航空会社の現業接客部門、人事・総務部門を担当した実務経験者の教員が、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的とした授業である。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目は、「観光ホスピタリティ」プログラムの対応科目である。																		
到達目標	・キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、課題発見・解決能力、高度な情報発信能力を身につける。 ・課題のポイントをつかみ、分担する担当業務を果たす責任感、担当者間のチームワークや課題発表能力の向上を図ることで、企業説明会で主流となっているグループ面談で主導的役割を果たす力を身につけることを目標とする。																		
授業方法と留意点	対面授業で実施する。 ・本演習では、参加者を少人数のチームに分け、選ばれたテーマについて議論、報告資料作成を経て発表する。ひとつのテーマに3回程度をかけて実施、1セメスターで4つ程度のテーマを選定する。 ・1つのテーマについて、1回目は持ち寄った資料について議論、発表の方向性を決める。2回目は発表資料の作成。3回目はチーム毎の発表と質疑応答。テーマごとに役割分担を代え、履修者各々が能力を伸ばせるようにする。 ・対面授業を予定。対面が困難となった場合は Teams の各班別チャンネルで討論、研究してもらう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 本演習ではこれまで学んできた観光、航空、旅行、宿泊産業等にかかわるテーマを選定し、演習参加者で議論して報告資料を作成し発表する。 前年度のテーマ選定例（下記から3つ選定、本年度は別途提示） ①航空は新幹線にどう対抗すべきか。北陸新幹線を例に考える。 ②訪日外国人4,000万人を目指すって!、オーバーツーリズムをどうやって解消する? ③新型コロナ! 訪日外国人は当面無理。宿泊産業はどうやって日本人客を呼び込むべきか? ④中・長距離のLCC? LCCの特性を活かしつつ、あなたならどこを目的地にする? ⑤大阪関西万博を成功させるためには? ⑥海外と日本のホスピタリティの違いを考える。 ⑦魅力ある旅行計画の作成。 4回目は下記から選択したテーマについて賛成・反対の立場から発表、議論する。 ⑧民泊の是非、日本に民泊は根付くのだろうか。 ⑨IR法案、日本にカジノは必要か。 【事前、事後学習課題】 選定テーマの調査、プレゼンテーション・発表資料作成等。各演習担当者の指示に従うこと。 【事前、事後学習時間】 資料収集、発表資料や原稿の作成等総時間数は60h																		
関連科目	ホスピタリティ論、ホテルビジネス論、エアラインビジネス論等、観光ホスピタリティ・パッケージプログラム関連授業																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み(40%)、プレゼンテーション(60%)をもとに評価する。 特にグループ討論や作業が中心のため、授業参加意欲を重視する。 10回以上の出席がない場合、評価の対象とならない。 議論の積極性、チームのまとまりや発表能力等も考慮して評価する。																		
学生へのメッセージ	興味ある課題について、知りたいことや疑問点などを自分で調べて研究し、答えを見つけ出すのも大きな喜びです。 常に問題意識を持って新聞やテレビニュースなどに接してください。本演習でのグループディスカッションやプレゼンテーションなどは就職活動にも役立ちます。 パッケージプログラムの総仕上げとして、主体的、積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	7号館4階（エアライン・ホスピタリティールーム）																		
備考	プレゼンテーションに関するフィード・バックは発表時に実施します。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵, 永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、これまでのパッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※この科目（クラス）は、「外国語専門職」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 教室内での調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。 【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。（総時間数 30h）																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくはレポート（60 %）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	前期：（7 号館耐震工事のため）11 号館 11 階（10 月中旬まで） 後期：7 号館 5 階（永富研究室）、7 号館 5 階（松田研究室）																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	パッケージプログラム演習	科目名 (英文)	Package Program Practicum
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦, 加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3234a0		

授業概要・目的	本演習は、各パッケージプログラムでの学びを総括し、将来のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的としている。各演習で設定されるテーマに沿った調査・分析を通して、パッケージプログラム科目で身につけてきた知識の体系化を目指す。 ※なお、この科目（クラス）は、「国際教養」プログラム対応科目である。																		
到達目標	キャリア形成に関するビジョンを明確化・具体化するとともに、プレゼンテーションやレポート作成を通して、問題発見・解決能力、高度な情報受発信能力を身につける。																		
授業方法と留意点	演習のテーマおよび授業方法の詳細は各プログラムで設定される。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 オンラインもしくは教室で行う。初回の授業で指示する。 調査、分析、発表（討論・プレゼン・レポート作成等）が中心となるが、校外実習が含まれる場合もある。 【事前、事後学習課題】 調査・プレゼンテーション・レポート作成等。各演習担当者の指示に従うこと。（総時間数 30h）																		
関連科目	海外実習、体験型特別実習 A、体験型特別実習 B など。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションもしくはレポート（60 %）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	担当教員の豊富な実務経験を生かしながら演習をすすめます。パッケージプログラムの総仕上げです。主体的・積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	赤澤研究室（7 号館 4 階） 加来研究室（7 号館 4 階）																		
備考	プレゼンテーションに関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは第 15 回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	ホスピタリティ・インターンシップ	科目名 (英文)	Hospitality Business Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	濱岡 美衣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3235a0		

授業概要・目的	ANA 総合研究所と連携し、観光ホスピタリティプログラムの授業で学んだ内容を実践する授業です。 日本の主要航空会社のグループ航空会社で旅客サービス部門を長年にわたり担当してきた講師が、実務経験を踏まえた授業を実施します。 ホスピタリティ・インターンシップの目的は、ホスピタリティ産業において実務の体験をすることにより、 ①社会における仕事の役割・意義 ②責任とやりがい ③ホスピタリティの本質を体感することである。 ※なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。																		
到達目標	ホスピタリティ産業の現場で実務を体験することにより、仕事の厳しさ、楽しさ、やりがいなどを実感して、就業意識を高めることを目標とする。また、ここまで授業で学んできたホスピタリティの知識や感性を実際に発揮する機会を得ることである。																		
授業方法と留意点	6 月頃、対象企業、参加人数、実施日時確定後に説明会を開催。履修希望者は ES を提出。選考後、履修者発表。 (希望者多数の場合は、機会均等の観点から 2 年時に「体験型特別実習 A に参加していないものを優先する)。 8 月上旬、前期試験終了後、事前集中授業を開催(参加者は必ず受講のこと)。 8 月中下旬、各企業のインターンシップに参加。 9 月、後期授業開始前に事後授業(体験報告)を実施。 受入企業に迷惑がかかるため、受講態度、マナーの悪いものには本インターンシップへの参加を認めない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	[事前・事後授業] 下記①は 39 時間、②は 14 時間 (1) 事前授業 前期授業終了後、本学内で 2～6 回の事前集中授業を実施し、対象事業の基礎知識を習得するとともに、それぞれの目標、目的を見直し、参加にあたっての心構えを作り上げる。 (2) インターンシップ (対象企業は確定していません。下記は 2021 年度の予定企業です)。 ① ANA 関西空港グランドスタッフ業務の体験 (2～3 名) ・ANA 関西空港実務見学 1 日 (通い) ・グランドスタッフ、インターンシップ 2 日 (通い) ・対象企業 : ANA 関西空港㈱、(株)ANA 総合研究所 ② ホテル業務訓練の体験 (2～3 名) ・ホテルでの新入訓練と同等の訓練の圧縮版を体験 ・2 週間程度で実際の訓練と実務を体験 (通い) ・対象企業 : ANA クラウンプラザホテル大阪 (3) 事後授業 後期授業開始前に事後授業とし 2 コマの報告会を実施する。																		
関連科目	「観光ホスピタリティ」プログラム科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	各インターンシップとも受入企業先評価 30%、事前・事後授業の参加姿勢 30%、体験報告の内容 40%																		
学生へのメッセージ	憧れのホスピタリティ産業。 ここまで学んできた知識や感性が実際の仕事を体験する中で、どこまで通用するか実感することは今後の大きな収穫です。是非、この機会に実際の宿場にチャレンジして、自分との距離を縮めてみましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 (エアライン・ホスピタリティールーム) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になります。																		

科目名	海外インターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Internship
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3236c0		

授業概要・目的	・この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。 ・メインのインターンシップは年度末の春休みに（8日間程度）実施されるが、その前後に4回程度の授業があり、そのすべてに参加しなければならない。 ・この海外インターンシップは、将来、主に旅行・観光業界の仕事に関心がある学生に向いている。具体的には、海外（グアム）のホテルや旅行代理店での就業体験によって、ビジネスの現場の慣習、言葉遣いやマナー、そして働く人たちの職業意識などを学ぶことを主な目的とする。																		
到達目標	・海外インターンシップの体験を通して、仕事に対する興味・関心が高まるとともに、海外で働くためにはどのような能力や知識が必要なのかを理解できるようになる。 ・日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、それを仕事に活かせるような素養を身につけることができる。 ・仕事の現場で必要とされるコミュニケーション能力の基礎を身につけることができる。																		
授業方法と留意点	・海外インターンシップそのものは年度末の春休みに（8日間程度）実施され、その前後に本学内で4回程度の授業がある。 - 実習・演習科目であるため、すべての授業やインターンシップに参加しなければならない。 ・例年9月下旬頃に「事前説明会」のお知らせがポータル周知されるので注意しておくこと。（事前説明会に参加しなければ申し込みができない）																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<インターンシップ・プログラム> ・インターンシップの日程（予定）：2022年3月初旬の約8日間、グアムの近畿日本ツーリスト社の事務所または隣接するホテルのどちらか一方で（希望により事前選択）行う。 ・上記の他に、国内（近畿日本ツーリスト社の難波事務所）でのインターンシップ（2021年2月下旬の1日）、事前および事後授業（4回程度）を行う。 ・なお、2021年度の日程や参加費用などの詳細については、9月下旬に開催予定の「事前説明会」にて伝える。 - その後（10月に）参加希望者は申込（＝履修登録）をすることになる。（通常の履修申請とは異なる） ・単位を取得するためには、事前説明会、事前・事後授業、インターンシップのすべてに参加しなければならない。 <事前・事後学習課題> ・事前：旅行・観光業界に関する記事やニュースを事前にチェックし、その概要や動向を把握しておくこと。 ・事後：就業体験に基づいて、レポートを作成するとともに、事後報告を行う。 ・授業、インターンシップ、事前・事後学習の総時間数は90時間とする。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前・事後授業およびインターンシップの取り組み 70% レポート・提出物 30%																		
学生へのメッセージ	特に観光ホスピタリティや旅行業界に関心のある学生にとって、実際の現場で仕事を体験できる魅力的なプログラムです。また、就業体験を通じて、働くことに対する価値観や考え方を自分自身に問いかける良い機会になることでしょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・発表に関するフィードバックはその都度、レポート等に関するフィードバックは原則として個別にメールで送信する。																		

科目名	海外ワークキャンプ	科目名 (英文)	Overseas Work Experience
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	上田 達, 田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3237c0		

授業概要・目的	参加メンバー（履修生）との共同活動を通じ、開発途上国への理解を深め、実習先での経験との共通点、相違点を確認する。現地の人々との出会いの中から、見つけた新たな課題と、今後の関わり方について考える。 なお、この科目は、パッケージプログラム実習・演習科目の一つである。																		
到達目標	①使える語学力（英語）や、異文化コミュニケーション能力を身につける。 ②異なる社会・文化のなかで暮らし、働くための総合力を身につける。 ③フィールドでの実体験を通じて、国際知識を養い、多文化環境のもとプロジェクトを動かすスキルを修得する。 ④ボランティア、自立支援など、国内外の団体で活動ができる。																		
授業方法と留意点	履修登録学生は、オリエンテーションを行うので、必ず参加のこと。日時と教室は、ポータルにて連絡します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前教育 4 回程度（生活環境・語学・習慣等について学ぶ） 現地活動 2021 年 2 月中旬～3 月上旬の 2 週間を予定している。 履修登録時の注意事項： 履修希望者は、説明会に参加し、担当教員から、十分な説明を受けた上で履修申請を行うことが望ましい。説明を受けないで、履修申請した場合、履修を取り消すことがある。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前活動・現地活動状況・帰国後レポートを合わせて評価する。																		
学生へのメッセージ	後期に説明会を行う。説明会の日時はポータルにて一斉に周知する。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階（上田研究室） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考																			

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP2o, DP5Δ, DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3238e0		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることができる。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を高めることができる。																		
授業方法と留意点	・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される。 ・事前授業は演習形式で行う。 ・事前授業には必ず出席すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	（１）事前授業 本学内での事前授業は7回程度行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。帰国後も学習の成果を確認する報告会を設ける。 （２）海外実習 他の国や他大学から集まった受講生と一緒に実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。それも中国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。 【実習先と実習時期（予定）】 ・中国語コース（中国・上海外国語大学）（8月上旬～8月下旬）																		
関連科目	履修可能年次の専門言語科目と文化・社会科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。																		
学生へのメッセージ	慣れない海外で実習をこなすのは色々と不安がありますが、しかし、それ以上に得る物が多いと思います。																		
担当者の研究室等	7号館3階 兪研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になる。																		

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2o, DP5Δ, DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3238e0		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																		
授業方法と留意点	・不開催の可能性が高いことを予め認識しておくこと。 ・不実施の可能性大であることを認識しておくこと。また、大学や国等の判断だけでなく、自分の身の安全を第一に考えるように。 ・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される（※スペイン語コースは、春季（2月初旬～3月初旬で4週間余りとなる）の実施となる予定）。 ・履修条件として、対象となる言語について半年以上の学習歴を有することとする ・事前指導には必ず出席すること。 ・単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後になる（8・9月実施であれば後期、2・3月実施であれば前期）																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	（1）事前授業 本学内での事前授業は数回行う。渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明する。 （2）海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。また、中国語コース以外のコースはホームステイするので、ホストファミリーとの交流もその国の文化・生活習慣を学ぶ上で貴重な機会となる。 【実習先と実習時期（予定）】 ・英語コース（オーストラリア・サザンクロス大学[コフスハーバー校]）（8月中旬～9月初旬） ・中国語コース（中国・上海外国語大学）（8月上旬～8月下旬） ・スペイン語コース（スペイン・バレンシア州立アリカンテ大学）（2月初旬～3月初旬） ・インドネシア語コース（ストモ博士大学）（8月中旬～9月初旬）																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館3階 兪研究室（中国語コース）、吉村研究室（英語コース） 7号館4階 浦野研究室（インドネシア語コース） 7号館5階 安達研究室（スペイン語コース） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	参加人数が少ない場合は実施を取り止めたり、引率者をつけずに実施することがある。必ず授業担当者の指示に従うとともに、より一層、学生本人の主体性と危機管理意識が求められる。 ※スペイン語圏への短期研修として、夏期休業中にメキシコ・グアナフアト大学研修があり、これは国際交流センターが主催しています。																		

科目名	海外実習	科目名 (英文)	Overseas Studies Programs
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP2o, DP5Δ, DP7o, DP8o		
科目ナンバリング	LDL3238e0		

授業概要・目的	外国語学部では、世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施している。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地で体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的としている。																		
到達目標	日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。																		
授業方法と留意点	・履修条件として、対象となる言語について半年以上の学習歴を有することとする ・本学内での事前授業と、実習先での研修（約3週間）によって構成される。 ・事前指導には必ず出席すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	（1）事前・事後授業 本学内での事前・事後授業は6回程度行う。スケジュールは受講者確定後に周知する。 渡航に必要な手続きや所持品、安全面を中心とした注意事項（リスクマネジメント）や実習先の国・地域の社会の予備知識などをテーマに説明すると同時に、コミュニケーションに不可欠な会話能力を高めるため、毎回いくつかの課題に取り組んでいく。帰国後も学習の成果を確認するための機会を設ける。 具体的には次のような項目について指導する。 ・事前準備と諸手続について（航空券、予防接種、etc.） ・マナーについて（誤解と理解） ・留学先事情①（インドネシアでの生活にかんする情報） ・留学先事情②（スラバヤやストモ博士大学について知る） ・ホームを離れる事（各種トラブルへの対応について） （2）海外実習 実用会話を中心に学習する。教室での授業の他に、さまざまな課外アクティビティがある。 【実習先と実習時期（予定）】 ・ストモ博士大学 (Universitas Dr. Soetomo)（8月中旬～9月初旬） 【留意点】 インドネシア・マレー語圏では、海外実習についてはインドネシアとマレーシアを隔年で実施している。今年度はコロナ禍のなかで、状況を見極めながら実施の判断をするが、その際、マレーシア（バハン大学）での実施や実施時期の変更があり得ることも留意いただきたい。実施時期については、「8月中旬～9月初旬」ではなく、春休み（2月～3月）も検討候補に入れている。実施の可否については5月頃に周知する予定である。																		
関連科目	インドネシア語科目すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前授業、研修での現地講師による授業評価、全体の受講態度に基づき、担当教員が総合的に評価を行う。また、事前授業に欠席した者、受講態度・マナーの悪い者には、実習への参加および単位を認めないことがあるので、真剣に取り組むこと。 ※2015年度以降入学学生については、専門科目・パッケージプログラム科目の中の実習・演習科目として認定する。 ※2012～2014年度入学学生については、主言語科目と同一のコースに参加する場合は主言語科目として、共通言語科目のコースに参加する場合は専門科目として認定する。																		
学生へのメッセージ	今年度の「海外実習」は、コロナウィルス感染拡大に伴い、実施時期・実施方法等が変更されたり、中止となったりする場合があります。【留意点】の項目をよく読んでおいてください。																		
担当者の研究室等	7号館4階浦野研究室																		
備考	単位認定が成績に反映されるのは、実習実施の半期後（後期）になります。したがって、4年次後期参加者は卒業時までに成績登録されません。																		

科目名	体験型特別実習 A	科目名 (英文)	Experience-based Practicum A
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	沖中 美喜
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP5△		
科目ナンバリング	LDL3239a0		

授業概要・目的	観光立国を目指す日本において、エアラインの役割はますます重要となってきた。 まず、交通インフラの拠点である空港の役割を把握する。そして、航空機を運航するための機能と多様な職種の役割、協力を理解し、さらに、お客様満足「安全」「安心」「定時制」「快適性」「顧客満足」を得るための努力を理解する。 その後の空港研修により、授業で得た知識を実際の目で確認するとともに、将来の就業意識を高める。 なお、この科目は、航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員による、パッケージプログラム実習・演習科目の一つです。																		
到達目標	・エアラインの仕事の多様性を理解する。 ・空港見学により、1 機の飛行機を飛ばすために各部門がどのように連携し、どのような想いを抱いているのか感じ取る。 ・自らの将来像を描く。																		
授業方法と留意点	・本学内での事前・事後授業と中部空港研修（2 泊 3 日）による。 ・空港見学の際は、細かい身だしなみ基準に従うこと。 ※実習に参加可能な人数に制限がありますので、注意してください。（詳細は事前の説明会にて）																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前事後授業と空港研修 3 9 時間から成る。 ・説明会 ・事前授業 2 日間 ①オリエンテーションとマナー ②エアラインの現状 ③空港の役割 ④GS の仕事 ⑤グラウンドハンドリングとオペレーション ⑥CA の仕事 ・神戸・関空・伊丹の 3 空港について自主学習 ・中部空港研修（2 泊 3 日で GS の仕事を体験） ・研修報告会																		
関連科目	ホスピタリティ論 エアラインビジネス論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	小レポート 20%， 自主学習レポート 30%， 授業への参加態度 30%， プレゼンテーション 20%																		
学生へのメッセージ	空港の裏側は普段見ることができません。グラウンドスタッフや、CA がどのように働いているのか見てみませんか。ホスピタリティ産業の最前線の現場を知るいい機会です。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階（エアライン・ホスピタルプログラムルーム）																		
備考	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		

科目名	体験型特別実習 B	科目名 (英文)	Experience-based Practicum B
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3○		
科目ナンバリング	LDL3240e0		

授業概要・目的	本学部のパッケージプログラムは、学生の主体性・自主性を喚起し、将来のキャリアについて体系的に学ぶことを目的としている。この「体験型特別実習 B」科目では、学生自身が主体的に計画、参加した社会的活動についてその活動内容や成果を日誌やプレゼン、レポートの形式（授業内容の項目で詳述）で事後に報告し、審査を経て単位を取得するが認定される。ここでいう社会的活動とは、上で述べたパッケージプログラムの趣旨に合致する授業外の研究活動やインターンシップ、ボランティア活動などを指す。事後申請型の科目なので事前に履修登録は行わない。 この科目は、パッケージプログラムの実習・演習科目の一つです。																		
到達目標	事前授業によってこの科目の趣旨と評価基準を十分理解したうえで、自ら立てた活動計画に基づいて活動できる自主性、積極性の獲得を目指す。さらにその活動内容とそこで得られたものについて詳細かつ分かりやすく表現できる力をつける。																		
授業方法と留意点	学内で行われる事前授業や事後授業の実施日は追ってポータル等で案内する。単位申請の対象となるのは申請時から遡って2年以内の活動（ただし、本学在学中のものに限る）とする。また、事前授業や事後授業、単位申請の受け付け、審査、認定はすべて外国語学部が行うが、活動そのものには関与しないので、活動への申し込みや先方への問い合わせも学生自身が行い、主催団体等の規定やスケジュールに従いながら行動すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は以下の順に進める。単位申請は事前、事後すべての授業への参加を条件とする。 1. 事前授業（4月～5月） 本科目の申請対象となる活動について、必要時間数や安全面での注意事項などについて理解する。科目の趣旨や到達目標、申請方法、評価の方法や基準、事後授業のスケジュール、さらに日誌ノートの書き方などについて学ぶ。 2. 活動への参加（時期は活動によって異なる） 主催団体等の広報資料を集めるなどして、自分で活動計画を立てたうえで、活動に必要な手続きを進める。主催団体等によるガイダンスや審査を経て活動に参加することになれば、現地での滞在期間に日誌を書く。 3. 事後授業（11月上旬予定） 審査のスケジュールや方法について学び、プレゼンテーションやレポート作成作業に備える。また、日誌など単位申請に必要な文書について確認し、不備があれば指導を受ける。 4. 事後授業2（11月下旬予定） 申請者が現地で活動した内容やその成果を示す写真や映像を用いながら報告を行う。中西および数名の学部教員が審査に当たる。このあと、参加した活動の内容やそこで得られた成果をテーマとして2,000字程度のレポートを指定された締め切り日までに提出する。なお、ここでのプレゼンテーションやレポートが活動を主催する団体が求めるとは別のものであることに注意。 5. 事後授業3（2月上旬予定） プレゼンテーションやレポートの審査にあたった教員が講評を行う。																		
関連科目	体験型特別実習 A, 海外実習, 海外インターンシップなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	事前事後授業での取り組み、日誌（60%）、プレゼンテーション、レポート（40%）をもとに総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	※2021 年度後期からの現地留学はすべて中止となったため、当授業は開講されません（閉講）。 <以下、例年の当授業の内容です> ・**年度後期から英語圏（北米・オセアニア）の大学への留学が許可された学生向けの授業である。 ・留学目的や計画を明確にし、充実した留学生活が送れるように導くとともに、留学に関する様々な手続きを行っていく。 ・また、発表（プレゼン）やグループ活動を通じて、留学先の文化や生活習慣、海外生活における危機管理、異文化適応などについて理解を深め、海外生活に必要な英語表現についても学んでいく。																		
到達目標	現地での勉強や生活を円滑に行うことができる素養を身につけることができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で行うが、留学に関する様々な手続きを行うため、出席と指示に従って行動することが極めて重要である。 ※当科目の単位取得（＝海外留学許可）のためには、原則として全授業への出席を必須とする。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・発表に関するフィードバックはその都度、提出物に関するフィードバックは原則として翌週の授業内で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<内容> 大きなテーマとして以下の4つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てる。 1. 留学手続きに関すること：旅行代理業者を交えて、留学手続きを進めていく。願書の作成、ビザの取得、保険の加入など、様々な手続きを行う。 2. 留学に関する事項を理解すること：留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解する。また、留学帰国者（先輩たち）の報告会を行い、これから出発する当科目受講者に必要な情報を提供する。 3. 留学に係る英語表現を習得すること：留学先（現地）での勉強や生活を円滑に行うことができるように、必要な英語表現を学ぶ。 4. 日本の社会や文化について理解し、異文化交流ができるようになること：日本の事情について英語で説明できるようにする。 <方法> 演習形式で、ディスカッションや発表（プレゼン）なども織り交ぜながら行う。 <事前、事後学習課題> 1. 留学準備に必要なことを主体的に調べ、手続きを着実に進めていく。 2. 次回の授業内容について下調べをし、提出物や発表等の準備をする。 ・事前・事後学習に必要とされる総時間数は15時間である。																		
関連科目	エアスタディーズなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業に対する取り組む姿勢 60% 留学に関する書類を含めた提出物や課題 40% ※当科目の単位取得（＝海外留学許可）のためには、原則として全授業への出席を必須とする。																		
学生へのメッセージ	留学は、出発するまでの諸手続きにこそ重要な意味があり、将来の仕事にも必要な国際社会のルールや決まり事を学ぶことができる良い機会であることを理解してほしいと思います。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	発表に関するフィードバックはその都度、提出物に関するフィードバックは原則として翌週の授業内で行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学での授業を受けるとともに、海外での暮らしを通して、語学力や人間力に磨きをかけることを目的とします。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることが重要です。渡航までのスケジュール確認や留学提出書類の作成を進めると同時に、海外生活を送る上で必要不可欠な知識やスキルを身につけていきます。																		
到達目標	(現地の人々意思疎通を図る) コミュニケーション能力を育成しつつ、留学の準備を万全に整えます。																		
授業方法と留意点	必ず毎回の授業に出席すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. ガイダンス:本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction) - 留学準備の重要性について - 日本語メールの基本的な書き方指導 - 英語で自己紹介 (日本の授業における自己紹介ではなく、海外で自己紹介する場面を想定) 2. 経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas countries/Exchange rates) 3～4. 入学手続きなど、各種提出書類 (How to fill in English application forms) 5. 出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information) 6. 英文メールの書き方 (How to write an email in English) - 英文メールの構成 - 海外大学担当者あてに英文メールを作成 7～8. サバイバル・イングリッシュ (Survival English) 配布資料を参考に、空港や機内、寮の仲間との顔合わせ、寮の友人とのトラブル、病院、危機的状況などの場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導 9～10. 研修先事情:医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure) - 文化の差異 - マナーなど 11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ、口頭発表 (物や写真を用いて説明) - 自分について (家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など) - 日本社会・文化について 12. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Questions and Answer: Talk with returnees) - 留学先で受ける可能性のあるテストについて - 英語の様々なテストの種類について 13. 安全対策 (Measures of safety) - 保険会社からの説明 - 危機管理 14～15. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみたいこと等																		
関連科目	エアスタディーズなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発表や授業への取り組み (50%)、提出物等 (50%)																		
学生へのメッセージ	安全で充実した留学生活を送るために、しっかりと事前演習を受けてください。																		
担当者の	7号館5階 鈴木研究室																		

研究室等	
備考	発表や提出物等に関するフィードバックはその都度授業内で行います。

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学での授業を受けるとともに、海外での暮らしを通して、語学力や人間力に磨きをかけることを目的とします。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けることが重要です。渡航までのスケジュール確認や留学提出書類の作成を進めると同時に、海外生活を送る上で必要不可欠な知識やスキルを身につけていきます。																		
到達目標	（現地の人々意思疎通を図る）コミュニケーション能力を育成しつつ、留学の準備を万全に整えます。																		
授業方法と留意点	必ず毎回の授業に出席すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. ガイダンス:本講義の目的や方針などの確認 (Orientation and introduction) ・留学準備の重要性 ・日本語メールの基本的な書き方指導 ・英語で自己紹介（日本の授業における自己紹介ではなく、海外で自己紹介する場面を想定） 2. 経費・送金・換金方法 (How to make a remittance to overseas countries/Exchange rates) 3～4. 入学手続きなど、各種提出書類 (How to fill in English application forms) 5. 出入国・渡航手続き (Student's visa, airport and flight information) 6. 英文メールの書き方 (How to write an email in English) ・英文メールの構成 ・海外大学担当者あてに英文メールを作成 7～8. サバイバル・イングリッシュ (Survival English) 配布資料を参考に、空港や機内、寮の仲間との顔合わせ、寮の友人とのトラブル、病院、危機的状況などの場面を想定して、最低限必要な英語表現を指導 9～10. 研修先事情：医療・衣食・交通・余暇 (Medical system, clothes and food, traffic system, and leisure) ・文化の差異 ・マナーなど 11. 日本の社会・文化の理解と伝え方 (How to explain the Japanese society and culture) 学生による下調べ、口頭発表（物や写真を用いて説明） ・自分について（家族や自分の経験、自分の出身地の特徴など） ・日本社会・文化 12. 帰国者報告会・出発予定者との質疑応答 (Questions and Answer: Talk with returnees) ・留学先で受ける可能性のあるテスト ・英語の様々なテストの種類 13. 安全対策 (Measures of safety) ・保険会社からの説明 ・危機管理 14～15. 最終確認と総括 (Summing up final check before departure) 留学先での目標、目標達成のための計画、その他やってみたいこと等																		
関連科目	エアスタディーズなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	発表や授業への取り組み（50%）、提出物等（50%）																		
学生へのメッセージ	安全で充実した留学生活を送るために、しっかりと事前演習を受けてください。																		
担当者の	7号館5階 鈴木研究室																		

研究室等	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。
備考	発表や提出物等に関するフィードバックはその都度授業内で行います。

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 中国(北京あるいは上海)での留学はスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要と環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを紹介しながら、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全な準備をしておくのを徹底して指導する。																		
到達目標	万全な準備を整えて留学に臨むことができる。																		
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。 メモを取るのが肝心であり、毎回要点を確認してもらう。 それぞれの授業では1時間の事前学習と1時間の事後学習を必要とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える、提携校の概要と環境の紹介。 2 回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成指導。 3 回目：留学願書の作成状況を確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出（日本円）、支払上の注意事項。 4 回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について説明。 5 回目：日中文化の相違について。 6 回目：留学先の歴史と最近の情勢について。 7 回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8 回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力向上やそれ以外の留学課題を考える。 9 回目：自己紹介のプレゼン、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手方法。 1 0 回目：安全対策（外務省の事例集） 1 1 回目：医療関連の用語の中国語指導。 1 2 回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理。 1 3 回目：大使館へのビザ取得について指導、航空券の入手方法と留意点について。 1 4 回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 1 5 回目：日本文化についてのプレゼン、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目	履修可能年次の専門言語科目と文化・社会科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	提出物 70%、プレゼン 30%、。																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等備考	7 号館 3 階（兪研究室） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とする。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けると同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。北京での留学がスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要や環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを学びながら、渡航までのスケジュールの確認、大学への提出書類の作成など、留学のための万全な準備を指導する。																		
到達目標	北京での留学が円滑に進められるように万全な準備を整えるとともに、中国の文化や生活事情についても理解することができる。																		
授業方法と留意点	授業は演習形式で進める。 授業では、留学手続きも並行して行うので、指定された書類は必ず期日までに提出すること。 各回の授業には事前・事後に各1時間の学習を必要とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える。提携校の概要と環境を理解する。 2 回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成について。 3 回目：留学願書の作成状況の確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出（日本円）、支払上の注意事項。 4 回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について。 5 回目：日中文化の相違について。 6 回目：留学先の歴史や最近の情勢について。 7 回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8 回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力の向上やそのほかの課題を考える。 9 回目：自己紹介のプレゼンテーション、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手について。 10 回目：安全対策（外務省の事例集）。 11 回目：医療関連の中国語について。 12 回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理する。 13 回目：大使館でのビザ取得、航空券の入手方法と留意点について。 14 回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 15 回目：日本文化についてのプレゼンテーション、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目	中国語圏概論、エリアスタディーズ（東アジア）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（プレゼンテーションなど）60％ 提出物・課題 40％																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（小都研究室） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 中国(北京あるいは上海)での留学はスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要と環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを紹介しながら、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全な準備しておくのを徹底して指導する。																		
到達目標	万全な準備を整えて留学に臨むことができる。																		
授業方法と留意点	演習形式で授業を行う。 メモを取るのが肝心であり、毎回要点を確認してもらう。 それぞれの授業では1時間の事前学習と1時間の事後学習を必要とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える、提携校の概要と環境の紹介。 2 回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成指導。 3 回目：留学願書の作成状況を確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出（日本円）、支払上の注意事項。 4 回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について説明。 5 回目：日中文化の相違について。 6 回目：留学先の歴史と最近の情勢について。 7 回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8 回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力向上やそれ以外の留学課題を考える。 9 回目：自己紹介のプレゼン、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手方法。 1 0 回目：安全対策（外務省の事例集） 1 1 回目：医療関連の用語の中国語指導。 1 2 回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理。 1 3 回目：大使館へのビザ取得について指導、航空券の入手方法と留意点について。 1 4 回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 1 5 回目：日本文化についてのプレゼン、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目	履修可能年次の専門言語科目と文化・社会科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	提出物 70%、プレゼン 30%。																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（兪研究室）																		
備考	プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外語学留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とする。日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付けると同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。北京での留学がスムーズに行われ、実りあるものになるように、提携校の概要や環境、中国での生活上知っておくべきこと、日中文化の相違などを学びながら、渡航までのスケジュールの確認、大学への提出書類の作成など、留学のための万全な準備を指導する。																		
到達目標	北京での留学が円滑に進められるように万全な準備を整えるとともに、中国の文化や生活事情についても理解することができる。																		
授業方法と留意点	遠隔授業（オンライン型、双方向）による演習形式で授業を進める。 授業では、留学手続きも並行して行うので、指定された書類は必ず期日までに提出すること。 各回の授業には事前・事後に各1時間の学習を必要とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 回目：授業の目的を理解し、留学の意義を考える。提携校の概要と環境を理解する。 2 回目：留学手続きに関する留意点、留学願書の書類作成について。 3 回目：留学願書の作成状況の確認、単位読み替えの仕組みの説明、履修上の注意事項、授業料、宿泊料、食費などの算出（日本円）、支払上の注意事項。 4 回目：ビザ申請の流れと海外旅行保険について。 5 回目：日中文化の相違について。 6 回目：留学先の歴史や最近の情勢について。 7 回目：留学先での生活上知っておくべきこと。 8 回目：留学経験者からのアドバイスを参考に、語学力の向上やそのほかの課題を考える。 9 回目：自己紹介のプレゼンテーション、留学先での現金引き出しに使う銀行カードの入手について。 10 回目：安全対策（外務省の事例集）。 11 回目：医療関連の中国語について。 12 回目：志願大学からの中国語版の入学通知書、入学手引きを読解し、注意事項を整理する。 13 回目：大使館でのビザ取得、航空券の入手方法と留意点について。 14 回目：渡航に持っていくべきもの、用意しておくべきもの。 15 回目：日本文化についてのプレゼンテーション、出発前の諸注意、諸準備の確認。																		
関連科目	中国語圏概論、エリアスタディーズ（東アジア）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への取り組み（プレゼンテーションなど）60％ 提出物・課題 40％																		
学生へのメッセージ	中国事情や中国文化の知識をたくさん知っておきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（小都研究室）																		
備考	プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	台湾での留学が有意義なものになるよう、留学の目的を明確するとともに留学によって達成すべき目標を設定します。また、同じ中国語圏でも台湾と中国の間では政治制度や経済、文化が違うことを学ぶとともに、留学提携校がある台北市および新北市の地理概況や交通について理解を深めます。中でも日本で中国語を学ぶさいに使われる漢字と台湾で使われる漢字が違うことに慣れることに重点をおいて学びます。																		
到達目標	- 留学アクション・プランを策定することができる。 - 海外で生活する上での危機管理について十分な知識を得ることができる。 - 渡航先の国の国民性や文化、生活習慣について知識を得ることができる。 - 渡航先で出会う人々に日本の文化について中国語で説明するための基礎的な表現力を修得することができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で行い、グループ活動（グループで授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）への積極的な参加が多く求められます。 各回の授業につき 1 時間の事前学習と 1 時間の事後学習が必要です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<内容> 大きなテーマとして以下の 4 つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てます。 1. 留学手続きに関すること 留学先に留学を申請する → 留学許可書を取得する → ビザを取得する → 保険に加入する、といった大まかな流れを理解し、実際に授業の時間を利用して書類や Web への記入を行います。 2. 留学に関する事項を理解すること 留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解します。同じ中国語圏でも中国と台湾とは違う点が多いうえ、台湾の中でも受け入れ校の間で違う点があります。台湾についての基本的な情報を学ぶほか、台湾に留学したことのある先輩から経験を聞きながら留学先の事情を把握します。 3. 留学に関係する中国語を理解すること 標準中国語は中国と台湾の間でほとんど違いませんが、台湾は繁体字を使う点で、簡体字を使う中国と違いがあります。この授業では、現地での学習にスムーズに馴染めるよう繁体字に慣れることに力を入れます。また、台湾の中国語に特徴的な発音や単語についても学びます。 4. 日本について中国語で発信できるようになること プレゼンなどを通じて日本の文化や時事問題について中国語で紹介できるよう準備します。 <方法> 講義＋グループ活動（グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）など 留学アクション・プランを策定し提出します。 <事前、事後学習課題> 1. 留学の手続きを主体的に進めていく。申請に必要なことを調べます（1 時間） 2. 次の回の授業内容について、個人またはグループで下調べをし、発表の準備をします（1 時間）。																		
関連科目	エアスタディーズ（東アジア）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業貢献度（グループ・ワーク、発表等）：40% 留学アクション・プランの内容：60%																		
学生へのメッセージ	素晴らしい留学生活が実現できるように、みんなでいっしょに準備しましょう！ プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行います。																		
担当者の研究室等	中西研究室（7 号館 3 階）																		
備考	プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	中島 直嗣, 船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP1Δ, DP2Δ, DP5○, DP6○, DP7Δ, DP8Δ		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	・2022 年度前期から英語圏（北米・オセアニア）の大学への留学が許可された学生向けの授業である。 ・留学目的や計画を明確にし、充実した留学生活が送れるように導くとともに、留学に関する様々な手続きを行っていく。 ・また、発表（プレゼン）やグループ活動を通じて、留学先の文化や生活習慣、海外生活における危機管理、異文化適応などについて理解を深め、海外生活に必要な英語表現についても学んでいく。																		
到達目標	現地での勉強や生活を円滑に行うことができる素養を身につけることができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で行うが、留学に関する様々な手続きを行うため、出席と指示に従って行動することが極めて重要である。 ※当科目の単位取得（＝海外留学許可）のためには、原則として全授業への出席を必須とする。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・発表に関するフィードバックはその都度、提出物に関するフィードバックは原則として翌週の授業内で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<内容> 大きなテーマとして以下の4つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てる。 1. 留学手続きに関すること：旅行代理業者を交えて、留学手続きを進めていく。願書の作成、ビザの取得、保険の加入など、様々な手続きを行う。 2. 留学に関する事項を理解すること：留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解する。また、留学帰国者（先輩たち）の報告会を行い、これから出発する当科目受講者に必要な情報を提供する。 3. 留学に係る英語表現を習得すること：留学先（現地）での勉強や生活を円滑に行うことができるように、必要な英語表現を学ぶ。 4. 日本の社会や文化について理解し、異文化交流ができるようになること：日本の事情について英語で説明できるようにする。 <方法> 演習形式で、ディスカッションや発表（プレゼン）なども織り交ぜながら行う。 <事前、事後学習課題> 1. 留学準備に必要なことを主体的に調べ、手続きを着実に進めていく。 2. 次回の授業内容について下調べをし、提出物や発表等の準備をする。 ・事前・事後学習に必要とされる総時間数は15時間である。																		
関連科目	エリアスタディーズなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業に対する取り組む姿勢 60% 留学に関する書類を含めた提出物や課題 40% ※当科目の単位取得（＝海外留学許可）のためには、原則として全授業への出席を必須とする。																		
学生へのメッセージ	留学は、出発するまでの諸手続きにこそ重要な意味があり、将来の仕事にも必要な国際社会のルールや決まり事を学ぶことができる良い機会であることを理解してほしいと思います。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室、7号館5階 船本研究室																		
備考	発表に関するフィードバックはその都度、提出物に関するフィードバックは原則として翌週の授業内で行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	スペイン・サラゴサ大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに値する責任と義務をはじめに確認し、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等についての解説を受け、正確に理解する。そうすることで、ビザ発給申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行うことができる。スペインの歴史、文化、現代社会と政治情勢などに関する基礎知識を修得する。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する。																		
授業方法と留意点	皆出席し、遅延なくビザ発給申請に必要な書類の取得に当たること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の点について講義する。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（サラゴサ大学において留学期間中に受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ発給申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（スペイン現代事情、アラゴン州サラゴサの歴史・地理、サラゴサ大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な文法用語を含めた語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任の確認（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の継続履修、スペイン語技能検定 3 級合格、スピーチコンテスト参加等） 各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。 授業時間外の課題として配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。																		
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）を履修すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習に欠席・遅刻することなく、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（50%）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学ぼうとしたか、自己紹介は言うに及ばず日本文化の諸相についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（50%）によって評価する。取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。																		
学生へのメッセージ	自ら率先して文献、雑誌、インターネット等を通じてスペインの情報を入手し、知識を得る努力を怠らないこと。留学中の先輩や同級生と Skype 等で直接連絡を取ることを勧めます。																		
担当者の研究室等	北條研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	スペイン・サラゴサ大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を理解し、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ発給のための申請方法等についての解説を受け、正確に把握する。そうすることで、ビザ発給申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行うことができる。さらに、スペインの生活習慣、歴史、文化、現代社会と政治情勢などに関する基礎知識を修得し、自分自身と日本文化についてスペイン語で紹介できるようになる。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、留学先での教室内外で、異文化圏の人びとと積極的に意見交換ができる基本姿勢を身につける。																		
授業方法と留意点	遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に当たること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業内容は以下の通りである。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（留学期間中にサラゴサ大学において受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ発給申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（スペイン現代事情、アラゴン州サラゴサの歴史・地理、サラゴサ大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任の確認（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講を通じた継続学修、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。 授業時間外の課題として配布された文献を読みこなし、情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。																		
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）をできるだけ履修すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習に欠席・遅刻することなく、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（50%）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学ぼうとしたか、自己紹介は言うに及ばず日本文化の諸相についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（50%）によって評価する。取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。																		
学生へのメッセージ	自ら率先して文献、雑誌、インターネット等を通じてスペインの情報を入手し、知識を得る努力を怠らないこと。 留学中の先輩や同級生と Skype 等で直接連絡を取ることを勧める。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	スペインアリカンテ大学への留学予定者が、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし記憶する。各自、受講するコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を自分で確認する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行う。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備しておく。自律心と規範意識の涵養。																		
授業方法と留意点	毎回出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。注意されことを次の行動に反映させること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の点を扱う。 ・ガイダンス（学部合同のものもある） ・動機の確認、主体性について ・事前準備と諸手続きについて（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（アリカンテの歴史・地理、両大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉強と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の受講継続、スペイン語技能検定 3 級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、自ら情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	欠席・遅刻なしに、各自が自分自身のこととして、自覚的に主体的に積極的に取り組めたかどうかによって評価する（留学のための準備・手続きに対する取り組み・姿勢、発表、提出物＝100%） この出来によっては留学許可を取り消すこともある。																		
学生へのメッセージ	自分で考える、調べる、行動することが求められる。日本で自己管理（勉強においても）ができない者は、海外では生活ができない。甘えや思考のない言動は、許容されない。決して他人事のように丸投げにしたり、指示を待っているだけ、ということのないように。 個人の軽率な言動が、学部・大学といったレベルで、あるいは後輩の留学に対し、負の影響を及ぼすことについて、心に銘記すること。 留学は、現在の世界の状況、今後起こり得る予期せぬ事態に大きく左右されることを念頭に置いておくこと。																		
担当者の研究室等	安達研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	留学希望者各自の自律と規範を前提とし、手取り足取り面倒をみたりはしない。 留学中に羽目を外したり授業をさぼったり、問題を起こす者については、帰国後の単位認定を一部ないし全部行わない。 個々人の留学のために多くの人が関与・支援していることを忘れないこと。 事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	メキシコ・グアナフアト大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法を詳しく解説する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行うサポートをする。その他、メキシコの歴史、文化、メキシコ特有のスペイン語等の留学中の勉強において必要となる基礎的な知識を得る。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、メキシコについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する。																		
授業方法と留意点	・研究室にて対面で実施する。 ・すべて出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に当たること。加えて、与えられた課題に主体的に取り組み、最後まで遂行すること。 以下の点について講義する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（メキシコ現代事情、グアナフアトの歴史・地理、グアナフアト大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・メキシコの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉強と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講を通じた継続学修、スペイン語技能検定3級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 授業時間外の課題として、メキシコに関する複数の文献を読み、留学先国の情報収集を行い、探究したいテーマを見つけレポートを作成すること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。																		
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）をできるだけ1年次で履修すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	演習に欠席・遅刻することなく、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（50%）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学び、日本文化についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（50%）によって評価する。取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。																		
学生へのメッセージ	現地での生活を恐れることはありません。自ら率先して書籍、雑誌、インターネットを通じてメキシコの情報にアクセスし、知識を得る意識を持ってください。留学中の先輩や同級生と Skype 等で直接連絡を取ることを勧めます。																		
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約15時間。毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	スペインアリカンテ大学への留学予定者が、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし記憶する。各自、受講するコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を自分で確認する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行う。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、スペインについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備しておく。自律心と規範意識の涵養。																		
授業方法と留意点	対面の留学は不実施。 毎回出席し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に備えること。与えられた課題に主体的に取り組むこと。注意されことを次の行動に反映させること。オンラインによる指導となるので、連絡（確認・報告・返答）を怠らないこと。留学が再開できるかについては、状況を注視する必要があるが、現時点で非常に厳しい状況にあることを十分に把握しておくこと（中止の可能性）。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の点を扱う。 ・ガイダンス（学部合同のものもある） ・動機の確認、主体性について ・事前準備と諸手続きについて（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（アリカンテの歴史・地理、大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・スペインの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉学と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の受講継続、スペイン語技能検定 3 級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 授業時間外の課題として、配布された文献を読みこなし、自ら情報収集を行い、プレゼンの準備をすること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	欠席・遅刻なしに、各自が自分自身のこととして、自覚的に主体的に積極的に取り組めたかどうかによって評価する（留学のための準備・手続きに対する取り組み・姿勢、発表、提出物＝100%） この出来によっては留学許可を取り消すこともある。																		
学生へのメッセージ	自分で考える、調べる、行動することが求められる。日本で自己管理（勉学においても）ができない者は、海外では生活ができない。甘えや思考のない言動は、許容されない。決して他人事のように丸投げにしたり、指示を待っているだけ、ということのないように。 個人の軽率な言動が、学部・大学といったレベルで、あるいは後輩の留学に対し、負の影響を及ぼすことについて、心に銘記すること。 留学は、現在の世界の状況、今後起こり得る予期せぬ事態に大きく左右されることを念頭に置いておくこと。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室																		
備考	留学希望者各自の自律と規範を前提とし、手取り足取り面倒をみたりはしない。 留学中に羽目を外したり授業をさぼったり、問題を起こす者については、帰国後の単位認定を一部ないし全部行わない。 個々人の留学のために多くの人が関与・支援していることを忘れないこと。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 本授業は、インドネシア（ストモ博士大学）へ留学するに際して必要とされる知識、すなわち、同大学の概要と学習環境、インドネシアでの生活上知っておくべきこと、日本とインドネシアの文化の相違などを把握し、留学生活がより充実したものとなるよう展開される。また、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全なる準備を整え、留学出発へ備える。																		
到達目標	留学生活をより充実させるよう、万全な留学準備を整える。																		
授業方法と留意点	毎週、何らかの課題を出すので、それらすべてをそつなくこなすことが望まれる。また、言うまでもなく、出席は必須であり、1回でも欠席する、あるいは、こなすべき課題をしてこなかった場合など、準備が不十分であるとみなされた場合、留学許可が取り消されることになるので、十分に留意のこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各回の授業内容は基本的には以下の通りであるが、ビザ手続きの進捗状況如何によっては、一部内容が変更される場合がある。 第1回目：本授業の目的・意義を理解し、今後のスケジュールを確認する。 第2回目：ビザ手続きおよび留学に際して折衝が必要となる行政機関の概要を確認する。 第3回目：ビザ手続き書類の再確認を行う。 第4回目：「留学報告会」に参加し、留学で得られるものを確認する。 第5回目：留学先大学（ストモ博士大学）の概要を把握する。 第6回目：インドネシア語で自己紹介ができるようにすると同時に、留学先大学へ提出する個人データを作成する。 第7回目：インドネシア語運用能力の確認を行う。 第8回目：異文化理解を通じて獲得できる知見とは何なのか、について留学経験者を交えて討論する。 第9回目：留学地での生活について、特に費用面にかんする確認を行う。 第10回目：現代世界の趨勢についての理解（例えばイスラム主義に関する理解）を深める。 第11回目：留学先において「日本」を紹介できるようにする。 第12回目：危機管理ガイダンスを行う。 第13回目：留学先での生活（医療・衣食住・保険・交通・金銭管理など）について、再確認する。 第14回目：在大阪総領事館へ提出する書類の内容および留意点を再確認する。 第15回目：留学出発に際する最終確認を行う。																		
関連科目	インドネシア語科目およびインドネシアに関する講義科目（インドネシア・マレー語圏概論等）すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎週の課題をこなすなどの積極的な学習姿勢 100%																		
学生へのメッセージ	留学生活を有意義なものとするために、本授業を前向きにしっかりと受講してください。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階（浦野研究室） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	予習・復習を 15 時間以上すること。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	海外留学は、提携大学の独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言葉づかいを学び、語学力に磨きをかけることを目的とし、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。 本授業は、インドネシア（ストモ博士大学）へ留学するに際して必要とされる知識、すなわち、同大学の概要と学習環境、インドネシアでの生活上知っておくべきこと、日本とインドネシアの文化の相違などを把握し、留学生活がより充実したものとなるよう展開される。また、渡航までのスケジュールの確認、大学提出書類作成など、留学のための万全なる準備を整え、留学出発へ備える。																		
到達目標	留学生活をより充実させるよう、万全な留学準備を整える。																		
授業方法と留意点	毎週、何らかの課題を出すので、それらすべてをそつなくこなすことが望まれる。また、言うまでもなく、出席は必須であり、1回でも欠席する、あるいは、こなすべき課題をしてこなかった場合など、準備が不十分であるとみなされた場合、留学許可が取り消されることになるので、十分に留意のこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各回の授業内容は基本的には以下の通りであるが、ビザ手続きの進捗状況如何によっては、一部内容が変更される場合がある。 第1回目：本授業の目的・意義を理解し、今後のスケジュールを確認する。 第2回目：ビザ手続きおよび留学に際して折衝が必要となる行政機関の概要を確認する。 第3回目：ビザ手続き書類の再確認を行う。 第4回目：「留学報告会」に参加し、留学で得られるものを確認する。 第5回目：留学先大学（ストモ博士大学）の概要を把握する。 第6回目：インドネシア語で自己紹介ができるようにすると同時に、留学先大学へ提出する個人データを作成する。 第7回目：インドネシア語運用能力の確認を行う。 第8回目：異文化理解を通じて獲得できる知見とは何なのか、について留学経験者を交えて討論する。 第9回目：留学地での生活について、特に費用面にかんする確認を行う。 第10回目：現代世界の趨勢についての理解（例えばイスラム主義に関する理解）を深める。 第11回目：留学先において「日本」を紹介できるようにする。 第12回目：危機管理ガイダンスを行う。 第13回目：留学先での生活（医療・衣食住・保険・交通・金銭管理など）について、再確認する。 第14回目：在大阪総領事館へ提出する書類の内容および留意点を再確認する。 第15回目：留学出発に際する最終確認を行う。																		
関連科目	インドネシア語科目およびインドネシアに関する講義科目（インドネシア・マレー語圏概論等）すべて																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎週の課題をこなすなどの積極的な学習姿勢 100%																		
学生へのメッセージ	留学生活を有意義なものとするために、本授業を前向きにしっかりと受講してください。																		
担当者の研究室等	7号館4階（浦野研究室）																		
備考	予習・復習を15時間以上すること。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	マレーシア国民大学への留学予定者を対象に、ビザ取得や入学手続などを行い、出発前に必要な情報や知識を学ぶ。																		
到達目標	「留学準備という機会を通じて、マレーシア社会について理解を深めること」と「マレーシア留学をケーススタディとして異文化に暮らすことの意味について考えること」を目指す。																		
授業方法と留意点	適宜課題を出すので、主体的に取り組むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講者の持っている知識や情報、渡航経験の有無を考慮しつつ、以下の各点について講義する。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続について (ATMA での授業内容、航空券・予防接種・ビザのスケジュールリング etc.) ・マナーについて (誤解と理解) ・マレーシアを知る (マレーシア社会について解説した日本語、マレー語、英語で書かれた文章を読む) ・留学先事情① (マレーシアでの生活にかんする情報) ・留学先事情② (マレーシア国民大学について知る) ・マレー語の単語・表現について ・ホームを離れる事 (各種トラブルへの対応について) 授業時間外の課題として、課題文献の講読や既習事項の復習、図書館やネット上での情報収集、各種手続きのための書類記入や各種書類の準備などを予定している。																		
関連科目	「基礎マレー語」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み状況 (100%) から判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	マレーシア国民大学への留学予定者が、ビザ取得や入学手続など、出発前に必要な情報や知識を学ぶ。																		
到達目標	「留学準備という機会を通じて、マレーシア社会について理解を深めること」と「マレーシア留学をケーススタディとして異文化に暮らすことの意味について考えること」を目指す。																		
授業方法と留意点	適宜課題を出すので、主体的に取り組むこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講者の持っている知識や情報、渡航経験の有無を考慮しつつ、以下の各点について講義する。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続について (ATMA での授業内容、航空券・予防接種・ビザのスケジュールリング etc.) ・マナーについて (誤解と理解) ・マレーシアを知る (マレーシア社会について解説した日本語、マレー語、英語で書かれた文章を読む) ・留学先事情① (マレーシアでの生活にかんする情報) ・留学先事情② (マレーシア国民大学について知る) ・マレー語の単語・表現について ・ホームを離れる事 (各種トラブルへの対応について) 授業時間外の課題として、課題文献の講読や既習事項の復習、図書館やネット上での情報収集、各種手続きのための書類記入や各種書類の準備などを予定している。																		
関連科目	「基礎マレー語」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への取り組み状況 (100%) から判断する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室																		
備考																			

科目名	海外留学事前演習	科目名 (英文)	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	台湾での留学が有意義なものになるよう、留学の目的を明確するとともに留学によって達成すべき目標を設定します。また、同じ中国語圏でも台湾と中国の間では政治制度や経済、文化が違うことを学ぶとともに、留学提携校がある台北市および新北市の地理概況や交通について理解を深めます。中でも日本で中国語を学ぶさいに使われる漢字と台湾で使われる漢字が違うことに慣れることに重点をおいて学びます。																		
到達目標	・留学アクション・プランを策定することができる。 ・海外で生活する上での危機管理について十分な知識を得ることができる。 ・渡航先の国の国民性や文化、生活習慣について知識を得ることができる。 ・渡航先で出会う人々に日本の文化について中国語で説明するための基礎的な表現力を修得することができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で行い、グループ活動（グループで授業内容の下調べ、グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）への積極的な参加が多く求められます。 各回の授業につき 1 時間の事前学習と 1 時間の事後学習が必要です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<内容> 大きなテーマとして以下の 4 つが設定され、それぞれ数回の授業を割り当てます。 1. 留学手続きに関すること 留学先に留学を申請する → 留学許可書を取得する → ビザを取得する → 保険に加入する、といった大まかな流れを理解し、実際に授業の時間を利用して書類や Web への記入を行います。 2. 留学に関する事項を理解すること 留学先の情報、留学に際しての危機管理などを理解します。同じ中国語圏でも中国と台湾とは違う点が多いうえ、台湾の中でも受け入れ校の間で違う点があります。台湾についての基本的な情報を学ぶほか、台湾に留学したことのある先輩から経験を聞きながら留学先の事情を把握します。 3. 留学に関係する中国語を理解すること 標準中国語は中国と台湾の間でほとんど違いませんが、台湾は繁体字を使う点で、簡体字を使う中国と違いがあります。この授業では、現地での学習にスムーズに馴染めるよう繁体字に慣れることに力を入れます。また、台湾の中国語に特徴的な発音や単語についても学びます。 4. 日本について中国語で発信できるようになること プレゼンなどを通じて日本の文化や時事問題について中国語で紹介できるよう準備します。 <方法> 講義＋グループ活動（グループ・ディスカッション、グループ・プレゼンテーション）など 留学アクション・プランを策定し提出します。 <事前、事後学習課題> 1. 留学の手続きを主体的に進めていく。申請に必要なことを調べます（1 時間） 2. 次の回の授業内容について、個人またはグループで下調べをし、発表の準備をします（1 時間）。																		
関連科目	エアスタディーズ（東アジア）																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業貢献度（グループ・ワーク、発表等）：40% 留学アクション・プランの内容：60%																		
学生へのメッセージ	素晴らしい留学生活が実現できるように、みんなでいっしょに準備しましょう！																		
担当者の研究室等	中西研究室（7 号館 3 階） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	プレゼンや提出物に対して、口頭または文書でフィードバックを行います。																		

科目名	海外留学事前演習	科目名（英文）	Seminar for Study Abroad Program
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP5○, DP6○, DP7△, DP8△		
科目ナンバリング	LDL1241a0		

授業概要・目的	メキシコ・グアナフアト大学への留学予定者を対象に、摂南大学外国語学部留学制度の適用を受けるに際する責任と義務を明確にし、受講可能なコース、入学手続き、学生ビザ申請方法等を詳しく解説する。ビザ申請、海外旅行保険加入、航空券入手等を自分自身で行えるよう導く。その他、メキシコの歴史、文化、メキシコ特有のスペイン語等の留学中の勉強において必要となる基礎的な知識を得る。																		
到達目標	安全に責任感を持って有意義な留学生活を送れるよう、目的意識を明確化し、メキシコについての知識と理解を深める。同時に、日本の社会と文化についての知識を補い、スペイン語で説明できるよう準備する。																		
授業方法と留意点	すべて参加し、遅延なくビザ申請に必要な書類の取得に当たること。加えて、与えられた課題に主体的に取り組み、最後まで遂行すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の点について講義する。 ・ガイダンス ・事前準備と諸手続きについての解説（受講可能な授業の説明、入学申請手続き、学生ビザ申請手続き） ・生活習慣や守るべきマナーについて ・留学先事情（メキシコ現代事情、グアナフアトの歴史・地理、グアナフアト大学について） ・ホスト・ファミリーへのメール連絡、スペイン語による自己紹介 ・メキシコの通史、地理、世界遺産、現代政治・経済、食文化、主な祝祭、日本との関係 ・留学帰国者を招いての質疑応答 ・日本の社会・文化についての知識と伝え方 ・スペイン語による勉強と日常生活に必要な語彙・表現 ・帰国後に果たすべき責任（留学報告会、出発予定者への助言、スペイン語科目の最大限受講を通じた継続学修、スペイン語技能検定 3 級以上合格、スピーチコンテスト参加等） 授業時間外の課題として、メキシコに関する複数の文献を読み、留学先国の情報収集を行い、探究したいテーマを見つけレポートを作成すること。各種手続きに必要な書類の記入や取得はスケジュールを厳守すること。																		
関連科目	全スペイン語科目。スペイン語圏概論とエリア・スタディーズ（ラテンアメリカ）をできるだけ 1 年次で履修すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	諸手続きの指示を正確に理解し、ビザ申請までの準備を指示通り遅延なく行えたか（50%）、留学先国、大学所在都市の歴史と現況について主体的・積極的に学び、日本文化についてスペイン語で説明ができるまでの準備ができたか（50%）によって評価する。取り組み方によっては留学資格を失うこともありうる。																		
学生へのメッセージ	現地での生活を恐れることはありません。留学中の先輩や同級生と Skype 等で直接連絡を取ることを勧めます。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 15 時間。 毎回の授業の始めに、前回の学習内容に関する質問を受け付けフィードバックを行う。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」（プリントを配布する）を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的な文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	初年次ゼミナール	科目名 (英文)	First Year Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1272a0		

授業概要・目的	【概要】大学で学ぶための基本的な能力を身につける。 【目的】①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ。																		
到達目標	摂南大学で学ぶ意味を理解する。大学生が守るルールを知る。論理的文章を読み、書くことができる。最近のニュースについて話ができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】1 クラスあたり 10 数名の編成で、教材に沿って、発表や意見交換を交えて進める。また、「漢字テスト」および「時事問題テスト」(プリントを配布する)を通して、日本語の読み書きの能力を高め、社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】この授業を単位取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 第1回目：授業の目的、自己紹介 第2回目：履修登録・単位取得・GPAについて、試験について、シラバスについて 第3回目以降：内容は前後することがある。 大学生活・大学生の守るべきルールについて 摂南大学を知る（沿革、教育の特色、さまざまな施設） 3つのポリシーについて知る SmartSPI ノートの取り方 図書館の活用 メディア・リテラシー（本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点など） ポータルサイトやメールを用いた連絡の方法 レポートの書き方（パソコンによる文章作成） 環境マネジメントについて知る 大学生活の目標 海外プログラムの説明 その他 【事前・事後学習課題】 出された課題に取り組む 時事問題テストの予習・復習をする レポートを作成する																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>First Year Study Guide</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	初年次の様々な期待や不安も交換しながら、大学で教育を受けることについて基本的なことを一緒に学びましょう。																		
担当者の研究室等	各研究室（7号館3～5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回： 授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv、高橋 yig0dna、天野 t8pr6uh、有馬 y07r8fm、赤澤→吉村 se5jano、森 2i1yb4b、田中 94ob208、古矢 b79ec30、後藤 pfk1bmj、門脇 hgstcu j、小林 5hdd2u1、藤原 kbw3hxe、柏原 6rxsjkz、船本 s52ox5b、加来 67q0fyn、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回： 授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv 、高橋 yig0dna 、天野 t8pr6uh 、有馬 y07r8fm 、赤澤→吉村 se5jano 、森 2i1yb4b 、田中 94ob208 、古矢 b79ec30 、後藤 pfk1bmj 、門脇 hgstcu j 、小林 5hdd2u1 、藤原 kbw3hxe 、柏原 6rxsjkz 、船本 s52ox5b 、加来 67q0fyn 、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回： 授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv 、高橋 yig0dna 、天野 t8pr6uh 、有馬 y07r8fm 、赤澤→吉村 se5jano 、森 2i1yb4b 、田中 94ob208 、古矢 b79ec30 、後藤 pfk1bmj 、門脇 hgstcu j 、小林 5hdd2u1 、藤原 kbw3hxe 、柏原 6rxsjkz 、船本 s52ox5b 、加来 67q0fyn 、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回： 授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv、高橋 yig0dna、天野 t8pr6uh、有馬 y07r8fm、赤澤→吉村 se5jano、森 2i1yb4b、田中 94ob208、古矢 b79ec30、後藤 pfk1bmj、門脇 hgstcu j、小林 5hdd2u1、藤原 kbw3hxe、柏原 6rxsjkz、船本 s52ox5b、加来 67q0fyn、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回： 授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv 、高橋 yig0dna 、天野 t8pr6uh 、有馬 y07r8fm 、赤澤→吉村 se5jano 、森 2i1yb4b 、田中 94ob208 、古矢 b79ec30 、後藤 pfk1bmq 、門脇 hgstcu j 、小林 5hdd2u1 、藤原 kbw3hxe 、柏原 6rxsjkz 、船本 s52ox5b 、加来 67q0fyn 、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回：授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv、高橋 yig0dna、天野 t8pr6uh、有馬 y07r8fm、赤澤→吉村 se5jano、森 2i1yb4b、田中 94ob208、古矢 b79ec30、後藤 pfk1bmj、門脇 hgstcu j、小林 5hdd2u1、藤原 kbw3hxe、柏原 6rxsjkz、船本 s52ox5b、加来 67q0fyn、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回： 授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv、高橋 yig0dna、天野 t8pr6uh、有馬 y07r8fm、赤澤→吉村 se5jano、森 2i1yb4b、田中 94ob208、古矢 b79ec30、後藤 pfk1bmj、門脇 hgstcu j、小林 5hdd2u1、藤原 kbw3hxe、柏原 6rxsjkz、船本 s52ox5b、加来 67q0fyn、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回： 授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv、高橋 yig0dna、天野 t8pr6uh、有馬 y07r8fm、赤澤→吉村 se5jano、森 2i1yb4b、田中 94ob208、古矢 b79ec30、後藤 pfk1bmj、門脇 hgstcu j、小林 5hdd2u1、藤原 kbw3hxe、柏原 6rxsjkz、船本 s52ox5b、加来 67q0fyn、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第1回：授業の目的、自己紹介 第2回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv、高橋 yig0dna、天野 t8pr6uh、有馬 y07r8fm、赤澤→吉村 se5jano、森 2i1yb4b、田中 94ob208、古矢 b79ec30、後藤 pfk1bmj、門脇 hgstcu j、小林 5hdd2u1、藤原 kbw3hxe、柏原 6rxsjkz、船本 s52ox5b、加来 67q0fyn、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布) などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回：授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv、高橋 yig0dna、天野 t8pr6uh、有馬 y07r8fm、赤澤→吉村 se5jano、森 2i1yb4b、田中 94ob208、古矢 b79ec30、後藤 pfk1bmj、門脇 hgstcu j、小林 5hdd2u1、藤原 kbw3hxe、柏原 6rxsjkz、船本 s52ox5b、加来 67q0fyn、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回： 授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv 、高橋 yig0dna 、天野 t8pr6uh 、有馬 y07r8fm 、赤澤→吉村 se5jano 、森 2i1yb4b 、田中 94ob208 、古矢 b79ec30 、後藤 pfk1bmj 、門脇 hgstcu j 、小林 5hdd2u1 、藤原 kbw3hxe 、柏原 6rxsjkz 、船本 s52ox5b 、加来 67q0fyn 、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回： 授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv 、高橋 yig0dna 、天野 t8pr6uh 、有馬 y07r8fm 、赤澤→吉村 se5jano 、森 2i1yb4b 、田中 94ob208 、古矢 b79ec30 、後藤 pfk1bmq 、門脇 hgstcu j 、小林 5hdd2u1 、藤原 kbw3hxe 、柏原 6rxsjkz 、船本 s52ox5b 、加来 67q0fyn 、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」(プリントを配布) などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回：授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv、高橋 yig0dna、天野 t8pr6uh、有馬 y07r8fm、赤澤→吉村 se5jano、森 2i1yb4b、田中 94ob208、古矢 b79ec30、後藤 pfk1bmj、門脇 hgstcu j、小林 5hdd2u1、藤原 kbw3hxe、柏原 6rxsjkz、船本 s52ox5b、加来 67q0fyn、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回： 授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv、高橋 yig0dna、天野 t8pr6uh、有馬 y07r8fm、赤澤→吉村 se5jano、森 2i1yb4b、田中 94ob208、古矢 b79ec30、後藤 pfk1bmj、門脇 hgstcu j、小林 5hdd2u1、藤原 kbw3hxe、柏原 6rxsjkz、船本 s52ox5b、加来 67q0fyn、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回： 授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv、高橋 yig0dna、天野 t8pr6uh、有馬 y07r8fm、赤澤→吉村 se5jano、森 2i1yb4b、田中 94ob208、古矢 b79ec30、後藤 pfk1bmj、門脇 hgstcu j、小林 5hdd2u1、藤原 kbw3hxe、柏原 6rxsjkz、船本 s52ox5b、加来 67q0fyn、杉山																		

科目名	基礎ゼミナール	科目名（英文）	Basic Seminar
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL1273a0		

授業概要・目的	【概要】 大学生として、また社会人になるために必要な能力を身につける。 【目的】 日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力を向上させる。すなわち、「テーマに沿って調べ」「わかりやすく発表し」「意見交換をする」ことができるようにする。また、社会への関心を高める。																		
到達目標	・他者と話し合うことができる。 ・必要な情報を調べ、整理することができる。 ・わかりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	【授業方法】 1 クラス当たり 10 数名の編成で、発表や意見交換も交えて進めていく。個人またグループでテーマを設定し、成果を発表する。「時事問題テスト」（プリントを配布）などを実施し、世界情勢や社会問題に関心を持つようにする。 【留意点】 この科目の単位を取得していなければ、2 年次に進級できない。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1 回：授業の目的、自己紹介 第 2 回以降： ・本やインターネットを使う際の注意点・不正防止のための注意点について再確認する ・取り組むテーマを決める ・必要な資料を集める ・資料を作成する ・発表する ・発表内容をもとにレポートをまとめる ・環境マネジメントについて学ぶ 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・時事問題テストの予習・復習をする。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 ～ 5 階 各研究室																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Team s コード】 浅野 n9jtnsv、高橋 yig0dna、天野 t8pr6uh、有馬 y07r8fm、赤澤→吉村 se5jano、森 2i1yb4b、田中 94ob208、古矢 b79ec30、後藤 pfk1bmq、門脇 hgstcu j、小林 5hdd2u1、藤原 kbw3hxe、柏原 6rxsjkz、船本 s52ox5b、加来 67q0fyn、杉山																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	加来 奈奈
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習 I	科目名 (英文)	Second Year Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2274c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習 I」では、様々な研究の方法について知る。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	人文学的・社会的な研究を行う上での必要な研究方法の基礎について、説明することができる。またそれらの手法に基づいて、基本的な作業ができる。																		
授業方法と留意点	1 クラス当たり 10 数名の編成とし、数クラスが合同でいくつかの研究方法について、アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 第 1、2 回 クラスごとのガイダンスおよび研究について学ぶ 第 3～5、6～8、9～11、12～14 回 3 回ずつに分けて、次の研究方法を学ぶ。 ①図書館や web を使用した文献収集の方法 ②web 上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法 ③多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法 ④アンケートやインタビューなど人を対象に調査する研究の方法 第 15 回 クラスごとの総括、成果発表 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	様々な研究方法を学んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3～5 階 各研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央, 上田 達, 金子 正徳
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階（9 月 11 日～10 月第 1 週） 7 号館 3 階（10 月第 2 週以降）																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フパー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハキ dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qxh64c 、鳥居・齋藤・フパー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハキ・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フパー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹, 小都 晶子, 齋 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階（9 月 11 日～10 月第 1 週） 7 号館 3 階（10 月第 2 週以降）																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フーバー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハキ 6k603te 、 田浦・天野・柏原 3qxh64c 、鳥居・齋藤・フーバー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハキ・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フーバー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子・中西 正樹・齋 鳴蒙
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階（9 月 11 日～10 月第 1 週） 7 号館 3 階（10 月第 2 週以降）																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フーバー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハキ一 dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qxh64c 、鳥居・齋藤・フーバー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハキ一・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フーバー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹, 藤井 嘉祥, 北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階 (9 月 11 日～10 月第 1 週) 7 号館 3 階 (10 月第 2 週以降)																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フーバー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハーキー dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qxh64c 、鳥居・齋藤・フーバー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハーキー・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フーバー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史・柏原 郁子・吉村 征洋
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階（9 月 11 日～10 月第 1 週） 7 号館 3 階（10 月第 2 週以降）																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フパー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハキ dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qhx64c 、鳥居・齋藤・フパー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハキ・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フパー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子, フーパー トッド, 森 類臣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1クラス当たり10数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1～4年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み(100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館11階(9月11日～10月第1週) 7号館3階(10月第2週以降)																		
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フーパー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハキ dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qhx64c 、鳥居・齋藤・フーパー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハキ・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フーパー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子、マイケル ハーキー、松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業および課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階 (9 月 11 日～10 月第 1 週) 7 号館 3 階 (10 月第 2 週以降)																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フパー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハーキー dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qxh64c 、鳥居・齋藤・フパー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハーキー・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フパー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ, 天野 貴史, 柏原 郁子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階（9 月 11 日～10 月第 1 週） 7 号館 3 階（10 月第 2 週以降）																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フパー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハキ dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qhx64c 、鳥居・齋藤・フパー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハキ・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フパー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介, 齋藤 安以子, フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階（9 月 11 日～10 月第 1 週） 7 号館 3 階（10 月第 2 週以降）																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フーバー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハキ dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qxh64c 、鳥居・齋藤・フーバー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハキ・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フーバー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣, 高橋 真理子, 松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階（9 月 11 日～10 月第 1 週） 7 号館 3 階（10 月第 2 週以降）																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フパー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハキ dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qhx64c 、鳥居・齋藤・フパー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハキ・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フパー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーギー、天野 貴史、吉村 征洋
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階（9 月 11 日～10 月第 1 週） 7 号館 3 階（10 月第 2 週以降）																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フパー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハーギー dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qhx64c 、鳥居・齋藤・フパー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハーギー・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フパー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	森 類臣, 齋藤 安以子, 田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階（9 月 11 日～10 月第 1 週） 7 号館 3 階（10 月第 2 週以降）																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フーバー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハーキー dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qxh64c 、鳥居・齋藤・フーバー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハーキー・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フーバー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柏原 郁子・中島 直嗣・田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階（9 月 11 日～10 月第 1 週） 7 号館 3 階（10 月第 2 週以降）																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フーバー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハーキー dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qxh64c 、鳥居・齋藤・フーバー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハーキー・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フーバー・森・高橋 fz																		

科目名	基礎演習Ⅱ	科目名（英文）	Second Year Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉村 征洋・鳥居 祐介・マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL2275c0		

授業概要・目的	「基礎演習」では、外国語学部で取り組む研究について知る。 特に「基礎演習Ⅱ」では、専攻言語地域の言語・文化について、基本的な文献の扱い方や考え方を身につける。研究とはどういうものであるのかを知り、またその面白さを実感する。																		
到達目標	専攻言語地域の言語や文化について、調べ、考えることができる。																		
授業方法と留意点	専攻言語別にクラスを分け、1 クラス当たり 10 数名の編成とする。アクティブラーニング形式で学んでいく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 複数の教員が交替で担当し、専攻言語地域の言語や文化について、発表や実践を中心に進める。 【事前・事後学習課題】 ・毎回与えられた課題に取り組む。 ・発表のための資料作成・準備をする。																		
関連科目	1 ～ 4 年次の各ゼミ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 11 階（9 月 11 日～10 月第 1 週） 7 号館 3 階（10 月第 2 週以降）																		
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題や発表に対しては、授業中にフィードバックを行います。 【担当教員 Teams コード】 天野・柏原・吉村 jcod1z2 、齋藤・フパー・森 2z56rj1 、高橋・松田・ハーキー dk603te 、 田浦・天野・柏原 3qxh64c 、鳥居・齋藤・フパー 20pap01 、中島・高橋・松田 zog3iml 、 ハーキー・吉村・天野 43mt46h 、森・田浦・齋藤 bhdylly 、柏原・中島・田浦 280v7xl 、 フパー・森・高橋 fz																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。																		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。																		
授業方法と留意点	前半は各自がテーマを複数考え、みなでディスカッションしながらテーマを絞り込む。また、文献の検索方法や研究の方法論について学ぶ。後半は絞り込んだテーマについて調べ、レポートにまとめ、報告、議論する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ】 歴史、文化とは何か 文献の検索と活用方法 テーマ設定 【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミ活動への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	赤澤研究室 (7 号館 4 階) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	前期では、担当教員の指導のもと社会貢献活動などの学外活動による課題発見対処能力を高める。その活動の中で、社会問題を提起する。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確コミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 社会に貢献できる活動を実践することから、学外での活動が多い。 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べる。 計画に基づいた活動、活動発表、報告書を総合的に評価する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミ活動参加 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表力 20%で判断する。																		
学生へのメッセージ	一歩前進ではなく、半歩前進でも、前に進んだことになる。小さな成功体験の積み重ねが、エネルギーになることを実感すると、挑戦することが楽しくなります。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 浅野研究室																		
備考	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。文献はスペイン語、英語、日本語のものを精読する。全体として取り組む基本書を数冊と、各自の研究のための文献（本・資料）を併読するが、どちらも丁寧に読み、要約、発表、議論などを行って、最終的にはレポートを執筆する。																		
到達目標	読書の習慣を作る。解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																		
授業方法と留意点	Teams によるリアルタイムのオンライン授業を行う。Webfolder も用いる。 日頃から、物事について思考を巡らせること。連絡・出席を絶対に怠らないこと。 毎回、様々な文章を題材として与える。文脈や時系列、論理の筋、話の展開を意識して読むこと。 メールその他のツールを用いても課題の提出・添削を行う。課題提出や質問については、指定の方法・期限（時間帯）を守ること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、スペイン語・英語・日本語について（文法、語彙、表現）の研究、社会言語学、文化史の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられるのであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代語の文法、語彙、地域変種（～の英語、ラテンアメリカのスペイン語など） ・現代ヨーロッパの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育、ヨーロッパの複言語主義など。 ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革と言語など とにかく文章を読み、要約し、発表する。																		
関連科目	スペイン語専攻の諸科目、言語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題および授業中の発表内容の精度 100%																		
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。これらのことを日常とするように。3 分の 1 以上の欠席は落第となる。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	事前事後の総学習時間数は 6 0 時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	小説を読む習慣を身に着けるとともに、物語を通して身近な物事に興味を持つ。																		
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	文学を難しい・堅苦しいと思っていませんか。しかし文学を〈物語〉に置き換えてみるとどうでしょう。小説、映画、演劇、おとぎ話など、私たちは子どもの頃より物語と共に成長してきました。物語をとおして／物語として、物事の感じ方、社会のルール、自分のこと、他人のことを学ぶのです。だから、私たちは自分のことを話すときに、物語にして語りたくなるのです。天野ゼミでは〈物語〉を楽しむコツを学びます。コツをつかんで面白く文学を読むことができれば、きっと新しい自分が発見できることでしょう。 1. 図書館ガイダンスをおこなう 2. 読書会をする 3. レポートを書く																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3 階 天野研究室																		
備考	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	テーマ「戦後から現在に至る社会と人間の変化を「メディア」というキーワードによって読み解く ―「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」― 現代の社会は大きな変化を遂げてきた。高度成長期の未来に夢を託した時代からバブル崩壊後の先が見えない時代への移りゆきは、わずかに四半世紀のことである。 時代の変化が「新しいメディア」にもっともよく表されていることが、現代のもう一つの特徴である。例えば、テレビ、マンガ、ゲーム、インターネット (BBS, SNS) である。このゼミでは、メディアの具体的な作品や事例の分析と議論を通じて、テーマに関する理解を深めていくことを目指す。																		
到達目標	メディアの具体的な作品や事例の分析と議論を通じて、テーマに関する理解を深めていくことを目指す。 メディアと時代との結びつきについて深く洞察、検討をする力をつける。 人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を身につける。 必要な文献の蒐集と読解をする。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。 卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【テーマ・内容】 ①自分の興味のある作品、事例を持ち寄り、考察・発表とディスカッションをする。考察対象の選び方、考察・発表の進め方は、参加者と相談の上で決める。②卒業論文の作成についての指導も授業時、また、個別に行う。 【方法】 資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。 【事前事後学習課題】 発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ 30 時間。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新版 大学生のためのレポート・論文術</td><td>小笠原喜康</td><td>講談社現代新書</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション] (60%)、レポート (40%) で評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。前半は文化人類学者による調査に関する参考文献を講読する。文献の講読を通じて、人類学的なものの見方について学ぶ。後半は受講者自身による調査主題の設定に当てる。相互のディスカッションを通じて人類学的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。																		
到達目標	適切な調査テーマを設定するとともに、そのアプローチの仕方を知る。																		
授業方法と留意点	前半は文化人類学に関する文献講読を行う。毎回の授業では文献に関する内容の理解を問う。 後半はディスカッション等に当てる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「人類学的に調べる」が本演習の主題である。文献講読と相互のディスカッションが中心になる。発表担当者は文献の内容について 30 分程度で報告をする。コメント担当者は 5 分程度のコメントが求められる。聴衆は発表についての質問をすることが求められる。いずれの役割を担うにしても、ゼミの時間を有意義に使うために、授業の前後には指定された文献を精読しておくこと。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	発言や質問など、演習への主体的な取り組み (20%)、課題 (50%)、口頭発表 (30%) に基づいて行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 (上田研究室) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	レポート等の提出課題は評価を記して返却する。 総学修時間数は 6 0 時間。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2 年次までに培った基礎力をもとに、自身に取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとしたい。具体的には、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究手法や考え方を体得する。																		
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、日頃のゼミ活動を通してゼミ内外の人びとと接することを通じ、「気づき」「目くばり」「心くばり」ができる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的な環境を作っていくよう努力すること。 なお、7 月に行われる 4 年ゼミ生による「卒業論文中間発表会」への参加を必須としている。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ①研究方法論（研究テーマの設定法、文献資料の収集法、学術研究論文の構成や論理、研究発表や研究討論の進め方等）についての解説を行う。 ②受講生各自が関心をもつテーマについて、それがテーマとなり得るか否かを全員で討論し、各自がテーマの絞り込み作業を行う。 【事前、事後学習課題】 自身の関心のあるテーマについて、事前学習をすること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2021—</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>2</td><td>浦野ゼミの手引き—「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）—</td><td>浦野ゼミ</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2021—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミの手引き—「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）—	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2021—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミの手引き—「卒業論文」を仕上げるまでの過程（タイムスケジュール）—	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
評価方法（基準）	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、討論への積極的な参加状況（50%）、レポートの内容（50%）により、総合的に判断します。 なお、1 回目の授業で、今後のスケジュールや参考文献資料を記した小冊子（「参考書」欄に記載）を配布し、ガイダンスを行います。																		
学生へのメッセージ	「研究する」という行為は、実はとてもワクワクし、楽しいものです。大学生であることを自覚し、「研究」に勤めましょう。																		
担当者の研究室等	浦野研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	事前事後学修時間数の目安は 60 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	この演習では経済発展の仕組みを学ぶ。世界経済の構造、動向、企業間関係、企業行動、多様な商品のサプライチェーンについてバリュー・チェーンの視角から検討し、世界に分散する生産ネットワークの発展とそれが生み出す社会問題に焦点を当てて学ぶ。世界経済を考察する思考力を養うとともに、文献検索、論文読解、資料調査の手法を体得することを目的とする。 なおこの演習はグループディスカッションとプレゼンテーションを中心に展開する。発言力、議論の調整力、意見の集約力を向上させることが求められる。																		
到達目標	・経済発展の仕組みを説明できる。 ・ディスカッションのために情報収集することができ、かつディスカッションにおいて意欲的に発言することができる。 ・多様な意見を調整し、グループ（あるいは個人）としての結論を導くことができる。																		
授業方法と留意点	・原則対面で行います。 ・文献から経済発展の理論的・実証的知識を得て、その知識をディスカッションのなかで応用し、自らの言葉で発言することによって理解を深めていく。 ・学期後半には卒論の構想にも着手する。研究手法、データの収集と分析、論文の技法といった技術面の解説も加える。 ・学期中にレポート課題を課す。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	[授業テーマ・内容・方法] ①経済発展の文献の輪読、発表、議論。 ②ディスカッションとプレゼンテーションの技法 ③研究の方法（研究課題の設定の仕方、文献収集） [事前事後学習課題] 輪読、発表の準備等、随時授業にて指示する。 各自の研究の進捗状況について、学期中 1 回レポートを課す。 事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>開発経済学入門</td><td>戸堂康之</td><td>新世社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>マイケル・ポーターの競争戦略</td><td>ジョアン・マグリッタ</td><td>早川書房</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開発経済学入門	戸堂康之	新世社	2	マイケル・ポーターの競争戦略	ジョアン・マグリッタ	早川書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	開発経済学入門	戸堂康之	新世社																
2	マイケル・ポーターの競争戦略	ジョアン・マグリッタ	早川書房																
3																			
評価方法（基準）	・ディスカッションと発表の質（討論の内容、発表の内容） 50% ・発言等のゼミへの参加意欲 30% ・レポートの内容（論点の絞り込みと論の展開） 20%																		
学生へのメッセージ	どんな些細な意見でもかまわないので、まずはしっかりと発言すること、他人の言葉をしっかりと聞くことを強く意識してください。2 年間さらにはその先もこだわり続けられるテーマを見つけてください。																		
担当者の研究室等	11 号館スカイラウンジ 藤井研究室																		
備考	・資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後学習の総学修時間数は 60 時間 ・ディスカッションとプレゼンテーションへのフィードバックは授業中に、レポートに対するフィードバックは 15 回目の授業のなかで実施する。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。		
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。		
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語学演習 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への積極性 50% 授業での発言 20% 課題 30%		
学生へのメッセージ	これから 2 年間、一緒に頑張っていきましょう。		
担当者の研究室等	後藤研究室 (7 号館 5 階) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	・資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 ・グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。																		
到達目標	・多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身に着ける。 ・想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。																		
授業方法と留意点	・実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 ・新聞やニュースの記事（日本語・英語）、本などを用いて、調査・発表・議論をします。 ・いずれもスピードが要求されるので、毎回の授業に全力で取り組んでください。 昨年よりも攻めの姿勢で、自分にできることを探して過ごしましょう。日々、社会の情報を多角的に捉える練習ができます。まずは健康と安全な気持ちで。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、英術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 今年のテーマは「文学と映画」です。 なんとなく観ておもしろい、を超えた分析をできるように、いくつかの作品を例に文献を読んだりディスカッションしたりします。予習で映像をじっくり観ること、を指定する週もあります。 また、学期中に複数回、ビブリオバトルを行います。おもしろい本をたくさん読んで準備してください。 【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接現場に行つて調べたり、インターネットとは違う情報源を探してみましょう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>プリント教材</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント教材			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	プリント教材																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業にて紹介します</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業にて紹介します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業にて紹介します																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	・授業での協働作業 30% ・プレゼンテーション 30% ・レポート 40%																		
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	担当者の専門：文体分析・言語教育のための教材制作・教員養成・通訳/翻訳・舞台や学会の裏方 ほか 事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。		
到達目標	・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 (これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。)		
授業方法と留意点	フィールドワークで外国人観光客が多く訪れる場所に何回か調査に出ます。例えば、インタビューや質問紙 (調査)、観光地における英語の調査のため、京都などへ出向きます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・ (人間の) 言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・ アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・ なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか (どのような違いがあるのか) 等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミおよび課題への取り組み (100%)		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室		
備考	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	【授業概要・目的・到達目標】 外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。 *日本語学習者の言語習得 *日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析 *外国人との接触場面での異文化間コミュニケーション *海外における日本語教育 *在住外国人や留学生に関すること 等々です。 海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。																		
到達目標	*専門的な知識を得る。 *文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。 *テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。 *アカデミックライティングのスキルを身につける。 *ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 *卒業研究のテーマの設定を行う。																		
授業方法と留意点	【授業方法と留意点】 前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、4年時の卒業研究につなげていく。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 毎回担当者を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。発表後は、内容についてディスカッションを行う。 【事前事後学習課題】（毎回 1.5H） 授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。 授業後に考察した内容についてレポートを書く。 ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。 学期末には、コメントを参考に再度レポートを加筆修正して提出する。																		
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>文献資料、プリントを配布する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	文献資料、プリントを配布する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	文献資料、プリントを配布する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業で指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業で指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業で指示する																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への参加度 (10%)、発表及びその他課題 (30%)、レポート (60%) によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれらの基になっているのは言語（日本語）です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人（日本語を母語としない人）に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語や日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。課外ゼミでは、様々な日本語教育機関を訪問し、外国人学習者と交流します。																		
担当者の研究室等	11 号館 11 階																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	(1st term) Theme: Australian culture We will look at different cultural aspects in Australia, famous places to visit, multiculturalism and the differences in English in Australia compared to the UK, New Zealand, Canada and the US, as well the political system there for an overview of the country compared to Japan.																		
到達目標	Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	(First term) We will concentrate on Australian culture topics, and building up reading skills in the first term from newspaper articles and the textbook. Youtube (Ted talks) will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis topics will be decided towards the end of this term, with research in the library encouraged. Reading books in English for pleasure is a core part of the seminar class, to build up the 4 skills. Online reading, borrowing books from the library, and reading everyday is an essential part of your time outside class time. Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic including tourism, travel, hospitality, Australian culture, and World Englishes.																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>English for International Tourism</td><td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td><td>Pearson</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Basic steps to writing research papers</td><td>Kluge and Taylor</td><td>Cengage</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ON-TIME attendance, oral presentations, reading books for pleasure in English, writing and research for thesis research will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to read, join t																		
学生へのメッセージ	English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of making mistakes in English. It is part of the learning process. Just keep on tr																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 田浦研究室 (Building 7, 5th floor, Koala poster on the door) ONLINE from home 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	事前事後の総学習時間数は 6 0 時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。 第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」(データ・資料)を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。																		
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	原則として隔週で発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。 発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。 【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.04.16) ・大学の方針に基づいて原則対面を継続しますが、状況によっては Teams を利用して遠隔で実施する可能性もあります。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点(発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等) 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 田中研究室 ※ただし 2021 年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。																		
備考	事前事後学習時間は、総計で 60 時間を目安とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマを各自が設定し、テーマについて関心を深めていく作業を行います。																		
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける																		
授業方法と留意点	研究を遂行していくための基礎（研究手法・ルール・コツ等）についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ 【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は 6 0 時間以上を目安とする。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への参加状況（議論での積極性等）（50％）と、種々のアウトプット（プレゼンテーションの内容、レポート等）（50％）によって評価する																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 手代木研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業研究レポートを書くゼミです。各自、3 年次終了時点で合計 12000 字(40 字 x30 行で 10 ページ)以上のレポートを書くことを目標にします。4 年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポートを卒業研究レポートに発展させることを目指します。 各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。																		
到達目標	前期のうちに、アメリカ合衆国についての基礎的な知識を増やし、各自の卒業研究の仮テーマを決め、資料を読み、文章を書く練習を始める。小さなレポートをいくつか積み重ね、合計で少なくとも 6000 字以上を提出する。																		
授業方法と留意点	・最初の数週間は、全員で共通の資料を読み、アメリカ社会についての共通の理解事項を作ります。その後は、各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。 ・毎週文書を PC で作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PC の基本操作は必須であり、自分の PC を所有しているか、好きな時に使える PC を学内および自宅に確保しておく必要があります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミ活動への貢献(50%)+複数の小レポートの総量と質(50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってくださいと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室 (前期中は耐震工事のため、11 号館 11 階に仮研究室が用意される予定)																		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2 年次までに培った修学上の基礎力や学術的な関心に基づいて、ビジネス論やマーケティング論を中心に具体的な事例とともに研究していく。また、それに基づいて、後期の文化演習Ⅱにつながるような各自の研究テーマを見つけてほしい。																		
到達目標	主にビジネスの観点から国際社会や異文化に関する理解を深め、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を身につけることができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で、文献・資料の読解、調査に基づく議論、レポートの作成などを行う。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・新聞・雑誌・ニュース等の最新記事を研究資料として利用する。 ・課題等については、原則として提出した翌週の授業でフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・(国際) ビジネスや (グローバル) マーケティングの領域を中心にテーマを設定し、事例に基づいて考察する。 ・文献・資料を調べ、客観的に分析する。 ・グループディスカッションや発表 (プレゼン) などを行いながら、メンバーとの議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていく。 【事前学習】 各自の研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理しておくこと。 【事後学習】 授業時の指導内容に基づいて、調査や分析を行い、理解と考察を深めること。 ・事前・事後学習の総時間数は 60 時間とする。																		
関連科目	パッケージプログラム「国際ビジネス」の科目など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて授業中に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて授業中に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて授業中に指示する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて授業中に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて授業中に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて授業中に指示する。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢 50% レポートなどの提出物 50%																		
学生へのメッセージ	明朗で、行動力と協調性のある学生の育成を目指します。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 中島研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	事前事後学習時間数の目安は 60 時間。課題やレポートに関するフィードバックは原則として翌週の授業で行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	当ゼミでは外国語の情報が少ない場所を選んで調査し、その情報を日本語と外国語で発信する。またそれには何の方法が有効かを考察する。現在はブログを利用している。主な作業は事前調査→現地取材→素材の整理→日・英・中 3 言語によるブログ掲載である。		
到達目標	自ら作成した観光案内をわかりやすい外国語に翻訳し、さらにそれを発表することができる。京都、大阪、奈良など関西の地理や歴史を外国人に紹介することができる。		
授業方法と留意点	演習形式で授業を進めながら、その成果を観光情報をブログで配信する。新型コロナの感染が収束して安全にグループによる活動ができる状態であればゼミ全体または小グループで調査、取材に出かける。現地へ行く前には事前調査、現地へ行ったあとには情報の整理、日本語文による記事の執筆、外国語への翻訳、ブログの編集などの作業を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	現地調査においては、調査先での解説板など文字資料の記録、写真撮影、インタビューを課題とする。調査を行う度にその内容を報告する。授業前、授業後には計 1 時間程度をかけて調査報告の作成を行う。		
関連科目	専攻する言語の外国語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業および課題への取り組み (60%)、ブログ執筆への貢献度 (40%) をもとに総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	中西研究室 (7 号館 3 階) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	総学修時間数は 60 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西川 真由美
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	本授業を受けることによって、コミュニケーションとは何かを理論的に学ぶことができます。さらに、テキストを正確に読み、理解し、それについて多面的に考察し、自分の意見を述べるできるようになります。実際に何度も練習を行うことによって、コミュニケーション能力を高めることもできるようになります。																		
授業方法と留意点	毎回課題を出します。課題を通して参加者全員が予習範囲のテキストをしっかりと読んで理解して授業に臨んでください。コミュニケーションな方法だけでなく、その内容が大事です。日ごろから情報や知識の獲得も心がけてください。英語の文献も読みますので予習をしてきてください。毎回、スピーチをしてもらいますので準備をしてきてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 コミュニケーションの取り方を理論的・実践的に学びます。最も大切なのは、相手の気持ちに配慮し、伝えたいことを正しくきっちり伝えることです。 そのためには何度も練習しなければなりません。 そこで、読んで考え、聞いて話すことを繰り返し行うことが決定的に重要になります。 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>グローバルコミュニケーション学入門</td><td>中西のりこ 他 他</td><td>三省堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グローバルコミュニケーション学入門	中西のりこ 他 他	三省堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グローバルコミュニケーション学入門	中西のりこ 他 他	三省堂																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 40%、 課題・発表 30%、 期末レポート 30%																		
学生へのメッセージ	失敗しながらも楽しくコミュニケーションを学びましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階西川研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	事前事後の総学習時間数は 60 時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 日本文化や日本語など、「日本」について見つめ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。																		
到達目標	他人の意見に耳を傾け、それに対する意見を発信できる。 他者と強調しながら、課題解決に向けて議論できる。 自分の意見を述べ、考えを整理できる。																		
授業方法と留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。 事前事後学習時間の目安は 60 時間。																		
関連科目	文化演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点 (報告内容、参加態度、課題) 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	発表や提出物はすぐにフィードバックします。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas and to write academic papers in English. Additionally, students will learn how ideas are communicated through visual images and symbols, and will be able to apply this knowledge by working on practical projects.																		
到達目標	These are the goals for this course. You will: Improve your reading stamina and comprehension. Improve your note taking skills. Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. Actively discuss your ideas.																		
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. Each week will feature a different aspect of comics. These topics will be discussed in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that reveal new ways of approaching the material.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comic creators use words and images to communicate meaning. Week 1: Seminar Introduction Week 2: Describing Characters Week 3: Describing Narrative Week 4: Lettering and Word Balloons Week 5: Use of Line Week 6: Use of Color Week 7: Symbols and Sound Effects Week 8: Panel Layout Week 9: Poster Project Week 10: Poster Project Week 11: Poster Project Week 12: Poster Project Week 13: Presentation Project Week 14: Presentation Project Week 15: Presentation Project																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	Presentation 20% Poster 20% Short Writing 15% Weekly Quiz 15% Worksheets 15% Participation 15%																		
学生へのメッセージ	There is no textbook for this course. However, you will be asked to purchase a comic during the course. It will cost around 2000 yen. All other reading materials will be provided by the teacher.																		
担当者の研究室等	Building 11, 11th Floor, フーバー研究室																		
備考	総学修時間数は 60 時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	マイノリティと人権をキーワードに、ジェンダー、移民、多様性などの観点から基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジュメの書き方、論文執筆の基本ルールなどを指導する。																		
到達目標	基本文献を精読していきながら、卒業研究レポートで取り組みたいテーマを徐々に絞り込んでいく。																		
授業方法と留意点	・指定図書を入手し、指定された範囲についてのレポートを、指定された形式で期日までに提出すること。 ・さらに深く調べてわかったこと（レポートに書くべき事項に含む）や考察をもとに、議論の機会を設ける。そこでの積極的な発表を行うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 マイノリティ、人権、多様性の包摂、グローバル市民社会 基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジュメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。 学期に 2 冊、年間 4 冊は基本的な共通文献を読む。 【事前事後学習課題】 文献を熟読し、そこから論点と疑問点を抽出し、さらに深く調べたり自分の考えを練り文章化する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	レポートへの取り組み・提出状況 (40%)、レポートの内容と質 (30%)、議論への参加 (30%)																		
学生へのメッセージ	専攻言語の力を伸ばし続けることはもちろん重要ですが、日本語での読解力と論理的な文章構成力を高めることが大切です。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	授業中に出された課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること (総時間数は 60 時間)。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	マイケル ハーギー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad or who plan on doing so in the future.		
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.		
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is academic English. Students will read articles from a variety of academic disciplines and focus on the relevant grammar and vocabulary. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	Building 7 3F Herke's office. 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	Please bring a dictionary. 総学修時間数は 6 0 時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱う分野は、文学、ことわざ&イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。 また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリーを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。																		
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で 5 万語、経験者で 10 万語を目標とします。																		
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれません。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題準備 20%、発表 30%、理解度チェック%、多読 20%																		
学生へのメッセージ	絵本や本、映画などを通して、ことばのみならずその背景にある文化や歴史を楽しく学んでもらえればと思います。「やるときはやる！」ゼミですので、みなさんの頑張りに期待しています。 ★Teams で連絡をします。																		
担当者の研究室等	前期：7 号館耐震工事のため) 11 号館 11 階																		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	いままで培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択し、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を体得する。																		
到達目標	外国語の能力を高め、異文化への理解を深めることは外国語学部の学生にとって大変重要なことである。学生の希望により、言語文化、あるいは外国の風俗、習慣、思考様式などを課題とする。言語文化や海外文化の特徴などを研究することによって、文化知識、外国語表現力を涵養し、学習力、思考力を養い、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養い、同時に研究能力を身に付けることができる。																		
授業方法と留意点	教員から与えられた課題、あるいは各自決めたテーマについて、収集した資料などを持ち寄り、それらを画面共有で提示しながら、他のゼミ生や指導教員に説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【テーマ】：①語彙研究、②言語文化の研究、③文化研究 各授業において、前回は課題と内容を決め、必要に応じて調査した資料を提示する。次回は前課題をめぐって検討をする。 【事前事後学習課題】 指示に従って、文献・インターネット等で内容を調べて来ること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>日・中・英言語文化事典</td><td>赤祖父哲二ほか</td><td>マクミラン ランゲージハウス</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日・中・英言語文化事典	赤祖父哲二ほか	マクミラン ランゲージハウス	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	日・中・英言語文化事典	赤祖父哲二ほか	マクミラン ランゲージハウス																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	プレゼン 30%、課題提出 70%。																		
学生へのメッセージ	もっと知りたいという好奇心を持ちましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 (兪研究室) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	事前・事後学習の総時間を 60 時間とする。課題提出等に対し、添削指導、フィードバックを行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	対象とする国／地域の社会や文化について、それぞれがテーマを設定し、調査、分析、発表するための基礎的な方法を学びます。また授業外での調査を通して、その方法を実践します。																		
到達目標	自ら課題を設定し、それを調査、分析、発表するための基礎的な力を習得する。																		
授業方法と留意点	文献講読を通して、テーマの設定、文献収集、インターネットの利用、フィールド調査、研究発表など、研究を進めるための方法を学ぶ。またそれぞれが関心のある国／地域をとりあげてテーマを設定し、発表、討論する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 対象とする国／地域の社会・文化に関する文献を講読する。 各自が関心をもっている事柄について文献リストおよびレビューを作成し、発表する。 【事前事後学習】 課題文献をしっかりと読む。 発表のための資料作成・準備をする。 レポートを作成する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への貢献 (50%)、発表・レポート (50%) によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	【いかにイメージとテキストを対話させるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）を浮き彫りにすることを目指す。																		
到達目標	【以下の 2 つの技術を習得する】 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法																		
授業方法と留意点	【ゼミ生が主体で進める】 1. 各自のテーマに関連するテキストを読解、発表する。 2. その報告に対して質問する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【イメージ論と向き合う】 1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. それに対して他の学生は質問する。 4. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	【質問も重視される】 1. 発表内容 [40%] 2. 質問内容 [40%] 3. その他課題 [20%]																		
学生へのメッセージ	【より良い質問をめざす】 1. より良い質問をするために、ゼミに集中できるコンディションを整える。 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 杉山研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	【イメージを見ている自分を自覚する】 1. 事前事後に学修時間計 60 時間を予定している。 2. 日々接するさまざまなイメージを漠然と見るのではなく、それを見ている自分が感じる印象について自覚的になる。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	ゼミ雑誌、ゼミ映像作品を制作する。 「メディア」を通じて文化やコミュニケーションを考察する。																		
到達目標	①メディアと文化・コミュニケーションに対する研究方法を学び、知識を得る ②プレゼンテーションやディスカッション、レポート作成の技術を学ぶ ③各自の関心に基づき、卒業研究のテーマを見つける ④ゼミを通じてチームワークを行う力を高める ⑤ゼミ雑誌、ゼミ映像作品を制作する																		
授業方法と留意点	〔授業方法〕 ・課題への取り組み（調査・考察、プレゼンテーション、ディスカッション等）を中心に進める ・教室外でのフィールドワーク、ゼミ雑誌制作、ゼミ映像作品制作などのアクティブラーニングを行う ・課題に取り組む 〔留意点〕 発表には相応の準備時間が必要になるため、計画的に進めること。ゼミ生同士で協力し合うことが望ましい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	〔授業テーマ・内容・方法〕 主要なマスメディアをとりあげ、その特徴や歴史について調査・考察し、発表・質疑応答を行う。 雑誌の制作や映像作品の制作に取り組むことにより、情報や文化の発信・受信を体験する。 〔事前事後の学習課題〕 発表の準備、発表後の再調査・再考察、レポート作成など。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点（課題、発表、発言、積極性・協調性） 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階（古矢研究室） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	2 年次までに培った基礎力と関心をもとに、国際語としての英語・英語教育に関する様々なトピックについて、知識を深めて考え、文献やデータを調べてまとめ、発表することを目的とする。		
到達目標	グローバル社会において、英語が様々な地域においてどのように学ばれ、どのように使われているかを理解する。 第二言語習得・英語教育の基礎理論について理解する。 国際語としての英語について理解し、自らの英語スキルをさらに向上させる。		
授業方法と留意点	自らの関心に基づき、授業に積極的・主体的に参加することを求める。		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	テーマは国際語としての英語・英語教育である。 文化演習 I では主に第二言語習得、世界での英語使用状況や英語教育の現状に焦点をあてる予定である。理論や実践について学ぶとともに、それに基づき、履修生自身の英語スキルが高められるよう、授業内で様々なアクティビティを行う。同時に、関心をもったトピックについて、自らさらに調べてまとめて担当回に発表してもらう。授業計画については、学生の希望をもとに変更する可能性がある。事前・事後学習課題は、担当者から指定された文献を読むことや選んだトピックについて調べるなどが含まれる。授業外での学習時間は 60 時間程度である。参考文献は随時、授業内で紹介する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加 50% 担当回の発表 50%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	日本のポピュラー音楽は、欧米の音楽文化や、アメリカのポピュラー音楽から多大な影響を受けてきました。この状況を日本のアメリカ化や、西洋化と表現するジャーナリストや学者も多くいます。実際、日本の社会や文化における欧米の影響が強いことは疑いありません。しかし、欧米の影響に焦点を当てるばかりに、洋楽を通して再生産されてきた日本国内における人種、ジェンダー、セクシュアリティ、階級に関する不平等や、洋楽を介した日本と東アジア諸国の交流は、十分に明らかにされてこなかったとも言えるでしょう。そこで、本ゼミでは、日本における洋楽（クラシック音楽や、洋楽に強く影響を受けた日本人アーティストの音楽を含む）を通してわたしたちはどのような日本の社会や文化、人種、ジェンダー、階級、アジアとの関係を作り出してきたかを考察します。また、これらを踏まえ、日本の社会や文化の発信をより平等かつ、グローバルなものへと導くような音楽作品、音楽ジャーナリズム、ファンのあり方はどのようなものかを一緒に考えます。 本授業では、日本のポピュラー音楽について書かれた学術書や論文を皆で読み、取り扱われている音楽やミュージックビデオも視聴し、音楽研究における様々な方法論や、従来の議論、研究されてきた具体的なトピックを把握します。そのうえで、前期終了までに各自のテーマと方法論を決定します。																		
到達目標	1：日本におけるポピュラー音楽研究の主な方法論や、議論を把握することができる。 2：卒業レポートに向けてのテーマを決定し、大体的方法論を考えることができる。																		
授業方法と留意点	発表などで成り立つ授業なので、なるべく休まないように積極的に参加してください。また音楽体験なども毎週共有しますので、自らの音楽生活に注意を払ってください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業 13 回もしくは 14 回目くらいまでは、ポピュラー音楽研究に関する文献をほぼ毎週読み込み、発表します。その上で、扱われている音楽作品を視聴したり、フィールドワークに行くことができれば行き、参与観察などの方法も学ぶ可能性があります。 授業の最後の 2 から 3 回で卒業レポートのテーマをゼミの学生さんと共有し、方法論、枠組みなどを話し合います。 文献発表の担当ではない人にも対応する質問を課題として出しますので、課題書籍、論文に関しては必ず目を通してください。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『初回授業で伝えます』</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『初回授業で伝えます』</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点（文献発表、出席、積極性など） 40% 最終レポート・発表（卒業レポートのテーマ） 60%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階永富研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	主として人文地理学を中心に、関連分野の研究方法を実践を通じて身に付けることを目的とする。受講生自らが関心を持つ対象について、空間・地域・環境にかかわる視点からアプローチする技能を養う。																		
到達目標	主に人文地理学の分野における研究を遂行するために必要な基礎的スキルを習得すること。すなわち、意義のある問いを立てること、文献の収集・読解・整理、データの収集・分析、論理的に議論を組み立てること、文章作成、口頭発表の能力である。																		
授業方法と留意点	論文作成に必要なさまざまな方法や手順について担当教員がレクチャーを行ったのち、受講生がそれを実践し、成果物を提出する。また、各回の内容に応じた課題に取り組んでもらう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	◆授業テーマ：都市圏における諸問題へのアプローチ ・授業前半（第1～8回）では、論文探索法、基本的な資料の紹介、調査法、分析ソフトの利用法などの基礎的スキルを養う。 ・授業後半（第9～15回）では、現代の都市における諸問題について、実際に自ら問いを設定してレポートを作成する。 ◆内容、方法 1) 問いの設定……テーマ設定の過程・方法。 2) 文献読解……問いに関連する論文・書籍等の探索・収集・読解・整理。 3) データ収集・分析……文献資料や統計データの扱い方、調査の方法と実践。 4) 文章作成……論文の骨子を作ることと、文章作成法。 5) 口頭発表……スライドショーを用いた発表とディスカッションの実践。 ◆事前・事後学習課題 授業時間における作業に取り組むだけで研究に必要なスキルを身に付けることはできない。教員が提示した課題に積極的に取り組むことのほか、自主的に文献の読解や興味あるテーマの探索、関連情報の収集を行う必要があることに注意してください。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	最終報告およびレポートの水準 60%、授業への積極性 40%																		
学生へのメッセージ	授業外でも常日頃から努力し、情報収集、問題意識の明確化、技能の磨き上げを行ってください。																		
担当者の研究室等	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習 I	科目名 (英文)	Cultural Studies Seminar I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3276c0		

授業概要・目的	心理統計を使用して、様々なテーマについて分析します。 特に言語に関するテーマを扱います。																		
到達目標	・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 ・心理統計の手法を利用したデータ分析能力の基礎を身につけることをめざします																		
授業方法と留意点	文献を読んで、内容を発表してもらいます この授業は対面形式で実施します																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	心理統計の手法を使って、データを分析します。 授業中に読んだ文献や教科書についての復習を通じて、ごく基礎的な心理統計の使い方を身につけるください																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>統計嫌いのための心理統計の本:統計のキホンと統計手法の選び方</td><td>白井 祐浩</td><td>創元社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	統計嫌いのための心理統計の本:統計のキホンと統計手法の選び方	白井 祐浩	創元社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	統計嫌いのための心理統計の本:統計のキホンと統計手法の選び方	白井 祐浩	創元社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	ゼミおよび課題への取り組み (100%)																		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室																		
備考	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies SeminarⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	日本の文化や歴史を中心に、各自テーマを設定し、報告、議論を通して論理的な議論の組み立て方や思考力を養う。来年の卒業論文にむけて準備をする。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	設定したテーマについて報告と討論を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ】 報告と討論を積み重ねることで、テーマにかかる理解を深め、卒業研究に向けて準備する。 【事前事後学習】 自分の発表時はもちろん、他者が発表する前に報告者のテーマに関する文献を読み議論に備える。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	ゼミ活動への取り組み（100％）		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 赤澤研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題などのフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	後期では、前期の活動で提起した社会問題について、様々な角度から調査し、その原因や解決方法を導くプロセスを習得する。その中から、自分にあった卒業研究テーマを見つけ出す。																		
到達目標	物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確コミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 社会に貢献できる活動を実践することから、学外での活動が多い。 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べる。 計画に基づいた活動、活動発表、報告書を総合的に評価する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミ活動参加 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表力 20%で判断する。																		
学生へのメッセージ	一歩前進ではなく、半歩前進でも、前に進んだことになる。小さな成功体験の積み重ねが、エネルギーになることを実感すると、挑戦することが楽しくなります。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 浅野研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。文献はスペイン語、英語、日本語のものを精読する。全体として取り組む基本書を数冊と、各自の研究のための文献（本・資料）を併読するが、どちらも丁寧に読み、要約、発表、議論などを行って、最終的にはレポートを執筆する。																		
到達目標	読書の習慣を作る。解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																		
授業方法と留意点	リアルタイムのオンライン授業を行う。8週目から対面授業とする 日頃から、物事について思考を巡らせること。連絡・出席を絶対に怠らないこと。 毎回、様々な文章を題材として与える。文脈や時系列、論理の筋、話の展開を意識して読むこと。 メールその他のツールを用いても課題の提出・添削を行う。課題提出や質問については、指定の方法・期限（時間帯）を守ること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、スペイン語・英語・日本語について（文法、語彙、表現）の研究、社会言語学、文化史の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられると思われるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代語の文法、語彙、地域変種（～の英語、ラテンアメリカのスペイン語など） ・現代ヨーロッパの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育、ヨーロッパの複言語主義など。 ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革と言語など とにかく文章を読み、要約し、発表する。																		
関連科目	スペイン語専攻の諸科目、言語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎回の取り組み（課題および授業中の発表内容の精度） 100%																		
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。これらのことを日常とするように。3分の1以上の欠席は落第となる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室																		
備考	事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2 年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	前期に引き続き、読書の習慣を継続・発展させる。																		
授業方法と留意点	受講生による発表を中心に授業を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	文学を難しい・堅苦しいと思っていませんか。しかし文学を〈物語〉に置き換えてみるとどうでしょう。小説、映画、演劇、おとぎ話など、私たちは子どもの頃より物語と共に成長してきました。物語をとおして／物語として、物事の感じ方、社会のルール、自分のこと、他人のことを学ぶのです。だから、私たちは自分のことを話すときに、物語にして語りたくなるのです。天野ゼミでは〈物語〉を楽しむコツを学びます。コツをつかんで面白く文学を読むことができれば、きっと新しい自分が発見できることでしょう。 1. 図書館ガイダンスをおこなう 2. 読書会をする 3. レポートを書く																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	担当範囲の発表・・・50% 授業中の発言・・・20% レポート・・・30%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 3F 天野研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	テーマ「戦後から現在に至る社会と人間の変化を「メディア」というキーワードによって読み解く ―「我々はどこから来たのか 我々は何者か 我々はどこへ行くのか」― 現代の社会は大きな変化を遂げてきた。高度成長期の未来に夢を託した時代からバブル崩壊後の先が見えない時代への移りゆきは、わずかに四半世紀のことである。 時代の変化が「新しいメディア」にもっともよく表されていることが、現代のもう一つの特徴である。例えば、テレビ、マンガ、ゲーム、インターネット（BBS、SNS）である。このゼミでは、メディアの具体的な作品や事例の分析と議論を通じて、テーマに関する理解を深めていくことを目指す。																		
到達目標	メディアの具体的な作品や事例の分析と議論を通じて、テーマに関する理解を深めていくことを目指す。 メディアと時代との結びつきについて深く洞察、検討をする力をつける。 人前で分かりやすく自分の意見を発表する力を身につける。 必要な文献の蒐集と読解をする。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式での発表とディスカッションを行うので積極的な参加が求められる。テーマ自体は幅広いものになるので、特にどのような問題を取り上げるかは、参加者と相談の上、決定する。 卒業研究レポートについては、ゼミでの勉強を踏まえて、各自でテーマを決めてもらうが、個別に課せられた課題はしっかりとこなすことが必要。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【テーマ・内容】 ①自分の興味のある作品、事例を持ち寄り、考察・発表とディスカッションをする。考察対象の選び方、考察・発表の進め方は、参加者と相談の上で決める。②卒業論文の作成についての指導も授業時、また、個別に行う。 【方法】 資料を皆で読み合わせ、ディスカッションやディベートをする。また、その結果をまとめたレポートを書いてもらう。個別に卒業研究レポートの準備を進める。文献の蒐集と発表をする。 【事前事後学習課題】 発表の準備、発表後のレポート作成 卒業研究レポートの文献蒐集と読解。さらにテーマの発表の準備 およそ 30 時間。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新版 大学生のためのレポート・論文術</td><td>小笠原喜康</td><td>講談社現代新書</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康	講談社現代新書																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	参加[貢献]度、発表[プレゼンテーション]（60%）、レポート（40%）で評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室																		
備考	事前事後学習におよそ 60 時間必要。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	本演習は、卒業研究を進めていく上での準備段階と位置づけている。自分で「調べる」という営みを始動することができるように演習を通じて指導を行っていく。受講者自身が設定した調査主題に関連する文献の講読と、調査成果についての報告を行う。相互のディスカッションを通じて人類的な「調べる」営みについて考えていき、卒業研究のための調査を指導することを目指す。		
到達目標	主体的に「調べる」営みに取り組み、成果を適切な形でアウトプットする。		
授業方法と留意点	前半は文献講読を行う。 後半は調査報告とディスカッション等に当てる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	「人類的に調べる」が本演習の主題である。文献講読とディスカッションが中心になる。 文献講読時は、演習の時間を有意義に使うために、授業の前に指定された文献を精読することが強く望まれる。成果報告時は配付資料の準備、その他関連資料の収集と提示など含めて一人 30 分程度の発表時間がある。発表者、コメンテーター、聴衆のいずれも発言することが求められるため、授業時間外に行う作業の質と量が問われる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	発言や質問など、演習への主体的な取り組み（20%）、課題（50%）、口頭発表（30%）に基づいて行う。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室		
備考	レポート等の提出課題は評価を記して返却する。 資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2年次までに培った基礎力をもとに、自身が取り組むテーマを検討する。このゼミにおいては、主に現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象や社会現象を取り上げることとしたい。 具体的には、本格的な文献検索や論文読解、資料調査、現地調査実習などを行い、研究手法や考え方を体得する。 最終成果として、後期末に「3年次レポート」を作成、提出する。																		
到達目標	研究に対する考え方の整理を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。 また、ゼミ内外の人びとと接することを通じて、「気づき」「目くばり」「心くばり」ができる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	授業では積極的に発言を行い、切磋琢磨できるような刺激的环境を作っていくよう努力すること。 なお、4年ゼミ生との合同ゼミ合宿（秋）および1月に行われる4年ゼミ生による「卒業論文発表会」への参加を必須としている。 ※2021年度はコロナ禍の状況次第では、ゼミ合宿が中止となる場合がある※																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自がテーマを設定し、個別発表を行う。その際には、レジュメの作成法や研究発表の仕方等についても学ぶ。後期末には、一年間の総決算として、「3年次レポート」を作成する。 ちなみに、2020年度生が取り組んだテーマ（「3年次レポート」のタイトル）は次の通り。 「日本の『ロックフェス人気』の背景」「変わりゆく結婚式のかたち」「テレビコマーシャルの効果—消費者心理を追究する—」「オタクの境界線」「変わる日本語と変わらない日本語」 【事前、事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、自身の研究を深化させる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2021—</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>2</td><td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2021—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2021—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
評価方法（基準）	ゼミでは、積極性が特に重視されます。そこで、成績評価については、ゼミ討論への積極的な参加状況(50%)、「3年次レポート」の成果(50%)により、総合的に判断します。																		
学生へのメッセージ	ぜひ、楽しんで「研究」に取り組んでいきましょう。「研究」は、「お勉強」とは違って、必ずや、皆さんに満足感や達成感を与えるものとなることでしょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階（浦野研究室）																		
備考	事前事後学習時間数の目安は60時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	この演習では経済発展の仕組みを学ぶ。世界経済の構造、動向、企業間関係、企業行動、多様な商品のサプライチェーンについてバリュー・チェーンの視角から検討し、世界に分散する生産ネットワークの発展とそれが生み出す社会問題に焦点を当てて学ぶ。世界経済を考察する思考力を養うとともに、文献検索、論文読解、資料調査の手法を体得することを目的とする。 なおこの演習はグループディスカッションとプレゼンテーションを中心に展開する。発言力、議論の調整力、意見の集約力を向上させることが求められる。 卒論のテーマの絞り込みも進める予定である。																		
到達目標	・経済発展の仕組みを説明できる。 ・ディスカッションのために情報収集することができ、かつディスカッションにおいて意欲的に発言することができる。 ・多様な意見を調整し、グループ（あるいは個人）としての結論を導くことができる。 ・自身の研究に必要な資料・データを収集できる。 ・自身の研究課題の面白さと重要性、および研究の進捗状況を分かりやすく発表することができる。																		
授業方法と留意点	・時間割通りに対面で実施するが、資料配布等のために前期に使用した「3ゼミ」のTeams も引き続き活用する。 ・教室については、初回授業までに各自のメール宛てに連絡する。 ・文献から経済発展の理論的・実証的知識を得て、その知識をグループディスカッションのなかで応用し、自らの言葉で発表することによって理解を深めていく。 ・随時、卒論の構想についての発表も行う。研究手法、データの収集と分析、論文の技法といった技術面の解説も加える。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	[授業テーマ・内容・方法] ①経済発展の文献の輪読、発表、議論。 ②ディスカッションとプレゼンテーションの技法 ③研究の方法（研究課題の設定の仕方、文献収集） [事前事後学習課題] 輪読、発表の準備等、随時授業にて指示する。 各自の研究の進捗状況について、学期中1回レポートを課す。 事前・事後学習に要する総時間数は約60時間。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>開発経済学入門</td><td>戸堂康之</td><td>新世社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>マイケル・ポーターの競争戦略</td><td>ジョアン・マグレタ</td><td>早川書房</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開発経済学入門	戸堂康之	新世社	2	マイケル・ポーターの競争戦略	ジョアン・マグレタ	早川書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	開発経済学入門	戸堂康之	新世社																
2	マイケル・ポーターの競争戦略	ジョアン・マグレタ	早川書房																
3																			
評価方法（基準）	・討論とプレゼンの内容とスキル 50% ・輪読その他のゼミ活動への参加意欲 30% ・レポートの内容（各自の研究課題の進捗状況） 20%																		
学生へのメッセージ	どんな些細な意見でもかまわないので、まずはしっかりと発言することと他人の言葉をしっかりと聞くことを強く意識してください。 2年間さらにはその先もこだわり続けられるテーマを見つけてください。																		
担当者の研究室等	7号館5階 藤井研究室																		
備考	・資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後学習の総学修時間数は60時間とする。 ・ディスカッションとプレゼンテーションへのフィードバックは授業中に、レポートに対するフィードバックは15回目の授業のなかで実施する																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	担当教員の指導のもと、本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査等を行い、研究に必要な手法や考え方を体得します。		
到達目標	自分の関心のあるテーマについて文献を調べ、それを整理し、発表することができるようになる。		
授業方法と留意点	「ことば」に関する資料を読みながら、基本的な知識を身につけていく。その際、全体で意見を交換・共有しながら、各トピックに関する理解を深めていく。最終的に、自分の最も関心のあるテーマを絞りこみ、卒業研究へとつなげていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語学演習 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業への積極性 50% 授業での発言 20% 課題 30%		
学生へのメッセージ	これから 2 年間、一緒に頑張っていきましょう。		
担当者の研究室等	後藤研究室（7 号館 5 階）		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	・資料調査、分析、プレゼンテーション、わかりやすい文章にまとめる、といった体験を通して、研究手法や考え方を学びます。 ・グループやペアでの活動を通して、卒業後にも生かせる、人との関わり方のバリエーションを増やします。																		
到達目標	・多面的に物事を見る、もしくは見ようとする姿勢を身に着ける。 ・想定する聴衆にとってわかりやすい情報の構成や見せ方を工夫できるようになる。																		
授業方法と留意点	・実物を観察し、触れ、また何かを作る、といった作業を体験したあと、言語化する練習をします。 ・新聞やニュースの記事（日本語・英語）、本などを用いて、調査・発表・議論をします。 ・いずれもスピードが要求されるので、毎回の授業に全力で取り組んでください。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 言語・文化、芸術、コミュニケーションなどの分野に関する研究 後期は、卒業後は社会に出る大学生に身につけてほしい言語の力に焦点をあてます。自分の言語能力を、言語以外の知識や技術と組み合わせ、他人のために役にたてられるようになるのが目標です。接客現場や医療現場、職場内、など、対人関係のなかで言語が果たす役割について、文献調査と考察を行います。 学期後半に「多言語で、子どもたち向けの、記憶に残る 防災教育ビデオ（5分程度）」を共同作成します。すでに世界で制作されている防災教育用のオンライン動画を調査し、その表現方法・特徴・メリットの比較をしたのち、自分たちにしか作れない、新しい形式の伝え方を考えていきましょう。 8 週目（11 月 9 日）から対面授業を再開しますが、授業の連絡・教材・提出に引き続き Teams, WebFolder, そしてビデオ作成作業の多くの場面で Zoom を利用します。 前期と比べて制作料の多いゼミになるでしょう。大量に考え、話して、作ります。また、学期中に複数回、プレゼンを行います。たくさん話す練習をしてください。 【事前事後学習課題】 授業で扱ったテーマについて、自分で直接対象を調べて一次資料を得たり、立場の違う人にインタビューしたりなど、インターネットとは違う情報源を探してみましょう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>配布教材</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	配布教材			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	配布教材																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業にて紹介します</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業にて紹介します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業にて紹介します																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	・授業での協働作業 30% ・プレゼンテーション 30% ・レポート 40%																		
学生へのメッセージ	好奇心を覚醒させて、何でも見て、体験して、自分の感性を鍛えよう。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 齋藤研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 課題等のフィードバックは授業中に行う。 担当者の専門：文体分析・言語教育のための教材制作・教員養成・通訳/翻訳・舞台や学会の裏方 ほか																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。																		
到達目標	・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。 （これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。）																		
授業方法と留意点	フィールドワークで外国人観光客が多く訪れる場所に何回か調査に出ます。例えば、インタビューや質問紙（調査）、観光地における英語の調査のため、京都などへ出向きます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・（人間の）言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか（どのような違いがあるのか）等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミおよび課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	【授業概要・目的・到達目標】 外国人を対象にした「外国語としての日本語教育」について考察します。単に「ひらがなをどのように教えるか」というような教授法だけでなく、広い意味の「日本語教育」としてとらえています。例えば次のようなことも含まれます。 * 日本語学習者の言語習得 * 日本語の語用例からの日本語の文法や語彙の分析 * 外国人との接触場面での異文化間コミュニケーション * 海外における日本語教育 * 在住外国人や留学生に関すること 等々です。 海外や日本で起こっている様々な動きを、「日本語・日本語教育」そして自分自身に関連づけて考えることができるようになることを目指します。																		
到達目標	* 専門的な知識を得る。 * 文献を批判的に読んで考察し、自分の意見をまとめて表現することができる。 * テーマについて、レジュメを作成し、プレゼンテーションができる。 * アカデミックライティングのスキルを身につける。 * ゼミの活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。 * 卒業研究のテーマの設定を行う。																		
授業方法と留意点	【授業方法と留意点】 前半は、教員が指定した日本語・日本語教育・異文化間コミュニケーションをテーマにした文献を読み、知識を増やし、内容についてディスカッションを行う。更に考察を深めレポートにまとめる。後半は各自が設定したテーマについての発表および内容についてディスカッションを行う。授業後に考察を深め、レポートにまとめ、4年時の卒業研究につなげていく。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 毎回担当者を決め、文献を読み、レジュメを作って発表する。発表者は、資料収集、情報収集をしてレジュメを作成する。発表後は、内容についてディスカッションを行う。 【事前事後学習課題】（毎回 1.5H） 授業の前に文献を読み、予習シートをまとめる。 授業後に考察した内容についてレポートを書く。 ゼミ生全員のレポートをお互いにチェックしてコメントを書く。																		
関連科目	「日本語教授法」「日本語学」「日本語教育実習演習」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>文献資料、プリントを配布する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	文献資料、プリントを配布する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	文献資料、プリントを配布する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業で指示する</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業で指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業で指示する																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への参加度（10%）、発表及びその他課題（30%）、レポート（60%）によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	友達とのコミュニケーション・外国語学習・海外留学等々、様々なこれらの基になっているのは言語（日本語）です。また、大学在学中や社会人になってから、外国人（日本語を母語としない人）に日本語や日本文化について聞かれる場面はあると思います。このゼミでは、日本語は日本語教育について、皆で一緒に深く考えてみたいと思います。 前期に引き続き、課外ゼミでは、日本語教育機関を訪問したり、外国人学習者と交流するプロジェクトを行います。																		
担当者の研究室等	門脇研究室（7号館4階）																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	Theme: Tourism & Hospitality We will look at on the job situations for cabin crew, airline ground staff and hotel staff, practice tour-guiding and discuss the importance of good service. Traveling around some famous world locations will also be the focus of several classes.																		
到達目標	Students will attain better reading, and writing skills, with active study and increase speaking and listening skills in the class.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, reading outside class, staying in English 100% is the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	We will concentrate on hospitality topics, and building up reading skills using the online reading platform, xreading.com Youtube (Ted talks) will be used for study at home to build up vocabulary and listening skills. Thesis research will be carried out this term, ending with presentations on the study achieved. Academic writing skills will be studied to help students formulate their ideas on a thesis topic and tourism and travel will be the basis for weekly topics.																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>English for International Tourism</td><td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td><td>Pearson</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Basic steps to writing research papers</td><td>Kluge and Taylor</td><td>Cengage</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	Attitude 20% (on time, enthusiastic, using English only, fully involved in the class), Notebook notes (TED comments, in-class notes about content) 20%, One powerpoint presentation on a tourism-related topic 20%, xreading 20% 100,000 words, thesis re																		
学生へのメッセージ	Notebook & textbooks required. Think about the positives this term of once again being online - staying safe, protecting yourselves, family and friends, benefitting from a mask-free environment if you take the class from home and English discussions to																		
担当者の研究室等	Online from home																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付けていくことを最終的には目指す。 第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」（データ・資料）を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 上に挙げたようなプロセスを実践的に試行錯誤していくためのゼミにしたいと考えている。																		
到達目標	演習において、様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	原則として隔週で発表を分担し、意見交換を行なって研究の進展を促す。 発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等）100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室 ※ただし2021年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。																		
備考	事前事後学習時間は、総計で60時間を目安とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	地域活性化、環境問題、世界遺産、観光など、地域や地理学と関連するテーマについて各自が関心を深め、卒業論文にむけた準備作業を行います。																		
到達目標	「研究」の遂行に必要な問題の発見力、データの収集・分析力、文章の構成力、執筆能力、全体のマネジメント能力などを身につける																		
授業方法と留意点	研究を遂行していくための基礎（研究手法・ルール・コツ等）についてはそれぞれ解説し、それをもとに文献購読やフィールドワークを実践していきます。 また、テーマに関するプレゼンテーション及びディスカッションを参加者全員で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業のテーマ】 地域を知る・地域に学ぶ 【事前事後学習】 関心のあるテーマについて、十分に情報収集をする。また、テーマや研究手法について授業外でも積極的に学び、自らの研究活動に役立てる。学習時間は60時間以上を目安とする。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への参加状況（議論での積極性等）（50％）と、種々のアウトプット（プレゼンテーションの内容、レポート等）（50％）によって評価する																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 手代木研究室																		
備考	事前事後の総学修時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	アメリカ合衆国の文化、歴史についての卒業研究レポートを書くゼミです。各自、3 年次終了時点で合計 12000 字(40 字 x30 行で 10 ページ)以上の小さなレポートの集りを書くことを目標にします。4 年次には、さらに研究を積み重ねて、これらのレポート群を卒業研究レポートに発展させることを目指します。 各自の研究テーマは、アメリカ合衆国に関するものであれば幅広く選ぶことができます。過去のゼミ生に多いテーマは、映画や映画俳優について、音楽やミュージシャンについて、野球などのスポーツについてのものです。こうした一見カジュアルな題材を通じて、アメリカ社会の政治的、社会的、歴史的な問題点を考えるのが文化研究です。																		
到達目標	前期からの通算で、合計少なくとも 12000 字以上のレポートを提出すること。																		
授業方法と留意点	・各自、自分のテーマに基づいた資料を手に入れ、読み、小さなレポートを書き、それをクラスに持ち寄って話し合う、という活動を繰り返します。 ・毎週文書を PC で作成し、学内ネットワークや電子メールを使ってやりとりをします。PC の基本操作は必須であり、自分の PC を所有しているか、好きな時に使える PC を学内および自宅に確保しておく必要があります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』(1996)と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、レイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
評価方法(基準)	ゼミ活動への貢献(50%) + 3 年次終了時点までの小レポートの総量と質(50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってくださいと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室																		
備考	総学習時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	3 年次前期までに培った学術的な知識やスキルに基づいて、ビジネス論やマーケティング論を中心に具体的な事例とともに研究していく。また、それに基づいて、4 年次の卒業研究につながるような各自の研究テーマを見つけてほしい。																		
到達目標	主にビジネスの観点から国際社会や異文化に関する理解を深め、グローバルとローカルの両方の観点から論理的に考える力を身につけることができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で、文献・資料の読解、調査に基づく議論、研究発表（プレゼン）などを行う。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・新聞・雑誌・ニュース等の最新記事を研究資料として利用する。 ・研究発表（プレゼン）に関するフィードバックはその都度、提出物に関するフィードバックは原則として翌週の授業で行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・（国際）ビジネスや（グローバル）マーケティングの領域を中心にテーマを設定し、事例に基づいて考察する。 ・文献・資料を調べ、客観的に分析する。 ・グループディスカッションや研究発表（プレゼン）などを行いながら、メンバーとの議論を通じてそのテーマの理解を深め、問題点とその解決策を探っていく。 【事前学習】 各自の研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理しておくこと。 【事後学習】 授業時の指導内容に基づいて、調査や分析を行い、理解と考察を深めること。 ・事前・事後学習の総時間数は 60 時間とする。																		
関連科目	文化演習Ⅰ、パッケージプログラム「国際ビジネス」の科目など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて授業中に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて授業中に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて授業中に指示する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて授業中に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて授業中に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて授業中に指示する。																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢 50% 研究発表（プレゼン）および提出物 50%																		
学生へのメッセージ	明朗で、行動力と協調性のある学生の育成を目指します。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 中島研究室																		
備考	研究発表（プレゼン）に関するフィードバックはその都度、提出物に関するフィードバックは原則として翌週の授業で行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	当ゼミでは外国語の情報が少ない場所を選んで調査し、その情報を日本語と外国語で発信する。またそれには何の方法が有効かを考察する。現在はブログを利用している。主な作業は事前調査→現地取材→素材の整理→日・英・中 3 言語によるブログ掲載である。		
到達目標	自ら作成した観光案内をわかりやすい外国語に翻訳し、さらにそれを発表することができる。京都、大阪、奈良など関西の地理や歴史を外国人に紹介することができる。		
授業方法と留意点	演習形式で授業を進めながら、その成果を観光情報をブログで配信する。新型コロナの感染が収束して安全にグループによる活動ができる状態であればゼミ全体または小グループで調査、取材に出かける。現地へ行く前には事前調査、現地へ行ったあとには情報の整理、日本語文による記事の執筆、外国語への翻訳、ブログの編集などの作業を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	現地調査においては、調査先での解説板など文字資料の記録、写真撮影、インタビューを課題とする。調査を行う度にその内容を報告する。授業前、授業後には計 1 時間程度をかけて調査報告の作成を行う。		
関連科目	専攻する言語の外国語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業および課題への取り組み（60%）、ブログ執筆への貢献度（40%）をもとに総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	中西研究室（7 号館 3 階）		
備考	総学修時間数は 60 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	2年次に培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得します。																		
到達目標	本授業を受けることによって、コミュニケーションとは何かを理論的に学ぶことができます。さらに、テキストを正確に読み、理解し、それについて多面的に考察し、自分の意見を述べるできるようになります。実際に何度も練習を行うことによって、コミュニケーション能力を高めることもできるようになります。																		
授業方法と留意点	毎回課題を出します。課題を通して参加者全員が予習範囲のテキストをしっかりと読んで理解して授業に臨んでください。コミュニケーションな方法だけでなく、その内容が大事です。日ごろから情報や知識の獲得も心がけてください。英語の文献も読みますので予習をしてきてください。毎回、スピーチをしてもらいますので準備をしてきてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 コミュニケーションの取り方を理論的・実践的に学びます。最も大切なのは、相手の気持ちに配慮し、伝えたいことを正しくきっちり伝えることです。 そのためには何度も練習しなければなりません。 そこで、読んで考え、聞いて話すことを繰り返し行うことが決定的に重要になります。 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>グローバルコミュニケーション学入門</td><td>中西のりこ 他 他</td><td>三省堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	グローバルコミュニケーション学入門	中西のりこ 他 他	三省堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	グローバルコミュニケーション学入門	中西のりこ 他 他	三省堂																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	平常点 40%、課題・発表 30%、期末レポート 30%																		
学生へのメッセージ	失敗しながらも楽しくコミュニケーションを学びましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考	事前事後の総学習時間数は60時間。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	《世界の中の日本語・日本文化》 日本文化や日本語など、「日本」について見つめ直す作業をする。 いったい日本とは、日本文化とは、日本語とは何なのか、考えてみることで、各自の関心ある言語やテーマについて、新たな視点を持つことを目指す。																		
到達目標	自分の意見を述べ、考えを整理できる。 上記について文章で論理的にまとめられる。 各自の関心あるテーマについて基本的な資料収集ができる。																		
授業方法と留意点	学生主体で行う。各自が関心あるテーマに基づいて報告・発表し、意見交換する。 活発な意見交換を期待する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	「日本」をキーワードに、日本語や日本文化、文化比較などをテーマに考察する。 およそ隔週で報告を行い、毎週他の学生の報告について積極的な発言が求められる。 十分に報告準備を行うこと。 事前事後学習時間の目安は計60時間。																		
関連科目	文化演習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（報告内容、参加態度、課題）100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階																		
備考	発表や提出物は、すぐにフィードバックします。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	The purpose of this course is to introduce language and study skills that will allow students to discuss their ideas and to write an academic paper in English. Additionally, students will learn how to do a close reading of comics in order to understand how comics can provide insight into social issues.																		
到達目標	These are the goals for this course. You will: Improve your reading stamina and comprehension. Improve your note taking skills. Learn how to plan and write well-organized reports. Learn how to use technology to express your ideas. Actively discuss your ideas.																		
授業方法と留意点	Students will do weekly comic readings. Each week will feature a different social issue. These topics will be discussed in-class. In discussions, an emphasis will be placed on students making observations based on evidence and on asking questions that reveal new ways of approaching the material.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	We will be reading and analyzing comics in this seminar. The focus will be on American comics, but comics from other cultures may also be considered. We will look at how comics reflect the views of their creators on various social issues. Week 1: Introduction Week 2: Media and Power Week 3: Culture and Comics Week 4: Culture and Comics Week 5: Race and Comics Week 6: Gender and Comics Week 7: Class and Comics Week 8: Writing: Planning and Outline Week 9: Writing: Body Week 10: Writing: Conclusion Week 11: Writing: Literature Review Week 12: Writing: Introduction Week 13: Paper Editing Week 14: Paper Presentation Week 15: Graduation Paper Preparation																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	Presentation 20% Academic Paper 35% Weekly Quiz 15% Worksheets 15% Participation 15%																		
学生へのメッセージ	There is no textbook for this course. However, you will be asked to purchase a comic during the course. It will cost around 2000 yen. All other reading materials will be provided by the teacher.																		
担当者の研究室等	Building 7, 3rd Floor, フーバー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	マイノリティをキーワードに、人権、ジェンダー、移民、多様性などの観点から基本文献を輪読しつつ、テーマをめぐる基礎知識や共通認識を培う。その過程で、関心を持ったテーマについてさらに詳しい先行研究に当たり、考察を文章化する。必要な資料の検索・収集方法、理論書の読解、レジュメの書き方、論文執筆の基本ルールなど研究の手法を指導する。																		
到達目標	文化演習Ⅰで得た基礎知識と、見つけた関心領域・対象をもとに、卒業研究レポートのテーマと構成を定めるまでに至る。																		
授業方法と留意点	7 週目まで Teams 上で時間割通りにリアルタイム授業を行う。8 週目から対面授業とする。毎回担当箇所を決め、全員が発表を行う。全員が資料を熟読したうえでゼミに臨むこと。発表に傾聴し、的確な質問や批判を自分の言葉で伝える力を養うよう意識して臨んでもらいたい。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 マイノリティ、人権、多様性の包摂、グローバル市民社会 基本文献を輪読し、基礎知識と共通認識を養う。レジュメの作成になれると同時に、それをもとに議論を展開できるようになることが重要である。ときに学外での研修を行うこともある。学期に 2 冊、年間 4 冊は基本的な共通文献を読む。 各自の研究テーマに即した主要文献を薦め、卒業研究に着手しはじめる。 【事前事後学習課題】 文献を熟読し、そこから疑問点や論点を抽出し、さらに深く調べたり自分の考えを練り文章化する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>女ざらい：ニッポンのミソジニー</td><td>上野千鶴子</td><td>紀伊國屋書店</td></tr> <tr> <td>2</td><td>人新世の「資本論」</td><td>斎藤幸平</td><td>集英社新書</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	女ざらい：ニッポンのミソジニー	上野千鶴子	紀伊國屋書店	2	人新世の「資本論」	斎藤幸平	集英社新書	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	女ざらい：ニッポンのミソジニー	上野千鶴子	紀伊國屋書店																
2	人新世の「資本論」	斎藤幸平	集英社新書																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	発表への取り組みと内容、議論への参加等 70%、レポート 30%。																		
学生へのメッセージ	専攻外国語の力を伸ばし続けることはもちろん重要ですが、日本語での読解力と論理的な文章校正力を高めることを目指してください。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室																		
備考	授業中に出された課題に取り組むのに要す十分な時間を事前事後学習に充てること（総時間数は 60 時間）。課題等のフィードバックは授業中に行うとともに、各自のレポートはその都度添削し返却する。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名(英文)	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	マイケル ハーギー
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	The purpose of this class is to choose a topic that you are passionate about and deepen your understanding through reading and research. This is an ideal course for students currently studying abroad or who plan on doing so in the future.		
到達目標	It is expected that students will learn-by-doing. Using English as a medium of instruction will enable students to improve not only the four language skills, but also their critical thinking abilities.		
授業方法と留意点	The material will be presented through lecture, readings, and occasionally through video and audio. Students are expected to keep a notebook. There will be opportunity for class discussion and group work.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	The focus of this seminar is academic English. Students will read articles from a variety of academic disciplines and focus on the relevant grammar and vocabulary. Students will study and develop their research skills and will be expected to write and present regular reports.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	Tests 45%, assignments 45%, attendance & attitude 10%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	Building 7 3F Herke's office.		
備考	Please bring a dictionary. 総学修時間数は60時間。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	本を読むとき、映画を観るとき、人と話すとき、そのベースとなる背景知識を持っているか否かで話の理解度が大きく変わってきます。このゼミでは、英語圏に共通する「知っておくべき事柄」を学び、文化知識の土台作りをします。取り扱い分野は、文学、ことわざ&イディオム、神話、音楽、芸術、建築物などです。 また、ゼミとして多読活動に取り組みます。最初は自力で読める易しめの本を紹介しますが、後半には、映画化された児童文学作品を読んだり、実体験に基づくライフストーリーを読んだりして、豊かな表現に触れてもらうとともに、「今まで考えたこともなかった」ような、外の世界にも目を向けてもらいます。																		
到達目標	与えられたテーマに関して調べ、それをレジュメにまとめて発表できるようになることを目指します。また、多読は初心者で5万語、経験者で10万語を目標とします。																		
授業方法と留意点	初日に決めたスケジュールに沿って、各自が当たったテーマを調べ、レジュメを作成してきます。授業中は発表と理解度チェックに充てます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	初日に一学期間のテーマと担当を決めます。また、レジュメのサンプルを見せます。次回からは、各人がスケジュールに沿って下調べをしレジュメを作成してきます。余力があるようなら、全員で読む本も一冊指定するかもしれません。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題準備 20%、発表 30%、理解度チェック%、多読 20%																		
学生へのメッセージ	絵本や本、映画などを通して、ことばのみならずその背景にある文化や歴史を楽しく学んでもらえればと思います。「やるときはやる！」ゼミですので、みなさんの頑張りに期待しています。																		
担当者の研究室等	7号館5階松田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	いままで培った基礎力と見つけた関心・テーマをもとに研究分野を選択し、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を体得する。																		
到達目標	外国語の能力を高め、異文化への理解を深めることは外国語学部の学生にとって大変重要なことである。学生の希望により、言語文化、あるいは外国の風俗、習慣、思考様式などを課題とする。言語文化や海外文化の特徴などを研究することによって、文化知識、外国語表現力を涵養し、学習力、思考力を養い、広い視野から国際理解を深め、国際協調の精神を養い、同時に研究能力を身に付けることができる。																		
授業方法と留意点	教員から与えられた課題、あるいは各自決めたテーマについて、収集した資料などを持ち寄り、それらを画面共有で提示しながら、他のゼミ生や指導教員に説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【テーマ】：①語彙研究、②言語文化の研究、③文化研究 各授業において、前回は課題と内容を決め、必要に応じて調査した資料を提示する。次回は前課題をめぐって検討をする。 【事前事後学習課題】 指示に従って、文献・インターネット等で内容を調べて来ること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>日・中・英言語文化事典</td><td>赤祖父哲二ほか</td><td>マクミラン ランゲージハウス</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	日・中・英言語文化事典	赤祖父哲二ほか	マクミラン ランゲージハウス	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	日・中・英言語文化事典	赤祖父哲二ほか	マクミラン ランゲージハウス																
2																			
3																			
評価方法（基準）	プレゼン 30%、課題提出 70%。																		
学生へのメッセージ	もっと知りたいという好奇心を持ちましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階(兪研究室)																		
備考	事前・事後学習の総時間を 60 時間とする。課題提出等に対し、添削指導、フィードバックを行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	対象とする国／地域の社会や文化に関する文献を輪読するとともに、それぞれがテーマを設定し、調査、分析、発表するための基礎的な方法を学びます。また授業外での調査を通して、その方法を実践します。																		
到達目標	自ら課題を設定し、それを調査、分析、発表するための基礎的な力を習得する。																		
授業方法と留意点	文献講読を通して、テーマの設定、文献収集、インターネットの利用、フィールド調査、研究発表など、研究を進めるための方法を学ぶ。またそれぞれが関心のある国／地域をとりあげてテーマを設定し、担当を決めて発表、討論する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 対象とする国／地域の社会・文化に関する文献を講読する。 各自が関心をもっている事柄についてテーマ発表を行い、レポートを作成する。 【事前事後学習】 課題文献をしっかりと読む。 発表のための資料作成・準備をする。 レポートを作成する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への貢献（50%）、発表・レポート（50%）によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室（7 号館 3 階）																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	【いかにイメージをテキストに紐づけるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）を浮き彫りにすることを目指す。																		
到達目標	【以下の2つの技術を習得する】 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法																		
授業方法と留意点	【ゼミ生が主体で進める】 1. 各自のテーマの関連テキストを読解、発表する。 2. その報告に対して質問する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【イメージ論と向き合う】 1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. それに対して他の学生は質問する。 4. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	【質問も重視される】 1. 発表内容 [40%] 2. 質問内容 [40%] 3. その他課題 [20%]																		
学生へのメッセージ	【より良い質問をめざす】 1. より良い質問をするために、ゼミに集中できるコンディションを整える。 2. 校外実習は貴重な機会なので、かならず参加する。																		
担当者の研究室等	7号館5階 杉山研究室																		
備考	【イメージを見ている自分を自覚する】 1. 事前事後に学修時間計60時間を予定している。 2. 日々接するさまざまなイメージを漠然と見るのではなく、それを見ている自分が感じる印象について自覚的になる。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	ゼミ雑誌、ゼミ映像作品を制作する。 「メディア」を通じて文化やコミュニケーションを考察する。																		
到達目標	①メディアと文化・コミュニケーションに対する研究方法を学び、知識を得る ②プレゼンテーションやディスカッション、レポート作成の技術を学ぶ ③各自の関心に基づき、卒業研究のテーマを見つける ④ゼミを通じてチームワークを行う力を高める ⑤ゼミ雑誌、ゼミ映像作品を制作する																		
授業方法と留意点	〔授業方法〕 ・課題への取り組み（調査・考察、プレゼンテーション、ディスカッション等）を中心に進める ・教室外でのフィールドワーク、ゼミ雑誌制作、ゼミ映像作品制作などのアクティブラーニングを行う ・課題に取り組む 〔留意点〕 発表には相応の準備時間が必要になるため、計画的に進めること。ゼミ生同士で協力し合うことが望ましい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	〔授業テーマ・内容・方法〕 主要なマスメディアをとりあげ、その特徴や歴史について調査・考察し、発表・質疑応答を行う。 雑誌の制作や映像作品の制作に取り組むことにより、情報や文化の発信・受信を体験する。 〔事前事後の学習課題〕 発表の準備、発表後の再調査・再考察、レポート作成など。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（課題、発表、発言、積極性・協調性） 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階（古矢研究室）																		
備考	総学修時間数は 6 0 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	自らの関心をもとに、国際語としての英語・英語教育に関する様々なトピックについて、さらに知識を深めて考え、文献やデータを調べてまとめ、発表することを目的とする。		
到達目標	英語がどのように国際語として使われているかを理解する。 英語教育の基礎理論・手法について理解する。 国際語としての英語について理解し、自らの英語スキルをさらに向上させる。		
授業方法と留意点	自らの関心に基づき、授業に積極的・主体的に参加することを求める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは国際語としての英語・英語教育である。 文化演習Ⅱでは主に英語教育の手法、国際語としての英語の使用状況に焦点をあてる予定である。卒業研究に向けて、様々な理論やデータに対する知識をさらに深めるとともに、関心をもったトピックについて、自らさらに調べてまとめて担当回に発表してもらう。授業計画については、学生の希望をもとに変更する可能性がある。事前・事後学習課題は、担当者から指定された文献を読むことや選んだトピックについて調べるなどが含まれる。参考文献は随時、授業内で紹介する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業への積極的な参加 50% 担当回の発表 50%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室		
備考	授業外での学習時間は 60 時間程度である。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	日本のポピュラー音楽は、欧米の音楽文化や、アメリカのポピュラー音楽から多大な影響を受けてきました。この状況を日本のアメリカ化や、西洋化と表現するジャーナリストや学者も多くいます。実際、日本の社会や文化における欧米の影響が強いことは疑いありません。しかし、欧米の影響に焦点を当てるばかりに、洋楽を通して再生産されてきた日本国内における人種、ジェンダー、セクシュアリティ、階級に関する不平等や、洋楽を介した日本と東アジア諸国の交流は、十分に明らかにされてこなかったとも言えるでしょう。そこで、本ゼミでは、日本における洋楽（クラシック音楽や、洋楽に強く影響を受けた日本人アーティストの音楽を含む）を通してわたしたちはどのような日本の社会や文化、人種、ジェンダー、階級、アジアとの関係を作り出してきたかを考察します。また、これらを踏まえ、日本の社会や文化の発信をより平等かつ、グローバルなものへと導くような音楽作品、音楽ジャーナリズム、ファンのあり方はどのようなものかを一緒に考えます。 本授業では、各自の卒業レポートのテーマに関する先行研究の読み込み、資料の収集を進め、レポート完成へ向けて、さまざまな章や部分を書き溜めます。																		
到達目標	1：卒業レポートのテーマに即した先行文献と資料の収集を行うことができる。																		
授業方法と留意点	発表などで成り立つ授業なので、なるべく休まないように積極的に参加してください。また音楽体験等も毎週共有しますので、自らの音楽生活に注意を払ってください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業の半ばくらいまでに、卒業レポートのテーマに関する先行文献を調べ、発表していただきます。それらをゼミ生全員で検証し、学術研究に適した文献かどうか批判的に考察します。 授業の後半から、実際の資料収集の進捗状況に関して、できれば、学生さんあたり2回は発表できるようにします。その中で、各自のトピックと関連する音楽作品や、音楽演奏などがあれば、視聴、フィールドワークを一緒に行う可能性もあります。 授業の5回目以降くらいから、目標ページ数や文字数を設定し、実際の執筆に着手します。それを課題として、原則毎週提出していただき、添削や意見交換を行います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『初回授業で伝えます』</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『初回授業で伝えます』</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（文献発表、出席、積極性など）→40% 最終レポート・発表（卒業レポートのテーマ）→ 60%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階永富研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	人文地理学と関連分野の研究方法を、実践を通じて身に付けることを目的とする。受講生自らが関心を持つ対象について、空間・地域・環境にかかわる視点からアプローチする技能を養う。																		
到達目標	主に人文地理学の分野における研究を遂行するために必要な基礎的技能を習得すること。すなわち、意義のある問いを立てること、文献の収集・閲読・整理、データの収集・分析、論理的に議論を組み立てること、文章作成、口頭発表の能力である。																		
授業方法と留意点	論文作成に必要なさまざまな手順について担当教員が手短かにレクチャーを行ったのち、受講生がそれを実践し、成果物を提出する。また、各回の内容に応じた課題に取り組んでもらう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	◆授業テーマ：都市圏における諸問題へのアプローチ ・授業前半（第1～9回）では、アンケート調査の設計方法、GISを用いた作図・分析方法について、課題への取り組みを通じて学習する。 ・授業後半（第10～15回）では、特に自らが関心を持つ分野について独自に問いを設定し、それについて調べ、報告を行う。 ◆内容、方法 1) 問いの設定……テーマ設定の過程・方法。 2) 文献閲読……問いに関連する論文・書籍等の探索・収集・閲読・整理。 3) データ収集・分析……文献資料や統計データの扱い方、調査の方法と実践。 4) 文章作成……論文の骨子を作ることと、文章作成法。 5) 口頭発表……スライドショーを用いた発表とディスカッションの実践。 ◆事前・事後学習課題 授業時間における作業に取り組むだけで研究に必要な技能を身に付けることはできない。教員が提示した課題に積極的に取り組むことのほか、自主的に文献の閲読や興味あるテーマの探索、関連情報の収集を行う必要があることに注意してください。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	最終報告およびレポートの水準 60%、授業への積極性 40%																		
学生へのメッセージ	授業外でも常日頃から努力し、情報収集、問題意識の明確化、技能の磨き上げを行ってください。																		
担当者の研究室等																			
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	文化演習Ⅱ	科目名（英文）	Cultural Studies Seminar II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎		
科目ナンバリング	LDL3277c0		

授業概要・目的	言語に関する身近なテーマを扱い、英語について、広くは言語について様々な観点から考えます。ごく初歩的な心理統計の方法について学びます。																		
到達目標	・言語に関わる諸問題について理解を深めつつ、批判的に検討することも目指します。 ・英語の基礎力や教養に加え、思考力や課題発見能力、解決能力、表現力を育成します。（これらの能力は、就職活動をする上で、さらには社会で活躍するための基礎となるものです。）																		
授業方法と留意点	文献を読み、発表してもらいます																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・（人間の）言葉の不思議、法則の存在、伝達のための役割等、身近なトピックを扱います。 ・アカデミックな題材が中心ですが、このプロセスの中で、最終的に学生自らが主体性をもって卒業研究に取り組めるようになればと思います。 ・なぜこの言葉を使うのか、他の言葉ではいけないのか、他にどんな言葉が使えるのか（どのような違いがあるのか）等、言葉についての素朴な疑問について議論することができたらと思います。 心理統計の手法について基礎的な知識を身につけることをめざします。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>統計嫌いのための心理統計の本：統計のキホンと統計手法の選び方</td><td>白井 祐浩</td><td>創元社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	統計嫌いのための心理統計の本：統計のキホンと統計手法の選び方	白井 祐浩	創元社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	統計嫌いのための心理統計の本：統計のキホンと統計手法の選び方	白井 祐浩	創元社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ここから始める言語学プラス統計分析</td><td>小泉政利</td><td>共立出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ここから始める言語学プラス統計分析	小泉政利	共立出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ここから始める言語学プラス統計分析	小泉政利	共立出版																
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミおよび課題への取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室																		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・研究計画書を作成する（卒業研究のテーマに関する文献のレビューおよび調査方法の説明を含む）。 ・調査に着手する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	演習への出席、発言、口頭発表、調査への取り組み姿勢に基づいて行う（100%）。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 赤澤研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	下記の3つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】社会開発・国際開発・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢（50%）と、卒業研究の進捗状況（50%）に基づいて評価																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 浅野研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 各自の研究のための文献（本・資料）を丁寧に読み、要約、発表、議論を行って、早くから「卒業研究」を執筆する。 前期末には10枚を執筆し提出する。																		
到達目標	文章を解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。																		
授業方法と留意点	Teamsによるリアルタイムのオンライン授業を行う。Webfolder、メールを用いる。 各回提出物等期日を守る。 3年次から読んできた先行研究を早くからまとめ、時間的余裕を持ってレポートの作成にあたること。 指導された内容を、修正に必ず反映させること。卒研指導に必ず出席すること。 文章を自分で推敲し、書き直しの「答え」を丸投げにしないこと。自分で修正案を考え、書き直すこと。 教員は、間違いや改善点を指摘はするが、考えることや執筆（内容）、書き直し作業の「代行」は決してしない。 メールおよびその他のツールの利用でも、課題の提出・添削を行います。課題提出や質問については、指定の方法・期限（時間帯）を守る。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、主にスペインや日本の言語文化の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究続けられるものと思えるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代ヨーロッパの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育、欧州の複言語主義など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革など とにかく文章を読み、要約し、書き、発表（口頭と文章で）する。 同じ指摘、注意を繰り返さず、学んだことをその都度活かし、次の回に反映させること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究とその他の取り組み 100%																		
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。 課題提出等に際しては、期日や形式を厳守すること。スケジュールや体調の管理、つまり自己管理を徹底しよう。 必ず、指定された時間に参加すること（メールなど時間外での指導は基本的に行わない。駆け込みにならぬよう注意）。																		
担当者の研究室等	7号館5階 安達研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。 就活本位で学業をおろそかにすると本末転倒、卒業も危うくなります。前期からスケジュール管理をしっかり行い、遅くなっても卒研に着手し慌てたり、丸投げにしたり、「何とかなる」、「就職が決まったから通してもらえ」などと楽観しないように。努力なしに、「何とかなる、どうにかしてもらえ」ことなど決してあり得ません。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業制作として発表する。		
到達目標	企画書を作成することができる。 明確な目標を立てることができる。 他のゼミ生と協力して作業を進めることができる。		
授業方法と留意点	卒業研究と就活を両立させること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講生と相談しながら制作活動を進めていく。 作業日誌をつけること。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
			出版社名
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
			出版社名
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み・・・100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3 年次に決定したテーマに基づいて卒業研究レポートの執筆を進める。		
到達目標	テーマに基づいた資料の収集・読解。 卒業研究のアウトラインの完成。		
授業方法と留意点	昨年度中に決定した「テーマ」の確認、発表、卒論の執筆、草稿段階での指導、最終的な完成という手順で進める。 序章、第 1 章の原稿は、早い時期に一度発表を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究を進めるための個別指導を中心とする。 昨年度に引き続き、卒業論文の作成を進める。 全体のプランについて、中間発表を行う（7 月の予定）。 卒業論文の作成に当たって配慮すべき不正防止のための研究倫理を改めて指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業への参加態度・課題の達成（100%）		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	事前事後学習時間 計 60 時間。 課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という広い枠を設けるものの、受講者の関心からテーマを設定して、その研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。		
到達目標	卒業研究レポートの作成。		
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文作成を意識する時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講者の関心に基づいて、調査主題を設定していく。そのうえで、関連するトピックについて書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して 30 分程度で内容について報告する。コメンテーターは 5 分程度のコメントをする。報告者とコメンテーターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してくる。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量が問われる。報告とディスカッションを経て、期末レポートを作成するための指導を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	毎回の授業への取り組み (20%) と発表内容 (30%)、および期末レポート (50%) から総合的に判断する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事件事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。3年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。																		
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	基本的には個人個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 なお、7月に卒論中間発表会を開催するので、留意のこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。 【事前事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>2</td><td>「研究」を進めるためにー研究資料ガイド2021ー</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	「研究」を進めるためにー研究資料ガイド2021ー	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	「研究」を進めるためにー研究資料ガイド2021ー	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3																			
評価方法（基準）	毎月のレポート（50％）および積極的に研究を進めていくという受講態度（50％）で評価します。																		
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	浦野研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	事前事後学習時間 計60時間																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。		
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。		
授業方法と留意点	4月：研究テーマの決め方、資料の集め方などを学ぶ。 5月～6月：資料を収集し、整理する。研究テーマを決定し、予備調査などを行う。 7月：中間報告を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み姿勢 20% 卒業研究の完成度 80%		
学生へのメッセージ	大学生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張って下さい。		
担当者の研究室等	後藤研究室（7号館5階） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	【テーマ】 英語圏、スペイン語圏、中国語圏、インドネシア・マレー語圏、および日本語圏と関わりを持つ言語と文化 【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを生かして、学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。																		
到達目標	・1つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身に着ける。 ・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。 ・社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身に着ける。																		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	ゼミ担当者は英語圏の歴史・文化・文学や英語教育を主なテーマとするが、例年、学生が個々に関心をもつテーマを選ぶ。																		
関連科目	ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	・授業中の討論、発表、および毎週提出するレポートを、総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	・大学生の間にしておきたいことを、1つでもたくさんやってみましょう。 ・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室 ただし前期は11号館に一時移動予定																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習 I、II でのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。		
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。		
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究（文献）の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	ゼミへの取り組みと卒研の内容（100%）		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 鈴木研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	事前事後の学習にかかる総時間を 6 0 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田浦 アマンダ
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English. Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English. Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing. Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed."																		
到達目標	Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to participate in all organised tutorial events, reading outside class for the reading marathon are the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(First term) Thesis topics which have already been decided upon will be researched at length, typed out and a Part 1 copy handed in by the end of the term. Students will attend an English play during the year. Academic writing skills will continue to be studied to help in the process. (Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Oral presentations on thesis topics will take place and hospitality related excursions will be organized with students researching locations. Students will participate in the speech and recitation contest. Second term will be the time for more intensive study in English.																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>English for International Tourism</td><td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td><td>Pearson</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Basic steps to writing research papers</td><td>Kluge and Taylor</td><td>Cengage</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	Attendance, oral presentations, reading and thesis will form the basis for grading along with enthusiastic 100% participation in events organized by the teacher. Be ready to join in the reading marathon, speech/recitation contest, and drama events.																		
学生へのメッセージ	Reading is the core of your English improvement, so be prepared to read lots. English only will be used in class. Please come ready to use English, read in English, write in English, and help others to stay in English for every class. Don't be afraid of																		
担当者の研究室等	田浦研究室 7 号館 5 階 (online this term) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付け、卒業研究を完成させることを最終的には目指す。 具体的には、まず第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」（データ・資料）を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 こうしたプロセスを実践的に試行錯誤し、質の高い卒業研究を完成させるためのゼミにしたいと考えている。																		
到達目標	1. 卒業研究の完成を最終的な目標とする。 2. 演習においては、自らの研究計画をまとめて調査研究を進めるとともに、他の学生の様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	1. 学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 2. 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。 3. 卒業研究の執筆にあたっては、それらのプロセスを踏まえて着手することを前提条件とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人の調査研究に基づく発表を行ない、相互の意見交換を通じて研究の進展を促す。 （なお、発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。） 【シラバス更新にともなうお知らせ】(2021.04.16) ・大学の方針に基づいて原則対面を継続しますが、状況によっては Teams を利用して遠隔で実施する可能性もあります。 ・個人面談や研究相談については、対面・Teams・メール等、いずれの手段でも可です。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等） 50% 卒業研究（研究計画・中間報告を含む） 50%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階 田中研究室 ※ただし2021年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。併せて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究をすすめ、論文を作成する。学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	問題の発見、読解、データの収集・分析、文章の構成、執筆、全体のマネジメント、ディスカッションといった研究に関わるさまざまな能力を身につける。		
授業方法と留意点	各自が論文作成を進めることを中心としながら、研究内容や論文作成、文献講読の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	論文執筆の他に、研究計画書の作成、文献講読/発表、調査/調査報告等の執筆のための研究活動を実施する		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への出席、発言、報告、レジュメ、調査への取り組み姿勢等をもとに総合的に判断する (100%)。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	計 60 時間以上の事前事後学習を必要とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次文化演習での蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業研究レポートを完成に近づけます。																		
到達目標	前期のうちに卒研の全体像が見えてくるところまで進める。例えば4章構成の卒研であれば、2つの章の下書きを書き終え、残りの2章にどのような資料を使って何を書くかという目的が立っている状態にする。																		
授業方法と留意点	・週2回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で30分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたり、研究室のPCと資料を使って自由に作業することができます。 ・ゼミ生全員が集合し、各自の進捗状況について報告し合う全体ミーティングも毎週30分程度行います。 ・PCの基本操作には3年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノートPCを所有して下さい。 ・就職活動と並行して進めなければなりませんので、覚悟してください。「内定が出るまでは何もできなくても仕方がない」という姿勢では、就職活動も卒論もどちらも上手く行きません。両方、しっかりやりましょう。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ポカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』（1996）と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツNASCARの歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、レイ・アーモンド・ストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「白雪姫」 ― グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目	卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミ活動全体への貢献（50%）+卒業論文・研究レポートの進捗状況（50%）																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってくださいねと思います。																		
担当者の研究室等	7号館3階鳥居研究室（前期の耐震工事中は11号館11階に仮研究室が確保される予定）																		
備考	総学習時間は60時間程度。課題へのフィードバックは随時アポイントにより研究室で行う。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	異文化（国際）ビジネス論の分野を中心に、各自がテーマを設定し、以下のような点に注目しながら研究を進めていく。 (1) 文献や資料の収集とその活用法 (2) 論文の書式や引用・参考文献等の表記法 (3) 客観的なデータ分析に基づく論文の展開法 など																		
到達目標	研究テーマの決定と、その卒業研究レポートの骨子を作成できるようになる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で、文献・資料の読解、調査に基づく議論、レポートの作成などを行う。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・研究レポートを Word 文書で作成し、6 月末までに提出する。また、7 月の授業でフィードバックを行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ・異文化（国際）ビジネスなどの分野に関する研究を、演習形式で進めていく。 ・まず、4～5 月に、3 年次末の第 1 回中間研究発表を踏まえて、それぞれの研究テーマを再確認する。 ・次に、論文の基本的な書式や展開について学びながら、参考文献や資料の収集を行っていく。 ・さらに、卒業研究レポートの骨子を作成し、そのレポートを提出する。 【事前学習】 各自の研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理しておくこと。 【事後学習】 授業時の指導内容に基づいて、調査や分析を行い、理解と考察を深めること。 ・授業期間中の事前・事後学習に必要とされる総時間数は 60 時間である。																		
関連科目	文化演習Ⅰ・Ⅱなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて授業中に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて授業中に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて授業中に指示する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢 50% レポートなどの提出物 50%																		
学生へのメッセージ	就職活動との両立を心がけてほしいと願っています。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階 中島研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・発表に関するフィードバックはその都度、レポートに関するフィードバックは 7 月の授業で行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに、関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら、最終的には論文の形式にまとめる。		
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し、それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また、論文を作成する作業を通して、論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめることができる。		
授業方法と留意点	レポート作成の過程では、章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め、その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また、利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理、管理する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	研究テーマは自由に選択してよい。ただ、文化演習で取り組んだテーマを継続的に研究する目的から、この科目の研究テーマも基本的に観光や翻訳や何らかの関わりを持つ内容が望ましい。例えば、「映像作品の中国語版にみる翻訳技術について」というテーマなら、研究の進め方は、英語や日本語による原語セリフと 2 種の中国語セリフを比較対照し、2 人の翻訳者の技術や表現における工夫がどのように違うかについて検討する。また、こうした作業を通して、「よい翻訳とは何か」について考える。		
関連科目	観光の内容を含む語学科目またはパッケージプログラム科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組み、発表：50% 卒業研究レポートの内容：50%		
学生への メッセージ	就職活動で忙しい時期です。あわてることなく、でも着実に研究を進めましょう。		
担当者の 研究室等	中西研究室(7 号館 3 階) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	1. 研究テーマの目的を、社会的背景や文化演習で学んだコミュニケーションの研究と関連付けて理解できること。 2. 研究目的に沿って参考文献や資料を読み、背景知識を身につけ、まとめることができること。 3. 得られた知見を基に、調査や分析を重ね、それらをまとめることができること。 4. まとめた調査内容を基に、自らの視点から考察を加えることができること。 5. 研究成果を取りまとめ、論理的に文章で記すことができること。またそれについて口頭で発表し、的確に受け答えができること。																		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない（「結論」の導き出せる）問い（問題）を設定すること。調査や分析に加え、独自の視点から考察を加えるようにする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点 30%、課題・発表 20%、卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	【学生へのメッセージ】 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次文化演習Ⅰ・Ⅱで各自設定したテーマ及び研究の方向性に基づいて、卒業研究を進める。		
到達目標	研究テーマについて、具体的に説明することができる。 研究テーマについて、必要な資料を集め、整理することができる。 研究テーマについて、資料をもとに問題点を見出すことができる。		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を進める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に取り組む。 テーマに基づいて文献・資料収集を行い、毎週報告する。 材料をもとに検討し、問題点を見出す。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。 事前事後学習時間の目安は計60時間。		
関連科目	卒業研究Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	毎回の報告・課題作成 100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 橋本研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	卒業研究レポートの作成に必要な知識およびデータをすべて取得し、独創性のある章立てを考える。																		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない（「結論」の導き出せる）問い（問題）を設定すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 西洋社会史の総合研究 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約60時間。																		
関連科目	卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	口頭発表・ディスカッション（30％）・レポート（70％）で評価する。																		
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。																		
担当者の研究室等	非常勤講師室（前期3号館2階/後期7号館2階）																		
備考	口頭発表に関するフィードバックは発表時に、レポートに関するフィードバックは、執筆過程でそのつどおこなう。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	This course will focus on the writing of a 3000 word English graduate thesis. During this course, students will get the opportunity to apply the knowledge they acquired in Bunkaenshu I/II. Each student will be working on a self-selected topic, and will be conducting independent research with the assistance of the teacher.																		
到達目標	In this course, you will be able to: Improve your writing and reading stamina. Conduct research both in the library and online. Support your ideas with evidence collected from your research. Manage your own research process. Write at least 1500 words of your graduate thesis.																		
授業方法と留意点	We will be meeting for three hours each week. Each session will begin with some instruction from the teacher on research or writing methods. However, the majority of each session will be dedicated towards independent research and writing by the students. The teacher will be available during this time to support the students.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	This is the planned schedule. However, the schedule may be adjusted in order to respond to student needs. Week 1: Topic Selection Week 2: Research Question and Research Plan Week 3: Selecting Sources Week 4: Writing the Research Section Week 5: Writing the Research Section Week 6: Writing the Research Section Week 7: Writing the Research Section Week 8: Writing the Research Section Week 9: Writing the Research Section Week 10: Writing the Conclusion Week 11: Writing the Conclusion Week 12: Finalizing the Spring Paper Week 13: Research and Reading for the Literature Review Week 14: Research and Reading for the Literature Review Week 15: Research and Reading for the Literature Review																		
関連科目																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	Draft Submission 1 10% Draft Submission 2 10% Draft Submission 3 10% Draft Submission 4 10% Draft Submission 5 10% Research Portfolio 10% Spring Paper																		
学生へのメッセージ	There are no assigned textbooks for this course. However, you may be asked to purchase books that are not available at the library in order to complete your research. The teacher will try to keep the purchase of additional books to a bare minimum. If																		
担当者の研究室等	11 号館 11 階 フーバー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習で学んだ知識と問題意識をもとに、卒業研究のテーマはすでに決定しているものとする。論文の構成と論旨についてゼミ生間で互いに建設的な批判や示唆を与えあうことを重要視する。																		
到達目標	研究テーマをめぐって必要な文献・資料を収集し、先行研究を整理した上で、自分なりの視点と執筆目的を明確に持ち、執筆に取り組む。																		
授業方法と留意点	場合によっては、Teams 上で時間割通りにリアルタイムで授業を行うことがある。ゼミ生の前で発表する機会を学期に 2 度は設け、疑問点、批判、意見を出しあう。テーマによっては可能な限りフィールドワークや聞き取り調査の準備を進める。夏休み前に卒業研究レポートのアウトラインを作り、発表しあう。意見交換を重視する。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】マイノリティ、人権、ジェンダー、移民、多様性の包摂 卒業研究レポートのテーマを決め、必要かつ的確な資料の収集と分析を進める。 原稿を段階的に提出し、教員が書き入れたコメントをもとに論点を整理したり深めたりすることの積み重ねが重要である。 アンケートや聞き取り調査などを要する場合は、その準備（成否は質問項目にかかっている）を進め、実施後は結果の分析をもとにテーマについて考察し、文章化する。 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を定期的に準備する。																		
関連科目	専攻言語科目、専攻言語圏に関する文化科目、マイノリティ論、歴史学・社会学・政治哲学系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	問題意識を深めるための取り組み (50%)、研究経過報告 (50%)																		
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。必ず読むべき文献は、各自のテーマと研究対象地域に応じて提案しますが、先行研究を自主的・意欲的に読むことでテーマと分析視点とを絞り込んでください。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	事前・事後学習に要する総時間数は約 60 時間を目安とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	マイケル ハーキー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.		
到達目標	Students will be able to analyze and synthesize a diverse collection of information, identify a research question, formulate a hypothesis, construct an argument and determine possible solutions.		
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	Individualized for each student.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses. Draft 1: 40%, Final Draft 60%.		
学生への メッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の 研究室等	7 号館 3 階 ハーキー研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」（文化知識）だけではなく、様々なテーマに関心を向け、情報収集・発表を行ってきた。また多読を通して、英語の絵本の深さにも触れた。 4年次は、3年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていく。それぞれに英語の多読を続けながら、卒業研究のテーマ絞り、アウトライン作成、文献や資料の読み込み、論文執筆に取り組む。 最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から2つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたる。																		
到達目標	卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始める。夏休みまでにはレポートの論理的なアウトラインができていて、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とする。 最終的には、口頭試問にて自分の研究目的と概要がきちんと説明できること、副査の試問に適切に答えられることを目指す。																		
授業方法と留意点	卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認する。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考える。調査が必要ならその準備をし、実行する。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねる。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 春休み： テーマの絞り込み、骨子となる参考文献や資料の収集・読み込み、アウトライン作成 前期： 先行研究執筆、必要ならばアンケート・インタビュー調査、現地調査の準備 調査実施 夏休み： 文献の読み込み、調査結果分析、中間発表① 後期： 論文執筆、中間発表②、推敲、（必要であれば）追加調査、分析 1月： 論文提出 1月末： 口頭試問、ピアレビュー、コメント書き それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進める。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎週の課題 30% 中間発表 20% 卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	調べた情報は、信ぴょう性を疑ってかかり、必ず信頼できる出典を明らかにしてください。 卒研レポートは、提出までにどこまで推敲を重ねたかで完成度とそれに伴う評価も変わります。 ★Teams で連絡をします。																		
担当者の研究室等	前期：7号館耐震工事のため）11号館11階																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3 年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。																		
到達目標	自分の選定したテーマについて研究を行うことによって、見識を広め知識を増やし、言葉に対する感受性、異文化感受性を磨き、中国語力を高めるのを旨とする。卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【テーマ】 ・中国の新語について ・日中の擬態語・擬音語について――『無花果の森』とその翻訳小説を例に―― ・中国の四字熟語について――成語童謡を中心に―― ・中国のなぞなぞと成語について ・中国のことわざについて 【事前事後学習課題】 指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オノマトペを中心とした中日対象言語研究</td><td>呉 川</td><td>白帝社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>増補版 万用成語詞典</td><td>『万用成語詞典』編集委員会</td><td>四川辞書出版社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>中国語ことわざ教室</td><td>尹 斌庸</td><td>泉書房</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	オノマトペを中心とした中日対象言語研究	呉 川	白帝社	2	増補版 万用成語詞典	『万用成語詞典』編集委員会	四川辞書出版社	3	中国語ことわざ教室	尹 斌庸	泉書房
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	オノマトペを中心とした中日対象言語研究	呉 川	白帝社																
2	増補版 万用成語詞典	『万用成語詞典』編集委員会	四川辞書出版社																
3	中国語ことわざ教室	尹 斌庸	泉書房																
評価方法（基準）	課題提出 50%、レポート 50%。																		
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（兪研究室） 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	課題等に対し、授業中にフィードバックや添削指導を行う。事前事後学習時間数の目安は 6 0 時間。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するための文献収集・調査・分析の方法や文章表現の技術を発表・討論を通して学ぶ。																		
到達目標	自ら課題を設定し、必要な資料を収集して、典拠を示しつつ、分析、論述することができる。																		
授業方法と留意点	各自が設定したテーマにもとづいて、卒業研究レポートを作成するための計画を立て、資料収集や調査を実施し、分析した内容を発表して、討論する。また段階的に文章化して、検討を加える。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ①対象とする地域について、各自の関心にしたがって研究テーマを設定する。 ②研究計画（卒業研究レポートのおおまかな構成）をたてる。 ③計画にしたがって、資料分析や調査を実施する。 授業では、このサイクルの成果を定期的に発表し、相互に討論して、各自の文章化につなげる。 【事前事後学習】 資料収集や調査を実施し、分析する。 発表のための資料作成・準備をする。 討論をふまえて、文章化する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への貢献 (50%)、発表・レポート (50%) によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室 (7 号館 3 階) 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	3 年次の文化演習で設定したテーマに沿って、各自、資料収集や現地調査を行い、卒業研究レポートの作成に取り組む。各自の研究課題に取り組むなかで、新たな知識を吸収し、思考を深める。																		
到達目標	社会的に意義のある研究課題を発見できる。 研究テーマに関する資料収集や現地調査ができる。 収集した資料を読解し、自身の研究に取り込むことができる。 章立てをつくり、論理的に卒業研究レポートの骨組みをつくることができる。																		
授業方法と留意点	・対面と Teams による遠隔を交えて行います。 ・論文作成方法のレクチャーを行い、各自のテーマの相談を受け、助言する。 ・最初にひとりひとりとテーマについて面談した後、卒業研究レポート提出までの作業についてガイダンスを行う。各自でスケジュールを立て、計画的に卒業研究を進める。随時、論文作成方法に関して解説する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 社会経済の発展に関する研究 各自のテーマに基づいて資料収集や現地調査を行い、進捗を毎週報告する。 【事前事後学習課題】 先行研究を読解し、自身の研究課題を明確にし、論文の骨組みを作る。 序論として論文全体の構想をまとめる。																		
関連科目	卒業研究Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題提出を含む卒業研究の進捗 60% レジュメにもとづく口頭発表 40%																		
学生へのメッセージ	卒業研究は単なる書き物ではなく、自分の思考を表現するいわば自立した自己を確立する手段ともいえます。ユニークな発想と論理的に考えられるようになることを期待しています																		
担当者の研究室等	11 号館スカイラウンジ 藤井研究室																		
備考	事前事後学習の総時間数は約 60 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名(英文)	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	【テーマ】 日本語・日本語教育 【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを基に、広い意味の「日本語教育」-----日本語学・第二言語習得・異文化コミュニケーション・教授法・多文化共生等-----に関して、各自が設定したテーマについて考察し、卒業研究レポートを完成する。																		
到達目標	*スケジュールにしたがって、執筆作業を進めていくことができる。 *自分が設定したテーマに関して、自分なりに調査・分析・考察し、論理的な文章を書くことができる。																		
授業方法と留意点	各自が関心を持ったテーマについて、文献及び資料を収集する。資料収集・調査・分析等の研究方法や論文執筆の指導は個別に行うが、ゼミの学生同士の意見交換を通してよりよい研究論文を執筆する。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自の研究テーマについてのディスカッション、論文執筆、論文添削 【事前事後学習課題】 資料、文献収集、論文執筆、推敲																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業研究に取り組む意欲・態度(20%)、論文の内容(80%)により総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	担当教員と大部分のゼミ生は12月上旬の2週間は日本語教育実習にかかりきりになるので、11月の中旬には9割は完成させることを目標にしましょう！																		
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室) 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考																			

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	【いかにイメージとテキストを対話させるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）をあきらかにし、その現代的意義を考察する。																		
到達目標	【以下の2つの技術を実践する】 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法																		
授業方法と留意点	【学生主体で進める】 1. 卒業研究の関連テキストを読解、発表する。 2. 卒業研究のレポートを随時作成する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【イメージ論と向き合う】 1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。 4. 上記課題を卒業研究レポートに反映させる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	【論文の質が重視される】 1. 卒業論文 [70%] 2. 質問 [20%] 3. 研究姿勢 [10%]																		
学生へのメッセージ	【より良い論文をめざす】 1. やっつけ仕事ではなく、すこしずつでも日々積み上げていく。 2. 添削された箇所を自分なりにしっかり受け止めて消化する。																		
担当者の研究室等	7号館5階 杉山研究室 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	【イメージを見ている自分を自覚する】 1. 事前事後に学修時間計60時間を予定している。 2. 日々接するさまざまなイメージを漠然と見るのではなく、それを見ている自分が感じる印象について自覚的になる。																		

科目名	卒業研究Ⅰ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅠ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	「メディア」に関する各自の研究テーマに基づき、卒業研究を制作する。																		
到達目標	①「メディア」に関する研究テーマを持ち、自ら解説することができる ②研究テーマに関する資料を収集・管理することができる ③研究テーマについて、学術的な成果物を完成させる																		
授業方法と留意点	卒業研究制作の指導を個別に行う。 ゼミ生間で定期的にディスカッションを行い、相互に研究を深める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自で卒業研究に必要な作業（文献調査、フィールドワーク、論文執筆等）を進める。 担当教員によるチェックと指導を行う。 ゼミ生間で進捗報告を行い、ディスカッションを行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み（研究内容、積極性、協調性） 100%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7号館4階（古矢研究室） 2021年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、関連する文献を読み、資料・データを収集し、分析をして卒業研究レポートをまとめていく。		
到達目標	研究テーマを発見できる。 研究計画を立てることができる。 関連する文献を読んで、まとめることができる。 資料・データを収集し、卒業研究レポートを書き始めることができる。		
授業方法と留意点	作成した研究計画にあわせて各自で資料収集等をすすめ、授業時に発表・報告をおこなう。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自でテーマを設定し、担当教員と相談しながら研究計画を立て、それに沿って研究をすすめていく。授業時には主に発表・報告を行うため、授業外でしっかりと準備する必要がある。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	授業への積極的な参加 (30%) 授業における報告・発表 (30%) 資料収集・分析 (40%)		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 高橋研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	文化演習 I、II でのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。		
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。		
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。 対面形式で実施する		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業研究に際し、先行研究（文献）の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組みと卒研の内容 (100%)		
学生への メッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 藤原研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	卒業研究を遂行し、卒業論文を完成させることを通じて、主に学術的な調査研究を行うための基礎的な能力を身に付ける。																		
到達目標	・先行研究を精読し、検討する意義のある問いを立てることができる。 ・研究目的を達成するうえで適切と考えられる方法で、データを収集、分析できる。 ・確固たるデータまたは論拠に基づいて自らの主張を展開できる。 ・他の学生の研究を適切に評価し、建設的なディスカッションに貢献する力を身に付ける。																		
授業方法と留意点	・各自レジュメを作成し、受講者全員に対して発表する。 ・受講者は自分以外の発表に対して質問・コメントを行う。 ・教員はそれぞれの発表に対して質問・コメントを行う。 ・発表者は質問・コメント・ディスカッションを踏まえ、常に計画の修正を行いつつ研究を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・この授業は卒業研究演習です。担当教員による文化演習 I・II をすでに履修していることを前提に演習を進める。 ・卒研のテーマ設定はある程度自由にしてよいが、検討する意義とオリジナリティについて説得的に説明を行えることを条件とする。 ・毎週の授業時間内における演習のほか、学期末にパワーポイントによる中間報告会を行うので原則として全員参加すること。 ・毎週の授業時間は専ら進捗の発表とディスカッションの場とする。作業を行う時間は個々人自らが確保し、提出期限に間に合うよう研究を進めること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業参加と研究への取り組みの積極性 (30%) と、成果物である卒業論文の完成度・水準 (70%) により評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		

科目名	卒業研究 I	科目名 (英文)	Graduation Thesis I
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4278c0		

授業概要・目的	日本のポピュラー音楽は、欧米の音楽文化や、アメリカのポピュラー音楽から多大な影響を受けてきました。この状況を日本のアメリカ化や、西洋化と表現するジャーナリストや学者も多くいます。実際、日本の社会や文化における欧米の影響が強いことは疑いありません。しかし、欧米の影響に焦点を当てるばかりに、洋楽を通して再生産されてきた日本国内における人種、ジェンダー、セクシュアリティ、階級に関する不平等や、洋楽を介した日本と東アジア諸国の交流は、十分に明らかにされてこなかったとも言えるでしょう。そこで、本ゼミでは、日本における洋楽（クラシック音楽や、洋楽に強く影響を受けた日本人アーティストの音楽を含む）を通してわたしたちはどのような日本の社会や文化、人種、ジェンダー、階級、アジアとの関係を作り出してきたかを考察します。また、これらを踏まえ、日本の社会や文化の発信をより平等かつ、グローバルなものへと導くような音楽作品、音楽ジャーナリズム、ファンのあり方はどのようなものかを一緒に考えます。 本授業では、各自の卒業レポートのテーマに関する先行研究の読み込み、資料の収集を進め、指定されたスタイルに従った卒業論文を完成させます。																		
到達目標	1：卒業レポートのテーマに即した先行文献と資料の収集を行うことができる。 2：それらの資料や文献をまとめ、分析し、論理的にまとめた上で、論文の形式に即した論文にまとめることができる。																		
授業方法と留意点	発表などで成り立つ授業なので、なるべく休まないように積極的に参加してください。また音楽体験等も毎週共有しますので、自らの音楽生活に注意を払ってください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業の半ばくらいまでに、卒業レポートのテーマに関する先行文献を調べ、発表していただきます。それらをゼミ生全員で検証し、学術研究に適した文献かどうか批判的に考察します。 授業の後半から、実際の資料収集の進捗状況に関して、できれば、学生さんあたり2回は発表できるようにします。その中で、各自のトピックと関連する音楽作品や、音楽演奏などがあれば、視聴、フィールドワークを一緒に行う可能性もあります。 授業の5回目以降くらいから、目標ページ数や文字数を設定し、実際の執筆に着手します。それを課題として、原則毎週提出していただき、添削や意見交換を行います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『初回授業で伝えます』</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『初回授業で伝えます』</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（文献発表、出席、積極性など）→40% 最終レポート・発表（卒業レポートのテーマ）→ 60%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階永富研究室 2021 年度前期は研究室の場所が変更されます。面会の際は連絡手段の欄に記載された方法で連絡を取ってください。																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	研究テーマ・課題を設定し、論文を作成する。これを通じ、学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	論理的な思考に基づく分析と考察、ディスカッション、文章表現などの能力が身につく。		
授業方法と留意点	研究計画書に沿って、論文作成を進める。研究内容や論文作成の進展状況について、演習で報告し、全員で討議する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	調査を完了し、調査結果についての分析を進め、論文を完成させる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒論への取り組み（100%）		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	赤澤研究室（7 号館 4 階）		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	国際文化演習で行った課題を自らの研究テーマにあわせて資料収集し、それを調査しながら研究報告にまとめる。グループ・ゼミと個人ゼミを組み合わせながら指導を卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	下記の3つの能力を到達目標とする ①課題解決能力：与えられた課題を期限内に解決できる。 ②論理的記述能力：内容を論理的かつ簡潔に記述し、卒業研究レポートを完成させる。 ③社会的理解力：研究テーマの社会的意味や影響力を理解する。																		
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】社会開発・国際開発・国際理解の展望 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業に取り組む姿勢（50％）と、卒業研究の進捗状況（50％）に基づいて評価																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 浅野研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	安達 直樹
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文章（本や論文、記事）を正確に読み、要約し、他人に説明できるようにするための訓練。 各自の研究のための文献（本・資料）を丁寧に読み、要約、発表、議論を行って、早くから「卒業研究」を執筆する。																		
到達目標	文章を解釈し、要約し、説明・表現する力をつける。口頭でも文章でも、ある物事についての他者の研究・見解を、まとめ、それに対する自らの意見を構築し、発表すること。 前期に執筆したレポートを推敲し、加筆修正を行う。																		
授業方法と留意点	リアルタイムのオンライン授業を行う。 各回提出物等期日を守ること。 3 年次から読んできた先行研究を早くからまとめ、時間的余裕を持ってレポートの作成にあたること。 指導された内容を、修正に必ず反映させること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは、スペインを主とする言語文化の研究。 具体的なテーマは、各自が強い関心を持ち、研究し続けられるものであればよいが、例えば次のようなものが考えられる。 ・現代スペインの社会問題：カタルーニャの言語政策・教育など ・スペインやイタリアの歴史文化：ルネサンス期の人文主義、言語の問題（ラテン語から俗語へ、国語の誕生、国家の共通語のモデル）、印刷技術（情報革命）、宗教改革など とにかく文章を読み、要約し、書き、発表（口頭と文章で）する。 同じ指摘、注意を繰り返さず、学んだことをその都度活かし、次の回に反映させること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究とそのための取り組み（100%）																		
学生へのメッセージ	疑問を持つこと、思考すること、文章を読み、書くこと、自分の考えを論理的に説明すること。 課題提出等に際しては、期日や形式を厳守すること。スケジュールや体調の管理、つまり自己管理を徹底しよう。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 安達研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。 就活本位で学業をおろそかにすると本末転倒、卒業も危うくなります。前期からスケジュール管理をしっかり行い、遅くになって卒研に着手し慌てたり、丸投げにしたり、「何とかなる」、「就職が決まったから通してもらえ」などと楽観しないように。努力なしに、「何とかなる、どうにかしてもらえ」ことなど決してあり得ません。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	天野 貴史
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習における議論をさらに発展させ、その成果を卒業制作として発表する。		
到達目標	企画書を作成することができる。 明確な目標を立てることができる。 他のゼミ生と協力して作業を進めることができる。		
授業方法と留意点	卒業研究と就活を両立させること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	受講生と相談しながら制作活動を進めていく。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み・・・100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館3階 天野研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前三後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	有馬 善一
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの続き。 各自が決めたテーマに基づいて、卒業研究を完成させる。		
到達目標	卒業研究を完成させる。		
授業方法と留意点	卒業研究についての個別指導を中心とする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	11 月下旬までに卒業研究レポート第一稿を完成する。 12 月～1 月 卒業研究レポートの修正作業 原稿の完成とチェック。最終的な OK が出るまで。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業への参加態度（30%）、卒業研究レポート（70%）		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 有馬研究室		
備考	事前事後学習 計 60 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	上田 達
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートの作成を指導する。文化人類学という枠を設けるものの、受講者の関心に基づいて研究を指導する。文献の調べ方、データの収集、文章表現など、卒業研究レポート作成のために必要な知識や能力を涵養する。各自の主題に関連する文献講読と、各自の調査主題の報告が授業の中心となる。		
到達目標	卒業研究レポートの作成。		
授業方法と留意点	卒業研究完成のために計画的に取り組むことができるよう、時期にあった指導を行う。前半は完成のための礎作りのための時期とし、後半は論文を完成させる時期とする。 卒業研究を有意義なものにするためには、受講者の主体性が必要である。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	設定した主題およびその近接領域について書かれた文化人類学や社会学の文献の講読を進める。毎回報告者を指名するので、報告者は配付資料を用意して 30 分程度で内容について報告する。コメンテーターは 5 分程度のコメントをする。報告者とコメンテーターと聴衆のいずれの役割においても発言することが求められるので、指定された文献を精読してくる。各自の調査成果報告においても、同様の役割分担を行う。時間を有効に活用するため、授業時間外の作業の質と量が問われる。報告とディスカッションを経て、主題についての知見を深めていき、卒業研究レポートの執筆ができるよう指導する。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	毎回の授業への取り組み（20%）と、発表内容（30%）、完成した卒業研究レポート（50%）から総合的に判断する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7 号館 5 階上田研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	浦野 崇央
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	現代の日本や東南アジア世界をめぐる社会事象および社会現象がいかなる意味をもち、周りにどれほどの影響を与えているのか。3 年次の「文化演習」で得た知見をベースにしつつ、各受講生が個別に選択したテーマについて、ディシプリンの見方を怠らずに、より深い考察を行っていく。																		
到達目標	研究作業を通じて、客観的な眼差しがもてるようになる。また、日頃のゼミ活動を通じて、「目くばり」「気くばり」「心くばり」のできる人間になることを目標とする。																		
授業方法と留意点	基本的には個人個人での取り組みとなるため、研究計画をきっちりと立て、積極的姿勢で進めていくこと。 なお、秋には3 年ゼミと合同でのゼミ旅行を実施し、1 月には卒論最終発表会を開催するので、留意のこと。 また、「卒業研究レポート」提出後に、『浦野ゼミ卒業論文集』としてまとめるので、その点も留意のこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が卒業研究レポート完成へ向けて、それぞれのテーマを設定し、取り組んでいく。 ちなみに、2020 年度のゼミ生が取り組んだテーマ（卒業研究レポート題目）は次の通りである。 「コンビニエンスストアの発展—カフェ化現象に焦点を絞って—」「出会いがもたらすその瞬間—ある焼き芋屋の足跡を通して—」「終わりのなき韓流ブーム」「石油依存と向き合うナイジェリア」「世界に広がる『にほんご』」 【事前事後学習課題】 文献資料・インターネット等を活用し、取り組んでいる研究を深化させること。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>浦野ゼミ卒業論文集各年版</td><td>浦野ゼミ</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>2</td><td>浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> <tr> <td>3</td><td>「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2021—</td><td>浦野崇央編</td><td>摂南大学外国語学部・浦野ゼミ</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	浦野ゼミ卒業論文集各年版	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ	3	「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2021—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	浦野ゼミ卒業論文集各年版	浦野ゼミ	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
2	浦野ゼミ卒業論文執筆マニュアル	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
3	「研究」を進めるために—研究資料ガイド 2021—	浦野崇央編	摂南大学外国語学部・浦野ゼミ																
評価方法（基準）	積極的に研究を進めていくという受講態度（5 0 %）および卒業研究レポートの内容：完成度（5 0 %）で評価します。なお、卒研レポートの完成度の判断については、審査段階における副査の先生のご意見も参考にします。																		
学生へのメッセージ	学生生活の集大成を立派な形として残すことができるように、一生懸命取り組んでいきましょう。																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階（浦野研究室）																		
備考	事前事後学習時間数の目安は 6 0 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	後藤 一章
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	言語や文化に関して興味のあるテーマを選択し、それについて卒業研究を作成していく。		
到達目標	卒業研究を執筆し、それについて発表することが出来るようになる。		
授業方法と留意点	9月～12月：卒業研究を執筆する。 1月：卒業研究の最終発表を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】言語と文化 【事前事後学習課題】文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み姿勢 20% 卒業研究の完成度 80%		
学生へのメッセージ	大学生活も残りあとわずかです。悔いのないように頑張って下さい。		
担当者の研究室等	後藤研究室（7号館5階）		
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	【テーマ】 専攻言語および自分の第1言語と関わりを持つ、言語と文化 【授業概要・目的・到達目標】 学生各自がテーマを設定し、卒業研究レポートを作成する。																		
到達目標	・1つの話題に関して複数の立場で判断する姿勢を身に着ける。 ・情報の精度や公平性を気に掛けるようになる。 ・社会人になってからも通用する、責任をもった調査やレポートの書き方を身に着ける。																		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて資料を収集し、資料の調査・分析など情報のインプットの方法を学ぶ。さらに、論文の構成や発表方法など情報のアウトプットの方法を学び、最終的に卒業研究レポートを完成させる。 授業の連絡・教材・制作過程の提出などに、Teams と Webfolder と Zoom を利用します。同級生同士、また、教員からの添削を Teams で共有するので、自分のレポート以外の進行状況もわかります。 対面授業の再開は、第10週です。出力したドラフト持参で集合してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	担当者は主に英語圏の歴史・文化・文学や英語教育を専攻範囲テーマとするが、学生が個々に関心をもつテーマを選んでもかまわない。 ゼミの学生各自の発表と、リサーチや研究のルールの学習を、並行して行う。社会人として卒業後も活かせる知識や技術となるので、授業はもれなく全力で参加しよう。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	・同級生とのディスカッション 20% ・卒業研究レポート 80%																		
学生へのメッセージ	・大学生の間にしておきたいことを、1つでもたくさんやってみましょう。 ・一生記憶に残るような良いレポートを仕上げましょう。																		
担当者の研究室等	7号館4階 齋藤研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文化演習Ⅰ、Ⅱでのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。		
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。		
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究（文献）の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	ゼミへの取り組みと卒研の内容（100%）		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7号館5階 鈴木研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田浦 アマンド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	In this course, students will continue to research and learn about the topics introduced in 3rd year on tourism and hospitality in English. Cross cultural issues will be discussed to create an awareness of customer service in both Japan and overseas. Students will write further on their graduation thesis in English. Reading for pleasure will be encouraged, to expand vocabulary and improve all four skills - speaking, listening, reading and writing. Oral presentations of thesis material and discussions will take place to encourage confidence in English. Job skills - interviewing techniques and answers will be reviewed.																		
到達目標	Students should improve their four skills of reading, writing listening and speaking in this double period class where only English is used.																		
授業方法と留意点	Regular on-time attendance, a willingness to enthusiastically, continuous and careful research towards finishing the thesis, and reading outside class are the key to a good grade.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	(Second term) Students will continue to write their thesis papers (Part 2). Once again, oral presentations on thesis topics will take place at the end of the term. Students will continue to discuss different topics connected to TED talks and tourism, and will research a hospitality-related topic and present on that in class. Weekly attendance is recommended to improve students' 4 skills in English, and reading online using xreading.com will be encouraged (100,000 word goal)																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>English for International Tourism</td><td>Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe</td><td>Pearson</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Basic steps to writing research papers</td><td>Kluge and Taylor</td><td>Cengage</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson	2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	English for International Tourism	Iwonna Dubicka & Margaret O'Keefe	Pearson																
2	Basic steps to writing research papers	Kluge and Taylor	Cengage																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	20% attitude (on time, respectful, in contact, supporting classmates, using English, enthusiastic) 10% Note-taking from class including in-class content and new vocabulary & Ted talk comments 20% One tourism-related powerpoint presentation 10% extensiv																		
学生へのメッセージ	Notebook & textbooks required. Please prepare these. Think about the positives this term of once again being online - staying safe, protecting yourselves, family and friends, benefitting from a mask-free environment when taking the class from home and Eng																		
担当者の研究室等	Online from home																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	《近現代地域研究》 各人の興味や関心を出発点として、論文を書くための手順を段階的に身に付け、卒業研究を完成させることを最終的には目指す。 具体的には、まず第一に、他の人にも興味や関心を持ってもらえる「テーマ」を設定する。第二に、そのテーマに関連する基礎的な情報を集め、すでにある「先行研究」を探し、未解決の「問題」に的を絞る。第三に、そのような問題を考えるための「材料」（データ・資料）を集める。そして第四に、それらを使って、言える範囲で「論理的に」結論を出していく。 こうしたプロセスを実践的に試行錯誤し、質の高い卒業研究を完成させるためのゼミにしたいと考えている。																		
到達目標	1. 卒業研究の完成を最終的な目標とする。 2. 演習においては、自らの研究計画をまとめて調査研究を進めるとともに、他の学生の様々な興味関心に基づく議論を理解した上で、ポイントを整理しながら生産的な質問やコメントができるようになることを目指す。																		
授業方法と留意点	1. 学生主体で進行することを原則とし、教員はそのサポートを適宜行なう。 2. 各人の興味・関心に基づくブックレビュー・研究計画発表・調査報告などを行ない、その場で相互に意見を交わすものとする。 3. 卒業研究の執筆にあたっては、それらのプロセスを踏まえて着手することを前提条件とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人の調査研究に基づく発表を行ない、相互の意見交換を通じて研究の進展を促す。 （なお、発表に当たっては、事前にアドバイスを受け、十分な準備を心がけること。）																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（発表内容・意見交換の場での貢献・その他課題等） 50% 卒業研究（研究計画・中間報告を含む） 50%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 4 階 田中研究室 ※ただし 2021 年度は校舎改修工事のため、一時的な研究室移動があります。																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。併せて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行なう。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰの成果を継続し、論文を完成させる。学術的な調査・資料分析の方法、論理的な思考、文章の技術を習得する。		
到達目標	問題の発見、読解、データの収集・分析、文章の構成、執筆、全体のマネジメント、ディスカッションといった研究に関わるさまざまな能力を身につける。		
授業方法と留意点	個別に調査、文献講読、分析等を行うとともに、構成員で議論を深めながら論文を完成させる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	論文を完成させるために、文献講読/発表、調査/調査報告などといった執筆のための研究活動を実施する		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業への出席、発言、報告、レジュメ、調査への取り組み姿勢等をもとに総合的に判断する（平常点：100%）		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考	事前事後学習時間 計 60 時間。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	前期までの蓄積をもとに各自の研究を進め、アメリカ合衆国の文化、歴史、社会についての卒業論文（研究レポート）を完成させます。																		
到達目標	自分自身、指導教員、査読や口頭試問等をしてくださる先生方の全員が満足できる卒業研究レポートを期限内に提出し、外国語学部生としてのプライドと達成感を持って本学を卒業すること。																		
授業方法と留意点	・前期同様、週 2 回の授業時間を分割し、各ゼミ生について隔週で 30 分程度のアポイントを取り、研究室で原稿の添削を受けたり、次のアポイントまでの進め方についての個別指導を受けてもらいます。個人面談とは違いますので、アポイントを取っている学生以外にも研究室を開放します。ゼミ仲間が受けている添削やアドバイスを聞いて自分の作業への参考にしたたり、研究室の PC と資料を使って自由に作業することができます。 ・ゼミ生全員が集合し、各自の進行状況について報告し合う全体ミーティングも毎週 30 分程度行います。 ・PC の基本操作には 3 年次のうちに完全に習熟している必要があります。経済的に困難でなければ、自分のノート PC を所有して下さい。 ・卒論、卒業研究レポートは、大学での学業の締めくくりです。とにかく期限を守ること、連絡を欠かさないことが大事です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 これまでのゼミ生の研究テーマには次のようなものがあります。 「ディズニーアニメを巡る人種差別論争：『ボカホンタス』『アラジン』を中心に」「ハリウッド映画が描く公民権運動：『ロング・ウォーク・ホーム』を例に」「映画『インデペンデンス・デイ』（1996）と多文化主義」「ラテンポップの舞台裏：1990 年代のサルサ音楽ブームについて」「アメリカ独自のモータースポーツ NASCAR の歴史」「アメリカにおけるラグビーの歴史」「ジャズ・トランペッター、ルイ・アームストロングとマイルス・デイビス」「初期ハリウッドの日本人スター早川雪洲」「『白雪姫』 — グリム童話からディズニーアニメへ」「黒人メジャーリーガー、ジャッキー・ロビンソンとアメリカ社会」「チャーリー・チャップリンと赤狩りの時代」「マイケル・ジャクソンと人種問題」「黒人だけのプロ野球、ニグロ・リーグの歴史とその遺産」「黒人ブルースと白人ロックミュージシャンたち」 【事前事後学習課題】 資料を読み、文章を書くことを日々の習慣にすること。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>初回授業で指示</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回授業で指示			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	初回授業で指示																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミ活動全体への貢献 (50%) + 卒業論文・研究レポート (50%)																		
学生へのメッセージ	ゼミでの学びを成功させるのは個人プレーであり、チームプレーでもあります。授業を受けるというより、仕事する、という意識で頑張ってくださいと思います。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 鳥居研究室																		
備考	総学習時間は 60 時間程度。課題へのフィードバックは随時アポイントにより研究室で行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	中島 直嗣
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	4年次前期の卒業研究Ⅰで学んだことを踏まえて、異文化(国際)ビジネスの分野を中心に研究を進め、各自で選んだテーマについて卒業研究レポートを完成させる。																		
到達目標	・資料やデータの客観的かつ多角的な分析力や、それに基づく論理的な思考力を身につけることができる。 ・各自で選んだテーマについて、しっかりとした卒業研究レポートを完成させることができる。																		
授業方法と留意点	・授業は演習形式で、文献・資料の読解、調査に基づく議論、レポートの作成などを行う。 ・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・卒業研究レポートの中間報告書をWord文書で作成し、11月末までに提出する。12月の授業でフィードバックを行う。 ・卒業研究レポートの完成版を冬期休暇終了日(1月上旬)までに提出する。その後の授業でフィードバックを行う。 ・卒業研究レポートの提出期日である1月の第3月曜日までに同レポートの修正を行い、提出する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 卒業研究レポートの作成を計画的に進めていく。 ・まず、前期の研究成果に基づいて、論文の概要をまとめ、後期開始直後に中間研究発表を行う。 ・卒業研究レポートの中間報告書をWord文書で作成し、11月末までに提出する。12月の授業でフィードバックを行う。 ・卒業研究レポートの完成版を冬期休暇終了日(1月上旬)までに提出する。その後の授業でフィードバックを行う。 ・卒業研究レポートの提出期日である1月の第3月曜日までに同レポートの修正を行い、提出する。 【事前学習】 各自の研究のテーマについて、文献・資料を調べて、その内容を整理しておくこと。 【事後学習】 授業時の指導内容に基づいて、調査や分析を行い、理解と考察を深めること。 ・事前・事後学習の総時間数は60時間とする。																		
関連科目	卒業研究Ⅰなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>必要に応じて授業中に指示する。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要に応じて授業中に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要に応じて授業中に指示する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業研究レポートの完成度 70% 研究活動に取り組む姿勢 30%																		
学生へのメッセージ	計画的な研究活動を心がけてほしいと思います。																		
担当者の研究室等	7号館4階 中島研究室																		
備考	・授業時間内に質疑応答時間を設けるので、積極的に活用してほしい。 ・事前事後学修時間数の目安は60時間 ・発表に関するフィードバックはその都度、レポートに関するフィードバックは上記の日程で授業内で行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	中西 正樹
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文化演習で研究したテーマをもとにそれをより深く掘り下げるとともに、関連する問題を幅広く取り上げながら独自の見解を展開する。授業で調べた内容を逐次発表しながら、最終的には論文の形式にまとめる。																		
到達目標	収集した資料から必要なものを選び出し、それを効果的に利用しながら議論を展開する能力を身につける。また、論文を作成する作業を通して、論理的に思考しそれを分かりやすい文章にまとめることができる。																		
授業方法と留意点	レポート作成の過程では、章立てとそれを作成するスケジュールを自ら決め、その進捗状況をつねに指導教員に報告する。また、利用する可能性のある資料はすべて引用元を明らかにした状態で整理、管理する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	研究テーマは自由に選択してよい。ただ、文化演習で取り組んだテーマを継続的に研究する目的から、この科目の研究テーマも基本的に観光や翻訳と何らかの関わりを持つ内容が望ましい。例えば、「映像作品の中国語版にみる翻訳技術について」というテーマなら、研究の進め方は、英語や日本語による原語セリフと 2 種の中国語セリフを比較対照し、2 人の翻訳者の技術や表現における工夫がどのように違うかについて検討する。また、こうした作業を通して、「よい翻訳とは何か」について考える。																		
関連科目	観光の内容を含む語学科目またはパッケージプログラム科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	ゼミへの取り組み、発表：50% 卒業研究レポートの内容：50%																		
学生へのメッセージ	就職活動で忙しい時期です。あわてることなく、でも着実に研究を進めましょう。																		
担当者の研究室等	中西研究室（7 号館 3 階）																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	1. 研究テーマの目的を、社会的背景や文化演習で学んだコミュニケーションの研究と関連付けて理解できること。 2. 研究目的に沿って参考文献や資料を読み、背景知識を身につけ、まとめることができること。 3. 得られた知見を基に、調査や分析を重ね、それらをまとめることができること。 4. まとめた調査内容を基に、自らの視点から考察を加えることができること。 5. 研究成果を取りまとめ、論理的に文章で記述することができること。またそれについて口頭で発表し、的確に受け答えができること。																		
授業方法と留意点	まず、卒業研究レポート提出までの作業について簡単なガイダンスをおこなった後、各自、執筆までのスケジュールを立てる。できるだけ多くの文献を読むことで問題意識を高め、先行研究をふまえながら、無理のない（「結論」の導き出せる）問い（問題）を設定すること。調査や分析に加え、独自の視点から考察を加えるようにする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自が決めた内容に関し、それに関する本や文献に当たり、しっかり読み込んでまとめながら書き進めること。 【事前事後学習課題】 文献・インターネット等で内容を調べてくる。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点 30%、課題・発表 20%、卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	卒業研究レポートの作成は大変な作業ですが、頑張ってよいレポートを書いてください。																		
担当者の研究室等	7号館4階西川研究室																		
備考	【学生へのメッセージ】 卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の1年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。 課題等のフィードバックは授業中に行います。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰに引き続き、卒業研究を進める。		
到達目標	自分で調べ、考察したテーマについて、まとめて報告することができる。		
授業方法と留意点	各自のテーマに基づいて、資料収集・調査及び分析等を行い、卒業研究を進める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に取り組む。 テーマに基づいて文献・資料収集を行い、毎週報告する。 材料をもとに検討し、問題点を見出す。 毎回、事前の文献収集とまとめ、事後の整理が必要である。 事前事後学習時間の目安は計60時間。		
関連科目	卒業研究Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	毎回の報告・課題 60% 卒業研究レポートの内容 40%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階 橋本研究室		
備考	課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	林田 敏子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3 年次の文化演習で設定したテーマ（修正・変更可）にもとづき、各自、個別研究を深めていく。調査・整理→発表・討論→レポート・原稿作成という一連の作業を繰り返すなかで、知識・思考を深め、内容を洗練させたうえで、卒業研究レポートに取り組んでほしい。																		
到達目標	4 年間の集大成として、卒業研究レポートを書き上げる。																		
授業方法と留意点	中間報告をまじえながら各自執筆にとりかかる。論理的展開と明快な文章を心がけ、4 年間の集大成をおこなってほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 西洋社会史の総合研究 【事前事後学習課題】 授業中に適宜指示する。事前事後学習の総時間数は約 60 時間。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	口頭発表・ディスカッション（30%）・卒業研究レポート（70%）で評価する。																		
学生へのメッセージ	卒業研究への取り組みは、一つのテーマを徹底的に掘り下げる最後の機会です。最後の 1 年をどう過ごすかで、卒業後の人生も大きく変わってきます。がんばりましょう。																		
担当者の研究室等	非常勤講師控室																		
備考	口頭発表に関するフィードバックは発表時に、卒業研究レポートに関するフィードバックは、執筆過程でそのつどおこなう。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	This course will focus on the writing of a 3000 word English graduate thesis. During this course, students will get the opportunity to apply the knowledge they acquired in Bunkaenshu I/II. Each student will be working on a self-selected topic, and will be conducting independent research with the assistance of the teacher.																		
到達目標	In this course, you will be able to: Improve your writing and reading stamina. Conduct research both in the library and online. Support your ideas with evidence collected from your research. Manage your own research process. Complete your thesis.																		
授業方法と留意点	We will be meeting for three hours each week. Each session will begin with some instruction from the teacher on research or writing methods. However, the majority of each session will be dedicated towards independent research and writing by the students. The teacher will be available during this time to support the students.																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	This is the planned schedule. However, the schedule may be adjusted in order to respond to student needs. Week 1: Introduction and Paper Planning Week 2: Writing the Literature Review Week 3: Writing the Literature Review Week 4: Writing the Literature Review Week 5: Writing the Literature Review Week 6: Writing the Literature Review Week 7: Writing the Literature Review Week 8: Writing the Introduction Week 9: Writing the Introduction Week 10: Finalizing the Graduation Paper Week 11: Finalizing the Graduation Paper Week 12: Graduation Paper Final Check and Submission Week 13: Thesis Feedback Week 14: Thesis Feedback Week 15: Thesis Feedback																		
関連科目																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	Draft Submission 1 10% Draft Submission 2 10% Draft Submission 3 10% Draft Submission 4 10% Draft Submission 5 10% Research Portfolio 10% Thesis																		
学生へのメッセージ	There are no assigned textbooks for this course. However, you may be asked to purchase books that are not available at the library in order to complete your research. The teacher will try to keep the purchase of additional books to a bare minimum. If																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 フーバー研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	北條 ゆかり
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートを執筆する過程で論理的思考力と文章力を養い、テーマを決めるに至った問題意識をつねに念頭におき、それへの答えを導き出す論文を書き上げる。																		
到達目標	テーマに関して、日本語文献だけに頼らず、専攻言語で培った力を十分に生かし資料・文献を渉猟する。そうして先行研究を整理したうえで、その中に自分の論文の位置づけを見出し、オリジナリティのある論文を作成する。																		
授業方法と留意点	6 週目まで Teams 上で時間割通りにアルタイム授業を行う。7 週目から対面授業とする。 夏期休業中の成果を後期の始めにゼミで報告しあい、論文の構成を明確に組み立てる。以後、各自が章・節ごとに原稿を提出し、教員とゼミ仲間からのコメントを受け、11 月末までに原稿を書き上げる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】マイノリティ、人権、ジェンダー、移民、多様性の包摂 後期開講時にはすでに論文の構成は明確に組み立てており、導入部分を執筆していることが求められる。 以後、各自が章・節ごとの発表を少しずつ行い、質疑応答を交わし合うなかで推敲を加え、論文を完成させる。ゼミ生間で建設的な批判や示唆を与えあうことが重要である。 【事前事後学習課題】段階に応じた研究報告を定期的に準備する。																		
関連科目	専攻語科目、専攻言語圏に関する科目全般、マイノリティ論、社会学・政治哲学系科目。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	研究報告の積み重ね(50%)とそれらを自己の問題意識に沿っていかに論理的にまとめあげることができたか(50%)を評価する。																		
学生へのメッセージ	思考の過程をしっかりと刻んだ卒業研究レポートを計画性をもって書き上げてください。 各自の研究課題に応じて必要かつ重要と思われる文献を指示しますので、英語やスペイン語のものも読みこなしてください。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 北條研究室																		
備考	事前・事後学習に約 60 時間を要する。課題等のフィードバックは授業中に行うとともに、レポートは個別に添削し、やりとりする。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	マイケル ハーギー
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	Students will continue to develop their ideas started in 3rd year and compose a final thesis.		
到達目標	Students will be able to analyze and synthesize a diverse collection of information, identify a research question, formulate a hypothesis, construct an argument and determine possible solutions.		
授業方法と留意点	Students will collect documents on their topics, evaluate and analyze the information, and together with feedback from the instructor, compose their final research paper.		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	Individualized for each student.		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Handouts	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	Students will be evaluated on the content, cohesion and clarity of thought in their graduation theses. Draft 1: 40%, Final Draft 60%.		
学生へのメッセージ	The roots of education are bitter, but the fruit is sweet.		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 ハーギー研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	松田 早恵
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3 年次には英語圏に共通する「知っておくべき事柄」（文化知識）だけではなく、様々なテーマに関心を向け、情報収集・発表を行ってきた。また多読を通して、英語の絵本の深さにも触れた。 4 年次は、3 年次に築いた「英語圏の基礎知識」の土台の上に、「最近の」あるいは「今の」情報を加えていく。それぞれに英語の多読を続けながら、卒業研究のテーマ絞り、アウトライン作成、文献や資料の読み込み、論文執筆に取り組む。 最終的には、英語、日本語、文学、映画、教育、文化の中から 2 つ以上を結びつけた卒業研究テーマを掘り下げ、新たな視点を加えながら論文の作成にあたる。																		
到達目標	卒業研究レポートとして扱うテーマを選び、資料収集、文献の読み込みを始める。夏休みまでにはレポートの論理的なアウトラインができていて、最終的に完成度の高い論文を仕上げることを目標とする。 最終的には、口頭試問にて自分の研究目的と概要がきちんと説明できること、副査の試問に適切に答えられることを目指す。																		
授業方法と留意点	卒業研究レポート執筆の手順、構成、テーマなどを確認する。文献・資料の収集を続ける傍ら、それを整理し、論文の大まかな構成を考える。調査が必要ならその準備をし、実行する。指導を受けながら、情報の追加、削除、論理の修正など推敲を重ねる。																		
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 春休み： テーマの絞り込み、骨子となる参考文献や資料の収集・読み込み、アウトライン作成 前期： 先行研究執筆、必要ならばアンケート・インタビュー調査、現地調査の準備 調査実施 夏休み： 文献の読み込み、調査結果分析、中間発表① 後期： 論文執筆、中間発表②、推敲、（必要であれば）追加調査、分析 1 月： 論文提出 1 月末： 口頭試問、ピアレビュー、コメント書き それぞれが教員の指導とアドバイスを受けながら執筆を進める。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	毎週の課題 30% 中間発表 20% 卒業研究レポート 50%																		
学生へのメッセージ	調べた情報は、信ぴょう性を疑ってかかり、必ず信頼できる出典を明らかにしてください。 卒研レポートは、提出までにどこまで推敲を重ねたかで完成度とそれに伴う評価も変わります。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 松田研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題などのフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	兪 鳴蒙
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	3 年次の演習で習得した知識をベース、担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査等を行い、研究手法や学問的思考を向上させる。																		
到達目標	自分の選定したテーマについて研究を行うことによって、見識を広め知識を増やし、言葉に対する感受性、異文化感受性を磨き、中国語力を高めるのを旨とする。卒業研究レポート作成を指導し、研究能力を育成する。																		
授業方法と留意点	各自テーマを決め、収集した資料と検討を行った文章をパソコンディスプレイで提示しながら説明するとともに討議を行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【テーマ】 - 中国の新語について - 日中の擬態語・擬音語について――『無花果の森』とその翻訳小説を例に―― - 中国の四字熟語について――成語童謡を中心に―― - 中国のなぞなぞと成語について - 中国のことわざについて 【事前事後学習課題】 指示に従って、文献等で内容を調べたうえ、レポート草稿を作成して来る。資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オノマトペを中心とした中日対象言語研究</td><td>呉 川</td><td>白帝社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>増補版 万用成語詞典</td><td>『万用成語詞典』編集委員会</td><td>四川辞書出版社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>中国語ことわざ教室</td><td>尹 斌庸</td><td>泉書房</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	オノマトペを中心とした中日対象言語研究	呉 川	白帝社	2	増補版 万用成語詞典	『万用成語詞典』編集委員会	四川辞書出版社	3	中国語ことわざ教室	尹 斌庸	泉書房
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	オノマトペを中心とした中日対象言語研究	呉 川	白帝社																
2	増補版 万用成語詞典	『万用成語詞典』編集委員会	四川辞書出版社																
3	中国語ことわざ教室	尹 斌庸	泉書房																
評価方法（基準）	課題提出 50%、レポート 50%。																		
学生へのメッセージ	努力を惜しまなければ、成功につながります。																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（兪研究室）																		
備考	課題等に対し、フィードバックや添削指導を行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	小都 晶子
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究レポートを作成するための文献収集・調査・分析の方法や文章表現の技術を発表・討論を通して学ぶ。																		
到達目標	自ら課題を設定し、必要な資料を収集して、典拠を示しつつ、分析、論述することができる。																		
授業方法と留意点	卒業研究レポートの研究計画にしたがって、資料を収集し、分析した内容を発表して、討論する。また段階的に文章化して、相互に検討を加え、卒業研究レポートの完成につなげる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 ①研究計画にしたがって、資料分析を実施する。 ②発表、討論をふまえて、文章化する。 ③文章を推敲し、全体の構成を組み立てる。 授業では、このサイクルの成果を定期的に発表し、相互に討論して、卒業研究レポートの完成につなげる。 【事前事後学習】 資料収集を実施し、分析する。 発表のための資料作成・準備をする。 討論をふまえて、文章化する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	授業への貢献、卒業研究レポートへの取り組み（50%）、卒業研究レポート（50%）によって総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	小都研究室（7 号館 3 階）																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。あわせて、卒業研究レポートの作成を進める。課題等のフィードバックは授業中に行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	藤井 嘉祥
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究Ⅰで作成した論文の骨組みと序論を土台として、卒業研究レポートを執筆し完成させる。																		
到達目標	集大成としての卒業研究レポートを完成させる。 社会的に意義のある研究課題を設定し、先行研究を踏まえて、論理的に自身の議論を展開できる。																		
授業方法と留意点	・対面と Teams を併用して行う。 ・初回授業については前日までに各自の学内メール宛てに連絡する。 ・執筆過程での指導は原則的に Teams での遠隔授業の形式で行う。中間報告会、最終報告会および対面での指導を要する場合は対面授業の形式で行う。状況により一律遠隔授業に切り替わった場合にはすべて Teams での遠隔で行う。 ・中間報告を交えながら、各自で自分の研究の進捗を随時確認し、スケジュールを立てて計画的に卒業研究レポートの執筆を進める。論文の構成や議論の展開の仕方について随時解説する																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容】 社会経済の発展に関する研究 各自のテーマに基づいて資料収集や現地調査を行い、執筆を進め、進捗を毎週報告する。 【事前事後学習課題】 各自資料が集まった部分から執筆を進め、添削を受けて、修正しながら、完成させていく。																		
関連科目	卒業研究Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	卒業研究レポートの内容 70% 卒業研究に取り組む態度 30%																		
学生へのメッセージ	卒業研究は単なる書き物ではなく、自分の思考を表現するいわば自立した自己を確立する手段ともいえます。ユニークな発想と論理的に考えられるようになることを期待しています																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 藤井研究室																		
備考	事前事後学習の総時間数は約 60 時間。 課題等のフィードバックは執筆過程で随時行う。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	【テーマ】 日本語・日本語教育 【授業概要・目的・到達目標】 3年次の文化演習で学んだことを基に、広い意味の「日本語教育」-----日本語学・第二言語習得・異文化コミュニケーション・教授法・多文化共生等-----に関して、各自が設定したテーマについて考察し、卒業研究レポートを完成する。																		
到達目標	*スケジュールにしたがって、執筆作業を進めていくことができる。 *自分が設定したテーマに関して、自分なりに調査・分析・考察し、論理的な文章を書くことができる。																		
授業方法と留意点	各自が関心を持ったテーマについて、文献及び資料を収集する。資料収集・調査・分析等の研究方法や論文執筆の指導は個別に行うが、ゼミの学生同士の意見交換を通してよりよい研究論文を執筆する。																		
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ・内容・方法】 各自の研究テーマについてのディスカッション、論文執筆、論文添削 【事前事後学習課題】 資料、文献収集、論文執筆、推敲																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>よくわかる卒論の書き方</td><td></td><td>ミネルヴァ書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	よくわかる卒論の書き方		ミネルヴァ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	よくわかる卒論の書き方		ミネルヴァ書房																
2																			
3																			
評価方法(基準)	卒業研究に取り組む意欲・態度(20%)、論文の内容(80%)により総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	スケジュールをしっかりと立てて進めていってください。 参考文献は、各自のテーマに合わせて紹介します。 担当教員と大部分のゼミ生は12月上旬の2週間は日本語教育実習にかかりきりになるので、11月の中旬には9割は完成させることを目標にしましょう！																		
担当者の研究室等	7号館4階 門脇研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名(英文)	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	杉山 博昭
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	【いかにイメージとテキストを対話させるか】 各自は「古今東西の芸術、もしくはそれに類する視覚的表象」から、自分の考察対象とする具体的なイメージ（作品など）を選択する。つぎに、そのイメージと関わりのあるテキスト（研究書、雑誌、論文など）を探し出し、読解を進める。最終的に、イメージとテキストを対比させることをとおして、その背後に存在する価値（人間観、社会観、自然観、宇宙観など）をあきらかにし、その現代的意義を考察する。																		
到達目標	【以下の2つの技術を実践する】 1. 視覚的なイメージを言葉に置き換える方法 2. 抽象的なテキストを読解して自分なりに理解する方法																		
授業方法と留意点	【学生主体で進める】 1. 卒業研究の関連テキストを読解、発表する。 2. 卒業研究のレポートを随時作成する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【イメージ論と向き合う】 1. 視覚的表象をめぐる社会的・時代的背景を考察する。 2. 隔週で作品描写や文献読解の報告を実施する。 3. 視覚的表象を扱う際の基本的なスキルを習得する。 4. 上記課題を卒業研究レポートに反映させる。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	【論文の質が重視される】 1. 発表内容 [90%] 2. 研究姿勢 [10%]																		
学生へのメッセージ	【より良い論文をめざす】 1. やっつけ仕事ではなく、すこしずつでも日々積み上げていく。 2. 添削された箇所を自分なりにしっかり受け止めて消化する。																		
担当者の研究室等	7号館5階 杉山研究室																		
備考	【イメージを見ている自分を自覚する】 1. 事前事後に学修時間計60時間を予定している。 2. 日々接するさまざまなイメージを漠然と見るのではなく、それを見ている自分が感じる印象について自覚的になる。																		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	古矢 篤史
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	「メディア」に関する各自の研究テーマに基づき、卒業研究を制作する。		
到達目標	①「メディア」に関する研究テーマを持ち、自ら解説することができる ②研究テーマに関する資料を収集・管理することができる ③研究テーマについて、学術的な成果物を完成させる		
授業方法と留意点	卒業研究制作の指導を個別に行う。 ゼミ生間で定期的にディスカッションを行い、相互に研究を深める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自で卒業研究に必要な作業（文献調査、フィールドワーク、論文執筆等）を進める。 担当教員によるチェックと指導を行う。 ゼミ生間で進捗報告を行い、ディスカッションを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
			出版社名
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
			出版社名
評価方法（基準）	卒業研究への取り組み（研究内容、積極性、協調性） 100%		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	7号館4階（古矢研究室）		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	高橋 真理子
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	自らの関心に基づいた設定したテーマについて、卒業研究レポートを完成させる。		
到達目標	卒業研究レポートを完成できる。 自らのテーマについて発表できる。 クラスメートとディスカッションし、互いの卒業研究レポートへフィードバックできる。		
授業方法と留意点	各自で卒業研究レポートを作成していく。授業時は報告・発表を行い、クラスメートとディスカッションし、互いにフィードバックを行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	資料・データの分析に基づき、卒業研究レポートを完成させる。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業への積極的な参加・取り組み（30%） 卒業研究レポート（70%）		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	高橋研究室（7号館4階）		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前三後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	藤原 崇
ディプロマポリシー（DP）	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	文化演習Ⅰ、Ⅱでのフィールドワークや調査に基づき、興味のあるテーマを掘り下げ、各自の分析を卒業研究レポートとしてまとめる。		
到達目標	各自の卒業研究レポートを作成する。		
授業方法と留意点	レポートの執筆に向け、研究計画に従って着実に進めていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業研究に際し、先行研究（文献）の読み込み、データの収集・集約・分析、説得力のある文章の執筆などを行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	ゼミへの取り組みと卒研の内容（100%）		
学生へのメッセージ	学生自ら主体的に取り組んでもらえたらと思います。		
担当者の研究室等	7号館4階 藤原研究室		
備考	資料の読み込み、発表の準備などにかかる事前事後の総時間を60時間程度とする。合わせて、卒業研究レポートの作成を進めていく。課題等のフィードバックは授業中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation ThesisⅡ
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	小林 基
ディプロマポリシー(DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	卒業研究を遂行し、卒業論文を完成させることを通じて、主に学術的な調査研究を行うための基礎的な能力を身に付ける。		
到達目標	・先行研究を精読し、検討する意義のある問いを立てることができる。 ・研究目的を達成するうえで適切と考えられる方法で、データを収集、分析できる。 ・確固たるデータまたは論拠に基づいて自らの主張を展開できる。 ・他の学生の研究を適切に評価し、建設的なディスカッションに貢献する力を身に付ける。		
授業方法と留意点	・各自レジュメを作成し、受講者全員に対して発表する。 ・受講者は自分以外の発表に対して質問・コメントを行う。 ・教員はそれぞれの発表に対して質問・コメントを行う。 ・発表者は質問・コメント・ディスカッションを踏まえ、常に計画の修正を行いつつ研究を進める。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	・この授業は卒業研究演習です。担当教員による文化演習Ⅰ・Ⅱをすでに履修していることを前提に演習を進める。 ・卒研のテーマ設定はある程度自由にしてよいが、検討する意義とオリジナリティについて説得的に説明を行えることを条件とする。 ・毎週の授業時間は専ら進捗の発表とディスカッションの場とする。作業を行う時間は個々人自らが確保し、提出期限に間に合うよう研究を進めること。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	授業参加と研究への取り組みの積極性（30％）と、成果物である卒業論文の完成度・水準（70％）により評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	卒業研究Ⅱ	科目名（英文）	Graduation Thesis II
学部	外国語学部	学科	外国語学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	永富 真梨
ディプロマポリシー (DP)	DP3◎DP4◎DP5◎DP6◎		
科目ナンバリング	LDL4279c0		

授業概要・目的	日本のポピュラー音楽は、欧米の音楽文化や、アメリカのポピュラー音楽から多大な影響を受けてきました。この状況を日本のアメリカ化や、西洋化と表現するジャーナリストや学者も多くいます。実際、日本の社会や文化における欧米の影響が強いことは疑いありません。しかし、欧米の影響に焦点を当てるばかりに、洋楽を通して再生産されてきた日本国内における人種、ジェンダー、セクシュアリティ、階級に関する不平等や、洋楽を介した日本と東アジア諸国の交流は、十分に明らかにされてこなかったとも言えるでしょう。そこで、本ゼミでは、日本における洋楽（クラシック音楽や、洋楽に強く影響を受けた日本人アーティストの音楽を含む）を通してわたしたちはどのような日本の社会や文化、人種、ジェンダー、階級、アジアとの関係を作り出してきたかを考察します。また、これらを踏まえ、日本の社会や文化の発信をより平等かつ、グローバルなものへと導くような音楽作品、音楽ジャーナリズム、ファンのあり方はどのようなものかを一緒に考えます。 本授業では、各自の卒業レポートのテーマに関する先行研究の読み込み、資料の収集を進め、指定されたスタイルに従った卒業論文を完成させます。																		
到達目標	1：卒業レポートのテーマに即した先行文献と資料の収集を行うことができる。 2：それらの資料や文献をまとめ、分析し、論理的にまとめた上で、論文の形式に即した論文にまとめることができる。																		
授業方法と留意点	発表などで成り立つ授業なので、なるべく休まないように積極的に参加してください。また音楽体験等も毎週共有しますので、自らの音楽生活に注意を払ってください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業の半ばくらいまでに、卒業レポートのテーマに関する先行文献を調べ、発表していただきます。それらをゼミ生全員で検証し、学術研究に適した文献かどうか批判的に考察します。 授業の後半から、実際の資料収集の進捗状況に関して、できれば、学生さんあたり2回は発表できるようにします。その中で、各自のトピックと関連する音楽作品や、音楽演奏などがあれば、視聴、フィールドワークを一緒に行う可能性もあります。 授業の5回目以降くらいから、目標ページ数や文字数を設定し、実際の執筆に着手します。それを課題として、原則毎週提出していただき、添削や意見交換を行います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『初回授業で伝えます』</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『初回授業で伝えます』</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『初回授業で伝えます』			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	『初回授業で伝えます』																		
2																			
3																			
評価方法（基準）	平常点（文献発表、出席、積極性など）→40% 最終レポート・発表（卒業レポートのテーマ）→ 60%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	7 号館 5 階永富研究室																		
備考	資料の読み込み、発表の準備、レポートの作成などにかかる事前事後の総時間を 60 時間程度とする。 課題などのフィードバックは授業中に行う。																		